



Salesforce リリースノート

Salesforce, Winter '24

AI + データ + CRM を使用したビジネスの将来への対応



本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2023 Salesforce, Inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、Salesforce, Inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載された他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Salesforce Winter '24 リリースノート	1
Salesforce リリースノートの新機能	5
リリースノートの使用方法	6
リリースの準備	7
マンスリーリリースノート	8
リリースノートの変更	9
機能が使用可能になる方法と状況	25
サポートされるブラウザー	96
Salesforce 全体	100
Analytics	122
コマース	159
カスタマイズ	188
Data Cloud	212
開発	225
Einstein	323
Einstein 生成 AI	325
イネーブルメントとガイダンス	331
Experience Cloud	344
Field Service	360
Hyperforce	391
Industries	393
マーケティング	551
Marketing Cloud Account Engagement	551
モバイル	555
収益	568
セールス	574
Salesforce CMS	649
Salesforce フロー	655
Salesforce for Slack インテグレーション	687
セキュリティ、ID、プライバシー	687
サービス	732
Work.com	838
他の Salesforce 製品とサービス	838
リリース更新	840
法的規約	844

Salesforce Winter '24 リリースノート

Winter'24 リリースでは、AI + データ + CRM を基盤にした新しい製品イノベーションにより、洗練された業務が可能になります。

このセクションの内容:

[Salesforce リリースノートの新機能](#)

Salesforce リリースノートを使いやさしくするために、新機能について説明します。このページは、リリースノートのリリースノートとして捉え、シーズンごとにリリースされる新機能や改善点を確認するために活用してください。皆様からのフィードバックも歓迎しています。

[リリースノートの使用方法](#)

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

[リリースの準備](#)

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様とお客様のユーザーが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

[毎月リリースされる機能のリリースノート](#)

Salesforce は、一部の製品について年3回を超える頻度で機能や機能強化をリリースしています。この定期リリースノートで、毎月のように頻繁に新機能を確認し、その機能の詳細を参照してください。

[リリースノートの変更](#)

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

[機能が使用可能になる方法と状況](#)

Winter '24 の一部の機能は、リリースの公開直後に対するすべてのユーザーに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザーに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザーが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

[サポートされるブラウザー](#)

サポートされるブラウザーのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザーは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

[Salesforce 全体](#)

Salesforce エクスペリエンス全体に影響する新機能と機能強化について説明します。

[Analytics](#)

Analytics の機能強化には、Lightning レポートとダッシュボード、CRM Analytics、Analytics アプリケーション、Einstein Discovery、および Tableau の新機能と更新された機能が含まれます。

[コマース](#)

Commerce Cloud の機能強化には、B2B および D2C Commerce、オムニチャネル在庫、Salesforce Order Management、Salesforce Payments の新機能と更新された機能が含まれています。

カスタマイズ

カスタム権限セットと権限セットグループの割り当てに関するレポートを生成します。100種類を超えるLWC対応標準オブジェクトで動的フォームを使用します。

Data Cloud

アカウントのさまざまな機能の使用可能状況を管理します。Data Cloudオブジェクトや、取引先責任者またはリード標準/カスタム項目に関するインサイトを有効にします。展開されたレコードホームページビューのカスタマイズを確認してください。

開発

Lightningコンポーネント、Visualforce、Apexを使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共にSalesforce APIを使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

Einstein

Einsteinによって提供されるあらゆる機能を使用して作業をスマートにする準備をしましょう。Einsteinの検索、コマース、フィールドサービス、セールス、サービスの機能は、AIを駆使してパワーアップしています。さらに、生成AIのイノベーションをすべて1か所で見ることができます。

Einstein 生成 AI

Einstein 生成 AI を使用して、従業員の効率性を大幅に強化します。

イネーブルメントとガイダンス

会社の収益成果の向上に重点を置いたイネーブルメントプログラムを提供します。ユーザーが優れた能力を発揮できるように厳選されたリソースに誘導します。Salesforceで作業する場所で、学習、キャリア進展、スキル開発、およびビジネスに不可欠な職務遂行能力をユーザーにもたらします。

Experience Cloud

任意のワークスペースのCMSコンテンツを拡張LWRサイトと共有します。作成するすべてのLWRサイトが拡張されるようになりました。拡張LWRの他の改善点として、エクスペリエンスビルダーを使用してカスタムCSSをサイト内のどのコンポーネントにも適用できるほか、カスタムロジックを使用して柔軟な式ベースの表示ルールをコンポーネントに適用できます。また、DigitalExperiencesBundleの新しいフォルダーから、サイトのグローバルスタイルシートに簡単にアクセスして更新できます。より効率的で安全な認証方式ですべてのExperience Cloudサイトにログインできます。また、Sandbox組織を使用して、サイトのコンテンツ配信ネットワークを無効化することで本番組織にどのような影響があるかをテストできます。

Field Service

忙しいチームの時間と業務量を管理します。また、フローを使用して、高度なスケジュール設定および最適化エンジンに簡単に移行します。更新されたガントチャートとユーザーエクスペリエンスにより、忙しい派遣担当者は、より効率的に作業を作成できます。多くの納入商品機能により、最新のメンテナンスニーズを把握します。ブランドを提示するようにドキュメントをカスタマイズします。[値]ダッシュボードのデータを分析することで何がビジュアルリモートアシスタントの効率を高めるのかを学習します。モバイルの機能強化により、作業者はエラーが発生しやすいデータ入力作業を管理できます。モバイルチームの業務形態に合わせてカスタマイズされたタブバーを作成して、ワークフローを合理化することもできます。

Hyperforce

Hyperforceは、パブリッククラウド用に構築された次世代のSalesforceインフラストラクチャーアーキテクチャです。Salesforceアプリケーションにコンプライアンス、セキュリティ、プライバシー、俊敏性、スケーラビリティを提供し、顧客にデータレジデンシーに関するより多くの選択肢を提供します。

Industries

Industries ソリューションは、ビジネスのニーズに合わせて Salesforce が設定されているため、自分でカスタマイズする必要はありません。成果管理とコンテキストサービスが正式リリースされました。Consumer Goods Cloud を使用して店舗とのエンゲージメントを向上させ、より適切なプロモーションを計画します。Financial Services Cloud では、Data Cloud を使用して内部データと外部データの両方をより適切に整理できるようになりました。助成金提供を使用して、助成金受領者の予算を追跡します。Health Cloud は、Marketing Cloud Engagement を使用して CRM データを Marketing Cloud に取り込めるようになりました。Manufacturing Cloud を使用して、保証請求裁定プロセスを自動化して改善します。Net Zero Cloud の重要性調査を使用して、会社の社会的影響を計画します。Salesforce 契約を使用して、契約のエンドツーエンドのライフサイクルを管理します。また、Education Cloud、Nonprofit Cloud、Media Cloud、Industries の一般的な機能などにも多くの変更が加えられています。

マーケティング

Marketing Cloud は、1対1のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを1か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

Marketing Cloud Account Engagement

Engagement Studio プログラムでは、待機時間を1日以下のより細かい単位で指定できます。API V5 for Flow を使用してサンドボックスから本番ビジネスユニットヘアセットをコピーし、古い訪問者の活動レコードを削除することでシステム帯域幅を節約できます。

モバイル

Salesforce Mobile App Plus では、ブリーフケースのレコードの検索、ランディングページでより容易にアクセスできるスワイプアクション、ランディングページでのリスト検索条件、より迅速な住所設定がサポートされるようになりました。Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションのデフォルト URL 動作および場所ベースのアクセス許可とプッシュ通知を定義します。ブリーフケースビルダーを使用してカスタムメタデータ型を派遣作業員のオンラインレコード環境に適用します。

収益

既存のビジネスプロセスを中断せずに Subscription Management 見積機能を選択的にロールアウトします。営業担当が一元管理された統合ビューで取引先の納入商品を把握し、注文商品から納入商品への変換を制御できるようにします。Salesforce CPQ では標準見積のみがサポートされるようになり、Lightning Web コンポーネントリッチテキストエディターにより CKEditor が置き替えられました。

セールス

新しいインサイトと Winter '24 の高度な生産性機能を使用して、営業チームを強化します。Einstein 会話インサイトユーザーは Einstein を使用して1回のクリックで通話の概要を作成できるようになりました。パイプラインインスペクションで、適切な人物が商談に関与しているかどうかを確認して、営業担当が商談を成立できるようにサポートします。商談分割、商談商品分割、およびチームの詳細な変更履歴を取得して、正確性を確保し、営業チームメンバーに報酬が正しく支払われるようになります。イネーブルメントでは、迅速に商談を開き、商談を成立して、会社の収益成果を達成できるようにするために必要な商品およびプロセスに関するすべてのナレッジにより、営業チームをすばやく軌道に乗せます。

[Salesforce CMS](#)

新しい [エクスポート & インポート状況] タブで、CMS コンテンツと翻訳のエクスポートおよびインポートの詳細を見つけます。CMS ワークスペースから拡張サイトおよび公開チャネルにコンテンツを公開します。拡張 CMS ワークスペースでは、連動関係のあるコンテンツをユーザーが非公開にできないようになっています。ワークフローはコンテンツタイプで割り当てられ、コンテンツの公開または非公開は自動的に行われます。

[Salesforce フロー](#)

Flow Builder、OmniStudio、フローオーケストレーションを使用してインテリジェントなワークフローを作成します。フローインテグレーションを使用してあらゆるシステムを統合します。

[Salesforce for Slack インテグレーション](#)

Slack と Salesforce を併用して、あらゆる場所から顧客とつながったり、進行状況を追跡したり、シームレスにコラボレーションしたり、チームの成功を実現したりできます。

[セキュリティ、ID、プライバシー](#)

拡張ドメインが適用されます。ユーザーが新しい URL に移動して、一部のリダイレクトの終了に備えられるようになります。多要素認証の自動有効化は、組織の第3フェーズで有効になります。ローカルまたは2GP のパッケージ化可能な外部クライアントアプリケーションを開発できます。パスワードレスログイン、ゲストユーザーの ID、ヘッダレス登録の改善により、ヘッダレス ID 実装を拡張できます。評価指標が追加され、ログイン IP 範囲とテナントライセンスの利用状況の詳細を監視できます。テナントが実行されているインスタンストを参照できます。新しいプライバシーセンターアプリケーションについて理解できます。OAuth 2.0 クライアントログイン情報または JWT 認証プロトコルを使用してサーバー間インテグレーションの外部ログイン情報を設定できます。ユーザーが指定ログイン情報や外部ログイン情報を変更できるように、新しい「ManageNamedCredentials(指定ログイン情報を管理)」権限を割り当てることができます。また、新しいグループメンバーシップイベントとアクセス権がありませんイベント種別を使用してグループメンバーシップの変更と「アクセス権がありません」試行を管理できます。

[サービス](#)

カスタマーサービスエージェントが、複数のカスタマーサービスチャネルにわたって、迅速かつ生産的に業務を実施できる新機能についてご確認ください。

[Work.com](#)

ビジネス、従業員、施設の準備を整えます。Work.com のアプリケーションとサービスを使用して、現在の COVID-19 による危機など、重大な事態に対応します。

[その他の Salesforce 製品とサービス](#)

カスタマーサクセスグループ、Heroku、IdeaExchange の機能に関する最新情報を取得できます。

[リリース更新](#)

Salesforce では、パフォーマンス、ロジック、セキュリティ、商品の使い勝手を向上させるリリース更新を定期的に提供します。[リリース更新] ページには、組織で有効にする必要がある可能性のある更新のリストが表示されます。一部のリリース更新は、既存のカスタマイズに影響します。

[法的規約](#)

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の法的規約が更新されました。

Salesforce リリースノートの新機能

Salesforce リリースノートを使いやすくするために、新機能について説明します。このページは、リリースノートのリリースノートとして捉え、シーズンごとにリリースされる新機能や改善点を確認するために活用してください。皆様からのフィードバックも歓迎しています。

シーズンリリース間で利用可能な新機能と更新について

Salesforce クラウド製品では、機能や機能強化のリリース頻度が年3回を超える場合もあります。その場合、最新の機能をいち早くお届けしたいと考えています。Winter '24 からは、シーズンごとのリリースノートに加えて、新しく提供された機能のリリースノートも毎月公開しますので、頻繁に確認してください。これらのリリースノートを見つけるには、「*Monthly Release Notes*」(マンスリーリリースノート)で検索してください。

シーズンリリースの重要な新機能の動画でのクイックレビュー

シーズンリリースでの重要な機能については、リリースノート内に用意された動画でレビューすることができます。「*Get Ready for the Release*」(リリースに向けた準備)で検索してください。動画の視聴後に、他の役に立つリソースを読んで、リリースに向けた準備をしてください。



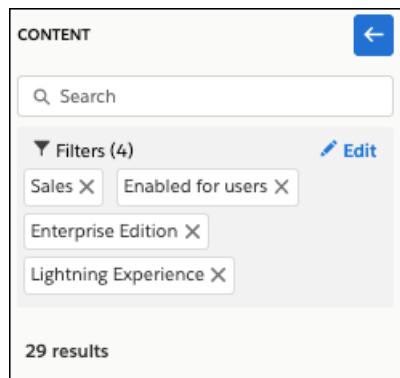
IdeaExchange のアイデアから提供される機能の識別

IdeaExchange から提供される機能を見分けやすくなりました。リリースノートのタイトルにこの IdeaExchange のグラフィック 🎉 が示されている場合は、そのアイデアが Trailblazer によるものだということがわかります。

リリースノートの使用方法

Salesforceのリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

- 使用される言語はブラウザーの設定によって決まります。言語を変更するには、下部にスクロールして[言語を変更]をクリックし、言語を選択します。
- リリースノートには、新しい機能や変更された機能の詳細が記載されています。既知の問題についての詳細は、[Salesforce の「既知の問題」](#)を参照してください。
- 目次の検索と検索条件を使用すると、最も関心のあるニュースに絞り込むことができます。



- リリースノートのタイトルにある IdeaExchange のグラフィック 🏆 は、あなたのアイデアのおかげでこの機能が提供されたことを示しています。IdeaExchange でアイデアを送信、表示、投票します。

そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- Trailblazer Community — [Release Readiness Trailblazers](#) グループにフィードバックをお寄せください。フィードバックの追跡や応答がしやすくなるように、リリースを示すハッシュタグ (#Winter24Feedbackなど) を使用してください。
- フィードバックフォーム — Salesforce ヘルプ、リリースノート、開発者ガイドのドキュメントには、フィードバックボタンと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- Twitter/X — @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。@salesforcedocs にお問い合わせください。

- メモ:** 新しいリリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しません。場合によっては、以前のリリースのドキュメントにリダイレクトされることがあります。

一部のドキュメントには、リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers でプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様とお客様のユーザーが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

このリリースの最新情報

- リリースのマイルストン。リリースの主要な日付を確認できます。
- リリース概要デッキ(ROD)。ユーザー向けの社内トレーニングを作成し、設定画面を確認して、機能の使い方を学習できます。
- リリースマトリックス。ユーザーに直ちに影響する機能をすばやく確認できます。
- Winter '24 プレリリースサインアップ。プレリリース組織にサインアップすると、新機能をいち早く利用できます。
- Release Readiness Live。登録すると、新機能を活用できます。
- リリースデモ。このリリースの新機能を動画ですばやく確認できます。
- Winter '24 リリース Web サイト。新機能を確認できます。
- Winter '24 リリースハイライトモジュール。リリース Trailhead バッジを取得できます。
- Release in a Box。このキットは、新しいリリースに向けた準備とユーザーへの提供に利用できます。

システム管理者に向けた Winter '24 のハイライト

こちらの動画で、Winter '24 のシステム管理者向けの新機能のレビューをご覧ください。



Release Readiness の基本

- Release Readiness Trailblazers。各種リソースと専門家にアクセスし、リリース準備状況に関するあらゆることを確認します。
- Trust 状況のメンテナンス。Sandbox およびその他のリリース日時を確認します。メンテナンス日を確認するには、[Instances (インスタンス)] をクリックし、自分のインスタンスをクリックします。
- Sandbox 更新の計算機能。Sandbox を更新するかどうかや、いつ更新するかを計画します。
- Sandbox プレビュー動画。Sandbox プレビュープロセスのナビゲーション方法について学習します。
- Sandbox プレビュー手順。Sandbox で新機能への早期アクセスを取得します。
- 認証リリースメンテナンススケジュール。Trailhead の認定資格を更新します。
- Salesforce リリースへの準備。Trailhead を使用してリリース戦略を作成します。

毎月リリースされる機能のリリースノート

Salesforce は、一部の製品について年3回を超える頻度で機能や機能強化をリリースしています。この定期リリースノートで、毎月のように頻繁に新機能を確認し、その機能の詳細を参照してください。

このコンテンツを参照する際には、次の考慮事項に留意してください。

- 1か月ごとのリリースノートは、遅延した機能に関するリリースノートとは異なります。定期的にリリースされる機能は、若干のリリース遅延の対象となることがあります。その場合は、その機能のリリースノートの「時期」セクションでタイミングが説明されます。
- 1か月ごとのリリースノートは、以前に公開されたリリースノートの変更とは異なります。場合によっては、最新の定期リリースや1か月ごとのリリースについて、以前に公開されたリリースノートを更新することが必要になります。その場合は、「リリースノートの変更」トピックが更新されます。
- 1か月ごとのリリースが定期リリースと重なることがあります。その場合、定期リリースの最初の1か月の間に関連するリリースノートが特定されます。このような機能は、Salesforce がインスタンスに Winter '24 リリースをロールアウトしたときに利用可能になります。

たとえば、Winter '24 リリースでは、2023年の8月中旬にお客様のインスタンスへのロールアウトが開始されます。8月または9月にリリースされた機能のリリースノートは、「September'23 リリース」というトピックと相互リンクされています。2023年10月にリリースされた機能のリリースノートは、「October'23 リリース」というトピックと相互リンクされています。

このセクションの内容:

[October '23 リリース](#)

October '23 でリリースされた機能について説明します。

[September '23 リリース](#)

September '23 でリリースされた機能について説明します。September '23 でリリースされた機能は、Winter '24 がお使いのインスタンスにロールアウトされた時点での利用できるようになります。

関連トピック:

[機能が使用可能になる方法と状況](#)

October '23 リリース

October '23 でリリースされた機能について説明します。

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[Einstein 生成 AI プラットフォーム](#)

September '23 リリース

September '23 でリリースされた機能について説明します。September '23 でリリースされた機能は、Winter '24 がお使いのインスタンスにロールアウトされた時点での利用できるようになります。

Einstein 生成 AI の機能

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

2023/12/04

組織のプロファイル設定を優先するために EmailSimple 呼び出し可能なアクションを有効化 (リリース更新)
適用日が Spring '24 から Summer '24 に更新されました。

Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止への準備

Google のプライバシーサンドボックスイニシアチブが Amazon Connect 実装を使用する Salesforce ユーザーにどのような影響を与える可能性があるかに関するリリースノートが追加されました。

Salesforce Starter での [今すぐ支払う] の使用

Salesforce Starter での [今すぐ支払う] の使用可能状況について発表する支払リリースノートが追加されました。

新しいコンテキストサービスメタデータ型

ContextDefinition メタデータ型について発表するリリースノートが追加されました。

Salesforce Scheduler を使用したより多くの予定とアセットの管理

Salesforce Scheduler の新しい使用制限に関するリリースノートが追加されました。

カスタムコンポーネントインストルメンテーション API (ベータ) を使用したコンポーネントイベントの監視

変更は Lightning Experience のみに適用されるため、Salesforce Classic への参照が削除されました。

拡張ボットの新しいメッセージングコンポーネントを使用したエージェントの時間の節約 (ベータ)

Einstein ボットの非同期コンポーネント (ベータ) が発表されました。

バンドルフェーズでの検証のみのリリースの実行

顧客のフィードバックに基づいて、DevOps Center のバンドルフェーズで検証のみのリリースを実行できます。

開発者ドキュメントでの Einstein 光学式文字認識 (OCR) へのアクセス

Einstein Vision ドキュメントが削除されたために Salesforce 開発者ドキュメントでの Einstein OCR ドキュメントの場所が変更されたことが発表されました。

2023-11-20

Sandbox ライセンスコンプライアンスの変更の理解

この機能のロールアウトのタイミングが更新されました。

メタデータ API

Cloud ID 解決プロセスの新しい `cdpRunIdentityResolution` 値に関するリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

PipelineInspectionListView オブジェクトの `DateLiteralType` と `ViewType` 項目の新しい値に関するリリースノートが追加されました。

提案ミーティング時間の時間枠の新しいデザイン

メールの提案ミーティング時間の新しいデザインに関するリリースノートが追加されました。

新しい Data Cloud 権限セットへの移行

管理者ユーザーの Data Cloud 標準権限セットは変更されないことが明確になるようにリリースノートが修正されました。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

AuthFormRequestRecord、InfoAuthorizationRequest、InfoAuthRequestForm、MultipartyInfoAuthRequest オブジェクトの削除に関する情報が追加されました。

イベントリレーの処理地域の拡張

イベントリレーの処理地域の拡張に関するリリースノートが追加されました。

Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションから URL を開く方法のデフォルトの設定(パイロット)

この機能がパイロットとして Winter '24 で利用可能であることを示すためにリリースノートが更新されました。以前は、この機能は正式リリースとして発表されていました。

カスタムコンポーネントインストルメンテーション API(ベータ)を使用したコンポーネントイベントの監視

カスタムコンポーネントで Lightning ロガーイベントの収集を有効にする方法を含めるためにリリースノートが更新されました。

2023/11/13

Pub/Sub API のグローバルエンドポイントの処理地域の拡張

Pub/Sub API の新しい地域に関するリリースノートが追加されました。

新しい権限を使用したプロファイルエクスプローラーへのアクセス

新しい Data Cloud プロファイルエクスプローラーシステム権限に関するリリースノートが追加されました。

改善された取引プロモーション管理ドキュメント

取引プロモーション管理ドキュメントの改善を発表するリリースノートが追加されました。

[紹介を作成] フローを使用した紹介の自動化

この機能を使用できるユーザーとクリックアクションを追加する方法に関する情報が明記されました。

提供者ポータルでの紹介の作成

Experience Cloud サイトでの Health Cloud がサポートされるエディションのリストに追加されました。

Marketing Cloud Engagement for Health Cloud を使用した患者エンゲージメントの向上

使用可能な機能の要件として、Marketing Cloud が追加されました。Salesforce への Marketing Cloud の接続は、まだ接続を設定していない場合にのみ適用されます。

ICU ロケール形式の有効化(リリース更新)

Spring '24 から開始されるローリング方式の適用スケジュールが含まれるように更新されました。

Salesforce Maps Lite の近日公開

公開が遅れているため、Salesforce Maps Lite に関するリリースノートが削除されました。

Field Service

AI で生成された派遣作業員向けブリーフィングに関するトピックが削除されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

User オブジェクトの新しい UserPreferencesLiveAgentMiawSetupDeflection 項目に関するリリースノートが追加されました。

CMS ワークスペースの迅速な作成

CMS ワークスペースを作成するための合理化された設定プロセスを発表するリリースノートが追加されました。

メタデータ API

Einstein 取引先インサイトと商談インサイトの廃止に伴い、AccountInsightsSettings と OpportunityInsightsSettings メタデータ型の廃止を発表するリリースノートが追加されました。

言語間インテントモデルを使用したボットでの新しい言語のより容易なトレーニング(正式リリース)

Einstein ボットにおけるヘブライ語のサポートの公開準備がまだ整っていないため、リリースノートが更新されました。使用可能になった時点でお知らせいたします。言語間インテントモデルでは、新しい¹⁹言語のベータサポートを引き続き使用できます。

ボットビルダーとボットの会話での右から左へ記述される言語の使用

アプリ内および Web のメッセージングチャネルのボットの会話におけるヘブライ語のベータサポートを削除するためにリリースノートが更新されました。使用可能になった時点でお知らせいたします。

右から左へ記述される言語での顧客とのメッセージのやりとり

アプリ内および Web のメッセージングチャネルのボットの会話におけるヘブライ語のベータサポートを削除するためにリリースノートが更新されました。使用可能になった時点でお知らせいたします。

カスタム Lightning コンポーネントのイベントの監視

カスタム Lightning コンポーネントのイベントをログに記録するための新しい Lightning ロガーイベント種別を発表するリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

Lightning エラーイベント種別の新しい Message と Stack_Trace 項目に関するリリースノートが追加されました。

関連レコードを使用した Einstein セールスマールの強化

セールスマールと Einstein 生成 AI の新機能に関するリリースノートが追加されました。

Salesforce Everywhere のより簡単な設定

Salesforce Everywhere の新しい設定方法に関するリリースノートが追加されました。

2023/11/06

設定中の Data Cloud インスタンスへの自動接続

Salesforce と Data Cloud インスタンス間の接続を手動で作成する必要がなくなったことに関するリリースノートが追加されました。

AppExchange Japan でソリューションとコンサルタントを迅速に検索

AppExchange Japan の新しい検索環境を発表するリリースノートが追加されました。

拡張 WhatsApp チャネルの有効化手順の追加

拡張 WhatsApp チャネルの新しい有効化手順に関するリリースノートが追加されました。

標準チャネルまたは外部プロバイダーから拡張 WhatsAppへのアップグレード

拡張 WhatsApp チャネルに番号をアップグレードまたは移行する新しい機能に関するリリースノートが追加されました。

拡張メッセージングチャネルとアプリ内のメッセージングでの会話の開始

エージェントは以前にチャネルで会社にメッセージを送信したことがある顧客のみと会話を開始できることが記載されました。

問題行動の医療アプリケーションを使用してケアをより簡単に管理

「HealthCloud Platform」と「OmniStudio ユーザー」が権限セットライセンスのリストに追加され、「問題行動の医療アプリケーション」権限セットライセンスの名前が訂正されました。

計算済みインサイトへの評価指標の追加

計算済みインサイトあたりの基準数の増加に関するリリースノートが追加されました。

ヘルスケア提供者の写真のアップロード

最大ファイルサイズが追加されました。

Einstein を使用して AI が生成した簡潔な販売概要を取得(ベータ)

使用可能になる時期を新たに追加してリリースノートが更新されました。

Sales Engagement

クイックケイデンス作成時の通話スクリプトとメールテンプレートの作成に関するリリースノートが削除されました。

メタデータ API

既存の NotificationChannels メタデータサブタイプの slackEnabled 項目のリリースノートが追加されました。

Hyperforce インスタンスでの拡張された利用状況総計値の使用

Hyperforce で拡張された利用状況総計値が使用できることを示すリリースノートが追加されました。

Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice の合理化されたサポートの利用

Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice の新しいサポートモデルに関するリリースノートが追加されました。

Google Cloud Vertex AI モデルを Data Cloud で使用してパーソナライズを促進

Data Cloud のデータで Google Cloud Vertex AI モデルを使用する新しい機能に関するリリースノートが追加されました。

CRM Analytics を使用してレポートの隠れたインサイトを発見

標準の SalesCloud Einstein 権限セットのいずれかに割り当てられているユーザーは、組織で以前に CRM Analytics が有効化されていれば、レポート用 Einstein Discovery にアクセスできます。この変更は、2023 年 9 月の Winter '24 パッチでリリースされました。

2023/10/30

新しい Data Cloud 権限セットへの移行

予定されている Data Cloud 標準権限セットの変更に関するリリースノートが追加されました。

データスペース機能の権限を使用したアクセス権の絞り込み

Data Cloud の強化されたセキュリティデータスペースに関するリリースノートが追加されました。

Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止と Open CTI に与える潜在的な影響に向けた準備

Google のプライバシーサンドボックスイニシアチブが Open CTI 実装にどのような影響を与える可能性があるかに関するリリースノートが追加されました。

サードパーティサイトで Lightning アプリケーションに Cookie の代わりにセッショントークンを使用

Lightning アプリケーションがサードパーティコンテキスト (Lightning Out や Salesforce と Outlook のインテグレーションなど) にあるとき、認証 Cookie をセッショントークンに置き換える新しい組織設定に関するリリースノートが追加されました。

AppExchange Japan の改善されたソリューションリストの確認

AppExchange Japan の新しいソリューションリスト環境を発表するリリースノートが追加されました。

Twitter コネクタの廃止

Account Engagement Twitter コネクタの削除を発表するリリースノートが追加されました。

事前作成済みサービスプロセスを使用したリテールバンキングサービスの合理化

Financial Services Cloud の新しいリテールバンキングサービスプロセスが使用可能になったことを発表するリリースノートが追加されました。

参照からの作成の変更

モーダルの変更が Sandbox のみで Lightning Experience に適用されることを指定するためにリリースノートが更新されました。

アプリ内および Web のメッセージングの採用を奨励するポップアップウィンドウとバナーの追加

チャット設定ページに表示されるウィンドウとバナーについて説明する新しいリリースノート。

言語間インテントモデルを使用したボットでの新しい言語のより容易なトレーニング(正式リリース)

言語間インテントモデルが正式リリースされたことを発表するためにリリースノートが更新されました。また、新たに 20 言語がベータでサポートされます。

ボットビルダーとボットの会話での右から左へ記述される言語の使用

アプリ内および Web のメッセージングチャネルのボットの会話でのアラビア語とヘブライ語のベータサポートを反映するためにリリースノートが更新されました。

右から左へ記述される言語での顧客とのメッセージのやりとり

アプリ内および Web のメッセージングチャネルのボットの会話でのアラビア語とヘブライ語のベータサポートを反映するためにリリースノートが更新されました。

ID 解決ルールセット処理結果の1日の概要の表示

ルールセット処理結果の表示方法の変更に関するリリースノートが追加されました。

パートナーコンソールでの AppExchange セキュリティレビューの進行状況の監視とレビューの管理

セキュリティレビューウィザードとプロセス変更に関するリリースノートが追加されました。

Data Cloud レポートでビジネスに関する質問の答えを見つける

Data Cloud レポートの正式リリースを発表するリリースノートが追加されました。

ダッシュボードでの主要な Data Cloud 評価指標の強調表示と共有

Data Cloud ダッシュボードの正式リリースを発表するリリースノートが追加されました。

Sales Cloud Everywhere の改善されたインターフェースで効率的に作業

Sales Cloud Everywhere の UI の更新を発表するリリースノートが追加されました。

ワークスペースで多数のレコードのデータを更新

Sales Cloud Everywhere で使用可能な、ワークスペースで複数の行を同時に編集する機能を発表するリリースノートが追加されました。

2023/10/23

コードビルダーを使用してどこからでも開発(正式リリース)

コードビルダーの正式リリースを発表するリリースノートが追加されました。

会話マイニングレポートの作成時にメールの会話を含める(正式リリース)

レポートがメール-to-ケースからのみ作成されることを明確にする文章が追加されました。

より迅速なメッセージングセッションの転送

転送されたメッセージングセッションを受信するエージェントに付与する必要がある特定のユーザー権限を含めるためにリリースノートが更新されました。

Data Cloud へのサービスアセットの追加適用

サービスデータキットのバージョン 2.0 に関するリリースノートが追加されました。

ダッシュボードのインタラクションを使用した画面フローの起動(ベータ)

選択インタラクションとナビゲーションインタラクションでの画面フローのサポートに関するリリースノートが追加されました。(ベータ)

Data Cloud でのデータ変更に基づく自動起動フローの作成

機能のリリース日に関する情報を記載するためにリリースノートが更新されました。

拡張メッセージングチャネルとアプリ内のメッセージングでの会話の開始

アプリ内のメッセージングチャネルの前提条件の手順が追加され、[メッセージを送信] アクションをメッセージユーザーページレイアウトに追加することをお勧めする記述が削除されました。

削除: Hyperforce インスタンスでの拡張された利用状況総計値の使用

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

2023/10/16

Health Cloud の新規および変更されたメタデータ型

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプの `actionType` 項目の `scheduleHomeVisit`、`scheduleRecurringHomeVisit`、`handleResourceAbsence` 値を発表するリリースノートが追加されました。

Health Cloud の新規および変更された呼び出し可能なアクション

`scheduleHomeVisit`、`scheduleRecurringHomeVisit`、`handleResourceAbsence` 呼び出し可能なアクションを発表するリリースノートが追加されました。

プロンプトビルダーでパーソナライズされたセールスマールの生成(パイロット)

プロンプトビルダーパイロットのセールスマールプロンプトテンプレートのリリースノートが追加されました。

プロンプトビルダーで生成 AI を使用して項目値を入力(パイロット)

プロンプトビルダーパイロットの項目生成プロンプトテンプレートのリリースノートが追加されました。

拡張 Apple Messages for Business の概要(正式リリース)

Apple Messages for Business の拡張メッセージングに関するリリースノートが追加されました。

[会話メッセージを送信] アクションを使用した自動通知の送信

新しいアクションはアプリ内のメッセージングで使用可能であり、Web のメッセージングでは使用できないことが明記されました。

REST API で Apex アクションの例外が発生した場合のロールバックの適用(リリース更新)

適用日が Spring '24 から Summer '25 に更新されました。

Hyperforce インスタンスでの拡張された利用状況総計値の使用

Hyperforce で拡張された利用状況総計値が使用できることを示すリリースノートが追加されました。

ベッドの使用可能状況を更新するように施設システム管理者に依頼

紹介要請のベッドの使用可能状況の確認に関する情報を削除するようにリリースノートが更新されました。

メールのサービス返信を使用した顧客ケースの迅速な解決(正式リリース)

メールのサービス返信のリリースノートが追加されました。

2023/10/09

売上増加量の予測によるプロモーションのパフォーマンスの向上

Salesforce ヘルプの関連トピックへのリンクが含まれるようにリリースノートが更新されました。

顧客ビジネス計画に最適なシナリオの選択

Salesforce ヘルプの関連トピックへのリンクが含まれるようにリリースノートが更新されました。

権限セットの更新

Salesforce ヘルプの関連トピックへのリンクが含まれるようにリリースノートが更新されました。

カスタムラベルによるカスタム期間の簡単な識別

Salesforce ヘルプの関連トピックへのリンクが含まれるようにリリースノートが更新されました。

新規および変更された Connect REST API リソース

Salesforce Payments の新しい保存済みの支払方法リソースが含まれるようにリリースノートが更新されました。

準結合と反結合を使用した効率的なクエリの作成(ベータ)

準結合と反結合のための新しい SAQL join ステートメントのリリースノートが追加されました。

オムニスーパーバイザーからの Amazon リアルタイム総計値ダッシュボードの設定

[Amazon リアルタイム総計値を表示] ボタンはプロファイルが [スーパーバイザー構成] 設定に割り当てられているユーザーのみに表示されることが記述されるようにリリースノートが更新されました。

無料 Salesforce 組織での SMS による ID 検証が使用不可に

影響を受ける組織と、Sandbox 組織での SMS ID 検証の再有効化方法に関する詳細が追加されるようにリリースノートが更新されました。

削除: Salesforce Starter での [今すぐ支払う] の使用

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

モーダルウィンドウのナビゲーションの変更

Visualforce のウィンドウに対する変更に関するリリースノートが追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント

lightning:navigation のウィンドウに対する変更が追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネントイベント

force:navigateToURL と force:navigateToSObject のウィンドウに対する変更が追加されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール

lightning/navigation のウィンドウに対する変更が追加されました。

ヘルスケア提供者に関する詳細情報の追跡

提供者リレーション管理データモデルに新しいオブジェクトと項目があり、取引先責任者プロファイルオブジェクトに追加項目があることが明記されました。オブジェクトのドキュメントへのリンクが追加されました。

ソーシャルカスタマーサービス Starter Pack の廃止

2024年11月16日にソーシャルカスタマーサービス Starter Pack が廃止されることを発表する新しいリリースノートが追加されました。

メタデータ API

既存の Flow メタデータ型の既存の processType 項目の Journey 値のリリースノートが追加されました。

エンドユーザーが添付ファイルを送信することを防止

アプリ内および Web のメッセージングでエンドユーザーが添付ファイルを送信できないようにする新しいチェックボックスの新しいリリースノートが追加されました。

2023/10/02

信頼済みの組織間リダイレクトのみを許可(リリース更新)

2023年10月より前に Winter '24 を取得した組織では、デフォルトでこのリリース更新がテストのために有効になっていたことを反映するようにリリースノートが更新されました。

Health Cloud の新規および変更されたメタデータ型

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプの actionType 項目の processReceivedDocument 値を発表するリリースノートが追加されました。

サービスインテリジェンスによるコストの削減と業務の改善

エージェント向けの My Performance ダッシュボードを発表するリリースノートが追加され、新しい Salesforce ヘルプへのリンクが追加されました。

独自のカスタムボットテンプレートの作成と共有(正式リリース)

Einstein ボットのカスタムテンプレートが正式リリースされたことを発表するリリースノートが追加されました。

ボットブロックを使用した迅速なボットの構築(正式リリース)

Einstein ボットのボットブロックが正式リリースされたことを発表するリリースノートが追加されました。

新しいテンプレートやブロックでの Einstein ボットポートフォリオの拡張

[Intro Bot - Get Pre-Chat Context(導入ボット - 事前チャットのコンテキストの取得)] フローについて、[Einstein Bots - Get Customer Context(Einstein ボット - お客様のコンテキストの取得)] への名前変更などの更新に関する情報を含むようにリリースノートが更新されました。

データの予測に複数の変数を使用

多変量時系列に対する新しい SAQL arimax ステートメントのリリースノートが追加されました。

売上予測金額の四捨五入による売上予測の合理化

売上予測ページの売上予測概要セクションで四捨五入された売上予測金額を表示する機能が発表されました。

実現した IdeaExchange: マネージャーによる判断で売上予測精度の向上

商談リスト列の要件に関する情報が含まれるように更新されました。

難読化された文字列を使用した CSS 範囲トークンの生成

リリースノートのタイトルが「CSS範囲トークンでの小文字の使用」から変更され、DOM要素に自動的に追加される属性とクラスは内部実装の詳細であるため使用すべきでないことが明記されました。

PublicSectrSltn 名前空間

公共セクターソリューションの PublicSectrSltn 名前空間の新しい Apex クラスを発表するリリースノートが追加されました。

エンゲージメントプログラムをより詳細な待機時間で設計

この更新は Engagement Studio プログラムのメール送信ステップにのみ適用されることが明記されました。

ストリーミング API バージョン 23.0 ~ 36.0 の廃止

ストリーミング API バージョンの廃止計画に関するリリースノートが追加されました。

削除: Pub/Sub API のグローバルエンドポイントを使用したより多くのリージョンへの要求の転送

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

2023/09/25

変更された Connect REST API リクエストボディ

Decision Table Definition Input リクエストボディの decisionResultPolicy 列挙値の更新を発表するリリースノートが追加されました。

変更された Connect REST API レスポンスボディ

Decision Table Definition Output レスポンスボディの decisionResultPolicy 列挙値の更新を発表するリリースノートが追加されました。

バックアップと復元ができるデータの増加

数式項目バックアップと共有オブジェクトに対する新しいサポートに関するリリースノートが追加されました。

音声通話とビデオ通話のトランск립トの改善

Einstein 会話インサイトの新しいトランスク립トエンジンに関するトピックが追加されました。

検索条件を使用したレコードトリガーフローの迅速な検索

前に見たことがあるような機能だとお思いですか? この機能は Winter '24 で短い間利用できましたが、その能力を発揮できなかったため、この機能は削除されました。いくつかの準備を経て、この機能にもう一度スポットライトをあてるようになりました!

Salesforce からメールを送信するためのメールアドレスの検証

DomainKeys Identified Mail (DKIM) 検証について明記されました。

コンテキストインサイトを使用した関心のある会社のフォローアップ

Chrome の Sales Cloud Everywhere 拡張機能の新しい機能であるコンテキストインサイトに関する情報が追加されました。

オムニスーパーバイザーからの Amazon リアルタイム総計値ダッシュボードの設定

[Amazon リアルタイム総計値を表示] ボタンの追加に関するリリースノートが追加されました。

Lightning Web セキュリティの API のディストーションの変更

Lightning Web コンポーネントのセキュリティを強化するために Lightning Web セキュリティで保護される Web API のリストが追加されました。

構築中のフローの進行状況の保存

いくつかの要素プロパティウィンドウへの変更を明確にする情報が追加されました。

[開示とコンプライアンスのハブ] テンプレートを使用した ESRS レポートの生成

Net Zero Cloud Disclosures for ESRS パッケージを発表するリリースノートが追加されました。

削除: 特定のパッケージバージョンのパッケージメタデータのダウンロード

この機能はまだ公開する準備が整っていないため、改善が加えられるまで削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

法的規約

法的ドキュメントリリースノートの名前が法的規約に変更されました。

ビジネスニーズの新しいカテゴリとサブカテゴリを使用した AppExchange リストの検出可能性の向上

パートナーが自社の AppExchange リストを分類するために使用できるビジネスニーズが拡張および変更されたことを発表するリリースノートが追加されました。

2023/09/18

ContentDocumentLink を使用したすべてのファイル共有のクエリ

ContentDocumentLink を使用したすべての Salesforce ファイル共有に対するクエリ機能を発表するリリースノートが追加されました。

Amazon Athena への接続(ベータ)

CRM Analytics と Salesforce データパイプラインで Amazon Athena コネクタが使用可能になったことを発表するリリースノートが追加されました(ベータ)。

増分アップロードによるデータの迅速な追加(ベータ)

CRM Analytics と Salesforce データパイプラインで増分 CSV 読み込みが使用可能になったことを発表するリリースノートが追加されました(ベータ)。

Connect Rest API を使用したデータスペースのセグメントの作成およびリスト

Connect REST API を使用してデータスペースのセグメントを作成してリストする機能を発表するリリースノートが追加されました。

4倍に増加した組織あたりの有効な決定表の数

Salesforce 組織内の有効な決定表のデフォルト数が修正されました。

メッセージングのその他の改善点

拡張メッセージングチャネルとアプリ内および Web のメッセージングのエージェントエクスペリエンスの軽微な改善に関する 2 項目が追加されました。

拡張メッセージングチャネルとアプリ内のメッセージングでの会話の開始

どのレイアウトに [メッセージを送信] アクションを含めることができるかを示す文が修正されました。

エージェントのプレゼンス状況の同期がデフォルトで有効

Service Cloud Voice でプレゼンス状況の同期が有効になることを発表するリリースノートが追加されました。

Einstein 会話マイニングを使用したサービスインサイトの取得およびボットインテントの作成(正式リリース) SKU 情報が追加されました。

会話マイニングレポートの作成時にメールの会話を含める(正式リリース)

SKU 情報が追加されました。

変更された Connect REST API リクエストボディ

Document Process Input リクエストボディの新しい templateApiName プロパティが発表されました。

Tableau アクセラレーターの AppExchange へのクロスリスト

Tableau アクセラレーターの AppExchange リストを作成する機能を発表するリリースノートが追加されました。

DocumentReader 名前空間

インテリジェントドキュメントリーダーの DocumentReader 名前空間の新しい Apex クラスを発表するリリースノートが追加されました。

削除: Salesforce コンテンツ配信ネットワーク (CDN) 設定のカスタマイズ

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

新しいテンプレートやブロックでの Einstein ボットポートフォリオの拡張

Einstein ボットの新しい [ケースをクローズ]、[ケースを作成]、[CSAT] システムブロックを発表するリリースノートが更新されました。

メタデータ API

LightningExperienceSettings メタデータ型の enableQuip 項目のリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

新しい WorkCapacityLimit、WorkCapacityUsage、WorkCapacityAvailability オブジェクトに関するリリースノートが追加されました。

メタデータ API

FlowStart メタデータ型の segment 項目のリリースノートが追加されました。

Inbox モバイルの廃止

Inbox モバイルは 2024 年 2 月に廃止されます。

メタデータ API

DataSourceBundleDefinition メタデータ型に追加された新しい description および icon 項目のリリースノートが追加されました。

実現した IdeaExchange: 項目権限の設定時にすべての項目を選択

項目権限を設定するときにすべての項目を選択する機能に関するリリースノートが追加されました。

メタデータ API

Translations メタデータ型の BotVariableOperationTranslation サブタイプの successMessages 項目のリリースノートが追加されました。

メタデータ API

BotBlock メタデータ型と BotTemplate メタデータ型の BotBlockVersion サブタイプの permissionSet 項目のリリースノートが追加されました。

メタデータ API

新しい BotBlock メタデータ型と、それに関連する BotVersion メタデータ型の theBotDialog サブタイプの新しい isPlaceholderDialog 項目のリリースノートが追加されました。

参照からの作成の変更

参照モーダルからの作成の変更点を発表するリリースノートが追加されました。

その他の Salesforce 製品とサービス

MarketingCloudIntelligence 機能と .Org 機能はまだ準備が整っていないため、これらの機能についての記述は当面削除されます。準備ができたときにお知らせいたします。

ビジネスルールエンジンの他の変更

ビジネスルールエンジンのユーザーインターフェースの変更点を発表するリリースノートが追加されました。

変更された Connect REST API レスポンスボディ

Lookup Table Details レスポンスボディの新しい apiName プロパティが発表されました。

グラウンドィング済み Einstein サービス返信によるエージェントの時間の節約と精度の向上(正式リリース) Einstein サービス返信を使用したエージェントの生産性と応答品質の最適化(正式リリース)

サービス返信に英語(米国)のみの制限が追加されました。

生成 AI 搭載の Einstein 作業概要を使用したケースの迅速なクローズ(正式リリース)

作業概要に英語(米国)のみの制限が追加されました。

カスタム検索条件を使用した CRM Analytics ダッシュボードの Tableau ビューの探索(正式リリース)

リリース種別がベータから正式リリースに変更されました。

Lightning ページへの Tableau ビューの組み込み(正式リリース)

Lightning Web コンポーネントを使用して Lightning ページに Tableau ビューを追加する機能に関するリリース ノートが追加されました。

アクション可能セグメンテーションの動画

新しいアクション可能セグメンテーションの動画を発表するリリースノートが追加されました。

販売計画の注文取消しと返品の追跡

販売計画で負の数量や単価の注文商品を追跡する機能に関するリリースノートが追加されました。

Manufacturing Cloud の Actionable Relationship Center を使用した取引先階層の視覚化

Manufacturing Cloud の Actionable Relationship Center の機能強化を発表するリリースノートが追加されました。

Manufacturing Cloud のドキュメントからの自動情報抽出による時間とリソースの節約

Manufacturing Cloud でインテリジェントドキュメントリーダーが使用可能になったことを発表するリリース ノートが追加されました。

Manufacturing Cloud でのデータ処理エンジン定義の視覚化と容易なデバッグ

Manufacturing Cloud のデータ処理エンジンの機能強化を発表するリリースノートが追加されました。

新しい Connect REST API

NonProfit Cloud の新しい支援関連プログラム管理の Connect API を発表するリリースノートが追加されました。

getSalesforceBaseUrl() メソッドの廃止

廃止されたメソッドに関するリリースノートが追加されました。

ARC グラフでの柔軟なアンカーノードの簡単な設定

機能の使用方法が明確になるようにリリースノートが更新されました。

ARC グラフ内の任意の点からアンカーノードを追跡

機能の使用方法が明確になるようにリリースノートが更新されました。

ARC グラフでの上位取引先階層の表示

機能の使用方法が明確になるようにリリースノートが更新されました。

Actionable Relationship Center でのインテリジェントな営業業務のサポート

機能の使用方法が明確になるようにリリースノートが更新されました。

リストビューのアクセシビリティの改善

分割ビューのリストのチェックボックスへの変更点が明確になるように、リリースノートの3つ目の箇条書きが更新されました。

プラットフォームイベントと変更イベントの使用量ベースのエンタイトルメントに対する REST の Limits の応答の変更

追加の大規模プラットフォームイベントと変更イベントのアドオンを購入していない Salesforce 組織での REST API の limits リソースの応答の変更を発表するリリースノートが追加されました。

削除: 検索条件を使用したレコードトリガーフローの迅速な検索

この機能はまだ公開する準備が整っていないため、改善が加えられるまで削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

2023/09/04

DevOps Center

DevOps Center の最新バージョンに含まれる新しい機能について説明します。

注文の新規保存方式の有効化(リリース更新)

注文商品の更新によって親注文が変更されるたびに実行される新しいカスタムアプリケーションロジックに関するリリース更新のリリースノートが追加されました。

AppExchange のソリューション種別を一目で確認

AppExchange リストのソリューションタイプバッジが使用可能になったことを発表するリリースノートが追加されました。

Field Service Field Service Mobile for Android タブレットでの容易なマルチタスク

まだ使用できない機能が表示されていたスクリーンショットが削除されました。

メタデータ API

Net Zero Cloud の 2 つの新しい IndustriesSettings が使用可能になったことを発表するリリースノートが追加されました。

チェックアウトでの注文の詳細の表示

設定手順をより詳しく説明するようにリリースノートが更新されました。

オムニチャネルユーティリティでの洗練された通話インターフェースの活用

ライブ音声通話を表示するようにスクリーンショットが更新されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

AuthConfigProviders オブジェクトの項目の動作変更のリリースノートが追加されました。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

在宅医療データモデルの ClinicalServiceRequest オブジェクトの新しい IsAccepted 項目に関するリリースノートが追加されました。

Marketing Cloud Engagement for Health Cloud を使用した患者エンゲージメントの向上

Salesforce ヘルプの 「Marketing Cloud Engagement for Health Cloud」へのリンクが更新されました。

メタデータ API

Flow メタデータ型の既存の processType 項目の RecommendationStrategy 値のリリースノートが追加されました。

グラウンディング済み Einstein サービス返信によるエージェントの時間の節約と精度の向上(正式リリース)

グラウンディングを使用した返信のリリースノートが追加されました。

統合オンボーディング

Financial Services Cloud の新しい統合オンボーディング機能を発表するリリースノートが追加されました。

ディスカバリーフレームワークの機能強化

ディスカバリーフレームワーク機能の機能強化について発表するリリースノートが追加されました。

正確なサイトのチェックインとチェックアウトの取得(パイロット)

わかりやすくするためにスクリーンショットが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

ServiceTerritory オブジェクトの新しい TravelModeId 項目に関するリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

MediaCloud への新しい AdBuyServerAccount、AdOpportunity、AdOrderItemCreativeSizeType、AdQuoteLineCreativeSizeType オブジェクトの追加を発表するようにリリースノートが更新されました。

削除: Lightning Web コンポーネントを使用したモバイルデバイスの生体認証機能へのアクセス

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

削除: Lightning Web コンポーネントを備えたモバイルデバイスを使用した NFC タグの操作

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

削除: Lightning Web コンポーネントを使用したモバイルデバイスでのドキュメントのスキャン

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

削除: Salesforce Field Service アプリケーションを使用したモバイルデバイスでのドキュメントのスキャン

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

削除: Salesforce Field Service アプリケーションを使用したモバイルデバイスでの NFC タグとのインタラクション

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

削除: Salesforce モバイルアプリケーションからのモバイルデバイスを使用したドキュメントのスキャン

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

削除: Mobile Publisher アプリケーションからのモバイルデバイスを使用した NFC タグの操作

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

削除: Mobile Publisher アプリケーションからモバイルデバイスの生体認証の使用

この機能はまだ準備が整っていないため、当面削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

Experience Cloud アプリケーションのためのデバイスの iOS 15 以降への更新

Experience Cloud 向け Mobile Publisher iOS アプリケーションの新しいデバイス要件に関するリリースノートが追加されました。

削除: Apex から呼び出せなくなった呼び出し可能な Slack アクション

この情報は正確ではなくなりました。Apex から Slack アクションを呼び出すことができます。

ケースおよび取引先責任者の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現(リリース更新)

リリース更新の表示について明記されました。

商談の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現(リリース更新)

リリース更新の表示について明記されました。

無効な送信者に関するメールテンプレートの更新

機能の対象と使用可能になる時期が更新されました。

API ログイン要求に対する相互認証の適用

相互認証の動作の変更に関するリリースノートが追加されました。

Apex コンパイラのメッセージ、設定、処理のその他の改善点

Apex 言語サポートとエラーメッセージの改善について明記されました。

2023/08/28

新しい Connect API

NonProfit Cloud のプログラム管理の Connect API を発表するリリースノートが追加されました。

新規および変更されたビジネスルールエンジンのメタデータ型

新しい ExpressionSetMessageToken メタデータ型に関するリリースノートが更新されました。

売上予測の商談に関するより多くのインサイトの取得

エディションリストが Performance Edition を含むように更新されました。

コラボレーション売上予測でのパイプラインインスペクションの商談の詳細およびインサイトの取得

エディションリストが Performance Edition を含むように更新されました。

ソーシャル取引先、取引先責任者、リードの廃止

ソーシャル取引先、取引先責任者、リードは Spring '24 に廃止されます。Twitter アクセスは Winter '24 に取り消されます。

音声通話の切断理由の追跡

音声通話の新しい [切断理由] 項目を発表するリリースノートが追加されました。

Field Service

事前作業ブリーフィング機能が使用可能になる時期に関する情報が追加されました。

Automotive Cloud 動画の視聴

パートナー訪問に関する 2 つの新しい動画に関する情報が追加されました。

構築中のフローの進行状況の保存

キャンバス内でフローの横にプロパティウィンドウがスライドして聞く要素のリストからアクション要素が削除されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

ServiceTerritory オブジェクトの新しい項目を含むリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

FieldServiceOrgSettings オブジェクトの新しい項目を含むリリースノートが追加されました。

LWR サイトでの LWS による静的リソースの保護

Experience Cloud の LWR サイトに静的リソースを読み込む Lightning Web コンポーネントに影響を与える可能性のある LWS と lightning/platformResourceLoader への変更に関するリリースノートが追加されました。

重複するキューポジショブのキューヘの追加の回避

静的な Builder() メソッドを使用するようにコードサンプルが更新されました。

外部鍵管理によるサードパーティの鍵ストアへの接続

外部鍵管理の製品の使用可能状況に関する記述が更新されました。

コンポーネントエラーを逃れる無効な HTML の使用方法の修正

古いリリースノートを参照するリンクが削除されました。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

医療保険データモデルの変更が追加されました。

Salesforce フィードバック管理プレリリーストライアル組織の作成

Salesforce フィードバック管理のプレリリーストライアル組織が使用可能になったことに関するリリースノートが追加されました。

ロイヤルティ管理動画の視聴

ロイヤルティ管理 Mobile SDK 動画が含まれるようにリリースノートが更新されました。

リリースの準備

Winter '24 リソースが追加されました。

外部鍵管理によるサードパーティの鍵ストアへの接続

外部鍵管理の製品の使用可能状況に関する記述が更新されました。

動的入力を使用した拡張リンクのカスタマイズ

拡張リンクを動的にカスタマイズできるように、Einstein ボットで拡張リンクメッセージングポーンメントのパラメーターがサポートされること発表するリリースノートが追加されました。

ユーザー モードデータベース操作の権限セットを使用したカスタムアクセス権の指定(開発者レビュー)

System.stripInaccessible() メソッドオーバーロードに関する情報が追加されました。

パフォーマンスが改善されたレコードホームページの増加

LWC 対応オブジェクトが増えたことを発表するリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

IdentityVerificationEvent および VerificationHistory オブジェクトの Activity 項目への ExternalClientApp 値の追加に関するリリースノートが追加されました。

2023/08/21

追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信

変更イベントを取得できる新しいオブジェクトのリストを含むリリースノートが追加されました。

開発者コンソールでの完全な Apex オートコンプリートの廃止

開発者コンソールでの完全な Apex オートコンプリートは、リソースの負荷が大きく、維持が困難になったため、廃止されます。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

PaymentLink オブジェクトの新しい項目のリストを含むリリースノートが追加されました。

新規および変更された Connect REST API リソース

Salesforce Scheduler の新しい Waitlist Check In リソースが発表されました。

Salesforce Scheduler プレリリーストライアル組織の作成

Salesforce Scheduler のプレリリーストライアル組織が使用可能になったことに関するリリースノートが追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント

lightning:omniToolkitAPI コンポーネントの getAgentWorkload メソッド(新しい2つの応答を含む)のリリースノートが追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネントイベント

lightning:omniChannelWorkloadChanged イベント(新しい3つの応答を含む)のリリースノートが追加されました。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

データモデル名が提供者ネットワーク管理から提供者リレーション管理に変更されました。また、CareProviderSearchableField オブジェクトの新しい項目に関する情報が更新され、ServiceList が Service に変更され、ServiceCodeList が ServiceCode に変更され、Race、Ethnicity、AffiliationList が削除されました。

メタデータ API

SessionSettings メタデータ型の sessionTimeout 項目の新しい列挙値のリリースノートが追加されました。

2023-08-14

Salesforce Winter '24 リリースノート

公開済みレビュー リリースノート。

機能が使用可能になる方法と状況

Winter'24の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザーに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザーに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザーが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザー

サポートされるブラウザーのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce用にサポートされるブラウザーは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience でサポートされるブラウザーおよびデバイス	✓			
Salesforce Classic でサポートされるブラウザーおよびデバイス	✓			
CRM Analytics でサポートされるブラウザー	✓			

Salesforce 全体

Salesforce エクスペリエンス全体に影響する新機能と機能強化について説明します。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
全般的な機能強化				
新しい設定ドメインの準備		✓		
MFA の自動有効化の続行と Summer '24 で開始される MFA の適用			✓	
UI 要素の色のコントラストの改善	✓			
Salesforce ファイルへの公開リンクのパスワードまたは有効期限の設定	✓			
ニュース、自動化された取引先項目、取引先ロゴの廃止	✓			
キーボードショートカットの無効化	✓			
パフォーマンスが改善されたレコードホームページの増加			✓	
参照からの作成の変更			✓	

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レコードページへのその他の変更	<input checked="" type="checkbox"/>			
Salesforce Scheduler				
コピー管理を使用した対面予約管理の効率化		<input checked="" type="checkbox"/>		
対応可能状況の詳細を潜在顧客と共有			<input checked="" type="checkbox"/>	
対応できないサービスリソースの再割り当てによるシームレスな顧客エンゲージメントの実現			<input checked="" type="checkbox"/>	
Salesforce Scheduler での定期的なシフトの活用			<input checked="" type="checkbox"/>	
ICS ファイルを使用して顧客に予定の詳細を送信			<input checked="" type="checkbox"/>	
Salesforce Scheduler プレリリーストライアル組織の作成			<input checked="" type="checkbox"/>	
Connect REST API				
新しい Connect REST API リソース		<input checked="" type="checkbox"/>		
Einstein Search				
プロファイルの検索可能なオブジェクトの設定の簡易化(ベータ)		<input checked="" type="checkbox"/>		
Einstein Search Answers を使用したケースの迅速な解決(パイロット)		<input checked="" type="checkbox"/>		
Einstein Search for Knowledge がデフォルトで有効		<input checked="" type="checkbox"/>		
Salesforce データパイプライン				
ステージングされたデータを使用した順次レシピの迅速な実行(正式リリース)	<input checked="" type="checkbox"/>			
Google アナリティクス 4への接続(正式リリース)	<input checked="" type="checkbox"/>			
Salesforce 外部コネクタでの同期タイムアウト問題の防止	<input checked="" type="checkbox"/>			

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Databricks への接続(ベータ)	<input checked="" type="checkbox"/>			
Amazon Athena への接続(ベータ)	<input checked="" type="checkbox"/>			
増分アップロードによるデータの迅速な追加(ベータ)	<input checked="" type="checkbox"/>			
Snowflake に匹敵する OAuth 機能の拡充	<input checked="" type="checkbox"/>			

Analytics

Analytics の機能強化には、Lightning レポートとダッシュボード、CRM Analytics、Analytics アプリケーション、Einstein Discovery、および Tableau の新機能と更新された機能が含まれます。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
統合された Analytics 環境				
カスタム検索条件を使用した CRM Analytics ダッシュボードの Tableau ビューの探索(正式リリース)	<input checked="" type="checkbox"/>			
[分析] タブでのレポートやダッシュボードの [アセットの詳細] の表示	<input checked="" type="checkbox"/>			
実現した IdeaExchange: 並び替えによる検索結果の絞り込み	<input checked="" type="checkbox"/>			
Lightning ページへの Tableau ビューの組み込み(正式リリース)			<input checked="" type="checkbox"/>	
CRM Analytics for Slack の [ホーム] タブの改善	<input checked="" type="checkbox"/>			
Slack の任意の場所でのスラッシュコマンドを使用した登録と通知へのアクセス(リリース遅延)	<input checked="" type="checkbox"/>			
登録レポートでの Slack チャンネル受信者の表示	<input checked="" type="checkbox"/>			
iOS 向けの Analytics モバイルアプリケーション				

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ワンクリックインタラクションが含まれる静的ウィジェットの変換	<input checked="" type="checkbox"/>			
CRM Analytics ダッシュボードレイアウトの自動更新	<input checked="" type="checkbox"/>			
Android 向けの Analytics モバイルアプリケーション				
ワンクリックインタラクションが含まれる静的ウィジェットの変換	<input checked="" type="checkbox"/>			
CRM Analytics ダッシュボードレイアウトの自動更新	<input checked="" type="checkbox"/>			
Lightning レポートおよびダッシュボード				
Data Cloud レポートでビジネスに関する質問の答えを見つける	<input checked="" type="checkbox"/>			
ダッシュボードでの主要な Data Cloud 評価指標の強調表示と共有	<input checked="" type="checkbox"/>			
Lightning ダッシュボードの所有権の移行(ペータ)			<input checked="" type="checkbox"/>	
集計項目を含む Lightning レポートを作成時に視覚化			<input checked="" type="checkbox"/>	
[分析]タブからレポートとダッシュボードを複数のタブで開く	<input checked="" type="checkbox"/>			
CRM Analytics				
CRM Analytics の視覚化とダッシュボードの作成				
ページネーションによるテーブルのパフォーマンスの向上	<input checked="" type="checkbox"/>			
[選択をクリア] インタラクションを使用したダッシュボードナビゲーションのリセット	<input checked="" type="checkbox"/>			
実行時の繰り返しウィジェットカードの並び替え	<input checked="" type="checkbox"/>			
結合を使用したダイレクトデータの複数のデータモデルオブジェクトの探索(正式リリース)	<input checked="" type="checkbox"/>			

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
テーマを使用した一貫性のあるダッシュボードの作成	✓			
レイアウト全体の変更の簡単な同期	✓			
ダッシュボードのインターラクションを使用した画面フローの起動(ベータ)	✓			
データの予測に複数の変数を使用	✓			
準結合と反結合を使用した効率的なクエリの作成(ベータ)	✓			
事前作成済みの業種分析アプリケーション				
Process Visualizations を使用した見積-to-注文プロセスの最適化		✓		
Analytics ダッシュボードを使用した業務の合理化		✓		
Analytics データインテグレーション				
ステージングされたデータを使用した順次レシピの迅速な実行(正式リリース)	✓			
Google アナリティクス 4への接続(正式リリース)	✓			
Salesforce 外部コネクタでの同期タイムアウト問題の防止	✓			
Databricks への接続(ベータ)	✓			
Amazon Athena への接続(ベータ)	✓			
増分アップロードによるデータの迅速な追加(ベータ)	✓			
Snowflake に匹敵する OAuth 機能の拡充	✓			
インテリジェントな Analytics アプリケーション				
Revenue Intelligence	✓			
Service Intelligence	✓			

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Tableau	<input checked="" type="checkbox"/>			
Marketing Cloud Intelligence	<input checked="" type="checkbox"/>			

コマース

Commerce Cloud の機能強化には、B2B および D2C Commerce、オムニチャネル在庫、Salesforce Order Management、Salesforce Payments の新機能と更新された機能が含まれています。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce B2B および D2C Commerce				
より大きな購入のサポート	<input checked="" type="checkbox"/>			
Commerce Einstein				
Einstein を使用したコマースストアの商品項目の機能強化	<input checked="" type="checkbox"/>			
顧客への頻繁に購入される品目の表示	<input checked="" type="checkbox"/>			
機能強化されたコマース設定センターによるコマース用の組織の準備の簡易化	<input checked="" type="checkbox"/>			
Commerce の簡単な設定による迅速な販売開始	<input checked="" type="checkbox"/>			
コマース再注文ポータルへのブランド設定の追加	<input checked="" type="checkbox"/>			
ケイデンスを使用したコマース再注文ポータルへの招待の簡素化			<input checked="" type="checkbox"/>	
カートに品目を追加するときの待機時間の短縮	<input checked="" type="checkbox"/>			
最低リスト価格コンプライアンスの設定	<input checked="" type="checkbox"/>			
注文の詳細へのアクセス権のゲストユーザーへの付与	<input checked="" type="checkbox"/>			

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
マーケットおよびバイヤーグループページでのより詳細な統合情報の表示	✓			
プロモーションセグメントとバイヤーグループの関連付けの更新	✓			
プロモーション商品バリエーション	✓			
カスタムURLスラッグによるSEOの改善(正式リリース)			✓	
構造化データを使用したリッチな検索結果の作成(正式リリース)			✓	
ストア内でのすべての CMS ワークスペースからのメディアへのアクセス	✓			
注文入力を使用して顧客の代理注文を行う	✓			
コマースコンポーネント				
コマース商品への商品価格設定の詳細の追加	✓			
Public Commerce LWR ライブラリを使用したカスタムコンポーネントの作成	✓			
チェックアウトエクスペリエンスの微調整	✓			
カート内でのプロモーションの表示方法の簡略化	✓			
チェックアウトでの注文の詳細の表示	✓			
販売業者オンボーディングコンポーネントのカスタマイズ	✓			
[商品セット]コンポーネントを使用した Data Cloud での顧客の行動の追跡				

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
オムニチャネル在庫				
特定のロケーションからの配送対象となる SKU の制御	✓			
履行プロセスを通した在庫予約の追跡	✓			
Salesforce Order Management				
代理注文のチェックアウト中に在庫予約を作成				
代理注文での商品名とキーワードの検索				
Salesforce Payments				
Salesforce Payments での PayPal と Venmo の受け入れ	✓			
チェックアウト時に口座振替支払方法を提供	✓			
[今すぐ支払う] ページへの商品品目または定義済み金額の表示	✓			
[今すぐ支払う] の支払リンクの使用方法と有効期限の制御		✓		
[今すぐ支払う] ページへの [Express Payments (エクスプレス支払)] の追加 (パイロット)		✓		
B2C 支払と Salesforce Payments の統合		✓		
Salesforce Payments データへのユーザーアクセスの管理		✓		
Salesforce 支払いイベントに関する通知の取得		✓		
Salesforce Starter での [今すぐ支払う] の使用	✓			

カスタマイズ

カスタム権限セットと権限セットグループの割り当てに関するレポートを生成します。100種類を超える LWC 対応標準オブジェクトで動的フォームを使用します。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
権限				
実現した IdeaExchange: カスタム権限セットおよび権限セットグループの割り当てに関するレポート		✓		
実現した IdeaExchange: 権限セットで有効になっている内容をより容易に表示(ベータ)		✓		
実現した IdeaExchange: 項目権限の設定における全項目の選択		✓		
権限セットグループのエラーのトラブルシューティング		✓		
権限セット内のオブジェクトと項目の権限の API 参照名の表示		✓		
特定の権限セットが追加された権限セットグループの数の表示		✓		
改善されたユーザーアクセスポリシーの検索条件を使用したユーザーアクセスの自動化および移行(ベータ)			✓	
Lightning アプリケーションビルダー				
実現した IdeaExchange: LWC 対応標準オブジェクトでの動的フォームの使用			✓	
実現した IdeaExchange: モバイルユーザーへの動的フォーム環境の提供(正式リリース)			✓	
共有				
実現した IdeaExchange: 手動または取引先チームによる共有の取引先へ		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
のアクセス権を持つユーザーをレポートで確認				
レポートによる公開グループメンバーの参照		✓		
イベントモニタリングによる公開グループのメンバー変更の監査				✓
イベント監視による [アクセス権がありません] エラーのトラブルシューティング				✓
ケースおよび取引先責任者の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現(リリース更新)			✓	
商談の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現(リリース更新)			✓	
外部サービス				
HTTPコールアウトでのPOST、PUT、PATCH、DELETE の編集		✓		
Salesforce Connect				
Amazon Athena アダプターによるキャッシュされたクエリ結果の再利用	✓			
Salesforce Connect の OData 4.01 アダプターの機能強化	✓			
グローバリゼーション				
日本語のカタカナのスタイル変更への備え(リリース更新)				
ICU ロケール形式の有効化(リリース更新)		✓		
クロアチアとシエラレオーネの現在のロケールの使用		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
言語検索条件による翻訳ファイルのエクスポートの高速化		✓		
更新された表示ラベル翻訳の確認				
AppExchange				
AppExchange のソリューション種別を一目で確認		✓		
AppExchange Japan の改善されたソリューションリストの確認		✓		
AppExchange Japan でソリューションとコンサルタントを迅速に検索		✓		
一般設定				
実現した IdeaExchange: 関連リストでの一括クリックアクションを使用した時間の節約(正式リリース)			✓	
リストビューのアクセシビリティの改善		✓		

Data Cloud

アカウントのさまざまな機能の使用可能状況を管理します。Data Cloud オブジェクトや、取引先責任者またはリード標準/カスタム項目に関するインサイトを有効にします。展開されたレコードホームページビューのカスタマイズを確認してください。

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しい Data Cloud 権限セットへの移行			✓	
データスペース機能の権限を使用したアクセス権の絞り込み			✓	
新しい権限を使用したプロファイルエクスプローラーへのアクセス			✓	
機能マネージャーを使用した Data Cloud AI およびベータ機能の有効化および無効化		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Google Cloud Vertex AI モデルを Data Cloud で使用してパーソナライズを促進				
Data Cloud と Snowflake 間のほぼリアルタイムのデータ共有			<input checked="" type="checkbox"/>	
一括処理データ変換でのデータモデルオブジェクトの使用	<input checked="" type="checkbox"/>			
一括処理データ変換の自動化	<input checked="" type="checkbox"/>			
エラーの修正と一括処理データ変換の編集	<input checked="" type="checkbox"/>			
複数の出力ノードを使用した複数のデータソースの保持	<input checked="" type="checkbox"/>			
Salesforce Data Cloud コネクタを使用した Tableau Server から Data Cloud への接続	<input checked="" type="checkbox"/>			
データモデルオブジェクトレコードホームページのカスタマイズ				
取引先の全体像の把握				
Data Cloud データを使用したデータの強化				
Data Cloud 関連リストを使用した取引先責任者およびリードの強化				
Data Cloud 項目のコピーによる取引先責任者およびリードの強化				
更新されたレコードでデータアクションをトリガーするタイミングの選択	<input checked="" type="checkbox"/>			
設定中の Data Cloud インスタンスへの自動接続	<input checked="" type="checkbox"/>			
ウォーターフォールセグメントを使用したキャンペーンの優先順位付け(パイロット)			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Connect Rest API を介したセグメントデータの照会	✓			
Connect Rest API を使用したデータベースのセグメントの作成およびリスト	✓			
Data Cloud でのカスタム権限セットへの新しいオブジェクト権限の追加		✓		
flatten 変換による階層データの簡素化	✓			
計算済みインサイトへの評価指標の追加	✓			
ID解決ルールセット処理結果の1日の概要の表示			✓	
Data Cloud 用の Salesforce 新機能		✓		

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning コンポーネント				
Lightning Web コンポーネントの動的なインポートとインスタンス化		✓		
コンポーネントレベルの API バージョン管理による LWC の最新機能の取得		✓		
グローバルな色のスタイル設定フックを使用した色のコントラスト変更の一貫性		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ワークスペースstabとサブstabの制御(ベータ)		✓		
Lightning Locker での RefreshView API の使用		✓		
将来のネイティブ Shadow サポートのための Lightning 基本コンポーネント内部 DOM 構造の変更		✓		
基本コンポーネント lightning-input の内部 DOM 構造の変更		✓		
Lightning Web セキュリティを有効にしてカスタム要素を作成(ベータ)		✓		
カスタムコンポーネントインストールメンテーション API(ベータ)を使用したコンポーネントイベントの監視				
Lightning Web セキュリティの API のディストーションの変更			✓	
トースト通知の作成と管理(正式リリース)		✓		
難読化された文字列を使用した CSS 範囲トークンの生成		✓		
コンポーネントエラーを逃れる無効な HTML の使用方法の修正		✓		
サポートされるブラウザーのみでの Lightning Experience へのアクセス	✓			
カスタムプロパティエディターで対応する呼び出し可能なアクションの名前を取得		✓		
LWC オフラインテストハーネスの新機能		✓		
Experience Cloud における LWR サイトの静的リソースの LWS による保護		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
サードパーティサイトで Lightning アプリケーションに Cookie の代わりにセッショントークンを使用			<input checked="" type="checkbox"/>	
Lightning アプリケーションの CSRF トークンのセキュリティの機能強化(リリース更新)			<input checked="" type="checkbox"/>	
Einstein Vision および Language				
Einstein Vision				
開発者ドキュメントでの Einstein 光学式文字認識(OCR)へのアクセス	<input checked="" type="checkbox"/>			
Visualforce				
Visualforce JavaScript Remoting API の JsonAccess アノテーション検証の有効化(リリース更新)		<input checked="" type="checkbox"/>		
モーダルウィンドウのナビゲーションの変更		<input checked="" type="checkbox"/>		
Apex				
ユーザー モードデータベース操作の権限セットを使用したカスタムアクセス権の指定(開発者 プレビュー)		<input checked="" type="checkbox"/>		
チーニングされた キュー可能ジョブの最大深度の設定(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
重複する キュー可能ジョブの キューへの追加の回避		<input checked="" type="checkbox"/>		
DataWeave in Apex を使用したさまざまな形式へのデータ変換の有効化(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
[設定] UI での DataWeave スクリプトの表示		<input checked="" type="checkbox"/>		
Comparator インターフェースと Collator クラスを使用した並び替え		<input checked="" type="checkbox"/>		
Iterable による For ループ内での反復処理の簡略化		<input checked="" type="checkbox"/>		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
非同期 Apex ジョブの制限の使用状況の監視		✓		
Apex コンパイラのメッセージ、設定、処理のその他の改善点		✓		
Apex RestResponse ヘッダーの RFC 7230に基づく検証の適用(リリース更新)			✓	
getSalesforceBaseUrl() メソッドの廃止		✓		
API				
JWTベースのアクセストークンを使用した REST API コールの認証		✓		
Salesforce Platform API バージョン 21.0 ~ 30.0 の廃止(リリース更新)	✓			
パッケージ化				
管理パッケージの新しい開発者ガイドの探索		✓		
DevOps Center				
Salesforce CLI を使用した変更のリリース(ベータ)	✓			
作業項目がコンポーネントを共有する場合に確信を持って昇格		✓		
バンドルフェーズでの検証のみのリリースの実行		✓		
開発環境				
Sandboxライセンスコンプライアンスの変更の理解		✓		
Sandboxへのアクセス権を持つユーザーの選択			✓	
プラットフォーム開発ツール				
Platform アプリケーションの簡単な開発		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コードビルダーを使用してどこからでも開発(正式リリース)		✓		
スケールセンターでの拡張性のあるアプリケーションのリリースとシステムパフォーマンスの分析			✓	
拡張性テストサービスを使用した迅速、簡単、かつ正確な拡張性テストの実施			✓	
開発者コンソール				
開発者コンソールでの完全な Apex オートコンプリートの廃止		✓		
Salesforce Functions				
Salesforce Functions の更新			✓	
AppExchange パートナー				
第一世代(1GP)および第二世代(2GP) パッケージでの AppExchange App Analytics の自己有効化			✓	
Salesforce Code Analyzer Visual Studio Code 拡張機能を使用してソリューションを簡単にスキャン(ベータ)				
Tableau アクセラレーターの AppExchange へのクロスリスト			✓	
ビジネスニーズの新しいカテゴリとサブカテゴリを使用した AppExchange リストの検出可能性の向上			✓	
パートナーコンソールでの AppExchange セキュリティレビューの進行状況の監視とレビューの管理			✓	
変更データキャプチャ				
追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
プラットフォームイベント				
Apex トリガーの並列登録を使用したプラットフォームイベントの大規模な処理(パイロット)				<input checked="" type="checkbox"/>
Hyperforce インスタンスでの拡張された利用状況総計値の使用		<input checked="" type="checkbox"/>		
プラットフォームイベントと変更イベントの使用量ベースのエンタitlementmentに対する REST の Limits の応答の変更		<input checked="" type="checkbox"/>		
ストリーミング API バージョン 23.0 ~ 36.0 の廃止		<input checked="" type="checkbox"/>		
イベントバス				
Hyperforce インスタンスでのイベントリレーの作成		<input checked="" type="checkbox"/>		
Pub/Sub API のグローバルエンドポイントの処理地域の拡張		<input checked="" type="checkbox"/>		
イベントリレーの処理地域の拡張		<input checked="" type="checkbox"/>		
UTAM				
UTAM ブラウザー拡張機能の複数のアーティファクトのインポート(ベータ)		<input checked="" type="checkbox"/>		
UTAM ブラウザー拡張機能の要素の強調表示のカスタマイズ(ベータ)		<input checked="" type="checkbox"/>		
Playground を使用した HTML からの UTAM ページオブジェクトの生成		<input checked="" type="checkbox"/>		
UTAM ジェネレーターの出力のカスタムルールによる上書き		<input checked="" type="checkbox"/>		

Einstein 生成 AI

Einstein 生成 AI を使用して、従業員の効率性を大幅に強化します。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein 生成 AI の機能			<input checked="" type="checkbox"/>	
Einstein 生成 AI プラットフォーム			<input checked="" type="checkbox"/>	
Einstein Trust Layer を使用したデータセキュリティの確保			<input checked="" type="checkbox"/>	
プロンプトビルダー(パイロット)				
プロンプトビルダーでパーソナライズされたセールスメールの生成(パイロット)			<input checked="" type="checkbox"/>	
プロンプトビルダーで生成 AI を使って項目値を入力(パイロット)			<input checked="" type="checkbox"/>	

イネーブルメントとガイダンス

会社の収益成果の向上に重点を置いたイネーブルメントプログラムを提供します。ユーザーが優れた能力を発揮できるように厳選されたリソースに誘導します。Salesforceで作業する場所で、学習、キャリア進展、スキル開発、およびビジネスに不可欠な職務遂行能力をユーザーにもたらします。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
イネーブルメント				
イネーブルメントシステム管理者とイネーブルメントユーザー権限を最新の状態に保つ			<input checked="" type="checkbox"/>	
パーフェクトピッチで営業担当をコーチ			<input checked="" type="checkbox"/>	
イネーブルメント分析からマイルストーンの進行状況への深いインサイトの取得	<input checked="" type="checkbox"/>			
プログラム受講中の進行状況の明確な表示	<input checked="" type="checkbox"/>			
少ないクリック数でのより多くのユーザーへのイネーブルメントプログラムの割り当て			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
イネーブルメントのその他の変更		✓		
ガイダンスセンターとアプリケーション内ガイダンス				
イネーブルメントを使用したアプリケーション内ガイダンスのより簡単なロールアウト		✓		
ウォータースルーの権限の新しい名前		✓		
ガイダンスセンターでのSalesblazerコンテンツの表示		✓		

Experience Cloud

任意のワークスペースの CMS コンテンツを拡張 LWR サイトと共有します。作成するすべての LWR サイトが拡張されるようになりました。拡張 LWR の他の改善点として、エクスペリエンスビルダーを使用してカスタム CSS をサイト内のどのコンポーネントにも適用できるほか、カスタムロジックを使用して柔軟な式ベースの表示ルールをコンポーネントに適用できます。また、DigitalExperiencesBundle の新しいフォルダーから、サイトのグローバルスタイルシートに簡単にアクセスして更新できます。より効率的で安全な認証方式ですべての Experience Cloud サイトにログインできます。また、Sandbox 組織を使用して、サイトのコンテンツ配信ネットワークを無効化することで本番組織にどのような影響があるかをテストできます。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Aura サイトと LWR サイト				
任意のワークスペースの CMS コンテンツの拡張 LWR サイトとの共有		✓		
新規 LWR サイトはすべて拡張サイトに		✓		
エクスペリエンスビルダーでの LWR サイトでのコンポーネントの容易な検索		✓		
さらに多くの言語への LWR サイトの翻訳		✓		
Aura サイトでの関連リストでの クイックアクションの使用 (正式リリース)		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce PRM でのパイプラインインスペクションへのエンゲージメント				
エクスペリエンスビルダーでのコンポーネント				
拡張 LWR サイトでのコンポーネントのバリエーションの作成(ベータ)		<input checked="" type="checkbox"/>		
式ベースの表示ルールでのカスタムロジックの使用		<input checked="" type="checkbox"/>		
拡張 LWR サイトの [新規スタイル] タブからコンポーネントへのカスタム CSS の適用		<input checked="" type="checkbox"/>		
ナレッジ検索結果でのより多くの項目の表示		<input checked="" type="checkbox"/>		
アクションバーコンポーネントによる LWR サイトのさらなる活用(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
LWR サイトでのレコードの詳細コンポーネントを使用した、より多くのレコードの表示と編集(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
開発者の生産性				
拡張 LWR サイトでのより簡単なグローバルスタイルの追加		<input checked="" type="checkbox"/>		
Lightning Web コンポーネントでのデフォルトのサイト言語に関する情報の取得		<input checked="" type="checkbox"/>		
LWR サイトでの動的リダイレクトルールの使用(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
LWR サイトでの LWS による静的リソースの保護		<input checked="" type="checkbox"/>		
サイトのパフォーマンス				
Sandbox 組織での拡張ドメインの Experience Cloud CDN の無効化		<input checked="" type="checkbox"/>		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Force.com サイト URL からのリダイレクト時のユーザーへのアラート			<input checked="" type="checkbox"/>	
iOS デバイスを使用している場合の Chatter メール通知への返信		<input checked="" type="checkbox"/>		
Experience Cloud 向け Mobile				
Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションの URL とロケーションベースのプッシュ通知の設定			<input checked="" type="checkbox"/>	
セキュリティと共有				
Chatter メール通知を送信するときのメールアドレスの必須化(リリース更新)			<input checked="" type="checkbox"/>	
改善された新しいヘッダレス ID 機能の活用			<input checked="" type="checkbox"/>	
JSON Web トークンベースのアクセストークンを使用した認証フローのパフォーマンスの改善(正式リリース)			<input checked="" type="checkbox"/>	
ContentDocumentLink を使用したすべてのファイル共有のクエリ		<input checked="" type="checkbox"/>		

Field Service

忙しいチームの時間と業務量を管理します。また、フローを使用して、高度なスケジュール設定および最適化エンジンに簡単に移行します。更新されたガントチャートとユーザーエクスペリエンスにより、忙しい派遣担当者は、より効率的に作業を作成できます。多くの納入商品機能により、最新のメンテナンスニーズを把握します。ブランドを提示するようにドキュメントをカスタマイズします。[値] ダッシュボードのデータを分析することで何がビジュアルリモートアシスタンントの効率を高めるのかを学習します。モバイルの機能強化により、作業者はエラーが発生しやすいデータ入力作業を管理できます。モバイルチームの業務形態に合わせてカスタマイズされたタブバーを作成して、ワークフローを合理化することもできます。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
リソース管理				

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
高度なスケジュール設定および最適化				
ビジネスニーズに応じた作業業務量の制限			<input checked="" type="checkbox"/>	
少ないスケジュール済みジョブの実行によるシステムメンテナンスの削減		<input checked="" type="checkbox"/>		
拡張されたスケジュール設定および最適化を使用した場合の複数目作業の最適化			<input checked="" type="checkbox"/>	
クルーのサービスリソース数の制限によるクルーの効果的な活用			<input checked="" type="checkbox"/>	
同じサイトのサービス予定のグループ化による派遣作業員の効率化			<input checked="" type="checkbox"/>	
ガイド付きステップによる高度なスケジュール設定および最適化へのスムーズな移行			<input checked="" type="checkbox"/>	
サービス予定スケジュールでより多くの候補を評価するためのスキル要件の緩和			<input checked="" type="checkbox"/>	
複数リソースの複合作業のスライディングによるスケジュール品質の改善			<input checked="" type="checkbox"/>	
クルー管理				
クルースキルでの絞り込みによる効率的なクルーの編成と管理	<input checked="" type="checkbox"/>			
クルー管理ツールでのサービスクルーとクルーメンバーの容易な検索	<input checked="" type="checkbox"/>			
ディスパッチャーコンソール				
ガントチャートでのリソースの不在の容易な定義	<input checked="" type="checkbox"/>			
ガントチャートでのリソースの不在の容易な再割り当て	<input checked="" type="checkbox"/>			

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ガントチャートからのリソースの不在の変更効率の改善	✓			
ガントチャートでの重複するリソースの不在の容易な表示	✓			
ガントチャートでのより効率的な候補の特定	✓			
スキル検索条件による最適なリソースの検索	✓			
サービス予定リストでのより多くの情報の表示	✓			
ガントチャートでの週番号の表示による見やすさの向上	✓			
スケジュールの変更のガントチャートへのすばやい反映			✓	
高度なセキュリティ設定によるデータ共有の規制		✓		
より柔軟なサービス予定間の連動関係の作成			✓	
Field Service 設定の改善につながる状態チェック結果の改善	✓			
納入商品管理				
プロアクティブなサービス				
Data Cloud での Field Service の活用			✓	
納入商品の属性を使用したプロアクティブなメンテナンスへのシフト			✓	
納入商品パフォーマンス監視のリアルタイム更新	✓			
納入商品の属性の監視によるメンテナンスパフォーマンスに関する警告の取得			✓	
より柔軟な納入商品のレコードセット検索条件ルールの作成	✓			

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
修理のための納入商品のダウンタイムの追跡			✓	
納入商品属性				
属性定義のデフォルト値の容易な追加	✓			
納入商品レコードの共有時の納入商品属性情報の保護		✓		
メンテナンス計画の頻度の項目からメンテナンス作業ルールへの移行(リリース更新)		✓		
管理およびプロセス				
ドキュメントビルダーによるリッチ形式のサービスドキュメントの作成(ベータ)		✓		
顧客エンゲージメント				
[値] ダッシュボードを使用したビジュアルリモートアシスタントでの便利な情報の取得		✓		
ビジュアルリモートアシスタント 画像の保持日数の制限によるデータの保護		✓		
ビジュアルリモートアシスタント セッション後のブランド認知度の向上	✓			
ビジュアルリモートアシスタント のセルフサービスセッションの提供による顧客の待機時間の短縮	✓			
モバイル				
バーコードのスキャンによる時間の節約と精度の向上		✓		
プラットフォーム間でのワークフローの円滑な動作の保証	✓			

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
カスタマイズされたタブバーによる生産性の向上		✓		
正確なサイトのチェックインとチェックアウトの取得(パイロット)		✓		
Field Service Field Service Mobile for Android タブレットでの容易なマルチタスク	✓			
派遣作業員が作業ステップの自動完了を手動で上書きできるようにする			✓	
Field Service コンテンツに注目				
ランディングページによる設定作業の簡素化	✓			
Field Service API				
サービス予定に一致するすべてのサービスアトリビュートの特定			✓	
Recurring Appointments API による繰り返し訪問の管理		✓		

Hyperforce

Hyperforce は、パブリッククラウド用に構築された次世代の Salesforce インフラストラクチャーアーキテクチャです。Salesforce アプリケーションにコンプライアンス、セキュリティ、プライバシー、俊敏性、スケーラビリティを提供し、顧客にデータレジデンシーに関するより多くの選択肢を提供します。

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Hyperforceを使用してより多くの地域で Salesforce にアクセス			✓	
Hyperforceアシスタントを使用した Hyperforceへの移行(正式リリース)			✓	
サーバー ID に 3 文字を使用するように Salesforce オブジェクト ID を調整(リリース更新)			✓	

Industries

Industries ソリューションは、ビジネスのニーズに合わせて Salesforce が設定されているため、自分でカスタマイズする必要はありません。成果管理とコンテキストサービスが正式リリースされました。Consumer Goods Cloud を使用して店舗とのエンゲージメントを向上させ、より適切なプロモーションを計画します。Financial Services Cloud では、Data Cloud を使用して内部データと外部データの両方をより適切に整理できるようになりました。助成金提供を使用して、助成金受領者の予算を追跡します。HealthCloud は、Marketing Cloud Engagement を使用して CRM データを Marketing Cloud に取り込めるようになりました。Manufacturing Cloud を使用して、保証請求裁定プロセスを自動化して改善します。Net Zero Cloud の重要性調査を使用して、会社の社会的影響を計画します。Salesforce 契約を使用して、契約のエンドツーエンドのライフサイクルを管理します。また、Education Cloud、Nonprofit Cloud、Media Cloud、Industries の一般的な機能などにも多くの変更が加えられています。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Automotive Cloud				
法人車両業務の簡単な追跡			<input checked="" type="checkbox"/>	
販売業者の場所への車両の迅速な移送			<input checked="" type="checkbox"/>	
車両と部品の保証請求の自動裁定			<input checked="" type="checkbox"/>	
予測請求承認スコアを使用した車両と部品の保証請求の迅速な裁定			<input checked="" type="checkbox"/>	
Automotive Cloud でのレコードを更新および検証するためのドキュメントデータの自動抽出	<input checked="" type="checkbox"/>			
販売業者の請求に関する有益なインサイトの取得			<input checked="" type="checkbox"/>	
Automotive Cloud のアクション可能リストの機能強化によるアウトチケット活動の強化	<input checked="" type="checkbox"/>			
Automotive タイムラインでの Data Cloud のエンゲージメントイベントの表示	<input checked="" type="checkbox"/>			
Automotive Cloud 動画の視聴	<input checked="" type="checkbox"/>			
Automotive Cloud の新規および変更されたオブジェクト			<input checked="" type="checkbox"/>	
Connect REST API				
新しい Connect REST API リソース			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Communications Cloud				
Consumer Goods Cloud				
リテールエグゼキューション				
効率的な注文実行	<input checked="" type="checkbox"/>			
Penny Perfect 價格設定の計算でのカスタム属性の追加	<input checked="" type="checkbox"/>			
プロモーションの計画と実行の強化	<input checked="" type="checkbox"/>			
Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションでの添付ファイルの容易な共有	<input checked="" type="checkbox"/>			
プロモーションの傾向と効果の分析	<input checked="" type="checkbox"/>			
実現した IdeaExchange:印刷レイアウトでの署名のプレビュー	<input checked="" type="checkbox"/>			
セールス組織の追加の権限	<input checked="" type="checkbox"/>			
モバイル同期の設定の最適化		<input checked="" type="checkbox"/>		
Android デバイスでの Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションの Bluetooth 権限の許可	<input checked="" type="checkbox"/>			
強化されたアクセシビリティによるユーザー満足度の向上	<input checked="" type="checkbox"/>			
取引プロモーション管理				
売上増加量の予測によるプロモーションのパフォーマンスの向上				
カスタムラベルによるカスタム期間の簡単な識別				
顧客ビジネス計画に最適なシナリオの選択				
プロモーションの損益計算についての理解				

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
API を使用した重要業績評価指標グリッドのエクスポート				
部品表の商品およびコンポーネントの表示機能向上による有効なインサイトの取得				
リアルタイムレポートでの商品属性の追加				
リアルタイムレポートをより直感的に使用				
トレードプロモーション管理でのインテリジェントドキュメントリーダーの取得			✓	
権限セットの更新				
強化されたアクセシビリティによるユーザー満足度の向上				
改善された取引プロモーション管理ドキュメント				
Consumer Goods Cloud 用 Visual Studio Code ベースモーデラーを使用したモバイルアプリケーションのモデル化	✓			
Sales Excellence を使用した顧客満足度の向上	✓			
自動化のパフォーマンス改善とエラー処理	✓			
Consumer Goods Cloud 動画	✓			
新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト		✓		
新規および変更されたメタデータ型		✓		
Energy and Utilities Cloud				
		Financial Services Cloud		

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
アクション可能セグメンテーション				
アクション可能リストメンバー				
DataCloud セグメントのリストビルダー				
取引の紛争管理				
取引の紛争管理を使用した紛争受入プロセスの合理化		✓		
サービスプロセスの自動化				
Service Process Studio for Financial Services Cloud		✓		
金融サービスクライアントポータルのセルフサービス機能				
事前作成済みサービスプロセスを使用したリテールバンキングサービスの合理化		✓		
ディスカバリーフレームワークの機能強化				
財務目標				
財務目標の使用		✓		
新しい Connect REST API リソース		✓		
統合オンボーディング				
顧客のオンボーディングの迅速な開始		✓		
エンドツーエンドのドキュメント承認ライフサイクルの合理化	✓			
Financial Services Cloud のその他の機能強化				
トピックを使用したインターラクションレコードの整理		✓		
変更された金融取引を一目で確認	✓			
Financial Services Cloud ドキュメントの変更内容				

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Financial Services Cloud のシステム管理者ガイド、インストールガイド、クイックスタートガイド、アップグレードガイド				
Actionable Relationship Center と準拠データ共有のドキュメントを「Industries の一般的な機能ガイド」に移動	✓			
新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト項目				
助成金提供				
Experience Cloud での実際に使用した予算の入力		✓		
カスタムの Experience Cloud サイトへの予算コンポーネントの追加		✓		
準拠データ共有を使用した助成金提供レコードの共有		✓		
助成金提供の新しいオブジェクトと項目		✓		
Health Cloud				
Actionable Relationship Center の機能強化				
ARC グラフでの上位取引先階層の表示		✓		
ARC グラフでの柔軟なアンカーノードの簡単な設定	✓			
柔軟な ARC リレーションシップグラフの表示		✓		
ARC グラフ内の任意の点からアンカーノードを追跡		✓		
先進治療管理の機能強化				
保管管理を使用した透明性の高い追跡プロセスの提供		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
決定表を使用した保管レコードの簡単なカスタマイズ			<input checked="" type="checkbox"/>	
保管レコードの変更履歴の追跡		<input checked="" type="checkbox"/>		
決定表を使用したカスタマイズされた項目リストの作成			<input checked="" type="checkbox"/>	
作業種別内のステップを使用した現実的なリードタイムの設定			<input checked="" type="checkbox"/>	
テリトリーの優先度設定ルールによるサイト利用の最適化			<input checked="" type="checkbox"/>	
ケアチームのユーザーグループの作成			<input checked="" type="checkbox"/>	
Experience Cloud からの先進治療管理へのアクセス			<input checked="" type="checkbox"/>	
作業種別ステップによる治療フェーズ内のステップの表現		<input checked="" type="checkbox"/>		
時間単位でのリードタイムの設定		<input checked="" type="checkbox"/>		
評価の機能強化				
サンプルヘルスケア評価による時間と労力の節約			<input checked="" type="checkbox"/>	
問題行動の医療				
問題行動の医療アプリケーションを使用してケアをより簡単に管理			<input checked="" type="checkbox"/>	
危機支援センター管理の機能強化				
ケースへの健康の社会的決定要因の追加			<input checked="" type="checkbox"/>	
Experience Cloud サイトへの危機支援センター管理の公開			<input checked="" type="checkbox"/>	
SMS および Web チャットを使用したクライアントとのコミュニケーション			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
[紹介を作成] フローで患者がタイムリーな治療を受けられるようにする			<input checked="" type="checkbox"/>	
ベッドの使用可能状況を更新するように施設システム管理者に依頼			<input checked="" type="checkbox"/>	
アクション可能セグメンテーションを使用したフォローアップリストの作成			<input checked="" type="checkbox"/>	
更新されたガイド付き設定を使用した危機支援センター管理の迅速な設定		<input checked="" type="checkbox"/>		
ヘルスケア提供者の機能強化				
ヘルスケア提供者に関する詳細情報の追跡			<input checked="" type="checkbox"/>	
ヘルスケア提供者の写真のアップロード			<input checked="" type="checkbox"/>	
在宅医療の強化				
効果的な薬剤管理サービスによる患者の健康転帰の改善			<input checked="" type="checkbox"/>	
拡張ケアプランによる患者ケアの合理化			<input checked="" type="checkbox"/>	
訪問の電子検証機能を使用した正確な追跡と最近の訪問情報の取得			<input checked="" type="checkbox"/>	
患者の対象資格の自動検証による業務効率の向上			<input checked="" type="checkbox"/>	
1回のクリックでスケジュール済み訪問を視覚化			<input checked="" type="checkbox"/>	
新しいフローによる最新の訪問数の取得			<input checked="" type="checkbox"/>	
ケア従事者の推奨を使用したスケジュールに要する時間の短縮			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
在宅医療向けの更新されたガイド付き設定を使用した詳細情報の取得			<input checked="" type="checkbox"/>	
在宅医療サービスの効率の向上			<input checked="" type="checkbox"/>	
統合ケア管理の機能強化				
アプリケーションランチャーからの統合ケア管理へのアクセス	<input checked="" type="checkbox"/>			
ケアギャップを使用した患者ケアにおけるギャップの特定			<input checked="" type="checkbox"/>	
臨床基準の評価によるケアギャップの作成			<input checked="" type="checkbox"/>	
OmniScript フローを使用したケアギャップからのケアプランの作成			<input checked="" type="checkbox"/>	
拡張ケアプランインターフェースを使用したケアギャップの表示			<input checked="" type="checkbox"/>	
更新された決定表による調査の質問と回答の対応付け			<input checked="" type="checkbox"/>	
Experience Cloud サイトへのケアギャップの公開			<input checked="" type="checkbox"/>	
インテリジェントなドキュメントの自動化の機能強化				
インテリジェントドキュメントワークスペースのより簡単な設定			<input checked="" type="checkbox"/>	
インテリジェントなセールスの機能強化				
パスを使用した販売計画の状況の追跡		<input checked="" type="checkbox"/>		
より広範囲での商品在庫検索	<input checked="" type="checkbox"/>			
Actionable Relationship Center でのインテリジェントな営業業務のサポート			<input checked="" type="checkbox"/>	
Marketing Cloud Engagement for Health Cloud				

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Marketing Cloud Engagement for Health Cloud を使用した患者エンゲージメントの向上			<input checked="" type="checkbox"/>	
Health Cloud 用の新しい Shield Platform Encryption			<input checked="" type="checkbox"/>	
同意およびヘルスケア提供者データの暗号化			<input checked="" type="checkbox"/>	
紹介管理				
[紹介を作成] フローを使用した紹介の自動化			<input checked="" type="checkbox"/>	
提供者ポータルでの紹介の作成			<input checked="" type="checkbox"/>	
受け入れられた紹介の追跡			<input checked="" type="checkbox"/>	
受信ドキュメントの紹介への変換			<input checked="" type="checkbox"/>	
Salesforce Scheduler の機能強化				
Salesforce Scheduler を使用したより多くの予定とアセットの管理			<input checked="" type="checkbox"/>	
Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト			<input checked="" type="checkbox"/>	
Health Cloud の新規および変更された呼び出し可能なアクション			<input checked="" type="checkbox"/>	
Health Cloud の新規および変更されたメタデータ型			<input checked="" type="checkbox"/>	
Connect REST API				
新しい Connect REST API リソース			<input checked="" type="checkbox"/>	
プロバイダー API 更新の作成			<input checked="" type="checkbox"/>	
業種注文管理				
Insurance				
Manufacturing Cloud				
保証請求裁定の自動化				
複雑で拡張可能なビジネスルールの使用による迅速かつ正確な請求の検証			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
より柔軟かつ簡単な保証請求裁定ルールの作成			<input checked="" type="checkbox"/>	
CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management			<input checked="" type="checkbox"/>	
CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management の簡単な設定			<input checked="" type="checkbox"/>	
効率的な保証請求の管理			<input checked="" type="checkbox"/>	
予測請求承認スコアを使用することにより、商品保証請求を迅速に裁定します。			<input checked="" type="checkbox"/>	
販売計画の注文取消しと返品の追跡			<input checked="" type="checkbox"/>	
資産のライフサイクルにおける関係者の追跡			<input checked="" type="checkbox"/>	
製造の法人車両業務の可視化			<input checked="" type="checkbox"/>	
Manufacturing Cloud の Actionable Relationship Center を使用した取引先階層の視覚化			<input checked="" type="checkbox"/>	
Manufacturing Cloud のドキュメントからの自動情報抽出による時間とリソースの節約			<input checked="" type="checkbox"/>	
Manufacturing Cloud のアクション可能なリストメンバーの機能強化を使用した見込み客との信頼関係の作成	<input checked="" type="checkbox"/>			
Manufacturing Cloud のタイムラインにエンゲージメントイベントを表示して情報の可視性を向上	<input checked="" type="checkbox"/>			
DataCloud のリストビルダーを使用した見込み客との対象を絞ったパーソナライズされたエンゲージメントの促進			<input checked="" type="checkbox"/>	
Manufacturing Cloud でのデータ処理エンジン定義の視覚化と容易なデバッグ			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Manufacturing Cloud の新規および変更されたオブジェクト			<input checked="" type="checkbox"/>	
Media Cloud	ロイヤルティ管理		<input checked="" type="checkbox"/>	
ロイヤルティ管理 POS API を使用した POS システムからのロイヤルティアクションの実行			<input checked="" type="checkbox"/>	
最小限の操作による対象メンバーリストの作成			<input checked="" type="checkbox"/>	
取引先責任者のバウチャーの表示		<input checked="" type="checkbox"/>		
ロイヤルティ管理動画の視聴	<input checked="" type="checkbox"/>			
Net Zero Cloud				
再生可能エネルギーを管理するためのエネルギー属性クレジットの割り当て	<input checked="" type="checkbox"/>			
重要性調査の実施	<input checked="" type="checkbox"/>			
前年の開示回答のコピー	<input checked="" type="checkbox"/>			
ソーシャルおよびガバナンスレポートへのより多くのデータの追加	<input checked="" type="checkbox"/>			
カスタム燃料種別を使用したカーボンアカウンティングの強化	<input checked="" type="checkbox"/>			
Net Zero Marketplace の排出係数の管理	<input checked="" type="checkbox"/>			
インテリジェントドキュメントリーダーを使用した Net Zero Cloud オブジェクトへのドキュメントデータの読み込み	<input checked="" type="checkbox"/>			
プログラム管理と結果管理を使用した脱炭素化戦略の改善	<input checked="" type="checkbox"/>			
[開示とコンプライアンスのハブ] テンプレートを使用した ESRs レポートの生成			<input checked="" type="checkbox"/>	
CRM Analytics for Net Zero Cloud				

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Net Zero Analytics の簡単な設定			<input checked="" type="checkbox"/>	
特定の予測排出量の影響分析に基づいて教育された持続可能な行動の実施			<input checked="" type="checkbox"/>	
賃金格差と代表性のインサイトで影響度の高いDEIイニシアチブを計画			<input checked="" type="checkbox"/>	
Net Zero Cloud の新規および変更されたオブジェクト	<input checked="" type="checkbox"/>			
メタデータ API		<input checked="" type="checkbox"/>		
OmniStudio ドキュメントの生成				
結果管理				
望ましい結果と顕著な変化をもたらす活動を追跡			<input checked="" type="checkbox"/>	
結果がどのように成功に寄与するかを示す総合的な表示の取得			<input checked="" type="checkbox"/>	
変化を適用する作業の測定			<input checked="" type="checkbox"/>	
中間および最終結果の追跡			<input checked="" type="checkbox"/>	
影響戦略の包括的な把握			<input checked="" type="checkbox"/>	
結果管理動画の視聴			<input checked="" type="checkbox"/>	
結果管理用の新しいオブジェクトと項目			<input checked="" type="checkbox"/>	
プログラム管理				
新しい Connect REST API		<input checked="" type="checkbox"/>		
Public Sector Solutions				
Actionable Relationship Center グラフでのコンテキストデータの迅速な確認			<input checked="" type="checkbox"/>	
適切なサービス提供者への対象者の紹介とサービス提供の追跡			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
カスタムオブジェクトを含むより多くのオブジェクトで動的評価を使用		✓		
ガイド付きフローを利用した効率的な給付申込の処理			✓	
ケースやケース手続きでの簡単な証拠の管理			✓	
Service Process Studio を使用したより多くのシナリオでのサービス要請の取得			✓	
ケースワーカーに完全な提供者検索環境を提供			✓	
ガイド付きワークフローの使用による関係者リレーションシップの簡単な分割			✓	
関連しないオブジェクトのレコードを集計して関連付けることによる情報へのアクセスの簡略化			✓	
標準コンポーネントを使用した告発受入ガイド付きフローの迅速な設定			✓	
Experience Cloud 助成金提供サイトでの実際の予算支出の追跡と、準拠データ共有によるレコードの共有			✓	
会計補助台帳の使用による会計システムでの財務データの統合			✓	
結果管理を使用した対象者への影響戦略の強化			✓	
Public Sector Solutions の新規および変更されたオブジェクト			✓	
PublicSectrSltn 名前空間				
リベート管理				
リベート管理のための CRM Analytics				

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Rebate Analytics の簡単な設定			<input checked="" type="checkbox"/>	
配送およびデビットプログラムの分析によるパートナーの値の最適化			<input checked="" type="checkbox"/>	
カスタムノードによる DPE 定義の拡張性の向上(正式リリース)			<input checked="" type="checkbox"/>	
Salesforce 契約				
教育機関向け Salesforce			<input checked="" type="checkbox"/>	
非営利団体向け Salesforce			<input checked="" type="checkbox"/>	
Industries の一般的な機能				
アクション可能リストメンバー				
検索条件を使用した見込み客の簡単な絞り込みによる時間の節約	<input checked="" type="checkbox"/>			
KPI バーを使用した見込み客に関する価値のあるインサイトの取得とスマートなビジネス上の意思決定	<input checked="" type="checkbox"/>			
Service Cloud キューへの見込み客の割り当てによるエージェントの作業負荷の最適化	<input checked="" type="checkbox"/>			
アクション可能リストの新しい見込み客を自動的にエージェントに割り当てるによる効率の向上	<input checked="" type="checkbox"/>			
アクション可能リストメンバーの変更されたオブジェクト		<input checked="" type="checkbox"/>		
Connect REST API		<input checked="" type="checkbox"/>		
Actionable Relationship Center				
Actionable Relationship Center グラフでのコンテキストデータの迅速な確認			<input checked="" type="checkbox"/>	
アクション可能セグメンテーション				

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
表示列のカスタマイズによるリスト作成エクスペリエンスのパーソナライズ	✓			
更新済み実行可能リストへの最新の一一致レコードの追加	✓			
クリックアクションによるアクション可能リストへのメンバー追加の効率化	✓			
リストビルダーで集計項目を使用した拡張ビューの取得		✓		
ガイド付き設定を使用したアクション可能セグメンテーションの迅速な稼働			✓	
アクション可能セグメンテーションの動画		✓		
新しいオブジェクト		✓		
メタデータ API		✓		
一括管理				
[次に含まれる] および [次に含まれない] 演算子を使用した一括処理ジョブレコードの絞り込み		✓		
日付リテラルによる一括ジョブレコードの絞り込み		✓		
ビジネスルールエンジン				
式セットでのコンテキスト定義の属性のリスト変数としての使用	✓			
リストグループと検索条件を使用したリスト変数の操作の簡易化	✓			
リスト関数を使用した複雑な計算の簡単な設定	✓			
ルックアップテーブルへの入力の一括指定	✓			

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
式セットの Decision Explainer の機能強化				
4倍に増加した組織あたりの有効な決定表の数	✓			
複数のオブジェクトをデータソースとして使用する決定表の作成	✓			
行数が 10 倍に増えた決定表の作成	✓			
決定表を分類して簡単に管理	✓			
検索設定の選択による決定表結果の容易な絞り込み	✓			
追加のデータ型と関数を使用した式セットの作成	✓			
式セットバージョンで使用する決定表でのデータ型の追加	✓			
入力列を増やした決定表の作成	✓			
決定マトリックスビルダーから DMN ファイルへの決定マトリックスバージョンのエクスポート	✓			
式セットリソースへのルックアップテーブル変数の簡単な対応付け	✓			
ビジネスルールエンジンの他の変更	✓			
新規および変更されたビジネスルールエンジンオブジェクト		✓		
新規および変更されたビジネスルールエンジン Tooling API オブジェクト		✓		
新規および変更されたビジネスルールエンジンのメタデータ型		✓		
Connect REST API		✓		
コンテキストサービス (正式リリース)				
コンテキストサービスを使用したデータへのアクセス			✓	

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コンテキスト定義の作成			✓	
データソースへのコンテキスト定義の対応付け			✓	
コンテキストデータの取得とアップリケーションおよびデータベースへのリリース			✓	
フローからの[コンテキストを構築]の呼び出し			✓	
フローからの[コンテキストデータを保持]の呼び出し			✓	
組織間の移行			✓	
コンテキストサービスの新規オブジェクト			✓	
新しいコンテキストサービスメタデータ型			✓	
データ処理エンジン				
新しいノードキャンバスを使用した定義のより迅速な作成		✓		
定義内で互いに参照しているノードの確認		✓		
Data Cloud を使用してデータを変換		✓		
トラブルシューティングでの失敗した書き戻しレコードの表示		✓		
変更されたデータ処理定義オブジェクト		✓		
変更されたデータ処理エンジン Tooling API オブジェクト		✓		
メタデータ API		✓		
ディスカバリーフレームワークの機能強化				
評価用にアップロードするドキュメントの迅速かつ容易な特定			✓	
新しい Connect REST API リソース		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
エンゲージメント				
変更されたオブジェクト		✓		
業種インテグレーションソリューション				
複数の業種クラウドインテグレーションへのアクセスの容易化			✓	
複数の外部システムへのインテグレーションの接続			✓	
失敗したインテグレーションインスタンスの再有効化			✓	
不要なインテグレーションインスタンスの削除			✓	
MuleSoft Automation Services でのインテグレーションの表示			✓	
サードパーティコネクタを使用した外部システムへの接続			✓	
インテリジェントドキュメントリーダー				
より多くの Industries クラウドでのインテリジェントドキュメントリーダーの取得			✓	
インテリジェントドキュメントリーダーの設定動画の視聴			✓	
Connect REST API			✓	
DocumentReader 名前空間				
Data Cloud セグメントのリストビルダー				
Data Cloud セグメントのリストビルダーを使用した見込み客とのエンゲージメントのパーソナライズによる顧客満足度の向上		✓		
Service Process Studio				
より関連性の高いデータによるサービスプロセスの定義		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
取引の紛争テンプレートを使用した迅速な開始		✓		
新しい Connect REST API リソース		✓		
タイムライン				
可視性の向上とパーソナライズされたエンゲージメントの促進のためにエンゲージメントイベントをタイムラインに表示	✓			

Marketing Cloud Account Engagement

Engagement Studio プログラムでは、待機時間を1日以下のより細かい単位で指定できます。API V5 for Flow を使用してサンドボックスから本番ビジネスユニットへアセットをコピーし、古い訪問者の活動レコードを削除することでシステム帯域幅を節約できます。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
全般的な機能強化				
Account Engagement アセットを表示			✓	
可能なドメインの制限				
機能別の見込み客変更履歴グラフ	✓			
訪問者レコードを削除することによる一時停止中の見込み客の復元		✓		
エンゲージメントプログラムをより詳細な待機時間で設計	✓			
無効な送信者に関するメールテンプレートの更新	✓			
未変更の訪問者活動レコードの削除		✓		
API とインテグレーション				
Account Engagement API: 新規および変更された項目		✓		
Twitter コネクタの廃止	✓			

モバイル

Salesforce Mobile App Plus では、ブリーフケースのレコードの検索、ランディングページでより容易にアクセスできるスワイプアクション、ランディングページでのリスト検索条件、より迅速な住所設定がサポートされるようになりました。Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションのデフォルト URL 動作および場所ベースのアクセス許可とプッシュ通知を定義します。ブリーフケースビルダーを使用してカスタムメタデータ型を派遣作業員のオフラインレコード環境に適用します。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce モバイルアプリケーション				
Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能				
ワンクリックインタラクションによるウィジェットナビゲーションの向上	<input checked="" type="checkbox"/>			
CRM Analytics ダッシュボードの自動更新	<input checked="" type="checkbox"/>			
時間と場所に関係なくレポートを共有	<input checked="" type="checkbox"/>			
高度なオフラインランディングページ機能のさらなる活用			<input checked="" type="checkbox"/>	
ブリーフケースのオフラインレコードの検索				
Offline App Onboarding Wizard の正式リリース				
オフライン中でのレコードへの画像の添付				
モバイルの動的フォームの有効化(正式リリース)			<input checked="" type="checkbox"/>	
Mobile Publisher				
Mobile Publisher Android アプリケーションのプッシュ通知の中断の回避		<input checked="" type="checkbox"/>		
Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションから URL を開く方法のデフォルトの設定(パイロット)		<input checked="" type="checkbox"/>		

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Experience Cloud 向け Android アプリケーションの場所ベースのアクセス許可の定義		✓		
Experience Cloud アプリケーションのジオフェンスベースのプッシュ通知の送信		✓		
Experience Cloud アプリケーションのためのデバイスの iOS15 以降への更新		✓		
ブリーフケースビルダー				
カスタムメタデータ型を使用したオフラインレコード環境のカスタマイズ			✓	

収益

既存のビジネスプロセスを中断せずに Subscription Management 見積機能を選択的にロールアウトします。営業担当が一元管理された統合ビューで取引先の納入商品を把握し、注文商品から納入商品への変換を制御できるようになります。Salesforce CPQ では標準見積のみがサポートされるようになり、Lightning Web コンポーネントリッチテキストエディターにより CKEditor が置き替えられました。

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Subscription Management				
既存の見積とサブスクリプション管理の見積の併用			✓	
単体の納入商品とバンドルされた納入商品の両方のデータの視覚化			✓	
注文商品が納入商品に変換されるタイミングの制御			✓	
価格調整階層オブジェクトの階層種別値の変更	✓			
[毎年]から[年]への表示ラベルの変更	✓			

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
パートナー割引を使用したパートナーエンゲージメントの増加	<input checked="" type="checkbox"/>			
回収ユーザーインターフェースのアクセシビリティが向上	<input checked="" type="checkbox"/>			
Salesforce CPQ と Salesforce Billing				
Web 見積の編集と Web ドキュメントの生成機能の廃止	<input checked="" type="checkbox"/>			
LWC リッチテキストエディターを使用した見積規約エディターのセキュリティ脆弱性の最小化	<input checked="" type="checkbox"/>			
Salesforce CPQ+ での OmniStudio 機能の使用	<input checked="" type="checkbox"/>			
デビットノートを使用した一貫した標準およびサードパーティの税金計算処理		<input checked="" type="checkbox"/>		
新しい Connect REST API リソース		<input checked="" type="checkbox"/>		

セールス

新しいインサイトと Winter '24 の高度な生産性機能を使用して、営業チームを強化します。Einstein会話インサイトユーザーは Einstein を使用して 1 回のクリックで通話の概要を作成できるようになりました。パイプラインインスペクションで、適切な人物が商談に関与しているかどうかを確認して、営業担当が商談を成立できるようにサポートします。商談分割、商談商品分割、およびチームの詳細な変更履歴を取得して、正確性を確保し、営業チームメンバーに報酬が正しく支払われるようになります。イネーブルメントでは、迅速に商談を開き、商談を成立して、会社の収益成果を達成できるようにするために必要な商品およびプロセスに関するすべてのナレッジにより、営業チームをすばやく軌道に乗せます。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
セールスの基本				
商談				
実現した IdeaExchange: 分割および商談チームの監査履歴を使用した販売報酬の精度の確保		<input checked="" type="checkbox"/>		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
カスタム項目を使用したユーザーの商談商品分割ビューの最適化			<input checked="" type="checkbox"/>	
取引先責任者		<input checked="" type="checkbox"/>		
注意が必要な取引先責任者の表示および取引先責任者ホームからのアクションの直接実行	<input checked="" type="checkbox"/>			
リード		<input checked="" type="checkbox"/>		
注意が必要なリードを確認してリードホームから直接アクションを実行	<input checked="" type="checkbox"/>			
活動				
To Do リストでの操作の増加	<input checked="" type="checkbox"/>			
Sales Engagement				
Einstein インサイトが発生したときのケイデンス対象の管理	<input checked="" type="checkbox"/>			
Sales Engagement 機能のより簡単な設定	<input checked="" type="checkbox"/>			
Sales Engagement の設定でミーティングのオプションを容易に設定	<input checked="" type="checkbox"/>			
クリックケイデンスおよびメール生産性機能が含まれるエディションの増加			<input checked="" type="checkbox"/>	
バイヤーアシスタント(正式リリース)を使用した販売サイクルの加速			<input checked="" type="checkbox"/>	
同時に作業できるケイデンス対象が増えたことによる時間の節約	<input checked="" type="checkbox"/>			
ケイデンス待機ステップの廃止	<input checked="" type="checkbox"/>			
Einstein 会話インサイト				
Einstein を使用した通話の概要の作成	<input checked="" type="checkbox"/>			
通話の簡単な確認	<input checked="" type="checkbox"/>			

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
より多くの関連レコードに自動的に照合	<input checked="" type="checkbox"/>			
通話アクセスを使用したユーザーとの会話データの共有	<input checked="" type="checkbox"/>			
音声通話とビデオ通話のトランスクリプトの改善	<input checked="" type="checkbox"/>			
Einstein 会話インサイトへのその他の変更	<input checked="" type="checkbox"/>			
Revenue Intelligence				
Sales Engine の健全性の監視	<input checked="" type="checkbox"/>			
Commit Calculator を使用した営業シナリオの探索	<input checked="" type="checkbox"/>			
さまざまな区分での商品の売れ行きの理解	<input checked="" type="checkbox"/>			
Revenue Intelligence への目標データのアップロード	<input checked="" type="checkbox"/>			
更新された Einstein 取引先管理アプリケーションを使用した迅速なデータの検索	<input checked="" type="checkbox"/>			
数式項目の変更履歴の追跡	<input checked="" type="checkbox"/>			
パイプラインインスペクション				
適切な人が関与することで案件を順調に進める	<input checked="" type="checkbox"/>			
刷新されたパイプラインインスペクションページで商談に迅速に対応	<input checked="" type="checkbox"/>			
パイプラインインスペクションでより多くの項目をオンラインで編集	<input checked="" type="checkbox"/>			
コラボレーション売上予測でのパイプラインインスペクションの商談の詳細およびインサイトの取得	<input checked="" type="checkbox"/>			

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce パートナーリレーション管理でのパイプラインインスペクションを使用したパフォーマンスの追跡		✓		
コラボレーション売上予測				
実現した IdeaExchange: マネージャによる判断で売上予測精度の向上			✓	
売上予測の商談に関するより多くのインサイトの取得	✓			
更新された売上予測ページ	✓			
売上予測金額の四捨五入による売上予測の合理化	✓			
営業チームのイネーブルメント				
イネーブルメントの新機能の確認			✓	
パートナーリレーションの管理				
PRM for Slack の統合設定を使用してすばやく立ち上げて実行		✓		
拡張オブジェクトサポートを使用した Salesforce と Slack の統合		✓		
成立させる案件を増やすための主要なセールス総計値、AI インサイト、商談の絞り込み		✓		
販売実績管理				
テリトリー計画				
国別のテリトリリーの計画	✓			
境界のバージョンに関係なく割り当てをインポート	✓			
属性項目を自動的に照合	✓			
テリトリリー名と中心の一括更新	✓			
Salesforce Maps				

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ロケールに合う形式の住所を使用した訪問の計画	✓			
拡張ドメインと Salesforce Maps 製品			✓	
Sales Cloud Einstein				
セールス向け Einstein 生成 AI を使用したセールスメールのパーソナライズ			✓	
Einstein 生成 AI を使用したセールスメールへの商品情報の追加			✓	
関連レコードを使用した Einstein セールスメールの強化			✓	
プロンプトビルダーを使用したセールスメールのパーソナライズ(パイロット)				✓
Einstein を使用して AI が生成した簡単な販売概要を取得(ベータ)			✓	
売上予測のトレンドの迅速な発見	✓			
Einstein 取引先インサイトと商談インサイトの廃止	✓			
CRM Analytics を使用してレポートの隠れたインサイトを発見	✓			
Sales Cloud Everywhere				
コンテキストインサイトを使用した関心のある会社のフォローアップ			✓	
ワークスペースでの独自の方法でのデータの表示	✓			
ワークスペースで多数のレコードのデータを更新	✓			
Sales Cloud Everywhere のログイン状態の維持	✓			
Sales Cloud Everywhere の埋め込みサイドパネルで生産性を維持			✓	

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Sales Cloud Everywhere の改善されたインターフェースで効率的に作業			<input checked="" type="checkbox"/>	
Salesforce Everywhere のより簡単な設定			<input checked="" type="checkbox"/>	
他の商品との統合				
Salesforce for Outlook				
2024年6月に廃止される Salesforce for Outlook			<input checked="" type="checkbox"/>	
Lightning Sync for Google				
Einstein 活動キャプチャ			<input checked="" type="checkbox"/>	
実現した IdeaExchange: 標準レポートでの Einstein によってキャプチャされた活動の表示			<input checked="" type="checkbox"/>	
通知を使用した接続の問題の迅速な解決			<input checked="" type="checkbox"/>	
実現した IdeaExchange: Google から Salesforce への定期的な行動の同期			<input checked="" type="checkbox"/>	
ユーザーのオンボーディング状況と接続評価指標を 1か所で確認			<input checked="" type="checkbox"/>	
[カレンダー] タブから統合カレンダーを非表示			<input checked="" type="checkbox"/>	
Salesforce Meetings				
Meeting Studio の廃止				
メール操作環境				
メール生産性機能が含まれるエディションの増加			<input checked="" type="checkbox"/>	
受信メールまたは送信メールのログの取得			<input checked="" type="checkbox"/>	
メールイベントに基づいたメールログの取得			<input checked="" type="checkbox"/>	
メール送信に関して取得できる詳細の増加			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
提案ミーティング時間の時間枠の新しいデザイン	<input checked="" type="checkbox"/>			
		Salesforce Inbox		
Salesforce Inbox モバイル	<input checked="" type="checkbox"/>			
Inbox モバイルの廃止				
		Open CTI		
Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止と Open CTI に与える潜在的な影響に向けた準備		<input checked="" type="checkbox"/>		
			Sales Cloud のその他の変更	
注文の新規保存方式の有効化(リリース更新)			<input checked="" type="checkbox"/>	
ソーシャル取引先、取引先責任者、リードの廃止			<input checked="" type="checkbox"/>	

Salesforce CMS

新しい[エクスポート & インポート状況]タブで、CMSコンテンツと翻訳のエクスポートおよびインポートの詳細を見つけます。CMS ワークスペースから拡張サイトおよび公開チャネルにコンテンツを公開します。拡張 CMS ワークスペースでは、連動関係のあるコンテンツをユーザーが非公開にできないようになっています。ワークフローはコンテンツタイプで割り当てられ、コンテンツの公開または非公開は自動的に行われます。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しい状況タブでのエクスポートおよびインポートコンテンツと翻訳の詳細の確認	<input checked="" type="checkbox"/>			
CMS ワークスペースから拡張 LWR サイトへのコンテンツの公開	<input checked="" type="checkbox"/>			
拡張 CMS ワークスペースで連動関係のあるコンテンツをユーザーが非公開にすることを防止	<input checked="" type="checkbox"/>			

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コンテンツタイプによるワークフローの割り当てとコンテンツの自動公開または非公開		✓		
CMSコンテンツ詳細の概要でのファイルの種類とサイズの表示	✓			
制限付き CMS チャネルの権限セットの変更	✓			
コンテンツ詳細ページから拡張 CMS コンテンツフォルダーへの移動	✓			
検索の推奨結果による拡張 CMS コンテンツのシームレスな検索		✓		
CMS ワークスペースの迅速な作成		✓		

Salesforce フロー

FlowBuilder、OmniStudio、フローオーケストレーションを使用してインテリジェントなワークフローを作成します。フローインテグレーションを使用してあらゆるシステムを統合します。

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
フローインテグレーション			✓	
Flow Builder				
Flow Builder の更新				
反応型コンポーネントを使用した画面フローの作成(正式リリース)		✓		
実現した IdeaExchange: レコードトリガーフローでのカスタムエラーメッセージの作成		✓		
HTTP コールアウトを介してコードなしで Salesforce データを外部サーバーに送信(正式リリース)		✓		
フローのデータの変換(ベータ)		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Data Cloud でのデータ変更に基づく自動起動フローの作成		✓		
構築中のフローの進行状況の保存		✓		
状態変更後の画面フローコンポーネントでの値の保持	✓			
画面間で値を更新できるコンポーネントの増加		✓		
Flow Builder で取得しやすくなった Data Cloud レコード		✓		
[レコードを作成]要素で見つけやすくなったフローリソース		✓		
待機要素を使用できるフロー種別の増加		✓		
[Advanced Pause (高度な一時停止)]から[条件の待機]への要素の名前変更		✓		
フロートリガーエクスプローラー				
検索条件を使用したレコードトリガーフローの迅速な検索		✓		
フローランタイム				
API バージョン 59.0 でのフローおよびプロセス実行時の変更		✓		
フロー管理				
待機中の時間ベースのアクションを含むワークフロールールのフローへの移行		✓		
数式にカスタムメタデータを含むプロセスビルダープロセスのフローへの移行		✓		
フローの制限の緩和によってフローに移行できるワークフロールールが増加		✓		
オートメーションホームで使用できなくなったグラフ		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
フロー拡張				
フローおよびプロセスのリリース更新				
ゲストユーザーによる承認申請の編集または削除の防止(リリース更新)			<input checked="" type="checkbox"/>	
プロセスビルダーで元のレコードに基づく条件を評価(リリース更新)			<input checked="" type="checkbox"/>	
フローでのセッション IDへのアクセスを無効化(リリース更新)			<input checked="" type="checkbox"/>	
組織のプロファイル設定を優先するためにEmailSimple呼び出し可能なアクションを有効化(リリース更新)			<input checked="" type="checkbox"/>	
REST API で Apex アクションの例外が発生した場合のロールバックの適用(リリース更新)			<input checked="" type="checkbox"/>	
同じコンテキストでの一時停止中のフローインタビューの再開(リリース更新)			<input checked="" type="checkbox"/>	
フローを実行するためのユーザーアクセスの制限(リリース更新)			<input checked="" type="checkbox"/>	
フローオーケストレーション				
要件を使用したオーケストレーションフェーズおよびステップの実行制御			<input checked="" type="checkbox"/>	
フローオーケストレーションオブジェクトの拡張			<input checked="" type="checkbox"/>	
フローオーケストレーションへのその他の変更			<input checked="" type="checkbox"/>	
OmniStudio と OmniStudio for Velocity				
OmniStudio			<input checked="" type="checkbox"/>	
OmniStudio のマイナーリリース更新			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforceに連絡して有効化
OmniStudio for Vlocity		✓		

セキュリティ、ID、プライバシー

拡張ドメインが適用されます。ユーザーが新しいURLに移動して、一部のリダイレクトの終了に備えられるようになります。多要素認証の自動有効化は、組織の第3フェーズで有効になります。ローカルまたは2GPのパッケージ化可能な外部クライアントアプリケーションを開発できます。パスワードレスログイン、ゲストユーザーのID、ヘッドレス登録の改善により、ヘッドレスID実装を拡張できます。評価指標が追加され、ログインIP範囲とテナントライセンスの利用状況の詳細を監視できます。テナントが実行されているインスタンストを参照できます。新しいプライバシーセンターアプリケーションについて理解できます。OAuth2.0クライアントログイン情報またはJWT認証プロトコルを使用してサーバー間インテグレーションの外部ログイン情報を設定できます。ユーザーが指定ログイン情報や外部ログイン情報を変更できるように、新しい「Manage Named Credentials(指定ログイン情報を管理)」権限を割り当てることができます。また、新しいグループメンバーシップイベントとアクセス権がありませんイベント種別を使用してグループメンバーシップの変更と「アクセス権がありません」試行を管理できます。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforceに連絡して有効化
Salesforceバックアップ				
バックアップと復元から Salesforce			✓	
バックアップへの名前変更				
バックアップと復元ができるデータの増加			✓	
バックアップからのデータのエクスポート			✓	
ドメイン				
拡張ドメインのリリース(リリース更新)			✓	
[私のドメイン]のリダイレクト中のユーザーへの通知		✓		
[私のドメイン]の一部のリダイレクトの終了への準備		✓		
[私のドメイン]のリダイレクトの管理		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
より多くの組織でのパーティション分割されたドメインの使用		✓		
設定時のカスタムドメイン設定の確認		✓		
推奨のカスタムドメイン設定オプションの決定		✓		
その他のドメインの変更		✓		
ID とアクセス管理				
MFA の自動有効化の続行: お客様の組織に適用されるタイミングと方法の確認(リリース更新)		✓		
WebAuthn 認証をサポートするための U2F セキュリティキーの更新	✓			
無料 Salesforce 組織での SMS による ID 検証が使用不可に		✓		
Salesforce からメールを送信するためのメールアドレスの検証		✓		
外部クライアントアプリケーションの作成と配信		✓		
Identity Connect 3.0.1.2 セキュリティパッチの削除		✓		
ヘッドレスアプリケーションのログイン環境の合理化		✓		
ゲストユーザー ID を使用したユーザー好みの理解		✓		
ヘッドレス登録ハンドラーテンプレートを使用した設定の簡素化		✓		
reCAPTCHA Enterprise を使用したヘッドレス ID 実装の保護		✓		
ヘッドレス登録用のメールテンプレートのカスタマイズ		✓		
JSON Web トークン(JWT)ベースのアクセストークンの正式リリース				

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コード交換の証明鍵 (PKCE) 拡張による認証セキュリティの向上			<input checked="" type="checkbox"/>	
ヘッダレス ID と OAuth 設定の改善されたガイダンス			<input checked="" type="checkbox"/>	
セッションタイムアウトのポップアップの更新	<input checked="" type="checkbox"/>			
クライアントログイン情報フローの更新されたフロート表示テキスト表示ラベルが日本語で使用可能に				
API ログイン要求に対する相互認証の適用		<input checked="" type="checkbox"/>		
指定ログイン情報				
クライアントログイン情報フローによる指定ログイン情報コールアウトの認証	<input checked="" type="checkbox"/>			
指定ログイン情報に JWT 認証プロトコルを使用		<input checked="" type="checkbox"/>		
指定ログイン情報と外部ログイン情報を管理するためのアクセス権の付与			<input checked="" type="checkbox"/>	
指定ログイン情報を使用したコードアウト実行のためのゲストユーザーアクセス権の付与			<input checked="" type="checkbox"/>	
認証プロトコルを使用しない公開情報へのアクセス	<input checked="" type="checkbox"/>			
セキュリティ状態チェック				
Experience Cloud サイトのセキュリティの評価		<input checked="" type="checkbox"/>		
プライバシーセンター				
コアでのプライバシーポリシー		<input checked="" type="checkbox"/>		
プライバシーセンターアプリケーション		<input checked="" type="checkbox"/>		

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
機密データのプライバシー保持		✓		
機密データの暗号化			✓	
Salesforce Shield				
イベントモニタリング				
公開グループおよびキューのメンバーシップの変更に関する情報の取得				✓
実現した IdeaExchange: 「アクセス権がありません」エラーに関する情報の取得				✓
より具体的な列ヘッダーログデータの確認		✓		
ユーザー ID を使用した Event Monitoring Analytics アプリケーションデータセットの発見			✓	
Event Monitoring Analytics アプリケーションでの効率的なデータセットの更新(正式リリース)			✓	
Event Monitoring Analytics アプリケーションでのナレッジ記事イベントデータの表示			✓	
カスタム Lightning コンポーネントのイベントの監視				✓
Shield Platform Encryption				
外部鍵管理によるサードパーティの鍵ストアへの接続			✓	
同意データの暗号化			✓	
ヘルスケア提供者データの暗号化			✓	
改良された UI による鍵管理の簡易化			✓	
フローオーケストレーション作業項目の暗号化入力			✓	

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
セキュリティセンター				
セキュリティセンターのテナント名のカスタマイズ		✓		
セキュリティセンターでのテナントのインスタンス名の表示		✓		
テナントのライセンス利用状況に関するインサイトの取得		✓		
ログイン IP 範囲の監視		✓		
その他の変更				
信頼済みの組織間リダイレクトのみを許可(リリース更新)			✓	
ユーザーのカメラとマイクへのアクセス権の保護		✓		
より多くのユーザーをクリックジャックから保護		✓		
世界中の非公開接続を使用したクロスクラウド連携の保護	✓			
最新の CA 署名証明書ページの活用			✓	

サービス

カスタマーサービスエージェントが、複数のカスタマーサービスチャネルにわたって、迅速かつ生産的に業務を実施できる新機能についてご確認ください。

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein for Service				
Einstein 記事レコメンデーション				
ナレッジ記事に基づいて AI がドラフトを作成したメール応答の取得(パイロット)			✓	
Einstein ボット				

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
記事の回答 AI による FAQ への回答 (正式リリース)		✓		
言語間インテントモデルを使用したボットでの新しい言語のより容易なトレーニング(正式リリース)		✓		
数クリックでの拡張ボットへの会話の転送			✓	
拡張ボット監査によるボットの起動準備			✓	
拡張ボットでの静的オプションが含まれる質問			✓	
動的入力を使用した拡張リンクのカスタマイズ			✓	
独自のカスタムボットテンプレートの作成と共有(正式リリース)		✓		
ボットブロックを使用した迅速なボットの構築(正式リリース)		✓		
カスタムテンプレートとブロックへの権限セットの追加			✓	
カスタムテンプレートとブロックの複数言語のサポートでより多くの顧客にリーチ			✓	
新しいテンプレートやブロックでの Einstein ボットポートフォリオの拡張			✓	
ボットビルダーとボットの会話での右から左へ記述される言語の使用		✓		
Winter'24 フォルダーの標準ボットポートの表示		✓		
AnalyticsBotSession オブジェクトの削除		✓		
ボットユーザーコンテキストでフローの実行(リリース更新)			✓	

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
拡張ボットの新しいメッセージングコンポーネントを使用したエージェントの時間の節約(ベータ)	<input checked="" type="checkbox"/>			
Einstein 分類				
生成 AI 搭載の Einstein 作業概要を使用したケースの迅速なクローズ(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
会話中の概要を使用してエージェントやスーパーバイザーが最新状況を把握		<input checked="" type="checkbox"/>		
Einstein 会話マイニング				
Einstein 会話マイニングを使用したサービスインサイトの取得およびボットインテントの作成(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
会話マイニングレポートの作成時にメールの会話を含める(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
Einstein 返信レコメンデーション				
Einstein サービス返信を使用したエージェントの生産性と応答品質の最適化(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
グラウンディング済み Einstein サービス返信によるエージェントの時間の節約と精度の向上(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
メールのサービス返信を使用した顧客ケースの迅速な解決(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
Einstein for Service グラウンディング				
会社のデータでの Einstein for Service のグラウンディング(正式リリース)		<input checked="" type="checkbox"/>		
Service Intelligence				
サービスインテリジェンスによるコストの削減と業務の改善				

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ケースダッシュボードによるサービス業務の監視			✓	
オムニチャネルダッシュボードでのエージェントのパフォーマンスの向上			✓	
Einstein Conversation Mining Dashboardsでの上位の顧客要求の確認			✓	
エージェントが My Performance ダッシュボードで自分の取り扱い件数を見られるようにする			✓	
Data Cloudへのサービスアセットの追加適用				
フィードバック管理				
アンケートへの招待項目データを使用したレコードとしてのフィードバックの取得	✓			
カスタム通知の受信によるアンケートへの回答の把握	✓			
新しいアイコンによる評価アンケートの強化	✓			
より詳細なアンケートへの招待メールによるエンゲージメントの増加	✓			
Salesforce フィードバック管理プレリーストライアル組織の作成	✓			
サービスカタログ				
簡単なカタログ設定			✓	
中央ハブでの簡単なカタログの表示と管理			✓	
カタログの管理方法についての確認			✓	
カタログ履行の使用方法の確認			✓	
パートナーと顧客へのサービスカタログの公開			✓	

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
主要カタログ項目への顧客からのクイックアクセスのサポート(ベータ)			<input checked="" type="checkbox"/>	
顧客へのカタログ商品の詳細の表示			<input checked="" type="checkbox"/>	
サービスカタログサイトへのデータカテゴリの追加			<input checked="" type="checkbox"/>	
項目検索を使用した顧客のサービスカタログ環境の強化			<input checked="" type="checkbox"/>	
カスタマーサービスインシデント管理				
商品に基づくインシデントの更新の共有			<input checked="" type="checkbox"/>	
ブロードキャスト Slack メッセージデータを最新の状態に保つ	<input checked="" type="checkbox"/>			
改善されたインシデント管理エクスペリエンスの取得	<input checked="" type="checkbox"/>			
スウォーミング				
Service Cloud for Slack アプリケーションの機能の確認			<input checked="" type="checkbox"/>	
チャネル				
メール				
メール-to-ケースのメールコンポーネター向けの Lightning エディターへの移行(ベータ)(リリース更新)		<input checked="" type="checkbox"/>		
サービスメールでの拡張クイックテキストの使用		<input checked="" type="checkbox"/>		
メール-to-ケースの参照 ID 形式の変更			<input checked="" type="checkbox"/>	
メールアラートのメッセージ ID の形式の変更		<input checked="" type="checkbox"/>		
1つのメール添付ファイルへの複数のリンクが非表示に		<input checked="" type="checkbox"/>		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
メッセージング				
拡張 Apple Messages for Business の概要 (正式リリース)			<input checked="" type="checkbox"/>	
[会話メッセージを送信] アクションを使用した自動通知の送信			<input checked="" type="checkbox"/>	
拡張メッセージングチャネルとアプリ内のメッセージングでの会話の開始			<input checked="" type="checkbox"/>	
標準チャネルまたは外部プロバイダーから拡張 WhatsAppへのアップグレード		<input checked="" type="checkbox"/>		
アプリ内および Web のメッセージングでの多言語キーワードと応答の設定			<input checked="" type="checkbox"/>	
拡張 WhatsApp チャネルの有効化手順の追加	<input checked="" type="checkbox"/>			
より容易な方法でのメッセージングコンポーネントの送信	<input checked="" type="checkbox"/>			
より迅速なメッセージングセッションの転送	<input checked="" type="checkbox"/>			
大きなクリックテキストの操作	<input checked="" type="checkbox"/>			
エージェントコンソールの拡張会話コンポーネントのカスタマイズ		<input checked="" type="checkbox"/>		
エンドユーザーが添付ファイルを送信することを防止		<input checked="" type="checkbox"/>		
右から左へ記述される言語での顧客とのメッセージのやりとり			<input checked="" type="checkbox"/>	
メッセージングセッションでの安全なフォームの送信			<input checked="" type="checkbox"/>	
事前チャットでの使用条件の表示による顧客との信頼関係の構築			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Web コンポーネントを使用した事前チャットフォームのカスタマイズ			<input checked="" type="checkbox"/>	
アプリ内のメッセージングのリリースのコピー				
API を使用した Web チャットクライアントの起動				
メッセージングのその他の改善点				
Voice				
Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止への準備		<input checked="" type="checkbox"/>		
Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice の合理化されたサポートの利用		<input checked="" type="checkbox"/>		
会話センチメント分析によるカスタマーサービスとエージェントトレーニングの改善	<input checked="" type="checkbox"/>			
Salesforce での Amazon Connect 音声通話の聞き取り			<input checked="" type="checkbox"/>	
ディザスタークリアリーアーにより Amazon コンタクトセンターを 24 時間 365 日稼動させる			<input checked="" type="checkbox"/>	
より多くの総計値で音声チャネルのパフォーマンスの確認(正式リリース)			<input checked="" type="checkbox"/>	
セルフサービスチェックを使用した設定の問題の迅速な解決(正式リリース)	<input checked="" type="checkbox"/>			
さまざまなビジネスプロセスをサポートする音声通話のレコードタイプの有効化			<input checked="" type="checkbox"/>	
音声通話の切断理由の追跡			<input checked="" type="checkbox"/>	
スキルルーティングによる適任エージェントへの電話転送(パイロット)			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
XMLインポートから作成された既存の Salesforce コンタクトセンターの移行		✓		
パートナーシステムからのインテリジェンスシグナルに基づいたアクションの自動化			✓	
[Voiceの状況]のさらなるユーティリティ機能を活用してエージェントを迅速にオンラインにする			✓	
仮想デスクトップでのエージェントのログイン環境の向上	✓			
新規 Salesforce 組織で、音声通話用に[エージェント業務量を考慮]をデフォルトでオンにする(ベータ版)			✓	
エージェントのプレゼンス状況の同期がデフォルトで有効	✓			
オムニチャネルユーティリティでの洗練された通話インターフェースの活用	✓			
Amazon Connect を使用した Service Cloud Voiceへのより多くの AWS サービスの追加				✓
通話転送前のすべてのキューの予想待機時間のプレビュー	✓			
オムニスーパーバイザーからの Amazon リアルタイム総計値ダッシュボードの設定	✓			
Open CTI				
Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止と Open CTI に与える潜在的な影響に向けた準備		✓		
ソーシャルメディア				
ソーシャルカスタマーサービス Starter Pack の廃止		✓		

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
チャット				
事前チャットでの使用条件の表示による顧客との信頼関係の構築			<input checked="" type="checkbox"/>	
その他の改善点			<input checked="" type="checkbox"/>	
アプリ内および Web のメッセージングの採用を奨励するポップアップウィンドウとバナーの追加			<input checked="" type="checkbox"/>	
チャネルツール				
個人-オブジェクトリンク (正式リリース)			<input checked="" type="checkbox"/>	
会話トランスクリプトの複数回のエクスポートと有効な Salesforce 組織からのエクスポート				
ナレッジ				
ナレッジの Lightning 記事エディターと記事のパーソナライズを有効化			<input checked="" type="checkbox"/>	
アコードィオンを使用した長いナレッジ記事の読みやすさの向上			<input checked="" type="checkbox"/>	
ルーティング				
拡張オムニチャネルへのアップグレード			<input checked="" type="checkbox"/>	
オムニチャネルの拡張エージェント環境による作業効率の向上			<input checked="" type="checkbox"/>	
拡張オムニスーパーバイザー環境を使用したエージェントの作業の容易なフォロー (正式リリース)			<input checked="" type="checkbox"/>	
中断可能な業務量を使用したマルチチャネルエージェントの効率の向上			<input checked="" type="checkbox"/>	
イベントモニタリングによるキューのメンバー変更の監査			<input checked="" type="checkbox"/>	

機能	ユーザーに対する有効化	開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
実現した IdeaExchange: レポートによりキューメンバーの参照		✓		
セルフサービス				
拡張 LWR サイトでのナレッジ記事の表示				
データカテゴリを使用したヘルプサイトの構造化(ベータ)		✓		

サポートされるブラウザー

サポートされるブラウザーのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce用にサポートされるブラウザーは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

このセクションの内容:

[Lightning Experience でサポートされるブラウザーおよびデバイス](#)

Lightning Experience でサポートされるブラウザーおよびデバイスを確認してください。

[Salesforce Classic でサポートされるブラウザーおよびデバイス](#)

Salesforce Classic でサポートされるブラウザーおよびデバイスを確認してください。モバイルブラウザーでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce モバイルアプリケーションを使用することをお勧めします。

[CRM Analytics でサポートされるブラウザー](#)

CRM Analytics でサポートされるブラウザーには、Lightning Experience でサポートされるブラウザーが含まれます。

Lightning Experience でサポートされるブラウザーおよびデバイス

Lightning Experience でサポートされるブラウザーおよびデバイスを確認してください。

Lightning Experience を使用可能なエディション Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition。モバイルデバイスで Lightning Experience にアクセスするときは、Salesforce モバイルアプリケーションを使用することをお勧めします。iPad Safari でも Lightning Experience にアクセスできます。詳細は、[「iPad Safari の Lightning Experience の考慮事項」](#) を参照してください。

Lightning Experience で作業するときは、次のブラウザー制限に留意してください。

- Salesforce では、Lightning Experience のコンテンツを表示する WebView や同様のコントロールを組み込む非ブラウザーアプリケーションはサポートされていません。このコントロール種別を埋め込むアプローチの例として、Salesforce Mobile SDK、Microsoft の WebBrowser コントロール、Electron の埋め込み Chromium ブラウザー、iOS の UIWebView および WKWebView、Android の WebView などが挙げられます。

- Lightning Experience では、シークレットモードや他のプライベートブラウズモードはサポートされていません。

デスクトップおよびラップトップブラウザー

Salesforce では、次のブラウザーをサポートします。ブラウザーが最新になっていることを確認してください。他のブラウザー、またはサポートされるブラウザーの古いバージョンでは、すべての機能のサポートは保証されません。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Lightning Experience	未サポート	未サポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート。 Microsoft Edge Chromium の Internet Explorer モードはサポートされません。	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート
エクスペリエンスビルダーサイト	未サポート	未サポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート。 Microsoft Edge Chromium の Internet Explorer モードはサポートされません。	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート
設定に関する特別な考慮事項?	未サポート	未サポート	なし	なし	なし	なし
制限事項?	あり	あり	あり	なし	あり	あり

 **メモ:** ブラウザベンダーが「最新」を定義しています。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

タブレットブラウザー

iPadOS (iOS 13.x) 以降で Apple Safari を使用してください。iPad Safari の Lightning Experience では、縦方向と方向の切り替えはサポートされていません。Safari ブラウザーの幅全体が表示されるように、横方向を使用します。方向が切り替わらないようにするには、iPad の回転ロックを有効にします。

Android ベースのタブレットの Salesforce モバイルアプリケーションのみがサポートされています。

	Apple® Safari®	Google Chrome™	他のブラウザー	Salesforce モバイル アプリケーション
iPadOS	サポート	未サポート	未サポート	サポート
Android	なし	未サポート	未サポート	サポート

Salesforce では、Microsoft Surface や Microsoft Surface Pro デバイスなどのタッチ対応ラップトップは、タブレットではなくラップトップとして扱います。Salesforce モバイルアプリケーションには、次のデバイスでアクセスできます。ユーザーは、有効になっているフルサイト環境 (Lightning Experience または Salesforce Classic) にリダイレクトされます。これらの種類のデバイスでは、標準のキーボードとマウスによる入力のみがサポートされています。

スマートフォン

最適な操作性を得るには、Salesforce モバイルアプリケーションを使用してください。

サードパーティのブラウザー拡張機能および JavaScript ライブラリ

サードパーティのブラウザー拡張機能または JavaScript ライブラリを使用する前に、[AppExchange](#) でブラウザー拡張機能と Salesforce パートナーのアプリケーションを確認するか、[コンポーネントの参照](#)で各自の要件に応じた基本コンポーネントを確認することをお勧めします。

サードパーティのブラウザー拡張機能の中には Salesforce エクスペリエンスをパーソナライズおよび強化できるものがありますが、DOM を操作するブラウザー拡張機能の使用はお勧めしません。サードパーティのブラウザー拡張機能は各自の責任でご使用ください。Salesforce は、拡張機能による Salesforce データへのアクセスを防ぐことも、データへのアクセスの試みを検出することもできません。次の点にも注意してください。

- DOM の要素を挿入または削除するブラウザー拡張機能は、Lightning Experience の安定性を妨げ、予期しない動作を引き起こすことがあります。
- Salesforce のセキュリティ 標準に準拠していないブラウザー拡張機能は、Lightning Experience で適切に動作しない可能性があります。
- Lightning Experience の内部 DOM 構造は今後のリリースで変更される可能性があり、サードパーティのブラウザー拡張機能との互換性は保証されません。

カスタム Lightning コンポーネントでサードパーティの JavaScript ライブラリを使用する場合は、最初に静的リソースとしてアップロードします。JavaScript ライブラリは、次の方法でコンポーネントに読み込んで使用します。

- Lightning Web コンポーネント:[lightning/platformResourceLoader](#) を使用して、サードパーティの JavaScript ライブラリを読み込みます。
- Aura コンポーネント:[ltng/require](#) を使用して、サードパーティの JavaScript ライブラリを読み込みます。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザーおよびデバイス

Salesforce Classic でサポートされるブラウザーおよびデバイスを確認してください。モバイルブラウザーでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce モバイルアプリケーションを使用することをお勧めします。

対象

Salesforce Classic はすべてのエディションで使用可能です。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Salesforce Classic	2022 年 12 月 31 日で IE 11 のサポート終了	未サポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート。 Microsoft Edge Chromium の Internet Explorer モードはサポートされません。	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート
Salesforce Classic コンソール	2022 年 12 月 31 日で IE 11 のサポート終了	未サポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート。 Microsoft Edge Chromium の Internet Explorer モードはサポートされません。	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート	最新の安定ブラウザーバージョンをサポート	未サポート
設定に関する特別な考慮事項?	あり	未サポート	なし	なし	あり	なし
制限事項?	あり	あり	あり	なし	なし	あり

 **メモ:** ブラウザーベンダーが「最新」を定義しています。該当する最新バージョンについては、ブラウザーベンダーに確認してください。

CRM Analytics でサポートされるブラウザー

CRM Analytics でサポートされるブラウザーには、Lightning Experience でサポートされるブラウザーが含まれます。

Salesforce 全体

Salesforce エクスペリエンス全体に影響する新機能と機能強化について説明します。

このセクションの内容:

全般的な機能強化

Winter '24 を使用すれば、Lightning Experience をさらに気に入ってくれるでしょう。

[Salesforce Scheduler](#)

対面の予定のためにビジネスロケーションを訪問する顧客を管理します。潜在的な顧客に予定招待を送信するには、アクション可能リストを使用します。割り当てられたリソースが対応不可である場合は、スケジュール済みの予定に別のサービスリソースを割り当てます。Salesforce Scheduler のシフトに加えられたさまざま機能強化の詳細を確認してください。Internet Calendar Scheduling (ICS) ファイルと共に、ユーザーにメール通知を送信します。

[Einstein Search](#)

検索結果の取得方法が改善されます。検索マネージャーで、検索可能な標準オブジェクトとカスタムオブジェクトを設定し、検索ストレージに関するインサイトを取得します。また、Einstein Search Answers を使用してナレッジ記事から特定の回答を取得することもできます。

[Salesforce データパイプライン](#)

データセットの代わりにステージングされたデータを使用して、処理時間を短縮します。Google アナリティクス 4 コネクタで Google の新しいイベントベースの GA4 プロパティフレームワークを利用します。Salesforce Bulk API 2.0 を使用して、より大きなデータオブジェクトを読み込みます。

全般的な機能強化

Winter '24 を使用すれば、Lightning Experience をさらに気に入ってくれるでしょう。

このセクションの内容:

[新しい設定ドメインの準備](#)

今後のリリースでは、新しいドメインで設定ページがホストされる予定です。この変更に備えるため、*.salesforce-setup.com を許可リストに追加してください。

MFA の自動有効化の続行と Summer '24 で開始される MFA の適用

2022年2月1日以降、ユーザーはユーザー名とパスワードを使用して直接ログインする場合でもシングルサインオン(SSO)を介してログインする場合でも、Salesforce組織へのアクセスに多要素認証(MFA)を使用することが契約で義務付けられます。お客様がこの要件を満たすことができるように、本番組織への直接ログインに対するMFAが複数のフェーズに分けて自動的に有効化されます。このプロセスはSpring '23で開始されており、Spring '24で完了します。MFAが直接ログインプロセスの完全に組み込まれるタイミングでの適用は、Summer '24で開始される予定です。このマイルストーンの時点でユーザーに混乱が生じないように、MFAができるだけ早く有効化してください。

UI要素の色のコントラストの改善

テキスト以外のUI要素(ボタンやチェックボックスなど)や、一部のテキストUI要素(リンクなど)を表示するときの色のコントラストがアクセシビリティ基準に合わせて改善されました。Summer '23から色のコントラストの改善が開始されています。Winter '24では、この変更はLightning ExperienceのすべてのページとカスタムLightningコンポーネントのLightning基本コンポーネントに適用されます。

Salesforceファイルへの公開リンクのパスワードまたは有効期限の設定

Lightning Experienceで、ファイルを共有する公開リンクを作成するときに、リンクの有効期限の期日を設定できます。また、パスワードを使用してファイルへのアクセスを保護することもできます。リンクの有効期限は、デフォルトで有効になっていて、30日に設定されています。パスワードのデフォルト設定を使用して、パスワードによる保護をデフォルトで有効または無効にすることができます。パスワード保護が有効になっている場合、自動生成されたパスワードがダイアログに表示されます。フォルダーへの公開リンクには、パスワード保護やリンクの有効期限はありません。

ニュース、自動化された取引先項目、取引先ロゴの廃止

ニュース、自動化された取引先項目、および自動化された取引先ロゴの機能はWinter '24で2023年10月13日にすべてのSalesforce組織で廃止されます。これらの取引先機能が廃止されると、ユーザーに取引先名の候補が表示されなくなります。また、項目が自動的に入力されたり、会社のロゴが自動的に追加されたりしなくなります。ニュースコンポーネントがページレイアウトから削除されます。

キーボードショートカットの無効化

デフォルトでは、作業を迅速に行うことができるよう、キーボードショートカットが有効になっています。ただし、これらのキーボードショートカットがスクリーンリーダーなどの支援ツールに干渉する場合があります。すべてのLightning Experienceアプリケーションでキーボードショートカットを無効にできるようになりました。

パフォーマンスが改善されたレコードホームページの増加

Winter '24では、さらに多くのオブジェクトがLightning Webコンポーネント(LWC)対応になっています。LWC対応オブジェクトでは、レコードホームページを作成、表示、または編集するときのパフォーマンスやサービス可用性が改善され、アクセシビリティのサポートが強化されます。

参照からの作成の変更

参照項目からレコードを作成するときに表示される[Record Create(レコードを作成)]モーダルに対する複数の変更を監視します。

レコードページへのその他の変更

レコードページの機能強化について説明します。

新しい設定ドメインの準備

今後のリリースでは、新しいドメインで設定ページがホストされる予定です。この変更に備えるため、*.salesforce-setup.com を許可リストに追加してください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 必要なドメインを許可\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

MFA の自動有効化の続行と Summer '24 で開始される MFA の適用

2022年2月1日以降、ユーザーはユーザー名とパスワードを使用して直接ログインする場合でもシングルサインオン(SSO)を介してログインする場合でも、Salesforce組織へのアクセスに多要素認証(MFA)を使用することが契約で義務付けられます。お客様がこの要件を満たすことができるよう、本番組織への直接ログインに対するMFAが複数のフェーズに分けて自動的に有効化されます。このプロセスはSpring '23で開始されており、Spring '24で完了します。MFAが直接ログインプロセスの完全に組み込まれるタイミングでの適用は、Summer '24で開始される予定です。このマイルストーンの時点でユーザーに混乱が生じないように、MFAができるだけ早く有効化してください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべての Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: Salesforce では、MFA の自動有効化リリース更新を介して複数のリリースで段階的に MFA を自動適用します。Salesforce組織が影響を受ける時期を把握するには、[「MFA の自動有効化の続行: お客様の組織に適用されるタイミングと方法の確認\(リリース更新\)」](#) を参照してください。MFA の適用は Summer '24 で開始されます。このようなイベントのスケジュールを監視するには、[「多要素認証\(MFA\)適用ロードマップ」](#) を参照してください。

方法: サイバー攻撃に対する保護を早めに強化するために、SalesforceによってMFAが適用される前に自分でMFAを実装してロールアウトします。ロールアウトスケジュールを統制することで、会社の他のイニシアチブとの競合やユーザーに対する予期しない中断を回避できます。

MFA をロールアウトする手順:

- MFAを有効にする手順については、[「Launch Multi-Factor Authentication\(多要素認証の開始\)」](#) 動画をご覧ください。
- [MFA ロールアウトパック](#)をダウンロードして、カスタマイズ可能な変更管理テンプレートを取得してください。

 **メモ:** SalesforceへのアクセスにSSOを使用している場合、SSO ID プロバイダーに対するMFAは有効化も適用もされません。ただし、SSOを介してSalesforceにアクセスするすべてのユーザーに対してMFAを実装す

ることは契約で義務付けられています。この要件を満たすには、SSOプロバイダーのMFAサービスを使用することができます。

関連トピック:

[ナレッジ記事: MFA の自動有効化および適用について知っておくべきすべての情報](#)

[Salesforce ヘルプ: 直接ユーザーログインの MFA の有効化\(リリースプレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[ナレッジ記事: Salesforce 多要素認証に関する FAQ](#)

[外部リンク: MFA for Salesforce \(Salesforce の MFA\) カスタマーサイト](#)

UI 要素の色のコントラストの改善

テキスト以外の UI 要素(ボタンやチェックボックスなど)や、一部のテキスト UI 要素(リンクなど)を表示するときの色のコントラストがアクセシビリティ基準に合わせて改善されました。Summer '23 から色のコントラストの改善が開始されています。Winter '24 では、この変更は Lightning Experience のすべてのページとカスタム Lightning コンポーネントの Lightning 基本コンポーネントに適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience のすべてのページに適用されます。Lightning 基本コンポーネントへの変更は Lightning Experience に適用され、カスタムコンポーネントで Lightning 基本コンポーネントを使用する場合にも適用されます。

理由: Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) は、[World Wide Web Consortium \(W3C\) の Web Accessibility Initiative \(WAI\)](#) によって公開されている一連の Web アクセシビリティガイドラインです。ガイドラインには、[テキスト以外のコントラスト](#)の条件が含まれます。適切な色のコントラストとは、すべてのユーザーがデバイスや照明条件に関係なくコンテンツを簡単に確認できることを意味します。

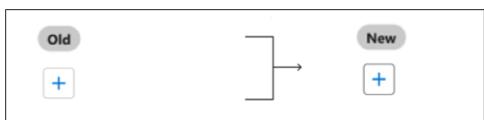
次の画像は、Summer '23 と Winter '24 の標準オブジェクトおよびドキュメント種別アイコンの違いを示しています。Winter '24 のアイコンでは、さまざまなオブジェクトを区別しやすくするために、より広範囲の色が使用されています。

標準オブジェクトおよびドキュメント種別アイコン



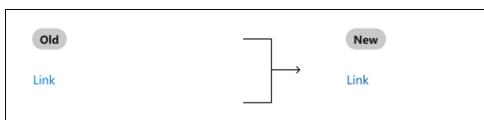
次の画像は、Spring '23 (旧) と Winter '24 (新) の中間色の境界線の違いを示しています。境界線のコントラストの増加は、ラジオボタン、チェックボックス、ボタン、入力項目にも影響します。

中間色の境界線



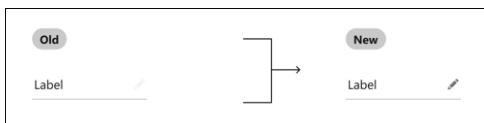
次の画像は、Spring '23 (旧) と Winter '24 (新) のリンクの違いを示しています。

リンク



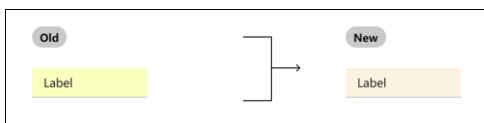
次の画像は、Spring '23 (旧) と Winter '24 (新) の編集アイコンの違いを示しています。

編集アイコン



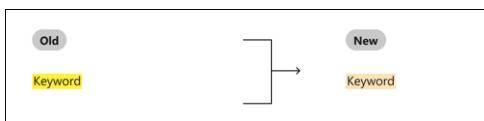
次の画像は、Spring '23 (旧) と Winter '24 (新) の編集状態の違いを示しています。

編集状態



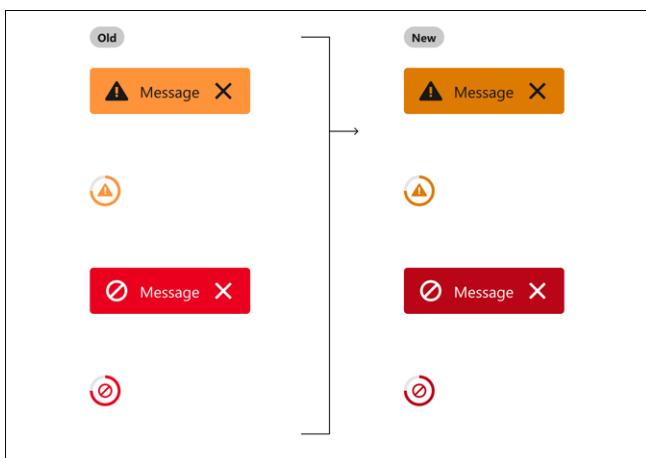
次の画像は、Spring '23 (旧) と Winter '24 (新) の検索の強調表示の違いを示しています。

検索の強調表示



次の画像は、Spring '23 (旧) と Winter '24 (新) のメッセージング要素の違いを示しています。

メッセージング要素



関連トピック:

[Summer '23 リリースノート: UI 要素の色のコントラストの改善](#)

[グローバルな色のスタイル設定フックを使用した色のコントラスト変更の一貫性](#)

[Salesforce Lightning Design System](#)

[Salesforce Admins ブログ: Updates to the Salesforce UI That Will Improve Accessibility for Low-Vision Users \(Salesforce UI の更新で視覚障害のあるユーザーのアクセシビリティが改善\)](#)

Salesforce ファイルへの公開リンクのパスワードまたは有効期限の設定

Lightning Experience で、ファイルを共有する公開リンクを作成するときに、リンクの有効期限の期日を設定できます。また、パスワードを使用してファイルへのアクセスを保護することもできます。リンクの有効期限は、デフォルトで有効になっていて、30 日に設定されています。パスワードのデフォルト設定を使用して、パスワードによる保護をデフォルトで有効または無効にすることができます。パスワード保護が有効になっている場合、自動生成されたパスワードがダイアログに表示されます。フォルダーへの公開リンクには、パスワード保護やリンクの有効期限はありません。

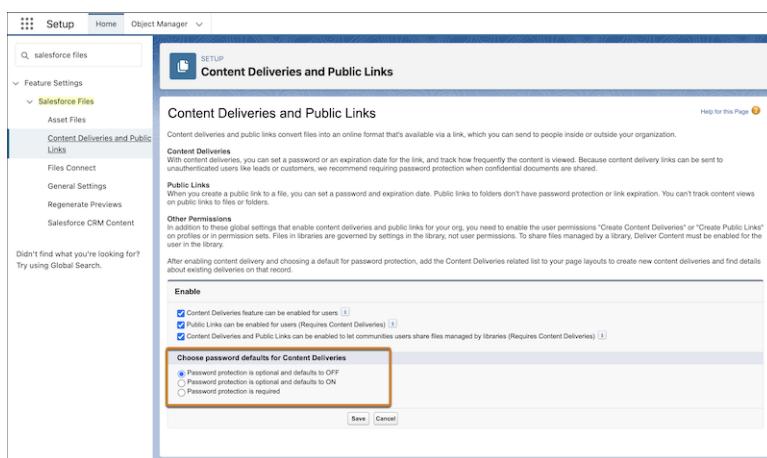
対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法:



Salesforce Files のパスワードのデフォルトを設定するには、コンテンツ配信設定を編集します。[設定] の [クイック検索] ボックスに 「Salesforce Files」 と入力し、[コンテンツ配信と公開リンク] を選択します。パスワードのデフォルトを選択します。選択肢は次のとおりです。

- パスワード保護は省略可能でデフォルト値はオフ
- パスワード保護は省略可能でデフォルト値はオン
- パスワード保護は必須(この設定は、Lightning Experience でパスワード保護が必要であるという意味ではありませんが、デフォルトはオンです。)



ニュース、自動化された取引先項目、取引先ロゴの廃止

ニュース、自動化された取引先項目、および自動化された取引先ロゴの機能は Winter '24 で 2023 年 10 月 13 日にすべての Salesforce 組織で廃止されます。これらの取引先機能が廃止されると、ユーザーに取引先名の候補が表示されなくなります。また、項目が自動的に入力されたり、会社のロゴが自動的に追加されたりしなくなります。ニュースコンポーネントがページレイアウトから削除されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

キーボードショートカットの無効化

デフォルトでは、作業を迅速に行うことができるよう、キーボードショートカットが有効になっています。ただし、これらのキーボードショートカットがスクリーンリーダーなどの支援ツールに干渉する場合があります。すべての Lightning Experience アプリケーションでキーボードショートカットを無効にできるようになりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: グローバルヘッダーから、[ヘルプメニュー]を選択します。次に、[キーボードショートカットを表示]をクリックし、キーボードショートカットをオフにします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のキーボードショートカット](#)

パフォーマンスが改善されたレコードホームページの増加

Winter '24 では、さらに多くのオブジェクトが Lightning Web コンポーネント (LWC) 対応になっています。LWC 対応オブジェクトでは、レコードホームページを作成、表示、または編集するときのパフォーマンスやサービス可用性が改善され、アクセシビリティのサポートが強化されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: Salesforce での LWC の有効化の一環として、ほとんどのレコードホームページが LWC を使用して表示されるようになりました。

レコードホームページには、次の URL パターンがあります。

`https://MyDomainName.my.salesforce.com/lightning/r/ObjectName/RecordId/ViewOrEdit`

たとえば、取引先のレコードホームページを表示する場合は次のようにになります。

`https://my-dev-org.my.salesforce.com/lightning/r/Account/0012L00001OCuehQAD/view`

Winter '24 では、Applicant、ApplicationForm、CareGap、EmissionsAllocation、GiftCommitment、Obligation、Outcome、Team、Waitlist をはじめとする 300 を超えるオブジェクトが LWC に対応しています。完全なリストについては、『Lightning Web Components 開発者ガイド』を参照してください。

参照からの作成の変更

参照項目からレコードを作成するときに表示される [Record Create (レコードを作成)] モーダルに対する複数の変更を監視します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience の Sandbox に適用されます。

理由: Salesforce での LWC の有効化の一環として、ほとんどのレコードホームページが LWC を使用して表示されるようになりました。Salesforce では、[Record Create (レコードを作成)] モーダルの変更など、レコードページとモーダルの機能強化を今後も行っています。

参照項目を介してレコードを作成した場合、LWC 対応ページや LWC 非対応ページを含むすべてのレコードページで [保存 & 新規] ボタンが表示されなくなりました。このボタンは、参照項目を介して開かれていない [作成] モーダルと [編集] モーダルでは引き続き表示されます。

LWC 対応レコードページの場合

- [Create from Lookup (参照から作成)] モーダルが LWC を使用して表示されるようになりました。
- [Create from Lookup (参照から作成)] モーダルが URL アドレス指定可能になりました。
- [Create from Lookup (参照から作成)] モーダルで **動的フォーム** がサポートされるようになりました。

関連トピック:

[パフォーマンスが改善されたレコードホームページの増加](#)

[実現した IdeaExchange: LWC 対応標準オブジェクトでの動的フォームの使用](#)

レコードページへのその他の変更

レコードページの機能強化について説明します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法:

- [所有者を変更] 、[レコードタイプを変更] 、インライン編集  アイコンが若干変更されました。見やすいように色が若干変更されました。
- ページフッターのエラーメッセージが展開された状態なのか、折りたたまれた状態なのかがスクリーンリーダーに通知されるようになりました。

Salesforce Scheduler

対面の予定のためにビジネスロケーションを訪問する顧客を管理します。潜在的な顧客に予定招待を送信するには、アクション可能リストを使用します。割り当てられたリソースが対応不可である場合は、スケジュール済みの予定に別のサービスリソースを割り当てます。Salesforce Scheduler のシフトに加えられたさまざま機能強化の詳細を確認してください。Internet Calendar Scheduling (ICS) ファイルと共に、ユーザーにメール通知を送信します。

このセクションの内容:

[ロビー管理を使用した対面予約管理の効率化](#)

強化されたロビー管理ダッシュボードを使用して、スケジュール済み予定の有無にかかわらず、支店の場所への訪問を希望する顧客を管理します。グリーティーはロビー管理を使用して、顧客をチェックインしたり、待機時間を監視したり、現れなかったとしてマークしたりできます。割り当てられたサービスリソースが対応できない場合、グリーティーは予定を変更したり再割り当てしたりすることもできます。顧客が対応を待っている場合、サービスリソースにも通知されます。待機リストでは、1日あたりの参加者数や平均待ち時間など、支店の業績向上に役立つ予定情報が取得されます。

[対応可能状況の詳細を潜在顧客と共有](#)

対応可能状況のオプションを含む予定招待 URL をメールで送信することで、潜在顧客がサービスリソースとの予定を簡単かつ便利に行えるようにします。アクション可能リストを使用して、予定招待 URL を作成して共有し、その招待 URL を使用して予約された予定を追跡します。

[対応できないサービスリソースの再割り当てによるシームレスな顧客エンゲージメントの実現](#)

サービス予定に割り当てられたサービスリソースが対応不可になった場合、テリトリーマネージャーやグリーティーは、顧客に別のサービスリソースを簡単に割り当てることができます。対応可能なサービスリソースは、[サービスリソースの再割り当て]画面で確認できます。

[Salesforce Scheduler での定期的なシフトの活用](#)

テリトリーマネージャーとサービスリソースは、長期間の定期的なシフトを設定したり、例外日を指定したり、繰り返しパターンを読みやすい形式で表示したり、同様の定期的なシフトを作成したりできるようになりました。

[ICS ファイルを使用して顧客に予定の詳細を送信](#)

レコードトリガーフローを作成し、今後の予定について社内外のユーザーにメール通知を送信します。このメールには、ユーザーが各自のカレンダーに追加できる時間や所要時間が記載された Internet Calendar Scheduling (ICS) ファイルが含まれています。

[Salesforce Scheduler プレリリーストライアル組織の作成](#)

Salesforce Scheduler プレリリーストライアル組織にサインアップし、このリリースの機能を実際に試してレビューしてください。

[Connect REST API](#)

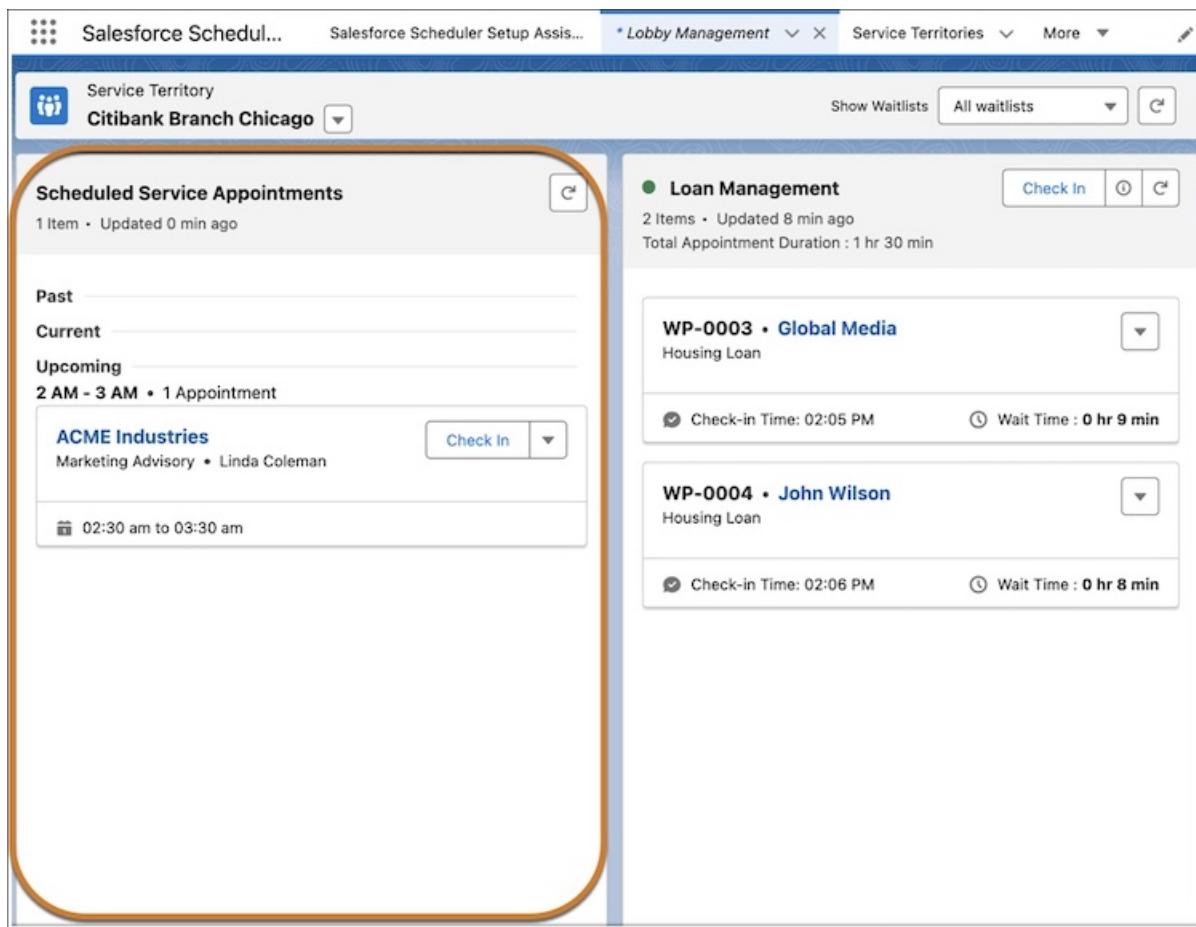
Salesforce Scheduler 用 Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

ロビー管理を使用した対面予約管理の効率化

強化されたロビー管理ダッシュボードを使用して、スケジュール済み予定の有無にかかわらず、支店の場所への訪問を希望する顧客を管理します。グリーティーはロビー管理を使用して、顧客をチェックインしたり、待機時間を監視したり、現れなかったとしてマークしたりできます。割り当てられたサービスリソースが対応できない場合、グリーティーは予定を変更したり再割り当てたりすることもできます。顧客が対応を待っている場合、サービスリソースにも通知されます。待機リストでは、1日あたりの参加者数や平均待ち時間など、支店の業績向上に役立つ予定情報が取得されます。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [ロビー管理] タブで、支店訪問の予定を表示および管理します。



関連トピック:

[Salesforce Scheduler ヘルプ](#) ロビー管理(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

対応可能状況の詳細を潜在顧客と共有

対応可能状況のオプションを含む予定招待URLをメールで送信することで、潜在顧客がサービスリソースとの予定を簡単かつ便利に行えるようにします。アクション可能リストを使用して、予定招待URLを作成して共有し、その招待URLを使用して予約された予定を追跡します。

対象: この変更は、Industry Sales Excellence アドオンライセンスがあり Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise エディションおよび Unlimited エディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: [アクション可能リスト] ページで、[対応可能状況を共有] をクリックします。

Actionable List
Potential Leads

Members

Updated 28 seconds ago.

Total Members	Completed	Failed	New	Invitation Sent
7	0	0	7	0

7 items

Selected (7) : [Change Assignee](#) [Share Availability](#)

	Reference	Action	Assignee	Assigned	Last Name	City	Industry	Email	Annual Revenue	No. of Employees
1	<input checked="" type="checkbox"/>	Sarah Loehr	New	Admin User	Loehr	New York	Insurance	info@sale...	\$33,147.00	48500
2	<input checked="" type="checkbox"/>	John Gardner	New	Admin User	Gardner	Marlborough	Aerospace & Defense	info@sale...	\$16,867.00	87200
3	<input checked="" type="checkbox"/>	Andy Smith	New	Admin User	Smith	Hartford	Aerospace & Defense	info@sale...	\$28,212.00	155000
4	<input checked="" type="checkbox"/>	Jim Steele	New	Admin User	Steele	Hartford	Insurance	info@sale...	\$19,879.00	28000
5	<input checked="" type="checkbox"/>	Jane Smith	New	Admin User	Smith		Banking	info@sale...		40000
6	<input checked="" type="checkbox"/>	Sarah Parker	New	Admin User	Parker		Banking	info@sale...		40000
7	<input checked="" type="checkbox"/>	Bruce Wilson	New	Admin User	Wilson		Banking	info@sale...		40000

関連トピック:

[Salesforce Scheduler ヘルプ: アクション可能リストを使用したサービスリソースの対応可能状況の共有 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

対応できないサービスリソースの再割り当てによるシームレスな顧客エンゲージメントの実現

サービス予定に割り当てられたサービスリソースが対応不可になった場合、テリトリーマネージャーやグリーティングは、顧客に別のサービスリソースを簡単に割り当てることができます。対応可能なサービスリソースは、[サービスリソースの再割り当て] 画面で確認できます。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: サービスリソースを再割り当てできるようにするには、[発信変更予定] フローまたは [受信変更予定] フローをコピーして、changeServiceResource 変数を true に設定します。次に、フローを保存して有効化します。

このフローを呼び出してサービスリソースを変更するには、アクションボタンを作成します。

Reassign Service Resource

Select Service Resource

The service appointment is scheduled with Linda Coleman at 8/9/2023, 2:30 AM.

Service Resource Name	Role	Same Slot Available?
Martha Salter		Yes
Bendra Morris		Yes
Dylan Holmes		Yes
Conference Room 2		Yes
Kyle Hurst		Yes
Francesca Boyle		Yes
Linda Coleman		No

[Next](#)

関連トピック:

[Salesforce Scheduler ヘルプ](#): Salesforce Scheduler での送信予定の再割り当て (リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

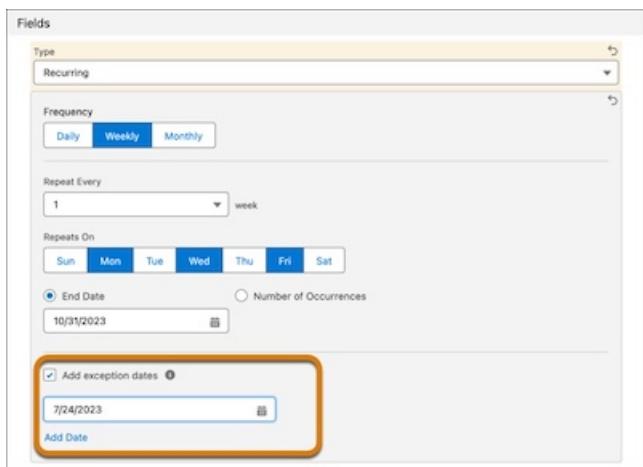
Salesforce Scheduler での定期的なシフトの活用

テリトリーマネージャーとサービスリソースは、長期間の定期的なシフトを設定したり、例外日を指定したり、繰り返しパターンを読みやすい形式で表示したり、同様の定期的なシフトを作成したりできるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: テリトリーマネージャーとサービスリソースは、次の操作を実行できるようになりました。

- 最大 180 日間の定期的なシフトを設定する。
- 対応できない日を指定する。繰り返しパターン期間内に最大 10 個の例外日を追加できます。



- 既存のシフトをコピーして、別の定期的なシフトスケジュールをすばやく作成します。
- 読みやすい形式で繰り返しパターンを表示する。

Related	Details
Start Time 13/7/2023, 12:30 am	End Time 13/7/2023, 05:30 am
Territory Start Time (PDT) 12/7/2023, 12:00 pm	Territory End Time (PDT) 12/7/2023, 05:00 pm
Status Confirmed	Service Resource Rachel Smith
Service Territory Cumulus Bank	Label
Time Slot Type Normal	
Type Recurring	
Recurrence Pattern Repeats on Mon, Tue, Wed, and Fri every week until 1/9/2023	

関連トピック:

[Salesforce Scheduler ヘルプ](#): Salesforce Scheduler でのシフトの作成 (リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

ICS ファイルを使用して顧客に予定の詳細を送信

レコードトリガーフローを作成し、今後の予定について社内外のユーザーにメール通知を送信します。このメールには、ユーザーが各自のカレンダーに追加できる時間や所要時間が記載された Internet Calendar Scheduling (ICS) ファイルが含まれています。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce Scheduler ヘルプ: ICS ファイルを使用した予定のメール通知の設定\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce Scheduler プレリリーストライアル組織の作成

Salesforce Scheduler プレリリーストライアル組織にサインアップし、このリリースの機能を実際に試してプレビューしてください。

対象ユーザー: このプレリリーストライアル組織はシステム管理者、アーキテクト、および開発者に適しています。

方法: プレリリーストライアル組織にサインアップするには、

<https://www.salesforce.com/form/signup/scheduler-prerelease-trial/> にアクセスしてください。組織が作成されたら、ログインの詳細が記載されたメールを受信します。

メモ:

- Winter '24 プレリリーストライアル組織は 2024 年 10 月 15 日まで使用できるようになりました。
- トライアル組織は、概念実証とガイド付きの自己探求を目的としています。トライアル組織の有効期限は 30 日です。

Connect REST API

Salesforce Scheduler 用 Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

このセクションの内容:

[新しい Connect REST API リソース](#)

新しい Salesforce Scheduler リソースを次に示します。

新しい Connect REST API リソース

新しい Salesforce Scheduler リソースを次に示します。

待機リストの詳細を参加者のリストと共に取得する

新しい /connect/scheduling/waitlists リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Waitlist Output

予約なしの予定の待機リストに参加者をチェックインする

新しい /connect/scheduling/waitlist-checkin リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Waitlist Check In Input

新しいレスポンスボディ: Waitlist Check In

Einstein Search

検索結果の取得方法が改善されます。検索マネージャーで、検索可能な標準オブジェクトとカスタムオブジェクトを設定し、検索ストレージに関するインサイトを取得します。また、Einstein Search Answers を使用してナレッジ記事から特定の回答を取得することもできます。

ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

このセクションの内容:

[プロファイルの検索可能なオブジェクトの設定の簡易化\(ベータ\)](#)

検索マネージャーの設定ウィンドウでは、ガイドに従ってユーザープロファイルの検索可能なオブジェクトを設定できるようになりました。必要なときにアプリケーション内で直接情報を参照できます。

[Einstein Search Answers を使用したケースの迅速な解決\(パイロット\)](#)

ナレッジ記事から関連するテキストを即座に抽出してケースをスピーディに解決できます。グローバル検索バーに質問やフレーズを入力して、英語のナレッジ記事から最も関連性の高い情報を取得します。

[Einstein Search for Knowledge がデフォルトで有効](#)

サービスエージェントは新しい絞り込み環境を使用して関連記事をすばやく見つけ、より正確に顧客に応答してより迅速にケースを解決できます。Einstein Search for Knowledge では多言語検索もサポートされており、検索精度を高めるための AI ベースのアルゴリズムも用意されています。Einstein Search for Knowledge はすべてのユーザーに対してデフォルトで有効になり、[設定] で無効にできます。

プロファイルの検索可能なオブジェクトの設定の簡易化(ベータ)

検索マネージャーの設定ウィンドウでは、ガイドに従ってユーザープロファイルの検索可能なオブジェクトを設定できるようになりました。必要なときにアプリケーション内で直接情報を参照できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。
ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ユーザーの検索可能な項目の設定\(ベータ\)\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Einstein Search Answers を使用したケースの迅速な解決(パイロット)

ナレッジ記事から関連するテキストを即座に抽出してケースをスピーディに解決できます。グローバル検索バーに質問やフレーズを入力して、英語のナレッジ記事から最も関連性の高い情報を取得します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります。SFDC の裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

方法: この機能は、有効化して 24 時間後に有効になります。フィードバックまたは問題がございましたら、tryeinsteinsearch@salesforce.com までメールでお知らせください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプナレッジの回答検索の有効化\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Einstein Search for Knowledge がデフォルトで有効

サービスエージェントは新しい絞り込み環境を使用して関連記事をすばやく見つけ、より正確に顧客に応答してより迅速にケースを解決できます。Einstein Search for Knowledge では多言語検索もサポートされており、検索精度を高めるための AI ベースのアルゴリズムも用意されています。Einstein Search for Knowledge はすべてのユーザーに対してデフォルトで有効になり、[設定] で無効にできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Lightning Knowledge と Einstein Search が必要です。

Salesforce データパイプライン

データセットの代わりにステージングされたデータを使用して、処理時間を短縮します。Google アナリティクス 4 コネクタで Google の新しいイベントベースの GA4 プロパティフレームワークを利用します。Salesforce Bulk API 2.0 を使用して、より大きなデータオブジェクトを読み込みます。

このセクションの内容:

[ステージングされたデータを使用した順次レシピの迅速な実行\(正式リリース\)](#)

ステージングされたデータをデータセットの代わりに使用して、データ戦略に複数のレシピが含まれる場合の処理時間を削減します。最初のレシピで結果をステージングされたデータとして出力し、後続のレシピではステージングされたデータを入力ノードで使用できます。たとえば、地域固有のそれぞれの売上予測レシピで取引先と商談のデータをマージするのではなく、1回だけマージし、結果をステージングされたデータとして出力して、そのデータを他のレシピで使用します。

[Google アナリティクス 4 への接続\(正式リリース\)](#)

Google アナリティクス 4 に移行して、引き続き Google アナリティクスデータを読み込んで、Google の新しいイベントベースの GA4 プロパティフレームワークを利用します。Google アナリティクス 4 では、ファーストパーティデータと Google データを使用して、複数のサイトとアプリケーションをまとめて理解し、分析します。Google アナリティクス 4 はユニバーサルアナリティクスを置き換えるものです。2023 年 7 月 1 日、ユニバーサルアナリティクスのすべての標準プロパティでデータの処理が停止します。

Salesforce 外部コネクタでの同期タイムアウト問題の防止

Salesforce 外部コネクタを使用しているときに大きなデータオブジェクトでタイムアウトの問題が発生した場合には、Salesforce Bulk API 2.0 と新しい BULKV2 API 種別を使用します。

Databricksへの接続(ペーテ)

Databricks からデータマネージャーにデータを同期するには、Databricks コネクタを使用してリモート接続を作成します。

Amazon Athenaへの接続(ペーテ)

リモート接続を作成して、Amazon Athena のデータをデータマネージャーに同期します。接続された各オブジェクトの詳細プロパティに AWS セキュリティログイン情報を追加します。

増分アップロードによるデータの迅速な追加(ペーテ)

外部データ API を使用するときに、CSV の増分を読み込んでデータのアップロード時間を短縮します。データを迅速に登録すれば、全体的な実行時間を大幅に増加させることなく、より多くのデータを既存のデータセットに取り込むことができます。

Snowflake に匹敵する OAuth 機能の拡充

すべての Snowflake コネクタで OAuth を活用します。Snowflake 出力コネクタと Sync Out for Snowflake に、Snowflake 入力コネクタに対応する完全な OAuth 機能が備わり、一貫性のあるセキュアな接続環境が実現します。

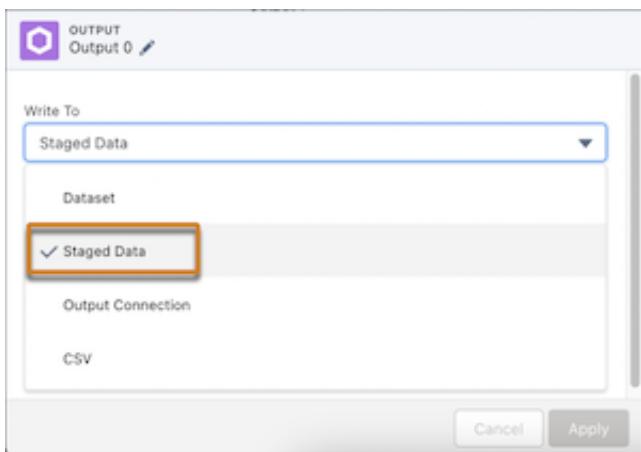
ステージングされたデータを使用した順次レシピの迅速な実行(正式リリース)

ステージングされたデータをデータセットの代わりに使用して、データ戦略に複数のレシピが含まれる場合の処理時間を削減します。最初のレシピで結果をステージングされたデータとして出力し、後続のレシピではステージングされたデータを入力ノードで使用できます。たとえば、地域固有のそれぞれの売上予測レシピで取引先と商談のデータをマージするのではなく、1回だけマージし、結果をステージングされたデータとして出力して、そのデータを他のレシピで使用します。

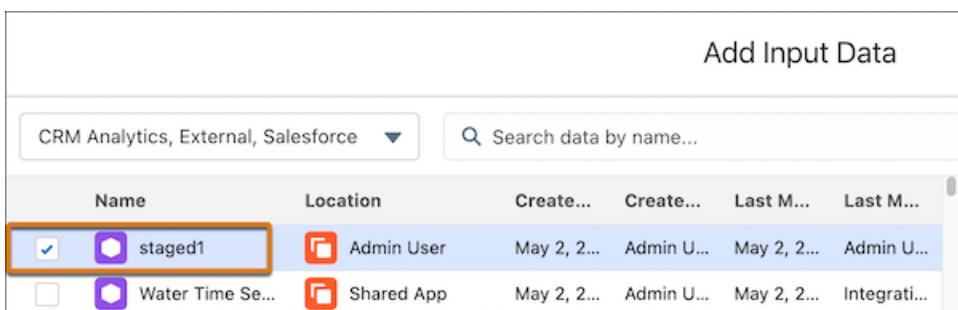
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この機能は Shield Platform では使用できません。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Analytics」と入力し、[設定] を選択します。[レシピでのステージングされたデータの作成を許可] を選択し、保存します。

レシピエディターで、レシピのシーケンスで最初のレシピを作成し、出力ノードを追加して、ステージングされたデータに書き込みます。



2番目のレシピを作成します。入力データを追加するときに、最初のレシピからのステージングされたデータを選択します。



引き続き、通常どおりレシピを作成して保存します。レシピシーケンスが実行されると、ステージングされたデータが入力元として使用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:ステージングされたデータ出力を使用した順次レシピの実行\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Google アナリティクス 4 への接続 (正式リリース)

Google アナリティクス 4 に移行して、引き続き Google アナリティクスデータを読み込んで、Google の新しいイベントベースの GA4 プロパティフレームワークを利用します。Google アナリティクス 4 では、ファーストパーティデータと Google データを使用して、複数のサイトとアプリケーションをまとめて理解し、分析します。Google アナリティクス 4 はユニバーサルアナリティクスを置き換えるものです。2023 年 7 月 1 日、ユニバーサルアナリティクスのすべての標準プロパティでデータの処理が停止します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: データマネージャーを使用して、Google アナリティクス 4 接続を作成します。接続された各オブジェクトの詳細プロパティに Google アナリティクスプロパティ ID を追加します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Google アナリティクス 4 接続 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[外部リンク: ユニバーサルアナリティクスは廃止されます](#)

[外部リンク: \[UA→GA4\] Universal Analytics versus Google Analytics 4 data \(\[UA→GA4\] ユニバーサル アナリティクスと Google アナリティクス 4 のデータ\)](#)

Salesforce 外部コネクタでの同期タイムアウト問題の防止

Salesforce 外部コネクタを使用しているときに大きなデータオブジェクトでタイムアウトの問題が発生した場合には、Salesforce Bulk API 2.0 と新しい BULKV2 API 種別を使用します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Salesforce 外部コネクタを作成するときに、[API 種別] に「BULKV2」を使用します (1)。[サービス URL] のバージョン番号は 47.0 以降にします (2)。

Set Up Your Connection

* Connection Name
Canadian Sales Data

* Developer Name
canadian_sales_data

* Description
Org with Canadian sales data

* Username
admin@example.com

* Password
.....

* API Type
BULKV2 1

* Service URL
https://login.salesforce.com/services/Soap/u/47.0 2

[Previous](#) [Save and Test](#)

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce 外部接続 \(リリースレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Databricks への接続 (ベータ)

Databricks からデータマネージャーにデータを同期するには、Databricks コネクタを使用してリモート接続を作成します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: データマネージャーを使用して Databricks 接続を作成します。接続された各オブジェクトの詳細プロパティに、Databricks のパーソナルアクセストークン、サーバー、HTTPPath、およびデータベース値を追加します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Databricks 接続 \(ベータ\) \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Amazon Athena への接続 (ベータ)

リモート接続を作成して、Amazon Athena のデータをデータマネージャーに同期します。接続された各オブジェクトの詳細プロパティに AWS セキュリティログイン情報を追加します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。
ベータ機能の使用には、[「Agreements and Terms \(契約および規約\)」](#) に記載されたベータサービス規約が適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Amazon Athena 接続 \(ベータ\) \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

増分アップロードによるデータの迅速な追加 (ベータ)

外部データ API を使用するときに、CSV の増分を読み込んでデータのアップロード時間を短縮します。データを迅速に登録すれば、全体的な実行時間を大幅に増加させることなく、より多くのデータを既存のデータセットに取り込むことができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。
ベータ機能の使用には、[「Agreements and Terms \(契約および規約\)」](#) に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: Analytics 外部データ API を使用してデータを読み込むときは、モードを増分に設定します。

関連トピック:

[Analytics 外部データ API 開発者ガイド: データの結合](#)

Snowflake に匹敵する OAuth 機能の拡充

すべての Snowflake コネクタで OAuth を活用します。Snowflake 出力コネクタと Sync Out for Snowflake に、Snowflake 入力コネクタに対応する完全な OAuth 機能が備わり、一貫性のあるセキュアな接続環境が実現します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

Analytics

Analytics の機能強化には、Lightning レポートとダッシュボード、CRM Analytics、Analytics アプリケーション、Einstein Discovery、および Tableau の新機能と更新された機能が含まれます。

このセクションの内容:

[統合された Analytics 環境](#)

CRM Analytics ダッシュボードコンポーネント内で Tableau ビューを探索するためにカスタム検索条件を追加します。Slack の改良された [ホーム] タブと新しいスラッシュコマンドを体験してみてください。カスタムサブスクリプションレポートには、登録と通知を受信する Slack チャンネルが表示されます。ワンクリックの ウィジェットインターラクションが使用可能になり、モバイルでレポートを共有できます。

[Lightning レポートおよびダッシュボード](#)

コンテンツを更新できる新しい所有者にダッシュボードを割り当てることで、職務が変わった場合でも Lightning ダッシュボードを最新の状態に維持します。親または同位のグルーピングに対する相対的な値を比較する集計項目を含むレポートを作成する場合、コンテキストを失わないでください。[分析] タブでレポート、ダッシュボード、CRM Analytics 項目をより容易に整理し、操作します。

[CRM Analytics](#)

複数のデータモデルオブジェクトを 1 つのダッシュボードクエリに結合します。カスタムテーマとレイアウトの同期を使用してデバイス全体でブランド設定とレイアウトを統合します。Analytics For Communications アプリケーションを使用してプロセスと業務効率を改善します。ステージングされたデータを使用して複数のレシピの実行時間を短縮します。

[インテリジェントな Analytics アプリケーション](#)

Revenue Intelligence を使用して、営業戦略を最適化し、パイプラインの変更を追跡します。Service Intelligence を使用して、パフォーマンスの向上、業務の監視、よくある顧客要求の迅速な検出を実現します。

[Tableau](#)

Tableau を使用して、数回クリックするだけでデータの分析、探索、意思決定を行います。魅力的なビジュアライゼーションを作成し、Lightning ページに埋め込んでワークフローで使用します。Tableau には、深いデータ探索を行うためのエンタープライズ分析プラットフォームソリューションがあります。

[Marketing Cloud Intelligence](#)

Marketing Cloud Intelligence を使用してマーケティングデータを接続、ハーモナイズ、視覚化し、マーケティングデータに対してアクションを実行することで、キャンペーン内のパフォーマンスを最適化し、インサイトをリアルタイムで検出し、そのインサイトに対してアクションを実行します。

統合された Analytics 環境

CRM Analytics ダッシュボードコンポーネント内で Tableau ビューを探索するためにカスタム検索条件を追加します。Slack の改良された [ホーム] タブと新しいスラッシュコマンドを体験してみてください。カスタムサブスクリプションレポートには、登録と通知を受信する Slack チャンネルが表示されます。ワンクリックのウィジェットインタラクションが使用可能になり、モバイルでレポートを共有できます。

このセクションの内容:

[カスタム検索条件を使用した CRM Analytics ダッシュボードの Tableau ビューの探索 \(正式リリース\)](#)

カスタム検索条件を追加して、ダッシュボードコンポーネント内で Tableau ビューを探索し、より多くのインサイトを明らかにできるようになりました。複数のコンポーネントビューを生成して異なるデータシナリオをサポートする代わりに、CRM Analytics ダッシュボードで検索条件パラメーターを追加して静的値または検索条件を操作できます。異なるビューを作成して切り替えることなく、単一の Tableau ビューを維持できます。

[\[分析\] タブでのレポートやダッシュボードの \[アセットの詳細\] の表示](#)

[アセットの詳細] を使用して、作成日や所有者などのレポートとダッシュボードのメタデータを表示します。[アセットの詳細] には、Salesforce と Data Cloud で作成されたレポートを区別するのに役立つデータソースも含まれています。

[実現した IdeaExchange: 並び替えによる検索結果の絞り込み](#)

必要なものをすばやく見つけるには、検索結果の列ヘッダーを並び替えます。レポート、ダッシュボード、CRM Analytics アセットのページ全体をスクロールして必要なものを探す必要はもうありません。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

[Lightning ページへの Tableau ビューの組み込み \(正式リリース\)](#)

Tableau のデータインサイトを Lightning Web コンポーネントに追加することで、Salesforce ユーザーが作業している場所で直接インサイトを提供することができます。ユーザーは、両方のアプリケーションに何度もサインインしたり、別々のアプリケーションを管理したりすることでワークフローが中断されることがなくなります。また、複雑な設定や追加のアドオンのインストールは必要なく、Lightning ページに Tableau コンポーネントをリンクの詳細とともに追加するだけで、Tableau ビューにネイティブに接続できます。ビューには、ワークブックタブや Tableau ツールバーを表示することもできます。

[CRM Analytics for Slack の \[ホーム\] タブの改善](#)

Slack で登録と通知にアクセスする方法が新しくなり、[ホーム] タブが整理されてパフォーマンスが向上しています。整理された [ホーム] タブでは、登録と通知のリストが個別のウィンドウで使用できるようになりました。以前は、アプリケーションの [ホーム] タブがこれらのリストであふれていました。

[Slack の任意の場所でのスラッシュコマンドを使用した登録と通知へのアクセス](#)

CRM Analytics 登録と通知を表示および設定する方法が新しくなり、コンテキストの切り替えが削減されて、生産性が向上しています。ユーザーはスラッシュコマンドを使用して、Slack のコンテキストを変更せずに、登録と通知の管理 (受信者の追加や削除など) を行うことができるウィンドウを開きます。以前は、CRM Analytics for Slack アプリケーション内でしかこれらの項目を管理できませんでした。

[登録レポートでの Slack チャンネル受信者の表示](#)

登録と通知が送信される Slack チャンネルをすばやく確認します。スケジュール、条件、受信者、アクションを監視することに加えて、カスタム登録レポートに、Slack チャンネル名が含まれる受信者列を含めることができます。できるようになりました。以前はこの列には ID 番号が表示されていました。

iOS 向けの Analytics モバイルアプリケーション

デスクトップでしか使用できなかった項目の共有やウィジェットのインタラクションにモバイルユーザーがアクセスできるようになりました。すべてのレイアウトの変更が自動的に同期され、ユーザーエクスペリエンスとの一貫性が維持されます。

Android 向けの Analytics モバイルアプリケーション

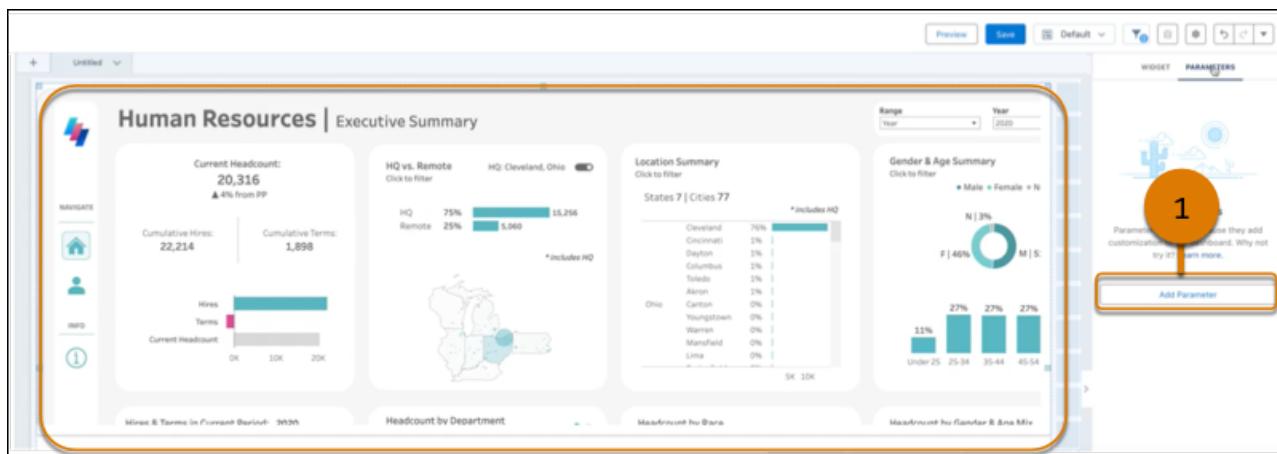
デスクトップでしか使用できなかった項目の共有やウィジェットのインタラクションにモバイルユーザーがアクセスできるようになりました。すべてのレイアウトの変更が自動的に同期され、ユーザーエクスペリエンスとの一貫性が維持されます。

カスタム検索条件を使用した CRM Analytics ダッシュボードの Tableau ビューの探索(正式リリース)

カスタム検索条件を追加して、ダッシュボードコンポーネント内で Tableau ビューを探索し、より多くのインサイトを明らかにできるようになりました。複数のコンポーネントビューを生成して異なるデータシナリオをサポートする代わりに、CRM Analytics ダッシュボードで検索条件パラメーターを追加して静的値または検索条件を操作できます。異なるビューを作成して切り替えることなく、単一の Tableau ビューを維持できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ダッシュボードコンポーネントウィジェットで Tableau ビューをクリックします。[パラメーターを追加] をクリックします(1)。



検索条件に対する Tableau ディメンション項目を選択します(2)。パラメーターに名前を付けます(3)。検索条件の値の取得方法を選択します(4)。たとえば、選択された CRM Analytics ダッシュボード検索条件に基づいて値を取得するには、[動的]を選択し、検索条件クエリ、値項目、クエリインタラクションを選択します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: CRM Analytics の Tableau ビュー \(ベータ\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[分析] タブでのレポートやダッシュボードの [アセットの詳細] の表示

[アセットの詳細] を使用して、作成日や所有者などのレポートとダッシュボードのメタデータを表示します。[アセットの詳細] には、Salesforce と DataCloud で作成されたレポートを区別するのに役立つデータソースも含まれています。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。CRM Analytics アセットは有料オプションで利用できます。

方法: アプリケーションランチャーから、[分析]を見つけて選択し、次にレポートやダッシュボードを参照または検索します。アセットの行のアクションメニュー ボタンをクリックし、[詳細] をクリックします。

データソースを含むアセットの詳細が、[詳細] パネルに表示されます。

The screenshot shows the Salesforce Analytics app's 'Browse' interface. On the left, there's a sidebar with 'Analytics' navigation. The 'Browse' tab is selected. In the center, there's a search bar and filter buttons for 'All Items', 'Dashboards', 'Reports' (which is selected), and 'Folders'. Below that are four date range filters: 'Created By Anybody', 'Created On Any Date', 'Last Modified By Anybody', and 'Last Modified On Any Date'. Underneath these filters is a section titled 'Asset Results' with the text '37 Items - Sorted by Title (Ascending)'. A table follows, with the first row showing 'AR Accounts report' under 'Title', 'Level-3' under 'Location', and 'Admin User' under 'Created By'. To the right of the table, a modal window titled 'Details' is open, showing information for the 'AR Accounts report' asset, including its source as 'Accounts Standard'. The entire 'Details' modal is highlighted with an orange border.

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Analytics ホームでのレポートとダッシュボードの管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)



並び替えによる検索結果の絞り込み

必要なものをすばやく見つけるには、検索結果の列ヘッダーを並び替えます。レポート、ダッシュボード、CRM Analytics アセットのページ全体をスクロールして必要なものを探す必要はもうありません。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。CRM Analytics アセットは有料オプションで利用できます。

方法: アプリケーションランチャーから、[分析] を選択し、アセットを参照または検索します。列のヘッダーをクリックすると、検索結果の表示を昇順または降順で切り替えることができます。

This screenshot shows the same 'Browse' interface as the previous one, but with a red box highlighting the 'Title ↑' header in the 'Asset Results' table. This indicates that the results are currently sorted by title in ascending order. The rest of the interface, including the sidebar and the details modal, remains the same.

Lightning ページへの Tableau ビューの組み込み(正式リリース)

Tableau のデータインサイトを Lightning Web コンポーネントに追加することで、Salesforce ユーザーが作業している場所で直接インサイトを提供することができます。ユーザーは、両方のアプリケーションに何度もサインインしたり、別々のアプリケーションを管理したりすることでワークフローが中断されることがなくなります。また、複雑な設定や追加のアドオンのインストールは必要なく、Lightning ページに Tableau コンポーネントをリンクの詳細とともに追加するだけで、Tableau ビューにネイティブに接続できます。ビューには、ワークブックタブや Tableau ツールバーを表示することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。Tableau ビューへの接続には、Tableau 側でサーバーまたはクラウド用の接続アプリケーション(v2021.4 以降)が必要です。

方法: 次の設定を 1 回だけ完了して、Tableau コンテンツを埋め込みます。[設定] から [クイック検索] ボックスに「Tableau」と入力し、[Tableau組み込み]を選択します。[Tableau ビュー Lightning Web コンポーネントを有効化]と[トークンベースのシングルサインオン認証を有効化]を選択します。[Tableau ユーザー ID 項目を選択]を選択して、組織のログイン形式を選択します。

Tableau ビュコンポーネント (1) を Lightning ページに追加します。

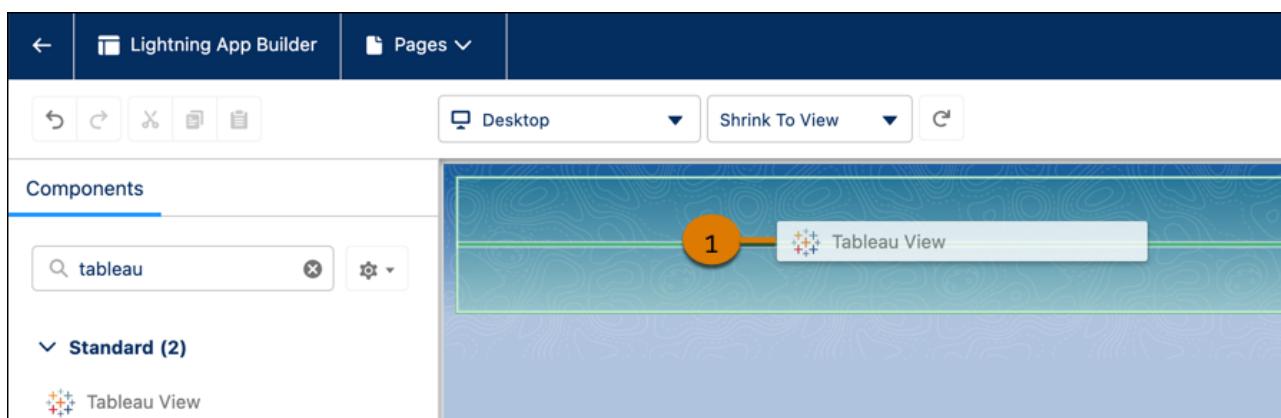
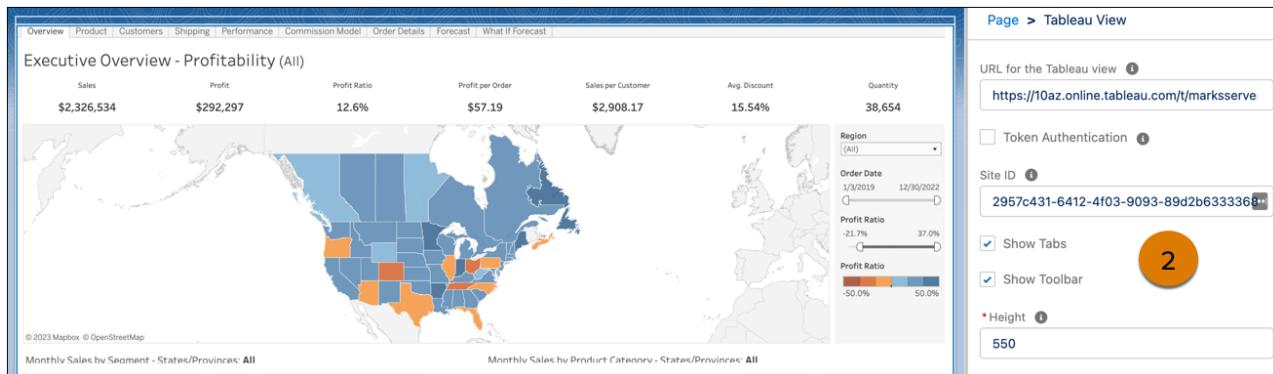


Tableau ビューの URL とサイト ID を設定ペイン (2) に追加します。



関連トピック:

Tableau ヘルプ: Tableau Lightning Web Component Seamless Authentication (Limited Preview) (Tableau Lightning Web コンポーネントのシームレスな認証(限定プレビュー))(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Tableau ヘルプ: Troubleshoot Connected Apps (接続アプリケーションのトラブルシューティング)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

CRM Analytics for Slack の [ホーム] タブの改善

Slack で登録と通知にアクセスする方法が新しくなり、[ホーム] タブが整理されてパフォーマンスが向上しています。整理された [ホーム] タブでは、登録と通知のリストが個別のウィンドウで使用できるようになりました。以前は、アプリケーションの [ホーム] タブがこれらのリストであふれていました。

対象: CRM Analytics for Slack アプリケーションは、Lightning Experience と Salesforce Classic の CRM Analytics で使用できます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。CRM Analytics for Slack は、ワークスペース管理者によって承認され、Slack にインストールされた場合に使用できます。

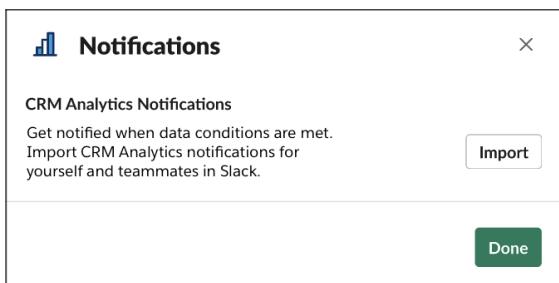
方法: [登録] および [通知] ウィンドウを開くには、CRM Analytics for Slack の [ホーム] タブで [登録を表示および管理] または [通知を表示および管理] をクリックします。該当の権限があれば、登録や通知を作成していくなくてもボタンを使用できます。

The screenshot shows the 'Subscriptions' section of the CRM Analytics dashboard. It includes sections for 'CRM Analytics Dashboards', 'Lightning Dashboards', and 'Lightning Reports', each with a 'View & Manage Subscriptions' button. Below these are sections for 'Notifications' and another 'View & Manage Subscriptions' button.

項目がある場合、各項目が使用可能なアクションメニューと共にウィンドウにリストされます。

The screenshot shows a modal window titled 'Subscriptions'. It lists several items under 'CRM Analytics Dashboards': 'Watchlist Digest' (Enabled), 'Dashboard Title' (Enabled), 'Dashboard Title' (Enabled), 'Widget Digest' (Enabled), and 'Dashboard Title' (Enabled). Each item has a three-dot menu icon. A dropdown menu is open over the second 'Dashboard Title' item, showing options 'Edit' (highlighted) and 'Delete'. At the bottom right of the modal is a 'Done' button.

項目がない場合は、開始をサポートするウィンドウが表示されます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: CRM Analytics ダッシュボードへの登録](#)

[Salesforce ヘルプ: 受信者のインポートと CRM Analytics 通知への追加](#)

[Salesforce ヘルプ: Lightning レポートとダッシュボードへの登録](#)

[Salesforce ヘルプ: Lightning レポートおよびダッシュボード登録への受信者のインポートおよび追加](#)

Slack の任意の場所でのスラッシュコマンドを使用した登録と通知へのアクセス

CRM Analytics 登録と通知を表示および設定する方法が新しくなり、コンテキストの切り替えが削減されて、生産性が向上しています。ユーザーはスラッシュコマンドを使用して、Slackのコンテキストを変更せずに、登録と通知の管理(受信者の追加や削除など)を行うことができるウィンドウを開きます。以前は、CRM Analytics for Slack アプリケーション内でしかこれらの項目を管理できませんでした。

対象: CRM Analytics for Slack アプリケーションは、Lightning Experience と Salesforce Classic の CRM Analytics で使用できます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。CRM Analytics for Slack は、ワークスペース管理者によって承認され、Slack にインストールされた場合に使用できます。

時期: この機能は、Winter '24 リリースのロールアウト後の 10 月中旬に使用可能になります。

方法: 登録にアクセスするには、Slack メッセージ項目に「/analytics-crma-subscriptions」と入力します。

通知にアクセスするには、Slack メッセージ項目に「/analytics-crma-notifications」と入力します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: CRM Analytics ダッシュボードへの登録](#)

[Salesforce ヘルプ: 受信者のインポートと CRM Analytics 通知への追加](#)

登録レポートでの Slack チャンネル受信者の表示

登録と通知が送信される Slack チャンネルをすばやく確認します。スケジュール、条件、受信者、アクションを監視することに加えて、カスタム登録レポートに、Slack チャンネル名が含まれる受信者列を含めることができます。以前はこの列には ID 番号が表示されていました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。CRM Analytics for Slack アプリケーションは、ワークスペース管理者によって承認され、Slack にインストールされた場合に使用できます。

対象ユーザー: 登録レポートを作成および管理するには、ユーザーに「カスタムレポートタイプの管理」権限が必要です。

方法: [受信者コラボレーションルーム] 列をカスタム登録レポートのアクションブロックに追加します。Winter '24以降に作成されたチャンネルの場合、登録と通知が送信されるSlackチャンネル名がこの列に入力されます。Winter '24より前に作成されたチャンネルの場合、チャンネルIDがこの列に表示されます。

チャンネル名は登録または通知に追加されると、保存されます。チャンネルの名前が変更されても、レポート内の名前は自動的に更新されません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 登録、アクション、条件を 1 つのレポートで結合](#)

iOS 向けの Analytics モバイルアプリケーション

デスクトップでしか使用できなかった項目の共有やウィジェットのインタラクションにモバイルユーザーがアクセスできるようになりました。すべてのレイアウトの変更が自動的に同期され、ユーザー エクスペリエンスとの一貫性が維持されます。

このセクションの内容:

[ワンクリックインタラクションが含まれる静的ウィジェットの変換](#)

ワンクリックインタラクション(レンズを開くなど)が含まれるウィジェットが iOS デバイスで使用できるようになりました。以前は、ワンクリックインタラクションはデスクトップでしか行うことができませんでした。

[CRM Analytics ダッシュボードレイアウトの自動更新](#)

ウィジェットの追加や変更がダッシュボードのレイアウト全体で自動的に同期されるようになりました。たとえば、モバイルレイアウトに追加されたウィジェットは、編集することなく自動的にデスクトップレイアウトにも追加されます。

ワンクリックインタラクションが含まれる静的ウィジェットの変換

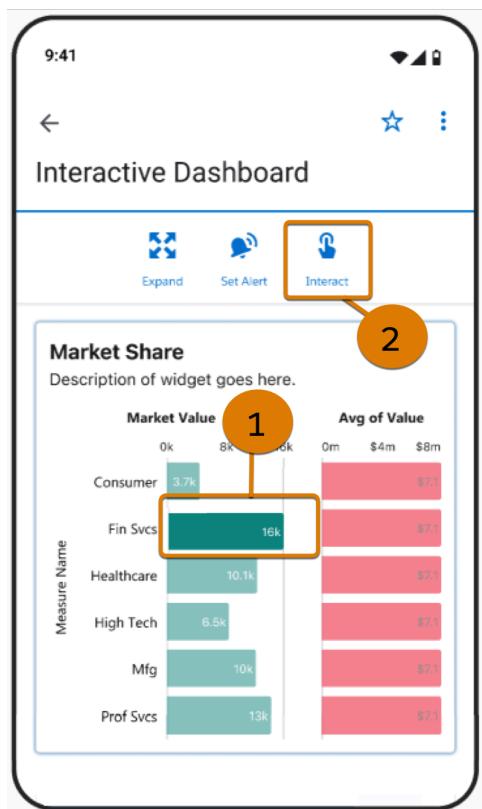
ワンクリックインタラクション(レンズを開くなど)が含まれるウィジェットが iOS デバイスで使用できるようになりました。以前は、ワンクリックインタラクションはデスクトップでしか行うことができませんでした。

対象: この変更は、CRM Analytics for iOS に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

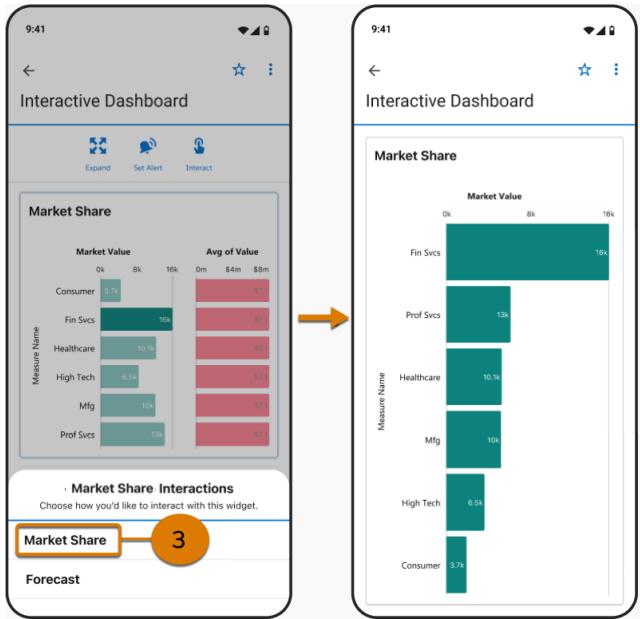
時期: ワンクリックインタラクションは、2023 年 10 月 16 日の週に使用可能になります。

方法: CRM Analytics は、iOS 12.2 以降が実行されているデバイスで使用できます。最新の機能強化を取得するには、App Store から CRM Analytics をダウンロードします。

CRM Analytics ダッシュボードを開き、グラフの評価指標⁽¹⁾をタップします。メニューバーの [Interact (操作)]⁽²⁾をクリックします。



開くビュー⁽³⁾をタップします。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ: ウィジェットのインタラクションの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

CRM Analytics ダッシュボードレイアウトの自動更新

ウィジェットの追加や変更がダッシュボードのレイアウト全体で自動的に同期されるようになりました。たとえば、モバイルレイアウトに追加されたウィジェットは、編集することなく自動的にデスクトップレイアウトにも追加されます。

対象: この変更は、CRM Analytics for iOS に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: レイアウトの同期は、2023 年 10 月 16 日の週に使用可能になります。

方法: CRM Analytics は、iOS 12.2 以降が実行されているデバイスで使用できます。最新の機能強化を取得するには、App Store から CRM Analytics をダウンロードします。CRM Analytics ダッシュボードのレイアウトは、デスクトップで編集する必要があります。

関連トピック:

[レイアウト全体の変更の簡単な同期](#)

[Salesforce ヘルプ: 各種のデバイス固有の CRM Analytics ダッシュボードレイアウトの生成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Android 向けの Analytics モバイルアプリケーション

デスクトップでしか使用できなかった項目の共有やウィジェットのインタラクションにモバイルユーザーがアクセスできるようになりました。すべてのレイアウトの変更が自動的に同期され、ユーザー エクスペリエンスとの一貫性が維持されます。

このセクションの内容:

[ワンクリックインタラクションが含まれる静的ウィジェットの変換](#)

ワンクリックインタラクション(レンズを開くなど)が含まれるウィジェットが Android デバイスで使用できるようになりました。以前は、ワンクリックインタラクションはデスクトップでしか行うことができませんでした。

[CRM Analytics ダッシュボードレイアウトの自動更新](#)

ウィジェットの追加や変更がダッシュボードのレイアウト全体で自動的に同期されるようになりました。たとえば、モバイルレイアウトに追加されたウィジェットは、編集することなく自動的にデスクトップレイアウトにも追加されます。

ワンクリックインタラクションが含まれる静的ウィジェットの変換

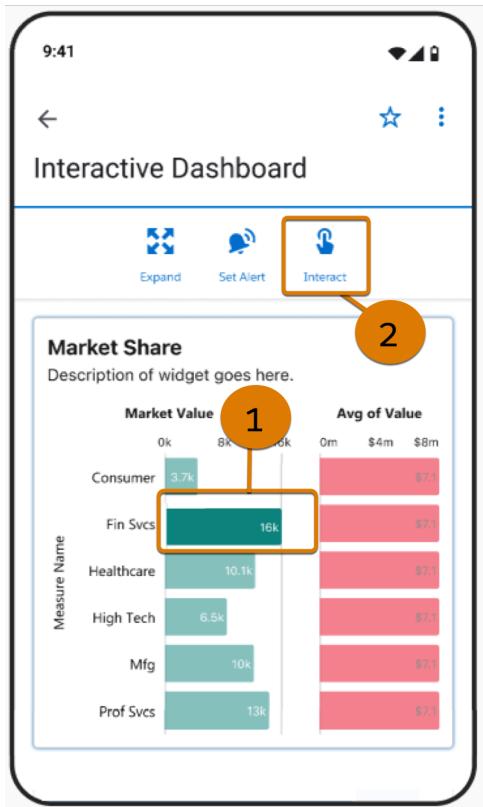
ワンクリックインタラクション(レンズを開くなど)が含まれるウィジェットが Android デバイスで使用できるようになりました。以前は、ワンクリックインタラクションはデスクトップでしか行うことができませんでした。

対象: この変更は、CRM Analytics for Android に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

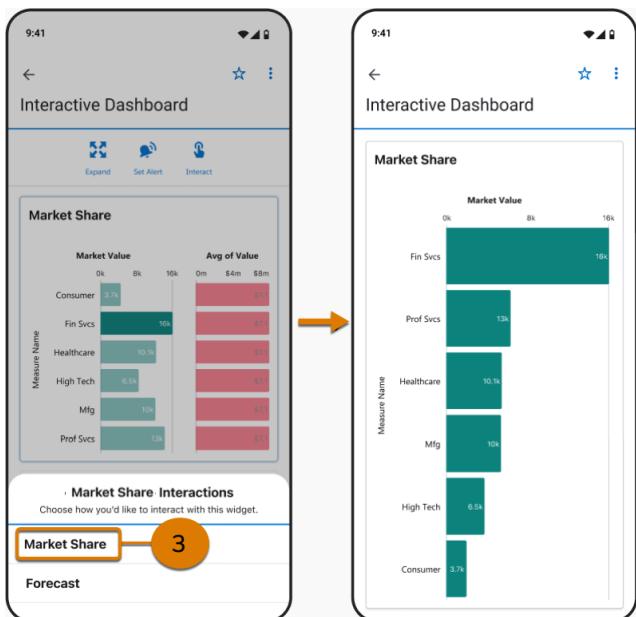
時期: ワンクリックインタラクションは、2023 年 10 月 16 日の週に使用可能になります。

方法: CRM Analytics は、Android 5 以降が実行されているデバイスで使用できます。最新の機能強化を取得するには、Google Play™ から CRM Analytics をダウンロードします。

CRM Analytics ダッシュボードを開き、グラフの評価指標⁽¹⁾をタップします。メニューバーの [Interact (操作)]⁽²⁾をクリックします。



開くビュー(3)をタップします。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ: ウィジェットのインタラクションの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることがありますや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

CRM Analytics ダッシュボードレイアウトの自動更新

ウィジェットの追加や変更がダッシュボードのレイアウト全体で自動的に同期されるようになりました。たとえば、モバイルレイアウトに追加されたウィジェットは、編集することなく自動的にデスクトップレイアウトにも追加されます。

対象: この変更は、CRM Analytics for Android に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: レイアウトの同期は、2023 年 10 月 16 日の週に使用可能になります。

方法: CRM Analytics は、Android 5 以降が実行されているデバイスで使用できます。最新の機能強化を取得するには、Google Play™ から CRM Analytics をダウンロードします。CRM Analytics ダッシュボードのレイアウトは、デスクトップで編集する必要があります。

関連トピック:

レイアウト全体の変更の簡単な同期

Salesforce ヘルプ: 各種のデバイス固有の CRM Analytics ダッシュボードレイアウトの生成 (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Lightning レポートおよびダッシュボード

コンテンツを更新できる新しい所有者にダッシュボードを割り当てることで、職務が変わった場合でも Lightning ダッシュボードを最新の状態に維持します。親または同位のグルーピングに対する相対的な値を比較する集計項目を含むレポートを作成する場合、コンテキストを失わないでください。[分析] タブでレポート、ダッシュボード、CRM Analytics 項目をより容易に整理し、操作します。

このセクションの内容:

Data Cloud レポートでビジネスに関する質問の答えを見つける

1つまたは複数の関連するデータモデルオブジェクトに関するレポートを簡単に作成して、ビジネスのどの領域に重点を置くべきかを決定できます。たとえば、ロイヤルティプログラム DMO に関するレポートを作成して、どのプログラムが最も収益を上げているかを確認します。レポート内のレコードのグループ化、絞り込み、集計を行い、ほぼリアルタイムの情報を取得して他のユーザーと共有できます。

ダッシュボードでの主要な Data Cloud 評価指標の強調表示と共有

Data Cloud レポートの KPI とトレンドをダッシュボードで視覚化して、迅速にビジネス上の意思決定を行います。Data Cloud ソースレポートにダッシュボードコンポーネントを作成できるようになりました。Data Cloud コンポーネントのみに適用される検索条件を使用して結果を絞り込みます。また、同じダッシュボードに両方のデータソースを含めて、CRM と Data Cloud から同時にインサイトを収集します。たとえば、Data Cloud から最も成功したメールキャンペーン、CRM から最もパフォーマンスの高い商品に関する情報を並べて比較します。

Lightning ダッシュボードの所有権の移行 (ベータ)

職務が変わった場合や、ダッシュボード作成者が組織を離れた場合、ダッシュボード所有権を移行することで、Lightning ダッシュボードへの継続的な更新を可能にします。新しい所有者はダッシュボードのコンテンツを完全に制御できます。以前は、作成者が他の職務に異動した場合、ダッシュボードをコピーまたは再作成する必要がありました。

集計項目を含む Lightning レポートを作成時に視覚化

PARENTGROUPVAL または PREVGROUPVAL 関数を含む集計項目が Lightning レポートでどのように使用されるかを一目で確認できます。強化された集計数式ビルダーでグルーピングオプションを選択すると、プレビュー画像が即座に更新され、数式がレポートにどのように適用されるかが表示されます。この機能は、これまで Salesforce Classic でのみ利用可能でしたが、Lightning Experience でも利用できるようになりました。

[分析] タブからレポートとダッシュボードを複数のタブで開く

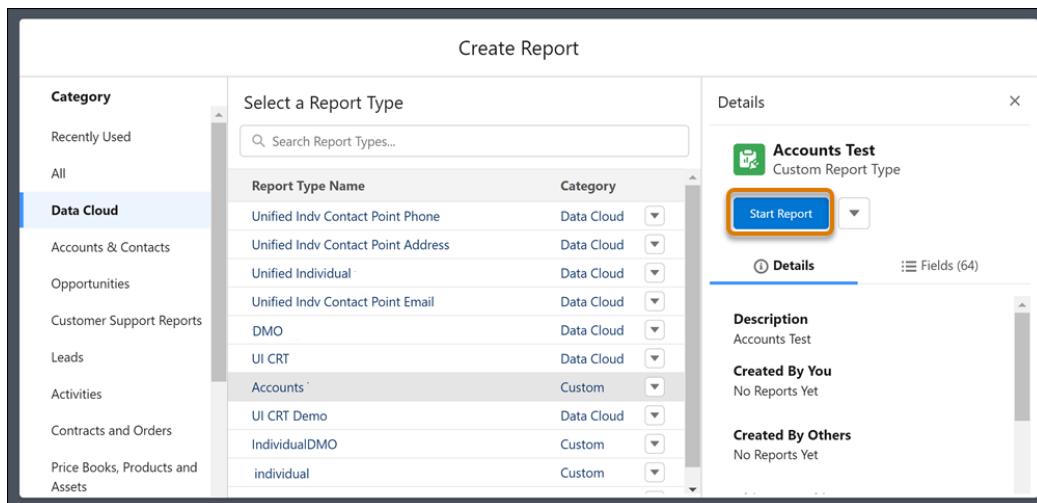
複数のレポートとダッシュボードを個々のタブで開くことができるようになりました。以前は、[分析] タブで一度に 1 つのレポートのみを開くことができました。作業をより適切に整理して、さまざまな分析に同時に取り組むことができます。

Data Cloud レポートでビジネスに関する質問の答えを見つける

1つまたは複数の関連するデータモデルオブジェクトに関するレポートを簡単に作成して、ビジネスのどの領域に重点を置くべきかを決定できます。たとえば、ロイヤルティプログラム DMO に関するレポートを作成して、どのプログラムが最も収益を上げているかを確認します。レポート内のレコードのグループ化、絞り込み、集計を行い、ほぼリアルタイムの情報を取得して他のユーザーと共有できます。

対象: この変更は、Genie Data Platform Starter ライセンスがある Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

方法: [レポート] タブで、[新規レポート] をクリックします。DataCloud レポートカテゴリで、作成するオブジェクトレコードを選択し、[レポートを開始] をクリックします。



関連トピック:

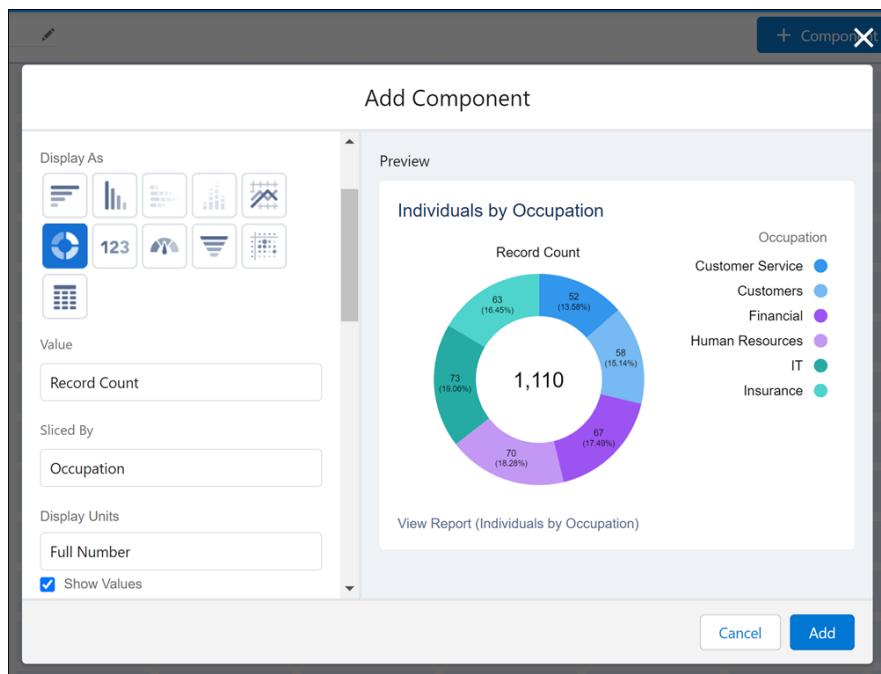
[Salesforce ヘルプ: Data Cloud のレポートおよびダッシュボード: 概要 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ダッシュボードでの主要な Data Cloud 評価指標の強調表示と共有

Data Cloud レポートの KPI とトレンドをダッシュボードで視覚化して、迅速にビジネス上の意思決定を行います。Data Cloud ソースレポートにダッシュボードコンポーネントを作成できるようになりました。Data Cloud コンポーネントのみに適用される検索条件を使用して結果を絞り込みます。また、同じダッシュボードに両方のデータソースを含めて、CRM と Data Cloud から同時にインサイトを収集します。たとえば、Data Cloud から最も成功したメールキャンペーン、CRM から最もパフォーマンスの高い商品に関する情報を並べて比較します。

対象: この変更は、Genie Data Platform Starter ライセンスがある Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

方法: [ダッシュボード] タブで [新規ダッシュボード] をクリックします。ダッシュボードに名前を付けてフォルダーに保存します。[+ コンポーネント] をクリックして、コンポーネントの Data Cloud レポートを選択します。コンポーネントの設定を指定し、ダッシュボードに追加します。アクセスレベルに基づいてユーザーがどのダッシュボードコンポーネントを表示できるかを制限する場合は、ログインユーザーを実行ユーザーとする動的ダッシュボードを使用します。ダッシュボードに登録して変更の最新情報を把握します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Data Cloud のレポートおよびダッシュボード: 概要 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Lightning ダッシュボードの所有権の移行 (ベータ)

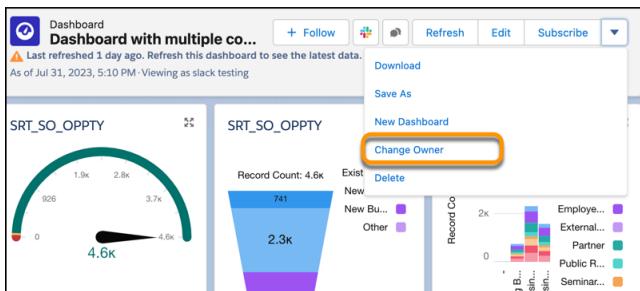
職務が変わった場合や、ダッシュボード作成者が組織を離れた場合、ダッシュボード所有権を移行することで、Lightning ダッシュボードへの継続的な更新を可能にします。新しい所有者はダッシュボードのコンテンツを完全に制御できます。以前は、作成者が他の職務に異動した場合、ダッシュボードをコピーまたは再作成する必要がありました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、「すべてのデータの参照」または「私のチームのダッシュボードの参照」権限が必要です。「すべてのデータの参照」では、所有者を組織内の任意のユーザーに変更できます。「私のチームのダッシュボードの参照」では、チームのロール階層で自分よりも上位の任意のユーザーとの間で所有者を変更できます。また、ダッシュボードが含まれるフォルダーへの編集アクセス権または管理アクセス権も必要です。新しい所有者には、ダッシュボードフォルダーへの編集アクセス権が付与されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「レポートおよびダッシュボードの設定」と入力し、[レポートおよびダッシュボードの設定] を選択します。[レポートおよびダッシュボードの設定] ページで、[ユーザーによるダッシュボード所有者の変更を許可 (Lightning Experienceのみ)] を選択します。次に、[ダッシュボード] タブまたは開いているダッシュボードで、[所有者を変更] を選択します。

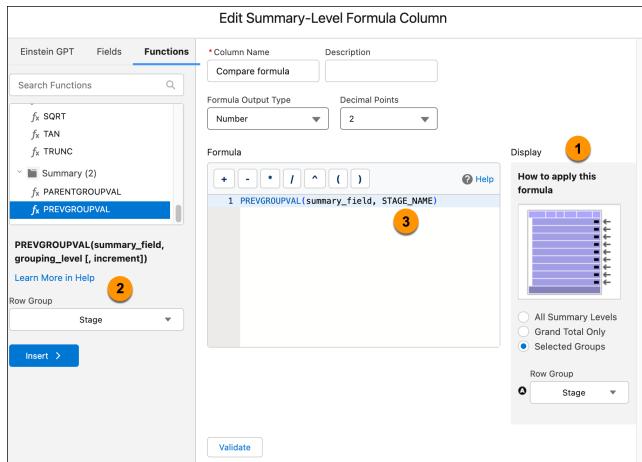


集計項目を含む Lightning レポートを作成時に視覚化

PARENTGROUPVAL または PREVGROUPVAL 関数を含む集計項目が Lightning レポートでどのように使用されるかを一目で確認できます。強化された集計式ビルダーでグルーピングオプションを選択すると、プレビュー画像が即座に更新され、数式がレポートにどのように適用されるかが表示されます。この機能は、これまで Salesforce Classic でのみ利用可能でしたが、Lightning Experience でも利用できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 比較するグルーピングを含むレポートを編集します。集計式ビルダーで、PARENTGROUPVAL または PREVGROUPVAL 関数を選択します。[表示] エリア (1) で、プレビュー画像を参考にして数式の適用方法を設定します。次に、[関数] パネル (2) で、含めるグループパラメーター値を選択します。式 (3) に関数を挿入すると、選択したパラメーターが追加されます。

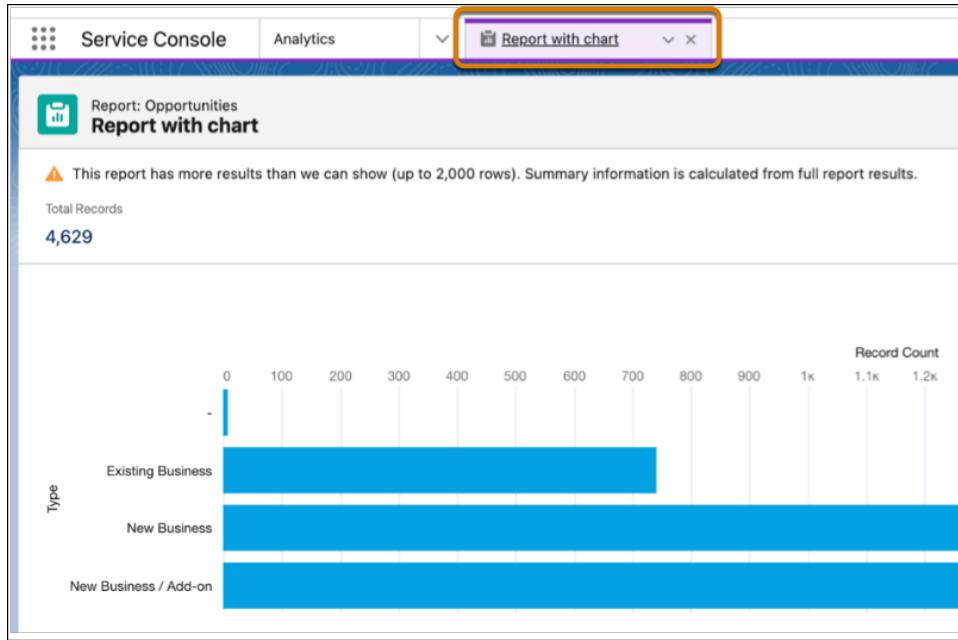


[分析] タブからレポートとダッシュボードを複数のタブで開く

複数のレポートとダッシュボードを個々のタブで開くことができるようになりました。以前は、[分析]タブで一度に1つのレポートのみを開くことができました。作業をより適切に整理して、さまざまな分析に同時に取り組むことができます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。CRM Analytics アセットは有料オプションで利用できます。

方法: アプリケーションランチャーから、[Analytics]を見つけて選択し、複数のレポートとダッシュボードをクリックすると、それらが個別のタブで表示されます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Analytics ホームでのレポートとダッシュボードの管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

CRM Analytics

複数のデータモデルオブジェクトを1つのダッシュボードクエリに結合します。カスタムテーマとレイアウトの同期を使用してデバイス全体でブランド設定とレイアウトを統合します。Analytics For Communications アプリケーションを使用してプロセスと業務効率を改善します。ステージングされたデータを使用して複数のレシピの実行時間を短縮します。

このセクションの内容:

CRM Analytics の視覚化とダッシュボードの作成

テーブルページネーションを使用してデータを迅速に探索します。カスタムテーマとレイアウトの同期を使用してブランド設定とレイアウトの統合および更新を行います。ユーザーが並び替えることができる繰り返しウィジェットとリセットできるナビゲーションを使用して環境を合理化します。

事前作成済みの業種分析アプリケーション

Analytics for Communications - Business アプリケーションの新しいダッシュボードを使用して、業務を完全に可視化し、インサイトを取得します。

Analytics データインテグレーション

データセットの代わりにステージングされたデータを使用して、処理時間を短縮します。Google アナリティクス 4 コネクタで Google の新しいイベントベースの GA4 プロパティフレームワークを利用します。Salesforce Bulk API 2.0 を使用して、より大きなデータオブジェクトを読み込みます。

CRM Analytics の視覚化とダッシュボードの作成

テーブルページネーションを使用してデータを迅速に探索します。カスタムテーマとレイアウトの同期を使用してブランド設定とレイアウトの統合および更新を行います。ユーザーが並び替えることができる繰り返しウィジェットとリセットできるナビゲーションを使用して環境を合理化します。

このセクションの内容:

[ページネーションによるテーブルのパフォーマンスの向上](#)

ダッシュボードテーブルの応答性がさらに高くなり、読み込みがより高速になりました。テーブル結果のページネーションにより、最初に読み込まれるデータ量が制限されます。ユーザーがテーブル結果のページ操作を行うと、追加のデータが必要に応じて読み込まれます。

[\[選択をクリア\] インタラクションを使用したダッシュボードナビゲーションのリセット](#)

ダッシュボードユーザーが1回のクリックで、選定されたジャーニーの開始位置にすばやく戻れるようになります。ナビゲーションフローを作成するときに、[選択をクリア] アクションを追加できるようになりました。ナビゲーションフローを深くドリルダウンした後に、ユーザーは簡単に初期状態に戻すことができます。[選択をクリア] は、テキストウィジェットでのみ使用できます。

[実行時の繰り返しウィジェットカードの並び替え](#)

実行時に繰り返しカードを並び替え手目的の順序で評価指標を表示します。閲覧者がカードの配置方法を選択できるように、ディメンション項目を並び替えオプションとして使用します。以前は、地域で並び替えられたカードを表示する閲覧者と金額で並び替えられたカードを表示する閲覧者がいる場合、要求ごとにソースクエリを変更する必要がありました。

[結合を使用したダイレクトデータの複数のデータモデルオブジェクトの探索\(正式リリース\)](#)

データが正規化され、関連情報が別々のデータモデルオブジェクト(DMO)に存在する場合、DMO レコードを容易に分析できるようになりました。複数の DMO のインサイトを同時に探索して取得するには、これらのオブジェクトを1つのダッシュボードクエリで結合します。また、結合したデータを絞り込み、条件付き書式を使用して重要なレコードを強調表示することもできます。以前は、複数の DMO でデータを分析するためのカスタム SQL クエリを記述していました。

[テーマを使用した一貫性のあるダッシュボードの作成](#)

形式(ブランドの色や境界線のスタイルなど)を選択してウィジェットを作成する作業がテーマを使用することでさらに簡単になりました。スタイルを作成し、ダッシュボードの他のウィジェットで継承できるようにテーマとして保存します。ウィジェットごとにデザインのプロパティを最初から作成する代わりに、ダッシュボードのコンテンツや機能に集中できるようになりました。

[レイアウト全体の変更の簡単な同期](#)

ダッシュボードレイアウトでウィジェットを追加する場合も更新する場合も、レイアウトの同期を使用してダッシュボードの他のレイアウトとの一貫性を維持できます。たとえば、モバイルレイアウトに追加されたウィジェットは、自動的にデスクトップレイアウトにも追加されます。

[ダッシュボードのインタラクションを使用した画面フローの起動\(ベータ\)](#)

フローのインタラクションを使用して Analytics ダッシュボードから画面フローを開始します。たとえば、ケースを追跡するダッシュボードで、1回のクリックでカスタマーヘルプ要請画面フローを起動できるテキストウィジェットを設計します。フローのインタラクションによって動的値が画面フローに渡されるため、ユーザーは作業を行うためにダッシュボードを離れる必要がありません。フローのインタラクションは、テキストウィジェットでのみ使用できます。

データの予測に複数の変数を使用

多変量時系列 SAQL クエリを使用して、将来のデータポイントを予測します。新しい arimax ステートメントを使用すると、複数の変数を使用して将来のデータポイントを予測できます。

準結合と反結合を使用した効率的なクエリの作成(ベータ)

簡潔なクエリを作成してパフォーマンスを向上させれば、条件項目の制限を心配する必要がなくなります。

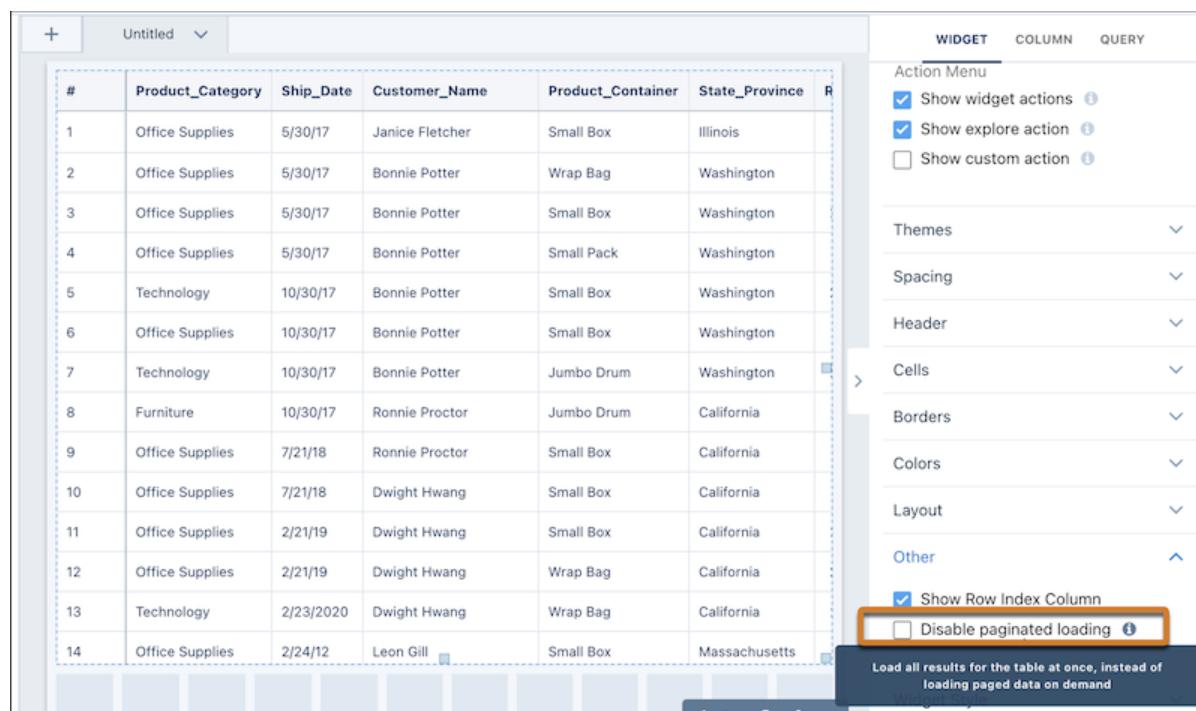
1つの SAQL クエリに `join_type` 指定子を設定した `join` ステートメントを使用して、異なるデータセットから準結合または反結合の結果を生成します。

ページネーションによるテーブルのパフォーマンスの向上

ダッシュボードテーブルの応答性がさらに高くなり、読み込みがより高速になりました。テーブル結果のページネーションにより、最初に読み込まれるデータ量が制限されます。ユーザーがテーブル結果のページ操作を行うと、追加のデータが必要に応じて読み込まれます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: テーブルページネーションはデフォルトで有効です。テーブルページネーションを無効にするには、ダッシュボードを編集してウィジェットのプロパティを更新します。

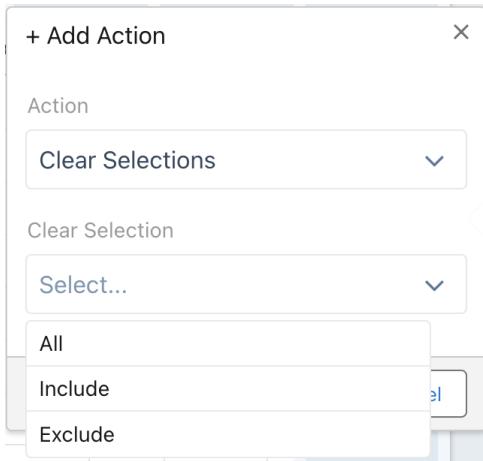


[選択をクリア] インタラクションを使用したダッシュボードナビゲーションのリセット

ダッシュボードユーザーが1回のクリックで、選定されたジャーニーの開始位置にすばやく戻れるようになります。ナビゲーションフローを作成するときに、[選択をクリア] アクションを追加できるようになりました。ナビゲーションフローを深くドリルダウンした後に、ユーザーは簡単に初期状態に戻すことができます。[選択をクリア] は、テキストウィジェットでのみ使用できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ナビゲーションフローを作成するには、ダッシュボードエディターで、ウィジェットを選択します。ウィジェットプロパティパネルの [インタラクション] タブで、[選択をクリア] アクションを追加します。

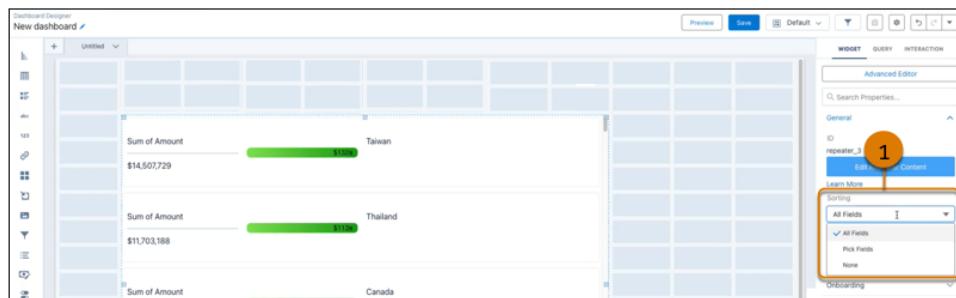


実行時の繰り返しウィジェットカードの並び替え

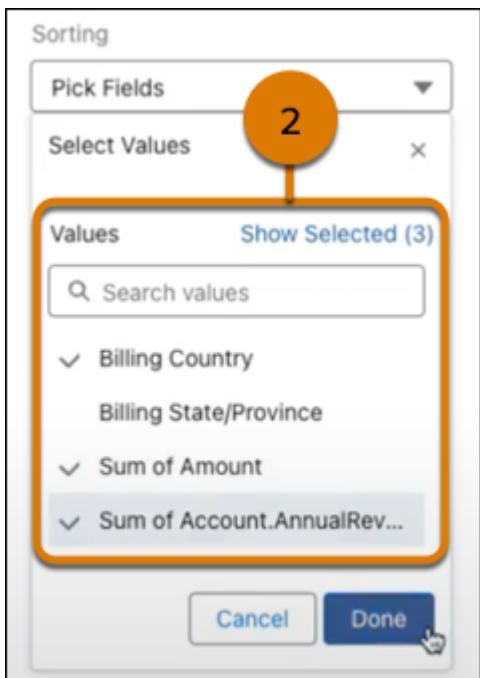
実行時に繰り返しカードを並び替え手目的の順序で評価指標を表示します。閲覧者がカードの配置方法を選択できるように、ディメンション項目を並び替えオプションとして使用します。以前は、地域で並び替えられたカードを表示する閲覧者と金額で並び替えられたカードを表示する閲覧者がいる場合、要求ごとにソースクエリを変更する必要がありました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

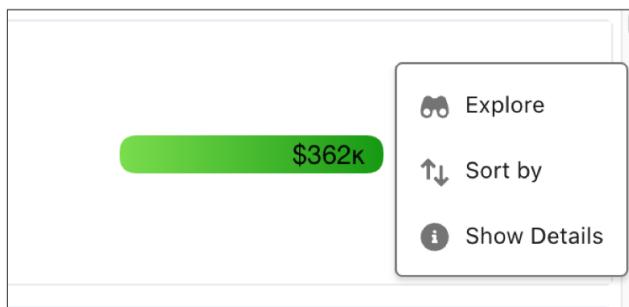
方法: 繰り返しウィジェットプロパティで [並び替え](1) をクリックします。すべてのディメンション項目を並び替えオプションとして追加するには、[すべての項目] を選択します。



閲覧者が選択できる並び替え項目を制限するには、[項目を選択] を選択します。



これにより、閲覧者は繰り返しウィジェットで[並び替え]をクリックして、カードを並び替えることができます。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ 繰り返しウィジェットを使用した表形式データの変換\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

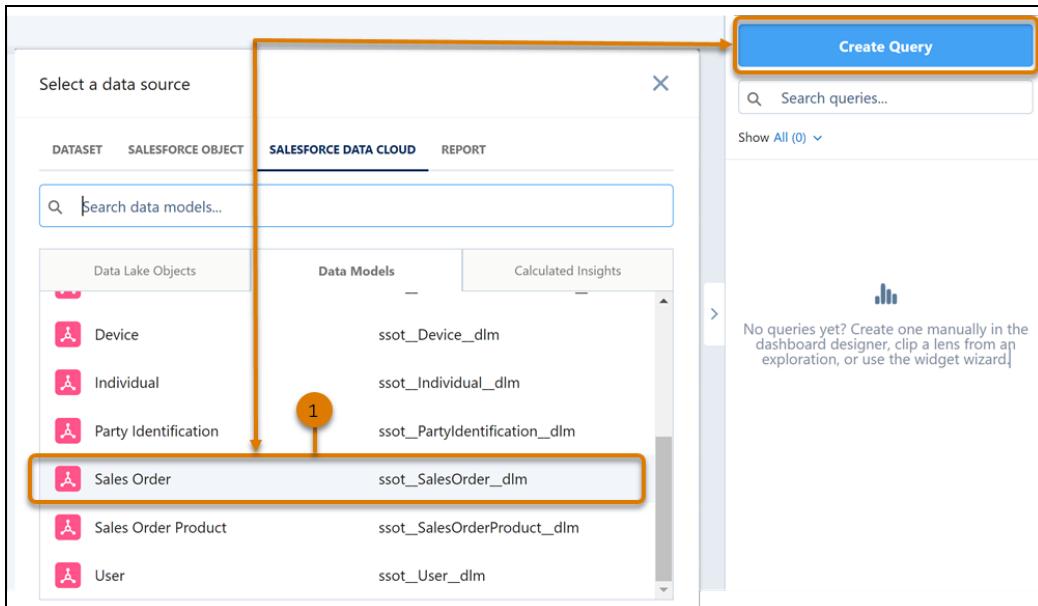
結合を使用したダイレクトデータの複数のデータモデルオブジェクトの探索(正式リリース)

データが正規化され、関連情報が別々のデータモデルオブジェクト(DMO)に存在する場合、DMO レコードを容易に分析できるようになりました。複数の DMO のインサイトを同時に探索して取得するには、これらのオブジェクトを1つのダッシュボードクエリで結合します。また、結合したデータを絞り込み、条件付き書式を使用して重要なレコードを強調表示することもできます。以前は、複数の DMO でデータを分析するためのカスタム SQL クエリを記述していました。

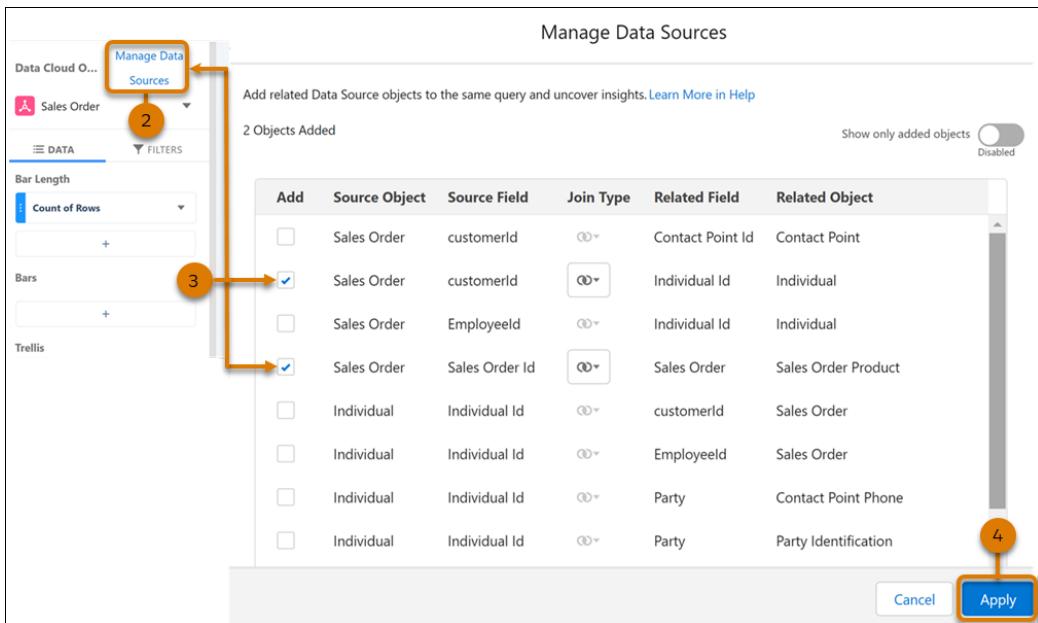
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザー: CRM Analytics Direct Data for Data Cloud は、Data Cloud ライセンスを持つユーザーが使用できます。

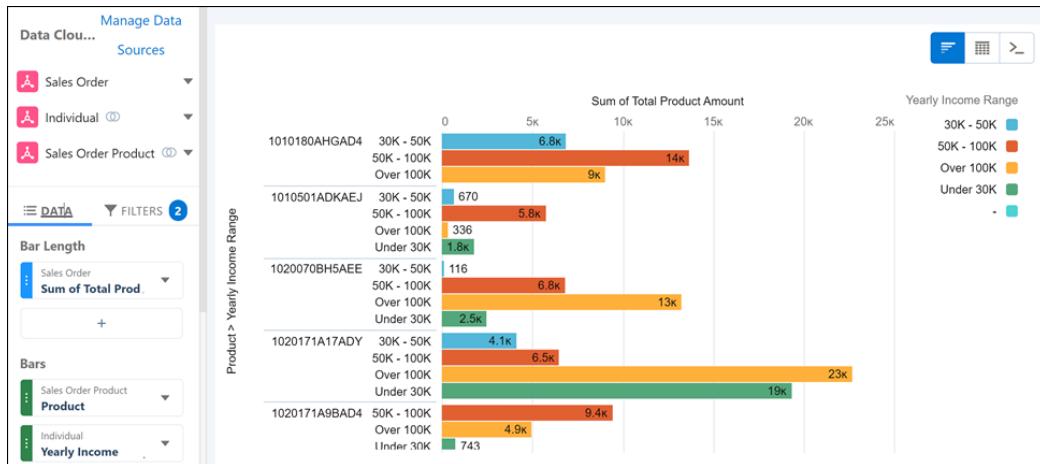
方法: たとえば、販売注文データを商品および顧客の年間収入と比較するには、ダッシュボードデザイナーで販売注文 DMO (1) に対するクエリを作成します。



次に、レンズモードで[データソースを管理](2)をクリックします。使用する関連する個人DMOおよび商品DMOを追加して(3)、変更を適用します(4)。



結合した DMO に対してクエリを作成します。



テーマを使用した一貫性のあるダッシュボードの作成

形式(ブランドの色や境界線のスタイルなど)を選択してウィジェットを作成する作業がテーマを使用することで簡単に簡単になりました。スタイルを作成し、ダッシュボードの他のウィジェットで継承できるようにテーマとして保存します。ウィジェットごとにデザインのプロパティを最初から作成する代わりに、ダッシュボードのコンテンツや機能に集中できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

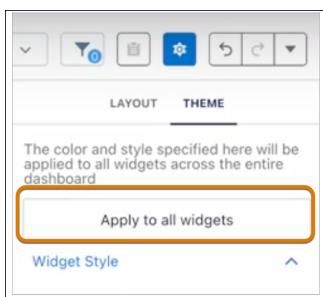
方法: ダッシュボードの [ダッシュボードのプロパティ] (1) ボタンをクリックします。



[テーマ] タブ (2) で、スタイル (3) を作成します。



テーマは、すべての既存のウィジェットと新規ウィジェットに適用されます。[すべてのウィジェットに適用]をクリックして、別のテーマが設定されているウィジェットにテーマを適用します。



関連トピック:

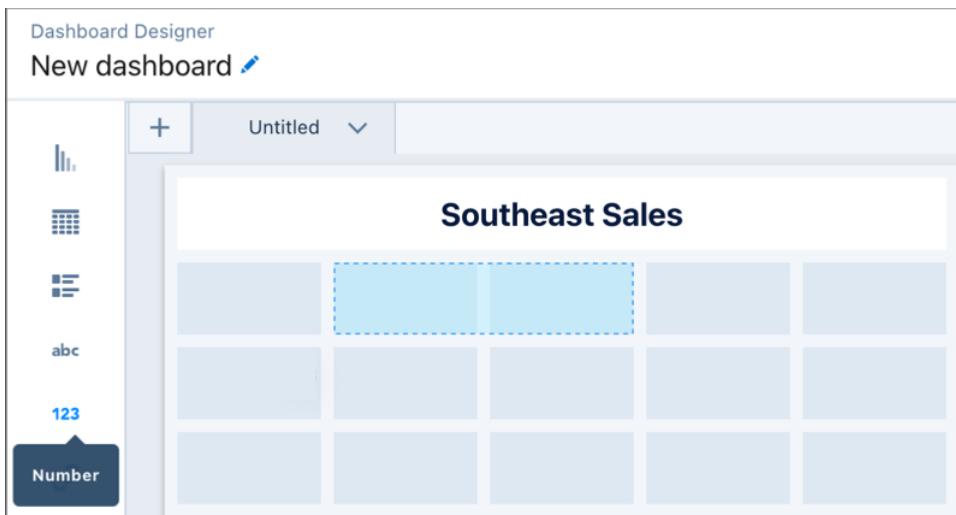
[Salesforceヘルプ:ダッシュボードのプロパティ\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

レイアウト全体の変更の簡単な同期

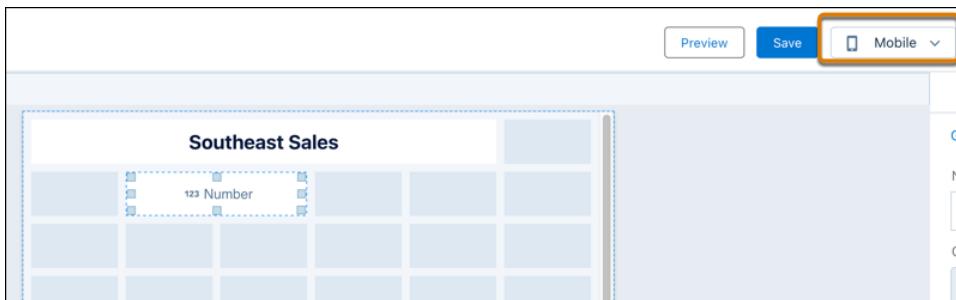
ダッシュボードレイアウトでウィジェットを追加する場合も更新する場合も、レイアウトの同期を使用してダッシュボードの他のレイアウトとの一貫性を維持できます。たとえば、モバイルレイアウトに追加されたウィジェットは、自動的にデスクトップレイアウトにも追加されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

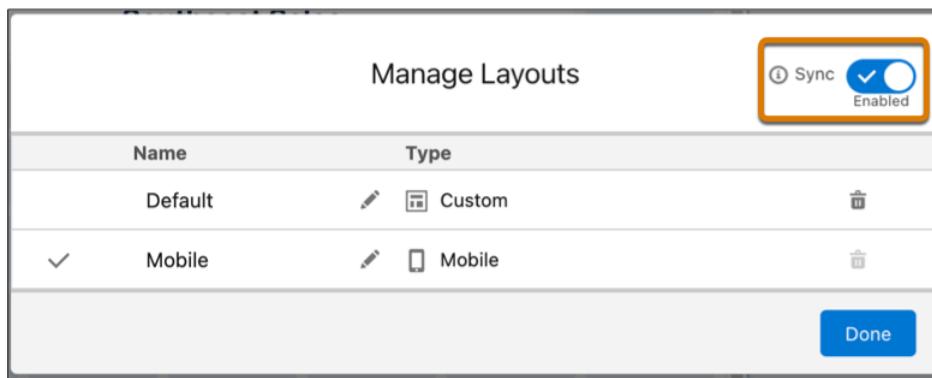
方法: ウィジェットをダッシュボードレイアウトに追加するか、ウィジェットプロパティを編集します。



元のレイアウトで行われた変更は、別のダッシュボードレイアウトを開いたり、作成したりするときに自動的に同期されます。



ダッシュボードレイアウト間の同期を無効にするには、[レイアウトを管理] を使用します。



ダッシュボードのインタラクションを使用した画面フローの起動 (ベータ)

フローのインタラクションを使用して Analytics ダッシュボードから画面フローを開始します。たとえば、ケースを追跡するダッシュボードで、1回のクリックでカスタマーヘルプ要請画面フローを起動できるテキスト ウィジェットを設計します。フローのインタラクションによって動的値が画面フローに渡されるため、ユーザーは作業を行うためにダッシュボードを離れる必要がありません。フローのインタラクションは、テキスト ウィジェットでのみ使用できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: ダッシュボードエディターで、フローのインターラクションを追加するウィジェットを選択します。ウィジェットプロパティパネルの [インターラクション] タブで、[フローを開始] アクションを追加し、カスタム画面フローを選択します。

データの予測に複数の変数を使用

多变量時系列 SAQL クエリを使用して、将来のデータポイントを予測します。新しい arimax ステートメントを使用すると、複数の変数を使用して将来のデータポイントを予測できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

[Analytics SAQL 開発者ガイド: arimax \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

準結合と反結合を使用した効率的なクエリの作成 (ベータ)

簡潔なクエリを作成してパフォーマンスを向上させれば、条件項目の制限を心配する必要がなくなります。1つのSAQL クエリに join_type 指定子を設定した join ステートメントを使用して、異なるデータセットから準結合または反結合の結果を生成します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: CRM Analytics SAQL エディターを使用してクエリを作成します。

この例では、準結合ステートメントを使用して、商談が 10 件以上ある取引先を照会します。

```
account = load \"accounts\";
opp = load \"opportunities\";
opp = group opp by accountId;
opp = foreach opp generate accountId, count() as count;
opp = filter opp by count > 10;
q = join account by (id) semi, opp by (accountId)
```

この例では、反結合ステートメントを使用して、商談がない取引先を照会します。

```
account = load \"accounts\";  
opp = load \"opportunities\";  
q = join account by (id) anti, opp by (accountId)
```

関連トピック:

[Analytics SAQL 開発者ガイド: join semi および anti \(ベータ\) \(リリースプレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

事前作成済みの業種分析アプリケーション

Analytics for Communications - Business アプリケーションの新しいダッシュボードを使用して、業務を完全に可視化し、インサイトを取得します。

このセクションの内容:

[Process Visualizations を使用した見積-to-注文プロセスの最適化](#)

見積プロセスを包括的に把握し、各ステップを分析して欠損データを識別し、タスクの完了を合理化します。process visualization ダッシュボードは、見積-to-注文ガイド付き設定にシームレスに統合され、注意が必要な領域を識別するのに役立ちます。

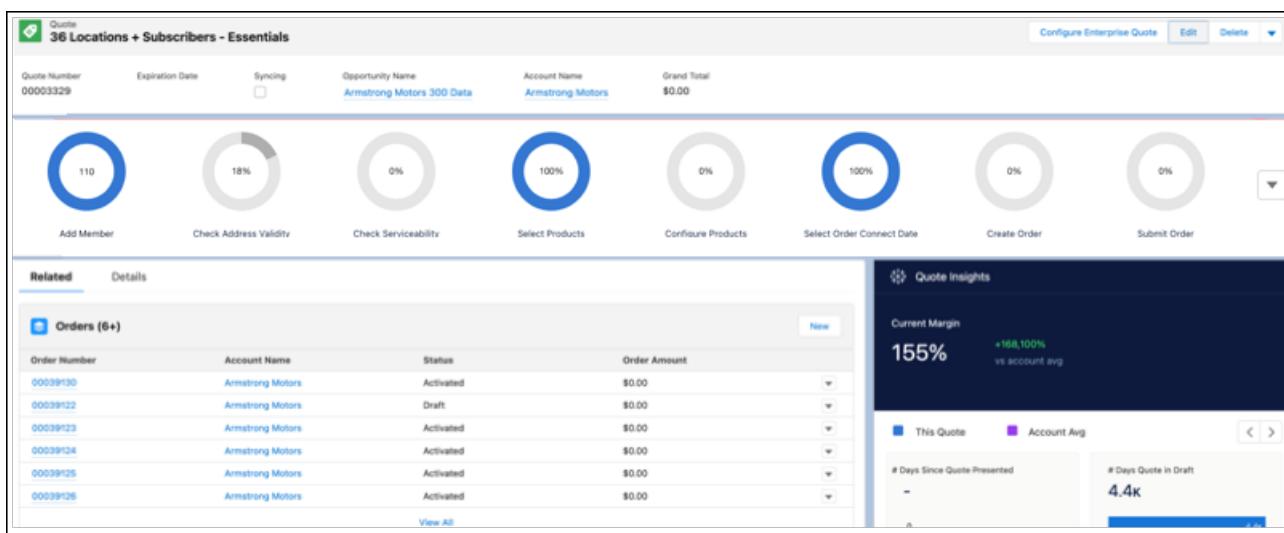
[Analytics ダッシュボードを使用した業務の合理化](#)

大企業および中小企業 (SMB) 向けの self-service ダッシュボードを使用して、業務に関する詳細なインサイトを取得します。調達マネージャーやカスタマーサービス担当者は、セルフサービスポータルから簡単にダッシュボードにアクセスして、顧客注文の詳細、ケース情報、納入商品配分を視覚的に一瞬で把握できます。SMB は、SMB コンソール内でダッシュボードにアクセスして、すべての取引先固有の情報を取得できます。

[Process Visualizations を使用した見積-to-注文プロセスの最適化](#)

見積プロセスを包括的に把握し、各ステップを分析して欠損データを識別し、タスクの完了を合理化します。process visualization ダッシュボードは、見積-to-注文ガイド付き設定にシームレスに統合され、注意が必要な領域を識別するのに役立ちます。

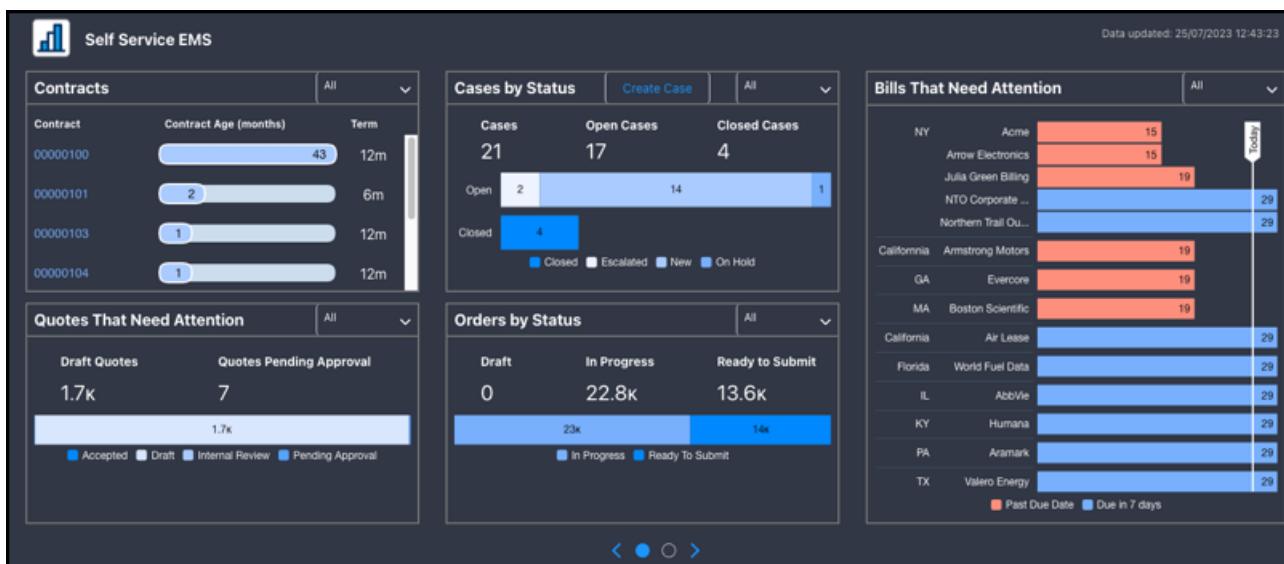
対象: この変更は、Communications Cloud と CRM Analytics が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。



Analytics ダッシュボードを使用した業務の合理化

大企業および中小企業(SMB)向けの self-service ダッシュボードを使用して、業務に関する詳細なインサイトを取得します。調達マネージャーやカスタマーサービス担当者は、セルフサービスポータルから簡単にダッシュボードにアクセスして、顧客注文の詳細、ケース情報、納入商品配分を視覚的に一瞬で把握できます。SMB は、SMB コンソール内でダッシュボードにアクセスして、すべての取引先固有の情報を取得できます。

対象: この変更は、Communications Cloud と CRM Analytics が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。



Analytics データインテグレーション

データセットの代わりにステージングされたデータを使用して、処理時間を短縮します。Google アナリティクス 4 コネクタで Google の新しいイベントベースの GA4 プロパティフレームワークを利用します。Salesforce Bulk API 2.0 を使用して、より大きなデータオブジェクトを読み込みます。

このセクションの内容:

[ステージングされたデータを使用した順次レシピの迅速な実行\(正式リリース\)](#)

ステージングされたデータをデータセットの代わりに使用して、データ戦略に複数のレシピが含まれる場合の処理時間を削減します。最初のレシピで結果をステージングされたデータとして出力し、後続のレシピではステージングされたデータを入力ノードで使用できます。たとえば、地域固有のそれぞれの売上予測レシピで取引先と商談のデータをマージするのではなく、1回だけマージし、結果をステージングされたデータとして出力して、そのデータを他のレシピで使用します。

[Google アナリティクス 4への接続\(正式リリース\)](#)

Google アナリティクス 4に移行して、引き続き Google アナリティクスデータを読み込んで、Google の新しいイベントベースの GA4 プロパティフレームワークを利用します。Google アナリティクス 4 では、ファーストパーティデータと Google データを使用して、複数のサイトとアプリケーションをまとめて理解し、分析します。Google アナリティクス 4 はユニバーサルアナリティクスを置き換えるものです。2023 年 7 月 1 日、ユニバーサルアナリティクスのすべての標準プロパティでデータの処理が停止します。

[Salesforce 外部コネクタでの同期タイムアウト問題の防止](#)

Salesforce 外部コネクタを使用しているときに大きなデータオブジェクトでタイムアウトの問題が発生した場合には、Salesforce Bulk API 2.0 と新しい BULKV2 API 種別を使用します。

[Databricks への接続\(ペータ\)](#)

Databricks からデータマネージャーにデータを同期するには、Databricks コネクタを使用してリモート接続を作成します。

[Amazon Athena への接続\(ペータ\)](#)

リモート接続を作成して、Amazon Athena のデータをデータマネージャーに同期します。接続された各オブジェクトの詳細プロパティに AWS セキュリティログイン情報を追加します。

[増分アップロードによるデータの迅速な追加\(ペータ\)](#)

外部データ API を使用するときに、CSV の増分を読み込んでデータのアップロード時間を短縮します。データを迅速に登録すれば、全体的な実行時間を大幅に増加させることなく、より多くのデータを既存のデータセットに取り込むことができます。

[Snowflake に匹敵する OAuth 機能の拡充](#)

すべての Snowflake コネクタで OAuth を活用します。Snowflake 出力コネクタと Sync Out for Snowflake に、Snowflake 入力コネクタに対応する完全な OAuth 機能が備わり、一貫性のあるセキュアな接続環境が実現します。

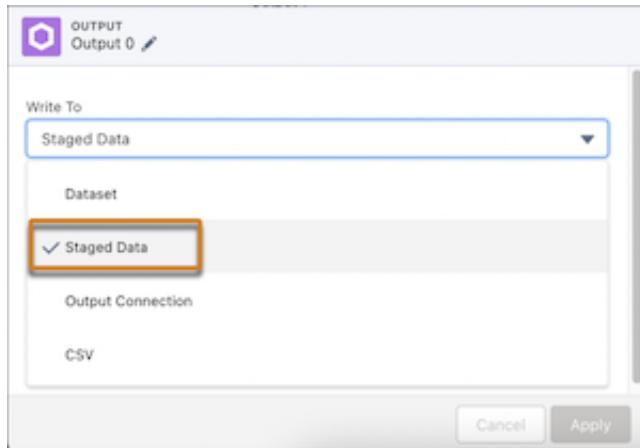
ステージングされたデータを使用した順次レシピの迅速な実行(正式リリース)

ステージングされたデータをデータセットの代わりに使用して、データ戦略に複数のレシピが含まれる場合の処理時間を削減します。最初のレシピで結果をステージングされたデータとして出力し、後続のレシピではステージングされたデータを入力ノードで使用できます。たとえば、地域固有のそれぞれの売上予測レシピで取引先と商談のデータをマージするのではなく、1回だけマージし、結果をステージングされたデータとして出力して、そのデータを他のレシピで使用します。

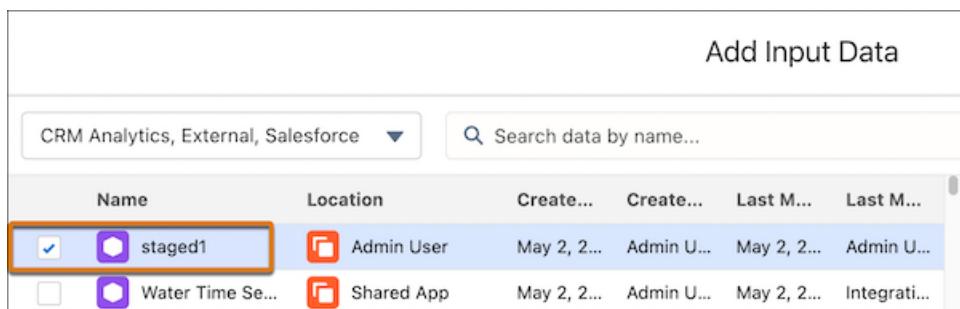
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この機能は Shield Platform では使用できません。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Analytics」と入力し、[設定] を選択します。[レシピでのステージングされたデータの作成を許可] を選択し、保存します。

レシピエディターで、レシピのシーケンスで最初のレシピを作成し、出力ノードを追加して、ステージングされたデータに書き込みます。



2番目のレシピを作成します。入力データを追加するときに、最初のレシピからのステージングされたデータを選択します。



引き続き、通常どおりレシピを作成して保存します。レシピシーケンスが実行されると、ステージングされたデータが入力元として使用されます。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:ステージングされたデータ出力を使用した順次レシピの実行\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Google アナリティクス 4への接続(正式リリース)

Google アナリティクス 4に移行して、引き続き Google アナリティクスデータを読み込んで、Google の新しいイベントベースの GA4 プロパティフレームワークを利用します。Google アナリティクス 4では、ファーストパーティデータと Google データを使用して、複数のサイトとアプリケーションをまとめて理解し、分析します。Google アナリティクス 4はユニバーサルアナリティクスを置き換えるものです。2023年7月1日、ユニバーサルアナリティクスのすべての標準プロパティでデータの処理が停止します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: データマネージャーを使用して、Google アナリティクス 4 接続を作成します。接続された各オブジェクトの詳細プロパティに Google アナリティクスプロパティ ID を追加します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Google アナリティクス 4 接続 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[外部リンク: ユニバーサルアナリティクスは廃止されます](#)

[外部リンク: \[UA→GA4\] Universal Analytics versus Google Analytics 4 data \(\[UA→GA4\] ユニバーサル アナリティクスと Google アナリティクス 4 のデータ\)](#)

Salesforce 外部コネクタでの同期タイムアウト問題の防止

Salesforce 外部コネクタを使用しているときに大きなデータオブジェクトでタイムアウトの問題が発生した場合には、Salesforce Bulk API 2.0 と新しい BULKV2 API 種別を使用します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Salesforce 外部コネクタを作成するときに、[API 種別] に「*BULKV2*」を使用します (1)。[サービス URL] のバージョン番号は 47.0 以降にします (2)。

Set Up Your Connection

* Connection Name
Canadian Sales Data

* Developer Name
canadian_sales_data

* Description
Org with Canadian sales data

* Username
admin@example.com

* Password
.....

* API Type
BULKV2

* Service URL
https://login.salesforce.com/services/Soap/u/47.0

1

2

Previous **Save and Test**

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce 外部接続 \(リリースレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Databricks への接続 (ベータ)

Databricks からデータマネージャーにデータを同期するには、Databricks コネクタを使用してリモート接続を作成します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: データマネージャーを使用して Databricks 接続を作成します。接続された各オブジェクトの詳細プロパティに、Databricks のパーソナルアクセストークン、サーバー、HTTPPath、およびデータベース値を追加します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Databricks 接続 \(ベータ\) \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Amazon Athena への接続 (ベータ)

リモート接続を作成して、Amazon Athena のデータをデータマネージャーに同期します。接続された各オブジェクトの詳細プロパティに AWS セキュリティログイン情報を追加します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。
ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Amazon Athena 接続 \(ベータ\) \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

増分アップロードによるデータの迅速な追加 (ベータ)

外部データ API を使用するときに、CSV の増分を読み込んでデータのアップロード時間を短縮します。データを迅速に登録すれば、全体的な実行時間を大幅に増加させることなく、より多くのデータを既存のデータセットに取り込むことができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。
ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: Analytics 外部データ API を使用してデータを読み込むときは、モードを増分に設定します。

関連トピック:

[Analytics 外部データ API 開発者ガイド: データの結合](#)

Snowflake に匹敵する OAuth 機能の拡充

すべての Snowflake コネクタで OAuth を活用します。Snowflake 出力コネクタと Sync Out for Snowflake に、Snowflake 入力コネクタに対応する完全な OAuth 機能が備わり、一貫性のあるセキュアな接続環境が実現します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での CRM Analytics に適用されます。CRM Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。この変更は、Lightning Experience の Salesforce データパイプラインにも適用されます。Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

インテリジェントな Analytics アプリケーション

Revenue Intelligence を使用して、営業戦略を最適化し、パイプラインの変更を追跡します。Service Intelligence を使用して、パフォーマンスの向上、業務の監視、よくある顧客要求の迅速な検出を実現します。

このセクションの内容:

[Revenue Intelligence](#)

Revenue Intelligence はパイプラインインスペクションの簡単に視覚化できるパイプラインの進行状況フローフラフを使用して、CRM Analytics ダッシュボードとアナリティクスを組み合わせたデータ駆動のセールスソリューションですが、それだけではありません。

[Service Intelligence](#)

Service Intelligence は、コンタクトセンターの主要業績指標を表示するデータ駆動型ソリューションです。

Revenue Intelligence

Revenue Intelligence はパイプラインインスペクションの簡単に視覚化できるパイプラインの進行状況フローフラフを使用して、CRM Analytics ダッシュボードとアナリティクスを組み合わせたデータ駆動のセールスソリューションですが、それだけではありません。

関連トピック:

[Revenue Intelligence](#)

Service Intelligence

Service Intelligence は、コンタクトセンターの主要業績指標を表示するデータ駆動型ソリューションです。

関連トピック:

[Service Intelligence](#)

Tableau

Tableauを使用して、数回クリックするだけでデータの分析、探索、意思決定を行います。魅力的なビジュアライゼーションを作成し、Lightningページに埋め込んでワークフローで使用します。Tableauには、深いデータ探索を行うためのエンタープライズ分析プラットフォームソリューションがあります。

- **Tableau Cloud** は、安全で完全にホストされたクラウドベースのセルフサービスプラットフォームです。これを使用して、データの準備、作成、分析、共同作業、パブリッシュ、共有を行います。最新の更新については、[Tableau Cloud リリースノート](#)を参照してください。
- **Tableau Desktop** は、データ視覚化ツールです。直感的なドラッグアンドドロップインターフェースを使用して、隠れたインサイトを発見し、インパクトのあるビジネス上の意思決定を行います。最新の更新については、[Tableau Desktop と Web オーサリングリリースノート](#)を参照してください。
- **Tableau Prep** は、データ準備ツールです。これを使用して、Tableauでの分析用にデータのクリーンアップ、形成、結合を行います。最新の更新については、[Tableau Prep リリースノート](#)を参照してください。
- **Tableau Server** は、独自の環境にTableauをリリースするための安全なオンプレミスソリューションです。これを使用して、データの準備、作成、分析、共同作業、パブリッシュ、共有を行います。最新の更新については、[Tableau Server リリースノート](#)を参照してください。

Tableau製品についての詳細は、[Tableau ヘルプ](#)を参照してください。

Marketing Cloud Intelligence

Marketing Cloud Intelligence を使用してマーケティングデータを接続、ハーモナイズ、視覚化し、マーケティングデータに対してアクションを実行することで、キャンペーン内のパフォーマンスを最適化し、インサイトをリアルタイムで検出し、そのインサイトに対してアクションを実行します。

- [Marketing Cloud リリースノート](#)
- [Marketing Cloud Intelligence Data Pipelines リリースノート](#)
- [Marketing Cloud Intelligence ヘルプマップ](#)

コマース

Commerce Cloud の機能強化には、B2B および D2C Commerce、オムニチャネル在庫、Salesforce Order Management、Salesforce Payments の新機能と更新された機能が含まれています。

このセクションの内容:

[Salesforce B2B および D2C Commerce](#)

顧客が最大2,000個の品目をカートに追加できるようにします。Einstein生成AIで商品項目が強化され、頻繁に購入される品目がCommerceストアの顧客に表示されます。自動組織設定と合理化されたストア設定によって販売が迅速化されます。商品ページの待機時間の短縮、注文詳細へのゲストユーザーアクセス、マーケットの表示と設定に関する機能強化によってカスタマーエクスペリエンスを改善します。すべてのCMSワークスペースからメディアにアクセスしたり、カスタムURLスラッグでSEOを改善したりできます。顧客に代わって注文を実行し、セルフ登録エクスペリエンスを最適化します。

オムニチャネル在庫

品目を特定のロケーションからの配送の対象外にすることができますが、店舗受け取りは可能です。Transfer、Fulfill、Unreserve Inventory Reservation API の reservationId 項目を使用して、オムニチャネル在庫、注文管理、ストアフロントでの履行ライフサイクル全体を通して予約を追跡します。

Salesforce Order Management

代理注文環境の強化。商品の検索には、SKU や ID だけでなく、商品名や検索語を使用できます。在庫切れのエラーが発生する可能性を減らすために、商品は注文処理中に予約します。

Salesforce Payments

PayPal、Venmo、および口座振替方法(ACH、BECS、BACS など)を使用した支払を受け入れます。Starter での [今すぐ支払う] を使用して支払の使用を開始し、より詳細な設定が可能な [今すぐ支払う] ページを使用して顧客の支払環境を改善します。レコード共有を使用して、さまざまな支払レコードへのユーザーアクセスを管理します。支払ワークスペースに表示される B2C 支払データを生成します。

Salesforce B2B および D2C Commerce

顧客が最大 2,000 個の品目をカートに追加できるようにします。Einstein 生成 AI で商品項目が強化され、頻繁に購入される品目が Commerce ストアの顧客に表示されます。自動組織設定と合理化されたストア設定によって販売が迅速化されます。商品ページの待機時間の短縮、注文詳細へのゲストユーザーアクセス、マーケットの表示と設定に関する機能強化によってカスタマーエクスペリエンスを改善します。すべての CMS ワークスペースからメディアにアクセスしたり、カスタム URL スラッグで SEO を改善したりできます。顧客に代わって注文を実行し、セルフ登録エクスペリエンスを最適化します。

このセクションの内容:

より大きな購入のサポート

顧客は、カートで最大 2000 個の品目のチェックアウトを完了できるようになりました。Salesforce 組織の品目制限を引き上げるには、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

Commerce Einstein

Einstein が 1 ステップで複数の商品項目を生成できるようにします。新しい Einstein の [よく一緒に購入される商品] コンポーネントを追加して、顧客がカートで表示している商品に関連する他の商品を表示します。

機能強化されたコマース設定センターによるコマース用の組織の準備の簡易化

機能強化された設定センターでは、コマース機能の有効化、組織設定の定義、コマースオブジェクトのレイアウト調整、コマースレポートのインストールを実行できます。自動設定を使用した後に、すぐに販売を開始できます。

Commerce の簡単な設定による迅速な販売開始

いくつかのシンプルな質問に答えることで、簡単に販売チャネルを作成できます。バックグラウンドでサイト作成作業が行われるので待つ必要がなくなりました。B2B または B2C ストアもしくは再注文ポータルのどれを作成して営業プロセスまたはサービスプロセスに組み込むのかを選択します。再注文ポータルの場合は、新しいストア設定アシスタントを利用して、商品の追加や配送の設定といった作業を完了します。完了したら、目的のチャネル用に最適化されたランディングページに直接移動します。

コマース再注文ポータルへのブランド設定の追加

再注文ポータルをすばやくブランドに合わせます。ロゴをアップロードして、色やフォントを選択します。その後、すべてが再注文ページに適用されます。

ケイデンスを使用したコマース再注文ポータルへの招待の簡素化

ケイデンスを使用して、コマース再注文ポータルに取引先責任者を招待するように営業担当を誘導します。提供されているケイデンスには、営業担当がリピート顧客とすばやくエンゲージできるように、メールテンプレートが用意されています。また、このプロセスには、再注文ポータルで取引先責任者に提示する商品や価格を確認するためのステップも含まれています。

カードに品目を追加するときの待機時間の短縮

[迅速なカードへの追加]設定を有効にすることでLWRストアのショッピング体験をスピードアップします。この設定を有効にすると、商品ページとカードページの間で処理時間が分割されます。以前は、顧客がカードに商品を入れると、商品ページで長い処理時間が発生していました。LWRテンプレートを使用して作成された新しいストアでは、この設定はデフォルトで有効になっています。

最低リスト価格コンプライアンスの設定

プロモーションや値下げを通知する場合、過去30日間の商品の最低価格を表示することを求めるEUの規定を満たす必要があります。元の価格が表示されていて、それがリスト価格よりも高い場合、最低リスト価格も表示されます。B2Cストアでは、最低価格と価格調整を表示する必要があります。B2Bストアでは、ゲストユーザーの最低価格と価格調整を表示する必要はありませんが、ログインユーザーに表示する必要はありません。最低リスト価格を手動で更新すると、最低単価の値が正しくなくなり、規定に準拠しなくなる可能性があるため、お勧めできません。

注文の詳細へのアクセス権のゲストユーザーへの付与

購入を完了したゲスト買い物客は、[注文の検索]ページに移動し、注文番号、姓、メールを入力して注文の詳細にアクセスできます。ストアフッター、注文確認メール、またはカスタムエクスペリエンスページにこのページへのURLを入力します。エクスペリエンスビルダーを使用して、このページをストアに追加します。

マーケットおよびバイヤーグループページでのより詳細な統合情報の表示

ロケールやサポートされる納入先国が[すべてのマーケット]ページの個別の列に表示されるようになり、情報をすることが容易になりました。[バイヤーグループ]ページの[関連]タブでバイヤーグループの詳細をすばやく確認できます。[関連]タブから、ロケール、価格表、プロモーションセグメントなどの項目の割り当てや削除を行います。

プロモーションセグメントとバイヤーグループの関連付けの更新

必要に応じてプロモーションセグメントの関連付けを容易に変更できます。プロモーションセグメントに割り当てられているバイヤーグループを変更するには、現在の関連付けを削除してから、新しいバイヤーグループをそのプロモーションセグメントに割り当てます。

プロモーション商品バリエーション

商品カテゴリに割り当てられたプロモーションは、バリエーション商品にも自動的に適用されます。バリエーションに対してプロモーションを実行するには、親商品を対象としたプロモーションを作成してから、プロモーションを適用するバリエーションに割り当てます。たとえば、赤のTシャツだけ10%オフには、プロモーションを作成してから赤のバリエーションに割り当てます。

カスタム URL スラッグによる SEO の改善(正式リリース)

ストアのオーガニックトラフィックを増やすには、新しいURL設定ソリューションを使用して検索エンジン最適化(SEO)を改善します。それぞれの商品ページとカテゴリページのURLスラッグを作成して、URLに含まれるレコードIDを人間が判読可能な情報に置き換えます。CSVファイルを使用して商品のURLスラッグを一括でインポートすることもできます。URLスラッグを使用すると、生成されるSEO対応のURLが正規URLとなり、レコードIDを使用したURLも引き続き解決されます。

構造化データを使用したリッチな検索結果の作成(正式リリース)

ストアの構造化データを使用して、ページのメタタグを動的に更新します。このメタタグは検索エンジンによって処理され、表示されます。たとえば、カテゴリ名、ブレッドクラム、そして商品属性(色、サイズ、価格など)に関する情報を検索エンジンに提供することができます。この情報により、内容が充実した正確な検索結果を保証して、検索エンジンによるサイトランキングを高めることができます。

ストア内のすべての CMS ワークスペースからのメディアへのアクセス

Lightning Web Runtime (LWR) に基づく新しいストアで拡張 CMS ワークスペースを使用している場合には、非拡張 CMS ワークスペースからのメディアにもアクセスできるようになりました。ストアが商品画像や添付ファイルにアクセスできるようにすべてのメディアを別のワークスペースに移動する必要がなくなりました。

注文入力を使用して顧客の代理注文を行う

Salesforce B2B Commerce、D2C Commerce、または B2C Commerce を使用しているカスタマーサービス担当者は、注文管理ライセンスを持たない顧客の代理として直接注文を行えるようになりました。

コマースコンポーネント

参照コンポーネントライブラリから始めて、コンポーネントをすばやくカスタマイズします。顧客のカートにプロモーションが表示される方法を簡略化します。商品の価格設定の詳細を追加し、チェックアウト時に注文の詳細を表示します。

より大きな購入のサポート

顧客は、カートで最大2000個の品目のチェックアウトを完了できるようになりました。Salesforce組織の品目制限を引き上げるには、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

Commerce Einstein

Einstein が 1 ステップで複数の商品項目を生成できるようにします。新しい Einstein の [よく一緒に購入される商品] コンポーネントを追加して、顧客がカートで表示している商品に関連する他の商品を表示します。

このセクションの内容:

Einstein を使用したコマースストアの商品項目の機能強化

Einstein 生成 AI を使用して 1 ステップで複数の商品の商品テキスト項目を生成します。Einstein では、指示やリンク済み参照項目を使用して、選択された商品の修正された商品テキストが生成されます。Einstein によって生成される商品項目では、英語の指示のみがサポートされます。B2B または B2C ストアの言語で商品項目を生成し、生成されたテキストを確認して、変更を受け入れるか、破棄することができます。Einstein 生成 AI を使用するには Einstein 生成 AI ライセンスが必要です。詳細は、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

顧客への頻繁に購入される品目の表示

頻繁に購入される品目を顧客に推奨して平均注文金額を増やします。商品詳細ページに Einstein の [よく一緒に購入される商品] コンポーネントを追加して同様の品目をマーケティングします。買い物客とストアフロントとのインタラクションに基づいておすすめが生成されます。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

Einstein を使用したコマースストアの商品項目の機能強化

Einstein 生成 AI を使用して 1 ステップで複数の商品の商品テキスト項目を生成します。Einstein では、指示やリンク済み参照項目を使用して、選択された商品の修正された商品テキストが生成されます。Einstein によって生成される商品項目では、英語の指示のみがサポートされます。B2B または B2C ストアの言語で商品項目を生成し、生成されたテキストを確認して、変更を受け入れるか、破棄することができます。Einstein 生成 AI を使用するには Einstein 生成 AI ライセンスが必要です。詳細は、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

対象: この変更は、Unlimited Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

この変更は、Commerce Einstein および Einstein Generative AI for Commerce アドオンを含む Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Einstein は Lightning Experience で使用できます。

Einstein for Commerce の料金は、使用した活動に対してのみ発生します。Commerce Cloud が使用量をサブスクリプション許容量に対してどのように追跡するかを学習します。各 Einstein 機能のクレジット使用量は、要求のサイズと Einstein からの応答のサイズによって決まります。

Commerce のクレジット使用量の詳細と最新情報については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: AI の出力に信頼性と正確性があることに関する保証が必要です。Salesforce はその最大の価値である信頼を維持し、お客様のデータを細心の注意とセキュリティを最優先して取り扱っています。お客様はこの Salesforce を信頼することができます。

方法: [設定] で Einstein を有効化して生成 AI 機能を使用します。次に、商品ワークスペースから、1 つ以上の商品を選択します。[項目テキストを作成および確認] をクリックし、Einstein にテキスト生成の指示を与えます。

関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 生成 AI \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 商品ワークスペースでの商品の管理 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

顧客への頻繁に購入される品目の表示

頻繁に購入される品目を顧客に推奨して平均注文金額を増やします。商品詳細ページに Einstein の [よく一緒に購入される商品] コンポーネントを追加して同様の品目をマーケティングします。買い物客とストアフロントとのインタラクションに基づいておすすめが生成されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

関連トピック:

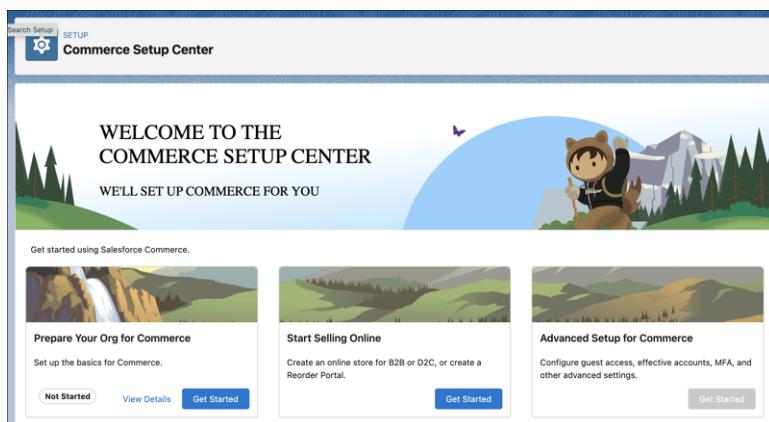
[Salesforce ヘルプ:LWR ストアコンポーネント \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

機能強化されたコマース設定センターによるコマース用の組織の準備の簡易化

機能強化された設定センターでは、コマース機能の有効化、組織設定の定義、コマースオブジェクトのレイアウト調整、コマースレポートのインストールを実行できます。自動設定を使用した後に、すぐに販売を開始できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: コマース設定センターにアクセスするには、[設定]の[クイック検索]ボックスに「コマース設定センター」と入力します。



関連トピック:

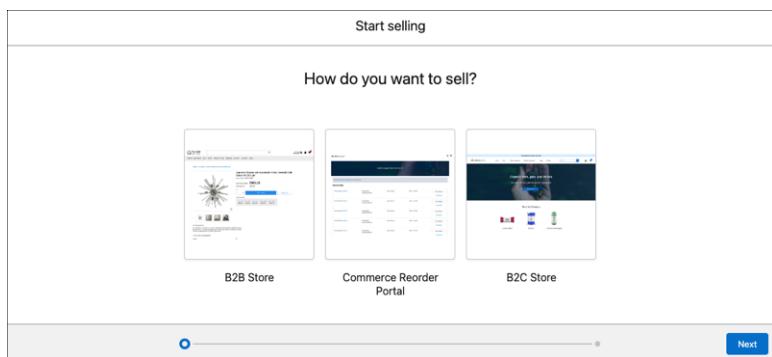
[Salesforce ヘルプ:組織の設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Commerce の簡単な設定による迅速な販売開始

いくつかのシンプルな質問に答えることで、簡単に販売チャネルを作成できます。バックグラウンドでサイト作成作業が行われるのを待つ必要がなくなりました。B2B または B2C ストアもしくは再注文ポータルのどれを作成して営業プロセスまたはサービスプロセスに組み込むのかを選択します。再注文ポータルの場合は、新しいストア設定アシスタントを利用して、商品の追加や配送の設定といった作業を完了します。完了したら、目的のチャネル用に最適化されたランディングページに直接移動します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: コマースアプリケーションのナビゲーションメニューから、[ストア]を選択します。[ストアを作成]をクリックします。



関連トピック:

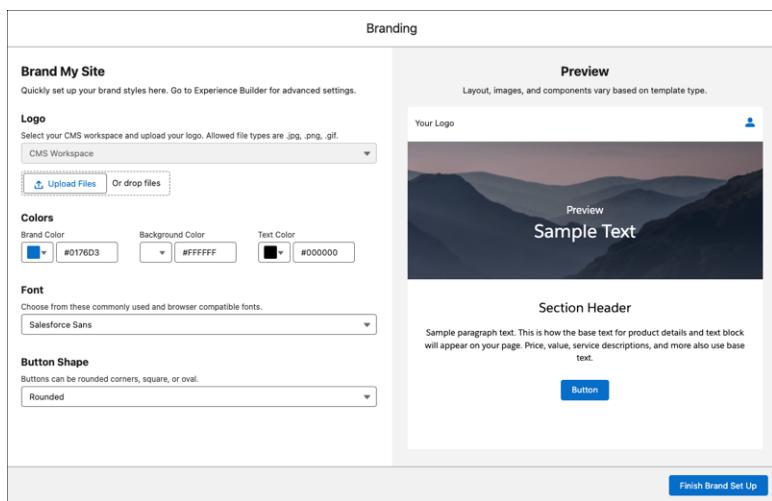
[Salesforce ヘルプ: テンプレートを使用した B2B または B2C ストアの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

コマース再注文ポータルへのブランド設定の追加

再注文ポータルをすばやくブランドに合わせます。ロゴをアップロードして、色やフォントを選択します。その後、すべてが再注文ページに適用されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: [設定アシスタント] から [サイトをブランド設定] をクリックします。



関連トピック:

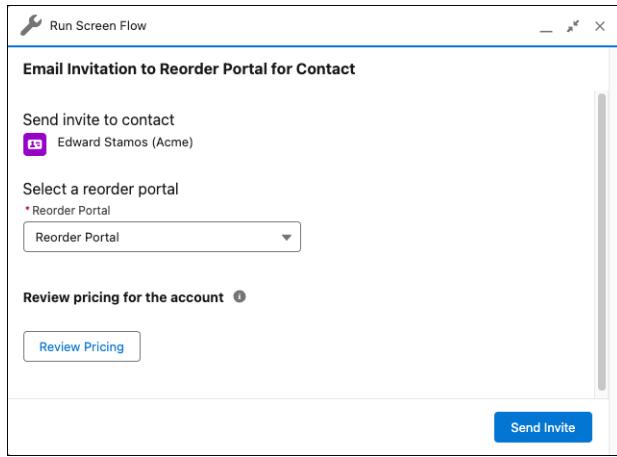
[Salesforce ヘルプ: コマース再注文ポータルの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ケイデンスを使用したコマース再注文ポータルへの招待の簡素化

ケイデンスを使用して、コマース再注文ポータルに取引先責任者を招待するように営業担当を誘導します。提供されているケイデンスには、営業担当がリピート顧客とすばやくエンゲージできるように、メールテンプレートが用意されています。また、このプロセスには、再注文ポータルで取引先責任者に提示する商品や価格を確認するためのステップも含まれています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および Sales Cloud に適用されます。

方法: コマース再注文ポータルを作成して Sales Engagement を有効化したら、[取引先責任者を再注文ポータルに招待] ケイデンスを有効化して、Sales Cloud でターゲットの追加を開始します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Commerce 再注文ポータルのケイデンスの使用 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

カートに品目を追加するときの待機時間の短縮

[迅速なカートへの追加] 設定を有効にすることで LWR ストアのショッピング体験をスピードアップします。この設定を有効にすると、商品ページとカートページの間で処理時間が分割されます。以前は、顧客がカートに商品を入れると、商品ページで長い処理時間が発生していました。LWR テンプレートを使用して作成された新しいストアでは、この設定はデフォルトで有効になっています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: ストアの [管理] ページで [一般設定] に移動します。[パフォーマンス] セクションで [迅速なカートへの追加] を有効にします。カート API を使用するカスタムコンポーネントがある場合には、それが期待どおりに機能することを確認してください。最後にストアを再公開します。

▼ Performance

Manage settings related to site speed and personalization.

Faster Add-to-Cart

Improve response times on the Product page. When items are added to the cart, requests are asynchronously processed on the Cart page instead. If you have custom integrations, make sure they're compatible with this setting before you enable it.

 Enabled

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce B2B Commerce および D2C Commerce \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

最低リスト価格コンプライアンスの設定

プロモーションや値下げを通知する場合、過去30日間の商品の最低価格を表示することを求める欧州連合(EU)の規定を満たす必要があります。元の価格が表示されていて、それがリスト価格よりも高い場合、最低リスト価格も表示されます。B2C ストアでは、最低価格と価格調整を表示する必要があります。B2B ストアでは、ゲストユーザーの最低価格と価格調整を表示する必要がありますが、ログインユーザーに表示する必要はありません。最低リスト価格を手動で更新すると、最低単価の値が正しくなくなり、規定に準拠しなくなる可能性があるため、お勧めできません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: [商品ワークスペース] > [コマース設定] を選択します。[価格設定] の左パネルで、[最低単価] を選択して有効にします。次に、Salesforce の [設定] でレイアウトの表示を設定します。

The screenshot shows the Commerce Setup page in the Salesforce interface. On the left, there's a sidebar with sections like Tools, Commerce Reports, Product Variations, Product Readiness, and Pricing Setup. The Pricing Setup section is expanded, and its sub-section 'Lowest Unit Price' is highlighted with an orange border. The main content area discusses a European Union (EU) mandate requiring stores to show the lowest price for a product over the past 30 days. It notes that D2C Commerce stores must show the lowest price for any storewide price reductions, while B2B Commerce stores must show the lowest price and any storewide price reductions for guest users. A list specifies that this rule doesn't apply to goods with short shelf life, free products, or users logged in to B2B Commerce stores. Below this, there's a section titled 'Enable Lowest Unit Price Feature' with a toggle switch that is currently off.

関連トピック:

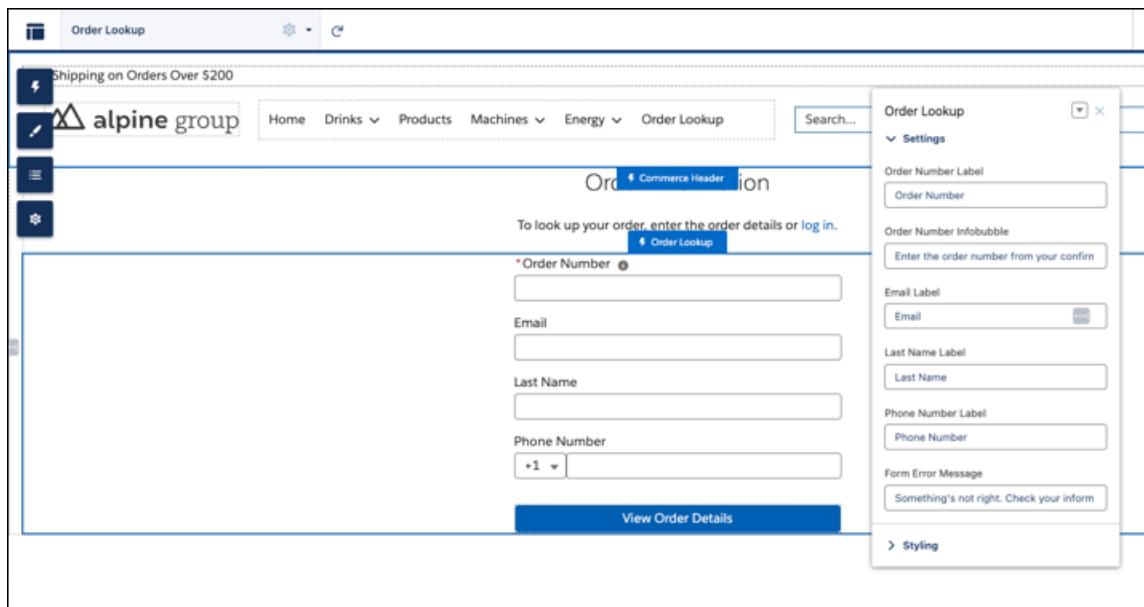
[Salesforce ヘルプ: 値格表\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

注文の詳細へのアクセス権のゲストユーザーへの付与

購入を完了したゲスト買い物客は、[注文の検索]ページに移動し、注文番号、姓、メールを入力して注文の詳細にアクセスできます。ストアフッター、注文確認メール、またはカスタムエクスペリエンスページにこのページへの URL を入力します。エクスペリエンスビルダーを使用して、このページをストアに追加します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーで、[注文の検索] ページを設定し、そのページへのリンクをナビゲーションメニューに追加します。



関連トピック:

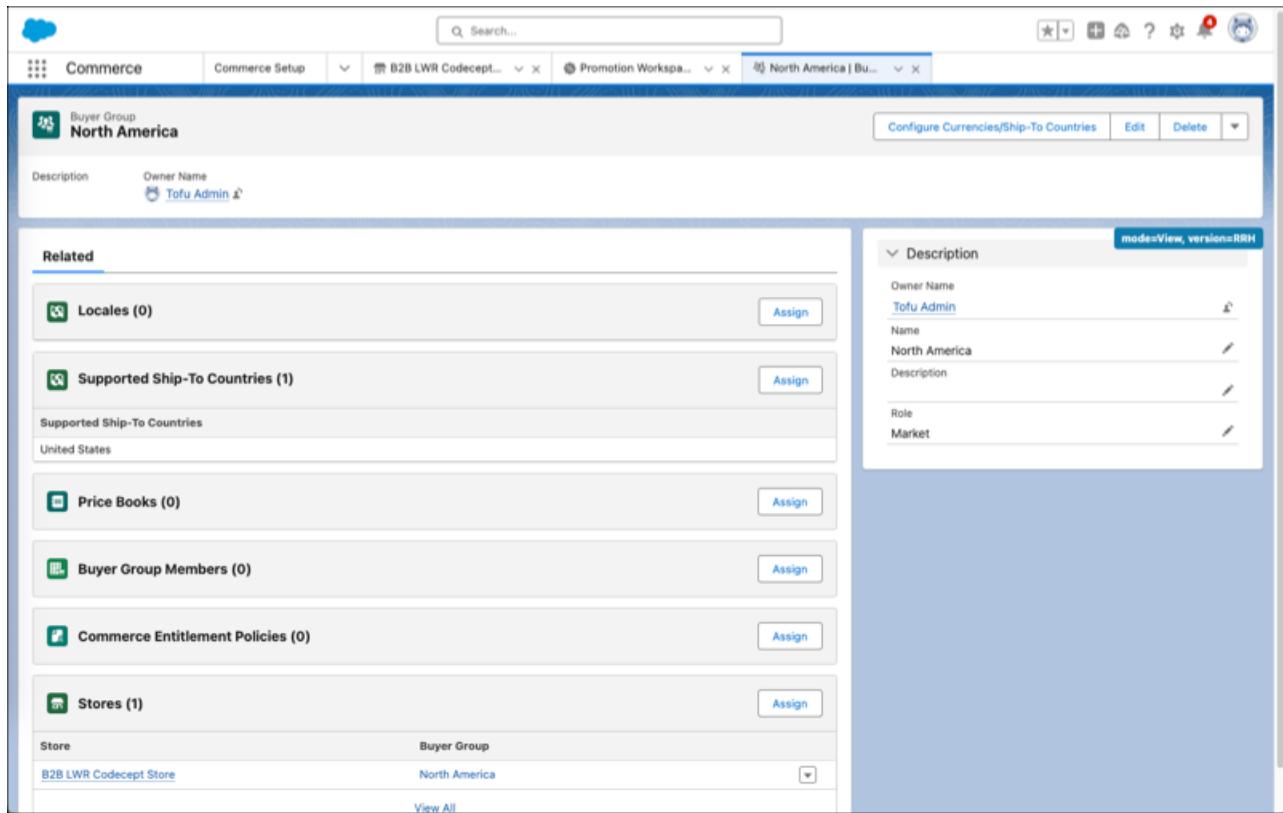
[Salesforce ヘルプ:LWR ストアコンポーネント \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

マーケットおよびバイヤーグループページでのより詳細な統合情報の表示

ロケールやサポートされる納入先国が[すべてのマーケット]ページの個別の列に表示されるようになり、情報をすることが容易になりました。[バイヤーグループ]ページの[関連]タブでバイヤーグループの詳細をすばやく確認できます。[関連]タブから、ロケール、価格表、プロモーションセグメントなどの項目の割り当てや削除を行います。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: ストアのホームページから、[管理] タイルをクリックし、[マーケット] をクリックして、表示するマーケットを選択します。



関連トピック:

Salesforceヘルプ:プロケールに基づく各マーケットへのストアのセグメント化(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

プロモーションセグメントとバイヤーグループの関連付けの更新

必要に応じてプロモーションセグメントの関連付けを容易に変更できます。プロモーションセグメントに割り当てられているバイヤーグループを変更するには、現在の関連付けを削除してから、新しいバイヤーグループをそのプロモーションセグメントに割り当てます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

関連トピック:

Salesforceヘルプ:プロモーションセグメントの追加(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

プロモーション商品バリエーション

商品カテゴリに割り当てられたプロモーションは、バリエーション商品にも自動的に適用されます。バリエーションに対してプロモーションを実行するには、親商品を対象としたプロモーションを作成してから、プロモーションを適用するバリエーションに割り当てます。たとえば、赤のTシャツだけ10%オフにするには、プロモーションを作成してから赤のバリエーションに割り当てます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

関連トピック:

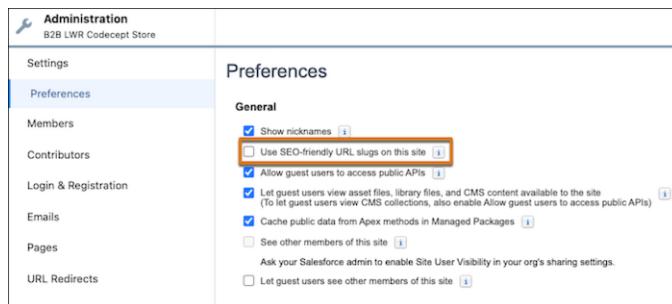
[Salesforce ヘルプ: プロモーションの設定\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

カスタム URL スラッグによる SEO の改善(正式リリース)

ストアのオーガニックトラフィックを増やすには、新しい URL 設定ソリューションを使用して検索エンジン最適化(SEO)を改善します。それぞれの商品ページとカテゴリページの URL スラッグを作成して、URL に含まれるレコード ID を人間が判読可能な情報に置き換えます。CSV ファイルを使用して商品の URL スラッグを一括でインポートすることもできます。URL スラッグを使用すると、生成される SEO 対応の URL が正規 URL となり、レコード ID を使用した URL も引き続き解決されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce LWR サイトに適用されます。

方法:[設定]から、[クイック検索]ボックスに「デジタルエクスペリエンス」と入力し、[すべてのサイト]を選択します。有効な LWR サイトで[ワークスペース]をクリックします。エクスペリエンスワークスペースから[管理]>[設定]に移動して、[このサイトで SEO 対応 URL スラッグを使用]を選択します。サイトを公開して、この変更を適用します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ストア URL に関する SEO の考慮事項\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

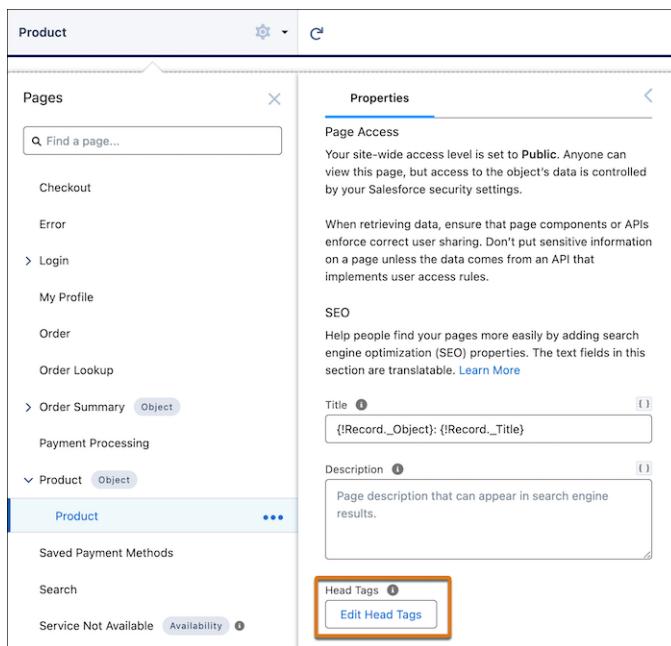
[Salesforce ヘルプ: ストアページへの URL スラッグの追加\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

構造化データを使用したリッチな検索結果の作成(正式リリース)

ストアの構造化データを使用して、ページのメタタグを動的に更新します。このメタタグは検索エンジンによって処理され、表示されます。たとえば、カテゴリ名、ブレッドクラム、そして商品属性(色、サイズ、価格など)に関する情報を検索エンジンに提供することができます。この情報により、内容が充実した正確な検索結果を保証して、検索エンジンによるサイトランキングを高めることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce LWR サイトに適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーの[商品詳細]ページでヘッドタグを編集します。カテゴリ、ブレッドクラム、または商品データに対応付ける式を追加します。



関連トピック:

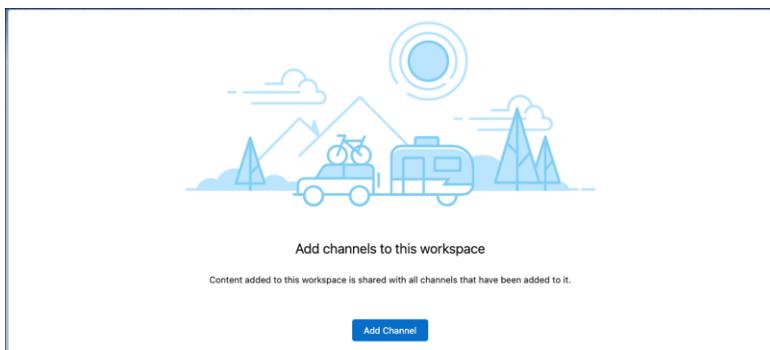
[Salesforce ヘルプ: メタタグの構造化データ\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ストア内のすべての CMS ワークスペースからのメディアへのアクセス

Lightning Web Runtime (LWR) に基づく新しいストアで拡張 CMS ワークスペースを使用している場合には、非拡張 CMS ワークスペースからのメディアにもアクセスできるようになりました。ストアが商品画像や添付ファイルにアクセスできるようにすべてのメディアを別のワークスペースに移動する必要がなくなりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: 非拡張 CMS ワークスペースに移動し、ストアの公開チャネルを追加します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Commerce ストアの画像のインポート \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 商品およびカテゴリへのメディアの追加 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: CMS ワークスペースにチャネルを追加する \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

注文入力を使用して顧客の代理注文を行う

Salesforce B2B Commerce、D2C Commerce、または B2C Commerce を使用しているカスタマーサービス担当者は、注文管理ライセンスを持たない顧客の代理として直接注文を行えるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。注文入力では、接続済みコマースが必要です。

方法: 代理注文フローの設定ステップに従って組織の注文入力を設定します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 顧客の代理での注文 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

コマースコンポーネント

参照コンポーネントライブラリから始めて、コンポーネントをすばやくカスタマイズします。顧客のカートにプロモーションが表示される方法を簡略化します。商品の価格設定の詳細を追加し、チェックアウト時に注文の詳細を表示します。

このセクションの内容:

コマース商品への商品価格設定の詳細の追加

割引価格やプロモーション価格を買い物客に強調表示するために、元の価格と割引額を含めます。B2B または B2C ストアの [商品詳細] ページで、価格設定の詳細を表示する商品価格設定の詳細コンポーネントを追加します。3件までの価格を表示でき、価格の表示順序を指定できます。たとえば、現在の商品価格、元の価格 (MSRP)、割引価格またはプロモーション価格を含めます。

Public Commerce LWR ライブラリを使用したカスタムコンポーネントの作成

コマースストアフロントのカスタマイズに役立つ Lightning Web コンポーネントを活用して、開発プロセスを加速します。GitHub の Public Commerce LWR ライブラリは、エクスペリエンスビルダーのコマース商品コンポーネントのような外観と機能を備えたコンポーネントのオープンソースです。これらの公開コンポーネントを使用すると、ワークフローを合理化して、卓越したコマースストアフロントをすばやく構築できます。

チェックアウトエクスペリエンスの微調整

エクスペリエンスビルダーで新規および機能強化されたチェックアウトコンポーネントを使用して [チェックアウト] ページをカスタマイズします。コンポーネントにビルディングブロックとバインド式が組み込まれて柔軟性が向上しました。新しいレイアウトコンポーネントとセクションコンポーネントを使用して、ページ構造を整理し、追加されたカスタマイズを利用してチェックアウトエクスペリエンスを調整します。

カート内のプロモーションの表示方法の簡略化

LWR ストア用の新しいプロモーションコンポーネントを使用して、よりコンパクトで完全なプロモーションのビューを表示します。カートに適用されるすべての手動と自動のプロモーションを 1 つのリストに表示できるようになりました。既存の LWR ストアがある場合は、従来のクーポンコンポーネントとプロモーションコンポーネントを最新のオプションに置き換えることをお勧めします。従来のコンポーネントは引き続き動作しますが、これ以上機能強化されることはありません。

チェックアウトでの注文の詳細の表示

更新されたカート品目コンポーネントを使用して、LWR ストアの顧客がチェックアウトするときにカートコンテンツを表示します。顧客が注文を確認したり、個々の商品ページに戻ったりできるようになります。カート品目コンポーネントは、[チェックアウト] ページの任意の場所に追加できますが、展開可能なセクションに配置して、顧客が表示するかどうかを選択できるようにすることをお勧めします。新しいストアの場合、デフォルトで [チェックアウト] ページにカート品目コンポーネントが含まれています。

販売業者オンボーディングコンポーネントのカスタマイズ

ビジネス種別に合わせて販売業者のオンボーディングプロセスをカスタマイズします。Git リポジトリからオンボーディングコンポーネントをダウンロードして、販売業者ポータルのホームページで実装します。

[商品セット] コンポーネントを使用した Data Cloud での顧客の行動の追跡

[商品セット] コンポーネントを使用して、Data Cloud での顧客のデータや行動を追跡できるようになりました。

コマース商品への商品価格設定の詳細の追加

割引価格やプロモーション価格を買い物客に強調表示するために、元の価格と割引額を含めます。B2B または B2C ストアの [商品詳細] ページで、価格設定の詳細を表示する商品価格設定の詳細コンポーネントを追加します。3 件までの価格を表示でき、価格の表示順序を指定できます。たとえば、現在の商品価格、元の価格 (MSRP)、割引価格またはプロモーション価格を含めます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーで、[商品価格設定の詳細]コンポーネントをストア内の[商品の詳細]ページにドラッグします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 商品と価格設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: LWR ストアコンポーネント\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Public Commerce LWR ライブラリを使用したカスタムコンポーネントの作成

コマースストアフロントのカスタマイズに役立つ Lightning Web コンポーネントを活用して、開発プロセスを加速します。GitHub の Public Commerce LWR ライブラリは、エクスペリエンスビルダーのコマース商品コンポーネントのような外観と機能を備えたコンポーネントのオープンソースです。これらの公開コンポーネントを使用すると、ワークフローを合理化して、卓越したコマースストアフロントをすばやく構築できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

関連トピック:

[B2B Commerce および D2C Commerce 開発者ガイド: Commerce LWR 公開ライブラリ \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

チェックアウトエクスペリエンスの微調整

エクスペリエンスビルダーで新規および機能強化されたチェックアウトコンポーネントを使用して [チェックアウト] ページをカスタマイズします。コンポーネントにビルディングブロックとバインド式が組み込まれて柔軟性が向上しました。新しいレイアウトコンポーネントとセクションコンポーネントを使用して、ページ構造を整理し、追加されたカスタマイズを利用してチェックアウトエクスペリエンスを調整します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: 既存のストアの場合は、[従来] とマークされているコンポーネントを削除し、更新されたコンポーネントに置き換えます。アップグレードされたコンポーネントはチェックアウト(従来)コンテナ内では機能しません。レイアウトコンポーネントとチェックアウトセクションコンポーネントから開始することをお勧めします。新しいストアの場合、[チェックアウト] ページには最新のコンポーネントが含まれています。

次のコンポーネントが新規追加または更新されました。

- アクションボタン - 新規
- 住所(請求先) - 新規
- チェックアウト通知 - 新規
- チェックアウトセクション - 新規
- 連絡先情報 - ゲスト連絡先情報(従来)を置き換え
- デュアル支払 - デュアル支払(従来)を置き換え

- レイアウト:アコーディオン - チェックアウト(従来)を置き換え
- レイアウト:1ページ - チェックアウト(従来)を置き換え
- 支払い - 支払い(従来)を置き換え
- 注文実行ボタン - 新規
- 購入注文 - 購入注文(従来)を置き換え
- Salesforce Payments - Salesforce Payments を置き換え(従来)
- 住所(納入先) - 住所(納入先)(従来)を置き換え
- 配送手順 - 配送手順(従来)を置き換え
- 配送方法 - 配送方法(従来)を置き換え

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:セクションへのチェックアウトステップの分割\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:LWRストアコンポーネント\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

カート内でのプロモーションの表示方法の簡略化

LWRストア用の新しいプロモーションコンポーネントを使用して、よりコンパクトで完全なプロモーションのビューを表示します。カートに適用されるすべての手動と自動のプロモーションを1つのリストに表示できるようになりました。既存のLWRストアがある場合は、従来のクーポンコンポーネントとプロモーションコンポーネントを最新のオプションに置き換えることをお勧めします。従来のコンポーネントは引き続き動作しますが、これ以上機能強化されることはありません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーの[カート]ページで、[従来]としてマークされている[クーポン]コンポーネントと[プロモーション]コンポーネントを削除します。次に、新しいプロモーションコンポーネントを追加します。このコンポーネントには新しいクーポンおよび適用済みプロモーションサブコンポーネントが含まれています。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:LWRストアコンポーネント\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

チェックアウトでの注文の詳細の表示

更新されたカート品目コンポーネントを使用して、LWRストアの顧客がチェックアウトするときにカートコンテンツを表示します。顧客が注文を確認したり、個々の商品ページに戻ったりできるようにします。カート品目コンポーネントは、[チェックアウト]ページの任意の場所に追加できますが、展開可能なセクションに配置して、顧客が表示するかどうかを選択できるようにすることをお勧めします。新しいストアの場合、デフォルトで[チェックアウト]ページにカート品目コンポーネントが含まれています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: 新しいストアのデフォルト設定を一致させるには、ストアの[チェックアウト]ページのカートの概要コンポーネントの上に展開可能なセクションコンポーネントを追加します。展開可能なセクションコンポーネントのコンテンツ領域にカート品目コンポーネントを追加します。

カート品目コンポーネントを編集して、プロモーション、数量セレクター、元の価格、SKU、品目合計、品目削除オプションを非表示にします。商品画像、商品名と数量、バリエーション、[さらに表示]オプション、実際の価格または単価を表示します。

Item Description	Quantity	Price
BigfootBar Cranberry/Sunflower Paleo, 2oz bar - 6 pack (3)	3	\$27.00
Alpine Energy Drink Chai Post 0.5L PET - 6 pack (9)	9	\$189.00

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: LWRストアコンポーネント \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

販売業者オンボーディングコンポーネントのカスタマイズ

ビジネス種別に合わせて販売業者のオンボーディングプロセスをカスタマイズします。Git リポジトリからオンボーディングコンポーネントをダウンロードして、販売業者ポータルのホームページで実装します。

対象: この変更は Salesforce デジタルエクスペリエンスに適用されます。

[商品セット] コンポーネントを使用した Data Cloud での顧客の行動の追跡

[商品セット] コンポーネントを使用して、DataCloud での顧客のデータや行動を追跡できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の B2B Commerce および D2C Commerce に適用されます。

方法: 追跡を有効にするには、現在のコンポーネントを更新されたコンポーネントに置き換えます。新しいコンポーネントをパレットから既存のコンポーネントにドラッグします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: LWR ストアコンポーネント \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

オムニチャネル在庫

品目を特定のロケーションからの配送の対象外にすることができますが、店舗受け取りは可能です。Transfer、Fulfill、Unreserve Inventory Reservation API の reservationId 項目を使用して、オムニチャネル在庫、注文管理、ストアフロントでの履行ライフサイクル全体を通して予約を追跡します。

このセクションの内容:

[特定のロケーションからの配送対象となる SKU の制御](#)

品目を特定のロケーションからの配送の対象外にすることができますが、店舗受け取りは可能です。たとえば、店舗から配送するには重すぎたり、コストが高すぎたりする商品の場合、履行を倉庫に限定することができます。オムニチャネル在庫 Impex API エンドポイントを使用して、どの SKU を特定のロケーションからの配送対象とするかを制御します。そのロケーションの在庫数は、関連付けられたロケーショングループには表示されません。配送対象資格は、オムニチャネル在庫 Impex API の新しい groupEligibilityExclusion 属性を使用して設定されます。

[履行プロセスを通した在庫予約の追跡](#)

Transfer、Fulfill、Unreserve Inventory Reservation API の新しい reservationId 項目を使用して、オムニチャネル在庫予約をより正確に把握します。この項目を使用して、オムニチャネル在庫、注文管理、ストアフロントでの履行ライフサイクル全体を通して予約を追跡します。また、追跡やトラブルシューティングのために、予約 ID と共に予約、移行、履行、未予約の予約状況をエクスポートすることもできます。

特定のロケーションからの配送対象となる SKU の制御

品目を特定のロケーションからの配送の対象外にすることができますが、店舗受け取りは可能です。たとえば、店舗から配送するには重すぎたり、コストが高すぎたりする商品の場合、履行を倉庫に限定することができます。オムニチャネル在庫 Impex API エンドポイントを使用して、どの SKU を特定のロケーションからの配送対象とするかを制御します。そのロケーションの在庫数は、関連付けられたロケーショングループには表示されません。配送対象資格は、オムニチャネル在庫 Impex API の新しい groupEligibilityExclusion 属性を使用して設定されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

<https://developer.salesforce.com/docs/commerce/commerce-api/references/impe?meta=Summary>

履行プロセスを通した在庫予約の追跡

Transfer、Fulfill、Unreserve Inventory Reservation API の新しい reservationId 項目を使用して、オムニチャネル在庫予約をより正確に把握します。この項目を使用して、オムニチャネル在庫、注文管理、ストアフロントでの履行ライフサイクル全体を通して予約を追跡します。また、追跡やトラブルシューティングのために、予約 ID と共に予約、移行、履行、未予約の予約状況をエクスポートすることもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

<https://developer.salesforce.com/docs/commerce/commerce-api/references/inventory-reservation-service?meta=Summary>

Salesforce Order Management

代理注文環境の強化。商品の検索には、SKU や ID だけでなく、商品名や検索語を使用できます。在庫切れのエラーが発生する可能性を減らすために、商品は注文処理中に予約します。

このセクションの内容:

代理注文のチェックアウト中に在庫予約を作成

代理注文のチェックアウトプロセス中に予約を作成することで、在庫切れエラーを減らします。この更新は、Order Management ライセンスが必要な OOOB と Order Management ライセンスが不要な注文エントリの両方に適用されます。予約を有効にするには、Web ストア在庫ソースを設定します。

代理注文での商品名とキーワードの検索

顧客の代わりに注文を実行する場合、エージェントは「t-shirts」(Tシャツ) や「skirts」(スカート) などの商品名とキーワードを使用して検索できるようになりました。以前は、検索条件は SKU または商品 ID に制限されていました。この更新は、Order Management ライセンスが必要な OOOB と Order Management ライセンスが不要な注文エントリの両方に適用されます。代理注文フローをすでにコピーしている場合、商品検索を有効にするように商品選択画面のフラグを更新します。このリリース以降でこのフローをコピーすると、キーワード検索が自動的に有効になります。

代理注文のチェックアウト中に在庫予約を作成

代理注文のチェックアウトプロセス中に予約を作成することで、在庫切れエラーを減らします。この更新は、Order Management ライセンスが必要な OOOB と Order Management ライセンスが不要な注文エントリの両方に適用されます。予約を有効にするには、Web ストア在庫ソースを設定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。D2C Commerce の OOOB には OMS Growth ライセンスが必要です。注文エントリには接続済みコマースバンドルが必要です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Web ストアインベントリソースの追加\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

代理注文での商品名とキーワードの検索

顧客の代わりに注文を実行する場合、エージェントは「t-shirts」(Tシャツ)や「skirts」(スカート)などの商品名とキーワードを使用して検索できるようになりました。以前は、検索条件はSKUまたは商品IDに制限されていました。この更新は、Order Management ライセンスが必要な OOOB と Order Management ライセンスが不要な注文エントリの両方に適用されます。代理注文フローをすでにコピーしている場合、商品検索を有効にするように商品選択画面のフラグを更新します。このリリース以降でこのフローをコピーすると、キーワード検索が自動的に有効になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。D2C Commerce の OOOB には OMS Growth ライセンスが必要です。注文エントリには接続済みコマースバンドルが必要です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 顧客の代理での注文\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce Payments

PayPal、Venmo、および口座振替方法(ACH、BECS、BACSなど)を使用した支払を受け入れます。Starter での [今すぐ支払う] を使用して支払の使用を開始し、より詳細な設定が可能な [今すぐ支払う] ページを使用して顧客の支払環境を改善します。レコード共有を使用して、さまざまな支払レコードへのユーザーアクセスを管理します。支払ワークスペースに表示される B2C 支払データを生成します。

このセクションの内容:

[Salesforce Payments での PayPal と Venmo の受け入れ](#)

PayPal と Venmo が Salesforce Payments でネイティブに使用できるようになりました。アカウントの設定に従って、業者アカウントと支払方法セットを作成します。PayPal を提供するには、各業者アカウントに、一意のメールアドレスを持つ個別の PayPal ビジネスアカウントが必要です。組織のその他のアカウントで PayPal アカウントを使用することはできません。

[チェックアウト時に口座振替支払方法を提供](#)

口座振替支払方法を受け入れることで、取引コストを削減し、支払の失敗を減らします。顧客に ACH 口座振替、BECS(オーストラリアとニュージーランドでの取引)、Bacs(英国での取引)を提供することができます。

[今すぐ支払う]ページへの商品品目または定義済み金額の表示

商品画像を含め各商品の品目を含めることで、顧客が[今すぐ支払う]ページで何の支払を行っているかを確認できるようにします。このカスタマイズを行うには、[今すぐ支払う]エクスペリエンスビルダーコンポーネントを使用します。

[今すぐ支払う]の支払リンクの使用方法と有効期限の制御

支払リンクを1回のみ使用するか、複数人に配布するために複数回使用するかを設定します。リンクごとに有効期限を指定できます。たとえば、支払リンクを含む請求書を送信するとします。請求書は送信から24時間後に期限切れになるため、リンクも同様に期限切れにする必要があります。支払リンクレコードごとにリンクの使用方法を設定できます。

[今すぐ支払う]ページへの[Express Payments(エクスプレス支払)]の追加(パイロット)

[今すぐ支払う]ページでは、顧客は連絡先情報や支払の詳細を再入力することなく迅速かつ容易に購入を行なうことができます。[今すぐ支払う]ページに[Google Pay]および[Apple Pay]ボタンを追加して、チェックアウト操作を加速することもできます。

B2C 支払と Salesforce Payments の統合

支払活動を支払ワークスペースで一元管理することで、ビジネスの支払活動の全体像を把握します。Paymentsアプリケーションで、Stripeを使用して既存のB2C業者アカウントにリンクされている業者アカウントを作成します。このアカウントはStripeからの支払データを使用し、支払ワークスペースにリストされている支払インテントを生成します。

Salesforce Payments データへのユーザーアクセスの管理

さまざまな所有者を業者アカウントに割り当てることで、支払データへのアクセス権を制御できます。業者アカウントの所有者は誰でもアカウントの支払インテントレコードに自動的にアクセスできるようになります。業者アカウントのアクセス権を関連ユーザーのみに付与することで、セキュリティ、効率的な支払処理、規制コンプライアンスなどの理由で支払データをセグメント化できます。業者アカウントオブジェクトの所有者は、アクセス権を他のユーザーと共有でき、他のユーザーは必要に応じて取引を管理できます。

Salesforce 支払イベントに関する通知の取得

PaymentIntent、MerchantAccount、PaymentLink、およびSavedPaymentMethodsオブジェクトで自動的に生成されるSalesforce支払プラットフォームイベントを使用して、支払活動に関する最新情報を入手します。イベントには、支払の承認、収集、返金などがあります。通知をフローまたはApexトリガーに組み込むことで、取引がライフサイクルを移動したときにイベントの通知を受け取ります。Slack、SMS、メール、Lightning通知アプリケーションなど、フローまたはトリガーでサポートされる任意の通知メカニズムを使用します。

Salesforce Starter での[今すぐ支払う]の使用

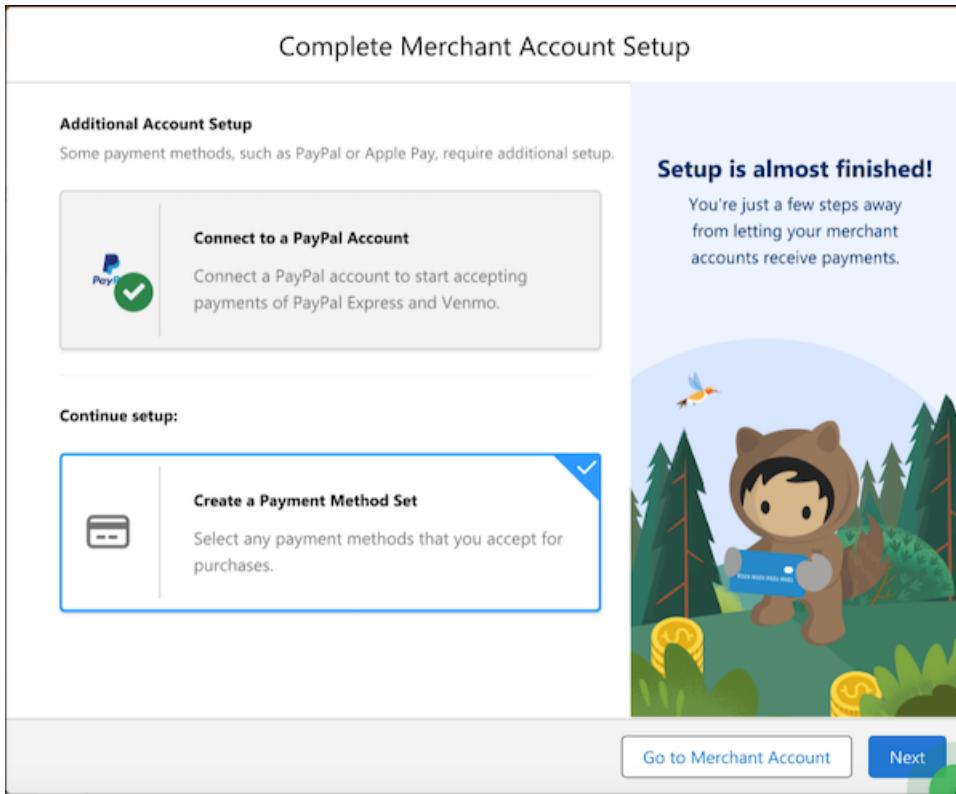
迅速なオンボーディングが可能で、洗練されたユーザーインターフェースを持つSalesforce Starterを活用してください。商談完了後の顧客の支払手順を簡略化できます。支払いリンクを作成して、顧客を[今すぐ支払う]ページに誘導します。このページで、顧客は使用する支払い方法を選択できます。

Salesforce Payments での PayPal と Venmo の受け入れ

PayPalとVenmoがSalesforce Paymentsでネイティブに使用できるようになりました。アカウントの設定に従って、業者アカウントと支払方法セットを作成します。PayPalを提供するには、各業者アカウントに、一意のメールアドレスを持つ個別のPayPalビジネスアカウントが必要です。組織のその他のアカウントでPayPalアカウントを使用することはできません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Salesforce Payments に適用されます。

方法: Stripe を使用して必要な業者アカウントの設定を完了してから、PayPal アカウントを設定します。



関連トピック:

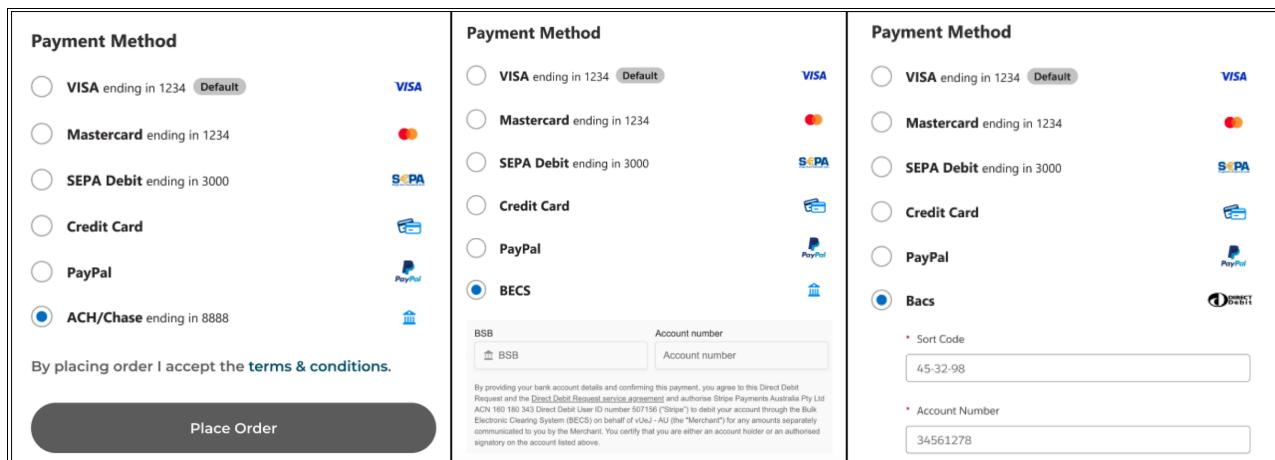
[Salesforce ヘルプ: 業者アカウントと支払方法セットの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されるごとに、項目が参照不可になることがあります\)](#)

チェックアウト時に口座振替支払方法を提供

口座振替支払方法を受け入れることで、取引コストを削減し、支払の失敗を減らします。顧客に ACH 口座振替、Becs (オーストラリアとニュージーランドでの取引)、Bacs (英国での取引) を提供することができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Salesforce Payments に適用されます。

方法: 口座振替支払方法を支払方法セットに含めます。



関連トピック:

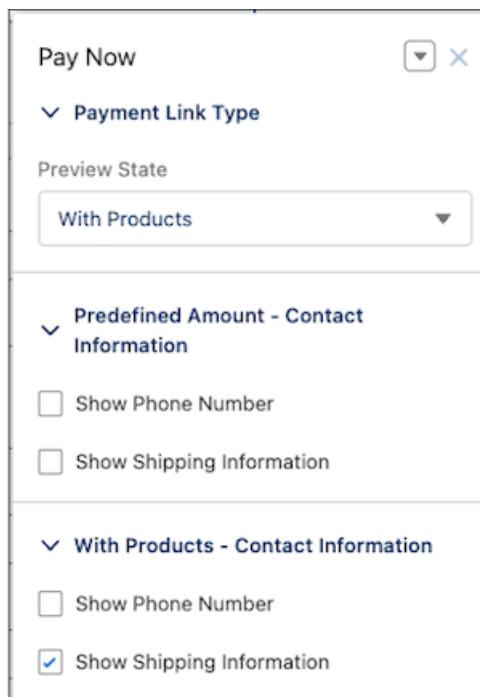
[Salesforce ヘルプ: 業者アカウントと支払方法セットの設定\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることがあります\)](#)

[今すぐ支払う] ページへの商品品目または定義済み金額の表示

商品画像を含め各商品の品目を含めることで、顧客が[今すぐ支払う]ページで何の支払を行っているかを確認できるようにします。このカスタマイズを行うには、[今すぐ支払う]エクスペリエンスビルダーコンポーネントを使用します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の [今すぐ支払う] に適用されます。

方法: [今すぐ支払う] エクスペリエンスビルダーコンポーネントで、何を表示するかを選択します。



商品を表示するように選択した場合、顧客には商品品目リストが表示されます。

Your payment
\$ 2,014.39

Take a step towards your fitness goals with our premium bundle. These items have been selected for their beneficial nutrients and energy-boosting properties. Complete your purchase and elevate your health regimen.

Your cart

	Steel Cast Slider (50)	\$ 267.00
	Schaerer 69991 Elephant Foot Steam Wand (30)	\$ 1097.40
	Bunn 1000pcs coffee filter for Coffee Machine (50)	\$ 620.00

Summary

Subtotal	\$ 2,014.39
Tax	\$ 29.99
Total	\$ 2,014.39

Contact Information

* First Name * Last Name

Shipping Address

* Country Select your country

Payment Method

Credit Card
 Apple Pay
 Bancontact

定義済み金額を表示するように選択した場合、顧客には金額のみが表示されます。

Your payment
\$ 2,014.39

One time donation to Alpine Group Future Explorers Fund

Take a step towards your fitness goals with our premium bundle. These items have been selected for their beneficial nutrients and energy-boosting properties. Complete your purchase and elevate your health regimen.

Summary

Subtotal	\$ 2,014.39
Tax	\$ 29.99
Total	\$ 2,014.39

Contact Information

* First Name * Last Name

Shipping Phone Number (optional)

Shipping Address

* Country Select your country

Payment Method

Credit Card
 Apple Pay
 Bancontact

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:\[今すぐ支払う\] サイトの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[今すぐ支払う] の支払リンクの使用方法と有効期限の制御

支払リンクを1回のみ使用するか、複数人に配布するために複数回使用するかを設定します。リンクごとに有効期限を指定できます。たとえば、支払リンクを含む請求書を送信するとします。請求書は送信から24時間後に期限切れになるため、リンクも同様に期限切れにする必要があります。支払リンクレコードごとにリンクの使用方法を設定できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の [今すぐ支払う] に適用されます。

方法: 支払リンクレコードごとにリンクの使用方法を設定します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: \[今すぐ支払う\] サイトへの支払リンクの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

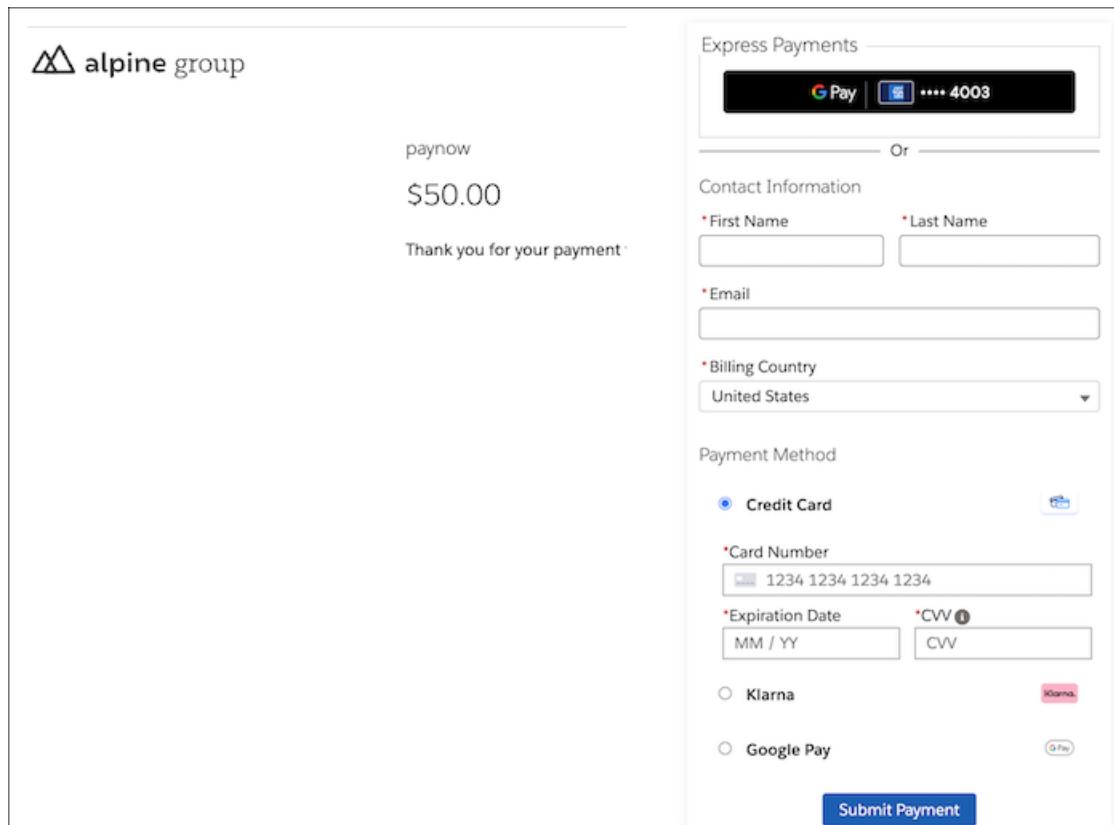
[今すぐ支払う] ページへの [Express Payments (エクスプレス支払)] の追加 (パイロット)

[今すぐ支払う] ページでは、顧客は連絡先情報や支払の詳細を再入力することなく迅速かつ容易に購入を行うことができます。[今すぐ支払う] ページに [Google Pay] および [Apple Pay] ボタンを追加して、チェックアウト操作を加速することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の [今すぐ支払う] に適用されます。

 **メモ:** この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります。SFDCの裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDCはこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

方法:[今すぐ支払う]エクスペリエンスビルダーコンポーネントで、[Enable express payments(エクスプレス支払を有効化)]を選択します。[Express Payments (エクスプレス支払)]ボタンが含まれる[今すぐ支払う]ページが顧客に表示されます。



The screenshot displays the Express Payments component within the Experience Builder. On the left, there's a payment summary for "alpine group" showing a total of \$50.00 and a message "Thank you for your payment". On the right, the payment form is shown. It includes sections for "Contact Information" (First Name, Last Name, Email), "Billing Country" (United States), and "Payment Method". Under "Payment Method", "Credit Card" is selected, and fields for "Card Number" (1234 1234 1234 1234), "Expiration Date" (MM / YY), and "CVV" are provided. There are also options for "Klarna" and "Google Pay". A "Submit Payment" button is located at the bottom right.

B2C 支払と Salesforce Payments の統合

支払活動を支払ワークスペースで一元管理することで、ビジネスの支払活動の全体像を把握します。Payments アプリケーションで、Stripe を使用して既存の B2C 業者アカウントにリンクされている業者アカウントを作成します。このアカウントは Stripe からの支払データを使用し、支払ワークスペースにリストされている支払インテントを生成します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Salesforce Payments に適用されます。

方法:B2C 支払インテントが作成されていることを確認するには、支払インテントを参照し、支払インテントが B2C サイトの業者アカウントに添付されているかどうかを確認します。

Payment Intents All Payments						
	Payment Intent Nu...	Intent Amount	Created Date	Status	Payment Method Type	
Authorized	PI-000000076	USD 347.74	3/30/2023, 12:37 PM	Succeeded	Afterpay / Clearpay	
Captured	PI-000000075	USD 347.74	3/30/2023, 11:36 AM			
Refunded						
Custom	PI-000000074	EUR 25.98 (USD 29.19)	3/30/2023, 10:56 AM	Authorized	VISA	Visa
	PI-000000073	EUR 40.49 (USD 45.49)	3/30/2023, 10:52 AM	Succeeded	VISA	Visa
	PI-000000072	EUR 23.49 (USD 26.39)	3/30/2023, 10:50 AM	Succeeded	iDEAL	

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 支払ワークスペースでの B2C 支払レコードの生成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce Payments データへのユーザーアクセスの管理

さまざまな所有者を業者アカウントに割り当てることで、支払データへのアクセス権を制御できます。業者アカウントの所有者は誰でもアカウントの支払インテントレコードに自動的にアクセスできるようになります。業者アカウントのアクセス権を関連ユーザーのみに付与することで、セキュリティ、効率的な支払処理、規制コンプライアンスなどの理由で支払データをセグメント化できます。業者アカウントオブジェクトの所有者は、アクセス権を他のユーザーと共有でき、他のユーザーは必要に応じて取引を管理できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Salesforce Payments に適用されます。

方法: 個々の業者アカウントオブジェクトで手動共有を設定するか、[設定] で共有ルールを設定します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 支払レコードのアクセスと共有の管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 共有ルール\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 共有の直接設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce 支払イベントに関する通知の取得

PaymentIntent、MerchantAccount、PaymentLink、および SavedPaymentMethods オブジェクトで自動的に生成される Salesforce 支払プラットフォームイベントを使用して、支払活動に関する最新情報を入手します。イベントには、支払の承認、収集、返金などがあります。通知をフローまたは Apex トリガーに組み込むことで、取引がライフサイクルを移動したときにイベントの通知を受け取ります。Slack、SMS、メール、Lightning 通知アプリケーションなど、フローまたはトリガーでサポートされる任意の通知メカニズムを使用します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Salesforce Payments に適用されます。

関連トピック:

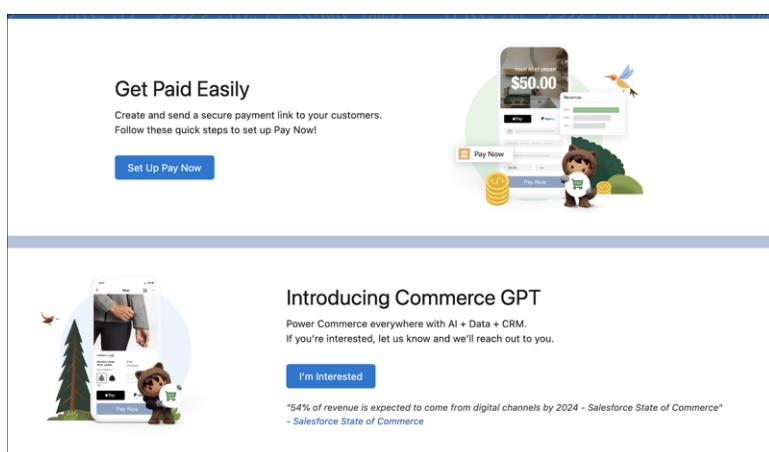
[Salesforce ヘルプ: 支払いイベント通知\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce Starter での [今すぐ支払う] の使用

迅速なオンボーディングが可能で、洗練されたユーザーインターフェースを持つ Salesforce Starter を活用してください。商談完了後の顧客の支払手順を簡略化できます。支払いリンクを作成して、顧客を [今すぐ支払う] ページに誘導します。このページで、顧客は使用する支払い方法を選択できます。

対象: この変更は Salesforce Starter に適用されます。現時点ではインド、アイルランド、ブラジル、日本の Salesforce Starter ユーザーは [今すぐ支払う] を使用できません。

方法: Starter で [コマース] タブを選択し、[簡単に支払を受ける] をクリックします。



カスタマイズ

カスタム権限セットと権限セットグループの割り当てに関するレポートを生成します。100種類を超える LWC 対応標準オブジェクトで動的フォームを使用します。

このセクションの内容:

権限

レポートを作成して、カスタム権限セットおよび権限セットグループの割り当てを表示します。権限セット内のオブジェクトと項目の API 参照名を表示し、権限セットグループを再適用します。

Lightning アプリケーションビルダー

何百もの LWC 対応標準オブジェクトで動的フォームを使用します。正式リリースされたモバイルの動的フォームを使用して、デスクトップユーザーと同じカスタマイズされた環境をモバイルユーザーに提供します。

共有

レコードアクセスエラーのトラブルシューティングを行い、イベント監視を使用してグループメンバーシップの変更を監査します。アカウントアクセスおよびグループメンバーシップに関するレポートを作成します。2つのリリース更新を使用して取引先の共有再適用の高速化を有効にします。

外部サービス

外部サービスの宣言型ツールを使用して編集できる HTTP コールアウトメソッドが増えました。

Salesforce Connect

Amazon Athena の外部データソースによって、キャッシュされたクエリ結果を再利用できます。Salesforce Connect の OData 4.01 アダプターへの機能強化について確認します。

グローバリゼーション

ICU と JDK のロケール形式を常に把握します。日本語のカタカナの新しいスタイルに備えられます。クロアチアとシエラレオーネには現在のロケールを使用します。ICU ロケール形式の適用に向けて準備します。

AppExchange

新しいソリューション種別バッジを使用して、AppExchange ソリューションが各自の要件を満たしているかどうか確認します。AppExchange Japan の改善された検索およびソリューションリスト環境をお試しください。

一般設定

クリックアクションを必要な場所(関連リスト)に追加することで、関連レコードを容易に作成および更新できるようにします。また、アクセシビリティの向上により、リストビューを移動しやすくなりました。

権限

レポートを作成して、カスタム権限セットおよび権限セットグループの割り当てを表示します。権限セット内のオブジェクトと項目の API 参照名を表示し、権限セットグループを再適用します。

このセクションの内容:

実現した IdeaExchange: カスタム権限セットおよび権限セットグループの割り当てに関するレポート

ユーザーを容易に管理できるようにするには、カスタムレポートタイプを作成し、カスタム権限セットおよび権限セットグループの割り当てに関するレポートを作成します。特定のカスタム権限セットまたは権限セットグループに割り当てられたすべてのユーザーを表示します。または、このレポートを使用して、個々のユーザーの割り当てを確認します。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

実現した IdeaExchange: 権限セットで有効になっている内容をより容易に表示(ペーパタ)

権限セットに含まれているすべての権限を追跡することは難しいかもしれません。ユーザーのアクセス権と権限をより容易に管理できるように、有効になっているすべてのオブジェクト、ユーザー、項目の権限を1ページに表示できるようになりました。これにより、数十回のクリックが省略されます。また、特定の権限セットが含まれている権限セットグループも表示できます。この機能は IdeaExchange のアイデアのおかげで提供されました。

実現した IdeaExchange: 項目権限の設定における全項目の選択

権限セットでは、各項目の権限を1つずつ選択する代わりに、ワンクリックですべての項目の参照アクセス権や編集アクセスを有効化または無効化できるようになりました。この更新により、何十回あるいは何百回もクリックする手間が不要になり、API限定インテグレーションユーザーの設定や権限セットへのプロファイルの移行といった作業をスピードアップできます。セキュリティのベストプラクティスとして、ユーザーが業務上必要とする項目権限のみを有効にしてください。

権限セットグループのエラーのトラブルシューティング

問題をより迅速に修正できるように、権限セットグループに関連する最新のアクション可能なエラーメッセージがその詳細ページに表示されます。権限セットグループの状況が失敗の場合、権限セットグループを手動で再適用することもできるようになりました。リリースまたはパッケージ更新後に権限セットグループの状況が失敗になっている場合、この手動再適用操作を使用できます。以前は、権限セットグループを更新することで再適用を開始していました。

権限セット内のオブジェクトと項目の権限の API 参照名の表示

権限セットでオブジェクトと項目の権限を設定すると、オブジェクトと項目の表示ラベルに加えてオブジェクト API 参照名と項目 API 参照名が表示されるようになりました。同じ名前の複数のコンポーネントがある場合、この変更によりオブジェクトと項目を容易に区別できるようになります。

特定の権限セットが追加された権限セットグループの数の表示

特定の権限セットが含まれている権限セットグループの数を表示できるようになりました。この数を使用して、権限セットを変更する前にユーザーへの潜在的な影響を推定します。

改善されたユーザーアクセスポリシーの検索条件を使用したユーザーアクセスの自動化および移行(ベータ)

ユーザーアクセスポリシーの検索条件では合計3個の権限セット、権限セットグループ、または管理パッケージライセンスを参照できます。これにより、目的のユーザーをより容易に対象設定できます。以前は、権限セット、権限セットグループ、管理パッケージライセンスをそれぞれ1つのみ参照できました。ユーザーアクセスポリシーを使用すると、設定した条件に基づいて管理パッケージライセンス、権限セット、他のアクセスメカニズムへのユーザーの割り当てを自動化できます。ユーザーが作成または更新されたときに自動的に実行するポリシーや、1つの操作でユーザーを新しいアクセス設定に移行するポリシーを作成します。この機能は Winter '24 では引き続きベータで使用可能です。



カスタム権限セットおよび権限セットグループの割り当てに関するレポート

ユーザーを容易に管理できるようにするには、カスタムレポートタイプを作成し、カスタム権限セットおよび権限セットグループの割り当てに関するレポートを作成します。特定のカスタム権限セットまたは権限セットグループに割り当てられたすべてのユーザーを表示します。または、このレポートを使用して、個々のユーザーの割り当てを確認します。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「レポートタイプ」と入力し、[レポートタイプ] を選択します。主オブジェクトとして [権限セットの割り当て] を選択します。カスタムレポートタイプをリリースすると、ユーザーはレポートを作成するときにそのカスタムレポートタイプを選択できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 権限セットおよび権限セットグループの割り当てに関するレポート (リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

IdeaExchange: ユーザーの権限セットの割り当てに関するレポート機能



権限セットで有効になっている内容をより容易に表示 (ベータ)

権限セットに含まれているすべての権限を追跡することは難しいかもしれません。ユーザーのアクセス権と権限をより容易に管理できるように、有効になっているすべてのオブジェクト、ユーザー、項目の権限を1ページに表示できるようになりました。これにより、数十回のクリックが省略されます。また、特定の権限セットが含まれている権限セットグループも表示できます。この機能は IdeaExchange のアイデアのおかげで提供されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Professional Edition、Group Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

メモ: この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「契約および規約」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「権限セット」と入力し、[権限セット] を選択します。権限セットを選択して、[概要を表示 (ベータ)] をクリックします。

The screenshot shows the 'Create, View, and Edit Cases' permission set in the Salesforce Setup. It includes fields for API Name (test), License (--), Created By (Andrea Kim), Last Modified By (Andrea Kim), Namespace Prefix (--), Session Activation Required (unchecked), Created Date (5/3/2021, 01:56 PM), Last Modified Date (3/3/2023, 10:38 AM), and a section for 'Permission Set Groups Added To' which lists 'IT Help Desk Team Member' with API name IT_Help_Desk_Team_Member, status Updated, and description 'Includes these permission sets: View...'. There is also a 'Description' field stating 'Create, read, and edit permissions for cases.'

項目権限の設定における全項目の選択

権限セットでは、各項目の権限を1つずつ選択する代わりに、ワンクリックですべての項目の参照アクセス権や編集アクセスを有効化または無効化できるようになりました。この更新により、何十回あるいは何百回もクリックする手間が不要になり、API 限定インテグレーションユーザーの設定や権限セットへのプロファイルの移行といった作業をスピードアップできます。セキュリティのベストプラクティスとして、ユーザーが業務上必要とする項目権限のみを有効にしてください。

対象: この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Professional Edition、Group Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 権限セットを選択し、オブジェクトを検索して選択します。[編集]をクリックし、[項目権限]セクションで [参照アクセス権] または [編集アクセス権] の横にあるチェックボックスを選択または選択解除します。

この機能は、拡張プロファイルユーザーインターフェースでも使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 権限セットとプロファイルでの項目権限の設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[IdeaExchange: Select All Button for Read/Create Field Permissions in Permission Set UI \(権限セット UI での項目権限の参照/作成の \[すべて選択\] ボタン\)](#)

権限セットグループのエラーのトラブルシューティング

問題をより迅速に修正できるように、権限セットグループに関連する最新のアクション可能なエラーメッセージがその詳細ページに表示されます。権限セットグループの状況が失敗の場合、権限セットグループを手動で再適用することもできるようになりました。リリースまたはパッケージ更新後に権限セットグループの状況が失敗になっている場合、この手動再適用操作を使用できます。以前は、権限セットグループを更新することで再適用を開始していました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「権限セットグループ」と入力し、[権限セットグループ] を選択します。権限セットグループの最新のエラーを確認するには、権限セットグループを選択します。権限セットグループを再適用するには、権限セットグループを選択し、[再適用] をクリックします。

Description	API Name	Delegated_Admins
Namespace Prefix	Status	Failed
Session Activation Required	Created By	Admin A, 7/24/2023, 3:11 PM
Last Modified By	Admin A, 7/24/2023, 3:26 PM	

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 権限セットグループの状況と再適用\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

権限セット内のオブジェクトと項目の権限の API 参照名の表示

権限セットでオブジェクトと項目の権限を設定すると、オブジェクトと項目の表示ラベルに加えてオブジェクト API 参照名と項目 API 参照名が表示されるようになりました。同じ名前の複数のコンポーネントがある場合、この変更によりオブジェクトと項目を容易に区別できるようになります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Professional Edition、Group Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 権限セット \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

特定の権限セットが追加された権限セットグループの数の表示

特定の権限セットが含まれている権限セットグループの数を表示できるようになりました。この数を使用して、権限セットを変更する前にユーザーへの潜在的な影響を推定します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Professional Edition、Group Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「権限セット」と入力し、[権限セット] を選択します。権限セットを選択し、[追加された権限セットグループ] 項目を参照します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 権限セットを追加する権限セットグループ数の確認 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[実現した IdeaExchange: 権限セットで有効になっている内容をより容易に表示 \(ベータ\)](#)

改善されたユーザーアクセスポリシーの検索条件を使用したユーザーアクセスの自動化および移行 (ベータ)

ユーザーアクセスポリシーの検索条件では合計3個の権限セット、権限セットグループ、または管理パッケージライセンスを参照できます。これにより、目的のユーザーをより容易に対象設定できます。以前は、権限セット、権限セットグループ、管理パッケージライセンスをそれぞれ1つのみ参照できました。ユーザーアクセスポリシーを使用すると、設定した条件に基づいて管理パッケージライセンス、権限セット、他のアクセスメカニズムへのユーザーの割り当てを自動化できます。ユーザーが作成または更新されたときに自動的に実行するポリシーや、1つの操作でユーザーを新しいアクセス設定に移行するポリシーを作成します。この機能は Winter '24 では引き続きベータで使用可能です。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「契約および規約」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: ユーザーアクセスポリシーを有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「ユーザー管理設定」と入力し、[ユーザー管理設定]を選択します。[ユーザーアクセスポリシー(ベータ)]を有効にします。ユーザーアクセスポリシーを作成または管理するには、[設定] から、[クイック検索]ボックスに「ユーザーアクセスポリシー」と入力し、[ユーザーアクセスポリシー]を選択します。

検索条件で複数の権限セット、権限セットグループ、または管理パッケージライセンスを参照している場合、ポリシーは、すべての検索条件を満たすユーザーにのみ適用されます。

Summer'23 より前に Salesforce によってユーザーアクセスポリシーが有効化されている場合は、[ユーザー管理設定] ページでこの機能を再度有効にする必要があります。

Lightning アプリケーションビルダー

何百もの LWC 対応標準オブジェクトで動的フォームを使用します。正式リリースされたモバイルの動的フォームを使用して、デスクトップユーザーと同じカスタマイズされた環境をモバイルユーザーに提供します。

このセクションの内容:

実現した IdeaExchange: LWC 対応標準オブジェクトでの動的フォームの使用

100種類を超える LWC 対応標準オブジェクトで動的フォームを使用できるようになりました。動的フォームを使用することで、管理エクスペリエンスが合理化され、ページパフォーマンスが向上するとともに、表示ルールオプションによって、必要なときに必要な情報のみがユーザーに表示されるようにすることができます。これまで、動的フォームはカスタムオブジェクトと一部の標準オブジェクトでしか使用できませんでした。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

実現した IdeaExchange: モバイルユーザーへの動的フォーム環境の提供(正式リリース)

動的フォームを使用すると、Lightning レコードページの項目の個別の追加と削除、複数のセクションへのレコードの詳細の分割、および項目と項目セクションの条件付き表示ルールの設定を Lightning アプリケーションビルダー すべて行うことができます。以前は動的フォームはデスクトップでのみ使用できました。モバイルユーザーはモバイルの動的フォームを使用して、デスクトップユーザーと同じカスタマイズされた環境を使用できるようになりました。Summer'23 では、一部のオブジェクトを対象としたベータ機能としてモバイルでの動的フォームが提供されていました。今回、動的フォームに対応したすべてのオブジェクトで正式リリースとなりました。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。



LWC 対応標準オブジェクトでの動的フォームの使用

100種類を超える LWC 対応標準オブジェクトで動的フォームを使用できるようになりました。動的フォームを使用することで、管理エクスペリエンスが合理化され、ページパフォーマンスが向上するとともに、表示ルールオプションによって、必要なときに必要な情報のみがユーザーに表示されるようにすることができます。これまで、動的フォームはカスタムオブジェクトと一部の標準オブジェクトでしか使用できませんでした。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 動的フォームはほとんどの標準 LWC 対応オブジェクトでサポートされますが、一部のオブジェクトではサポートされません。Lightning アプリケーションビルダーでオブジェクトのレコードページを開いたときに、

コンポーネントパネルに[項目]タブが表示されない場合は、そのオブジェクトでは動的フォームはサポートされません。たとえば、メモオブジェクトはレイアウトが固定されているため、動的フォームはサポートしません。

動的フォームは、LWCに対応していないオブジェクトではサポートされません。たとえば、キャンペーンオブジェクト、商品オブジェクト、ToDo オブジェクトは、引き続きページレイアウトからの情報を使用します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 動的フォームでレコードの詳細を分割\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: レコードホームページの LWCへの移行\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)



モバイルユーザーへの動的フォーム環境の提供(正式リリース)

動的フォームを使用すると、Lightning レコードページの項目の個別の追加と削除、複数のセクションへのレコードの詳細の分割、および項目と項目セクションの条件付き表示ルールの設定を Lightning アプリケーションビルダーですべて行うことができます。以前は動的フォームはデスクトップでのみ使用できました。モバイルユーザーはモバイルの動的フォームを使用して、デスクトップユーザーと同じカスタマイズされた環境を使用できるようになりました。Summer '23 では、一部のオブジェクトを対象としたベータ機能としてモバイルでの動的フォームが提供されていました。今回、動的フォームに対応したすべてのオブジェクトで正式リリースとなりました。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Salesforce モバイルアプリケーションの [設定] から、[モバイルの動的フォーム] を有効にします。



動的フォームコンポーネントを Lightning レコードページに追加し、そのページに [レコード詳細 - モバイル] コンポーネントが含まれている場合、[モバイルの動的フォーム] を有効にしても、ユーザーにはモバイルデバイスで [レコード詳細 - モバイル] コンポーネントのみが表示されます。動的フォームにアップグレードするページでユーザーがモバイルの動的フォームのコンテンツを参照できるようにするには、ページから [レコード詳細 - モバイル] コンポーネントを削除します。

[モバイルの動的フォーム]を有効化すると、動的フォームにアップグレードする Lightning レコードページでは追加の設定なしでモバイルデバイスに動的フォームが表示されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: モバイルの動的フォームの有効化\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: モバイルの動的フォームに関する考慮事項\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

共有

レコードアクセスエラーのトラブルシューティングを行い、イベント監視を使用してグループメンバーシップの変更を監査します。アカウントアクセスおよびグループメンバーシップに関するレポートを作成します。2つのリリース更新を使用して取引先の共有再適用の高速化を有効にします。

このセクションの内容:

[実現した IdeaExchange: 手動または取引先チームによる共有の取引先へのアクセス権を持つユーザーをレポートで確認](#)

手動またはアカウントチームによって共有されている取引先レコードがあり、そのレコードへのアクセス権を持つユーザーまたはグループがある場合に、その取引先レコードのスナップショットを取得します。取引先の共有オブジェクトでカスタムレポートタイプを作成して、レポートを作成します。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

[レポートによる公開グループメンバーの参照](#)

公開グループのメンバーシップをより簡単に管理できるようになりました。カスタムレポートタイプを作成することで、どのユーザー、ロール、その他のグループが公開グループに追加されているかを確認できるようになりました。以前は、キューのメンバーを表示するために、各公開グループ内をクリックするか、クエリを実行していました。

[イベントモニタリングによる公開グループのメンバー変更の監査](#)

新しいグループメンバーシップイベント種別を使用して、公開グループにメンバーが追加されたとき、またはキューからメンバーが削除されたときを監視します。公開グループには、個々のユーザー、その他のグループ、または特定のロールやテリトリリーのユーザーを含めることができます。

[イベント監視による \[アクセス権がありません\] エラーのトラブルシューティング](#)

取引先、ケース、取引先責任者、および商談レコードのアクセスエラーのトラブルシューティングと解決のために、EventLogFile オブジェクトの新しい [アクセス権がありません] イベント種別を利用できます。ユーザーがレコードにアクセスまたは転送できなかった時間と、関連するエラーメッセージを確認できます。

ケースおよび取引先責任者の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の実現(リリース更新)

パフォーマンスを向上するため、ケースおよび取引先責任者オブジェクトのバックグラウンドでの取引先共有の自動再適用の動作が変更されています。取引先とその子のケースおよび取引先責任者レコードの間で暗黙的な子共有レコードが保存されなくなりました。代わりに、ユーザーが子のケースおよび取引先責任者レコードにアクセスするときに、ユーザーがそれらのレコードにアクセスできるかどうかがシステムによって判断されます。このリリース更新は Summer '23 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用されます。

商談の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の実現(リリース更新)

パフォーマンスを向上するため、商談オブジェクトのバックグラウンドでの取引先共有の自動再適用の動作が変更されています。取引先とその子の商談レコードの間で暗黙的な子共有レコードが保存されなくなりました。代わりに、ユーザーが子の商談レコードにアクセスするときに、ユーザーがそのレコードにアクセスできるかどうかがシステムによって判断されます。商談に対してユーザー自身でこの機能を有効にできるようになりました。これまででは、Salesforce カスタマーサポートがこの機能を有効にしていました。このリリース更新は Winter '24 以降で使用可能になります。



手動または取引先チームによる共有の取引先へのアクセス権を持つユーザーをレポートで確認

手動またはアカウントチームによって共有されている取引先レコードがあり、そのレコードへのアクセス権を持つユーザーまたはグループがある場合に、その取引先レコードのスナップショットを取得します。取引先の共有オブジェクトでカスタムレポートタイプを作成して、レポートを作成します。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「レポートタイプ」と入力し、[レポートタイプ] を選択します。主オブジェクトとして [取引先の共有] を選択します。カスタムレポートタイプをリリースすると、ユーザーはレポートを作成するときにそのカスタムレポートタイプを選択できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: レポートを使用した手動共有または取引先チームから取引先へのアクセスの確認\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce プラットフォームのオブジェクトリファレンス: AccountShare](#)

[IdeaExchange: 共有のレポート機能: 手動、共有ルール、または\(取引先または営業\) チーム](#)

レポートによる公開グループメンバーの参照

公開グループのメンバーシップをより簡単に管理できるようになりました。カスタムレポートタイプを作成することで、どのユーザー、ロール、その他のグループが公開グループに追加されているかを確認できるようになりました。以前は、キューのメンバーを表示するために、各公開グループ内をクリックするか、クエリを実行していました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「レポートタイプ」と入力し、[レポートタイプ] を選択します。主オブジェクトとして [グループメンバー] を選択します。カスタムレポートタイプをリリースすると、ユーザーはレポートを作成するときにそのカスタムレポートタイプを選択できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: レポートを使用した公開グループの監視\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

イベントモニタリングによる公開グループのメンバー変更の監査

新しいグループメンバーシップイベント種別を使用して、公開グループにメンバーが追加されたとき、またはキューからメンバーが削除されたときを監視します。公開グループには、個々のユーザー、その他のグループ、または特定のロールやテリトリーのユーザーを含めることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

関連トピック:

[公開グループおよびキューのメンバーシップの変更に関する情報の取得](#)

イベント監視による[アクセス権がありません]エラーのトラブルシューティング

取引先、ケース、取引先責任者、および商談レコードのアクセスエラーのトラブルシューティングと解決のために、EventLogFile オブジェクトの新しい[アクセス権がありません]イベント種別を利用できます。ユーザーがレコードにアクセスまたは転送できなかった時間と、関連するエラーメッセージを確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

関連トピック:

[実現した IdeaExchange: 「アクセス権がありません」エラーに関する情報の取得](#)

ケースおよび取引先責任者の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現 (リリース更新)

パフォーマンスを向上するため、ケースおよび取引先責任者オブジェクトのバックグラウンドでの取引先共有の自動再適用の動作が変更されています。取引先とその子のケースおよび取引先責任者レコードの間で暗黙的な子共有レコードが保存されなくなりました。代わりに、ユーザーが子のケースおよび取引先責任者レコードにアクセスするときに、ユーザーがそれらのレコードにアクセスできるかどうかがシステムによって判断されます。このリリース更新は Summer '23 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は Summer '23 で最初に使用可能になりました。Summer '23 より前に作成された本番組織では、この動作は Winter '24 からローリング方式で有効になります。Summer '23 以降で作成された本番組織とスクラッチ組織では、この動作はデフォルトで有効になっています。Sandbox では、この動作は Summer '23 からローリング方式で有効になりました。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: これらの暗黙的な子共有レコードが保存されないことで、取引先の所有権と共有ルールの再適用が高速化されます。組織の共有設定、グループメンバーシップ、ロール階層、手動共有の操作も向上します。

方法: この更新を確認するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。「ケースおよび取引先責任者の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現」で、テストステップに従い、組織の準備ができたら [更新を適用] をクリックします。このリリース更新は、Sandbox組織と、この機能がすでに有効化されている本番組織では表示されません。また、Summer '23 以降に作成された新しい本番組織やスクラッチ組織でも、このリリース更新は表示されません。

この更新を適用すると、組織のロール階層の設定に応じて、取引先所有者は大規模 Experience Cloud サイトユーザーが所有するケースおよび取引先責任者にアクセスできるようになります。暗黙的な子のケースおよび取引先責任者の共有レコードを照会する SOQL クエリまたは Apex テストでは、結果が返されなくなります。これは、Salesforce でこれらのレコードが保存されなくなっているためです。詳細は、ナレッジ記事を参照してください。

関連トピック:

[ナレッジ記事: 取引先共有の再適用の迅速化](#)

[商談の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現 \(リリース更新\)](#)

[リリース更新](#)

商談の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現 (リリース更新)

パフォーマンスを向上するため、商談オブジェクトのバックグラウンドでの取引先共有の自動再適用の動作が変更されています。取引先とその子の商談レコードの間で暗黙的な子共有レコードが保存されなくなりました。代わりに、ユーザーが子の商談レコードにアクセスするときに、ユーザーがそのレコードにアクセスできるかどうかがシステムによって判断されます。商談に対してユーザー自身でこの機能を有効にできるようになりました。これまででは、Salesforce カスタマーサポートがこの機能を有効にしていました。このリリース更新は Winter '24 以降で使用可能になります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce では、このリリース更新を Spring '24 からローリング方針で既存の本番組織で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

Winter '24 以降で作成された本番組織とスクラッチ組織では、この動作はデフォルトで有効になっています。 Sandbox では、この動作は Winter '24 からローリング方式で有効になります。

理由: これらの暗黙的な子共有レコードが保存されないことで、取引先の所有権と共有ルールの再適用が高速化されます。組織の共有設定、グループメンバーシップ、ロール階層、手動共有の操作も向上します。

方法: この更新を確認するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。「商談の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現」で、テストステップに従い、組織の準備ができたら [更新を適用] をクリックします。このリリース更新は、Sandbox 組織と、この機能がすでに有効化されている本番組織では表示されません。また、Winter '24 以降に作成された新しい本番組織やスクラッチ組織でも、このリリース更新は表示されません。

Salesforce で暗黙的な子商談の共有レコードが保存されなくなるため、こうしたレコードを照会する SOQL クエリまたは Apex テストで結果が返されなくなります。詳細は、ナレッジ記事を参照してください。

関連トピック:

[ナレッジ記事: 取引先共有の再適用の迅速化](#)

[ケースおよび取引先責任者の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現 \(リリース更新\)](#)

[リリース更新](#)

外部サービス

外部サービスの宣言型ツールを使用して編集できる HTTP コールアウトメソッドが増えました。

このセクションの内容:

[HTTP コールアウトでの POST、PUT、PATCH、DELETE の編集](#)

宣言型ツールを使用して、HTTP コールアウトメソッドの POST、PUT、PATCH、DELETE のパラメーター、要求サンプル、サンプルレスポンスボディを編集します。以前は、GET メソッドのみが編集可能で、他の HTTP メソッドでは API 仕様を手作業で編集していました。

HTTP コールアウトでの POST、PUT、PATCH、DELETE の編集

宣言型ツールを使用して、HTTP コールアウトメソッドの POST、PUT、PATCH、DELETE のパラメーター、要求サンプル、サンプルレスポンスボディを編集します。以前は、GET メソッドのみが編集可能で、他の HTTP メソッドでは API 仕様を手作業で編集していました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: フローで HTTP コールアウトを作成します。外部サービスで操作を編集するには、外部サービスの [詳細] ページに移動し、[HTTP コールアウトを編集] を選択します。

関連トピック:

[HTTP コールアウトを介してコードなしで Salesforce データを外部サーバーに送信 \(正式リリース\)](#)

[Salesforce ヘルプ: HTTP コールアウト \(リリースプレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce Connect

Amazon Athena の外部データソースによって、キャッシュされたクエリ結果を再利用できます。Salesforce Connect の OData 4.01 アダプターへの機能強化について確認します。

このセクションの内容:

[Amazon Athena アダプターによるキャッシュされたクエリ結果の再利用](#)

Amazon Athena に対応付けられた外部データソースから取得した保存済みクエリ結果を再利用することで、クエリを繰り返す際のパフォーマンスを向上できます。設定された最大時間内に外部データソースにクエリを送信すると、キャッシュされたクエリ結果がフェッチされ、クエリが高速化されます。

[Salesforce Connect の OData 4.01 アダプターの機能強化](#)

外部変更データキャプチャを使用して、外部データへの変更を追跡するために OData 4.01 アダプターを設定できるようになりました。OData 4.01 外部データソースに対応付けられている外部オブジェクトが検索可能なオブジェクトになりました。ページ上部にある検索ボックスを使用して、OData 4.01 外部データソースに対応付けられている特定の外部オブジェクト、または Salesforce 全体でのグローバル検索を行えます。

Amazon Athena アダプターによるキャッシュされたクエリ結果の再利用

Amazon Athena に対応付けられた外部データソースから取得した保存済みクエリ結果を再利用することで、クエリを繰り返す際のパフォーマンスを向上できます。設定された最大時間内に外部データソースにクエリを送信すると、キャッシュされたクエリ結果がフェッチされ、クエリが高速化されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Performance Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法:[設定] で、[クイック検索] ボックスに「外部データソース」と入力し、[外部データソース] を選択します。Amazon Athena に対応付けられた外部データソースを選択し、[キャッシュされた結果を使用] を選択し、キャッシュされた結果の最大保存期間を入力します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Amazon Athena の Salesforce Connect アダプターを使用した外部データへのアクセス \(リリースプレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce Connect の OData 4.01 アダプターの機能強化

外部変更データキャプチャを使用して、外部データへの変更を追跡するために OData 4.01 アダプターを設定できるようになりました。OData 4.01 外部データソースに対応付けられている外部オブジェクトが検索可能なオブジェクトになりました。ページ上部にある検索ボックスを使用して、OData 4.01 外部データソースに対応付けられている特定の外部オブジェクト、または Salesforce 全体でのグローバル検索を行えます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Performance Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「外部データソース」と入力し、[外部データソース] を選択します。外部データソースを選択し、[外部変更データキャプチャの対象] を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Connect の OData アダプターを使用した外部データへのアクセス\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

グローバリゼーション

ICU と JDK のロケール形式を常に把握します。日本語のカタカナの新しいスタイルに備えられます。クロアチアとシエラレオーネには現在のロケールを使用します。ICU ロケール形式の適用に向けて準備します。

このセクションの内容:

[日本語のカタカナのスタイル変更への備え\(リリース更新\)](#)

外国語の単語に関する日本語のカタカナの翻訳を改善するため、現在の日本産業規格(JIS)のスタイルは 1991 Cabinet Notification Directive のスタイルに置き換えられます。

[ICU ロケール形式の有効化\(リリース更新\)](#)

どこからでもビジネスを行うには、International Components for Unicode (ICU) ロケール形式を採用します。ロケールによって、日付、時刻、通貨、住所、名前、数値の形式が制御されます。ICU は、これらの形式の国際標準を設定しています。ICU ロケール形式によって、プラットフォーム全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。この更新を有効にすると、Salesforce で Oracle の Java Development Kit (JDK) ロケール形式が ICU ロケール形式に置き換わります。この更新は Winter '20 で最初に使用可能になり、Spring '24 からローリング方式で適用されます。

[クロアチアとシエラレオーネの現在のロケールの使用](#)

2023 年、クロアチアが EU に加盟し、ユーロ (EUR) を使用するようになりました。また、シエラレオーネの通貨は以前のレオーネ (SLL) から新しいレオーネ (SLE) に変更されました。Summer '23 では、新しい通貨用のロケールがありました。Winter '23 では、古くなった通貨が削除されます。

[言語検索条件による翻訳ファイルのエクスポートの高速化](#)

トランスレーションワークベンチファイルをすばやくエクスポートできるように、検索条件を使用して、テキストファイルに含める利用可能な言語を制限します。テキストファイルが小さいほど速くエクスポートできます。

更新された表示ラベル翻訳の確認

精度とユーザー エクスペリエンスを改善するため、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、フィンランド語、フランス語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、日本語、韓国語、ポーランド語、ポルトガル語(ブラジル)、スロバキア語、スロベニア語、スペイン語、スペイン語(メキシコ)で一部の標準オブジェクト、タブ、項目名の翻訳が更新されました。

日本語のカタカナのスタイル変更への備え (リリース更新)

外国語の単語に関する日本語のカタカナの翻訳を改善するため、現在の日本産業規格(JIS)のスタイルは 1991 Cabinet Notification Directive のスタイルに置き換えられます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。製品のドキュメントでも新しいスタイルを使用します。

メモ: ここで説明している機能は、Salesforce が発表する最新の正式リリース日まで正式リリースされません。それまでの間は、特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

関連トピック:

[ナレッジ記事 日本語 \(カタカナ\) の表示ラベル変更 \(日本語のみ\)](#)

ICU ロケール形式の有効化 (リリース更新)

どこからでもビジネスを行うには、International Components for Unicode (ICU) ロケール形式を採用します。ロケールによって、日付、時刻、通貨、住所、名前、数値の形式が制御されます。ICU は、これらの形式の国際標準を設定しています。ICU ロケール形式によって、プラットフォーム全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。この更新を有効にすると、Salesforce で Oracle の Java Development Kit (JDK) ロケール形式が ICU ロケール形式に置き換わります。この更新は Winter '20 で最初に使用可能になり、Spring '24 からローリング方式で適用されます。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: Salesforce は JDK ロケール形式を廃止し、Spring '24 リリースからローリング方式で ICU ロケール形式を適用します。Winter '20 以降に作成された組織では、ICU ロケール形式がデフォルトで有効になっています。この適用は、UI から Spring '25 まで延期できます。Salesforce は、組織で ICU が有効になる 30 ~ 60 日前にシステム管理者にメールを送信します。ICU ロケール形式が有効になったら、Salesforce はシステム管理者にそのイベントについて通知します。

方法: この更新を有効にするには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。ICU ロケール形式を有効化するには、テストと有効化の手順を実行します。

英語(カナダ) ロケール(en_CA)では、個別の有効化が必要です。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「ユーザーインターフェース」と入力し、[ユーザーインターフェース] を選択します。続いて [en_CA の ICU 形式を有効化] を選択して、変更内容を保存します。

Spring '25 まで ICU ロケール形式の適用を延期するには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「ユーザーインターフェース」と入力し、[ユーザーインターフェース] を選択します。続いて [Enable ICU locale formats as part of the

scheduled rollout(スケジュールされたロールアウトの一部として ICU ロケール形式を有効化)]を選択して、変更内容を保存します。この設定は、組織で JDK ロケール形式が使用されている場合にのみ表示されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:新しい国際ロケール形式によるグローバル対応\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[ナレッジ記事:JDK ロケール形式の廃止](#)

[Trailblazer Community グループ:ICU Locale Formats Adoption \(ICU ロケール形式の採用\)](#)

[リリース更新](#)

クロアチアとシェラレオーネの現在のロケールの使用

2023 年、クロアチアが EU に加盟し、ユーロ (EUR) を使用するようになりました。また、シェラレオーネの通貨は以前のレオーネ (SLL) から新しいレオーネ (SLE) に変更されました。Summer '23 では、新しい通貨用のロケールがありました。Winter '23 では、古くなった通貨が削除されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: クロアチアの JDK で hr_HR_in を使用している場合は、通貨形式が更新されます。

シェラレオーネの JDK または ICU で en_SL_SLE を使用している場合は、更新されたロケールの en_SL に置き換えてください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:ロケールの概要\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

言語検索条件による翻訳ファイルのエクスポートの高速化

トランスレーションワークベンチファイルをすばやくエクスポートできるように、検索条件を使用して、テキストファイルに含める利用可能な言語を制限します。テキストファイルが小さいほど速くエクスポートできます。

対象: この変更は、翻訳を含むロック解除済みの第一世代と第二世代の管理パッケージに適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:翻訳ファイルのエクスポート\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

更新された表示ラベル翻訳の確認

精度とユーザーエクスペリエンスを改善するため、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、フィンランド語、フランス語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、日本語、韓国語、ポーランド語、ポルトガル語(ブラジル)、スロバキア語、スロベニア語、スペイン語、スペイン語(メキシコ)で一部の標準オブジェクト、タブ、項目名の翻訳が更新されました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: 変更内容を確認するには、「[Winter '24 で更新された表示ラベルの翻訳の確認](#)」を参照し、添付されている変更内容のリストをダウンロードしてください。タブと項目の表示ラベルに別の翻訳を使用するには、その名前を変更します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: オブジェクト、タブ、項目の表示ラベルの名称変更\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

AppExchange

新しいソリューション種別バッジを使用して、AppExchange ソリューションが各自の要件を満たしているかどうか確認します。AppExchange Japan の改善された検索およびソリューションリスト環境をお試しください。

このセクションの内容:

[AppExchange のソリューション種別を一目で確認](#)

AppExchange リストのソリューション種別バッジを確認すれば、そのソリューションがどのテクノロジーを拡張するのか、各自の技術要件を満たすかどうかをすぐ判断できます。たとえば、Tableau を拡張するアクセラレーターなのか、Salesforce B2C Commerce を拡張するカートリッジなのかを識別できます。

[AppExchange Japan の改善されたソリューションリストの確認](#)

AppExchange Japan で使用できるようになった改善されたリスト環境を使用して、アプリケーションや他のソリューションが会社のニーズを満たすかどうかをすばやく評価します。簡略化された [概要] タブで、価格設定の詳細、互換性情報、平均評価を一目で確認できます。良さそうなソリューションを見つけたら、[レビュー] タブでユーザーのフィードバックを参照したり、[詳細] タブで技術情報を確認したりして、さらに深く分析できます。

[AppExchange Japan でソリューションとコンサルタントを迅速に検索](#)

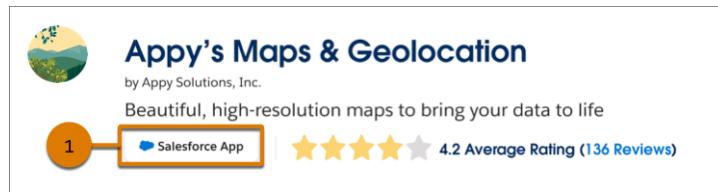
AppExchange Japan で使用できるようになった改善された AppExchange の検索環境で、ニーズに最適なソリューションまたはコンサルタントを検索します。検索条件パネルを検索して、関連する検索条件をすばやく見つます。ビジネスニーズやジョブロールなどの新しい検索条件オプションを使用して、検索結果をより的確に絞り込みます。ソリューションとコンサルタントの検索結果は個別のページに表示されるようになります。また、気が散らずに調べることができます。

AppExchange のソリューション種別を一目で確認

AppExchange リストのソリューション種別バッジを確認すれば、そのソリューションがどのテクノロジーを拡張するのか、各自の技術要件を満たすかどうかをすぐ判断できます。たとえば、Tableau を拡張するアクセラレーターなのか、Salesforce B2C Commerce を拡張するカートリッジなのかを識別できます。

対象: この変更は、AppExchange Web サイトのソリューションリストに適用されます。

方法: バッジを表示するには、AppExchange に移動して、ソリューションリストを開き、リストの概要に移動します。



プロバイダー名と説明の下に [Salesforce App (Salesforce ソリューション)](1)などのソリューション種別が表示されます。

AppExchange Japan の改善されたソリューションリストの確認

AppExchange Japan で使用できるようになった改善されたリスト環境を使用して、アプリケーションや他のソリューションが会社のニーズを満たすかどうかをばく評価します。簡略化された[概要]タブで、価格設定の詳細、互換性情報、平均評価を一目で確認できます。良さそうなソリューションを見つけたら、[レビュー]タブでユーザーのフィードバックを参照したり、[詳細]タブで技術情報を確認したりして、さらに深く分析できます。

対象: この変更は、AppExchange Japan のアプリケーションおよびソリューションリストに適用されます。

方法: AppExchange Japan から、アプリケーションまたはソリューションリストを開きます。

アプリケーションまたはソリューションを評価する上で最も重要な詳細(特長など)を参照するには、[概要]タブに移動します(1)。更新されたメディアカルーセルでソリューションの機能をプレビューします(2)。[価格設定の詳細]セクションで、提供されている価格設定プランの概要を確認します。

アプリケーションやソリューションを試したユーザーのフィードバックを参照するには、[レビュー]タブに移動します(1)。関係者と共有しやすい表示に切り替えるには、レビューの投稿日をクリックします(2)。レビューを共有するには、URL をコピーします。



互換性のある Salesforce エディションなど、アプリケーションまたはソリューションの技術的な属性について調べるには、[詳細] タブに移動します(1)。実装に進む準備が整ったら、プロバイダーから提供されているリソースやドキュメントを参照してください。



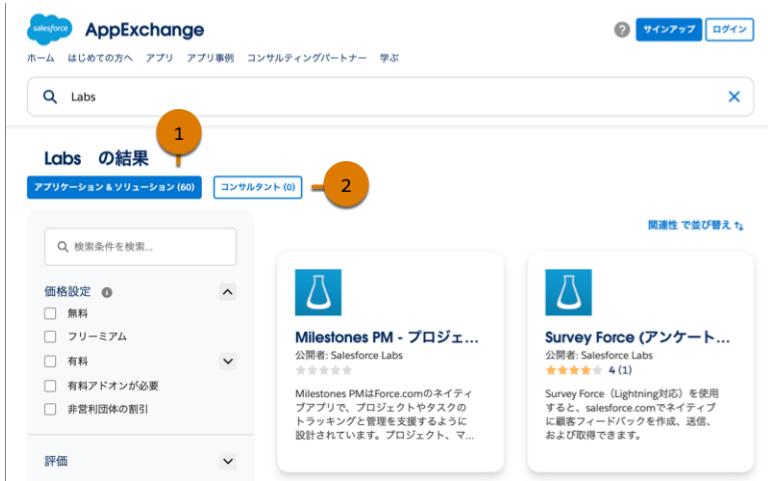
AppExchange Japan でソリューションとコンサルタントを迅速に検索

AppExchange Japan で使用できるようになった改善された AppExchange の検索環境で、ニーズに最適なソリューションまたはコンサルタントを検索します。検索条件パネルを検索して、関連する検索条件をすばやく見つます。ビジネスニーズやジョブロールなどの新しい検索条件オプションを使用して、検索結果をより的確に絞り込みます。ソリューションとコンサルタントの検索結果は個別のページに表示されるようになったため、気が散らずに調べることができます。

対象: この変更は AppExchange Japan に適用されます。

方法: AppExchange Japan で、検索語を入力します。

デフォルトでは、検索語に最も一致したアプリケーションとソリューションが表示されます(1)。ソリューションの構築または実装をお手伝いできる Salesforce エキスパートを表示するには、[コンサルタント]をクリックします(2)。



次に、検索条件と並び替えで対象を絞り込みます。クリック検索ボックスを使用して関連する検索条件を検索します(1)。ビジネスニーズの検索条件を使用して、特定の課題や使用事例のソリューションを特定します(2)。または、業種(3)、ジョブロール(4)、会社のインパクト(5)などのビジネス要件や技術要件に従って、結果を絞り込みます。



一般設定

クリックアクションを必要な場所(関連リスト)に追加することで、関連レコードを容易に作成および更新できるようにします。また、アクセシビリティの向上により、リストビューを移動しやすくなりました。

このセクションの内容:

実現した IdeaExchange: 関連リストでの一括クリックアクションを使用した時間の節約(正式リリース)

関連リストでのクリックアクションの使用が正式リリースされ、関連レコードを容易に作成および更新できるようになりました。定義済み項目値と、最も重要な項目のみが含まれるアクションレイアウトを使用してクリックアクションを設定することで、データ入力を合理化できます。関連リストでは、ユーザーが必要とする場所にクリックアクションを直接追加できます。ユーザーはページから離れずにリストの項目の関連レコードを作成できます。また、一度に最大100件のレコードを一括更新できます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

リストビューのアクセシビリティの改善

リストビューのアクセシビリティを改善する、小さくても重要な変更について説明します。



関連リストでの一括クリックアクションを使用した時間の節約 (正式リリース)

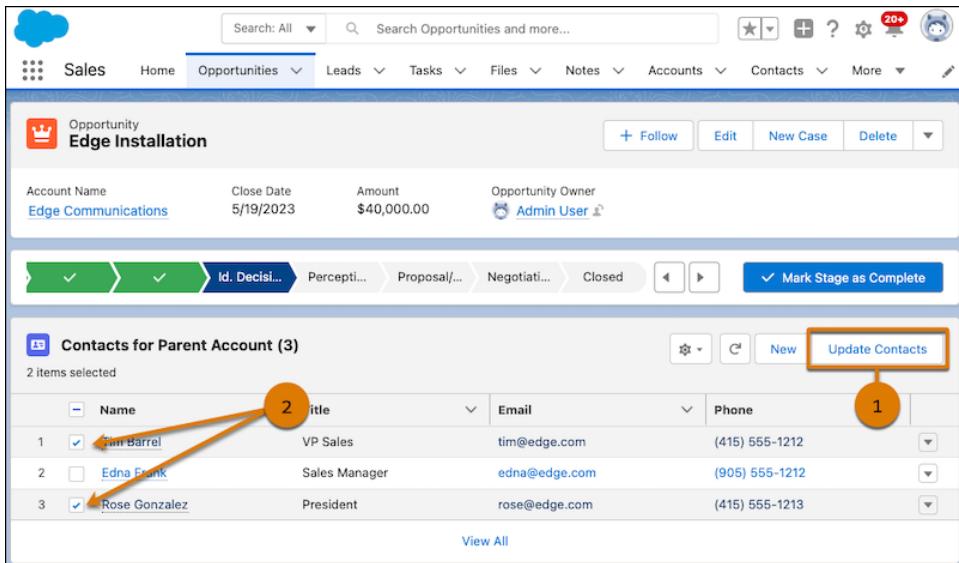
関連リストでのクリックアクションの使用が正式リリースされ、関連レコードを容易に作成および更新できるようになりました。定義済み項目値と、最も重要な項目のみが含まれるアクションレイアウトを使用してクリックアクションを設定することで、データ入力を合理化できます。関連リストでは、ユーザーが必要とする場所にクリックアクションを直接追加できます。ユーザーはページから離れずにリストの項目の関連レコードを作成できます。また、一度に最大100件のレコードを一括更新できます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 2つのいずれかの方法で関連リストにクリックアクションを追加できます。このリリースでは、[レコードを作成] および [レコードを更新] クリックアクションのみがサポートされます。

- Lightning アプリケーションビルダーからクリックアクションを追加するには、レコードページで [動的関連リスト-1つ] コンポーネントを追加または選択します。プロパティペインで、[リストビューアクションバーを表示] を選択し、[アクションを追加] をクリックします。
- ページレイアウトエディターを使用してクリックアクションを追加するには、親オブジェクトのオブジェクト管理設定からページレイアウトを開きます。関連リストプロパティをダブルクリックして開いたら、[ボタン] セクションを展開して、追加するクリックアクションを選択します。そして、Lightning アプリケーションビルダーの親レコードページで、関連リスト種別を [拡張リスト] に設定します。

追加したクリックアクション⁽¹⁾が関連リストに含まれ、ユーザーは選択したレコード⁽²⁾にアクションを適用できます。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ:関連リストの一括クリックアクションの設定\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

リストビューのアクセシビリティの改善

リストビューのアクセシビリティを改善する、小さくても重要な変更について説明します。

対象: これらの変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: これらの変更の詳細を参照してください。

- [Display as Table (テーブルとして表示)] ボタンの表示ラベルが [リスト表示を選択] に変更され、ドロップダウンメニューのオプションのツールチップがわかりやすく、より充実した内容に変更されました。
- リストビューの [グラフ] パネルでは、既存のグラフを選択するための項目に [グラフを選択] という表示ラベルが付けられ、項目の目的が明確になりました。
- キーボードユーザーは、リストで一括アクションがサポートされている場合、いつでも分割ビュー内のリストのチェックボックスに Tab キーで移動できます。以前は、一括アクションがサポートされていない場合でも一部のリストにチェックボックスが表示されていて、キーボードユーザーが Tab キーを押してもチェックボックスには移動できませんでした。
- 分割ビューにあるリストのチェックボックスでは、現在のレコードに関するスクリーンリーダー用の情報が増えました。
- リストビューセルのインライン編集用の鉛筆アイコンでは、セルの内容に関するスクリーンリーダー用の情報が増えました。
- リストビューの [リストを編集] ボタンが、Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.1 の色のコントラストの要件に準拠するようになりました。この変更により、一部の色の組み合わせを区別することが難しい感じるユーザーのアクセシビリティが改善します。

- リストビューページのブラウズモードでは、[リストビューを選択] ドロップダウンメニューの上にあるオブジェクト名をスクリーンリーダーが1回だけ読み上げるようになりました。

Data Cloud

アカウントのさまざまな機能の使用可能状況を管理します。Data Cloud オブジェクトや、取引先責任者またはリード標準/カスタム項目に関するインサイトを有効にします。展開されたレコードホームページビューのカスタマイズを確認してください。

このセクションの内容:

[新しい Data Cloud 権限セットへの移行](#)

既存の DataCloud 標準権限セットが、DataCloud データスペース内の強化されたデータセキュリティをサポートする新しい標準権限セットに置き換わります。Data Cloud ユーザーの既存の標準権限セットの名前は変更されて、先頭に「旧」というプレフィックスが付きます。意図しないユーザーのアクセス権変更を避けるために、Spring '24 までに新しい Data Cloud 権限セットに移行してください。

[データスペース機能の権限を使用したアクセス権の絞り込み](#)

Data Cloud データスペース内のデータセキュリティが強化されて CRM のアクセス制御との連携が向上し、すべてのアクセス方法にデータスペースのセキュリティが適用されます。このアップグレードには、データスペースのアクセス制御を権限セットに統合する変更も含まれます。管理者は、複数のデータスペースを権限セットに直接関連付けることができるようになりました。新機能の権限を使用して、権限セット内の各データスペースのデータスペース対応機能へのアクセス権をさらに制限します。

[新しい権限を使用したプロファイルエクスプローラーへのアクセス](#)

プロファイルエクスプローラーにアクセスできるユーザーをより詳細に制御するために、「Data Cloud プロファイルエクスプローラーにアクセス」という新しいシステム権限を使用できます。この新しいシステム権限は、「Data Cloud 管理者」、「Data Cloud ユーザー」、「Data Cloud Marketing Admin (Data Cloud マーケティング管理者)」、および「DataCloud データアウェアスペシャリスト」標準権限セットに自動的に追加されます。

[機能マネージャーを使用した Data Cloud AI およびベータ機能の有効化および無効化](#)

新しい機能マネージャーを使用すると、Data Cloud AI およびベータ機能を簡単に有効化、無効化、監視できます。機能マネージャーは、[機能] のナビゲーションペインにあります。

[Google Cloud Vertex AI モデルを Data Cloud で使用してパーソナライズを促進](#)

Einstein Studio に組み込まれた Google Cloud Vertex AI モデルを接続し、Salesforce データを使用して、パーソナライズを促進する予測インテリジェンスとアクション可能なインサイトを提供します。Bring Your Own Model (BYOM) 機能を使用して、データサイエンティストやシステム管理者は VertexAI で厳選されてハーモナイズされたほぼリアルタイムの Customer360 データにアクセスできます。会社はこのインサイトを使用して、顧客プロファイルの強化、セグメントの作成、さまざまなタッチポイントのエンドユーザー エクスペリエンスのカスタマイズを行うことができます。

[Data Cloud と Snowflake 間のほぼリアルタイムのデータ共有](#)

データ共有を使用して Data Cloud データを Snowflake と安全に共有できます。データ共有では、ゼロ ETL (抽出、変換、読み込み) データ共有機能が提供されるため、ユーザーはまるでデータが Snowflake にネイティブに保存されているように Salesforce オブジェクトにアクセスできます。

一括処理データ変換でのデータモデルオブジェクトの使用

データモデルオブジェクトをデータ入力とデータ出力の両方のオブジェクトとして使用して、一括処理データ変換を最大限に活用します。以前は、データストリームまたは他のデータレイクオブジェクトを介して Data Cloud に入るデータレイクオブジェクトでしか一括処理データ変換を実行できませんでした。データモデルオブジェクトのサポートにより、一括処理データ変換を柔軟に使用できます。データモデルオブジェクトを使用する下流のプロセス(セグメンテーションや ID 解決など)にこれらを適用します。

一括処理データ変換の自動化

指定された間隔で繰り返し実行するように一括処理データ変換をスケジュールして、時間の節約と継続的なデータ更新を実現します。データ変換を実行する頻度(毎時または毎日)、時間、曜日を選択します。データ変換がリストされている [最近参照したデータ] ページや個々のデータ変換の [詳細] ページでデータ変換をスケジュールできます。

エラーの修正と一括処理データ変換の編集

ビジネスのデータニーズは時間とともに変化します。それに伴い、一括データ変換も変換する可能性があります。保存した一括データ変換の変更、調整、誤りの修正をキャンバスエディターで行います。

複数の出力ノードを使用した複数のデータソースの保持

一括処理データ変換を複数の出力ノードに書き込んで複数のデータソースを保持します。たとえば、1つの変換で同時にケース、注文、状況データレイクまたはデータモデルオブジェクトを更新できます。最適なパフォーマンスを得るには、一括処理データ変換の出力ノードは5つまでに制限してください。

Salesforce Data Cloud コネクタを使用した Tableau Server から Data Cloud への接続

Data Cloud および Tableau Server の Salesforce コネクタを手動でインストールする必要がなくなりました。コネクタは Tableau をインストールするときに自動的に追加されます。組み込みコネクタは、データスペースに対応していて、使いやすくなっています。オブジェクト API 参照名ではなくオブジェクト表示ラベルが表示されます。Tableau のテーブル名もわかりやすくなっています。以前は、Tableau Cloud、Tableau Desktop、Tableau Prep でしかコネクタを使用できませんでした。

データモデルオブジェクトレコードホームページのカスタマイズ

データモデルオブジェクト(DMO)のレコードホームページビューをカスタマイズして、データをさらに活用します。Lightning アプリケーションビルダーを使用して、他の DMO から関連リストを追加したり、ページのヘッダーやその他の領域に表示される項目を変更したりします。たとえば、[統合連絡先] 関連リストを統合個人 DMO レコードホームに含めて、ユーザーがいつでも連絡先情報を利用できるようにします。

取引先の全体像の把握

複数のソースの取引先データを統合取引先プロファイルに統合して、B2B マーケティングおよび分析を強化します。統合取引先データを使用して、営業やサービスの生産性を向上させたり、計算済みインサイト、有効化、Tableau を実行したりします。取引先の ID 解決プロセスでは、完全一致のビジネス名、標準化された住所、メール、電話、関係者識別子の照合がサポートされています。プライマリデータモデルオブジェクトとして取引先を使用して、ID 解決ルールセットを作成します。データスペースごとにプライマリデータモデルオブジェクトあたり最大2つルールセットを作成できます。

Data Cloud データを使用したデータの強化

Data Cloud 強化では、特定のレコードページに追加できる標準 Salesforce コンポーネントに Data Cloud のデータをコピーしたり照会したりできます。Data Cloud のデータが含まれる関連リストや項目を取引先責任者およびリードレコードページに追加できます。

[Data Cloud 関連リストを使用した取引先責任者およびリードの強化](#)

Data Cloud 関連リストでは、Data Cloud のハーモナイズされたデータを照会するため、エンタープライズ全体の情報を 1 つのコンポーネントで参照できます。Data Cloud のデータが含まれる関連リストを取引先責任者およびリードレコードページに追加できます。たとえば、複数の組織にまたがって顧客とのメールエンゲージメントをすべて確認できます。

[Data Cloud 項目のコピーによる取引先責任者およびリードの強化](#)

Data Cloud DMO または CIO 項目のデータを取引先責任者またはリード標準/カスタム項目にコピーします。生涯価値などのインサイトや、Data Cloud によって他の組織およびシステムから集計または取得されたデータを使用して、取引先責任者やリードを強化できます。

[更新されたレコードでデータアクションをトリガーするタイミングの選択](#)

[レコードが更新されました] イベントルールでデータアクションをトリガーする頻度を指定します。データアクションは、レコード更新が指定のアクションルール条件を満たすたびにトリガーすることも、それらの条件を最初に満たしたときにのみトリガーすることもできます。これらの機能は、[レコードが更新されました] イベントルールが選択されている場合にのみ有効になります。

[設定中の Data Cloud インスタンスへの自動接続](#)

Salesforce と Data Cloud インスタンス間の接続を手動で作成する必要はありません。データソースとデータアクションターゲットは、Data Cloud を設定した組織で自動的に作成されるようになりました。接続が不要な場合は削除できます。ただし、その他の Salesforce 組織には、Salesforce CRM コネクタを使用して接続を設定する必要があります。

[ウォーターフォールセグメントを使用したキャンペーンの優先順位付け \(パイロット\)](#)

複数のオファーを含むキャンペーンを実行するときには、ウォーターフォールセグメントを使用して、階層構造を作成し、キャンペーンに優先順位を付けます。たとえば、4つの異なる割引オファーがあり、顧客が複数のオファーを受けないようにしたいとします。キャンペーンの対象を設定するには、相互に排他的なセグメントの優先リストを作成することで、オーディエンスマンバーがウォーターフォールの 1 つのセグメントのみに存在し、1 つのプロモーションオファーのみを受けるようにします。ウォーターフォール内のセグメントを並び替えて、優先順位を調整することもできます。

[Connect Rest API を介したセグメントデータの照会](#)

新しい `/ssot/segments/segmentApiName/members` リソースに対する GET 要求でセグメントメンバーの最新データと履歴データを照会します。検索条件、制限、並び替え順を使用して、結果を柔軟に絞り込むことができます。

[Connect Rest API を使用したデータスペースのセグメントの作成およびリスト](#)

Connect REST API を使用してセグメントデータを整理します。新しい

`/ssot/segments?dataspace=<dataspacename>` リソースへの POST または GET 要求を使用して、デフォルトのデータスペースにセグメントを作成するか、セグメントをリストします。たとえば、デフォルトのデータスペースにセグメントを作成するには、`/ssot/segments?dataspace=default` エンドポイントを指定した POST 要求を使用します。

Data Cloud でのカスタム権限セットへの新しいオブジェクト権限の追加

今後の商品開発でデータアクセスを管理できるように、Data Cloud に 6 つの新しいオブジェクト権限が追加されました。これらの権限は標準の Data Cloud 権限セットに追加されていますが、カスタム権限セットを自動的に更新することはできません。データモデルオブジェクトへのユーザーアクセスを許可するカスタム権限セットには、新しいオブジェクト権限を直接追加する必要があります。これらのオブジェクト権限を持たないユーザーがデータモデルオブジェクトにアクセスしようしたり、オブジェクトを操作したりしようとすると、エラーが返されます。

flatten 変換による階層データの簡素化

flatten 変換で階層データを非正規化します。データをフラット化し、レコードの上位チェーンを追跡すれば、ロールアップを計算するか、階層の一部を抽出して、ロールに基づいて絞り込むことができます。

計算済みインサイトへの評価指標の追加

計算済みインサイトあたり最大 50 個の評価指標を追加できるようになりました。制限が引き上げられたことにより、さらに多くの評価指標を計算済みインサイトに追加できるようになりました。

ID 解決ルールセット処理結果の 1 日の概要の表示

ID 解決ルールセットのルールセット処理履歴テーブルが更新されました。結果は、個別にリストされずに 1 日の概要として表示されるようになりました。ルールセットが 1 日に複数回処理された場合、概要データにはその日に完了した最後の実行が反映されます。

Data Cloud 用の Salesforce 新機能

Data Cloud 用の一連の Salesforce 最新機能です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Data Cloud リリースノートの変更](#)

新しい Data Cloud 権限セットへの移行

既存の Data Cloud 標準権限セットが、Data Cloud データスペース内の強化されたデータセキュリティをサポートする新しい標準権限セットに置き換わります。Data Cloud ユーザーの既存の標準権限セットの名前は変更されて、先頭に「旧」というプレフィックスが付きます。意図しないユーザーのアクセス権変更を避けるために、Spring '24 までに新しい Data Cloud 権限セットに移行してください。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

時期: 2023 年 11 月 6 日、ユーザーの既存の Data Cloud 標準権限セットの名前が変更されます。新しい標準権限セットは、2023 年 11 月 8 日からローリング方式ですべての Data Cloud 組織で作成されます。

理由: 新しい標準権限セットは、データスペース対応機能のオブジェクトから「すべて表示」および「すべて変更」オブジェクト権限を削除して、データスペース内の強化されたデータセキュリティをサポートします。また、データスペースと権限セットの関連付けや、データスペース対応機能へのアクセス権の絞り込みが容易になります。すべてのユーザーは、Data Cloud データのアクセス権を管理するために、強化されたセキュリティデータスペースにアップグレードする必要があります。既存の権限セットの新しい名前および同等の新しい権限セットの名前を理解するには、以下の表を参照してください。

「Data Cloud 管理者」および「Data Cloud Marketing Admin (Data Cloud マーケティング管理者)」標準権限セットは、すべてのデータスペースへのフルアクセスが許可されているため、従来のセキュリティデータスペースと強化

されたセキュリティデータスペースの両方と互換性があります。Data Cloud 管理者ユーザーを新しい権限セットに移行する必要はありません。

表 1: Customer Data Platform ライセンスを持つ Data Cloud 組織の権限セット

既存の Data Cloud 標準権限セットの元の名前	既存の権限セットの新しい名前	同等の強化されたセキュリティの標準権限セット
Data Cloud データアウェアスペシャリスト	(旧) Data Cloud データアウェアスペシャリスト	Data Cloud データアウェアスペシャリスト
Data Cloud マーケティングマネージャー	(旧) Data Cloud マーケティングマネージャー	Data Cloud マーケティングマネージャー
Data Cloud マーケティングスペシャリスト	(旧) Data Cloud マーケティングスペシャリスト	Data Cloud マーケティングスペシャリスト

表 2: Data Cloud ライセンスを持つ Data Cloud 組織の権限セット

既存の Data Cloud 標準権限セットの元の名前	既存の権限セットの新しい名前	同等の強化されたセキュリティの標準権限セット
Data Cloud ユーザー	(旧) Data Cloud ユーザー	Data Cloud ユーザー
Data Cloud for Marketing データアウェアスペシャリスト	(旧) Data Cloud for Marketing データアウェアスペシャリスト	Data Cloud データアウェアスペシャリスト
Data Cloud for Marketing マネージャー	(旧) Data Cloud for Marketing マネージャー	Data Cloud マーケティングマネージャー
Data Cloud for Marketing スペシャリスト	(旧) Data Cloud for Marketing スペシャリスト	Data Cloud マーケティングスペシャリスト

方法: ユーザーを新しい権限セットに移行します。次に、DataCloud設定で[データスペース]に移動し、[Enhanced Security Data Spaces (強化されたセキュリティデータスペース)]を有効にします。

関連トピック:

[データスペース機能の権限を使用したアクセス権の絞り込み](#)

データスペース機能の権限を使用したアクセス権の絞り込み

Data Cloud データスペース内のデータセキュリティが強化されて CRM のアクセス制御との連携が向上し、すべてのアクセス方法にデータスペースのセキュリティが適用されます。このアップグレードには、データスペースのアクセス制御を権限セットに統合する変更も含まれます。管理者は、複数のデータスペースを権限セットに直接関連付けることができるようになりました。新機能の権限を使用して、権限セット内の各データスペースのデータスペース対応機能へのアクセス権をさらに制限します。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

時期: Data Cloud 組織は、2023 年 11 月 6 日以降に新しい権限セットと更新されたドキュメントを受け取ります。Data Cloud 設定の [データスペース] ページに強化されたセキュリティデータスペースを有効にするオプションが表示されていない場合、組織ではアップグレードをまだ使用できません。

方法: 強化されたセキュリティデータスペースに備えるために、組織が新しい権限セットを取得したときに、Data Cloud ユーザーにその権限セットを割り当てます。新しい権限セットを割り当てた後、強化されたセキュリティデータスペースを有効にします。

データスペースの作成時に各データスペースの権限セットが自動的に作成されなくなりました。代わりに、Data Cloud の標準権限セットまたはカスタム権限セットの [Data Cloud データ容量管理] 設定で、データスペースを関連付けます。データスペースが権限セットに関連付けられた後、機能権限にアクセスするデータスペースのリンクを選択します。

データスペース対応機能オブジェクトでの共有はサポートされなくなりました。

関連トピック:

[新しい Data Cloud 権限セットへの移行](#)

新しい権限を使用したプロファイルエクスプローラーへのアクセス

プロファイルエクスプローラーにアクセスできるユーザーをより詳細に制御するために、「DataCloud プロファイルエクスプローラーにアクセス」という新しいシステム権限を使用できます。この新しいシステム権限は、「DataCloud 管理者」、「DataCloud ユーザー」、「DataCloud Marketing Admin (DataCloud マーケティング管理者)」、および「Data Cloud データアウェアスペシャリスト」標準権限セットに自動的に追加されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Data Cloud に適用されます。

方法: Data Cloud 標準権限セットを使用する場合は、何も変更する必要はありません。プロファイルエクスプローラーへのアクセス権を付与する必要があるカスタム権限セット(標準権限セットのコピーを含む)を使用している場合は、カスタム権限セットに「Data Cloud プロファイルエクスプローラーにアクセス」システム権限を追加する必要があります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: データエクスプローラーまたはプロファイルエクスプローラーへのアクセス権の付与または削除 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 標準権限セット \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

機能マネージャーを使用した Data Cloud AI およびベータ機能の有効化および無効化

新しい機能マネージャーを使用すると、Data Cloud AI およびベータ機能を簡単に有効化、無効化、監視できます。機能マネージャーは、[機能] のナビゲーションペインにあります。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 機能マネージャーを使用した Data Cloud AI およびベータ機能の有効化および無効化 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Google Cloud Vertex AI モデルを Data Cloud で使用してパーソナライズを促進

Einstein Studio に組み込まれた Google Cloud Vertex AI モデルを接続し、Salesforce データを使用して、パーソナライズを促進する予測インテリジェンスとアクション可能なインサイトを提供します。Bring Your Own Model (BYOM) 機能を使用して、データサイエンティストやシステム管理者は Vertex AI で厳選されてハーモナイズされたほぼリアルタイムの Customer 360 データにアクセスできます。会社はこのインサイトを使用して、顧客プロファイルの強化、セグメントの作成、さまざまなタッチポイントのエンドユーザーエクスペリエンスのカスタマイズを行うことができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、Data Cloud ユーザーがアクセスできます。データプラットフォームサービスカードについては、ユーザーは Bring Your Own Model 推測の利用状況に基づいて支払うことができます。

方法: エンドポイントを使用して Vertex AI モデルに接続するために API キーを使用する場合は、API ゲートウェイが必要です。ただし、Google Service Account Credential API を使用して認証する場合、API ゲートウェイは必要ありません。設定が完了したら、Salesforce にログインします。

Data Cloud 設定で、[Einstein Studio] タブに移動してモデルを定義します。

- **詳細:** モデルと API 参照名
- **エンドポイント:** Google Cloud Vertex AI
- **変数:** プライマリデータモデルオブジェクトの予測結果に影響を与える項目
- **出力:** 予測の出力オブジェクト

設定が完了したら、モデルを有効化してデータのスコアリングを開始します。データに変更があれば、スコアは自動的に更新されます。

Query API、Apex、または Flow Builder で呼び出し可能なアクションを使用して、Salesforce で予測を消費します。

Data Cloud と Snowflake 間のほぼリアルタイムのデータ共有

データ共有を使用して Data Cloud データを Snowflake と安全に共有できます。データ共有では、ゼロ ETL (抽出、変換、読み込み) データ共有機能が提供されるため、ユーザーはまるでデータが Snowflake にネイティブに保存されているように Salesforce オブジェクトにアクセスできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、Data Cloud ライセンスを持つ Data Cloud ユーザーが使用できます。Customer Data Platform ライセンスの組織では使用できません。

方法: データ共有を作成し、データレイクオブジェクト、データモデルオブジェクト、または計算済みインサイトオブジェクトを追加します。次に、データ共有対象を作成して、Snowflakeアカウントとの接続を設定します。データ共有をデータ共有対象にリンクして、データ共有のオブジェクトを安全なビューとしてSnowflakeで使用できるようにします。

一括処理データ変換でのデータモデルオブジェクトの使用

データモデルオブジェクトをデータ入力とデータ出力の両方のオブジェクトとして使用して、一括処理データ変換を最大限に活用します。以前は、データストリームまたは他のデータレイクオブジェクトを介して Data Cloudに入るデータレイクオブジェクトでしか一括処理データ変換を実行できませんでした。データモデルオブジェクトのサポートにより、一括処理データ変換を柔軟に使用できます。データモデルオブジェクトを使用する下流のプロセス(セグメンテーションや ID 解決など)にこれらを適用します。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

方法: [新規データ変換] で、[データソース] 画面を選択し、[データモデルオブジェクト] を選択します。

一括処理データ変換の自動化

指定された間隔で繰り返し実行するように一括処理データ変換をスケジュールして、時間の節約と継続的なデータ更新を実現します。データ変換を実行する頻度(毎時または毎日)、時間、曜日を選択します。データ変換がリストされている [最近参照したデータ] ページや個々のデータ変換の [詳細] ページでデータ変換をスケジュールできます。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

エラーの修正と一括処理データ変換の編集

ビジネスのデータニーズは時間とともに変化します。それに伴い、一括データ変換も変換する可能性があります。保存した一括データ変換の変更、調整、誤りの修正をキャンバスエディターで行います。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

方法: [最近参照したデータ] から、データ変換名の横にある をクリックして [次へ] を選択します。任意のノードまたは分岐をクリックしてそのコンテンツを変更します。

複数の出力ノードを使用した複数のデータソースの保持

一括処理データ変換を複数の出力ノードに書き込んで複数のデータソースを保持します。たとえば、1つの変換で同時にケース、注文、状況データレイクまたはデータモデルオブジェクトを更新できます。最適なパフォーマンスを得るには、一括処理データ変換の出力ノードは5つまでに制限してください。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

方法: キャンバスで、ノードの [分岐] をクリックし、[分岐を追加] メニューから [出力] を選択します。ノードの結果を書き込むことができるオブジェクトを選択します。

Salesforce Data Cloud コネクタを使用した Tableau Server から Data Cloud への接続

Data Cloud および Tableau Server の Salesforce コネクタを手動でインストールする必要がなくなりました。コネクタは Tableau をインストールするときに自動的に追加されます。組み込みコネクタは、データスペースに対応していて、使いやすくなっています。オブジェクト API 参照名ではなくオブジェクト表示ラベルが表示されます。Tableau のテーブル名もわかりやすくなっています。以前は、Tableau Cloud、Tableau Desktop、Tableau Prep でしかコネクタを使用できませんでした。

対象: この変更は、Tableau Server バージョン 2023.3 に適用されます。

データモデルオブジェクトレコードホームページのカスタマイズ

データモデルオブジェクト (DMO) のレコードホームページビューをカスタマイズして、データをさらに活用します。Lightning アプリケーションビルダーを使用して、他の DMO から関連リストを追加したり、ページのヘッダーやその他の領域に表示される項目を変更したりします。たとえば、[統合連絡先] 関連リストを統合個人 DMO レコードホームページに含めて、ユーザーがいつでも連絡先情報を利用できるようにします。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

取引先の全体像の把握

複数のソースの取引先データを統合取引先プロファイルに統合して、B2B マーケティングおよび分析を強化します。統合取引先データを使用して、営業やサービスの生産性を向上させたり、計算済みインサイト、有効化、Tableau を実行したりします。取引先の ID 解決プロセスでは、完全一致のビジネス名、標準化された住所、メール、電話、関係者識別子の照合がサポートされています。プライマリデータモデルオブジェクトとして取引先を使用して、ID 解決ルールセットを作成します。データスペースごとにプライマリデータモデルオブジェクトあたり最大 2 つルールセットを作成できます。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

時期: 取引先統合は、2023 年 9 月以降に使用できます。

Data Cloud データを使用したデータの強化

Data Cloud 強化では、特定のレコードページに追加できる標準 Salesforce コンポーネントに Data Cloud のデータをコピーしたり照会したりできます。Data Cloud のデータが含まれる関連リストや項目を取引先責任者およびリードレコードページに追加できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「すべて表示」(強化) および「すべて変更」(強化) 権限を持ち、Salesforce システム管理者でもある、Data Cloud 管理者または Data Cloud for Marketing 管理者。

方法: 取引先責任者またはリードのオブジェクト管理設定で、[新規 Data Cloud コピー項目] または [新規 Data Cloud 関連リスト] を選択します。

Data Cloud 関連リストを使用した取引先責任者およびリードの強化

Data Cloud 関連リストでは、Data Cloud のハーモナイズされたデータを照会するため、エンタープライズ全体の情報を1つのコンポーネントで参照できます。Data Cloud のデータが含まれる関連リストを取り先責任者およびリードレコードページに追加できます。たとえば、複数の組織にまたがって顧客とのメールエンゲージメントをすべて確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「すべて表示」(強化) および「すべて変更」(強化) 権限を持ち、Salesforce システム管理者でもある、Data Cloud 管理者または Data Cloud for Marketing 管理者。

方法: 取引先責任者またはリードのオブジェクト管理設定で、[新規 Data Cloud 関連リスト] を選択します。

Data Cloud 項目のコピーによる取引先責任者およびリードの強化

Data Cloud DMO または CIO 項目のデータを取り先責任者またはリード標準/カスタム項目にコピーします。生涯価値などのインサイトや、Data Cloud によって他の組織およびシステムから集計または取得されたデータを使用して、取引先責任者やリードを強化できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「すべて表示」(強化) および「すべて変更」(強化) 権限を持ち、Salesforce システム管理者でもある、Data Cloud 管理者または Data Cloud for Marketing 管理者。

方法: 取引先責任者またはリードのオブジェクト管理設定で、[新規 Data Cloud コピー項目] を選択します。

更新されたレコードでデータアクションをトリガーするタイミングの選択

[レコードが更新されました] イベントルールでデータアクションをトリガーする頻度を指定します。データアクションは、レコード更新が指定のアクションルール条件を満たすたびにトリガーすることも、それらの条件を最初に満たしたときにのみトリガーすることもできます。これらの機能は、[レコードが更新されました] イベントルールが選択されている場合にのみ有効になります。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

方法: Data Cloud の [データアクション] タブで、[新規] をクリックして、データアクションターゲットを選択します。データスペース、オブジェクト種別、主オブジェクトを選択し、[レコードが更新されました] を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Data Cloud でのデータアクションの作成 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることがあります\)](#)

設定中の Data Cloud インスタンスへの自動接続

Salesforce と Data Cloud インスタンス間の接続を手動で作成する必要はありません。データソースとデータアクションターゲットは、Data Cloud を設定した組織で自動的に作成されるようになりました。接続が不要な場合は削除できます。ただし、その他の Salesforce 組織には、Salesforce CRM コネクタを使用して接続を設定する必要があります。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

時期: この機能は、2023 年 11 月以降に使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Data Cloud での Salesforce 接続の設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Salesforce CRM 接続の切断 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ウォーターフォールセグメントを使用したキャンペーンの優先順位付け (パイロット)

複数のオファーを含むキャンペーンを実行するときには、ウォーターフォールセグメントを使用して、階層構造を作成し、キャンペーンに優先順位を付けます。たとえば、4つの異なる割引オファーがあり、顧客が複数のオファーを受けないようにしたいとします。キャンペーンの対象を設定するには、相互に排他的なセグメントの優先リストを作成することで、オーディエンスメンバーがウォーターフォールの1つのセグメントのみに存在し、1つのプロモーションオファーのみを受けるようにします。ウォーターフォール内のセグメントを並び替えて、優先順位を調整することもできます。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

 **メモ:** この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります、SFDC の裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

対象ユーザー: パイロットプログラムに参加するには、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: [セグメント] からウォーターフォールセグメントを作成し、セグメントをドラッグして優先度を定義し、ウォーターフォールセグメントを保存します。次に、個別のセグメントを有効化して、特定の顧客をターゲティングします。

Connect Rest API を介したセグメントデータの照会

新しい `/ssot/segments/segmentApiName/members` リソースに対する GET 要求でセグメントメンバーの最新データと履歴データを照会します。検索条件、制限、並び替え順を使用して、結果を柔軟に絞り込むことができます。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の API バージョン 58.0 以降に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce 開発者: Data Cloud セグメントメンバー \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce 開発者: MarketSegmentDefinition \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Connect Rest API を使用したデータスペースのセグメントの作成およびリスト

Connect REST API を使用してセグメントデータを整理します。新しい

`/ssot/segments?dataspace=<dataspacename>` リソースへの POST または GET 要求を使用して、デフォルトのデータスペースにセグメントを作成するか、セグメントをリストします。たとえば、デフォルトのデータスペースにセグメントを作成するには、`/ssot/segments?dataspace=default` エンドポイントを指定した POST 要求を使用します。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の API バージョン 58.0 以降に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce 開発者: Data Cloud Segments \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Data Cloud でのカスタム権限セットへの新しいオブジェクト権限の追加

今後の商品開発でデータアクセスを管理できるように、DataCloud に 6 つの新しいオブジェクト権限が追加されました。これらの権限は標準の Data Cloud 権限セットに追加されていますが、カスタム権限セットを自動的に更新することはできません。データモデルオブジェクトへのユーザーアクセスを許可するカスタム権限セットには、新しいオブジェクト権限を直接追加する必要があります。これらのオブジェクト権限を持たないユーザーがデータモデルオブジェクトにアクセスしようとしたり、オブジェクトを操作したりしようとすると、エラーが返されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: これらのオブジェクト権限は、2023年3月29日に、Data Cloud または Customer Data Platform ライセンスの Salesforce 組織の標準権限セットに追加されています。

方法: Data Cloud でユーザーアクセスを制御している各カスタム権限セットに新しいオブジェクト権限を追加します。詳細は、[Salesforceヘルプの「DataCloudのカスタム権限セットへのオブジェクト権限の追加」](#) を参照してください。

flatten 変換による階層データの簡素化

flatten 変換で階層データを非正規化します。データをフラット化し、レコードの上位チェーンを追跡すれば、ロールアップを計算するか、階層の一部を抽出して、ロールに基づいて絞り込むことができます。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

方法: キャンバスで、変換ノードをクリックし、変換ツールバーの [フラット化]  を選択します。

計算済みインサイトへの評価指標の追加

計算済みインサイトあたり最大 50 個の評価指標を追加できるようになりました。制限が引き上げられたことにより、さらに多くの評価指標を計算済みインサイトに追加できるようになりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

ID 解決ルールセット処理結果の1日の概要の表示

ID 解決ルールセットのルールセット処理履歴テーブルが更新されました。結果は、個別にリストされずに1日の概要として表示されるようになりました。ルールセットが1日に複数回処理された場合、概要データにはその日に完了した最後の実行が反映されます。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Data Cloud に適用されます。

Data Cloud 用の Salesforce 新機能

Data Cloud 用の一連の Salesforce 最新機能です。

新規および変更された機能

- Service Cloud の Data Cloud: [サービスインテリジェンスによるコストの削減とオペレーションの改善](#)
- Salesforce フローの Data Cloud: [Data Cloud でのデータ変更に基づく自動起動フローの作成](#)
- Salesforce フローの Data Cloud: [Flow Builder で取得しやすくなった Data Cloud レコード](#)
- Data Cloud レポート: [Data Cloud レポートでビジネスに関する質問の答えを見つける](#)
- Data Cloud ダッシュボード: [ダッシュボードでの主要な Data Cloud 評価指標の強調表示と共有](#)

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

[Lightning コンポーネント](#)

実行時まで基礎となるコンポーネントのコンストラクターが不明な場合、Lightning Web コンポーネントを動的にインポートしてインスタンス化します。カスタムコンポーネントのバージョンを設定して、API バージョンに対応する Salesforce リリースに動作を関連付けます。カスタムコンポーネントでグローバルな色のスタイル設定フックを使用して、色のコントラストの変更を一致させます。Salesforce は、各 Lightning アプリケーションに異なるクロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) トークンを生成するリリース更新を適用しています。

[Einstein Vision および Language: 画像認識および自然言語処理](#)

データサイエンティストや機械学習の専門家ではないけれど、AI をアプリケーションに統合したいと考えていますか? Einstein Vision および Language API を使用すると、画像認識と自然言語処理を使用してアプリケーションを簡単に AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用すると、事前トレーニングした分類子を使用するかカスタム分類子をトレーニングして、画像認識の広範な使用事例を解決することができます。Einstein Language API を使用すると、自然言語処理の機能を活用して、テキストを分析し、テキストの背後にいるセンチメントやインテントを推測することができます。アプリケーションをよりスマートになると同時に天才のように見せましょう。

[Visualforce](#)

リリース更新を確認し、有効にして、Visualforce ページのセキュリティを強化します。

[Apex](#)

開発者プレビュー機能として、権限セットで指定された権限でユーザー モードデータベース操作と検索操作を実行します。チーニングされたキュー可能ジョブのスタック深度の設定が正式リリースされました。非同期キュー可能ジョブの1つのインスタンスのみをキューに追加することで、リソース競合や競合状態を削減します。DataWeave in Apex が正式リリースされました。リリースされた DataWeave スクリプトリソースは、[設定] UI に表示されます。Comparator インターフェースと Collator クラスを使用して、さまざまな並び替え順を実装し、ロケールを区別する比較と並び替えを実行します。for ループで Iterable 変数を使用して、リストまたはセットを簡単に反復処理できます。Apex ジョブの [設定] ページで組織の非同期 Apex の使用状況を監視します。

[API](#)

JWT ベースのアクセストークンを使用して REST コールを認証することで、外部システムとの互換性を改善します。以前に発表された Salesforce Platform API の API バージョン 21.0 ~ 30.0 の廃止は Summer '25 まで延期されました。

[パッケージ化](#)

パッケージ化により、ビジネスアプリケーションの開発と配布が容易になります。第二世代管理パッケージを使用して、AppExchange で販売および配布するアプリケーションを作成します。社内用のビジネスアプリケーションを開発するにはロック解除済みパッケージを使用します。

[DevOps Center](#)

Salesforce DevOps Center は、ローコードからプロコードまでの開発チームに DevOps のベストプラクティスを提供し、変更とリリース管理に関するエクスペリエンスを向上させます。すべての開発者と作成者は連携し、反復可能かつ拡張可能な方法で顧客に価値を提供することができます。

開発環境

開発環境は、既存または新規の機能やカスタムアプリケーションの開発およびテストに使用するフル機能の Salesforce 環境です。Developer Edition 組織、Sandbox、スクラッチ組織が付属します。

プラットフォーム開発ツール

Salesforce Developer Experience (DX) を使用してアプリケーションを共同で作成し、継続的に配信します。Salesforce Developer Experience は、Customer 360 Platform での開発を容易にするオープンな統合環境です。

開発者コンソール

開発者コンソールを使用して、Salesforce組織内のアプリケーションの作成、デバッグ、テストを行います。

[Salesforce Functions](#)

Salesforce Functions では、エラスティックコンピュートと言語の柔軟性により、Salesforce の機能を拡張します。

[AppExchange パートナー](#)

管理パッケージで AppExchange App Analytics を自分で有効化します。Salesforce Code Analyzer Visual Studio Code 拡張機能を使用すると、コードを簡単にスキャンできます。Tableau アクセラレーターを AppExchange にリストします。拡張および変更されたビジネスニーズをして、顧客が AppExchange リストを簡単に見つけられるようになります。パートナーコンソールでセキュリティレビューについての詳細な最新情報を取得し、レビューチームに直接連絡します。

変更データキャプチャ

変更イベントを受信できるオブジェクトが増えました。

プラットフォームイベント

Hyperforce の Enhanced Usage Metrics、REST limits リソースの動作変更、そしていくつかのストリーミング API バージョンの廃止について説明します。

イベントバス

Hyperforce でホストされている Salesforce 組織でイベントリレーを作成します。Pub/Sub API とイベントリレーの処理地域を拡張することでメリットを得られます。

UTAM

複数のページオブジェクトアーティファクトをインポートし、ブラウザー拡張機能の要素の強調表示をカスタマイズします。Playground を使用して、HTML から UTAM ページオブジェクトをすばやく生成します。ジェネレータールールを使用して、HTML または JavaScript ソースファイル用に生成された JSON ページオブジェクトをカスタマイズします。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

Lightning コンポーネント

実行時まで基礎となるコンポーネントのコンストラクターが不明な場合、Lightning Web コンポーネントを動的にインポートしてインスタンス化します。カスタムコンポーネントのバージョンを設定して、API バージョンに対応する Salesforce リリースに動作を関連付けます。カスタムコンポーネントでグローバルな色のスタイル設定フックを使用して、色のコントラストの変更を一致させます。Salesforce は、各 Lightning アプリケーションに異なるクロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) トークンを生成するリリース更新を適用しています。

-  **メモ:** 新規追加および変更された [Lightning Web コンポーネント](#)、[Aura コンポーネント](#)、[Aura コンポーネントインターフェース](#)を探していますか？「開発」セクションの最後にある新規追加および変更された項目のリストを参照してください。

このセクションの内容:

[Lightning Web コンポーネントの動的なインポートとインスタンス化](#)

動的コンポーネントの作成は、すべての使用事例には必要のない大きなモジュールの読み込みを回避するのに役立ちます。また、実行時まで基礎となるコンポーネントのコンストラクターが不明な場合、コンポーネントインスタンスを作成できます。動的インポートは、コンポーネントをよりカスタマイズしやすくするための便利なソリューションです。ただし、実行時にパフォーマンスオーバーヘッドが発生するため、これが常に最適なソリューションであるとは限りません。そのため、過度に使用しないでください。

[コンポーネントレベルの API バージョン管理による LWC の最新機能の取得](#)

カスタムコンポーネントでの API バージョンを追加して、そのコンポーネントの API バージョンに対応する Salesforce リリースと同様に動作するように LWC フレームワークに通知します。カスタムコンポーネントのバージョン管理により、新機能の配布、バグ修正、パフォーマンス向上、および旧機能の廃止を行うことができます。

[グローバルな色のスタイル設定フックを使用した色のコントラスト変更の一貫性](#)

テキスト以外の UI 要素(ボタンやチェックボックスなど)や、一部のテキスト UI 要素(リンクなど)を表示するときの色のコントラストがアクセシビリティ基準に合わせて改善されました。改善された色のコントラストにより、弱視ユーザーでも UI の重要な部分が見やすく使いやすくなります。Lightning 基本コンポーネントには、色のコントラストの変更が自動的に含まれます。必要に応じて、グローバルな色のスタイル設定フックを使用してカスタムコンポーネントを更新し、視覚的な不一致を回避します。

[ワークスペースタブとサブタブの制御\(ベータ\)](#)

LWC ワークスペース API では、Lightning コンソールアプリケーションでワークスペースのタブとサブタブを管理するメソッドが提供されています。

[Lightning Locker での RefreshView API の使用](#)

`lightning/refresh` モジュールと RefreshView API は、Lightning Web コンポーネント (LWC) のコンポーネントデータを更新する標準の方法を提供します。RefreshView API は、Lightning Web サービス (LWS) が有効になっていない場合に有効なセキュリティーアーキテクチャである Lightning Locker でも動作するようになりました。以前は、RefreshView API を使用するには、Salesforce 組織で LWS を有効にする必要がありました。

[将来のネイティブ Shadow サポートのための Lightning 基本コンポーネント内部 DOM 構造の変更](#)

Salesforce は、ネイティブ Shadow DOM を採用してパフォーマンスを強化し、Web コンポーネントの標準に準拠するように、Lightning 基本コンポーネントを準備しています。これらの更新により、内部 DOM 構造が変更されます。テストがこれらのコンポーネントの以前の内部構造に依存していないことを確認してください。

基本コンポーネント lightning-input の内部 DOM 構造の変更

Salesforce は、ネイティブ Shadow DOM を採用してパフォーマンスを強化し、Web コンポーネントの標準に準拠するように、Lightning 基本コンポーネントを準備しています。この更新には、lightning-input コンポーネントの内部 DOM 構造への変更が含まれています。テストとスタイル設定がこのコンポーネントの以前の内部構造に依存していないことを確認してください。

Lightning Web セキュリティを有効にしてカスタム要素を作成(ベータ)

Lightning Web セキュリティ (LWS) を有効にすると、Lightning Web コンポーネントでカスタム要素を作成できます。カスタム要素は Web コンポーネント標準の主要な機能であり、Lightning Locker に対する LWS のもう 1 つの利点です。

カスタムコンポーネントインストルメンテーション API(ベータ)を使用したコンポーネントイベントの監視
カスタムコンポーネントインストルメンテーション API(ベータ)を使用して、Lightning Web コンポーネントにオブザーバビリティを追加します。組織のイベントモニタリングでカスタム Lightning Web コンポーネントでのイベントやインタラクションを直接監視および追跡できるようになりました。以前は、イベントモニタリングツールは、読み込まれたレコードやページのパフォーマンスなど、アプリケーション全体に関するインサイトのみを追跡していました。カスタムコンポーネントインストルメンテーション API は Lightning Web コンポーネント用に設計されており、Aura コンポーネントではサポートされていません。

Lightning Web セキュリティの API のディストーションの変更

Web API の追加のディストーションにより Lightning Web セキュリティに新しいセキュリティ保護が追加されました。ディストーションを照合する ESLint ルールも使用できます。

トースト通知の作成と管理(正式リリース)

トースト通知のリストは、lightning/toast で作成し、LWR サイトで lightning/toastContainer を使用して管理します。

難読化された文字列を使用した CSS 範囲トークンの生成

CSS 範囲トークンは、LWC API バージョン 59.0 以降、cmpName_cmpName の形式から lwc-hashstring の形式に変更されました。ここで、hashstring は一意の英数字の文字列です。この変更は、フレームワークのパフォーマンス改善の一環として行われました。

コンポーネントエラーを逃れる無効な HTML の使用方法の修正

LWC API バージョン 59.0 以降、HTML 検証の厳格性が強化されています。Lightning Web コンポーネントの末尾に </template> の閉じタグが重複して含まれている場合、そのコンポーネントを読み込むと他の HTML 構文エラーと同様にエラーになります。

サポートされるブラウザーのみでの Lightning Experienceへのアクセス

セキュリティとパフォーマンスの向上のため、Lightning Experience はサポートされるブラウザーの最新バージョンでのみ使用できるようになりました。Lightning Experience および Salesforce Classic での Internet Explorer 11 のサポートは、2023 年 1 月に終了しました。Winter '24 以降、Internet Explorer 11 や他の従来のブラウザーを使用して Lightning Experience を表示したりアクセスしたりすることはできなくなります。サポートされていないブラウザーのいずれかでユーザーに Lightning Experience へのアクセス権を付与するコードがある場合、そのコードを削除できます。

カスタムプロパティエディターで対応する呼び出し可能なアクションの名前を取得

フローのカスタムプロパティエディターの既存の elementInfo インターフェースで新しい actionName プロパティを使用します。以前は、カスタム Lightning Web コンポーネントであるカスタムプロパティエディターのプロパティを使用して、呼び出し可能なアクション名を直接取得することはできませんでした。

LWC オフラインテストハーネスの新機能

オフライン対応 Lightning Web コンポーネントのテストがさらに簡単になります。テストハーネスには、グローバルクイックアクション、オフラインプリーフケース、カスタマイズ可能なホームタブ環境など、開発とデバッグの環境を簡素化および合理化することを目的としたさらに多くの機能が追加されました。目の肥えたユーザーは、Salesforce App+ の外観とより調和するように UX が再設計されていることにも気付くでしょう。

Experience Cloud における LWR サイトの静的リソースの LWS による保護

Experience Cloud の LWR サイトで Lightning Web セキュリティ (LWS) を使用して、静的リソースから読み込まれたコードが実行されるようになりました。

サードパーティサイトで Lightning アプリケーションに Cookie の代わりにセッショントークンを使用

ブラウザーはサードパーティ Cookie の使用を制限しているため、Safari の [サイト越えトラッキングを防ぐ] 設定など、ブラウザー設定の無効化をユーザーに要求する代わりに、組織設定を作成しました。この組織設定により、Lightning アプリケーションがサードパーティコンテキスト (Lightning Out や Salesforce と Outlook のインテグレーションなど) にあるとき、認証 Cookie がセッショントークンに置き換えられます。

Lightning アプリケーションの CSRF トークンのセキュリティの機能強化(リリース更新)

この更新では、Lightning アプリケーションごとに異なるクロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) トークンの生成が適用されるため、トークンが意図したコンテキストでのみ使用されることになります。この更新により、無効なトークンと期限切れのトークンの処理も改善されます。この更新は、Spring '23 で最初に使用可能になり、Summer '23 で適用される予定でしたが、適用日が Winter '24 に延期されました。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド](#)

[Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド](#)

Lightning Web コンポーネントの動的なインポートとインスタンス化

動的コンポーネントの作成は、すべての使用事例には必要のない大きなモジュールの読み込みを回避するのに役立ちます。また、実行時まで基礎となるコンポーネントのコンストラクターが不明な場合、コンポーネントインスタンスを作成できます。動的インポートは、コンポーネントをよりカスタマイズしやすくするための便利なソリューションです。ただし、実行時にパフォーマンスオーバーヘッドが発生するため、これが常に最適なソリューションであるとは限りません。そのため、過度に使用しないでください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning Web コンポーネントを動的にインポートしてインスタンス化するには、Lightning Web セキュリティを有効にし、コンポーネント設定ファイルの `apiVersion` プロパティを 55.0 以降に設定します。

コンポーネントを動的にインスタンス化する方法についての詳細は、『[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド](#)』を参照してください。

ExperienceCloudのLWRサイトは、静的に分析可能な動的インポートのみをサポートします。この使用事例では、`import("c/analyzable")` は動作しますが、`import("c/" + "analyzable")` は静的に分析可能でないため動作しません。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: コンポーネントの動的なインスタンス化](#)

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: 組織での Lightning Web セキュリティの有効化](#)

[LWR Sites for Experience Cloud \(Experience Cloud の LWR サイト\)](#)

コンポーネントレベルの API バージョン管理による LWC の最新機能の取得

カスタムコンポーネントでの API バージョンを追加して、そのコンポーネントの API バージョンに対応する Salesforce リリースと同様に動作するように LWC フレームワークに通知します。カスタムコンポーネントのバージョン管理により、新機能の配布、バグ修正、パフォーマンス向上、および旧機能の廃止を行うことができます。

対象: この変更は、Lightning Experience、エクスペリエンスビルダー サイト、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイル アプリケーションのカスタム Lightning Web コンポーネントに適用されます。

方法: コンポーネントのすべての HTML、CSS、および JS ファイルは、1つの API バージョンに対応します。API バージョンを指定するには、コンポーネントの `.js-meta.xml` ファイルの `apiVersion` 設定要素を使用します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<LightningComponentBundle xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
  <apiVersion>58.0</apiVersion>
</LightningComponentBundle>
```

たとえば、`apiVersion` キーを 58.0 に設定することで、カスタムコンポーネントが Summer '23 の動作を継続するように LWC に通知します。

Winter '24 の時点で、58.0 以前のすべての API バージョンはバージョン 58.0 (Summer '23) に対応します。API バージョンを 58.0 より低い値に設定した場合、LWC はデフォルトでバージョン 58.0 を使用し、コンポーネントは Summer '23 の LWC フレームワークの動作に基づいて引き続き機能します。これらの新しい機能を実装するには、コンポーネント API バージョンを 59.0 にアップグレードします。

- [CSS 範囲トークンでの小文字の使用 \(ページ 238\)](#)
- [parse5 HTML エラーについて警告ではなくエラーをスロー \(ページ 239\)](#)

 **メモ:** 利用可能な LWC API バージョンより新しい `apiVersion` 値を指定した場合、最新の既知のバージョンが使用されます。たとえば、最新の LWC API バージョンが 58.0、59.0、60.0 の場合に、61.0 を指定すると、フレームワークで 60.0 が使用されます。同様に、58.0 より前のバージョンを指定した場合、フレームワークは 58.0 を使用します。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: API バージョン設定](#)

グローバルな色のスタイル設定フックを使用した色のコントラスト変更の一一致

テキスト以外の UI 要素(ボタンやチェックボックスなど)や、一部のテキスト UI 要素(リンクなど)を表示するときの色のコントラストがアクセシビリティ基準に合わせて改善されました。改善された色のコントラストにより、弱視ユーザーでも UI の重要な部分が見やすく使いやすくなります。Lightning 基本コンポーネントには、色のコントラストの変更が自動的に含まれます。必要に応じて、グローバルな色のスタイル設定フックを使用してカスタムコンポーネントを更新し、視覚的な不一致を回避します。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) は、[World Wide Web Consortium \(W3C\)](#) の [Web Accessibility Initiative \(WAI\)](#) によって公開されている一連の Web アクセシビリティガイドラインです。ガイドラインには、[テキスト以外のコントラスト](#)の条件が含まれます。

方法: 一部のカスタムコンポーネントは、色のコントラストの更新に合わせて自動的に調整されます。Lightning Design System Web サイトのカスタムコンポーネント移行ガイドには、カスタムコンポーネントのさまざまな分類がリストされており、色のコントラストの変更に合わせて各移行シナリオを処理する方法の詳細が記載されています。

移行ガイドのカスタムコンポーネントの分類を調べて、それらのいずれかがカスタム Aura または Lightning Web コンポーネントに適用されるかどうかを特定します。必要に応じて、推奨されるアプローチを使用してカスタムコンポーネントを更新します。

[設定] からカスタムコンポーネントのリストを見つけます。[クイック検索] ボックスに「Lightning コンポーネント」と入力し、[Lightning コンポーネント] を選択します。

スタイル設定フックは、Salesforce Lightning Design System (SLDS) が予測可能な方法でスタイル設定をカスタマイズできるようにするために使用する CSS カスタムプロパティです。グローバルな色のスタイル設定フック (--slds-g-*) は、アプリケーション内でグローバルに使用するための定義済みの値です。これらのグローバル値を使用して、色のコントラストの変更に合わせて調整できます。

iframe 内の Lightning コンポーネントには、アクセシビリティに対応していない古い色が表示される場合があります。iframe に関するこの既知の問題は、特定のページまたはクラウドに固有のものではありません。

関連トピック:

[UI 要素の色のコントラストの改善](#)

[Lightning Design System: Migration Guide \(移行ガイド\)](#)

[Lightning Design System: Global Color Styling Hooks \(グローバルカラースタイリングフック\)](#)

[Lightning Design System: Known Issue with iframes \(iframe での既知の問題\)](#)

ワークスペースタブとサブタブの制御 (ベータ)

LWC ワークスペース API では、Lightning コンソールアプリケーションでワークスペースのタブとサブタブを管理するメソッドが提供されています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning コンソール アプリケーションに適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。

ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: lightning/platformWorkspaceApi モジュールをインポートして、Lightning Message Service を介して LWC ワークスペース API メソッド、ワイヤーアダプター、およびイベントベースの API にアクセスします。

 **メモ:** Lightning Locker は LWC ワークスペース API をサポートしていないため、Salesforce 組織で Lightning Web セキュリティを有効にする必要があります。

LWC の次の API メソッドは、Lightning コンソールアプリケーションで利用可能です。

- `closeTab()` — ワークスペースタブまたはサブタブを閉じます。
- `disableTabClose()` — ワークスペースタブまたはサブタブが閉じられないようにします。
- `focusTab()` — ワークスペースタブまたはサブタブをフォーカスします。
- `getAllTabInfo()` — 開いているすべてのタブに関する情報を返します。
- `getFocusedTabInfo()` — フォーカスのあるワークスペースタブまたはサブタブに関する情報を返します。
- `getTabInfo()` — 指定されたタブに関する情報を返します。
- `openSubtab()` — ワークスペースタブ内のサブタブを開きます。サブタブがすでに開いている場合、サブタブがフォーカスされます。
- `openTab()` — 新しいワークスペースタブを開きます。タブがすでに開いている場合、タブがフォーカスされます。
- `refreshTab()` — タブ ID で指定されたワークスペースタブまたはサブタブを更新します。
- `setTabHighlighted()` — 指定されたタブを異なる背景色とバッジで強調表示します。タブの強調表示は、Lightning コンソールアプリケーションを再読み込みすると保持されなくなります。
- `setTabIcon()` — 指定されたタブのアイコンと代替テキストを設定します。
- `setTabLabel()` — 指定されたタブの表示ラベルを設定します。

次のワイヤーアダプターは、Lightning コンソールアプリケーションで利用可能です。

- `EnclosingTabId()` — 囲んでいるタブの ID を返します。
- `IsConsoleNavigation()` — アプリケーションでコンソールナビゲーションが使用されているかどうかを判断します。

次の Lightning メッセージチャネルは、Lightning コンソールアプリケーションで利用可能な Aura アプリケーションイベントに対応しています。これらのペイロードは、Aura アプリケーションイベントのペイロードと同じものです。リスンするイベントのチャネルを登録します。

- `lightning__tabClosed` — タブが閉じられたことを示します。
- `lightning__tabCreated` — タブが正常に作成されたことを示します。
- `lightning__tabFocused` — タブがフォーカスされていることを示します。
- `lightning__tabRefreshed` — タブが更新されたことを示します。
- `lightning__tabReplaced` — タブが正常に置き換えられたことを示します。

- lightning__tabUpdated — タブが正常に更新されたときされたことを示します。

関連トピック:

[Salesforce コンソール開発者ガイド](#)

Lightning Locker での RefreshView API の使用

lightning/refresh モジュールと RefreshView API は、Lightning Web コンポーネント (LWC) のコンポーネントデータを更新する標準の方法を提供します。RefreshView API は、Lightning Web サービス (LWS) が有効になっていない場合に有効なセキュリティーアーキテクチャである Lightning Locker でも動作するようになりました。以前は、RefreshView API を使用するには、Salesforce 組織で LWS を有効にする必要がありました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ハンドラーとコンテナを登録する場合を除き、LWS が有効な組織で [コンポーネントデータを更新](#) するときと同様に API を使用します。Lightning Locker を使用する Salesforce 組織でコンポーネントを実行する場合、コンポーネントを登録するための registerRefreshHandler() メソッドと registerRefreshContainer() メソッドでは、パラメーターに異なる形式が必要です。

Lightning Locker が有効な場合、この形式を使用してコンポーネントをハンドラーまたはコンテナとして登録します。

```
registerRefreshHandler(this.template.host, this.refreshHandler.bind(this));
registerRefreshContainer(this.template.host, this.refreshContainer.bind(this));
```



メモ: LWS と Lightning Locker の間で組織のセキュリティーアーキテクチャが変更された場合、ハンドラーとコンテナの登録に適切なプロトコルを使用するようにコンポーネントコードを変更する必要があります。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: RefreshView API によるコンポーネントデータの更新](#)

将来のネイティブ Shadow サポートのための Lightning 基本コンポーネント内部 DOM 構造の変更

Salesforce は、ネイティブ Shadow DOM を採用してパフォーマンスを強化し、Web コンポーネントの標準に準拠するように、Lightning 基本コンポーネントを準備しています。これらの更新により、内部 DOM 構造が変更されます。テストがこれらのコンポーネントの以前の内部構造に依存していないことを確認してください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: Salesforce は、Lightning 基本コンポーネントを Web 標準に合わせるために継続的に取り組んでいます。この最新の取り組みは、将来的リリース(セーフハーバー)でネイティブ Shadow DOM をサポートするための Lightning Web コンポーネントのプロセスの一部です。「[将来のネイティブ Shadow サポートのための Lightning 基本コンポーネント内部 DOM 構造の変更](#)」で発表したとおり、Spring '23 と Summer '23 では、12 個のコンポーネントがネイティブ Shadow DOM に備えるために変更されました。

さらに、Winter '24 では、ネイティブ Shadow DOM に備えるために次のコンポーネントが採用されています。

- lightning-accordion
- lightning-accordion-section
- lightning-avatar
- lightning-button-icon
- lightning-button-icon-stateful
- lightning-button-menu
- lightning-button-stateful
- lightning-card
- lightning-combobox
- lightning-helptext
- lightning-icon
- lightning-input
- lightning-menu-divider
- lightning-menu-subdivider
- lightning-menu-item
- lightning-pill
- lightning-pill-container
- lightning-radio-group
- lightning-spinner
- lightning-tab
- lightning-tabset

Salesforceは、内部コンポーネント構造が保護されていることを文書化しています。パフォーマンスの改善、機能の強化、アクセシビリティのサポートのために、Salesforceはコンポーネントの内部を再設計することができます。詳細は、「[コンポーネントのスタイル設定のアンチパターン](#)」を参照してください。

重要: テストがこの保護された内部DOM構造に依存している場合は、できるだけ早くテストを作り直してください。

方法: サポートされているインテグレーションテストの場合、[UI テスト自動化モデル \(UTAM\)](#) と [UTAM ページオブジェクト](#)を使用します。これらは、コンポーネント構造の変更に合わせて最新の状態に保たれます。サポートされている Selenium ベースのテストの場合、[「Working With Shadow DOM Elements Using Webdriver \(Webdriver を使用した Shadow DOM 要素の操作\)」](#) を参照してください。サポートされている CSS スタイルの場合、[『Lightning Web コンポーネント開発者ガイド』の「CSS」](#) を参照してください。

基本コンポーネント `lightning-input` の内部 DOM 構造の変更

Salesforce は、ネイティブ Shadow DOM を採用してパフォーマンスを強化し、Web コンポーネントの標準に準拠するように、Lightning 基本コンポーネントを準備しています。この更新には、`lightning-input` コンポーネントの内部 DOM 構造への変更が含まれています。テストとスタイル設定がこのコンポーネントの以前の内部構造に依存していないことを確認してください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: Salesforce は、Lightning 基本コンポーネントを Web 標準に合わせるために継続的に取り組んでいます。この取り組みは、将来のリリース(セーフハーバー)でネイティブ Shadow DOM をサポートするための Lightning Web コンポーネントのプロセスの一部です。「[将来のネイティブ Shadow サポートのための Lightning 基本コンポーネント内部 DOM 構造の変更](#)」で発表したとおり、Spring '23 と Summer '23 では、12 個のコンポーネントがネイティブ Shadow DOM に備えるために変更されました。

Winter '24 では、他のコンポーネントに加えて、ネイティブ Shadow DOM に備えるために `lightning-input` コンポーネントの内部構造も変更されました。

Salesforce は、内部コンポーネント構造が保護されていることを文書化しています。パフォーマンスの改善、機能の強化、アクセシビリティのサポートのために、Salesforce はコンポーネントの内部を再設計することができます。詳細は、「[コンポーネントのスタイル設定のアンチパターン](#)」を参照してください。

重要: テストがこの保護された内部 DOM 構造に依存している場合は、できるだけ早くテストを作り直してください。

方法: サポートされているインテグレーションテストの場合、[UI テスト自動化モデル \(UTAM\)](#) と [UTAM ページオブジェクト](#) を使用します。これらは、コンポーネント構造の変更に合わせて最新の状態に保たれます。サポートされている Selenium ベースのテストの場合、「[Working With Shadow DOM Elements Using Webdriver \(Webdriver を使用した Shadow DOM 要素の操作\)](#)」を参照してください。サポートされている CSS スタイルの場合、「[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド](#)」の「[CSS](#)」を参照してください。

 **メモ:** 現在、基本コンポーネントは混合 Shadow モード(開発者プレビュー)でサポートされていません。

Lightning Web セキュリティを有効にしてカスタム要素を作成(ベータ)

Lightning Web セキュリティ (LWS) を有効にすると、Lightning Web コンポーネントでカスタム要素を作成できます。カスタム要素は Web コンポーネント標準の主要な機能であり、Lightning Locker に対する LWS のもう 1 つの利点です。

対象: この変更は、Salesforce 組織で LWS が有効になっている場合、すべてのエディションの Lightning Experience、LWR ベースの Experience Cloud サイト、および Aura サイトの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

理由: LWS はブラウザ API `CustomElementRegistry` を仮想化し、カスタム要素へのアクセスを独自の名前空間 Sandbox に分離するようになりました。この仮想レジストリにより、Sandbox 外部のページで実行される他のコードからの干渉を受けることなく、独自のカスタム要素を作成できます。`CustomElementRegistry` はグローバルの通用範囲内にあるため、不正な Sandbox 間アクセスや潜在的に悪意のあるコードからコンポーネントを保護するために、以前は LWS でその使用がブロックされていました。

方法: LWS が有効な状態で、`customElements.define()` を使用して標準の方法でカスタム要素を作成します。LWS が仮想分離を処理します。

関連トピック:

[MDN でのカスタム要素の使用](#)

カスタムコンポーネントインストルメンテーション API(ベータ)を使用したコンポーネントイベントの監視

カスタムコンポーネントインストルメンテーション API(ベータ)を使用して、Lightning Web コンポーネントにオブザーバビリティを追加します。組織のイベントモニタリングでカスタム Lightning Web コンポーネントでのイベントやインタラクションを直接監視および追跡できるようになりました。以前は、イベントモニタリングツールは、読み込まれたレコードやページのパフォーマンスなど、アプリケーション全体に関するインサイトのみを追跡していました。カスタムコンポーネントインストルメンテーション API は Lightning Web コンポーネント用に設計されており、Aura コンポーネントではサポートされていません。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。
ベータ機能の使用には、「契約および規約」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入したユーザーが使用できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「イベント」と入力して、[イベントモニタリング設定] を選択します。[Lightning ロガーイベント] を有効にします。コンポーネントの `lightning/logger` モジュールから `log` をインポートし、イベントモニタリングにデータメッセージを記録します。`log()` 関数は、イベントモニタリングで使用するイベントデータを構造化する、Lightning ロガーイベントと呼ばれる新しい `EventLogFile` イベント種別にデータを公開します。

```
<!-- myComponent.html -->
<template>
  <lightning-button label="Approve"
    onclick={handleClick}>
  </lightning-button>
</template>

// myComponent.js
import { LightningElement } from 'lwc';
import { log } from 'lightning/logger';

export default class HelloWorld extends LightningElement {
  constructor() {
    super();
  }

  let msg = {
    type: "click",
    action: "Approve"
  }

  handleClick() {
    log(msg);
  }
}
```

Lightning Web セキュリティの API のディストーションの変更

Web API の追加のディストーションにより Lightning Web セキュリティに新しいセキュリティ保護が追加されました。ディストーションを照合する ESLint ルールも使用できます。

対象: この変更は、Salesforce 組織で LWS が有効になっている場合、すべてのエディションの Lightning Experience、LWR ベースの Experience Cloud サイト、および Aura サイトの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

方法: 次の API には、「[LWSDistortionViewer](#)」で説明されている新しいディストーションが存在します。対応する ESLint ルールは、ESLint パッケージに含まれます。

- Element.prototype.getInnerHTML
- Element.prototype.setHTML
- Event.prototype.explicitOriginalTarget
- Event.prototype.originalTarget
- HTMLBodyElement rejectionhandled イベント
- HTMLBodyElement storage イベント
- HTMLBodyElement unhandledrejection イベント
- HTMLFrameSetElement rejectionhandled イベント
- HTMLFrameSetElement storage イベント
- HTMLFrameSetElement unhandledrejection イベント
- HTMLScriptElement.prototype.text セッター
- UIEvent.prototype.rangeParent (Firefox のみ)
- window.find
- Window rejectionhandled イベント
- Window Storage イベント
- Window unhandledrejection イベント

次のディストーションと関連付けられた ESLint ルールは削除されました。

- WindowEventHandler.onstorage

トースト通知の作成と管理 (正式リリース)

トースト通知のリストは、lightning/toast で作成し、LWR サイトで lightning/toastContainer を使用して管理します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Experience Cloud 向け LWR サイト に適用されます。

方法: lightning/toast モジュールには、トースト通知と、アイコン、表示ラベル、メッセージ、およびリンク (省略可能) が表示されます。

```
// c/myToastComponent.js
import { LightningElement } from 'lwc';
import ToastContainer from 'lightning/toastContainer';
import Toast from 'lightning/toast';
```

```

export default class MyToastComponent extends LightningElement {
    connectedCallback() {
        const toastContainer = ToastContainer.instance();
        toastContainer.maxToasts = 5;
        toastContainer.toastPosition = 'top-right';
    }

    Toast.show({
        label: 'This is a toast title with a {0} placeholder link that gets replaced by labelLinks',
        labelLinks : [
            {
                'url': 'https://www.lightningdesignsystem.com/components/toast/',
                'label': 'Toast link'
            },
            message: 'This message has a {0} placeholder link that gets replaced by from messageLinks',
            messageLinks: [
                {
                    url: 'http://www.salesforce.com',
                    label: 'Salesforce link'
                },
                mode: 'sticky',
                variant: 'info',
                onclose: () => {
                    // Do something after the toast is closed
                }
            ],
            this);
        }
    }
}

```

`lightning/toastContainer` モジュールは、ページレベルのトースト通知を処理および表示するコンテナを作成します。`lightning/toastContainer` を使用することで、次の操作を行えます。

- `maxToasts` 属性を使用して、コンテナ内のトーストの最大数を設定する。
- `containerPosition` を使用してコンテナを配置する。
- `toastPosition` を使用して、コンテナ内にトーストコンポーネントを配置する。

 **メモ:** LWR サイトでは、`lightning/platformShowToastEvent` はサポートされていません。

関連トピック:

[コンポーネントライブラリ](#)

難読化された文字列を使用した CSS 範囲トークンの生成

CSS 範囲トークンは、LWC API バージョン 59.0 以降、`cmpName_cmpName` の形式から `lwc-hashstring` の形式に変更されました。ここで、`hashstring` は一意の英数字の文字列です。この変更は、フレームワークのパフォーマンス改善の一環として行われました。

対象: この変更は、Lightning Experience、エクスペリエンスビルダーサイト、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションのカスタム Lightning Web コンポーネントに適用されます。この変更は、オープンソースの Lightning Web コンポーネントにも適用されます。

方法: LWC API バージョン 59.0 の LWC では、CSS 範囲トークンで小文字が使用されるようになりました。コンポーネント内の CSS の範囲を設定するために、LWC によって DOM 要素に属性とクラスが自動的に追加されます。このような属性とクラスは、フレームワークの内部実装の詳細であり、いつでも変更できます。たとえば、LWC API バージョン 59.0 では、カスタムコンポーネントは DOM に次のように表示されます。

```
<c-cmp lwc-2s44vctl1s4-host>
  <span lwc-2s44vctl1s4></span>
</c-cmp>
```

以前は、CSS 範囲トークンはコンポーネント名に似ていました。

```
<c-cmp c-cmp_cmp-host>
  <span c-cmp_cmp></span>
</c-cmp>
```

コンポーネントの内部は変更される可能性があるため、`this.template.querySelector()` を使用して、範囲トークンの値を照会することはお勧めできません。

 **メモ:** CSS 範囲トークンに難読化された文字列を生成するように変更しても、カスタムコンポーネントに影響するのは LWC API バージョン 59.0 にアップグレードした場合のみです。ただし、この変更は、レコードページやリストビューで表示されるコンポーネントなど、Lightning Experience サイトとエクスペリエンスビルダーサイトの Salesforce が作成したコンポーネントには直ちに影響します。所有していないコンポーネントの内部を使用している場合、コードが破損する可能性があります。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: コンポーネントが所有する要素へのアクセス](#)

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: コンポーネントのスタイル設定のアンチパターン](#)

コンポーネントエラーを逃れる無効な HTML の使用方法の修正

LWC API バージョン 59.0 以降、HTML 検証の厳格性が強化されています。Lightning Web コンポーネントの末尾に `</template>` の閉じタグが重複して含まれている場合、そのコンポーネントを読み込むと他の HTML 構文エラーと同様にエラーになります。

対象: この変更は、Lightning Experience、エクスペリエンスビルダーサイト、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションのカスタム Lightning Web コンポーネントに適用されます。この変更は、オープンソースの Lightning Web コンポーネントにも適用されます。

方法: LWC API バージョン 59.0 以降、以前は警告が返されていた無効な HTML 構文についてエラーが返されるようになりました。VS Code のテンプレートコードのエラーには、問題を説明するポップオーバーで赤い波線が表示されます。コンポーネントはローカルに保存できますが、組織に転送またはリリースすることはできません。コードを転送またはリリースする前に、テンプレートエラーを修正する必要があります。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: HTML テンプレートエラー \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

サポートされるブラウザーのみでの Lightning Experience へのアクセス

セキュリティとパフォーマンスの向上のため、Lightning Experience はサポートされるブラウザーの最新バージョンでのみ使用できるようになりました。Lightning Experience および Salesforce Classic での Internet Explorer 11 のサポートは、2023 年 1 月に終了しました。Winter '24 以降、Internet Explorer 11 や他の従来のブラウザーを使用して Lightning Experience を表示したりアクセスしたりすることはできなくなります。サポートされていないブラウザーのいずれかでユーザーに Lightning Experience へのアクセス権を付与するコードがある場合、そのコードを削除できます。

対象: この変更は、Lightning Experience および エクスペリエンスビルダーサイトのカスタム Lightning Web コンポーネントに適用されます。この変更は、オープンソースの Lightning Web コンポーネントにも適用されます。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: 対応ブラウザー](#)

[開発者ブログ: Lightning プラットフォームでの IE11 のサポート終了](#)

カスタムプロパティエディターで対応する呼び出し可能なアクションの名前を取得

フローのカスタムプロパティエディターの既存の `elementInfo` インターフェースで新しい `actionName` プロパティを使用します。以前は、カスタム Lightning Web コンポーネントであるカスタムプロパティエディターのプロパティを使用して、呼び出し可能なアクション名を直接取得することはできませんでした。

対象: この変更は、Lightning Experience のカスタム Lightning Web コンポーネントに適用されます。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: カスタムプロパティエディターの JavaScript インターフェース](#)

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: Flow Builder のアクションと画面コンポーネントの UI のカスタマイズ](#)

LWC オフラインテストハーネスの新機能

オフライン対応 Lightning Web コンポーネントのテストがさらに簡単になります。テストハーネスには、グローバルクイックアクション、オフラインプリーフケース、カスタマイズ可能なホームタブ環境など、開発とデバッグの環境を簡素化および合理化することを目的としたさらに多くの機能が追加されました。目の肥えたユーザーは、Salesforce App+ の外観とより調和するように UX が再設計されていることにも気付くでしょう。

対象: このツールは、アプリケーションファイル (iOS) と APK ファイル (Android) の両方としてダウンロードできるように一般公開されています。

方法: オフラインコンポーネント開発中にテストハーネスを使用する方法についての詳細は、『Mobile Offline Developer Guide (モバイルオフライン開発者ガイド)』の [「Develop Offline-Ready LWCs with the LWC Offline Test Harness \(LWC オフラインテストハーネスを使用したオフライン対応 LWC の開発\)」](#) を参照してください。

Experience Cloud における LWR サイトの静的リソースの LWS による保護

Experience Cloud の LWR サイトで Lightning Web セキュリティ (LWS) を使用して、静的リソースから読み込まれたコードが実行されるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする LWR サイトに適用されます。

関連トピック:

[LWR サイトでの LWS による静的リソースの保護](#)

サードパーティサイトで Lightning アプリケーションに Cookie の代わりにセッショントークンを使用

ブラウザーはサードパーティ Cookie の使用を制限しているため、Safari の「サイト越えトラッキングを防ぐ」設定など、ブラウザー設定の無効化をユーザーに要求する代わりに、組織設定を作成しました。この組織設定により、Lightning アプリケーションがサードパーティコンテキスト (Lightning Out や Salesforce と Outlook のインテグレーションなど) にあるとき、認証 Cookie がセッショントークンに置き換えられます。

対象: この変更はサードパーティコンテキスト (Lightning Out や Salesforce と Outlook のインテグレーションなど) で使用される Lightning アプリケーションに適用されます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「セッション」と入力して、[セッションの設定] を選択します。[セッションの設定] ページで、[Lightning アプリケーションをサードパーティのサイトに埋め込む場合、セッション Cookie の代わりにセッショントークンを使用します] を選択します。

この設定をテストするには、Sandbox で作業することをお勧めします。

組織でホストされ、認証を必要とするサードパーティリソースへの URL をハードコードすると、コードはこの設定では機能しません。代わりに、Aura コンポーネントで \$Resource または \$ContentAsset を使用し、Lightning Web コンポーネントで @salesforce/resourceUrl/resourceReference または @salesforce/contentAssetUrl/contentAssetReference をインポートすることをお勧めします。

 **メモ:** Salesforce は認証 Cookie 以外の Cookie を使用します。これらの他のサードパーティ Cookie が機能するには、ユーザーがブラウザー設定でサードパーティの Cookie を許可する必要があります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: セッションセキュリティ設定の変更](#)

[Chrome for Developers ブログ: サードパーティ Cookie の廃止に向けた準備](#)

Lightning アプリケーションの CSRF トークンのセキュリティの機能強化(リリース更新)

この更新では、Lightning アプリケーションごとに異なるクロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) トークンの生成が適用されるため、トークンが意図したコンテキストでのみ使用されることになります。この更新により、無効なトークンと期限切れのトークンの処理も改善されます。この更新は、Spring '23 で最初に使用可能になり、Summer '23 で適用される予定でしたが、適用日が Winter '24 に延期されました。

対象: この変更は、すべての Lightning アプリケーション (Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションを含む) に適用されます。この変更は、Lightning Out アプリケーションには適用されません。

時期: Salesforce は、この更新を Winter '24 ですべての組織に適用します。Sandbox には、この更新は Summer '23 で適用されています。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: CSRF は、悪意のあるアプリケーションにより、ユーザーが認証されている信頼済みサイトでユーザーのクライアントが不要なアクションを実行してしまう Web アプリケーションの脆弱性です。

CSRF トークンは、サーバーによって生成されるランダムな一意の値です。攻撃者は CSRF トークンの値を把握する必要があるため、トークンを使用することは、最も一般的な防止技術になります。

方法: この更新をテストする場合、Summer '23 にこのリリース更新が適用される Sandbox で実行することをお勧めします。

本番組織では、[設定] からリリース更新を有効にできます。[クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力し、[リリース更新] を選択します。Lightning アプリケーションの CSRF トークンのセキュリティ機能強化を利用するには、テストおよび有効化手順に従ってください。

関連トピック:

[Trailhead: Mitigate Cross-Site Request Forgery \(クロスサイトリクエストフォージェリの軽減\)](#)

[リリース更新](#)

Einstein Vision および Language: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家ではないけれど、AI をアプリケーションに統合したいと考えていますか? Einstein Vision および Language API を使用すると、画像認識と自然言語処理を使用してアプリケーションを容易に AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用すると、事前トレーニングした分類子を使用するかカスタム分類子をトレーニングして、画像認識の広範な使用事例を解決することができます。Einstein Language API を使用すると、自然言語処理の機能を活用して、テキストを分析し、テキストの背後にあるセンチメントやインテントを推測することができます。アプリケーションをよりスマートにすると同時に天才のように見せましょう。

このセクションの内容:

[Einstein Vision](#)

Einstein OCR ドキュメントが Salesforce 開発者ドキュメントに配置されるようになりました。

Einstein Vision

Einstein OCR ドキュメントが Salesforce 開発者ドキュメントに配置されるようになりました。

このセクションの内容:

開発者ドキュメントでの Einstein 光学式文字認識 (OCR)へのアクセス

2024年5月に Einstein Vision および Language が廃止されます。Einstein OCR ドキュメントには Salesforce 開発者ドキュメントの新しい場所ですばやくアクセスできます。OCR ドキュメントにアクセスするには、Salesforce 開発者ドキュメントをブックマークしてください。

開発者ドキュメントでの Einstein 光学式文字認識 (OCR)へのアクセス

2024年5月に Einstein Vision および Language が廃止されます。Einstein OCR ドキュメントには Salesforce 開発者ドキュメントの新しい場所ですばやくアクセスできます。OCR ドキュメントにアクセスするには、Salesforce 開発者ドキュメントをブックマークしてください。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: <https://developer.salesforce.com/docs> に移動して、「Einstein Vision and Language (Einstein Vision および Language)」を検索します。OCR ドキュメントは「Guides (ガイド)」の下にあります。

The screenshot shows the "Guides" section of the Salesforce Winter '24 Release Notes. At the top is a search bar with a magnifying glass icon and the placeholder text "Search" followed by a keyboard shortcut "⌘J". Below the search bar is a list of topics:

- Einstein Language >
- Release Notes >
- Use Prebuilt Language Models
- Multilanguage Support > (This topic has a yellow arrow pointing to it)
- Detect Entities in Text > (This topic is highlighted with a yellow rectangular border)
- Detect Text in Images >
- Work With Tokens >
- Learning Map >
- Best Practices >
- Additional Resources >

Visualforce

リリース更新を確認し、有効にして、Visualforce ページのセキュリティを強化します。

これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、『[Visualforce 開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

[Visualforce JavaScript Remoting API の JsonAccess アノテーション検証の有効化\(リリース更新\)](#)

Visualforce Remoting API では、JavaScript を使用して Apex コントローラーのメソッドを Visualforce ページから直接コールします。パッケージ名前空間での不正な逐次化および並列化を防止するために、この更新では Apex クラスの JsonAccess アノテーションが検証されます。この更新は Winter '23 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用される予定でした。適用日が Spring '24 まで延期されました。

[モーダルウィンドウのナビゲーションの変更](#)

Salesforce では、LWC の有効化の一環として、レコードページとモーダルの機能強化が行われ、プログラムでのナビゲーションが変更されました。navigateToURL(url[, isredirect]) を使用してモーダル(クリックアクションが有効なコンポーネントなど)から URL に移動した場合は、デフォルトではモーダルが自動的に閉じなくなりました。

Visualforce JavaScript Remoting API の JsonAccess アノテーション検証の有効化(リリース更新)

Visualforce Remoting API では、JavaScript を使用して Apex コントローラーのメソッドを Visualforce ページから直接コールします。パッケージ名前空間での不正な逐次化および並列化を防止するために、この更新では Apex クラスの JsonAccess アノテーションが検証されます。この更新は Winter '23 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用される予定でした。適用日が Spring '24 まで延期されました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '24 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: このリリース更新を有効化するには、[設定] から [クリック検索] ボックスに「リリース更新」と入力してから、[リリース更新] を選択します。[Visualforce JavaScript Remoting API の JsonAccess アノテーション検証の有効化] で、テストと有効化の手順を実行します。

関連トピック:

[Apex 開発者ガイド: JsonAccess アノテーション](#)

[リリース更新](#)

モーダルウィンドウのナビゲーションの変更

Salesforce では、LWC の有効化の一環として、レコードページとモーダルの機能強化が行われ、プログラムでのナビゲーションが変更されました。navigateToURL(url[, isredirect]) を使用してモーダル(クリックアクションが有効なコンポーネントなど)から URL に移動した場合は、デフォルトではモーダルが自動的に閉じなくなりました。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: navigateToURL(url[, isredirect]) 関数を使用したナビゲーションでモーダルを自動的に閉じるには、isredirect 属性を true に設定します。

isredirect 属性は省略可能で、デフォルトは以前と同じ false ですが、動作が変更されています。

isredirect 属性が false である場合は、モーダルが重なって、別のモーダルが上にあるときは、開いたま

まで非アクティブになるように変更されました。モーダルから特定の URL に移動しても、モーダルは自動的に閉じません。

関連トピック:

[Visualforce 開発者ガイド: sforce.one オブジェクトを使用したナビゲーションとメッセージング](#)

Apex

開発者プレビュー機能として、権限セットで指定された権限でユーザー モードデータベース操作と検索操作を実行します。チーニングされたキュー可能ジョブのスタック深度の設定が正式リリースされました。非同期キュー可能ジョブの1つのインスタンスのみをキューに追加することで、リソース競合や競合状態を削減します。DataWeave in Apex が正式リリースされました。リリースされた DataWeave スクリプトリソースは、[設定] UI に表示されます。Comparator インターフェースと Collator クラスを使用して、さまざまな並び替え順を実装し、ロケールを区別する比較と並び替えを実行します。for ループで Iterable 変数を使用して、リストまたはセットを簡単に反復処理できます。Apex ジョブの [設定] ページで組織の非同期 Apex の使用状況を監視します。

これらの機能強化についての詳細は、『[Apex 開発者ガイド](#)』と『[Apex リファレンスガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

[ユーザー モードデータベース操作の権限セットを使用したカスタムアクセス権の指定 \(開発者プレビュー\)](#)

新しい AccessLevel.withPermissionSetId() メソッドでは、権限セットで指定された権限で実行されるデータベース操作と検索操作がサポートされています。また、権限セット ID をパラメーターとして新しい Security.stripInaccessible() オーバーロードメソッドに指定できます。Apex では、実行ユーザーの権限のほか、指定された権限セットに基づいて項目レベルセキュリティ (FLS) とオブジェクト権限が適用されます。

[チーニングされたキュー可能ジョブの最大深度の設定 \(正式リリース\)](#)

「チーニングされたキュー可能ジョブのスタック深度の設定」機能が正式リリースされました。キュー可能ジョブの最大スタック深度を設定して、Developer Edition および Trial Edition 組織のデフォルトの制限である 5 を上書きできます。この機能により、暴走した再帰ジョブが日次非同期 Apex 制限を消費するのを防ぐ、より大きな安全メカニズムが提供されます。

[重複するキュー可能ジョブのキューへの追加の回避](#)

署名に基づいて非同期キュー可能ジョブの1つのインスタンスのみをキューに追加することで、リソース競合や競合状態を削減します。同じ署名の複数のキュー可能ジョブを処理キューに追加しようとすると、後続のジョブでキューの追加に関する例外が発生します。

[DataWeave in Apex を使用したさまざまな形式へのデータ変換の有効化 \(正式リリース\)](#)

DataWeave in Apex が正式リリースされました。DataWeave in Apex は、Mulesoft DataWeave ライブラリを Apex ランタイムに統合することで、ネイティブ Apex データ変換のサポートを強化します。これにより、データ変換のコーディングが簡単になり、データ変換の拡張性と効率性が向上します。この機能を使用すると、Apex 開発者はファイル形式の仕様に対応する時間を減らし、ビジネスの問題解決に集中する時間を増やすことができます。DataWeave スクリプトをメタデータとして作成し、Apex から直接呼び出すことができます。Apex と同様に、DataWeave スクリプトは Salesforce アプリケーションサーバー内で実行され、コードの実行に対して同じヒープおよび CPU 制限が適用されます。

[設定] UI での DataWeave スクリプトの表示

組織で DataWeave リソースのリストビューを作成したり、名前空間内でリリースされた DataWeave スクリプトを表示したりできるようになりました。監視する項目 (DataWeave のリソース ID、名前、名前空間プレフィックス、API バージョンなど) を選択します。

Comparator インターフェースと Collator クラスを使用した並び替え

List クラスで新しい Comparator インターフェースがサポートされるようになりました。これにより、List.sort() と Comparator パラメーターを使用してコードでさまざまな並び替え順を実装できます。ロケールを区別する比較および並び替えを実行するには、新しい Collator クラスで getInstance メソッドを使用します。ロケールを区別する並び替えでは、コードを実行するユーザーによって異なる結果が生成される可能性があるため、トリガーや、特定の並び替え順が想定されるコードでは使用しないでください。

Iterable による For ループ内での反復処理の簡略化

for ループで Iterable 変数を使用して、リストまたはセットを簡単に反復処理できるようになりました。

非同期 Apex ジョブの制限の使用状況の監視

Apex ジョブの [設定] ページで組織の非同期 Apex の使用状況を監視し、潜在的な制限の問題を発生前に軽減します。非同期 Apex の使用率や、組織の 24 時間の許容制限のうちどれくらいの Apex 操作が使用されたのかを確認できます。

Apex コンパイラのメッセージ、設定、処理のその他の改善点

Winter '24 には、Apex コンパイラのメッセージ、ジョブ設定ページ、シリアルライゼーションのサポートへの多くの改善が含まれます。連動クラスメタデータの更新時に処理中のスケジュール済みジョブの CronTrigger ID が含まれるようにエラーメッセージが拡張されています。ページネーションエラーを回避するために、Apex ジョブリストビューには、10,000 件のレコード制限が適用されます。シリアルライゼーションで使用された Apex クラス API と同じバージョンの API がデシリアルライゼーションで使用されるようになりました。

Apex RestResponse ヘッダーの RFC 7230 に基づく検証の適用 (リリース更新)

この更新を有効にすると、API のバージョンに関係なく、RestResponse.addHeader(name, value) メソッドを介して Apex で定義される REST 応答ヘッダーで、ヘッダー名が RFC 7230 に基づいて検証されるようになります。この更新は、Spring '23 以降で使用可能になります。

getSalesforceBaseUrl() メソッドの廃止

API バージョン 59.0 以降は、getSalesforceBaseUrl() メソッドが非推奨になり、使用できなくなります。代わりに、組織の URL を取得する場合は getOrgDomainUrl()、Salesforce インスタンス上のリクエスト全体の URL を取得する場合は getCurrentRequestUrl() を使用します。API バージョン 59.0 以降で非推奨のメソッドを使用しようとすると、コンパイルエラーが発生します。

関連トピック:

Apex: 新規および変更された項目

ユーザー モードデータベース操作の権限セットを使用したカスタムアクセス権の指定 (開発者レビュー)

新しい `AccessLevel.withPermissionSetId()` メソッドでは、権限セットで指定された権限で実行されるデータベース操作と検索操作がサポートされています。また、権限セット ID をパラメーターとして新しい `Security.stripInaccessible()` オーバーロードメソッドに指定できます。Apex では、実行ユーザーの権限のほか、指定された権限セットに基づいて項目レベルセキュリティ (FLS) とオブジェクト権限が適用されます。

 **メモ:** 機能は、開発者レビューとして使用できます。機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。すべてのコマンド、パラメーター、およびその他の機能は、通知の有無に関わらずいつでも変更または廃止される可能性があります。これらのコマンドまたはツールを使用して開発した機能を本番環境に実装しないでください。 「ユーザー モードの権限セット」機能に関するフィードバックや提案は、[Trailblazer Community](#) に投稿してください。

対象: この機能は、`ApexUserModeWithPermset` 機能が有効になっているスクラッチ組織で使用できます。この機能が有効になっていない場合、この機能が含まれる Apex コードをコンパイルすることはできますが、実行することはできません。

方法: 開発者レビューでは、指定された権限セット ID で `AccessLevel.withPermissionSetId()` メソッドを実行できます。その `AccessLevel` で実行される特定のユーザー モード DML 操作では、指定された権限セットの権限が適用されます。以前は、DML 操作をユーザー モードで実行して、実行ユーザーの FLS およびオブジェクト権限を適用することができました。

この例では、指定された権限セットで `AccessLevel.withPermissionSetId()` メソッドを実行し、カスタムオブジェクトを挿入します。

```
@isTest
public with sharing class ElevateUserModeOperations_Test {
    @isTest
    static void objectCreatePermViaPermissionSet() {
        Profile p = [SELECT Id FROM Profile WHERE Name='Minimum Access - Salesforce'];
        User u = new User(Alias = 'standt', Email='standarduser@testorg.com',
                          EmailEncodingKey='UTF-8', LastName='Testing', LanguageLocaleKey='en_US',
                          LocaleSidKey='en_US', ProfileId = p.Id,
                          TimeZoneSidKey='America/Los_Angeles',
                          UserName='standarduser' + DateTime.now().getTime() + '@testorg.com');

        System.runAs(u) {
            try {
                Database.insert(new Account(name='foo'), AccessLevel.User_mode);
                Assert.fail();
            } catch (SecurityException ex) {
                Assert.isTrue(ex.getMessage().contains('Account'));
            }
            //Get ID of previously created permission set named 'AllowCreateToAccount'
            Id permissionSetId = [Select Id from PermissionSet
                                  where Name = 'AllowCreateToAccount' limit 1].Id;

            Database.insert(new Account(name='foo'),
                           AccessLevel.User_mode.withPermissionSetId(permissionSetId));
        }
    }
}
```

```
// The elevated access level is not persisted to subsequent operations
try {
    Database.insert(new Account(name='foo2'), AccessLevel.User_mode);
    Assert.fail();
} catch (SecurityException ex) {
    Assert.isTrue(ex.getMessage().contains('Account'));
}

}
}
```

-  メモ: Checkmarx (AppExchange セキュリティレビューの Source Code Scanner) は、この新しい Apex 機能でまだ更新されていません。更新されるまで、Checkmarx では、例外ドキュメントを必要とする項目またはオブジェクトレベルセキュリティ違反で偽陽性が生成される可能性があります。

チェーニングされたキュー可能ジョブの最大深度の設定 (正式リリース)

「チェーニングされたキュー可能ジョブのスタック深度の設定」機能が正式リリースされました。キュー可能ジョブの最大スタック深度を設定して、Developer Edition および Trial Edition 組織のデフォルトの制限である 5 を上書きできます。この機能により、暴走した再帰ジョブが日次非同期 Apex 制限を消費するのを防ぐ、より大きな安全メカニズムが提供されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning ExperienceおよびSalesforce Classicに適用されます。

方法:新しい `System.enqueueJob()` オーバーロードを使用してジョブをキューに追加します。このメソッドオーバーロードには、最大スタック深度と最小のキュー遅延を指定するための省略可能な `AsyncOptions` パラメーターがあります。

適切なスタック深度を使用してチェーニングされたキュー可能ジョブをテストできますが、適用される Apex ガバナ制限に注意してください。

新しい System.AsyncInfo クラスでこれらのメソッドを使用して、現在のスタック深度と最大スタック深度を確認し、最小のキュー可能遅延を取得します。

- `getCurrentQueueableStackDepth()`
 - `getMaximumQueueableStackDepth()`
 - `getMinimumQueueableDelayInMinutes()`
 - `hasMaxStackDepth()`

この例では、スタック深度を使用してチェーニングされたジョブを終了し、非同期 Apex メソッドの 1 日の最大実行数に達しないようにしています。

```
// Fibonacci
public class FibonacciDepthQueueable implements Queueable {

    private long nMinus1, nMinus2;

    public static void calculateFibonacciTo(integer depth) {
        AsyncOptions asyncOptions = new AsyncOptions();
```

```

        asyncOptions.MaximumQueueableStackDepth = depth;
        System.enqueueJob(new FibonacciDepthQueueable(null, null), asyncOptions);
    }

    private FibonacciDepthQueueable(long nMinus1param, long nMinus2param) {
        nMinus1 = nMinus1param;
        nMinus2 = nMinus2param;
    }

    public void execute(QueueableContext context) {

        integer depth = AsyncInfo.getCurrentQueueableStackDepth();

        // Calculate step
        long fibonacciSequenceStep;
        switch on (depth) {
            when 1, 2 {
                fibonacciSequenceStep = 1;
            }
            when else {
                fibonacciSequenceStep = nMinus1 + nMinus2;
            }
        }
    }

    System.debug('depth: ' + depth + ' fibonacciSequenceStep: ' + fibonacciSequenceStep);

    if(System.AsyncInfo.hasMaxStackDepth() &&
       AsyncInfo.getCurrentQueueableStackDepth() >=
       AsyncInfo.getMaximumQueueableStackDepth()) {
        // Reached maximum stack depth
        Fibonacci__c result = new Fibonacci__c(
            Depth__c = depth,
            Result = fibonacciSequenceStep
        );
        insert result;
    } else {
        System.enqueueJob(new FibonacciDepthQueueable(fibonacciSequenceStep, nMinus1));
    }
}
}
}

```

重複するキュー可能ジョブのキューへの追加の回避

署名に基づいて非同期キュー可能ジョブの1つのインスタンスのみをキューに追加することで、リソース競合や競合状態を削減します。同じ署名の複数のキュー可能ジョブを処理キューに追加しようとすると、後続のジョブでキューの追加に関する例外が発生します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper Edition のLightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: QueueableDuplicateSignature クラスのメソッド addId()、addInteger()、addString() を使用して、キュー可能ジョブの一意の署名を作成します。AsyncOptions クラスの DuplicateSignature プロパティを使用して、キュー可能ジョブの署名を保存します。System.enqueueJob() と AsyncOptions パラメーターを使用してジョブをキューに追加します。

この例では、UserInfo.getUserId() と文字列 'MyQueueable' を使用して非同期ジョブの署名を作成します。

```
AsyncOptions options = new AsyncOptions();
options.DuplicateSignature = QueueableDuplicateSignature.Builder()
    .addId(UserInfo.getUserId())
    .addString('MyQueueable')
    .build();

try {
    System.enqueueJob(new MyQueueable(), options);
} catch (DuplicateMessageException ex) {
    //Exception is thrown if there is already an enqueued job with the same signature
    Assert.AreEqual('Attempt to enqueue job with duplicate queueable signature',
        ex.getMessage());
}
```

この例では、ApexClass ID と sObject のハッシュ値を使用して非同期ジョブの署名を作成します。

```
AsyncOptions options = new AsyncOptions();
options.DuplicateSignature = QueueableDuplicateSignature.Builder()
    .addInteger(System.hashCode(someAccount))
    .addId([SELECT Id FROM ApexClass
        WHERE Name='MyQueueable'].Id)
    .build();

System.enqueueJob(new MyQueueable(), options);
```

DataWeave in Apex を使用したさまざまな形式へのデータ変換の有効化(正式リリース)

DataWeave in Apex が正式リリースされました。DataWeave in Apex は、Mulesoft DataWeave ライブラリを Apex ランタイムに統合することで、ネイティブ Apex データ変換のサポートを強化します。これにより、データ変換のコーディングが簡単になり、データ変換の拡張性と効率性が向上します。この機能を使用すると、Apex 開発者はファイル形式の仕様に対応する時間を減らし、ビジネスの問題解決に集中する時間を増やすことができます。DataWeave スクリプトをメタデータとして作成し、Apex から直接呼び出すことができます。Apex と同様に、DataWeave スクリプトは Salesforce アプリケーションサーバー内で実行され、コードの実行に対して同じヒープおよび CPU 制限が適用されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: DataWeave スクリプトは名前空間全体で共有できます。新しい DataWeave.createScript(namespace, scriptName) メソッドオーバーロードで名前空間名を指定します。DataWeave スクリプトの初回の作成および実行のパフォーマンスが改善されます。機能サポートの確認は、実行時ではなくスクリプトの作成時に実行されます。文字列 (binaryVariable as String {encoding: 'utf8'} '') に変換されるようにバイナリ入力 (Apex Blob) のエンコードを指定する必要があります。

DataWeave スクリプトごとに、DataWeave.Script クラスを拡張する DataWeaveScriptResource.ScriptName 型の内部クラスが生成されます。実際のスクリプト名の代わりに生成された

`DataWeaveScriptResource.ScriptName` クラスを使用できます。この内部クラスを介して現在参照されている DataWeave スクリプトは削除できません。生成された `DataWeaveScriptResource` クラスをグローバルにするには、`DataWeaveResource` メタデータオブジェクトで `isGlobal` 項目を設定します。

この例は、入力 CSV ファイルから `Contact`sObjectへの変換を示しています。

```
// CSV data for Contacts

String inputCsv = 'first_name,last_name,email\nCodey,"The Bear",codey@salesforce.com';
DataWeave.Script dwscript = new DataWeaveScriptResource.csvToContacts();
DataWeave.Result dwresult = dwscript.execute(new Map<String, Object>{'records' => inputCsv});
List<Contact> results = (List<Contact>)dwresult.getValue();

Assert.AreEqual(1, results.size());
Contact codeyContact = results[0];
Assert.AreEqual('Codey', codeyContact.FirstName);
Assert.AreEqual('The Bear', codeyContact.LastName);
```

CSV データは、DataWeave スクリプト `csvToContacts.dwl` を使用してオブジェクトに変換されます。

```
%dw 2.0
input records application/csv
output application/apex
---
records map(record) -> {
  FirstName: record.first_name,
  LastName: record.last_name,
  Email: record.email
} as Object {class: "Contact"}
```

[設定] UI での DataWeave スクリプトの表示

組織で DataWeave リソースのリストビューを作成したり、名前空間内でリリースされた DataWeave スクリプトを表示したりできるようになりました。監視する項目(DataWeave のリソース ID、名前、名前空間プレフィックス、API バージョンなど)を選択します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「`DataWeave`」と入力し、[DataWeave リソース]を選択します。

Comparator インターフェースと Collator クラスを使用した並び替え

`List` クラスで新しい Comparator インターフェースがサポートされるようになりました。これにより、`List.sort()` と Comparator パラメーターを使用してコードでさまざまな並び替え順を実装できます。ロケールを区別する比較および並び替えを実行するには、新しい `Collator` クラスで `getInstance` メソッドを使用します。ロケールを区別する並び替えでは、コードを実行するユーザーによって異なる結果が生成される可能性があるため、トリガーや、特定の並び替え順が想定されるコードでは使用しないでください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: System.Comparator インターフェースの compare() メソッドを実装し、Comparator を List.sort() のパラメーターとして指定します。null ポインター例外を回避するために、実装で compare() メソッドの null 入力を明示的に処理する必要があります。この例では、従業員を並び替える2つの異なる方法を実装します。

```
public class Employee {  
  
    private Long id;  
    private String name;  
    private Integer yearJoined;  
  
    // Constructor  
    public Employee(Long i, String n, Integer y) {  
        id = i;  
        name = n;  
        yearJoined = y;  
    }  
  
    public String getName() { return name; }  
    public Integer getYear() { return yearJoined; }  
}  
  
// Class to compare Employees by name  
public class NameCompare implements Comparator<Employee> {  
    public Integer compare(Employee e1, Employee e2) {  
        if(e1?.getName() == null && e2?.getName() == null) {  
            return 0;  
        } else if(e1?.getName() == null) {  
            return -1;  
        } else if(e2?.getName() == null) {  
            return 1;  
        }  
        return e1.getName().compareTo(e2.getName());  
    }  
}  
  
// Class to compare Employees by year joined  
public class YearCompare implements Comparator<Employee> {  
    public Integer compare(Employee e1, Employee e2) {  
        // Guard against null operands for '<' or '>' operators because  
        // they will always return false and produce inconsistent sorting  
        Integer result;  
        if(e1?.getYear() == null && e2?.getYear() == null) {  
            result = 0;  
        } else if(e1?.getYear() == null) {  
            result = -1;  
        } else if(e2?.getYear() == null) {  
            result = 1;  
        } else if (e1.getYear() < e2.getYear()) {  
            result = -1;  
        } else if (e1.getYear() > e2.getYear()) {  
            result = 1;  
        } else {  
            result = 0;  
        }  
    }  
}
```

```

        return result;
    }
}

@isTest
private class EmployeeSortingTest {
    @isTest
    static void sortWithComparators() {
        List<Employee> empList = new List<Employee>();
        empList.add(new Employee(101, 'Joe Smith', 2020));
        empList.add(new Employee(102, 'J. Smith', 2020));
        empList.add(new Employee(25, 'Caragh Smith', 2021));
        empList.add(new Employee(105, 'Mario Ruiz', 2019));
        // Sort by name
        NameCompare nameCompare = new NameCompare();
        empList.sort(nameCompare);
        // Expected order: Caragh Smith, J. Smith, Joe Smith, Mario Ruiz
        Assert.AreEqual('Caragh Smith', empList.get(0).getName());

        // Sort by year joined
        YearCompare yearCompare = new YearCompare();
        empList.sort(yearCompare);
        // Expected order: Mario Ruiz, J. Smith, Joe Smith, Caragh Smith
        Assert.AreEqual('Mario Ruiz', empList.get(0).getName());
    }
}

```

この例では、デフォルトのリストの並び替えを実行し、Collatorを使用してユーザーロケールに基づいて並び替えます。

```

@IsTest
static void userLocaleSort() {

    string userLocale = 'fr_FR';

    User u = new User(Alias = 'standt', Email='standarduser@testorg.com',
                      EmailEncodingKey='UTF-8', LastName='Testing', LanguageLocaleKey='en_US',
                      LocaleSidKey=userLocale, TimeZoneSidKey='America/Los_Angeles',
                      ProfileId = [SELECT Id FROM Profile WHERE Name='Standard User'].Id,
                      UserName='standarduser' + DateTime.now().getTime() + '@testorg.com');

    System.runAs(u) {

        List<String> shoppingList = new List<String> {
            'épaulement désosé Agneau',
            'Juice',
            'à la mélasse Galette 5 kg',
            'Bread',
            'Grocery'
        };

        // Default sort
        shoppingList.sort();
        Assert.AreEqual('Bread', shoppingList[0]);
    }
}

```

```

    // Sort based on user Locale
    Collator myCollator = Collator.getInstance();
    shoppingList.sort(myCollator);
    Assert.AreEqual('à la mélasse Galette 5 kg', shoppingList[0]);
    Assert.AreEqual('Bread', shoppingList[1]);
    Assert.AreEqual('épaule désosé Agneau', shoppingList[2]);
    Assert.AreEqual('Grocery', shoppingList[3]);
    Assert.AreEqual('Juice', shoppingList[4]);
}
}

```

関連トピック:

[IdeaExchange: Support Apex List Sorting Using a Comparator \(Comparator を使用した Apex リストの並び替えのサポート\)](#)

Iterable による For ループ内での反復処理の簡略化

for ループで Iterable 変数を使用して、リストまたはセットを簡単に反復処理できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: この例では、文字列のリストを反復処理します。

```

Iterable<String> stringIterator = new List<String>{'Hello', 'World!'};
for (String str : stringIterator) {
    System.debug(str);
}

```

この例では、Iterable インターフェースを実装し、返された文字列のセットの文字列を反復処理します。

```

public class MyIterable implements Iterable<String> {
    public Iterator<String> iterator() {
        return new Set<String>{'Hello', 'World!'}.iterator();
    }
}

for (String str : new MyIterable()) {
    System.debug(str);
}

```

関連トピック:

[IdeaExchange: Allow Iterable for Loops in Apex Code \(Apex コードでの Iterable for ループの許可\)](#)

非同期 Apex ジョブの制限の使用状況の監視

Apex ジョブの [設定] ページで組織の非同期 Apex の使用状況を監視し、潜在的な制限の問題を発生前に軽減します。非同期 Apex の使用率や、組織の 24 時間の許容制限のうちどれくらいの Apex 操作が使用されたのかを確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Apex」と入力し、[Apex ジョブ] を選択します。

関連トピック:

[Apex 開発者ガイド: Lightning Platform フォームの Apex 制限](#)

Apex コンパイラのメッセージ、設定、処理のその他の改善点

Winter'24には、Apexコンパイラのメッセージ、ジョブ設定ページ、シリアル化のサポートへの多くの改善が含まれます。連動クラスメタデータの更新時に処理中のスケジュール済みジョブの CronTrigger ID が含まれるようにエラーメッセージが拡張されています。ページネーションエラーを回避するために、Apexジョブリストビューには、10,000件のレコード制限が適用されます。シリアル化で使用されたApexクラス API と同じバージョンの API がデシリアル化で使用されるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

Apex RestResponse ヘッダーの RFC 7230 に基づく検証の適用 (リリース更新)

この更新を有効にすると、API のバージョンに関係なく、`RestResponse.addHeader(name, value)` メソッドを介して Apex で定義される REST 応答ヘッダーで、ヘッダー名が RFC 7230 に基づいて検証されるようになります。この更新は、Spring '23 以降で使用可能になります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Salesforce 組織に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '24 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この更新により、Apex REST の応答ヘッダーが検証されていなかった従来の動作が改善され、RFC7230 に基づく検証が可能になります。更新後、無効な文字 (/ (スラッシュ) など) は受け入れられなくなります。

方法: `RestResource.addHeader(name, value)` メソッドを呼び出す Apex でヘッダー名が RFC 7230 に準拠していない場合、`InvalidHeaderException` 種別の実行例外が発生します。本番環境でこの更新を有効化する前に、すべてのインストール済みパッケージに互換性があることをパッケージプロバイダーに確認してください。次の確認を行って、Salesforce 組織への影響を評価します。

- Apex のテストケースを実行し、`InvalidHeaderException` によるエラーの発生がないか確認する。
- Apex REST API クラスを呼び出し、応答で `InvalidHeaderException` によるエラーの発生がないか確認する。
- `RestResource.addHeader(name, value)` メソッドをコールする Apex コードで、RFC 7230 に準拠しない値が含まれている `name` パラメーターがないか調査する。

getSalesforceBaseUrl() メソッドの廃止

API バージョン 59.0 以降は、`getSalesforceBaseUrl()` メソッドが非推奨になり、使用できなくなります。代わりに、組織の URL を取得する場合は `getOrgDomainUrl()`、Salesforce インスタンス上のリクエスト全体の URL を取得する場合は `getCurrentRequestUrl()` を使用します。API バージョン 59.0 以降で非推奨のメソッドを使用しようとすると、コンパイルエラーが発生します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Apex リファレンスガイド: URL クラス](#)

API

JWTベースのアクセストークンを使用して REST コールを認証することで、外部システムとの互換性を改善します。以前に発表された Salesforce Platform API の API バージョン 21.0 ~ 30.0 の廃止は Summer '25 まで延期されました。

このセクションの内容:

[JWT ベースのアクセストークンを使用した REST API コールの認証](#)

JSON Web トークン (JWT) ベースのアクセストークンを使用して、REST API へのアクセス権を付与できるようになりました。接続アプリケーションで JWT ベースのアクセストークンを発行できるようにし、これらのトークンを使用して REST コールを認証します。JWT トークンを実装する前に機能と制限を理解していることを確認してください。

[Salesforce Platform API バージョン 21.0 ~ 30.0 の廃止 \(リリース更新\)](#)

Salesforce Platform API のバージョン 21.0 ~ 30.0 の廃止は、Summer '23 で最初に予定されていました。この廃止は Summer '25 に延期されました。これらの API バージョンは引き続き使用できますが、サポートされておらず、Summer '25 以降は使用できません。それらを使用しているアプリケーションは中断されます。要求は失敗し、エンドポイントが無効化されていることを示すエラーメッセージが表示されます。この重大な変更が実行される前に、従来の API バージョンを使用するすべてのアプリケーションを最新バージョンにアップグレードしてください。

関連トピック:

[プラットフォームイベントと変更イベントの使用量ベースのエンタイトルメントに対する REST の Limits の応答の変更](#)

[JWT ベースのアクセストークンを使用した REST API コールの認証](#)

JSON Web トークン (JWT) ベースのアクセストークンを使用して、REST API へのアクセス権を付与できるようになりました。接続アプリケーションで JWT ベースのアクセストークンを発行できるようにし、これらのトークンを使用して REST コールを認証します。JWT トークンを実装する前に機能と制限を理解していることを確認してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[JSON Web トークン \(JWT\) ベースのアクセストークンの正式リリース](#)

[Salesforce ヘルプ: JWT ベースのアクセストークン \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce Platform API バージョン 21.0 ~ 30.0 の廃止 (リリース更新)

Salesforce Platform API のバージョン 21.0 ~ 30.0 の廃止は、Summer '23 で最初に予定されていました。この廃止は Summer '25 に延期されました。これらの API バージョンは引き続き使用できますが、サポートされておらず、Summer '25 以降は使用できません。それらを使用しているアプリケーションは中断されます。要求は失敗し、エンドポイントが無効化されていることを示すエラーメッセージが表示されます。この重大な変更が実行される前に、従来の API バージョンを使用するすべてのアプリケーションを最新バージョンにアップグレードしてください。

対象: この変更は次の API バージョンに影響します。

Bulk API

21.0、22.0、23.0、24.0、25.0、26.0、27.0、28.0、29.0、30.0

SOAP API

21.0、22.0、23.0、24.0、25.0、26.0、27.0、28.0、29.0、30.0

REST API

v21.0、v22.0、v23.0、v24.0、v25.0、v26.0、v27.0、v28.0、v29.0、v30.0

 **メモ:** この変更は、/services/data/vXX.X/ 以下の URI を使用するすべての REST API (以下を含む) に影響します。

- Bulk API
- Connect REST API
- IoT REST API
- Lightning プラットフォーム REST API
- メタデータ API
- 注文実行 REST API
- レポートおよびダッシュボード REST API
- Tableau CRM REST API
- Tooling API

この変更は、Professional Edition (API アクセス有効)、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。Sandbox やスクラッチ組織を含む、API が有効なすべての組織に影響します。

方法: Summer '25 リリースの前に、現在の API バージョンで機能するようにすべてのアプリケーションを変更またはアップグレードします。新しい API バージョンでは、より多くの機能が提供され、セキュリティとパフォーマンスが向上しています。

[API 合計使用量イベント](#)を使用して、SOAP API、REST API、Bulk API の古いまたはサポートされていない API バージョンで実行された要求を識別します。

パッケージ化

パッケージ化により、ビジネスアプリケーションの開発と配布が容易になります。第二世代管理パッケージを使用して、AppExchange で販売および配布するアプリケーションを作成します。社内用のビジネスアプリケーションを開発するにはロック解除済みパッケージを使用します。

このセクションの内容:

[管理パッケージの新しい開発者ガイドの探索](#)

1つのパッケージ種別に集中して取り組んでいる ISV および開発者のためにパッケージドキュメントの読みやすさを改善するため、開発者向けパッケージトピックを2つの新しい開発者ガイドに再整理しました。すべての開発者向けトピックを第二世代管理パッケージ開発者ガイドまたは第一世代管理パッケージ開発者ガイドのいずれかで見つけることができます。『ISVforce ガイド』では、ビジネスとマーケットプレイスのコンテンツに焦点が当てられるようになり、パッケージの構築に関する詳細は含まれなくなりました。ロック解除済みパッケージの開発者向けトピックは『Salesforce DX 開発者ガイド』に引き続き含まれています。

管理パッケージの新しい開発者ガイドの探索

1つのパッケージ種別に集中して取り組んでいる ISV および開発者のためにパッケージドキュメントの読みやすさを改善するため、開発者向けパッケージトピックを2つの新しい開発者ガイドに再整理しました。すべての開発者向けトピックを第二世代管理パッケージ開発者ガイドまたは第一世代管理パッケージ開発者ガイドのいずれかで見つけることができます。『ISVforce ガイド』では、ビジネスとマーケットプレイスのコンテンツに焦点が当てられるようになり、パッケージの構築に関する詳細は含まれなくなりました。ロック解除済みパッケージの開発者向けトピックは『Salesforce DX 開発者ガイド』に引き続き含まれています。

対象: この変更は、第二世代と第一世代の管理パッケージに適用されます。

関連トピック:

[Second-Generation Managed Packaging Developer Guide \(第二世代管理パッケージ開発者ガイド\)](#)

[第一世代管理パッケージ開発者ガイド](#)

[Salesforce DX 開発者ガイド: ロック解除済みパッケージ](#)

DevOps Center

Salesforce DevOps Center は、ローコードからプロコードまでの開発チームに DevOps のベストプラクティスを提供し、変更とリリース管理に関するエクスペリエンスを向上させます。すべての開発者と作成者は連携し、反復可能かつ拡張可能な方法で顧客に価値を提供することができます。

最新の開発のベストプラクティスに基づいた変更セットに代わるものを探している場合におすすめします。

このセクションの内容:

[Salesforce CLI を使用した変更のリリース \(ベータ\)](#)

Salesforce CLI の `sf project deploy pipeline` コマンドを使用して、外部でマージした変更をパイプラインフェーズ環境にリリースしたり、検証のみのリリースを実行したりします。CLI を使用すると、DevOps Center 外で作業を行ったり、タスクの自動化を行ったりする開発者向けのコマンドラインで DevOps Center アクションを実行できます。

[作業項目がコンポーネントを共有する場合に確信を持って昇格](#)

メタデータコンポーネントを共有する作業項目を組み合わせることで、昇格プロセス中の競合を防止します。場合によっては、ソース制御リポジトリで同じメタデータコンポーネントに対する変更を調整する方法が特定できないことがあります。共有コンポーネントの運動関係に基づいて昇格がブロックされることもあります。ただし、もうそのような心配がなくなりました。DevOps Center では共有コンポーネントが検出され、リリースパイプラインで確信をもって変更を昇格する方法が提供されます。

[バンドルフェーズでの検証のみのリリースの実行](#)

プロジェクトパイプラインのバンドルフェーズから検証のみのリリースおよびクイックリリースを実行します。検証のみのリリースまたはクイックリリースは DevOps Center 内からまたは Salesforce CLI を使用して実行できます。

関連トピック:

[DevOps Center Roadmap \(DevOps Center ロードマップ\): v6.3 Bug Fixes \(v6.3 バグ修正\) \(2023 年 11 月\)](#)

[DevOps Center Roadmap \(DevOps Center ロードマップ\): v6.1 Bug Fixes \(v6.1 バグ修正\) \(2023 年 10 月\)](#)

[DevOps Center Roadmap \(DevOps Center ロードマップ\): v6.0 Bug Fixes \(v6.0 バグ修正\) \(2023 年 8 月\)](#)

[Salesforce ヘルプ: DevOps Center をインストールして構成する](#)

[Salesforce ヘルプ: DevOps Center で変更を簡単かつ共同で管理およびリリースする](#)

[DevOps Center Developer Guide \(DevOps Center 開発者ガイド\)](#)

[Salesforce CLI を使用した変更のリリース \(ベータ\)](#)

Salesforce CLI の `sf project deploy pipeline` コマンドを使用して、外部でマージした変更をパイプラインフェーズ環境にリリースしたり、検証のみのリリースを実行したりします。CLI を使用すると、DevOps Center 外で作業を行ったり、タスクの自動化を行ったりする開発者向けのコマンドラインで DevOps Center アクションを実行できます。

対象: この変更は次のエディションの Lightning Experience に適用されます。

- Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。
- Government Cloud Plus。Government Cloud Plus 組織で DevOps センターを有効にすると、認証境界外にデータが送信される可能性があります。詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

時期: DevOps Center CLI プラグインは DevOps Center パッケージバージョン 6.0 以降と互換性があります。Salesforce CLI は毎週リリースされます。DevOps Center プラグインの公式リリースのタイミングについては、[Salesforce CLI リリースノート](#) を参照してください。

対象ユーザー: 「DevOps Center Release Manager (DevOps Center リリースマネージャー)」権限セットが割り当てられているユーザー。

方法: Salesforce CLI をインストールします。詳細は [「Salesforce CLI 設定ガイド」](#) を参照してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce CLI DevOps Center プラグインのインストール \(ベータ\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Salesforce CLI を使用した変更のリリース \(ベータ\)](#)

作業項目がコンポーネントを共有する場合に確信を持って昇格

メタデータコンポーネントを共有する作業項目を組み合わせることで、昇格プロセス中の競合を防止します。場合によっては、ソース制御リポジトリで同じメタデータコンポーネントに対する変更を調整する方法が特定できないことがあります。共有コンポーネントの連動関係に基づいて昇格がブロックされることもあります。ただし、もうそのような心配がなくなりました。DevOps Center では共有コンポーネントが検出され、リリースパイプラインで確信をもって変更を昇格する方法が提供されます。

対象: この変更は次のエディションの Lightning Experience に適用されます。

- Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。
- Government Cloud Plus。Government Cloud Plus 組織で DevOps センターを有効にすると、認証境界外にデータが送信される可能性があります。詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

対象ユーザー: 必要な DevOps Center 権限セット (「DevOps Center Release Manager (DevOps Center リリースマネージャー)」など) が割り当てられているユーザー。

理由: DevOps Center では、作業項目はパイプライン内を前方にのみ移動できます。現時点では、昇格した作業項目を元に戻すことはできません。パイプラインフェーズ内の作業項目を放棄することはできないため、すべての作業項目は最終的にはパイプラインを通過して、すべてのパイプラインフェーズブランチとそれに対応する環境が同期されているようにする必要があります。望まない変更をリリースパイプライン内で移動することは直観に反するように思えるかもしれません、作業項目を組み合わせることで、すべての変更をマージして望ましい結果を達成することができます。

方法: DevOps Center でコンポーネントを共有する作業項目や連動関係が含まれる作業項目のために競合の可能性があることが検出されると、昇格を続行できるように作業項目を組み合わせるオプションが提供されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 作業項目の組み合わせによる競合の防止](#)

バンドルフェーズでの検証のみのリリースの実行

プロジェクトパイプラインのバンドルフェーズから検証のみのリリースおよびクイックリリースを実行します。検証のみのリリースまたはクイックリリースは DevOps Center 内からまたは Salesforce CLI を使用して実行できます。

対象: 変更は次のエディションの Lightning Experience に適用されます。

- Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。
- Government Cloud Plus。Government Cloud Plus 組織で DevOps センターを有効にすると、認証境界外にデータが送信される可能性があります。詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

時期: この機能は DevOps Center パッケージバージョン 6.3.0 以降で使用できます。

対象ユーザー: 必要な DevOps Center 権限セット（「DevOps Center Release Manager (DevOps Center リリースマネージャー)」など）が割り当てられているユーザー。

理由: この機能の提供は DevOps Center Trailblazer コミュニティのフィードバックに基づいて優先されました。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 検証のみのリリースを実行する](#)

[Salesforce ヘルプ: Salesforce CLI を使用した変更のリリース \(ベータ\)](#)

開発環境

開発環境は、既存または新規の機能やカスタムアプリケーションの開発およびテストに使用するフル機能の Salesforce 環境です。Developer Edition 組織、Sandbox、スクラッチ組織が付属します。

このセクションの内容:

[Sandbox ライセンスコンプライアンスの変更の理解](#)

Sandbox ライセンスコンプライアンスを確保するために、Sandbox 数が、プロビジョニングされたライセンス数を超えた場合に通知されます。Sandbox 割り当てを超えた場合、最も長い時間使用されていない Sandbox から適切な数の Sandbox がロックされ、ライセンスコンプライアンスが回復します。ユーザーがコンプライアンスを満たしたら、ロックされた Sandbox はロック解除されます。操作を何も行わない場合、ロック期間が 60 日を超えた Sandbox は削除され、復元できなくなります。

[Sandboxへのアクセス権を持つユーザーの選択](#)

選択的な Sandbox アクセス権は、Sandbox の更新や作成時に Sandbox へのアクセス権を必要なユーザーのみに制限します。デフォルトでは、ソース組織のすべての有効なユーザーが Sandbox にアクセスできますが、メールアドレスが元の (.invalid が付加されない) 形式のままとなるのは Sandbox を作成したユーザーのみです。選択的なアクセスにより、Salesforce システム管理者は公開グループを通して特定のユーザーにアクセス権を付与できます。公開グループに属するユーザーのメールアドレスは元の形式のままであるため、修正は不要です。公開グループに属していないユーザーは、Sandbox で解凍しなければ Sandbox にはアクセスできません。

Sandbox ライセンスコンプライアンスの変更の理解

Sandbox ライセンスコンプライアンスを確保するために、Sandbox 数が、プロビジョニングされたライセンス数を超えた場合に通知されます。Sandbox 割り当てを超えた場合、最も長い時間使用されていない Sandbox から適切な数の Sandbox がロックされ、ライセンスコンプライアンスが回復します。ユーザーがコンプライアンスを満たしたら、ロックされた Sandbox はロック解除されます。操作を何も行わない場合、ロック期間が 60 日を超えた Sandbox は削除され、復元できなくなります。

対象: この変更是、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Database.com Edition の期限切れの Sandbox ライセンスに適用されます。

時期: この機能は、2023 年 12 月中旬から本番組織で使用できます。

対象ユーザー: 「Sandbox を管理」ユーザー権限を持つすべてのユーザーに非準拠 Sandbox に関するメール通知が送信されます。

方法: Sandbox ライセンスコンプライアンスに戻るには?

- 未使用またはロック済みのいずれかの Sandbox を削除して、Sandbox ライセンスを解放します。
- Salesforce アカウントエグゼクティブに連絡して、必要な Sandbox 数に対応する追加の Sandbox ライセンスを購入します。ライセンスを購入する場合は、プロビジョニングの時間を確保してください!

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Sandbox ライセンスコンプライアンス](#)

[Salesforce ヘルプ: Sandbox のロック解除](#)

Sandbox へのアクセス権を持つユーザーの選択

選択性の Sandbox アクセス権は、Sandbox の更新や作成時に Sandbox へのアクセス権を必要なユーザーのみに制限します。デフォルトでは、ソース組織のすべての有効なユーザーが Sandbox にアクセスできますが、メールアドレスが元の (.invalid が付加されない) 形式のままとなるのは Sandbox を作成したユーザーのみです。選択性のアクセスにより、Salesforce システム管理者は公開グループを通して特定のユーザーにアクセス権を付与できます。公開グループに属するユーザーのメールアドレスは元の形式のままであるため、修正は不要です。公開グループに属していないユーザーは、Sandbox で解凍しなければ Sandbox にはアクセスできません。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Database.com Edition の Sandbox に適用されます。

時期: この機能は、2023 年 10 月中旬からの Winter '24 リリースにアップグレードされると、本番組織で使用できます。

対象ユーザー: 「Sandbox を管理」ユーザー権限を持つ本番組織のすべてのユーザー。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Sandbox にアクセスできるユーザーの決定](#)

[Salesforce ヘルプ: グループの作成と編集](#)

[Salesforce ヘルプ: Sandbox の作成](#)

[Salesforce ヘルプ: Sandbox のコピー](#)

プラットフォーム開発ツール

Salesforce Developer Experience (DX) を使用してアプリケーションを共同で作成し、継続的に配信します。Salesforce Developer Experience は、Customer 360 Platform での開発を容易にするオープンな統合環境です。

このセクションの内容:

[Platform アプリケーションの簡単な開発](#)

Salesforce DX ツールセットには、Salesforce Extensions for Visual Studio Code (Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能)、コードビルダー、Salesforce CLI が含まれます。チームに最も適した、ビジネスニーズを満たすツールを選択してください。

コードビルダーを使用してどこからでも開発(正式リリース)

コードビルダーは、Salesforce 開発者がローカルデバイスにソフトウェアをダウンロードしなくとも、どこからでも容易に開発できる最新の Web ベースの開発環境です。

スケールセンターでの拡張性のあるアプリケーションのリリースとシステムパフォーマンスの分析

開発サイクルの早い段階で根本原因を診断し、拡張の問題に対してアクションを実行できます。分析レポートを作成し、エラーのトラブルシューティングを行います。

拡張性テストサービスを使用した迅速、簡単、かつ正確な拡張性テストの実施

テスト計画の機能とインサイトにアクセスします。本番環境のピーク負荷を再現します。問題、リスク、ボトルネックをアプリケーションライフサイクルの早い段階で解決します。

Platform アプリケーションの簡単な開発

Salesforce DX ツールセットには、Salesforce Extensions for Visual Studio Code (Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能)、コードビルダー、Salesforce CLI が含まれます。チームに最も適した、ビジネスニーズを満たすツールを選択してください。

Salesforce Extensions for Visual Studio Code (Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能)

この拡張機能パックには、軽量で拡張可能な VS Code エディターを使用して Customer 360 Platform 上で開発を行うためのツールが含まれます。[最近の更新](#)についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

Salesforce CLI

Salesforce CLI を使用して、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクルの制御を行うことができます。[最近の更新](#)についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

コードビルダー

コードビルダーは、Visual Studio Code、VS Code 向け Salesforce 拡張機能、Salesforce CLI のすべての機能と柔軟性を Web ブラウザーで使用できる、Web ベースの統合開発環境です。コードビルダーが正式リリースされました。

関連トピック:

[Salesforce Extensions for Visual Studio Code \(Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能\)](#)

[Salesforce CLI 設定ガイド](#)

[Salesforce CLI コマンドリファレンス](#)

[Salesforce DX 開発者ガイド](#)

コードビルダーを使用してどこからでも開発(正式リリース)

コードビルダーは、Salesforce 開発者がローカルデバイスにソフトウェアをダウンロードしなくとも、どこからでも容易に開発できる最新の Web ベースの開発環境です。

対象: この変更は次のエディションの Lightning Experience に適用されます。

- Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。

- 相互動作可能な製品として Government Cloud Plus。Government Cloud Plus 組織で Code Builder を有効にすると、認証境界外にデータが送信される可能性があります。詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

対象ユーザー: Code Builder は、すべてのユーザーが使用することができ、[設定] メニューで有効にできます。コードビルダーを使用するには、コードビルダーがインストールされている組織にチームメンバーをユーザーとして追加します。

理由: コードビルダーを使用すれば、Apex、SOQL、Lightning Web コンポーネントなどの言語やフレームワークを含む最新の開発環境にブラウザー内からアクセスできます。

方法: 必要なユーザーライセンスがある本番組織でコードビルダーを有効にしてから、管理パッケージをインストールします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「コードビルダー」と入力し、[コードビルダー] を選択します。コードビルダーについての詳細は、[コードビルダーのドキュメント](#) を参照してください。

スケールセンターでの拡張性のあるアプリケーションのリリースとシステムパフォーマンスの分析

開発サイクルの早い段階で根本原因を診断し、拡張の問題に対してアクションを実行できます。分析レポートを作成し、エラーのトラブルシューティングを行います。

対象: この変更は、Unlimited Edition の Lightning Experience と Signature Success のお客様に適用されます。スケールセンターは、Government Cloud Plus ではサポートされません。

対象ユーザー:

- スケールセンターは、すべての Unlimited Edition (UE) Full Copy Sandbox 組織と Signature のユーザーに追加費用なしで正式リリースされます。
- スケールセンターは、組織あたり 5 人の標準 (システム管理者以外) ユーザーに対して有効にできます。
- 深く掘り下げた調査を組織あたり週 15 回実行できます。
- ユーザーには [「Agreements and Terms \(契約および規約\)」](#) に記載された該当する規約が適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「スケールセンター」と入力し、[スケールセンター] をクリックします。

拡張性テストサービスを使用した迅速、簡単、かつ正確な拡張性テストの実施

テスト計画の機能とインサイトにアクセスします。本番環境のピーク負荷を再現します。問題、リスク、ボトルネックをアプリケーションライフサイクルの早い段階で解決します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: このサービスはパイロットです。

方法: アクセスするには、カスタマーサクセス担当者またはアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。拡張性テストサービス機能をファーストパーティインフラストラクチャと Hyperforce 上のテスト環境で有効にします。

[設定] から、[クイック検索] ボックスに「パフォーマンス」と入力し、[パフォーマンステスト] をクリックします。

開発者コンソール

開発者コンソールを使用して、Salesforce 組織内のアプリケーションの作成、デバッグ、テストを行います。

このセクションの内容:

開発者コンソールでの完全な Apex オートコンプリートの廃止

開発者コンソールでの完全な Apex オートコンプリートは、リソースの負荷が大きく、維持が困難になったため、廃止されます。カスタム Apex クラスと SObject では引き続きオートコンプリートを使用できます。

開発者コンソールでの完全な Apex オートコンプリートの廃止

開発者コンソールでの完全な Apex オートコンプリートは、リソースの負荷が大きく、維持が困難になったため、廃止されます。カスタム Apex クラスと SObject では引き続きオートコンプリートを使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この機能は、2023 年 10 月中旬からの Winter '24 リリースにアップグレードされると、本番組織で廃止されます。

方法: 代替手段として、VS Code 向け Salesforce 拡張機能とコードビルダー (ベータ) で使用できる最新の開発者ツールの堅牢なコードコンプリートを使用します。

Salesforce Functions

Salesforce Functions では、エラスティックコンピュートと言語の柔軟性により、Salesforce の機能を拡張します。

このセクションの内容:

Salesforce Functions の更新

Salesforce Functions を使用して、Salesforce Platform でコードありおよびローコードの 1 つの環境で共通の抽象化を使用したデジタル環境を構築します。Java、JavaScript、TypeScript で記述されたコードをサポートする Salesforce Functions では、好みの言語とツールを使用して弾力的に拡張可能なカスタムビジネスロジックを使用するためのプラットフォームが提供されます。

Salesforce Functions の更新

Salesforce Functions を使用して、Salesforce Platform でコードありおよびローコードの 1 つの環境で共通の抽象化を使用したデジタル環境を構築します。Java、JavaScript、TypeScript で記述されたコードをサポートする Salesforce Functions では、好みの言語とツールを使用して弾力的に拡張可能なカスタムビジネスロジックを使用するためのプラットフォームが提供されます。

最新情報については、開発者ガイドの [「Salesforce Functions リリースノート」](#) を参照してください。

関連トピック:

Salesforce Functions へようこそ

Trailhead: Discover Salesforce Functions (Salesforce Functions を知る)

AppExchange パートナー

管理パッケージで AppExchange App Analytics を自分で有効化します。Salesforce Code Analyzer Visual Studio Code 拡張機能を使用すると、コードを簡単にスキャンできます。Tableau アクセラレーターを AppExchange にリストします。拡張および変更されたビジネスニーズをして、顧客が AppExchange リストを簡単に見つけられるようにします。パートナーコンソールでセキュリティレビューについての詳細な最新情報を取得し、レビューチームに直接連絡します。

このセクションの内容:

第一世代 (1GP) および第二世代 (2GP) パッケージでの AppExchange App Analytics の自己有効化

1GP および 2GP 管理パッケージで AppExchange App Analytics を有効にして、AppExchange App Analytics パッケージ 利用状況ログと登録者のスナップショットにアクセスできます。パッケージ利用状況概要は、デフォルトで使用できます。以前は App Analytics にアクセスするには、パートナーコミュニティでケースを登録していました。

Salesforce Code Analyzer Visual Studio Code 拡張機能を使用してソリューションを簡単にスキャン (ベータ)

この拡張機能を使用すると、VS Code が Code Analyzer を使用してコードを操作できます。PMD および RetireJS エンジンに Salesforce Graph Engine を使用してスキャンを実行し、違反のリストを生成してコードを改善します。

Tableau アクセラレーターの AppExchange へのクロスリスト

Tableau アクセラレーターの AppExchange リストを作成して、幅広い顧客にリーチします。最初に、Tableau Exchange Web サイトでリストを作成します。次に、AppExchange リストを作成して、Tableau Exchange リストにリンクします。

ビジネスニーズの新しいカテゴリとサブカテゴリを使用した AppExchange リストの検出可能性の向上

AppExchange リストを作成するときに、ソリューションが担う機能や解決する課題を説明するビジネスニーズを選択します。Salesforce パートナーコンソールの拡張および変更されたビジネスニーズオプションを使用して、顧客がそのリストを簡単に見つけられますようにします。

パートナーコンソールでの AppExchange セキュリティレビューの進行状況の監視とレビューの管理

最新の状況とレビューチームからの詳細なフィードバックにアクセスして、AppExchange リストへの掲載開始をより正確に計画します。レビューを担当しているチームと容易に連絡を取り合うことで処理を迅速に進めます。

第一世代 (1GP) および第二世代 (2GP) パッケージでの AppExchange App Analytics の自己有効化

1GP および 2GP 管理パッケージで AppExchange App Analytics を有効にして、AppExchange App Analytics パッケージ 利用状況ログと登録者のスナップショットにアクセスできます。パッケージ利用状況概要は、デフォルトで使用できます。以前は App Analytics にアクセスするには、パートナーコミュニティでケースを登録していました。

対象: この変更は、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。AppExchange の App Analytics は、セキュリティレビューに合格した管理パッケージでのみ使用できます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、セキュリティレビューに合格した管理パッケージを持つ ISV パートナーである必要があります。

方法: 1GP パッケージで App Analytics を有効にするには、パッケージ化組織にログインします。次に、「[Enable App Analytics on Your First-Generation Managed Package \(第一世代管理パッケージでの App Analytics の有効化\)](#)」の手順に従います。2GP パッケージで App Analytics を有効にするには、「[Enable App Analytics on Your Second-Generation Managed Package \(第二世代管理パッケージでの App Analytics の有効化\)](#)」の手順に従います。

関連トピック:

[開発者ドキュメント: Get Started with AppExchange App Analytics \(AppExchange App Analytics の使用開始\)](#)

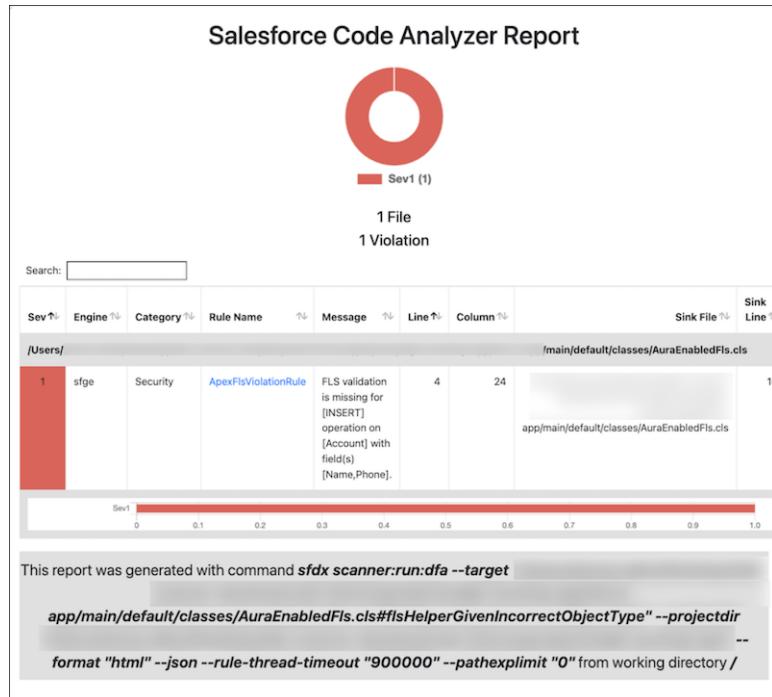
Salesforce Code Analyzer Visual Studio Code 拡張機能を使用してソリューションを簡単にスキャン (ベータ)

この拡張機能を使用すると、VS Code が Code Analyzer を使用してコードを操作できます。PMD および RetireJS エンジンに Salesforce Graph Engine を使用してスキャンを実行し、違反のリストを生成してコードを改善します。

対象: この変更は、Apex、VisualForce、および JavaScript コードを使用する開発者に適用されます。また、開発者は Java および XML コードで Code Analyzer 拡張機能 (ベータ) を有効にできます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: Salesforce Code Analyzer VS Code 拡張機能 (ベータ) をインストールするには、まず Salesforce CLI をインストールします。続いて、ターミナルで `sfdx plugins:install @salesforce/sfdx-scanner` を実行します。次に、[Salesforce Code Analyzer VS Code 拡張機能 \(ベータ\)](#) をインストールして、VS Code でプロジェクトを開きます。VS Code エクスプローラー、コードエディター、およびコマンドパレットのオプションを使用して Code Analyzer スキャンを実行します。



関連トピック:

[開発者ドキュメント: Salesforce Code Analyzer](#)

[開発者ドキュメント: Salesforce Code Analyzer Visual Studio Code 拡張機能](#)

[開発者ドキュメント: Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能: 推奨される他の拡張機能](#)

Tableau アクセラレーターの AppExchange へのクロスリスト

Tableau アクセラレーターの AppExchange リストを作成して、幅広い顧客にリーチします。最初に、Tableau Exchange Web サイトでリストを作成します。次に、AppExchange リストを作成して、Tableau Exchange リストにリンクします。

時期: 2023 年 8 月 23 日から、Tableau アクセラレーターの AppExchange リストを作成できます。

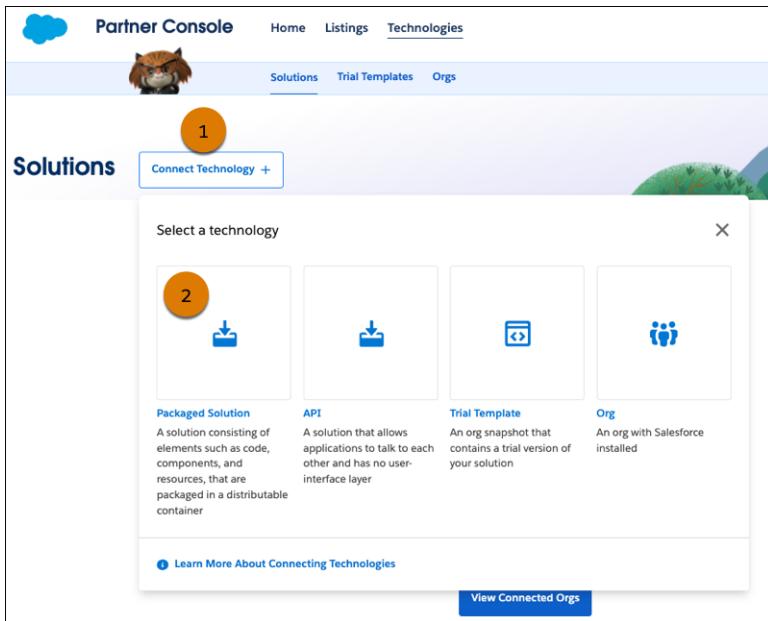
対象ユーザー: AppExchange パートナーコンソールを使用するには、Salesforce パートナーコミュニティの「リストの管理」権限が必要です。

理由: AppExchange にアクセラレーターをリストすれば、1,800 万人超の Salesforce Trailblazer にリーチできます。現在、そのほとんどが Tableau ユーザーではありません。

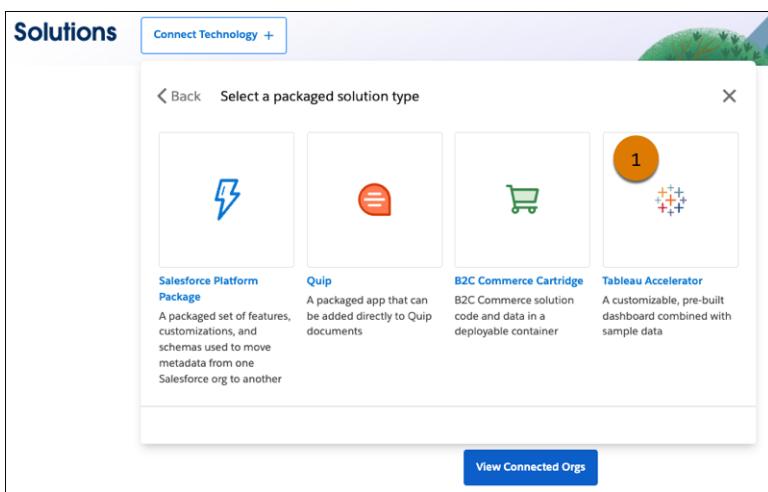
方法: Tableau Exchange のリストが公開されたら、AppExchange リストを作成できます。パートナーコンソールを立ち上げてアクセラレーターを接続し、AppExchange リストを公開します。

パートナーコンソールにアクセスするために、Salesforce パートナーコミュニティにログインします。続いて、[Publishing (公開)] をクリックします。次に、アクセラレーターをパートナーコンソールに接続します。

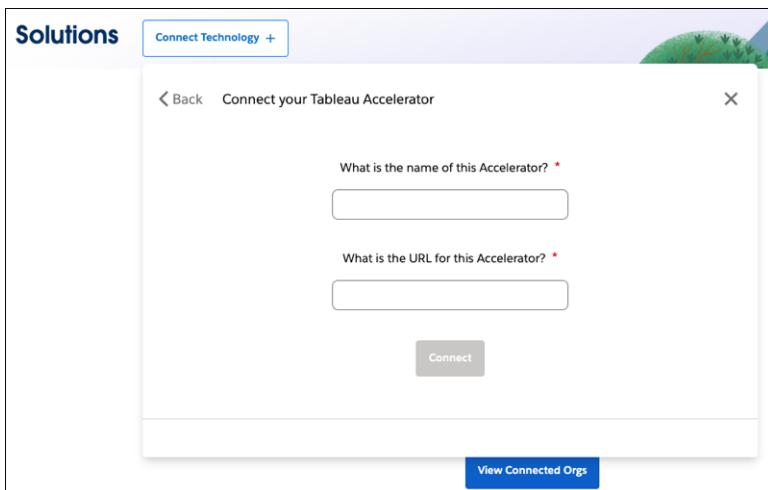
[Technologies (テクノロジー)] > [Solutions (ソリューション)] に移動します。[Connect Technology (テクノロジーを接続)] (1) をクリックします。[Packaged Solution (パッケージソリューション)] (2) を選択します。



パッケージソリューション種別を選択するように求められたら、[Tableau Accelerator(Tableau アクセラレーター)](1)を選択します。



アクセラレーターの名前と Tableau Exchange 上のアクセラレーターのリストの URL を入力して、[Connect(接続)]をクリックします。



接続されたら、アクセラレーターの AppExchange リストを作成します。リストの作成方法については、「[AppExchange リストを作成または編集する](#)」および Trailhead の「[パートナー向けの AppExchange の公開](#)」モジュールを参照してください。

関連トピック:

[開発者ドキュメント: AppExchange リストを作成または編集する](#)

[Trailhead: パートナー向けの AppExchange の公開](#)

[開発者ドキュメント: AppExchange でのソリューションの公開](#)

ビジネスニーズの新しいカテゴリとサブカテゴリを使用した AppExchange リストの検出可能性の向上

AppExchange リストを作成するときに、ソリューションが担う機能や解決する課題を説明するビジネスニーズを選択します。Salesforce パートナーコンソールの拡張および変更されたビジネスニーズオプションを使用して、顧客がそのリストを簡単に見つけられるようにします。

時期: 10月 2 日(月曜日)から新しいビジネスニーズを使用できます。

対象ユーザー: AppExchange にパッケージソリューションや API ソリューションのリストを公開している Salesforce パートナー。

理由: 拡張および変更されたビジネスニーズを使用して、顧客のメリットが明確になるようにリストを微調整できます。顧客の目を引くリストにする目的で、再構築、新しいオプション、移行、新しい名前などの変更が行われています。

リストをナビゲートしやすくするために、ビジネスニーズカテゴリのフラットリストがカテゴリとサブカテゴリの 2 段階になりました。

- カテゴリは、一般的なビジネスプロセスやタスクに対応します。幅広い顧客にアピールする目的でカテゴリを使用します。
- サブカテゴリは、特定のビジネスプロセスやタスクに対応します。特異性をアピールする目的でサブカテゴリを使用します。

いくつかのカテゴリは名前の変更や新しいカテゴリへの移行が行われ、削除されたものもあります。リストが属するカテゴリの名前が変更された場合は、新しい名前を使用するように自動的に更新されています。リストが属するカテゴリが移行された場合は、新しいカテゴリを使用するように自動的に更新されています。リストが属するカテゴリが削除された場合は、そのリストに別のビジネスニーズを追加します。

- 売上予測およびテリトリー管理の名称は売上予測に変更されました。
- 営業手法の名称は営業戦略に変更されました。
- Chatter はチャットおよびWeb 会議に移行しました。
- 商品管理は削除されました。
- 電話は削除されました。
- サービスは削除されました。
- 金融サービスというビジネスニーズは削除され、サポートされている業種としてリストに追加されました。

新たに追加されたさまざまなカテゴリやサブカテゴリから選択できます。ビジネスニーズの完全なリストを確認するには、パートナーコンソールでリストを編集して、[Fill in the Basics (基本情報を入力)] ステップに進み、[Business Needs(ビジネスニーズ)] 項目を表示します。選択可能なビジネスニーズのオプションを確認し、各自のリストに最も適したものを見つけてください。

方法: パートナーコンソールでリストを編集して、[Fill in the Basics (基本情報を入力)] ステップに進みます。リストからソリューションの価値提案が伝わるように、ビジネスニーズを確認して修正します。



関連トピック:

[開発者ドキュメント: AppExchange ソリューションのビジネスニーズの選択](#)

パートナーコンソールでの AppExchange セキュリティレビューの進行状況の監視とレビューの管理

最新の状況とレビューチームからの詳細なフィードバックにアクセスして、AppExchange リストへの掲載開始をより正確に計画します。レビューを担当しているチームと容易に連絡を取り合うことで処理を迅速に進めます。

時期: 2023 年 11 月 1 日から、新しい機能にアクセスできます。

対象ユーザー: AppExchange パートナーコンソールにアクセスするには、Salesforce パートナーコミュニティの「リストの管理」権限が必要です。

理由: セキュリティレビューの簡便化を図るために、セキュリティレビュー状況の追跡と連絡方法がパートナーコンソールに組み込まれます。セキュリティレビューウィザードには、詳細な状況情報とレビューチームからのオンラインでのフィードバックが含まれ、お客様とレビューチームの直接連絡がサポートされるようになりました。

更新されたウィザードでは、サポートケースを登録する必要性を最小限に抑え、メールへの依存を減らします。

- 状況変更についてのお知らせや、お客様に対応していただきたいことがある場合に今後もメールを使用することがありますが、具体的なフィードバックはすべてウィザードに投稿されます。
- 申請に関する問題は、Salesforce ヘルプでサポートケースを登録しなくてもセキュリティレビューウィザードで直接修正できます。
- ソリューションがレビューに合格しなかった場合はメールが届きますが、ウィザード内からレポートをダウンロードするように指示されます(1)。以前は、セキュリティレビューレポートが添付されたメールを送信していました。
- 誤検出に関するドキュメントをウィザードで共有できます(2)。

The screenshot shows the 'Security Review' wizard page. At the top, a message says 'Your submission didn't pass' with a link to 'Learn more on the Overview page'. Below this, there are four cards: 'Prepare & Submit' (green), 'Submission Verification' (green), 'Testing' (red, indicating failure), and 'Done' (gray). The 'Testing' card says 'Your solution didn't pass.' A note at the bottom left says 'Failed March 11, 2022'. The main section is titled 'Your submission didn't pass' and includes a link to a 'Security Review Report' (1). It also features a cartoon fox character and sections for 'What happens next?' and 'Opportunities'. A 'False Positives' section (2) includes a checkbox for 'All vulnerabilities identified in the report are false positives' and a file upload field.

方法: パートナーコンソールの [Solutions (ソリューション)] ページからセキュリティレビューウィザードを起動します。ソリューションを選択します(1)。[Security Review (セキュリティレビュー)]列のアクションリンク ([Check Status (状況を確認)] など) をクリックします(2)。

ソリューションのレビューを申請した後、ウィザードに移動して最新の状況(1)やレビューチームからのフィードバック(2)を確認します。

関連トピック:

[開発者ドキュメント: The AppExchange Security Review Wizard \(AppExchange セキュリティレビュー ウィザード\)](#)

変更データキャプチャ

変更イベントを受信できるオブジェクトが増えました。

このセクションの内容:

追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信

変更データキャプチャで、より多くのオブジェクトのレコード変更に関する通知を受信できるようになりました。

追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信

変更データキャプチャで、より多くのオブジェクトのレコード変更に関する通知を受信できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [変更データキャプチャ] ページで、変更イベントを取得するオブジェクトを選択するか、カスタムチャネルを作成します。次のオブジェクトの変更イベントを受信できるようになりました。

- BroadcastTopicNetwork
- CareDiagnosis
- CareProgram
- CareProgramEligibilityRule
- CareProgramEnrollee
- CareProgramEnrolleeProduct
- CareProgramEnrollmentCard
- CareProgramProduct
- CareProgramProvider
- CareProgramTeamMember
- CareRequest
- CareRequestDrug
- CareRequestItem
- CareSpecialty
- ChangeRequestRelatedIssue
- ChangeRequestRelatedItem
- CodeSet
- CodeSetBundle
- CoverageBenefit
- CoverageBenefitItem
- EnrollmentEligibilityCriteria
- HealthcareFacility
- HealthcareProvider
- HealthcareProviderSpecialty
- IncidentRelatedItem
- Medication
- MedicationDispense

- MedicationRequest
- OcrDocumentScanResult
- OperatingHours (API バージョン 54.0 で導入)
- PatientMedicationDosage
- ProblemIncident
- ProblemRelatedItem
- ReceivedDocument
- ResourcePreference (API バージョン 54.0 で導入)
- ServiceResourceCapacity (API バージョン 54.0 で導入)
- ServiceResourceSkill (API バージョン 54.0 で導入)
- Shift (API バージョン 54.0 で導入)
- ShiftPattern (API バージョン 54.0 で導入)
- ShiftPatternEntry (API バージョン 54.0 で導入)
- SkillRequirement (API バージョン 54.0 で導入)
- TimeSlot (API バージョン 54.0 で導入)
- UnitOfMeasure

プラットフォームイベント

Hyperforce の Enhanced Usage Metrics、REST limits リソースの動作変更、そしていくつかのストリーミング API バージョンの廃止について説明します。

このセクションの内容:

[Apex トリガーの並列登録を使用したプラットフォームイベントの大規模な処理\(パイロット\)](#)

1つの登録ではなく複数の登録を同時に処理することで、Apex トリガーでのプラットフォームイベントの処理を高速化します。各登録で処理するイベントは、指定したパーティションキー(プラットフォームイベントのカスタム項目または標準の EventUuid 項目)によって異なります。また、最大10個のパーティションを指定することもできます。これは、トリガーで内部的に作成される並列登録になります。並列登録はカスタムプラットフォームイベントで使用できますが、標準イベントや変更イベントでは使用できません。

[Hyperforce インスタンスでの拡張された利用状況総計値の使用](#)

Hyperforce インスタンス上のプラットフォームイベントと変更イベントの公開や配信に関する拡張された利用状況総計値を取得します。以前は、Hyperforce では拡張された利用状況総計値は使用できませんでした。

[プラットフォームイベントと変更イベントの使用量ベースのエンタイトルメントに対する REST の Limits の応答の変更](#)

追加の大規模プラットフォームイベントと変更イベント用のアドオンを購入していない Salesforce 組織で、REST limits の応答が変更されました。MonthlyPlatformEventsUsageEntitlement 値は、アドオンを購入済みの組織にのみ適用されるため、含まれなくなりました。

ストリーミング API バージョン 23.0～36.0 の廃止

ストリーミング API バージョン 23.0～36.0 は Winter '25 で廃止される予定です。これらのバージョンは非推奨であり、サポートは終了しています。永続ストリーミングに対応しているストリーミング API バージョン 37.0 以降を使用することを強くお勧めします。新しいストリーミング API バージョンは、製品の機能強化とバグ修正で維持されます。

Apex トリガーの並列登録を使用したプラットフォームイベントの大規模な処理(パイロット)

1つの登録ではなく複数の登録を同時に処理することで、Apex トリガーでのプラットフォームイベントの処理を高速化します。各登録で処理するイベントは、指定したパーティションキー(プラットフォームイベントのカスタム項目または標準の EventUuid 項目)によって異なります。また、最大 10 個のパーティションを指定することもできます。これは、トリガーで内部的に作成される並列登録になります。並列登録はカスタムプラットフォームイベントで使用できますが、標準イベントや変更イベントでは使用できません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

 **メモ:** この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります。SFDC の裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

方法: Apex トリガーの並列登録を設定するには、Tooling API または Metadata API を使用して、PlatformEventSubscriberConfig でパーティション分割に使用するイベント項目 (PartitionKey) とパーティション数 (NumPartitions) を指定します。

並列登録を監視するには、[設定]から、[クイック検索]ボックスに「プラットフォームイベント」と入力し、[プラットフォームイベント]を選択して、対象のプラットフォームイベントをクリックします。並列登録は、プラットフォームイベント詳細ページの [Parallel Subscriptions (並列登録)] 関連リストに表示されます。

Parallel Subscriptions					
Action	Subscriber	Last Processed Id	State	Partition Key	Number of Partitions
Manage	MyOrderEventTrigger	1255	Running	Order_Number_c	3

Hyperforce インスタンスでの拡張された利用状況総計値の使用

Hyperforce インスタンス上のプラットフォームイベントと変更イベントの公開や配信に関する拡張された利用状況総計値を取得します。以前は、Hyperforce では拡張された利用状況総計値は使用できませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に適用されます。拡張された利用状況総計値は、Hyperforce 以外の Public Cloud と Government Cloud では使用できません。

方法:組織がHyperforceに配置されているかどうかを確認するには、「[Salesforceインスタンスの場所](#)」の「Hyperforceインスタンス」を参照してください。Salesforce組織がどのインスタンスに配置されているかを確認するには、「[自分の Salesforce 組織のインスタンス情報の表示](#)」を参照してください。

関連トピック:

[プラットフォームイベント開発者ガイド:拡張された利用状況総計値](#)

プラットフォームイベントと変更イベントの使用量ベースのエンタイトルメントに対する REST の Limits の応答の変更

追加の大規模プラットフォームイベントと変更イベント用のアドオンを購入していない Salesforce 組織で、REST limits の応答が変更されました。MonthlyPlatformEventsUsageEntitlement 値は、アドオンを購入済みの組織にのみ適用されるため、含まれなくなりました。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[REST API 開発者ガイド:制限](#)

[REST API 開発者ガイド:組織の制限をリストする](#)

ストリーミング API バージョン 23.0 ~ 36.0 の廃止

ストリーミング API バージョン 23.0 ~ 36.0 は Winter '25 で廃止される予定です。これらのバージョンは非推奨であり、サポートは終了しています。永続ストリーミングに対応しているストリーミング API バージョン 37.0 以降を使用することを強くお勧めします。新しいストリーミング API バージョンは、製品の機能強化とバグ修正で維持されます。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[ナレッジ記事: Streaming API Versions 23.0 through 36.0 Retirement \(ストリーミング API バージョン 23.0 ~ 36.0 の廃止\)](#)

イベントバス

Hyperforce でホストされている Salesforce 組織でイベントリレーを作成します。Pub/Sub API とイベントリレーの処理地域を拡張することでメリットを得られます。

このセクションの内容:

[Hyperforce インスタンスでのイベントリレーの作成](#)

Hyperforce でホストされている Salesforce 組織でイベントリレーを作成できるようになりました。イベントリレーを使用すると、プラットフォームイベントと変更データキャプチャイベントを選択して Amazon EventBridge に送信できます。以前は、Hyperforce インスタンスではイベントリレーは使用できませんでした。

[Pub/Sub API のグローバルエンドポイントの処理地域の拡張](#)

グローバルエンドポイントに対する Pub/Sub API 要求 (`api.pubsub.salesforce.com:{port}`) をルーティングおよび処理するための新しい地域が追加されました。Pub/Sub API サービスでは、米国と欧州連合に加えて、新しくインド地域でも要求を処理できるようになりました。新しい地域は、API 要求の遅延の改善に役立ちます。

[イベントリレーの処理地域の拡張](#)

イベントリレーサービスで新しい欧州連合地域のイベントも処理されるようになりました。以前は、このサービスでは米国地域のイベントのみが処理されていました。新しい地域を追加すると、イベント処理の遅延の改善に役立ちます。

Hyperforce インスタンスでのイベントリレーの作成

Hyperforce でホストされている Salesforce 組織でイベントリレーを作成できるようになりました。イベントリレーを使用すると、プラットフォームイベントと変更データキャプチャイベントを選択して Amazon EventBridge に送信できます。以前は、Hyperforce インスタンスではイベントリレーは使用できませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。イベントリレーは、Hyperforce 以外の Public Cloud と Government Cloud では使用できません。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「イベントリレー」と入力し、[イベントリレー] を選択します。[イベントリレー] ページで [新規イベントリレー] をクリックし、イベントリレー作成ウィザードを使用して、要求された情報を提供します。

自分の組織が Hyperforce に配置されているかどうかを確認するには、「[Salesforce インスタンスの場所](#)」の「Hyperforce インスタンス」を参照してください。Salesforce 組織がどのインスタンスに配置されているかを確認するには、「[自分の Salesforce 組織のインスタンス情報の表示](#)」を参照してください。

Pub/Sub API のグローバルエンドポイントの処理地域の拡張

グローバルエンドポイントに対する Pub/Sub API 要求 (`api.pubsub.salesforce.com:{port}`) をルーティングおよび処理するための新しい地域が追加されました。Pub/Sub API サービスでは、米国と欧州連合に加えて、新しくインド地域でも要求を処理できるようになりました。新しい地域は、API 要求の遅延の改善に役立ちます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。Pub/Sub API は、Hyperforce 以外の Public Cloud と Government Cloud では使用できません。

関連トピック:

[Pub/Sub API ドキュメント: AWS Regions \(AWS リージョン\)](#)

イベントリレーの処理地域の拡張

イベントリレーサービスで新しい欧州連合地域のイベントも処理されるようになりました。以前は、このサービスでは米国地域のイベントのみが処理されていました。新しい地域を追加すると、イベント処理の遅延の改善に役立ちます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。イベントリレーは、Hyperforce 以外の Public Cloud と Government Cloud では使用できません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: イベントリレーに関する考慮事項](#)

UTAM

複数のページオブジェクトアーティファクトをインポートし、ブラウザー拡張機能の要素の強調表示をカスタマイズします。Playgroundを使用して、HTMLからUTAMページオブジェクトをすばやく生成します。ジェネレータールールを使用して、HTML または JavaScript ソースファイル用に生成された JSON ページオブジェクトをカスタマイズします。

詳細は、[utam.dev](#) を参照してください。

このセクションの内容:

[UTAM ブラウザー拡張機能の複数のアーティファクトのインポート \(ベータ\)](#)

独自のカスタムページオブジェクトアーティファクトと Salesforce が提供するページオブジェクトアーティファクトをインポートします。以前は、1つのページオブジェクトアーティファクトしかインポートできませんでした。

[UTAM ブラウザー拡張機能の要素の強調表示のカスタマイズ \(ベータ\)](#)

要素の強調表示プロパティ(境界線の色、塗りつぶしの色、境界線のスタイル、境界線の幅、塗りつぶしの不透明度など)をカスタマイズします。

[Playground を使用した HTML からの UTAM ページオブジェクトの生成](#)

Generator Playground は、HTML から UTAM ページオブジェクトを素早く生成するツールです。このジェネレーターは、独自のリポジトリにジェネレーターを設定する代わりに使用します。

[UTAM ジェネレーターの出力のカスタムルールによる上書き](#)

生成されたコンテンツを手動で編集することなく、ページオブジェクトを作成できます。HTML または JavaScript ソースファイルの横にジェネレータールールファイルを追加して、生成される JSON ページオブジェクトをカスタマイズします。コンポーネントレベルのルールを作成して、プロジェクトレベルで定義されたルールを上書きします。

UTAM ブラウザー拡張機能の複数のアーティファクトのインポート (ベータ)

独自のカスタムページオブジェクトアーティファクトと Salesforce が提供するページオブジェクトアーティファクトをインポートします。以前は、1つのページオブジェクトアーティファクトしかインポートできませんでした。

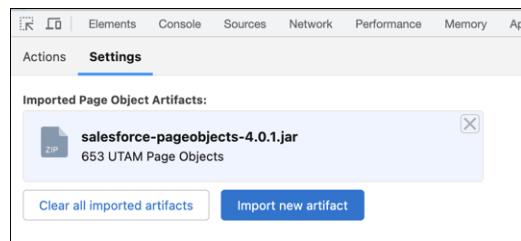
対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

- メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。
ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: [Chrome ウェブストア](#)から UTAM ブラウザー拡張機能をインストールします。

このブラウザー拡張機能によって、Chrome のデベロッパーツールに [UTAM] タブが追加されます。

UTAM パネルの [設定] サブタブには、以前にインポートしたページオブジェクトアーティファクトが表示され、ここに新しいページオブジェクトアーティファクトをインポートします。



関連トピック:

[utam.dev: Browser Extension \(ブラウザー拡張機能\)](#)

UTAM ブラウザー拡張機能の要素の強調表示のカスタマイズ (ベータ)

要素の強調表示プロパティ (境界線の色、塗りつぶしの色、境界線のスタイル、境界線の幅、塗りつぶしの不透明度など) をカスタマイズします。

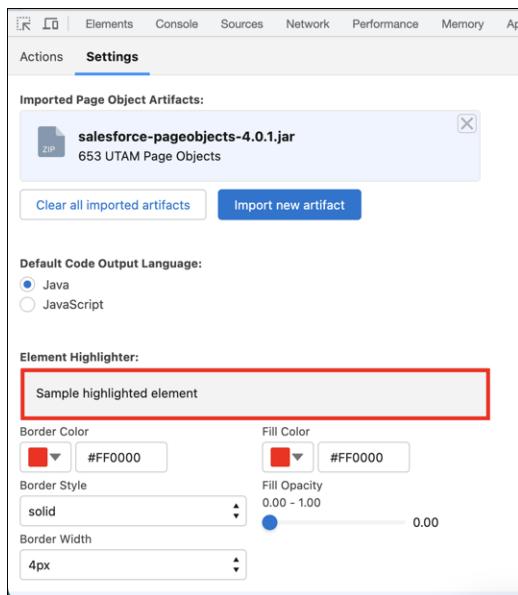
対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

- メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。
ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: [Chrome ウェブストア](#)から UTAM ブラウザー拡張機能をインストールします。

このブラウザー拡張機能によって、Chrome のデベロッパーツールに [UTAM] タブが追加されます。

UTAM パネルの [設定] サブタブでは、[Actions (アクション)] ページツリーでページオブジェクトメソッドを選択したときの要素の強調表示の形式をカスタマイズします。



関連トピック:

[utam.dev: Browser Extension \(ブラウザー拡張機能\)](#)

Playground を使用した HTML からの UTAM ページオブジェクトの生成

Generator Playground は、HTML から UTAM ページオブジェクトを素早く生成するツールです。このジェネレーターは、独自のリポジトリにジェネレーターを設定する代わりに使用します。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: utam.dev で [Generator Playground](#) に移動します。

HTML を [HTML source code (HTML ソースコード)] パネルにコピーし、生成された JSON ページオブジェクトを使用します。[Generator Config (ジェネレーター設定)] パネルでジェネレーター設定オプションを変更することもできます。

UTAM ジェネレーターの出力のカスタムルールによる上書き

生成されたコンテンツを手動で編集することなく、ページオブジェクトを作成できます。HTML または JavaScript ソースファイルの横にジェネレータールールファイルを追加して、生成される JSON ページオブジェクトをカスタマイズします。コンポーネントレベルのルールを作成して、プロジェクトレベルで定義されたルールを上書きします。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

[utam.dev: Generator Override Content \(ジェネレーター上書きコンテンツ\)](#)

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

このセクションの内容:

[Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目](#)

新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UIを容易に作成します。

[Apex: 新規および変更された項目](#)

次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

[ConnectApi \(Connect in Apex\): 新規および変更されたクラスおよびEnum](#)

Connect in Apexを使用して、Salesforceでカスタムエクスペリエンスを作成します。

[API: 新規および変更された項目](#)

APIバージョン59.0では、より多くのデータオブジェクトとメタデータ型にアクセスできます。

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目

新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UIを容易に作成します。

このセクションの内容:

[新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント](#)

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UIを簡単に作成します。

[新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール](#)

モジュールを使用することで、Lightning Web コンポーネントをさらに活用します。

[新規追加および変更された Lightning Web コンポーネントのディレクティブ](#)

ディレクティブを使用してHTMLテンプレートに動的動作を追加します。

[新規追加または変更された Aura コンポーネント](#)

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UIを簡単に作成します。

[新規追加または変更された Aura コンポーネントイベント](#)

Auraコンポーネントイベントはコンポーネント間のコミュニケーションを容易にし、アプリケーションのインタラクションを向上させます。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UIを簡単に作成します。

新しいコンポーネント

次のコンポーネントは新規追加されたもので、APIバージョン59.0以降が必要です。

`lightning-record-picker` (ベータ)

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

このコンポーネントを使用して、Salesforce レコードのリストを検索します。[GraphQL ワイヤーアダプター](#)を使用してレコードを取得し、表示します。

このコンポーネントは、Salesforce Field Service アプリケーションで最適に動作します。

変更された Lightning Web コンポーネント

次のコンポーネントが変更されています。

`lightning-input`

ネイティブ Shadow DOM に備えるために、`lightning-input` コンポーネントの内部構造が変更されました。「[基本コンポーネント lightning-input の内部 DOM 構造の変更](#)」を参照してください。

関連トピック:

[コンポーネントライブラリ](#)

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール

モジュールを使用することで、Lightning Web コンポーネントをさらに活用します。

新しいモジュール

次のモジュールを使用できるようになりました。

`lightning/toast`

トースト通知と、アイコン、表示ラベル、メッセージ、リンクを表示します。「[トースト通知の作成と管理\(正式リリース\)](#)」を参照してください。

`lightning/platformWorkspaceApi` (ベータ)

Lightning コンソールアプリケーションのワークスペースタブとサブタブを制御します。「[ワークスペースタブとサブタブの制御\(ベータ\)](#)」を参照してください。

`lightning/logger`

イベントモニタリングで使用するために、メッセージを Lightning ロガーイベントという新しい EventLogFile イベント種別に記録します。「[カスタムコンポーネントインストルメンテーション API\(ベータ\)を使用したコンポーネントイベントの監視](#)」を参照してください。

変更されたモジュール

これらのモジュールには、新規、変更または廃止されたワイヤーアダプターや JavaScript 関数が含まれます。

`lightning/navigation`

クリックアクションで有効になっているコンポーネントからなど、`[NavigationMixin.Navigate](pageReference, [replace])` を使用してモーダルからページ参照に移動すると、デフォルトでモーダルが自動的に閉じられなくなりました。デフォルトで `replace` プロパティは `false` で、その動作が変更されています。今後はモーダルがスタックされます。つまり、モーダル

は開いたままですが、別のモーダルがオーバーレイしている間は無効になります。指定されたページ参照に移動しても、モーダルは自動的に閉じられません。移動時にモーダルを自動的に閉じるには、`replace` を `true` に設定します。

`lightning/toastContainer` (正式リリース)

LWR サイトで `lightning/toast` を使用して作成されたトーストコンポーネントのリストを管理および配置します。「[トースト通知の作成と管理\(正式リリース\)](#)」を参照してください。

`lightning/uiGraphQLApi` (正式リリース)

GraphQL ワイヤーアダプターを使用して、1回のサーバーコールで特定のレコード、項目、およびオブジェクト情報を取得します。次の機能がサポートされるようになりました。

- 集計クエリ
- 親リレーションまたは子リレーションを持つカスタムオブジェクト
- カスタムオブジェクトを、そのカスタムオブジェクトを参照する Lightning Web コンポーネントと同じパッケージでリリースする
- 名前空間パッケージで定義されたオブジェクトや項目の参照
- 名前空間パッケージのコンポーネントからの GraphQL の使用

現在、GraphQL ワイヤーアダプターでは次の機能はサポートされていません。

- Experience Cloud サイト
- 実行時の GraphQL クエリの動的作成
- `{} ${}` を使用した文字列補間構造
- `@skip` と `@include` の使用などのディレクティブ内の変数
- 変異
- 集計クエリの参照整合性

さらに、上限のあるページ設定を使用する場合、ワイヤーアダプターは特定のページ設定されたコレクションに対して上限が一定であることを期待します。詳細は、「[GraphQL API Developer Guide \(GraphQL API 開発者ガイド\)](#)」を参照してください。

`lightning/uiRecordApi`

このモジュールには、非推奨のワイヤーアダプターと関数が含まれます。この非推奨は Summer '22 で最初に発表され、Winter '23 で再度発表されました。非推奨の API のサポートは終了しました。

- `getRecordUi` (非推奨) — このワイヤーアダプターのサポートは終了しました。ユーザーがレコードを操作できるようにするには、`lightning-record-form`、`lightning-record-edit-form`、および `lightning-record-view-form` 基本コンポーネントを使用することをお勧めします。代替ワイヤーアダプターを使用したレイアウトの取得は現在サポートされていません。代わりに、`getRecord` および `getRecords` ワイヤーアダプターを使用して、特定の項目または省略可能な項目を要求することを考慮してください。参照レコードのオブジェクト情報を読み込むには、`getRecord` を使用し、その後に、プライマリレコードの場合は `getObjectInfo` を続けて、参照項目のすべてのオブジェクト情報の場合は `getObjectInfos` を続けます。
- `getRecordInput` (非推奨) — この関数のサポートは終了しました。代わりに `apiName` および `fields` プロパティを使用してコードでレコードオブジェクトを作成することをお勧めします。

- `refresh` (非推奨) — この関数のサポートは終了しました。代わりに `refreshApex` または `getRecordNotifyChange` を使用することをお勧めします。

関連トピック:

[コンポーネントライブラリ](#)

新規追加および変更された Lightning Web コンポーネントのディレクティブ
ディレクティブを使用して HTML テンプレートに動的動作を追加します。

新しいディレクティブ

次のディレクティブを使用できるようになりました。

`lwc:is`

実行時にインポートされたコンストラクターを `<lwc:component>` 管理対象要素に提供し、コンポーネントが別のコンポーネントを動的にインスタンス化できるようにします。

```
<template>
  <div class="container">
    <lwc:component lwc:is={componentConstructor}></lwc:component>
  </div>
</template>
```

`<lwc:component>` は、指定された動的コンポーネントを表示する DOM 内のプレースホルダーとして機能します。`<lwc:component>` は `lwc:is` ディレクティブと共に使用する必要があります。

Lightning Web セキュリティが組織で有効になっている必要があります。詳細は、「[Lightning Web コンポーネントの動的なインポートとインスタンス化](#)」を参照してください。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド:HTML テンプレートディレクティブ\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

新規追加または変更された Aura コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

変更された Aura コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

`lightning:navigation`

クリックアクションが有効になっているコンポーネントなどで、`navigate(pageReference, replace)` を使用してモーダルからページ参照に移動したとき、デフォルトでそのモーダルが自動的に閉じられなくなりました。デフォルトで `replace` プロパティは `false` で、その動作が変更されています。今後はモーダルがスタックされます。つまり、モーダルは開いたままですが、別のモーダルがオーバーレイしている間は無効になります。特定の URL に移動しても、そのモーダルが自動的に閉じることはありません。

`navigate(pageReference, replace)` を使用して、別のページ参照に移動する前にモーダルを自動的に閉じるには、`replace` を `true` に設定します。

lightning:omniToolkitAPI

`getAgentWorkload` メソッドには次の新しい応答があります。

- `configuredInterruptibleCapacity` — プレゼンス設定でエージェントに設定された中断可能な業務量(現在のユーザーに割り当てられている作業)。
- `currentInterruptibleWorkload` — 現在エージェントに割り当てられている中断可能な作業負荷。

関連トピック:

[コンポーネントライブラリ](#)

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド](#)

[Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド](#)

新規追加または変更された Aura コンポーネントイベント

Auraコンポーネントイベントはコンポーネント間のコミュニケーションを容易にし、アプリケーションのインタラクションを向上させます。

変更されたイベント

次のイベントが変更されています。

force:navigateToURL

クリックアクションが有効になっているコンポーネントなどで、モーダルから URL に移動したとき、デフォルトでそのモーダルが自動的に閉じられなくなりました。デフォルトで `isredirect` 属性は `false` で、その動作が変更されています。今後はモーダルがスタックされます。つまり、モーダルは開いたままですが、別のモーダルがオーバーレイしている間は無効になります。特定の URL に移動しても、そのモーダルが自動的に閉じることはありません。URL に移動したときにモーダルを自動的に閉じるには、`isredirect` を `true` に設定します。

force:navigateToSObject

クリックアクションが有効になっているコンポーネントなどで、モーダルからレコードに移動したとき、デフォルトでそのモーダルが自動的に閉じられなくなりました。デフォルトで `replace` 属性は `false` で、その動作が変更されています。今後はモーダルがスタックされます。つまり、モーダルは開いたままですが、別のモーダルがオーバーレイしている間は無効になります。特定のレコードに移動しても、そのモーダルが自動的に閉じることはなりません。レコードに移動したときにモーダルを自動的に閉じるには、`replace` を `true` に設定します。

lightning:omniChannelWorkloadChanged

このイベントには次の新しい応答があります。

- `configuredInterruptibleCapacity` — エージェントに設定された中断可能な業務量。
- `previousInterruptibleWorkload` — 変更前のエージェントの中断可能な作業負荷。
- `newInterruptibleWorkload` — 変更後のエージェントの中断可能な作業負荷。

Apex: 新規および変更された項目

次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

これらの機能強化についての詳細は、『[Apex 開発者ガイド](#)』と『[Apex リファレンスガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

[Auth 名前空間](#)

Auth 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

[ConnectApi 名前空間](#)

ConnectApi 名前空間 (Connect in Apex) には、新規および変更されたクラス、メソッド、Enum があります。

[System 名前空間](#)

System 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

関連トピック:

[Apex: 新機能](#)

Auth 名前空間

Auth名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

ヘッドレスパスワードレスログインフローが有効になっているかどうかを判断する

`AuthConfiguration` クラスで新しい `getHeadlessPasswordlessLoginEnabled()` メソッドを使用します。

ConnectApi 名前空間

ConnectApi 名前空間 (Connect in Apex) には、新規および変更されたクラス、メソッド、Enum があります。

ConnectApi 名前空間の Apex クラスでは、多くの Connect REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の ConnectApi クラスが使用されます。ConnectApi 名前空間は、*Connect in Apex* と呼ばれます。

新規および変更された ConnectApi クラス、メソッド、Enum については、『[ConnectApi \(Connect in Apex\): 新規および変更されたクラスおよびEnum](#)』を参照してください。

System 名前空間

System名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

新規クラス

重複を検出して1つの非同期キュー可能ジョブのみがキューに追加されるようにする

`QueueableDuplicateSignature` クラスのメソッド `addId()`、`addInteger()`、`addString()` を使用して、キュー可能ジョブの一意の署名を作成します。`AsyncOptions` クラスの `DuplicateSignature` プロパティを使用して、キュー可能ジョブの署名を保存します。

ロケールを区別する比較および並び替えを実行する

新しい `Collator` クラスで `getInstance` メソッドを使用して、ロケール固有の `Collator` オブジェクトを取得します。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

ユーザーがソースレコードの項目を削除するための権限セットを指定する(開発者レビュー)

権限セット ID を指定する `Security.stripInaccessible()` メソッドオーバーロードを使用します。

ユーザー モードデータベース操作の権限セットを使用してカスタムアクセス権を指定する(開発者レビュー)

権限セット ID をパラメーターとして指定する `AccessLevel.withPermissionSetId()` メソッドを使用します。

`Comparator` を使用してリストを並び替える

`Comparator` インスタンスをパラメーターとして指定する `List.sort()` メソッドオーバーロードを使用します。

新規例外

重複するキュー可能な署名でジョブをキューに追加しようとしたときに発生する例外

`System.enqueueJob()` メソッドの新しい `System.DuplicateMessageException` 例外が発生します。

新規インターフェース

`Comparator` を使用してさまざまな並び替え順を実装する

新しい `System.Comparator` インターフェースの `compare()` メソッドを実装し、`Comparator` を `List.sort()` のパラメーターとして指定します。

ConnectApi (Connect in Apex): 新規および変更されたクラスおよびEnum

Connect in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。

ConnectApi 名前空間の Apex クラスでは、多くの Connect REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の ConnectApi クラスが使用されます。ConnectApi 名前空間は、*Connect in Apex* と呼ばれます。

このセクションの内容:

[新規 Connect in Apex クラス](#)

次のクラスが新規追加されました。

[変更された Connect in Apex 入力クラス](#)

次の入力クラスが変更されました。

変更された Connect in Apex 出力クラス

次の出力クラスが変更されました。

変更された Connect in Apex Enum

次のEnum が変更されました。

関連トピック:

[Connect REST API](#)

[Apex リファレンスガイド: ConnectApi 名前空間](#)

[Connect REST API 開発者ガイド](#)

新規 Connect in Apex クラス

次のクラスが新規追加されました。

コマース

この新しいメソッドは、`ConnectApi.CommerceCart` クラスに含まれます。

カートに関連付けられたクーポンまたはプロモーションを取得する

- `getCartItems(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId, productFields, pageParam, pageSize, sortParam, currencyIsoCode, includePromotions, includeCoupons)`

Data Cloud

次の新しいメソッドは、`ConnectApi.CdpSegment` クラスに含まれます。

データスペースのセグメントのページ設定されたリストを取得する

- `getSegmentsPaginated(batchSize, offset, orderBy, dataspace)`。API version 58.0 以降で使用可能。

データスペースにセグメントを作成する

- `createSegment(input, dataspace)`。API version 58.0 以降で使用可能。

指定ログイン情報

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.NamedCredentials` クラスに含まれます。

認証パラメーターを持つログイン情報を削除する

- `deleteCredential(externalCredential, principalName, principalType, authenticationParameters)`

カスタムログイン情報を更新する

- `patchCredential(requestBody)`

指定ログイン情報を取得する

- `getNamedCredential(developerName)`

組織の指定ログイン情報のリストを取得する

- `getNamedCredentials()`

新しい出力クラス: `ConnectApi.NamedCredentialList`

変更された Connect in Apex 入力クラス

次の入力クラスが変更されました。

コマース

`ConnectApi.CartInput`

この入力クラスには、次の新しいプロパティがあります。

- `typeAsString` — 文字列として提供されるカートの種類。

`ConnectApi.CartItemInput`

この入力クラスには、次の新しいプロパティがあります。

- `cartDeliveryGroupId` — カートの配送グループの ID。

`ConnectApi.CommerceAddressInput`

この入力クラスから次のプロパティが削除されました。

- `countryCode`
- `regionCode`

変更された Connect in Apex 出力クラス

次の出力クラスが変更されました。

コマース

`ConnectApi.CartItemCollection`

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `cartCoupons` — カートに適用されたクーポンのコレクション。
- `cartPromotions` — カートに適用されたプロモーションのコレクション。

`ConnectApi.CartSummary`

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `asyncOperationStatus` — ストアで非同期処理が有効化されている場合の、カートの非同期処理状況。
- `totalProductListAmount` — カート内の商品のリスト金額合計。

`ConnectApi.CommerceAddress`

この出力クラスから次のプロパティが削除されました。

- `countryCode`
- `regionCode`

`ConnectApi.CommerceProductSummary`

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `productSellingModelInformation` — 商品販売モデルに関する情報。

ConnectApi.ProductAttributesToProductEntry

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `urlSlug` — 属性を選択するためのバリエーション URL スラッグ。

ConnectApi.ProductCategoryData

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `urlSlug` — 商品カテゴリの SEO 対応 URL スラッグ。

ConnectApi.ProductCategoryDetail

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `urlSlug` — 商品カテゴリの SEO 対応 URL スラッグ。

ConnectApi.ProductDetail

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `urlSlug` — 商品の SEO 対応 URL スラッグ。

ConnectApi.ProductSellingModel

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `subscriptionTermRule` — サブスクリプション期間のルール。

ConnectApi.ProductSummary

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `productSellingModelInformation` — 商品販売モデルに関する情報。

Experience Cloud サイト

ConnectApi.NavigationMenuItem

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `pageReference` — ナビゲーションメニュー項目のページ参照。ページ参照は、ストアフロントカテゴリデータソースに対してのみ返されます。

指定ログイン情報

ConnectApi.ExternalCredential

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `createdByNamespace` — 外部ログイン情報を作成したパッケージの名前空間。

ConnectApi.NamedCredential

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `calloutStatus` — 指定ログイン情報がコールアウトで有効であるかどうかを示します。
- `createdByNamespace` — 指定ログイン情報を作成したパッケージの名前空間。

変更された Connect in Apex Enum

次の Enum が変更されました。

これらの Enum についての詳細は、『Apex リファレンスガイド』の「ConnectApi の列挙」を参照してください。

ConnectApi.CartType

このEnumには次の新しい値があります。

- `ReadOnly` — 顧客がチェックアウトに使用できる `Template` カートのコピー。
- `Template` — 内部ユーザーによって作成されたカート。

ConnectApi.CredentialAuthenticationProtocol

このEnumには次の新しい値があります。

- `Jwt` — JSON Web トークン

ConnectApi.CredentialAuthenticationProtocolVariant

このEnumには次の新しい値があります。

- `ClientCredentialsClientSecret` — OAuth 2.0 クライアントログイン情報のクライアントシークレット。
- `ClientCredentialsJwtAssertion` — OAuth 2.0 クライアントログイン情報の JSON Web トークンアサーション。
- `NoAuthentication` — 認証なし。

ConnectApi.ManagedContentChannelType

このEnumには次の新しい値があります。

- `UserPermission` — システム権限で支持されたチャネル。すべての公開済みコンテンツは、この権限を持つユーザーのみが使用できます。

ConnectApi.OrchestrationStepType

このEnumには次の新しい値があります。

- `ManagedContentVariantAutoPublishBackgroundStep`
- `ManagedContentVariantAutoUnpublishBackgroundStep`

API: 新規および変更された項目

API バージョン 59.0 では、より多くのデータオブジェクトとメタデータ型にアクセスできます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

[Bulk API 2.0](#)

Bulk API 2.0 のクエリ作成、処理、パフォーマンスが向上したことにより、開発環境が改善されました。

[Connect REST API](#)

Connect REST API を使用して、モバイルアプリケーション、インターネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce と統合します。

[CRM Analytics REST API](#)

CRM Analytics REST API を使用して、データモデルオブジェクト (DMO) をデータセットに変換したり、テーブル ウィジェットのページネーションを有効にしたり、グリッドレイアウト ウィジェットのパラメーターを上書きしたりします。

呼び出し可能アクション

呼び出し可能アクションとは、API を使用して Salesforce で実行できるアクションのことです。

メタデータ API

次の新規および変更されたメタデータ型を使用してより多くのメタデータにアクセスできます。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API を使用して、Lightning ダッシュボードの所有権を変更します。

Subscription Management API

Subscription Management API を使用して、定期的なビジネスのセルフサービスソリューションを作成します。

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

これらの新規および変更された Tooling API オブジェクトを使用してより多くのメタデータにアクセスします。

ユーザーインターフェース API

より多くの UI API リソースへの幕等レコード書き込みによりレコードの重複を防止したり、より多くのオブジェクトを操作したりできます。

GraphQL API

GraphQL 変異を使用してレコードを変更します。並び替えを伴う集計関数を使用します。名前空間がサポートされるクエリを送信します。ToDo や行動などを操作します。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

コマース

配送に選択された配送グループを取得する

既存の CartDeliveryGroup オブジェクトで新しい SelectedDeliveryMethodId 項目を使用します。

配送の配送情報がデフォルトとして設定されているかどうかを確認する

既存の CartDeliveryGroup オブジェクトで新しい isDefault 項目を使用します。

配送グループ方法に関する詳細情報を取得する

既存の CartDeliveryGroupMethod オブジェクトで新しい Carrier、ClassOfService、IsActive、ProductId、ReferenceNumber 項目を使用します。

配送に関連付けられた会社名を取得する

既存の CartDeliveryGroup オブジェクトで新しい CompanyName 項目を使用します。

配信に関連付けられた電話番号を取得する

既存の CartDeliveryGroup オブジェクトで新しい ShipToPhoneNumber 項目を使用します。

ゲスト顧客の配送に関連付けられている会社名を取得する

既存の WebCart オブジェクトで新しい GuestCompanyName 項目を使用します。

ストアの所有者 ID を取得する

既存の WebStore オブジェクトで OwnerId 項目を使用します。このオブジェクトは、API バージョン 53.0 で導入され、『Salesforce プラットフォームのオブジェクトリファレンス』に追加されました。

パフォーマンスの向上のためにカートへの追加要求を非同期で処理する

既存の WebStore オブジェクトで新しい OptionsCartAsyncProcessingEnabled 項目を使用します。

カートおよび注文オブジェクトのカスタム項目の対応付けが有効になっているかどうかを確認する

既存の WebStore オブジェクトで OptionsCartToOrderAutoCustomFieldMapping 項目を使用します。このオブジェクトは、API バージョン 57.0 で導入され、『Salesforce プラットフォームのオブジェクトリファレンス』に追加されました。

商品 ID が同じ複数の品目をカートに追加できるかどうかを表示する。

既存の WebStore オブジェクトで新しい OptionsDuplicateCartItemEnabled 項目を使用します。

カート計算拡張機能が有効になっているかどうかを確認する

既存の WebStore オブジェクトで新しい OptionsCartCalculateEnabled 項目を使用します。

ストアの注文ライフサイクル種別を表示する

既存の WebStore オブジェクトで OrderLifecycleType 項目を使用します。このオブジェクトは、API バージョン 55.0 で導入され、『Salesforce プラットフォームのオブジェクトリファレンス』に追加されました。

イベントモニタリング

公開グループまたはキューメンバーシップの変更を監視する

新しい [グループメンバーシップ] イベント種別を使用します。

「アクセス権がありません」エラーをトラブルシューティングする

新しい [アクセス権がありません] イベント種別を使用します。

UI または API を介して Salesforce サービスを使用しているユーザーを識別する

Knowledge Article View イベント種別で新しい USER_ID_DERIVED 項目を使用します。

ナレッジ記事の生成に使用する大規模言語モデル (LLM) を特定する

Knowledge Article View イベント種別で新しい LARGE_LANGUAGE_MODEL 項目を使用します。

Lightning コンポーネントエラーをトラブルシューティングする

Lightning エラーイベント種別で新しい MESSAGE と STACK_TRACE 項目を使用します。

Experience Cloud

LWR コマースストアの商品ページとカテゴリページで URL スラッグをデフォルトで使用する

Network オブジェクトで新しい OptionsExpFriendlyUrlsAsDefault 項目を使用します。

ヘッドレス登録のメールテンプレートを指定する

既存の Network オブジェクトで新しい HeadlessRegistrationTemplateId 項目を使用します。

Field Service

サービステリトリーのサービス予定の作業業務量使用状況に追加する平均移動時間を指定する

ServiceTerritory オブジェクトで新しい AvgTravelTime 項目を使用します。

作業業務量対応可能状況の計算に、サービステリトリーのプライマリメンバーのみを含めるか、プライマリメンバーとセカンダリメンバーの両方を含めるかを指定する

FieldServiceOrgSettings オブジェクトで新しい DoesAvlCalcInclPrimOnly 項目を使用します。

作業業務量対応可能状況の計算に残業を含めるかどうかを指定する

FieldServiceOrgSettings オブジェクトで新しい DoesAvlCalcInclOvertime 項目を使用します。

サービスステリトリーの移動情報にアクセスする

ServiceTerritory オブジェクトで新しい TravelModeId 項目を使用します。

デスクトップとモバイルが地理位置情報と地図データを Google と Apple に送信することを許可する

FieldServiceSettings オブジェクトで新しい canPopulateGoogleAddress 項目を使用します。

サービスステリトリーの作業業務量を設定して追跡する

新しい WorkCapacityLimit、WorkCapacityAvailability、および WorkCapacityUsage オブジェクトを使用します。

Salesforce がクラッシュレポートを Microsoft App Center に送信することを許可する

FieldServiceSettings オブジェクトで新しい canSendAppCenterCrashReports 項目を使用します。

サードパーティがモバイルアナリティクスを保存することを許可する

FieldServiceSettings オブジェクトで新しい canStoreMobileAnalytics 項目を使用します。

サービス予定が追加、更新、削除された場合に登録者に通知します。

新しい ServiceAppointmentEvent オブジェクトを使用します。

モバイル

オフラインの派遣作業員の設定されたカスタムメタデータ型を表示する

カスタムメタデータ型が参照のみ BriefcaseRule オブジェクトの既存の TargetEntity 項目の値としてサポートされるようになりました。

メディア

ルックアップテーブルを使用してメディアタイプ間で共有される絞り込み可能な項目にアクセスする

新しい AdAvailabilityDimensions オブジェクトを使用します。

他の集計テーブルにデータを入力する一括処理ジョブの詳細を保存する

新しい AdAvailabilityJob オブジェクトを使用します。

拡張設定、検索条件、凡例の色を保存してカレンダービューを設定する

新しい AdAvailabilityViewConfig オブジェクトを使用します。

デジタルメディアタイプのカレンダーに使用可能なユニット、予約済みユニット、予測済みユニットを表示する

新しい AdDigitalAvailability オブジェクトを使用します。

複数期間の線形メディア評価指標をテーブルに表示する

新しい AdLinearAvailability オブジェクトを使用します。

広告サーバーで購入者の RFP および提案とのインタラクションを管理する

新しい AdBuyServerAccount オブジェクトを使用します。

商談内にメディア広告販売キャンペーンの属性を保存する

新しい AdOpportunity オブジェクトを使用します。

広告注文品目と広告クリエイティブサイズをリンクし、実行頻度と付随するデータを取得する

新しい AdOrderItemCreativeSizeType オブジェクトを使用します。

広告見積品目と広告クリエイティブサイズをリンクし、付随する詳細と実行回数を取得する

新しい AdQuoteLineCreativeSizeType オブジェクトを使用します。

広告サーバーアカウントの名前とアカウント種別にアクセスする

AdServerAccount オブジェクトで新しい Name および Type 項目を使用します。

収益

価格調整が上書きされたときに追跡する

価格調整を更新して品目のリスト価格を上書きするときに PriceAdjustmentTier オブジェクトで TierType の新しい値 AdjustmentOverride を使用します。

上書きの価格調整グループ種別を取得する

最上位の価格調整を更新するときに PriceAdjustmentGroup オブジェクトで AdjustmentType の新しい値 OverrideAmount を使用します。

上書きの価格調整グループ形態種別を取得する

最上位の価格調整を更新するときに PriceAdjustmentGroupShape オブジェクトで AdjustmentType の新しい値 OverrideAmount を使用します。

上書きの価格調整項目種別を取得する

品目レベルの価格調整を更新するときに PriceAdjustmentItem オブジェクトで AdjustmentType の新しい値 OverrideAmount を使用します。

上書きの価格調整項目形態種別を取得する

品目レベルの価格調整を更新するときに PriceAdjustmentItemShape オブジェクトで AdjustmentType の新しい値 OverrideAmount を使用します。

分類コンポーネントの販売取引品目リレーションを取得する

SalesTrxnItemRelationship オブジェクトで AssociatedSalesTrxnItemRole の新しい値 ClassificationComponent を使用して、品目リレーションを定義します。

分類コンポーネントの販売取引品目リレーション形態を取得する

SalesTrxnItemRelationshipShape オブジェクトで AssociatedSalesTrxnItemShapeRole の新しい値 ClassificationComponent を使用して、品目リレーションを定義します。

割引の価格調整スケジュール種別を取得する

PriceAdjustmentSchedule オブジェクトで ScheduleType の新しい値 Attribute、Bundle、または Custom を使用します。

セールス

商談が成立するかどうかについての売上予測マネージャーの判断を取得する

新しい ForecastingSrcRecJudgment オブジェクトを使用します。

商談レコードの商談チームメンバー、商品分割、商談分割の削除を追跡する

新しい OpportunityRelatedDeleteLog オブジェクトを使用します。

OpportunitySplit、OpportunityLineItemSplit、OpportunityTeamMember レコードの履歴データを保存する

新しい OpportunitySplitHistory、OpportunityLineItemSplitHistory、OpportunityTeamMemberHistory 関連オブジェクトを使用します。

リードインテリジェンスビューと取引先責任者インテリジェンスビューで検索する時間枠を指定する
PipelineInspectionListView オブジェクトの既存の DateLiteralType 項目で、サポート対象の新しい値である LAST_MONTH を使用します。

リードインテリジェンスビューと取引先責任者インテリジェンスビューに表示するリストビューを指定する
PipelineInspectionListView オブジェクトの既存の ViewType 項目で、サポート対象の新しい値である MY_CONTACTS、MY_IMPORTANT_CONTACTS、MY_IMPORTANT_LEADS、MY_LEADS を使用します。

イネーブルメントプログラム種別を指定する
既存の EnablementProgram オブジェクトで新しい Type 項目を使用します。

営業担当がイネーブルメントプログラムのフィードバック要求課題を取得して完了できるようにする
新しい LearningItemSubmission および LearningPractice オブジェクトを使用します。

Salesforce フロー

フローをトリガーするフォームのコンテンツキー値を表示する
FlowStart オブジェクトで新しい form 項目を使用します。

フロー要素の実行でエラーが発生した場合にエラーコードとエラー ID を表示する
FlowRecord オブジェクトで新しい ErrorCode および ErrorDetails 項目を使用します。

取引先責任者、リード、個人取引先、従業員を検索し、インタラクションをサポートするためにリンクする画面フローを表示する
既存の FlowVersionView メタデータオブジェクトの既存の ProcessType 項目で新しい IndividualObjectLinkingFlow 列挙値を使用します。

Salesforce Payments

支払リンクに関連するカードを表示し、リンクの所有者を特定して、リンクが再利用可能かどうかを定義し、[今すぐ支払う] ページをカスタマイズする。

PaymentLink オブジェクトで新しい CartID、OwnerId、Tax Amount、Title、Type、および UsageType 項目を使用します。

Salesforce Scheduler

アクション可能リストメンバーを予定招待に関連付け、顧客が予定招待を使用して作成する予定を追跡する
新しい ActionableListMbrInvitation、ActionableListMbrInvitationFeed、ActionableListMbrInvitationHistory オブジェクトを使用します。

サービスリソースが待機リスト参加者の予定要求を受け入れた日時を取得する
WaitlistParticipant オブジェクトで新しい AcceptanceTime 項目を使用します。

セキュリティ、ID、プライバシー

サポート対象認証プロバイダーの OAuth 2.0 Proof Key for Code Exchange (PKCE) 拡張を自動的に有効にする
既存の AuthProvider オブジェクトで新しい OptionsIsPkceEnabled 項目を使用します。

コミュニケーション登録の追加の同意情報を保存する

既存の CommSubscriptionConsent オブジェクトで新しい DataUsePurposeId、EngagementChannelTypeId、PartyId 項目を使用します。

ユーザーのカメラやマイクへのアクセスへのアクセス権を信頼済み URL に付与する

既存の CspTrustedSite オブジェクトで新しい CanAccessCamera 項目および CanAccessMicrophone 項目を使用します。

ヘッドレスパスワードレスログインフローの有効化、アクセス、セキュリティを設定する

既存の NetworkAuthApiSettings オブジェクトで新しい IsPwdlessLoginAllowed、
IsRecaptchaRequiredPwdlessLogin、DoesPwdlessLoginRequireAuth 項目を使用します。

プライバシーセンターで実行されるポリシージョブの状況を監視する

新しい PrivacyJobSession オブジェクトを使用します。

プライバシーセンターで実行されるポリシージョブで処理される各オブジェクトの状況を監視する

新しい PrivacyObjectSession オブジェクトを使用します。

カスタム Lightning コンポーネントのイベントの監視

新しい Lightning ロガーイベント種別を使用します。

プライバシーセンターで顧客の忘れられる権利要求を追跡する

新しい PrivacyRTBFRequest オブジェクトを使用します。

プライバシーセンターで実行されるポリシージョブが失敗した場合のエラーメッセージを表示する

新しい PrivacySessionRecordFailure オブジェクトを使用します。

重要なレコードをプライバシーセンターポリシーで処理されないようにマークする

新しい PrivacyHold および PrivacyHoldReasons オブジェクトを使用します。

セキュリティセンター内にライセンス利用状況情報を保存する

新しい TenantSecurityLicense オブジェクトを使用します。

ログイン IP 範囲に関連する変更の詳細をセキュリティセンターに保存する。

新しい TenantSecurityLoginIpRangeTrend オブジェクトを使用します。

動作の変更: ログインページに表示するように設定された認証プロバイダーに AuthConfigId および AuthProviderId 値を追加できるようになりました。

AuthConfigProviders オブジェクトの AuthConfigId および AuthProviderId 項目で Create プロパティがサポートされるようになりました。この変更は、API バージョン 58.0 で導入され、『Salesforce プラットフォームのオブジェクトリファレンス』に追加されました。

外部クライアントアプリケーションへのユーザーのアクセス試行を追跡する

IdentityVerificationEvent および VerificationHistory オブジェクトで既存の Activity 項目の新しい ExternalClientApp 値を使用します。

サービス

作業を中断可能として設定し、エージェントの作業業務量を設定する

既存の AgentWork および PendingServiceRouting オブジェクトで新しい IsInterruptible 項目を使用します。

UserServicePresence オブジェクトで新しい ConfiguredInterruptCapacity 項目を使用します。

エージェントが作業を一時停止できるようにする

既存の QueueRoutingConfig オブジェクトで新しい PausedCapacityPercentage 項目および PausedCapacityWeight 項目を使用します。

オムニチャネルの作業通知音をカスタマイズする

既存の `PresenceUserConfig` および `ServiceChannel` オブジェクトで新しい `CustomSoundId` 項目および `SoundLength` 項目を使用します。

所有者および状況の変更をケースに表示する

新しい `CaseHistory2` オブジェクトを使用して、ケース履歴レポートのケースに変更を表示します。

Lightning Web Runtime (LWR) セルフサービスサイトにデータカテゴリを追加する

`NewtworkDataCateogry` オブジェクトで新しい `DataCategoryGroupName`、`DataCategoryName`、および `NetworkId` 項目を使用します。

ブロードキャスト通信の問題を特定し、簡単にトラブルシューティングする

既存の `BroadcastCommAudience` オブジェクトで新しい `BroadcastFailureReason` 項目を使用します。

ブロードキャスト Slack メッセージがいつ送信されたか確認する

既存の `BroadcastCommAudience` オブジェクトで新しい `MessageTimeStamp` 項目を使用します。

変更要求に関連する、または変更要求の影響を受ける納入商品を追跡する

新しい `ChangeRequestRelatedItem` オブジェクトを使用します。

問題に関連する、または問題の影響を受ける納入商品または商品を追跡する

新しい `ProblemRelatedItem` オブジェクトを使用します。

インシデントに関連する、またはインシデントの影響を受ける納入商品または商品を追跡する

新しい `IncidentRelatedItem` オブジェクトを使用します。`IncidentRelatedItem` ページレイアウトの `NewIRI` ボタンを使用して、納入商品または商品をインシデントにリンクします。以前は、このボタンの API 参照名が `New` でした。

相互に関連する問題およびインシデントを追跡する

新しい `ProblemIncident` オブジェクトを使用します。

チャット設定ノードのユーザーをメッセージング設定に誘導するポップアップを無効にする

`User` オブジェクトで新しい `UserPreferencesLiveAgentMiawSetupDeflection` 項目を使用します。

Bulk API 2.0

Bulk API 2.0 のクエリ作成、処理、パフォーマンスが向上したことにより、開発環境が改善されました。

Bulk API 2.0 での何千もの PK Chunking 対応オブジェクトの使用

何千もの標準オブジェクトがカバーされるように拡張され、クエリパフォーマンスが向上しています。Bulk API 2.0 で `PKChunking` を使用して 4,800 個を超えるオブジェクトを最適化できるようになりました。以前は Bulk API 2.0 での `PK Chunking` のサポートは Bulk API の少数のオブジェクトに限られていました。この変更は Bulk API には影響しません。

Bulk API 2.0 クエリ処理の向上

ジョブ処理の成功を増やすため、Bulk API 2.0 では失敗したバッチが小さなバッチとチャンクサイズに分割されます。以前は、Bulk API 2.0 では固定チャンクサイズが使用されていました。バッチが処理できない場合には、再試行されて最終的には失敗とマークされていました。

Bulk API 2.0 の `SELECT` 句での文字数制限の排除

以前は、Bulk API 2.0 では SOQL の `SELECT` 句に 32,000 文字の制限が適用されていました。この制限が排除されました。

Connect REST API

Connect REST API を使用して、モバイルアプリケーション、インターネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce と統合します。

このセクションの内容:

[新規および変更された Connect REST API リソース](#)

次のリソースが新規追加または変更されました。

[変更された Connect REST API リクエストボディ](#)

変更されたリクエストボディを次に示します。

[変更された Connect REST API レスポンスボディ](#)

変更されたレスポンスボディを次に示します。

関連トピック:

[ConnectApi \(Connect in Apex\): 新規および変更されたクラスおよび Enum](#)

[Connect REST API 開発者ガイド](#)

[Apex リファレンスガイド: ConnectApi 名前空間](#)

新規および変更された Connect REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

コマース

Commerce Web ストアの税金を計算する

既存の `/commerce/webstores/webstoreId/taxes/actions/calculate-taxes` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Calculate Taxes Input

.csv ファイルを使用してカテゴリデータをインポートする

新しい `/commerce/management/import/category/jobs` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Category Import Input

新しいレスポンスボディ: Category Import

カテゴリインポートジョブの状況を取得する

新しい `/commerce/management/import/category/jobs/jobId` リソースに対して GET 要求を実行します。

カテゴリインポートジョブをキャンセルする

新しい `/commerce/management/import/category/jobs/jobId` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Category Import Abort Input

Web ストアのすべての Boost および Bury ルールを取得する

新しい `/commerce/management/webstores/webstoreId/search/boost-bury-rules` リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Boost and Bury Rules Collection

検索結果の Boost および Bury ルールを作成する

新しい `/commerce/management/webstores/webstoreId/search/boost-bury-rules` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Boost and Bury Rule Input

新しいレスポンスボディ: Boost and Bury Rule

Boost および Bury ルールの情報を取得する

新しい `/commerce/management/webstores/webstoreId/search/boost-bury-rules/ruleId` リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Boost and Bury Rule

Boost および Bury ルールを削除する

新しい `/commerce/management/webstores/webstoreId/search/boost-bury-rules/ruleId` リソースに対して DELETE 要求を実行します。

カートに関連付けられたクーポンまたはプロモーションを取得する

既存の `/commerce/webstores/webstoreId/carts/cartStateOrId/cart-items` リソースに対して GET 要求を実行します。

新しい要求パラメーター: `includeCoupons` および `includePromotions`

組織で使用可能なコマース拡張機能のコレクションを取得する

新しい `/commerce/extension/extensions` リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Commerce Extension Collection

コマース拡張機能プロバイダーのコレクションを取得する

新しい `/commerce/extension/providers` リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Commerce Extension Provider Collection

コマース拡張機能プロバイダーを登録する

新しい `/commerce/extension/providers` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Commerce Extension Provider Input

新しいレスポンスボディ: Commerce Extension Provider

コマース拡張機能プロバイダーを取得する

新しい `/commerce/extension/providers/providerId` リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Commerce Extension Provider

コマース拡張機能プロバイダーを削除する

新しい `/commerce/extension/providers/providerId` リソースに対して DELETE 要求を実行します。

コマース拡張機能プロバイダーを変更する

新しい `/commerce/extension/providers/providerId` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Commerce Extension Provider Input

新しいレスポンスボディ:Commerce Extension Provider

コマース拡張機能対応付けを取得する

新しい /commerce/extension/mappings/*mappingId* リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスponsボディ:Commerce Extension Mapping

コマース拡張機能対応付けを削除する

新しい /commerce/extension/mappings/*mappingId* リソースに対して DELETE 要求を実行します。

コマース拡張機能対応付けを変更する

新しい /commerce/extension/mappings/*mappingId* リソースに対して PUT 要求を実行します。

新しいリクエストボディ:Commerce Extension Provider Mapping Input

新しいレスポンスボディ:Commerce Extension Mapping

Data Cloud

データスペースのセグメントのリストを取得する

既存の /ssot/segments リソースに対して GET 要求を実行します。

新しい要求パラメーター: dataspace。 API version 58.0 以降で使用可能。

データスペースにセグメントを作成する

既存の /ssot/segments リソースに対して POST 要求を実行します。

新しい要求パラメーター: dataspace。 API version 58.0 以降で使用可能。

指定ログイン情報

カスタムログイン情報を更新する

既存の /named-credentials/named-credential リソースに対して PATCH 要求を実行します。

認証パラメーターを持つログイン情報を削除する

既存の /named-credentials/named-credential リソースに対して DELETE 要求を実行します。

新しい省略可能な要求パラメーター: authenticationParameters

ネットワークデータカテゴリ

Experience Cloud サイトのネットワークデータカテゴリツリーを取得する

新しい /connect/communities/*communityId*/data-category/network-data-category リソースに
に対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ:Category Network Tree

Experience Cloud サイトのネットワークデータカテゴリツリーを更新する

新しい /connect/communities/*communityId*/data-category/network-data-category リソースに
に対して PUT 要求を実行します。

新しいリクエストボディ:Data Category Group Collection Input

Experience Cloud サイトでネットワークデータカテゴリの記事を取得する**新しい**

/connect/communities/**communityId**/network-data-category/**networkDataCategoryId**/knowledge-article
リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Lightning Knowledge Article Version Collection**Experience Cloud サイトのネットワークデータカテゴリのカタログ項目を取得する****新しい**

/connect/communities/**communityId**/network-data-category/**networkDataCategoryId**/catalog-item
リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Service Catalog Item Collection**組織のネットワークデータカテゴリのカタログ項目を取得する**

新しい /connect/network-data-category/**networkDataCategoryId**/catalog-item リソースに対
して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Service Catalog Item Collection**有効なデータカテゴリグループとサブカテゴリを取得する**

新しい /connect/data-category/category-group リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Data Category Group Collection**OAuth 利用状況****アプリケーションの OAuth 利用状況を取得する**

新しい /apps/oauth/usage リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: App OAuth Usage Collection**アプリケーションの OAuth ユーザーを取得する**

新しい /apps/oauth/usage/**appIdentifier**/users リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: App OAuth Usage User Collection**更新トークンを削除する**

新しい /apps/oauth/usage/tokens/**tokenIdIdentifier** リソースに対して DELETE 要求を実行します。

ユーザーとアプリケーションの更新トークンを取得する

新しい /apps/oauth/usage/**appIdentifier**/**userIdIdentifier**/tokens リソースに対して GET 要求を
実行します。

新しいレスポンスボディ: App OAuth Usage Token Collection**ユーザーとアプリケーションの更新トークンを削除する**

新しい /apps/oauth/usage/**appIdentifier**/**userIdIdentifier**/tokens リソースに対して DELETE 要求
を実行します。

アプリケーションの更新トークンを削除する

新しい /apps/oauth/usage/**appIdentifier**/tokens リソースに対して DELETE 要求を実行します。

Salesforce CMS

CMS コンテンツの増分インデックス

既存の `/connect/cms/channels/channelId/search/indexes` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストパラメーター: `fields`

Salesforce Payments

すべての保存済みの支払方法を取得する

新しい `/payments/merchant-accounts/merchantAccountId/saved-payment-methods` リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Saved Payment Method Collection

後で再利用するために保存済みの支払方法を作成する。

新しい `/payments/merchant-accounts/merchantAccountId/saved-payment-methods` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Saved Payment Method Input

指定された業者アカウントに関連付けられた保存済みの支払方法を更新する。

新しい

`/payments/merchant-accounts/merchantAccountId/saved-payment-methods/savedPaymentMethodId` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Saved Payment Method

指定された業者アカウントに関連付けられた保存済みの支払方法を削除する。

新しい

`/payments/merchant-accounts/merchantAccountId/saved-payment-methods/savedPaymentMethodId` リソースに対して DELETE 要求を実行します。

Salesforce Scheduler

待機リストの詳細を参加者のリストと共に取得する

新しい `/connect/scheduling/waitlists` リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Waitlist Output

予約なしの予定の待機リストに参加者をチェックインする

新しい `/connect/scheduling/waitlist-checkin` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Waitlist Check In Input

新しいレスポンスボディ: Waitlist Check In

変更された Connect REST API リクエストボディ

変更されたリクエストボディを次に示します。

コマース

Cart Item Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `typeAsString` — 文字列として提供されるカートの種類。

カート品目

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `cartDeliveryGroupId` — カートの配送グループの ID。

Commerce Address Input

このリクエストボディから次のプロパティが削除されました。

- `countryCode`
- `regionCode`

変更された Connect REST API レスポンスボディ

変更されたレスポンスボディを次に示します。

コマース

Address

このレスポンスボディから次のプロパティが削除されました。

- `countryCode`
- `regionCode`

Cart Item Collection

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `cartCoupons` — カートに関連付けられたクーポンのコレクション。
- `cartPromotions` — カートに関連付けられたプロモーションのコレクション。

Cart Summary

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `asyncOperationStatus` — ストアで非同期処理が有効化されている場合に、カートの非同期処理状況を示します。
- `totalProductListAmount` — カート内の商品のリスト金額合計。

Product Attributes to Product Entry

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `urlSlug` — 属性を選択するためのバリエーション URL スラッグ。

Product Category

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `urlSlug` — 商品カテゴリの SEO 対応 URL スラッグ。

Product Category Detail

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `urlSlug` — 商品カテゴリの SEO 対応 URL スラッグ。

Product Detail

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `urlSlug` — 商品の SEO 対応 URL スラッグ。

商品販売モデル

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `subscriptionTermRule` — サブスクリプション期間のルール。

Product Summary

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `productSellingModelInformation` — 商品販売モデルに関する情報。

Experience Cloud サイト

Navigation Menu Item

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `pageReference` — ナビゲーションメニュー項目のページ参照。ページ参照は、ストアフロントカテゴリデータソースに対してのみ返されます。

指定ログイン情報

External Credential

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `createdByNamespace` — 外部ログイン情報を作成したパッケージの名前空間。

Named Credential

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `calloutStatus` — 指定ログイン情報がコールアウトで有効であるかどうかを示します。
- `createdByNamespace` — 指定ログイン情報を作成したパッケージの名前空間。

CRM Analytics REST API

CRM Analytics REST API を使用して、データモデルオブジェクト (DMO) をデータセットに変換したり、テーブルウィジェットのページネーションを有効にしたり、グリッドレイアウトウィジェットのパラメーターを上書きしたりします。

このセクションの内容:

[新規および変更された CRM Analytics REST API リソース](#)

次のリソースが新規追加または変更されました。

[変更された CRM Analytics REST API リクエストボディ](#)

変更されたリクエストボディを次に示します。

[変更された CRM Analytics REST API レスポンスボディ](#)

変更されたレスポンスボディを次に示します。

新規および変更された CRM Analytics REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

DMO をデータセットに変換する

新しい `/wave/data-conversions` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Data Conversion Input

更新 MRU を使用してレンズバンドルを取得する

`/wave/lens/lensId/bundle` リソースに対して GET 要求を実行します。

新しい要求パラメーター: `isUpdateMru`

指定されたデータアセットまたはフォルダー ID の DMO マッピングを取得する

新しい `/wave/templates/mappings` リソースに対して GET 要求を実行します。

要求パラメーター: `dataTransformNameOrId`、`datasetNameOrId`、`dmoNameOrId`、`folderId`

新しいレスポンスボディ: Dataset Dmo Mapping Collection

テンプレート用の DMO マッピングを作成する

新しい `/wave/templates/mappings` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Dataset Dmo Mapping Input

新しいレスポンスボディ: Dataset Dmo Mapping

変更された CRM Analytics REST API リクエストボディ

変更されたリクエストボディを次に示します。

Auto Install App Configuration Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `dataRefreshSchedule` — アプリケーションのデータ更新スケジュール。これは週次スケジュールです。

Compact Form Join Object Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `fields` — 結合で使用するオブジェクト項目のリスト。

Component Widget Parameters Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `dynamicAttributes` — コンポーネントウィジェットの動的属性の対応付け。

Grid Layout Widget Parameters Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `parameterOverrides` — ウィジェットのパラメーターの上書き。
- `type` — ウィジェットタイプ。

Interaction Action Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `clearType` — インタラクションのクリア種別。有効な値は、`ClearAll`、`ClearExclude`、`ClearInclude` です。
- `lensIds` — レンズ ID のリスト。このリストは、クリア種別を除外したり含めたりするために使用されます。

Repeater Widget Parameters Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `sortableColumns` — 繰り返しウィジェットの並び替え可能な項目のリスト。

Table Widget Parameters Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `enableAllDataFetch` — テーブルですべてのデータを取得するのか (`true`)、必要なデータをページネーションするのか (`false`) を示します。

Template Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `dataTransformIds` — このテンプレートのデータ変換 ID のリスト。

変更された CRM Analytics REST API レスポンスボディ

変更されたレスポンスボディを次に示します。

Compact Form Join Object

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `fields` — 結合で使用するオブジェクト項目のリスト。

Component Widget Parameters

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `dynamicAttributes` — コンポーネントウィジェットの動的属性の対応付け。

Dataset Type

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `currentVersionPredicate` — データセットの現在のバージョンのセキュリティ述語。
- `currentVersionSharingInheritance` — データセットの現在のバージョンの共有継承。

Grid Layout Widget Parameters

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `parameterOverrides` — ウィジェットのパラメーターの上書き。
- `type` — ウィジェットタイプ。

Interaction Action

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `clearType` — インタラクションのクリア種別。有効な値は、`ClearAll`、`ClearExclude`、`ClearInclude` です。

- `lensIds` — レンズ ID のリスト。このリストは、クリア種別を除外したり含めたりするために使用されます。

Number Type

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `format` — 数値の表示形式。有効な値は、`Currency`、`Decimal`、`Percent`、`PercentFixed` です。
- `scale` — 数値の最大スケール。

Page Layout

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `guidancePanel` — テンプレート設定ウィザードページに表示するガイダンスパネル。
- `navigation` — テンプレート設定ウィザードページのナビゲーション情報。
- `type` — テンプレート設定ウィザードページの種別。有効な値は、`Configuration` および `Validation` です。

Repeater Widget Parameters

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `sortableColumns` — 繰り返しウィジェットの並び替え可能な項目のリスト。

Table Widget Parameters

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `enableAllDataFetch` — テーブルですべてのデータを取得するのか (`true`)、必要なデータをページネーションするのか (`false`) を示します。

Text Item

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `variant` — テキストのバリエーション。サポートされている値は `SubHeader` のみです。

UI Layout Definition

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `appDetails` — テンプレート設定ウィザードのアプリケーションの詳細ページの設定情報。
- `navigationPanel` — テンプレート設定ウィザードのナビゲーションペインの設定情報。

Variable Item

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `tiles` — チェックボックススタイルの詳細の対応付け。
- `variant` — 変数のバリエーション。有効な値は、`CheckboxTiles` です。

Wave Features

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `orgHasExploreInTableau` — 組織で CRM Analytics の Tableau データを探索できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

呼び出し可能アクション

呼び出し可能アクションとは、APIを使用して Salesforce で実行できるアクションのことです。

呼び出し可能アクションは、REST API を介して使用できます。次のアクションが変更されています。

認証済みユーザーとゲストユーザーが注文の詳細にアクセスできるようにする URL を生成します。

新しい generateOrderSummaryUrl アクションを使用します。

呼び出し可能アクションについての詳細は、『[Actions Developer's Guide](#)』を参照してください。

メタデータ API

次の新規および変更されたメタデータ型を使用してより多くのメタデータにアクセスできます。

Salesforce 全体

組織の Quip を有効にする

既存の LightningExperienceSettings メタデータ型で enableQuip 項目を使用します。API バージョン 51.0 で導入されたこの値は、『[メタデータ API 開発者ガイド](#)』に追加されています。

カスタマイズ

ページレイアウトの関連リストで使用されるクイックアクションを表示する(正式リリース)

Layout メタデータ型の既存の RelatedList Item サブタイプで新しい quickActions 項目を使用します。

Data Cloud

Data Cloud ID 解決プロセスを実行する

次の項目で、新しい cdpRunIdentityResolution 値を使用します。

- Flow メタデータ型の既存の FlowActionCall サブタイプの actionType 項目
- RecommendationStrategy メタデータ型の既存の StrategyAction と StrategyNodeInvocableAction サブタイプの type 項目

API バージョン 57.0 で導入されたこの値は、『[メタデータ API 開発者ガイド](#)』に追加されています。

開発

サードパーティコンテキストで Lightning アプリケーションにセッショントークンを使用する

既存の SessionSettings メタデータ型で sidToken3rdPartyAuraApp 項目を使用します。値が true の場合、Lightning アプリケーションがサードパーティコンテキスト(Lightning Out や Salesforce と Outlook のインテグレーションなど)にあるとき、Lightning アプリケーションは認証 Cookie をセッショントークンに置き換えます。

Slack が通知種別の配信チャネルであることを示す

既存の NotificationChannels メタデータサブタイプで slackEnabled 項目を使用します。API バージョン 52.0 で導入されました。

Experience Cloud

拡張 LWR サイトのコンポーネントにカスタム CSS を適用する

既存の DigitalExperienceBundle メタデータ型で新しい `componentType.customCssClasses` プロパティを使用します。このプロパティは [CSS クラス] 項目として表示され、すべてのコンポーネントの [スタイル] タブで使用できます。

廃止: `enableExperienceFriendlyUrls` 項目を API バージョン 59.0 で廃止

`SiteSettings` メタデータ型の `enableExperienceFriendlyUrls` 項目は API バージョン 58.0 でのみ使用できます。それより後の API バージョンでは、代わりに Network 型の新しい `expFriendlyUrlsAsDefault` 項目を使用してください。

拡張 LWR サイトのコンポーネントの表示、パディング、余白値を定義する

既存の DigitalExperienceBundle メタデータ型で新しい `componentType.attributes.dxpStyle` プロパティを使用します。API バージョン 57.0 で導入されたこの項目は『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

拡張 LWR サイトのコンポーネントの表示ルールとバリエーションを作成する

既存の DigitalExperienceBundle メタデータ型で新しい `contentOperations` プロパティを使用します。API バージョン 58.0 で導入されたこの項目は『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

Marketing Cloud

Social Studio の Facebook アカウントのレスポンス設定を定義する

既存の SocialCustomerServiceSettings メタデータ型で `enableAllFBResponseAccounts` 項目を使用します。API バージョン 56.0 で導入されたこの項目は『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

モバイル

派遣作業員のオフラインレコード環境をカスタマイズする

`BriefcaseRule` メタデータ型で既存の `targetEntity` 項目にカスタムメタデータ型の API 参照名を入力します。

セールス

廃止: `AccountInsightsSettings` と `OpportunityInsightsSettings` メタデータ型を API バージョン 59.0 で廃止

また、`AccountSettings` メタデータ型の `enableAccountInsightsInMobile` 項目と `OpportunitySettings` メタデータ型の `enableOpportunityInsightsInMobile` 項目は API バージョン 59.0 で廃止されます。Einstein 取引先インサイトと商談インサイトは API バージョン 59.0 で廃止されます。代わりに、取引先には Einstein リレーションインサイト、パイプラインインスペクションには Einstein 案件インサイトを使用します。

Salesforce フロー

オーケストレーションの現在の実行ユーザーのコンテキストで非同期バックグラウンドステップを実行する

既存の `FlowStageStep` メタデータ型で新しい `runAsUser` 項目を使用します。

オーケストレーションの要件が使用される条件の種別を識別する

既存の `FlowCondition` メタデータ型の新しい `conditionType` 項目で新しい `FlowWaitConditionType` 列挙値を使用します。

オーケストレーションフェーズを終了するために満たす必要がある要件を3つまで定義する
既存の `FlowOrchestratedStage` メタデータ型で `exitConditions` 項目を使用します。

オーケストレーションフェーズを終了するために満たす必要がある要件のカスタムロジックを定義する
既存の `FlowOrchestratedStage` メタデータ型で `exitConditionLogic` 項目を使用します。

オーケストレーションステップを開始するために満たす必要がある要件を3つまで定義する
既存の `FlowStageStep` メタデータ型で `entryConditions` 項目を使用します。

オーケストレーションステップを開始するために満たす必要がある要件のカスタムロジックを定義する
既存の `FlowStageStep` メタデータ型で `entryConditionLogic` 項目を使用します。

対話型オーケストレーションステップを終了するために満たす必要がある要件を3つまで定義する
既存の `FlowStageStep` メタデータ型で新しい `exitConditions` 項目を使用します。

対話型オーケストレーションステップを終了するために満たす必要がある要件のカスタムロジックを定義する
既存の `FlowStageStep` メタデータ型で新しい `exitConditionLogic` 項目を使用します。

フローのデータを変換してより簡単に Salesforce の外部のシステムと統合する(ベータ)
既存の `Flow` メタデータ型で新しい `transforms` 項目を使用します。

数式を使用してフローのデータを変換する(ベータ)

既存の `FlowElementReferenceOrValue` サブタイプで新しい `formulaDataType` 項目および `formulaExpression` 項目を使用します。 `transforms` メタデータでのみサポートされます。

Data Cloud データの変更を使用してフローをトリガーする

既存の `FlowStart` メタデータ型で `triggerType` 項目の新しい `DataCloudDataChange` 列挙値を使用します。

Flow Builder でおすすめを作成する

既存の `Flow` メタデータ型で既存の `processType` 項目の `RecommendationStrategy` 値を使用します。 API バージョン 54.0 で導入されたこの値は、『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

セグメントがあるフローをトリガーする

既存の `FlowStart` メタデータ型で `segment` 項目を使用します。 API バージョン 56.0 で導入されたこの値は、『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

Marketing Cloud にオーディエンス主導のフローを定義する。

既存の `Flow` メタデータ型で既存の `processType` 項目の `Journey` 値を使用します。 API バージョン 57.0 で導入されたこの値は、『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

一時停止された自動起動フローは常に同じコンテキストで再開され、一時停止前のユーザーアクセスが保持されることを示す

既存の `FlowSettings` メタデータ型で新しい `isTimeResumedInSameRunContext` 項目を使用します。 API バージョン 57.0 で導入されたこの値は、『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

セキュリティと ID

[私のドメイン] と *.force.com の URL リダイレクト中にユーザーに通知する

既存の `MyDomainSettings` メタデータ型で新しい `doesWarnOnRedirect` 項目および `doesWarnOnForceComRedirect` 項目を使用します。

ユーザーがインスタンス化 URL を訪問したときのリダイレクト動作を指定する

既存の `MyDomainSettings` メタデータ型で新しい `instancedUrlRedirectHandling` 項目を使用します。

サポートが明確でない場合に **Content-Security-Policy: frame-ancestors** HTTP ヘッダーディレクティブを適用する
既存の `SecuritySettings` メタデータ型で新しい `sendCspForUncommonClients` 項目を使用します。

Permissions-Policy HTTP ヘッダーを有効にして、ユーザーのカメラやマイクへのアクセスを制御する
既存の `SecuritySettings` メタデータ型で新しい `enablePermissionsPolicy`、`grantCameraAccess`、
`grantMicrophoneAccess` 項目を使用します。

ユーザーのカメラやマイクへのアクセスへのアクセス権を信頼済み URL に付与する
既存の `CspTrustedSite` メタデータ型で新しい `canAccessCamera` 項目および `canAccessMicrophone` 項目を
使用します。

クロス組織リダイレクトを一時的に許可する

既存の `SecuritySettings` メタデータ型で新しい `enableCrossOrgRedirects` 項目を使用します。

開発者が組織で外部クライアントアプリケーションを作成できるようにする

新しい `ExternalClientAppSettings` メタデータ型を使用して、Salesforce 組織で外部クライアントアプリケーショ
ンを作成、更新、パッケージ化、削除するための権限を付与します。

外部クライアントアプリケーションを作成および設定する

新しい `ExternalClientApplication` メタデータ型を使用して、外部クライアントアプリケーションヘッダーファイ
ルを定義します。新しい `ExtlClntAppGlobalOauthSettings`、`ExtlClntAppOauthSettings`、`ExtlClntAppOauthConfigurablePolicies`
メタデータ型を使用して、OAuth プラグインを設定します。これらのメタデータ型を併用して、ローカルま
たはパッケージ化可能な外部クライアントアプリケーションを作成します。

組織全体のレベルでサポート対象認証フローの **OAuth 2.0 Proof Key for Code Exchange (PKCE)** 拡張を必須にする
`OauthOidcSettings` メタデータ型で新しい `isPkceRequired` 項目を使用します。

特定の接続アプリケーションの PKCE 拡張を必須にする

`ConnectedAppOauthConfig` メタデータ型で新しい `isPkceRequired` 項目を使用します。

サポート対象認証プロバイダーの PKCE 拡張を自動的に有効にする

`AuthProvider` メタデータ型で新しい `isPkceEnabled` 項目を使用します。

接続アプリケーションの認証コードとログイン情報フローを設定する

`ConnectedAppOauthConfig` メタデータ型で新しい `isCodeCredentialEnabled` 項目と
`isCodeCredentialPostOnly` 項目を使用します。API バージョン 57.0 で導入されたこれらの項目は『メ
タデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

ヘッドレスパスワードレスログイン API への認証済み要求のアクセストークンを取得するように接続アプリ
ケーションを設定する

`ConnectedAppOauthConfig` メタデータ型で `scopes` 項目の新しい `PwdlessLogin` 列挙値を使用します。

ヘッドレス登録 API への認証済み要求のアクセストークンを取得するように接続アプリケーションを設定する
ConnectedAppOauthConfig メタデータ型で `scopes` 項目の新しい `UserRegistration` 列挙値を使用します。
API バージョン 58.0 で導入されたこの列挙値は『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

ユーザーのセッションタイムアウトを 90 分に設定する

`SessionSettings` メタデータ型で `sessionTimeout` 項目の新しい `NinetyMinutes` 列挙値を使用します。API
バージョン 58.0 で導入されたこの列挙値は『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

サービス

Salesforce ナレッジ記事のスマートリンク URL を取得する。

FlowActionCall の InvocableActionType で、新しい getArticleSmartLinkUrl 値を使用して、Salesforce ナレッジ記事のスマートリンク URL を取得します。

作業を中断可能として指定する

既存の PresenceUserConfig メタデータ型で新しい interruptibleCapacity 項目を使用します。ServiceChannel メタデータ型で新しい IsInterruptible 項目を使用します。

ファイルアップロードの成功メッセージを複数の言語で配信する

既存の Translations メタデータ型の BotVariableOperationTranslation サブタイプで新しい successMessages 項目を使用します。API バージョン 57.0 で導入されたこの項目は『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

ボットブロックを構築、再利用、共有する

既存の BotVersion メタデータ型の BotDialog サブタイプで新しい BotBlock メタデータ型と新しい isPlaceholderDialog 項目を使用します。API バージョン 58.0 で導入されたこのデータ型とこの項目は、『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

ボットテンプレートに権限セットを追加する

既存の BotTemplate メタデータ型で新しい permissionSet 項目を使用します。詳細は、「[カスタムテンプレートとブロックへの権限セットの追加](#)」を参照してください。

ボットブロックに権限セットを追加する

既存の BotBlock メタデータ型の BotBlockVersion サブタイプで新しい permissionSet 項目を使用します。詳細は、「[カスタムテンプレートとブロックへの権限セットの追加](#)」を参照してください。

Data Cloud

関連付けられているデータソースバンドルの説明を入力する

既存の DataSourceBundleDefinition メタデータ型で新しい description 項目を使用します。API バージョン 53.0 で導入されたこの項目は『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

リリースフローで使用するアイコン

既存の DataSourceBundleDefinition メタデータ型で新しい icon 項目を使用します。API バージョン 53.0 で導入されたこの項目は『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されています。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API を使用して、Lightning ダッシュボードの所有権を変更します。

新しいリソース:

ダッシュボード所有権を変更します。

1つ以上のダッシュボードの所有者を変更する

新しい /analytics/change-owner リソースに対して PATCH 要求を実行します。

詳細は『[Reports and Dashboards REST API Developer Guide \(Salesforce レポートおよびダッシュボード REST API 開発者ガイド\)](#)』を参照してください。

Subscription Management API

Subscription Management API を使用して、定期的なビジネスのセルフサービスソリューションを作成します。

注文品目から納入商品を作成する

新しい `/actions/standard/createOrUpdateAssetFromOrderItem` 要求を使用します。

1回限りの販売の納入商品をキャンセルまたはダウンセルする

`asset-management/assets/collection/actions/initiate-cancellation` および
`asset-management/assets/collection/actions/initiate-amend-quantity` 要求で新しい
`returnPolicyType` パラメーターを使用します。

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

これらの新規および変更された Tooling API オブジェクトを使用してより多くのメタデータにアクセスします。

カスタマイズ

外部サービスの作成に使用するスキーマプロバイダーの種別を確認する

既存の `ExternalServiceRegistration` オブジェクトで新しい `RegistrationProviderType` 項目を使用します。このオブジェクトは、API バージョン 56.0 で導入され、『Tooling API Developer Guide (Tooling API 開発者ガイド)』に追加されました。

外部サービス登録用のサポートされていないメディアタイプをサポートされているメディアタイプに対応付けます。

既存の `ExternalServiceRegistration` オブジェクトで新しい `ServiceBinding` 項目を使用します。このオブジェクトは、API バージョン 53.0 で導入され、『Tooling API Developer Guide (Tooling API 開発者ガイド)』に追加されました。

セキュリティと ID

ユーザーのカメラやマイクへのアクセスへのアクセス権を信頼済み URL に付与する

既存の `CspTrustedSite` オブジェクトで新しい `CanAccessCamera` 項目および `CanAccessMicrophone` 項目を使用します。

ユーザーインターフェース API

より多くの UI API リソースへの幕等レコード書き込みによりレコードの重複を防止したり、より多くのオブジェクトを操作したりできます。

このセクションの内容:

サポートされるオブジェクト

すべての新しい標準オブジェクトは、ユーザーインターフェース API で使用できるように自動的に有効になります。

新規および変更されたユーザーインターフェース API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

新規および変更されたユーザーインターフェース API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

サポートされるオブジェクト

すべての新しい標準オブジェクトは、ユーザーインターフェース API で使用できるように自動的に有効になります。

以前は、現在のリリースでユーザーインターフェース API によってサポートされているオブジェクトのリストが提供されていました。特に指定がない限り、Summer '23 以降、すべての新しい標準オブジェクトはユーザーインターフェース API の使用に対して自動的に有効になります。

 **メモ:** ユーザーインターフェース API に対して自動的に有効化された新しいオブジェクトを表示するには、「[新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト](#)」を参照してください。

次の標準オブジェクトは組織にとって新規ではありませんが、ユーザーインターフェース API にとっては新規です。

- ActionCadenceStep
- ActionCadenceTracker
- ActionCadenceStepTracker
- QuoteLineItemAttribute
- SurveyQuestion

関連トピック:

[User Interface API Developer Guide \(ユーザーインターフェース API 開発者ガイド\)](#): Send a Request Using Postman (Postman を使用した要求の送信)

[User Interface API Developer Guide \(ユーザーインターフェース API 開発者ガイド\)](#): Supported Objects (サポートされるオブジェクト)

新規および変更されたユーザーインターフェース API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

Salesforce 全体

レコードの作成、更新、削除操作を一括で実行する

新しい `/ui-api/records/batch` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Batch Record Input

レイアウト内に存在しない項目を使用してレコードを作成する

`/ui-api/records/?includeFieldsInBody=true` に対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストパラメーター: includeFieldsInBody

`true` に設定すると、リクエストボディで指定した項目でレイアウト内に存在しないものがあれば、その項目がレスポンスボディに含まれます。デフォルトは、`false` です。

レイアウト内に存在しない項目を使用してレコードを更新する

`/ui-api/records/?includeFieldsInBody=true` に対して PATCH 要求を実行します。

新しいリクエストパラメーター: `includeFieldsInBody`

`true` に設定すると、リクエストボディで指定した項目でレイアウト内に存在しないものがあれば、その項目がレスポンスボディに含まれます。デフォルトは、`false` です。

クリックアクションで使用されたレコードレイアウトを取得する(正式リリース)

`/ui-api/actions/layout/${actionApiName}` に対して GET 要求を実行します。

新規および変更されたユーザーインターフェース API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

Salesforce 全体

クリックアクションレイアウト(正式リリース)

この新しいレスポンスボディでは、クリックアクションで使用されたレコードレイアウトが返されます。

GraphQL API

GraphQL 変異を使用してレコードを変更します。並び替えを伴う集計関数を使用します。名前空間がサポートされるクエリを送信します。ToDo や行動などを操作します。

GraphQL 変異を使用してレコードを変更する

`mutation` 操作種別を使用すると、UI API でサポートされるオブジェクトのレコードを作成、削除、更新できます。各 Salesforce オブジェクトは、定義した応答ペイロードを返す `RecordCreate`、`RecordEdit`、`RecordDelete` 項目に対応しています。

- `RecordCreate` — レコードを作成します。`input` 引数で項目値を指定します。`RecordCreate` はオブジェクト名に対応しています(`AccountCreate` など)。応答ペイロードを返すには、目的の項目(レコードの `Id` 項目など)を含む `Record` を含めます。

```
mutation RecordCreateExample {
  uiapi {
    AccountCreate(input: {
      Account: {
        Name: "Salesforce"
        Billing City: "San Francisco"
      }
    }) {
      Record {
        Id
        Name {
          value
        }
      }
    }
  }
}
```

- RecordDelete — レコードを削除します。input 引数でレコードの Id 項目を指定します。Id 項目のみを含む応答ペイロードを返すことができます。

```
mutation RecordDeleteExample{
  uiapi {
    AccountDelete(input: {
      Id: "001RM000005eiYYYYYY"
    })
    {
      Id
    }
  }
}
```

- RecordUpdate — レコードを更新します。input 引数で項目値とレコードの Id 項目を指定します。RecordUpdate はオブジェクト名に対応しています(ContactUpdate など)。success 項目のみを含む応答ペイロードを返すことができます。この項目はレコードの更新が成功したかどうかを示す true または false を返します。

```
mutation RecordUpdateExample{
  uiapi {
    ContactUpdate(input: {
      Contact: {
        FirstName: "Sam"
        LastName: "Smith"
      }
      Id: "003RM000008AAAAAA4"
    })
    {
      success
    }
  }
}
```

uiapi 項目で allOrNone boolean 引数を使用します。操作での名前の競合を防ぐため、first と second などの別名を使用します。

```
mutation OperationName {
  uiapi(input: { allOrNone: false }) {
    first: AccountCreate(input: { ... })
    second: AccountCreate(input: { ... })
  }
}
```

- allOrNone が true の場合、すべての操作がロールバックされる(いずれかの操作が失敗した場合)か、トランザクション内のすべての操作が実行されるかのいずれかです。これはデフォルトです。
- allOrNone が false に設定されると、失敗した操作とその操作に連動する操作のみがロールバックされ、その他の成功した操作は実行されます。

IdOrRef スカラーが新規追加されました。IdOrRef 型の項目を使用すると、変異要求内の操作をチエーニングできます。たとえば、レコードとそれに関連する子レコードを作成することが可能です。たとえば、取引先責任者の AccountId は IdOrRef 型に対応しています。

上限のあるページ設定

`upperBound`引数が新規追加されました。`upperBound`では取得するレコード数の制限を指定します。2000件を超えるレコードのクエリが想定される場合には`upperBound`を使用することをお勧めします。

上限ありでページ設定を行うには、次の引数を使用します。

- `first` — クエリのバッチサイズ。200～2000件を指定します。
- `upperBound` — 取得するレコード数の制限。存在するレコード数に応じて5000または10000といった大きな数を指定します。

```
query RecordsWithPagination {
    uiapi {
        query {
            Contact (first: 500, upperBound: 10000) {
                # Optional edges and node here
                totalCount
                pageInfo {
                    hasNextPage
                    endCursor
                }
            }
        }
    }
}
```

たとえば、前のクエリは SOQL ステートメントの `SELECT <fields> FROM Contact LIMIT 10000 where first: 500` に類似しており、バッチサイズ 500 を表しています。

結果の次のバッチを要求するには、受け取った `endCursor` 値に基づいた `first` 引数と `after` 引数を使用します。

結果の並び替えを伴う集計関数を使用したレコードのクエリ

クエリ結果の並び替え可能な項目で順序(昇順または降順など)を設定します。また、`null`を最初または最後に表示できます。各 Salesforce オブジェクトの集計型である `RecordQueryAggregate` に対して、GraphQL API スキーマには対応する型別並び替えがあり、`_OrderBy` サフィックスが使用されています。たとえば、取引先には `Account_OrderBy` 型が含まれていて、取引先項目別に並び替えを行うことができます。

`aggregate` 項目を使用すると、次の構文を使用して結果を並び替えることができます。

```
query MyQueryName{
    uiapi {
        aggregate {
            ObjectApiName (
                orderBy: { orderByField: { function: functionName } },
                groupBy: { groupByField: { group: true } }
            )
            edges {
                node {
                    aggregate {
                        Field1 { functionName { value } }
                        Field2 { value }
                    }
                }
            }
        }
    }
}
```

```

        }
    }
}

```

- `ObjectApiName` — Salesforce オブジェクト (`Account` や `Case` など)
- `orderByField` — 並び替えの基準となるレコードの項目
- `groupByField` — グループ化の基準となるレコードの項目
- `functionName` — 集計関数 (`COUNT`、`COUNT_DISTINCT`、`MAX`、`MIN` など)。数値項目では `AVG` と `SUM` もサポートされます。

`orderBy` 引数を使用する方法を次にいくつか示します。

- 特定の項目に対する集計関数によって結果を並び替えます。たとえば、集計関数 `MIN(AnnualRevenue)` によって並び替え、`Industry` によってグループ化します。

```

Account (
    orderBy: { AnnualRevenue: { function: MIN } },
    groupBy: { Industry: { group: true } }
)

```

- 複数の項目に対する集計関数によって結果を並び替えます。たとえば、`COUNT(Name)` と `AVG(AnnualRevenue)` によって並び替え、`Industry` によってグループ化します。

```

Account (
    orderBy: {
        Name: { order: ASC, function: COUNT },
        AnnualRevenue: { order: ASC, function: AVG }
    },
    groupBy: { Industry: { group: true } }
)

```

- 特定の項目に対する集計関数によって結果を並び替え、`null` 値を最後に置きます。デフォルトでは `null` 値は最初に返されます。

```

Account (
    orderBy: {
        Name: { order: ASC, function: COUNT },
        AnnualRevenue: { order: ASC, function: AVG, nulls: LAST }
    },
    groupBy: { Industry: { group: true } }
)

```

名前空間がサポートされるクエリを記述する

管理パッケージのGraphQL クエリでは名前空間を使用してオブジェクトと項目を参照できます。組織で名前空間を使用している場合、クエリに含まれていなくてもカスタムオブジェクトとカスタム項目の名前空間がクエリ内で自動的に解決されます。別の名前空間のオブジェクトや項目を参照するには、

`namespace__MyCustomObject__c` と `namespace__MyCustomField__c` の形式を使用してクエリに名前空間を含めます。「[新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール](#)」を参照してください。

ToDo オブジェクトと行動オブジェクトの操作(ベータ)

-  **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「契約および規約」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

ToDo オブジェクトと行動オブジェクトを GraphQL API で使用できるようになりました。ただし、ユーザーインターフェース API では現在これらのオブジェクトはサポートされていません。次の場所で ToDo オブジェクトと行動オブジェクトを使用できます。

- レコードクエリ
- 集計クエリ
- 親-子リレーションクエリ
- 子-親リレーションクエリ
- 多態的な項目クエリ

クエリ複合項目

ObjectName__FieldName__CompoundField GraphQL API 型がサポートされるようになりました。この型は複合項目を表します。取引先オブジェクトの BillingAddress やリードオブジェクトの Address、または地理位置情報項目などが該当します。たとえば、BillingAddress は Account_BillingAddress_CompoundField 型に対応しています。

複合項目は次の制限に従います。

- 複合項目はその構成項目と共にクエリに含めます。
- where 引数を使用して並び替えや絞り込みを行う場合には構成項目を使用します。
- 集計クエリを操作する場合は構成項目を使用します。複合項目は集計クエリではサポートされません。

```
query AccountsWithBillingAddress {
  uiapi {
    query {
      Account {
        edges {
          node {
            Name { value }
            BillingAddress {
              BillingCity {
                value
                displayValue
              }
              BillingCountry {
                value
                displayValue
              }
            }
          }
        }
      }
    }
  }
}
```

GraphQL API の `displayValue` 項目はユーザーインターフェース API (UI API) が返す `displayValue` プロパティと一致する

`displayValue` が UI API の `displayValue` と一致するようになりました。以前は、UI API で `null` 値を返すプロパティに対して、`displayValue` 項目は `null` でない値を返していました。たとえば、1000 を返す整数項目は UI API では `null` の `displayValue` を返します。そのため、GraphQL API でも同じ `displayValue` を期待できます。この変更は整数項目と倍精度浮動小数点数項目に適用されます。通貨項目と日時項目の `displayValue` はそのままです。

```
//Before
"NumberOfEmployees": {
    "value": 1000,
    "displayValue": "1,000"
}

//After
"NumberOfEmployees": {
    "value": 1000,
    "displayValue": null
}
```

関連トピック:

[GraphQL API Developer Guide \(GraphQL API 開発者ガイド\)](#)

Einstein

Einsteinによって提供されるあらゆる機能を使用して作業をスマートにする準備をしましょう。Einsteinの検索、コマース、フィールドサービス、セールス、サービスの機能は、AIを駆使してパワーアップしています。さらに、生成AIのイノベーションをすべて1か所で見ることができます。

ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

Salesforce 全体

Einstein Search

検索結果の取得方法が改善されます。検索マネージャーで、検索可能な標準オブジェクトとカスタムオブジェクトを設定し、検索ストレージに関するインサイトを取得します。また、Einstein Search Answers を使用してナレッジ記事から特定の回答を取得することもできます。

コマース

Commerce Einstein

Einstein が 1 ステップで複数の商品項目を生成できるようにします。新しい Einstein の [よく一緒に購入される商品] コンポーネントを追加して、顧客がカートで表示している商品に関連する他の商品を表示します。

開発

Einstein Vision および Language: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家ではないけれど、AIをアプリケーションに統合したいと考えていますか? Einstein Vision および Language API を使用すると、画像認識と自然言語処理を使用してアプリケーションを容易に AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用すると、事前トレーニングした分類子を使用するかカスタム分類子をトレーニングして、画像認識の広範な使用事例を解決することができます。Einstein Language API を使用すると、自然言語処理の機能を活用して、テキストを分析し、テキストの背後にあるセンチメントやインテントを推測することができます。アプリケーションをよりスマートにすると同時に天才のように見せましょう。

Einstein 生成 AI

Einstein 生成 AI の機能

Einstein 生成 AI でどのようにすべてのクラウドの生産性が大幅に向上するのかについて説明します。生成 AI の機能は毎月リリースされるため、しばらくしたらもう一度最新かつ最高のソリューションを確認してください。23年9月のリリースに含まれる機能は、Spring '24 が組織にロールアウトされたときに使用できるようになります。

Einstein 生成 AI

プロンプトビルダーでパーソナライズされたセールスメールの生成(パイロット)

プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成すると、営業チームが取引先責任者またはリード向けにパーソナライズされたメールをすばやく生成できるようになります。プロンプトテンプレートは、データのセキュリティを確保しながら大規模言語モデル (LLM) と通信する、再利用可能なプロンプトです。セールスメールのプロンプトテンプレートにより、ユーザーの日々のワークフローがスムーズになります。差し込み項目、フロー、Apex を使用して、最新の CRM データを含むプロンプトテンプレートを追加、テスト、修正、管理します。

プロンプトビルダーで生成 AI を使用して項目値を入力(パイロット)

プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成すると、チームが大規模言語モデル (LLM) に送信されたプロンプトで生成された値を項目にすばやく入力できるようになります。プロンプトテンプレートは、データのセキュリティを確保しながら LLM と通信する、再利用可能なプロンプトです。項目生成プロンプトテンプレートを使用すると、ユーザーの日常的なワークフローが容易になります。差し込み項目、フロー、Apex を使用して、CRM データを含むプロンプトテンプレートを追加、テスト、修正、管理します。

セールス

Einstein 会話インサイト

1回のクリックで通話の概要を作成できます。Einstein を利用した通話の概要では、次のステップや顧客からのフィードバックの提供を含め、音声通話とビデオ通話がサポートされます。Einstein 会話インサイト (ECI) ユーザーは、便利な通話の標準リストビューにアクセスできます。関連レコード照合が改善され、ECI ライセンスを持たないユーザーが関連性の高いインサイトやranscript情報を表示できます。また、ビデオ通話とビデオ通話参加者向けのプラットフォーム機能も追加されています。

セールス

プロンプトビルダーを使用したセールスメールのパーソナライズ(パイロット)

プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成することで、営業チームが取引先責任者やリードに対してパーソナライズされたメールを素早く作成できるようになります。プロンプトテンプレートは、データを保護しながら大規模言語モデル (LLM) と対話するための再利用可能なプロンプトです。セールスメールのプロンプトテンプレートにより、ユーザーの日々のワークフローがスムーズになります。差し込み項目、フロー、Apex を使用して、最新の CRM データを含むプロンプトテンプレートを追加、テスト、修正、管理します。

サービス

Einstein 記事レコメンデーション

Einstein for Service: ナレッジに基づくメール返信で AI が生成したカスタムのメールドラフトを取得します。

Einstein ボット

ナレッジベースを利用して顧客のFAQに答える記事の回答が正式リリースとなりました。言語間インテントモデル(ベータ)を使用して、少ない発言で複数言語のインテントモデルを構築します。ボットの [概要] ページから離れることなく、自分の拡張ボット用の受信オムニチャネルフローを拡張チャネルに追加できます。カスタムボットテンプレートおよびブロック用の拡張ボット監査と権限セット(省略可能)により、必要なリソースにアクセスするためのボットをすばやく構築して起動できます。

Einstein 分類

生成 AI で Einstein for Service: 作業概要を使用したケースの迅速なクローズが正式リリースされました。

Einstein 会話マイニング

Einstein 会話マイニングを使用して会話データをサービスインサイトに変換し、ボットインテントを作成します。メールの会話または関連するトランск립トを使用してレポートを作成します。

Einstein 返信レコメンデーション

チャットとメール用の Einstein サービス返信と、正式リリースされたナレッジグラウンディング付きのサービスの返信で、生成 AI を使用してエージェントの生産性を向上させます。

Einstein for Service グラウンディング

会社のケースとナレッジデータに基づく AI が生成した応答の取得が正式リリースされました。

Einstein 生成 AI

Einstein 生成 AI を使用して、従業員の効率性を大幅に強化します。

ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

このセクションの内容:

Einstein 生成 AI の機能

Einstein 生成 AI でどのようにすべてのクラウドの生産性が大幅に向上するのかについて説明します。生成 AI の機能は毎月リリースされるため、しばらくしたらもう一度最新かつ最高のソリューションを確認してください。23年9月のリリースに含まれる機能は、Spring '24 が組織にロールアウトされたときに使用できるようになります。

Einstein 生成 AI プラットフォーム

Einstein 生成 AI プラットフォームの変更により、クラウドやユースケース全体で Salesforce の生成 AI の機能、セキュリティ、パフォーマンスが向上します。生成 AI プラットフォームの変更は毎月リリースされるため、しばらくしたらもう一度最新かつ最高のソリューションを確認してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein 生成 AI について](#)

Einstein 生成 AI の機能

Einstein 生成 AI でどのようにすべてのクラウドの生産性が大幅に向上するのかについて説明します。生成 AI の機能は毎月リリースされるため、しばらくしたらもう一度最新かつ最高のソリューションを確認してください。23年9月のリリースに含まれる機能は、Spring '24 が組織にロールアウトされたときに使用できるようになります。

クラウド	機能と機能強化
23年10月	
開発	Platform アプリケーションの簡単な開発
セールス	Einstein を使用して AI が生成した簡潔な販売概要を取得 (ベータ)
セールス	セールス向け Einstein 生成 AI を使用したセールスメールのパーソナライズ (更新)
サービス	会話中の概要を使用してエージェントやスーパーバイザーが最新状況を把握
サービス	メールのサービス返信を使用した顧客ケースの迅速な解決 (正式リリース)
サービス	会社のデータでの Einstein for Service のグラウンディング (正式リリース)
23年9月	
コマース	Einstein を使用したコマースストアの商品項目の機能強化
セールス	Einstein を使用した通話の概要の作成
セールス	セールス向け Einstein 生成 AI を使用したセールスメールのパーソナライズ
セールス	Einstein 生成 AI を使用したセールスメールへの商品情報の追加
サービス	Einstein サービス返信を使用したエージェントの生産性と応答品質の最適化 (正式リリース)

クラウド	機能と機能強化
サービス	生成AI搭載のEinstein作業概要を使用したケースの迅速なクローズ(正式リリース)

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

Einstein 生成 AI プラットフォーム

Einstein 生成 AI プラットフォームの変更により、クラウドやユースケース全体で Salesforce の生成 AI の機能、セキュリティ、パフォーマンスが向上します。生成 AI プラットフォームの変更は毎月リリースされるため、しばらくしたらもう一度最新かつ最高のソリューションを確認してください。

このセクションの内容:

[Einstein Trust Layer を使用したデータセキュリティの確保](#)

Einstein 生成 AI 機能を使用するときに、データセキュリティと安全性を保証します。信頼を最大の価値とする Salesforce では、根拠が明確で極めて関連性の高い応答を示しながら、データをセキュリティ保護し、有害なコンテンツから守る機能のレイヤーを構築しています。

[プロンプトビルダー\(パイロット\)](#)

プロンプトビルダーでセールスマールプロンプトテンプレートを作成して、営業チームが取引先責任者またはリード向けにパーソナライズされたメールをすばやく生成できるようにします。また、項目生成プロンプトテンプレートを使用して、大規模言語モデル(LLM)に送信されたプロンプトで生成された値を項目に入力できます。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

Einstein Trust Layer を使用したデータセキュリティの確保

Einstein 生成 AI 機能を使用するときに、データセキュリティと安全性を保証します。信頼を最大の価値とする Salesforce では、根拠が明確で極めて関連性の高い応答を示しながら、データをセキュリティ保護し、有害なコンテンツから守る機能のレイヤーを構築しています。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Einstein Trust Layer は Einstein 生成 AI 機能に実装されます。Einstein Trust Layer の使用を開始するには、[設定] で Einstein 生成 AI 機能をオンにします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein Trust Layer](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 生成 AI の有効化](#)

[Trailhead: Einstein Trust Layer](#)

プロンプトビルダー (パイロット)

プロンプトビルダーでセールスメールプロンプトテンプレートを作成して、営業チームが取引先責任者またはリード向けにパーソナライズされたメールをすばやく生成できるようになります。また、項目生成プロンプトテンプレートを使用して、大規模言語モデル (LLM) に送信されたプロンプトで生成された値を項目に入力できます。

このセクションの内容:

[プロンプトビルダーでパーソナライズされたセールスメールの生成 \(パイロット\)](#)

プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成すると、営業チームが取引先責任者またはリード向けにパーソナライズされたメールをすばやく生成できるようになります。プロンプトテンプレートは、データのセキュリティを確保しながら大規模言語モデル (LLM) と通信する、再利用可能なプロンプトです。セールスメールのプロンプトテンプレートにより、ユーザーの日々のワークフローがスムーズになります。差し込み項目、フロー、Apex を使用して、最新の CRM データを含むプロンプトテンプレートを追加、テスト、修正、管理します。

[プロンプトビルダーで生成 AI を使用して項目値を入力 \(パイロット\)](#)

プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成すると、チームが大規模言語モデル (LLM) に送信されたプロンプトで生成された値を項目にすばやく入力できるようになります。プロンプトテンプレートは、データのセキュリティを確保しながら LLM と通信する、再利用可能なプロンプトです。項目生成プロンプトテンプレートを使用すると、ユーザーの日常的なワークフローが容易になります。差し込み項目、フロー、Apex を使用して、CRM データを含むプロンプトテンプレートを追加、テスト、修正、管理します。

プロンプトビルダーでパーソナライズされたセールスメールの生成 (パイロット)

プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成すると、営業チームが取引先責任者またはリード向けにパーソナライズされたメールをすばやく生成できるようになります。プロンプトテンプレートは、データのセキュリティを確保しながら大規模言語モデル (LLM) と通信する、再利用可能なプロンプトです。セールスメールのプロンプトテンプレートにより、ユーザーの日々のワークフローがスムーズになります。差し込み項目、フロー、Apex を使用して、最新の CRM データを含むプロンプトテンプレートを追加、テスト、修正、管理します。

対象: プロンプトビルダーは、Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。Einstein 生成 AI は Lightning Experience で使用できます。

プロンプトビルダーを使用するには、セールス向け Einstein アドオンが必要です。セールス向け Einstein アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

 **メモ:** この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります。SFDC の裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

対象ユーザー: プロンプトビルダーを使用するには、システム管理者に「Einstein GPT プロンプトテンプレートユーザー」権限セットが必要です。セールスメールを使用するには、ユーザーに「Einstein セールスメール」権限セットが必要です。

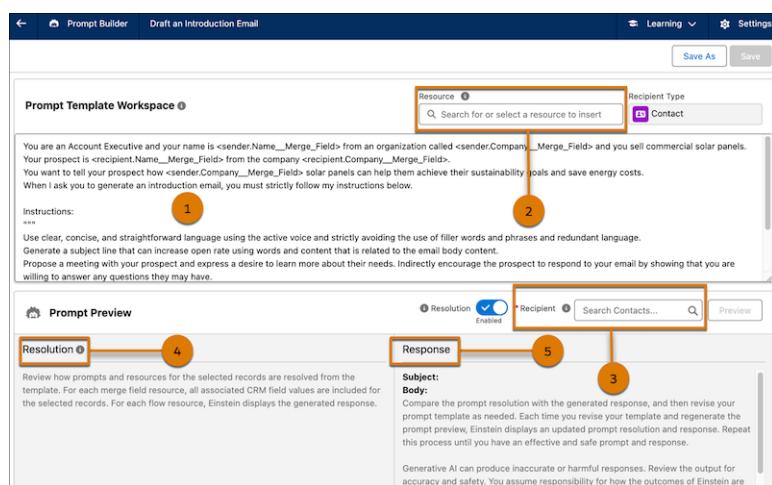
方法: このパイロットに参加するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

パイロットを有効にしたら、[設定] で Einstein を有効化して生成 AI の機能を使用します。

また、[設定] から [クイック検索] ボックスに 「Einstein セールス」と入力し、[セールス向け Einstein] を選択します。[セールスマール] を有効にします。この機能を使用可能になるまで数分かかることがあります。

プロンプトビルダーを使用するには、[設定] で、[クイック検索] ボックスに「プロンプト」と入力し、[プロンプトビルダー] を選択します。

プロンプトテンプレートワークスペースで、プロンプトテンプレートを追加または編集します。次の例は、取引先責任者への紹介メールのドラフトを作成するプロンプトテンプレートを示しています。



プロンプトテンプレートを追加または編集します (1)。

差し込み項目、フロー、Apex などのリソースを追加します (2)。

セールスマールの応答をレビューするには、[受信者] を選択します (3)。解決済みのプロンプトと応答を生成するには、[レビュー] をクリックします。

選択した受信者でリソースがどのように解決されているかを確認します (4)。

LLM 応答で生成されたメールを確認します (5)。保存する前に、プロンプトテンプレートを確認して調整し、営業チームが使用できるようにします。

関連トピック:

[Prompt Builder Pilot Guide PDF \(プロンプトビルダー \(パイロット\) PDF\)](#)

[プロンプトビルダーで生成 AI を使用して項目値を入力 \(パイロット\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 生成 AI の有効化](#)

プロンプトビルダーで生成 AI を使用して項目値を入力 (パイロット)

プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成すると、チームが大規模言語モデル (LLM) に送信されたプロンプトで生成された値を項目にすばやく入力できるようになります。プロンプトテンプレートは、データのセキュリティを確保しながら LLM と通信する、再利用可能なプロンプトです。項目生成プロンプトテンプレートを使用すると、ユーザーの日常的なワークフローが容易になります。差し込み項目、フロー、Apex を使用して、CRM データを含むプロンプトテンプレートを追加、テスト、修正、管理します。

対象: プロンプトビルダーは、Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。Einstein 生成 AI は Lightning Experience で使用できます。

プロンプトビルダーを使用するには、セールス向け Einstein またはカスタマーサービス AI アドオンが必要です。いずれかのアドオンを購入する場合は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

 **メモ:** この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります、SFDC の独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

対象ユーザー: プロンプトビルダーを使用するには、システム管理者に「Einstein GPT プロンプトテンプレートユーザー」権限セットが必要です。

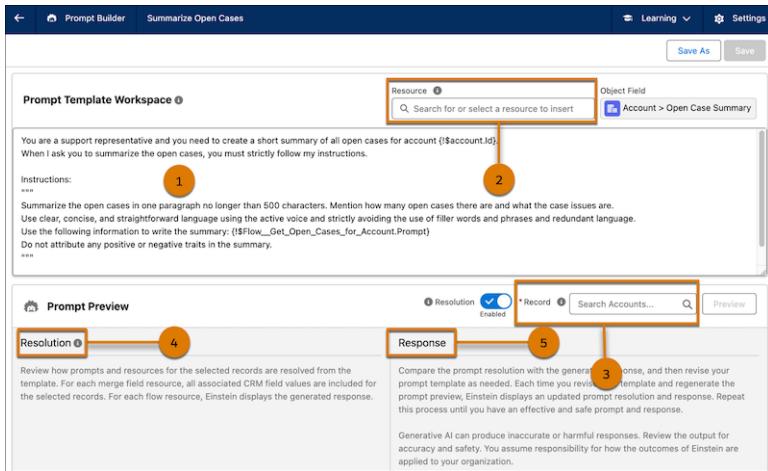
方法: このパイロットに参加するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

パイロットを有効にしたら、[設定] で [Einstein を有効化](#) して生成 AI の機能を使用します。

チームがレコードで項目生成プロンプトテンプレートをトリガーできるようにするには、Lightning アプリケーションビルダー (LAB) で項目を設定する必要があります。LAB で、レコードの詳細コンポーネントまたは項目セクションコンポーネントを選択したページにドラッグします。レコードの詳細コンポーネントの場合は、動的フォームに移行する必要があります。

プロンプトビルダーを使用するには、[設定] で、[クイック検索] ボックスに「プロンプト」と入力し、[プロンプトビルダー] を選択します。

プロンプトテンプレートワークスペースで、プロンプトテンプレートを追加または編集します。次の例は、[Open Case Summary (オープンケースの概要)] カスタム項目に取引先のオープンケースの概要を入力するプロンプトテンプレートを示しています。



プロンプトテンプレートを追加または編集します(1)。

差し込み項目、フロー、Apexなどのリソースを追加します(2)。

項目生成の応答をレビューするには、[レコード]を選択します(3)。解決済みのプロンプトと応答を生成するには、[レビュー]をクリックします。

選択したレコードでリソースがどのように解決されているかを確認します(4)。

LLMで生成された応答を確認します(5)。保存する前に、プロンプトテンプレートを確認して調整し、チームが使用できるようにします。

関連トピック:

[Prompt Builder Pilot Guide PDF \(プロンプトビルダー\(パイロット\)PDF\)](#)

[プロンプトビルダーでパーソナライズされたセールスマールの生成\(パイロット\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 生成 AI の有効化](#)

[Salesforce ヘルプ: 動的フォームでレコードの詳細を分割](#)

イネーブルメントとガイダンス

会社の収益成果の向上に重点を置いたイネーブルメントプログラムを提供します。ユーザーが優れた能力を発揮できるように厳選されたリソースに誘導します。Salesforceで作業する場所で、学習、キャリア進展、スキル開発、およびビジネスに不可欠な職務遂行能力をユーザーにもたらします。

このセクションの内容:

イネーブルメント

会社のイネーブルメントソリューションの範囲を拡張します。経験豊富な同僚やマネージャーを招いて、セールストークを練習している、あるいはフィードバックを求めている営業担当と知恵を共有できます。より多くのユーザーにプログラムを効率的に割り当て、より詳細なプログラム状況の情報を見るることができます。新しい権限セットグループや権限セットを導入して、チームメンバーが自分のロールで必要な情報にアクセスできるようにします。そして、プログラムの結果やマイルストーンに対する進捗状況をより詳しく見ることができます。

ガイダンスセンターとアプリケーション内ガイダンス

会社が理想的なオンボーディング環境をより効率的に作成、提供、微調整する場合に役立ちます。イネーブルメントプログラムとアプリケーション内ガイダンスのガバナンス戦略を調整し、トップクラスの営業担当者によるヒント、戦略、インサイトをその営業担当者が所属する営業チームに直接提供できます。

イネーブルメント

会社のイネーブルメントソリューションの範囲を拡張します。経験豊富な同僚やマネージャーを招いて、セールストークを練習している、あるいはフィードバックを求めている営業担当と知恵を共有できます。より多くのユーザーにプログラムを効率的に割り当て、より詳細なプログラム状況の情報を見るすることができます。新しい権限セットグループや権限セットを導入して、チームメンバーが自分のロールで必要な情報にアクセスできるようにします。そして、プログラムの結果やマイルストーンに対する進捗状況をより詳しく見ることができます。

このセクションの内容:

イネーブルメントシステム管理者とイネーブルメントユーザー権限を最新の状態に保つ

イネーブルメントプログラムに完全に関与するのに必要な最新の権限が会社のイネーブルメントチームメンバーに付与されていることを確認します。デフォルトのイネーブルメント権限セットは、名前が変更されて、新しいデフォルト権限セットグループに含められます。新しい権限セットグループでは、会社でのユーザーのロールごとに機能へのアクセスが整理されます。これらの権限セットグループには、アプリケーション内ガイダンスの管理やアクセスに関する権限セットも含まれます。一部の個別のユーザー権限も、チームメンバーが遂行するジョブに合わせて、より適切な名前に変更されています。

パーカーフェクトピッチで営業担当をコーチ

広く分散した営業チームでコラボレーションや非同期学習の機会を促進しましょう。フィードバック要求課題を通して、営業担当が経験豊かな同僚、マネージャー、そして会社の他のセールスリーダーからパフォーマンスのフィードバックを得られるようにします。営業担当は、ディスカバリーコールや商談交渉の記録など、仕事の実例を送信することで、レビュー担当者にフィードバックを要求できます。そしてレビュー担当者は、イネーブルメントチームが作成した評価アンケートを利用してフィードバックを返します。リーダーがフィードバックを提供したら、イネーブルメントチームは新しいフィードバック回答分析を使用して、プログラムを通じて見られる営業担当の行動の変化に関するインサイトを取得します。

イネーブルメント分析からマイルストーンの進行状況への深いインサイトの取得

設定されているマイルストーンに対するユーザーの進行状況をより詳細に調べます。Winter '24 フォルダーのイネーブルメント分析には、Milestone Completion Status(マイルストーン完了状況)レポート、ドーナツグラフダッシュボードウィジェットのMilestone Completion Status(マイルストーン完了状況)、そして棒グラフダッシュボードウィジェットのMilestone Completion Status by Milestone(マイルストーン別のマイルストーン完了状況)が新たに追加されています。これらのリソースにより、マイルストーンの未完、遅延、期限通りに完了、遅れて完了、期限切れ、追跡終了の状況を簡単に評価できます。以前のイネーブルメント分析には、プログラムと課題の完了状況のみが含まれていました。

プログラム受講中の進行状況の明確な表示

イネーブルメントユーザーは、ガイダンスセンターで結果やマイルストーンをクリックすることで、プログラムの目標を達成するために何が求められているのかを明確に知ることができます。また、これから結果やマイルストーンあるいはプログラム全体を完了してもクレジットを取得できなくいことを通知するメッセージも表示されるようになりました。以前は、進行状況の詳細は簡潔にしか表示されなかつたため見落としやすく、ユーザーがクレジットが取得できなくなったことを知る方法もありませんでした。

少ないクリック数でのより多くのユーザーへのイネーブルメントプログラムの割り当て

会社のイネーブルメントロールアウトの範囲をより多くのユーザーに拡張して、ロールアウトをよりすばやく実施します。プログラム割り当てウィンドウでは、プログラムに割り当てるユーザーをプロファイル、ロール、公開グループで絞り込むことができるようになりました。組織の割り当て制限内で、適用されている検索条件と一致するすべてのユーザーを1クリックで選択できます。以前は、割り当てウィンドウでは公開グループでしかユーザーを絞り込めませんでした。また、一致するユーザーをすべて割り当てるには、十分にスクロールしてすべてのユーザーをウィンドウに読み込んでから、ヘッダー行にあるチェックボックスをオンにしなければなりませんでした。

イネーブルメントのその他の変更

Salesforceシステム管理者、イネーブルメントチーム、コンテンツ作成者は、イネーブルメントワークフロー全体でその他の機能強化のメリットを得られます。

イネーブルメントシステム管理者とイネーブルメントユーザー権限を最新の状態に保つ

イネーブルメントプログラムに完全に関与するのに必要な最新の権限が会社のイネーブルメントチームメンバーに付与されることを確認します。デフォルトのイネーブルメント権限セットは、名前が変更されて、新しいデフォルト権限セットグループに含められます。新しい権限セットグループでは、会社でのユーザーのロールごとに機能へのアクセスが整理されます。これらの権限セットグループには、アプリケーション内ガイダンスの管理やアクセスに関連する権限セットも含まれます。一部の個別のユーザー権限も、チームメンバーが遂行するジョブに合わせて、より適切な名前に変更されています。

対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Editions (Sales Cloud、Service Cloud、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce Platform 付属) の Lightning Experience に適用されます。イネーブルメントのアドオンライセンスが必要です。

理由: これらの権限は、次の理由によって名前が変更され、再編成されています。

- イネーブルメントプログラムの新しいフィードバック要求課題種別ではアンケートが必要であり、アンケートの管理には「設定・定義の参照」権限が必要です。この権限は、適切なユーザーにのみ付与されることを保証するため、イネーブルメントシステム管理者のデフォルトの権限セットには追加されていません。

その代わりに、この権限セットは、別途割り当てる新しいデフォルトの権限セットである「評価アンケートの管理」の一部として追加されています。

- Winter '24 では、イネーブルメントプログラム外のプロンプトやウォーカスルーにアクセスしたりこれらを管理したりするための、イネーブルメントシステム管理者用のデフォルト権限セットが追加されます。アプリケーション内ガイダンスを管理するには、ユーザーに「設定・定義の参照」権限が必要です。
- 権限セットグループにはロールベースの名前が付けられており、デフォルト権限セットの名前と競合します。

方法: イネーブルメントチームメンバーの権限を管理するときには、次の新しい名前が表示されます。

項目種別	新しい名称	以前の名称
権限	すべてのイネーブルメント機能を管理	イネーブルメントプログラムの設計および提供
	イネーブルメントプログラムの受講	イネーブルメントプログラムの受講(変更なし)
	カスタムウォーカスルーを開始	ウォーカスルーを参照
権限セット	イネーブルメントの必須要素の管理	イネーブルメントシステム管理者
	評価アンケートの管理	なし
	アプリケーション内ガイダンスの管理	なし
	イネーブルメントプログラムの使用	イネーブルメントユーザー
	カスタムウォーカスルーの使用	ウォーカスルーハーへのアクセス
権限セットグループ	イネーブルメントシステム管理者	なし
	イネーブルメントリソースマネージャー	なし
	イネーブルメントユーザー	なし

新しい「評価アンケートの管理」および「アプリケーション内ガイダンスの管理」権限セットは、新しいイネーブルメントリソース権限セットライセンスを使用します。

すべての新しい権限セットグループ、それらの権限セットと対応する権限セットライセンス、そして含まれる権限については、「関連トピック」のリンク先を参照してください。

関連トピック:

[イネーブルメントを使用したアプリケーション内ガイダンスのより簡単なロールアウト](#)

[Salesforceヘルプ:イネーブルメント権限セットグループ、権限セット、権限\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:イネーブルメントチームへの権限の割り当て\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:イネーブルメントチーム内の役割と責任\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

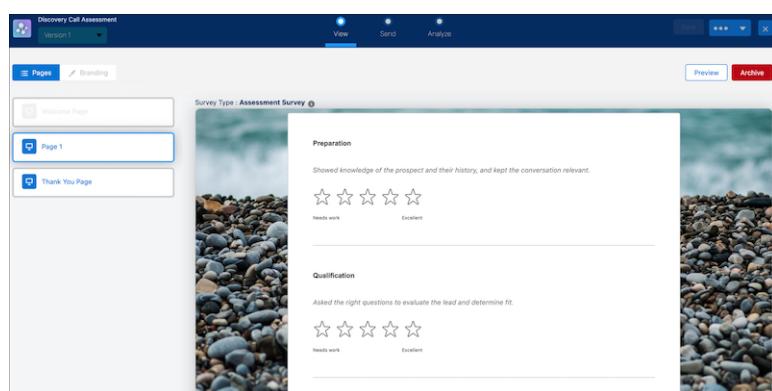
パーソナライズされた営業担当をコーチ

広く分散した営業チームでコラボレーションや非同期学習の機会を促進しましょう。フィードバック要求課題を通して、営業担当が経験豊かな同僚、マネージャー、そして会社の他のセールスリーダーからパフォーマンスのフィードバックを得られるようにします。営業担当は、ディスカバリーコールや商談交渉の記録など、仕事の実例を送信することで、レビュー担当者にフィードバックを要求できます。そしてレビュー担当者は、イネーブルメントチームが作成した評価アンケートを利用してフィードバックを返します。リーダーがフィードバックを提供したら、イネーブルメントチームは新しいフィードバック回答分析を使用して、プログラムを通じて見られる営業担当の行動の変化に関するインサイトを取得します。

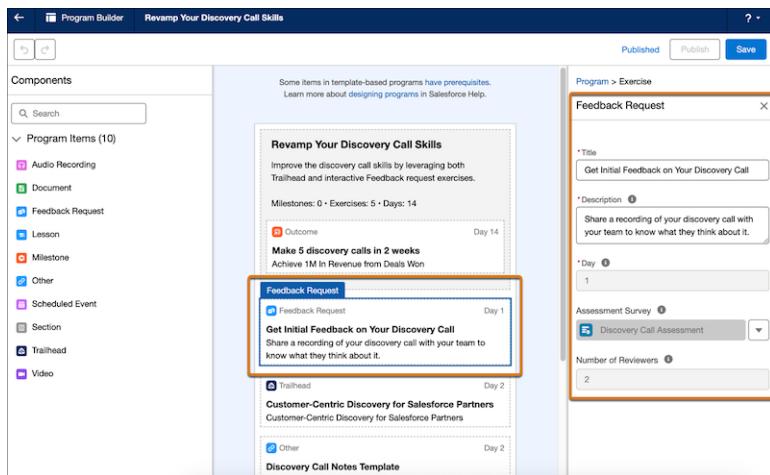
対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Editions (Sales Cloud、Service Cloud、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce Platform 付属) の Lightning Experience に適用されます。イネーブルメントのアドオンライセンスが必要です。

対象ユーザー: イネーブルメントシステム管理者、ユーザー、同僚は、フィードバック要求課題の評価アンケート、招待、回答にアクセスできます。「評価アンケートの管理」権限を持つユーザーのみが評価アンケートを作成できます。

方法: アンケートを有効にして、レビュー担当者がイネーブルメントユーザーの主要なパフォーマンスの詳細を評価するための評価アンケートをイネーブルメントシステム管理者が作成できるようにします。イネーブルメントシステム管理者は、デフォルトの Discovery Call Assessment (ディスカバリーコール評価) アンケートをコピーしてカスタマイズすることで、評価アンケートをすばやく作成できます。



イネーブルメントシステム管理者は、プログラムビルダーからフィードバック要求課題をプログラムに追加して、評価アンケートを選択します。



イネーブルメントユーザーは、ガイダンスセンターでフィードバック要求課題に遭遇したら、フィードバックが欲しい仕事のURLを追加して、レビュー担当者を選択します。レビュー担当者はアンケートへの回答を求めるメールを受け取ります。レビュー担当者がフィードバックを送信すると、イネーブルメントユーザーはガイダンスセンターでフィードバックを確認できます。

イネーブルメントシステム管理者は、新しいレポートタイプである Feedback Responses Winter '24 を使用してカスタムレポートとダッシュボードを作成することで、ユーザーの行動の変化に対するレビュー担当者の回答を分析できます。イネーブルメントシステム管理者は、Winter '24 分析フォルダーに追加された事前作成済みの新しいイネーブルメント分析リソースを使用することもできます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: フィードバック要求課題の使用開始 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: フィードバック要求課題の管理ガイドライン \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: \[ダッシュボード\] ページからのイネーブルメント Analytics の表示 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

イネーブルメント分析からマイルストーンの進行状況への深いインサイトの取得

設定されているマイルストーンに対するユーザーの進行状況をより詳細に調べます。Winter '24 フォルダーのイネーブルメント分析には、Milestone Completion Status (マイルストーン完了状況) レポート、ドーナツグラフダッシュボードウィジェットの Milestone Completion Status (マイルストーン完了状況)、そして棒グラフダッシュボードウィジェットの Milestone Completion Status by Milestone (マイルストーン別のマイルストーン完了状況) が新たに追加されています。これらのリソースにより、マイルストーンの未完、遅延、期限通りに完了、遅れて完了、期限切れ、追跡終了の状況を簡単に評価できます。以前のイネーブルメント分析には、プログラムと課題の完了状況のみが含まれていました。

対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Editions (Sales Cloud、Service Cloud、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce Platform 付属) の Lightning Experience に適用されます。イネーブルメントのアドオンライセンスが必要です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: イネーブルメント完了状況\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

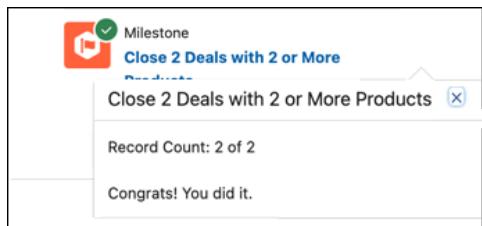
[Salesforce ヘルプ: \[ダッシュボード\] ページからのイネーブルメント Analytics の表示\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

プログラム受講中の進行状況の明確な表示

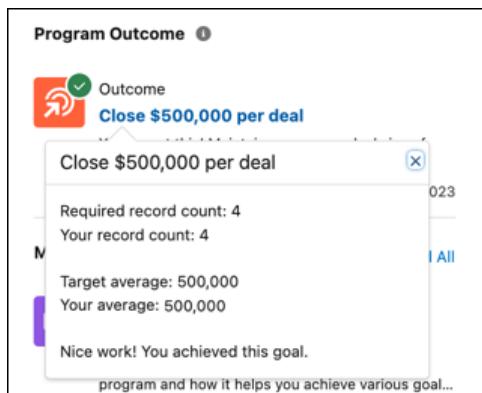
イネーブルメントユーザーは、ガイダンスセンターで結果やマイルストーンをクリックすることで、プログラムの目標を達成するために何が求められているのかを明確に知ることができます。また、これから結果やマイルストーンあるいはプログラム全体を完了してもクレジットを取得できなくいことを通知するメッセージも表示されるようになりました。以前は、進行状況の詳細は簡潔にしか表示されなかったため見落としやすく、ユーザーがクレジットが取得できなくなったことを知る方法もありませんでした。

対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Editions (Sales Cloud、Service Cloud、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce Platform 付属) の Lightning Experience に適用されます。イネーブルメントのアドオンライセンスが必要です。

方法: ユーザーがそれぞれの結果やマイルストーンタイトルをクリックすると、目標の要件と進行状況を対比させて見ることができます。レコードの件数や合計金額によって結果やマイルストーンが評価される場合は、最も新しく計算された進行状況と必要なレコード件数または合計金額との対比が表示されます。



結果やマイルストーンが平均金額で評価される場合は、レコード件数と平均の要件の両方が表示されます。



イネーブルメントが結果やマイルストーンの進行状況を追跡しなくなった場合は、Salesforceヘルプにリダイレクトされ、未追跡の項目がプログラム全体の進行状況にどのように影響するかが示されます(1)。未追跡の結果とマイルストーンには表示ラベルが付けられます(2)。

The screenshot shows a Trailhead program page titled 'Improve Your Product Discovery Calls Skills'. At the top, there is a message: 'Progress tracking has ended for some program items. Learn more in Salesforce Help'. A large orange circle labeled '1' is overlaid on the top right corner of the page.

Program Outcome (1)

Outcome: Make 5 discovery calls in 2 weeks. Progress: 12% (Due 8/21/2023). A smaller orange circle labeled '2' is overlaid on the 'No Longer Tracking' button.

Milestones & Exercises (2)

Milestone: Make your first discovery call. Status: No Longer Tracking (Due 8/21/2023). A larger orange circle labeled '2' is overlaid on this section.

Feedback Request: Get initial feedback on discovery call. Status: 0% (Due 8/21/2023).

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: イネーブルメントプログラムの受講\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: プログラム完了の分析に関する考慮事項\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

少ないクリック数でのより多くのユーザーへのイネーブルメントプログラムの割り当て

会社のイネーブルメントロールアウトの範囲をより多くのユーザーに拡張して、ロールアウトをよりすばやく実施します。プログラム割り当てウィンドウでは、プログラムに割り当てるユーザーをプロファイル、ロール、公開グループで絞り込むことができるようになりました。組織の割り当て制限内で、適用されている検索条件と一致するすべてのユーザーを1クリックで選択できます。以前は、割り当てウィンドウでは公開グループでしかユーザーを絞り込めませんでした。また、一致するユーザーをすべて割り当てるには、十分にスクロールしてすべてのユーザーをウィンドウに読み込んでから、ヘッダー行にあるチェックボックスをオンにしなければなりませんでした。

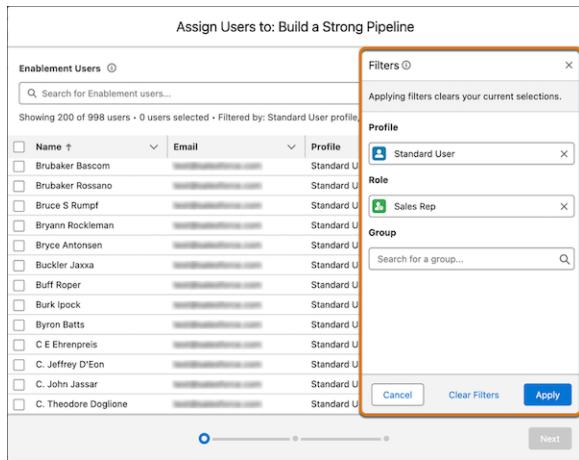
対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Editions (Sales Cloud、Service Cloud、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce Platform 付属) の Lightning Experience に適用されます。イネーブルメントのアドオンライセンスが必要です。

方法: 割り当てウィンドウに、これらの新しいオプションが表示されます。

The screenshot shows a user selection interface titled 'Assign Users to: Build a Strong Pipeline'. At the top, there's a search bar labeled 'Search for Enablement users...' and a note indicating 200 users were selected from 998 matches. Below the search bar is a table with columns: Name, Email, Profile, and Role. The table lists numerous users, all of whom are currently selected, as indicated by the checked checkboxes next to their names. The 'Profile' column shows 'Standard User' and the 'Role' column shows 'Sales Rep' for most users. At the bottom right of the table is a 'Next' button.

- 適用された検索条件の概要、適用された検索条件に一致するユーザーの数、表示されているユーザーの数、選択されているユーザーの数。
- 特定の状況で表示され、一致するユーザーを1クリックですべて選択するためのオプションを提供するバー。
- 選択されているユーザーのみを表示するオプション。
- 各ユーザーの名前、プロファイル、ロールの列。

[検索条件] パネルには、特定のプロファイルやロールを選択して割り当てウィンドウに表示される選択可能なユーザーを絞り込むための新しい項目があります。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ:イネーブルメントプログラムへのユーザーの割り当てに関するガイドライン\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:イネーブルメントプログラムへのユーザーの手動割り当て\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:イネーブルメント制限\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

イネーブルメントのその他の変更

Salesforceシステム管理者、イネーブルメントチーム、コンテンツ作成者は、イネーブルメントワークフロー全体でその他の機能強化のメリットを得られます。

対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Editions (Sales Cloud、Service Cloud、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce Platform 付属) の Lightning Experience に適用されます。イネーブルメントのアドオンライセンスが必要です。

方法:

- [設定]の[イネーブルメント]ページは「イネーブルメント設定」に名前が変わりました。このページには、権限セットグループを割り当てる、事前作成済みのレポートやダイアログボックスを更新したり、アンケートを有効化したりするための新しいステップや更新済みのステップがあります。
- デジタルエクスペリエンスアプリケーションのイネーブルメントワークスペースで、コンテンツをインポートおよびエクスポートするための Salesforce CMS 機能がサポートされるようになりました。コンテンツは zip ファイルでエクスポートでき、ワークスペースにインポートして戻すことができます。イネーブルメントワークスペースでサポートされているコンテンツタイプ(リンク、動画、リッチテキスト、画像)のみをインポートできます。
- 完了済みのマイルストーン計算ジョブは、[設定]の[バックグラウンドジョブ]ログには表示されなくなりましたが、[スケジュール済みジョブ]ページには引き続き表示されます。プログラム状況ジョブは、引き続き [スケジュール済みジョブ] ページと [バックグラウンドジョブ] ページに表示されます。
- イネーブルメントダッシュボードウィジェットの Exercise Completion by Status (状況ごとの課題完了) は、Exercise Completion Status by Exercise (課題ごとの課題完了) に名前が変更されました。

- 新しい結果ウィジェット、マイルストーンウィジェット、およびフィードバック回答ウィジェットの場所を確保するため、次のウィジェットはWinter '24 の[イネーブルメント]ダッシュボードから削除されています。これらのウィジェットの基盤となるデータは引き続き利用できるため、再構築することができます。
 - Exercise Completion Rate (課題完了率)
 - Exercise Completion Status by Section (セクションごとの課題完了状況)
 - 平均完了率を結果とマイルストーンごとに比較する [マイルストーンの進行状況] 横棒グラフ。
- イネーブルメントレポート、ダッシュボードウィジェット、または課題の完了状況が含まれるカスタムレポートタイプに、[期限切れ]という状況が追加されました。[期限切れ]は、プログラム全体の期限までに課題が完了していない場合に表示されます。以前は、各課題の期限に基づいて遅延を示す[遅延]のみが使用できました。これらの各種状況により、各課題でユーザーが守れなかった期限や、ユーザーがプログラムの終了までに課題を完了できるかどうかをより明確に知ることができます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: イネーブルメントプログラムでのデジタルエクスペリエンスコンテンツに関するガイドライン](#)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

[Salesforce ヘルプ: イネーブルメントレポートおよびダッシュボードの更新](#)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

[Salesforce ヘルプ: イネーブルメントダッシュボードおよびウィジェット](#)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

[Salesforce ヘルプ: イネーブルメントレポート](#)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

ガイダンスセンターとアプリケーション内ガイダンス

会社が理想的なオンボーディング環境をより効率的に作成、提供、微調整する場合に役立ちます。イネーブルメントプログラムとアプリケーション内ガイダンスのガバナンス戦略を調整し、トップクラスの営業担当者によるヒント、戦略、インサイトをその営業担当者が所属する営業チームに直接提供できます。

このセクションの内容:

[イネーブルメントを使用したアプリケーション内ガイダンスのより簡単なロールアウト](#)

包括的なオンボーディング戦略の一環として、プロンプト、ウォークスルー、イネーブルメントプログラムを並行して公開し、維持します。会社がイネーブルメントを使用している場合、新しいデフォルトの権限セットグループには、イネーブルメントプログラム外のアプリケーション内ガイダンスにアクセスして管理するための権限セットが含まれます。この変更により、イネーブルメントプログラムとアプリケーション内ガイダンス全体でコンテンツの作成と配信を合理化できるため、営業チームの業務フロー内で適切なリソースが常に提供されるようになります。

ウォークスルーの権限の新しい名前

会社のウォークスルーユーザーに、イネーブルメントやアプリケーション内ガイダンスの権限に対するその他の変更を周知徹底します。デフォルトの「ウォークスルーへのアクセス」権限セットは「カスタムウォークスルーを使用」という名前になり、デフォルトの「ウォークスルーを参照」権限は「カスタムウォークスルーを開始」という名前になりました。この変更は機能には影響せず、会社にイネーブルメントアドオンライセンスがない場合でも適用されます。

ガイダンスセンターでの Salesblazer コンテンツの表示

Salesforce での作業の流れに沿って提供される同僚からの最新のインサイト、専門知識、プロのヒントに関する情報を会社の営業担当に提供し、営業担当の意欲をかき立てます。ガイダンスセンターに [Salesblazer] セクションが含まれ、営業リーダー、販売者、営業業務の担当者が作成したコンテンツが表示されるようになりました。[Salesblazer] セクション内の項目をクリックすると、コンテンツが新しいブラウザタブで開きます。項目は、ソースコンテンツが更新(平均で週に 1 回更新)されるまで [Salesblazer] セクションに残ります。

イネーブルメントを使用したアプリケーション内ガイダンスのより簡単なロールアウト

包括的なオンボーディング戦略の一環として、プロンプト、ウォークスルー、イネーブルメントプログラムを並行して公開し、維持します。会社がイネーブルメントを使用している場合、新しいデフォルトの権限セットグループには、イネーブルメントプログラム外のアプリケーション内ガイダンスにアクセスして管理するための権限セットが含まれます。この変更により、イネーブルメントプログラムとアプリケーション内ガイダンス全体でコンテンツの作成と配信を合理化できるため、営業チームの業務フロー内で適切なリソースが常に提供されるようになります。

対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Editions (Sales Cloud、Service Cloud、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce Platform 付属) の Lightning Experience に適用されます。イネーブルメントのアドオンライセンスが必要です。

方法: すべての新しい権限セットグループ、それらの権限セット、含まれている権限は、「関連トピック」リンクで確認してください。

関連トピック:

[イネーブルメントシステム管理者とイネーブルメントユーザー権限を最新の状態に保つ](#)

[ウォークスルーの権限の新しい名前](#)

[Salesforce ヘルプ:イネーブルメント権限セットグループ、権限セット、権限\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンス\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ウォークスルーの権限の新しい名前

会社のウォークスルーユーザーに、イネーブルメントやアプリケーション内ガイダンスの権限に対するその他の変更を周知徹底します。デフォルトの「ウォークスルーへのアクセス」権限セットは「カスタムウォークスルーを使用」という名前になり、デフォルトの「ウォークスルーを参照」権限は「カスタムウォークスルーを開始」という名前になりました。この変更は機能には影響せず、会社にイネーブルメントアドオンライセンスがない場合でも適用されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

イネーブルメントシステム管理者とイネーブルメントユーザー権限を最新の状態に保つ

イネーブルメントを使用したアプリケーション内ガイダンスのより簡単なロールアウト

Salesforceヘルプ:イネーブルメント権限セットグループ、権限セット、権限(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

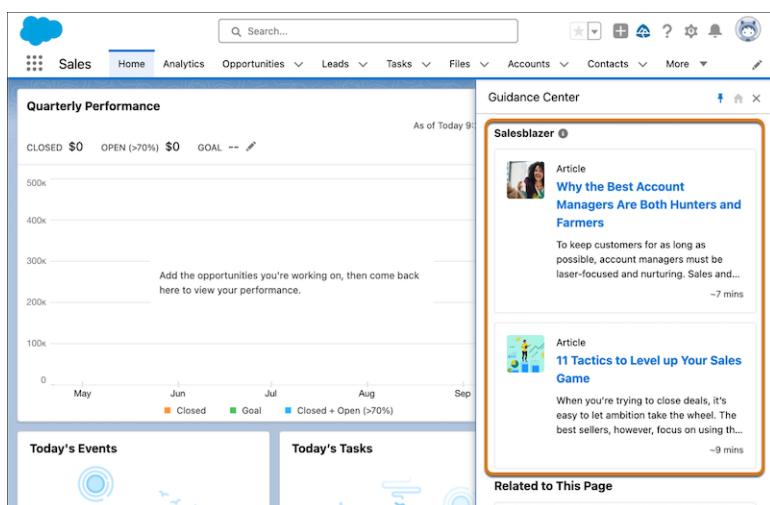
Salesforceヘルプ:Lightning Experience でのウォークスルー権限の割り当て(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

ガイダンスセンターでの Salesblazer コンテンツの表示

Salesforceでの作業の流れに沿って提供される同僚からの最新のインサイト、専門知識、プロのヒントに関する情報を会社の営業担当に提供し、営業担当の意欲をかき立てます。ガイダンスセンターに [Salesblazer] セクションが含まれ、営業リーダー、販売者、営業業務の担当者が作成したコンテンツが表示されるようになりました。[Salesblazer] セクション内の項目をクリックすると、コンテンツが新しいブラウザタブで開きます。項目は、ソースコンテンツが更新(平均で週に 1 回更新)されるまで [Salesblazer] セクションに残ります。

対象: この変更は、Starter Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [ガイダンスセンター] ページで [エンドユーザー向けの Salesforce の提案] オプションが有効になっている場合、ガイダンスセンターの [Salesblazer] セクションはすべてのユーザーが使用できます。



Salesblazer コンテンツは英語のみで使用できます。

引き続きガイダンスセンターには、Salesforceから提案されたコンテンツと、会社でのユーザーロールに基づいてユーザーが使用できるコンテンツ(学習パス内で割り当てられたガイダンスセットと項目など)が表示されます。

[Salesblazer] セクションをすべてのユーザーで非表示にするには、[設定] の [ガイダンスセンター] ページで [Salesblazer コンテンツ] を無効にします。

関連トピック:

[Salesforce: Salesblazer Web サイト](#)

[Salesforce ヘルプ: ガイダンスセンターでの Salesblazers コンテンツの無効化\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: ガイダンスセンターの探索\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Experience Cloud

任意のワークスペースの CMS コンテンツを拡張 LWR サイトと共有します。作成するすべての LWR サイトが拡張されるようになりました。拡張 LWR の他の改善点として、エクスペリエンスピルダーを使用してカスタム CSS をサイト内のどのコンポーネントにも適用できるほか、カスタムロジックを使用して柔軟な式ベースの表示ルールをコンポーネントに適用できます。また、DigitalExperiencesBundle の新しいフォルダーから、サイトのグローバルスタイルシートに簡単にアクセスして更新できます。より効率的で安全な認証方式ですべての Experience Cloud サイトにログインできます。また、Sandbox 組織を使用して、サイトのコンテンツ配信ネットワークを無効化することで本番組織にどのような影響があるかをテストできます。

このセクションの内容:

[Aura サイトと LWR サイト](#)

拡張または非拡張ワークスペースの CMS コンテンツを任意の拡張 LWR サイトと共有します。LWR サイトのキャンバスと [ページ構造] パネルとの間で調整されたインターラクションを使用して、エクスペリエンスピルダーのコンポーネントをすばやく見つけ出します。LWR サイトをより多くの言語に翻訳することにより、世界中の利用者にリーチします。Aura サイトでは、訪問者が関連リストのクイックアクションを使用して、リスト項目のレコードを作成したり、複数の関連レコードを一括更新したりできます。

[エクスペリエンスピルダーでのコンポーネント](#)

拡張 LWR サイトで、カスタムロジックを使用してコンポーネントの表示をさらに正確に制御し、カスタム CSS クラスでサイトの外観を調整します。すべての LWR サイトで、アクションバー・コンポーネントを使用してオブジェクト詳細ページにアクションのカスタムセットを追加し、訪問者がレコード詳細コンポーネントを使用してレコードを表示および編集できるようになります。

[開発者の生産性](#)

Experience Cloud サイトのデフォルトのサイト言語に関する詳しい情報を取得します。DigitalExperiencesBundle の新しいフォルダーで、拡張 LWR サイトのグローバルスタイルシートを簡単に検索して更新します。

サイトのパフォーマンス

デフォルトの CDN を Sandbox 組織で無効化することで、CDN を安全にテストします。拡張ドメインを有効化した後で、古い URL を訪問したユーザーに対して新しい URL にリダイレクトされることを知らせます。最新の iOS を搭載したデバイスで Chatter メール通知に返信します。

Experience Cloud 向け Mobile

Mobile Publisher に新機能が追加され、Experience Cloud でも利用できます。重要な変更点は次のとおりです。

セキュリティと共有

Chatter 通知を送信する際に送信者名とメールアドレスを必須にすることで、セキュリティを強化します。改善されたパスワードなしのヘッドレスログイン、簡素化されたヘッドレス登録設定、改善された認証フローパフォーマンスなど、多くの新機能を活用してください。

ContentDocumentLink を使用したすべてのファイル共有のクエリ

「すべてのファイルをクエリ」権限を持つユーザーは、ContentDocumentLink オブジェクトを照会できます。以前は、「すべてのファイルをクエリ」権限で照会されるのは ContentDocument と ContentVersion のみでした。「すべてのファイルをクエリ」権限は権限セットに属している必要があります。現在、「すべてのファイルのクエリ」と「すべてのデータの参照」権限が有効になっているユーザーは、組織のすべてのファイル(非メンバーイブラリのファイルやリストに記載しないグループのファイルを含む)を取得できるようになりました。

Aura サイトと LWR サイト

拡張または非拡張ワークスペースの CMS コンテンツを任意の拡張 LWR サイトと共有します。LWR サイトのキャンバスと [ページ構造] パネルとの間で調整されたインタラクションを使用して、エクスペリエンスビルダーのコンポーネントをすばやく見つけ出します。LWR サイトをより多くの言語に翻訳することにより、世界中の利用者にリーチします。Aura サイトでは、訪問者が関連リストの クイックアクションを使用して、リスト項目のレコードを作成したり、複数の関連レコードを一括更新したりできます。

このセクションの内容:

任意のワークスペースの CMS コンテンツの拡張 LWR サイトとの共有

拡張および非拡張 CMS ワークスペースの CMS コンテンツを任意の拡張 LWR サイトと共有できるようになりました。以前は、拡張 CMS ワークスペースのコンテンツは拡張 LWR サイトとしか共有できませんでした。

新規 LWR サイトはすべて拡張サイトに

Build Your Own (LWR) などの LWR テンプレートを選択した場合に、拡張 LWR サイトの作成からオプトアウトすることはできなくなりました。以前は、[設定] の [設定] ページの [デジタルエクスペリエンス] の下で [拡張サイトおよびコンテンツプラットフォーム] を無効化することができました。ですが、非拡張 CMS ワークスペースの CMS コンテンツも拡張 LWR サイトと共有できるようになったため、オプトアウトオプションは不要になりました。

エクスペリエンスビルダーでの LWR サイトでのコンポーネントの容易な検索

キャンバスと [ページ構造] パネルの間でインタラクションが同期され、個々のコンポーネントを簡単に検索して選択できるようになったため、すべての LWR サイトで編集がスムーズで容易になりました。また、拡張 LWR サイトでは、[ページ構造] パネルから非表示のコンポーネントを見つけ出して、1 クリックで表示することもできます。エクスペリエンスビルダーのキャンバスで、選択したコンポーネントの幅が狭い場合でも表示ラベル全体が表示されるようになったため、コンポーネントを識別しやすくなりました。

さらに多くの言語への LWR サイトの翻訳

サイトの対象をより多くの利用者に広げます。サイトは、25か国語に翻訳できるようになりました。以前は10か国語にしか翻訳できませんでした。

Aura サイトでの関連リストでのクリックアクションの使用(正式リリース)

Lightning Experience の関連リストに追加するクリックアクションが、Aura エクスペリエンスビルダーサイトでも利用できるようになりました。クリックアクションは、[関連リスト - 1つ] コンポーネント上や、ユーザーが関連レコードリストコンポーネントで [すべて表示] をクリックしたときに表示されます。クリックアクションにより、Aura サイトのユーザーはページから離れずにリストの項目の関連レコードを作成できます。また、一度に最大100件のレコードを一括更新できます。

Salesforce PRM でのパイプラインインスペクションへのエンゲージ

パートナーポータルでパイプラインインスペクションを使用して商談を表示することで、商談管理を強化します。パイプラインインスペクションは、ポータルを作成または修正するときに有効化できます。

任意のワークスペースの CMS コンテンツの拡張 LWR サイトとの共有

拡張および非拡張 CMS ワークスペースの CMS コンテンツを任意の拡張 LWR サイトと共有できるようになりました。以前は、拡張 CMS ワークスペースのコンテンツは拡張 LWR サイトとしか共有できませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする LWR サイトに適用されます。

関連トピック:

CMS ワークスペースから拡張 LWR サイトへのコンテンツの公開

新規 LWR サイトはすべて拡張サイトに

Build Your Own (LWR) などの LWR テンプレートを選択した場合に、拡張 LWR サイトの作成からオプトアウトすることはできなくなりました。以前は、[設定] の [設定] ページの [デジタルエクスペリエンス] の下で [拡張サイトおよびコンテンツプラットフォーム] を無効化することができました。ですが、非拡張 CMS ワークスペースの CMS コンテンツも拡張 LWR サイトと共有できるようになったため、オプトアウトオプションは不要になりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする LWR サイトに適用されます。

関連トピック:

Experience Cloud Developer Guide (Experience Cloud 開発者ガイド): 拡張 LWR サイトへの移行時のリリースの問題の回避 (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Salesforce ヘルプ: 拡張サイトおよびコンテンツプラットフォームとは? (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

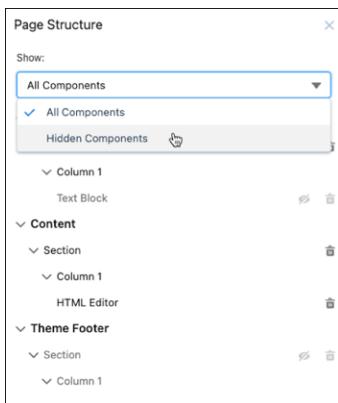
エクスペリエンスビルダーでの LWR サイトでのコンポーネントの容易な検索

キャンバスと[ページ構造]パネルの間でインタラクションが同期され、個々のコンポーネントを簡単に検索して選択できるようになったため、すべての LWR サイトで編集がスムーズで容易になりました。また、拡張 LWR サイトでは、[ページ構造]パネルから非表示のコンポーネントを見つけ出して、1クリックで表示することもできます。エクスペリエンスビルダーのキャンバスで、選択したコンポーネントの幅が狭い場合でも表示ラベル全体が表示されるようになったため、コンポーネントを識別しやすくなりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

方法: LWR サイトの[ページ構造]パネルでコンポーネントをクリックすると、エクスペリエンスビルダーはキャンバスをスクロールしてそのコンポーネントを表示し、そのコンポーネントのプロパティパネルを開きます。キャンバス上でコンポーネントをクリックすると、[ページ構造]パネルがそのコンポーネントまでスクロールします。

拡張 LWR サイトの [ページ構造] パネルで非表示のコンポーネントを見つけ出すには、[表示] ドロップダウンリストから [非表示のコンポーネント] を選択します。コンポーネント名の横にある眼のアイコンをクリックすることで、パネルから直接コンポーネントを表示することもできます。



さらに多くの言語への LWR サイトの翻訳

サイトの対象をより多くの利用者に広げます。サイトは、25 か国語に翻訳できるようになりました。以前は 10 か国語にしか翻訳できませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[LWR Sites for Experience Cloud \(Experience Cloud の LWR サイト\): Create a Multilingual LWR Site \(マルチ言語 LWR サイトの作成\) \(リリースレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Aura サイトでの関連リストでのクイックアクションの使用 (正式リリース)

Lightning Experience の関連リストに追加するクイックアクションが、Aura エクスペリエンスビルダーサイトでも利用できるようになりました。クイックアクションは、[関連リスト-1つ]コンポーネント上や、ユーザーが関連レコードリストコンポーネントで[すべて表示]をクリックしたときに表示されます。クイックアクションにより、Aura サイトのユーザーはページから離れずにリストの項目の関連レコードを作成できます。また、一度に最大 100 件のレコードを一括更新できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[実現した IdeaExchange: 関連リストでの一括クイックアクションを使用した時間の節約 \(正式リリース\)](#)

Salesforce PRM でのパイプラインインスペクションへのエンゲージ

パートナーポータルでパイプラインインスペクションを使用して商談を表示することで、商談管理を強化します。パイプラインインスペクションは、ポータルを作成または修正するときに有効化できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする [Aura サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce パートナーリレーション管理と PRM for Slack](#)

エクスペリエンスビルダーでのコンポーネント

拡張 LWR サイトで、カスタムロジックを使用してコンポーネントの表示をさらに正確に制御し、カスタム CSS クラスでサイトの外観を調整します。すべての LWR サイトで、アクションバーコンポーネントを使用してオブジェクト詳細ページにアクションのカスタムセットを追加し、訪問者がレコード詳細コンポーネントを使用してレコードを表示および編集できるようになります。

このセクションの内容:

[拡張 LWR サイトでのコンポーネントのバリエーションの作成 \(ベータ\)](#)

コンポーネントのバリエーションを LWR サイトでも利用できるようになりました。同じコンポーネントの複数バージョンを作成し、表示ルールを使用してユーザーごとに表示するバージョンを決定します。バリエーションは、デフォルトのコンポーネントからプロパティを継承し、表示ルールが追加されるまでドラフト状態のままになります。表示ルールを追加すると、バリエーションはドラフト状態から移行し、優先順位を設定できるようになります。

[式ベースの表示ルールでのカスタムロジックの使用](#)

拡張 LWR サイトで使用できる表示ルールがさらに柔軟になりました。同じルールで 2 つの演算子を使用できるようになりました。以前は、1 つのルールでは AND 演算子か OR 演算子のどちらかで条件を追加することしかできませんでした。

拡張 LWR サイトの [新規スタイル] タブからコンポーネントへのカスタム CSS の適用

LWR サイトのすべての Lightning Web コンポーネントで利用できる新しい CSS クラスプロパティを使用すると、CSS-savvy サイトビルダーで各コンポーネントのスタイルをより詳細に制御できるようになります。サイトのヘッドマークアップで CSS クラスを定義して、サイトで作成したカスタム Lightning Web コンポーネントも含め、どのコンポーネントにも容易に適用できます。CSS クラスプロパティは、コンポーネントプロパティパネルで名前が変更された [スタイル] タブに表示されます。[スタイル] タブの以前の名前は [スペーシング] で、この追加機能を強調するために名前が変更されました。

ナレッジ検索結果でのより多くの項目の表示

[検索結果] ページに表示される追加のナレッジ項目をカスタマイズできるようになりました。以前は、ナレッジ記事を検索した場合の [検索結果] ページには、タイトルと概要のみが表示されていました。

アクションバー・コンポーネントによる LWR サイトのさらなる活用 (正式リリース)

サイトユーザーは、LWR サイトから直接 Salesforce レコードを作成および更新できるようになりました。アクションバー・コンポーネントを使用して、オブジェクト詳細ページにアクションのカスタムセットを追加し、サイトのブランド設定に合わせてバーのスタイルを設定します。この機能は、前回のリリースからの改善を含んでおり、今回正式リリースとなります。より多くのオブジェクト詳細ページで、アクションバー・コンポーネントが [コンポーネント] パレットにデフォルトで表示されるようになりました。また、コンポーネントプロパティの表示ラベルが少し改善されたことで、使いやすさが向上しています。

LWR サイトでのレコードの詳細コンポーネントを使用した、より多くのレコードの表示と編集 (正式リリース)

顧客とパートナーは LWR サイトでレコードの詳細コンポーネントを使用して Salesforce レコードを表示および編集できます。たとえば、パートナーは商談レコードを更新して、顧客は自分の取引先情報にアクセスできます。このコンポーネントにはユーザーのプロファイルに割り当てられたページレイアウトが表示されます。レコードの詳細コンポーネントは、多くの標準オブジェクトページとすべてのカスタムオブジェクトページで正式リリースされました。

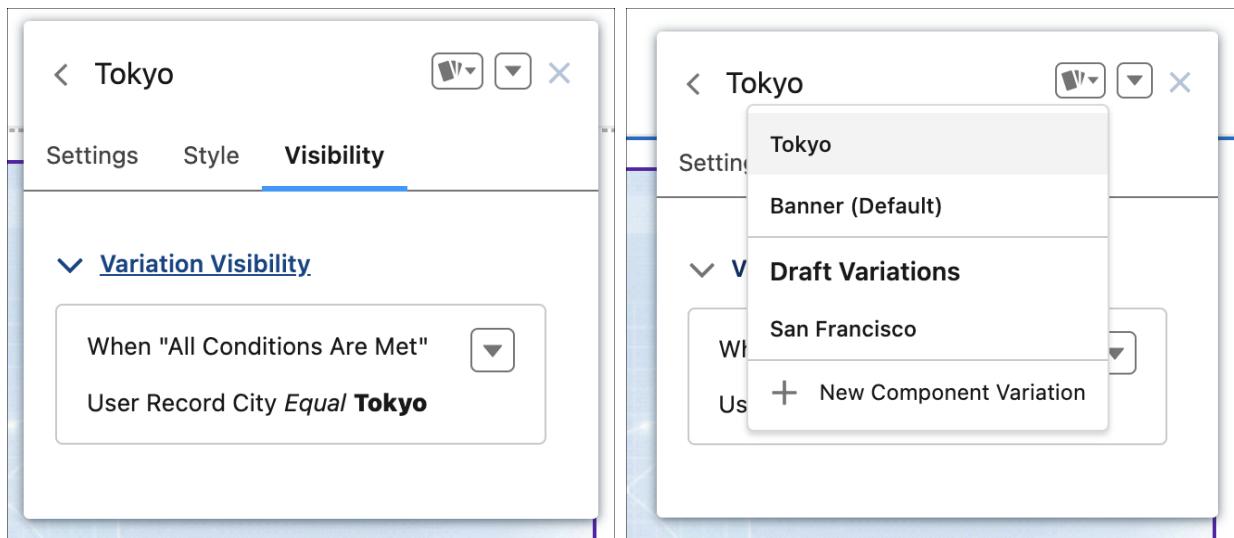
拡張 LWR サイトでのコンポーネントのバリエーションの作成 (ベータ)

コンポーネントのバリエーションを LWR サイトでも利用できるようになりました。同じコンポーネントの複数バージョンを作成し、表示ルールを使用してユーザーごとに表示するバージョンを決定します。バリエーションは、デフォルトのコンポーネントからプロパティを継承し、表示ルールが追加されるまでドラフト状態のままになります。表示ルールを追加すると、バリエーションはドラフト状態から移行し、優先順位を設定できるようになります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする LWR サイトに適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。
ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

理由: 異なるロケーションの顧客に異なるバナー画像を表示するには、バリエーションを作成して、ユーザー ロケーションに割り当つればよいのです。1つのコンポーネントに複数のバリエーションがある場合は、優先順序を指定できます。すべての条件と一致するバリエーションが複数存在する場合には、優先順序によって表示するバリエーションを決定します。サイトでバリエーションの表示ルールが適用されない場合は、デフォルトのコンポーネントが表示されます。各バリエーションをユニークにするには、設定とスタイルを変更します。



方法: バリエーションを作成するには、コンポーネントに移動します。[コンポーネントのバリエーション] ドロップダウンを選択し、[コンポーネントの新しいバリエーション]を選択します。表示ルールを追加してバリエーションを公開します。コンポーネントにバリエーションがある場合は、紫のコンポーネントヘッダーにバリエーションアイコンが表示されます。



式ベースの表示ルールでのカスタムロジックの使用

拡張LWRサイトで使用できる表示ルールがさらに柔軟になりました。同じルールで2つの演算子を使用できるようになりました。以前は、1つのルールでは AND 演算子か OR 演算子のどちらかで条件を追加することしかできませんでした。

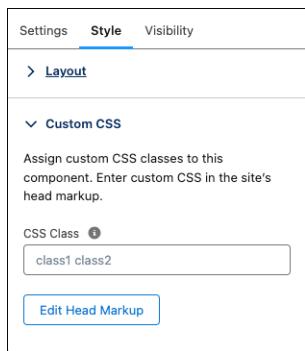
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

拡張 LWR サイトの [新規スタイル] タブからコンポーネントへのカスタム CSS の適用

LWR サイトのすべての Lightning Web コンポーネントで利用できる新しい CSS クラスプロパティを使用すると、CSS-savvy サイトビルダーで各コンポーネントのスタイルをより詳細に制御できるようになります。サイトのヘッドマークアップで CSS クラスを定義して、サイトで作成したカスタム Lightning Web コンポーネントも含め、どのコンポーネントにも容易に適用できます。CSS クラスプロパティは、コンポーネントプロパティパネルで名前が変更された [スタイル] タブに表示されます。[スタイル] タブの以前の名前は [スペーシング] で、この追加機能を強調するために名前が変更されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

方法: コンポーネントプロパティパネルに CSS クラスを入力します。CSS マークアップを追加または編集するには、ヘッドマークアップエディターを開きます。クラスは、コンポーネントのホスト要素に適用されます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ページの <head>へのマークアップの追加によるエクスペリエンスビルダーサイトのカスタマイズ\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[LWR Sites for Experience Cloud \(Experience Cloud の LWR サイト\): Override Component Branding with Custom CSS \(カスタム CSS を使用したコンポーネントブランド設定の上書き\)\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ナレッジ検索結果でのより多くの項目の表示

[検索結果] ページに表示される追加のナレッジ項目をカスタマイズできるようになりました。以前は、ナレッジ記事を検索した場合の [検索結果] ページには、タイトルと概要のみが表示されていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

方法: オブジェクトマネージャーで、検索レイアウトを使用して、表示するナレッジ項目を指定します。

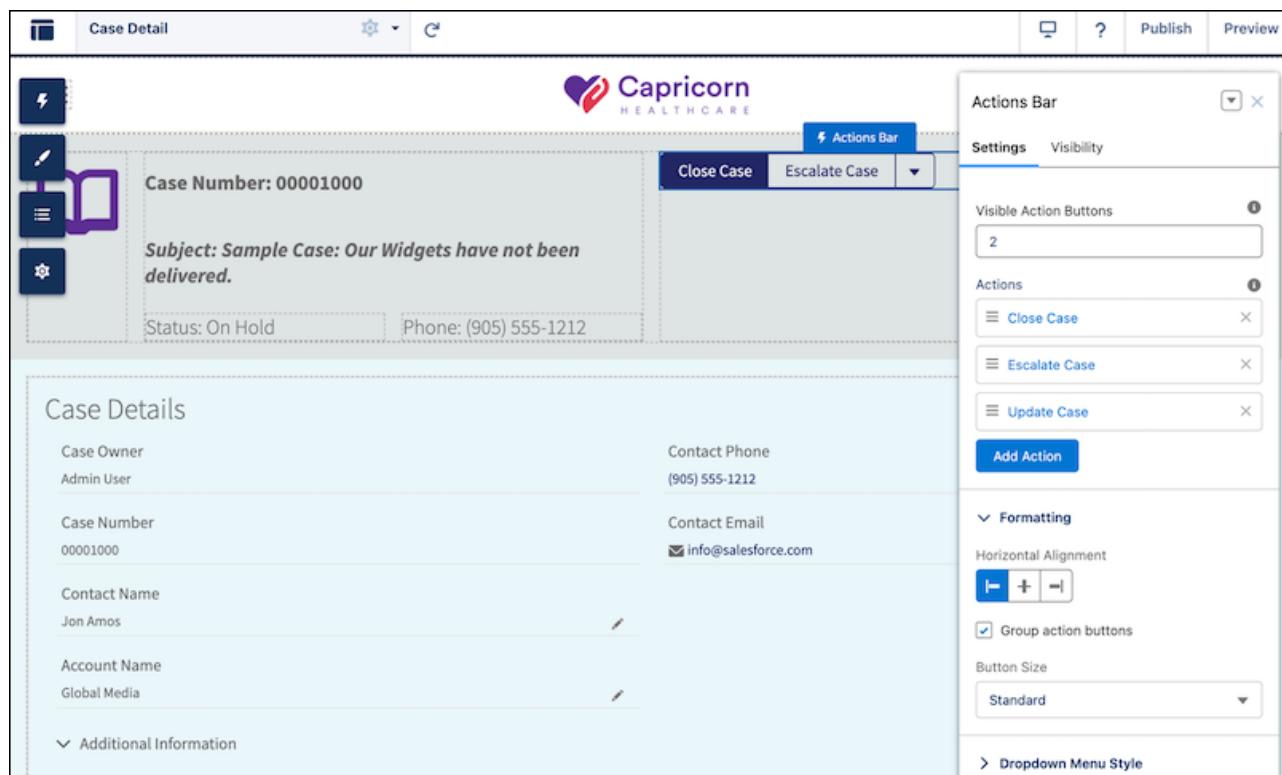
Knowledge Article	Published Date	Summary
Add emails to Salesforce records from the 'Salesforce for Outlook' Side Panel	7/6/2023, 2:57 AM	Learn how use SFO to add emails to Salesforce records that accept Tasks.
Assignment rules do not send notification emails for Leads or Cases created via API	7/6/2023, 2:57 AM	Learn why, when a Lead or Case is created by the API and the Assignment Rules are triggered, the record assigns as expected but no assignment notification email is sent.
Mass Email Best Practices	6/10/2023, 9:22 AM	Learn how to ensure your mass emails are delivered.
Salesforce 'Email Relay' with Office 365	6/10/2023, 9:24 AM	Learn how 'Email Relay' is not an out-of-the-box functionality in Salesforce.

アクションバーコンポーネントによる LWR サイトのさらなる活用 (正式リリース)

サイトユーザーは、LWR サイトから直接 Salesforce レコードを作成および更新できるようになりました。アクションバーコンポーネントを使用して、オブジェクト詳細ページにアクションのカスタムセットを追加し、サイトのブランド設定に合わせてバーのスタイルを設定します。この機能は、前回のリリースからの改善を含んでおり、今回正式リリースとなります。より多くのオブジェクト詳細ページで、アクションバーコンポーネントが[コンポーネント]パレットにデフォルトで表示されるようになりました。また、コンポーネントプロパティの表示ラベルが少し改善されたことで、使いやすさが向上しています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。この機能を使用するには、組織に少なくとも 1 つの有効な [コミュニティライセンス](#) が必要です。

方法: アクションバーコンポーネントをオブジェクト詳細ページの任意の場所にドラッグし、アクションをバーに追加します。アクションバーコンポーネントは、[編集] 標準アクションと [レコードを作成] および [レコードを更新] クイックアクション、そしてヘッダレス Lightning Web コンポーネントクイックアクションをサポートします。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Build Your Own \(LWR\) テンプレートの標準コンポーネント \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: LWR サイトのアクションバーに関する考慮事項 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

LWR サイトでのレコードの詳細コンポーネントを使用した、より多くのレコードの表示と編集 (正式リリース)

顧客とパートナーは LWR サイトでレコードの詳細コンポーネントを使用して Salesforce レコードを表示および編集できます。たとえば、パートナーは商談レコードを更新して、顧客は自分の取引先情報にアクセスできます。このコンポーネントにはユーザーのプロファイルに割り当てられたページレイアウトが表示されます。レコードの詳細コンポーネントは、多くの標準オブジェクトページとすべてのカスタムオブジェクトページで正式リリースされました。

対象: この変更は、有効な Experience Cloud ライセンスがある Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする LWR サイトに適用されます。

方法: オブジェクト詳細ページを開いて、コンポーネントをコンポーネントパレットの [レコード] セクションからページにドラッグします。サポートされる標準オブジェクトページのリストは、「[エクスペリエンスビルダーテンプレートの標準のコンポーネントおよびページでサポートされるオブジェクト](#)」を参照してください。リストには、メモオブジェクト、レポートオブジェクト、サービスレポートオブジェクトが含まれていますが、レコードの詳細コンポーネントでは使用できません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Build Your Own \(LWR\) テンプレートの標準コンポーネント \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

開発者の生産性

Experience Cloud サイトのデフォルトのサイト言語に関する詳しい情報を取得します。DigitalExperienceBundle の新しいフォルダーで、拡張 LWR サイトのグローバルスタイルシートを簡単に検索して更新します。

このセクションの内容:

[拡張 LWR サイトでのより簡単なグローバルスタイルの追加](#)

DigitalExperienceBundle の新しいフォルダーには、サイトのグローバルサイトスタイルシートが追加され、拡張 LWR サイトでグローバルスタイルに容易にアクセスして編集や参照を行えるようになりました。

[Lightning Web コンポーネントでのデフォルトのサイト言語に関する情報の取得](#)

@salesforce/site モジュールで activeLanguages プロパティを使用してサイト言語のリストを取得した場合に、デフォルトのサイト言語が 'default: true' 属性で示されるようになりました。以前は、返されたリストではどの言語がサイトのデフォルトであるかはわかりませんでした。

[LWR サイトでの動的リダイレクトルールの使用 \(正式リリース\)](#)

動的ルールを使用すると、コーディングなしでユーザーをサイトから LWR サイトの URL にリダイレクトできます。パターンを使用してサイトから URL を識別して LWR サイトにリダイレクトする動的 URL リダイレクトルールを設定します。特定のカテゴリの URL など、大量の類似する URL をリダイレクトするには、対応付けルールを使用します。

LWR サイトでの LWS による静的リソースの保護

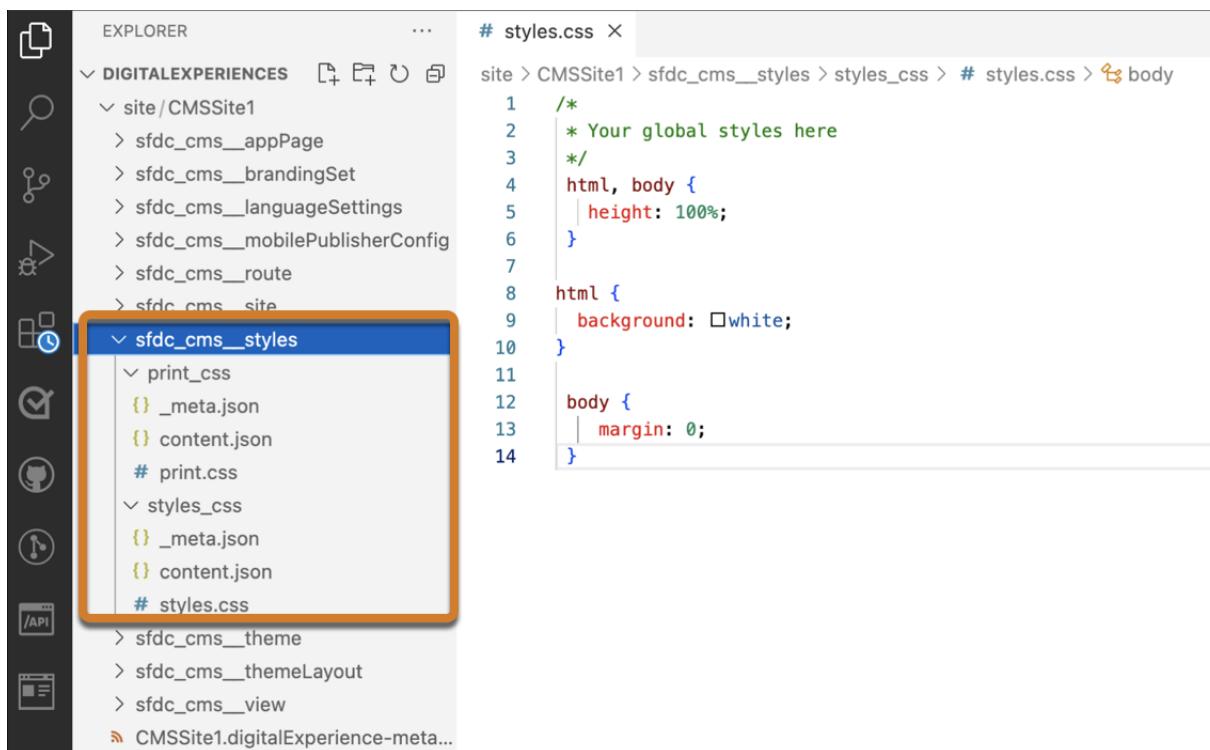
`lightning/platformResourceLoader` を介して読み込まれたコードが LWR サイトの Lightning Web セキュリティ (LWS) で実行されるようになりました。つまり、この変更により、`loadScript` 関数で、カスタム Lightning Web コンポーネントが実行される Sandbox に静的リソースコードが読み込まれます。以前は、LWR サイトで静的リソースを使用する場合、コードがコンポーネントの名前空間 Sandbox に確実に読み込まれるように独自の `loadScript` 関数を実装していました。

拡張 LWR サイトでのより簡単なグローバルスタイルの追加

DigitalExperienceBundle の新しいフォルダーには、サイトのグローバルサイトスタイルシートが追加され、拡張 LWR サイトでグローバルスタイルに容易にアクセスして編集や参照を行えるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

方法: Winter '24 で Your Own (LWR) テンプレートを使用して作成した拡張 LWR サイトでは、DigitalExperienceBundle の新しい `sfdc_cms__styles` フォルダーに `styles.css` と `print.css` というスタイルシートがあります。`styles.css` を使用すると、サイト全体にカスケードされるグローバルスタイルをすばやく定義して更新できます。また、`print.css` を使用すると、サイトの訪問者が判読可能なサイトページのビューを印刷できるようになります。



拡張 Build Your Own (LWR) サイトのデフォルトでは、これらのスタイルシートがサイトのヘッドマークアップで参照されます。他の拡張 LWR サイトでは、DigitalExperienceBundle で `sfdc_cms__styles` フォルダーがサポートされるため、必要に応じてこのフォルダーに自分のグローバルスタイルシートを追加して、サイトのヘッドマークアップで参照できます。

Head Markup

For security purposes, we allow only specific tags, attributes, and values in the <head> section. [Learn More](#)

```

1 <meta charset="UTF-8" />
2 <meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1" />
3 <title>Welcome to LWC Communities!</title>
4
5 <link rel="stylesheet" href="{ 'styles/styles.css' }" />
6 <link rel="stylesheet" href="{ 'styles/print.css' }" media="print"/>
7
8 <link rel="stylesheet" href="{ basePath }/assets/styles/salesforce-lightning-des
9
10 <link rel="stylesheet" href="{ basePath }/assets/styles/dxp-site-spacing-styling
11 <link rel="stylesheet" href="{ basePath }/assets/styles/dxp-styling-hooks.min.cs
12 <link rel="stylesheet" href="{ basePath }/assets/styles/dxp-slds-extensions.min.

```

Lightning Web コンポーネントでのデフォルトのサイト言語に関する情報の取得

@salesforce/site モジュールで activeLanguages プロパティを使用してサイト言語のリストを取得した場合に、デフォルトのサイト言語が 'default: true' 属性で示されるようになりました。以前は、返されたリストではどの言語がサイトのデフォルトであるかはわかりませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#) と [LWR サイト](#) に適用されます。

LWR サイトでの動的リダイレクトルールの使用 (正式リリース)

動的ルールを使用すると、コーディングなしでユーザーをサイトから LWR サイトの URL にリダイレクトできます。パターンを使用してサイトから URL を識別して LWR サイトにリダイレクトする動的 URL リダイレクトルールを設定します。特定のカテゴリの URL など、大量の類似する URL をリダイレクトするには、対応付けルールを使用します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Aura および LWR サイトページへのユーザーのリダイレクトページ \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

LWR サイトでの LWS による静的リソースの保護

lightning/platformResourceLoader を介して読み込まれたコードが LWR サイトの Lightning Web セキュリティ (LWS) で実行されるようになりました。つまり、この変更により、loadScript 関数で、カスタム Lightning Web コンポーネントが実行される Sandbox に静的リソースコードが読み込まれます。以前は、LWR サイトで静的リソースを使用する場合、コードがコンポーネントの名前空間 Sandbox に確実に読み込まれるように独自の loadScript 関数を実装していました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

理由: lightning/platformResourceLoader の loadScript と loadStyle API が LWS で作成された名前空間 Sandbox で実行されるようになりました。コンポーネントは静的リソースを介して追加されたグローバル API にアクセスできますが、グローバル上で行われたオブジェクトの変異は Sandbox の外部には反映されません。

方法: コンポーネントで静的リソースが使用され、LWR サイトで正しく実行されない場合、LWS ツールを使用して問題を見つけることができます。『[Lightning Web セキュリティのツールサポート](#)』および『[Lightning Web セキュリティのトラブルシューティング](#)』を参照してください。

または、lightning/platformResourceLoader を使用する代わりに、ヘッドマークアップに特権スクリプトタグを使用してスクリプトを読み込むことを検討してください。『[Integrate Third-Party Libraries Using the Privileged Script Tag \(特権スクリプトタグを使用したサードパーティライブラリの統合\)](#)』を参照してください。

サイトのパフォーマンス

デフォルトの CDN を Sandbox 組織で無効化することで、CDN を安全にテストします。拡張ドメインを有効化した後で、古い URL を訪問したユーザーに対して新しい URL にリダイレクトされることを知らせます。最新の iOS を搭載したデバイスで Chatter メール通知に返信します。

このセクションの内容:

[Sandbox 組織での拡張ドメインの Experience Cloud CDN の無効化](#)

サイトの Experience Cloud コンテンツ配信ネットワーク (CDN) を本番組織で無効化する前に、Sandbox 組織で無効化して、悪影響がないか確認するようになりました。以前は、Experience Cloud CDN からオプトアウトするにはサポートに連絡する必要があり、本番サイトに影響する前に変更をテストすることはできませんでした。

[Force.com サイト URL からのリダイレクト時のユーザーへのアラート](#)

拡張ドメインを有効化すると、以前の *.force.com サイトの URL にアクセスした訪問者は *.my.site.com の URL にリダイレクトされます。訪問者が古いブックマークとリンクを更新しやすいように、リダイレクトされる前に、新しい URL を通知するメッセージを表示するように設定します。

[iOS デバイスを使用している場合の Chatter メール通知への返信](#)

iOS 16 以降のデバイスから Chatter メール通知に返信してもエラーが返されなくなりました。以前は、メッセージが送信されずにエラーが返されていました。

Sandbox 組織での拡張ドメインの Experience Cloud CDN の無効化

サイトの Experience Cloud コンテンツ配信ネットワーク (CDN) を本番組織で無効化する前に、Sandbox 組織で無効化して、悪影響がないか確認するようになりました。以前は、Experience Cloud CDN からオプトアウトするにはサポートに連絡する必要があり、本番サイトに影響する前に変更をテストすることはできませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#) と [LWR サイト](#) に適用されます。

方法: *.my.site.com ドメインには、Experience Cloud CDN がデフォルトで含まれます。拡張ドメインで CDN を無効化することが組織にどのように影響するかをテストするには、Sandbox 組織の [私のドメイン] 設定で [Experience Cloud サイトで拡張ドメインが有効になっている場合、デフォルトでコンテンツ配信ネットワーク (CDN) を使用します] を選択解除します。

Force.com サイト URL からのリダイレクト時のユーザーへのアラート

拡張ドメインを有効化すると、以前の *.force.com サイトの URL にアクセスした訪問者は *.my.site.com の URL にリダイレクトされます。訪問者が古いブックマークとリンクを更新しやすいように、リダイレクトされる前に、新しい URL を通知するメッセージを表示するように設定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[\[私のドメイン\] のリダイレクト中のユーザーへの通知](#)

iOS デバイスを使用している場合の Chatter メール通知への返信

iOS 16 以降のデバイスから Chatter メール通知に返信してもエラーが返されなくなりました。以前は、メッセージが送信されずにエラーが返されていました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

Experience Cloud 向け Mobile

Mobile Publisher に新機能が追加され、Experience Cloud でも利用できます。重要な変更点は次のとおりです。

このセクションの内容:

[Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションの URL とロケーションベースのプッシュ通知の設定](#)

Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションが URL を開く場合のデフォルトの方法を設定できるようになりました。アプリケーション内ブラウザー、外部ブラウザー、またはアプリケーションの Web ビューと Cookie を共有するアプリケーション内ブラウザーで開くリンクを開くようにアプリケーションを設定できます。さらに、Mobile Publisher の設定に、ジオフェンスに基づいて Marketing Cloud のプッシュ通知を有効化するための項目も追加され、デバイスが特定の場所の境界内に入ったり境界外に出たりしたときに通知をトリガーできるようになりました。

Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションの URL とロケーションベースのプッシュ通知の設定

Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションが URL を開く場合のデフォルトの方法を設定できるようになりました。アプリケーション内ブラウザー、外部ブラウザー、またはアプリケーションの Web ビューと Cookie を共有するアプリケーション内ブラウザーで開くリンクを開くようにアプリケーションを設定できます。さらに、Mobile Publisher の設定に、ジオフェンスに基づいて Marketing Cloud のプッシュ通知を有効化するための項目も追加され、デバイスが特定の場所の境界内に入ったり境界外に出たりしたときに通知をトリガーできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で [Aura](#) および [LWR サイト](#) 向け Mobile Publisher を使用して作成されたアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

[Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションから URL を開く方法のデフォルトの設定\(パイロット\)](#)

[Experience Cloud アプリケーションのジオフェンスベースのプッシュ通知の送信](#)

セキュリティと共有

Chatter 通知を送信する際に送信者名とメールアドレスを必須にすることで、セキュリティを強化します。改善されたパスワードなしのヘッレスログイン、簡素化されたヘッレス登録設定、改善された認証フローパフォーマンスなど、多くの新機能を活用してください。

このセクションの内容:

[Chatter メール通知を送信するときのメールアドレスの必須化\(リリース更新\)](#)

データセキュリティを強化するため、Chatter メール通知を引き続き送信するには、システム管理者は検証済みメールアドレスを指定する必要があります。

[改善された新しいヘッレス ID 機能の活用](#)

ゲストユーザー向けのパスワード不要のログインフローを使用して、ヘッレス ID 実装を仕上げます。セキュリティを高めるオプションとして、すべてのヘッレス ID フローで reCAPTCHA Enterprise を使用できます。ヘッレス登録ハンドラー用の Apex クラステンプレートを生成して、設定プロセスを簡素化します。そしてヘッレス登録用の新しいメールテンプレートを使用して、ブランド設定を微調整します。ヘッレス ID API は Experience Cloud を介して公開されるため、ユーザーが直接 Experience Cloud サイトを操作しない場合でも、Experience Cloud を使用してオフプラットフォームアプリケーションに接続します。

[JSONWeb トークンベースのアクセストークンを使用した認証フローのパフォーマンスの改善\(正式リリース\)](#)

Experience Cloud サイトとオフプラットフォームアプリケーションとの間の認証フローの効率を高めるために、接続アプリケーションで JSON Web トークン (JWT) ベースのアクセストークンを発行できるようにします。JWT ベースのアクセストークンは、正式リリースされ、Salesforce REST API へのアクセスでサポートされます。

Chatter メール通知を送信するときのメールアドレスの必須化(リリース更新)

データセキュリティを強化するため、Chatter メール通知を引き続き送信するには、システム管理者は検証済みメールアドレスを指定する必要があります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Winter '24 の時点で、[Chatter のメール設定] の [メールアドレス] 項目が空白になっている組織から Chatter メールは送信されなくなります。

[設定] > [Chatter] > [メール設定] に移動して、[メールアドレス] 項目に有効な値を入力します。確認メールに記載されているリンクをクリックし、有効なメールアドレスを使用していることを確認します。

この更新の詳細を確認するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。「Chatter メール通知を送信するときのメールアドレスの必須化」の手順を実行します。

改善された新しいヘッドレス ID 機能の活用

ゲストユーザー向けのパスワード不要のログインフローを使用して、ヘッドレス ID 実装を仕上げます。セキュリティを高めるオプションとして、すべてのヘッドレス ID フローで reCAPTCHA Enterprise を使用できます。ヘッドレス登録ハンドラー用の Apex クラステンプレートを生成して、設定プロセスを簡素化します。そしてヘッドレス登録用の新しいメールテンプレートを使用して、ブランド設定を微調整します。ヘッドレス ID API は ExperienceCloud を介して公開されるため、ユーザーが直接 ExperienceCloud サイトを操作しない場合でも、Experience Cloud を使用してオフプラットフォームアプリケーションに接続します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#)、[Aura サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

- [ゲストユーザー ID を使用したユーザーの好みの理解](#)
- [ヘッドレスアプリケーションのログイン環境の合理化](#)
- [reCAPTCHA Enterprise を使用したヘッドレス ID 実装の保護](#)
- [ヘッドレス登録ハンドルーテンプレートを使用した設定の簡素化](#)
- [ヘッドレス登録用のメールテンプレートのカスタマイズ](#)

JSON Web トークンベースのアクセストークンを使用した認証フローのパフォーマンスの改善 (正式リリース)

Experience Cloud サイトとオフプラットフォームアプリケーションとの間の認証フローの効率を高めるために、接続アプリケーションで JSON Web トークン (JWT) ベースのアクセストークンを発行できるようにします。JWT ベースのアクセストークンは、正式リリースされ、Salesforce REST API へのアクセスでサポートされます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#)、[Aura サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

- [JSON Web トークン \(JWT\) ベースのアクセストークンの正式リリース](#)

ContentDocumentLink を使用したすべてのファイル共有のクエリ

「すべてのファイルをクエリ」権限を持つユーザーは、ContentDocumentLink オブジェクトを照会できます。以前は、「すべてのファイルをクエリ」権限で照会されるのは ContentDocument と ContentVersion のみでした。「すべてのファイルをクエリ」権限は権限セットに属している必要があります。現在、「すべてのファイルのクエリ」と「すべてのデータの参照」権限が有効になっているユーザーは、組織のすべてのファイル (非メンバーライブラリのファイルやリストに記載しないグループのファイルを含む) を取得できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 権限を有効にするには、編集用の権限セットを開くか、新しい権限を作成します。次に、[アプリケーション権限] > [編集] をクリックして、「すべてのファイルをクエリ」権限名を選択します。変更内容を保存します。

Field Service

忙しいチームの時間と業務量を管理します。また、フローを使用して、高度なスケジュール設定および最適化エンジンに簡単に移行します。更新されたガントチャートとユーザー エクスペリエンスにより、忙しい派遣担当者は、より効率的に作業を作成できます。多くの納入商品機能により、最新のメンテナンスニーズを把握します。ブランドを提示するようにドキュメントをカスタマイズします。[値] ダッシュボードのデータを分析することで何がビジュアルリモートアシスタントの効率を高めるのかを学習します。モバイルの機能強化により、作業者はエラーが発生しやすいデータ入力作業を管理できます。モバイルチームの業務形態に合わせてカスタマイズされたタブバーを作成して、ワークフローを合理化することもできます。

このセクションの内容:

[Field Service リソース管理](#)

高度なスケジュール設定および最適化を使用することで、作業業務量制限によってサービスリソースの作業を制御して会社の優先順位を遵守できます。複数日作業が、拡張されたスケジュール設定および最適化でサポートされるようになりました。スケジュール時に、同じサイトのサービス予定をグループ化します。Summer'23より前の Salesforce を使用している場合は、使いやすいフローによって、高度なスケジュール設定および最適化にアップグレードできます。クルー管理ツールの機能強化により、クルーに必要なサービスリソースとスキルを見つけ出すための検索機能と絞り込み機能が提供されます。ディスパッチャーコンソールのガントチャートの機能強化では、ユーザー エクスペリエンスが改善され、派遣担当者の生産性が向上します。

[Field Service 納入商品管理](#)

納入商品のパフォーマンス情報をリアルタイムで入手し、納入商品の項目と属性でレコードセット検索条件ルールをより効率よく作成して、標準 Field Service データキットを Data Cloud で活用できるようになりました。また、平均的な納入商品の修理時間と故障間隔に関連した KPI を追跡し、納入商品の属性を活用して、メンテナンスニーズを先回りして把握することもできます。納入商品の属性を使用する場合は、属性定義のチェックボックスデータ型と日付データ型のデフォルト値を設定でき、納入商品の属性の共有を制限できます。さらに、予定されているメンテナンス計画の頻度項目の廃止に備えた準備方法を学習します。

[Field Service 管理およびプロセス](#)

ドキュメントビルダーでブランドに通じたサービスドキュメントを作成し、派遣作業員の仕事の効果と効率を高めます。

[Field Service 顧客エンゲージメント](#)

[値] ダッシュボードのデータを分析することでビジュアルリモートアシスタントの効率を高めます。ビジュアルリモートアシスタントの画像の保存期間を一時的にすることで、データのセキュリティを高めます。ビジュアルリモートアシスタントセッションの後で会社の Web サイトに顧客を誘導することで、会社を前面に押し出します。また、ビジュアルリモートアシスタントのセルフサービスセッションを提供することで、効率を改善し、カスタマーサポートを向上させます。

[Field Service Mobile](#)

アプリケーションから直接バーコードをスキャンします。ディープリンクを使用して、プラットフォーム間でのワークフローの動作を円滑にします。タブバーをカスタマイズしてワークフローを改善します。ロケーションベースのアクションから自動化されたタイムスタンプを取得します。そして、Android タブレットで 2 つのアプリケーションを同時に表示します。

Field Service コンテンツに注目

ランディングページを使用して、正しい設定へと導きます。

Field Service API

Field Service Apex API を使用し、地理位置情報と定期的な訪問のスケジュール予定に基づいてサービス予定をリソースに割り当てます。派遣作業員は、新しいNFCService APIで NFC タグを使用し、新しいDocumentScanner API を使用してドキュメントをスキャンできるようになります。

Field Service リソース管理

高度なスケジュール設定および最適化を使用することで、作業業務量制限によってサービスリソースの作業を制御して会社の優先順位を遵守できます。複数日作業が、拡張されたスケジュール設定および最適化でサポートされるようになりました。スケジュール時に、同じサイトのサービス予定をグループ化します。Summer '23より前のSalesforceを使用している場合は、使いやすいフローによって、高度なスケジュール設定および最適化にアップグレードできます。クルー管理ツールの機能強化により、クルーに必要なサービスリソースとスキルを見つけ出すための検索機能と絞り込み機能が提供されます。ディスパッチャーコンソールのガントチャートの機能強化では、ユーザーエクスペリエンスが改善され、派遣担当者の生産性が向上します。

このセクションの内容:

高度なスケジュール設定および最適化

業務量の制限を使用することで、テリトリーごとのワークストリームの配分を会社の目標に合わせて制御します。スケジュールされたジョブで各サービスステリトリーグループに対してスケジュールポリシーを定義することで、システム制限を温存します。高度なスケジュール設定および最適化で、複数日の最適化がサポートされるようになりました。サービスリソースの数を制限することで、クルーでアイドル状態のリソースが発生しないようにします。さらに、同じサイトのサービス目的を設定する機能を使用して、同じロケーションのサービス予定と一緒にスケジュールします。Summer '23より前のSalesforceを使用している場合は、シンプルなガイド付きフローによって、高度なスケジュール設定および最適化を使用するよう、すべてのサービスステリトリーを簡単にアップグレードできます。スキル条件を柔軟に適用することで、サービス予定のスケジュールでより多くの候補を評価できます。そして、複数のリソースで複合作業のスライディングを有効にすることで、スケジュール効率を高めます。

クルー管理

クルー管理のガントチャートをクルーのスキルで絞り込むことで、サービスクルーを容易に作成または更新します。サービスクルーを作成したり、クルーメンバーシップを更新したりする際に、必要なサービスリソースを検索します。ガントチャートでは、クルーが色分けされるため、容易に識別できます。

ディスパッチャーコンソール

新しいガントチャートの機能強化により、ディスパッチャーの生産性が向上します。ガントチャートでリソースの不在をすばやく作成および更新します。候補と時間枠をグレードと色で並び替えることで、スケジュールに最適な候補を見つけることができます。新しいスキル検索条件を使用して、サービス予定に割り当てるのに最適なリソースを特定できます。ガントチャートでは、ユーザーエクスペリエンスのデザインが刷新され、さらに使いやすくなりました。

高度なセキュリティ設定によるデータ共有の規制

Field Service 組織設定の新しい高度なセキュリティ設定を使用して、外部アプリケーションとデータを共有するかどうかを選択します。3つの新しい項目により、Field Service モバイルアプリケーションと管理パッケージでのデータの共有を制限できます。

より柔軟なサービス予定間の連動関係の作成

より多彩な参照項目を選択してサービス予定間の連動関係を作成することで、複合作業チェーンを容易に実装します。以前は、同じ取引先または作業指示のサービス予定しか選択できませんでした。

Field Service 設定の改善につながる状態チェック結果の改善

状態チェックでは、高度なスケジュール設定および最適化を使用しているかどうかに基づいて適切なテストが実行され、より正確な結果とおすすめが提供されるようになりました。

高度なスケジュール設定および最適化

業務量の制限を使用することで、テリトリーごとのワークストリームの配分を会社の目標に合わせて制御します。スケジュールされたジョブで各サービステリトリーグループに対してスケジュールポリシーを定義することで、システム制限を温存します。高度なスケジュール設定および最適化で、複数日の最適化がサポートされるようになりました。サービスリソースの数を制限することで、クルーでアイドル状態のリソースが発生しないようにします。さらに、同じサイトのサービス目的を設定する機能を使用して、同じロケーションのサービス予定と一緒にスケジュールします。Summer '23 より前の Salesforce を使用している場合は、シンプルなガイド付きフローによって、高度なスケジュール設定および最適化を使用するように、すべてのサービステリトリーを簡単にアップグレードできます。スキル条件を柔軟に適用することで、サービス予定のスケジュールで多くの候補を評価できます。そして、複数のリソースで複合作業のスライディングを有効にすることで、スケジュール効率を高めます。

このセクションの内容:

ビジネスニーズに応じた作業業務量の制限

作業業務量制限を使用して、動的な会社の優先度に応じてワークフォースの作業を制御します。特定のサービステリトリーに対して、特定の日における作業時間数や利用可能な作業業務量に対するパーセンテージを制限します。たとえば、ホリデーシーズン中は、ニューヨークでのメンテナンス作業に対して制限を設定することで、新規設置作業により多く集中できるようにします。また、リコールや法的に強制された修理の期間中は、新規設置作業を制限して、破損時補償とメンテナンス作業のために業務量を確保します。設定してある制限に対する作業の消費量をリアルタイムで監視することで、想定外の需要の変化にすばやく対応します。

少ないスケジュール済みジョブの実行によるシステムメンテナンスの削減

1つのジョブに各テリトリーグループの異なるスケジュールポリシーを含むスケジュール済みジョブを定義することで、組織の制限に達することを回避します。以前は、ジョブ全体で1つのスケジュールポリシーしか定義できませんでした。異なるスケジュールポリシーが必要な場合は、複数のスケジュールジョブを設定する必要がありました。

拡張されたスケジュール設定および最適化を使用した場合の複数日作業の最適化

複数日に渡るサービス予定を最適化することで、組織のKPIを改善し、手動による介入の必要性を減らします。複数日作業の最適化が、拡張されたスケジュール設定および最適化でサポートされるようになりました。

クルーのサービスリソース数の制限によるクルーの効果的な活用

リソースを最大限に活用してアイドル状態のリソースが発生しないように、追加のサービスリソースの最大人数を定義できるようになりました。たとえば、サービス予定で3人以上のサービスリソースのクルーが必要である場合は、最大2人の追加リソースをクルーに割り当てるよう指定します。この最大人数により、このサービス予定は、サービスリソースが3～5人のクルーに割り当てられます。

同じサイトのサービス予定のグループ化による派遣作業員の効率化

最適化サービスグループで同じサイトのサービス予定をグループ化することで、同じロケーションを訪問する派遣作業員の数を最小限に抑えます。同じサイトのサービス目的を設定する機能を使用して、他のサービス目的やKPIを考慮して、仕事を一緒にスケジュールするように設定します。

ガイド付きステップによる高度なスケジュール設定および最適化へのスムーズな移行

準備状況チェックや Salesforce ヘルプへのリンクを備えたガイド付きフローにより、高度なスケジュール設定および最適化を使用するように、すべてのサービスリトリリーを簡単にアップグレードできます。Salesforce 組織で更新する必要がある設定、サポートされない機能についての回避策、そして高度なエンジンを使用した場合の動作の違いを確認します。Summer'23より前のユーザーは、この透明性によって高度なスケジュール設定および最適化を簡単に導入して、革新的な機能、より効率的なサービス、そして拡張性、パフォーマンス、スケジュール品質の向上の利点を享受できます。

サービス予定スケジュールでより多くの候補を評価するためのスキル要件の緩和

特定のスキル種別について、すべてのスキル要件ではなく、最低1つ以上の要件に一致すればよくなつたため、より多くのサービスリソースが適格であると評価されるようになりました。たとえば、あるサービス予定で、糖尿病のケア手順を実施できるケア担当者が求められていて、さらにそのケア担当者は英語またはスペイン語を話せる必要があるとします。以前は、英語とスペイン語のどちらか片方だけを話せれば十分な場合でも、[スキルを照合]作業ルールで指定されているすべてのスキルを持っている候補のみが選ばれていました。スキル種別ごとにロジックを選択できるようになりました。

複数リソースの複合作業のスライディングによるスケジュール品質の改善

連動関係を持つ予定が複数のリソースに対してスケジュールされている場合でも、スライディングを使用できるようになりました。これらの予定は、各リソースの対応可能状況の範囲内で遅い時間に移動できます。以前は、連動関係を持つ予定が同じリソースに対してスケジュールされている場合にしかスライディングを使用できませんでした。

ビジネスニーズに応じた作業業務量の制限

作業業務量制限を使用して、動的な会社の優先度に応じてワークフォースの作業を制御します。特定のサービスリトリリーに対して、特定の日における作業時間数や利用可能な作業業務量に対するパーセンテージを制限します。たとえば、ホリデーシーズン中は、ニューヨークでのメンテナンス作業に対して制限を設定することで、新規設置作業により多く集中できるようにします。また、リコールや法的に強制された修理の期間中は、新規設置作業を制限して、破損時補償とメンテナンス作業のために業務量を確保します。設定してある制限に対する作業の消費量をリアルタイムで監視することで、想定外の需要の変化にすばやく対応します。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

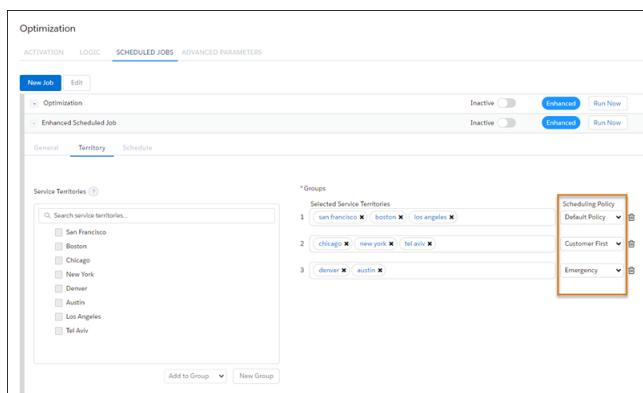
方法: [設定] で、[Field Service 設定] に移動して、[Field Service の拡張されたスケジュール設定および最適化] が有効になっていることを確認します。作業業務量を有効化するには、[Field Service 設定] に移動して、[作業業務量制限の定義を許可] を選択します。

少ないスケジュール済みジョブの実行によるシステムメンテナンスの削減

1つのジョブに各テリトリーグループの異なるスケジュールポリシーを含むスケジュール済みジョブを定義することで、組織の制限に達することを回避します。以前は、ジョブ全体で1つのスケジュールポリシーしか定義できませんでした。異なるスケジュールポリシーが必要な場合は、複数のスケジュールジョブを設定する必要がありました。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] で、[Field Service 設定] に移動して、[Field Service の拡張されたスケジュール設定および最適化] が有効になっていることを確認します。次に、[Field Service 設定] で、[最適化] の [スケジュール済みジョブ] に移動し、高度な最適化ジョブを作成します。[テリトリー] タブで、サービステリトリーのグループを作成し、各グループのスケジュールポリシーを選択します。

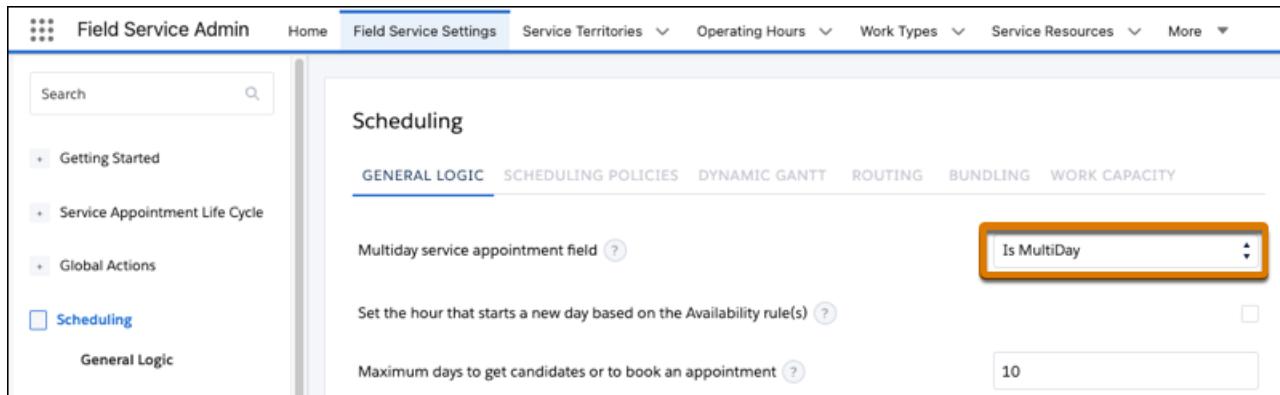


拡張されたスケジュール設定および最適化を使用した場合の複数日作業の最適化

複数日に渡るサービス予定を最適化することで、組織のKPIを改善し、手動による介入の必要性を減らします。複数日作業の最適化が、拡張されたスケジュール設定および最適化でサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] で、[Field Service 設定] に移動して、[Field Service の拡張されたスケジュール設定および最適化] が有効になっていることを確認します。Field Service Admin アプリケーションで、[Field Service 設定] をクリックし、[スケジュール] > [一般ロジック] を選択します。[Multi-day service appointment field (複数日のサービス予定)] で、[Is MultiDay (複数日)] を選択します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:複数日の Field Service 予定の有効化\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

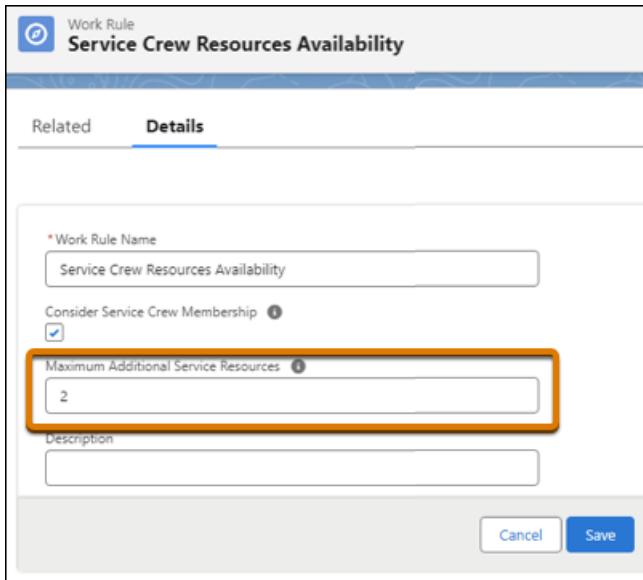
[Salesforce ヘルプ:Field Service のスケジュール設定および最適化の準備\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

クルーのサービスリソース数の制限によるクルーの効果的な活用

リソースを最大限に活用してアイドル状態のリソースが発生しないように、追加のサービスリソースの最大人數を定義できるようになりました。たとえば、サービス予定で3人以上のサービスリソースのクルーが必要である場合は、最大2人の追加リソースをクルーに割り当てるよう指定します。この最大人數により、このサービス予定は、サービスリソースが3～5人のクルーに割り当てられます。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。

方法: [設定] で、[Field Service 設定] に移動して、[Field Service の拡張されたスケジュール設定および最適化] が有効になっていることを確認します。Field Service Admin アプリケーションの [WorkRules(作業ルール)] タブで、[Service Crew Resources Availability (サービスクルーリソースの対応可能状況)] 作業ルールを選択します。追加サービスリソースの最大人數を入力します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 作業ルールタイプ: サービスクラーリソースの対応可能状況\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Field Service のスケジュール設定および最適化の準備\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

同じサイトのサービス予定のグループ化による派遣作業員の効率化

最適化サービスグループで同じサイトのサービス予定をグループ化することで、同じロケーションを訪問する派遣作業員の数を最小限に抑えます。同じサイトのサービス目的を設定する機能を使用して、他のサービス目的や KPI を考慮して、仕事を一緒にスケジュールするように設定します。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。

方法: [設定] で、[Field Service 設定] に移動して、[Field Service の拡張されたスケジュール設定および最適化] が有効になっていることを確認します。[ガイド付き設定] の [Customize Scheduling Policies (スケジュールポリシーをカスタマイズ)] ページから、またはポリシーの [スケジュールポリシーの目的] 関連リストから同じサイトのサービス目的をスケジュールポリシーに追加します。

New Service Objective

Select a record type

- ASAP
Schedule as soon as possible
- Minimize Overtime
Minimize the use of overtime
- Minimize Travel
Minimize travel time
- Preferred Resource
Prioritize scheduling according to preferred resource
- Resource Priority
Prefer a resource based on a field value on the resource
- Same Site
Prefer scheduling together appointments at the same site
- Skill Level
Prefer the least/most qualified candidate
- Skill Preference
Skill Preference with skill type

[Cancel](#) [Next](#)

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service のスケジュールポリシーの作成と管理 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Field Service のスケジュール設定および最適化の準備 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ガイド付きステップによる高度なスケジュール設定および最適化へのスムーズな移行

準備状況チェックや Salesforce ヘルプへのリンクを備えたガイド付きフローにより、高度なスケジュール設定および最適化を使用するように、すべてのサービストリトリーを簡単にアップグレードできます。Salesforce 組織で更新する必要がある設定、サポートされない機能についての回避策、そして高度なエンジンを使用した場合の動作の違いを確認します。Summer '23 より前のユーザーは、この透明性によって高度なスケジュール設定および最適化を簡単に導入して、革新的な機能、より効率的なサービス、そして拡張性、パフォーマンス、スケジュール品質の向上の利点を享受できます。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。

方法: Field Service Admin アプリケーションで [Field Service 設定] に移動します。[始めましょう] を選択し、[ホーム] タブを選択するか、または [最適化] の下にある [有効化] ページに直接移動します。[準備状況チェックを実行] をクリックします。情報を確認し、Salesforce ヘルプで詳細を確認してから、すべてのサービストリトリーで高度なスケジュール設定および最適化を有効化します。

Optimization

ACTIVATION LOGIC SCHEDULED JOBS ADVANCED PARAMETERS

Enhanced Scheduling and Optimization

Improve scalability, performance and schedule quality with Enhanced Scheduling and Optimization. The architecture and services are more efficient and improve scalability, performance and schedule quality.

Before using Enhanced Scheduling and Optimization, let's check if there are any issues that need to be resolved. We recommend testing the optimization first in a sandbox environment.

[Run Readiness Check](#) [Watch Video](#)



Update Your Configuration

These features require configuration changes to work with Enhanced Scheduling and Optimization.

- Appointment Booking** contains DML. Split the scheduling flow to first create the service appointment and then schedule it. [Learn in help](#)
- Custom Triggers** must be optimized by running async processes. [Learn in help](#)
- Designated Work Time Slots** must be of type Recordset Filter Criteria and not boolean. [Learn in help](#)
- Remote Site** must be activated. [Remote Site Activated](#) [Learn in help](#)

Review Unsupported Features

These features are in use but aren't supported with Enhanced Scheduling and Optimization.

- Schedule Recipes, Reshuffle and Fill In Schedule** [Learn in help](#)
- Schedule Over Lower Priority Appointment** [Learn in help](#)
- Fix Overlaps** use resource optimization instead. [Learn in help](#)
- Group Nearby** use resource optimization instead. [Learn in help](#)
- Low Coverage Countries** point-to-point predictive travel supported only in navigable regions. [Learn in help](#)

Consider Differences In Behavior

Pay attention to how these features behave when using Enhanced Scheduling and Optimization.

- Point-To-Point Predictive Travel** includes toll roads by default. [Learn in help](#)
- Different Travel Times** can affect existing service appointments. [Learn in help](#)
- Resource Efficiency** is rounded up. [Learn in help](#)
- Complex Work** with an Immediately Follow dependency might work differently. [Learn in help](#)
- Rule Violations** are fixed or the violating appointments are removed from the Gantt. [Learn in help](#)
- Scheduling Policy** might require fine-tuning. [Learn in help](#)

Turn on Enhanced Scheduling and Optimization

Now that you've finished checking everything, you're ready to go. Enhanced Scheduling and Optimization applies to all of your service territories.

[Turn Off](#) [Enabled](#)

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 拡張されたスケジュール設定および最適化への移行\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Field Service のスケジュール設定および最適化の準備\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

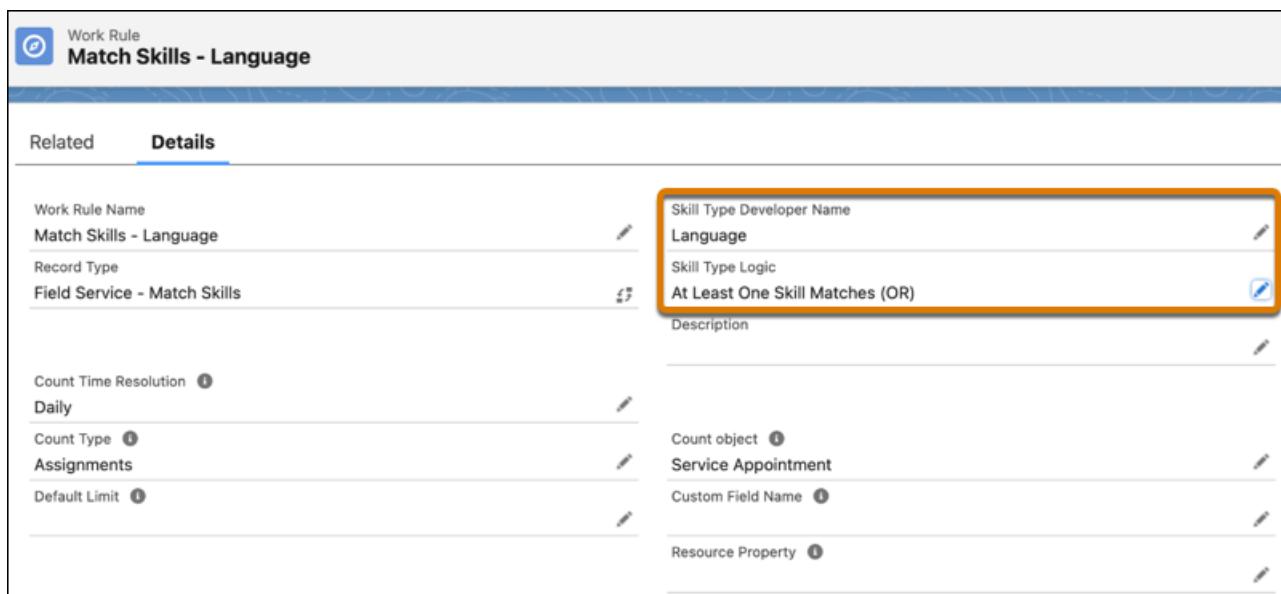
[Salesforce モビリティ: 拡張されたスケジュール設定および最適化\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

サービス予定スケジュールでより多くの候補を評価するためのスキル要件の緩和

特定のスキル種別について、すべてのスキル要件ではなく、最低1つ以上の要件に一致すればよくなつたため、より多くのサービスリソースが適格であると評価されるようになりました。たとえば、あるサービス予定で、糖尿病のケア手順を実施できるケア担当者が求められていて、さらにそのケア担当者は英語またはスペイン語を話せる必要があるとします。以前は、英語とスペイン語のどちらか片方だけを話せれば十分な場合でも、[スキルを照合]作業ルールで指定されているすべてのスキルを持っている候補のみが選ばれていました。スキル種別ごとにロジックを選択できるようになりました。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] で、[Field Service 設定] に移動して、[Field Service] の拡張されたスケジュール設定および最適化] が有効になっていることを確認します。[設定] で、スキル種別を作成して、関連するスキルに割り当てます。[スキルを照合] 作業ルールレコードで、[スキル種別 API 参照名] を選択し、対応する [スキル種別ロジック] で OR (いずれか) または AND (すべて) を選択します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 作業ルールタイプ: スキルを照合 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Field Service のスケジュール設定および最適化の準備 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

複数リソースの複合作業のスライディングによるスケジュール品質の改善

連動関係を持つ予定が複数のリソースに対してスケジュールされている場合でも、スライディングを使用できるようになりました。これらの予定は、各リソースの対応可能状況の範囲内で遅い時間に移動できます。以前は、連動関係を持つ予定が同じリソースに対してスケジュールされている場合にしかスライディングを使用できませんでした。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] で、[Field Service 設定] に移動して、[Field Service の拡張されたスケジュール設定および最適化] が有効になっていることを確認します。そして、Field Service 設定アプリケーションで、サービス予定のスライディングを有効化します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service での複合作業 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

クルー管理

クルー管理のガントチャートをクルーのスキルで絞り込むことで、サービスクルーを容易に作成または更新します。サービスクルーを作成したり、クルーメンバーシップを更新したりする際に、必要なサービスリソースを検索します。ガントチャートでは、クルーが色分けされるため、容易に識別できます。

このセクションの内容:

クルースキルでの絞り込みによる効率的なクルーの編成と管理

クルー管理ツールで、クルー管理のガントチャートの内容をサービスクルーのスキルに基づいて絞り込むことにより、クルーチームを容易に編成します。

クルー管理ツールでのサービスクルーとクルーメンバーの容易な検索

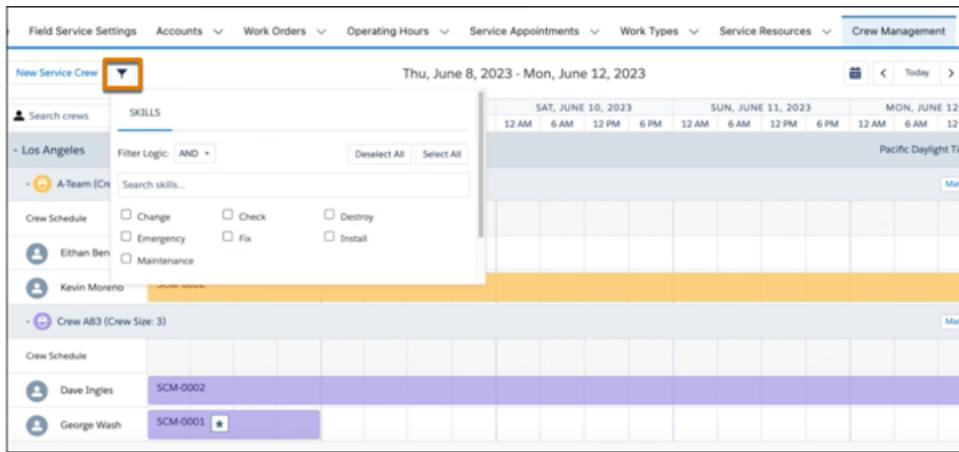
サービスクルーを作成したりサービスクルーメンバーシップを更新したりする際に、新しい検索機能を使用してリソースを探します。そして、サービスクルーリソースを一目で見分けられるように、クルー管理ガントチャートではリソースが色分けされるようになりました。

クルースキルでの絞り込みによる効率的なクルーの編成と管理

クルー管理ツールで、クルー管理のガントチャートの内容をサービスクルーのスキルに基づいて絞り込むことにより、クルーチームを容易に編成します。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: クルー管理ツールで、ガントチャート検索条件アイコンをクリックし、関連スキルを検索して選択します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: クルー管理の設定\(リリースプレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

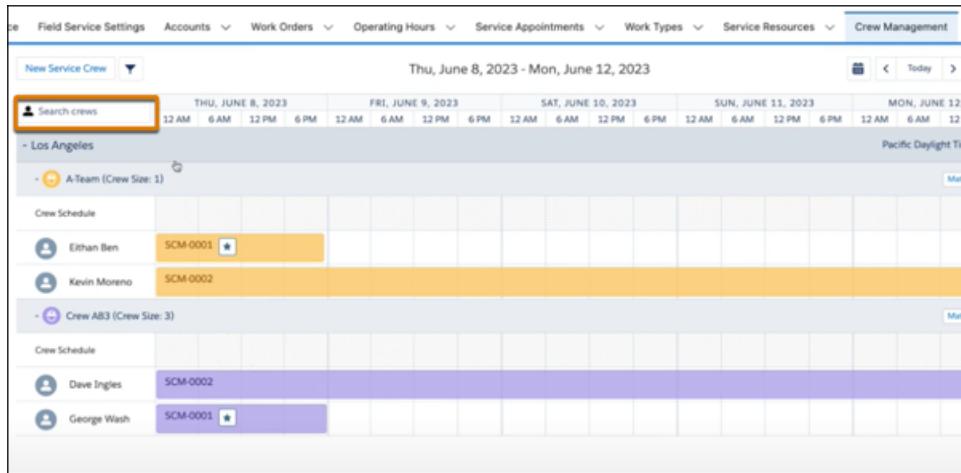
[Salesforce ヘルプ: Field Service クルーメンバーシップの管理\(リリースプレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

クルー管理ツールでのサービスクルーとクルーメンバーの容易な検索

サービスクルーを作成したりサービスクルーメンバーシップを更新したりする際に、新しい検索機能を使用してリソースを探します。そして、サービスクルーリソースを一目で見分けられるように、クルー管理ガントチャートではリソースが色分けされるようになりました。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: クルー管理ツールで、サービスクルーまたはクルーメンバーの名前を検索項目に入力します。名前をカンマで区切って指定することで、複数のリソースを検索できます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: クルー管理の設定\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Field Service クルーメンバーシップの管理\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ディスパッチャーコンソール

新しいガントチャートの機能強化により、ディスパッチャーの生産性が向上します。ガントチャートでリソースの不在をすばやく作成および更新します。候補と時間枠をグレードと色で並び替えることで、スケジュールに最適な候補を見つけることができます。新しいスキル検索条件を使用して、サービス予定に割り当てるのに最適なリソースを特定できます。ガントチャートでは、ユーザー エクスペリエンスのデザインが刷新され、さらに使いやすくなりました。

このセクションの内容:

ガントチャートでのリソースの不在の容易な定義

新しいインターフェースを使用して、より柔軟に不在期間を追加できます。ガントチャートでリソースの不在を作成する際には、時間と分を指定できるようになりました。以前は、分でしか期間を指定できませんでした。

ガントチャートでのリソースの不在の容易な再割り当て

ガントチャートで、いずれかのサービスリソースから他のサービスリソースに不在をドラッグして、不在を再割り当てします。この更新により、リソースの不在とスケジュールの変更をすばやく管理できます。以前は、あるサービスリソースの不在を削除してから、別のリソースの不在を作成する必要がありました。

ガントチャートからのリソースの不在の変更効率の改善

ガントチャートから不在を編集して、リソースの対応可能状況をすばやく更新できるようになりました。以前は、リソースの不在レコードを編集する必要がありました。

ガントチャートでの重複するリソースの不在の容易な表示

ガントチャートに表示されるリソースの不在が重複する場合に、高さを定義することで、リソースの不在を特定しやすくなりました。以前は、1件の不在のみが表示され、他の不在はその後ろに隠れていきました。

ガントチャートでのより効率的な候補の特定

ガントチャート上で候補と時間枠をグレードと色で並び替えることで、候補に最適なスケジュールオプションを特定できるようになりました。以前は、並び替えは使用できませんでした。

スキル検索条件による最適なリソースの検索

新しい検索条件により、すべてのサービスリソースで利用可能なスキルを検索して、サービス予定に割り当てるのに最適なリソースを特定できるようになりました。最後に使用した検索条件は、次に更新するまで保存されます。以前のスキル検索条件では、サービスリソースの最初の50件のスキルしか検索できませんでした。

サービス予定リストでのより多くの情報の表示

サービス予定リストの列サイズを変更することで、より多くの情報が表示されるようになりました。すべての列を表示するにはスクロールバーを使用します。以前は、表示できる情報量が限られていました。

ガントチャートでの週番号の表示による見やすさの向上

ガントチャートに週番号を追加することで、運用タイムラインに合わせて会計週を識別しやすくなります。

スケジュールの変更のガントチャートへのすばやい反映

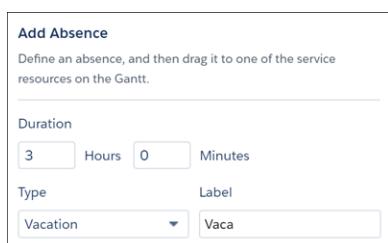
予定と不在の期間を直接ガントチャート上で延長または短縮することで、リソースのスケジュールをより効率よく更新できるようになりました。以前は、サービス予定または不在の期間を調整するには、それらのレコードを編集する必要がありました。

ガントチャートでのリソースの不在の容易な定義

新しいインターフェースを使用して、より柔軟に不在期間を追加できます。ガントチャートでリソースの不在を作成する際には、時間と分を指定できるようになりました。以前は、分でしか期間を指定できませんでした。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: ガントチャートで、不在作成アイコンをクリックし、不在の詳細を入力してから、いずれかのサービスリソースにドラッグします。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service Dispatcher コンソールでの操作 \(リリースレビューの時点での内容が更新されることがあります\)](#)

ガントチャートでのリソースの不在の容易な再割り当て

ガントチャートで、いずれかのサービスリソースから他のサービスリソースに不在をドラッグして、不在を再割り当てします。この更新により、リソースの不在とスケジュールの変更をすばやく管理できます。以前は、あるサービスリソースの不在を削除してから、別のリソースの不在を作成する必要がありました。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

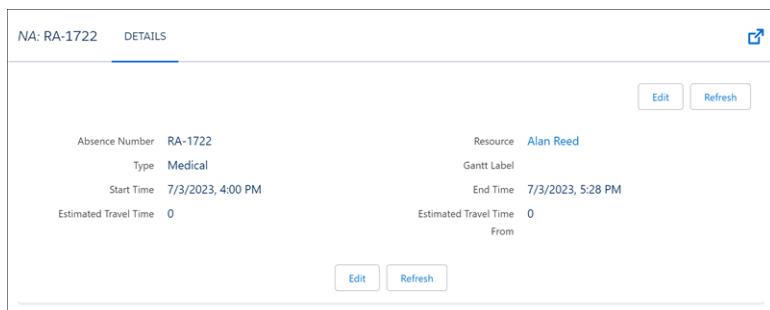
[Salesforce ヘルプ: Field Service Dispatcher コンソールでの操作 \(リリースレビューの時点で内容が更新されるごとに、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ガントチャートからのリソースの不在の変更効率の改善

ガントチャートから不在を編集して、リソースの対応可能状況をすばやく更新できるようになりました。以前は、リソースの不在レコードを編集する必要がありました。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: ガントチャートでリソースの不在をダブルクリックし、[詳細] ウィンドウで [編集] をクリックします。



関連トピック:

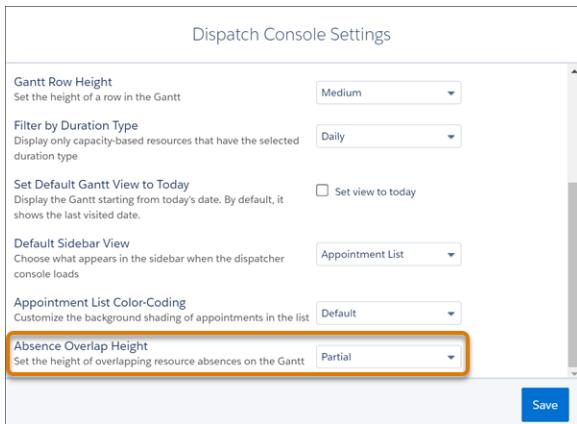
[Salesforce ヘルプ: Field Service Dispatcher コンソールでの操作 \(リリースレビューの時点で内容が更新されるごとに、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ガントチャートでの重複するリソースの不在の容易な表示

ガントチャートに表示されるリソースの不在が重複する場合に、高さを定義することで、リソースの不在を特定しやすくなりました。以前は、1件の不在のみが表示され、他の不在はその後ろに隠っていました。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [ディスパッチャーコンソールの設定] をクリックしてから [Absence Overlap Height (不在重複高さ)] を選択します。



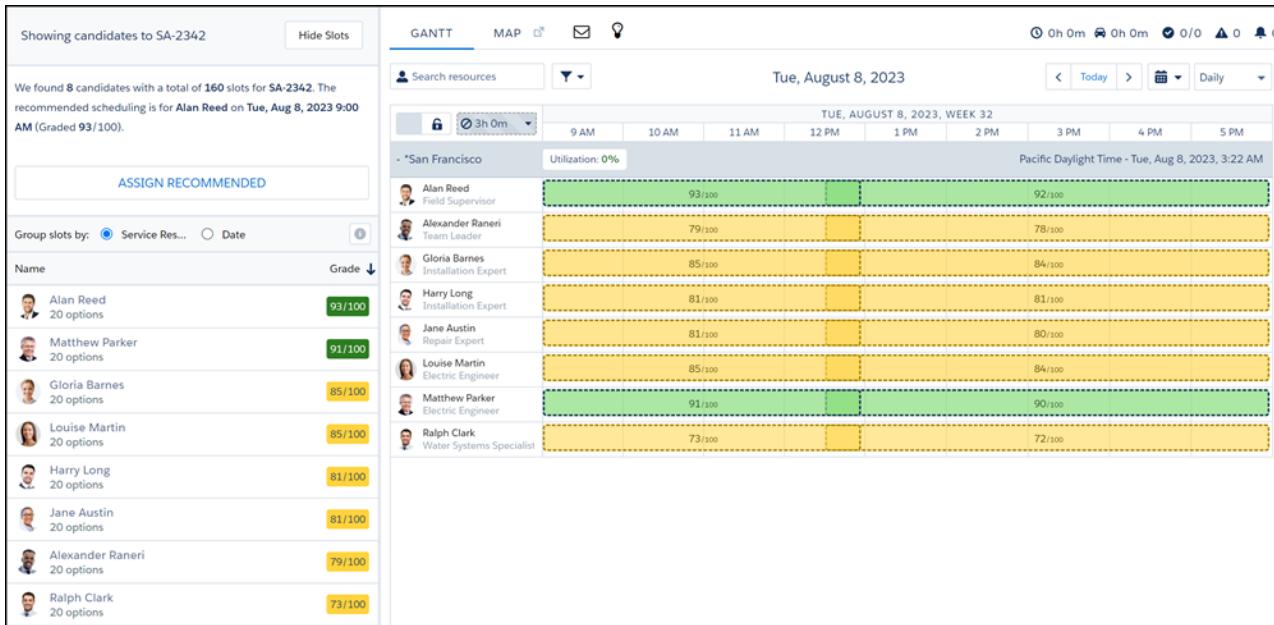
関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service Dispatcher コンソールでの操作 \(リリースレビューの時点で内容が更新されるごとや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ガントチャートでのより効率的な候補の特定

ガントチャート上で候補と時間枠をグレードと色で並び替えることで、候補に最適なスケジュールオプションを特定できるようになりました。以前は、並び替えは使用できませんでした。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。



関連トピック:

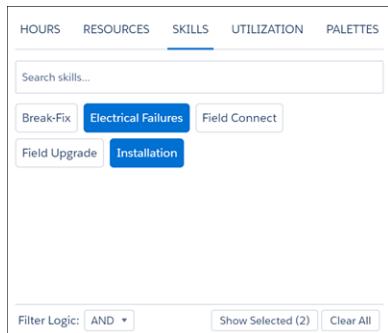
[Salesforce ヘルプ: Field Service Dispatcher コンソールでの操作 \(リリースレビューの時点で内容が更新されるごとや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

スキル検索条件による最適なリソースの検索

新しい検索条件により、すべてのサービスリソースで利用可能なスキルを検索して、サービス予定に割り当てるのに最適なリソースを特定できるようになりました。最後に使用した検索条件は、次に更新するまで保存されます。以前のスキル検索条件では、サービスリソースの最初の 50 件のスキルしか検索できませんでした。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: ガントチャートで検索条件アイコンをクリックして、[スキル] タブで関連スキルを選択します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service Dispatcher コンソールでの操作 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されるごとや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

サービス予定リストでのより多くの情報の表示

サービス予定リストの列サイズを変更することで、より多くの情報が表示されるようになりました。すべての列を表示するにはスクロールバーを使用します。以前は、表示できる情報量が限られていました。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

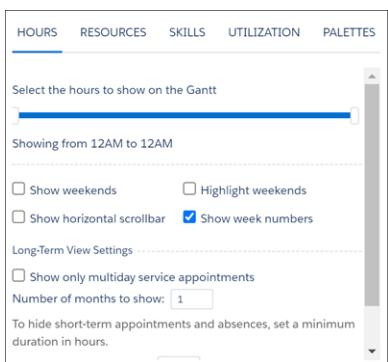
[Salesforce ヘルプ: Field Service Dispatcher コンソールでの操作 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されるごとや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ガントチャートでの週番号の表示による見やすさの向上

ガントチャートに週番号を追加することで、運用タイムラインに合わせて会計週を識別しやすくなります。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: ガントチャートで検索条件アイコンをクリックして、[時間] タブの [Show week numbers (週番号を表示)] をクリックします。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service Dispatcher コンソールでの操作 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されるごとや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

スケジュールの変更のガントチャートへのすばやい反映

予定と不在の期間を直接ガントチャート上で延長または短縮することで、リソースのスケジュールをより効率よく更新できるようになりました。以前は、サービス予定または不在の期間を調整するには、それらのレコードを編集する必要がありました。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] で、「Field Service Dispatcher」カスタム権限での期間の調整を有効化します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service Dispatcher コンソールでの操作 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されるごとや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

高度なセキュリティ設定によるデータ共有の規制

Field Service 組織設定の新しい高度なセキュリティ設定を使用して、外部アプリケーションとデータを共有するかどうかを選択します。3つの新しい項目により、Field Service モバイルアプリケーションと管理パッケージでのデータの共有を制限できます。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 新しい設定を使用して、Field Service モバイルアプリケーションと管理パッケージでのデータの共有を制限します。

より柔軟なサービス予定間の連動関係の作成

より多彩な参照項目を選択してサービス予定間の連動関係を作成することで、複合作業チェーンを容易に実装します。以前は、同じ取引先または作業指示のサービス予定しか選択できませんでした。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: サービス予定のオブジェクト管理設定の [項目セット] で [複合作業参照項目] を選択して、選択可能な検索項目を定義します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service での複合作業 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Field Service 設定の改善につながる状態チェック結果の改善

状態チェックでは、高度なスケジュール設定および最適化を使用しているかどうかに基づいて適切なテストが実行され、より正確な結果とおすすめが提供されるようになりました。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 状態チェックを使用した Field Service 設定のテスト \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Field Service 納入商品管理

納入商品のパフォーマンス情報をリアルタイムで入手し、納入商品の項目と属性でレコードセット検索条件ルールをより効率よく作成して、標準 Field Service データキットを Data Cloud で活用できるようになりました。また、平均的な納入商品の修理時間と故障間隔に関連した KPI を追跡し、納入商品の属性を活用して、メンテナンスニーズを先回りして把握することもできます。納入商品の属性を使用する場合は、属性定義のチェックボックスデータ型と日付データ型のデフォルト値を設定でき、納入商品の属性の共有を制限できます。さらに、予定されているメンテナンス計画の頻度項目の廃止に備えた準備方法を学習します。

このセクションの内容:

[プロアクティブなサービス](#)

メンテナンスのニーズをさらに正確に予測します。納入商品のパフォーマンスの最新情報をリアルタイムで取得します。納入商品項目と納入商品属性を使用して、レコードセット検索条件ルールを効率的に作成します。Data Cloud で標準の Field Service データキットを使用します。納入商品の修理時間や故障間隔などの重要な KPI を追跡します。納入商品の属性を活用して、メンテナンスニーズを先回りして把握します。

[納入商品属性](#)

属性定義を作成するときにチェックボックスデータ型や日付データ型のデフォルト値を設定し、納入商品レコードを共有するときに制限ルールを作成することで納入商品の属性情報を保護します。

[メンテナンス計画の頻度の項目からメンテナンス作業ルールへの移行 \(リリース更新\)](#)

メンテナンス計画の [頻度] 項目と [頻度種別] 項目が廃止されます。この廃止に備え、更新された機能を利用するには、[頻度] と [頻度種別] のデータをメンテナンス作業ルールに移行します。この更新は、Summer '22 で最初に使用可能になり、Winter '22 で適用される予定でしたが、適用日が Winter '25 に延期されました。

プロアクティブなサービス

メンテナンスのニーズをさらに正確に予測します。納入商品のパフォーマンスの最新情報をリアルタイムで取得します。納入商品項目と納入商品属性を使用して、レコードセット検索条件ルールを効率的に作成します。Data Cloud で標準の Field Service データキットを使用します。納入商品の修理時間や故障間隔などの重要な KPI を追跡します。納入商品の属性を活用して、メンテナンスニーズを先回りして把握します。

このセクションの内容:

[Data Cloud での Field Service の活用](#)

SFS の標準データバンドルに、Field Service データキットが含まれるようになりました。また、Data Cloud 参照モデルは、納入商品関連エンティティの納入商品保証、ロケーション、サービス予定、サービス契約、保証期間、作業指示、作業指示品目、作業種別をサポートするようになりました。

[納入商品の属性を使用したプロアクティブなメンテナンスへのシフト](#)

特定の納入商品の利用状況を表す納入商品の属性を使用して、利用状況ベースのメンテナンス作業ルールを作成します。たとえば、前回のサービスからの車両の走行距離や時間といった属性値に基づいてメンテナンスを管理します。

[納入商品パフォーマンス監視のリアルタイム更新](#)

納入商品マネージャーが表示する納入商品のしきい値カードが、リアルタイムで更新されるようになりました。この変更は、納入商品の健全性に関連した重要な最新情報を見逃してしまうリスクを抑えて、納入商品の監視を自動化するのに役立ちます。以前は、最新情報を表示するにはブラウザーを更新する必要がありました。

[納入商品の属性の監視によるメンテナンスパフォーマンスに関する警告の取得](#)

納入商品の属性に基づいて、流動的なスケジュールで定期的な作業指示を作成します。たとえば、エンジン温度やエンジン回転数といった特定の属性値に基づいてメンテナンス条件を定義します。これらの条件を監視し、エンジンのメンテナンス作業を作成して実施し、最終サービス日に基づいて以降のメンテナンスをスケジュールします。

[より柔軟な納入商品のレコードセット検索条件ルールの作成](#)

新しい [条件項目] ドロップダウンリストから納入商品項目と納入商品属性を定義して、レコードセット検索条件ルールを作成します。以前は、この項目にはレコードセット検索条件レコードからしか値を追加できませんでした。

[修理のための納入商品のダントンタイムの追跡](#)

チームが修理に費やす平均時間と、今後の問題を減らすことにどの程度成功しているかを監視します。納入商品について、修理の平均時間と故障と故障の間の平均時間を確認できるようになりました。これらの評価指標は、業界標準の平均修復時間 (Mean Time To Repair: MTTR) と平均故障間隔 (Mean Time Between Failures: MTBF) に相当します。

Data Cloud での Field Service の活用

SFS の標準データバンドルに、Field Service データキットが含まれるようになりました。また、Data Cloud 参照モデルは、納入商品関連エンティティの納入商品保証、ロケーション、サービス予定、サービス契約、保証期間、作業指示、作業指示品目、作業種別をサポートするようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Data Cloud の使用開始 \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

納入商品の属性を使用したプロアクティブなメンテナンスへのシフト

特定の納入商品の利用状況を表す納入商品の属性を使用して、利用状況ベースのメンテナンス作業ルールを作成します。たとえば、前回のサービスからの車両の走行距離や時間といった属性値に基づいてメンテナンスを管理します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 使用量ベースのメンテナンスの作成 \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Field Service 納入商品属性の管理 \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

納入商品パフォーマンス監視のリアルタイム更新

納入商品マネージャーが表示する納入商品のしきい値カードが、リアルタイムで更新されるようになりました。この変更は、納入商品の健全性に関連した重要な最新情報を見逃してしまうリスクを抑えて、納入商品の監視を自動化するのに役立ちます。以前は、最新情報を表示するにはブラウザーを更新する必要がありました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service 納入商品属性の管理 \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

納入商品の属性の監視によるメンテナンスパフォーマンスに関する警告の取得

納入商品の属性に基づいて、流動的なスケジュールで定期的な作業指示を作成します。たとえば、エンジン温度やエンジン回転数といった特定の属性値に基づいてメンテナンス条件を定義します。これらの条件を監視し、エンジンのメンテナンス作業を作成して実施し、最終サービス日に基づいて以降のメンテナンスをスケジュールします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service 納入商品属性の管理 \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

より柔軟な納入商品のレコードセット検索条件ルールの作成

新しい[条件項目]ドロップダウンリストから納入商品項目と納入商品属性を定義して、レコードセット検索条件ルールを作成します。以前は、この項目にはレコードセット検索条件レコードからしか値を追加できませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: レコードセット検索条件レコードで、[関連] タブを開きます。レコードセット検索条件ルール関連リストで [新規] をクリックしてから、項目または属性を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service 納入商品属性の管理 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

修理のための納入商品のダウントIMEの追跡

チームが修理に費やす平均時間と、今後の問題を減らすことにどの程度成功しているかを監視します。納入商品について、修理の平均時間と故障と故障の間の平均時間を確認できるようになりました。これらの評価指標は、業界標準の平均修復時間 (Mean Time To Repair: MTTR) と平均故障間隔 (Mean Time Between Failures: MTBF) に相当します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service での可用性と信頼性の追跡 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

納入商品属性

属性定義を作成するときにチェックボックスデータ型や日付データ型のデフォルト値を設定し、納入商品レコードを共有するときに制限ルールを作成することで納入商品の属性情報を保護します。

このセクションの内容:

属性定義のデフォルト値の容易な追加

属性定義を作成する場合に、チェックボックスを選択して、チェックボックスデータ型のデフォルト値を設定できるようになりました。また、新しいカレンダーコンポーネントを使用して、日付データ型のデフォルト値も定義できます。以前は、自由テキストのみをデフォルト値として入力できました。新しいコンポーネントにより、属性定義の情報が統一され、分析とレポートの生成が容易になります。

納入商品レコードの共有時の納入商品属性情報の保護

制限ルールを作成することで、納入商品レコードを共有するときに除外する納入商品属性情報を決定します。このルールにより、機密扱いの納入商品属性が納入商品レコードと一緒に共有されないようにします。たとえば、データ型が数値である納入商品属性の共有を禁止するルールを定義します。

属性定義のデフォルト値の容易な追加

属性定義を作成する場合に、チェックボックスを選択して、チェックボックスデータ型のデフォルト値を設定できるようになりました。また、新しいカレンダーコンポーネントを使用して、日付データ型のデフォルト値も定義できます。以前は、自由テキストのみをデフォルト値として入力できました。新しいコンポーネントにより、属性定義の情報が統一され、分析とレポートの生成が容易になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [属性定義] タブで [新規] をクリックします。データ型としてチェックボックスまたは日付を選択して、デフォルト値を設定します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service 納入商品属性の管理 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

納入商品レコードの共有時の納入商品属性情報の保護

制限ルールを作成することで、納入商品レコードを共有するときに除外する納入商品属性情報を決定します。このルールにより、機密扱いの納入商品属性が納入商品レコードと一緒に共有されないようにします。たとえば、データ型が数値である納入商品属性の共有を禁止するルールを定義します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 納入商品属性のオブジェクト管理設定から、[制限ルール] に移動して、[新規ルールを作成] をクリックします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service 納入商品属性の管理 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

メンテナンス計画の頻度の項目からメンテナンス作業ルールへの移行 (リリース更新)

メンテナンス計画の [頻度] 項目と [頻度種別] 項目が廃止されます。この廃止に備え、更新された機能を利用するには、[頻度] と [頻度種別] のデータをメンテナンス作業ルールに移行します。この更新は、Summer '22 で最初に使用可能になり、Winter '22 で適用される予定でしたが、適用日が Winter '25 に延期されました。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

時期: このリリース更新は、Winter '25 で適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: メンテナンス作業ルールに対する最近の変更により、頻度項目で提供される機能が置き換えられ、改善されます。Winter '25 では、廃止された項目が作業指示の生成に影響するようになります。

方法: [設定] のリリース更新を確認します。[Migration from Frequency Fields (頻度項目からの以降)] で、テストと有効化の手順を実行します。

影響を受けるすべてのメンテナンス計画で、メンテナンス作業ルールのない頻度項目を使用するメンテナンス計画を選択します。代わりにメンテナンス作業ルールを使用するように選択されたメンテナンス計画を更新して、[テスト実行を有効化]をクリックします。移行後に頻度項目を非表示にするには、[設定]に移動し、[Field Service]をオフにしてから再度オンにします。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ: リリース更新\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceナレッジ記事: メンテナンス作業ルールへの移行のヒントとコツ\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ: メンテナンス作業ルールの操作に関するガイドライン\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce 動画: Spotlight on Implementing Preventative Maintenance \(予防メンテナンスの実装に注目\)\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Field Service 管理およびプロセス

ドキュメントビルダーでブランドに通じたサービスドキュメントを作成し、派遣作業員の仕事の効果と効率を高めます。

このセクションの内容:

ドキュメントビルダーによるリッチ形式のサービスドキュメントの作成(ベータ)

ビジネス目標とブランド設定を反映したサービスドキュメントを作成し、派遣作業員の仕事の効果と効率を高めて、顧客のニーズに対応します。アップグレードされたサービスドキュメントには、ドキュメントレビュー、署名の取得、組み込み画像、PDF生成の機能が追加されています。ドキュメントビルダーの標準コンポーネントをテンプレートビルダーにドラッグすることで、見栄えが良く機能性の高いサービスドキュメントを作成できます。ニーズに応じて、カスタム Lightning Web コンポーネント (LWC) を作成します。多態的な対象ルックアップまで項目を拡張できるようになったため、コンポーネントパネルからキャンバスに多態的な拡張項目をドラッグすることで、関連レコードの関連データを反映するサービスドキュメントを作成できます。

ドキュメントビルダーによるリッチ形式のサービスドキュメントの作成(ベータ)

ビジネス目標とブランド設定を反映したサービスドキュメントを作成し、派遣作業員の仕事の効果と効率を高めて、顧客のニーズに対応します。アップグレードされたサービスドキュメントには、ドキュメントレビュー、署名の取得、組み込み画像、PDF生成の機能が追加されています。ドキュメントビルダーの標準コンポーネントをテンプレートビルダーにドラッグすることで、見栄えが良く機能性の高いサービスドキュメントを作成できます。ニーズに応じて、カスタム Lightning Web コンポーネント (LWC) を作成します。多態的な対象ルックアップまで項目を拡張できるようになったため、コンポーネントパネルからキャンバスに多態的な拡張項目をドラッグすることで、関連レコードの関連データを反映するサービスドキュメントを作成できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「契約および規約」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「Field Service 設定」と入力し、[ドキュメントビルダーを有効化] を選択します。組織が登録されたことを示す通知が表示されます。数分後に、登録されたことを示すメール通知が届きます。登録されたら、サービスドキュメントテンプレートの作成を開始できます。[設定] メニューへのアクセス権を持つ Salesforce システム管理者のみが、ビルダーエクスペリエンスにアクセスしてサービスドキュメントテンプレートを作成できます。

Field Service 顧客エンゲージメント

[値] ダッシュボードのデータを分析することでビジュアルリモートアシスタントの効率を高めます。ビジュアルリモートアシスタントの画像の保存期間を一時的にすることで、データのセキュリティを高めます。ビジュアルリモートアシスタントセッションの後で会社の Web サイトに顧客を誘導することで、会社を前面に押し出します。また、ビジュアルリモートアシスタントのセルフサービスセッションを提供することで、効率を改善し、カスタマーサポートを向上させます。

このセクションの内容:

[\[値\] ダッシュボードを使用したビジュアルリモートアシスタントでの便利な情報の取得](#)

[値] ダッシュボードから得られるインサイトにより、ビジュアルリモートアシスタントを使用することでコストを削減して価値を高められる機会を発見します。このダッシュボードは、ビジュアルリモートアシスタントの利用状況、セッションごとの潜在的な価値、そして潜在的な価値の向上に関する詳細を提供します。

[ビジュアルリモートアシスタント画像の保持日数によるデータの保護](#)

データ保持ポリシー設定を使用することで、プライバシーを保護してデータのセキュリティを高めます。ビジュアルリモートアシスタントセッションでエージェントが保存した画像は、ビジネスで必要な日数だけ保持され、その後は自動的に削除されます。以前は、画像の保持期間に制限はなく、保存しないことも可能でした。

[ビジュアルリモートアシスタントセッション後のブランド認知度の向上](#)

ビジュアルリモートアシスタントセッションの終了後に顧客を自社の Web サイトにリダイレクトすることで、会社、商品、またはサービスの情報を顧客と共有します。

[ビジュアルリモートアシスタントのセルフサービスセッションの提供による顧客の待機時間の短縮](#)

エージェントが顧客にセルフサービスセッションへのリンクを提供できるようにします。これにより、顧客は都合のよいときに画像をアップロードできます。エージェントはこの画像を活用して、商品に関する問題のトラブルシューティングや新しいオファーのカスタマイズなどを行うことで、顧客をサポートできます。以前は、顧客はエージェントによる画像のアップロード時間に合わせる必要がありました。

[値] ダッシュボードを使用したビジュアルリモートアシスタントでの便利な情報の取得

[値] ダッシュボードから得られるインサイトにより、ビジュアルリモートアシスタントを使用することでコストを削減して価値を高められる機会を発見します。このダッシュボードは、ビジュアルリモートアシスタントの利用状況、セッションごとの潜在的な価値、そして潜在的な価値の向上に関する詳細を提供します。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

ビジュアルリモートアシスタント画像の保持日数の制限によるデータの保護

データ保持ポリシー設定を使用することで、プライバシーを保護してデータのセキュリティを高めます。ビジュアルリモートアシスタントセッションでエージェントが保存した画像は、ビジネスで必要な日数だけ保持され、その後は自動的に削除されます。以前は、画像の保持期間に制限はなく、保存しないことも可能でした。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

ビジュアルリモートアシスタントセッション後のブランド認知度の向上

ビジュアルリモートアシスタントセッションの終了後に顧客を自社の Web サイトにリダイレクトすることで、会社、商品、またはサービスの情報を顧客と共有します。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

ビジュアルリモートアシスタントのセルフサービスセッションの提供による顧客の待機時間の短縮

エージェントが顧客にセルフサービスセッションへのリンクを提供できるようにします。これにより、顧客は都合のよいときに画像をアップロードできます。エージェントはこの画像を活用して、商品に関する問題のトラブルシューティングや新しいオファーのカスタマイズなどを行うことで、顧客をサポートできます。以前は、顧客はエージェントによる画像のアップロード時間に合わせる必要がありました。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

Field Service Mobile

アプリケーションから直接バーコードをスキャンします。ディープリンクを使用して、プラットフォーム間でのワークフローの動作を円滑にします。タブバーをカスタマイズしてワークフローを改善します。ロケーションベースのアクションから自動化されたタイムスタンプを取得します。そして、Android タブレットで 2 つのアプリケーションを同時に表示します。

このセクションの内容:

バーコードのスキャンによる時間の節約と精度の向上

バーコードスキャナープラグインを使用する Lightning Web コンポーネント (LWC) を作成することで、Field Service モバイルアプリケーションをさらに活用します。Field Service モバイルアプリケーションでは、LWC で iOS デバイスに搭載されているカメラを使用してバーコードをスキャンします。以前は、バーコードの番号を手動で入力する必要がありました。バーコードスキャナーは在庫の管理などに役立てることができます。

プラットフォーム間でのワークフローの円滑な動作の保証

ディープリンクにより、Lightning Web コンポーネント間や外部アプリケーションとの間でデータを受け渡します。この機能は、エラーが発生しやすいフォームなどへの手動でのデータ入力と比べて、時間を節約し、精度を高めます。

カスタマイズされたタブバーによる生産性の向上

Field Service Mobile アプリケーションビルダーを使用して、派遣作業員用のアプリケーションのタブバーをカスタマイズして、設定をプロファイルに割り当てます。以前は、タブバーは静的であり、ビジネスニーズに合わせて変更することはできませんでした。

正確なサイトのチェックインとチェックアウトの取得(パイロット)

派遣作業員のプライバシーを保護しながら、派遣作業員が現場に到着した時刻と現場を離れた時刻を追跡します。ロケーションベースのアクションの自動タイムスタンプを使用することで、各ロケーションで派遣作業員が費やした時間に関するインサイトのレポートを作成できます。タイムスタンプはモバイルアプリケーションがオフラインのときも取得され、派遣作業員が手動で入力する時刻よりも信頼性が高くなります。

Field Service Field Service Mobile for Android タブレットでの容易なマルチタスク

新しいユーザーインターフェースで、Android タブレット上で複数のアプリケーションを表示します。派遣作業員は、分割画面機能によって 2 つのアプリケーションを同時に表示できるようになったため、作業に必要なアプリケーションを切り替える必要がなくなりました。

派遣作業員が作業ステップの自動完了を手動で上書きできるようにする

派遣作業員は、作業ステップの自動完了を手動で上書きできるようになりました。この設定により、派遣作業員は作業ステップや作業プランの次のフェーズへの移行をより正確に制御することができ、Field Service Mobile アプリケーションのユーザーインターフェースや効率が向上します。以前は、フローまたは Lightning Web コンポーネントが終了すると、作業ステップは自動的に完了したことになっていました。

バーコードのスキャンによる時間の節約と精度の向上

バーコードスキャナープラグインを使用する Lightning Web コンポーネント (LWC) を作成することで、Field Service モバイルアプリケーションをさらに活用します。Field Service モバイルアプリケーションでは、LWC で iOS デバイスに搭載されているカメラを使用してバーコードをスキャンします。以前は、バーコードの番号を手動で入力する必要がありました。バーコードスキャナーは在庫の管理などに役立てることができます。

対象: この機能は、iOS 用の Field Service Mobile アプリケーションで使用できます。

プラットフォーム間でのワークフローの円滑な動作の保証

ディープリンクにより、Lightning Web コンポーネント間や外部アプリケーションとの間でデータを受け渡しします。この機能は、エラーが発生しやすいフォームなどへの手動でのデータ入力と比べて、時間を節約し、精度を高めます。

対象: この変更は、Android および iOS 用の Field Service Mobile アプリケーションに適用されます。

方法: カスタム Lightning クイックアクションとパラメーターのキー-値ペアで、受け渡すデータに対してクイックアクションのディープリンクスキーマを使用します。『Field Service 開発者ガイド』に記載されている例を参照してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: クエリパラメーターの追加\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

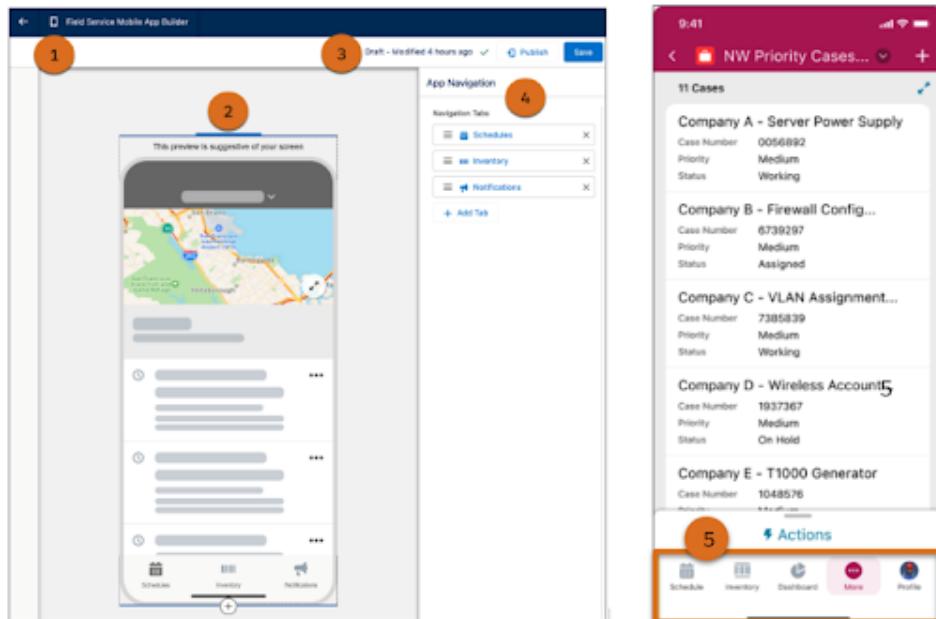
カスタマイズされたタブバーによる生産性の向上

Field Service Mobile アプリケーションビルダーを使用して、派遣作業員用のアプリケーションのタブバーをカスタマイズして、設定をプロファイルに割り当てます。以前は、タブバーは静的であり、ビジネスニーズに合わせて変更することはできませんでした。

対象: この機能は、iOS および Android 用の Field Service Mobile アプリケーションで使用できます。

時期: この機能は、iOS では Winter '24 で利用可能になります。また、Android では Winter '24 の完了後にローリング方式でリリースされ、2023 年 12 月 4 日までにすべてのユーザーが利用できるようになります。

方法: Field Service Mobile アプリケーションビルダーを使用して、Field Service モバイルアプリケーションのタブをカスタマイズします。



アプリケーションビルダーのインターフェースは、ページの表示ラベルが含まれるヘッダー(1)、設定されたモバイルアプリケーション画面のプレビューを表示するページキャンバス(2)、設定の状況を示すステータスバー(3)、そしてタブを設定するプロパティペイン(4)から構成されます。右側は、Field Service モバイルアプリケーションでカスタマイズされたタブバー(5)です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Field Service Mobile アプリケーションビルダーでのタブのカスタマイズ\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

正確なサイトのチェックインとチェックアウトの取得(パイロット)

派遣作業員のプライバシーを保護しながら、派遣作業員が現場に到着した時刻と現場を離れた時刻を追跡します。ロケーションベースのアクションの自動タイムスタンプを使用することで、各ロケーションで派遣作業員が費やした時間に関するインサイトのレポートを作成できます。タイムスタンプはモバイルアプリケーションがオフラインのときも取得され、派遣作業員が手動で入力する時刻よりも信頼性が高くなります。

対象: この変更は、Android および iOS 用の Field Service Mobile アプリケーションに適用されます。

 **メモ:** この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります。SFDC の裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

方法: 派遣作業員がロケーションに到着したときと現場を離れたときにそれぞれトリガーされるロケーションベースのアクションを1つずつ作成します。次に、スタンプを表示するレポートを作成します。

Joined Report Location-Based Actions Report						
Appointment Number	Service Resource: Name	Assigned Resource ID	Action Name	First Time Invoked	Last Time Invoked	
SA-0001	Doron	03rSB0000000A4D	Site Check-In	8/27/2023, 1:02 PM	8/28/2023, 10:48 AM	
			Site Check-Out	8/28/2023, 10:00 AM	8/28/2023, 12:00 PM	
SA-0002	Jenny	03rSB0000000ANZ	Site Check-In	8/28/2023, 12:30 PM	8/28/2023, 12:30 PM	
			Site Check-Out	8/28/2023, 2:30 PM	8/28/2023, 2:30 PM	
SA-0006	Sagi	03rSB0000000AACH	Site Check-In	8/27/2023, 1:12 PM	8/27/2023, 1:25 PM	
			Site Check-Out	8/27/2023, 1:08 PM	8/27/2023, 2:51 PM	
SA-0007	Doron	03rSB00000009Cz	Site Check-In	-	-	
			Site Check-Out	-	-	
SA-0012	Doron	03rSB0000000A5p	Site Check-In	8/27/2023, 11:50 AM	8/27/2023, 1:01 PM	

Field Service Field Service Mobile for Android タブレットでの容易なマルチタスク

新しいユーザー エクスペリエンスで、Android タブレット上で複数のアプリケーションを表示します。派遣作業員は、分割画面機能によって2つのアプリケーションを同時に表示できるようになったため、作業に必要なアプリケーションを切り替える必要がなくなりました。

対象: この機能は、標準マルチウィンドウに対応した Android タブレット用の Field Service Mobile アプリケーションで使用できます。

方法: [最近参照したデータ] 画面で、Android タブレットの分割画面モードを有効にします。詳細は、Android 開発者のマルチウィンドウサポートをご覧ください。

派遣作業員が作業ステップの自動完了を手動で上書きできるようにする

派遣作業員は、作業ステップの自動完了を手動で上書きできるようになりました。この設定により、派遣作業員は作業ステップや作業プランの次のフェーズへの移行をより正確に制御することができ、Field Service Mobile アプリケーションのユーザー エクスペリエンスや効率が向上します。以前は、フローまたは Lightning Web コンポーネントが終了すると、作業ステップは自動的に完了したことになっていました。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

時期: この変更は、2023 年 10 月 16 日以降に適用されます。

方法: 使用を開始するには、[設定] の [作業プラン] で [フローが起動されたら手動で作業ステップの状況を更新します] を選択します。この設定が選択されていない場合、作業ステップはデフォルトで自動的に完了になります。

Field Service コンテンツに注目

ランディングページを使用して、正しい設定へと導きます。

このセクションの内容:

ランディングページによる設定作業の簡素化

Field Service 学習マップの優れた点がヘルプにも反映され、ユーザーが親しみやすいランディングページで Field Service の設定をガイドしてくれるようになりました。ヘルプのランディングページは各国語に翻訳され、便利なインサイトに Salesforce の分析を組み合わせることで、最高の学習および設定エクスペリエンスを提供します。以前は、Field Service 学習マップは英語でのみ提供され、ユーザージャーニーに必要な情報が不十分でした。

ランディングページによる設定作業の簡素化

Field Service 学習マップの優れた点がヘルプにも反映され、ユーザーが親しみやすいランディングページで Field Service の設定をガイドしてくれるようになりました。ヘルプのランディングページは各国語に翻訳され、便利なインサイトに Salesforce の分析を組み合わせることで、最高の学習および設定エクスペリエンスを提供します。以前は、Field Service 学習マップは英語でのみ提供され、ユーザージャーニーに必要な情報が不十分でした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited、Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic と、Android/iOS 用の Field Service モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: ランディングページは、Winter '24 リリース後すぐに Salesforce ヘルプで使用できるようになります。

Field Service API

Field Service Apex API を使用し、地理位置情報と定期的な訪問のスケジュール予定に基づいてサービス予定をリソースに割り当てます。派遣作業員は、新しい NFCService API で NFC タグを使用し、新しい DocumentScanner API を使用してドキュメントをスキャンできるようになります。

このセクションの内容:

[サービス予定に一致するすべてのサービステリトリーの特定](#)

新しい PolygonUtils Apex メソッドを使用して、地理位置情報と一致するテリトリーの多角形をすべて見つけ出します。多角形が重複している場合は、関連するすべてのテリトリーが特定されます。以前は、テリトリー階層に基づいて 1 つのテリトリーだけが特定されていました。この変更により、サービス予定をサービスリソースに柔軟に割り当てられるようになります。

[Recurring Appointments API による繰り返し訪問の管理](#)

新しい Field Service Recurring Appointments グローバル Apex メソッドを使用して、繰り返し訪問の各サービス予定を手動でスケジュールするのではなく、カスタム繰り返しパターンをスケジュールします。たとえば、派遣医療ケア提供者が毎週 2 日、6 週間に渡って理学療法を患者に施すための訪問をスケジュールできます。また、繰り返しパターンに例外を設けることもできるため、たとえば、顧客が異なる時間や前後の日に再スケジュールする必要がある場合にも対応できます。

サービス予定に一致するすべてのサービステリトリーの特定

新しい PolygonUtils Apex メソッドを使用して、地理位置情報と一致するテリトリーの多角形をすべて見つけ出します。多角形が重複している場合は、関連するすべてのテリトリーが特定されます。以前は、テリトリー階層に基づいて 1 つのテリトリーだけが特定されていました。この変更により、サービス予定をサービスリソースに柔軟に割り当てられるようになります。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。

方法: 新しい getAllPolygonsByLatLong(longitude, latitude) Apex メソッドを使用します。

関連トピック:

[Salesforce 開発者: PolygonUtils クラス \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Recurring Appointments API による繰り返し訪問の管理

新しい Field Service Recurring Appointments グローバル Apex メソッドを使用して、繰り返し訪問の各サービス予定を手動でスケジュールするのではなく、カスタム繰り返しパターンをスケジュールします。たとえば、派遣医療ケア提供者が毎週 2 日、6 週間に渡って理学療法を患者に施すための訪問をスケジュールできます。また、繰り返しパターンに例外を設けることもできるため、たとえば、顧客が異なる時間や前後の日に再スケジュールする必要がある場合にも対応できます。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

Hyperforce

Hyperforce は、パブリッククラウド用に構築された次世代の Salesforce インフラストラクチャーアーキテクチャです。Salesforce アプリケーションにコンプライアンス、セキュリティ、プライバシー、俊敏性、スケーラビリティを提供し、顧客にデータレジデンシーに関するより多くの選択肢を提供します。

このセクションの内容:

[Hyperforce を使用してより多くの地域で Salesforce にアクセス](#)

パブリッククラウドのスケールと俊敏性を使用して、世界中のより多くの地域に Salesforce アプリケーションとサービスをリリースします。Hyperforce を使用すると、データレジデンシーに関するより多くの選択肢と制御が可能になります。

[Hyperforce アシスタントを使用した Hyperforce への移行 \(正式リリース\)](#)

Hyperforce アシスタントを使用して Hyperforce に移行できます。このアシスタントは本番組織と Sandbox 組織で正式リリースされました。詳細ページで、更新された Hyperforce リージョン対応可能状況マップを参照してください。また、準備フェーズ内のハードコードされた参照と接続確認が更新され、全体的なエクスペリエンスが改善されました。

[サーバー ID に 3 文字を使用するように Salesforce オブジェクト ID を調整 \(リリース更新\)](#)

以前は、有効な Salesforce オブジェクト ID には、全体で 15 ~ 18 文字のうち 4 番目と 5 番目の 2 文字のサーバー ID またはインスタンス ID が含まれていました。この変更により、Salesforce は 3 文字のサーバー ID (オブジェクト ID の 4 番目、5 番目、および 6 番目の文字) を生成するようになりました。既存のオブジェクト ID は変更されず、オブジェクト ID の長さも 15 ~ 18 文字のままであります。この更新により、テストコードが新しい ID 構造を考慮していない場合、テストケースが失敗する可能性があります。このリリース更新は Summer '23 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用されます。

Hyperforce を使用してより多くの地域で Salesforce にアクセス

パブリッククラウドのスケールと俊敏性を使用して、世界中のより多くの地域に Salesforce アプリケーションとサービスをリリースします。Hyperforce を使用すると、データレジデンシーに関するより多くの選択肢と制御が可能になります。

対象: Sales Cloud、Service Cloud、B2B Commerce、Platform、および Industry Cloud を含む Salesforce Customer 360 アプリケーションスイートの Hyperforce を介した提供は、インドネシアとイタリアで新たに可能になりました。オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、インド、日本、シンガポール、英国、米国では、引き続き使用できます。韓国とスウェーデンでは、要求があった場合にのみ、Hyperforce で Salesforce Customer 360 アプリケーションスイートを使用できます。また、次の製品は記載されている場所で Hyperforce で使用できます。

クラウド	製品または機能	説明	使用可能な場所
マーケティング	CDP	Salesforce CDP を使用すると、一元化された情報源に集中し、よりインテリジェントかつアクション可能な信頼できるデータを提供できます。	ドイツ、インド、米国

クラウド	製品または機能	説明	使用可能な場所
マーケティング	Marketing Cloud エンゲージメント	Marketing Cloud エンゲージメントは、パーソナライズされたマーケティングメッセージと自動ジャーニーを使用して、顧客関係を効率的に構築するのに役立ちます。	インド
Industries	Einstein リレーションインサイト	インテリジェントなリレーション検出を使用して売上を向上します。取引先と取引先責任者の調査を自動化し、リレーションネットワークを視覚化し、主要な意思決定者とすばやくつながります。	アメリカ
Analytics	CRM Analytics	CRM Analytics (旧称 Tableau CRM) は、複数ソースからのデータの接続、そのデータの対話型分析の作成、アプリケーションでのそれらのビューの共有を行うためのクラウドベースのプラットフォームです。CRM Analytics は、ビジネスユーザーへのインサイトの配布をより容易にし、ユーザーが変化する情報を理解してアクションを実行できるようにします。	オーストラリア、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、日本、シンガポール、韓国、スウェーデン、英国、米国

Hyperforce アシスタントを使用した Hyperforce への移行 (正式リリース)

Hyperforce アシスタントを使用して Hyperforce に移行できます。このアシスタントは本番組織と Sandbox 組織で正式リリースされました。詳細ページで、更新された Hyperforce リージョン対応可能状況マップを参照してください。また、準備フェーズ内のハードコードされた参照と接続確認が更新され、全体的なエクスペリエンスが改善されました。

対象: Hyperforce アシスタントは、すべてのエディションの Lightning Experience で使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに 「Hyperforce アシスタント」と入力し、[Hyperforce アシスタント]を選択します。

サーバー ID に 3 文字を使用するように Salesforce オブジェクト ID を調整 (リリース更新)

以前は、有効な Salesforce オブジェクト ID には、全体で 15 ~ 18 文字のうち 4 番目と 5 番目の 2 文字のサーバー ID またはインスタンス ID が含まれていました。この変更により、Salesforce は 3 文字のサーバー ID (オブジェクト ID の 4 番目、5 番目、および 6 番目の文字) を生成するようになりました。既存のオブジェクト ID は変更されず、オブジェクト ID の長さも 15 ~ 18 文字のままであります。この更新により、テストコードが新しい ID 構造を考慮していない場合、テストケースが失敗する可能性があります。このリリース更新は Summer '23 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: このリリース更新は Summer '23 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この変更は、サーバー ID が Salesforce ID の 4 番目、5 番目、6 番目ではなく 4 番目と 5 番目のみの文字であることを前提としたカスタムコードまたはテストを使用する顧客に影響します。この変更が適用された後は、有効なテストケースが失敗し、無効なテストケースが成功する可能性があります。

方法: 無効な ID 構造を想定したコードが原因でテストケースが正しく機能しない場合は、新しい ID 構造を考慮してコードを調整します。

関連トピック:

[リリース更新](#)

Industries

Industries ソリューションは、ビジネスのニーズに合わせて Salesforce が設定されているため、自分でカスタマイズする必要はありません。成果管理とコンテキストサービスが正式リリースされました。Consumer Goods Cloud を使用して店舗とのエンゲージメントを向上させ、より適切なプロモーションを計画します。Financial Services Cloud では、Data Cloud を使用して内部データと外部データの両方をより適切に整理できるようになりました。助成金提供を使用して、助成金受領者の予算を追跡します。HealthCloud は、MarketingCloudEngagement を使用して CRM データを Marketing Cloud に取り込めるようになりました。Manufacturing Cloud を使用して、保証請求裁定プロセスを自動化して改善します。NetZero Cloud の重要性調査を使用して、会社の社会的影響を計画します。Salesforce 契約を使用して、契約のエンドツーエンドのライフサイクルを管理します。また、Education Cloud、Nonprofit Cloud、Media Cloud、Industries の一般的な機能などにも多くの変更が加えられています。

このセクションの内容:

[Automotive Cloud](#)

新しい法人車両、法人車両納入商品、法人車両関係者レコードを使用して法人車両活動を監視します。自動プロセスを設定して、保証請求を簡単に検証して裁定します。スコアリングフレームワークを使用して請求が承認される可能性についての有用な予測を取得します。数回のクリックで、シリアル管理された在庫(車両など)を他の場所に移送します。タイムライン、エンゲージメント、アクション可能リストメンバー、Data Cloud セグメントのリストビルダーの機能強化を活用します。

[Communications Cloud](#)

Communications Cloud は Salesforce Customer 360 を拡張し、通信業界に特化したソリューションを提供します。ビジネスがデジタル変革を行い、業界標準の新しい顧客体験を提供すると同時に、運用効率を高めるようサポートします。デジタルコマース、業種注文管理、契約ライフサイクル管理、注文キャプチャ、Industries CPQ(設定、価格、見積)、エンタープライズ商品カタログ(EPC)など、業界特有のアプリケーションスイートや幅広いクラウドソリューションを探索しましょう。

[Consumer Goods Cloud](#)

営業担当は、新しい Consumer Goods Cloud for Sales アプリケーションを利用することで、リストに登録されているストアとプロアクティブにエンゲージして、シームレスなエクスペリエンスを顧客に提供できます。AI の機能を活用することで、より適切なプロモーションを計画して、収益と売上を最大限に高めることができます。また、Consumer Goods Cloud の他の機能強化についても学習します。

[Energy and Utilities Cloud](#)

Energy & Utilities Cloud (E&U Cloud) は、Salesforce Sales Cloud、Salesforce Service Cloud、Salesforce Platform の全機能を統合し、公益事業、小売エネルギー、現代のエネルギーサービス企業の業界固有のソリューションに拡張します。

[Financial Services Cloud](#)

Data Cloud では、Salesforce および他の外部データソース全体でデータを整理および統合できます。新しい Actionable Relationship Center テンプレートは、取引先リレーションセンターを最大限に活用するのに役立ちます。取引の紛争管理は、金融機関が紛争解決プロセスを合理化するのに役立ちます。

助成金提供

助成金受領者は、実際に使用した予算のデータを Experience Cloud サイトに入力して、中間レポートと最終レポートを完成できるようになりました。CRM 内で予算の更新をリアルタイムで表示します。所有権に基づく共有が厳密に設定されている組織では、ユーザーは助成金提供オブジェクトにコラボレーターを追加できます。

[Health Cloud](#)

先進治療管理の機能強化を使用して、高度なスケジュールを実装し、保管イベントを追跡します。在宅医療が薬剤管理や統合ケア管理と統合されるようになり、訪問の電子検証もサポートされるようになりました。統合ケア管理にコンソールアプリケーションが含まれ、ケアギャップがサポートされるようになりました。Health Cloud の Actionable Relationship Center を使用して、顧客取引先階層を包括的に表示できます。危機支援センター管理では、紹介を処理できるようになり、カウンセラーは SMS や他のメッセージング形式を介してクライアントとつながることができます。新しい紹介作成フローを使用して、ユーザーに紹介の作成方法を説明します。新しい問題行動の医療アプリケーションを使用すると、ユーザーは患者の行動的または精神的なヘルスケアジャーニーを完全に把握できます。

業種注文管理

業種注文管理(注文管理、IOM、またはOMとも呼ばれる)は、業界屈指の次世代の注文管理機能をコミュニケーション、メディア、およびエネルギー企業に提供する製品モジュールです。

[Insurance](#)

Insuranceは、保険契約管理、給付管理、請求をサポートする柔軟性の高いコンポーネントを使用して、現場のエージェント、バックオフィスのチーム、顧客をつなぎます。

[Manufacturing Cloud](#)

拡張可能なビジネスルールにより保証請求のエンドツーエンドの自動裁定プロセスを設計し、クレームデータをより効率的に管理します。CRM Analytics for Warranty Lifecycle Managementを使用して、保証請求に関するアクション可能なインサイトを取得します。商品保証請求が承認される可能性について評価にスコアを使用することで、商品保証請求をより迅速に裁定します。資産と、そのライフサイクルにおけるすべての関係者をリンクします。法人車両管理機能を使用して、製造業の法人車両運用を追跡します。エンゲージメント、タイムライン、アクション可能リストメンバー、Data Cloudセグメントのリストビルダーなどの機能強化を活用します。

[Media Cloud](#)

Salesforce Industriesでは、どこからでも顧客の獲得、エンゲージ、サポートを行い、生涯価値を最大化し、メディアバリューチェーン全体で運用効率を向上させることができます。

ロイヤルティ管理

ロイヤルティ管理を販売時点管理(POS)システムと統合することで、顧客エンゲージメントを強化し、売上を増加させ、顧客ロイヤルティを促進します。アクション可能セグメンテーションを使用して、プロモーションの対象となるメンバーのリストを取得します。メンバーに発行されたバウチャーをメンバーの取引先責任者レコードで表示します。

[Net Zero Cloud](#)

ダブルマテリアリティ調査を実施します。雇用補償とケアプログラムのパフォーマンスデータをソーシャルおよびガバナンスレポートに含めます。前のレポートから回答をコピーして、開示レポートを作成します。エネルギー属性証明書と電力購入契約を管理します。カスタム燃料種別を使用して、車両からの排出量を計算します。また、Net Zero Marketplaceのデータプロバイダーが公開した排出係数を管理します。インテリジェントドキュメントリーダーを使用して、ドキュメントデータの文字起こしと対応付けを行います。

OmniStudio ドキュメントの生成

OmniStudio ドキュメントの生成では、Microsoft Word (.docx) および Microsoft PowerPoint (.pptx) テンプレートからドキュメントを生成できます。これらのテンプレートには、Salesforce オブジェクトのデータを含め JSON ベースのデータの値をテキストで含めることができます。また、生成されたドキュメントを PDF 形式に変換することができます。提供されているサンプルのクライアント側 OmniScript またはサーバー側 OmniScript を使用して、ドキュメントを生成できます。また、柔軟に独自の OmniScript、インテグレーション手順、または Apex クラスを作成して、カスタマイズしたドキュメントを生成することもできます。

結果管理

結果管理は、革新的な影響測定ツールであり、一か所から組織の結果戦略を定義し、測定し、評価することができます。期限付きの目標値と基準値を設定し、結果を追跡できます。異なる結果やプログラムに対して、一貫して同じインジケーターで測定できます。結果をグループにまとめて整理し、ロジックモデルなどの組織戦略や、外部の関係者が関心を寄せる一連の結果を反映することができます。

プログラム管理

給付セッションから参加者を簡単に削除し、プログラム管理で給付支払に関連する項目セットのリストを取得します。

Public Sector Solutions

ケースやケース手続きの証拠の管理、より多くのオブジェクトを使用した動的評価の活用、世帯の簡単な分割などを行えます。

リベート管理

リベート管理用の新しいCRM Analyticsダッシュボードを使用して、リベートプログラムに関するアクション可能なデータ主導のインサイトを取得し、特別価格のトレンドを特定し、請求を分析します。データ処理エンジンの定義で、新しい [Compute Valid Transaction Journals Per Rebate Type (リベート種別ごとに有効な取引記録を計算する)] カスタムノードを使用することで、リベート支払処理のパフォーマンスが向上します。

Salesforce 契約

Salesforce 契約アプリケーションを使用して、お客様は契約のエンドツーエンドのライフサイクルを管理できます。契約は、商談、注文、見積、Salesforce の標準オブジェクトおよびカスタムオブジェクトに関連付けることができます。契約ライフサイクル管理は、組織のセールスプロセスの全体的な健全性にとって重要です。Salesforce 契約アプリケーションを使用すると、セールスプロセスインテグレーション、契約管理プロセス、契約作成から有効化までの契約ライフサイクルを詳細に制御できます。

教育機関向け Salesforce

教育機関向け Salesforce には、人材募集、入学者専攻、および学生支援に関するインサイトを接続し、見込みのある学生から熱心な卒業生に至るまですべての学習者のジャーニーを統一的に把握するための製品が含まれます。

非営利団体向け Salesforce

非営利団体向け Salesforce には、非営利団体に固有のニーズを満たす製品が含まれています。非営利団体は、これらの製品を使用してサイロ化されていたデータからアクション可能なインサイトを取得し、賛助者のエンゲージメントを長期的な関係に変えることができます。

Industries の一般的な機能

一部の Industries 製品は、複数の Industries クラウドや Industries 以外のクラウドで使用できます。このリリースでは、次の一般的な機能が改善されました。コンテキストサービスが正式リリースされました。アクション可能リストメンバーでは、より詳細な絞り込みオプションがサポートされます。Actionable Relationship Center のカスタマイズ可能なグラフを使用して、リレーションをより適切に視覚化します。アクション可能セグメンテーションを使用して、パーソナライズされたリストを作成します。Data Cloud セグメントのリストビルダーを使用して、Data Cloud からのデータを使用してより包括的なリストを作成します。また、バッチ管理、ビジネスルールエンジン、データ処理エンジンなどにも変更が加えられています。

Automotive Cloud

新しい法人車両、法人車両納入商品、法人車両関係者レコードを使用して法人車両活動を監視します。自動プロセスを設定して、保証請求を簡単に検証して裁定します。スコアリングフレームワークを使用して請求が承認される可能性についての有用な予測を取得します。数回のクリックで、シリアル管理された在庫(車両など)を他の場所に移送します。タイムライン、エンゲージメント、アクション可能リストメンバー、Data Cloud セグメントのリストビルダーの機能強化を活用します。

このセクションの内容:

法人車両業務の簡単な追跡

Automotive Cloud の新しい法人車両管理基本機能を使用して商用、資材用、役員用の法人車両業務を可視化します。法人車両マネージャーは車両に関して、車両の走行距離、車両または資産の残価、資産の利用状況を監視できます。ユーザーは取引先、取引先責任者、または従業員を法人車両関係者としてトラック運転者、業務マネージャー、メンテナンスマネージャーに関連付けることができます。ユーザーは車両、納入商品、関係者が法人車両に属している期間を追跡したり、納入商品、車両、関係者の法人車両に関する状況を監視したりすることもできます。

販売業者の場所への車両の迅速な移送

顧客の需要を満たし、販売を促進するために、在庫の車両を移送します。在庫マネージャーや業務マネージャーは車両在庫検索を使用して複数の検索結果を選択し、選択した目的地ロケーションにシリアル管理商品を移送できます。

車両と部品の保証請求の自動裁定

自動車会社は請求裁定の作業負荷を軽減し、手動エラーや主観性を防ぐために自動プロセスを作成できます。請求を確認し、請求に関連付けられた商品の保証範囲を検証する詳細で柔軟なビジネスルールを設計します。コンテキスト定義を使用して、複数のデータソースに分散している請求データの取得と消費を簡略化します。

予測請求承認スコアを使用した車両と部品の保証請求の迅速な裁定

以前に承認された請求に基づき、保証請求が承認される可能性に関するスコアを取得します。このスコアを確認することで、請求をそのまま承認できるか、さらに検証する必要があるかを判断できます。

Automotive Cloud でのレコードを更新および検証するためのドキュメントデータの自動抽出

Automotive Cloud のインテリジェントドキュメントリーダーを使用します。Amazon Textract を使用して自動的に身分証明書、販売証明書、請求書などのデータを抽出し、ドキュメントのデータを Salesforce オブジェクトのさまざまな項目に対応付けます。抽出された情報は、レコードの項目を作成または更新したり、組織にすでに存在するデータを検証したりするために使用できます。たとえば、顧客情報ドキュメントをアップロードして自動的にリードレコードを作成したり、請求書をアップロードして自動的に修理作業指示を作成したりします。

販売業者の請求に関する有益なインサイトの取得

CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management アプリケーションの Claims Analytics ダッシュボードは、保証請求に迅速に対応し、効率的な請求決議を実現するのに役立ちます。請求数と請求金額が高い販売業者を特定して業務を合理化し、財務への影響を最小限に抑えることができるため、目的となる改善に重点を置くことができます。トレンド分析、場所からのインサイト、過去の請求トレンド、SLA 管理を使用して、販売業者の請求を分析します。

Automotive Cloud のアクション可能リストの機能強化によるアウトソーシング活動の強化

見込み客の自動割り当て機能を使用することで、新しい見込み客を自動的に割り当てるルールを設定できます。アクション可能リストメンバーコンポーネントの新しい絞り込み機能を使用することで、見込み客を簡単に特定してエージェントに割り当てるることができます。事前設定済み KPI バーを使用することで、アクション可能リストで見込み客のエンゲージメント状況に関する有用なインサイトを得ることができます。見込み客を Service Cloud キューに割り当てることで、エージェントへの見込み客の割り当てを簡略化できます。

Automotive タイムラインでの Data Cloud のエンゲージメントイベントの表示

管理者は、タイムラインに表示する Data Cloud データモデルオブジェクト (DMO) のエンゲージメントイベントを選択できるようになりました。エージェントは、エンゲージメントイベント情報を使用して、顧客や見込み客と状況に応じた簡潔なコミュニケーションをとることができます。

Automotive Cloud 動画の視聴

新しい動画は、ユーザーが Automotive Cloud の車両在庫表示機能を理解するのに役立ちます。

Automotive Cloud の新規および変更されたオブジェクト

Automotive Cloud では、次のオブジェクトが新規追加および変更されました。

Connect REST API

Automotive Cloud 用 Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

法人車両業務の簡単な追跡

Automotive Cloud の新しい法人車両管理基本機能を使用して商用、資材用、役員用の法人車両業務を可視化します。法人車両マネージャーは車両に関して、車両の走行距離、車両または資産の残価、資産の利用状況を監視できます。ユーザーは取引先、取引先責任者、または従業員を法人車両関係者としてトラック運転者、業務マネージャー、メンテナスマネージャーに関連付けることができます。ユーザーは車両、納入商品、関係者が法人車両に属している期間を追跡したり、納入商品、車両、関係者の法人車両に関する状況を監視したりすることができます。

対象: この機能は、Automotive Cloud と法人車両管理が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。

対象ユーザー: ユーザーには、「Automotive Foundation ユーザー」および「法人車両管理」権限セットが割り当てられている必要があります。

方法: 組織内で法人車両、法人車両納入商品、法人車両関係者オブジェクトを使用するには、enableFleetManagement メタデータ API を使用します。

販売業者の場所への車両の迅速な移送

顧客の需要を満たし、販売を促進するために、在庫の車両を移送します。在庫マネージャーや業務マネージャーは車両在庫検索を使用して複数の検索結果を選択し、選択した目的地ロケーションにシリアル管理商品を移送できます。

対象: この変更は、Automotive Cloud および条件ベースの検索と絞り込みが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: ユーザーには、「Automotive Foundation ユーザー」および「条件ベースの検索と絞り込み」権限セットが割り当てられている必要があります。

理由: 条件ベースの検索と絞り込みの検索環境はユーザーが在庫を評価するのに役立ちますが、1つのロケーションから別のロケーションに車両を迅速に移送することも重要です。このニーズに対応するために、システム管理者は検索設定の一部として Lightning Web コンポーネントベースのアクションを設定できるようになりました。ユーザーは検索結果でこのクイックアクションを使用して複数の車両を同じ場所に簡単に移送できます。

方法: [設定] の [条件ベースの検索と絞り込み] 設定ページで、[アクション設定] タブの [新規] をクリックします。アクション種別として [Lightning Web コンポーネント]、アクション参照として [商品移送] を選択します。

車両と部品の保証請求の自動裁定

自動車会社は請求裁定の作業負荷を軽減し、手動エラーや主観性を防ぐために自動プロセスを作成できます。請求を確認し、請求に関連付けられた商品の保証範囲を検証する詳細で柔軟なビジネスルールを設計します。コンテキスト定義を使用して、複数のデータソースに分散している請求データの取得と消費を簡略化します。

対象: この変更は、Automotive Cloud、保証ライフサイクル管理、ビジネスルールエンジン、およびコンテキストサービスが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: ユーザーには、「Automotive Foundation ユーザー」、「保証ライフサイクル管理」、「請求管理財団」、「コンテキストサービス管理者」、「ルールエンジンデザイナー」権限セットが割り当てられている必要があります。

理由: ビジネスルールエンジン、コンテキストサービス、Flow Builder などの自動化ツールを使用して、システム管理者はスケーラブルでシンプルなプロセスを作成できます。定義済みの [請求の詳細] コンテキスト定義のコンテキストタグによって、正規請求データ構造がオブジェクトに対応付けられ、式セットで消費されるソースデータが取得されます。式セットの [請求の入力規則] ビジネス要素では、定義済みのルールに対して請求が検証されます。このビジネス要素の出力パラメーターは、請求が承認されるかどうかを判断し、保証の対象とならない商品のリストを取得するために役立ちます。

方法: [保証請求] 使用種別で式セットを作成し、式セットビルダーで式セットのバージョンを開きます。式セット内に [請求の入力規則] ビジネス要素を追加し、入力パラメーターと出力パラメーターのリソースを指定します。[請求の詳細] コンテキスト定義からコンテキストタグを使用して式セットに請求データを入力します。

予測請求承認スコアを使用した車両と部品の保証請求の迅速な裁定

以前に承認された請求に基づき、保証請求が承認される可能性に関するスコアを取得します。このスコアを確認することで、請求をそのまま承認できるか、さらに検証する必要があるかを判断できます。

対象: この変更は、Automotive Cloud、保証ライフサイクル管理、CRM Analytics for Automotive Cloud、およびスコアリングフレームワークが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: スコアリングフレームワークの [Warranty Claim Approval Score (Manufacturing or Automotive Cloud) (保証請求承認スコア (Manufacturing Cloud または Automotive Cloud))] テンプレート構成種別は「Automotive Foundation ユーザー」、「保証ライフサイクル管理」、「請求管理財団」、「Revenue Intelligence for Automotive」、「AI Accelerator with Scoring Framework (スコアリングフレームワークでの AI アクセラレーター)」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: 予測を取得するには、[設定] の [スコアリングフレームワーク] ページに移動します。[Warranty Claim Approval Score (Manufacturing or Automotive Cloud) (保証請求承認スコア (Manufacturing Cloud または Automotive Cloud))] テンプレート構成種別を使用して CRM Analytics テンプレート構成を作成します。

Automotive Cloud でのレコードを更新および検証するためのドキュメントデータの自動抽出

Automotive Cloud のインテリジェントドキュメントリーダーを使用します。Amazon Textract を使用して自動的に身分証明書、販売証明書、請求書などのデータを抽出し、ドキュメントのデータを Salesforce オブジェクトのさまざまな項目に対応付けます。抽出された情報は、レコードの項目を作成または更新したり、組織にすでに存在するデータを検証したりするために使用できます。たとえば、顧客情報ドキュメントをアップロードして自動的にリードレコードを作成したり、請求書をアップロードして自動的に修理作業指示を作成したりします。

対象: この変更は、Automotive Cloud とインテリジェントドキュメントリーダーが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 組織のユーザーに Intelligent Document Reader アドオンライセンスと「Amazon Textract」権限セットが割り当てられている必要があります。

販売業者の請求に関する有益なインサイトの取得

CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management アプリケーションの Claims Analytics ダッシュボードは、保証請求に迅速に対応し、効率的な請求決議を実現するのに役立ちます。請求数と請求金額が高い販売業者を特定して業務を合理化し、財務への影響を最小限に抑えることができるため、目的となる改善に重点を置くことができます。トレンド分析、場所からのインサイト、過去の請求トレンド、SLA 管理を使用して、販売業者の請求を分析します。

対象: この変更は、Automotive Cloud、保証ライフサイクル管理、および CRM Analytics が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、CRM Analytics for Automotive または Automotive Cloud Intelligence ライセンスを持つユーザーが使用できます。

Automotive Cloud のアクション可能リストの機能強化によるアウトリーチ活動の強化

見込み客の自動割り当て機能を使用することで、新しい見込み客を自動的に割り当てるルールを設定できます。アクション可能リストメンバーコンポーネントの新しい絞り込み機能を使用することで、見込み客を簡単に特定してエージェントに割り当てるすることができます。事前設定済み KPI バーを使用することで、アクション可能リストで見込み客のエンゲージメント状況に関する有用なインサイトを得ることができます。見込み客を Service Cloud キューに割り当てることで、エージェントへの見込み客の割り当てを簡略化できます。

対象: この変更は、Automotive Cloud が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 組織のユーザーに Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「アクション可能セグメンテーション」権限セットが割り当てられている必要があります。

Automotive タイムラインでの Data Cloud のエンゲージメントイベントの表示

管理者は、タイムラインに表示する Data Cloud データモデルオブジェクト (DMO) のエンゲージメントイベントを選択できるようになりました。エージェントは、エンゲージメントイベント情報を使用して、顧客や見込み客と状況に応じた簡潔なコミュニケーションをとることができます。

対象: この変更は、Automotive Cloud とタイムラインが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 組織のユーザーに Industry Service Excellence アドオンライセンスと「Industry Service Excellence」権限セットが割り当てられている必要があります。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「タイムライン」と入力し、[タイムライン] をクリックします。次に [新規タイムライン] をクリックし、[Data Cloud イベント] を選択して、関連オブジェクトとエンゲージメントデータモデルオブジェクトの詳細を入力します。さらに、タイムラインにレコードを表示する条件を入力し、表示する項目を定義して、タイムラインを有効にします。

Automotive Cloud 動画の視聴

新しい動画は、ユーザーが Automotive Cloud の車両在庫表示機能を理解するのに役立ちます。

- [「Learn About Vehicle Inventory Search in Automotive Cloud \(Automotive Cloud の車両在庫検索について\)」](#) では、Automotive Cloud の車両在庫検索の概念と一般的なワークフローの重要なステップについて説明しています。
- [「Walkthrough of Vehicle Inventory Search in Automotive Cloud \(Automotive Cloud の車両在庫検索のウォークスルー\)」](#) では、管理者や営業マネージャーが Automotive Cloud の車両在庫検索をどのように使用するのかについて説明しています。
- [「Foundations of Partner Visit Management in Automotive Cloud \(Automotive Cloud のパートナー訪問管理の基礎\)」](#) では、Automotive Cloud のパートナー訪問管理の概念と一般的なワークフローの重要なステップについて説明しています。
- [「Manage Partner Visits in Automotive Cloud \(Automotive Cloud のパートナー訪問管理\)」](#) では、営業マネージャー や現場の責任者が Automotive Cloud のパートナー訪問管理機能をどのように使用するかを示しています。

Automotive Cloud の新規および変更されたオブジェクト

Automotive Cloud では、次のオブジェクトが新規追加および変更されました。

新しいオブジェクト

Automotive Cloud の新しいオブジェクトを次に示します。

法人車両に関する詳細を保存する

新しい Fleet オブジェクトを使用します。

法人車両に車両を関連付ける

新しい FleetAsset オブジェクトを使用します。

法人車両に取引先、取引先責任者、またはユーザーを関連付ける

新しい FleetParticipant オブジェクトを使用します。

納入業者から購入した商品パーツまたは原料の追跡

新しい SupplierProduct オブジェクトを使用します。

契約下の商品の詳細を保存

新しい SalesContractLine オブジェクトを使用します。

変更されたオブジェクト

Automotive Cloud の変更されたオブジェクトを次に示します。

カスタム項目に固有のビジネスデータを保存する

既存の各オブジェクト (EngagementAttendee、EngagementInteraction、EngagementTopic) で最大 50 個のカスタム項目を設定します。

Connect REST API

Automotive Cloud 用 Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

このセクションの内容:

[新しい Connect REST API リソース](#)

Automotive Cloud に次のリソースが新規追加されました。

新しい Connect REST API リソース

Automotive Cloud に次のリソースが新規追加されました。

自動車の在庫移送アクション検索を実行する

新しい `/connect/inventory-visibility/actions` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Inventory Actions Query Input

新しいレスポンスボディ: Inventory Actions Result

Communications Cloud

Communications Cloud は Salesforce Customer 360 を拡張し、通信業界に特化したソリューションを提供します。ビジネスがデジタル変革を行い、業界標準の新しい顧客体験を提供すると同時に、運用効率を高めるようサポートします。デジタルコマース、業種注文管理、契約ライフサイクル管理、注文キャプチャ、Industries CPQ (設定、価格、見積)、エンタープライズ商品カタログ (EPC) など、業界特有のアプリケーションシートや幅広いクラウドソリューションを探査しましょう。

このリリースの内容は、[Communications Cloud リリースノート](#)を参照してください。

Consumer Goods Cloud

営業担当は、新しい Consumer Goods Cloud for Sales アプリケーションを利用することで、リストに登録されているストアとプロアクティブにエンゲージして、シームレスなエクスペリエンスを顧客に提供できます。AIの機能を活用することで、より適切なプロモーションを計画して、収益と売上を最大限に高めることができます。また、Consumer Goods Cloud の他の機能強化についても学習します。

このセクションの内容:

[リテールエグゼキューション](#)

UI の変更と注文への商品の事前入力を使用して、注文を効果的かつ効率的に行えます。カスタム属性を使用することで、注文の [Penny Perfect 價格設定] の計算をカスタマイズできます。プロモーションの承認プロセスを標準化して処理できます。ジョブ定義テンプレートで追加のメタデータを使用することで、プロモーションダッシュボードの実装を簡略化できます。

[取引プロモーション管理](#)

各プロモーションの売上増加量を予測することで、取引プロモーション戦略の効果を向上できます。カスタムカレンダーを使用する営業組織でカスタムラベルを有効にし、ビューの全期間に適用します。顧客のビジネス計画のシナリオを比較し、現在および将来の会計年度の収益と売上を最適化して、最良の計画を選択します。重要業績評価指標と関連する部品表を CSV ファイルでエクスポートします。リアルタイムレポートの商品属性を設定します。

[Consumer Goods Cloud 用 Visual Studio Code ベースモデラーを使用したモバイルアプリケーションのモデル化](#)

Consumer Goods Cloud 用 Visual Studio Code ベースモデラーを使用すると、Consumer Goods (CG) Cloud オフラインモバイルアプリケーションを Windows または Mac コンピューター上でカスタマイズできます。個別の Windows Server とデータベースをホストする必要はありません。設計契約で Visual Studio Code をエディターとして使用するだけでなく、Salesforce CLI に完全に統合された新しい CG Cloud モデラーコマンドラインインターフェース (CLI) プラグインを利用することができます。新しいモデラー CLI プラグインを使用すると、さまざまなモデラー操作を実行できます。たとえば、契約を検証したり、カスタムアプリケーションを作成したり、カスタム CG Cloud オフラインモバイルアプリケーションのシミュレーションをマシン上で直接実行したり、リリースパッケージを作成したりできます。

[Sales Excellence を使用した顧客満足度の向上](#)

Sales Excellence を使用して、ユーザーは通常の注文、未処理の請求書、プロモーション、破損した商品、商品紹介のフォローアップのために店舗のリストと積極的にエンゲージできます。取引先、訪問、注文、エンゲージメント履歴レコードに簡単にアクセスできるため、営業担当は顧客とエンゲージし、指示されたアクションを実行できます。営業担当は、注文管理および Penny Perfect 價格設定機能によって提供される電話セールス機能で発注することで収益の増加を促進できます。

[自動化のパフォーマンス改善とエラー処理](#)

Consumer Goods Cloud 管理パッケージで、既存のワークフローとプロセスビルダー用の新しいフローを使用します。

[Consumer Goods Cloud 動画](#)

新しい動画は、Consumer Goods Cloud の機能を理解するのに役立ちます。動画を Salesforce ヘルプページと Vidyard で利用できるようになりました。

[新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト](#)

Consumer Goods Cloud の変更されたオブジェクトにより、より多くの操作を実行できます。

[新規および変更されたメタデータ型](#)

Consumer Goods Cloud の新規および変更されたメタデータ型を最大限活用してください。

リテールエグゼキューション

UIの変更と注文への商品の事前入力を使用して、注文を効果的かつ効率的に行えます。カスタム属性を使用することで、注文の [Penny Perfect 價格設定] の計算をカスタマイズできます。プロモーションの承認プロセスを標準化して処理できます。ジョブ定義テンプレートで追加のメタデータを使用することで、プロモーションダッシュボードの実装を簡略化できます。

このセクションの内容:

効率的な注文実行

事前入力された商品リストを使用して、新しい高度な注文の実行時に、[注文品目] ウィンドウで簡単に商品を選択できます。商品は、取引先階層内の関連する取引組織ノードの承認リストに基づいて事前入力されます。表示された商品の数量を直接入力します。商品マスターから商品を手動で検索して追加する必要はありません。

Penny Perfect 價格設定の計算でのカスタム属性の追加

新しい [Pricing Context Definition (價格設定コンテキスト定義)] オブジェクトを使用して、價格設定コンテキストにカスタム属性を追加します。追加したカスタム属性は、價格設定条件の検索とユーザーイグジットで使用します。

プロモーションの計画と実行の強化

高度な分析を活用し、Job Definition Template(ジョブ定義テンプレート)オブジェクトの追加メタデータを使用して、プロモーションダッシュボードを実装します。更新された [プライマリアンケートポリシー] 項目の選択リスト値を使用して、ストアの参加、配置、納入商品の表示品質を分析します。また、新しい [Competitor Relevant (関連競合他社)] 項目を使用して、競合他社の状況(プロモーション、價格、納入商品の配置)を分析します。

Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションでの添付ファイルの容易な共有

アプリケーションの共有機能を使用して、顧客、売上フォルダー、プロモーション、商品など、さまざまなスタイルから添付ファイル (PDF、XLS、DOCX などのファイル種別) を共有します。

プロモーションの傾向と効果の分析

[関連] リストをカスタマイズして、プロモーションの承認履歴を表示します。標準プロモーションの承認プロセスを効果的に合理化して、追跡および管理できます。

実現した IdeaExchange: 印刷レイアウトでの署名のプレビュー

署名テンプレートを使用して、オブジェクトの署名フローを設定し、複数のロールの署名を印刷レイアウトに含めます。標準のソリューションとして、注文の確認 PDF に、注文を確認した店舗マネージャーの署名が含まれるようになりました。顧客との契約や日次レポートなど、他のプロセス用にカスタム印刷レイアウトを作成することもできます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

セールス組織の追加の権限

追加のメタデータを使用することで、セールス組織オブジェクトに対する作成権限と編集権限を取得できます。Winter '24 以降、これらの権限を手動で追加する必要がなくなりました。

モバイル同期の設定の最適化

Salesforce と Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーション間で大きなデータセットの同期プロセスの速度と信頼性を体験してください。システム管理者が設定できる、バッチ SOQL と名前付きフェッチツリー (NFT) の実行のデフォルトの応答時間制限が増加しました。

Android デバイスでの Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションの Bluetooth 権限の許可

Android デバイスの Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションを Winter '24 バージョンにアップグレードしたら、必ず bluetooth 権限を許可します。

強化されたアクセシビリティによるユーザー満足度の向上

アクセシビリティを改善する小さくても重要な変更を最大限活用します。

効率的な注文実行

事前入力された商品リストを使用して、新しい高度な注文の実行時に、[注文品目] ウィンドウで簡単に商品を選択できます。商品は、取引先階層内の関連する取引組織ノードの承認リストに基づいて事前入力されます。表示された商品の数量を直接入力します。商品マスターから商品を手動で検索して追加する必要はありません。

新しい検索条件や顧客属性を顧客の検索で使用することで、顧客の高度な検索を実行し、新規注文ウィンドウで適切な顧客を選択します。[項目を追加] ウィンドウでは、[説明]、[商品コード]、[GTIN]、[カテゴリ]、[ブランド]、[昇格済み]、[リスト済み] 検索条件を使用して商品の検索を絞り込みます。[注文品目] ウィンドウでは、[カテゴリ]、[ブランド]、[注文テンプレート] を使用して、商品をさらに検索できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: これらの変更は、Lightning Web コンポーネントで注文する場合にのみ適用されます。

Penny Perfect 價格設定の計算でのカスタム属性の追加

新しい[Pricing Context Definition (価格設定コンテキスト定義)] オブジェクトを使用して、価格設定コンテキストにカスタム属性を追加します。追加したカスタム属性は、価格設定条件の検索とユーザーイグジットで使用します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: カスタム属性を作成するには、Penny Perfect 價格設定ライセンスと「Penny Perfect 價格設定」権限セットが必要です。システム管理者は、[Pricing Context Definition (価格設定コンテキスト定義)] オブジェクトに対する「参照」および「すべて表示」権限を設定して、ユーザーに付与する必要があります。

理由: 追加のコンテキスト項目設定では、デフォルトのコンテキスト項目と別名は使用できません。注文品目価格設定コンテキストに関連するカスタム属性は、完全にはサポートされません。

プロモーションの計画と実行の強化

高度な分析を活用し、Job Definition Template (ジョブ定義テンプレート) オブジェクトの追加メタデータを使用して、プロモーションダッシュボードを実装します。更新された[プライマリアンケートポリシー]項目の選択リスト値を使用して、ストアの参加、配置、納入商品の表示品質を分析します。また、新しい[Competitor Relevant (関連競合他社)] 項目を使用して、競合他社の状況(プロモーション、価格、納入商品の配置)を分析します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションでの添付ファイルの容易な共有

アプリケーションの共有機能を使用して、顧客、売上フォルダー、プロモーション、商品など、さまざまなファイルから添付ファイル (PDF、XLS、DOCXなどのファイル種別) を共有します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この共有機能は iOS ユーザーのみが使用できます。

プロモーションの傾向と効果の分析

[関連] リストをカスタマイズして、プロモーションの承認履歴を表示します。標準プロモーションの承認プロセスを効果的に合理化して、追跡および管理できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: この機能はすべての標準プロモーションで使用できます。

方法: 承認履歴を表示するには、オブジェクトマネージャーで [プロモーション] オブジェクトを見つけて選択します。[承認履歴] をページレイアウトの [関連リスト] セクションにドラッグします。

関連トピック:

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.customize_layout.htm



印刷レイアウトでの署名のレビュー

署名テンプレートを使用して、オブジェクトの署名フローを設定し、複数のロールの署名を印刷レイアウトに含めます。標準のソリューションとして、注文の確認 PDF に、注文を確認した店舗マネージャーの署名が含まれるようになりました。顧客との契約や日次レポートなど、他のプロセス用にカスタム印刷レイアウトを作成することもできます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションユーザーのみが使用できます。

セールス組織の追加の権限

追加のメタデータを使用することで、セールス組織オブジェクトに対する作成権限と編集権限を取得できます。Winter '24 以降、これらの権限を手動で追加する必要がなくなりました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: アップグレードされた権限は、ビジネス管理者のみが利用できます。

モバイル同期の設定の最適化

Salesforce と Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーション間で大きなデータセットの同期プロセスの速度と信頼性を体験してください。システム管理者が設定できる、バッチ SOQL と名前付きフェッチツリー (NFT) の実行のデフォルトの応答時間制限が増加しました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「Consumer Goods Cloud Mobile Sync Admin (Consumer Goods Cloud Mobile Sync 管理者)」権限を持つユーザーは、[Sync 設定] のカスタム設定を指定できます。

方法: [設定] の [カスタム設定] で、[Sync 設定] に移動し、[Batch Soql Response Time Limit (バッチ SOQL の応答時間の制限)] と [NFT Response Time Limit (NFT 応答時間の制限)] 項目に「4000」を入力します。

Android デバイスでの Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションの Bluetooth 権限の許可

Android デバイスの Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションを Winter '24 バージョンにアップグレードしたら、必ず bluetooth 権限を許可します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、Android 12 および 13 デバイスの Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションを 244.0001.00 から 246.0000.00 にアップグレードするユーザーに適用されます。

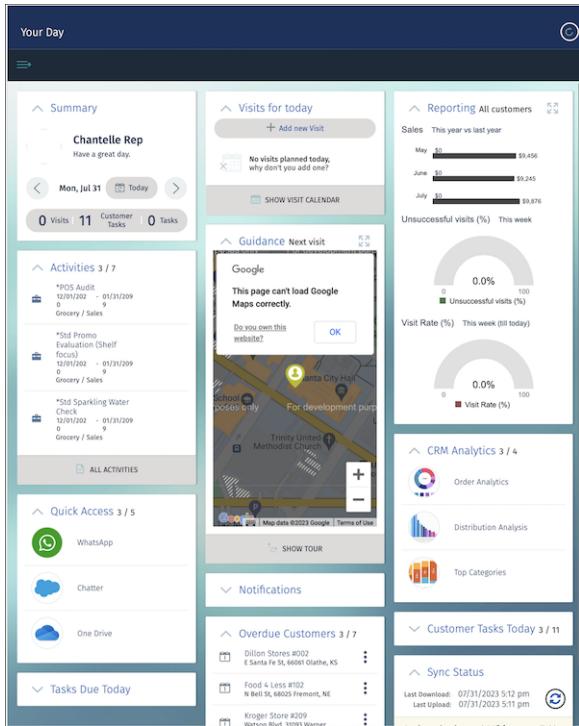
強化されたアクセシビリティによるユーザー満足度の向上

アクセシビリティを改善する小さくても重要な変更を最大限活用します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

How: 変更の詳細を次に示します。

- プロモーションカレンダーが Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.1 の色のコントラスト要件に準拠するようになりました。
- 視力が低い方が見やすく使いやすいコンテンツになりました。新しい高コントラストのモバイルアプリケーションテーマを Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションに適用します。テキスト以外の UI 要素(ボタンなど)や、一部のテキスト UI 要素(リンクなど)を表示するときの色のコントラストがアクセシビリティ基準に合わせて改善されました。



取引プロモーション管理

各プロモーションの売上増加量を予測することで、取引プロモーション戦略の効果を向上できます。カスタムカレンダーを使用する営業組織でカスタムラベルを有効にし、ビューの全期間に適用します。顧客のビジネス計画のシナリオを比較し、現在および将来の会計年度の収益と売上を最適化して、最良の計画を選択します。重要業績評価指標と関連する部品表をCSVファイルでエクスポートします。リアルタイムレポートの商品属性を設定します。

このセクションの内容:

売上増加量の予測によるプロモーションのパフォーマンスの向上

各プロモーションの売上増加量を予測することで、取引プロモーション戦略の効果を向上できます。この予測を使用して、プロモーション戦略と属性の特定の組み合わせでの影響を把握し、商品のプロモーション戦略を変更することで増加量を改善し、トレードプロモーションへの投資を最大化できます。

カスタムラベルによるカスタム期間の簡単な識別

カスタム期間の短い説明をラベルとして使用するには、営業組織でカスタムラベルを有効にします。カスタムラベルは、取引カレンダー、プロモーションP&Lビュー、数量計画カード、支出計画カード、取引先計画、顧客ビジネス計画、リアルタイムレポートなど、トレードプロモーション管理のさまざまなビューで確認できます。

顧客ビジネス計画に最適なシナリオの選択

現在および将来の会計年度の計画をしながら、顧客ビジネス計画(CBP)でシナリオを作成します。シナリオからプロモーションを簡単に除外して、重要業績評価指標(KPI)を手動で調整して、さまざまな戦略をシミュレーションできます。異なるシナリオのKPIを比較して、収益と売上を最大化する最良のシナリオを有効化します。

プロモーションの損益計算についての理解

APIを使用して、未加工データと計算済み重要業績評価指標(KPI)の両方を含む、プロモーションの損益計算に関する情報を分析します。計算済み KPI で使用されたソース KPI、計算変数、および計算式を確認できます。週次の値が毎日の値にどのように配分されているかを確認できます。

APIを使用した重要業績評価指標グリッドのエクスポート

APIを使用して、トレードプロモーション管理の重要業績評価指標(KPI)グリッドをエクスポートします。API は、計算イベントをトリガーし、製品レベル、サブセット、期間、および期間種別に基づいて KPI 情報を取得できます。特定の期間のデータを JSON、逐次化された JSON、または CSV 形式で取得できます。

部品表の商品およびコンポーネントの表示機能向上による有効なインサイトの取得

コンポーネントレベルの重要業績評価指標(KPI)を、関連するコンポーネントとともに CSV ファイルでエクスポートします。エクスポートされた CSV ファイルには、プロモーションと関連する部品表コンポーネントに関する情報、および商品が部品表であるかどうかを示す項目が含まれています。

リアルタイムレポートでの商品属性の追加

特定の要件に基づいて、リアルタイムレポートで使用可能な商品属性を定義します。商品ID、商品コード、Global Trade Item Number (GTIN)などの追加の商品属性をリアルタイムレポートで表示します。以前のリアルタイムレポートでは、商品ディメンションのみが使用され、商品階層に複数の商品レベルを定義できませんでした。

リアルタイムレポートをより直感的に使用

トレードプロモーション管理のリアルタイムレポートでは、合計が重要業績評価指標(KPI)レポートの詳細セクションの最下部ではなく、最上部に表示されるようになりました。プロモーションまたは戦略が、選択したレポート時間枠内に少なくとも 1 日以上含まれる場合、KPI レポートに組み込まれます。

トレードプロモーション管理でのインテリジェントドキュメントリーダーの取得

AWS アカウントを介して Amazon Textract を使用することで、アップロードされたドキュメントから情報を自動的に抽出します。抽出された情報を使用して、レコードの項目を作成または更新したり、Salesforce にすでに存在するデータを検証したりします。

権限セットの更新

CGCloud Finance Admin (CGCloud 財務管理者)、CGCloud Business Admin (CGCloud ビジネス管理者)、CGCloud Finance User (CGCloud 財務ユーザー)、および CGCloud Finance Manager (CGCloud 財務マネージャー) の各権限セットに割り当てられている権限が改善され、より優れたアクセス制御が可能になりました。「CGCloud Refresh Update Activation Service (CGCloud 更新の有効化を更新サービス)」権限セットは、トレードプロモーション管理では使用できなくなりました。

強化されたアクセシビリティによるユーザー満足度の向上

プロモーションカレンダーが Web Content Accessibility Guidelines 2.1 の色のコントラスト要件に準拠するようになりました。さらに、視力が低い方が見やすく使いやすいコンテンツになりました。テキスト以外の UI 要素(ボタンなど)や、一部のテキスト UI 要素(リンクなど)を表示するときの色のコントラストがアクセシビリティ基準に合わせて改善されました。

改善された取引プロモーション管理ドキュメント

Salesforce ヘルプの「取引プロモーション管理の設定」ドキュメントが更新され、「Trade Promotion Management At Your Fingertips (すぐに使用できる取引プロモーション管理)」ドキュメントが廃止されました。これらの変更により、すべての機能ドキュメントを 1か所で参照し、必要な情報をを見つけやすくなりました。

売上増加量の予測によるプロモーションのパフォーマンスの向上

各プロモーションの売上増加量を予測することで、取引プロモーション戦略の効果を向上できます。この予測を使用して、プロモーション戦略と属性の特定の組み合わせでの影響を把握し、商品のプロモーション戦略を変更することで増加量を改善し、トレードプロモーションへの投資を最大化できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud の貿易促進管理、CRM Analytics for Consumer Goods Cloud、およびスコアリングフレームワークが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: スコアリングフレームワークで CRM Analytics テンプレート構成を作成する場合、[Predict Sales Uplift Volume (Trade Promotion Optimization) (売上増加量の予測(トレードプロモーション管理))] テンプレート構成種別は、CRM Analytics for Consumer Goods 権限セットライセンス、または Revenue Intelligence for Consumer Goods 権限セットライセンスを持つトレードプロモーション管理ユーザーが使用できます。

方法: 予測を取得するには、[設定] の [スコアリングフレームワーク] ページに移動します。CRM Analytics テンプレート構成を作成するには、[Predict Sales Uplift Volume (Trade Promotion Optimization) (売上増加量の予測(トレードプロモーション管理))] テンプレート構成種別を使用します。プロモーションレコードページで [Predict Uplift (増加予測)] をクリックすると、そのプロモーションの予測売上増加量が [Volume Planning (数量計画)] カードに表示されます。

カスタムラベルによるカスタム期間の簡単な識別

カスタム期間の短い説明をラベルとして使用するには、営業組織でカスタムラベルを有効にします。カスタムラベルは、取引カレンダー、プロモーションP&Lビュー、数量計画カード、支出計画カード、取引先計画、顧客ビジネス計画、リアルタイムレポートなど、トレードプロモーション管理のさまざまなビューで確認できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud 取引プロモーション管理が有効になっている Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

顧客ビジネス計画に最適なシナリオの選択

現在および将来の会計年度の計画をしながら、顧客ビジネス計画 (CBP) でシナリオを作成します。シナリオからプロモーションを簡単に除外して、重要業績評価指標(KPI)を手動で調整して、さまざまな戦略をシミュレーションできます。異なるシナリオのKPIを比較して、収益と売上を最大化する最良のシナリオを有効化します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud 取引プロモーション管理が有効になっている Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

プロモーションの損益計算についての理解

API を使用して、未加工データと計算済み重要業績評価指標 (KPI) の両方を含む、プロモーションの損益計算に関連する情報を分析します。計算済み KPI で使用されたソース KPI、計算変数、および計算式を確認できます。週次の値が毎日の値にどのように配分されているかを確認できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud 取引プロモーション管理が有効になっている Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

API を使用した重要業績評価指標グリッドのエクスポート

API を使用して、トレードプロモーション管理の重要業績評価指標 (KPI) グリッドをエクスポートします。API は、計算イベントをトリガーし、製品レベル、サブセット、期間、および期間種別に基づいて KPI 情報を取得できます。特定の期間のデータを JSON、逐次化された JSON、または CSV 形式で取得できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud 取引プロモーション管理が有効になっている Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

部品表の商品およびコンポーネントの表示機能向上による有効なインサイトの取得

コンポーネントレベルの重要業績評価指標 (KPI) を、関連するコンポーネントとともに CSV ファイルでエクスポートします。エクスポートされた CSV ファイルには、プロモーションと関連する部品表コンポーネントに関する情報、および商品が部品表であるかどうかを示す項目が含まれています。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud 取引プロモーション管理が有効になっている Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

リアルタイムレポートでの商品属性の追加

特定の要件に基づいて、リアルタイムレポートで使用可能な商品属性を定義します。商品 ID、商品コード、Global Trade Item Number (GTIN) などの追加の商品属性をリアルタイムレポートで表示します。以前のリアルタイムレポートでは、商品ディメンションのみが使用され、商品階層に複数の商品レベルを定義できませんでした。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud 取引プロモーション管理が有効になっている Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

リアルタイムレポートをより直感的に使用

トレードプロモーション管理のリアルタイムレポートでは、合計が重要業績評価指標 (KPI) レポートの詳細セクションの最下部ではなく、最上部に表示されるようになりました。プロモーションまたは戦略が、選択したレポート時間枠内に少なくとも 1 日以上含まれる場合、KPI レポートに組み込まれます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud 取引プロモーション管理が有効になっている Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

トレードプロモーション管理でのインテリジェントドキュメントリーダーの取得

AWS アカウントを介して Amazon Textract を使用することで、アップロードされたドキュメントから情報を自動的に抽出します。抽出された情報を使用して、レコードの項目を作成または更新したり、Salesforce にすでに存在するデータを検証したりします。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud 取引プロモーション管理が有効になっている Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: インテリジェントドキュメントリーダーは、Intelligent Document Reader アドオンライセンスにより利用可能です。

権限セットの更新

CGCloud Finance Admin (CGCloud 財務管理者)、CGCloud Business Admin (CGCloud ビジネス管理者)、CGCloud Finance User (CGCloud 貢献者)、および CGCloud Finance Manager (CGCloud 貢献マネージャー) の各権限セットに割り当てられている権限が改善され、より優れたアクセス制御が可能になりました。「CGCloud Refresh Update Activation Service (CGCloud 更新の有効化を更新サービス)」権限セットは、トレードプロモーション管理では使用できなくなりました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud 取引プロモーション管理が有効になっている Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

強化されたアクセシビリティによるユーザー満足度の向上

プロモーションカレンダーが Web Content Accessibility Guidelines 2.1 の色のコントラスト要件に準拠するようになりました。さらに、視力が低い方が見やすく使いやすいコンテンツになりました。テキスト以外の UI 要素(ボタンなど)や、一部のテキスト UI 要素(リンクなど)を表示するときの色のコントラストがアクセシビリティ基準に合わせて改善されました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

改善された取引プロモーション管理ドキュメント

Salesforce ヘルプの「取引プロモーション管理の設定」ドキュメントが更新され、「Trade Promotion Management At Your Fingertips (すぐに使用できる取引プロモーション管理)」ドキュメントが廃止されました。これらの変更により、すべての機能ドキュメントを 1か所で参照し、必要な情報を見つけやすくなりました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud 取引プロモーション管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

Consumer Goods Cloud 用 Visual Studio Code ベースモデルを使用したモバイルアプリケーションのモデル化

Consumer Goods Cloud 用 Visual Studio Code ベースモデルを使用すると、Consumer Goods (CG) Cloud オフラインモバイルアプリケーションを Windows または Mac コンピューター上でカスタマイズできます。個別の Windows Server とデータベースをホストする必要はありません。設計契約で Visual Studio Code をエディターとして使用するだけでなく、Salesforce CLI に完全に統合された新しい CG Cloud モデラーコマンドラインインターフェース (CLI) プラグインを利用することができます。新しいモデルー CLI プラグインを使用すると、さまざまなモデル操作を実行できます。たとえば、契約を検証したり、カスタムアプリケーションを作成したり、カスタム CG Cloud オフラインモバイルアプリケーションのシミュレーションをマシン上で直接実行したり、リリースパッケージを作成したりできます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: Visual Studio Code ベースモデルーは、CG Cloud オフラインモバイルアプリケーションを更新またはカスタマイズする必要があるカスタマイズ担当者およびシステム管理者が使用できます。

Sales Excellence を使用した顧客満足度の向上

Sales Excellence を使用して、ユーザーは通常の注文、未処理の請求書、プロモーション、破損した商品、商品紹介のフォローアップのために店舗のリストと積極的にエンゲージできます。取引先、訪問、注文、エンゲージメント履歴コードに簡単にアクセスできるため、営業担当は顧客とエンゲージし、指示されたアクションを実行できます。営業担当は、注文管理および Penny Perfect 價格設定機能によって提供される電話セールス機能で発注することで収益の増加を促進できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud for Service または Consumer Goods Cloud for Sales and Service、およびアクション可能セグメンテーションが有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition に適用されます。

対象ユーザー: Sales Excellence を使用するには、ユーザーに Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「アクション可能セグメンテーションエンゲージメント」権限セットが必要です。ユーザーが Penny Perfect 價格設定機能を使用するには、Consumer Goods Cloud Sales & Service ライセンスが必要です。

理由: データ処理エンジンを使用して、顧客のさまざまなアクション可能リスト定義を作成できます。アクション可能セグメンテーションを使用して、顧客のアクション可能リストを選定、優先度設定、追跡できます。OminScript を使用して、セールスエージェントが注文やプロモーションなどの商品やサービスに関心のある顧客と効果的にエンゲージできるようにガイドできます。

自動化のパフォーマンス改善とエラー処理

Consumer Goods Cloud 管理パッケージで、既存のワークフローとプロセスビルダー用の新しいフローを使用します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 新しいフローは、無効状態で既存のワークフローにバンドルされています。プロセスビルダーと対応するフローは、追加メタデータ静的リソースフォルダーには含まれなくなりました。これらは、無効状態のフローとして管理パッケージに含まれています。ワークフローとプロセスビルダーに対する既存のカスタマイズは保持され、新しいフローに適用されます。ワークフローとプロセスビルダーを廃止して、フローへの段階的な移行を開始することをお勧めします。

方法: ワークフローまたはプロセスビルダーを無効化して、フローの同等機能を有効化するには、ワークフローまたはプロセスビルダーからフローへの対応付けを使用します。

関連トピック:

https://help.salesforce.com/s/articleView?language=en_US&id=000389396&type=1

Consumer Goods Cloud 動画

新しい動画は、Consumer Goods Cloud の機能を理解するのに役立ちます。動画を Salesforce ヘルプページと Vidyard で利用できるようになりました。

- [Set Up Orders \(注文の設定\)](#): Consumer Goods Cloud のさまざまな注文機能と注文の設定方法について学習します。
- [Add a Custom Tile in Store Cockpit of the Consumer Goods Cloud Offline Mobile App \(Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーションの店舗コックピットへのカスタムタイルの追加\)](#): この動画シリーズでは、Salesforce

でカスタムオブジェクトを作成してデータをモーダーに同期する方法、モーダーの契約ファイルを使用してオブジェクトを新しいタイルとしてカスタマイズする方法、モーダーのシミュレーター・アプリケーションでカスタムタイルをテストする方法を学習します。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

Consumer Goods Cloud の変更されたオブジェクトにより、より多くの操作を実行できます。

リテールエグゼキューション

アセットのストアの参加、配置、表示品質を分析します。

JobDefinitionTemplate オブジェクトの [Primary Survey Policy (プライマリアンケートポリシー)] 項目に追加された4つの新しい選択リスト値を使用します。

プロモーション、価格、またはアセットの配置に関する競合他社の状況を分析します。

JobDefinitionTemplate オブジェクトの新しい [Competitor Relevant (競合他社関連)] 項目を使用します。

新規および変更されたメタデータ型

Consumer Goods Cloud の新規および変更されたメタデータ型を最大限活用してください。

メタデータ型

Salesforce と Consumer Goods Cloud オフラインモバイルアプリケーション間での同期中に無視する必要がある Salesforce オブジェクト項目を設定する

新しい cgcloud_Sync_Ignored_Field_mdt custom メタデータ型を使用します。

設定

削除: オブジェクト検出の有効化メタデータ設定の廃止

enableObjectDetection メタデータ設定は Winter '24 の時点で廃止されます。Salesforce では、このメタデータ設定のサポートを終了しています。

関連トピック:

[Consumer Goods Cloud 開発者ガイド: カスタムメタデータ API](#)

Energy and Utilities Cloud

Energy & Utilities Cloud (E&U Cloud) は、Salesforce Sales Cloud、Salesforce Service Cloud、Salesforce Platform の全機能を統合し、公益事業、小売エネルギー、現代のエネルギー・サービス企業の業界固有のソリューションに拡張します。

このリリースの内容は、[Energy & Utilities Cloud リリースノート](#) を参照してください

Financial Services Cloud

Data Cloud では、Salesforce および他の外部データソース全体でデータを整理および統合できます。新しい Actionable Relationship Center テンプレートは、取引先リレーションセンターを最大限に活用するのに役立ちます。取引の紛争管理は、金融機関が紛争解決プロセスを合理化するのに役立ちます。

このセクションの内容:

[アクション可能セグメンテーション](#)

リスト作成者が列の設定をカスタマイズしたり、リストを更新したり、既存のリストにリストメンバーとしてオブジェクトレコードを追加したりできるようにします。ガイド付き設定を利用して、アクション可能セグメンテーションを効率的に設定できるようになりました。

[アクション可能リストメンバー](#)

[アクション可能リストメンバー] コンポーネントに表示されるメンバーを絞り込みます。新しい重要業績評価指標(KPI)バーを使用して、アクション可能リストのエンゲージメント状況を一目で確認します。Service Cloud キューを通じて見込み客を営業担当やサービスエージェントに割り当てます。新しい見込み客をエージェントに自動的に割り当てるルールを設定します。

[Data Cloud セグメントのリストビルダー](#)

Data Cloud セグメントからアクション可能リストを作成し、営業やサービス活動を合理化して、新たな成長のチャンスを創出します。

[取引の紛争管理](#)

取引の紛争管理では、合理化された紛争解決プロセスが提供され、金融機関は複雑なプロセス、システム、規制に関する課題を克服できるようになります。取引の紛争管理を使用することで、複数のシステムを切り替えるという非効率性がなくなり、法規制へのコンプライアンスを確保し、運用コストを削減すると同時に、顧客と従業員のエクスペリエンスを強化できます。

[サービスプロセスの自動化](#)

Service Process Studio の変更および金融サービスクライアントポータルの新しいセルフサービス機能について説明します。

[ディスカバリーフームワークの機能強化](#)

ディスカバリーフームワーク OmniScript の Document Matrix 要素を使用して、ユーザーが調査を送信するときにアップロードする必要があるドキュメントを自動的に特定します。

[財務目標](#)

クライアントが短期および長期の財務目標を達成できるよう支援します。

[統合オンボーディング](#)

サンプルオンボーディングアプリケーションを使用して、オンボーディングを迅速に開始します。ドキュメント内のデータを当事者プロファイルとその子オブジェクトに照らしてすばやく簡単に検証します。

[Financial Services Cloud のその他の機能強化](#)

Financial Services Cloud のその他の重要な機能強化について説明します。

Financial Services Cloud ドキュメントの変更内容

『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』および『Financial Services Cloud インストールガイド』が Salesforce ヘルプに配置されるようになりました。クイックスタートガイドのコンテンツが『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』にマージされました。アップグレードガイドが廃止されました。Actionable Relationship Center と準拠データ共有のドキュメントは新しい場所にあります。

新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト項目

新しいおよび更新された Financial Services Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

アクション可能セグメンテーション

リスト作成者が列の設定をカスタマイズしたり、リストを更新したり、既存のリストにリストメンバーとしてオブジェクトレコードを追加したりできるようになります。ガイド付き設定を利用して、アクション可能セグメンテーションを効率的に設定できるようになりました。

関連トピック:

[アクション可能セグメンテーション](#)

アクション可能リストメンバー

[アクション可能リストメンバー]コンポーネントに表示されるメンバーを絞り込みます。新しい重要業績評価指標 (KPI) バーを使用して、アクション可能リストのエンゲージメント状況を一目で確認します。Service Cloud キューを通じて見込み客を営業担当やサービスエージェントに割り当てます。新しい見込み客をエージェントに自動的に割り当てるルールを設定します。

関連トピック:

[アクション可能リストメンバー](#)

Data Cloud セグメントのリストビルダー

Data Cloud セグメントからアクション可能リストを作成し、営業やサービス活動を合理化して、新たな成長のチャンスを創出します。

関連トピック:

[Data Cloud セグメントのリストビルダー](#)

取引の紛争管理

取引の紛争管理では、合理化された紛争解決プロセスが提供され、金融機関は複雑なプロセス、システム、規制に関する課題を克服できるようになります。取引の紛争管理を使用することで、複数のシステムを切り替えるという非効率性がなくなり、法規制へのコンプライアンスを確保し、運用コストを削減すると同時に、顧客と従業員のエクスペリエンスを強化できます。

このセクションの内容:

[取引の紛争管理を使用した紛争受入プロセスの合理化](#)

使いやすい紛争受入フォームを使用することで、エージェントは取引の紛争データをすばやく取得できます。受入フォームは勘定系システムと簡単に統合できます。この受入フォームを使用すると、エージェントは紛争の対象となる複数の取引を選択し、適切な紛争理由を選び、動的質問を通じて紛争に関連する追加情報を収集して、紛争要求を送信できます。受入フォームはビジネスニーズに合わせてカスタマイズできます。

取引の紛争管理を使用した紛争受入プロセスの合理化

使いやすい紛争受入フォームを使用することで、エージェントは取引の紛争データをすばやく取得できます。受入フォームは勘定系システムと簡単に統合できます。この受入フォームを使用すると、エージェントは紛争の対象となる複数の取引を選択し、適切な紛争理由を選び、動的質問を通じて紛争に関連する追加情報を収集して、紛争要求を送信できます。受入フォームはビジネスニーズに合わせてカスタマイズできます。

対象: この機能は、Financial Services Cloud Growth ライセンスが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。

理由: 取引の紛争管理の専用データモデルを使用することで、金融機関は効率的に取引の紛争を処理できます。送信された紛争要求ごとに、ケース、紛争、紛争項目、評価のレコードが作成されるため、簡単に紛争ワークフローを監視できます。また、紛争項目値に基づいてケース割り当てルールを設定し、紛争ケースを適切なキューワークまたはチームメンバーに転送することもできます。支払ネットワークで紛争処理のガイドラインが更新されたときに、ローコードアプローチで紛争受入フォームを簡単にカスタマイズすることで、進化するガイドラインに適応できます。

方法: FSCTransactionDisputeManagement OmniScript を有効化して、紛争受入アクションのアクションランチャーリリースを作成します。紛争受入アクションが含まれるアクションランチャーコンポーネントを個人取引先ページレイアウトに追加します。個人取引先レコードのアクションランチャーコンポーネントから、エージェントは「Raise Transaction Dispute (取引の紛争を提起)」を検索して、[Raise Transaction Dispute (取引の紛争を提起)] をクリックできます。

関連トピック:

[取引の紛争管理の設定](#)

サービスプロセスの自動化

Service Process Studio の変更および金融サービスクライアントポータルの新しいセルフサービス機能について説明します。

このセクションの内容:

[Service Process Studio for Financial Services Cloud](#)

サービスプロセスのベースデータ属性の詳細を保存する任意のオブジェクトの関連項目を選択します。取引の紛争テンプレートを使用して、取引の紛争を処理するためのサービスプロセス定義をすばやく作成します。

金融サービスクライアントポータルのセルフサービス機能

金融サービスクライアントポータルの新しいセルフサービス機能について説明します。セルフサービス機能には、サービス要求の作成、予定のスケジュール、トピック別のナレッジ記事の閲覧、フィードバックの提供などがあります。

事前作成済みサービスプロセスを使用したリテールバンキングサービスの合理化

新しい事前作成済みのサービスプロセスを使用して、サービスエージェントは使いやすい受入フォームを介してユーザーからさまざまなサービス要求についてデータをすばやく取得できます。各プロセスには、サポートチャネルやセルフサービスチャネルを通じた要求受入のOmniScriptが含まれます。ビジネスニーズに合わせて、ローコード手法で OmniScript をカスタマイズできます。

Service Process Studio for Financial Services Cloud

サービスプロセスのベースデータ属性の詳細を保存する任意のオブジェクトの関連項目を選択します。取引の紛争テンプレートを使用して、取引の紛争を処理するためのサービスプロセス定義をすばやく作成します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、「Industry Services Excellence」権限セットが必要です。

関連トピック:

[Service Process Studio](#)

金融サービスクライアントポータルのセルフサービス機能

金融サービスクライアントポータルの新しいセルフサービス機能について説明します。セルフサービス機能には、サービス要求の作成、予定のスケジュール、トピック別のナレッジ記事の閲覧、フィードバックの提供などがあります。

このセクションの内容:

金融サービスクライアントポータルユーザー向けのセルフサービス環境の強化

金融サービスニーズの管理において、クライアントにより詳細な制御と高い利便性を提供します。金融サービスクライアントポータルには、包括的な新しいセルフサービス機能スイートが用意されているため、内部プロセスを簡素化し、運用コストを削減しながら、クライアントに優れたセルフサービス環境を提供できます。

金融サービスクライアントポータルユーザー向けのセルフサービス環境の強化

金融サービスニーズの管理において、クライアントにより詳細な制御と高い利便性を提供します。金融サービスクライアントポータルには、包括的な新しいセルフサービス機能スイートが用意されているため、内部プロセスを簡素化し、運用コストを削減しながら、クライアントに優れたセルフサービス環境を提供できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: このポータルでは、要求のスナップショットが提供されるため、クライアントは進行中および完了済みのサービス要求を追跡し、予定を管理できるようになります。クライアントは、ポータルのアクションラン

チャーでサービスプロセスを検索することで、すばやくサービス要求を作成できます。さらに、対面、電話、ビデオによる会議用のオプションで予定をスケジュールしたり、一般的な問題に関するFAQやナレッジ記事を閲覧したり、専用チャネルを介してフィードバックを提供したりすることもできます。クライアントに対しては、ポータルをインターネットやモバイルバンキングシステムに統合することで、あらゆる金融サービスニーズに対応するオムニチャネルソリューションを提供することができます。

方法:[設定]から、[クイック検索]ボックスに「デジタルエクスペリエンス」と入力し、[すべてのサイト]を選択します。[新規]をクリックし、使用可能なテンプレートから[金融サービスクライアントポータル]を選択します。このテンプレートでエクスペリエンスサイトを作成し、新しいセルフサービス機能を設定します。

関連トピック:

[金融サービスクライアントポータルのセルフサービス機能](#)

事前作成済みサービスプロセスを使用したリテールバンキングサービスの合理化

新しい事前作成済みのサービスプロセスを使用して、サービスエージェントは使いやすい受入フォームを介してユーザーからさまざまなサービス要求についてデータをすばやく取得できます。各プロセスには、サポートチャネルやセルフサービスチャネルを通じた要求受入のOmniScriptが含まれます。ビジネスニーズに合わせて、ローコード手法で OmniScript をカスタマイズできます。

対象: この機能は、Financial Services Cloud ライセンスが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。

理由: 事前作成済みサービスプロセスを Salesforce 組織に容易にリリースして、リテールバンキングサービス業務の改革を加速します。事前作成済みサービスプロセスでは、Service Process Studio 機能を使用してサービス要求を合理化します。サービスプロセスには、履行を合理化するためのフローとメールテンプレート、コアバンキングおよびその他の外部システムと統合するための BIAN 連携アウトバウンド Mulesoft API が含まれます。

リリースできるサービスプロセスは次のとおりです。

- **Notify Travel Plans** (旅行計画の通知): 旅行関連の取引に関連するカードの非承認を防止します。
- **Update Email or Phone** (メールまたは電話の更新): 顧客が自分の個人情報を容易に更新できるようにし、連絡と口座管理のために正確な最新情報を維持します。
- **Stop Check Payment** (小切手の支払停止): 意図しない小切手の支払を取り消します。
- **Report and Replace Cards** (カードの紛失報告と再発行): カードの紛失または盗難を迅速に報告し、カードの再発行を依頼できるようにします。
- **Order Checkbook** (小切手帳の注文): 迅速な履行とカスタマーサービスの改善のために小切手帳の注文を合理化します。
- **Request Statement Copies** (明細書のコピーの請求): 口座明細書への容易なアクセスを提供します。
- **Transfer Funds to Own Account** (自分の口座への資金の移動): 口座間の資金移動をシンプルで容易にします。
- **Manage Standing Instructions** (有効な指示の管理): 一貫して期限内に支払うために定期的な支払を設定します。
- **Manage Beneficiaries** (受取人の管理): 受取人の管理プロセスを簡便化し、口座から資金を受け取る個人を顧客が追加、変更、削除できるようにします。

- **Request Loan Payoff Statement** (ローン一括返済明細の請求): ローン一括返済明細にすばやくアクセスできるようにして、ローンを管理および返済します。

関連トピック:

[事前作成済みリテールバンキングサービスプロセスの未管理拡張パッケージのインストール](#)

[Financial Services Cloud のリテールバンキングサービスプロセス](#)

[リテールバンキングサービスプロセスのセルフサービス](#)

ディスカバリーフレームワークの機能強化

ディスカバリーフレームワーク OmniScript の Document Matrix 要素を使用して、ユーザーが調査を送信するときにアップロードする必要があるドキュメントを自動的に特定します。

関連トピック:

[評価用にアップロードするドキュメントの動的な特定](#)

財務目標

クライアントが短期および長期の財務目標を達成できるよう支援します。

このセクションの内容:

財務目標の使用

財務目標オブジェクトを使用するために、Financial Services Cloud 管理パッケージをインストールする必要はなくなりました。財務目標を Financial Services Cloud ライセンスで使用できるようになりました。OmniStudio を使用した画期的な新機能があります。財務目標FlexCardを使用すると、ユーザーはクライアントの目標にすばやくアクセスできます。各目標に優先度と状況を追加すると、クライアントが最も重要な目標の目標値を迅速に達成できます。財務目標レコードページの目標メンバーFlexCardを使用すると、ユーザーは目標のメンバーを表示できます。財務目標Omniscryptでは、目標とそのメンバーを作成、編集、削除するためのガイド付きパスがユーザーに提供されます。

新しい Connect REST API リソース

財務目標リソースの新しいリソースは、次のとおりです。

財務目標の使用

財務目標オブジェクトを使用するために、Financial Services Cloud 管理パッケージをインストールする必要はなくなりました。財務目標を Financial Services Cloud ライセンスで使用できるようになりました。OmniStudio を使用した画期的な新機能があります。財務目標 FlexCard を使用すると、ユーザーはクライアントの目標にすばやくアクセスできます。各目標に優先度と状況を追加すると、クライアントが最も重要な目標の目標値を迅速に達成できます。財務目標レコードページの目標メンバー FlexCard を使用すると、ユーザーは目標のメンバーを表示できます。財務目標Omniscryptでは、目標とそのメンバーを作成、編集、削除するためのガイド付きパスがユーザーに提供されます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: ユーザーがこの機能を使用するには、「Financial Services Cloud 拡張機能」および「OmniStudio ユーザー」権限セットが必要です。

理由: 財務目標は、クライアントが個人として、および世帯内で短期および長期の財務目標を達成するのに役立ちます。たとえば、個人取引先レコードで、新車のために貯蓄する目標を作成します。別の個人取引先レコードで、子供の教育のために貯蓄する目標を作成します。両方の個人取引先レコードが同じ世帯レコードのメンバーである場合、目標を一緒に表示できます。優先度を追加し、目標値に向けて実際に貯蓄した金額を追跡し、クライアントにすべての目標に関する最新情報を提供します。

方法: 財務目標 Flexcard を個人取引先ページレイアウトと世帯ページレイアウトに追加します。目標メンバー Flexcard を財務目標レコードページに追加します。財務目標 OmniScript を使用すると、ユーザーはクライアントの目標を追加、編集、削除できます。チームのニーズを満たすために、FlexCard と OmniScript をカスタマイズできます。Salesforce 開発者は財務目標ビジネス API を使用して、財務目標の作成および更新のプロセスを合理化できます。

新しい Connect REST API リソース

財務目標リソースの新しいリソースは、次のとおりです。

財務目標

財務目標と目標メンバーを作成する

新しい `/connect/financialplanning/financialgoals` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Financial Goal List Create Input

新しいレスポンスボディ: Financial Goals Create Output

親の個人取引先、世帯、または関係者リレーションシップのレコードを使用して、財務目標と目標メンバーを照会します。

新しい `/connect/financialplanning/financialgoals/query/${parentRecordId}` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Financial Goal Query Input

新しいレスポンスボディ: Financial Goals List Output

財務目標とそのメンバーを更新する

新しい `/connect/financialplanning/financialgoals/${goalId}` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Financial Goal Patch Input

新しいレスポンスボディ: Financial Goal Patch Output

統合オンボーディング

サンプルオンボーディングアプリケーションを使用して、オンボーディングを迅速に開始します。ドキュメント内のデータを当事者プロファイルとその子オブジェクトに照らしてすばやく簡単に検証します。

このセクションの内容:

顧客のオンボーディングの迅速な開始

顧客オンボーディングプロセスの合理化と改善を行うサンプルのオンボーディングアプリケーションへのアクセス権をユーザーに付与します。サンプルオンボーディングアプリケーションで使用されている OmniScript、フロー、インテグレーション手順、DataRaptor、その他のコンポーネントを Salesforce 組織に簡単にリリースします。これにより、特定のオンボーディングニーズに合わせてこのようなコンポーネントをカスタマイズできます。

エンドツーエンドのドキュメント承認ライフサイクルの合理化

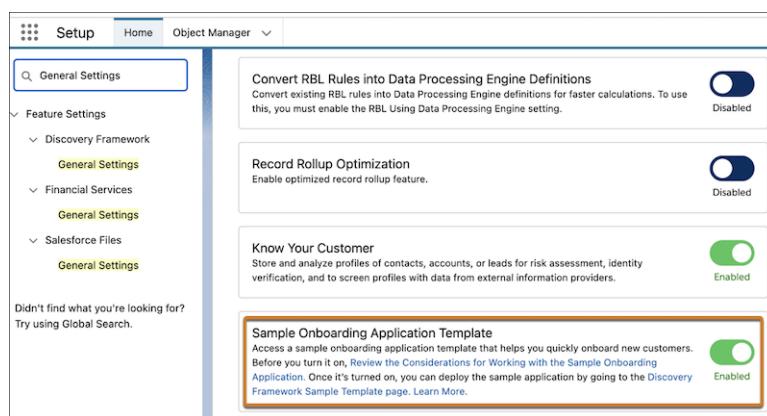
ユーザーはドキュメントチェックリスト項目のドキュメントを当事者プロファイルとその子オブジェクトのデータに照らして検証できるようになりました。データは一度に複数のオブジェクトのレコードに対して検証できます。ドキュメントを検証すると、ドキュメントの状況を「承認」または「却下」に更新して、コメントを追加することができます。ドキュメントを検証したユーザー、検証日時、ドキュメントチェックリスト項目状況の変更履歴に関する情報を追跡することも可能です。

顧客のオンボーディングの迅速な開始

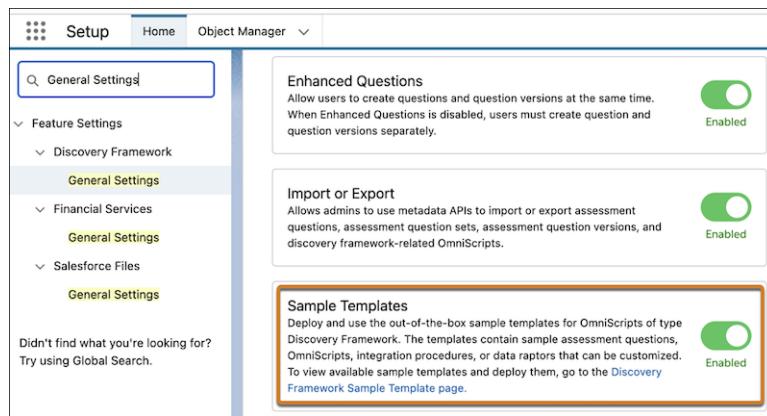
顧客オンボーディングプロセスの合理化と改善を行うサンプルのオンボーディングアプリケーションへのアクセス権をユーザーに付与します。サンプルオンボーディングアプリケーションで使用されている OmniScript、フロー、インテグレーション手順、DataRaptor、その他のコンポーネントを Salesforce 組織に簡単にリリースします。これにより、特定のオンボーディングニーズに合わせてこのようなコンポーネントをカスタマイズできます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud Growth ライセンスが有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: サンプルアプリケーションにアクセスできるようにするには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「一般設定」と入力し、[Financial Services Cloud] で [一般設定] を選択します。次に、[Sample Onboarding Application Template (サンプルオンボーディングアプリケーションテンプレート)] を有効にします。



アプリケーションコンポーネントをリリースするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「一般設定」と入力し、[検出フレームワーク] で [一般設定] を選択します。[サンプルテンプレート] を有効にします。



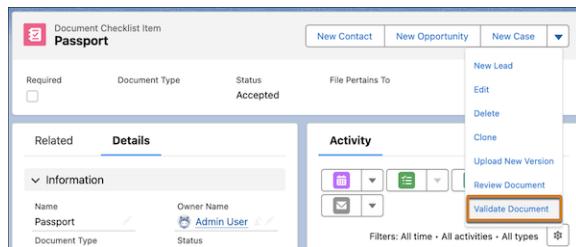
次に、[設定]から、[クイック検索]ボックスに「ディスカバリーフレームワークサンプルテンプレート」と入力し、[ディスカバリーフレームワークサンプルテンプレート]を選択します。テンプレートのリストから[FSC_ONB]テンプレートを選択し、[リリース]をクリックします。

エンドツーエンドのドキュメント承認ライフサイクルの合理化

ユーザーはドキュメントチェックリスト項目のドキュメントを当事者プロファイルとその子オブジェクトのデータに照らして検証できるようになりました。データは一度に複数のオブジェクトのレコードに対して検証できます。ドキュメントを検証すると、ドキュメントの状況を「承認」または「却下」に更新して、コメントを追加することができます。ドキュメントを検証したユーザー、検証日時、ドキュメントチェックリスト項目状況の変更履歴に関する情報を追跡することも可能です。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 検証するドキュメントチェックリスト項目レコードページを開きます。次に、[クイックアクション] メニューで [ドキュメントを検証] をクリックします。



関連トピック:

[ドキュメントチェックリスト項目のドキュメントの検証](#)

Financial Services Cloud のその他の機能強化

Financial Services Cloud のその他の重要な機能強化について説明します。

このセクションの内容:

トピックを使用したインタラクションレコードの整理

インタラクションオブジェクトのトピックを有効化して設定できるようになりました。これにより、ユーザーはトピックをインタラクションレコードに追加して、共通のテーマごとに整理できます。

変更された金融取引を一目で確認

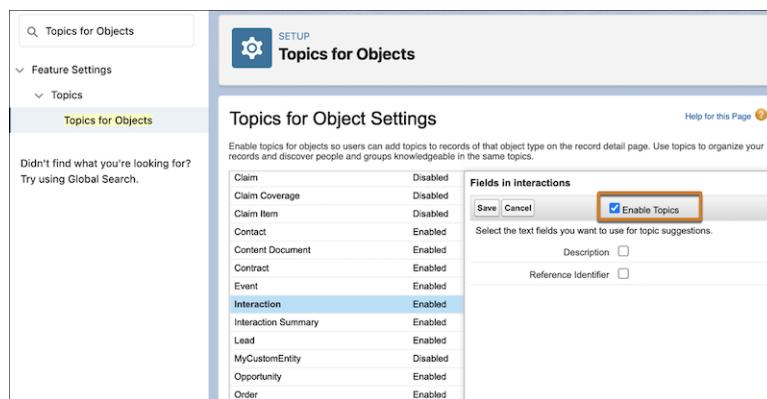
金融取引の Kanban ビューでは、すべての金融取引を包括的に把握できるため、ユーザーは変更点をすばやく確認し、情報に基づいた意思決定を行えます。

トピックを使用したインタラクションレコードの整理

インタラクションオブジェクトのトピックを有効化して設定できるようになりました。これにより、ユーザーはトピックをインタラクションレコードに追加して、共通のテーマごとに整理できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud Growth ライセンスが有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「オブジェクトのトピック」と入力し、[オブジェクトのトピック] を選択します。[インタラクション] オブジェクトを選択して、[トピックを有効化] を選択します。

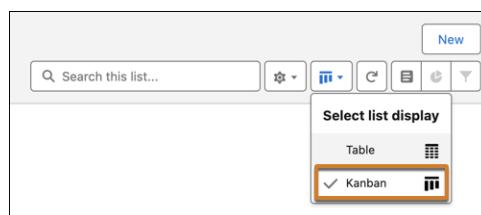


変更された金融取引を一目で確認

金融取引の Kanban ビューでは、すべての金融取引を包括的に把握できるため、ユーザーは変更点をすばやく確認し、情報に基づいた意思決定を行えます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud Growth ライセンスが有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [金融取引] リストビューを開きます。[表示名] メニューから、[Kanban] を選択します。



Financial Services Cloud ドキュメントの変更内容

『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』および『Financial Services Cloud インストールガイド』が Salesforce ヘルプに配置されるようになりました。クイックスタートガイドのコンテンツが『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』にマージされました。アップグレードガイドが廃止されました。Actionable Relationship Center と準拠データ共有のドキュメントは新しい場所にあります。

このセクションの内容:

[Financial Services Cloud のシステム管理者ガイド、インストールガイド、クイックスタートガイド、アップグレードガイド](#)

『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』および『Financial Services Cloud インストールガイド』の新しいホームが Salesforce ヘルプに追加されました。以前は、『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』および『Financial Services Cloud インストールガイド』は developer.salesforce.com/docs に公開されていました。

『Financial Services Cloud クイックスタートガイド』は『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』の「計画と準備」セクションに含まれるようになりました。『Financial Services Cloud アップグレードガイド』は廃止されました。

[Actionable Relationship Center と準拠データ共有のドキュメントを「Industries の一般的な機能ガイド」に移動](#)
Actionable Relationship Center (ARC) と準拠データ共有のドキュメントは、Salesforce ヘルプの『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』から『Industries の一般的な機能ガイド』に移動されました。ARC と準拠データ共有がより多くのクラウドで機能するように拡張されたときに、この場所で他のクラウドの顧客がドキュメントをより迅速に見つけることができます。

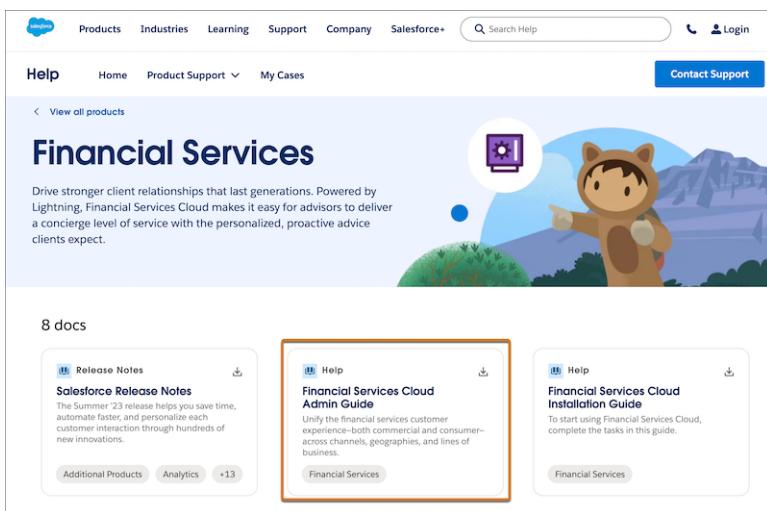
Financial Services Cloud のシステム管理者ガイド、インストールガイド、クイックスタートガイド、アップグレードガイド

『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』および『Financial Services Cloud インストールガイド』の新しいホームが Salesforce ヘルプに追加されました。以前は、『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』および『Financial Services Cloud インストールガイド』は developer.salesforce.com/docs に公開されていました。『Financial Services Cloud クイックスタートガイド』は『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』の「計画と準備」セクションに含まれるようになりました。『Financial Services Cloud アップグレードガイド』は廃止されました。

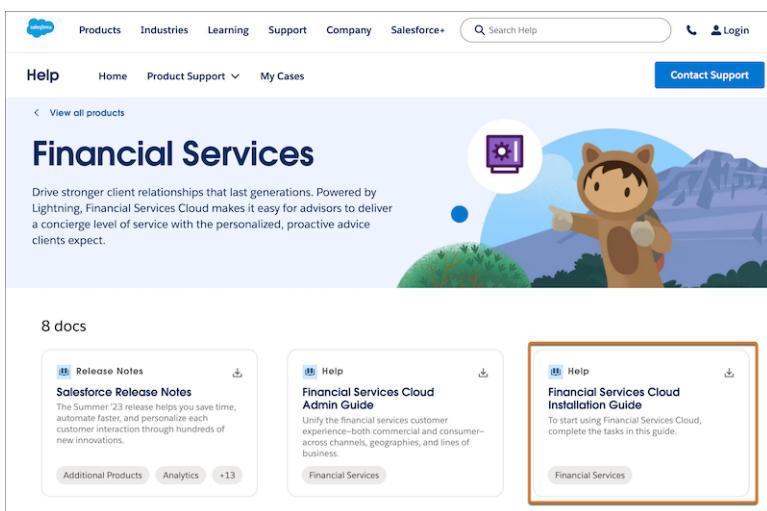
対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Salesforce ヘルプに『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』および『Financial Services Cloud インストールガイド』が『Industries の一般的な機能ガイド』などの他の関連コンテンツと共に配置され、アクションプラン、検出フレームワーク、レコードアラート、アクション可能セグメンテーションを含む多くの重要な機能がドキュメント化されます。

方法: Salesforce ヘルプ (help.salesforce.com) に移動して、[すべての製品を表示] をクリックします。次に、[金融サービス] の製品タイルをクリックし、『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』を見つけます。



同様に、Salesforceヘルプ(help.salesforce.com)に移動して、[すべての製品を表示]をクリックします。次に、[金融サービス]の製品タイルをクリックし、『Financial Services Cloud インストールガイド』を見つけます。



関連トピック:

[Financial Services Cloud システム管理者ガイド](#)

[Financial Services Cloud インストールガイド](#)

[Financial Services Cloud の使用準備](#)

Actionable Relationship Center と準拠データ共有のドキュメントを「Industries の一般的な機能ガイド」に移動

Actionable Relationship Center (ARC) と準拠データ共有のドキュメントは、Salesforceヘルプの『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』から『Industries の一般的な機能ガイド』に移動されました。ARC と準拠データ共有がより多くのクラウドで機能するように拡張されたときに、この場所で他のクラウドの顧客がドキュメントをより迅速に見つけることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience ユーザーに適用されます。

方法: ARC と準拠データ共有のドキュメントを見つけるには、Salesforce ヘルプの「一般的な機能を使用した Industries Cloud の拡張」に移動します。

新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト項目

新しいおよび更新された Financial Services Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

統合オンボーディング

商品に対して申請された申込に関する概要情報を追跡する

新しい Applicant オブジェクトを使用します。

申込者の商品の申込に関する情報を取得する

新しい ApplicationForm オブジェクトを使用します。

申込フォームと商品の両方の詳細を表示する

新しい ApplicationFormProduct オブジェクトを使用します。

対象オブジェクトに対するフローオーケストレーションインスタンスを追跡する

新しい FlowOrchestrationInstRelaObj オブジェクトを使用します。

ドキュメントの検証

ドキュメントチェックリスト項目およびドキュメントチェックリスト項目が検証された対象オブジェクトの詳細を表示する

新しい DocChkItemValidatedTarget オブジェクトを使用します。

ドキュメントのマトリックス

ドキュメントチェックリスト項目のグループ化に使用されるドキュメントカテゴリを表示する

新しい DocumentCategory オブジェクトを使用します。

ドキュメントカテゴリとドキュメント種別の両方の詳細を表示する

新しい DocumentCategoryDocumentType オブジェクトを使用します。

適用されるドキュメントの決定に使用される決定条件を取得する

新しい DocumentDecisionRequirement オブジェクトを使用します。

取引の紛争管理

1つ以上の紛争中の取引を含む紛争の詳細を保存する

新しい Dispute オブジェクトを使用します。

紛争中の取引の詳細を保存する

新しい DisputeItem オブジェクトを使用します。

財務目標

個人取引先の財務目標を表す

新しい Financial Goal オブジェクトを使用します。

財務目標と個人取引先の連結を表す

新しい Financial Goal Party オブジェクトを使用します。

Financial Services Cloud の Data Cloud

Data Cloud データモデルオブジェクト (DMO) は、Financial Services Cloud の Data Cloud 実装で使用されます。以下にリストされている DMO が Data Cloud に存在します。

当事者が自社とどのように関わりたいかを指定する

新しい項目 [取引先会社形態種別]、[取引先評価種別]、[取引先ソース]、[取引先 Web サイト URL]、[年間売上金額]、[従業員数]、[個人]、[顧客]、[次回接触日付]、[次の確認日]、[当事者オブジェクト]、[主要な業種]、[レビュー頻度]、[内部]、[パートナーフラグ]、[販売業者]、[納入業者] を取引先データモデルオブジェクトで使用します。

取引先固有のロールを持つ個人を追加する

取引先の取引先責任者データモデルオブジェクトで新しい項目 [死亡日]、[名]、[性別]、[姓]、[婚姻区分]、[ミドルネーム]、[個人名]、[多胎児順序] を使用します。

カードを使用してアクセスできるクレジットラインへのアクセス権を付与するローンの種別として、銀行が提供する財務ツールを追加する

新しい Card Account データモデルオブジェクトを使用します。

当事者のすべての連絡先を追加する

Contact Point データモデルオブジェクトを使用します。

当事者のメールアドレスを追加する

Contact Point Address データモデルオブジェクトで新しい項目 [Is Used for Mailing (郵送に使用)] を使用します。

当事者のメールアドレスを追加する

Contact Point Email データモデルオブジェクトで新しい項目 [Is Used for Mailing (郵送に使用)] を使用します。

当事者の電話番号を追加する

Contact Point Phone データモデルオブジェクトを使用します。

金融口座のサブ種別を追加する

新しい Deposit Account データモデルオブジェクトを使用します。

金融口座に関連付けられた残高の種別を追加する

新しい Financial Account Balance データモデルオブジェクトを使用します。

金融口座に関連付けられた手数料の種別を追加する

新しい Financial Account Fee データモデルオブジェクトを使用します。

金融口座に関連付けられた利率の種別を追加する

新しい Financial Account Interest Rate データモデルオブジェクトを使用します。

金融口座に関連付けられた制限の種別を追加する

新しい Financial Account Limit データモデルオブジェクトを使用します。

金融口座に関連付けられた団体取引先または個人取引先のロールを追加する

新しい Financial Account Party データモデルオブジェクトを使用します。

金融口座に関する取引を追加する。クレジット、デビットなど、さまざまな種別の取引が可能

新しい Financial Account Transaction データモデルオブジェクトを使用します。

投資口座、銀行口座、保険契約などの金融口座を追加する

新しい Financial Account データモデルオブジェクトを使用します。

金融サービス属性を取得するための取引先の拡張を追加する

新しい Financial Customer データモデルオブジェクトを使用します。

財務目標と個人取引先の連結を追加する

新しい Financial Goal Party データモデルオブジェクトを使用します。

個人取引先の財務目標を追加する

新しい Financial Goal データモデルオブジェクトを使用します。

取引先または金融口座に関連する証券、債券、ミューチュアルファンドなどの保有銘柄を作成する

新しい Financial Holding データモデルオブジェクトを使用します。

取引先または金融口座(投資口座)に関連する証券、債券、ミューチュアルファンドなどの保有銘柄を追加する

新しい Financial Security データモデルオブジェクトを使用します。

個人を追加する

Individual データモデルオブジェクトを使用します。

自動車、住宅、生命などの保険契約の種別を追加する

新しい Insurance Policy データモデルオブジェクトを使用します。

当事者に追加できるカスタムタグを保存する。これにより、マーケットセグメンテーションの定義に使用可能

新しい Interest Tag Definition データモデルオブジェクトを使用します。

投資口座や年金口座などの金融口座のサブ種別を追加する

新しい Investment Account データモデルオブジェクトを使用します。

ローン口座などの金融口座のサブ種別を追加する

新しい Loan Account データモデルオブジェクトを使用します。

個人または組織に関連付けられた金融資産を追加する

新しい Party Financial Asset データモデルオブジェクトを使用します。

個人または組織に関連付けられた金融債務を追加する

新しい Party Financial Liability データモデルオブジェクトを使用します。

当事者と関心タグの関連付けを追加する

新しい Party Interest Tag データモデルオブジェクトを使用します。

個人やビジネスなど、取引先の定義を追加する

新しい Party データモデルオブジェクトを使用します。

金融機関が発行した支払システムを顧客に追加し、その所有者(カード所有者)が指定された銀行口座の資金にアクセスできるようにする

Payment Card データモデルオブジェクトで新しい項目 [有効]、[Bank Identification Number (銀行識別番号)]、[Card Ownership Type (カード所有権種別)]、[支払方法] を使用します。

購入者が販売者に商品またはサービスの対価を渡す方法を指定する

Payment Method データモデルオブジェクトで新しい項目 [金融口座] と [当事者] を使用します。

出産や結婚などのクライアントのライフイベントを指定する

新しい Person Life Event データモデルオブジェクトを使用します。

特定のレコードに関するアラートメッセージを作成し、金融口座に関連するアラートの状況と有効期間を追跡する

新しい Record Alert データモデルオブジェクトを使用します。

助成金提供

助成金受領者は、実際に使用した予算のデータを Experience Cloud サイトに入力して、中間レポートと最終レポートを完成できるようになりました。CRM 内で予算の更新をリアルタイムで表示します。所有権に基づく共有が厳密に設定されている組織では、ユーザーは助成金提供オブジェクトにコラボレーターを追加できます。

このセクションの内容:

[Experience Cloud での実際に使用した予算の入力](#)

助成金受領者は、実際に使用した予算のデータを Experience Cloud サイトに入力して、中間レポートと最終レポートを完成できるようになりました。CRM 内で予算の更新をリアルタイムで表示します。

[カスタムの Experience Cloud サイトへの予算コンポーネントの追加](#)

助成金提供テンプレートを使用せずに Experience Cloud サイトを設定している場合、予算 Lightning Web コンポーネントをサイトに追加できるようになりました。

[準拠データ共有を使用した助成金提供レコードの共有](#)

厳格な共有ポリシーがある組織では、ユーザーは準拠データ共有を使用して、予算、資金提供受賞、個人申込を共有できます。

[助成金提供の新しいオブジェクトと項目](#)

助成金提供の新しいオブジェクトと項目を使用して、階層と契約を追跡します。

Experience Cloud での実際に使用した予算の入力

助成金受領者は、実際に使用した予算のデータを Experience Cloud サイトに入力して、中間レポートと最終レポートを完成できるようになりました。CRM 内で予算の更新をリアルタイムで表示します。

対象: この変更は、助成金提供が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: ユーザーが Experience Cloud サイトで予算を作成および更新するには、「助成金提供の Experience Cloud」権限セットが必要です。ユーザーがCRMで予算を表示するには、「助成金提供マネージャー」権限セットが必要です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 予算管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

カスタムの Experience Cloud サイトへの予算コンポーネントの追加

助成金提供テンプレートを使用せずに Experience Cloud サイトを設定している場合、予算 Lightning Web コンポーネントをサイトに追加できるようになりました。

対象: この変更は、助成金提供が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: ユーザーが Experience Cloud サイトをカスタマイズするには、「助成金提供マネージャー」権限セットが必要です。

準拠データ共有を使用した助成金提供レコードの共有

厳格な共有ポリシーがある組織では、ユーザーは準拠データ共有を使用して、予算、資金提供受賞、個人申込を共有できます。

対象: この変更は、助成金提供が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: ユーザーが助成金提供オブジェクトの準拠データ共有を設定するには、「助成金提供マネージャー」権限セットと「準拠データ共有を設定」システム権限が必要です。ユーザーが準拠データ共有を使用してレコードを共有するには、「準拠データ共有を使用」システム権限と、共有するレコードに対する編集アクセス権が必要です。準拠データ共有を使用してレコードを共有する対象ユーザーには、「準拠データ共有を使用」システム権限が必要です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 準拠データ共有の設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Salesforce CRM での助成金提供レコードのユーザーとの共有\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

助成金提供の新しいオブジェクトと項目

助成金提供の新しいオブジェクトと項目を使用して、階層と契約を追跡します。

助成金提供レコードで準拠データ共有を使用する

新しいオブジェクトである BudgetParticipant、FundingAwardParticipant、IndividualApplnParticipant の [準拠データ共有] を有効にします。

資金授与と資金授与修正を契約にリンクする

既存の FundingAwards および FundingAwardAmendments で新しい Contract 項目を使用します。

プログラムと資金調達商談の階層を追跡する

既存の Programs オブジェクトで新しい ParentProgram 項目と、既存の FundingOpportunities オブジェクトで新しい ParentFundingOpportunity 項目に階層を追加します。

助成金提供オブジェクトで動的評価を使用する

動的評価の新しい FundingAward 値と FundingAwardRequirement 値を選択します。

関連トピック:

[開発者ドキュメント: Grantmaking Developer Guide\(助成金提供開発者ガイド\)](#)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Health Cloud

先進治療管理の機能強化を使用して、高度なスケジュールを実装し、保管イベントを追跡します。在宅医療が薬剤管理や統合ケア管理と統合されるようになり、訪問の電子検証もサポートされるようになりました。統合ケア管理にコンソールアプリケーションが含まれ、ケアギャップがサポートされるようになりました。Health Cloud の Actionable Relationship Center を使用して、顧客取引先階層を包括的に表示できます。危機支援センター管理では、紹介を処理できるようになりました。カウンセラーは SMS や他のメッセージング形式を介してクライアントとつながることができます。新しい紹介作成フローを使用して、ユーザーに紹介の作成方法を説明します。新しい問題行動の医療アプリケーションを使用すると、ユーザーは患者の行動的または精神的なヘルスケアジャーニーを完全に把握できます。

このセクションの内容:

[Actionable Relationship Center の機能強化](#)

Actionable Relationship Center のグラフビルダーとリレーショングラフの機能強化により、階層的な取引先の全体像を把握できます。グラフの開始点をアンカーノードとして簡単に定義し、アンカーノードパスを追跡し、関連エンティティの上位階層を表示します。

[先進治療管理の機能強化](#)

先進治療管理の新しい保管管理機能を使用して、生体試料の ID の連鎖と管理の連鎖を簡単に追跡します。ToDo の項目をカスタマイズし、上書き条件の階層に基づいて臨床プロセスのリードタイムを最適化します。また、サービスステリトリーの優先度設定ルールにより、予定の時間枠の検索を最適化します。

[評価の機能強化](#)

ディスカバリーフレームワークと OmniStudio を使用する事前作成済みテンプレート評価により、評価の稼働を簡単に開始できます。

[問題行動の医療アプリケーション](#)

Health Cloud の問題行動の医療アプリケーションでは、患者の行動的または精神的なヘルスケアジャーニーに関連するすべての情報を 1 か所で取得できます。問題行動の医療アプリケーションのガイド付き設定を使用すると、より迅速に稼働を開始できます。

危機支援センター管理の機能強化

危機センターのカウンセラーは、SMS および Web チャットを使用してクライアントとコミュニケーションできるようになりました。ケースに関連付けられた健康の社会的決定要因は、クライアントが直面するケア障壁について、カウンセラーが理解して対処する場合に役立ちます。新しいフローは、施設内の利用可能なベッド数の更新や、紹介で要請されたベッド数の確認を依頼するメールをケア施設システム管理者に送信します。デジタルエクスペリエンスのガイド付き設定に従って、このような新しい危機支援センター管理機能を迅速に設定します。

ヘルスケア提供者の機能強化

ヘルスケア提供者の写真をアップロードし、ヘルスケア提供者に関する詳細を追跡します。

在宅医療の強化

Health Cloud の在宅医療が薬剤管理や統合ケア管理と統合されるようになったことで、患者のケアと安全の向上が促進されています。訪問の電子検証、患者の対象資格の自動チェック、包括的なカレンダービューを使用すると、訪問スケジュールと追跡をさらに簡単に行えます。

統合ケア管理の機能強化

アプリケーションランチャーから新しいコンソールアプリケーションを使用して、統合ケア管理をすばやく起動します。基準を評価してケアギャップを作成する OmniScript フローを使用して、ケアのギャップを特定します。ケアギャップをインポートしたり、手動で作成したりすることもできます。次に、OmniScript フローを起動して、対応中のケアギャップから患者のケアプランを作成します。更新されたケアプランインターフェースで、対応中のケアギャップとその問題、目標、介入を確認します。決定表ユーザーインターフェースの更新により、評価の質問への回答と推奨事項を簡単に対応付けることができます。

インテリジェントなドキュメントの自動化の機能強化

ガイド付き設定を使用して、インテリジェントドキュメントワークスペースの稼働をより迅速に開始できます。

インテリジェントなセールスの機能強化

販売計画レコードページで、パスを使用して販売計画の進行状況を追跡します。Actionable Relationship Center の機能強化により、メドテック組織がより多くの情報に基づいた購入の意思決定を行えるようにします。また、在庫検索に最大 5000 マイル (8047 km) の柔軟な距離制限を定義することで、営業担当が商品不足を軽減できるようにします。

Marketing Cloud Engagement for Health Cloud

Marketing Cloud Engagement for Industries を最大限に活用し、Health Cloud CRM データを Marketing Cloud と同期します。

Health Cloud 用の新しい Shield Platform Encryption

より多くの Health Cloud オブジェクトでの暗号化をサポートします。

紹介の機能強化

自動化ツール、拡張臨床データモデルオブジェクト、Salesforce プラットフォーム用に構築された API を使用して、紹介を管理します。新しい紹介管理機能は、FHIR R4 に従ったデータモデルの標準オブジェクトを使用します。

Salesforce Scheduler の機能強化

Salesforce Scheduler アドオンライセンスをさらに活用します。

[Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト](#)

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータを保存およびアクセスします。

[Health Cloud の新規および変更された呼び出し可能なアクション](#)

Health Cloud の新規および変更された呼び出し可能なアクションを使用します。

[Health Cloud の新規および変更されたメタデータ型](#)

Health Cloud の新規および変更されたメタデータ型を最大限活用します。

[Connect REST API](#)

Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

Actionable Relationship Center の機能強化

Actionable Relationship Center のグラフビルダーとリレーショングラフの機能強化により、階層的な取引先の全体像を把握できます。グラフの開始点をアンカーノードとして簡単に定義し、アンカーノードパスを追跡し、関連エンティティの上位階層を表示します。

このセクションの内容:

[ARC グラフでの上位取引先階層の表示](#)

ARC グラフで双方向ナビゲーションを使用すると、エンティティのリレーションをより柔軟に視覚化できます。ユーザーは、ARC グラフのアンカーノードより上位の階層に存在するエンティティを表示できるようになりました。以前は、ユーザーが視覚化できるのは下位階層のレコードのみで、アンカーノードに親エンティティがあるかどうかを知ることはできませんでした。

[ARC グラフでの柔軟なアンカーノードの簡単な設定](#)

柔軟なアンカーノードを使用して、エンティティ間のビジネスリレーションを完全に表現します。任意のノードを ARC グラフの開始点として設定します。以前は、最上位のノードのみがアンカーとして設定されていました。アンカーノードの基礎となるオブジェクトを簡単に更新します。また、ARC グラフビルダーではグラフに常にアンカーが含まれます。アンカーノードセットのないグラフを作成するときに、ビルダーで最上位のレコードをアンカーとして選択するように求められます。アンカーノードを削除すると、ビルダーによって自動的に最上位のノードがアンカーとして設定されます。

[柔軟な ARC リレーショングラフの表示](#)

ARC リレーショングラフでアンカーノードの直接の親エンティティを視覚化できるようになりました。グラフには、親の親エンティティと元のアンカーノードの同階層も表示されます。各ノードの複数のレコードを表示するか、より簡潔なビューに切り替えることができます。コンテナのすべての子オブジェクトを非表示にしたり、同じコンテナ内で異なる子ノードと一緒にネストするように分割コンテナを設定したりできます。

ARC グラフ内の任意の点からアンカーノードを追跡

ARC グラフを展開してエンティティの階層を表示したときに、アンカーノードを見失う可能性があります。アンカーノードに戻れるように、ARC グラフにはアンカーノードに最も近い親エンティティを示すアイコンが表示されます。アイコンの横にあるレコードカードをクリックすると、アンカーノードパスを簡単にたどることができます、グラフ内の任意の点からアンカーノードに到達できます。

関連トピック:

[Actionable Relationship Center でのインテリジェントな営業業務のサポート](#)

ARC グラフでの上位取引先階層の表示

ARC グラフで双方向ナビゲーションを使用すると、エンティティのリレーションをより柔軟に視覚化できます。ユーザーは、ARC グラフのアンカーノードより上位の階層に存在するエンティティを表示できるようになりました。以前は、ユーザーが視覚化できるのは下位階層のレコードのみで、アンカーノードに親エンティティがあるかどうかを知ることはできませんでした。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] から、[機能設定] の [Actionable Relationship Center] に移動し、[新規リレーショングラフ] をクリックします。グラフビルダーで、表示するすべてのエンティティを設定します。開始点として使用するノードを選択し、[アンカーノードとして割り当て] をクリックします。アプリケーションランチャーからアンカーノードオブジェクトのレコードページに移動して、ARC リレーショングラフを表示します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ARC を使用した取引先階層管理 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ARC グラフでの柔軟なアンカーノードの簡単な設定

柔軟なアンカーノードを使用して、エンティティ間のビジネスリレーションを完全に表現します。任意のノードを ARC グラフの開始点として設定します。以前は、最上位のノードのみがアンカーとして設定されていました。アンカーノードの基礎となるオブジェクトを簡単に更新します。また、ARC グラフビルダーではグラフに常にアンカーが含まれます。アンカーノードセットのないグラフを作成するときに、ビルダーで最上位のレコードをアンカーとして選択するように求められます。アンカーノードを削除すると、ビルダーによって自動的に最上位のノードがアンカーとして設定されます。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] から、[機能設定] の [Actionable Relationship Center] に移動し、[新規リレーショングラフ] をクリックします。グラフビルダーで表現するエンティティを設定します。開始点として使用するノードを選択し、[アンカーノードとして割り当て] をクリックします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: グラフ種別のアンカーノードの設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

柔軟な ARC リレーショングラフの表示

ARC リレーショングラフでアンカーノードの直接の親エンティティを視覚化できるようになりました。グラフには、親の親エンティティと元のアンカーノードの同階層も表示されます。各ノードの複数のレコードを表示するか、より簡潔なビューに切り替えることができます。コンテナのすべての子オブジェクトを非表示にしたり、同じコンテナ内で異なる子ノードと一緒にネストするように分割コンテナを設定したりできます。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: アンカーノードの親を選択すると、キャンバスは自動的にその親を中心としたビューに変更されます。各ノードのカードには3つのレコードが表示され、[さらに表示] でさらに多くのレコードを表示できます。[項目をカードに表示] を無効にして各コンテナの幅を小さくすることで、より簡潔なバージョンのグラフに切り替えます。

アンカーノード設定の切り替えをオフにした場合、または最上位のノードがアンカーである場合、これらの機能強化なしで元の ARC グラフを使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Actionable Relationship Center での取引先階層の表示 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: ARC グラフをよりコンパクトに表示 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: アンカーノードインジケーターのパスに従う \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ARC グラフ内の任意の点からアンカーノードを追跡

ARC グラフを展開してエンティティの階層を表示したときに、アンカーノードを見失う可能性があります。アンカーノードに戻れるように、ARC グラフにはアンカーノードに最も近い親エンティティを示すアイコンが表示されます。アイコンの横にあるレコードカードをクリックすると、アンカーノードパスを簡単にたどることができ、グラフ内の任意の点からアンカーノードに到達できます。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: アプリケーションランチャーから、ARC が設定されているアンカーノードオブジェクトのレコードページに移動します。  の横にあるレコードを選択して、アンカーノードパスをたどります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: アンカーノードインジケーターのパスに従う \(リリースレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

先進治療管理の機能強化

先進治療管理の新しい保管管理機能を使用して、生体試料の ID の連鎖と管理の連鎖を簡単に追跡します。ToDo の項目をカスタマイズし、上書き条件の階層に基づいて臨床プロセスのリードタイムを最適化します。また、サービスステリトリーの優先度設定ルールにより、予定の時間枠の検索を最適化します。

このセクションの内容:

保管管理を使用した透明性の高い追跡プロセスの提供

保管項目の正確なデジタルトレイルを維持することで、治療のロジスティクス業務の効率を最大限に高めます。保管項目ごとに 1 つの管理の連鎖を作成することで、規制ポリシーコンプライアンスをサポートします。治療の各フェーズ、ステップ、ToDo において、保管項目がサイト間を移動する際に、その一意の識別子を割り当てます。

決定表を使用した保管レコードの簡単なカスタマイズ

優先度ベースの入力パラメーターの組み合わせを使用して、保管検証種別の上書き決定表を生成します。この決定表は、Salesforce フローで保管レコードを作成するために呼び出されます。

保管レコードの変更履歴の追跡

保管チェーンエントリレコードの変更日時を取得することで、患者全員の保管レコードのデータ整合性を維持します。変更が発生した治療フェーズ、ステップ、または ToDo に関するデータを追跡して記録します。保管レコード変更に関するレポートを生成することで、関連する詳細を簡単に視覚化できます。

決定表を使用したカスタマイズされた項目リストの作成

ルールの組み合わせを使用して、治療 ToDo の項目設定をカスタマイズします。治療 ToDo が実行される地域、治療プロセス、またはサービスステリトリーに基づいて、省略可能な項目を必須として設定したり、表示順序を変更したり、不要な項目を削除したりします。

作業種別内のステップを使用した現実的なリードタイムの設定

作業種別ステップを使用して、治療フェーズの全体的なリードタイムを正確に表します。優先度に基づき、決定表の入力パラメーターを使用してデフォルトのリードタイムを上書きすることで、柔軟性を高めることができます。[Calculate Lead Time Using Work Type Steps (作業種別ステップを使用したリードタイムの計算)] フローを使用して、リードタイムの上書き決定表を呼び出し、最適なリードタイムを計算して時間枠を予約します。

テリトリーの優先度設定ルールによるサイト利用の最適化

高度なスケジュール設定を利用し、希望するサービステリトリーの組み合わせで迅速に時間枠を見つけてます。作業種別ごとに、子サービステリトリーとその親組織の優先度ベースの組み合わせを定義します。テリトリーの優先度設定ルールを適用すると、時間枠形成ロジックにより、最も優先度の高いサービステリトリーの組み合わせで時間枠が検索されます。

ケアチームのユーザーグループの作成

ケアチームのユーザーグループを作成し、ケアチームが治療ToDoをより迅速に実行できるようにします。ユーザーグループを使用することで、医師や看護師の役割を持つ複数のユーザーが同じToDoを実行できるように設定できます。

Experience Cloud からの先進治療管理へのアクセス

先進治療管理が Experience Cloud で使用できるようになりました。ユーザーは、Experience Cloud サイトから時間枠を検索したり、予定をスケジュールしたり、先進治療管理のその他の機能を使用したりできます。システム管理者として、デジタルワークスペースでの治療センター環境を任意のテンプレートを使用して設定することができます。

作業種別ステップによる治療フェーズ内のステップの表現

Winter '24 リリース以降、作業手順ステップオブジェクトの [関連付けられているフロー名] 項目を表示または使用できなくなりました。代わりに、新しい作業種別ステップオブジェクトを使用して、治療フェーズ内のステップを表し、アクションプランテンプレートを関連付けて治療 ToDo を生成します。Winter '24 リリースより前は、[先進治療作業指示を処理] オーケストレーションフローでは [関連付けられているフロー名] 項目に保存されているデータが引き続き参照されます。[関連付けられているフロー名] 項目は Winter '24 の機能強化では使用できないため、使用しないことをお勧めします。

時間単位でのリードタイムの設定

治療プロセスのリードタイムを日単位だけでなく時間単位でも設定できるようになりました。以前は、リードタイムを設定できるのは日単位のみでした。時間単位のリードタイムを使用すると、治療のフェーズまたはステップを完了するのにかかる時間を最適化し、より詳細な情報を記録できます。

保管管理を使用した透明性の高い追跡プロセスの提供

保管項目の正確なデジタルトレインを維持することで、治療のロジスティクス業務の効率を最大限に高めます。保管項目ごとに1つの管理の連鎖を作成することで、規制ポリシーコンプライアンスをサポートします。治療の各フェーズ、ステップ、ToDoにおいて、保管項目がサイト間を移動する際に、その一意の識別子を割り当てます。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud 先進治療オーケストレーション」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: まず、ケアプログラム加入者レコードを作成して、[治療作業指示を開始] フローをトリガーし、ケアプログラム加入者作業指示レコードを生成します。ケアプログラム加入者作業指示を作成すると、[Create Custody

Chain Entries(保管チェーンエントリを作成)] フローがトリガーされ、保管項目レコードと保管チェーンエントリレコードが生成されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 保管項目の ID の連鎖を設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: ワークフローを使用した保管レコードの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

決定表を使用した保管レコードの簡単なカスタマイズ

優先度ベースの入力パラメーターの組み合わせを使用して、保管検証種別の上書き決定表を生成します。この決定表は、Salesforce フローで保管レコードを作成するために呼び出されます。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud 先進治療オーケストレーション」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で [先進治療管理設定] に移動します。[決定表を設定] で、[決定表を生成] をクリックして有効化します。

アプリケーションランチャーで、[保管検証種別の上書き]を見つけて選択し、要件に従ってレコードを作成します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ワークフローを使用した保管レコードの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

保管レコードの変更履歴の追跡

保管チェーンエントリレコードの変更日時を取得することで、患者全員の保管レコードのデータ整合性を維持します。変更が発生した治療フェーズ、ステップ、または ToDo に関するデータを追跡して記録します。保管レコード変更に関するレポートを生成することで、関連する詳細を簡単に視覚化できます。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud 先進治療オーケストレーション」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: 保管レコードのリストを確認するには、アプリケーションランチャーで、[保管品目] を検索して選択します。

レポートで保管項目履歴の表示を有効にするには、カスタムレポートタイプを作成します。[設定]から[レポートタイプ]に移動します。[新規カスタムレポートタイプ]をクリックして、主オブジェクトとして[保管品目]を選択します。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:管理の連鎖データの分析\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

決定表を使用したカスタマイズされた項目リストの作成

ルールの組み合わせを使用して、治療ToDoの項目設定をカスタマイズします。治療ToDoが実行される地域、治療プロセス、またはサービスアトリトリーに基づいて、省略可能な項目を必須として設定したり、表示順序を変更したり、不要な項目を削除したりします。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud 先進治療オーケストレーション」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で [先進治療管理設定] に移動します。[決定表を設定] で、[決定表を生成] をクリックします。

アプリケーションランチャーから、[先進治療項目の省略可能性の上書き]を見つけて選択し、[新規上書きルール]をクリックします。必要に応じて、項目を変更します。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:階層に基づく必須項目の省略可能性の上書き\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

作業種別内のステップを使用した現実的なリードタイムの設定

作業種別ステップを使用して、治療フェーズの全体的なリードタイムを正確に表します。優先度に基づき、決定表の入力パラメーターを使用してデフォルトのリードタイムを上書きすることで、柔軟性を高めることができます。[Calculate Lead Time Using Work Type Steps (作業種別ステップを使用したリードタイムの計算)] フローを使用して、リードタイムの上書き決定表を呼び出し、最適なリードタイムを計算して時間枠を予約します。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「複数ステップのスケジュール」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: アプリケーションランチャーで [作業種別ステップ] に移動し、ステップごとにリードタイムを追加します。

次に、[設定] から [先進治療管理設定] に移動します。[高度なスケジュール] で、[高度なスケジュールを有効化] をクリックします。次に、[決定表を設定] で [決定表を生成] をクリックし、リードタイム決定表を有効化します。アプリケーションランチャーで、[作業種別ステップリードタイムの上書き]を見つけて選択し、要件に従ってレコードを作成します。

時間枠を検索するときに、[Calculate Lead Time Using Work Type Steps (作業種別ステップを使用したリードタイムの計算)] フローによって、決定表の出力に基づいてリードタイムが自動的に計算されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 階層に基づくデフォルトのリードタイムの上書き\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

テリトリーの優先度設定ルールによるサイト利用の最適化

高度なスケジュール設定を利用し、希望するサービステリトリーの組み合わせで迅速に時間枠を見つけます。作業種別ごとに、子サービステリトリーとその親組織の優先度ベースの組み合わせを定義します。テリトリーの優先度設定ルールを適用すると、時間枠形成ロジックにより、最も優先度の高いサービステリトリーの組み合わせで時間枠が検索されます。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「複数ステップのスケジュール」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で [先進治療管理設定] に移動します。[高度なスケジュール] で、[高度なスケジュールを有効化] をクリックします。アプリケーションランチャーで、[作業種別サービステリトリー スケジュール 優先度]を見つけて選択し、要件に従ってレコードを作成します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サービステリトリーの優先度設定ルールの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ケアチームのユーザーグループの作成

ケアチームのユーザーグループを作成し、ケアチームが治療ToDoをより迅速に実行できるようにします。ユーザーグループを使用することで、医師や看護師の役割を持つ複数のユーザーが同じ ToDo を実行できるように設定できます。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud 先進治療オーケストレーション」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で [公開グループ] に移動して、グループを作成します。アプリケーションランチャーで、[チームメンバー]を見つけて選択します。レコードを作成するか、レコードを更新して、[メンバー]項目で公開グループを選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ケアチームのユーザーグループの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Experience Cloud からの先進治療管理へのアクセス

先進治療管理が Experience Cloud で使用できるようになりました。ユーザーは、Experience Cloud サイトから時間枠を検索したり、予定をスケジュールしたり、先進治療管理のその他の機能を使用したりできます。システム管理者として、デジタルワークスペースでの治療センター環境を任意のテンプレートを使用して設定することができます。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud 先進治療オーケストレーション」、「複数ステップのスケジュール」、「Health Cloud の基盤」、「アクションプラン」、および「Industries Visit」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] から、[サイト] に移動して [新規] をクリックします。[カスタマー取引先ポータル] などのテンプレートを選択し、[使用を開始する] をクリックします。治療センターの名前を入力して、[作成] をクリックします。[ビルダー] に移動して新しいページを追加します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Experience Cloud での先進治療管理の設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることがあります\)](#)

作業種別ステップによる治療フェーズ内のステップの表現

Winter '24 リリース以降、作業手順ステップオブジェクトの [関連付けられているフロー名] 項目を表示または使用できなくなりました。代わりに、新しい作業種別ステップオブジェクトを使用して、治療フェーズ内のステップを表し、アクションプランテンプレートを関連付けて治療 ToDo を生成します。Winter '24 リリースより前は、[先進治療作業指示を処理] オーケストレーションフローでは [関連付けられているフロー名] 項目に保存されているデータが引き続き参照されます。[関連付けられているフロー名] 項目は Winter '24 の機能強化では使用できないため、使用しないことをお勧めします。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「複数ステップのスケジュール」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: アプリケーションランチャーから、[作業種別ステップ] を見つけて選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 先進治療管理の作業種別ステップの設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることがあります\)](#)

時間単位でのリードタイムの設定

治療プロセスのリードタイムを日単位だけでなく時間単位でも設定できるようになりました。以前は、リードタイムを設定できるのは日単位のみでした。時間単位のリードタイムを使用すると、治療のフェーズまたはステップを完了するのにかかる時間を最適化し、より詳細な情報を記録できます。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「複数ステップのスケジュール」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: アプリケーションランチャーで、[作業手順]を見つけて選択します。更新するレコードを選択します。[リードタイム単位種別]項目で、[時間]を選択します。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:先進治療管理の作業手順の設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

評価の機能強化

ディスカバリー・フレームワークと OmniStudio を使用する事前作成済みテンプレート評価により、評価の稼働を簡単に開始できます。

このセクションの内容:

サンプルヘルスケア評価による時間と労力の節約

一般的なヘルスケア使用事例用の事前作成済みテンプレートを使用して、評価のライブラリを開始または拡張します。このサンプルは、一般的な標準ヘルスケアのインターフェースを示しています。評価を初めて使用する場合、サンプルによってヘルスケア設定での評価の一般的な設定と使用方法が説明されます。

サンプルヘルスケア評価による時間と労力の節約

一般的なヘルスケア使用事例用の事前作成済みテンプレートを使用して、評価のライブラリを開始または拡張します。このサンプルは、一般的な標準ヘルスケアのインターフェースを示しています。評価を初めて使用する場合、サンプルによってヘルスケア設定での評価の一般的な設定と使用方法が説明されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: OmniStudio とディスカバリー・フレームワークを設定し、必要な設定を有効にして、サンプル評価をリリースします。

標準の AUDIT-C、GAD-7、PHQ-9、受入、リスク、安全計画の評価のサンプルを使用およびカスタマイズします。統合ケア管理のアクションランチャーまたは評価コンポーネント危機支援センター管理アプリケーション、および新しい問題行動の医療アプリケーションを使用して、サンプル評価をワークフローに統合します。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:サンプル調査のリリース\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

問題行動の医療アプリケーション

HealthCloudの問題行動の医療アプリケーションでは、患者の行動的または精神的なヘルスケアジャーニーに関連するすべての情報を1か所で取得できます。問題行動の医療アプリケーションのガイド付き設定を使用すると、より迅速に稼働を開始できます。

このセクションの内容:

問題行動の医療アプリケーションを使用してケアをより簡単に管理

ユーザーが患者の行動的または精神的なヘルスケアジャーニーを完全に把握できるようにします。問題行動の医療の専門家は、主要な行動やエンゲージメントのタイムラインを表示し、評価結果を分析し、一般的なToDoを実行できます。提供者の検索、ケアプランの管理、予定のスケジュール、臨床メモの取得をすべて1か所で行い、時間を節約できます。

問題行動の医療アプリケーションを使用してケアをより簡単に管理

ユーザーが患者の行動的または精神的なヘルスケアジャーニーを完全に把握できるようにします。問題行動の医療の専門家は、主要な行動やエンゲージメントのタイムラインを表示し、評価結果を分析し、一般的なToDoを実行できます。提供者の検索、ケアプランの管理、予定のスケジュール、臨床メモの取得をすべて1か所で行い、時間を節約できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「問題行動の医療アプリケーション」、「Health Cloud プラットフォーム」、「OmniStudio ユーザー」権限セットライセンスが割り当てられたユーザーが使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「問題行動の医療アプリケーション設定」と入力し、[問題行動の医療アプリケーション設定] を選択します。[問題行動の医療アプリケーション] を有効にして、ガイド付き設定ページの手順に従います。

The screenshot shows the Salesforce Setup interface for the Behavioral Health App. At the top, there's a blue header bar with a gear icon labeled "SETUP" and the title "Behavioral Health App". Below this is a light blue decorative bar with a floral pattern. The main content area has a white background.

Behavioral Health App
Give users a 360-degree view of a patient's behavioral healthcare journey.

Follow these steps to get up and running.

1 Get Users Ready for the Behavioral Health App

Give users access to a 360-degree view of the behavioral or mental healthcare journeys of patients.

Assign Permission Sets
Assign the Health Cloud Behavioral Health App permission set to users.

2 Get Your Org Ready for Assessments

Set up OmniStudio, Discovery Framework, and the assessments that gather information from behavioral health patients.

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:問題行動の医療アプリケーション\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

危機支援センター管理の機能強化

危機センターのカウンセラーは、SMS および Web チャットを使用してクライアントとコミュニケーションできるようになりました。ケースに関連付けられた健康の社会的決定要因は、クライアントが直面するケア障壁について、カウンセラーが理解して対処する場合に役立ちます。新しいフローは、施設内の利用可能なベッド数の更新や、紹介で要請されたベッド数の確認を依頼するメールをケア施設システム管理者に送信します。デジタルエクスペリエンスのガイド付き設定に従って、このような新しい危機支援センター管理機能を迅速に設定します。

このセクションの内容:

[ケースへの健康の社会的決定要因の追加](#)

健康の社会的決定要因を記録すると、必要なケアをクライアントが受けられるように、危機センターのカウンセラーがケア障壁を理解して対処する上で役立ちます。ケースに追加された社会的決定要因は、ケースにリンクされた取引先にも関連付けられます。

[Experience Cloud サイトへの危機支援センター管理の公開](#)

新しい「Experience Cloud の危機支援センター管理」権限セットは、エクスペリエンスサイトユーザーに危機支援センター管理アプリケーションを公開します。この権限セットを有効にすると、ケア施設管理者は数回クリックするだけで、施設内の利用可能なベッド数を簡単に更新したり、紹介で要請されたベッドの空き状況を確認したりできます。

[SMS および Web チャットを使用したクライアントとのコミュニケーション](#)

危機支援センター管理で設定された SMS および Web のメッセージングを使用すると、電話で話すのが苦手なクライアントも必要なサポートを受けることができます。オムニチャネルによって、受信メッセージング要求がカウンセラーに転送され、OmniStudio DataRaptor によって、進行中のメッセージングと Web チャットセッションからメッセージングセッションレコードが作成されます。

[\[紹介を作成\] フローで患者がタイムリーな治療を受けられるようにする](#)

新しい [紹介を作成] フローを使用して、クライアントのヘルスケア施設や提供者への紹介要求を簡単に作成できます。このフローは、臨床サービス要請、臨床サービス要請の詳細、紹介に関連付けられたドキュメントリンクを作成します。また、関連付けられた患者取引先レコードも作成または更新します。

[ベッドの使用可能状況を更新するように施設システム管理者に依頼](#)

ケア施設システム管理者に、施設内の利用可能なベッド数の更新を依頼するメールを送信するフローを設定します。このメールには、施設システム管理者を Experience Cloud サイトに誘導するリンクが含まれ、そこでベッドの使用可能状況を更新できます。

[アクション可能セグメンテーションを使用したフォローアップリストの作成](#)

フォローアップが必要な提供者とクライアントのアクション可能リストを作成します。類似したプロファイルをセグメント化して厳選し、必要に応じてフォローアッププログラムを設計します。

[更新されたガイド付き設定を使用した危機支援センター管理の迅速な設定](#)

危機支援センター管理のガイド付き設定に、ベッドの空き状況の更新と確認を要請するメールをケア施設管理者に送信するフローを設定するための手順が含まれるようになりました。ガイド付き設定内の新しいデジタルエクスペリエンス設定タブを使用すると、オムニチャネル、SMS、および Web チャットの実装が容易になります。

ケースへの健康の社会的決定要因の追加

健康の社会的決定要因を記録すると、必要なケアをクライアントが受けられるように、危機センターのカウンセラーがケア障壁を理解して対処する上で役立ちます。ケースに追加された社会的決定要因は、ケースにリンクされた取引先にも関連付けられます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「HealthCloud 危機支援センター管理アプリケーション」権限セット、「HealthCloud Social Determinants」権限セット、「Health Cloud 危機支援センター管理」権限セットライセンス、「Health Cloud の基盤」権限セット、および「HealthCloud プラットフォーム」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: 追加設定は必要ありません。[ケア障壁] タブはケースレコード FlexiPage で確認できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ケースへの健康の社会的決定要因の追加](#)

Experience Cloud サイトへの危機支援センター管理の公開

新しい「Experience Cloud の危機支援センター管理」権限セットは、エクスペリエンスサイトユーザーに危機支援センター管理アプリケーションを公開します。この権限セットを有効にすると、ケア施設管理者は数回クリックするだけで、施設内の利用可能なベッド数を簡単に更新したり、紹介で要請されたベッドの空き状況を確認したりできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「HealthCloud 危機支援センター管理アプリケーション」権限セット、「HealthCloud 危機支援センター管理」権限セットライセンス、「Experience Cloud の危機支援センター管理」権限セット、「OmniStudio ユーザー」権限セット、「Health Cloud の基盤」権限セット、および「Health Cloud プラットフォーム」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で [Experience Cloud の危機支援センター管理] 権限セットを有効にします。Experience Cloud サイトが設定されていることを確認します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 施設管理者がベッドの使用可能状況を更新および確認できるようにするためのエクスペリエンスサイトの設定](#)

[Salesforce ヘルプ: ゲストユーザーが Web チャットを使用できるようにするためのエクスペリエンスサイトの設定](#)

SMS および Web チャットを使用したクライアントとのコミュニケーション

危機支援センター管理で設定されたSMSおよびWebのメッセージングを使用すると、電話で話すのが苦手なクライアントも必要なサポートを受けることができます。オムニチャネルによって、受信メッセージング要求がカウンセラーに転送され、OmniStudioDataRaptorによって、進行中のメッセージングとWebチャットセッションからメッセージングセッションレコードが作成されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、Service Cloud ユーザーライセンス、「Health Cloud 危機支援センター管理アプリケーション」権限セット、「Health Cloud 危機支援センター管理」権限セットライセンス、「Health Cloud の基盤」権限セット、および「Health Cloud プラットフォーム」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: オムニチャネル、SMS、および Web のメッセージングを設定するには、デジタルエクスペリエンスのガイド付き設定の手順に従ってください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 危機支援センター管理での SMS のメッセージング](#)

[Salesforce ヘルプ: 危機支援センター管理での Web のメッセージング](#)

[Salesforce ヘルプ: ゲストユーザーが Web チャットを使用できるようにするためのエクスペリエンスサイトの設定](#)

[紹介を作成] フローで患者がタイムリーな治療を受けられるようにする

新しい [紹介を作成] フローを使用して、クライアントのヘルスケア施設や提供者への紹介要求を簡単に作成できます。このフローは、臨床サービス要請、臨床サービス要請の詳細、紹介に関連付けられたドキュメントリンクを作成します。また、関連付けられた患者取引先レコードも作成または更新します。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud 危機支援センター管理アプリケーション」権限セット、「Health Cloud 危機支援センター管理」権限セットライセンス、「Health Cloud の基盤」権限セット、および「Health Cloud プラットフォーム」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: このフローは、Winter '24 にアップグレードすると自動的に利用可能になります。必要に応じて、コピーして設定してください。詳細は、「[紹介作成の自動化](#)」を参照してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 危機支援センター管理の \[紹介を作成\] フロー](#)

ベッドの使用可能状況を更新するように施設システム管理者に依頼

ケア施設システム管理者に、施設内の利用可能なベッド数の更新を依頼するメールを送信するフローを設定します。このメールには、施設システム管理者を Experience Cloud サイトに誘導するリンクが含まれ、そこでベッドの使用可能状況を更新できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud 危機支援センター管理アプリケーション」権限セット、「Health Cloud 危機支援センター管理」権限セットライセンス、「Health Cloud の基盤」権限セット、および「Health Cloud プラットフォーム」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: このフローは、Winter '24 にアップグレードすると自動的に利用可能になります。必要に応じて、コピーして設定してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 施設管理者がベッドの使用可能状況を更新できるようにするためのエクスペリエンスサイトの設定](#)

[Salesforce ヘルプ: \[施設のベッドの使用可能状況を要請するメールを送信\] フローのコピー](#)

[Salesforce ヘルプ: \[取引先責任者にメールを送信\] フローのコピー](#)

アクション可能セグメンテーションを使用したフォローアップリストの作成

フォローアップが必要な提供者とクライアントのアクション可能リストを作成します。類似したプロファイルをセグメント化して厳選し、必要に応じてフォローアッププログラムを設計します。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud 危機支援センター管理アプリケーション」権限セット、「Health Cloud 危機支援センター管理」権限セットライセンス、「Health Cloud のアクション可能セグメンテーション」権限セット、「Health Cloud の基盤」権限セット、および「Health Cloud プラットフォーム」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: アクション可能リスト定義を作成して有効化します。次に、リスト定義を使用してアクション可能リストを作成します。必要に応じて優先度を設定し、割り当てを管理します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 危機支援センター管理のアクション可能セグメンテーション](#)

更新されたガイド付き設定を使用した危機支援センター管理の迅速な設定

危機支援センター管理のガイド付き設定に、ベッドの空き状況の更新と確認を要請するメールをケア施設管理者に送信するフローを設定するための手順が含まれるようになりました。ガイド付き設定内の新しいデジタルエクスペリエンス設定タブを使用すると、オムニチャネル、SMS、および Web チャットの実装が容易になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud 危機支援センター管理アプリケーション」権限セット、「Health Cloud 危機支援センター管理」権限セットライセンス、「Health Cloud の基盤」権限セット、および「Health Cloud プラットフォーム」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] の [危機支援センター管理] 設定ページで、ガイド付き設定の手順に従います。

ヘルスケア提供者の機能強化

ヘルスケア提供者の写真をアップロードし、ヘルスケア提供者に関する詳細を追跡します。

このセクションの内容:

ヘルスケア提供者に関する詳細情報の追跡

提供者リレーション管理データモデルの新しいオブジェクトと項目を使用して、治療される症状、提供される治療またはサービス、提携病院、保険プランまたはネットワークに関する詳細を保存します。取引先責任者プロファイルオブジェクトの項目を使用して、人種と民族などの追加情報を追跡します。

ヘルスケア提供者の写真のアップロード

ヘルスケア専門家は、自分のケア提供者が誰であるかを確認することで、彼らとより個人的なつながりを感じることができます。

ヘルスケア提供者に関する詳細情報の追跡

提供者リレーション管理データモデルの新しいオブジェクトと項目を使用して、治療される症状、提供される治療またはサービス、提携病院、保険プランまたはネットワークに関する詳細を保存します。取引先責任者プロファイルオブジェクトの項目を使用して、人種と民族などの追加情報を追跡します。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セットを持つユーザーが使用できます。

関連トピック:

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

Salesforce Field Reference Guide (Salesforce 項目リファレンスガイド): ContactProfile (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

開発者ガイド: Provider Relationship Management (提供者リレーション管理) (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

ヘルスケア提供者の写真のアップロード

ヘルスケア専門家は、自分のケア提供者が誰であるかを確認することで、彼らとより個人的なつながりを感じることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーで、[プロファイル写真を追加] コンポーネントをヘルスケア提供者コードページに追加します。レコードに画像を追加するには、[ファイルをアップロード] をクリックするか、.jpeg、.jpg、.bmp、または.png 画像ファイルをページにドロップします。アップロードできるファイルのサイズは 16 MB までです。

The screenshot shows the Salesforce Health Cloud interface. On the left, the 'Healthcare Provider' details page for 'Dr. Peterson' is displayed. The provider type is 'Medical Doctor' and the provider class is 'Medical Doctor'. On the right, the 'Add Profile Photo' page is shown, featuring a placeholder photo of a cartoon character. The page includes fields for 'Title' (labeled 'Update Photo'), 'Change Photo' (labeled 'Upload a provider photo'), 'Icon' (labeled 'custom:custom38'), 'Photo Variant' (labeled 'circle'), 'Remove Photo Title' (labeled 'Remove Photo'), 'Remove Photo Label' (labeled 'Remove Photo'), and 'Visible to Guest?' (unchecked). Below these are notes about associating a field with the photo and accepted file formats (.jpg).

在宅医療の強化

HealthCloudの在宅医療が薬剤管理や統合ケア管理と統合されたようになったことで、患者のケアと安全の向上が促進されています。訪問の電子検証、患者の対象資格の自動チェック、包括的なカレンダービューを使用すると、訪問スケジュールと追跡をさらに簡単に行えます。

このセクションの内容:

効果的な薬剤管理サービスによる患者の健康転帰の改善

臨床医は、Field Service Mobile アプリケーションを使用して、在宅訪問中に患者の投薬リストを最適化、確認、効率的に管理できるようになりました。また、薬剤を追加したり、処方や投与量を変更したりして、薬剤関連のミスを減らし、患者の健康問題を軽減して、より安全なヘルスケアサービスを提供できます。

拡張ケアプランによる患者ケアの合理化

在宅医療と統合ケア管理の統合により、ケア従事者はケアプラン、問題、目標を在宅訪問と関連付け、患者重視のケアを促進することができます。患者の健康関連情報を収集し、明確に定義されたケアプランを立て、在宅訪問に適切な患者固有のアクション項目を割り当てることで、ユーザーは患者の健康転帰、エクスペリエンス、エンゲージメントを向上させることができます。

訪問の電子検証機能を使用した正確な追跡と最近の訪問情報の取得

Field Service Mobile アプリケーションを使用して、在宅訪問の開始と完了を電子的に確認します。ケアリソースとスケジューラーは、訪問の詳細、日時、場所、提供されたケアの種別、ケア提供者の情報をリアルタイムで監視できるようになります。在宅医療の自動または手動による訪問検証は、管理上の遅延の軽減、説明責任と透明性の向上の促進、患者ケアの改善、規制遵守の達成に役立ちます。

患者の対象資格の自動検証による業務効率の向上

スケジューラーが、患者に有効なメンバープランがあるか、また定期的な在宅訪問を対象とした給付保障があるかどうかを判断する自動化された経歴確認を活用できるようにします。この自動検証を使用することで、管理業務が最小限に抑えられ、対象資格確認の反復的な手順が削減され、手作業によるエラーが回避されるため、訪問スケジュールと事前承認のプロセスを迅速に処理できます。

1回のクリックでスケジュール済み訪問を視覚化

[個人取引先(患者)] ページと [ケアリソース] ページの新しい[カレンダービュー] オプションを使用して、特定の日または週にスケジュールされているすべての訪問を表示します。スケジューラーは、カレンダーから移動することなく、簡単に今後の訪問を確認し、空いている時間枠を特定し、訪問を作成することができます。特定の訪問に焦点を絞るには、検索条件とタイムゾーンを使用します。

新しいフローによる最新の訪問数の取得

在宅医療に新しい[Verify Home Visit Electronically (在宅訪問を電子的に確認)] フローが追加されました。このフローでは、患者に関連付けられたケアサービス訪問プランの割り当て数、割り当て解除数、完了数、作成された在宅訪問数が自動的に更新されます。この時間を節約できるフローでは、支払者によって承認された訪問数の詳細な内訳を確認でき、効果的に訪問を管理するためにスケジューラーに最新情報が提供されます。在宅医療の承認 Lightning コンポーネントの新しい[更新] ボタンを使用して、フローを開始します。

ケア従事者の推奨を使用したスケジュールに要する時間の短縮

ケア従事者の無断キャンセルされた予定の履歴、複数のパラメーターの治療頻度、稼働率、平均サービス予定所要時間に基づいて、患者に推奨される上位 3 人のケア従事者を取得します。この情報を使用して、患者のニーズに最も適したケア従事者を特定し、直前の再スケジュールを回避します。有効性スコアの高い対応可能なケア従事者を割り当てることで患者の満足度を最大化し、作業を均等に配分することでケア従事者同士で不満が募らないようにします。

在宅医療向けの更新されたガイド付き設定を使用した詳細情報の取得

在宅医療のガイド付き設定に新しいステップが追加され、[Verify Home Visit Electronically (在宅訪問を電子的に確認)] フローのコピーと有効化ができるようになりました。このフローは、ケア訪問状況が更新されたときに、訪問の電子検証 (EVV) 情報の更新を自動化します。

在宅医療サービスの効率の向上

ケアリソースの活動を追跡してスケジュールするための新しいダッシュボードを使用して、在宅医療管理を合理化します。スケジューラーは、Home Health Insights(在宅医療インサイト)ダッシュボードを使用して、ケアリソースの活動、スケジュール、稼働率を完全に把握することで、リソース計画を改善できます。患者のケア要請、ケア種別の配分、承認に関するインサイトを使用して、効果的にケア要請の優先順位を決定して管理します。ヘルスケアリソースは、新しい組み込みダッシュボードを使用して、各自の作業時間、稼働率、予定を追跡して管理できます。

効果的な薬剤管理サービスによる患者の健康転帰の改善

臨床医は、Field Service Mobile アプリケーションを使用して、在宅訪問中に患者の投薬リストを最適化、確認、効率的に管理できるようになりました。また、薬剤を追加したり、処方や投与量を変更したりして、薬剤関連のミスを減らし、患者の健康問題を軽減して、より安全なヘルスケアサービスを提供できます。

対象: この変更は、Health Cloud および Home Health アドオンライセンスがある Salesforce Field Service Mobile アプリケーションでの Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: モバイルアプリケーションを使用するには、「Home Health Caregiver」または「Home Health Clinician」権限セットライセンスが必要です。患者の臨床データと設定を表示するには、「Home Health Clinician」権限セットライセンスが必要です。

方法: 追加設定は必要ありません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 在宅訪問中の患者薬剤の管理](#)

拡張ケアプランによる患者ケアの合理化

在宅医療と統合ケア管理の統合により、ケア従事者はケアプラン、問題、目標を在宅訪問と関連付け、患者重視のケアを促進することができます。患者の健康関連情報を収集し、明確に定義されたケアプランを立て、在宅訪問に適切な患者固有のアクション項目を割り当てることで、ユーザーは患者の健康転帰、エクスペリエンス、エンゲージメントを向上させることができます。

対象: この変更は、Health Cloud および Home Health アドオンライセンスがある Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「ケアプランアクセス」および「在宅医療を管理」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: 統合ケア管理を有効にするには、[設定] の [統合ケア管理設定] ページに移動します。[拡張ケアプラン]、[目標割り当てレコードの自動共有]、[ケアギャップ] を有効にします。

次に、Lightning アプリケーションビルダーで、個人取引先レコードページに IndustriesHCCarePlanManager FlexCard を配置します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 在宅医療と統合ケア管理の統合](#)

[Salesforce ヘルプ: 在宅訪問中の患者のケアプランの管理](#)

訪問の電子検証機能を使用した正確な追跡と最近の訪問情報の取得

Field Service Mobile アプリケーションを使用して、在宅訪問の開始と完了を電子的に確認します。ケアリソースとスケジューラーは、訪問の詳細、日時、場所、提供されたケアの種別、ケア提供者の情報をリアルタイムで監視できるようになります。在宅医療の自動または手動による訪問検証は、管理上の遅延の軽減、説明責任と透明性の向上の促進、患者ケアの改善、規制遵守の達成に役立ちます。

対象: この変更は、Health Cloud および Home Health アドオンライセンスがある Salesforce Field Service Mobile アプリケーションでの Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: モバイルアプリケーションを使用するには、「Home Health Caregiver」または「Home Health Clinician」権限セットライセンスが必要です。

理由: シームレスな電子検証を提供するために、在宅医療は、[Verify Home Visit Electronically (在宅訪問を電子的に確認)] と [Update Verified Home Visit Details (検証済みの在宅訪問の詳細を更新)] という 2 つの新しいフローで強化されています。この 2 つのフローにより、訪問状況が [進行中] または [完了] に変更されると訪問検証情報が自動的に更新されます。

方法: [設定] から [フロー] に移動し、[Verify Home Visit Electronically (在宅訪問を電子的に確認)] フローをコピーして有効化します。

次に、[設定] から [Field Service Mobile 設定] に移動し、訪問の電子検証の設定を定義します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 電子訪問検証の設定](#)

[Salesforce ヘルプ: 在宅訪問の電子検証の管理](#)

患者の対象資格の自動検証による業務効率の向上

スケジューラーが、患者に有効なメンバープランがあるか、また定期的な在宅訪問を対象とした給付保障があるかどうかを判断する自動化された経験確認を活用できるようにします。この自動検証を使用することで、管理業務が最小限に抑えられ、対象資格確認の反復的な手順が削減され、手作業によるエラーが回避されるため、訪問スケジュールと事前承認のプロセスを迅速に処理できます。

対象: この変更は、Health Cloud および Home Health アドオンライセンスがある Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「在宅医療を管理」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

理由: 患者に在宅訪問を対象とした有効な給付保証がある場合にメッセージが表示されるように、在宅医療訪問のスケジュールフローが強化され、スケジューラーは訪問作成をより簡単に処理できます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーで、個人取引先レコードページに在宅医療訪問 Lightning コンポーネントを配置します。在宅医療保障タイプはデフォルトで組織で利用可能であるため、追加設定は必要ありません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 在宅医療](#)

[Salesforce ヘルプ: 在宅医療訪問コンポーネントの設定](#)

[Salesforce ヘルプ: 在宅医療での訪問のスケジュール](#)

1回のクリックでスケジュール済み訪問を視覚化

[個人取引先(患者)] ページと [ケアリソース] ページの新しい [カレンダービュー] オプションを使用して、特定の日または週にスケジュールされているすべての訪問を表示します。スケジューラーは、カレンダーから移動することなく、簡単に今後の訪問を確認し、空いている時間枠を特定し、訪問を作成することができます。特定の訪問に焦点を絞るには、検索条件とタイムゾーンを使用します。

対象: この変更は、Health Cloud および Home Health アドオンライセンスがある Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「在宅医療を管理」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: 追加設定は必要ありません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 在宅医療](#)

[Salesforce ヘルプ: 在宅医療での訪問のスケジュール](#)

新しいフローによる最新の訪問数の取得

在宅医療に新しい [Verify Home Visit Electronically (在宅訪問を電子的に確認)] フローが追加されました。このフローでは、患者に関連付けられたケアサービス訪問プランの割り当て数、割り当て解除数、完了数、作成された在宅訪問数が自動的に更新されます。この時間を節約できるフローでは、支払者によって承認された訪問数の詳細な内訳を確認でき、効果的に訪問を管理するためにスケジューラーに最新情報が提供されます。在宅医療の承認 Lightning コンポーネントの新しい [更新] ボタンを使用して、フローを開始します。

対象: この変更は、Health Cloud および Home Health アドオンライセンスがある Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「在宅医療を管理」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: 追加設定は必要ありません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 在宅訪問数の更新](#)

ケア従事者の推奨を使用したスケジュールに要する時間の短縮

ケア従事者の無断キャンセルされた予定の履歴、複数のパラメーターの治療頻度、稼働率、平均サービス予定所要時間に基づいて、患者に推奨される上位 3 人のケア従事者を取得します。この情報を使用して、患者のニーズに最も適したケア従事者を特定し、直前の再スケジュールを回避します。有効性スコアの高い対応可能なケア従事者を割り当てることで患者の満足度を最大化し、作業を均等に配分することでケア従事者同士で不満が募らないようにします。

対象: この変更は、在宅医療、CRM Analytics、スコアリングフレームワークが有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: スコアリングフレームワークの [Effectiveness Score for Recommended Care Professionals (推奨されるケア従事者の有効性スコア)] (Health Cloud) テンプレート構成種別は、Home Health アドオンライセンス、「Revenue

「Intelligence for Health」権限セットライセンス、および「AI Accelerator with Scoring Framework (スコアリングフレームワーク付きの AI アクセラレーター)」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: 予測を取得するには、[設定] の [スコアリングフレームワーク] ページに移動します。Effectiveness Score for Recommended Care Professionals (推奨されるケア従事者の有効性スコア) (Health Cloud) テンプレート構成種別を使用して、CRM Analytics テンプレート構成を作成します。

在宅医療向けの更新されたガイド付き設定を使用した詳細情報の取得

在宅医療のガイド付き設定に新しいステップが追加され、[Verify Home Visit Electronically (在宅訪問を電子的に確認)] フローのコピーと有効化ができるようになりました。このフローは、ケア訪問状況が更新されたときに、訪問の電子検証 (EVV) 情報の更新を自動化します。

対象: この変更は、Health Cloud および Home Health アドオンライセンスがある Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から [在宅医療設定] ページに移動し、新しいガイド付き設定手順を見つけます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 在宅医療](#)

在宅医療サービスの効率の向上

ケアリソースの活動を追跡してスケジュールするための新しいダッシュボードを使用して、在宅医療管理を合理化します。スケジューラーは、Home Health Insights (在宅医療インサイト) ダッシュボードを使用して、ケアリソースの活動、スケジュール、稼働率を完全に把握することで、リソース計画を改善できます。患者のケア要請、ケア種別の配分、承認に関するインサイトを使用して、効果的にケア要請の優先順位を決定して管理します。ヘルスケアリソースは、新しい組み込みダッシュボードを使用して、各自の作業時間、稼働率、予定を追跡して管理できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザー: このダッシュボードは、Enhanced Analytics for Healthcare アプリケーションの一部であり、Healthcare Intelligence または CRM Analytics for Health Cloud アドオンライセンスを持つユーザーが使用できます。「Healthcare Analytics 管理者」または「Health Intelligence 管理者」権限セットを持つユーザーは、アプリケーションを作成、編集、削除できます。「HealthCare Analytics ユーザー」または「Health Intelligence ユーザー」権限セットを持つユーザーは、アプリケーションダッシュボードを参照できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Health Cloud CRM Analytics 設定」と入力し、[Enhanced Analytics for Healthcare] を選択します。ページの手順に従って、Enhanced Analytics for Healthcare を設定します。

統合ケア管理の機能強化

アプリケーションランチャーから新しいコンソールアプリケーションを使用して、統合ケア管理をすばやく起動します。基準を評価してケアギャップを作成する OmniScript フローを使用して、ケアのギャップを特定します。ケアギャップをインポートしたり、手動で作成したりすることもできます。次に、OmniScript フローを起動して、対応中のケアギャップから患者のケアプランを作成します。更新されたケアプランインターフェースで、対応中のケアギャップとその問題、目標、介入を確認します。決定表ユーザーインターフェースの更新により、評価の質問への回答と推奨事項を簡単に対応付けることができます。

このセクションの内容:

[アプリケーションランチャーからの統合ケア管理へのアクセス](#)

新しいコンソールアプリケーションを使用すると、ケアプラン、ケアギャップ、評価などの統合ケア管理コンポーネントに簡単にアクセスできます。[ホーム]タブのCRM Analyticsダッシュボードには、マネージャーにToDo のスナップショットが表示され、作業負荷を最適化するのに役立ちます。

[ケアギャップを使用した患者ケアにおけるギャップの特定](#)

統合ケア管理には、ケアマネージャーが臨床基準を評価することでケアギャップを自動的に作成するために使用できる OmniScript フローが含まれています。ケアギャップをインポートしたり、手動で作成したりすることもできます。新しいケアギャップインターフェースでは、ケアマネージャーは、ケアギャップの状況や関連付けられた基準など、患者のケアギャップを包括的に把握できます。

[臨床基準によるケアギャップの作成](#)

ケアマネージャーは、OmniScript フローを使用して臨床基準を評価し、患者のケアギャップレコードを作成できるようになりました。このフローにより、ケアマネージャーは臨床条件に基づいて患者が確実に適切なケアを受けられるようにすることができます。

[OmniScript フローを使用したケアギャップからのケアプランの作成](#)

統合ケア管理の新しい OmniScript フローでは、ケアマネージャーが1つ以上の対応中のケアギャップを選択し、ケアプラン名、開始日、終了日などの詳細を指定することができます。選択したケアギャップが問題定義とリンクされている場合、ケアマネージャーはケアプランに目標と介入を追加できます。

[拡張ケアプランインターフェースを使用したケアギャップの表示](#)

ケアマネージャーがケアプランからケアギャップを作成するときに、ケアギャップと問題、目標、介入をケアプランインターフェースで直接表示できるようになりました。また、ケアマネージャーは他のページに移動することなく、インターフェースから問題、目標、介入を作成または編集することもできます。

[更新された決定表による調査の質問と回答の対応付け](#)

更新された決定表で、複数のオブジェクトをデータソースとして使用したり、決定表を分類したり、決定表の結果に対する検索条件設定を選択したりできるようになりました。

[Experience Cloud サイトへのケアギャップの公開](#)

コミュニティユーザーは、ケアギャップ、ケアギャップ条件結果、臨床基準、臨床基準条件、臨床基準条件グループの各オブジェクトにアクセスできるようになりました。ケアマネージャー、患者、ケアチームは、患者のどのケアギャップが特定されたかをすばやく確認し、ケアギャップを埋めるための対応策を実行できます。

アプリケーションランチャーからの統合ケア管理へのアクセス

新しいコンソールアプリケーションを使用すると、ケアプラン、ケアギャップ、評価などの統合ケア管理コンポーネントに簡単にアクセスできます。[ホーム]タブのCRM Analyticsダッシュボードには、マネージャーにToDoのスナップショットが表示され、作業負荷を最適化するのに役立ちます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「ケアプランアクセス」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: Health Cloud CRM Analytics のガイド付き設定に従い、CRM Analytics を有効にして、ダッシュボードをインストールします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 統合ケア管理の CRM 分析](#)

ケアギャップを使用した患者ケアにおけるギャップの特定

統合ケア管理には、ケアマネージャーが臨床基準を評価することでケアギャップを自動的に作成するために使用できる OmniScript フローが含まれています。ケアギャップをインポートしたり、手動で作成したりすることもできます。新しいケアギャップインターフェースでは、ケアマネージャーは、ケアギャップの状況や関連付けられた基準など、患者のケアギャップを包括的に把握できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「ケアプランアクセス」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で [ケアギャップ] を有効にします。次に、Lightning アプリケーションビルダーで、患者レコードページに HealthCloudCareManagementCareGapManagerFlexCard を配置して、ユーザーがケアギャップインターフェースにアクセスできるようにします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ケアギャップ](#)

臨床基準の評価によるケアギャップの作成

ケアマネージャーは、OmniScript フローを使用して臨床基準を評価し、患者のケアギャップレコードを作成できるようになりました。このフローにより、ケアマネージャーは臨床条件に基づいて患者が確実に適切なケアを受けられるようにすることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「ケアプランアクセス」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で [ケアギャップ] を有効にします。次に、Lightning アプリケーションビルダーで、患者レコードページに HealthCloudCareManagementCareGapManagerFlexCard を配置します。FlexCard から、ケアマネージャーは [新規ケアギャップ] をクリックしてフローを起動できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 基準を評価することでユーザーにケアギャップの作成を許可](#)

[Salesforce ヘルプ: ケアギャップを作成するための基準の評価](#)

OmniScript フローを使用したケアギャップからのケアプランの作成

統合ケア管理の新しい OmniScript フローでは、ケアマネージャーが1つ以上の対応中のケアギャップを選択し、ケアプラン名、開始日、終了日などの詳細を指定することができます。選択したケアギャップが問題定義とリンクされている場合、ケアマネージャーはケアプランに目標と介入を追加できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「ケアプランアクセス」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で [ケアギャップ] を有効にします。ケアプランインターフェースで [新規ケアプラン] をクリックし、ケアプランの作成方法として [ケアギャップ] を選択すると、ケアマネージャーは OmniScript フローを起動できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ケアギャップからのケアプランの作成](#)

拡張ケアプランインターフェースを使用したケアギャップの表示

ケアマネージャーがケアプランからケアギャップを作成するときに、ケアギャップと問題、目標、介入をケアプランインターフェースで直接表示できるようになりました。また、ケアマネージャーは他のページに移動することなく、インターフェースから問題、目標、介入を作成または編集することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「ケアプランアクセス」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: 患者レコードページで、IndustriesHCCarePlanManager FlexCard が設定されていることを確認します。次に、[設定] で [ケアギャップ] を有効にして、更新されたインターフェースにアクセスします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 患者レコードページへのケアギャップ FlexCard の追加](#)

更新された決定表による調査の質問と回答の対応付け

更新された決定表で、複数のオブジェクトをデータソースとして使用したり、決定表を分類したり、決定表の結果に対する検索条件設定を選択したりできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

- 検索設定の選択による決定表結果の容易な絞り込み
- 複数のオブジェクトをデータソースとして使用する決定表の作成
- 決定表を分類して簡単に管理

Experience Cloud サイトへのケアギャップの公開

コミュニティユーザーは、ケアギャップ、ケアギャップ条件結果、臨床基準、臨床基準条件、臨床基準条件グループの各オブジェクトにアクセスできるようになりました。ケアマネジャー、患者、ケアチームは、患者のどのケアギャップが特定されたかをすばやく確認し、ケアギャップを埋めるための対応策を実行できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Experience Cloud サイトの統合ケア管理」権限セットおよび Health Cloud For Community アドオンライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で [Experience Cloud サイトの統合ケア管理] 権限セットを有効にします。Experience Cloud サイトが設定されていることを確認します。

関連トピック:

- [Salesforce ヘルプ: Experience Cloud サイトのケアギャップアクセス](#)

インテリジェントなドキュメントの自動化の機能強化

ガイド付き設定を使用して、インテリジェントドキュメントワークスペースの稼働をより迅速に開始できます。

このセクションの内容:

- [インテリジェントドキュメントワークスペースのより簡単な設定](#)
- ガイド付き設定の手順に従って、インテリジェントドキュメントワークスペースを設定します。このタスクには、権限を設定したり、必要な設定や機能を定義したりするのに役立つアプリケーション内リンクがあります。ヘルプリンクは、各タスクの詳細なコンテキストとガイダンスを提供するトピックにリダイレクトされます。

インテリジェントドキュメントワークスペースのより簡単な設定

ガイド付き設定の手順に従って、インテリジェントドキュメントワークスペースを設定します。このタスクには、権限を設定したり、必要な設定や機能を定義したりするのに役立つアプリケーション内リンクがあります。ヘルプリンクは、各タスクの詳細なコンテキストとガイダンスを提供するトピックにリダイレクトされます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「インテリジェントドキュメントワークスペース設定」と入力し、[インテリジェントドキュメントワークスペース設定]を選択します。切り替えをオンにして、ガイド付き設定の手順を完了します。

The screenshot shows the 'Intelligent Document Workspace Settings' page. At the top left is a blue gear icon labeled 'SETUP'. The main title is 'Intelligent Document Workspace Settings'. Below the title, a sub-section title 'Follow these steps to get up and running.' is followed by a horizontal progress bar. The first step is highlighted with a checkmark icon and the number '1'. The step title is 'Get Users Ready for Intelligent Document Automation'. A sub-instruction says 'Give case managers and intake coordinators access to Intelligent Document Automation.' Below this is a section titled 'Assign Permission Sets' with a sub-instruction 'Grant the Document Checklist and Intelligent Document Workspace permission set licenses to users.' There is also a 'Show Me How in Help' link and a 'Go to' button. The second step is indicated by a right-pointing arrow and the number '2'. The step title is 'Set Up an Amazon Web Services (AWS) Account'. A sub-instruction says 'Create an account, assign permissions, and set up authentication.'

Follow these steps to get up and running.

① **Get Users Ready for Intelligent Document Automation**

Give case managers and intake coordinators access to Intelligent Document Automation.

Assign Permission Sets

Grant the Document Checklist and Intelligent Document Workspace permission set licenses to users.

Show Me How in Help

② **Set Up an Amazon Web Services (AWS) Account**

Create an account, assign permissions, and set up authentication.

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: インテリジェントなドキュメントの自動化](#)

インテリジェントなセールスの機能強化

販売計画レコードページで、パスを使用して販売計画の進行状況を追跡します。Actionable Relationship Center の機能強化により、メドテック組織がより多くの情報に基づいた購入の意思決定を行えるようにします。また、在庫検索に最大 5000 マイル (8047 km) の柔軟な距離制限を定義することで、営業担当が商品不足を軽減できるようにします。

このセクションの内容:

[パスを使用した販売計画の状況の追跡](#)

ユーザーが販売計画の進行状況を簡単に監視できるようにすることで、ビジネスプロセスの可視性を高めます。販売計画オブジェクトの [状況] 項目を使用してパス設定を定義し、販売計画コードページで進行状況を視覚化します。

[より広範囲での商品在庫検索](#)

営業担当が在庫の検索を最適化し、正常に商品移送を実行できるようにします。最大距離半径 50 マイル (80.47 km) ~ 5000 マイル (8047 km) の範囲で商品の在庫を検索します。また、商品在庫の検索結果をスクロールし続ける代わりに、25 件ずつ表示します。

[Actionable Relationship Center でのインテリジェントな営業業務のサポート](#)

対話型のグラフで複雑な取引先リレーションを完全に視覚的に表現することで、メドテック企業の商業業務を最適化します。Actionable Relationship Center (ARC) の機能強化を含むインテリジェントなセールスを簡単に使用して、上位および下位の取引先階層を表し、ARC グラフの開始点を定義し、レコードを表示します。

パスを使用した販売計画の状況の追跡

ユーザーが販売計画の進行状況を簡単に監視できるようにすることで、ビジネスプロセスの可視性を高めます。販売計画オブジェクトの [状況] 項目を使用してパス設定を定義し、販売計画コードページで進行状況を視覚化します。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] から、[パス設定] に移動して [新規パス] をクリックします。販売計画オブジェクトと [状況] 項目を含むパスを設定し、有効化します。

アプリケーションランチャーで、[販売計画]を見つけて選択します。販売計画コードページを編集します。Lightning アプリケーションビルダーで、標準のパスコンポーネントをコードページの編集可能な部分に移動します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 販売計画のパス設定の定義\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

より広範囲での商品在庫検索

営業担当が在庫の検索を最適化し、正常に商品移送を実行できるようにします。最大距離半径 50 マイル (80.47 km) ~ 5000 マイル (8047 km) の範囲で商品の在庫を検索します。また、商品在庫の検索結果をスクロールし続ける代わりに、25 件ずつ表示します。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セット、「IndustriesVisit」権限セット、および「アクションプラン」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] から、[インテリジェントなセールス設定] に移動します。[有効化] をクリックしてインテリジェントなセールスを有効にします。[移送要請の距離制限を定義] で、最大距離半径を追加します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: モバイルアプリケーションでの商品の移送要請\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Actionable Relationship Center でのインテリジェントな営業業務のサポート

対話型のグラフで複雑な取引先リレーションを完全に視覚的に表現することで、メドテック企業の商業業務を最適化します。Actionable Relationship Center (ARC) の機能強化を含むインテリジェントなセールスを簡単に使用して、上位および下位の取引先階層を表し、ARC グラフの開始点を定義し、レコードを表示します。

対象: この変更は、Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences ライセンスを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セット/権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] から、[機能設定] の [Actionable Relationship Center] に移動し、[新規リレーショングラフ] をクリックします。グラフビルダーで、表示するすべてのエンティティを設定します。

関連トピック:

[Salesforce リリースノート: Actionable Relationship Center の機能強化](#)

Marketing Cloud Engagement for Health Cloud

Marketing Cloud Engagement for Industries を最大限に活用し、Health Cloud CRM データを Marketing Cloud と同期します。

このセクションの内容:

[Marketing Cloud Engagement for Health Cloud を使用した患者エンゲージメントの向上](#)

ガイド付き設定を使用して、Health Cloud を Marketing Cloud に簡単に接続します。次に、ヘルスケア専用のカスタマイズ可能なジャーニーを使用して、患者アウトリーチを設計および自動化します。Salesforce データを Marketing Cloud と同期して、最新の患者情報を使用したコミュニケーションを可能にします。

[Marketing Cloud Engagement for Health Cloud を使用した患者エンゲージメントの向上](#)

ガイド付き設定を使用して、Health Cloud を Marketing Cloud に簡単に接続します。次に、ヘルスケア専用のカスタマイズ可能なジャーニーを使用して、患者アウトリーチを設計および自動化します。Salesforce データを Marketing Cloud と同期して、最新の患者情報を使用したコミュニケーションを可能にします。

対象: この変更は、MC Engagement for Industries アドオンライセンスがあり Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セットと Marketing Cloud を持つユーザーが使用できます。

理由: Marketing Cloud Engagement for Health Cloud では、一般的な活動でエージェントと患者をガイドするジャーニーが提供されます。たとえば、ケアギャップを埋めるためのジャーニーを作成します。1つのジャーニーで、定期的なスクリーニングをスケジュールするようにプランメンバーに通知し、連絡がない場合はフォローアップするケースを作成します。別のジャーニーで、オフィス訪問の準備に関する指示を含む予定のリマインダーを送信します。Marketing Cloud を初めて利用する場合でも、既存の Marketing Cloud アセットの拡張に関心がある場合でも、事前構築されたジャーニーを使用します。

方法: [私のドメイン] を設定し、Salesforce に Marketing Cloud Engagement for Industries パッケージをインストールします。まだ行っていない場合は、Marketing Cloud を Salesforce に接続し、同期されたデータソースを作成します。Health Cloud のジャーニーをカスタマイズして管理します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Marketing Cloud Engagement for Health Cloud \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Health Cloud 用の新しい Shield Platform Encryption

より多くの Health Cloud オブジェクトでの暗号化をサポートします。

このセクションの内容:

同意およびヘルスケア提供者データの暗号化

Shield Platform Encryption を使用して、一連の Health Cloud オブジェクトの [名前] 項目での保存時の暗号化をサポートします。ユーザーは、保護された健康情報を特定の Health Cloud オブジェクトの [名前] 項目に誤って入力してしまう可能性があります。これらの項目には、必ずしも保護対象保険情報 (PHI) が含まれるわけではありませんが、ユーザーが命名方式に患者情報を含めている場合があります。

同意およびヘルスケア提供者データの暗号化

Shield Platform Encryption を使用して、一連の Health Cloud オブジェクトの [名前] 項目での保存時の暗号化をサポートします。ユーザーは、保護された健康情報を特定の Health Cloud オブジェクトの [名前] 項目に誤って入力してしまう可能性があります。これらの項目には、必ずしも保護対象保険情報 (PHI) が含まれるわけではありませんが、ユーザーが命名方式に患者情報を含めている場合があります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: 認証フォームオブジェクトの変更は、Salesforce Shield または Shield Platform Encryption を購入したユーザーが使用できます。ヘルスケア提供者が治療した症状オブジェクトの変更は、Salesforce Shield または Shield Platform Encryption、および Health Cloud または Health Cloud for Life Sciences を購入したユーザーが使用できます。

方法: [暗号化ポリシー] ページで、[項目を暗号化] をクリックします。次に、[編集] をクリックします。これで、これらのオブジェクトに対する確率的暗号化、大文字と小文字を区別する確定的暗号化、または大文字と小文字を区別しない確定的暗号化スキームを使用して、[名前] 項目を暗号化できます。

- AuthorizationForm
- AuthorizationFormConsent

- AuthorizationFormDataUse
- AuthorizationFormText
- HlthCareProvTreatedCondition

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 暗号化できる標準項目は? \(リリースプレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

紹介の機能強化

自動化ツール、拡張臨床データモデルオブジェクト、Salesforce プラットフォーム用に構築された API を使用して、紹介を管理します。新しい紹介管理機能は、FHIR4 に従ったデータモデルの標準オブジェクトを使用します。

このセクションの内容:

[紹介を作成] フローを使用した紹介の自動化

ユーザーが指示に従って紹介を作成し、自動化ツールでデータを収集して関連レコードを作成できるようにします。新しい [紹介を作成] フローは、臨床サービス要請、臨床サービス要請の詳細、紹介に関連付けられたドキュメントリンクを作成します。また、関連付けられた患者取引先レコードも作成または更新します。

提供者ポータルでの紹介の作成

提供者が指示に従って紹介を作成し、自動化ツールでデータを収集して関連レコードを作成できるようにします。新しい [紹介を作成] フローを提供者 Experience Cloud サイトに追加します。

受け入れられた紹介の追跡

臨床サービス要請で直接紹介を受け入れます。紹介に関するインサイトを取得するには、紹介の受け入れによってトリガーされるレポートまたはフローを作成します。

受信ドキュメントの紹介への変換

新しい呼び出し可能なアクション [受信ドキュメントを処理] は、Fax やメールで受信したドキュメントを臨床サービス要請に変換します。このアクションでは、ドキュメントから抽出したテキストを使用して、患者および要請された処置や診断サービスに関する詳細を入力します。

[紹介を作成] フローを使用した紹介の自動化

ユーザーが指示に従って紹介を作成し、自動化ツールでデータを収集して関連レコードを作成できるようにします。新しい [紹介を作成] フローは、臨床サービス要請、臨床サービス要請の詳細、紹介に関連付けられたドキュメントリンクを作成します。また、関連付けられた患者取引先レコードも作成または更新します。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セットを持つユーザーが使用できます。

理由: 効率的な紹介管理プロセスは、ケアコーディネーターを支援し、患者がよりタイムリーにケアにアクセスできるようにすることで、患者の転帰、獲得、維持を向上させます。

方法: Flow Builder で [紹介を作成] フローを実行し、フローをそのまま使用するかカスタマイズするかを決定します。[提供者検索] ページまたは [患者取引先] ページで、[紹介を作成] フローをトリガーするクイックアクションを追加します。危機支援センター管理アプリケーションを使用している場合は、ベッド検索コンポーネントに [紹介を作成] クイックアクションを追加することもできます。ユーザーがそのクイックアクションをクリックすると、関連する患者と提供者の詳細がフローに事前入力されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: \[紹介を作成\] フローの設定 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

提供者ポータルでの紹介の作成

提供者が指示に従って紹介を作成し、自動化ツールでデータを収集して関連レコードを作成できるようにします。新しい [紹介を作成] フローを提供者 Experience Cloud サイトに追加します。

対象: この変更は、Health Cloud および Health Cloud for Experience Cloud サイトを使用する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セットを持つユーザーが使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: プロバイダーポータル用の Experience Cloud サイトの構築 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

受け入れられた紹介の追跡

臨床サービス要請で直接紹介を受け入れます。紹介に関するインサイトを取得するには、紹介の受け入れによってトリガーされるレポートまたはフローを作成します。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: 臨床サービス要請レコードで、[紹介を受け入れ] クイックアクションをクリックします。臨床サービス要請レコードで、[承認済み] チェックボックスが選択されていることを確認して、受け入れられた紹介を簡単に識別します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 臨床サービス要請からの紹介の受け入れ \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

受信ドキュメントの紹介への変換

新しい呼び出し可能なアクション [受信ドキュメントを処理] は、Fax やメールで受信したドキュメントを臨床サービス要請に変換します。このアクションでは、ドキュメントから抽出したテキストを使用して、患者および要請された処置や診断サービスに関する詳細を入力します。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition (Health Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Health Cloud の基盤」権限セットと Intelligent Document Reader アドオンライセンスを持つユーザーが使用できます。

Salesforce Scheduler の機能強化

Salesforce Scheduler アドオンライセンスをさらに活用します。

このセクションの内容:

[Salesforce Scheduler を使用したより多くの予定とアセットの管理](#)

Winter '24 以降、Salesforce Scheduler には新しい使用制限が適用されます。Enterprise Edition ライセンスの場合、1か月あたりユーザー ライセンスごとに 350 個(1年あたり 4,200 個)の予定を使用できるようになりました。Unlimited Edition ライセンスの場合、この制限は 1か月あたりユーザー ライセンスごとに 400 個(1年あたり 4,800 個)の予定に増加します。

Salesforce Scheduler を使用したより多くの予定とアセットの管理

Winter '24 以降、Salesforce Scheduler には新しい使用制限が適用されます。Enterprise Edition ライセンスの場合、1か月あたりユーザー ライセンスごとに 350 個(1年あたり 4,200 個)の予定を使用できるようになりました。Unlimited Edition ライセンスの場合、この制限は 1か月あたりユーザー ライセンスごとに 400 個(1年あたり 4,800 個)の予定に増加します。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler を備えた Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Scheduler でのアセットのスケジュールの有効化](#)

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータを保存およびアクセスします。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition に適用されます。

先進治療管理

特定のパラメーターに基づいて、省略可能性が変更された項目のリストを保存する
新しい AdvTherapyFieldOptOverride オブジェクトを使用します。

管理の連鎖のイベントまたはエントリに関する情報を保存する

新しい CustodyChainEntry オブジェクトを使用します。

管理の連鎖の品目に関する情報を保存する

新しい CustodyItem オブジェクトを使用します。

保管レコードの検証種別に関するデフォルトの設定情報および上書き設定情報を保存する

新しい CustodyVerfcTypeOverride オブジェクトを使用します。

予定時間枠を取得するためのサービストリトリー、作業種別、作業手順の組み合わせに関する優先順位を保存する

新しい `WorkTypeSvcTerrSchdPrio` オブジェクトを使用します。

各ステップを作業種別内に保存する

新しい `WorkTypeStep` オブジェクトを使用します。

サービストリトリーで実行される作業手順、作業種別、作業種別ステップの組み合わせに関するデフォルトのリードタイムを上書きするリードタイムを表す

新しい `WorkTypeStepLdTimeOverride` オブジェクトを使用します。

関連付けられたケアプログラム加入者に対して実行される前回の作業指示を保存する

`CarePgmEnrolleeWorkOrder` オブジェクトで新しい `PreviousWorkOrder` 項目を使用します。

先進治療ケアプログラムが実施されるサービストリトリーを表す

`CareProgramEnrollee` オブジェクトで新しい `EnrollmentLocation` 項目を使用します。

作業手順を完了するのに必要なリードタイムの測定単位を表す

`WorkProcedure` オブジェクトで新しい `LeadTimeUnitType` 項目を使用します。

在宅医療

ケアサービス訪問に関連付けられたケアプラン、ケアプランの詳細、目標割り当て、またはアクションプランの ID を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `CarePlanContext` 項目を使用します。

ケアサービス訪問に関連付けられたケアサービス訪問プランの ID を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `CareServiceVisitPlan` 項目を使用します。

ケアサービス訪問の種別を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `visitType` 項目を使用します。

ケアサービスを受けた患者に関連付けられた取引先の ID を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `Account` 項目を使用します。

在宅医療機関のケア従事者が確認して更新するケアサービス訪問の開始日時を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `ManVerifiedVisitStartDtTm` 項目を使用します。

在宅医療機関のケア従事者が確認して更新するケアサービス訪問の終了日時を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `ManVerifiedVisitEndDtTm` 項目を使用します。

ケア担当者のモバイルデバイスから自動的に更新されるケアサービス訪問の開始日時を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `AutoVrfyVisitStartDtTm` 項目を使用します。

ケア担当者のモバイルデバイスから自動的に更新されるケアサービス訪問の終了日時を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `AutoVerifiedVisitEndDtTm` 項目を使用します。

在宅医療機関のケア従事者が確認して更新するケアサービス訪問の開始場所を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `ManVrfyVisitStartLoc` 項目を使用します。

在宅医療機関のケア従事者が確認して更新するケアサービス訪問の終了場所を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `ManVrfyVisitEndLoc` 項目を使用します。

ケア担当者のモバイルデバイスから自動的に更新されるケアサービス訪問の開始場所を表す

`CareServiceVisit` オブジェクトで新しい `AutoVrfyVstStartLoc` 項目を使用します。

ケア担当者のモバイルデバイスから自動的に更新されるケアサービス訪問の終了場所を表す

CareServiceVisit オブジェクトで新しい AutoVrfyVisitEndLoc 項目を使用します。

ケアサービス訪問を開始するケア担当者の ID を表す

CareServiceVisit オブジェクトで新しい StartedBy 項目を使用します。

ケアサービス訪問を終了するケア担当者の ID を表す

CareServiceVisit オブジェクトで新しい EndedBy 項目を使用します。

ケアサービス訪問に関連付けられたケアプラン、ケアプランの詳細、目標割り当て、またはアクションプランの ID を表す

CareServiceVisitPlan オブジェクトで新しい CarePlanContext 項目を使用します。

計画済みケアサービスにおける訪問の作成件数を表す

CareServiceVisitPlan オブジェクトで新しい CreatedVisitCount 項目を使用します。

計画済みケアサービスにおける訪問の承認件数を表す

CareServiceVisitPlan オブジェクトで新しい ApprovedVisitCount 項目を使用します。

臨床サービス要請が受け入れられるかどうかを示す

新しい IsAccepted field in the ClinicalServiceRequest オブジェクトを使用します。

提供者リレーション管理

ヘルスケア提供者とヘルスケア施設間のアフィリエーションを表す

新しい CareProviderAfflRoleConfig オブジェクトを使用します。

ヘルスケアサービスをヘルスケア提供者、ヘルスケア施設、またはヘルスケア担当医師の施設と関連付ける

新しい HealthcareProviderService オブジェクトを使用します。

提供者、医師、または施設が提供するヘルスケア治療、サービス、または処理を表す

新しい CareService オブジェクトを使用します。

ヘルスケアサービスをコードセットバンドルに関連付ける

新しい HealthcareServiceDetail オブジェクトを使用します。

ヘルスケア提供者、施設、または医師を健康状態に関連する問題定義に関連付ける

新しい HlthCareProvTreatedCondition オブジェクトを使用します。

ヘルスケア提供者に関する詳細情報を追跡する

CareProviderSearchableField オブジェクトで新しい Service、ServiceCode、Condition 項目を使用します。

ヘルスケア提供者を関連ユーザーIDに連携する

新しい RelatedUser field in the HealthcareProvider オブジェクトを使用します。

ヘルスケア提供者をその写真のコンテンツドキュメントファイルに関連付ける

新しい ProviderPhoto field in the HealthcareProvider オブジェクトを使用します。

給付確認

患者を支払者の保険プランまたはネットワークに関連付ける

新しい PayerNetwork field in the MemberPlan オブジェクトを使用します。

医療保険

患者を支払者の保険プランまたはネットワークに関連付ける
新しい PayerNetwork field in the MemberPlan オブジェクトを使用します。

臨床データモデル

臨床サービス要請が受け入れられるかどうかを示す
新しい IsAccepted field in the ClinicalServiceRequest オブジェクトを使用します。

インテリジェントなドキュメントの自動化

ドキュメントの処理状況を追跡する
ReceivedDocument オブジェクトの既存の Status 項目で新しい選択リスト値を使用します。
ドキュメントの処理および変換時の処理状況の理由を表す
新しい StatusReason field in the ReceivedDocument オブジェクトを使用します。

統合ケア管理

指定された期間の患者ケアのギャップを表す
新しいケアギャップオブジェクトを使用します。
ケアギャップを特定するための健康関連基準の構造化された計算可能な定義を表す
新しい臨床基準オブジェクトを使用します。
健康関連基準の計算可能な条件を表す
新しい臨床基準条件オブジェクトを使用します。
健康関連基準の計算可能な条件のグループを表す
新しい臨床基準条件グループオブジェクトを使用します。
評価条件の結果を表す
新しいケアギャップ条件結果オブジェクトを使用します。

同意管理

プライバシーと同意を管理するためのオブジェクトが削除される

Health Cloud では、AuthFormRequestRecord、InfoAuthorizationRequest、InfoAuthRequestForm、MultipartyInfoAuthRequest オブジェクトは使用されません。このオブジェクトは Summer '22 (API バージョン 55.0) で追加され、Winter '24 (API バージョン 59.0) で削除されました。

関連トピック:

[開発者ガイド: Clinical Data Model \(臨床データモデル\)](#)

[開発者ガイド: Benefits Verification \(給付確認\)](#)

[開発者ガイド: Intelligent Document Automation \(インテリジェントなドキュメントの自動化\)](#)

[開発者ガイド: Advanced Therapy Management \(先進治療管理\)](#)

[開発者ガイド: Provider Relationship Management \(提供者リレーション管理\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[開発者ガイド: Health Insurance \(医療保険\)](#)

[開発者ガイド: Home Health \(在宅医療\)](#)

[ヘルスケア提供者に関する詳細情報の追跡](#)

Health Cloud の新規および変更された呼び出し可能なアクション

Health Cloud の新規および変更された呼び出し可能なアクションを使用します。

受信ドキュメントの処理結果を含むレコードを作成する

新しい processReceivedDocument アクションを使用します。

定期的な在宅医療訪問のセットを作成する

新しい scheduleRecurringHomeVisit アクションを使用します。

患者紹介のための臨床サービス要請レコードおよび関連付けられた臨床サービス要請の詳細レコードを作成する

新しい createReferral アクションを使用します。

サービス要請に関連付けられたケアサービス訪問レコードの ID を取得する

既存の scheduleRecurringHomeVisit アクションで新しい careServiceVisitPlanId 出力項目を使用します。

指定された期間のサービスリソースの訪問割り当てを削除する

新しい handleResourceAbsence アクションを使用します。

患者の自宅訪問をスケジュールして、状態を評価する

新しい scheduleHomeVisit アクションを使用します。

関連トピック:

[開発者ガイド: Health Cloud Standard Invocable Actions \(Health Cloud の標準の呼び出し可能なアクション\)](#)

Health Cloud の新規および変更されたメタデータ型

Health Cloud の新規および変更されたメタデータ型を最大限活用します。

Salesforce フロー

受信ドキュメントの処理結果を含むレコードを作成する

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで、既存の `actionType` 項目の新しい `processReceivedDocument` 値を使用します。

定期的な在宅医療訪問のセットを作成する

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで、既存の `actionType` 項目の新しい `scheduleRecurringHomeVisit` 値を使用します。

患者紹介のための臨床サービス要請レコードおよび関連付けられた臨床サービス要請の詳細レコードを作成する

Flow メタデータ型の既存の FlowActionCall サブタイプで、既存の `actionType` 項目の新しい `createReferral` 値を使用します。

指定された期間のサービスリソースの訪問割り当てを削除する

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで、既存の `actionType` 項目の新しい `handleResourceAbsence` 値を使用します。

患者の自宅訪問をスケジュールして、状態を評価する

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで、既存の `actionType` 項目の新しい `scheduleHomeVisit` 値を使用します。

関連トピック:

[開発者ガイド: Flow for Health Cloud \(Health Cloud のフロー\)](#)

Connect REST API

Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

このセクションの内容:

新しい Connect REST API リソース

Health Cloud の新しいリソースは、次のとおりです。

プロバイダー API 更新の作成

これは、Health Cloud でのプロバイダー REST API の作成に対する更新です。

関連トピック:

[開発者ガイド: Health Cloud ビジネス API](#)

新しい Connect REST API リソース

Health Cloud の新しいリソースは、次のとおりです。

患者紹介を作成する

新しい

```
/connect/health/referral-management/referrals
```

リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Referral Management Input

新しいレスポンスボディ: Referral Management Output

プロバイダー API 更新の作成

これは、Health Cloud でのプロバイダー REST API の作成に対する更新です。

エンティティを追加して、プロバイダー API 更新を作成する

新しいサポート対象エンティティである providerAffiliations、contactProfile、providerServices、treatedConditions を既存の /connect/health/providers リソースに使用します。

業種注文管理

業種注文管理(注文管理、IOM、またはOMとも呼ばれる)は、業界屈指の次世代の注文管理機能をコミュニケーション、メディア、およびエネルギー企業に提供する製品モジュールです。

このリリースの内容は、[業種注文管理リリースノート](#) を参照してください

Insurance

Insurance は、保険契約管理、給付管理、請求をサポートする柔軟性の高いコンポーネントを使用して、現場のエージェント、バックオフィスのチーム、顧客をつなぎます。

Summer '24 リリースの内容は、[Insurance Summer '24 リリースノート](#) を参照してください。

Manufacturing Cloud

拡張可能なビジネスルールにより保証請求のエンドツーエンドの自動裁定プロセスを設計し、クレームデータをより効率的に管理します。CRM Analytics for Warranty Lifecycle Managementを使用して、保証請求に関するアクション可能なインサイトを取得します。商品保証請求が承認される可能性について評価にスコアを使用することで、商品保証請求をより迅速に裁定します。資産と、そのライフサイクルにおけるすべての関係者をリンクします。法人車両管理機能を使用して、製造業の法人車両運用を追跡します。エンゲージメント、タイムライン、アクション可能リストメンバー、Data Cloud セグメントのリストビルダーなどの機能強化を活用します。

このセクションの内容:

保証請求裁定の自動化

多用途にわたる保証請求の自動裁定プロセスを構築することで、裁定の精度を高め、保証チームの作業負荷を軽減し、主観的な裁定を防げます。保証チームは、ビジネスルールエンジンを使用して、請求を検証するための綿密で柔軟なビジネスルールを設計できます。コンテキストサービスを使用して、裁定プロセスにおける保証請求データの共有と使用を合理化します。

[CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management](#)

新しいガイド付き設定を使用することで、CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management を簡単に設定できます。分析ダッシュボードで、保証請求を効果的に管理し、プロセスの効率を改善するためのインサイトを得ることができます。

[予測請求承認スコアを使用することにより、商品保証請求を迅速に裁定します。](#)

以前に承認された請求に基づき、保証請求が承認される可能性に関するスコアを取得します。このスコアを確認することで、請求をそのまま承認できるか、さらに検証する必要があるかを判断できます。

[販売計画の注文取消しと返品の追跡](#)

販売契約の実績で、負の数量と負の単価の注文商品が考慮されるようになりました。営業チームは、負の数量を指定した注文商品を作成することで、注文のリコールや返品を表します。営業チームは、販売契約期間において、注文の返品やリコールについて計算された実績を追跡できます。

[資産のライフサイクルにおける関係者の追跡](#)

製造、納入、および販売する納入商品を関連する関係者にリンクします。納入商品取引先関係者レコードを作成して納入商品を取引先に関連付けます。また、納入商品取引先責任者関係者レコードを作成して納入商品を取引先責任者に関連付けます。たとえば、納入商品の金融業者、納入業者、所有者を取引先に関連付けます。さらに、納入商品の販売担当者、技術者、サービス担当者を取引先責任者と関連付けます。

[製造の法人車両業務の可視化](#)

Manufacturing Cloud の法人車両管理機能を使用して、モバイル機器、固定システム、電動工具などの法人車両資産を追跡します。利用状況、法人車両に関連する状況、法人車両の一部となった日付を含め、法人車両資産に関する詳細を取得します。法人車両のライフサイクルのすべてのフェーズに関与する参加者(メンテナンスマネージャー、業務マネージャーなど)を監視します。

[Manufacturing Cloud の Actionable Relationship Center を使用した取引先階層の視覚化](#)

Actionable Relationship Center (ARC) の機能強化を最大限に活用することで、複雑な組織階層やビジネスリレーションをインタラクティブかつ直感的なグラフで視覚化します。取引先の親取引先など、ARC グラフ上で関連エンティティの上位階層を表示できるようになりました。ARC グラフの任意のノードをアンカーノードとして定義することで、そのノードをグラフの始点として設定し、グラフ内のどのポイントからでも簡単にそのノードに戻ることができます。

[Manufacturing Cloud のドキュメントからの自動情報抽出による時間とリソースの節約](#)

インテリジェントドキュメントリーダーを使用して、光学式文字認識でドキュメントから情報を自動的に抽出し、レコードを作成、更新、検証します。請求、請求書、リースなどのドキュメントをアップロードして、ドキュメントのデータを Salesforce オブジェクトのさまざまな項目に対応付けます。たとえば、リバート請求書をアップロードして、自動的に取引記録レコードを作成します。

[Manufacturing Cloud のアクション可能リストメンバーの機能強化を使用した見込み客との信頼関係の作成](#)

アクション可能リストメンバーコンポーネントの新しい絞り込み機能を使用することで、見込み客を簡単に特定してエージェントに割り当てることができます。事前設定済み KPI バーを使用することで、アクション可能リストで見込み客のエンゲージメント状況に関する有用なインサイトを得ることができます。見込み客を ServiceCloud キューに割り当てることで、エージェントへの見込み客の割り当てを簡略化できます。見込み客の自動割り当て機能を使用することで、新しい見込み客を自動的に割り当てるルールを設定できます。

Manufacturing Cloud のタイムラインにエンゲージメントイベントを表示して情報の可視性を向上

システム管理者は、Data Cloud のデータモデルオブジェクトのエンゲージメントイベントをエージェントにタイムラインで表示できます。このイベントによって、エージェントは情報を容易に取得し、経緯を把握して、顧客や見込み客と状況に応じた簡潔なコミュニケーションをとることができます。

Data Cloud のリストビルダーを使用した見込み客との対象を絞ったパーソナライズされたエンゲージメントの促進

Data Cloud で生成されたオーディエンスセグメントを使用してアクション可能リストを作成することで、新たな成長のチャンスを創出し、顧客満足度を向上します。

Manufacturing Cloud でのデータ処理エンジン定義の視覚化と容易なデバッグ

新しいノードキャンバスを使用して、データ処理エンジン (DPE) 定義のノードを視覚的に表示し、DPE 定義の構造をより深く理解できます。相互参照しているノードを確認することで、DPE 定義を最適化できます。DPE 定義に Data Cloud ランタイムを使用して、Manufacturing Cloud や Data Cloud からデータを読み取り、データを変換してから、結果を Manufacturing Cloud や Data Cloud に書き戻します。失敗した書き戻しレコードを確認することで、DPE 定義を簡単にデバッグできます。

Manufacturing Cloud の新規および変更されたオブジェクト

Manufacturing Cloud では、次のオブジェクトが新規追加および変更されました。

保証請求裁定の自動化

多用途にわたる保証請求の自動裁定プロセスを構築することで、裁定の精度を高め、保証チームの作業負荷を軽減し、主観的な裁定を防げます。保証チームは、ビジネスルールエンジンを使用して、請求を検証するための綿密で柔軟なビジネスルールを設計できます。コンテキストサービスを使用して、裁定プロセスにおける保証請求データの共有と使用を合理化します。

このセクションの内容:

複雑で拡張可能なビジネスルールの使用による迅速かつ正確な請求の検証

式セット内でより高度かつ詳細なビジネスルールを設計し、不良品の保証対象範囲を検証したり、対象資格ルールに対して請求支払詳細を検証したりします。[請求の入力規則] ビジネス要素を使用して、請求内で交換または修理したすべての部品が保証の対象かどうかを検証します。リストグループとリスト検索条件を使用して、請求レコードに関連付けられたさまざまな請求補償範囲支払詳細レコードを条件付きで絞り込んだり、反復処理したりします。他の要素をリストグループに追加して、レコードごとに承認済み請求金額を決定するなど、絞り込まれたレコードに対してさらに操作を実行します。

より柔軟かつ簡単な保証請求裁定ルールの作成

ビジネスルールエンジンで事前定義済みの[請求の詳細]コンテキスト定義を使用することで、請求裁定ルールで保証請求データを簡単に使用できるようにします。保証管理者は式セット内でコンテキスト定義のコンテキストタグを使用して、より柔軟にビジネスルールを設計したり、冗長な入力を排除したり、プロセスパフォーマンスを向上したりできます。

複雑で拡張可能なビジネスルールの使用による迅速かつ正確な請求の検証

式セット内でより高度かつ詳細なビジネスルールを設計し、不良品の保証対象範囲を検証したり、対象資格ルールに対して請求支払詳細を検証したりします。[請求の入力規則]ビジネス要素を使用して、請求内で交換または修理したすべての部品が保証の対象かどうかを検証します。リストグループとリスト検索条件を使用して、請求レコードに関連付けられたさまざまな請求補償範囲支払詳細レコードを条件付きで絞り込んだり、反復処理したりします。他の要素をリストグループに追加して、レコードごとに承認済み請求金額を決定するなど、絞り込まれたレコードに対してさらに操作を実行します。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud、保証ライフサイクル管理、およびビジネスルールエンジンが付属するEnterprise Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper Edition のLightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「保証ライフサイクル管理PSL」、「請求管理財団」、および「ルールエンジンデザイナー」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: [保証請求] 使用種別で式セットを作成し、式セットビルダーで式セットのバージョンを開きます。[リストグループ]、[リスト検索条件]、および[請求の入力規則]要素を式セットバージョンに追加します。他の有意義な要素とリソースを指定します。

より柔軟かつ簡単な保証請求裁定ルールの作成

ビジネスルールエンジンで事前定義済みの[請求の詳細]コンテキスト定義を使用することで、請求裁定ルールで保証請求データを簡単に使用できるようにします。保証管理者は式セット内でコンテキスト定義のコンテキストタグを使用して、より柔軟にビジネスルールを設計したり、冗長な入力を排除したり、プロセスパフォーマンスを向上したりできます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud、保証ライフサイクル管理、コンテキストサービス、およびビジネスルールエンジンが付属するEnterprise Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper Edition のLightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「保証ライフサイクル管理PSL」、「請求管理財団」、「ルールエンジンデザイナー」、および「コンテキストサービス管理者」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: [請求の詳細] コンテキスト定義からコンテキストタグを使用して、自動化ツールを処理するための適切な請求データを入力します。

関連トピック:

[式セットでのコンテキスト定義の属性のリスト変数としての使用](#)

CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management

新しいガイド付き設定を使用することで、CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management を簡単に設定できます。分析ダッシュボードで、保証請求を効果的に管理し、プロセスの効率を改善するためのインサイトを得ることができます。

このセクションの内容:

[CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management の簡単な設定](#)

新しいガイド付き設定を使用することで、保証管理用のCRM Analytics アプリケーションの作成要求をより簡単に開始できます。手順に従って、ダッシュボードを含むアプリケーションを設定し、作成します。

効率的な保証請求の管理

CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management アプリケーションには、保証請求について詳細に分析できる Claims Analytics ダッシュボードが追加されました。請求数と請求金額が高い販売業者を特定して業務を合理化し、財務への影響を最小限に抑えることができるため、目的となる改善に重点を置くことができます。トレンド分析、場所からのインサイト、過去の請求トレンド、SLA 管理などを活用して、保証請求に迅速に対応し、効率的な請求決議を実現します。

CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management の簡単な設定

新しいガイド付き設定を使用することで、保証管理用の CRM Analytics アプリケーションの作成要求をより簡単に開始できます。手順に従って、ダッシュボードを含むアプリケーションを設定し、作成します。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud、保証ライフサイクル管理、および CRM Analytics が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、Manufacturing Analytics アドオンライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「製造」と入力し、[保証ライフサイクル管理用の CRM Analytics を設定] を選択します。次に、ページの手順に従って CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management を設定し、アプリケーションの作成要求を開始します。

効率的な保証請求の管理

CRM Analytics for Warranty Lifecycle Management アプリケーションには、保証請求について詳細に分析できる Claims Analytics ダッシュボードが追加されました。請求数と請求金額が高い販売業者を特定して業務を合理化し、財務への影響を最小限に抑えることができるため、目的となる改善に重点を置くことができます。トレンド分析、場所からのインサイト、過去の請求トレンド、SLA 管理などを活用して、保証請求に迅速に対応し、効率的な請求決議を実現します。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud、保証ライフサイクル管理、および CRM Analytics が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、Manufacturing Analytics アドオンライセンスを持つユーザーが使用できます。

予測請求承認スコアを使用することにより、商品保証請求を迅速に裁定します。

以前に承認された請求に基づき、保証請求が承認される可能性に関するスコアを取得します。このスコアを確認することで、請求をそのまま承認できるか、さらに検証する必要があるかを判断できます。

対象: この変更は、保証ライフサイクル管理、CRM Analytics for Manufacturing、およびスコアリングフレームワークが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象者: スコアリングフレームワークの保証請求承認スコア (Manufacturing または Automotive Cloud) テンプレート設定種別は、Warranty Lifecycle Management、Claims Management Foundation、Revenue Intelligence for Manufacturing、AI Accelerator with Scoring Framework 権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: 予測を取得するには、[設定]の[スコアリングフレームワーク]ページに移動します。[Warranty Claim Approval Score (Manufacturing or Automotive Cloud) (保証請求承認スコア (Manufacturing Cloud または Automotive Cloud))] テンプレート構成種別を使用して CRM Analytics テンプレート構成を作成します。

販売計画の注文取消しと返品の追跡

販売契約の実績で、負の数量と負の単価の注文商品が考慮されるようになりました。営業チームは、負の数量を指定した注文商品を作成することで、注文のリコールや返品を表します。営業チームは、販売契約期間において、注文の返品やリコールについて計算された実績を追跡できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「製造販売計画 PSL」権限セットを持つユーザーが使用できます。

資産のライフサイクルにおける関係者の追跡

製造、納入、および販売する納入商品を関連する関係者にリンクします。納入商品取引先関係者レコードを作成して納入商品を取引先に関連付けます。また、納入商品取引先責任者関係者レコードを作成して納入商品を取引先責任者に関連付けます。たとえば、納入商品の金融業者、納入業者、所有者を取引先に関連付けます。さらに、納入商品の販売担当者、技術者、サービス担当者を取引先責任者と関連付けます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「請求管理財団」または「製造のサービスコンソール」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: アプリケーションランチャーで、[納入商品取引先関係者] または [納入商品取引先責任者関係者] を見つけて選択し、[新規] をクリックします。レコードの詳細を指定します。

製造の法人車両業務の可視化

Manufacturing Cloud の法人車両管理機能を使用して、モバイル機器、固定システム、電動工具などの法人車両資産を追跡します。利用状況、法人車両に関連する状況、法人車両の一部となった日付を含め、法人車両資産に関する詳細を取得します。法人車両のライフサイクルのすべてのフェーズに関与する参加者(メンテナンスマネージャー、業務マネージャーなど)を監視します。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「法人車両管理」権限セットを持つユーザーが使用できます。

方法: 組織内で法人車両、法人車両資産、法人車両関係者オブジェクトを使用するには、enableFleetManagement メタデータ API を使用します。

Manufacturing Cloud の Actionable Relationship Center を使用した取引先階層の視覚化

Actionable Relationship Center (ARC) の機能強化を最大限に活用することで、複雑な組織階層やビジネスリレーションをインタラクティブかつ直感的なグラフで視覚化します。取引先の親取引先など、ARC グラフ上で関連エンティティの上位階層を表示できるようになりました。ARC グラフの任意のノードをアンカーノードとして定義することで、そのノードをグラフの始点として設定し、グラフ内のどのポイントからでも簡単にそのノードに戻ることができます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「Actionable Relationship Center」権限セットライセンスを持つユーザーが使用できます。

Manufacturing Cloud のドキュメントからの自動情報抽出による時間とリソースの節約

インテリジェントドキュメントリーダーを使用して、光学式文字認識でドキュメントから情報を自動的に抽出し、レコードを作成、更新、検証します。請求、請求書、リースなどのドキュメントをアップロードして、ドキュメントのデータを Salesforce オブジェクトのさまざまな項目に対応付けます。たとえば、リベート請求書をアップロードして、自動的に取引記録レコードを作成します。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud とインテリジェントドキュメントリーダーが付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、組織に Intelligent Document Reader アドオンライセンスがあり、「Amazon Textract」権限セットを持つユーザーのみが使用できます。

Manufacturing Cloud のアクション可能リストメンバーの機能強化を使用した見込み客との信頼関係の作成

アクション可能リストメンバーコンポーネントの新しい絞り込み機能を使用することで、見込み客を簡単に特定してエージェントに割り当てることができます。事前設定済み KPI バーを使用することで、アクション可能リストで見込み客のエンゲージメント状況に関する有用なインサイトを得ることができます。見込み客を Service Cloud キューに割り当てることで、エージェントへの見込み客の割り当てを簡略化できます。見込み客の自動割り当て機能を使用することで、新しい見込み客を自動的に割り当てるルールを設定できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「アクション可能セグメンテーション」権限セットが必要です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: アクション可能リストメンバー \(リリースレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Manufacturing Cloud のタイムラインにエンゲージメントイベントを表示して情報の可視性を向上

システム管理者は、Data Cloud のデータモデルオブジェクトのエンゲージメントイベントをエージェントにタイムラインで表示できます。このイベントによって、エージェントは情報を容易に取得し、経緯を把握して、顧客や見込み客と状況に応じた簡潔なコミュニケーションをとることができます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに Industry Service Excellence アドオンライセンスが必要です。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「タイムライン」と入力し、[タイムライン] をクリックします。次に [新規タイムライン] をクリックし、[Data Cloud イベント] を選択して、関連オブジェクトとエンゲージメントデータモデルオブジェクトの詳細を入力します。さらに、タイムラインにレコードを表示する条件を入力し、表示する項目を定義して、タイムラインを有効にします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: スケジュール \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Data Cloud のリストビルダーを使用した見込み客との対象を絞ったパーソナライズされたエンゲージメントの促進

Data Cloud で生成されたオーディエンスセグメントを使用してアクション可能リストを作成することで、新たな成長のチャンスを創出し、顧客満足度を向上します。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud および Data Cloud セグメントのリストビルダーが付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、Industry Sales Excellence アドオン、Customer 360 Audiences Corporate または Genie Data Platform Starter および CDP Segments Activations Card ライセンス、および「アクション可能セグメンテーション」権限セットを持つユーザーが使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Data Cloud セグメントのリストビルダー \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Manufacturing Cloud でのデータ処理エンジン定義の視覚化と容易なデバッグ

新しいノードキャンバスを使用して、データ処理エンジン(DPE)定義のノードを視覚的に表示し、DPE定義の構造をより深く理解できます。相互参照しているノードを確認することで、DPE定義を最適化できます。DPE定義に Data Cloud ランタイムを使用して、Manufacturing Cloud や Data Cloud からデータを読み取り、データを変換してから、結果を Manufacturing Cloud や Data Cloud に書き戻します。失敗した書き戻しレコードを確認することで、DPE定義を簡単にデバッグできます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が付属する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、「データパイプラインベースユーザー」権限セットを持つユーザーのみが使用できます。

Manufacturing Cloud の新規および変更されたオブジェクト

Manufacturing Cloud では、次のオブジェクトが新規追加および変更されました。

新しいオブジェクト

Manufacturing Cloud の新しいオブジェクトを次に示します。

納入業者に関する詳細の保存

新しい `Supplier` オブジェクトを使用します。

納入業者から購入した商品パーツまたは原料の追跡

新しい `SupplierProduct` オブジェクトを使用します。

契約下の商品の詳細を保存

新しい `SalesContractLine` オブジェクトを使用します。

納入商品を関連する取引先に関連付ける

新しい `AssetAccountParticipant` オブジェクトを使用します。

納入商品を関連する取引先責任者に関連付ける

新しい `AssetContactParticipant` オブジェクトを使用します。

変更されたオブジェクト

Manufacturing Cloud の変更されたオブジェクトを次に示します。

カスタム項目に固有のビジネスデータを保存する

既存の各オブジェクト (`EngagementAttendee`、`EngagementInteraction`、`EngagementTopic`) で最大 50 個のカスタム項目を設定します。

Media Cloud

Salesforce Industries では、どこからでも顧客の獲得、エンゲージ、サポートを行い、生涯価値を最大化し、メディアバリューチェーン全体で運用効率を向上させることができます。

このリリースの内容は、[Media Cloud リリースノート](#) を参照してください

ロイヤルティ管理

ロイヤルティ管理を販売時点管理 (POS) システムと統合することで、顧客エンゲージメントを強化し、売上を増加させ、顧客ロイヤルティを促進します。アクション可能セグメンテーションを使用して、プロモーションの対象となるメンバーのリストを取得します。メンバーに発行されたバウチャーをメンバーの取引先責任者レコードで表示します。

このセクションの内容:

[ロイヤルティ管理 POS API を使用した POS システムからのロイヤルティアクションの実行](#)

Salesforce インテグレーションパッケージと MuleSoft を介して、ロイヤルティ管理を販売時点管理(POS)システムと統合し、ロイヤルティ管理と POS システム間のシームレスなコミュニケーションを実現します。POS システムから Salesforce に API 要求を実行し、メンバーの登録、メンバー詳細の表示、取引の表示、バウチャーの管理、注文の作成、ポイントやバウチャーの獲得と利用を行います。

[最小限の操作による対象メンバーリストの作成](#)

アクション可能セグメンテーションを使用して、メンバーシッププロファイルやプログラムエンゲージメントに基づき、プロモーションキャンペーンの対象となるメンバーを決定します。たとえば、システム管理者はプログラムランクやメンバーポイント残高に基づいて、アクション可能リスト定義を作成できます。この定義によって生成されたメンバーリストを使用して、対象を絞ったプロモーションキャンペーンを作成します。

[取引先責任者のバウチャーの表示](#)

ロイヤルティプログラムマネージャーやサービス担当は、取引先責任者がロイヤルティプログラムのメンバーである場合、その取引先責任者に発行されたバウチャーを簡単に表示できます。メンバーに発行されたバウチャーは、そのメンバーの取引先責任者レコードに関連付けられるようになりました。

[ロイヤルティ管理動画の視聴](#)

ユーザーを対象にロイヤルティ管理の機能を説明する新しい動画が作成されました。

ロイヤルティ管理 POS API を使用した POS システムからのロイヤルティアクションの実行

Salesforce インテグレーションパッケージと MuleSoft を介して、ロイヤルティ管理を販売時点管理(POS)システムと統合し、ロイヤルティ管理と POS システム間のシームレスなコミュニケーションを実現します。POS システムから Salesforce に API 要求を実行し、メンバーの登録、メンバー詳細の表示、取引の表示、バウチャーの管理、注文の作成、ポイントやバウチャーの獲得と利用を行います。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Lightning Experience に適用されます。

方法: ロック解除済みパッケージを使用してロイヤルティ管理を POS システムと統合するには、パッケージをインストールし、関連する権限を設定し、接続アプリケーションを作成し、POS インテグレーションキットのカスタム設定を管理します。MuleSoft を使用して統合するには、業種インテグレーションへのアクセスを有効にし、クライアントアプリケーションと AnyPoint MQ を作成し、インテグレーションアプリケーションを有効にして、ポリシーを管理します。

関連トピック:

[Salesforce 開発者ドキュメント: Get Started with Loyalty Management Integrations API \(ロイヤルティ管理インテグレーション API 入門\)](#) (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

最小限の操作による対象メンバーリストの作成

アクション可能セグメンテーションを使用して、メンバーシッププロファイルやプログラムエンゲージメントに基づき、プロモーションキャンペーンの対象となるメンバーを決定します。たとえば、システム管理者はプログラムランクやメンバーポイント残高に基づいて、アクション可能リスト定義を作成できます。この定義によって生成されたメンバーリストを使用して、対象を絞ったプロモーションキャンペーンを作成します。

対象: この機能は、ロイヤルティ管理と Industries Sales Excellence が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。

方法: システム管理者は、データ処理エンジンを使用することで、ロイヤルティプログラムメンバーオブジェクトにアクション可能リスト定義を作成できます。データ処理エンジン定義で、ロイヤルティプログラムメンバーと共に複数のデータソースを使用し、プロモーションの対象となるメンバーを絞り込みます。アクション可能リスト定義を使用して、特定のプロモーションの対象となるメンバーのアクション可能リストを作成します。カスタムプロセスを設定して、プロモーションの対象メンバーをプロモーションのキャンペーンに追加します。

プロモーションの設計中、プログラムマネージャーはキャンペーンをプロモーションと関連付けて、プロモーションが対象のメンバーオーディエンスに対してのみ有効であることを確認することができます。

取引先責任者のバウチャーの表示

ロイヤルティプログラムマネージャーやサービス担当は、取引先責任者がロイヤルティプログラムのメンバーである場合、その取引先責任者に発行されたバウチャーを簡単に表示できます。メンバーに発行されたバウチャーは、そのメンバーの取引先責任者レコードに関連付けられるようになりました。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: システム管理者は、取引先責任者ページレイアウトにバウチャーの関連リストを追加できます。

ロイヤルティ管理動画の視聴

ユーザーを対象にロイヤルティ管理の機能を説明する新しい動画が作成されました。

- 「[Embed Loyalty Engagement Widgets \(ロイヤルティエンゲージメントウィジェットの組み込み\)](#)」では、ExperienceCloud サイトまたは外部の Web サイトにロイヤルティ管理のメンバーインゲージメントウィジェットをどのようにリリースできるかについて説明します。
- 「[Experience Loyalty Management on Your Mobile Devices \(モバイルデバイスでロイヤルティ管理を操作する\)](#)」では、ロイヤルティプログラム用の効果的なモバイルアプリケーションを使用してロイヤルティとカスタマーエクスペリエンスを向上させる方法を確認できます。
- 「[Loyalty Management POS API for In-Store and E-Commerce Unlocked Package \(店舗内および E コマース向けロイヤルティ管理 POS API ロック解除済みパッケージ\)](#)」では、ロイヤルティ管理 POS API ロック解除済みパッケージの設定、メンバープロファイルの詳細を取得するための API の使用、個々のメンバーの登録、バウチャーの管理、注文の作成を行う方法を確認できます。
- 「[Loyalty Management POS API for In-Store and E-Commerce Powered by MuleSoft \(店舗内および E コマース向けロイヤルティ管理 POS API \(Powered by MuleSoft\)\)](#)」では、ロイヤルティ管理 POS API (Powered by MuleSoft) の設定、メンバープロファイルの詳細を取得するための API の使用、個々のメンバーの登録、バウチャーの管理、注文の作成を行う方法を確認できます。

- 「[Design a Loyalty Program \(ロイヤルティプログラムを設計する\)](#)」では、ロイヤルティプログラムを作成し、ランク、通貨、パートナーを追加する方法を紹介します。
- 「[Add a Loyalty Program's Rewards \(ロイヤルティプログラムのリワードを追加する\)](#)」では、ロイヤルティプログラムに特典、バウチャー、バッジ、プロモーションを追加する方法を紹介します。
- 「[Launch a Loyalty Program \(ロイヤルティプログラムを開始する\)](#)」では、ロイヤルティプログラムのビジネスプロセスを設計し、プログラムを開始する方法を紹介します。

Net Zero Cloud

ダブルマテリアリティ調査を実施します。雇用補償とケアプログラムのパフォーマンスデータをソーシャルおよびガバナンスレポートに含めます。前のレポートから回答をコピーして、開示レポートを作成します。エネルギー属性証明書と電力購入契約を管理します。カスタム燃料種別を使用して、車両からの排出量を計算します。また、Net Zero Marketplace のデータプロバイダーが公開した排出係数を管理します。インテリジェントドキュメントリーダーを使用して、ドキュメントデータの文字起こしと対応付けを行います。

このセクションの内容:

[再生可能エネルギーを管理するためのエネルギー属性クレジットの割り当て](#)

Net Zero Cloud でエネルギー属性証明書を考慮することにより、再生可能エネルギー源を使用してスコープ²排出量を削減します。再生可能エネルギーサプライヤーとの電力購入契約を追跡して、再生可能電力の使用量を請求したり、バンドルされていないエネルギー属性証明書を購入したりします。エネルギー属性証書クレジットを管理し、このクレジットを固定資産エネルギー使用量に割り当てることで、カーボンフットプリントを削減します。

[重要性調査の実施](#)

ダブルマテリアリティ評価を実施し、ビジネスにとってのリスク領域と、環境や社会にプラスの影響を与える機会を特定します。さまざまなESG(環境、ソーシャル、ガバナンス)トピックの相対的な重要性に関する関係者フィードバックを収集するためのアンケートを設定します。これは、企業の社会的責任(CSR)とESG戦略を定義するうえで重要な最初のステップになります。トピックスコアは、Salesforce レポートを使用したマテリアリティマトリックスで視覚化できます。

[前年の開示回答のコピー](#)

開示とコンプライアンスのハブで、前年度の開示から回答をコピーすることで簡単に開示レポートを作成できます。開示情報は、開示の種別と定義、および開示についての有効な評価コンテキストに基づいています。

[ソーシャルおよびガバナンスレポートへのより多くのデータの追加](#)

雇用補償データの集計、管理ケアプログラムパフォーマンス、および組織のインシデントの金銭的損失をソーシャルおよびガバナンスレポートで取得します。このデータは、手動で入力するか、カンマ区切り値ファイル、API、コネクタ、または AppExchange で利用可能なインテグレーションを使用して、他のサードパーティアプリケーションからアップロードできます。

[カスタム燃料種別を使用したカーボンアカウンティングの強化](#)

カスタムの燃料種別、測定単位、換算係数を含めることにより、車両排出量計算を拡張します。カスタム燃料種別の換算係数と、変換元および変換先の測定単位を追加します。車両の排出量を計算するには、燃料種別を選択し、換算係数を指定します。

[Net Zero Marketplace の排出係数の管理](#)

Net Zero Marketplace では、データプロバイダーが、地域、排出量の種別、その他の組織のニーズに応じて排出係数を公表できます。この公表された排出係数を購入して、CSV ファイルでダウンロードし、データを Net Zero Cloud に読み込むことができます。

[インテリジェントドキュメントリーダーを使用した Net Zero Cloud オブジェクトへのドキュメントデータの読み込み](#)

インテリジェントドキュメントリーダーでは、公共料金の請求書などのアップロードされたドキュメントから Net Zero Cloud のオブジェクトレコードにデータを取り込みます。これにより、時間と労力が節約されます。データを抽出するために、インテリジェントドキュメントリーダーでは Amazon Textract を使用します。Textract を使用するには、Amazon Web Services (AWS) アカウントが必要です。

[プログラム管理と結果管理を使用した脱炭素化戦略の改善](#)

カーボン削減プロジェクトと、その他のESG(環境、ソーシャル、ガバナンス)影響改善プロジェクトを計画し、ポートフォリオ全体で追跡します。影響戦略が測定可能かつアクション可能であることを確認します。

[\[開示とコンプライアンスのハブ\] テンプレートを使用した ESRS レポートの生成](#)

Net Zero Cloud Disclosures for ESRS 管理パッケージを使用し、書式設定されたアンケートを使用して European Sustainability Reporting Standards(欧州サステナビリティ報告基準:ESRS) レポートを容易に生成し、必要な情報を収集します。

[CRM Analytics for Net Zero Cloud](#)

新しいガイド付き設定を使用することで、Net Zero Cloud 用 CRM Analytics アプリケーションを簡単に設定できます。Net Zero Analytics アプリケーションで新しい Emissions Forecast and What-If Analysis(排出量予測および What-If 分析) ダッシュボードを使用することで、さまざまな総計値を調査し、予想される結果をシミュレートし、計画しているさまざまな持続可能性対策がカーボンフットプリントにどのように影響するかを評価することができます。

[Net Zero Cloud の新規および変更されたオブジェクト](#)

新規および変更された Net Zero Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できます。

[メタデータ API](#)

Net Zero Cloud の新規メタデータ型を最大限活用してください。

再生可能エネルギーを管理するためのエネルギー属性クレジットの割り当て

Net Zero Cloud でエネルギー属性証明書を考慮することにより、再生可能エネルギー源を使用してスコープ 2 排出量を削減します。再生可能エネルギー供給者との電力購入契約を追跡して、再生可能電力の使用量を請求したり、バンドルされていないエネルギー属性証明書を購入したりします。エネルギー属性証明書クレジットを管理し、このクレジットを固定資産エネルギー使用量に割り当てることで、カーボンフットプリントを削減します。

対象: この変更は、Net Zero Cloud Starter または Growth ライセンスが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: エネルギー属性証明書クレジットを割り当ててスコープ 2 排出量を削減\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

重要性調査の実施

ダブルマテリアリティ評価を実施し、ビジネスにとってのリスク領域と、環境や社会にプラスの影響を与える機会を特定します。さまざまな ESG(環境、ソーシャル、ガバナンス)トピックの相対的な重要性に関する関係者フィードバックを収集するためのアンケートを設定します。これは、企業の社会的責任(CSR)とESG戦略を定義するうえで重要な最初のステップになります。トピックスコアは、Salesforceレポートを使用したマテリアリティマトリックスで視覚化できます。

対象: この変更は、Net Zero Cloud Growthライセンスと、Materiality Assessmentアドオンライセンスが有効になっているProfessional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer EditionのLightning Experienceに適用されます。

方法: Salesforceフィードバック管理を有効化し、[設定]の[Net Zero 設定]ページで[マテリアリティ評価を管理]を有効にします。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:マテリアリティ評価\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

前年の開示回答のコピー

開示とコンプライアンスのハブで、前年度の開示から回答をコピーすることで簡単に開示レポートを作成できます。開示情報は、開示の種別と定義、および開示についての有効な評価コンテキストに基づいています。

対象: この変更は、Net Zero Cloud Growthライセンスが有効になっているProfessional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer EditionのLightning Experienceに適用されます。

方法: [開示とコンプライアンスのハブを管理]を有効にするには、[設定]の[開示とコンプライアンスのハブ設定]ページに移動します。独立系ソフトウェアベンダー(ISV)の場合、管理パッケージを作成するときにこの機能を使用できます。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:以前に送信された開示回答のコピー\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:開示の作成\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ソーシャルおよびガバナンスレポートへのより多くのデータの追加

雇用補償データの集計、管理ケアプログラムパフォーマンス、および組織のインシデントの金銭的損失をソーシャルおよびガバナンスレポートで取得します。このデータは、手動で入力するか、カンマ区切り値ファイル、API、コネクタ、またはAppExchangeで利用可能なインテグレーションを使用して、他のサードパーティアプリケーションからアップロードできます。

対象: この変更は、Net Zero Cloud Growth ライセンスが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 組織のインシデントに関する情報の集計(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Salesforce ヘルプ: 雇用補償に関する情報の集計(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Salesforce ヘルプ: 管理ケアプログラムパフォーマンスの集計(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

カスタム燃料種別を使用したカーボンアカウンティングの強化

カスタムの燃料種別、測定単位、換算係数を含めることにより、車両排出量計算を拡張します。カスタム燃料種別の換算係数と、変換元および変換先の測定単位を追加します。車両の排出量を計算するには、燃料種別を選択し、換算係数を指定します。

対象: この変更は、Net Zero Cloud Starter または Growth ライセンスが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Net Zero Cloud のカスタム値の設定(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Net Zero Marketplace の排出係数の管理

Net Zero Marketplace では、データプロバイダーが、地域、排出量の種別、その他の組織のニーズに応じて排出係数を公表できます。この公表された排出係数を購入して、CSV ファイルでダウンロードし、データを Net Zero Cloud に読み込むことができます。

対象: この変更は、Net Zero Cloud Starter または Growth ライセンスが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: US エンティティを含む組織のみが排出係数を購入して、ダウンロードできます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 読み込むべき参照データ(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Salesforce ヘルプ: その他の使用可能な参照データソース(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

インテリジェントドキュメントリーダーを使用した Net Zero Cloud オブジェクトへのドキュメントデータの読み込み

インテリジェントドキュメントリーダーでは、公共料金の請求書などのアップロードされたドキュメントから Net Zero Cloud のオブジェクトレコードにデータを取り込みます。これにより、時間と労力が節約されます。

データを抽出するために、インテリジェントドキュメントリーダーでは Amazon Textract を使用します。Textract を使用するには、Amazon Web Services (AWS) アカウントが必要です。

対象: この変更は、Intelligent Document Reader アドオンライセンスが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: ユーザーには、Amazon Web Services (AWS) アカウントと、「インテリジェントドキュメントワークスペースユーザー」および「ドキュメントチェックリスト」権限セットが必要です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: インテリジェントドキュメントリーダー\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: インテリジェントドキュメントリーダーを使用したドキュメントのアップロード\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

プログラム管理と結果管理を使用した脱炭素化戦略の改善

カーボン削減プロジェクトと、その他のESG(環境、ソーシャル、ガバナンス)影響改善プロジェクトを計画し、ポートフォリオ全体で追跡します。影響戦略が測定可能かつアクション可能であることを確認します。

対象: この変更は、Net Zero Cloud Growth ライセンスが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce リリースノート: 結果管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Net Zero Cloud でのプログラムとイニシアチブの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サステナビリティプログラムを使用した脱炭素化戦略の改善\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[開示とコンプライアンスのハブ] テンプレートを使用した ESRS レポートの生成

Net Zero Cloud Disclosures for ESRS 管理パッケージを使用し、書式設定されたアンケートを使用して European Sustainability Reporting Standards (欧州サステナビリティ報告基準: ESRS) レポートを容易に生成し、必要な情報を収集します。

対象: この変更は、Net Zero Cloud Growth ライセンスが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Net Zero Cloud Disclosures for ESRS パッケージを Net Zero Cloud 組織にインストールします。開示を生成するには、[設定]から、[クイック検索]ボックスに「開示とコンプライアンスのハブ」と入力し、[開示とコンプライアンスのハブ設定]を選択します。[開示とコンプライアンスのハブを管理]を有効にします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Net Zero Cloud Disclosures for ESRS パッケージ \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Net Zero Cloud テンプレートを使用した ESRS 開示レポートの作成 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

CRM Analytics for Net Zero Cloud

新しいガイド付き設定を使用することで、Net Zero Cloud 用 CRM Analytics アプリケーションを簡単に設定できます。Net Zero Analytics アプリケーションで新しい Emissions Forecast and What-If Analysis (排出量予測および What-If 分析) ダッシュボードを使用することで、さまざまな総計値を調査し、予想される結果をシミュレートし、計画しているさまざまな持続可能性対策がカーボンフットプリントにどのように影響するかを評価することができます。

このセクションの内容:

[Net Zero Analytics の簡単な設定](#)

新しいガイド付き設定を使用することで、Net Zero Analytics 用の CRM Analytics アプリケーションの作成要求をより簡単に開始できます。手順に従って、Net Zero 活動を追跡するオブジェクトと項目を設定し、設定用のダッシュボードを含むアプリケーションを作成します。ビジネスユーザーはアプリケーションで事前作成済みのダッシュボードを参照し、排出量データに関する価値のあるインサイトを取得できます。

[特定の予測排出量の影響分析に基づいて教育された持続可能な行動の実施](#)

新しい Emissions Forecast and What-If Analysis (排出量予測および What-If 分析) ダッシュボードでは、組織の炭素排出量の実測および予測値が特定の年や場所などに基づいて統合的に表示されます。この What-If 分析機能を使用することで、使用予定の持続可能性評価指標についてさまざまな値を実験し、想定される結果を視覚化して、総炭素排出量への影響を分析できます。また、排出量に関する現在の KPI (重要業績評価指標) を過去の期間の KPI と比較して、持続可能性についての業務活動の達成状況を確認できます。

[賃金格差と代表性のインサイトで影響度の高い DEI イニシアチブを計画](#)

DEI インサイトダッシュボードでは、性別、民族、障害など、さまざまなパラメーターにわたって、組織の賃金格差とワークフォースの代表性を特定するための分析の視覚化が提供されるようになりました。これらのデータに基づくインサイトを活用して、組織内の多様性を評価し、あらゆる格差に対処し、より柔軟な職場環境を構築できます。

Net Zero Analytics の簡単な設定

新しいガイド付き設定を使用することで、Net Zero Analytics 用の CRM Analytics アプリケーションの作成要求をより簡単に開始できます。手順に従って、Net Zero 活動を追跡するオブジェクトと項目を設定し、設定用のダッシュボードを含むアプリケーションを作成します。ビジネスユーザーはアプリケーションで事前作成済みのダッシュボードを参照し、排出量データに関する価値のあるインサイトを取得できます。

対象: この機能は、Net Zero Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。

対象ユーザー: Net Zero Analytics アプリケーションを使用するには、「CRM Analytics Plus 管理者」権限と「Net Zero Analytics 管理者」権限が必要です。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「Net zero」と入力し、[Net Zero 構成] を選択します。次に、ページの手順に従って、CRM Analytics と Net Zero Analytics を設定および有効化します。

特定の予測排出量の影響分析に基づいて教育された持続可能な行動の実施

新しい Emissions Forecast and What-If Analysis (排出量予測および What-If 分析) ダッシュボードでは、組織の炭素排出量の実測および予測値が特定の年や場所などに基づいて統合的に表示されます。この What-If 分析機能を使用することで、使用予定の持続可能性評価指標についてさまざまな値を実験し、想定される結果を視覚化して、総炭素排出量への影響を分析できます。また、排出量に関する現在の KPI (重要業績評価指標) を過去の期間の KPI と比較して、持続可能性についての業務活動の達成状況を確認できます。

対象: この変更は、Net Zero Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: Net Zero Analytics アプリケーションを使用するには、「CRM Analytics Plus ユーザー」権限と「Net Zero Analytics ユーザー」権限が必要です。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「Net zero」と入力し、[Net Zero 構成] を選択します。次に、ページの手順に従って、Emissions Forecast and What-If Analysis (排出量予測および What-If 分析) ダッシュボードで Net Zero Analytics アプリケーションを設定します。

賃金格差と代表性のインサイトで影響度の高い DEI イニシアチブを計画

DEI インサイトダッシュボードでは、性別、民族、障害など、さまざまなパラメーターにわたって、組織の賃金格差とワークフォースの代表性を特定するための分析の視覚化が提供されるようになりました。これらのデータに基づくインサイトを活用して、組織内の多様性を評価し、あらゆる格差に対処し、より柔軟な職場環境を構築できます。

対象: この変更は、Net Zero Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition の Lightning Experience の CRM Analytics に適用されます。

対象ユーザー: Net Zero Cloud で DEI Insights ダッシュボードを使用するには、「CRM Analytics Plus 管理者」権限と「Net Zero Analytics 管理者」権限が必要です。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「Net zero」と入力し、[Net Zero 構成] を選択します。CRM Analytics を設定し、DEI Analytics を有効にします。

Net Zero Cloud の新規および変更されたオブジェクト

新規および変更された Net Zero Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できます。

変更されたオブジェクト

次の Net Zero Cloud オブジェクトが変更されました。

前の開示から回答をコピーする

Disclosure オブジェクトの新しい ReplicateResponsesFromId 項目を使用します。

インシデントの金銭的損失の合計を追跡する

OrgIncidentSummary オブジェクトの新しい MonetaryLoss 項目を使用します。

エネルギー属性証明書クレジットをエネルギー使用量レコードに割り当てる

StnryAssetEnergyUse オブジェクトの新しい AllocEnrgyAttrCrInKwh、AllocEnrgyAttrCrBiomass、AllocEnrgyAttrCrGeothermal、AllocEnrgyAttrCrWind、AllocEnrgyAttrCrSolar 項目を使用します。

新しいオブジェクト

次の Net Zero Cloud オブジェクトは新しいオブジェクトです。

購入用のクレジットを提供するクリーンエネルギープロジェクトを管理する

新しい CleanEnergyProject オブジェクトを使用します。

エネルギー使用量に分配されるクレジットの数を表す

新しい EnergyAttrCreditDstr オブジェクトを使用します。

エネルギー属性証明書クレジットを管理する

新しい EnergyAttrCertCredit オブジェクトを使用します。

エネルギー属性証明書の購入を管理する

新しい EnergyAttrCertPurchase オブジェクトを使用します。

平均時間給と、最低賃金の施設ベースの従業員の割合を追跡する

新しい EmploymentCompensationSummary オブジェクトを使用します。

プログラムで持続可能性イニシアチブを管理する

新しい ProgramInitiative オブジェクトを使用します。

持続可能性イニシアチブの加入の詳細を管理する

新しい ProgramInitiativeEnrl オブジェクトを使用します。

管理ケアプランの評価と加入者維持率を追跡する

新しい ManagedCareProgramPrfm オブジェクトを使用します。

関係者エンゲージメントを管理して、環境、ソーシャル、ガバナンス (ESG) の問題の相対的な重要性を評価する

新しい MaterialityAssessment オブジェクトを使用します。

マテリアリティマトリックススコアを管理する

新しい MaterialityMatrixScore オブジェクトを使用します。

マテリアリティ関係者情報を管理する

新しい MaterialityStakeholder オブジェクトを使用します。

マテリアリティ関係者をグループに整理するためのカテゴリを管理する

新しい MaterialityStkldrCatg オブジェクトを使用します。

マテリアリティ評価に関する可能なトピックを管理する

新しい MaterialityTopic オブジェクトを使用します。

マテリアリティ評価トピックとアンケートの質問の間の対応付けを管理する新しい MaterialityTopicQstn オブジェクトを使用します。

関連トピック:

[Net Zero Cloud Developer Guide \(Net Zero Cloud 開発者ガイド\)](#): Net Zero Cloud Standard Objects (Net Zero Cloud の標準オブジェクト)(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

メタデータ API

Net Zero Cloud の新規メタデータ型を最大限活用してください。

設定

顧客が[マテリアリティ評価を管理]機能を有効化できるようにする

IndustriesSettings メタデータ型で新しい enableMaterialityAssessment 項目を使用します。

顧客が[環境プログラム、ソーシャルプログラム、ガバナンスプログラムを管理]機能を有効化できるようにする

IndustriesSettings メタデータ型で新しい enableNZCMngEsgPgm 項目を使用します。

関連トピック:

[Net Zero Cloud Developer Guide \(Net Zero Cloud 開発者ガイド\)](#): IndustriesSettings Metadata API (IndustriesSettings メタデータ API)

OmniStudio ドキュメントの生成

OmniStudio ドキュメントの生成では、Microsoft Word (.docx) および Microsoft PowerPoint (.pptx) テンプレートからドキュメントを生成できます。これらのテンプレートには、Salesforce オブジェクトのデータを含め JSON ベースのデータの値をテキストで含めることができます。また、生成されたドキュメントを PDF 形式に変換することができます。提供されているサンプルのクライアント側 OmniScript またはサーバー側 OmniScript を使用して、ドキュメントを生成できます。また、柔軟に独自の OmniScript、インテグレーション手順、または Apex クラスを作成して、カスタマイズしたドキュメントを生成することもできます。

このリリースの内容は、「[OmniStudio ドキュメントの生成リリースノート](#)」を参照してください。

結果管理

結果管理は、革新的な影響測定ツールであり、一か所から組織の結果戦略を定義し、測定し、評価することができます。期限付きの目標値と基準値を設定し、結果を追跡できます。異なる結果やプログラムに対して、一貫して同じインジケーターで測定できます。結果をグループにまとめて整理し、ロジックモデルなどの組織戦略や、外部の関係者が関心を寄せる一連の結果を反映することができます。

このセクションの内容:

望ましい結果と顕著な変化をもたらす活動を追跡

[結果]により、確認が必要な変化を追跡および管理します。[結果活動]を使用して、[結果]を、望ましい最終目標に寄与するプログラムや給付などの活動に接続します。

結果がどのように成功に寄与するかを示す総合的な表示の取得

影響戦略および影響戦略割り当てを使用して結果をグループ化し、戦略全体を一か所から確認します。結果をグループ化することで、組織のロジックモデルや変革理論を示すことができます。また、結果を戦略計画に基づいてグループ化したり、外部関係者向けにグループ化したりすることもできます。

変化を適用する作業の測定

インジケーターでは結果の測定方法を定義します。インジケーター定義を使用してインジケーターのライブラリを作成し、一貫して影響を測定できるようにします。インジケーター定義を複数の結果やプログラムに接続して、作業のさまざまな側面を測定します。期限付きのインジケーターパフォーマンス期間を使用して、活動を測定する際の開始点と到達目標を追跡します。

中間および最終結果の追跡

インジケーター結果を追加することで、期限付きの目標値と基準値に対する進捗状況を追跡できます。結果を使用して、評価、プログラム登録、給付支払などのデータソースの集計値を保存します。

影響戦略の包括的な把握

結果管理アプリケーションのホームページを使用して、インジケーターが目標に達しているかどうかを確認したり、最近のインジケーター結果を参照したり、評価を管理したりできます。

結果管理動画の視聴

ユーザーを対象に結果管理の機能を説明する新しい動画が作成されました。

結果管理用の新しいオブジェクトと項目

新しい結果管理オブジェクトによってさらに多くのことができるようになりました。

関連トピック:

プログラム管理と結果管理を使用した脱炭素化戦略の改善

望ましい結果と顕著な変化をもたらす活動を追跡

[結果]により、確認が必要な変化を追跡および管理します。[結果活動]を使用して、[結果]を、望ましい最終目標に寄与するプログラムや給付などの活動に接続します。

対象: この変更は、結果管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「結果管理」権限セットを持つユーザーは、結果や結果活動を管理できます。「プログラムおよび給付管理アクセス」権限セットを持つユーザーは、結果活動をプログラムと給付に接続できます。

関連トピック:

Salesforceヘルプ:結果および結果活動の定義(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

結果がどのように成功に寄与するかを示す総合的な表示の取得

影響戦略および影響戦略割り当てを使用して結果をグループ化し、戦略全体を一か所から確認します。結果をグループ化することで、組織のロジックモデルや変革理論を示すことができます。また、結果を戦略計画に基づいてグループ化したり、外部関係者向けにグループ化したりすることもできます。

対象: この変更は、結果管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「結果管理」権限セットを持つユーザーは、影響戦略や影響戦略割り当てを管理できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 影響戦略の作成と結果への割り当て \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

変化を適用する作業の測定

インジケーターでは結果の測定方法を定義します。インジケーター定義を使用してインジケーターのライブラリを作成し、一貫して影響を測定できるようにします。インジケーター定義を複数の結果やプログラムに接続して、作業のさまざまな側面を測定します。期限付きのインジケーターパフォーマンス期間を使用して、活動を測定する際の開始点と到達目標を追跡します。

対象: この変更は、結果管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「結果管理」権限セットを持つユーザーは、インジケーター定義、インジケーターの割り当て、期間、およびインジケーターパフォーマンス期間を管理できます。「プログラムおよび給付管理アクセス」権限セットを持つユーザーは、インジケーター割り当てをプログラムに接続できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: インジケーターを使用した戦略の測定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

中間および最終結果の追跡

インジケーター結果を追加することで、期限付きの目標値と基準値に対する進捗状況を追跡できます。結果を使用して、評価、プログラム登録、給付支払などのデータソースの集計値を保存します。

対象: この変更は、結果管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「結果管理」権限セットを持つユーザーは、インジケーター結果を管理できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: インジケーター結果による進行状況の追跡 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

影響戦略の包括的な把握

結果管理アプリケーションのホームページを使用して、インジケーターが目標に達しているかどうかを確認したり、最近のインジケーター結果を参照したり、評価を管理したりできます。

対象: この変更は、結果管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「結果管理」権限セットを持つユーザーは、ホームページからリンクされているレコードを管理できます。「動的評価アクセス」権限セットを持つユーザーは、[結果管理] ホームページから評価を追加できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 結果管理アプリケーションの探索\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

結果管理動画の視聴

ユーザーを対象に結果管理の機能を説明する新しい動画が作成されました。

● 「[Introduction to Outcome Management\(結果管理の概要\)](#)」は、影響戦略(ロジックモデルや変革理論など)を測定可能かつアクション可能なものにすることで、より大きな成果を得る方法を紹介します。

結果管理用の新しいオブジェクトと項目

新しい結果管理オブジェクトによってさらに多くのことができるようになりました。

目的の変化を追跡し、変化を活動に関連付ける

`Outcome` を使用して、組織の作業から期待される変化を定義します。`OutcomeActivity` を使用して、予想される変化と、その変化を達成するために計画された活動を関連付けます。

組織のロジックモデルをすべて表示するために結果をグループ化する、または外部の関係者が関心を持つ結果をグループ化する

`ImpactStrategy` を使用して、グループを設定します。`ImpactStrategyAssignment` を使用して、影響戦略を結果に接続します。

結果またはプログラムへの寄与を一貫して測定する

`IndicatorDefinition` を使用して、インジケーターのライブラリを設定します。`IndicatorAssignment` を使用して、インジケーターを測定対象(結果やプログラムなど)に接続します。

期限付きの基準値と目標値に対する変化を測定する

`TimePeriod` を使用して、インジケーターに一貫した期間を追加します。`IndicatorPerformancePeriod` を使用して、期限付きの基準値と目標値を設定します。`IndicatorResult` を使用して、インジケーターパフォーマンス期間の中間結果または最終結果を追加します。

関連トピック:

[開発者ドキュメント: Outcome Management Developer Guide\(結果管理開発者ガイド\)\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

プログラム管理

給付セッションから参加者を簡単に削除し、プログラム管理で給付支払に関連する項目セットのリストを取得します。

このセクションの内容:

新しい Connect REST API

Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

新しい Connect REST API

Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

新しい Connect API

給付支払に関連する項目セットの API 参照名を取得する

新しい `/connect/fieldset/${objectName}` リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Field Sets Output

支援コミットメントに関連する支援取引を取得する

新しい `/connect/fundraising/gift-committments/${commitmentId}/gift-transactions` リソースに対して GET 要求を実行します。

支援者取引先の支援コミットメントに関連する支援取引を取得する

新しい `/connect/fundraising/donor/${donorId}/commitments` リソースに対して GET 要求を実行します。

支援指定を取得する

新しい `/connect/fundraising/transaction/${transactionId}/designations` リソースに対して GET 要求を実行します。

支援キャンペーンに関連するデフォルトの支援指定を取得する

新しい `/connect/fundraising/campaign/${campaignId}/default-designations` リソースに対して GET 要求を実行します。

支援コミットメントに関連するデフォルトの支援指定を取得する

新しい `/connect/fundraising/commitment/${commitmentId}/default-designations` リソースに対して GET 要求を実行します。

給付スケジュールから参加者を削除する

新しい `/connect/program-mgmt/benefit-schedules/${benefitScheduleId}/benefit-assignments` リソースに対して DELETE 要求を実行します。

関連トピック:

[Nonprofit Cloud Developer Guide \(Nonprofit Cloud 開発者ガイド\)](#): Program Management Business APIs (プログラム管理ビジネス API) (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Public Sector Solutions

ケースやケース手続きの証拠の管理、より多くのオブジェクトを使用した動的評価の活用、世帯の簡単な分割などを行えます。

このセクションの内容:

[Actionable Relationship Center グラフでのコンテキストデータの迅速な確認](#)

レコードに関する Actionable Relationship Center (ARC) グラフをカスタマイズします。グラフに表示されるオブジェクトを変更し、1つ以上のノードに検索条件を適用して、特定の条件に基づくレコードを表示します。たとえば、ケースノードに検索条件を適用して、オープンケースと関連レコードのみをグラフに表示します。検索条件を適用したカスタムビューを保存することで、後から簡単にアクセスできます。頻繁に使用するビューをピン留めし、ビューを更新または削除します。

[適切なサービス提供者への対象者の紹介とサービス提供の追跡](#)

給付を提供者の専門分野に対応付けて、提供者がサービスを提供する日時と場所を基に給付スケジュールとセッションを作成します。専門分野に対応付けられた給付金により、ケースワーカーは特定のサービスを提供する提供者を検索して見つけることができ、対象者を適切な提供者や施設に紹介し、参加者を給付スケジュールやセッションに登録できます。次に、ケースワーカーは給付支払を使用して、各受取人のセッションへの参加を追跡できます。

[カスタムオブジェクトを含むより多くのオブジェクトで動的評価を使用](#)

ビジネスライセンス、プログラム、資金授与、資金授与要件、カスタムオブジェクトの動的評価を作成することで、動的評価をさらに活用できます。たとえば、授与後のコンプライアンスについて評価するためのアンケートを作成したり、資金授与に関連するサイト検査や監査などの活動を監視したりします。

[ガイド付きフローを利用した効率的な給付申込の処理](#)

個々の申請レコードページにガイド付きフローを追加することで、ケースワーカーは、給付申込の不足している情報について評価し、受給資格を判断し、給付金を割り当てることができます。このガイド付きフローは申請の主な詳細情報がまとめられたもので、参加者の人数、収入と支出の合計、参加者が受け取ることのできる給付の見積金額などが示されます。このフローを使えば、ケースワーカーは申請書の記入漏れや正確性を評価し、申請者と相談しながら詳細を追加または修正し、不足している情報を得るために申請書を送り返すことができます。自動化されたルールと式を使用することで、給付資格を決定し、給付額を計算し、適切なタイミングで加入者に給付額を割り当てることができます。

[ケースやケース手続きでの簡単な証拠の管理](#)

物理的証拠やデジタル証拠の収集、保存、保管について管理および追跡します。完全性、安全性、適格性を確保するために、ライフサイクルにわたって各保管項目の所有状況と場所を追跡します。保管項目を関連するケースまたはケース手続きに関連付け、法律、規制、またはコードへの遵守を維持するために規制コードを接続し、規制コード違反を記録します。共有設定と共有ルールを使用して、保管項目レコードへのアクセスを簡単に管理します。

[Service Process Studio を使用したより多くのシナリオでのサービス要請の取得](#)

Service Process Studio を使用して、ライセンス、許可、申請、給付管理、ケース手続きに関するサービス要請を取得します。たとえば、弁護士がケース手続きの延長を要求できるように、要求フォームを設定できます。

ケースワーカーに完全な提供者検索環境を提供

対象者にサービスを提供できる提供者を検索して、一致があれ即座に対応できます。たとえば、結婚カウンセリングを提供している提供者を検索するとき、検索条件、距離条件、およびグループ化や並べ替えルールを適用して、結果を最適化できます。検索結果に表示される提供者の有用な詳細を参照します。適切な提供者を選択し、Salesforce フローまたは OmniScript ガイド付きフローを開始して、関連するアクションを実行します。

ガイド付きワークフローの使用による関係者リレーショングループの簡単な分割

分割されたワークフローを使用することで、メンバー、関連する取引先責任者、グループ、法人取引先を、ある関係者リレーショングループから別のグループまたは新しいグループへ移動できます。分割したグループで、メンバーロールとリレーション、および関連取引先責任者、グループ、法人取引先のリレーションを指定できます。元のグループに関連付けられたケースや苦情などの関連情報を確認したり、必要なレコードを分割したグループに移動したり、後からレコードを確認するためのToDo アラームを作成したりできます。

関連しないオブジェクトのレコードを集計して関連付けることによる情報へのアクセスの簡略化

あるオブジェクトのレコードを集約し、そのレコードを関係性のないオブジェクトのレコードと関連付けて情報を統合することで、ユーザーが両方のオブジェクトの情報に簡単にアクセスできるようになります。たとえば、世帯メンバーの関係者収入レコードを集計し、世帯を表す関係者リレーショングループと関連付けます。これにより、ケースワーカーは集計レコードにすばやくアクセスして、グループの各メンバーの収入を見つけることができます。

標準コンポーネントを使用した告発受入ガイド付きフローの迅速な設定

組織で使用可能な OmniStudio コンポーネントを使用して、告発受入のガイド付きフローを設定します。以前は、Salesforce Industries Process Library からこのコンポーネントをダウンロードし、Public Sector Solutions 組織にリリースしてから、ガイド付きフローを設定する必要がありました。

Experience Cloud 助成金提供サイトでの実際の予算支出の追跡と、準拠データ共有によるレコードの共有

助成金受給者が実際の予算支出を Experience Cloud サイトに入力できるようにします。助成金提供者にはその更新を Salesforce 内でリアルタイムに表示します。所有権に基づいた共有が厳格に行われている組織では、ユーザーが助成金提供オブジェクトを共有できるようにします。

会計補助台帳の使用による会計システムでの財務データの統合

会計補助台帳を使用することで、規制取引手数料、資金授与、給付支払いなどの金融取引を会計システムに記録できます。資金が受領、支払、配分された方法と場所を追跡したり、財務、経理チーム全体のコミュニケーションを改善したり、財務データからのインサイトにアクセスしてそれに対応したり、正確かつ最新の財務予測によって計画を立てたりできます。

結果管理を使用した対象者への影響戦略の強化

影響戦略(ロジックモデルや変革理論など)を測定可能かつアクション可能なものにすることで、より良好な成果を得ることができます。

Public Sector Solutions の新規および変更されたオブジェクト

新規および変更された Public Sector Solutions オブジェクトで、より多くの操作を実行できます。

PublicSectrSltn 名前空間

PublicSectrSltn 名前空間には、次の新規クラスがあります。

Actionable Relationship Center グラフでのコンテキストデータの迅速な確認

レコードに関する Actionable Relationship Center (ARC) グラフをカスタマイズします。グラフに表示されるオブジェクトを変更し、1つ以上のノードに検索条件を適用して、特定の条件に基づくレコードを表示します。たとえば、ケースノードに検索条件を適用して、オープンケースと関連レコードのみをグラフに表示します。検索条件を適用したカスタムビューを保存することで、後から簡単にアクセスできます。頻繁に使用するビューをピン留めし、ビューを更新または削除します。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 対象者リレーションのグラフィック表現の設定と表示\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Actionable Relationship Center \(ARC\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

適切なサービス提供者への対象者の紹介とサービス提供の追跡

給付を提供者の専門分野に対応付けて、提供者がサービスを提供する日時と場所を基に給付スケジュールとセッションを作成します。専門分野に対応付けられた給付金により、ケースワーカーは特定のサービスを提供する提供者を検索して見つけることができ、対象者を適切な提供者や施設に紹介し、参加者を給付スケジュールやセッションに登録できます。次に、ケースワーカーは給付支払を使用して、各受取人のセッションへの参加を追跡できます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: プロバイダーのサービス提供データモデル\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

カスタムオブジェクトを含むより多くのオブジェクトで動的評価を使用

ビジネスライセンス、プログラム、資金授与、資金授与要件、カスタムオブジェクトの動的評価を作成することで、動的評価をさらに活用できます。たとえば、授与後のコンプライアンスについて評価するためのアンケートを作成したり、資金授与に関連するサイト検査や監査などの活動を監視したりします。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Public Sector Solutions での動的調査\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ガイド付きフローを利用した効率的な給付申込の処理

個々の申請レコードページにガイド付きフローを追加することで、ケースワーカーは、給付申込の不足している情報について評価し、受給資格を判断し、給付金を割り当てることができます。このガイド付きフローは申請の主な詳細情報がまとめられたもので、参加者の人数、収入と支出の合計、参加者が受け取ることのできる給付の見積金額などが示されます。このフローを使えば、ケースワーカーは申請書の記入漏れや正確性を評価し、申請者と相談しながら詳細を追加または修正し、不足している情報を得るために申請書を送り返すことができます。自動化されたルールと式を使用することで、給付資格を決定し、給付額を計算し、適切なタイミングで加入者に給付額を割り当てることができます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 給付申請レビューのガイド付きフロー \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ケースやケース手続きでの簡単な証拠の管理

物理的証拠やデジタル証拠の収集、保存、保管について管理および追跡します。完全性、安全性、適格性を確保するために、ライフサイクルにわたって各保管項目の所有状況と場所を追跡します。保管項目を関連するケースまたはケース手続きに関連付け、法律、規制、またはコードへの遵守を維持するために規制コードを接続し、規制コード違反を記録します。共有設定と共有ルールを使用して、保管項目レコードへのアクセスを簡単に管理します。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Public Sector Solutions でのケース手続き \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Service Process Studio を使用したより多くのシナリオでのサービス要請の取得

Service Process Studio を使用して、ライセンス、許可、申請、給付管理、ケース手続きに関するサービス要請を取得します。たとえば、弁護士がケース手続きの延長を要求できるように、要求フォームを設定できます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Public Sector Solutions でのケース手続き \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ケースワーカーに完全な提供者検索環境を提供

対象者にサービスを提供できる提供者を検索して、一致があれ即座に対応できます。たとえば、結婚カウンセリングを提供している提供者を検索するとき、検索条件、距離条件、およびグループ化や並べ替えルールを適用して、結果を最適化できます。検索結果に表示される提供者の有用な詳細を参照します。適切な提供者を選択し、Salesforce フローまたは OmniScript ガイド付きフローを開始して、関連するアクションを実行します。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 提供者検索\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ガイド付きワークフローの使用による関係者リレーショングループの簡単な分割

分割されたワークフローを使用することで、メンバー、関連する取引先責任者、グループ、法人取引先を、ある関係者リレーショングループから別のグループまたは新しいグループへ移動できます。分割したグループで、メンバーとリレーション、および関連取引先責任者、グループ、法人取引先のリレーションを指定できます。元のグループに関連付けられたケースや苦情などの関連情報を確認したり、必要なレコードを分割したグループに移動したり、後からレコードを確認するための ToDo アラームを作成したりできます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ガイド付きワークフローを使用した関係者リレーショングループの分割\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

関連しないオブジェクトのレコードを集計して関連付けることによる情報へのアクセスの簡略化

あるオブジェクトのレコードを集約し、そのレコードを関係性のないオブジェクトのレコードと関連付けて情報を統合することで、ユーザーが両方のオブジェクトの情報に簡単にアクセスできるようになります。たとえば、世帯メンバーの関係者収入レコードを集計し、世帯を表す関係者リレーショングループと関連付けます。これにより、ケースワーカーは集計レコードにすばやくアクセスして、グループの各メンバーの収入を見つけることができます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: レコード集計\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

標準コンポーネントを使用した告発受入ガイド付きフローの迅速な設定

組織で使用可能な OmniStudio コンポーネントを使用して、告発受入のガイド付きフローを設定します。以前は、Salesforce Industries Process Library からこのコンポーネントをダウンロードし、Public Sector Solutions 組織にリリースしてから、ガイド付きフローを設定する必要がありました。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 告発受入ガイド付きフローの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Experience Cloud 助成金提供サイトでの実際の予算支出の追跡と、準拠データ共有によるレコードの共有

助成金受給者が実際の予算支出を Experience Cloud サイトに入力できるようにします。助成金提供者にはその更新を Salesforce 内でリアルタイムに表示します。所有権に基づいた共有が厳格に行われている組織では、ユーザーが助成金提供オブジェクトを共有できるようにします。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Experience Cloud サイトを強化する新しい助成金提供機能については、助成金提供リリースノートを参照してください。

関連トピック:

[助成金提供](#)

会計補助台帳の使用による会計システムでの財務データの統合

会計補助台帳を使用することで、規制取引手数料、資金授与、給付支払いなどの金融取引を会計システムに記録できます。資金が受領、支払、配分された方法と場所を追跡したり、財務、経理チーム全体のコミュニケーションを改善したり、財務データからのインサイトにアクセスしてそれに対応したり、正確かつ最新の財務予測によって計画を立てたりできます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Public Sector Solutions での会計\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

結果管理を使用した対象者への影響戦略の強化

影響戦略(ロジックモデルや変革理論など)を測定可能かつアクション可能なものにすることで、より良好な成果を得ることができます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「結果管理」権限セットをユーザーに割り当てるか、「結果を管理」システム権限を権限セットまたはプロファイルに追加します。

関連トピック:

[結果管理](#)

Public Sector Solutions の新規および変更されたオブジェクト

新規および変更された Public Sector Solutions オブジェクトで、より多くの操作を実行できます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

証拠管理

保管されている項目に関する情報を保存する

新しい CustodyItem オブジェクトを使用します。

保管項目の場所、カストディアン、期間を保存する

新しい CustodyChainEntry オブジェクトを使用します。

ケースまたはケース手続きを保管されている項目に関連付ける

新しい CustodyItemRelation オブジェクトを使用します。

規制コード違反を保管されている項目に関連付ける

新しい CustodyItemRgtyCodeVio オブジェクトを使用します。

提供者管理

対象者に提供される給付を、サービス提供者のネットワークによって提供される専門分野に対応付ける

新しい BenefitSpecialty オブジェクトを使用します。

給付をコードセットバンドルに対応付ける

新しい BenefitItemCode オブジェクトを使用します。

提供者管理オブジェクトの選択済み項目から非正規化データを収集して提供者検索を有効にする

新しい BenefitPrvdSearchableFld オブジェクトを使用します。

医師の施設を給付スケジュールに関連付ける

既存の BenefitSchedule オブジェクトの新しい PractitionerFacility 項目を使用します。

医師の施設を給付セッションに関連付ける

既存の BenefitSession オブジェクトの新しい PractitionerFacility 項目を使用します。

医師または提供者の施設を紹介に関連付ける

既存の Referral オブジェクトの新しい ProviderFacilityId 項目を使用します。

提供者を紹介に関連付ける

既存の Referral オブジェクトの更新された ProviderId 項目を使用します。

アウトバウンド紹介のソースとして給付割り当てを指定する

既存の Referral オブジェクトの新しい OutboundSourceId 項目を使用します。

給付管理

調査の質問を重要としてマーク付ける

既存の OmniProcessAsmtQuestionVer オブジェクトの新しい IsImportant 項目を使用します。

PublicSectrSltn 名前空間

PublicSectrSltn 名前空間には、次の新規クラスがあります。

新規クラス

個人取引先、法人取引先、取引先責任者のリストを取得する

新しい GetAccountsAndContacts クラスを使用します。

関連トピック:

[Public Sector Solutions Developer Guide \(Public Sector Solutions 開発者ガイド\)](#): PublicSectrSltn Namespace (PublicSectrSltn 名前空間)

リベート管理

リベート管理用の新しい CRM Analytics ダッシュボードを使用して、リベートプログラムに関するアクション可能なデータ主導のインサイトを取得し、特別価格のトレンドを特定し、請求を分析します。データ処理エンジンの定義で、新しい [Compute Valid Transaction Journals Per Rebate Type (リベート種別ごとに有効な取引記録を計算する)] カスタムノードを使用することで、リベート支払処理のパフォーマンスが向上します。

このセクションの内容:

[リベート管理のための CRM Analytics](#)

新しいガイド付き設定を使用することで、Rebate Analytics を簡単に設定できます。Rebate Analytics のデータ主導のインサイトを活用することで、効果的なリベートプログラムをより効率的に設計できます。これによりパートナーにより高い価値を提供できます。

カスタムノードによる DPE 定義の拡張性の向上(正式リリース)

リベート支払計算で有効な取引を評価するための検索条件が多数ある場合、取引を集計することでデータ処理エンジン(DPE)定義がエラーになることがあります。DPE 定義エラーを減らすには、リベート種別の計算定義として指定する DPE 定義で、新しい [Compute Valid Transaction Journals Per Rebate Type (リベート種別ごとに有効な取引記録を計算する)] カスタムノードを使用します。新しいカスタムノードは、取引を処理するために DPE 定義で作成するレシピサイズを小さくすることで、DPE 定義エラーを減らします。また、新しいカスタムノードを使用して、リベート計算で使用する既存の定義を更新することで、レシピが処理制限に準拠することを保証できます。

リベート管理のための CRM Analytics

新しいガイド付き設定を使用することで、Rebate Analytics を簡単に設定できます。Rebate Analytics のデータ主導のインサイトを活用することで、効果的なリベートプログラムをより効率的に設計できます。これによりパートナーにより高い価値を提供できます。

このセクションの内容:

[Rebate Analytics の簡単な設定](#)

新しいガイド付き設定を使用することで、リベート管理用の CRM Analytics アプリケーションの作成要求をより簡単に開始できます。手順に従って、リベートプログラムのパフォーマンスを追跡するオブジェクトと項目を設定し、設定用のダッシュボードを含むアプリケーションを作成します。ビジネスユーザーはアプリケーションで事前作成済みのダッシュボードを参照し、リベートに関する価値のあるインサイトを取得できます。

[配送およびデビットプログラムの分析によるパートナーの値の最適化](#)

新しい Rebate Analytics ダッシュボードによって、メーカーは現在の配送およびデビットリベートプログラムの効果についての概要を表示し、インサイトを得ることができます。請求の状況を追跡し、トレンドを表示し、請求金額が最も高い取引先を特定し、特別価格の影響を分析します。現在の重要業績評価指標(KPI)値を以前の期間の KPI と比較して、リベートプログラムを最適化し、パートナーとのより強固な関係を構築します。

Rebate Analytics の簡単な設定

新しいガイド付き設定を使用することで、リベート管理用の CRM Analytics アプリケーションの作成要求をより簡単に開始できます。手順に従って、リベートプログラムのパフォーマンスを追跡するオブジェクトと項目を設定し、設定用のダッシュボードを含むアプリケーションを作成します。ビジネスユーザーはアプリケーションで事前作成済みのダッシュボードを参照し、リベートに関する価値のあるインサイトを取得できます。

対象: この変更は、リベート管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition の Lightning Experience の CRM Analytics に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、Manufacturing Cloud Intelligence または CRM Analytics for Manufacturing アドオンライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「製造」と入力し、[CRM Analytics for Manufacturing を設定] を選択します。次に、[リベートに関する分析を取得] セクションの手順に従って、Rebate Analytics を設定し、アプリケーションの作成要求を開始します。

配送およびデビットプログラムの分析によるパートナーの値の最適化

新しい Rebate Analytics ダッシュボードによって、メーカーは現在の配送およびデビットリベートプログラムの効果についての概要を表示し、インサイトを得ることができます。請求の状況を追跡し、トレンドを表示し、請求金額が最も高い取引先を特定し、特別価格の影響を分析します。現在の重要業績評価指標(KPI)値を以前の期間の KPI と比較して、リベートプログラムを最適化し、パートナーとのより強固な関係を構築します。

対象: この変更は、リベート管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition の Lightning Experience の CRM Analytics に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、Manufacturing Cloud Intelligence または CRM Analytics for Manufacturing アドオンライセンスを持つユーザーが使用できます。

カスタムノードによる DPE 定義の拡張性の向上 (正式リリース)

リベート支払計算で有効な取引を評価するための検索条件が多数ある場合、取引を集計することでデータ処理エンジン(DPE)定義がエラーになることがあります。DPE定義エラーを減らすには、リベート種別の計算定義として指定する DPE 定義で、新しい [Compute Valid Transaction Journals Per Rebate Type (リベート種別ごとに有効な取引記録を計算する)] カスタムノードを使用します。新しいカスタムノードは、取引を処理するために DPE 定義を作成するレシピサイズを小さくすることで、DPE 定義エラーを減らします。また、新しいカスタムノードを使用して、リベート計算で使用する既存の定義を更新することで、レシピが処理制限に準拠することを保証できます。

対象: この変更は、リベート管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: プロセス種別が [リベート] である DPE テンプレートをコピーして、新しい定義を有効化します。テンプレートから作成しなかった定義を使用する場合や、またはリベート計算で既存の定義を使用する場合は、定義をカスタマイズして新しいノードを追加できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 多数のリベート対象資格をサポートするためのデータ処理エンジン定義のカスタマイズ\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce 契約

Salesforce 契約アプリケーションを使用して、お客様は契約のエンドツーエンドのライフサイクルを管理できます。契約は、商談、注文、見積、Salesforce の標準オブジェクトおよびカスタムオブジェクトに関連付けることができます。契約ライフサイクル管理は、組織のセールスプロセスの全体的な健全性にとって重要です。

Salesforce 契約アプリケーションを使用すると、セールスプロセスインテグレーション、契約管理プロセス、契約作成から有効化までの契約ライフサイクルを詳細に制御できます。

このリリースの内容は、[Salesforce Contracts Cloud リリースノート](#)を参照してください。

教育機関向け Salesforce

教育機関向け Salesforce には、人材募集、入学者専攻、および学生支援に関するインサイトを接続し、見込みのある学生から熱心な卒業生に至るまですべての学習者のジャーニーを統一的に把握するための製品が含まれます。

このリリースの内容は、[教育機関向け Salesforce リリースノート](#)を参照してください。

非営利団体向け Salesforce

非営利団体向け Salesforce には、非営利団体に固有のニーズを満たす製品が含まれています。非営利団体は、これらの製品を使用してサイロ化されていたデータからアクション可能なインサイトを取得し、賛助者のエンゲージメントを長期的な関係に変えることができます。

このリリースの内容は、[非営利団体向け Salesforce リリースノート](#)を参照してください。

Industries の一般的な機能

一部の Industries 製品は、複数の Industries クラウドや Industries 以外のクラウドで使用できます。このリリースでは、次の一般的な機能が改善されました。コンテキストサービスが正式リリースされました。アクション可能リストメンバーでは、より詳細な絞り込みオプションがサポートされます。Actionable Relationship Center のカスタマイズ可能なグラフを使用して、リレーションをより適切に視覚化します。アクション可能セグメンテーションを使用して、パーソナライズされたリストを作成します。Data Cloud セグメントのリストビルダーを使用して、Data Cloud からのデータを使用してより包括的なリストを作成します。また、バッチ管理、ビジネスルールエンジン、データ処理エンジンなどにも変更が加えられています。

このセクションの内容:

アクション可能リストメンバー

[アクション可能リストメンバー] コンポーネントに表示されるメンバーを絞り込みます。新しい重要業績評価指標(KPI)バーを使用して、アクション可能リストのエンゲージメント状況を一目で確認します。Service Cloud キューを通じて見込み客を営業担当やサービスエージェントに割り当てます。新しい見込み客をエージェントに自動的に割り当てるルールを設定します。

Actionable Relationship Center

カスタマイズ可能でナビゲーションが容易なグラフでリレーションを可視化します。

アクション可能セグメンテーション

リスト作成者が列の設定をカスタマイズしたり、リストを更新したり、既存リストにオブジェクトを追加したりできるようになります。ガイド付き設定を利用して、アクション可能セグメンテーションを効率的に設定できるようになりました。

一括管理

将来や過去の日数に基づいて一括処理ジョブレコードを絞り込みます。検索条件で [次に含まれる] および [次に含まれない] 演算子値の値を使用して一括処理ジョブレコードの結果をさらに絞り込みます。

ビジネスルールエンジン

式セットのリスト変数としてコンテキスト定義タグを使用します。式セットでリスト検索条件とリストグループを使用することによって、簡単にリストを絞り込み、リスト変数に対して算術演算を実行します。複数のオブジェクトを使用して決定表を作成します。Decision Explainer の式セットの機能強化によって、カスタマイズ可能な説明可能性メッセージテンプレートを作成し、ユーザーに動的な決定の説明を表示します。

コンテキストサービス(正式リリース)

コンテキストサービスを使用して、ビジネスアプリケーションのデータの共有と消費を簡素化します。汎用モジュールとして機能するコンテキストサービスは、アプリケーションとプロシージャーの間にレイヤーを形成し、デジタルプロセスのすべてのステップで、さまざまな Industries Cloud 間でのデータの取得と利用を容易にします。コンテキスト定義を作成し、効率的なデータアクセスのための構造を構築します。定義に含まれるノードや属性を適切な入力データソースに対応付けます。組織間でコンテキスト定義をインポートおよびエクスポートします。Salesforce フローを使用して、呼び出し可能なアクションを通してコンテキストインスタンスを呼び出し、データを供給します。

データ処理エンジン

ノードキャンバスを使用して、ノードを設定し、ノードを視覚的に表現して、ノードが相互にどのように参照しているかを表示できます。失敗した書き戻しレコードを表示することで、定義とデータを改善する方法をより明確に知ることができます。定義で DataCloud ランタイムを使用して、大量のデータを処理します。

ディスカバリーフームワークの機能強化

ディスカバリーフームワーク OmniScript の Document Matrix 要素を使用して、ユーザーが調査を送信するときにアップロードする必要があるドキュメントを自動的に特定します。

エンゲージメント

変更されたエンゲージメントオブジェクトをさらに活用してください。

業種インテグレーションソリューション

複数の Industry Cloud インテグレーションに簡単にアクセスして有効化し、不要なインテグレーションインスタンスを削除します。以前有効化に失敗したインテグレーションを再度有効にします。MuleSoft Automation Services で構築したインテグレーションを表示します。

インテリジェントドキュメントリーダー

アドオンライセンスを使用して、複数の Industries クラウドに対応するインテリジェントドキュメントリーダーを取得します。インテリジェントドキュメントリーダーの設定方法については、動画「Set Up Intelligent Document Reader (インテリジェントドキュメントリーダーの設定)」をご覧ください。

Data Cloud セグメントのリストビルダー

Data Cloud セグメントからアクション可能リストを作成し、営業やサービス活動を合理化して、新たな成長のチャンスを創出します。

Service Process Studio

Service Process Studio で、より多くの操作を実行できるようになりました。取引の紛争テンプレートを使用して、取引の紛争を処理するためのサービスプロセス定義をすばやく作成します。ベースデータ属性の詳細を保存する標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトで関連する項目を選択します。

タイムライン

Data Cloud のエンゲージメントイベントが表示されるようにタイムラインを設定します。

アクション可能リストメンバー

[アクション可能リストメンバー] コンポーネントに表示されるメンバーを絞り込みます。新しい重要業績評価指標 (KPI) バーを使用して、アクション可能リストのエンゲージメント状況を一目で確認します。Service Cloud キューを通じて見込み客を営業担当やサービスエージェントに割り当てます。新しい見込み客をエージェントに自動的に割り当てるルールを設定します。

このセクションの内容:

[検索条件を使用した見込み客の簡単な絞り込みによる時間の節約](#)

リスト作成者はアクション可能リストメンバーコンポーネントの新しい絞り込み機能を使用することで、複数の検索条件を適用し、エージェントに割り当てる見込み客を簡単に特定できます。

[KPI バーを使用した見込み客に関する価値のあるインサイトの取得とスマートなビジネス上の意思決定](#)

リスト作成者は事前設定された KPI バーのアクション可能リストで見込み客のエンゲージメント状況を確認できるようになりました。リスト作成者が見込み客レコードに検索条件を適用すると、動的な KPI バーには更新された情報がすぐに表示されます。リスト作成者は KPI バーの情報を手動で更新することもできます。

[Service Cloud キューへの見込み客の割り当てによるエージェントの作業負荷の最適化](#)

リスト作成者は、見込み客を Service Cloud キューに割り当てる、エージェントへの見込み客の割り当てを簡略化できます。キューのルーティングロジックによって見込み客が最適なエージェントに割り当てるされることで、チームのコラボレーションが促進され、見込み客のエンゲージメントが向上します。

[アクション可能リストの新しい見込み客を自動的にエージェントに割り当てるによる効率の向上](#)

リスト作成者は見込み客の自動割り当て機能を使用して、新しい見込み客を自動的に割り当てるルールを設定できます。リスト作成者は前回の割り当てる割り当てる先種別を使用するか、別の割り当てる先種別を選択できます。

[アクション可能リストメンバーの変更されたオブジェクト](#)

変更されたオブジェクトを使用して、アクション可能リストの新しい見込み客を自動的にエージェントに割り当てる、Data Cloud セグメントから新しいアクション可能リストを作成したりします。

[Connect REST API](#)

アクション可能リストメンバー用 Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

検索条件を使用した見込み客の簡単な絞り込みによる時間の節約

リスト作成者はアクション可能リストメンバーコンポーネントの新しい絞り込み機能を使用することで、複数の検索条件を適用し、エージェントに割り当てる見込み客を簡単に特定できます。

対象: この変更は、アクション可能リストメンバーを使用できるクラウドの Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「アクション可能セグメンテーション」権限セットが必要です。

方法: アクション可能リストメンバーコンポーネントの ▾ をクリックし、[検索条件を追加] をクリックして絞り込みのための条件を指定します。

KPI バーを使用した見込み客に関する価値のあるインサイトの取得とスマートなビジネス上の意思決定

リスト作成者は事前設定された KPI バーのアクション可能リストで見込み客のエンゲージメント状況を確認できるようになりました。リスト作成者が見込み客レコードに検索条件を適用すると、動的な KPI バーには更新された情報がすぐに表示されます。リスト作成者は KPI バーの情報を手動で更新することもできます。

対象: この変更は、アクション可能リストメンバーを使用できるクラウドの Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「アクション可能セグメンテーション」権限セットが必要です。

Service Cloud キューへの見込み客の割り当てによるエージェントの作業負荷の最適化

リスト作成者は、見込み客を Service Cloud キューに割り当てて、エージェントへの見込み客の割り当てを簡略化できます。キューのルーティングロジックによって見込み客が最適なエージェントに割り当てられることで、チームのコラボレーションが促進され、見込み客のエンゲージメントが向上します。

対象: この変更は、アクション可能リストメンバーを使用できるクラウドの Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「アクション可能セグメンテーション」権限セットが必要です。

方法: [アクション可能リストメンバー] コンポーネントで、[リストを設定して割り当てる] をクリックし、キューを選択します。リストを設定してから、見込み客をキューに割り当てるすることもできます。その場合は、[アクション可能リストメンバー] コンポーネントで見込み客を選択し、[割り当てる先を変更] をクリックし、キューを選択します。

アクション可能リストの新しい見込み客を自動的にエージェントに割り当てるによる効率の向上

リスト作成者は見込み客の自動割り当て機能を使用して、新しい見込み客を自動的に割り当てるルールを設定できます。リスト作成者は前回の割り当てる割り当てる先種別を使用するか、別の割り当てる先種別を選択できます。

対象: この変更は、アクション可能リストメンバーを使用できるクラウドの Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「アクション可能セグメンテーション」権限セットが必要です。

方法: [アクション可能リストメンバー] コンポーネントで、[リストを設定して割り当てる] をクリックします。[Assign new records in the list automatically (リスト内の新しいレコードを自動的に割り当てる)] をオンにし、今後の見込み客割り当てるルールを指定します。

アクション可能リストメンバーの変更されたオブジェクト

変更されたオブジェクトを使用して、アクション可能リストの新しい見込み客を自動的にエージェントに割り当てるに、Data Cloud セグメントから新しいアクション可能リストを作成したりします。

新しいアクション可能リストメンバーの自動割り当てるルールが許可されるか (true)、否か (false) を示す

ActionableList オブジェクトで新しい IsAutoAssignmentAllowed 項目を使用します。

アクション可能リストの作成元であるセグメントを指定する

ActionableList オブジェクトで新しい SegmentIdentifier 項目を使用します。

セグメントの既存のレコードやセグメントに追加またはセグメントから削除されたレコードを追跡するセグメントメンバーシップ履歴テーブルに名前を付ける

ActionableList オブジェクトで新しい SegmentMembershipTable 項目を使用します。

アクション可能リストが更新されたか (true)、否か (false) を示す

ActionableList オブジェクトで新しい IsSynchronizationAllowed 項目を使用します。

アクション可能リストが Data Cloud セグメントと最後に同期された日時を記録する

ActionableList オブジェクトで新しい LastSynchronizationDateTime 項目を使用します。

アクション可能リストと Data Cloud セグメントの同期が開始された日時を記録する

ActionableList オブジェクトで新しい SyncStartTime 項目を使用します。

アクション可能リストが Data Cloud セグメントとの同期に失敗した回数を追跡する

ActionableList オブジェクトで新しい SynchronizationFailureCount 項目を使用します。

アクション可能リストのソース種別を指定する

ActionableList オブジェクトで新しい SourceType 項目を使用します。

アクション可能リストに関連する一括計算ジョブ定義を記録する

ActionableList オブジェクトで新しい BatchCalcJobDefinition 項目を使用します。

アクション可能リストが割り当てられているユーザーまたはキューを指定する

ActionableList オブジェクトで変更された Assignee 項目を使用します。

アクション可能リストの新しいメンバーが自動的に割り当てられる割り当て先の種別を指定する

ActionableList オブジェクトで新しい AutomaticAssigneeType 項目を使用します。

アクション可能リストの新しいメンバーが自動的に割り当てられる割り当て先を指定する

ActionableList オブジェクトで新しい AutomaticAssignee 項目を使用します。

アクション可能リストが設定されたか (true)、否か (false) を示す

ActionableList オブジェクトで新しい IsActionableListConfigured 項目を使用します。

アクション可能リストメンバーの割り当て状況を指定する

ActionableListMember オブジェクトで新しい AssignmentStatus 項目を使用します。

メンバーをアクション可能リストに割り当てるために使用される方法を指定する

ActionableListMember オブジェクトで新しい AssignmentMethod 項目を使用します。

アクション可能リストのソース種別を指定する

ActionableListDefinition オブジェクトで新しい SourceType 項目を使用します。

Connect REST API

アクション可能リストメンバー用 Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

このセクションの内容:

[新しい Connect REST API リソース](#)

次のアクション可能リストメンバーが新たに追加されました。

新しい Connect REST API リソース

次のアクション可能リストメンバーが新たに追加されました。

アクション可能リストのメンバー数を更新する

新しい `/connect/actionable-list-member-count` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Actionable List Update Member Count Input

新しいレスポンスボディ: Actionable List Update Member Count Output

Actionable Relationship Center

カスタマイズ可能でナビゲーションが容易なグラフでリレーションを可視化します。

このセクションの内容:

[Actionable Relationship Center グラフでのコンテキストデータの迅速な確認](#)

レコードに関する Actionable Relationship Center (ARC) グラフをカスタマイズします。グラフに表示されるオブジェクトを変更し、1つ以上のノードに検索条件を適用して、特定の条件に基づくレコードを表示します。たとえば、グラフにオープンケースと関連レコードのみを表示します。カスタムビューを保存して、後で簡単にアクセスできるようにします。

Actionable Relationship Center グラフでのコンテキストデータの迅速な確認

レコードに関する Actionable Relationship Center (ARC) グラフをカスタマイズします。グラフに表示されるオブジェクトを変更し、1つ以上のノードに検索条件を適用して、特定の条件に基づくレコードを表示します。たとえば、グラフにオープンケースと関連レコードのみを表示します。カスタムビューを保存して、後で簡単にアクセスできるようにします。

対象: この変更は、Actionable Relationship Center を使用できる Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Actionable Relationship Center \(ARC\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

アクション可能セグメンテーション

リスト作成者が列の設定をカスタマイズしたり、リストを更新したり、既存リストにオブジェクトを追加したりできるようにします。ガイド付き設定を利用して、アクション可能セグメンテーションを効率的に設定できるようになりました。

このセクションの内容:

表示列のカスタマイズによるリスト作成エクスペリエンスのパーソナライズ

リスト作成者は、リストビルダーでアクション可能リストを作成する際に、表示する列とそれらの表示順序を選択して列の設定をカスタマイズできるようになりました。列の設定は、リスト作成者と対応するリスト定義ごとに保存されます。リスト作成者がリストでカスタマイズした設定は、そのリスト作成者が作成し、同じリスト定義を使用する、すべてのリストに適用されます。これらの設定は、セッションを超えて保持されます。列設定をカスタマイズすることで、リスト作成者は関連性の高い情報を見やすく表示して、リスト作成エクスペリエンスを合理化できます。

更新済み実行可能リストへの最新の一致レコードの追加

リスト作成者は、既存の実行可能リストに最新のデータセットレコードを追加できるようになりました。ただし、追加する最新のデータセットレコードは、追加先の実行可能リストの検索条件と一致する必要があります。検索条件と一致するレコード数が200件を超える場合、レコードはリストに非同期に追加され、リストの更新後にユーザーに通知が送られます。このようにリストを更新できるため、リスト作成者はリストをデータソースと同期させることができます。

クリックアクションによるアクション可能リストへのメンバー追加の効率化

リスト作成者は、[アクション可能リストに追加] クリックアクションを使用して、取引先、取引先責任者、ケース、商談、リードのレコードを、既存のアクション可能リストに簡単に追加できるようになりました。このクリックアクションは、オブジェクトページやレコードページのリストビューから使用できます。この変更により、検索を繰り返して手動で統合する必要がなくなるため、リストの作成効率が向上します。

リストビルダーで集計項目を使用した拡張ビューの取得

アクション可能リスト定義を作成する際に、集計項目を使用して取得した項目を対応付けられるようになりました。リストビルダーで集計項目を表示することで、リスト作成者が包括的なアクション可能リストを作成できるようにします。集計項目により、リスト作成者は基礎となる情報をより包括的に表現できます。

ガイド付き設定を使用したアクション可能セグメンテーションの迅速な稼働

ガイド付き設定を使用して、アクション可能セグメンテーションを効率的に設定します。フローのステップに従って、権限の割り当て、機能の有効化、アクションリスト定義の作成と設定といった作業を完了します。他のアプリケーション内設定ページとコンテキストヘルプへのリンクにより、順調に進めることができます。

アクション可能セグメンテーションの動画

新しい動画は、アクション可能セグメンテーションの機能を理解するのに役立ちます。

新しいオブジェクト

次の新しいオブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

メタデータ API

次の変更されたメタデータ型を使用してより多くのメタデータにアクセスできます。

表示列のカスタマイズによるリスト作成エクスペリエンスのパーソナライズ

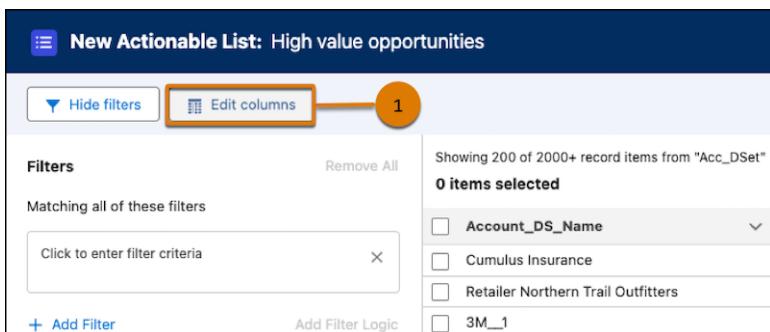
リスト作成者は、リストビルダーでアクション可能リストを作成する際に、表示する列とそれらの表示順序を選択して列の設定をカスタマイズできるようになりました。列の設定は、リスト作成者と対応するリスト定義ごとに保存されます。リスト作成者がリストでカスタマイズした設定は、そのリスト作成者が作成し、同じリスト定義を使用する、すべてのリストに適用されます。これらの設定は、セッションを超えて保持されます。列設定をカスタマイズすることで、リスト作成者は関連性の高い情報を見やすく表示して、リスト作成エクスペリエンスを合理化できます。

対象: この変更は、Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「Datapipelines ユーザーのクエリ」ライセンスがあるクラウドの Lightning Experience に提供されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに「アクション可能セグメンテーション」権限セットと「Datapipelines ユーザーのクエリ」権限セットが必要です。

理由: リスト定義を作成する際に、表示される列のデフォルトセットを選択できます。別のリスト作成者が別の実行可能リストを作成する際に、これらの列がビジネスニーズに合わない場合は列を調整できます。たとえば、ウェルスマネージャーが個人富裕層のアクション可能リストを作成する場合は、取引先名、年間収益、市区郡(請求先)、商談値などの列が必要です。一方、これらのウェルスマネージャーを監督するスーパーバイザーの場合は、取引先名、商談日数、キャンペーン IDなどの列が必要です。

方法: [アクション可能リストビルダー] ページで、[列を編集](1)を選択し、表示する列と列の表示順序を選択します。



更新済み実行可能リストへの最新の一一致レコードの追加

リスト作成者は、既存の実行可能リストに最新のデータセットレコードを追加できるようになりました。ただし、追加する最新のデータセットレコードは、追加先の実行可能リストの検索条件と一致する必要があります。検索条件と一致するレコード数が 200 件を超える場合、レコードはリストに非同期に追加され、リストの更新後にユーザーに通知が送られます。このようにリストを更新できるため、リスト作成者はリストをデータソースと同期させることができます。

対象: この変更は、Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「Datapipelines ユーザーのクエリ」ライセンスがあるクラウドの Lightning Experience に提供されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに「アクション可能セグメンテーション」権限セットと「Datapipelines ユーザーのクエリ」権限セットが必要です。

方法: リスト詳細ページのケイックアクションメニューで [Add Latest Records (最新のレコードを追加)] をクリックして、検索条件と一致するレコードを選択します。

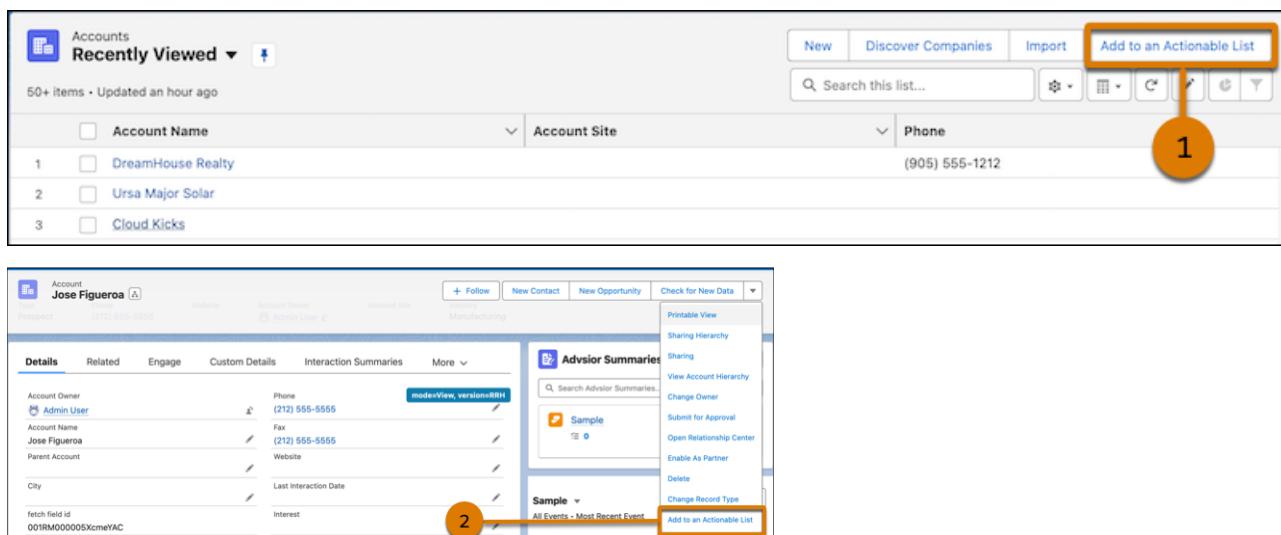
クリックアクションによるアクション可能リストへのメンバー追加の効率化

リスト作成者は、[アクション可能リストに追加] クリックアクションを使用して、取引先、取引先責任者、ケース、商談、リードのレコードを、既存のアクション可能リストに簡単に追加できるようになりました。このクリックアクションは、オブジェクトページやレコードページのリストビューから使用できます。この変更により、検索を繰り返して手動で統合する必要がなくなるため、リストの作成効率が向上します。

対象: この変更は、Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「Datapipelines ユーザーのクエリ」ライセンスがあるクラウドの Lightning Experience に提供されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに「アクション可能セグメンテーション」権限セットと「Datapipelines ユーザーのクエリ」権限セットが必要です。

方法: オブジェクトページのリストビューで1つ以上のレコードを選択して、[アクション可能リストに追加](1) をクリックします。あるいは、レコードページに移動して、アクションメニューで[アクション可能リストに追加](2) をクリックします。レコードを追加するリストを選択して、リストを保存します。



リストビルダーで集計項目を使用した拡張ビューの取得

アクション可能リスト定義を作成する際に、集計項目を使用して取得した項目を対応付けられるようになりました。リストビルダーで集計項目を表示することで、リスト作成者が包括的なアクション可能リストを作成できるようになります。集計項目により、リスト作成者は基礎となる情報をより包括的に表現できます。

対象: この変更は、Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「Datapipelines ユーザーのクエリ」ライセンスがあるクラウドの Lightning Experience に提供されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに「アクション可能セグメンテーション」権限セットと「Datapipelines ユーザーのクエリ」権限セットが必要です。

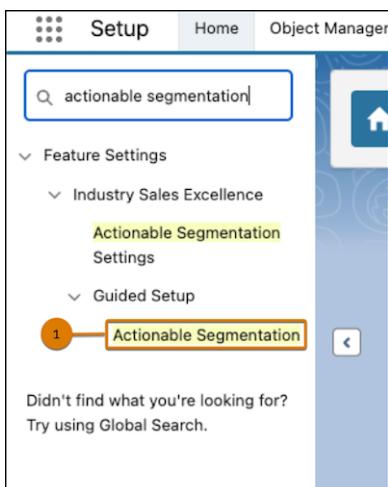
方法: データ処理エンジンを使用してリスト定義を作成する際に、[グループと集計]種別のノードを作成して、書き戻しノードを定義するときにこのノードを参照するように設定します。

ガイド付き設定を使用したアクション可能セグメンテーションの迅速な稼働

ガイド付き設定を使用して、アクション可能セグメンテーションを効率的に設定します。フローのステップに従って、権限の割り当て、機能の有効化、アクションリスト定義の作成と設定といった作業を完了します。他のアプリケーション内設定ページとコンテキストヘルプへのリンクにより、順調に進めることができます。

対象: この変更は、Industry Sales Excellence アドオンライセンスと「Datapipelines ユーザーのクエリ」ライセンスがあるクラウドの Lightning Experience に提供されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「アクション可能セグメンテーション」と入力し、ガイド付き設定で [アクション可能セグメンテーション](1) を選択します。



アクション可能セグメンテーションの動画

新しい動画は、アクション可能セグメンテーションの機能を理解するのに役立ちます。

- 「Overview of Actionable Segmentation (アクション可能セグメンテーションの概要)」では、アクション可能セグメンテーション機能のエンドツーエンドのワークフローについて説明しています。この機能により、類似するクライアントプロファイルをセグメント化して選定し、タイミングの良いパーソナライズされたクライアントアウトリーチプログラムを設計できます。

新しいオブジェクト

次の新しいオブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

アクション可能リストデータセット列のユーザー設定を保存する

新しい `ActionableListDtastClnmUsr` オブジェクトを使用します。

アクション可能リストに関連付けられたデータセットにデータを含めたり除外したりするための検索条件を含む論理式を保存する

新しい `ActionableListFilterCriteria` オブジェクトを使用します。

アクション可能リストに関連付けられたデータセットにデータを含めたり除外したりするための検索条件を保存する

新しい `ActionableListFilterCondition` オブジェクトを使用します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ActionableListFilterCondition \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: ActionableListFilterCriteria \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: ActionableListDtastClmnUsr \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

メタデータ API

次の変更されたメタデータ型を使用してより多くのメタデータにアクセスできます。

データセット列がアクション可能リスト定義で定義されたオブジェクトによってグループ化されているかどうかを決定する

`ActionableListDatasetColumn` メタデータ型で新しい `IsGroupedByListDefObj` 項目を使用します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ActionableListDatasetColumn \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

一括管理

将来や過去の日数に基づいて一括処理ジョブレコードを絞り込みます。検索条件で [次に含まれる] および [次に含まれない] 演算子値の値を使用して一括処理ジョブレコードの結果をさらに絞り込みます。

このセクションの内容:

[\[次に含まれる\] および \[次に含まれない\] 演算子を使用した一括処理ジョブレコードの絞り込み](#)

検索条件で [次に含まれる] および [次に含まれない] 演算子値の値を使用して一括処理ジョブレコードの結果をさらに絞り込みます。[次に含まれる] 演算子を使用すると、指定した項目で選択された値のいずれかを含むすべての行がレコードに含まれます。[次に含まれない] 演算子を使用すると、指定した項目で選択された値のいずれかを含むすべての行が無視されます。

[日付リテラルによる一括ジョブレコードの絞り込み](#)

将来や過去の日数に基づいて一括処理ジョブレコードを絞り込みます。条件の入力変数として日付リテラルの `NEXT_N_DAYS:n` や `N_DAYS_AGO:n` を使用できるようになりました。値には 7、30、60、90、120 を指定できます。標準の日付検索条件の場合、`NEXT_N_DAYS:` は、レポートの実行日の午前 0 時 00 分 00 秒から、選択された `n` 日後までのレコードを返します。カスタム項目検索条件の場合は、翌日の午前 0 時 00 分 00 秒からのレコードが返されます。`N_DAYS_AGO` は、`n` 日前の午前 0 時 00 分 00 秒から 24 時間分のレコードを返します。

[次に含まれる] および [次に含まれない] 演算子を使用した一括処理ジョブレコードの絞り込み

検索条件で [次に含まれる] および [次に含まれない] 演算子値の値を使用して一括処理ジョブレコードの結果をさらに絞り込みます。[次に含まれる] 演算子を使用すると、指定した項目で選択された値のいずれかを含むすべての行がレコードに含まれます。[次に含まれない] 演算子を使用すると、指定した項目で選択された値のいずれかを含むすべての行が無視されます。

対象: この変更は、リベート管理、Manufacturing Cloud、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 一括処理ジョブに条件を追加するときに、リソース種別が選択リストから取得されている場合、[演算子] 項目で [次に含まれる] および [次に含まれない] の値を選択できます。

日付リテラルによる一括ジョブレコードの絞り込み

将来や過去の日数に基づいて一括処理ジョブレコードを絞り込みます。条件の入力変数として日付リテラルの NEXT_N_DAYS:n や N_DAYSAGO:n を使用できるようになりました。値には 7、30、60、90、120 を指定できます。標準の日付検索条件の場合、NEXT_N_DAYS: は、レポートの実行日の午前 0 時 00 分 00 秒から、選択された n 日後までのレコードを返します。カスタム項目検索条件の場合は、翌日の午前 0 時 00 分 00 秒からのレコードが返されます。N_DAYSAGO は、n 日前の午前 0 時 00 分 00 秒から 24 時間分のレコードを返します。

対象: この変更は、リベート管理、Manufacturing Cloud、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

ビジネスルールエンジン

式セットのリスト変数としてコンテキスト定義タグを使用します。式セットでリスト検索条件とリストグループを使用することによって、簡単にリストを絞り込み、リスト変数に対して算術演算を実行します。複数のオブジェクトを使用して決定表を作成します。Decision Explainer の式セットの機能強化によって、カスタマイズ可能な説明可能性メッセージテンプレートを作成し、ユーザーに動的な決定の説明を表示します。

このセクションの内容:

式セットでのコンテキスト定義の属性のリスト変数としての使用

式セットバージョンでコンテキスト定義のタグをリスト変数として使用することで、より柔軟に式セットを作成および管理できます。コンテキスト定義はネストされた構造であり、ビジネスプロセスを実行するために必要な情報が含まれます。この定義は、データを読み込むために sObject 対応付けられるノードとその属性の階層関係を表します。ノードと属性には対応するタグがあります。属性タグは、式セットビルダーではリスト変数として表示され、式セットバージョンではリソースのように使用できます。

リストグループと検索条件を使用したリスト変数の操作の簡易化

式セットビルダーで、ステップ要素としてリストグループとリスト検索条件がサポートされるようになりました。リスト内の項目を反復処理するには、リストグループを使用します。リストグループでは、リスト検索条件、計算、ルックアップテーブルの各要素がサポートされます。複雑なリスト入力を条件付きで絞り込むには、リスト検索条件を使用します。次に、リストグループ内の後続のステップとして計算要素を使用することで、絞り込まれたリストに対して算術演算を実行できます。また、グループ内のルックアップテーブル要素を使用して、選択したルックアップテーブル内の値を検索し、入力値に対応する出力を取得することもできます。

リスト関数を使用した複雑な計算の簡単な設定

式セットの新しいリスト関数を使用すると、リスト内のすべての項目のデータを一度に操作して変換できます。LISTSUM、LISTAVG、LISTSIZE関数を式セットバージョンの計算ステップとリストグループステップで使用できるようになりました。LISTSUM関数は、リスト変数内にあるすべての値の合計を計算します。LISTAVG関数は、リスト変数内にあるすべての項目の平均値を計算します。LISTSIZE関数は、リスト変数内にある値の数を数えます。リスト関数を使用すると、リスト変数をシンプルかつ効率的に操作できるようになりました。

ルックアップテーブルへの入力の一括指定

コンテキスト定義を参照する式セットのバージョンで、選択したルックアップテーブルの変数をバージョン内のリスト変数に対応付けることができるようになりました。ルックアップテーブルの入力変数からリスト変数への対応付けのサポートにより、リストの複数の項目を簡単に検索でき、対応する出力値をテーブルから取得できます。以前は、ルックアップテーブルでは一度に1つの入力セットしか処理できませんでした。その入力セットをルックアップテーブルの行と一致させることで、一致した行の対応する出力値が返されました。

式セットの Decision Explainer の機能強化

Decision Explainer の機能強化により、説明可能性メッセージテンプレートでトークンを使用して、決定の説明をカスタマイズできます。式セットバージョンのステップでテンプレートを参照する際に、式セットバージョンのリソースにトークンを対応付けます。このバージョンを実行またはシミュレーションすると、対応付けられたリソースに対応する値がメッセージに動的に表示されます。

4倍に増加した組織あたりの有効な決定表の数

Salesforce 組織で一度に設定できる有効な決定表の数が最大 40 個になりました。有効な決定表の数が増えたことで、すぐに必要でない表を無効にすることなく、重要なビジネス要件とそれほど時間的制約のないビジネス要件の両方に焦点を当てた決定表を柔軟に利用できるようになりました。

複数のオブジェクトをデータソースとして使用する決定表の作成

複数のオブジェクトの項目を使用して、より広範なビジネスコンテキストを提供する多様で相互に接続された属性を使用して決定表を強化します。決定表を作成するときに、決定表に含めるソースオブジェクトおよび最大 4 個の関連オブジェクトとその項目を選択できるようになりました。複数のオブジェクトのサポートにより、広範囲にわたるデータを使用して決定表を定義できます。これまで、1つのソースオブジェクトを使用する決定表を複数作成する必要がありました。

行数が 10 倍に増えた決定表の作成

2つの入力項目でテーブル行をグループ化して小規模のグループを作成できるようになりました。以前は、単一の入力項目で行をグループ化して、累計 100000 行までに制限されていました。2つの入力項目でグループ化することで、グループ化項目の値の一意の組み合わせごとに個別のグループが作成されます。このグループ化により、決定表の合計行数が 100 万行に増えます。この機能強化によって、より多くの行データを持つテーブルがサポートされ、より柔軟にテーブルを作成できるようになります。

決定表を分類して簡単に管理

決定表を作成するときに、テーブルに割り当てる利用状況種別を選択できるようになりました。この機能強化により、式セットバージョンのルックアップテーブルステップで決定表を効率的に簡単に選択できます。ルックアップテーブルステップの検索オプションでは、式セットの利用状況種別を共有するテーブルと、利用状況種別が割り当てられていないテーブルのみが表示されます。決定表を利用状況種別で分類すると、無関係なテーブルを検索する必要がなくなり、必要なテーブルをすばやく簡単に見つけることができます。

検索設定の選択による決定表結果の容易な絞り込み

決定表ルックアップで一致する複数の結果が返される場合に、結果の絞込み方法を選択できるようになりました。決定表を作成するときに、[最初の一一致]、[任意の値]、または [出力順序] のいずれかの絞り込みオプションを選択します。これらの絞り込みオプションにより、決定表ルックアップで複数の結果が一致した場合でも、結果を効果的に処理して正確な結果を返すことができます。決定表を式セットバージョンで使用する場合は、複数の結果が返されても 1 つの結果しか読み取られません。そのため、式セットバージョンから決定表を呼び出すことを計画している場合は、[任意の値] または [最初の一一致] のどちらかの絞り込みオプションを使用してください。以前は、式セットでは決定表ルックアップから返された最初の結果しか読み取ることができませんでした。

追加のデータ型と関数を使用した式セットの作成

式セットのバージョンは、以前の日付データ型の制限を超えて、日付&時間データ型のリソースもサポートされるように拡張されました。この機能強化により、式セットバージョンで日付&時間値を入力として使用できるようになります。また、式セットバージョンでは、DateValue、ABS、LOG、LN の各関数もサポートされます。DateValue 関数を使用することで、日付/時間値から日付だけを抽出できます。この関数により、日付&時間値を日付値に変換して、日付リソースにのみ適用されるその他の関数を使用できます。

式セットバージョンで使用する決定表でのデータ型の追加

決定表を参照する式セットを設計するときに、決定表でサポートされる選択リスト(複数)以外のすべてのデータ型の列を含む決定表を使用できるようになりました。以前は、式セットではテキストまたは文字列、数値、通貨、パーセント、日付データ型の列を含むルックアップテーブルのみがサポートされていました。追加のデータ型を使用した決定表を含めることで、式セットバージョンによってより幅広いビジネスシナリオに対応できます。メールアドレスや URL に関する情報を取得する場合でも、選択リストオプションから選択する場合でも、この強化された機能によって、ビジネスの具体的なニーズに合わせて式セットを使用できるようになります。

入力列を増やした決定表の作成

入力列を 30 列まで増やして決定表を作成できるようになりました。以前の入力列の上限は 10 列でした。入力列の増加は、ルックアップの列構造を最適化することで実現されています。ルックアップを簡素化してスペースを節約できるように、「入力に必須の列である」、「[次の文字列を含む] 演算子を使用している」、そして「AND ロジックで結合されている」の条件を満たす最大 21 列までが単独の列と見なされます。この機能強化によって、複雑で繊細な条件を定義するための柔軟性が高まり、より包括的な決定表を作成することができるようになります。

決定マトリックスビルダーから DMN ファイルへの決定マトリックスバージョンのエクスポート

Decision Model Notation (DMN) はビジネスルールを記述するための標準化された仕様です。DMN ファイルを使用すると、ビジネスルールエンジンで作成したマトリックスバージョンを、DMN ファイルをサポートする任意のツールで再利用できます。以前は、Connect REST API を使用して決定マトリックスバージョンを DMN ファイルにエクスポートすることしかできませんでした。

式セットリソースへのロックアップテーブル変数の簡単な対応付け

式セットバージョンにロックアップテーブルを追加した後に、複数のテーブル変数を複数の式セットバージョンリソースに同時に対応付けることができるようになりました。また、複数のロックアップテーブル変数に複数のリテラル値を割り当てることもできます。以前は、ロックアップテーブルに複数の値を渡すには、各バージョンリソースを個別に対応付けるために複数の計算ステップを作成する必要がありました。対応付けのサポートにより、リソースの対応付けのために計算ステップを作成する必要がなくなりました。この機能強化により、バージョンのステップ数を減らすことができ、式セットのバージョン管理が容易になりました。

ビジネスルールエンジンのその他の変更

式セッタリストから式セットを選択すると、[詳細] タブに式セットの詳細とバージョンが表示されるようになりました。以前は、[バージョン] タブに切り替えて、式セットのバージョンを確認していました。[バージョン] タブが [詳細] タブに統合されました。バージョンを選択すると、式セットビルダーに直接開きます。以前は、バージョンを選択してから、バージョンのヘッダーにある[式セットビルダーで開く]をクリックしていました。バージョンのプロパティが、式セットビルダーでのみ編集できるようになりました。バージョンを作成する場合は、ビルダーでバージョンを開き、別のバージョンとして保存します。

新規および変更されたビジネスルールエンジンオブジェクト

ビジネスルールエンジンの新しいオブジェクトと変更されたオブジェクトにより、より多くの操作を実行できます。

新規および変更されたビジネスルールエンジン Tooling API オブジェクト

ビジネスルールエンジンの新しい Tooling API オブジェクトと変更された Tooling API オブジェクトにより、より多くの操作を実行できます。

新規および変更されたビジネスルールエンジンのメタデータ型

ビジネスルールエンジンの新規および変更されたメタデータ型を最大限に活用します。

Connect REST API

ビジネスルールエンジン用 Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

式セットでのコンテキスト定義の属性のリスト変数としての使用

式セットバージョンでコンテキスト定義のタグをリスト変数として使用することで、より柔軟に式セットを作成および管理できます。コンテキスト定義はネストされた構造であり、ビジネスプロセスを実行するために必要な情報が含まれます。この定義は、データを読み込むために sObject に対応付けられるノードとその属性の階層関係を表します。ノードと属性には対応するタグがあります。属性タグは、式セットビルダーではリスト変数として表示され、式セットバージョンではリソースのように使用できます。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンとコンテキストサービスが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「システム管理者」権限を持つユーザーは、コンテキスト定義を作成できます。「高度なルールエンジンデザイナー」権限を持つユーザーは、式セットの作成中にコンテキスト定義を式セットに関連付けて、定義のタグを敷きセットのバージョンでリスト変数として使用できます。

方法: 式セットを作成し、自分の Salesforce 組織で使用できるコンテキスト定義のいずれかを選択します。式セットビルダーで式のバージョンを開いて、タグを確認してバージョンのステップでリスト変数として使用します。

リストグループと検索条件を使用したリスト変数の操作の簡易化

式セットビルダーで、ステップ要素としてリストグループとリスト検索条件がサポートされるようになりました。リスト内の項目を反復処理するには、リストグループを使用します。リストグループでは、リスト検索条件、計算、ルックアップテーブルの各要素がサポートされます。複雑なリスト入力を条件付きで絞り込むには、リスト検索条件を使用します。次に、リストグループ内の後続のステップとして計算要素を使用することで、絞り込まれたリストに対して算術演算を実行できます。また、グループ内のルックアップテーブル要素を使用して、選択したルックアップテーブル内の値を検索し、入力値に対応する出力を取得することもできます。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンとコンテキストサービスが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「システム管理者」権限を持つユーザーは、コンテキスト定義を作成できます。「高度なルールエンジンデザイナー権限」を持つユーザーは、式セットバージョンのリスト変数としてコンテキストタグを使用できます。

方法: 式セットビルダーで式セットバージョンを開きます。ビルダーのキャンバスにリストグループ要素を追加します。デフォルトでは、リスト検索条件がリストグループ内の最初の要素になっています。リスト変数を使用して、リスト検索条件の検索条件を定義します。リストグループ内の後続ステップとして計算要素またはルックアップテーブル要素を追加し、リストグループ内のリストに対してさらに操作を実行します。

リスト関数を使用した複雑な計算の簡単な設定

式セットの新しいリスト関数を使用すると、リスト内のすべての項目のデータを一度に操作して変換できます。LISTSUM、LISTAVG、LISTSIZE 関数を式セットバージョンの計算ステップとリストグループステップで使用できるようになりました。LISTSUM 関数は、リスト変数内にあるすべての値の合計を計算します。LISTAVG 関数は、リスト変数内にあるすべての項目の平均値を計算します。LISTSIZE 関数は、リスト変数内にある値の数を数えます。リスト関数を使用すると、リスト変数をシンプルかつ効率的に操作できるようになります。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンとコンテキストサービスが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 高度なルールエンジンデザイナー権限セットを持つユーザーは、コンテキスト定義に関連付けられている式セットのリスト関数を使用できます。

ルックアップテーブルへの入力の一括指定

コンテキスト定義を参照する式セットのバージョンで、選択したルックアップテーブルの変数をバージョン内のリスト変数に対応付けることができるようになりました。ルックアップテーブルの入力変数からリスト変数への対応付けのサポートにより、リストの複数の項目を簡単に検索でき、対応する出力値をテーブルから取得できます。以前は、ルックアップテーブルでは一度に1つの入力セットしか処理できませんでした。その入力セットをルックアップテーブルの行と一致させることで、一致した行の対応する出力値が返されました。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンとコンテキストサービスが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 「高度なルールエンジンデザイナー」権限セットがあるユーザーは、ルックアップテーブルの変数をリスト変数に対応付けることができます。

式セットの Decision Explainer の機能強化

Decision Explainer の機能強化により、説明可能性メッセージテンプレートでトークンを使用して、決定の説明をカスタマイズできます。式セットバージョンのステップでテンプレートを参照する際に、式セットバージョンのリソースにトークンを対応付けます。このバージョンを実行またはシミュレーションすると、対応付けられたリソースに対応する値がメッセージに動的に表示されます。

このセクションの内容:

説明可能性メッセージテンプレートでの式セットリソースプレースホルダーの追加

トークンを使用して、説明可能性メッセージテンプレートをルールエンジンデザイナーのユーザーがカスタマイズできるようになりました。トークンは、式セットバージョンのリソースのプレースホルダーです。[設定] からトークンを作成し、説明可能性メッセージテンプレートで使用することで、汎用の説明を作成できます。ルールエンジンデザイナーのユーザーは、テンプレートを使用する式セットバージョンのリソースにトークンを対応付けることでメッセージをカスタマイズできます。トークンを使用することで、式セットの異なるバージョンで、同じテンプレートに異なるカスタマイズを加えることができます。

式セットバージョンのステップにおける決定の説明の動的表示

式セットバージョンのステップで説明可能性メッセージテンプレートを選択する際に、メッセージトークンをバージョンのリソースに対応付けることで、メッセージをカスタマイズできるようになりました。式セットを実行すると、その実行で対応付けられているリソースの値がメッセージに入力されます。この機能により、式セットのステップでコンテキスト型のパーソナライズされた説明を表示できます。

式セットの検索ステップが結果を返さなかった場合の説明の表示

式セットのバージョンの検索ステップで一致する結果が見つからなかった場合のシナリオに対して、説明可能性メッセージテンプレートを作成できるようになりました。以前は、検索ステップが結果を返したシナリオ(合格)とステップで実行エラーが発生したシナリオ(不合格)に対してのみテンプレートを作成できました。この機能強化により、式セットのバージョンで、さらに幅広いシナリオに対して決定の説明を作成できます。

式セットの複数の実行の比較と分析

決定の説明表示が有効化されている式セットのアクションログを取得すると、Decision Explainer ログ履歴には、同じ式セットを複数回実行した結果を比較するオプションが追加されました。この機能により、同じ式セットが実行ごとに異なる結果を返した理由を分析できます。

説明可能性メッセージテンプレートでの式セットリソースプレースホルダーの追加

トークンを使用して、説明可能性メッセージテンプレートをルールエンジンデザイナーのユーザーがカスタマイズできるようになりました。トークンは、式セットバージョンのリソースのプレースホルダーです。[設定]からトークンを作成し、説明可能性メッセージテンプレートで使用することで、汎用の説明を作成できます。ルールエンジンデザイナーのユーザーは、テンプレートを使用する式セットバージョンのリソースにトークンを対応付けることでメッセージをカスタマイズできます。トークンを使用することで、式セットの異なるバージョンで、同じテンプレートに異なるカスタマイズを加えることができます。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンと Decision Explainer が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: トークンを作成して、説明可能性メッセージテンプレートで使用します。

- [設定] から、[式セットメッセージトークン] を検索して選択します。
- 必要なトークンを作成します。
- [設定] から、[説明可能性メッセージテンプレート] を検索して選択します。
- テンプレートを作成し、トークンを {} で囲んでテンプレートメッセージに追加します。



この例では、Resource1 と Resource2 がトークンです。式セットバージョンのステップでテンプレートが参照されると、トークンがバージョンのリソースに対応付けられます。

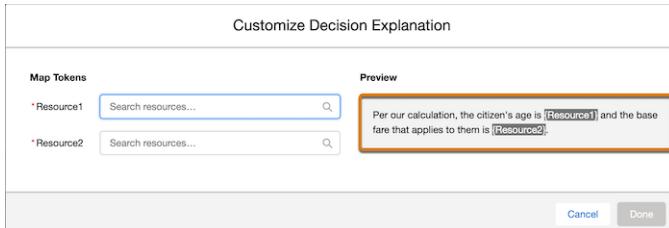
式セットバージョンのステップにおける決定の説明の動的表示

式セットバージョンのステップで説明可能性メッセージテンプレートを選択する際に、メッセージトークンをバージョンのリソースに対応付けることで、メッセージをカスタマイズできるようになりました。式セットを実行すると、その実行で対応付けられているリソースの値がメッセージに入力されます。この機能により、式セットのステップでコンテキスト型のパーソナライズされた説明を表示できます。

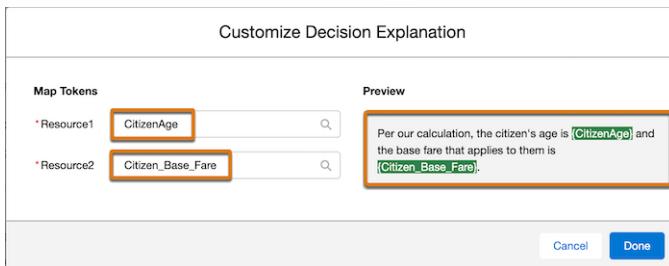
対象: この変更は、ビジネスルールエンジンと Decision Explainer が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: ルールエンジンデザイナー権限セットがあるユーザーは、式セットバージョンのステップで参照される説明可能性テンプレートのメッセージをカスタマイズできます。

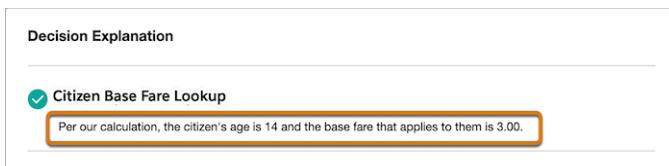
方法: 式セットビルダーで、説明可能性メッセージテンプレートをバージョンのステップに割り当てます。その後、テンプレートの * をクリックして、メッセージで使用するトークンを式セットバージョンのリソースに対応付けます。



ここでは、バージョンのステップで参照されている説明可能性メッセージテンプレートのメッセージで、Resource1 と Resource2 のトークンを使用しています。これらのトークンは、バージョンリソースの CitizenAge と Citizen_Base_Fare に対応付けられています。



式セットバージョンを必要な入力でシミュレーションまたは実行すると、ステップの決定の説明が次のように表示されます。



式セットの検索ステップが結果を返さなかった場合の説明の表示

式セットのバージョンの検索ステップで一致する結果が見つからなかった場合のシナリオに対して、説明可能性メッセージテンプレートを作成できるようになりました。以前は、検索ステップが結果を返したシナリオ(合格)とステップで実行エラーが発生したシナリオ(不合格)に対してのみテンプレートを作成できました。この機能強化により、式セットのバージョンで、さらに幅広いシナリオに対して決定の説明を作成できます。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンと Decision Explainer が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[説明可能性メッセージテンプレート] を検索して選択します。テンプレートを作成します。[式セットステップ種別] で、[決定表ルックアップ] を選択します。[結果種別] で、[結果なし] を選択します。

式セットの複数の実行の比較と分析

決定の説明表示が有効化されている式セットのアクションログを取得すると、Decision Explainer ログ履歴には、同じ式セットを複数回実行した結果を比較するオプションが追加されました。この機能により、同じ式セットが実行ごとに異なる結果を返した理由を分析できます。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンと Decision Explainer が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

4 倍に増加した組織あたりの有効な決定表の数

Salesforce 組織で一度に設定できる有効な決定表の数が最大 40 個になりました。有効な決定表の数が増えたことで、すぐに必要でない表を無効にすることなく、重要なビジネス要件とそれほど時間的制約のないビジネス要件の両方に焦点を当てた決定表を柔軟に利用できるようになりました。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ビジネスで同時に有効な決定表を 11 個以上設定する必要がある場合は、Salesforce カスタマーサポートに連絡して、有効な表の上限を 40 個に増やしてください。

複数のオブジェクトをデータソースとして使用する決定表の作成

複数のオブジェクトの項目を使用して、より広範なビジネスコンテキストを提供する多様で相互に接続された属性を使用して決定表を強化します。決定表を作成するときに、決定表に含めるソースオブジェクトおよび最大 4 個の関連オブジェクトとその項目を選択できるようになりました。複数のオブジェクトのサポートにより、広範囲にわたるデータを使用して決定表を定義できます。これまででは、1 つのソースオブジェクトを使用する決定表を複数作成する必要がありました。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ビジネスルールエンジンのアプリケーションで、[ルックアップテーブル]を選択します。[新規]をクリックして [決定表] を選択します。ソースオブジェクト 1 つと、最大 4 個の関連オブジェクトを選択します。選択した関連オブジェクトで、決定表で使用する項目を選択します。ソースオブジェクトの項目はすべて、決定表でデフォルトで使用できます。

行数が 10 倍に増えた決定表の作成

2 つの入力項目でテーブル行をグループ化して小規模のグループを作成できるようになりました。以前は、単一の入力項目で行をグループ化して、累計 100000 行までに制限されていました。2 つの入力項目でグループ化することで、グループ化項目の値の一意の組み合わせごとに個別のグループが作成されます。このグループ化により、決定表の合計行数が 100 万行に増えます。この機能強化によって、より多くの行データを持つテーブルがサポートされ、より柔軟にテーブルを作成できるようになります。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

決定表を分類して簡単に管理

決定表を作成するときに、テーブルに割り当てる利用状況種別を選択できるようになりました。この機能強化により、式セットバージョンのルックアップテーブルステップで決定表を効率的に簡単に選択できます。ルックアップテーブルステップの検索オプションでは、式セットの利用状況種別を共有するテーブルと、利用状況種別が割り当てられていないテーブルのみが表示されます。決定表を利用状況種別で分類すると、無関係なテーブルを検索する必要がなくなり、必要なテーブルをすばやく簡単に見つけることができます。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

検索設定の選択による決定表結果の容易な絞り込み

決定表ルックアップで一致する複数の結果が返される場合に、結果の絞込み方法を選択できるようになりました。決定表を作成するときに、[最初の一一致]、[任意の値]、または[出力順序]のいずれかの絞り込みオプションを選択します。これらの絞り込みオプションにより、決定表ルックアップで複数の結果が一致した場合でも、結果を効果的に処理して正確な結果を返すことができます。決定表を式セットバージョンで使用する場合は、複数の結果が返されても1つの結果しか読み取られません。そのため、式セットバージョンから決定表を呼び出すことを計画している場合は、[任意の値]または[最初の一一致]のどちらかの絞り込みオプションを使用してください。以前は、式セットでは決定表ルックアップから返された最初の結果しか読み取ることができませんでした。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

追加のデータ型と関数を使用した式セットの作成

式セットのバージョンは、以前の日付データ型の制限を超えて、日付&時間データ型のリソースもサポートされるように拡張されました。この機能強化により、式セットバージョンで日付&時間値を入力として使用できるようになります。また、式セットバージョンでは、DateValue、ABS、LOG、LNの各関数もサポートされます。DateValue関数を使用することで、日付/時間値から日付だけを抽出できます。この関数により、日付&時間値を日付値に変換して、日付リソースにのみ適用される他の関数を使用できます。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

式セットバージョンで使用する決定表でのデータ型の追加

決定表を参照する式セットを設計するときに、決定表でサポートされる選択リスト(複数)以外のすべてのデータ型の列を含む決定表を使用できるようになりました。以前は、式セットではテキストまたは文字列、数値、通貨、パーセント、日付データ型の列を含むルックアップテーブルのみがサポートされていました。追加のデータ型を使用した決定表を含めることで、式セットバージョンによってより幅広いビジネスシナリオに対応できます。メールアドレスやURLに関する情報を取得する場合でも、選択リストオプションから選択する場合でも、この強化された機能によって、ビジネスの具体的なニーズに合わせて式セットを使用できるようになります。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

入力列を増やした決定表の作成

入力列を30列まで増やして決定表を作成できるようになりました。以前の入力列の上限は10列でした。入力列の増加は、ルックアップの列構造を最適化することで実現されています。ルックアップを簡素化してスペースを節約できるように、「入力に必須の列である」、「[次の文字列を含む]演算子を使用している」、そして「AND ロジックで結合されている」の条件を満たす最大21列までが単独の列と見なされます。この機能強化によって、複雑で繊細な条件を定義するための柔軟性が高まり、より包括的な決定表を作成することができるようになります。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由:たとえば、入力に必須の入力列が7列あって、[次の文字列を含む]演算子を使用しているテーブルがあるとします。そして、これらの入力列は、(1 AND 2 AND 3 AND 4) OR (5 AND 6 AND 7)のような条件付きロジックで結合されています。この場合、テーブルの入力列数は2列であると見なされます。

決定マトリックスビルダーから DMN ファイルへの決定マトリックスバージョンのエクスポート

Decision Model Notation (DMN) はビジネスルールを記述するための標準化された仕様です。DMN ファイルを使用すると、ビジネスルールエンジンで作成したマトリックスバージョンを、DMN ファイルをサポートする任意のツールで再利用できます。以前は、Connect REST API を使用して決定マトリックスバージョンを DMN ファイルにエクスポートすることしかできませんでした。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ビジネスルールエンジンアプリケーションから、[ルックアップテーブル] を選択します。決定マトリックスを選択します。マトリックスの [関連] タブからバージョンを選択します。[DMN ファイルにエクスポート] をクリックします。

Input Data	Output Data
Age (Number Range)	BaseFare (Currency)
1 18	\$3
2 25	\$4
3 40	\$7
4 55	\$5
5 65	\$3

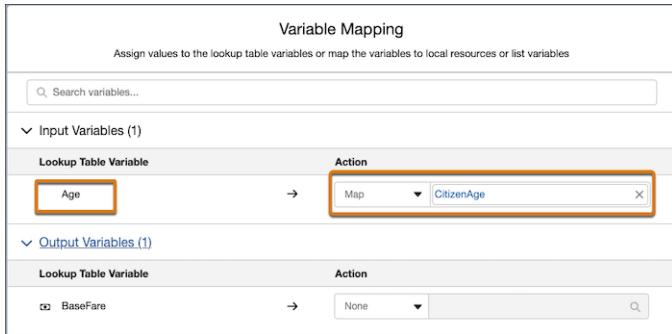
エクスポートが完了すると、エクスポートされたファイルがマトリックスバージョンの [関連] タブから使用できるようになります。

式セットリソースへのルックアップテーブル変数の簡単な対応付け

式セットバージョンにルックアップテーブルを追加した後に、複数のテーブル変数を複数の式セットバージョンリソースに同時に対応付けることができるようになりました。また、複数のルックアップテーブル変数に複数のリテラル値を割り当てることもできます。以前は、ルックアップテーブルに複数の値を渡すには、各バージョンリソースを個別に対応付けるために複数の計算ステップを作成する必要がありました。対応付けのサポートにより、リソースの対応付けのために計算ステップを作成する必要がなくなりました。この機能強化により、バージョンのステップ数を減らすことができ、式セットのバージョン管理が容易になりました。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 式セットビルダーで式セットバージョンを開きます。リソースの対応付けを実装するルックアップテーブルのステップを選択し、[Map Variables (変数の対応付け)] をクリックします。



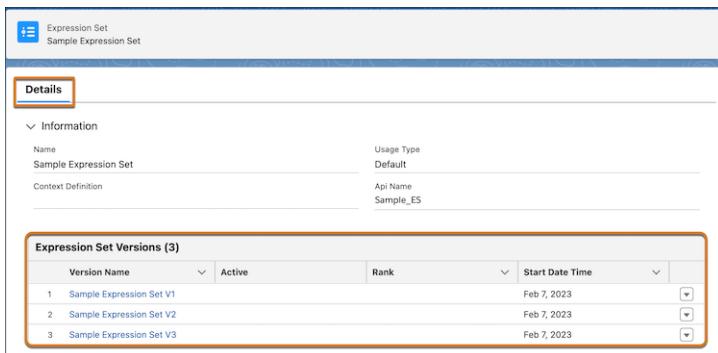
この例では、誕生日を基に市民の年齢を取得する計算ステップが式セットバージョンにあります。市民の年齢は、ローカル変数の CitizenAge に保存されます。バージョンの次のステップは、入力変数 Age と出力変数 BaseFare を持つルックアップテーブルです。計算ステップの出力からルックアップテーブルに市民の年齢を渡すために、変数 CitizenAge がルックアップテーブルの変数 Age に対応付けられています。

ビジネスルールエンジンのその他の変更

式セットリストから式セットを選択すると、[詳細] タブに式セットの詳細とバージョンが表示されるようになりました。以前は、[バージョン] タブに切り替えて、式セットのバージョンを確認していました。[バージョン] タブが [詳細] タブに統合されました。バージョンを選択すると、式セットビルダーに直接開きます。以前は、バージョンを選択してから、バージョンのヘッダーにある [式セットビルダーで開く] をクリックしていました。バージョンのプロパティが、式セットビルダーでのみ編集できるようになりました。バージョンを作成する場合は、ビルダーでバージョンを開き、別のバージョンとして保存します。

対象: この変更は、ビジネスルールエンジンが有効になっている Industries Cloud の Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:



バージョンのプロパティの編集、バージョンへのステップの追加、バージョンの有効化を行うには、バージョンを選択します。式セットビルダーでバージョンが開きます。

バージョンを作成するには、ビルダーで任意のバージョンを開き、[別名で保存]をクリックします。バージョンがコピーされます。このバージョンのプロパティを編集できます。



新規および変更されたビジネスルールエンジンオブジェクト

ビジネスルールエンジンの新しいオブジェクトと変更されたオブジェクトにより、より多くの操作を実行できます。

新しいオブジェクト

列のデータ型が数値またはテキスト範囲である場合に、決定マトリックスのバージョン列に関する情報を保存する

新しい `CalcMatrixColumnRange` オブジェクトを使用します。

変更されたオブジェクト

決定表の利用状況の種別を指定する

`CalculationMatrix` オブジェクトで新しい `UsageType` 項目を使用します。

新規および変更されたビジネスルールエンジン Tooling API オブジェクト

ビジネスルールエンジンの新しいTooling APIオブジェクトと変更されたTooling APIオブジェクトにより、より多くの操作を実行できます。

新しい Tooling API オブジェクト

式セットメッセージトークンを作成する

新しい `ExpressionSetMessagetoken` オブジェクトを使用します。

決定表の条件ロジックで使用する項目と値を定義する

新しい `DecisionTableSourceCriteria` オブジェクトを使用します。

変更された Tooling API オブジェクト

`DecisionTable` の新しい項目

決定表の作成に使用するデータソースを指定する

新しい `DataSourceType` 項目を使用します。

決定表の結果を絞り込む方法について指定する

新しい `FilterResultBy` 項目を使用します。

決定表の入力項目のデータを処理する条件ロジックを指定する

新しい `SourceConditionLogic` 項目を使用します。

決定表のデータ量に基づいて決定表のタイプを指定する

新しい `Type` 項目を使用します。

決定表に対する利用状況の種別を指定する

新しい `UsageType` 項目を使用します。

DecisionTableParameter の新しい項目

決定表項目の階層のドメインオブジェクトを示す

新しい `DomainObject` 項目を使用します。

決定表の項目が属するオブジェクトに関連するその項目のパスを指定する

新しい `FieldPath` 項目を使用します。

決定表の入力項目がルックアップに入力値を必要とするかどうかを示す

新しい `IsRequired` 項目を使用します。

ExplainabilityMessageTemplate の変更された項目

結果を返さない決定表に対して説明可能性メッセージテンプレートを指定する

`ResultType` 項目の新しい `NoResult` 値を使用します。

リスト検索条件およびリストグループ要素の説明可能性メッセージテンプレートを作成する

`ExpressionSetStepType` 項目の新しい `ListFilter` および `ListEnabledGroup` 値を使用します。

新規および変更されたビジネスルールエンジンのメタデータ型

ビジネスルールエンジンの新規および変更されたメタデータ型を最大限に活用します。

メタデータ型

決定の説明を外部ユーザーに公開するかどうかを決定する

`ExpressionSetDefinition` メタデータ型の `ExpressionSetDefinitionVersion` サブタイプで新しい `shouldShowExplExternally` 項目を使用します。この型は API バージョン 56.0 で導入され、『*Industries 共通リソース開発者ガイド*』に追加されました。

カスタム要素を式セットに組み込む

既存の `ExpressionSetDefinition` メタデータ型で `ExpressionSetStep` メタデータ型の新しい `ExpressionSetCustomElement` サブタイプを使用します。この型は API バージョン 56.0 で導入され、『*Industries 共通リソース開発者ガイド*』に追加されました。

メッセージテンプレートで新しい結果種別を指定する

`ExplainabilityMsgTemplate` メタデータ型で既存の `evaluationResult` 項目の新しい `NoResult` 値を使用します。

説明可能性メッセージテンプレートの式セットで新しいステップ種別を指定する

`ExplainabilityMsgTemplate` メタデータ型で既存の `expressionSetStepType` 項目の新しい `ListEnabledGroup`、`ListFilter`、および `ReferenceProcedure` 値を使用します。

式セットビルダーのモジュール識別をカスタマイズする

`ExpressionSetDefinition` オブジェクトで新しい `interfaceSourceType` 項目を使用します。この型は API バージョン 59.0 で導入され、『*Industries 共通リソース開発者ガイド*』に追加されました。

ExpressionSetDecisionTable 内のさまざまなパラメーター間の対応付けを有効にする

ExpressionSetDefiniton メタデータ型の ExpressionSetDecisionTable サブタイプで新しい mappings 項目を使用します。この型は API バージョン 59.0 で導入され、『*Industries 共通リソース開発者ガイド*』に追加されました。

結果種別が [結果なし] の説明可能性メッセージテンプレートを取得する

ExpressionSetDefiniton メタデータ型の ExpressionSetStep サブタイプで新しい noResultExplainerTemplate 項目を使用します。

結果なしの説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを取得します。

ExpressionSetDefiniton メタデータ型の ExpressionSetStep サブタイプで新しい noResultMessageTokenMappings 項目を使用します。

失敗した説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを取得します。

ExpressionSetDefiniton メタデータ型の ExpressionSetStep サブタイプで新しい failedMessageTokenMappings 項目を使用します。

合格した説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを取得します。

ExpressionSetDefiniton メタデータ型の ExpressionSetStep サブタイプで新しい passedMessageTokenMappings 項目を使用します。

式セットメッセージトークンの CRUD 操作を強化する

新しい ExpressionSetMessageToken メタデータ型を使用します。この型は API バージョン 59.0 で導入され、『*Industries 共通リソース開発者ガイド*』に追加されました。

Connect REST API

ビジネスルールエンジン用 Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

このセクションの内容:

[新しい Connect REST API リソース](#)

新しいビジネスルールエンジンリソースを次に示します。

[変更された Connect REST API リクエストボディ](#)

変更されたリクエストボディを次に示します。

[変更された Connect REST API レスポンスボディ](#)

変更されたレスポンスボディを次に示します。

新しい Connect REST API リソース

新しいビジネスルールエンジンリソースを次に示します。

ルックアップテーブルを取得する

新しい /connect/business-rules/lookup-tables リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Lookup Tables Result List

変更された Connect REST API リクエストボディ

変更されたリクエストボディを次に示します。

式セットバージョンステップ入力

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- failedMessageTokenMappings — 失敗した説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを指定します。
- noResultExplainerTemplate — 選択された要素種別の評価結果が結果なしだった場合に使用される説明可能性メッセージテンプレートの名前を指定します。
- noResultTokenMappings — 結果なしの説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを指定します。
- passedMessageTokenMappings — 合格した説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを指定します。

Decision Table Definition Input

このリクエストボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- decisionResultPolicy — 列挙値 CollectOperator、Priority、RuleOrder、UniqueValues は使用できなくなりました。

変更された Connect REST API レスポンスボディ

変更されたレスポンスボディを次に示します。

式セットバージョンステップ出力

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- failedMessageTokenMappings — 失敗した説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを指定します。
- noResultExplainerTemplate — 選択された要素種別の評価結果が結果なしだった場合に使用される説明可能性メッセージテンプレートの名前を指定します。
- noResultTokenMappings — 結果なしの説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを指定します。
- passedMessageTokenMappings — 合格した説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを指定します。

Calculation Procedure Step Output

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- failedExplainerTemplateId — 決定表ルックアッププロシージャーステップの失敗した説明可能性メッセージテンプレートの ID を指定します。このプロパティは、API バージョン 56.0 で導入され、『Business Rules Engine Developer Guide (ビジネスルールエンジン開発者ガイド)』に追加されました。
- failedMessageTokenMappings — 失敗した説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを指定します。
- noResultExplainerTemplateId — 決定表ルックアッププロシージャーステップの結果なしの説明可能性メッセージテンプレートの ID を指定します。
- noResultTokenMappings — 結果なしの説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを指定します。

- `passedExplainerTemplateId` — 決定表ルックアッププロシージャーステップの合格した説明可能性メッセージテンプレートのIDを指定します。このプロパティは、APIバージョン56.0で導入され、『Business Rules Engine Developer Guide (ビジネスルールエンジン開発者ガイド)』に追加されました。
- `passedMessageTokenMappings` — 合格した説明可能性メッセージテンプレートのトークンリソースの対応付けリストを指定します。

Lookup Table Details

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `apiName` — 決定表または決定マトリックスの一意の API 参照名。

Decision Table Definition Output

このレスポンスボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- `decisionResultPolicy` — 列挙値 `CollectOperator`、`Priority`、`RuleOrder`、`UniqueValues` は使用できなくなりました。

コンテキストサービス (正式リリース)

コンテキストサービスを使用して、ビジネスアプリケーションのデータの共有と消費を簡素化します。汎用モジュールとして機能するコンテキストサービスは、アプリケーションとプロシージャーの間にレイヤーを形成し、デジタルプロセスのすべてのステップで、さまざまな Industries Cloud 間でのデータの取得と利用を容易にします。コンテキスト定義を作成し、効率的なデータアクセスのための構造を構築します。定義に含まれるノードや属性を適切な入力データソースに対応付けます。組織間でコンテキスト定義をインポートおよびエクスポートします。Salesforce フローを使用して、呼び出し可能なアクションを通してコンテキストインスタンスを呼び出し、データを供給します。

このセクションの内容:

コンテキストサービスを使用したデータへのアクセス

ユーザーは、コンテキストサービスを使用してデータアクセスを最適化し、冗長な入力を不要にすることで、アプリケーションのパフォーマンスを高めることができます。さらに、オブジェクトに保存されているデータを使用するアプリケーション項目を修正して、デジタルプロセス全体で使用できます。コンテキストサービスは、アプリケーションとルールまたはプロシージャーの間のレイヤーとして機能し、設定フェーズ(設計時)と実行フェーズ(実行時)の両方で要求されたデータを提供します。

コンテキスト定義の作成

コンテキスト定義を使用して、デジタルプロセスの実行に必要なすべての情報のセットを構築します。すべてのコンテキスト定義は、階層構造で設定されるノードと属性のリレーションを記述します。コンテキストタグは、ソースオブジェクトから正しいデータが照会されることを保証します。たとえば、商品の価格を決定する場合は、価格設定プロセスのすべてのステップでデータを提供してキャッシュする必要があります。カスタムノード、カスタム属性、カスタムタグを作成することで、各ノードと属性が正しいデータを消費し、価格設定プロセスの効率が高まります。作成したコンテキスト定義は、有効化、編集、複製、削除することもできます。

データソースへのコンテキスト定義の対応付け

ソースオブジェクトから適切なデータが確実に取得されるようにするには、コンテキスト定義内のノードと属性を適切なソースオブジェクトに対応付けます。コンテキスト定義の対応付けは、単純なクリックして接続するアクションを使用することで、ユーザーにとって簡単になります。ノードと属性を選択(クリック)し、対応する Salesforce オブジェクトまたはその他の入力データソースを選択して、データの取得プロセスを開始できます。

コンテキストデータの取得とアプリケーションおよびデータベースへのリリース

コンテキストサービスを使用して、入力データソースからデータを読み取り、そのデータを消費側アプリケーションに提供します。また、コンテキストサービスを使用して、処理したデータをデータベースに戻し、後で取得して使用できるようにします。たとえば、見積が注文に変換された場合や、販売計画の契約でデータをデータベースに書き戻す必要がある場合などに、コンテキストサービスを使用して Salesforce オブジェクトからのデータを保持できます。

フローからの [コンテキストを構築] の呼び出し

Salesforce フローを使用して作成されたフローから [コンテキストを構築] を呼び出せるようになりました。[コンテキストを構築] フローは、ID を渡すことでデータベースからデータを取得します。また、手動でデータを入力してキャッシュに保存することもできます。

フローからの [コンテキストデータを保持] の呼び出し

Salesforce フローを使用して作成されたフローから [コンテキストデータを保持] を呼び出せるようになりました。[コンテキストデータを保持] フローは、キャッシュからデータを取得して、データベースに保存します。データの更新はすべてデータベース内で完了できます。

組織間の移行

組織間の移行を使用すると、2つの異なる組織間でコンテキスト定義をインポートしてからエクスポートできます。すべてのコンテキスト定義は、公開者組織での状況に関係なく、登録者組織から無効化された状況で移行されます。

コンテキストサービスの新規オブジェクト

これらの新しいコンテキストサービスオブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

新しいコンテキストサービスメタデータ型

コンテキストサービスの新しいメタデータ型を最大限活用します。

コンテキストサービスを使用したデータへのアクセス

ユーザーは、コンテキストサービスを使用してデータアクセスを最適化し、冗長な入力を不要にすることで、アプリケーションのパフォーマンスを高めることができます。さらに、オブジェクトに保存されているデータを使用するアプリケーション項目を修正して、デジタルプロセス全体で使用できます。コンテキストサービスは、アプリケーションとルールまたはプロシージャーの間のレイヤーとして機能し、設定フェーズ(設計時)と実行フェーズ(実行時)の両方で要求されたデータを提供します。

対象: この変更は、Industries Cloud でコンテキストサービスが有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: すべてのビジネスアプリケーションでは、要求を履行するためにルールまたはプロシージャーをリアルタイムで実行する必要があります。これらのプロシージャーは、入力データに依存して要求を処理し、それぞれのアプリケーション用の結果を生成します。プロシージャーに複数のステップがある場合は、類似するデータを取得するためにデータベースに対して複数の要求が行われることがあります。コンテキストサービスを使

用すれば、キャッシュに残っているデータをアプリケーションで再利用し、データを使用する期間を設定して、このデータを取得するためのデータベースコール数を最小限に抑えることができます。

コンテキスト定義の作成

コンテキスト定義を使用して、デジタルプロセスの実行に必要なすべての情報のセットを構築します。すべてのコンテキスト定義は、階層構造で設定されるノードと属性のリレーションを記述します。コンテキストタグは、ソースオブジェクトから正しいデータが照会されることを保証します。たとえば、商品の価格を決定する場合は、価格設定プロセスのすべてのステップでデータを提供してキャッシュする必要があります。カスタムノード、カスタム属性、カスタムタグを作成することで、各ノードと属性が正しいデータを消費し、価格設定プロセスの効率が高まります。作成したコンテキスト定義は、有効化、編集、複製、削除することもできます。

対象: この変更は、Industries Cloud でコンテキストサービスが有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [コンテキスト定義] ページで [Add Context Definitions (コンテキスト定義を追加)] をクリックして、構造を作成し、ノード、属性、タグを定義します。

Context Definitions > Context Definition Details Sales Transaction Context	
Details	Structure
Name Sales Transaction Context	Status Active
Effective From 5/10/2023, 05:30 AM	Effective To
Time to Live 10 Minutes	Developer Name SalesTransactionContext
Created By Automated Process, 7/31/2023, 11:12 AM	Last Modified By Admin User, 8/1/2023, 01:35 PM
Description Context definition to map sales transaction entities like Quote, Order, Asset, etc	

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: コンテキスト定義\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

データソースへのコンテキスト定義の対応付け

ソースオブジェクトから適切なデータが確実に取得されるようにするには、コンテキスト定義内のノードと属性を適切なソースオブジェクトに対応付けます。コンテキスト定義の対応付けは、単純なクリックして接続するアクションを使用することで、ユーザーにとって簡単になります。ノードと属性を選択(クリック)し、対応する Salesforce オブジェクトまたはその他の入力データソースを選択して、データの取得プロセスを開始できます。

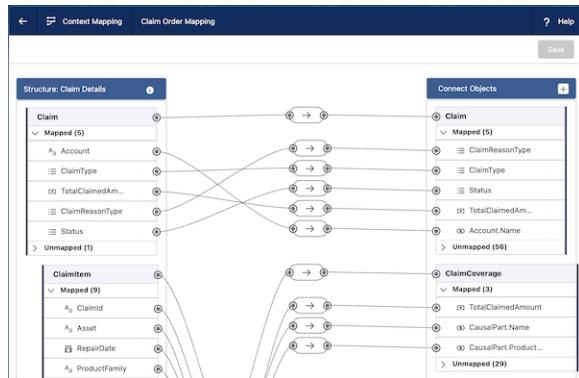
対象: この変更は、Industries Cloud でコンテキストサービスが有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: すべてのコンテキスト定義をソースオブジェクトに対応付ける必要があります。このソースオブジェクトには、sObject、または選択した入力データソースを使用できます。デフォルトでは、入力データソースが対

応付け種別として設定されますが、どちらも選択せずに、コンテキスト定義の対応付けプロセスを手動で実行することもできます。

コンテキストサービスには、コンテキスト定義のデータを取得できる場所を指定する2つの対応付け種別があります。

方法: 対応付けを追加するコンテキスト定義を開きます。[コンテキスト定義の詳細] ページで、[Map Data (データを対応付け)] タブに移動して対応付けを開始します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: コンテキスト定義の対応付け \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

コンテキストデータの取得とアプリケーションおよびデータベースへのリリース

コンテキストサービスを使用して、入力データソースからデータを読み取り、そのデータを消費側アプリケーションに提供します。また、コンテキストサービスを使用して、処理したデータをデータベースに戻し、後で取得して使用できるようにします。たとえば、見積が注文に変換された場合や、販売計画の契約でデータをデータベースに書き戻す必要がある場合などに、コンテキストサービスを使用して Salesforce オブジェクトからのデータを保持できます。

対象: この変更は、Industries Cloud でコンテキストサービスが有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

フローからの [コンテキストを構築] の呼び出し

Salesforce フローを使用して作成されたフローから [コンテキストを構築] を呼び出せるようになりました。[コンテキストを構築] フローは、ID を渡すことによってデータベースからデータを取得します。また、手動でデータを入力してキャッシュに保存することもできます。

対象: この変更は、Industries Cloud でコンテキストサービスが有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: Flow Builder で作成したフローから [コンテキストを構築] を呼び出すには、「コンテキストサービス管理者」権限と「コンテキストサービスランタイム」権限が必要です。

方法: Flow Builder で、[アクション] 要素をキャンバスにドラッグします。[コンテキストサービス] カテゴリを選択します。[コンテキストを構築] を検索して選択し、[コンテキストを構築] アクションで定義されている入力パラメーターの値を入力します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: フローでの [コンテキストを構築] の呼び出し (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

フローからの [コンテキストデータを保持] の呼び出し

Salesforce フローを使用して作成されたフローから [コンテキストデータを保持] を呼び出せるようになりました。[コンテキストデータを保持] フローは、キャッシュからデータを取得して、データベースに保存します。データの更新はすべてデータベース内で完了できます。

対象: この変更は、Industries Cloud でコンテキストサービスが有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: Flow Builder で作成したフローから [コンテキストデータを保持] を呼び出すには、「コンテキストサービス管理者」権限と「コンテキストサービスランタイム」権限が必要です。

方法: Flow Builder で、[アクション] 要素をキャンバスにドラッグします。[コンテキストサービス] カテゴリを選択します。[コンテキストデータを保持] を検索して選択し、[コンテキストデータを保持] アクションで定義されている入力パラメーターの値を入力します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: フローでの [コンテキストデータを保持] の呼び出し (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

組織間の移行

組織間の移行を使用すると、2つの異なる組織間でコンテキスト定義をインポートしてからエクスポートできます。すべてのコンテキスト定義は、公開者組織での状況に関係なく、登録者組織から無効化された状況で移行されます。

このセクションの内容:

パッケージとしてのコンテキスト定義設定オブジェクトのグループ化

コンテキスト定義オブジェクトをパッケージとして組織間で移行できます。この移行は、パッケージマネージャーまたはワークベンチ(未管理パッケージとも呼ばれます)を使用して行うことができます。ノードや属性など、コンテキスト定義内のすべてのオブジェクトがパッケージに自動的に追加されます。

新規パッケージのカスタムオブジェクトとカスタム項目の移行のサポート

コンテキスト定義を選択すると、関連付けられているカスタムオブジェクトとカスタム項目も自動的にパッケージに含められます。ユーザーは、コンテンツを確認してから新しいパッケージにアップロードできます。

パッケージとしてのコンテキスト定義設定オブジェクトのグループ化

コンテキスト定義オブジェクトをパッケージとして組織間で移行できます。この移行は、パッケージマネージャーまたはワークベンチ(未管理パッケージとも呼ばれます)を使用して行うことができます。ノードや属性など、コンテキスト定義内のすべてのオブジェクトがパッケージに自動的に追加されます。

対象: この変更は、Industries Cloud でコンテキストサービスが有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: アプリケーションパフォーマンスを高めるには、他の組織に存在する同じデータ、ノード、属性でコンテキスト定義を作成するといった冗長な作業を回避することも必要です。別の組織への移行後も、パッケージからコンテキスト定義を編集、修正、または削除できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: コンテキスト定義パッケージ\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

新規パッケージのカスタムオブジェクトとカスタム項目の移行のサポート

コンテキスト定義を選択すると、関連付けられているカスタムオブジェクトとカスタム項目も自動的にパッケージに含められます。ユーザーは、コンテンツを確認してから新しいパッケージにアップロードできます。

対象: この変更は、Industries Cloud でコンテキストサービスが有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

コンテキストサービスの新規オブジェクト

これらの新しいコンテキストサービスオブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

コンテキスト定義を作成する

新しい ContextDefinition オブジェクトを使用します。

コンテキスト定義のバージョンを示す

新しい ContextDefinitionVersion オブジェクトを使用します。

関連データを照会するためのノードを作成する

新しい ContextNode オブジェクトを使用します。

ノードに属性を関連付ける

新しい ContextAttribute オブジェクトを使用します。

ノードまたは属性の短縮名を提供する

新しい ContextTag オブジェクトを使用します。

入力データソースを使用して呼び出すデータを示す

新しい ContextInputSchema オブジェクトを使用します。

コンテキスト構造内のノードの入力データを示す

新しい ContextInputNode オブジェクトを使用します。

特定ノードの属性の入力データを示す

新しい ContextInputAttribute オブジェクトを使用します。

ノードおよび属性とデータソースとのリレーションを作成する

新しい ContextMapping オブジェクトを使用します。

コンテキスト内のノードをデータソースの値に関連付ける

新しい ContextNodeMapping オブジェクトを使用します。

コンテキスト内の属性をデータソースの値に関連付ける

新しい ContextAttributeMapping オブジェクトを使用します。

選択されたノードまたは属性のデータをデータソースから取得するデータベースクエリを示す

新しい ContextAttrHydrationDetail オブジェクトを使用します。

新しいコンテキストサービスメタデータ型

コンテキストサービスの新しいメタデータ型を最大限活用します。

メタデータ型

コンテキスト定義の詳細を取得する

新しい ContextDefinition メタデータ型を使用します。

データ処理エンジン

ノードキャンバスを使用して、ノードを設定し、ノードを視覚的に表現して、ノードが相互にどのように参照しているかを表示できます。失敗した書き戻しレコードを表示することで、定義とデータを改善する方法をより明確に知ることができます。定義で Data Cloud ランタイムを使用して、大量のデータを処理します。

このセクションの内容:

新しいノードキャンバスを使用した定義のより迅速な作成

新しいノードキャンバスを使用すると、データを変換するために定義内で使用しているすべてのノードが視覚的に表現されます。ノードを設定するときに、ノードが相互にどのように関連しているかを参照できます。以前は、テキストリストのみを使用していました。ノードは引き続きリストとして表示できますが、ノードキャンバスを使用すると、ノードを容易に操作して定義を概念化できるようになりました。定義を作成するか開くと、ノードキャンバスが自動的に開きます。

定義内で互いに参照しているノードの確認

ノードのキャンバスでノードを選択すると、そのノードをソースとして参照しているノードが表示されます。参照ノードを認識することは、定義でのエラーのトラブルシューティングに役立ちます。[参照] タブには、ノードのソースや対応付けられた項目など、選択したノードの要素を使用する各ノードが表示されます。また、ノードのキャンバスは、ノード間の関係を視覚的に表現します。

Data Cloud を使用してデータを変換

定義に Data Cloud ランタイムを使用することで、大量のデータを処理できます。Data Cloud ランタイムによって、Industries Cloud や Data Cloud からデータを読み込んだり、複数のソースを結合したり、レコードを絞り込んだり、結果を Industries Cloud や Data Cloud に書き戻したりできます。

トラブルシューティングでの失敗した書き戻しレコードの表示

書き戻しプロセスで定義の実行が失敗した場合は、失敗したレコードを表示して、原因を確認します。[失敗した書き戻しレコード] タブには、書き戻しプロセスで失敗したレコードが最大 50 件表示されます。原因を解消したら、正しいロジックで定義を再実行できます。

変更されたデータ処理定義オブジェクト

データ処理エンジンの変更されたオブジェクトにより、より多くの操作を実行できます。

変更されたデータ処理エンジン Tooling API オブジェクト

データ処理エンジンの変更された Tooling API オブジェクトにより、より多くの操作を実行できます。

メタデータ API

データ処理エンジンの変更されたメタデータ型を最大限に活用できます。

新しいノードキャンバスを使用した定義のより迅速な作成

新しいノードキャンバスを使用すると、データを変換するために定義内で使用しているすべてのノードが視覚的に表現されます。ノードを設定するときに、ノードが相互にどのように関連しているかを参照できます。以前は、テキストリストのみを使用していました。ノードは引き続きリストとして表示できますが、ノードキャンバスを使用すると、ノードを容易に操作して定義を概念化できるようになりました。定義を作成するか開くと、ノードキャンバスが自動的に開きます。

対象: この変更は、データ処理エンジンが有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

定義内で互いに参照しているノードの確認

ノードのキャンバスでノードを選択すると、そのノードをソースとして参照しているノードが表示されます。参照ノードを認識することは、定義でのエラーのトラブルシューティングに役立ちます。[参照] タブには、ノードのソースや対応付けられた項目など、選択したノードの要素を使用する各ノードが表示されます。また、ノードのキャンバスは、ノード間の関係を視覚的に表現します。

対象: この変更は、データ処理エンジンが有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

Data Cloud を使用してデータを変換

定義に Data Cloud ランタイムを使用することで、大量のデータを処理できます。Data Cloud ランタイムによって、Industries Cloud や Data Cloud からデータを読み込んだり、複数のソースを結合したり、レコードを絞り込んだり、結果を Industries Cloud や Data Cloud に書き戻したりできます。

対象: この変更は、データ処理エンジンが有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: データ処理エンジンで、[新規] をクリックして定義を作成し、詳細を入力して、[Data Cloud] を選択します。

トラブルシューティングでの失敗した書き戻しレコードの表示

書き戻しプロセスで定義の実行が失敗した場合は、失敗したレコードを表示して、原因を確認します。[失敗した書き戻しレコード] タブには、書き戻しプロセスで失敗したレコードが最大 50 件表示されます。原因を解消したら、正しいロジックで定義を再実行できます。

対象: この変更は、データ処理エンジンが有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [ワークフローサービスを監視] の [一括処理ジョブ] セクションで、一括処理ジョブ名をクリックしてから、[失敗した書き戻しレコード] タブを開きます。

変更されたデータ処理定義オブジェクト

データ処理エンジンの変更されたオブジェクトにより、より多くの操作を実行できます。

変更されたオブジェクト

データ処理エンジン定義のランタイムプラットフォームを選択する

BatchCalcJobDefinitionView オブジェクトで新しい ExecutionPlatformType 項目を使用します。

変更されたデータ処理エンジン Tooling API オブジェクト

データ処理エンジンの変更された Tooling API オブジェクトにより、より多くの操作を実行できます。

変更された Tooling API オブジェクト

データ処理エンジン定義のランタイムプラットフォームを選択する

BatchCalcJobDefinition オブジェクトで新しい ExecutionPlatformType 項目を使用します。

メタデータ API

データ処理エンジンの変更されたメタデータ型を最大限に活用できます。

メタデータ型

データ処理エンジン定義を実行するプラットフォームを選択する

既存の BatchCalcJobDefinition メタデータ型で新しい executionPlatformType 項目を使用します。

ランタイムパラメーターから sourcefield を有効化する

BatchCalcJobDefinition メタデータ型の既存の BatchCalcJobWritebackMapping サブタイプで新しい runtimeParameter 項目を使用します。

ディスカバリーフレームワークの機能強化

ディスカバリーフレームワーク OmniScript の Document Matrix 要素を使用して、ユーザーが調査を送信するときにアップロードする必要があるドキュメントを自動的に特定します。

このセクションの内容:

評価用にアップロードするドキュメントの迅速かつ容易な特定

評価プロセスを合理化して、回答者が確実に正しいドキュメントをアップロードできるようにします。評価フォームに新しいディスカバリーフレームワークドキュメントマトリクス要素を追加することで、回答者がアップロードする必要があるドキュメントのリストを回答者の応答に応じて動的に生成できます。

新しい Connect REST API リソース

次のドキュメント決定リソースが新規追加されました。

評価用にアップロードするドキュメントの迅速かつ容易な特定

評価プロセスを合理化して、回答者が確実に正しいドキュメントをアップロードできるようにします。評価フォームに新しいディスカバリーフレームワークドキュメントマトリクス要素を追加することで、回答者がアップロードする必要があるドキュメントのリストを回答者の応答に応じて動的に生成できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ディスカバリーフレームワーク種別の OmniScript を開きます。ドキュメントマトリクス要素を OmniScript に追加するには、[ビルド]パネルでドキュメントマトリクス要素を検索します。検索結果から、要素を OmniStudio デザイナーキャンバスにドラッグします。

次に、キャンバスでドキュメントマトリクス要素をクリックして、そのプロパティを設定します。

関連トピック:

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.discovery_framework_dynamic_document_identification.htm

新しい Connect REST API リソース

次のドキュメント決定リソースが新規追加されました。

ドキュメント決定

決定表を呼び出し、決定表キーに一致するキー-値ペアを受け入れ、ドキュメント種別またはドキュメントカテゴリとそれに関連付けられたドキュメント種別を返します。

新しい `/connect/document-matrix/document-decision/${decisionTableId}` リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Document Decision Input

新しいレスポンスボディ: Document Decision Response

エンゲージメント

変更されたエンゲージメントオブジェクトをさらに活用してください。

このセクションの内容:

変更されたオブジェクト

次の変更されたエンゲージメントのオブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: エンゲージメント \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

変更されたオブジェクト

次の変更されたエンゲージメントのオブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

カスタム項目に固有のビジネスデータを保存する

次の各オブジェクトで最大 50 個のカスタム項目を設定します。

- EngagementAttendee
- EngagementInteraction
- EngagementTopic

業種インテグレーションソリューション

複数の Industry Cloud インテグレーションに簡単にアクセスして有効化し、不要なインテグレーションインスタンスを削除します。以前有効化に失敗したインテグレーションを再度有効にします。MuleSoft Automation Services で構築したインテグレーションを表示します。

このセクションの内容:

複数の業種クラウドインテグレーションへのアクセスの容易化

各 Industry Cloud の権限を 1つ1つ有効にすることなく、重要かつ時間的制約のあるビジネス要件に焦点を絞ります。登録している複数の Industry Cloud のインテグレーションアセットに同時にアクセスできるようになりました。

複数の外部システムへのインテグレーションの接続

インテグレーションを複数回有効にして異なるインスタンスを作成すると、そのインスタンスを異なる外部システムに接続するために使用できます。

失敗したインテグレーションインスタンスの再有効化

インテグレーションインスタンスの有効化に以前失敗した場合、同じ設定で有効化を再試行できるようになりました。

不要なインテグレーションインスタンスの削除

Salesforce と MuleSoft Runtime Manager から不要なインテグレーションインスタンスを削除します。

MuleSoft Automation Services でのインテグレーションの表示

MuleSoft Automation Services で、MuleSoft インスタンスに作成したインテグレーションアプリケーションを表示できるようになりました。

サードパーティコネクタを使用した外部システムへの接続

一部のインテグレーションでは、サードパーティコネクタを使用して外部システムに接続します。サードパーティコネクタの契約条件を表示して、これに同意してください。

複数の業種クラウドインテグレーションへのアクセスの容易化

各 Industry Cloud の権限を 1つ1つ有効にすることなく、重要かつ時間的制約のあるビジネス要件に焦点を絞ります。登録している複数の Industry Cloud のインテグレーションアセットに同時にアクセスできるようになりました。

対象: この変更は、業種インテグレーションソリューションが有効になっている Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[インテグレーション] > [業種インテグレーションソリューション] > [インテグレーションの設定] に移動します。[使用開始] をクリックします。MuleSoft インスタンスに接続すると、アクセス権があるすべてのインテグレーションを表示できます。

複数の外部システムへのインテグレーションの接続

インテグレーションを複数回有効にして異なるインスタンスを作成すると、そのインスタンスを異なる外部システムに接続するために使用できます。

対象: この変更は、業種インテグレーションソリューションが有効になっている Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[インテグレーション] > [業種インテグレーションソリューション] > [インテグレーションの設定] に移動します。[選択可能なインテグレーション] 領域で、インテグレーションを有効にします。

失敗したインテグレーションインスタンスの再有効化

インテグレーションインスタンスの有効化に以前失敗した場合、同じ設定で有効化を再試行できるようになりました。

対象: この変更は、業種インテグレーションソリューションが有効になっている Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[インテグレーション] > [業種インテグレーションソリューション] > [インテグレーションの設定] に移動します。[選択可能なインテグレーション] 領域で、失敗したインスタンスの [再試行] をクリックします。

不要なインテグレーションインスタンスの削除

Salesforce と MuleSoft Runtime Manager から不要なインテグレーションインスタンスを削除します。

対象: この変更は、業種インテグレーションソリューションが有効になっている Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[インテグレーション] > [業種インテグレーションソリューション] > [インテグレーションの設定] に移動します。[選択可能なインテグレーション] 領域で、削除するインスタンスが有効になっているインテグレーションを展開します。[アプリケーションインスタンス] 領域で、削除するインスタンスの横にある下矢印をクリックし、[インスタンスを削除] をクリックします。

MuleSoft Automation Services でのインテグレーションの表示

MuleSoft Automation Services で、MuleSoft インスタンスに作成したインテグレーションアプリケーションを表示できるようになりました。

対象: この変更は、業種インテグレーションソリューションが有効になっている Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[インテグレーション] > [業種インテグレーションソリューション] > [インテグレーションの設定] に移動します。[MuleSoft インスタンス] 領域で、下矢印をクリックして [非公開の Exchange] を選択します。

サードパーティコネクタを使用した外部システムへの接続

一部のインテグレーションでは、サードパーティコネクタを使用して外部システムに接続します。サードパーティコネクタの契約条件を表示して、これに同意してください。

対象: この変更は、業種インテグレーションソリューションが有効になっている Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[インテグレーション] > [業種インテグレーションソリューション] > [インテグレーションの設定] に移動します。[選択可能なインテグレーション] 領域で、インテグレーションを展開して、[契約条件を表示] をクリックして、[同意] をクリックします。

インテリジェントドキュメントリーダー

アドオンライセンスを使用して、複数の Industries クラウドに対応するインテリジェントドキュメントリーダーを取得します。インテリジェントドキュメントリーダーの設定方法については、動画「Set Up Intelligent Document Reader (インテリジェントドキュメントリーダーの設定)」をご覧ください。

このセクションの内容:

[より多くの Industries クラウドでのインテリジェントドキュメントリーダーの取得](#)

AWS アカウントを介して Amazon Textract を使用することで、アップロードされたドキュメントから情報を自動的に抽出します。抽出された情報を使用して、レコードの項目を作成または更新したり、Salesforce にすでに存在するデータを検証したりします。

[インテリジェントドキュメントリーダーの設定動画の視聴](#)

インテリジェントドキュメントリーダーの設定方法については、インテリジェントドキュメントリーダーの動画をご覧ください。

[Connect REST API](#)

Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

[DocumentReader 名前空間](#)

DocumentReader 名前空間には、次の新規クラスがあります。

より多くの Industries クラウドでのインテリジェントドキュメントリーダーの取得

AWS アカウントを介して Amazon Textract を使用することで、アップロードされたドキュメントから情報を自動的に抽出します。抽出された情報を使用して、レコードの項目を作成または更新したり、Salesforce にすでに存在するデータを検証したりします。

対象: この変更は、複数の Industries Cloud の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: Financial Services Cloud、Health Cloud、Public Sector Solutions 以外にも、インテリジェントドキュメントリーダーは、次のクラウドのインテリジェントドキュメントリーダーアドオンライセンスでも利用できます。

- Automotive Cloud
- Consumer Goods Cloud
- Education Cloud
- Manufacturing Cloud
- Media Cloud
- Net Zero Cloud

インテリジェントドキュメントリーダーの設定動画の視聴

インテリジェントドキュメントリーダーの設定方法については、インテリジェントドキュメントリーダーの動画をご覧ください。

● 「[Set Up Intelligent Document Reader \(インテリジェントドキュメントリーダーの設定\)](#)」では、インテリジェントドキュメントリーダーを有効にする方法、アップロードしたドキュメントの画像プレビューを有効にする方法、ユーザーに必要なオブジェクト権限を付与する方法、情報を抽出するためのドキュメント種別とテンプレートを作成する方法について紹介します。

Connect REST API

Connect REST API は、顧客、パートナー、ISV が Salesforce ソフトウェアおよび UI とのインテグレーションを実現するのに役立ちます。

このセクションの内容:

[変更された Connect REST API リクエストボディ](#)

変更されたリクエストボディを次に示します。

[変更された Connect REST API リクエストボディ](#)

変更されたリクエストボディを次に示します。

Document Process Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `templateApiName` — 取得するドキュメントテンプレートの API 参照名。

DocumentReader 名前空間

DocumentReader 名前空間には、次の新規クラスがあります。

新規クラス

対象オブジェクトで作成または更新された項目の詳細を保存する

新しい AdditionalField クラスを使用します。

対象オブジェクトの項目のリストを保存する

新しい AdditionalFields クラスを使用します。

関連トピック:

[Industries Common Resources Developer Guide \(Industries の一般的なリソース開発者ガイド\): DocumentReader Namespace \(DocumentReader 名前空間\)](#)

Data Cloud セグメントのリストビルダー

Data Cloud セグメントからアクション可能リストを作成し、営業やサービス活動を合理化して、新たな成長のチャンスを創出します。

このセクションの内容:

[Data Cloud セグメントのリストビルダーを使用した見込み客とのエンゲージメントのパーソナライズによる顧客満足度の向上](#)

リスト作成者は、Data Cloud で生成されたオーディエンスセグメントを使用して、対象を絞ったアクション可能リストを作成することで、見込み客とのパーソナライズされたエンゲージメントを促進してビジネス目標を達成することができます。アクション可能リストを関連付けられたセグメントと同期させることで、アクション可能リストを常に最新の状態に維持できます。

Data Cloud セグメントのリストビルダーを使用した見込み客とのエンゲージメントのパーソナライズによる顧客満足度の向上

リスト作成者は、Data Cloud で生成されたオーディエンスセグメントを使用して、対象を絞ったアクション可能リストを作成することで、見込み客とのパーソナライズされたエンゲージメントを促進してビジネス目標を達成することができます。アクション可能リストを関連付けられたセグメントと同期させることで、アクション可能リストを常に最新の状態に維持できます。

対象: この変更は、Data Cloud セグメントのリストビルダーを使用できるクラウドの Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに Industry Sales Excellence アドオン、Customer 360 Audiences Corporate または CDP Data Platform Starter および CDP Segments Activations Card ライセンス、「アクション可能セグメンテーション」権限セットが必要です。

方法: [アクション可能リスト] リストビューで、[新規リストを作成] をクリックします。ソースとして [Data Cloud セグメント] を選択します。次に、リストの名前と説明を入力し、セグメントを選択して、公開スケジュールを指定し、列を選択してからエンゲージメント状況を設定します。

Service Process Studio

Service Process Studio で、より多くの操作を実行できるようになりました。取引の紛争テンプレートを使用して、取引の紛争を処理するためのサービスプロセス定義をすばやく作成します。ベースデータ属性の詳細を保存する標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトで関連する項目を選択します。

このセクションの内容:

より関連性の高いデータによるサービスプロセスの定義

サービスプロセス定義の作成時に、ベースデータ属性を任意のオブジェクトの項目に関連付けることができるようになりました。これまで、このようなベースとなる属性はサービスカタログ要求オブジェクトにのみ保存していました。データ属性を関連するオブジェクトの項目に対応付けることで、豊富な分析機能や外部システムとの広範なインテグレーションを必要とする複雑なサービスプロセスを簡単に作成できます。

取引の紛争テンプレートを使用した迅速な開始

取引の紛争テンプレートを使用して、取引の紛争管理サービスプロセスを迅速に設定します。このテンプレートには論理セクションに整理された定義済みのデータ属性のセットが用意されており、紛争処理プロセスの合理化に着手することができます。

新しい Connect REST API リソース

次の Service Process Studio リソースが新規追加されました。

より関連性の高いデータによるサービスプロセスの定義

サービスプロセス定義の作成時に、ベースデータ属性を任意のオブジェクトの項目に関連付けることができるようになりました。これまで、このようなベースとなる属性はサービスカタログ要求オブジェクトにのみ保存していました。データ属性を関連するオブジェクトの項目に対応付けることで、豊富な分析機能や外部システムとの広範なインテグレーションを必要とする複雑なサービスプロセスを簡単に作成できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに 「Service Process Studio」 と入力して、[Service Process Studio] を選択します。[新規サービスプロセス] をクリックして、[データ属性] で [新規データ属性] をクリックします。属性種別として [ベース] を選択して、必要なベースオブジェクトを選択します。

関連トピック:

データ属性

取引の紛争テンプレートを使用した迅速な開始

取引の紛争テンプレートを使用して、取引の紛争管理サービスプロセスを迅速に設定します。このテンプレートには論理セクションに整理された定義済みのデータ属性のセットが用意されており、紛争処理プロセスの合理化に着手することができます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「Service Process Studio」と入力して、[Service Process Studio] を選択します。[新規サービスプロセス] をクリックします。[テンプレートから作成] を選択し、[取引の紛争] をクリックします。

関連トピック:

[デフォルトテンプレートを使用した取引の紛争サービスプロセス定義の作成](#)

新しい Connect REST API リソース

次の Service Process Studio リソースが新規追加されました。

Service Process Studio

サービスプロセスレイアウトデータを取得する

新しい /connect/service-excellence/service-catalog-request/layout-data/case/\${id} リソースに対して GET 要求を実行します。

新しいレスポンスボディ: Service Process Request Layout Data

タイムライン

Data Cloud のエンゲージメントイベントが表示されるようにタイムラインを設定します。

このセクションの内容:

[可視性の向上とパーソナライズされたエンゲージメントの促進のためにエンゲージメントイベントをタイムラインに表示](#)

システム管理者は、エージェントのタイムラインに表示されるように、Data Cloud データモデルオブジェクトからエンゲージメントイベントを選択できます。このイベントによって、エージェントは、情報の取得を強化でき、経緯を把握して、顧客や見込み客と状況に応じた簡潔なコミュニケーションをとることができます。

可視性の向上とパーソナライズされたエンゲージメントの促進のためにエンゲージメントイベントをタイムラインに表示

システム管理者は、エージェントのタイムラインに表示されるように、Data Cloud データモデルオブジェクトからエンゲージメントイベントを選択できます。このイベントによって、エージェントは、情報の取得を強化でき、経緯を把握して、顧客や見込み客と状況に応じた簡潔なコミュニケーションをとることができます。

対象: この変更は、タイムラインを使用できるクラウドの Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに Industry Service Excellence アドオンライセンスが必要です。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「タイムライン」と入力し、[タイムライン] をクリックします。次に [新規タイムライン] をクリックし、[Data Cloud イベント] を選択して、関連オブジェクトとエンゲージメントデータモデルオブジェクトの詳細を入力します。さらに、タイムラインにレコードを表示する条件を入力し、表示する項目を定義して、タイムラインを有効にします。

 **メモ:** 現時点では、タイムラインでのエンゲージメントイベントの表示はExperienceCloudサイトではサポートされていません。

マーケティング

Marketing Cloud は、1対1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを1か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

最新機能と機能強化の詳細は、[Marketing Cloud リリースノート](#)を参照してください。

関連トピック:

[Marketing Cloud の概要](#)

[Marketing Cloud: 以前のリリースノート](#)

[Salesforce Marketing Cloud の Facebook ページ](#)

Marketing Cloud Account Engagement

Engagement Studio プログラムでは、待機時間を1日以下のより細かい単位で指定できます。API V5 for Flow を使用してサンドボックスから本番ビジネスユニットへアセットをコピーし、古い訪問者の活動レコードを削除することでシステム帯域幅を節約できます。

このセクションの内容:

全般的な機能強化

Engagement Studio の待機時間を1日以内に短縮できるため、より迅速でパーソナライズされた環境を顧客に提供できます。Account Engagement によって古い訪問者の活動レコードを自動的に削除できるようになり、さらにフォームコードを表示可能なドメインを制限できるようになりました。

API とインテグレーション

API V5 for Flow を使用して、サンドボックスから本番ビジネスユニットへマーケティングアセットをコピーします。外部活動は、すべてパッケージ化できるようになりました。また、Account Engagement API バージョン 5 の新しい項目と更新された項目も取得できます。

全般的な機能強化

Engagement Studio の待機時間を1日以内に短縮できるため、より迅速でパーソナライズされた環境を顧客に提供できます。Account Engagement によって古い訪問者の活動レコードを自動的に削除できるようになりました。

このセクションの内容:

[Account Engagement アセットを表示可能なドメインの制限](#)

データのセキュリティを保護するために、フォームやランディングページなどの Account Engagement アセットの iframe を制限できるようになりました。ビジネスユニットの設定から、iframe を完全に制限したり、特定のドメインに対してのみ iframe を許可したり、制限なしにしたりできます。Winter '24 リリース以降に作成されたビジネスユニットは、デフォルトで iframe が制限されています。Winter '24 より前に作成されたビジネスユニットは、デフォルトでは iframe が制限されません。

[機能別の見込み客変更履歴グラフ](#)

Account Engagement Optimizer の新しい Prospect Change Monitor のヒストグラムを使用することで、見込み客の変更を一目で確認できます。特定の機能領域に焦点を当てることも、ビジネスユニット全体のすべての変更を表示することも容易にできます。

[訪問者レコードを削除することによる一時停止中の見込み客の復元](#)

見込み客の活動レベルが Account Engagement のパフォーマンスに影響するほど高くなった場合、見込み客が一時停止されます。ビジネスに重要な見込み客が一時停止になっている場合、訪問者の活動レコードを削除することで、見込み客を復元できます。過去の日付を選択すると、Account Engagement はその日付以前の見込み客の活動レコードを削除します。十分な数の活動レコードを削除すると、Account Engagement はその見込み客の追跡を復元します。以降にプロスペクトが活動のしきい値を超えると、再度一時停止されます。

[エンゲージメントプログラムをより詳細な待機時間で設計](#)

見込み客は Engagement Studio プログラムのメール送信ステップで 2 ~ 8 時間の待機ができるようになりました。以前は、待機時間は日単位に限られていました。

[無効な送信者に関するメールテンプレートの更新](#)

Spring '23 以降のドメイン検証の要件の一環で、Account Engagement では、未検証のドメインを含んだ送信者アドレスによるメールテンプレートの送信は行われません。無効な送信者によるテンプレートは、Optimizer で確認できるようになりました。テンプレートの使用を継続するには、送信者メールアドレスを変更するか、送信ドメインを検証してください。

[未変更の訪問者活動レコードの削除](#)

見込み客に変更されなかった古い訪問者レコードを削除することで、システムの帯域幅を節約できます。365 日以上前の未変更のレコードを自動的に削除するには、ビジネスユニットの設定の新しい [StaleUnconverted Visitors (古い未変更訪問者)] オプションを使用します。

[Account Engagement アセットを表示可能なドメインの制限](#)

データのセキュリティを保護するために、フォームやランディングページなどの Account Engagement アセットの iframe を制限できるようになりました。ビジネスユニットの設定から、iframe を完全に制限したり、特定のドメインに対してのみ iframe を許可したり、制限なしにしたりできます。Winter '24 リリース以降に作成されたビジネスユニットは、デフォルトで iframe が制限されています。Winter '24 より前に作成されたビジネスユニットは、デフォルトでは iframe が制限されません。

対象: この変更はすべての Account Engagement エディションに適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Account Engagement アセットの iframing の制限 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

機能別の見込み客変更履歴グラフ

Account Engagement Optimizer の新しい Prospect Change Monitor のヒストограмを使用することで、見込み客の変更を一目で確認できます。特定の機能領域に焦点を当てることも、ビジネスユニット全体のすべての変更を表示することも容易にできます。

対象: この変更はすべての Account Engagement エディションに適用されます。

訪問者レコードを削除することによる一時停止中の見込み客の復元

見込み客の活動レベルが Account Engagement のパフォーマンスに影響するほど高くなった場合、見込み客が一時停止されます。ビジネスに重要な見込み客が一時停止になっている場合、訪問者の活動レコードを削除することで、見込み客を復元できます。過去の日付を選択すると、Account Engagement はその日付以前の見込み客の活動レコードを削除します。十分な数の活動レコードを削除すると、Account Engagement はその見込み客の追跡を復元します。以降にプロスペクトが活動のしきい値を超えると、再度一時停止されます。

対象: この変更はすべての Account Engagement エディションに適用されます。

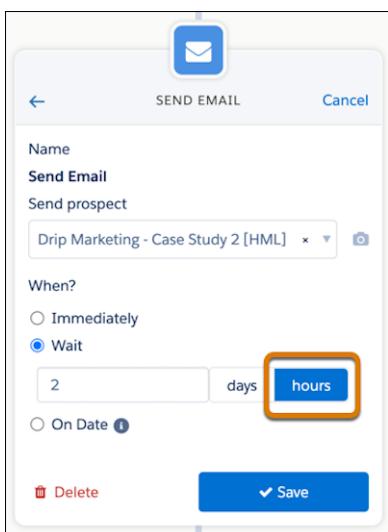
理由: ほとんどの場合、高レベルの活動はボットによるものなので、プロスペクトを削除することが最善策です。しかし、長年の顧客の場合や、テスト目的で見込み客を使用している場合は、この機能を使用することでその見込み客レコードでの処理を継続できます。

方法: 見込み客のレコードの [訪問者] タブで、[ツール] メニューを使用して活動レコードを削除します。日付を選択するときに、見込み客の状況プレビューを確認して、見込み客を復元するのに十分なレコードが削除されることを確認します。また、訪問者レコードの残りの数、削除中の数も確認できます。

エンゲージメントプログラムをより詳細な待機時間で設計

見込み客は Engagement Studio プログラムのメール送信ステップで 2~8 時間の待機ができるようになりました。以前は、待機時間は日単位に限られていました。

対象: この変更はすべての Account Engagement エディションに適用されます。



無効な送信者に関するメールテンプレートの更新

Spring '23以降のドメイン検証の要件の一環で、Account Engagementでは、未検証のドメインを含んだ送信者アドレスによるメールテンプレートの送信は行われません。無効な送信者によるテンプレートは、Optimizerで確認できるようになりました。テンプレートの使用を継続するには、送信者メールアドレスを変更するか、送信ドメインを検証してください。

対象: この変更はすべての Account Engagement エディションに適用されます。

時期: この機能は、2023年8月14日以降にすべての Pardot ユーザーが使用できます。

未変更の訪問者活動レコードの削除

見込み客に変更されなかった古い訪問者レコードを削除することで、システムの帯域幅を節約できます。365日以上前の未変更のレコードを自動的に削除するには、ビジネスユニットの設定の新しい [Stale Unconverted Visitors (古い未変更訪問者)] オプションを使用します。

対象: この変更はすべての Account Engagement エディションに適用されます。

API とインテグレーション

API V5 for Flow を使用して、サンドボックスから本番ビジネスユニットへマーケティングアセットをコピーします。外部活動は、すべてパッケージ化できるようになりました。また、Account Engagement API バージョン 5 の新しい項目と更新された項目も取得できます。

このセクションの内容:

[Account Engagement API: 新規および変更された項目](#)

Account Engagement API バージョン 5 の新規および更新されたオブジェクトでより多くのデータにアクセスできます。Salesforce フローを使用して、サンドボックスから本番ビジネスユニットへマーケティングアセットをコピーします。

[Twitter コネクタの廃止](#)

Twitter で API の利用規約が大幅に変更されたため、Account Engagement 用 Twitter コネクタは 2023 年 10 月 31 日以降、使用できなくなります。

Account Engagement API: 新規および変更された項目

Account Engagement API バージョン 5 の新規および更新されたオブジェクトでより多くのデータにアクセスできます。Salesforce フローを使用して、サンドボックスから本番ビジネスユニットへマーケティングアセットをコピーします。

バージョン 5 の更新されたオブジェクト

新しいダイナミックコンテンツエンドポイント

ダイナミックコンテンツエンドポイントのサポートが追加されました。

最適化されたエクスポート

大容量のエクスポート処理速度が向上しました。

ID 配列によるクエリ

ID 配列によるクエリのサポートが追加されました。

その他の API の変更

API Version 5 for Flow を使用したマーケティングアセットのコピー

Salesforce フローを使用して、マーケティングアセットのビジネスユニット間でのコピーや、サンドボックスから本番ビジネスユニットへのコピーが可能になりました。

新しい Account Engagement サンドボックスから本番フロー

独自のコピーフローをモデル化できるフローのサンプルが含まれています。

Twitter コネクタの廃止

Twitter で API の利用規約が大幅に変更されたため、Account Engagement 用 Twitter コネクタは 2023 年 10 月 31 日以降、使用できなくなります。

対象: この変更はすべての Account Engagement エディションに適用されます。

モバイル

Salesforce Mobile App Plus では、ブリーフケースのレコードの検索、ランディングページにより容易にアクセスできるスワイプアクション、ランディングページでのリスト検索条件、より迅速な住所設定がサポートされるようになりました。Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションのデフォルト URL 動作および場所ベースのアクセス許可とプッシュ通知を定義します。ブリーフケースビルダーを使用してカスタムメタデータ型を派遣作業員のオフラインレコード環境に適用します。

このセクションの内容:

[Salesforce モバイルアプリケーション](#)

Salesforce Mobile App Plus では、ブリーフケースのレコードの検索、ランディングページでのスワイプアクションと検索条件、オンライン中のレコードへの画像の添付がサポートされるようになりました。[モバイルでの動的フォームを有効化]が正式リリースされ、モバイルユーザーにデスクトップユーザーと同じカスタマイズされたレコードページ環境が提供されます。

[Mobile Publisher](#)

Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションのデフォルト URL 動作および場所ベースのアクセス許可とプッシュ通知を設定します。

[ブリーフケースビルダー](#)

ブリーフケースビルダーでは、カスタムメタデータ型のルールがサポートされるようになりました。

Salesforce モバイルアプリケーション

Salesforce Mobile App Plus では、ブリーフケースのレコードの検索、ランディングページでのスワイプアクションと検索条件、オフライン中のレコードへの画像の添付がサポートされるようになりました。[モバイルでの動的フォームを有効化] が正式リリースされ、モバイルユーザーにデスクトップユーザーと同じカスタマイズされたレコードページ環境が提供されます。

このセクションの内容:

[Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能](#)

Salesforce モバイルアプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能

Salesforce モバイルアプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションは、Database.com 以外のすべてのエディションで追加ライセンスなしで使用できます。組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザーに割り当てられたプロファイルと権限セットによって、各ユーザーが使用できる Salesforce データおよび機能が決定します。

ほとんどの機能は、2023 年 10 月 16 日の週に Salesforce モバイルアプリケーションで使用できるようになります。

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	フルサイトの設定
ナビゲーションおよびアクション			
高度なオフラインランディングページ機能のさらなる活用	✓	✓	
分析			
時間と場所に関係なくレポートを共有	✓	✓	
CRM Analytics ダッシュボードの自動更新	✓	✓	✓
ワンクリックインタラクションによるウィジェットナビゲーションの向上	✓	✓	✓
オフラインアクセス			
ブリーフケースのオフラインレコードの検索	✓	✓	
オフライン中でのレコードへの画像の添付	✓	✓	
Offline App Onboarding Wizard の正式リリース	✓	✓	✓
設定			
モバイルの動的フォームの有効化 (正式リリース)	✓	✓	✓

ワンクリックインタラクションによるウィジェットナビゲーションの向上

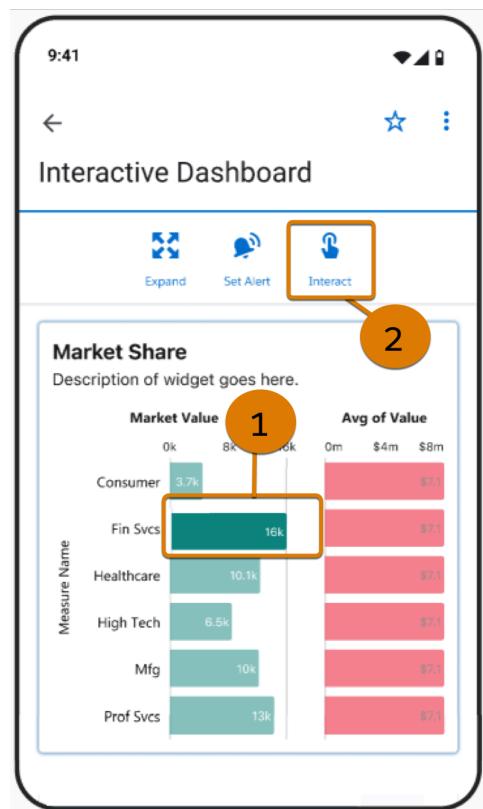
以前はデスクトップに限定されていたウィジェットインタラクションがモバイルデバイスに拡張されました。モバイルデバイスで、同じワンクリック環境を使用して、静的概要ウィジェットをインタラクティブなナビゲーション環境に変換することができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Developer Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

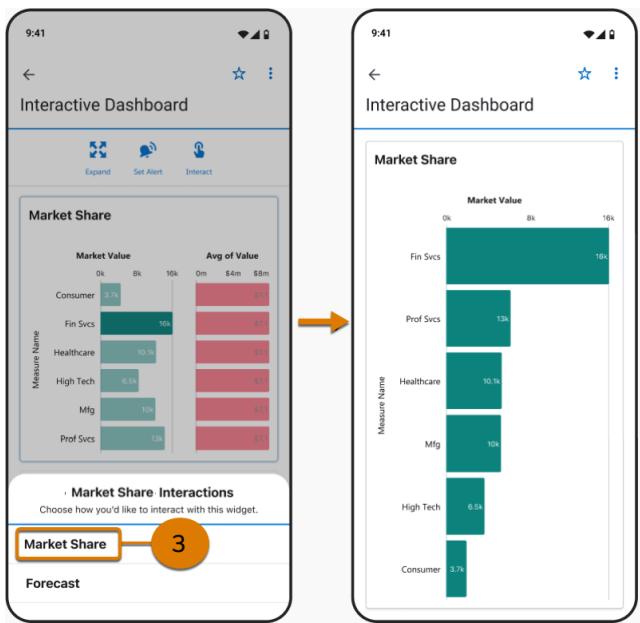
時期: ワンクリックインタラクションは、2023 年 10 月 16 日の週に使用できるようになります。

対象ユーザー: CRM Analytics アセットにアクセスするには、CRM Analytics ライセンスが必要です。

方法: Salesforce モバイルアプリケーションで [すべての項目] をタップして、[分析] を選択します。CRM Analytics ダッシュボードを開いて、グラフの評価指標⁽¹⁾をタップします。メニューバーの [Interact(操作)]⁽²⁾をクリックします。



開くビュー⁽³⁾をタップします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ウィジェットのインタラクションの設定(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

CRM Analytics ダッシュボードの自動更新

ウィジェットの追加と変更がダッシュボードのレイアウト間で自動的に同期されるようになりました。たとえば、ウィジェットがモバイルレイアウトに追加されると、そのウィジェットはデスクトップレイアウトに自動的に追加されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Developer Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: レイアウトの同期は、2023 年 10 月 16 日の週に使用可能になります。

対象ユーザー: CRM Analytics アセットにアクセスするには、CRM Analytics ライセンスが必要です。

方法: CRM Analytics ダッシュボードの設定は、システム管理者またはダッシュボード作成者がデスクトップで実行します。

関連トピック:

レイアウト全体の変更の簡単な同期

Salesforce ヘルプ: 各種のデバイス固有の CRM Analytics ダッシュボードレイアウトの生成(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

時間と場所に関係なくレポートを共有

Salesforce モバイルでレポートを共有できるようになりました。この更新では、モバイルデバイスを使用して任意の場所からレポートを容易に共有できます。デスクトップにアクセスできるようになるまで待機する必要はありません。

対象: この変更は、Professional Edition、Developer Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: レポート共有は、2023 年 10 月 16 日の週に使用できるようになります。

方法: Salesforce モバイルアプリケーションでレポートを開きます。...、[共有] の順にタップします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 統合分析でのすべての分析の統合\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

高度なオフラインランディングページ機能のさらなる活用

Lightning スワイプアクションへのアクセスがより容易になりました。ナビゲーションで使用する住所を設定するときに、5 個ではなく 1 個の項目を使用することで時間を節約します。リストの検索条件サポートが使用できるようになりました。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの電話およびタブレットの iOS および Android 用の Salesforce Mobile App Plus に適用されます。

対象ユーザー: 3 つのすべての新機能は、Salesforce Mobile App Plus ライセンスがある組織で使用可能で、「Mobile Offline for Salesforce Mobile App Plus (Salesforce Mobile App Plus のモバイルオフライン)」ユーザー権限を持つその組織内のユーザーが使用できます。

理由: Lightning スワイプアクションに容易にアクセスするには、ユーザーは取引先責任者を右にスワイプして、すべての使用可能な LWC アクションを含むハーフシートを表示できるようになりました。

地図アクションで使用する住所を設定するには、5 個の別々の項目ではなく 1 個の項目に住所を入力できるようになりました。これにより、設定にかかる時間が短縮されます。

リストの Lightning ページ検索条件サポートが使用できるようになりました。これにより、ユーザーは簡単な検索条件や条件付き検索条件を使用してリストデータを絞り込むことができます。

方法: LWC アクションを確実に使用できるようにするには、LWC アクションをオブジェクトマネージャーで設定します。ナビゲーション住所を設定し、検索条件を追加するには、UEM をカスタマイズします。

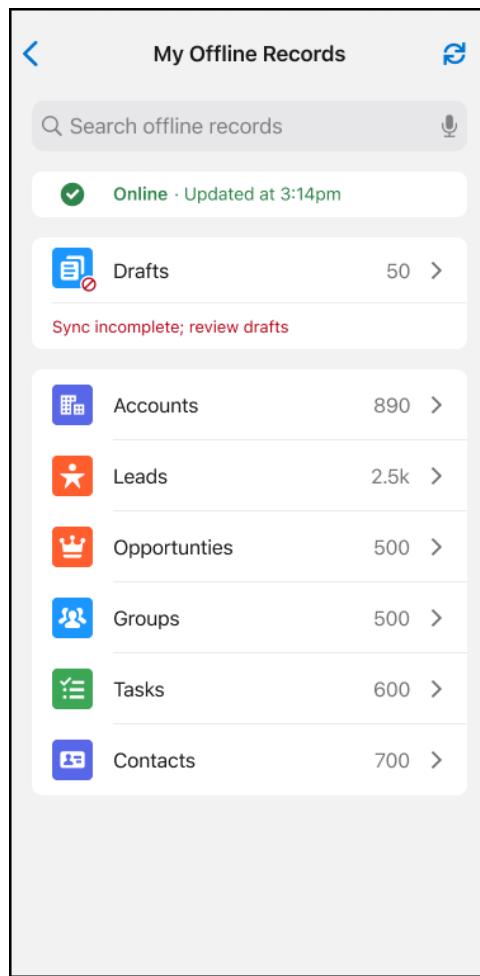
ブリーフケースのオフラインレコードの検索

ユーザーはデバイスがオンラインであるかオフラインであるかにかかわらずブリーフケースのレコードを検索できるようになりました。

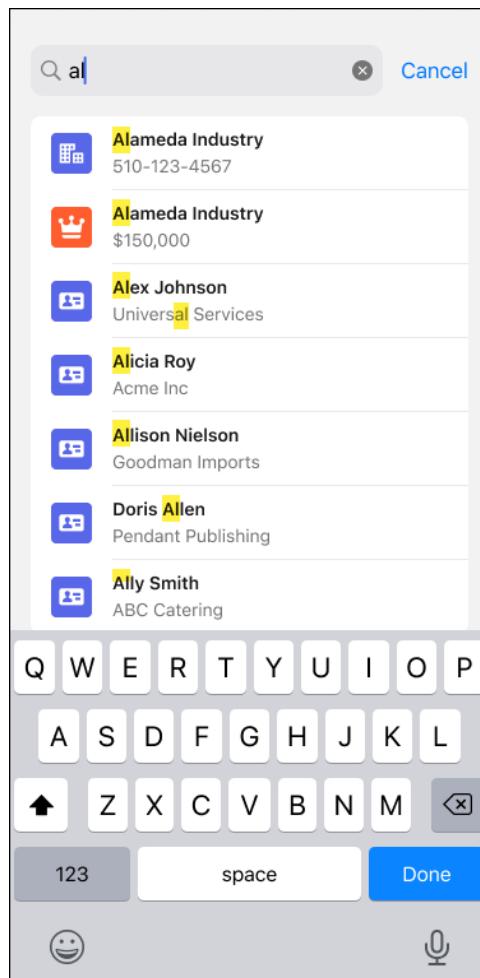
対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの電話およびタブレットの iOS および Android 用の Salesforce Mobile App Plus に適用されます。

対象ユーザー: ブリーフケース検索は、Salesforce Mobile App Plus ライセンスがある組織で使用可能で、「OfflineForMobilePlus」ユーザー権限を持つその組織内のユーザーが使用できます。

方法: ユーザーはブリーフケース検索バーにブリーフケースホームページとブリーフケースレコードリストページからアクセスできます。



一致する検索結果は強調表示されます。ユーザーがその検索結果をタップすると、レコード詳細ページに移動することができます。



Offline App Onboarding Wizard の正式リリース

Offline App Onboarding Wizard の簡単なプロンプトに従って、Salesforce Mobile App Plus オフライン環境の Offline Starter Kit プロジェクトを設定できます。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの電話およびタブレットの iOS および Android 用の Salesforce Mobile App Plus に適用されます。

対象ユーザー: モバイルオフラインは、Salesforce Mobile App Plus ライセンスがある組織で使用可能で、「OfflineForMobilePlus」ユーザー権限を持つその組織内のユーザーが使用できます。

理由: オフライン開発と設定プロセスを容易にするため、Offline App Onboarding Wizard というツールを作成しました。

方法: Salesforce Offline App Onboarding Wizard Visual Studio Code 拡張機能をダウンロードします。または、Visual Studio Code を使用している場合は、[Extensions(拡張機能)] (Mac では Shift-Command-X) に移動して、「Salesforce Offline Starter Kit Wizard」を検索して [Install(インストール)] をクリックします。

関連トピック:

[GitHub: Offline App Developer Starter Kit \(オフラインアプリケーション開発者スターターキット\)](#)

[Mobile Offline Developer Guide \(モバイルオフライン開発者ガイド\): Customize the Offline Experience for the Salesforce Mobile App \(Salesforce モバイルアプリケーション用のオフライン環境のカスタマイズ\)](#)

オフライン中でのレコードへの画像の添付

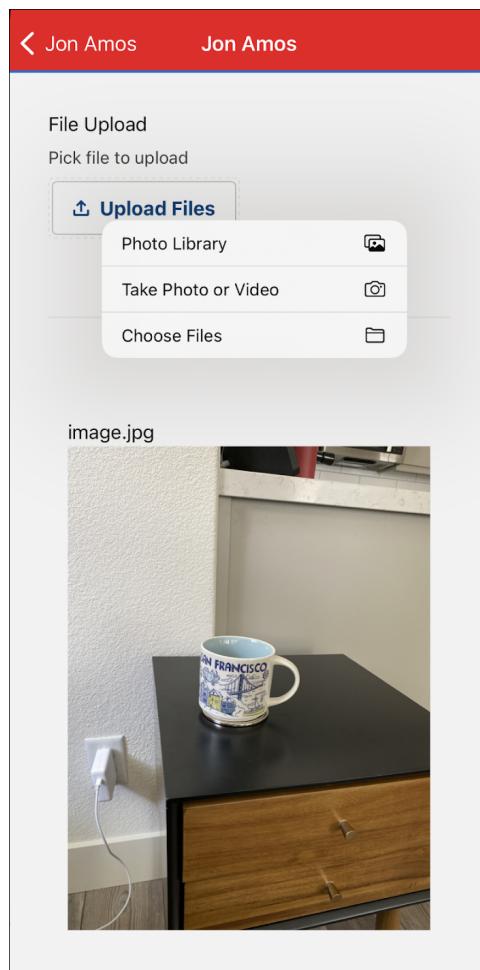
ネットワーク接続がない地域やネットワーク接続速度が遅い地域でデバイスを使用しているときに、モバイルユーザーは画像をレコードに追加できるようになりました。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの電話およびタブレットの iOS および Android 用の Salesforce Mobile App Plus に適用されます。

対象ユーザー: オフライン画像は、Salesforce Mobile App Plus ライセンスがある組織で使用可能で、「OfflineForMobilePlus」ユーザー権限を持つその組織内のユーザーが使用できます。

方法: ユーザーは画像またはファイル (PDF) をいくつかの方法でレコードに添付できます。

- デバイスの写真ライブラリから画像を選択する。
- デバイスのカメラから写真を撮る。
- デバイスからファイルを選択する。



画像が添付されたドラフトレコードは、デバイスのネットワーク接続が回復すると同期されます。

また、「[Offline App Developer Starter Kit\(オフラインアプリケーション開発者スターターキット\)](#)」には `fileUpload` LWCサンプルコンポーネントが含まれているため、その機能をモバイルアプリケーションに追加することができます。

関連トピック:

[GitHub: Offline App Developer Starter Kit \(オフラインアプリケーション開発者スターターキット\)](#)

[GitHub: fileUpload](#)

モバイルの動的フォームの有効化 (正式リリース)

動的フォームを使用すると、レコードページでのカスタマイズオプションの幅が広がります。モバイルの動的フォームを有効にすると、モバイルユーザーはデスクトップユーザーと同じカスタマイズされた環境を使用できます。モバイルの動的フォームは Spring '23 ではベータでしたが、正式リリースされました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[実現した IdeaExchange: モバイルユーザーへの動的フォーム環境の提供\(正式リリース\)](#)

Mobile Publisher

Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションのデフォルト URL 動作および場所ベースのアクセス許可とプッシュ通知を設定します。

このセクションの内容:

[Mobile Publisher Android アプリケーションのプッシュ通知の中止の回避](#)

Google による Android アプリケーションのプッシュ通知の処理方法が変更されたため、プッシュ通知が中断されないように、Firebase プロジェクトのファイルを使用して Mobile Publisher Android アプリケーションの設定を更新してください。

[Experience Cloud 向け Mobile Publisher アプリケーションから URL を開く方法のデフォルトの設定\(パイロット\)](#)
アプリケーション内 Web ビュー、アプリケーション内ブラウザー、外部ブラウザー、またはアプリケーションの Web ビューと Cookie を共有するアプリケーション内ブラウザーでリンクを開くように設定できます。例外がある場合、特定の URL を指定し、デフォルトの方法以外の方法を選択して開くことができます。この URL 管理設定は、Publisher Playground アプリケーションで使用事例をテストする場合にも使用できるようになりました。以前は、Mobile Publisher プロジェクトに対するアプリケーションの設定で各 URL を入力および設定していましたが、URL を開くためのデフォルトの方法を設定するオプションはありませんでした。

[Experience Cloud 向け Android アプリケーションの場所ベースのアクセス許可の定義](#)

Experience Cloud 向け Mobile Publisher で構築された Android アプリケーションで、デバイスの低精度の場所と高精度の場所へのアクセス許可をアプリケーションに付与するための 2 つのプロンプトがユーザーに表示されるようになりました。最初のプロンプトでは、Mobile Publisher の設定で指定したアクセス許可の説明がアプリケーションに表示されます。認識しやすい開示と呼ばれるこの説明では、アクセスする場所データの種別とアプリケーションによるデバイスの場所の使用方法を明確に説明する必要があります。ユーザーが続行を選択すると、デバイスの場所へのアクセス許可を要求する 2 番目のプロンプト(システムネイティブのダイアログ)が表示されます。

[Experience Cloud アプリケーションのジオフェンスベースのプッシュ通知の送信](#)

Mobile Publisher の設定で、ジオフェンスに基づいて Marketing Cloud のプッシュ通知を有効にできるようになりました。これにより、デバイスが特定の場所の境界内に入ったり境界外に出たりしたときにアプリケーションから通知がトリガーされます。また、Marketing Cloud プッシュ通知用にデバイスのバックグラウンドの場所へのアプリケーションのアクセス許可の要求についての説明を有効にして設定できるようになりました。

[Experience Cloud アプリケーションのためのデバイスの iOS 15 以降への更新](#)

アプリケーションバージョン 11.6 以降、Experience Cloud 向け Mobile Publisher iOS アプリケーションでは、iOS 14 デバイスはサポートされなくなりました。Experience Cloud iOS アプリケーションでは、iOS 15 以降が必要です。

Mobile Publisher Android アプリケーションのプッシュ通知の中止の回避

GoogleによるAndroidアプリケーションのプッシュ通知の処理方法が変更されたため、プッシュ通知が中止されないように、Firebaseプロジェクトのファイルを使用してMobile Publisher Androidアプリケーションの設定を更新してください。

対象: この変更は次に適用されます。

- すべてのアプリケーションバージョンのMobile Publisher Androidアプリケーション。
- Mobile Publisherの設定は、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited EditionのLightning Experienceで使用可能です。

方法: Google FirebaseコンソールのFirebaseプロジェクトから必要な情報とファイルを取得します。Mobile Publisherプロジェクトに対するアプリケーションの設定に情報を送信します。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ: Mobile Publisher Android プッシュ通知を有効化するために Firebase アプリケーションを登録 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Firebase のよくある質問: FCM features deprecated in June 2023 \(2023年6月に廃止されたFCM機能\)](#)

Experience Cloud向けMobile PublisherアプリケーションからURLを開く方法のデフォルトの設定(パイロット)

アプリケーション内Webビュー、アプリケーション内ブラウザ、外部ブラウザ、またはアプリケーションのWebビューとCookieを共有するアプリケーション内ブラウザでリンクを開くように設定できます。例外がある場合、特定のURLを指定し、デフォルトの方法以外の方法を選択して開くことができます。このURL管理設定は、Publisher Playgroudアプリケーションで使用事例をテストする場合にも使用できるようになりました。以前は、Mobile Publisherプロジェクトに対するアプリケーションの設定で各URLを入力および設定していましたが、URLを開くためのデフォルトの方法を設定するオプションはありませんでした。

 **メモ:** この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります、Salesforceの独自の裁量でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、Salesforceはこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

対象: この変更は次に適用されます。

- Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのExperience Cloud AuraおよびLWRサイト用Mobile Publisherを使用して作成されたアプリケーション。
- iOSアプリケーションバージョン11.6以降のExperience Cloud向けMobile Publisherアプリケーション。
- Androidアプリケーションバージョン11.7以降のExperience Cloud向けMobile Publisherアプリケーション。
- Mobile Publisherの設定は、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited EditionのLightning Experienceで使用可能です。

方法:[URLを開くデフォルトの方法]項目(パイロット)を有効にするには、Salesforceの担当者にお問い合わせください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: アプリケーションから URLを開く方法を管理\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Publisher Playground アプリケーションで URLを開く方法をテスト\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Experience Cloud 向け Android アプリケーションの場所ベースのアクセス許可の定義

Experience Cloud 向け Mobile Publisher で構築された Android アプリケーションで、デバイスの低精度の場所と高精度の場所へのアクセス許可をアプリケーションに付与するための2つのプロンプトがユーザーに表示されるようになりました。最初のプロンプトでは、Mobile Publisher の設定で指定したアクセス許可の説明がアプリケーションに表示されます。認識しやすい開示と呼ばれるこの説明では、アクセスする場所データの種別とアプリケーションによるデバイスの場所の使用方法を明確に説明する必要があります。ユーザーが続行を選択すると、デバイスの場所へのアクセス許可を要求する2番目のプロンプト(システムネイティブのダイアログ)が表示されます。

対象: この変更は次に適用されます。

- Experience Cloud Android アプリケーションバージョン 11.9 以降向け Mobile Publisher。
- Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Experience Cloud Aura および LWR サイト用 Mobile Publisher を使用して作成されたアプリケーション。

方法: デバイスの低精度の場所や高精度の場所に対するアクセス許可の説明を追加または更新するには、[設定] でアプリケーションの Mobile Publisher プロジェクトを開きます。次に、[デバイス機能の Android アプリケーション権限] セクションで、更新するアクセス許可を見つけて、[許可の説明を編集] をクリックします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: デバイス機能のアプリケーション権限\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Experience Cloud アプリケーションのジオフェンスベースのプッシュ通知の送信](#)

Experience Cloud アプリケーションのジオフェンスベースのプッシュ通知の送信

Mobile Publisher の設定で、ジオフェンスに基づいて Marketing Cloud のプッシュ通知を有効にできるようになりました。これにより、デバイスが特定の場所の境界内に入ったり境界外に出たりしたときにアプリケーションから通知がトリガーされます。また、Marketing Cloud プッシュ通知用にデバイスのバックグラウンドの場所へのアプリケーションのアクセス許可の要求についての説明を有効にして設定できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Mobile Publisher プロジェクトに対するアプリケーションの設定で、[デバイス機能のアプリケーション権限] セクションで場所ベースのアクセス許可を設定し、[Marketing Cloud] セクションで場所ベースの通知を有効にします。

Android アプリケーションで通知のジオフェンスを有効にした場合、[デバイス機能の Android アプリケーション権限] セクションでデバイスの低精度の場所、高精度の場所、およびバックグラウンドの場所に対するアクセス許可の要求を有効にする必要があります。詳細については、「[Marketing Cloud プッシュ通知を有効にするための Mobile Publisher 項目](#)」を参照してください。

iOS アプリケーションで通知のジオフェンスを有効にした場合、[Marketing Cloud] セクションで通知に対して [場所] も有効にする必要があります。次に、[デバイス機能の iOS アプリケーション権限] セクションで、デバイスの場所とバックグラウンドの場所に対するアクセス許可の要求を有効にする必要があります。

関連トピック:

[Experience Cloud 向け Android アプリケーションの場所ベースのアクセス許可の定義](#)

[Salesforce ヘルプ: Mobile Publisher アプリケーションの Marketing Cloud プッシュ通知の有効化\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: デバイス機能のアプリケーション権限\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Experience Cloud アプリケーションのためのデバイスの iOS 15 以降への更新

アプリケーションバージョン 11.6 以降、Experience Cloud 向け Mobile Publisher iOS アプリケーションでは、iOS 14 デバイスはサポートされなくなりました。Experience Cloud iOS アプリケーションでは、iOS 15 以降が必要です。

対象: この変更は次に適用されます。

- Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Experience Cloud Aura および LWR サイト用 Mobile Publisher を使用して作成されたアプリケーション。
- Experience Cloud iOS アプリケーションバージョン 11.6 以降向け Mobile Publisher。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Requirements for Mobile Publisher for Experience Cloud \(Experience Cloud 向け Mobile Publisher の要件\) \(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ブリーフケースビルダー

ブリーフケースビルダーでは、カスタムメタデータ型のルールがサポートされるようになりました。

このセクションの内容:

[カスタムメタデータ型を使用したオフラインレコード環境のカスタマイズ](#)

ブリーフケースビルダーでカスタムメタデータ型がサポートされるようになったため、カスタムメタデータ型ルールをブリーフケースに追加して、組織のカスタマイズされたメタデータをオフライン派遣作業員に提供することができます。たとえば、カスタムメタデータルールをブリーフケースに追加して、Salesforce Field Service Mobile アプリケーションでカスタムフローをサポートします。

カスタムメタデータ型を使用したオフラインレコード環境のカスタマイズ

ブリーフケースビルダーでカスタムメタデータ型がサポートされるようになったため、カスタムメタデータ型ルールをブリーフケースに追加して、組織のカスタマイズされたメタデータをオフライン派遣作業員に提供することができます。たとえば、カスタムメタデータルールをブリーフケースに追加して、Salesforce Field Service Mobile アプリケーションでカスタムフローをサポートします。

対象: この変更は、Lightning Experience デスクトップと、Field Service が有効になっている Salesforce (SFS) に適用されます。ブリーフケースビルダーでは、iOS および Android 用の Salesforce Field Service Mobile アプリケーションと Salesforce Mobile App Plus がサポートされます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ブリーフケースの作成\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

収益

既存のビジネスプロセスを中断せずに Subscription Management 見積機能を選択的にロールアウトします。営業担当が一元管理された統合ビューで取引先の納入商品を把握し、注文商品から納入商品への変換を制御できるようにします。Salesforce CPQ では標準見積のみがサポートされるようになり、Lightning Web コンポーネントリッチテキストエディターにより CKEditor が置き替えられました。

このセクションの内容:

[Subscription Management](#)

他のビジネスプロセスを中断せずに Subscription Management 見積機能をロールアウトします。営業担当が一元管理された統合ビューで取引先の納入商品を把握し、注文商品から納入商品への変換を制御できるようにします。一部の表示ラベルが変更され、コレクションでアクセシビリティが改善されました。

[Salesforce CPQ と Salesforce Billing](#)

Salesforce CPQ では標準見積のみがサポートされるようになり、Lightning Web コンポーネントリッチテキストエディターにより CKEditor が置き替えられました。Salesforce Billing では、デビットノートを使用した一貫した標準およびサードパーティの税金計算処理がサポートされるようになりました。

Subscription Management

他のビジネスプロセスを中断せずに Subscription Management 見積機能をロールアウトします。営業担当が一元管理された統合ビューで取引先の納入商品を把握し、注文商品から納入商品への変換を制御できるようにします。一部の表示ラベルが変更され、コレクションでアクセシビリティが改善されました。

このセクションの内容:

[既存の見積とサブスクリプション管理の見積の併用](#)

既存のビジネスプロセスを中断することなく、営業担当にサブスクリプション管理の見積もり機能を簡単に提供できます。

単体の納入商品とバンドルされた納入商品の両方のデータの視覚化

営業担当は、取引先のすべての顧客ライフサイクル管理納入商品を一元的かつ統合的に表示できます。取引先ページに取引品目エディターコンポーネントを追加することで、ユーザーは、単体の納入商品とバンドルに含まれる納入商品の両方を表示できます。

注文商品が納入商品に変換されるタイミングの制御

会社で注文を履行する際、いくつかの注文商品は異なるタイミングで履行またはプロジェクトに割り当てられる可能性があります。注文商品が顧客に提供されたときに納入商品が生成されるため、どの製品が完了し、どれがまだ完了していないかを追跡できます。

価格調整階層オブジェクトの階層種別値の変更

他のオブジェクトとの一貫性を確保するため、価格調整階層オブジェクトの階層種別選択リストの値の表示ラベルが変更されました。階層種別選択リスト値の[調整率]が[パーセント]に変更され、[調整金額]が[金額]に変更されました。[上書き]が新しい値として追加されました。

[毎年]から[年]への表示ラベルの変更

納入商品、商品販売モデル、および見積品目オブジェクトの[価格設定期間単位]項目で、[毎年]オプションの表示レベルが[年]に変更されました。[毎年]ラベルは、納入商品オブジェクトの[更新期間単位]項目と見積品目オブジェクトの[サブスクリプション期間単位]項目でも変更されています。

パートナー割引を使用したパートナーエンゲージメントの増加

パートナーセールスに関連する項目の見積書と見積品目に割引機能が拡張され、標準の顧客価格以上の割引を適用可能になりました。営業担当は、パートナーアカウント、パートナー割引、パートナー単価を使用して、顧客への見積書の割引をカスタマイズできます。

回収ユーザーインターフェースのアクセシビリティが向上

プロファイル写真に効果的な補助テキストを表示し、[請求書回収済み]、[Cash Collected This Month (今月回収した現金)]、[Balance Outstanding This Month (今月残高)]の視覚的な表示を改善するため、[コレクション]アイコンのコントラスト比を修正し、[アクション]ボタンをキーボードで操作できるようにしました。

既存の見積とサブスクリプション管理の見積の併用

既存のビジネスプロセスを中断することなく、営業担当にサブスクリプション管理の見積もり機能を簡単に提供できます。

対象: この変更は、Subscription Management ライセンスを使用する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の Sales Cloud または Service Cloud 適用されます。この変更は、同じエディションの Lightning Experience でアクセスする Aura、LWR、および Visualforce サイトにも適用されます。

方法: SubscriptionManagementUser 権限を、サブスクリプション管理の見積もり機能にアクセスする必要がある営業担当に割り当てます。権限がない営業担当は、標準の見積を使い続けることができます。

単体の納入商品とバンドルされた納入商品の両方のデータの視覚化

営業担当は、取引先のすべての顧客ライフサイクル管理納入商品を一元的かつ統合的に表示できます。取引先ページに取引品目エディターコンポーネントを追加することで、ユーザーは、単体の納入商品とバンドルに含まれる納入商品の両方を表示できます。

対象: この変更は、Subscription Management ライセンスを使用する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の Sales Cloud または Service Cloud 適用されます。この変更は、同じエディションの Lightning Experience でアクセスする Aura、LWR、および Visualforce サイトにも適用されます。

理由: 以前は、ユーザーが、バンドルされた納入商品の階層を表示できませんでした。納入商品は、拡張表示することで、バンドルに含まれる商品を確認できるようになりました。

The screenshot shows the Account page for 'Northern Trail Outfitters'. At the top, there's a summary section with fields like Type (Customer), Phone (650-555-5555), Website, Account Owner (Admin User), Industry (Technology), and Billing Address (415 Mission St, San Francisco, CA 94105, US). Below this is the 'Assets (10+)' section, which lists various assets with columns for Asset Name, Quantity, Status, Lifecycle Start Date, and Lifecycle End Date. The 'Managed Assets (15)' section is shown below it, also with the same columns. A red box highlights the 'Managed Assets' section.

Asset Name	Quantity	Status	Lifecycle Start Date	Lifecycle End Date
Trackpad	100.00	Shipped	12/31/2022, 4:00 PM	12/31/2023, 3:59 PM
Keyboard	100.00	Shipped	12/31/2022, 4:00 PM	12/31/2023, 3:59 PM
Computer Peripherals Bundle	100.00	Shipped	12/31/2022, 4:00 PM	12/31/2023, 3:59 PM
Standing Desk	100.00	Purchased	8/31/2023, 5:00 PM	5/1/2024, 4:59 PM
Headset	100.00	Shipped	8/31/2023, 5:00 PM	5/1/2024, 4:59 PM
Duplex Printer	10.00	Purchased	8/31/2023, 5:00 PM	5/1/2024, 4:59 PM
Monitor	100.00	Purchased	8/31/2023, 5:00 PM	5/1/2024, 4:59 PM
Duplex Printer (Color)	4.00	Installed	8/31/2023, 5:00 PM	5/1/2024, 4:59 PM
Shredder	10.00	Purchased	8/31/2023, 5:00 PM	5/1/2024, 4:59 PM
Firewall	1.00	Registered	8/31/2023, 5:00 PM	5/1/2024, 4:59 PM

Asset Name	Quantity	Status	Lifecycle Start Date	Lifecycle End Date
Standing Desk	100.00	Purchased	08/31/2023, 08:00 PM	05/01/2024, 07:59 PM
Headset	100.00	Shipped	08/31/2023, 08:00 PM	05/01/2024, 07:59 PM
Duplex Printer	10.00	Purchased	08/31/2023, 08:00 PM	05/01/2024, 07:59 PM
Computer Peripherals Bundle	100.00	Shipped	12/31/2022, 07:00 PM	12/31/2023, 06:59 PM
Keyboard	100.00	Shipped	12/31/2022, 07:00 PM	12/31/2023, 06:59 PM
Trackpad	100.00	Shipped	12/31/2022, 07:00 PM	12/31/2023, 06:59 PM
Monitor	100.00	Purchased	08/31/2023, 08:00 PM	05/01/2024, 07:59 PM
Duplex Printer (Color)	4.00	Installed	08/31/2023, 08:00 PM	05/01/2024, 07:59 PM
Shredder	10.00	Purchased	08/31/2023, 08:00 PM	05/01/2024, 07:59 PM
Firewall	1.00	Registered	08/31/2023, 08:00 PM	05/01/2024, 07:59 PM

方法: [納入商品] 関連リストが [取引先] レコードページにあることを確認します。Lightning アプリケーションビルダーで [取引品目エディター] を [取引先レコード] ページにドラッグし、表示する列を選択して変更を保存します。ページに [管理納入商品] ビューアーが表示されます。

注文商品が納入商品に変換されるタイミングの制御

会社で注文を履行する際、いくつかの注文商品は異なるタイミングで履行またはプロビジョニングされる可能性があります。注文商品が顧客に提供されたときに納入商品が生成されるため、どの製品が完了し、どれがまだ完了していないかを追跡できます。

対象: この変更は、Subscription Management ライセンスを使用する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の Sales Cloud または Service Cloud 適用されます。この変更は、同じエディションの Lightning Experience でアクセスする Aura、LWR、および Visualforce サイトにも適用されます。

理由: 以前は、注文が納入商品に変換されると、すべての注文商品が一度に納入商品に変換されていました。今回、サブスクリプション管理によって注文商品が変換されるタイミングを指定できるようになりました。また注文全体ではなく、顧客に提供された商品のみを変換できます。

方法: 注文商品を個別に納入商品に変換するには、Order Product to Asset API を使用します。

価格調整階層オブジェクトの階層種別値の変更

他のオブジェクトとの一貫性を確保するため、価格調整階層オブジェクトの階層種別選択リストの値の表示ラベルが変更されました。階層種別選択リスト値の [調整率] が [パーセント] に変更され、[調整金額] が [金額] に変更されました。[上書き] が新しい値として追加されました。

対象: この変更は、Salesforce 価格設定が有効になっている Subscription Management ライセンスを使用する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の Sales Cloud または Service Cloud に適用されます。この変更は、同じエディションの Lightning Experience でアクセスする [Aura](#)、[LWR](#)、および [Visualforce サイト](#) にも適用されます。

方法: 価格調整階層レコードを作成するには、価格調整スケジュールのレコードページで [価格調整階層] タブに移動し、[新規] をクリックします。

[毎年] から [年] への表示ラベルの変更

納入商品、商品販売モデル、および見積品目オブジェクトの [価格設定期間単位] 項目で、[毎年] オプションの表示レベルが [年] に変更されました。[毎年] ラベルは、納入商品オブジェクトの [更新期間単位] 項目と見積品目オブジェクトの [サブスクリプション期間単位] 項目でも変更されています。

対象: この変更は、Subscription Management ライセンスを使用する Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の Sales Cloud または Service Cloud に適用されます。この変更は、同じエディションの Lightning Experience でアクセスする [Aura](#)、[LWR](#)、および [Visualforce サイト](#) にも適用されます。

パートナー割引を使用したパートナーエンゲージメントの増加

パートナーセールスに関連する項目の見積書と見積品目に割引機能が拡張され、標準の顧客価格以上の割引を適用可能になりました。営業担当は、パートナーアカウント、パートナー割引、パートナー単価を使用して、顧客への見積書の割引をカスタマイズできます。

対象: この変更は、サブスクリプション管理およびパートナーコミュニティが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: ユーザーには、RevenueSubscriptionManagementExperienceCloudUser および RevenueSubscriptionManagementExperienceCloudPartnerUser 権限セットライセンスが必要です。

理由: これらの項目は見積品目に追加されます。

- **パートナー取引先:** 取引先へのルックアップ項目である、特定の見積もりに対するパートナー取引先。
- **パートナー割引率:** パートナーの見積品目に適用される割引率。
- **パートナー単価:** 要件品目に割引を加えた後の単価。

方法: 管理者は、視覚的ページレイアウトに項目を追加することで、パートナーから見積品目に割引を適用できるようにすることができます。

回収ユーザーインターフェースのアクセシビリティが向上

プロファイル写真に効果的な補助テキストを表示し、[請求書回収済み]、[Cash Collected This Month (今月回収した現金)]、[Balance Outstanding This Month (今月残高)]の視覚的な表示を改善するため、[コレクション]アイコンのコントラスト比を修正し、[アクション]ボタンをキーボードで操作できるようにしました。

対象: この変更は、Subscription Management ライセンスを使用する Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud または Service Cloud に適用されます。この変更は、同じエディションの Lightning Experience でアクセスする [Aura](#)、[LWR](#)、および [Visualforce サイト](#) にも適用されます。

理由: 視力の弱いユーザーは、コントラストが不十分なグラフィックを認識することが難しく、またスクリーンリーダーではそのようなグラフィックが空白として表示されることがあります。

Salesforce CPQ と Salesforce Billing

Salesforce CPQ では標準見積のみがサポートされるようになりました。Lightning Web コンポーネントリッチテキストエディターにより CKEditor が置き替えられました。Salesforce Billing では、デビットノートを使用した一貫した標準およびサードパーティの税金計算処理がサポートされるようになりました。

このセクションの内容:

[Web 見積の編集と Web ドキュメントの生成機能の廃止](#)

Web 見積からのドキュメントの編集や作成はできなくなりました。Salesforce CPQ で標準見積を使用してください。標準見積レコードでは、見積品目を編集したり、ドキュメントを作成したりできます。

[LWC リッチテキストエディターを使用した見積規約エディターのセキュリティ脆弱性の最小化](#)

見積規約エディターページが、CKEditor を置き替える Lightning Web コンポーネント (LWC) リッチテキストエディターで書き替えられました。

[Salesforce CPQ+ での OmniStudio 機能の使用](#)

Summer '23 から利用できるようになりました。OmniStudio FlexCard、DataRaptor、インテグレーション手順、OmniScript を Salesforce CPQ+ で使用します。

[デビットノートを使用した一貫した標準およびサードパーティの税金計算処理](#)

サードパーティの課税シナリオと標準の税金シナリオの両方でデビットノートの税金計算を一貫して行うために、課税対象のすべてのデビットノート品目に予想税額が入力された後にデビットノートの転記が許可されるように Salesforce Billing が変更されました。

[新しい Connect REST API リソース](#)

このリソースは Salesforce CPQ の新しいリソースです。

Web 見積の編集と Web ドキュメントの生成機能の廃止

Web 見積からのドキュメントの編集や作成はできなくなりました。Salesforce CPQ で標準見積を使用してください。標準見積レコードでは、見積品目を編集したり、ドキュメントを作成したりできます。

対象: この変更は、Salesforce CPQ の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

LWC リッチテキストエディターを使用した見積規約エディターのセキュリティ脆弱性の最小化

見積規約エディターページが、CKEditor を置き替える Lightning Web コンポーネント (LWC) リッチテキストエディターで書き替えられました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: LWC リッチテキストエディターはネイティブの Salesforce コンポーネントであり、セキュリティの脆弱性を最小限に抑え、Salesforce プラットフォームとのスムーズな統合を実現するのに役立ちます。LWC 見積規約エディター環境が CKEditor とは異なるいくつかの点を次に示します。

- テキストの色がグレーで、編集時に変わりません。
- 規約の上にマウスポインターを置いたときにアイコンとメッセージが明るくなります。
- 元に戻すボタンとやり直しボタンは使用できませんが、キーボードショートカットを使用するとこの機能は引き続き達成されます。
- 番号リストは見積ドキュメントジェネレーターとは異なる方法で表示されます。ネストされたレベルでは、LWC リッチテキストエディターでは、数字がすべてのレベルに表示されるのではなく、文字とローマ数字がサブレベルに表示されます。
- LWC リッチテキストエディターでは、8 レベルのインデントがサポートされます。
- 新しいエディターで既存の規約を開くと、インデントと段落の間隔が失われたり、追加されたりする可能性があります。これを解決するには、変更を保存する前に新しいエディターを使用してインデントと段落の間隔を追加または削除します。
- 保存していないすべての変更がエディターから削除されても、[保存] ボタンと [元に戻す] ボタンは無効になりました。

Salesforce CPQ+ での OmniStudio 機能の使用

Summer '23 から利用できるようになった、OmniStudio FlexCard、DataRaptor、インテグレーション手順、OmniScript を Salesforce CPQ+ で使用します。

対象: この変更は、Salesforce CPQ+ の Lightning Experience に適用されます。

デビットノートを使用した一貫した標準およびサードパーティの税金計算処理

サードパーティの課税シナリオと標準の税金シナリオの両方でデビットノートの税金計算を一貫して行うために、課税対象のすべてのデビットノート品目に予想税額が入力された後にデビットノートの転記が許可されるように Salesforce Billing が変更されました。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce モバイルアプリケーションの Salesforce CPQ Plus および Salesforce Billing に適用されます。

方法: ユーザーはまずデビットノートで [税額を予想] アクションをクリックして、各デビットノート品目に予想税額が入力されていることを確認する必要があります。デビットノート品目に予想税額が入力されたら、ユーザーはデビットノートで [税金を適用] アクションをクリックしてデビットノートを転記できます。税額を含むデビットノートの転記は [税金を適用] アクションのみで行うことができます。[状況] 項目の直接手動更新によるデビットノートの転記は、課税対象品目がないデビットノートのみに制限されています。

新しい Connect REST API リソース

このリソースは Salesforce CPQ の新しいリソースです。

見積/注文品目データグリッドおよび関連付けられた概要コンポーネントで即時価格設定データを取得する
新しい

```
/industries/cpq/quotes/actions/get-instant-price
```

リソースに対して POST 要求を実行します。

新しいリクエストボディ: Get Instant Pricing Input

新しいレスポンスボディ: Get Instant Pricing Output

関連トピック:

[Salesforce CPQ Developer Guide \(Salesforce CPQ 開発者ガイド\)](#): Salesforce CPQ Connect API

セールス

新しいインサイトと Winter '24 の高度な生産性機能を使用して、営業チームを強化します。Einstein会話インサイトユーザーは Einstein を使用して 1 回のクリックで通話の概要を作成できるようになりました。パイプラインインスペクションで、適切な人物が商談に関与しているかどうかを確認して、営業担当が商談を成立できるようにサポートします。商談分割、商談商品分割、およびチームの詳細な変更履歴を取得して、正確性を確保し、営業チームメンバーに報酬が正しく支払われるようになります。イネーブルメントでは、迅速に商談を開き、商談を成立して、会社の収益成果を達成できるようにするために必要な商品およびプロセスに関するすべてのナレッジにより、営業チームをすばやく軌道に乗せます。

このセクションの内容:

セールスの基本

商談分割、商談商品分割、商談チームメンバーに対して行われた変更の詳細な履歴を取得できます。活動総計値を確認し、リードと取引先責任者のホームから直接アクションを実行できます。また、ToDo リストの新しい検索条件、並び替え、検索の機能を使用して、最も重要な内容に効率的に焦点を絞ることができます。

[Sales Engagement](#)

Einstein インサイトを使用してケイデンス対象を自動的に管理でき、Sales Engagement の設定が簡単になり、クリックケイデンスやメール生産性を使用できるエディションが増え、My Feed から直接実行できる作業が増えて、バイヤーアシスタントにより販売を加速できます。

[Einstein 会話インサイト](#)

1 回のクリックで通話の概要を作成できます。Einstein を利用した通話の概要では、次のステップや顧客からのフィードバックの提供を含め、音声通話とビデオ通話がサポートされます。Einstein 会話インサイト (ECI) ユーザーは、便利な通話の標準リストビューにアクセスできます。関連レコード照合が改善され、ECI ライセンスを持たないユーザーが関連性の高いインサイトやトランスク립ト情報を表示できます。また、ビデオ通話とビデオ通話参加者向けのプラットフォーム機能も追加されています。

Revenue Intelligence

[Forecast Insights(売上予測インサイト)] ダッシュボードで売上予測の変更を追跡できます。Commit Calculator を使用して、さまざまなシナリオをテストしてパイプラインに対する変更が最終損益に与える可能性がある影響を理解できます。[商品インサイト] ダッシュボードを使用して、営業戦略を最適化できます。CSV ファイルを使用して目標データをアップロードできます。最適化された Einstein 取引先管理アプリケーションを試すことができます。履歴トレンドレポートを使用した数式項目の推移を追跡できます。

パイプラインインスペクション

案件の成立に適切な人が関与しているかどうかを把握できます。更新された UI により、パイプラインインスペクションがより直感的で、ナビゲーションが容易になっています。ユーザーは時間を節約でき、チェックボックス、ルックアップなど、オンラインで編集できる項目が増えました。

コラボレーション売上予測

売上予測マネージャーは、自分の判断を売上予測の商談に適用し、より多くの情報に基づいてより正確に売上予測調整を行うことができるようになりました。売上予測ユーザーは、売上予測商談リストの拡張された詳細と案件インサイトを使用して、売上予測を構成する商談についてより深く理解できます。売上予測ページのデザインの改善により、売上予測データが読みやすく、ページのナビゲーションが容易になりました。

営業チームのイネーブルメント

迅速に商談を開き、商談を成立して、会社の収益成果を達成できるようにするために必要な商品およびプロセスに関するすべてのナレッジにより、営業チームをすばやく軌道に乗せます。プログラムを構築し、割り当て、管理するための新機能により、イネーブルメントチームは作業の流れの中で営業チーム向けのより堅牢でタイミングの良い業務固有のリソースを配信できます。

Salesforce パートナーリレーション管理と PRM for Slack

Salesforce PRM にパイプラインインスペクションが追加され、事前設定済みのダッシュボードに収益、パイプライン、商談、スコアカードレポートが表示されるようになりました。統合設定により、PRM for Slack の設定が合理化されます。オブジェクトサポートが拡張されたことで、検索と投稿での検索の可能性が広がりました。

販売実績管理

テリトリー計画では、郵便番号別ではなく国別に作業を割り当て、手動での項目の照合なしで追加の顧客データをインポートして、エリア名や中心を一括で更新できます。また、Salesforce Maps で顧客の住所を営業担当にロケールに合う形式で表示できます。

Sales Cloud Einstein

Einstein 生成 AI で、営業担当の受信箱をはじめとして Salesforce のどこからでもセールスマールのドラフトを作成でき、必要に応じて商品の情報を含めることができます。売上予測のトレンドや販売予測を一目で評価できます。[Einstein 売上予測] 予測グラフが含まれる [売上予測の変化] グラフは、以前は売上予測ページでしか使用できませんでしたが、ホームページでも使用できるようになりました。

Sales Cloud Everywhere

営業担当がインターネットでプロスペクトを検索すると、Sales Cloud Everywhere Chrome 拡張機能は Web での調査内容をデータベースに反映します。営業担当はワークスペースでデータのグリッド状のビューを使用して案件を管理できます。独自の [ワークスペース] タブを作成して、表示されるデータをカスタマイズできます。小さな ToDo リストでは、新しい並び替えオプション、追加の検索条件、検索機能の拡張により、最も重要な ToDo に焦点を絞ることができます。

他の商品との統合

Activity 360 を使用してメールや ToDo などの活動についてレポートできます。Google から Salesforce に定期的な一連の活動を同期できます。インテグレーション機能や今後の製品の廃止について確認できます。

[Salesforce Meetings](#)

Spring '24 での Meeting Studio の廃止に備えてください。

メール操作環境

Professional Edition および Enterprise Edition で Sales Cloud の価値を高めるため、これまでアドオンライセンスの購入が必要であった機能を利用できます。これらの機能にはメール生産性ツール(後で送信、メール追跡、テキストショートカット、メールエンゲージメントなど)が含まれます。

[Salesforce Inbox](#)

Inbox モバイルは 2024 年 2 月 1 日に廃止されます。Salesforce Inbox に対する最新の改善点を確認してください。

[Open CTI](#)

Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止は、Open CTI の実装に影響を与える可能性があります。

[Sales Cloud のその他の変更](#)

追加されたその他の変更について説明します。

セールスの基本

商談分割、商談商品分割、商談チームメンバーに対して行われた変更の詳細な履歴を取得できます。活動総計値を確認し、リードと取引先責任者のホームから直接アクションを実行できます。また、ToDo リストの新しい検索条件、並び替え、検索の機能を使用して、最も重要な内容に効率的に焦点を絞ることができます。

このセクションの内容:

商談

商談分割、商談商品分割、チームに対する変更を監査して、営業チームメンバーが案件成立への貢献に応じて適切に報酬が提供されるようにできます。商談商品分割レイアウトでカスタム項目をユーザーに表示できます。

取引先責任者

取引先責任者のホームページで、注意が必要な取引先責任者を確認してアクションを実行できます。

リード

取引先責任者のホームページで、注意が必要なリードを確認してアクションを実行できます。

活動

営業担当は ToDo リストの新しい検索条件、並び替え、検索機能を使用して最も重要な ToDo に焦点を絞ることができます。

商談

商談分割、商談商品分割、チームに対する変更を監査して、営業チームメンバーが案件成立への貢献に応じて適切に報酬が提供されるようにできます。商談商品分割レイアウトでカスタム項目をユーザーに表示できます。

このセクションの内容:

実現した IdeaExchange: 分割および商談チームの監査履歴を使用した販売報酬の精度の確保

商談チームおよび分割に対する変更を監査して、営業チームメンバーが案件成立への貢献に応じて適切に報酬が提供されるようにできます。営業チームが商談へのアクセスを共有している場合、誰がいつ変更を行ったかを確認する必要があります。[監査履歴]を使用すれば、商談分割、商談商品分割、商談チームメンバーに対して行われたすべての変更の詳細を把握できます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

カスタム項目を使用したユーザーの商談商品分割ビューの最適化

ユーザーが商談商品分割でカスタム項目を表示して編集できるようにします。たとえば、特定の分割率に対応したビジネスユニットまたは商品項目がある場合、営業チームはこの情報を使用して分割の割り当ての決定を支援できます。



分割および商談チームの監査履歴を使用した販売報酬の精度の確保

商談チームおよび分割に対する変更を監査して、営業チームメンバーが案件成立への貢献に応じて適切に報酬が提供されるようにできます。営業チームが商談へのアクセスを共有している場合、誰がいつ変更を行ったかを確認する必要があります。[監査履歴]を使用すれば、商談分割、商談商品分割、商談チームメンバーに対して行われたすべての変更の詳細を把握できます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: [監査履歴] には、チームメンバーまたは分割に対するそれぞれの変更と、誰が変更を行ったか、変更された項目、現在の値と以前の値などの詳細が表示されます。変更を監視して、報酬が処理される前に問題を検出できます。

Activity	Details	Chatter	Opportunity Splits	Audit History
Team Splits				
Filter By All Fields				
Modified On	Team Member	Action	Changed Field	Current ...
8/2/2023, 1:47 PM	Carlos Cabrera	Updated	Percent (%)	90 100
8/2/2023, 1:47 PM	Sam Standard	Updated	Percent (%)	10 0
8/2/2023, 1:47 PM	Loren Guido	Added		
8/2/2023, 1:47 PM	Sam Standard	Updated	Percent (%)	10 0
8/2/2023, 1:47 PM	Carroll Whifford	Added	Widgets	Revenue Albert Unger
8/2/2023, 1:47 PM	Carlos Cabrera	Added	Crates	Revenue Carlos Cabrera
8/2/2023, 11:55 ...	Carlos Cabrera	Deleted		Revenue Albert Unger
8/2/2023, 11:55 ...	Loren Guido	Deleted	Widgets	Revenue Jen Standard

方法: [設定] で商談分割とチームセーリングが有効になっていることを確認します。続いて、追跡する項目を設定します。オブジェクトマネージャーで、商談分割オブジェクト、商談商品分割オブジェクト、商談チームオブジェクトに移動します。[項目とリレーション] で、[項目履歴管理の設定] に移動して項目を選択します。

商談レコードページに [監査履歴] を表示するには、[監査履歴] ビルダーコンポーネントを追加してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 監査履歴の設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience レコードページの作成および設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

カスタム項目を使用したユーザーの商談商品分割ビューの最適化

ユーザーが商談商品分割でカスタム項目を表示して編集できるようにします。たとえば、特定の分割率に対応したビジネスユニットまたは商品項目がある場合、営業チームはこの情報を使用して分割の割り当ての決定を支援できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 商談分割レイアウトの編集 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

取引先責任者

取引先責任者のホームページで、注意が必要な取引先責任者を確認してアクションを実行できます。

このセクションの内容:

注意が必要な取引先責任者の表示および取引先責任者ホームからのアクションの直接実行

[Contact Intelligence View (取引先責任者インテリジェントビュー)] では、ユーザーは取引先責任者の活動の参照、アクションの実行、レコードの更新を1箇所ですべて行うことができます。以前は、取引先責任者ホームでは簡単なリストビューのみが提供されており、ユーザーは個々のレコードに移動してアクションを実行する必要がありました。

注意が必要な取引先責任者の表示および取引先責任者ホームからのアクションの直接実行

[Contact Intelligence View (取引先責任者インテリジェントビュー)] では、ユーザーは取引先責任者の活動の参照、アクションの実行、レコードの更新を1箇所ですべて行うことができます。以前は、取引先責任者ホームでは簡単なリストビューのみが提供されており、ユーザーは個々のレコードに移動してアクションを実行する必要がありました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: [Contact Intelligence View (取引先責任者インテリジェンスビュー)] では、ユーザーは取引先責任者の迅速な絞り込み、結果のレコードの集計活動統計の表示、連絡のためのアクションの実行を取引先責任者ホームページから直接行うことができます。個々のレコードの詳細な活動を表示するには、ユーザーはレコード名の横にあるサイドパネルアイコンをクリックすることができます。

取引先責任者の活動評価指標には次が含まれます。

- 取引先責任者総数: 検索条件を満たす取引先責任者の総数。
- 活動なし: 完了した活動がない取引先責任者。
- アイドル: 過去の活動はあるが、過去 30 日間に完了した活動がない取引先責任者。
- No Upcoming (今後の活動なし): 最近完了した活動はあるが、将来の活動が予定されていない取引先責任者。
- 期限切れ: 期限切れの活動がある取引先責任者。
- 今日が期日: 今日が期日の活動がある取引先責任者。
- 今後: 今後 30 日後に期限切れになる活動がある取引先責任者。

方法:[取引先責任者インテリジェンスビューの設定]で[取引先責任者インテリジェンスビュー]を有効にして、[取引先責任者リストビュー]ボタンレイアウトに[インテリジェンスビュー]ボタンを追加します。

インテリジェンスビューを表示するには、ユーザーは取引先責任者ホームページに移動して、[Intelligence View (インテリジェンスビュー)]をクリックします。元のリストビューに戻るには、ユーザーは[リストビュー]をクリックすることができます。新しいSalesforceユーザーにはホームページでデフォルトで[Contact Intelligence View (取引先責任者インテリジェンスビュー)]が表示されます。

リード

取引先責任者のホームページで、注意が必要なリードを確認してアクションを実行できます。

このセクションの内容:

注意が必要なリードを確認してリードホームから直接アクションを実行

ユーザーはリードの活動の表示、アクションの実行、レコードの更新をすべてリードインテリジェンスビューの1か所で行うことができます。これまで、リードホームにはシンプルなリストビューしか表示されず、ユーザーは各レコードに移動してアクションを実行する必要がありました。

注意が必要なリードを確認してリードホームから直接アクションを実行

ユーザーはリードの活動の表示、アクションの実行、レコードの更新をすべてリードインテリジェンスビューの1か所で行うことができます。これまで、リードホームにはシンプルなリストビューしか表示されず、ユーザーは各レコードに移動してアクションを実行する必要がありました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: リードインテリジェンスビューで、ユーザーはリードホームページから直接リードをすばやく絞り込み、生成されたレコードの活動統計の集計を確認して、アクションを実行して連絡することができます。個々のレコードの詳細な活動を表示するには、ユーザーはレコード名の横にあるサイドパネルアイコンをクリックすることができます。

リード活動総計値に含まれる内容:

- リード総数: 検索条件を満たすリードの合計数。
- 活動なし: 完了した活動がないリード。
- アイドル: 過去の活動はあるが、過去 30 日間に完了した活動がないリード。
- No Upcoming (今後なし): 最近完了した活動はあるが、今後の活動はスケジュールされていないリード。
- 期限切れ: 期限切れの活動があるリード。
- 今日が期限: 今日が期限の活動があるリード。
- 今後: 今後 30 日以内に期限を迎える活動があるリード。

Total Leads		No Activity	Idle	No Upcoming	Overdue	Due Today	Upcoming
9	6	1	1	3	0	2	
9 items · Filtered by Created Date, Kim E Terry, Total Leads							
Name		Title		Company Name		Last Activity	
1 Brian Heilman			Salesforce			0 cadences	
2 Himan Kakade			Sprouts AirMedia		7/5/2023	0 cadences	

方法: リードインテリジェンスビューの [設定] で [Lead Intelligence View (リードインテリジェンスビュー)] を有効にします。[設定] のリードリストビューボタンレイアウトに [インテリジェンスビュー] の追加が必要な場合もあります。

インテリジェンスビューを表示するには、リードホームページに移動して [Intelligence View (インテリジェンスビュー)] をクリックします。元のリストビューに戻るには、ユーザーは [リストビュー] をクリックすることができます。新規の Salesforce のお客様には、デフォルトでホームページにリードインテリジェンスビューが表示されます。

活動

営業担当は ToDo リストの新しい検索条件、並び替え、検索機能を使用して最も重要な ToDo に焦点を絞ることができます。

このセクションの内容:

ToDo リストでの操作の増加

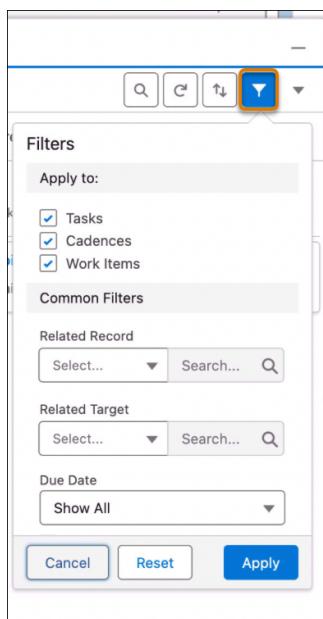
営業担当は ToDo リストから日常業務を行いますが、こうした業務をさらに効率的に行うことができるようになりました。営業担当は追加の絞り込みオプションを使用して最も重要な ToDo のみを表示できます。取引先で絞り込むと、その取引先とその取引先責任者に関連した項目がすべて返されます。並び替えオプションを使用すると、最も重要なデータが一番上に表示されます。また、新しい検索オプションを使用して目的の項目を正確に見つけ出すことができます。各 ToDo の状況に対応するアクションにより、業務をより簡単に行うことができます。

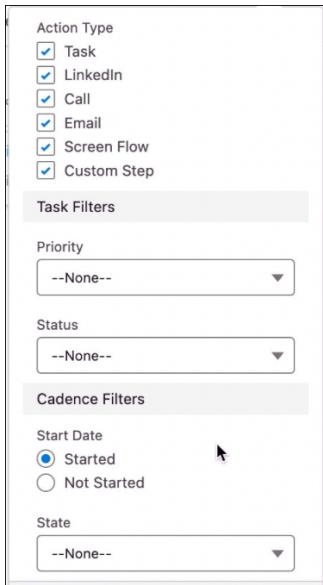
ToDo リストでの操作の増加

営業担当は ToDo リストから日常業務を行いますが、こうした業務をさらに効率的に行うことができるようになりました。営業担当は追加の絞り込みオプションを使用して最も重要な ToDo のみを表示できます。取引先で絞り込むと、その取引先とその取引先責任者に関連した項目がすべて返されます。並び替えオプションを使用すると、最も重要なデータが一番上に表示されます。また、新しい検索オプションを使用して目的の項目を正確に見つけ出すことができます。各 ToDo の状況に対応するアクションにより、業務をより簡単に行うことができます。

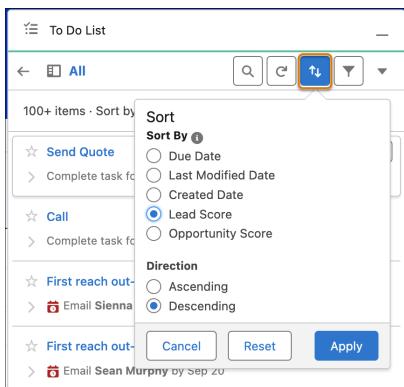
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning Experience または Sales Cloud Chrome 拡張機能で、検索条件アイコンをクリックします。

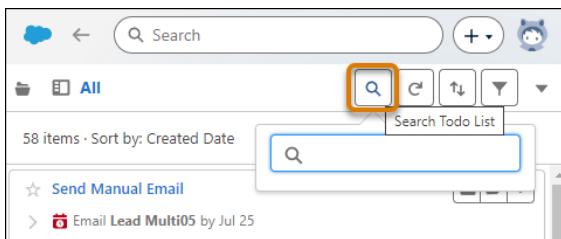




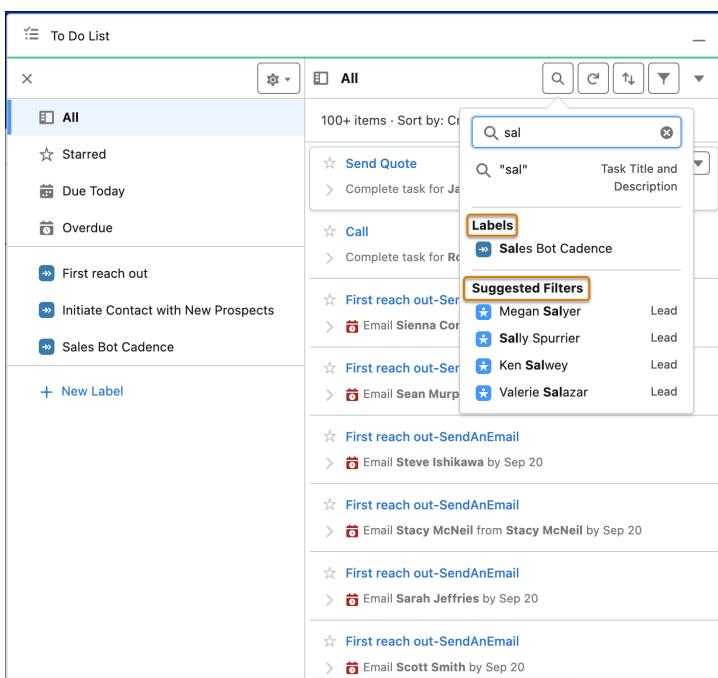
並び替えオプションは、項目をすばやく見つけ出すのに役立ちます。使用を開始するには、[並び替え]アイコンをクリックします。



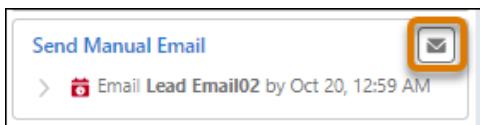
新しい検索オプションを使用するには、[検索]アイコンをクリックします。



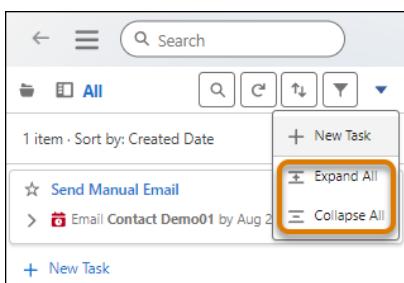
[検索]項目に入力しているときに、検索する表示ラベルと検索条件が提案されます。



To Do リストでは、各カードがまとめられ、後から展開するオプションが表示されます。カーソルをカードの上に移動すると、状況に対応するアクションアイコンが表示されます。



すべてのカードを同時に展開したり折りたたんだりすることができます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: To Do リストを使用した To Do の整理および完了 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Sales Cloud Everywhere Chrome 拡張機能の To Do リストでの作業 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Set Up Sales Engagement \(Sales Engagement の設定\) \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Sales Engagement

Einstein インサイトを使用してケイデンス対象を自動的に管理でき、Sales Engagement の設定が簡単になり、クリックケイデンスやメール生産性を使用できるエディションが増え、My Feed から直接実行できる作業が増えて、バイヤーアシスタントにより販売を加速できます。

価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Sales Dialer も有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

このセクションの内容:

[Einstein インサイトが発生したときのケイデンス対象の管理](#)

ユーザーはより柔軟にケイデンス目標を管理できるようになりました。Einstein インサイトによってトリガーされるケイデンスアクションを使用して、ユーザーはさらに多くの作業を Salesforce に任せて、販売に集中できます。

[Sales Engagement 機能のより簡単な設定](#)

Sales Engagement の [設定] では、ビジネスに必要な設定を迅速に見つけて定義できます。Sales Engagement にはケイデンス以外にも多くの機能が含まれるようになっているため、[設定] ページがさまざまな販売者向け機能に焦点を絞った設定が含まれる個別のタブに分けられました。

[Sales Engagement の設定でミーティングのオプションを容易に設定](#)

Sales Engagement の設定の新しいオプションを使用して、ミーティングを最大限に活用できます。

[クリックケイデンスおよびメール生産性機能が含まれるエディションの増加](#)

SalesCloud の価値を高めるため、これまでアドオンライセンスの購入が必要であった機能が含まれるようになりました。これらの機能では、販売者の作業をより容易および効率的にする追加の機能が提供されます。これらの機能にはクリックケイデンスやメール生産性ツール(後で送信、メール追跡、テキストショートカット、メールエンゲージメントなど)が含まれます。メールエンゲージメント機能には、Outlook および Gmail インテグレーションパネルの [私のフィード]、SalesCloud Everywhere からの通知、エンゲージメントデータ用のカスタムレポートタイプが含まれます。

[バイヤーアシスタント\(正式リリース\)を使用した販売サイクルの加速](#)

顧客重視のバイヤーアシスタントを Web サイトに追加することで、パーソナライズされた会話を提供し、高い評価のリードを生成できます。バイヤーアシスタントボットにより、Web-to-リード環境が変わり、多数の顧客との関係を構築できます。それぞれのバイヤーアシスタントには商談を合理化するためのダイアログと自動化フローが含まれます。たとえば、バイヤーアシスタントは営業時間後に商品の価値を顧客に売り込み、顧客情報を収集して、顧客とのミーティングをスケジュールできます。また、担当者はリアルタイムでリードとチャットできます。Web 用のバイヤーアシスタントは、ガイド付きのオンボーディング環境を使用してすばやく立ち上げて実行できます。その後、ブランドに合わせてパーソナライズし、ビジネスニーズに対応できます。

[同時に作業できるケイデンス対象が増えたことによる時間の節約](#)

ユーザーは 1 回のアクションで最大 50,000 件の対象を追加、削除、一時停止、または再開できるようになりました。これまで一度に作業できる対象は最大 200 件のみでした。

ケイデンス待機ステップの廃止

Summer '23 でケイデンスアクションとリストナーステップで新しいステップタイミング項目が導入されたため、待機ステップを使用する必要がなくなりました。Winter'24 で、残っている待機ステップは各待機ステップに続くアクションステップで [このステップを開始] 項目を使用するように自動的に変換されます。たとえば、Winter'24 でケイデンスに通話ステップが含まれていて、1日の待機ステップとメールステップが続いている場合、待機ステップは削除され、待機期間がメールステップの [このステップを開始] 項目に追加されます。

Einstein インサイトが発生したときのケイデンス対象の管理

ユーザーはより柔軟にケイデンス目標を管理できるようになりました。Einstein インサイトによってトリガーされるケイデンスアクションを使用して、ユーザーはさらに多くの作業を Salesforce に任せて、販売に集中できます。

対象: この変更は、Lightning Experience の Sales Engagement に適用されます。Sales Engagement は、Performance Edition および Unlimited Edition で使用でき、Enterprise Edition ではアドオンとして利用できます。

対象ユーザー: この機能は、「Sales Engagement ユーザー」または「Sales Engagement ケイデンス作成者」および「自動アクションユーザー」権限と Einstein 活動キャプチャへのアクセス権を持つユーザーが使用できます。

理由: ユーザーは、メール、電話、ミーティングから Einstein インサイトによってトリガーされる自動アクションを使用して見込み客を自動的に管理できるようになりました。ユーザーは、Einstein によって特定のインサイトが表示されたときにケイデンス対象を追加、削除、一時停止、または再開する自動アクションを設定できます。これまででは、ケイデンス対象管理はレコードの作成または更新に基づいて自動化するしかありませんでした。

方法: ユーザーは自動アクションを作成するときに、Einstein インサイトオブジェクト、インサイト種別、ケイデンスアクションをトリガーするインサイトの詳細を選択できます。

New Automated Action

Eliminate tedious tasks and start running on autopilot. Specify an action to perform, conditions that trigger the action, and kick off automations on records you own.

Actions Conditions Name and Description	<div style="border-bottom: 1px solid #ccc; margin-bottom: 10px;"> Perform the action <input checked="" type="radio"/> Automatically <input type="radio"/> Remind Me </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> Conditions Select the object to work with and the conditions that trigger your action. The items shown in this section depend upon the action you choose above. </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> * Object (i) Einstein Insight X </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> Cadence Target (i) The prospect that generated the insight. </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> Conditions (i) * Insight Type Email Insight </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> * Insight Operator Custom Email Insight Contains Any </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> Keywords Salesforce, Contacts </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> > Show Advanced Conditions </div>
---	---

インサイトで自動アクションをトリガーするには、次の Einstein 機能を 1つ以上有効にする必要があります。

- Einstein 活動キャプチャと Activity 360 の組み合わせにより、メールからのインサイトが得られます。
- Einstein 会話インサイトにより、電話とミーティングの記録からのインサイトが得られます。

Sales Engagement 機能のより簡単な設定

Sales Engagement の [設定] では、ビジネスに必要な設定を迅速に見つけて定義できます。Sales Engagement にはケイデンス以外にも多くの機能が含まれるようになっているため、[設定] ページがさまざまな販売者向け機能に焦点を絞った設定が含まれる個別のタブに分けられました。

理由: Sales Engagement には自動化、顧客エンゲージメント追跡、チャットボット、ケイデンス、自動アクションなどの機能が含まれるようになりました。新しい[設定]ページには Sales Engagement 機能のほか、Sales Engagement と連携する関連機能へのリンクも含まれています。

Get Started with Sales Engagement

Accelerate your sales teams with a system of action and engagement, right where your reps work. You will sell faster by unlocking capabilities that enable your teams to connect with customers at scale. Meet customers wherever they are, across Salesforce or other channels. Use the power of automation to guide and speed up every touchpoint. Confidently make the next move with insights and tasks served up at the right time in order to make every moment count.

To set up Sales Engagement, review and complete settings for each business capability below.



Engage Automate Email Call Meet Guide

Engage

Enable experiences that will help sellers prioritize and engage with prospects, prepare target lists, research customers across the Web, and connect via social channels.

- › Take Action in Lightning Experience
- › Take Action Everywhere on the Web

Bring the power of Salesforce to every web page, and empower users during customer research, list building, and task management.
- › Engage on Social Media

Let users see their prospects' social media profiles on lead, contact, opportunity, and account pages, and digitally connect.

Sales Engagement の設定でミーティングのオプションを容易に設定

Sales Engagement の設定の新しいオプションを使用して、ミーティングを最大限に活用できます。

理由: Sales Engagement 機能は、メールへの提案ミーティング時間の挿入や Salesforce Meetings の使用など、Salesforce の関連機能と連携します。

Get Started with Sales Engagement

Accelerate your sales teams with a system of action and engagement, right where your reps work. You will sell faster by unlocking capabilities that enable your teams to connect with customers at scale. Meet customers wherever they are, across Salesforce or other channels. Use the power of automation to guide and speed up every touchpoint. Confidently make the next move with insights and tasks served up at the right time in order to make every moment count.

To set up Sales Engagement, review and complete settings for each business capability below.



Engage Automate Email Call **Meet** Guide

Meet

Help your teams get the most out of their meetings with Meeting Digest and Microsoft Teams.

- Meeting Digest**

Help your users deliver the most productive meetings with Meeting Digest. Includes an enhanced event layout. Review Activity sync requirements and available features with each solution. [Set Up](#)
- Microsoft Teams**

Let sales reps access Salesforce Meetings directly from Microsoft Teams. [Set Up](#)
- 1 Meeting Availability**

To let Salesforce suggest meeting times, tell your users to set their availability in Meetings Settings in their personal settings. [Learn More](#)
- 2 Add Meeting Digest to the Event Page Layout**

Edit your customized event page layouts to include the Meeting Digest component. [Go to Lightning Record Page](#)

メールに含めるミーティング時間が Salesforce によって提案されるとき、ミーティング対応可能状時間⁽¹⁾によって提案される時間が決まります。ユーザーが対応可能時間を設定していることを確認してください。

 **メモ:** この機能を使用するには、Inboxが必要です。

Salesforce Meetings では、行動の詳細レコードに [ミーティングのダイジェスト] タブが表示されます。ミーティングのダイジェストコンポーネント⁽²⁾の機能を使用して、事前にミーティングや行動の準備をします。このコンポーネントは、行動の詳細レコードページがカスタマイズされていない場合、自動的に追加されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Meetings の設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

クイックケイデンスおよびメール生産性機能が含まれるエディションの増加

Sales Cloud の価値を高めるため、これまでアドオンライセンスの購入が必要であった機能が含まれるようになりました。これらの機能では、販売者の作業をより容易および効率的にする追加の機能が提供されます。これらの機能にはクイックケイデンスやメール生産性ツール(後で送信、メール追跡、テキストショートカット、メールエンゲージメントなど)が含まれます。メールエンゲージメント機能には、Outlook および Gmail インテグレーションパネルの [私のフィード]、Sales Cloud Everywhere からの通知、エンゲージメントデータ用のカスタムレポートタイプが含まれます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Professional Edition (Sales Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

時期: この変更は、2023 年 7 月 19 日に表示されます。

方法: Professional Edition と Enterprise Edition に含まれている一部の機能は、自動的に有効になりません。[設定] で、ビジネスに必要な特定の機能を有効にします。新しいユーザーがこれらの機能にアクセスできるようにするには、ユーザーに適切な権限を割り当てます。これらの新機能は、最大 100 人のユーザーに割り当たることができます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: クイックケイデンスを使用したアウトリーチ ToDo の簡素化 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Salesforce でのメールの操作 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Sales Engagement 機能の有効化 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

バイヤーアシスタント(正式リリース)を使用した販売サイクルの加速

顧客重視のバイヤーアシスタントをWebサイトに追加することで、パーソナライズされた会話を提供し、高い評価のリードを生成できます。バイヤーアシスタントボットにより、Web-to-リード環境が変わり、多数の顧客との関係を構築できます。それぞれのバイヤーアシスタントには商談を合理化するためのダイアログと自動化フローが含まれます。たとえば、バイヤーアシスタントは営業時間後に商品の価値を顧客に売り込み、顧客情報を収集して、顧客とのミーティングをスケジュールできます。また、担当者はリアルタイムでリードとチャットできます。Web用のバイヤーアシスタントは、ガイド付きのオンボーディング環境を使用してすぐ立ち上げて実行できます。その後、ブランドに合わせてパーソナライズし、ビジネスニーズに対応できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: バイヤーアシスタントを作成するには、[設定] で [Sales Engagement] の [バイヤーアシスタント] ページに移動します。または、Einsteinボットの[設定]ページに移動して、バイヤーアシスタントテンプレートを使用して拡張ボットを作成します。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:バイヤーアシスタントを使用したセールスアウトーチの自動化\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

同時に作業できるケイデンス対象が増えたことによる時間の節約

ユーザーは1回のアクションで最大50,000件の対象を追加、削除、一時停止、または再開できるようになりました。これまで一度に作業できる対象は最大200件のみでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Professional Edition (Sales Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

ケイデンス待機ステップの廃止

Summer '23 でケイデンスアクションとリストナーステップで新しいステップタイミング項目が導入されたため、待機ステップを使用する必要がなくなりました。Winter '24 で、残っている待機ステップは各待機ステップに続くアクションステップで[このステップを開始]項目を使用するように自動的に変換されます。たとえば、Winter '24 でケイデンスに通話ステップが含まれていて、1日の待機ステップとメールステップが続いている場合、待機ステップは削除され、待機期間がメールステップの[このステップを開始]項目に追加されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Professional Edition (Sales Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

方法: 待機ステップが必要なカスタムコードを使用している場合は、そのコードを更新する必要があります。

Einstein 会話インサイト

1回のクリックで通話の概要を作成できます。Einstein を利用した通話の概要では、次のステップや顧客からのフィードバックの提供を含め、音声通話とビデオ通話がサポートされます。Einstein 会話インサイト (ECI) ユーザーは、便利な通話の標準リストビューにアクセスできます。関連レコード照合が改善され、ECI ライセンスを持たないユーザーが関連性の高いインサイトやトランスク립ト情報を表示できます。また、ビデオ通話とビデオ通話参加者向けのプラットフォーム機能も追加されています。

Einstein 会話インサイトでは通話は記録されません。自分で Sales Dialer、その他のサポートされるパートナーなどの録音システムに接続してください。通話が録音される方法について、同意を管理し、地域のプライバシー要件に準拠するのはお客様の責任です。

このセクションの内容:

[Einstein を使用した通話の概要の作成](#)

生成 AI を活用して、顧客との通話について知る必要があるすべての情報のスナップショットを作成したくありませんか? Einstein 会話インサイトユーザーは、生成系 AI を使用して音声通話とビデオ通話の概要を作成できます。ユーザーはすべての通話レコードに表示される Einstein 搭載の新しい [概要] タブで次のステップやお客様からのフィードバックを含む編集可能な概要を作成し、作業のフローでチームコラボレーションを容易に行うために概要を共有できます。

[通話の簡単な確認](#)

営業マネージャーや他の Einstein 会話インサイト (ECI) ユーザーはリストビューとレコード詳細ビューを切り替えなくても、通話の詳細を表示しながら通話リストにすばやく目を通すことができます。

[より多くの関連レコードに自動的に照合](#)

営業チームは関連レコードを手動で関連付ける時間を短縮し、販売により多くの時間をかけることができます。関連レコード照合が改善され、ビデオ通話と音声通話をより適切に照合できるようになりました。これらの機能強化には、通話により関連した商談、取引先、リード、または取引先責任者を照合して優先する新しい基準が含まれます。

[通話アクセスを使用したユーザーとの会話データの共有](#)

これまでインサイトやトランスク립トスニペットを含む Einstein 会話インサイト (ECI) データを使用できるのは ECI ライセンスを持つユーザーのみでした。音声通話とビデオ通話へのアクセス権を持つユーザーは、ECI ライセンスを持っていなくても、通話レコードの ECI データ、関連レコードの活動タイムライン、レポートにアクセスできるようになりました。ただし、通話を処理し、ECI Analytics ダッシュボードにアクセスできるのは、ECI ライセンスを持つユーザーのみです。

[音声通話とビデオ通話のトランスク립トの改善](#)

Einstein 界ワイン祭と (ECI) のユーザーは、改良された新しいトランスク립トエンジンを利用できるようになります。音声通話やビデオ通話のより正確なトランスク립トを取得できます。

[Einstein 会話インサイトへのその他の変更](#)

ビデオ通話とビデオ通話参加者向けのプラットフォーム機能が増えました。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

Einstein を使用した通話の概要の作成

生成 AI を活用して、顧客との通話について知る必要があるすべての情報のスナップショットを作成したくありませんか? Einstein 会話インサイトユーザーは、生成系 AI を使用して音声通話とビデオ通話の概要を作成できます。ユーザーはすべての通話レコードに表示される Einstein 搭載の新しい [概要] タブで次のステップやお客様からのフィードバックを含む編集可能な概要を作成し、作業のフローでチームコラボレーションを容易に行うために概要を共有できます。

対象: この機能は、Einstein 会話インサイトと Einstein for Sales が必要で、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。Einstein 生成 AI は Lightning Experience で使用できます。

セールス向け Einstein アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

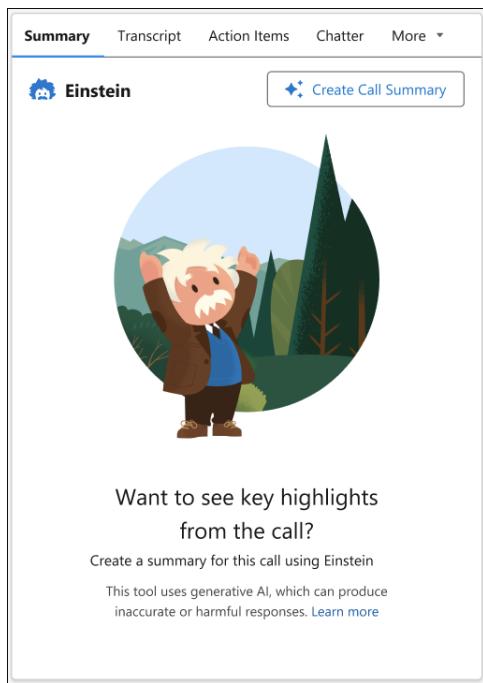
対象ユーザー: この機能は、「Einstein Sales Call Summaries (Einstein 営業電話の概要)」権限セットと音声通話またはビデオ通話レコードへのアクセス権を持つユーザーが使用できます。この権限セットを持たないユーザーは、レコードへのアクセス権があれば概要データを表示してコピーできますが、通話の概要を作成したり編集したりすることはできません。

理由: 新しい [概要] タブを使用して通話の概要を作成およびアクセスします。

The screenshot shows the Salesforce Einstein Call Summary page for a video call between Gabriela Silva and Alex Zhang. The top navigation bar includes Sales, Home, Work Queue, Cadences, Opportunities, Conversation Insights, Leads, Tasks, Files, Accounts, Contacts, Video Calls, and More. The main content area displays the following information:

- Video Call:** TrailTech Discussion
- Call Details:** Call Started 9/7/2023, 10:21 AM; Call Duration 00:35:24; Language English; Call Type Google Meet; Related Record Adventure for Life; Owner Name Alex Zhang.
- Meeting Playback:** Shows a video of two people laughing. Below the video are controls for playback (rewind, play, fast forward, volume), timestamp (00:00/04:56), and zoom level (1x).
- Participants:** Customer (Adventure for Life - Gabriela Silva) and Internal Reps (NorthernTrail - Alex Zhang).
- Insights:**
 - Automatic Insights: Questions (2), Pricing (2), Next Steps (3), Challenges (1).
 - Objections: Budget (1), Authority (1).
 - Competitors: Peak Systems (3).
- Transcript:** Einstein (Created by Einstein). Customer Impression: The customer seemed satisfied with the call and appreciated the assistance provided by the seller. They expressed gratitude and ended the call on a positive note.
- Call Summary:** During the call, Alex Zhang from Northern Trail presented the benefits of TrailTech, highlighting its features, customization options, and automation capabilities, while also acknowledging Peak Systems' advantage in coaching. Both parties discussed the potential benefit of TrailTech for Adventure for Life's sales operations. Gabriela Silva was particularly interested in feature gap comparison between TrailTech and Peak Systems to make an informed decision for her company.
- Next Steps:** Customer to review the information provided and discuss with the team.

標準の通話の概要には、概要の他にお客様からの印象と次のステップが含まれます。[通話の概要を作成]をクリックして、音声通話またはビデオ通話の概要を作成します。



編集ボタンをクリックして通話の概要の内容を更新します。

Meeting
2 min ago | Today
Created by Einstein

Customer Feedback
The customer seemed satisfied with the call and appreciated the assistance provided by the seller. They expressed gratitude and ended the call on a positive note.

Call Summary
During the call, Sam Rhodes from Salesforce presented the benefits of Salesforce Unlimited, highlighting its features, customization options, and automation capabilities, while also acknowledging Microsoft's advantage in coaching. Both parties discussed the potential benefits of Salesforce Unlimited for Adventure for Life's sales operations.

Next Steps

- Customer to review the information provided and discuss with the team
- Finalize decision on plan options
- Follow-up meeting scheduled for August 7th.

Cancel **Save**

ユーザーは[通話の概要]関連リスト Lightning コンポーネントで、レコードに関連する通話と概要を表示できます。このコンポーネントには、活動タイムラインと同じ一致ロジックを使用して、特定のレコードに関連した音声通話とビデオ通話の概要が表示されます。

The screenshot shows the Einstein Conversation Insights interface for an opportunity named 'Adventure for Life'. At the top, it displays basic details: Account Name (Adventure for Life), Close Date (5/20/23), Amount (\$230,000.00), and Opportunity Owner (Sam Rhodes). Below this is a navigation bar with green chevron icons. The 'Related' tab is selected. Under 'Call Summaries (12)', there are two entries: 'Meeting with Lauren Bailey' (2 min ago | Today) and 'Pricing Questions' (10:00am | 5/3/23).

現在、通話の概要は、トランск립トを含む英語での通話に制限されています。通話が長い場合、概要が生成されないことがあります。

方法: [設定] の [Einstein for Sales] ページで機能を有効にします。

The screenshot shows the 'Einstein for Sales' configuration page. On the left, there's a sidebar with 'PLATFORM TOOLS' and 'Einstein for Sales' selected. The main area has three sections: 'Set Up Call Summaries' (with a 'Turn on Call Summaries for Einstein Conversation Insights' toggle switch set to 'Disabled'), 'Who Can Use Call Summaries' (with an 'Assign Permission Sets' button), and 'Add Call Summaries to Page Layouts' (with an 'Add to Page Layout' button).

[概要] タブは、ほとんどの音声通話とビデオ通話のページレイアウトにデフォルトで追加されますが、デフォルトのページレイアウトを編集した場合、Lightning アプリケーションビルダーから追加する必要があることがあります。

関連する通話の概要がある可能性があるレコードのレイアウトに [通話の概要] 関連リストを追加します。

関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[Salesforce ヘルプ: 音声通話およびビデオ通話レコードへの通話の概要の追加\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

通話の簡単な確認

営業マネージャーや他の Einstein 会話インサイト (ECI) ユーザーはリストビューとレコード詳細ビューを切り替えなくても、通話の詳細を表示しながら通話リストにすばやく目を通すことができます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Performance Edition および Unlimited Edition で使用でき、Enterprise Edition ではアドオンとして利用できます。

理由: 標準のリストビューを使用して、音声通話やビデオ通話を次々と確認できます。通話レビューでは、個々の通話レコードの詳細を表示しながら、分割ビューと検索条件を使用して通話のリストを確認できます。

The screenshot shows the Einstein Conversation Insights interface within the Salesforce Lightning Experience. The top navigation bar includes Sales, Home, Work Queue, Cadences, Opportunities, Conversation Insights, Leads, Tasks, Files, Accounts, Voice Calls, Video Calls, and More. The main area displays a 'Video Call Review' for a 'Sales Meeting'. Key details shown include: Call Started 5/17/2023, 10:21 AM; Call Duration 00:04:56; Language English; Call Type Microsoft Teams; Related Record Adventure for Life; and Owner Name Sam Rhodes. On the left, a list of recent meetings is visible, such as 'Meeting with Lauren Bailey' and 'Sales Meeting'. The right side features sections for 'Meeting Playback' (with a video thumbnail of two people smiling), 'Insights' (including Automatic Insights like Questions (2) and Next Steps (3), Objections (Need (1), Time (1)), and Competitors (IER (1))), and 'Einstein' (sections for Purpose, Next Steps, Concerns/Obstacles, and Conclusion). A summary transcript is also present.

標準の検索条件は、最も一般的なユースケースに合わせて調整されています。

方法: アプリケーションランチャーからいずれかのオブジェクトを選択するか、ECI ダッシュボードから [最新の通話] リンクを選択すると、[音声通話レビュー] および [ビデオ通話レビュー] リストビューがデフォルトで選択されるようになりました。分割ビューを使用するには、これらのタブがナビゲーションバーに固定されていることを確認してください。

より多くの関連レコードに自動的に照合

営業チームは関連レコードを手動で関連付ける時間を短縮し、販売により多くの時間をかけることができます。関連レコード照合が改善され、ビデオ通話と音声通話をより適切に照合できるようになりました。これらの機能強化には、通話により関連した商談、取引先、リード、または取引先責任者を照合して優先する新しい基準が含まれます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Performance Edition および Unlimited Edition で使用でき、Enterprise Edition ではアドオンとして利用できます。

理由: 関連レコード照合アルゴリズムが強化され、より多くの関連レコードが識別されるようになりました。これらのレコードは自動的に音声通話とビデオ通話の [関連レコード] 項目に追加され、会話データが自動的に対応するレコードに追加されます。

識別されたレコードはより便利な順に優先順位が付けられます。関連商談は最初に照合され、続いて取引先が照合されます。

レコードユーザーが関連レコードとして手動で追加できるレコードタイプが拡張されました。ビデオ通話と音声通話では、レコードタイプに取引先、ケース、取引先責任者、リード、商談、カスタムオブジェクトが含まれます。

方法: [設定] で [関連レコード照合] 機能が有効になっていることを確認します。この設定は商談マッチングから更新されました。

通話アクセスを使用したユーザーとの会話データの共有

これまでインサイトやトランスクリプトスニペットを含む Einstein 会話インサイト (ECI) データを使用できるのは ECI ライセンスを持つユーザーのみでした。音声通話とビデオ通話へのアクセス権を持つユーザーは、ECI ライセンスを持っていなくても、通話レコードの ECI データ、関連レコードの活動タイムライン、レポートにアクセスできるようになりました。ただし、通話を処理し、ECI Analytics ダッシュボードにアクセスできるのは、ECI ライセンスを持つユーザーのみです。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Performance Edition および Unlimited Edition で使用でき、Enterprise Edition ではアドオンとして利用できます。

理由: 以前は、音声通話とビデオ通話を表示する権限を持つが ECI ライセンスを持たないユーザーは、通話レコードの通話データ、活動タイムライン、レポートを表示できましたが、詳細な会話データは表示することができませんでした。

このようなユーザーも ECI ライセンスを持つユーザーと同じ環境を使用できるようになりました。これには、通話インサイト、次のステップ、完全な通話トランスクリプト、通話再生機能のあるメディアプレーヤーへのアクセスが含まれます。これが適用されるのは、共有ルール、ロール階層、直接共有を通じて ECI データで共有される場合です。

通話の処理と Analytics ダッシュボードへのアクセスは、ECI ライセンスを持つユーザーに限定されます。

音声通話とビデオ通話のトランスクリプトの改善

Einstein 界ワイン祭と (ECI) のユーザーは、改良された新しいトランスクリプトエンジンを利用できるようになり、音声通話やビデオ通話のより正確なトランスクリプトを取得できます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Performance Edition および Unlimited Edition で使用でき、Enterprise Edition ではアドオンとして利用できます。Einstein は Lightning Experience で使用できます。

理由: Einstein 会話インサイトは、OpenAI の Whisper 自動音声認識 (ASR) エンジンの内部実装を使用するようになりました。このエンジンは、600,000 時間を超える多言語およびマルチタスクの教師ありデータでトレーニング、以前のエンジンと比較して単語の誤り率を 10 ~ 15% 改善しました。

Whisper ASR エンジンは英語のみで利用できます。以前のエンジンでは間違って文字起こしされて取り込めなかったキーワードも、Whisper では取り込めるようになりました。

Einstein 会話インサイトへのその他の変更

ビデオ通話とビデオ通話参加者向けのプラットフォーム機能が増えました。

対象: これらの変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Performance Edition および Unlimited Edition で使用でき、Enterprise Edition ではアドオンとして利用できます。

ビデオ通話レコードに関するプラットフォーム機能の追加

ビデオ通話に関する組織の共有設定を編集できます。関連レコードとしてビデオ通話が関連付けられているレコードタイプでは、関連リストをビデオ通話に追加できます。ビデオ通話はカスタムオブジェクトとの主従関係の対象にできます。

ビデオ通話参加者レコードに関するプラットフォーム機能の追加

ビデオ通話参加者レコードが Salesforce に表示されるようになり、使用可能なタブ、オブジェクトのホーム、レコードのホームがあります。ビデオ通話参加者オブジェクトはオブジェクトマネージャーでのカスタマイズに使用できます。また、ビデオ通話参加者を最上位のレポートオブジェクトとして作成したり、ビデオ通話と結合したりできます。

Revenue Intelligence

[Forecast Insights (売上予測インサイト)] ダッシュボードで売上予測の変更を追跡できます。Commit Calculator を使用して、さまざまなシナリオをテストしてパイプラインに対する変更が最終損益に与える可能性がある影響を理解できます。[商品インサイト] ダッシュボードを使用して、営業戦略を最適化できます。CSV ファイルを使用して目標データをアップロードできます。最適化された Einstein 取引先管理アプリケーションを試すことができます。履歴トレンドレポートを使用した数式項目の推移を追跡できます。

このセクションの内容:

Sales Engine の健全性の監視

[Forecast Insights(売上予測インサイト)] ダッシュボードで売上予測の変更を追跡できます。前期比分析を使用して、ペロシティ、パイプカバー率、その他の KPI を監視できます。

Commit Calculator を使用した営業シナリオの探索

Commit Calculator を使用して、さまざまなシナリオをテストしてパイプラインに対する変更が最終損益に与える可能性がある影響を理解できます。

さまざまな区分での商品の売れ行きの理解

[商品インサイト] ダッシュボードを使用して、営業戦略を最適化できます。顧客の購入、商品を新しい区分に配置する機会、市場トレンドを追跡できます。営業チームによる新商品の市場への投入の成否をしばらく確認できます。

Revenue Intelligence への目標データのアップロード

どこに保存したかに関係なく、Revenue Intelligence で目標データを使用できます。そのため、CSV ファイルを使用して目標データをアップロードできます。これまで、SalesCloud コラボレーション 売上予測の目標データのみが Revenue Intelligence ダッシュボードに表示されていました。

更新された Einstein 取引先管理アプリケーションを使用した迅速なデータの検索

アプリケーションを迅速に設定し、更新された Einstein 取引先管理アプリケーションでデータをより簡単に検索できます。Einstein 取引先管理を設定するときに、必要な取引先と商談にデータを制限できます。また、ダッシュボードは列を減らすことで合理化されており、より簡単に関連する KPI を検索できます。

数式項目の変更履歴の追跡

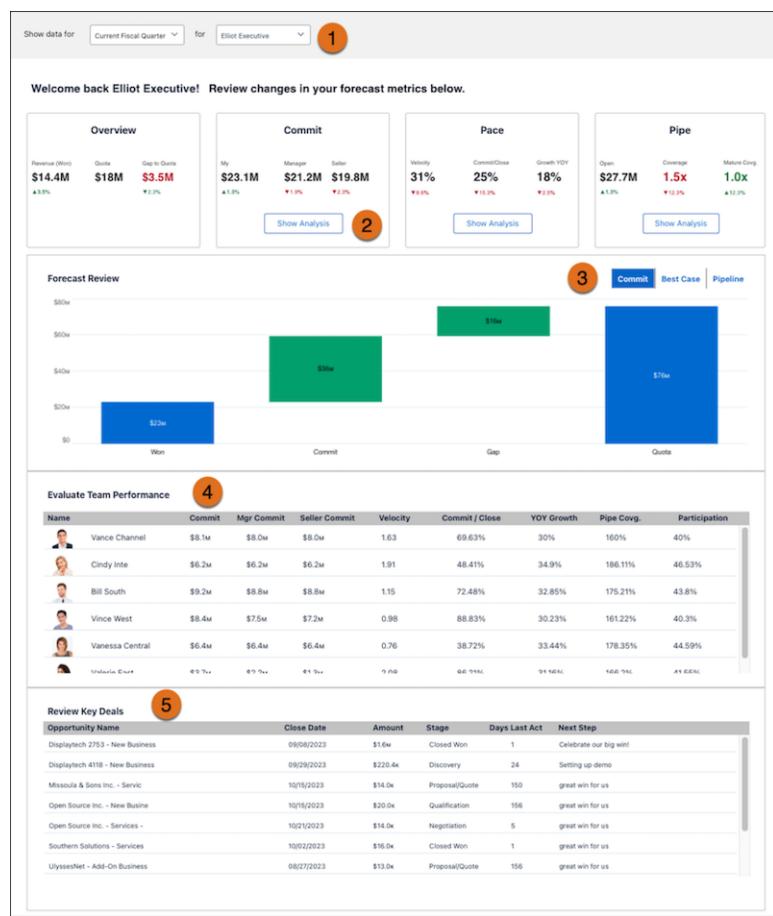
履歴トレンドレポートを使用した数式項目の推移を追跡することで、営業サイクルの計算済みの値を理解できます。以前は、履歴トレンドレポートでは数式項目が使用できませんでした。

Sales Engine の健全性の監視

[Forecast Insights (売上予測インサイト)] ダッシュボードで売上予測の変更を追跡できます。前期比分析を使用して、ベロシティ、パイプカバー率、その他の KPI を監視できます。

対象: この変更は、有料オプションで Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud の Revenue Intelligence に適用されます。

方法: [設定] メニューから収益インサイトを有効にすると、アプリケーションで [Forecast Insights (売上予測インサイト)] ダッシュボードが自動的に作成されます。収益インサイトアプリケーションから、[Forecast Insights (売上予測インサイト)] ダッシュボードを開きます。



[Forecast Insights (売上予測インサイト)] ダッシュボードで、分析する期間とチームを選択します (1)。自分の部下であるマネージャーや販売者の詳細を見ることができます。[Show Analysis (分析を表示)] (2) をクリックして、評価指標の経時的なトレンドを確認します。営業を見渡し、[達成予測]、[最善達成予測]、[可能性が最も高い]、または[パイプライン] (3) をクリックして、そのカテゴリをパイプラインから除外することによる全体的な影響を把握します。ベンチマークの高低がテーブル (4) に表示されるようにベンチマーク値を設定します。最大の商談の主要な詳細を確認します (5)。

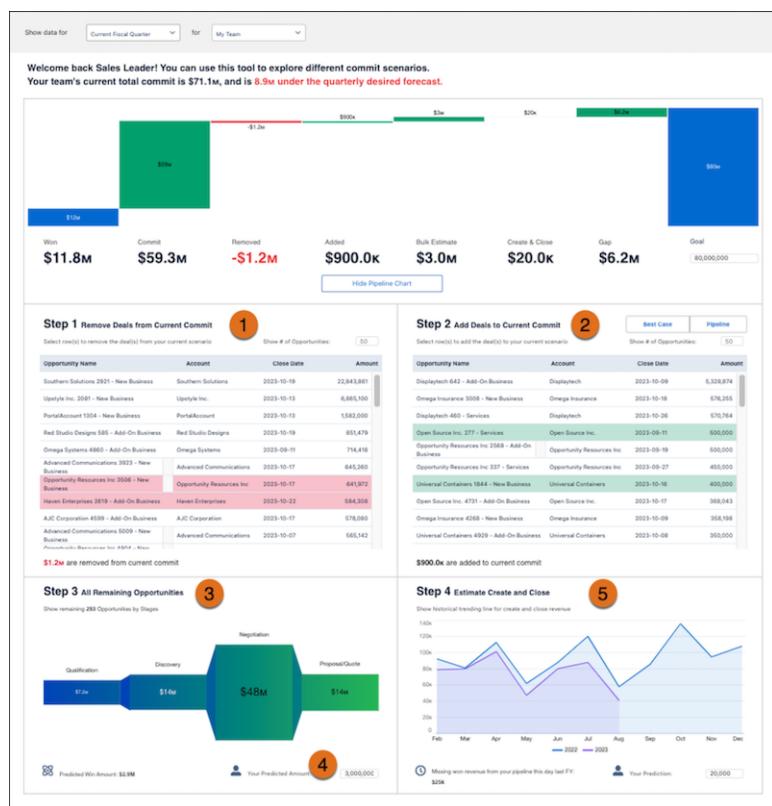
Commit Calculator を使用した営業シナリオの探索

CommitCalculatorを使用して、さまざまなシナリオをテストしてパイプラインに対する変更が最終損益に与える可能性がある影響を理解できます。

対象: この変更は、有料オプションで Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud の Revenue Intelligence に適用されます。

方法: Revenue Intelligence アプリケーションでは、自動的に [Commit Calculator] ダッシュボードが作成されます。

[Commit Calculator] で、シナリオをテストして営業に与える影響を確認します。パイプラインから達成予測を削除(1)するか、パイプラインに案件を追加します(2)。案件の名前を変更するシナリオをテスト(3)し、パイプラインでまだ計上されていないこれらの案件の予測金額を追加します(4)。作成される案件とクローズされる案件を見積もります(パイプラインで未計上)(5)。

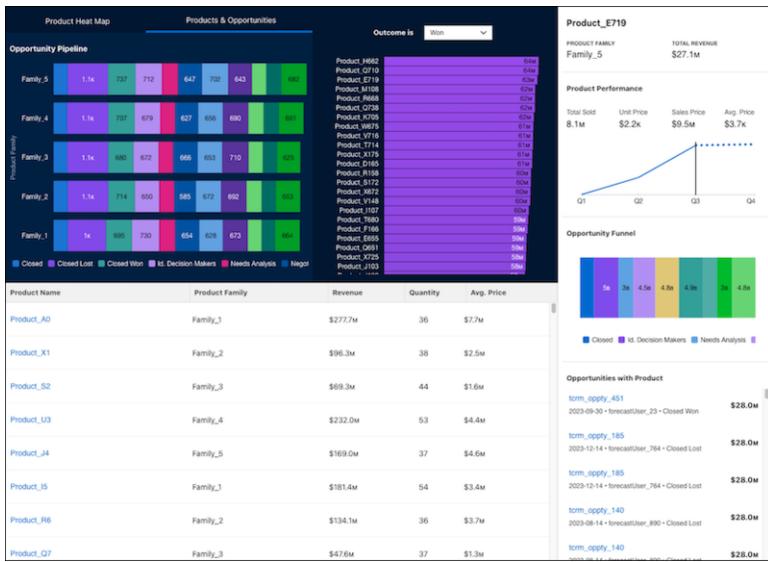


さまざまな区分での商品の売れ行きの理解

[商品インサイト]ダッシュボードを使用して、営業戦略を最適化できます。顧客の購入、商品を新しい区分に配置する機会、市場トレンドを追跡できます。営業チームによる新商品の市場への投入の成否をすばやく確認できます。

対象: この変更は、有料オプションで Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud の Revenue Intelligence に適用されます。

方法: [設定] メニューから Revenue Intelligence を有効にすると、アプリケーションで [商品インサイト] ダッシュボードが自動的に作成されます。



Revenue Intelligenceへの目標データのアップロード

どこに保存したかに関係なく、Revenue Intelligence で目標データを使用できます。そのために、CSV ファイルを使用して目標データをアップロードできます。これまでには、Sales Cloud コラボレーション売上予測の目標データのみが Revenue Intelligence ダッシュボードに表示されていました。

方法: 目標データを使用して CSV ファイルを作成し、保存します。続いて、[CRM Analytics Studio] > [目標] データセットに移動します。CSV ファイルをアップロードしてデータセットを編集すると、デフォルトの目標データセットが置換されます。アプリケーションを更新して、レシピが再び実行され、目標データが取り込まれることを確認します。

更新された Einstein 取引先管理アプリケーションを使用した迅速なデータの検索

アプリケーションを迅速に設定し、更新された Einstein 取引先管理アプリケーションでデータをより簡単に検索できます。Einstein 取引先管理を設定するときに、必要な取引先と商談にデータを制限できます。また、ダッシュボードは列を減らすことで合理化されており、より簡単に関連する KPI を検索できます。

対象: この変更は、Revenue Intelligence の Einstein 取引先管理アプリケーションに適用されます。

方法: 既存の Einstein 取引先管理アプリケーションを使用している場合は、もう一度設定ウィザードを実行してデータの範囲を制限するパラメーターを入力します。

数式項目の変更履歴の追跡

履歴トレンドレポートを使用した数式項目の推移を追跡することで、営業サイクルの計算済みの値を理解できます。以前は、履歴トレンドレポートでは数式項目が使用できませんでした。

対象: この変更は、有料オプションで Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud の Revenue Intelligence に適用されます。

方法: [設定] メニューから収益インサイトを有効にすると、収益インサイトアクセス権を持つ管理者向けに数式項目が履歴トレンドの [設定] で使用できるようになります。

パイプラインインスペクション

案件の成立に適切な人が関与しているかどうかを把握できます。更新された UI により、パイプラインインスペクションがより直感的で、ナビゲーションが容易になっています。ユーザーは時間を節約でき、チェックボックス、ルックアップなど、オンラインで編集できる項目が増えました。

このセクションの内容:

適切な人が関与することで案件を順調に進める

営業マネージャーや営業担当は、案件が予定どおりに成立し、売上予測が正確であることに自信を深められるように、案件の健全性とリスクを理解したいと考えています。誰が案件に関与しているかを一目で確認できるようになりました。パイプラインの案件に適切な関係者が関与しているか、どれだけエンゲージしているかを確認できます。

刷新されたパイプラインインスペクションページで商談に迅速に対応

パイプラインインスペクションの UI の刷新により、ユーザー エクスペリエンスが改善されています。最新のデザインにより、パイプラインインスペクションがより直感的で、ナビゲーションが容易になっています。パイプラインインスペクションは新しいバージョンに自動的に更新されます。

パイプラインインスペクションでより多くの項目をオンラインで編集

より多くの商談項目をパイプラインインスペクションのリストビューから直接更新することで効率を向上させます。ユーザーはチェックボックス項目、複数選択リスト項目、参照項目、外部参照項目をオンラインで編集できるようになりました、時間を節約して、チームとのコラボレーションを改善できるようになりました。

コラボレーション売上予測でのパイプラインインスペクションの商談の詳細およびインサイトの取得

売上予測所有者および営業チームは、コラボレーション売上予測から離れることなく、パイプラインインスペクションの商談の詳細およびインサイトを表示できるようになりました。

Salesforce パートナーリレーション管理でのパイプラインインスペクションを使用したパフォーマンスの追跡

パートナーリレーション管理でパイプラインインスペクションを使用してセールスパフォーマンスを測定できます。

適切な人が関与することで案件を順調に進める

営業マネージャーや営業担当は、案件が予定どおりに成立し、売上予測が正確であることに自信を深められるように、案件の健全性とリスクを理解したいと考えています。誰が案件に関与しているかを一目で確認できるようになりました。パイプラインの案件に適切な関係者が関与しているか、どれだけエンゲージしているかを確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition (Sales Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

理由: パイプラインインスペクション活動サイドパネルで、有効な取引先責任者やユーザーの概要に、最近何人が案件にエンゲージしたかに関する概要が表示されます。

The screenshot shows the 'Consulting Opportunity' sidebar. At the top, there are summary statistics: Opportunity Score (Not Available), Days Overdue (19), Days in Stage (20), and Push Count (0). Below this, there are two tabs: 'Insights' and 'Activity'. The 'Activity' tab is selected and displays a summary of recent activity over the last 30 days. It shows 4 meetings, 3 calls, and 1 email. A button labeled 'View' is present next to the activity count. A section titled 'Who's Involved (4)' highlights 3 external contacts and 1 internal user. At the bottom, there are sections for 'Upcoming Activity (in 11 days)' and 'Recent Activities (6 days ago)'.

案件に関与している人の詳細を確認するには、[表示] をクリックします。

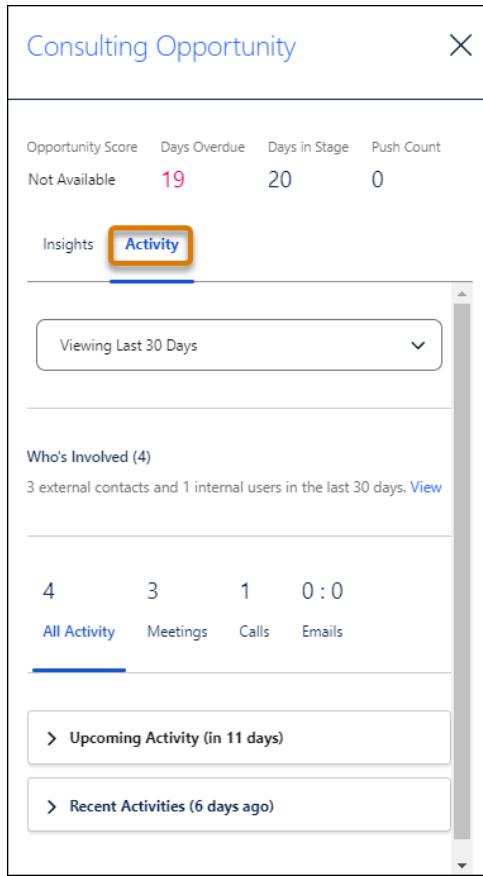
The screenshot shows the Pipeline Inspection interface for the account 'M Sunesis Inc.'. There are two contact entries:

- External Contacts (1)**: Geoff Minor (President, None, 7 days ago activity). Activity metrics: 4 All Activity, 1 Meetings, 3 Calls, 0:0 Emails. Buttons: Hide Activity Metrics.
- Internal Team Members (1)**: Admin User (7 days ago activity). Buttons: Show Activity Metrics, Assign Role.

方法: パイプラインインスペクションで、商談名にマウスポインターを置いて、サイドパネルアイコンを選択します。

The screenshot shows the Pipeline Inspection interface for the opportunity 'Consulting Opportunity'. The opportunity name is listed in the search bar, and the opportunity card is visible below it.

[活動] タブをクリックします。



メモ: サイドパネルに商談の関与者を表示するには、[Einstein 活動キャプチャ] 設定で [Activity 360 Reporting] を有効にしてください。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:パイプラインインスペクションの設定に関する考慮事項\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

刷新されたパイプラインインスペクションページで商談に迅速に対応

パイプラインインスペクションの UI の刷新により、ユーザー エクスペリエンスが改善されています。最新のデザインにより、パイプラインインスペクションがより直感的で、ナビゲーションが容易になっています。パイプラインインスペクションは新しいバージョンに自動的に更新されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition (Sales Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

理由: 次のようなデザインの改善により、パイプラインが明確に表示されるようになりました。

The screenshot shows the Pipeline Inspection page in Salesforce. At the top, there's a navigation bar with Sales, Home, Analytics, Opportunities, Quotes, Leads, Tasks, Files, Accounts, Contacts, Dashboards, Reports, Chatter, Groups, Calendar, People, Cases, Forecasts, and Email Templates. Below the navigation is a search bar and a toolbar with icons for Showing Pipeline Changes, Refresh, New, and List View.

The main area is titled "Spectranetics Trading" and shows "My Pipeline". It has tabs for Inspection and Chart. The Inspection tab displays a summary of pipeline status: Open Pipeline (\$4.4M), New (\$76K), Won (\$0), Increased (\$1.1M), Moved In (0), Moved Out (0), Decreased (\$4.3M), Lost (\$52K), Forecast Canceled (\$1M), Overage (\$0), and Overdue (0). Below this is a table of 25+ items sorted by Account Name, filtered by Close Date, My Team, and Open Pipeline.

A specific opportunity, "Spectranetics Trading", is highlighted with a red box and a circled number 3. A tooltip over the circled icon indicates it's for inline editing. To the right, an Insights panel provides performance metrics: Opportunity Score (Low, 5), Days Overage (9), Days in Stage (0), and Push Count (0). It also includes an Activity tab and a "Needs Attention" section with three items:

- More engagement needed: Win rates were 35% higher for similar deals with more than 35 activities in this stage.
- More meetings needed: Win rates were 35% higher for similar deals with more frequent meetings over the life of the deal.
- More email engagement needed: Win rates were 35% higher for similar deals with more than 35 emails in 35 days.

At the bottom right of the Insights panel is a "Send Email" button.

検索条件のデザインが合理化および再配置され(1)、更新された項目に選択した評価指標が明確に示されるようになりました(2)。インサイトパネルへのアクセスがより直感的になっています。商談名の上にマウスポインターを置いてサイドパネルアイコン(3)をクリックすると、インサイト(4)が表示されます。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:パイプラインインスペクションを使用したパイプラインの管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

パイプラインインスペクションで多くの項目をオンラインで編集

より多くの商談項目をパイプラインインスペクションのリストビューから直接更新することで効率を向上させます。ユーザーはチェックボックス項目、複数選択リスト項目、参照項目、外部参照項目をオンラインで編集できるようになり、時間を節約して、チームとのコラボレーションを改善できるようになりました。

対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition (Sales Cloud のパイプラインインスペクション付属) の Lightning Experience に適用されます。

方法: パイプラインインスペクションのリストビューで、編集する項目にマウスポインターを置きます。鉛筆アイコンが表示されている場合は、そのアイコンをクリックし、値を変更して保存します。錠アイコンは、オンライン編集で使用できない項目であることを示します。同じリストビューで複数のレコードタイプの商談をオンライン編集できます。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:パイプラインインスペクションを使用したパイプラインの管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:Lightning Experience でのリストビューのオンライン編集の考慮事項\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

コラボレーション売上予測でのパイプラインインスペクションの商談の詳細およびインサイトの取得

売上予測所有者および営業チームは、コラボレーション売上予測から離れることなく、パイプラインインスペクションの商談の詳細およびインサイトを表示できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition (Sales Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。限定機能は Professional Edition および Salesforce モバイルアプリケーションで使用できます。

関連トピック:

[売上予測の商談に関するより多くのインサイトの取得](#)

Salesforce パートナーリレーション管理でのパイプラインインスペクションを使用したパフォーマンスの追跡

パートナーリレーション管理でパイプラインインスペクションを使用してセールスパフォーマンスを測定できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Aura サイトに適用されます。

関連トピック:

[成立させる案件を増やすための主要なセールス総計値、AI インサイト、商談の絞り込み](#)

コラボレーション売上予測

売上予測マネージャーは、自分の判断を売上予測の商談に適用し、より多くの情報に基づいてより正確に売上予測調整を行うことができるようになりました。売上予測ユーザーは、売上予測商談リストの拡張された詳細と案件インサイトを使用して、売上予測を構成する商談についてより深く理解できます。売上予測ページのデザインの改善により、売上予測データが読みやすく、ページのナビゲーションが容易になりました。

このセクションの内容:

[実現した IdeaExchange: マネージャーによる判断で売上予測精度の向上](#)

売上予測の確認と評価の一環として、売上予測マネージャーは売上予測の商談に自分の判断を適用し、より多くの情報に基づいてより正確に売上予測調整を行うことができます。商談レベルで判断を適用することで、成立の確度が最も高い案件に対するマネージャーの可視性が向上します。これまで、マネージャーは達成予測数のみを調整でき、調整後の売上予測に自分の判断がどのように影響したかを確認できました。

[売上予測の商談に関するより多くのインサイトの取得](#)

売上予測積み上げ集計の値を確認するときに表示される拡張された詳細を使用して、売上予測を構成する商談についてより深く理解できます。売上予測ページでグリッドビューを表示すると、商談リストにはパイプラインインスペクションで使用可能な同じ情報と同じ編集機能が含まれ、[パイプラインインスペクション]ページに切り替える必要がなくなりました。これまで、売上予測所有者と営業マネージャーは、活動の更新情報や案件インサイトなど、商談に関する詳細を深く掘り下げるためにパイプラインインスペクションを開いていました。

更新された売上予測ページ

更新された売上予測ページで営業の可能性を引き出します。デザインの改善により、売上予測データが読みやすく、ページのナビゲーションが容易になりました。

売上予測金額の四捨五入による売上予測の合理化

売上予測ユーザーは、売上予測概要の売上予測金額の小数点以下を四捨五入して、整数のみで表示することを選択できます。売上予測金額を四捨五入することで、スペースを効率的に利用して、売上予測合計をより合理的に表示することができます。



マネージャーによる判断で売上予測精度の向上

売上予測の確認と評価の一環として、売上予測マネージャーは売上予測の商談に自分の判断を適用し、より多くの情報に基づいてより正確に売上予測調整を行うことができます。商談レベルで判断を適用することで、成立の確度が最も高い案件に対するマネージャーの可視性が向上します。これまで、マネージャーは達成予測数のみを調整でき、調整後の売上予測に自分の判断がどのように影響したかを確認できました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この機能の完全版は、Winter '24 からローリング方式でリリースされます。

方法: [設定] の [売上予測の設定] で [マネージャーによる判断] オプションが有効になっていることを確認します。売上予測の一部とみなされる内容とみなされない内容を示す選択リスト値を設定します。次に、商談、商談商品、または品目スケジュールオブジェクトに基づく売上予測種別の商談リストに [マネージャーによる判断] 列を追加します。

ユーザーロール階層の売上予測種別の場合は、商談リストに [所有者 氏名] 列も含まれていることを確認します。テリトリー階層の売上予測種別の場合は、[テリトリー名] 列を追加します。Salesforce モバイルアプリケーションで列を表示するには、列を商談リストの最初の 4 列に含めます。

売上予測マネージャーは、直属部下が所有する商談を確認しているときに、商談が売上予測の一部であることに自信があるかどうかを示すことができます。売上予測マネージャーは、自分が所有する商談に判断を適用することはできません。

Opportunity Name	Manager Judgment	Amount	Owner Full Name	Close Date	Stage	Forecast Category
1 Synutra Insignia Inc.	IN	USD 7,915.35	Lopez, Jenny	7/13/2023	Value Proposition	Closed
2 Spring Gilead	IN	USD 743.59	Lee, Alice	7/19/2023	Id. Decision Mak...	Pipeline
3 Scientific Versartis	OUT	USD 249.92	Lee, Alice	7/22/2023	Proposal/Price Q...	Commit

売上予測マネージャーは達成売上予測のコメントで、売上予測の一部として指定した商談の合計を確認できます。

Adjustments	
Rima Dent:	USD 10,000,000.00
Without Adjustments:	USD 17,556,090.17
Manager Judgment	
Total IN + Closed Only:	USD 9,837,699.92
My direct reports and my opportunities	

マネージャーによる判断は、商談分割または商品分割に基づく売上予測種別ではサポートされていません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: コラボレーション売上予測での売上予測調整とマネージャーによる判断の許可\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

売上予測の商談に関するより多くのインサイトの取得

売上予測積み上げ集計の値を確認するときに表示される拡張された詳細を使用して、売上予測を構成する商談についてより深く理解できます。売上予測ページでグリッドビューを表示すると、商談リストにはパイプラインインスペクションで使用可能な同じ情報と同じ編集機能が含まれ、[パイプラインインスペクション]ページに切り替える必要がなくなりました。これまで、売上予測所有者と営業マネージャーは、活動の更新情報や案件インサイトなど、商談に関する詳細を深く掘り下げるためにパイプラインインスペクションを開いていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition (Sales Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。限定機能は Professional Edition および Salesforce モバイルアプリケーションで使用できます。

時期: 更新された商談リストとそのすべての機能は、パイプラインインスペクションにアクセスできるユーザーはすぐに使用できます。パイプラインインスペクションを使用していないユーザーの場合、商談リストに対する更新は Winter '24 からローリング方式で使用できます。

方法: 新しい売上予測商談リストを最大限に活用するには、パイプラインインスペクションを有効にし、[商談日数]、[最終フェーズ変更日]、[フェーズの日数]、[延期数]、[最近の活動] 項目のいずれかを有効な各売上予測種別の商談リストに追加します。売上予測ユーザーには何が変更されたかが見てわかるようになっています。また、商談指標を表示し、案件が成立する可能性を示す Einstein インサイトを確認し、商談やその取引先に関する他の情報にアクセスすることもできます。売上予測ユーザーは追加のオンライン編集機能も活用できます。

Account Name	Amount	Close Date	Last Stage Change...	Stage	Age	Probabilit...	Forecast Categ...	Recent A...
Insurance Films LLC	\$48,426.88	7/14/2023	7/14/2023, 11:00 AM	Most Likely Stage	1	95%	Most Likely	Today
Amount increased by \$10K \$38,426.88 to \$48,426.88 Changed by Carroll Whitfield, on July 14, 2023		7/18/2023	7/11/2023, 9:07 AM	Id. Decision Makers	1	85%	Most Likely	Today
Egalet Endo Corporat...	\$12,971.52	7/11/2023		Closed Won	1	100%	Closed	Today
Myriad Fairway Inc.	\$660,163.83	7/14/2023	7/14/2023, 1:25 PM	Needs Analysis	1	20%	Pipeline	Today
Recovery PDC	\$87,900.86	7/31/2023		Perception Analysis	1	70%	Commit	Today
				Negotiation/Review	1	90%	Most Likely	Today

統合されたリストでは、[最近の活動]項目を追加し、売上予測ユーザーは案件の最新情報に関する詳細にアクセスできます。

The screenshot shows the Opportunity Detail page for 'Star Paylocity LLC'. At the top, there's a summary card with 'Opportunity Score' (High), 'Days Overdue' (3), 'Days in Stage' (3), and 'Push Count' (0). Below this, the 'Activity' tab is selected, showing activity from the last 7 days. It includes sections for 'Overdue Task' (a task due Jul 10), 'Opportunity Next Step' (no next step defined), and 'Recent Activities (Today)'. One recent activity is listed: an email sent at 1:34 PM today to '[No subject]'.

パイプラインインスペクションがない場合やSalesforceモバイルアプリケーションを使用していない場合でも、[延期数]項目と[最終フェーズ変更日]項目を商談リストに追加することができます。追加のオンライン編集機能はデフォルトで使用できます。

関連トピック:

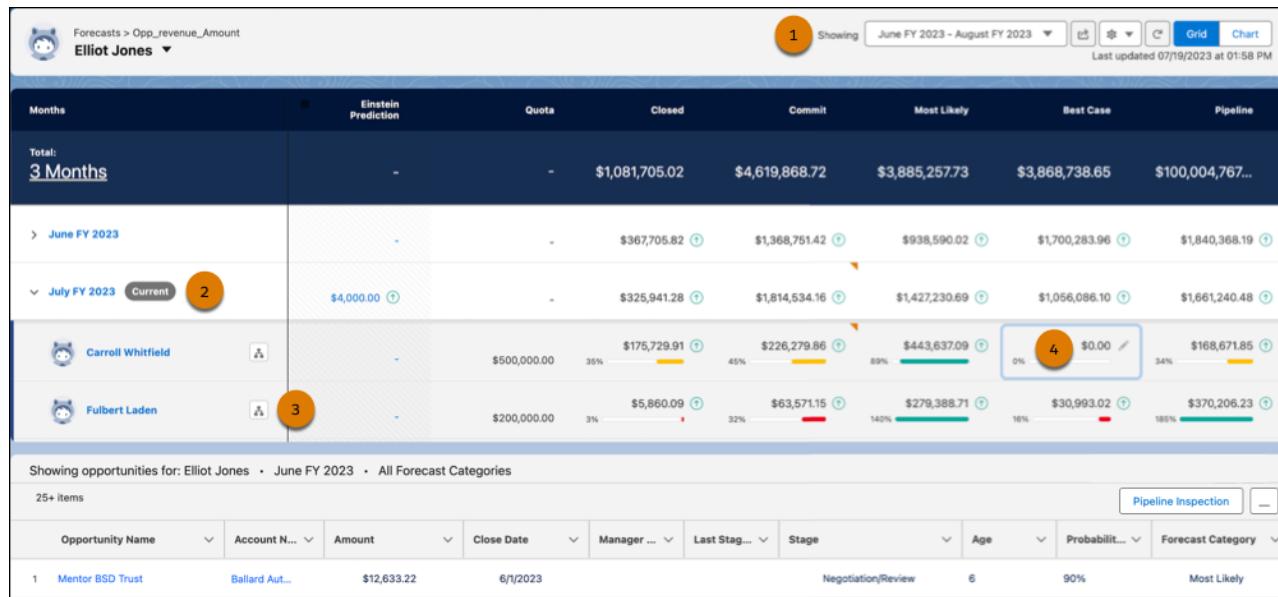
[Salesforceヘルプ:コラボレーション売上予測で商談の詳細を表示する場合のガイドライン\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

更新された売上予測ページ

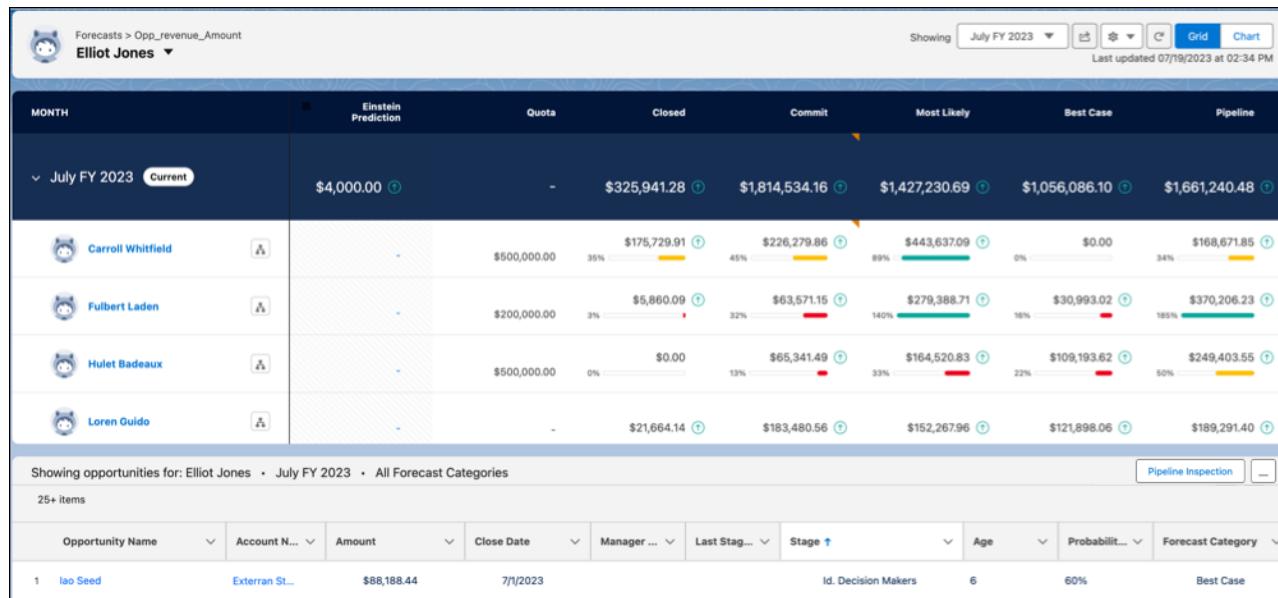
更新された売上予測ページで営業の可能性を引き出します。デザインの改善により、売上予測データが読みやすく、ページのナビゲーションが容易になりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 次のようなデザインの改善により、売上予測ページがより明確に表示されるようになりました。



売上予測範囲設定の表示ラベルが更新されてページに何が表示されているかが明確にわかるようになります(1)。別の範囲を選択する場合はこの項目を選択します。概要ビューで現在の期間がわかるようになっています(2)。アイコンが更新されてページがナビゲートしやすくなり(3)、強調表示はクリックして詳細を表示できる項目を示します(4)。項目の上にマウスポインターを置くと、強調表示が有効化されます。



また、1か月または四半期を表示している場合は、ビューが簡略化され、その期間の売上予測合計が重複して表示されないようになりました。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ: コラボレーション売上予測による売上予測\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

売上予測金額の四捨五入による売上予測の合理化

売上予測ユーザーは、売上予測概要の売上予測金額の小数点以下を四捨五入して、整数のみで表示することを選択できます。売上予測金額を四捨五入することで、スペースを効率的に利用して、売上予測合計をより合理的に表示することができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、およびDeveloper Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 売上予測ページの [表示設定] メニューで、[丸めた金額を表示] を選択します。カスタム計算列の金額を含め、売上予測概要グリッドのすべての金額は小数点以下が四捨五入されます。調整と変更の詳細を表示すると、小数点以下の値を含む完全な金額が表示されます。

小数点以下を含む完全な金額は、商談リストのヘッダーや、商談リストの各商談の金額にも表示されます。

営業チームのイネーブルメント

迅速に商談を開き、商談を成立して、会社の収益成果を達成できるようにするために必要な商品およびプロセスに関するすべてのナレッジにより、営業チームをすばやく軌道に乗せます。プログラムを構築し、割り当て、管理するための新機能により、イネーブルメントチームは作業の流れの中で営業チーム向けのより堅牢でタイミングの良い業務固有のリソースを配信できます。

このセクションの内容:

イネーブルメントの新機能の確認

会社の信頼できる経験豊富なスタッフを招待してプログラム内で直接フィードバックを提供し、営業担当向けイネーブルメントソリューションの価値を高めます。イネーブルメントシステム管理者とユーザーは、営業担当のプログラムでの進行状況について明確に把握できます。また、ユーザーを絞り込んで選択する新しいオプションを使用して、プログラムに割り当てる適切な営業担当を見つけることができます。

イネーブルメントの新機能の確認

会社の信頼できる経験豊富なスタッフを招待してプログラム内で直接フィードバックを提供し、営業担当向けイネーブルメントソリューションの価値を高めます。イネーブルメントシステム管理者とユーザーは、営業担当のプログラムでの進行状況について明確に把握できます。また、ユーザーを絞り込んで選択する新しいオプションを使用して、プログラムに割り当てる適切な営業担当を見つけることができます。

対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Editions (Sales Cloud、Service Cloud、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce Platform 付属) の Lightning Experience に適用されます。イネーブルメントのアドオンライセンスが必要です。

関連トピック:

[イネーブルメント](#)

Salesforce パートナーリレーション管理と PRM for Slack

Salesforce PRM にパイプラインインスペクションが追加され、事前設定済みのダッシュボードに収益、パイプライン、商談、スコアカードレポートが表示されるようになりました。統合設定により、PRM for Slack の設定が合理化されます。オブジェクトサポートが拡張されたことで、検索と投稿での検索の可能性が広がりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする [Aura サイト](#) に適用されます。

このセクションの内容:

[PRM for Slack の統合設定を使用してすばやく立ち上げて実行](#)

PRM for Slack の新しい統合設定には、アプリケーションをカスタマイズする際に PRM for Slack のすべての機能について学べるガイダンスが記載されたページが 3 ページあります。すべての機能を 1 か所で有効にして設定できるため、設定時間を短縮できます。

[拡張オブジェクトサポートを使用した Salesforce と Slack の統合](#)

PRM for Slack の検索と投稿でサポートされるオブジェクトが増えたため、コラボレーションの機会を増やし、円滑化できるようになりました。以前は、4 つのオブジェクトしかサポートされていませんでした。10 個のオブジェクトまで選択できるようになりました。

[成立させる案件を増やすための主要なセールス総計値、AI インサイト、商談の絞り込み](#)

カスタマイズ可能なレポートとダッシュボードを使用して貴重な総計値をすべて 1 か所に集め、パイプラインインスペクションを使用してパートナーのパフォーマンスを追跡できます。Salesforce PRM では、収益、パイプライン、商談、パートナースコアカード、認定資格が表示されるレポートで構成される事前設定済みのダッシュボードが Lightning Experience に表示されます。

PRM for Slack の統合設定を使用してすばやく立ち上げて実行

PRM for Slack の新しい統合設定には、アプリケーションをカスタマイズする際に PRM for Slack のすべての機能について学べるガイダンスが記載されたページが 3 ページあります。すべての機能を 1 か所で有効にして設定できるため、設定時間を短縮できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Slack のお客様は Slack Enterprise Grid を実行する必要があります。

Opportunity Name	Account Name	Amount	Close Date	Stage	Recent Activity	Forecast Category	Next Step
1 flowgen-005S7000000WLzfIAGflowgen-partuser4: PipelineAcc...	PipelineAcc...	\$70,00...	7/13/...	Qualification	None	Pipeline	C
2 flowgen-005S7000000WLzfIAGflowgen-partuser4: PipelineAcc...	PipelineAcc...	\$60,00...	7/13/...	Negotiation/...	None	Pipeline	C

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 統合設定を使用したガイダンスと設定の統合\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

拡張オブジェクトサポートを使用した Salesforce と Slack の統合

PRM for Slack の検索と投稿でサポートされるオブジェクトが増えたため、コラボレーションの機会を増やし、円滑化できるようになりました。以前は、4つのオブジェクトしかサポートされていませんでした。10個のオブジェクトまで選択できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Slack のお客様は Slack Enterprise Grid を実行する必要があります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 拡張オブジェクトサポートによるコラボレーションの促進\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

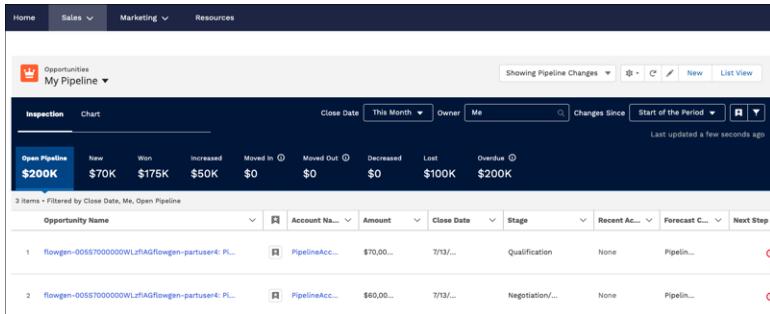
成立させる案件を増やすための主要なセールス総計値、AI インサイト、商談の絞り込み

カスタマイズ可能なレポートとダッシュボードを使用して貴重な総計値をすべて1か所に集め、パイプラインインスペクションを使用してパートナーのパフォーマンスを追跡できます。Salesforce PRM では、収益、パイプライン、商談、パートナースコアカード、認定資格が表示されるレポートで構成される事前設定済みのダッシュボードが Lightning Experience に表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする [Aura サイト](#) に適用されます。

理由:

商談ステージや売上予測を含めて、パイプラインの包括的なビューが提供されます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: PRM でのパイプラインインスペクションを使用した商談への集中および収益の予測\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: PRM での操作可能なダッシュボードを使用した主要なセールス評価指標と AI インサイトの取得\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

販売実績管理

テリトリー計画では、郵便番号別ではなく国別に作業を割り当て、手動での項目の照合なしで追加の顧客データをインポートして、エリア名や中心を一括で更新できます。また、Salesforce Maps で顧客の住所を営業担当にロケールに合う形式で表示できます。

このセクションの内容:

テリトリー計画

国別にテリトリーをカバーし、項目一致を使用して補足データをすばやくインポートして、テリトリー名を一括で更新できます。

Salesforce Maps

ロケールに合った形式の住所を使用して地図上のツールチップを操作できます。

拡張ドメインと Salesforce Maps 製品

Salesforce で必須になり、自動的に有効になる拡張ドメインを使用して、最新のセキュリティ標準に対応できます。Salesforce Maps 製品に Salesforce URL が含まれるカスタマイズでは、拡張ドメインに対応するようにこれらの URL を更新する必要がある場合があります。これにより、リンク破損による中断を防止し、より厳しいセキュリティ標準に準拠できます。

テリトリー計画

国別にテリトリーをカバーし、項目一致を使用して補足データをすばやくインポートして、テリトリー名を一括で更新できます。

このセクションの内容:

国別のテリトリーの計画

テリトリー計画で営業担当を個々の国に割り当てるときに、テリトリーをより効率的にカバーできるようにします。テリトリーの計画と最適化を国内のすべての郵便コード別ではなく国別に行うと、データの量を抑え、以前と比べて読み込み時間を軽減できます。

境界のバージョンに関係なく割り当てをインポート

境界が最新の境界とは異なる場合であっても、過去の配置から境界の割り当てをインポートできます。過去の配置に最新でない境界が含まれている場合、テリトリー計画で割り当てがインポートされ、最新の境界を使用して割り当てロジックが適用されるようになりました。

属性項目を自動的に照合

CSVファイルをインポートするときに属性項目の作成および更新にかかる時間を短縮します。テリトリー計画では、領域属性、境界属性、ユニット属性などの項目が、クリックしたものと照合されます。新しい動的な項目数で、インポートを完了する前にインポート、更新、および作成する項目の数を確認できます。

テリトリー名を中心の一括更新

テリトリー計画でエリア名や場所を大規模に調整するときに繰り返し更新する手間を省き、読み込み時間を短縮することができます。地図で一度に1つのエリアを更新するのではなく、一括機能により1つのCSVファイルを使用して地域、地区、テリトリーを更新できます。更新済みの階層をテリトリー・モデルまたは他のシステムにエクスポートするときにこれらの変更を適用できます。

国別のテリトリーの計画

テリトリー計画で営業担当を個々の国に割り当てるときに、テリトリーをより効率的にカバーできるようにします。テリトリーの計画と最適化を国内のすべての郵便コード別ではなく国別に行うと、データの量を抑え、以前と比べて読み込み時間を軽減できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: データセットを作成するときに、計画に含める国を選択します。配置でフォーカスを開き、担当に国を割り当てて、図形レイヤーとして、または ETM に公開します。

境界のバージョンに関係なく割り当てをインポート

境界が最新の境界とは異なる場合であっても、過去の配置から境界の割り当てをインポートできます。過去の配置に最新でない境界が含まれている場合、テリトリー計画で割り当てがインポートされ、最新の境界を使用して割り当てロジックが適用されるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

属性項目を自動的に照合

CSVファイルをインポートするときに属性項目の作成および更新にかかる時間を短縮します。テリトリー計画では、領域属性、境界属性、ユニット属性などの項目が、クリックしたものと照合されます。新しい動的な項目数で、インポートを完了する前にインポート、更新、および作成する項目の数を確認できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: データセットを作成または更新するとき、または設定で配置を更新するときに、CSV からの属性のインポートを選択します。インポートする CSV の列ヘッダーを選択して [項目を照合] をクリックします。テリトリー計画によって対応付けられた項目が入力され、どの項目が新規かがわかります。

テリトリー名と中心の一括更新

テリトリー計画でエリア名や場所を大規模に調整するときに繰り返し更新する手間を省き、読み込み時間を短縮することができます。地図で一度に 1 つのエリアを更新するのではなく、一括機能により 1 つの CSV ファイルを使用して地域、地区、テリトリーを更新できます。更新済みの階層をテリトリー モデルまたはその他のシステムにエクスポートするときにこれらの変更を適用できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: CSV ファイルの属性を用意します。更新するエリアについて、[新しい名前]、[Center Latitude(中心の緯度)]、[Center Longitude(中心の経度)] などの列を含めます。

Area Name	Area Level	New Name	Center Latitude	Center Longitude
Region 1	Region	South East Region	33.7488	-84.3877
District 1	District	Southern District	32.0809	-81.0912
Territory 1	Territory	North Florida	30.3322	-81.6557
Territory 2	Territory	Georgia	32.1574	-82.9071
Territory 3	Territory	South Florida	26.1224	-80.1373

開いているアライメントで、[設定] に移動して [属性] を選択します。エリアレベルから CSV インポートを開始します。列ヘッダーが適切に対応付けられていることを確認したら、CSV をインポートします。テリトリー計画によってエリア名と中心が更新されます。地図と凡例でこれらの変更を表示します。エリアがロックされている場合、その中心は変更されません。

Salesforce Maps

ロケールに合った形式の住所を使用して地図上のツールチップを操作できます。

このセクションの内容:

ロケールに合う形式の住所を使用した訪問の計画

使い慣れた形式の住所を使用して取引先、リード、取引先責任者を管理できます。Salesforce Maps が、数値、名前、住所について Salesforce でサポートされるロケールとその International Components for Unicode (ICU) 形式に合う形式になりました。Salesforce ではユーザーの [言語とタイムゾーン] 設定のロケール項目が使用されます。たとえば、日本の担当者が米国の顧客を抱えているとします。その担当者には、これらの顧客の住所が日本の住所の形式で表示されます。

ロケールに合う形式の住所を使用した訪問の計画

使い慣れた形式の住所を使用して取引先、リード、取引先責任者を管理できます。Salesforce Mapsが、数値、名前、住所について Salesforce でサポートされるロケールとその International Components for Unicode (ICU) 形式に合う形式になりました。Salesforce ではユーザーの [言語とタイムゾーン] 設定のロケール項目が使用されます。たとえば、日本の担当者が米国の顧客を抱えているとします。その担当者には、これらの顧客の住所が日本の住所の形式で表示されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サポートされる数値、名前、住所の形式 \(ICU\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

拡張ドメインと Salesforce Maps 製品

Salesforce で必須になり、自動的に有効になる拡張ドメインを使用して、最新のセキュリティ標準に対応できます。Salesforce Maps 製品に Salesforce URL が含まれるカスタマイズでは、拡張ドメインに対応するようにこれらの URL を更新する必要がある場合があります。これにより、リンク破損による中断を防止し、より厳しいセキュリティ標準に準拠できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[拡張ドメインのリリース \(リリース更新\)](#)

[Salesforce ヘルプ: \[私のドメイン\] の変更に対する組織の更新 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Sales Cloud Einstein

Einstein 生成 AI で、営業担当の受信箱をはじめとして Salesforce のどこからでもセールスメールのドラフトを作成でき、必要に応じて商品の情報を含めることができます。売上予測のトレンドや販売予測を一目で評価できます。[Einstein 売上予測] 予測グラフが含まれる [売上予測の変化] グラフは、以前は売上予測ページでしか使用できませんでしたが、ホームページでも使用できるようになりました。

このセクションの内容:

[セールス向け Einstein 生成 AI を使用したセールスメールのパーソナライズ](#)

セールスメールを使用すると、多忙な営業担当は、バイヤーが求める十分な情報を含むパーソナライズされたメールコンテンツを介して迅速に行動し、商談を拡大することができます。Einstein では、セールスデータを使用して取引先責任者およびリード向けのパーソナライズされたメールが生成されます。この方法は グラウンディングと呼ばれます。営業担当は、メール種別を選択することで、フォローアップやミーティングの招待などの一般的なメールのドラフトを作成できます。営業担当は、あらかじめ設定されているメール種別とシステム管理者が作成したカスタムメール種別を使用できます。

Einstein 生成 AI を使用したセールスメールへの商品情報の追加

営業担当は、あらかじめ設定されているメール種別とシステム管理者が作成したカスタムメール種別から選択してメールのドラフトを作成できます。メール種別には、Einstein がメールを作成する際に使用する商品情報を含めることができます。生成 AI システムにより多くの情報を供給することで、より充実したメールを生成できます。ほとんどの営業担当のコミュニケーションでは商品情報が重要であるため、商品情報を含めることは効果的です。

関連コードを使用した Einstein セールスメールの強化

関連オブジェクトが Einstein セールスメールプロンプトテンプレートでサポートされるようになりました。ユーザーは、関連オブジェクトレコード(取引先や取引先責任者など)を選択して、Einstein 生成 AI でメールのドラフトを作成するための追加の背景やコンテキストを提供します。

プロンプトビルダーを使用したセールスメールのパーソナライズ(パイロット)

プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成することで、営業チームが取引先責任者やリードに対してパーソナライズされたメールを素早く作成できるようにします。プロンプトテンプレートは、データを保護しながら大規模言語モデル(LLM)と対話するための再利用可能なプロンプトです。セールスメールのプロンプトテンプレートにより、ユーザーの日々のワークフローがスムーズになります。差し込み項目、フロー、Apex を使用して、最新の CRM データを含むプロンプトテンプレートを追加、テスト、修正、管理します。

Einstein を使用して AI が生成した簡潔な販売概要を取得(ベータ)

Einstein セールス概要を使用すると、営業担当は AI が生成した商談、取引先、取引先責任者、リードの概要を利用して、会議や通話の準備にかかる時間を短縮できます。セールス概要は、Salesforce の顧客データを使用して、担当者が取引、顧客、プロスペクトの現状を把握するのに役立つ主要なデータポイントでレコードを要約します。

売上予測のトレンドの迅速な発見

[Einstein 売上予測] 予測グラフが含まれる [売上予測の変化] グラフは、以前は売上予測ページでしか使用できませんでしたが、ホームページでも使用できるようになりました。現在の期間の売上予測に対する変化と Einstein 予測線を確認し、この期間の売上予測がこの期間でどのように変化したかを測定できます。

Einstein 取引先インサイトと商談インサイトの廃止

Einstein 取引先インサイトと Einstein 商談インサイトは、Winter '24 以降、2023 年 11 月 14 日の時点での廃止されます。Salesforce では、パイプラインインスペクションや Einstein リレーションインサイトなどの機能の開発に力を入れることになりました。

CRM Analytics を使用してレポートの隠れたインサイトを発見

CRM Analytics を使用している Sales Cloud Einstein ユーザーは、レポートデータに対して Einstein Discovery を利用した統計分析を簡単に実行できるようになりました。「レポート用 Einstein Discovery の実行」権限が、標準権限セット「Sales Cloud Einstein 同梱」、「Sales Cloud Einstein 同梱バンドル」、および「Sales Cloud Einstein」に追加されました。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

セールス向け Einstein 生成 AI を使用したセールスメールのパーソナライズ

セールスメールを使用すると、多忙な営業担当は、バイヤーが求める十分な情報を含むパーソナライズされたメールコンテンツを介して迅速に行動し、商談を拡大することができます。Einsteinでは、セールスデータを使用して取引先責任者およびリード向けのパーソナライズされたメールが生成されます。この方法はグラウンドティングと呼ばれます。営業担当は、メール種別を選択することで、フォローアップやミーティングの招待などの一般的なメールのドラフトを作成できます。営業担当は、あらかじめ設定されているメール種別とシステム管理者が作成したカスタムメール種別を使用できます。

対象: この機能は Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。Einstein 生成 AI は Lightning Experience で使用できます。

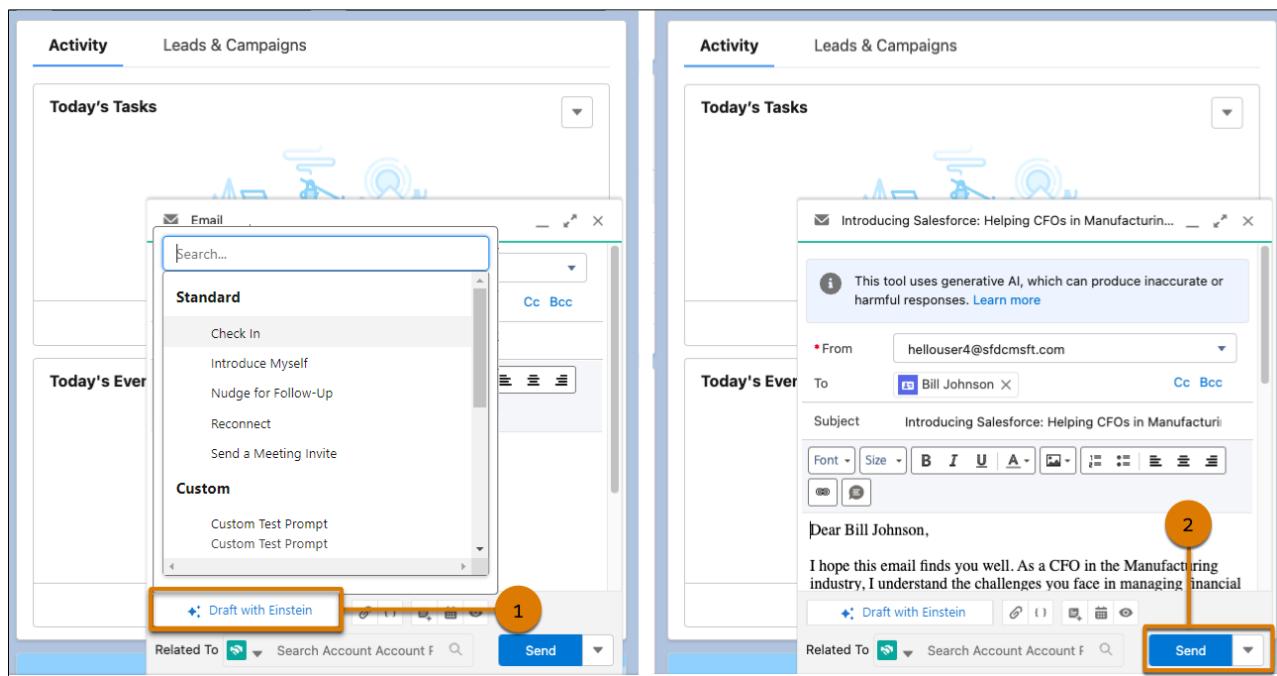
セールス向け Einstein アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

対象ユーザー: セールスメールを使用するには、ユーザーに「Einstein Sales Emails (Einstein セールスメール)」権限セットが必要です。担当者が Gmail または Outlook の機能にアクセスできるようにするには、Gmail または Outlook インテグレーションを設定してください。

理由: 現在、生成 AI と大規模言語モデル (LLM) が話題になっています。ただし、AI の出力に信頼性と正確性があることに関する保証が必要です。Salesforce はその最大の価値である信頼を維持し、お客様のデータを細心の注意とセキュリティを最優先して取り扱っています。お客様はこの Salesforce を信頼することができます。

方法: Lightning Experience では、Einstein セールスメールはメールコンポーネントに直接組み込まれます。Salesforce Outlook または Gmail インテグレーションでは、メールアプリケーションペインで Einstein 生成 AI を表示できます。

メールの作成を開始します。[Einstein を使用してドラフトを作成] をクリックし、リスト (1) からメール種別を選択します。メールを確認して編集し、送信します (2)。



関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[プロンプトビルダーでパーソナライズされたセールスメールの生成 \(パイロット\)](#)

[関連レコードを使用した Einstein セールスメールの強化](#)

[Salesforce ヘルプ: Draft a Sales Email with Einstein Generative AI \(Einstein 生成 AI を使用したセールスメールのドラフト作成\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Prompt Builder Pilot Guide PDF \(プロンプトビルダー \(パイロット\) PDF\)](#)

Einstein 生成 AI を使用したセールスメールへの商品情報の追加

営業担当は、あらかじめ設定されているメール種別とシステム管理者が作成したカスタムメール種別から選択してメールのドラフトを作成できます。メール種別には、Einsteinがメールを作成する際に使用する商品情報を含めることができます。生成 AI システムにより多くの情報を供給することで、より充実したメールを生成できます。ほとんどの営業担当のコミュニケーションでは商品情報が重要であるため、商品情報を含めることは効果的です。

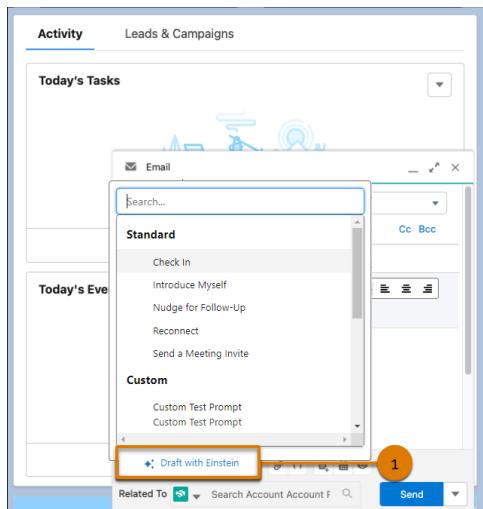
対象: この機能は Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。Einstein 生成 AI は Lightning Experience で使用できます。

セールス向け Einstein アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

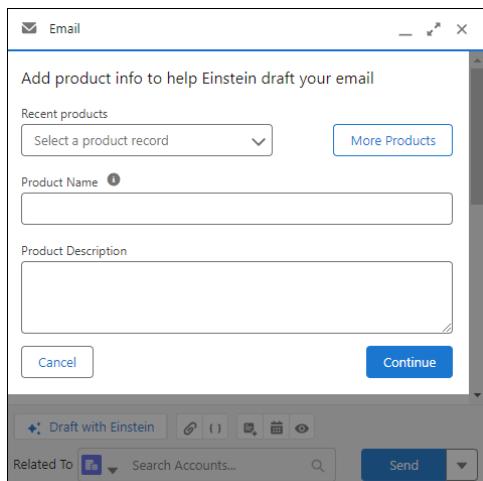
対象ユーザー: セールスメールを使用するには、ユーザーに「Einstein Sales Emails (Einstein セールスメール)」権限セットが必要です。担当者が Gmail または Outlook の機能にアクセスできるようにするには、Gmail または Outlook インテグレーションを設定してください。

方法: Lightning Experience では、Einstein セールスメールはメールコンポーネントに直接組み込まれます。Salesforce Outlook または Gmail インテグレーションでは、メールアプリケーションペインで Einstein 生成 AI を表示できます。

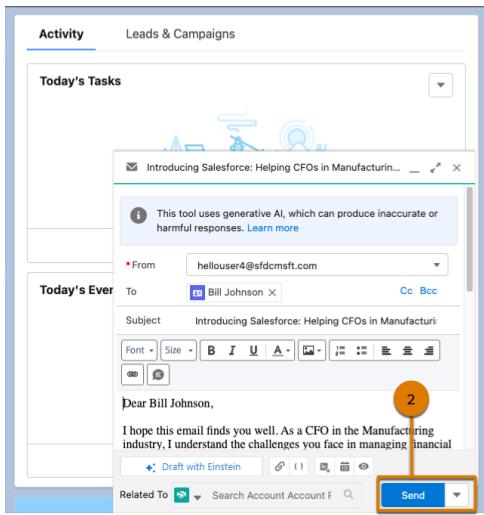
メールの作成を開始します。[Einstein を使用してドラフトを作成] をクリックし、リスト (1) からメール種別を選択します。



メール種別で商品情報を仕様できる場合は、選択ウィンドウが表示されます。既存の商品を選択または検索するか、もしくはこの情報を空白のままにしておいて [続行] をクリックします。



メールを確認して編集し、送信します (2)。



関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[プロンプトビルダーでパーソナライズされたセールスメールの生成 \(パイロット\)](#)

[関連レコードを使用した Einstein セールスメールの強化](#)

[Salesforce ヘルプ: Draft a Sales Email with Einstein Generative AI \(Einstein 生成 AI を使用したセールスメールのドラフト作成\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

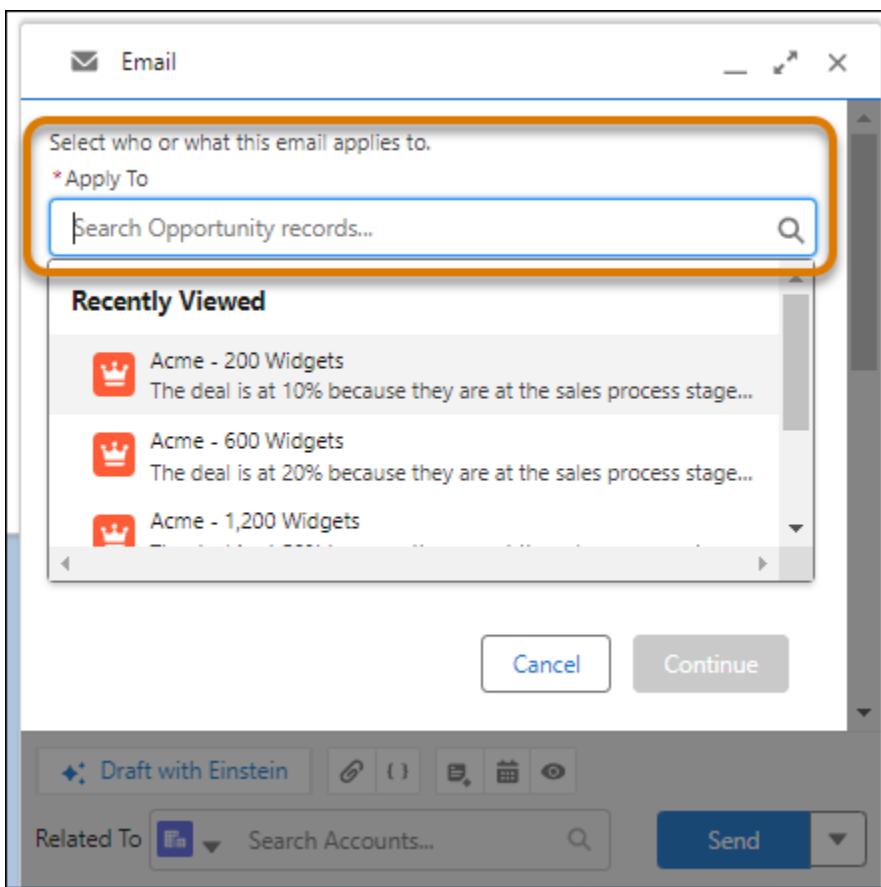
[Prompt Builder Pilot Guide PDF \(プロンプトビルダー \(パイロット\) PDF\)](#)

関連レコードを使用した Einstein セールスメールの強化

関連オブジェクトが Einstein セールスメールプロンプトテンプレートでサポートされるようになりました。ユーザーは、関連オブジェクトレコード(取引先や取引先責任者など)を選択して、Einstein 生成 AI でメールのドラフトを作成するための追加の背景やコンテキストを提供します。

対象: この機能は Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。Einstein 生成 AI は Lightning Experience で使用できます。

方法: オブジェクトのレコードを要求するメール種別を選択した後にレコードを選択します。たとえば、メール種別に商談が必要な場合は、商談レコードを選択します。



関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[プロンプトビルダーでパーソナライズされたセールスメールの生成 \(パイロット\)](#)

[Einstein 生成 AI を使用したセールスメールへの商品情報の追加](#)

[Salesforce ヘルプ: Draft a Sales Email with Einstein Generative AI \(Einstein 生成 AI を使用したセールスメールのドラフト作成\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Prompt Builder Pilot Guide PDF \(プロンプトビルダー \(パイロット\) PDF\)](#)

プロンプトビルダーを使用したセールスメールのパーソナライズ (パイロット)

プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成することで、営業チームが取引先責任者やリードに対してパーソナライズされたメールを素早く作成できるようになります。プロンプトテンプレートは、データを保護しながら大規模言語モデル (LLM) と対話するための再利用可能なプロンプトです。セールスメールのプロンプトテンプレートにより、ユーザーの日々のワークフローがスムーズになります。差し込み項目、フロー、Apex を使用して、最新の CRM データを含むプロンプトテンプレートを追加、テスト、修正、管理します。

対象: プロンプトビルダーは、Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。Einstein 生成 AI は Lightning Experience で使用できます。

プロンプトビルダーを使用するには、セールス向け Einstein アドオンが必要です。セールス向け Einstein アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

- メモ:** この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります。SFDC の裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

関連トピック:

[プロンプトビルダーでパーソナライズされたセールスメールの生成 \(パイロット\)](#)

Einstein を使用して AI が生成した簡潔な販売概要を取得 (ベータ)

Einstein セールス概要を使用すると、営業担当は AI が生成した商談、取引先、取引先責任者、リードの概要を利用して、会議や通話の準備にかかる時間を短縮できます。セールス概要は、Salesforce の顧客データを使用して、担当者が取引、顧客、プロスペクトの現状を把握するのに役立つ主要なデータポイントでレコードを要約します。

対象: この変更は、Performance Edition および Unlimited Edition (Einstein for Sales アドオン付属) の Lightning Experience に適用されます。Einstein 生成 AI は Lightning Experience で使用できます。

セールス向け Einstein アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

- メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

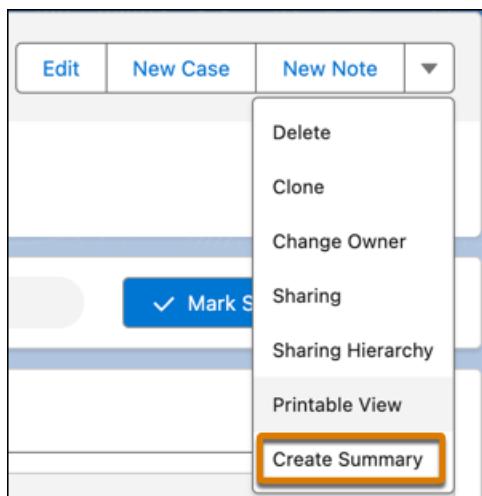
時期: 取引先と商談の Einstein セールス概要はベータで使用可能になりました。取引先責任者とリードのセールス概要は、Winter '24 の後半で利用できるようになります。

対象ユーザー: この機能は、「セールス概要ユーザー」権限セットを持つユーザーが使用できます。

理由: 一般的なサマリーには、案件や取引先の状況、最近の活動、主要なチームメンバーと連絡先、次のステップなどが含まれます。

The screenshot shows the 'Summary for Borderfree GW' page. At the top, it says 'Einstein Opportunity Summary'. Below that, it shows the deal was created on Oct 12 at 12:50 PM. It provides a summary of the deal: 'The deal named Borderfree GW is currently in the Negotiation/Review stage and is associated with the account Intermediate Chanticleer Inc.. The deal amount is \$78,660.82 and the deal is expected to close on January 9, 2023.' Under 'Who's Involved', it states there are two contacts, including the CEO, and one internal team member involved. Under 'Activities', it says there have been 2 meetings and 1 call related to the deal in the past 30 days. At the bottom, there is a 'Copy to Clipboard' button.

方法: ユーザーは [概要を作成] を選択して取引先や商談の概要を作成できます。



セールス概要を使用するには、[設定] で Einstein 生成 AI を有効化します。次に、Einstein for Sales のページに移動して、セールスの概要を有効化し、設定ステップを完了します。

関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

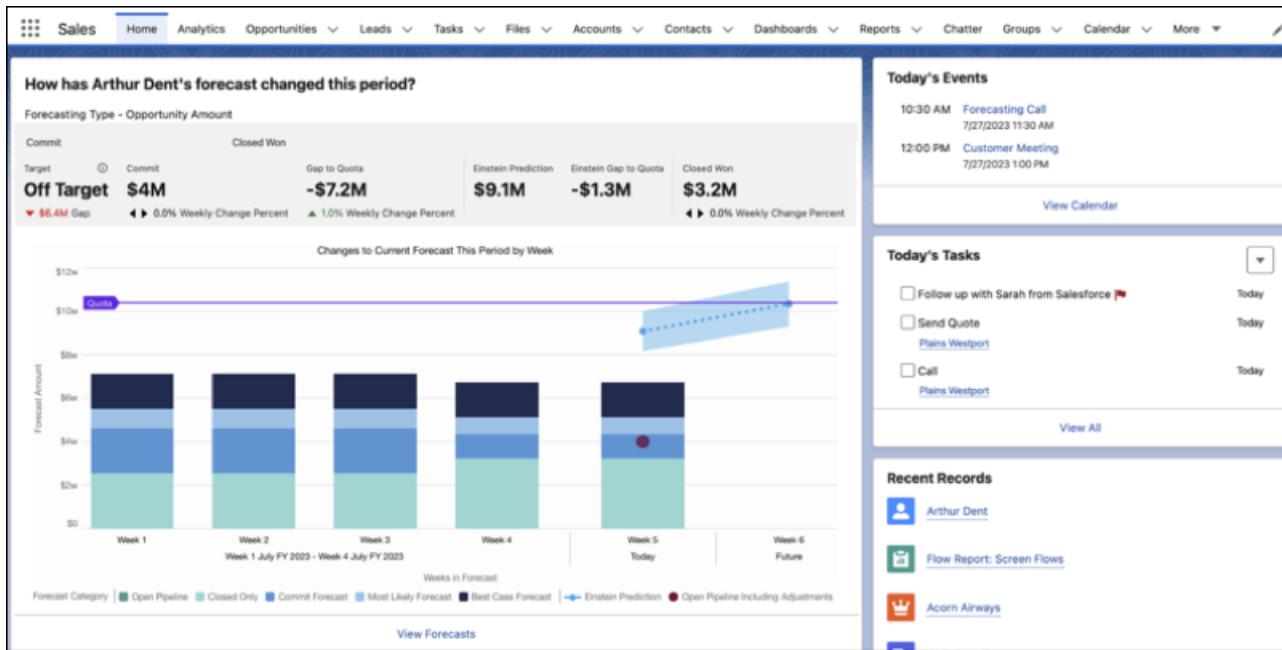
[Salesforce ヘルプ:Einstein セールス概要の設定\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

売上予測のトレンドの迅速な発見

[Einstein 売上予測] 予測グラフが含まれる [売上予測の変化] グラフは、以前は売上予測ページでしか使用できませんでしたが、ホームページでも使用できるようになりました。現在の期間の売上予測に対する変化と Einstein 予測線を確認し、この期間の売上予測がこの期間でどのように変化したかを測定できます。

対象: この変更は、Performance Edition と Unlimited Edition で使用可能、Enterprise Edition で有料オプションで使用可能な Sales Cloud Einstein が付属する Lightning Experience に適用されます。

方法: ホームページに Einstein Forecasting ダッシュボードまたは [四半期パフォーマンス] ウィジェットを追加しているユーザーには自動的に新しいグラフが表示されます。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ:Einstein売上予測を使用したよりスマートなパイプラインの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Einstein 取引先インサイトと商談インサイトの廃止

Einstein 取引先インサイトと Einstein 商談インサイトは、Winter '24 以降、2023 年 11 月 14 日の時点で廃止されます。Salesforce では、パイプラインインスペクションや Einstein リレーションインサイトなどの機能の開発に力を入れることになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition (Sales Cloud Einstein アドオン付属) の Lightning Experience に適用されます。

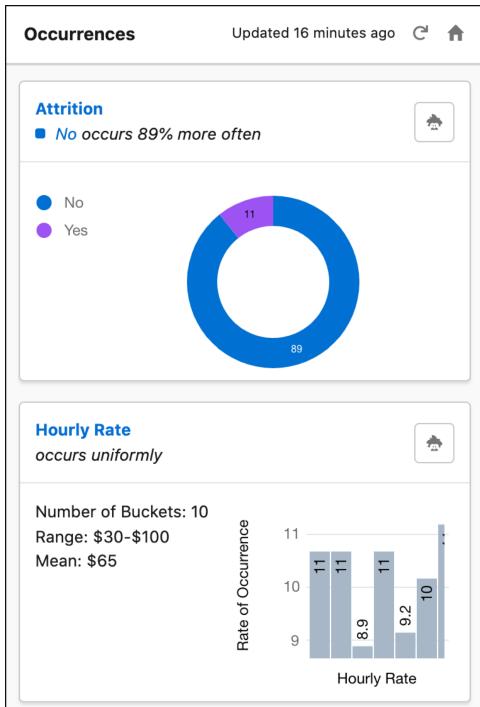
2023 年 11 月 14 日以降、Einstein 商談インサイトと Einstein 取引先インサイトは使用できなくなります。詳細は、[「Einstein 商談インサイトの廃止」と「Einstein 取引先インサイトの廃止」](#) を参照してください。

CRM Analytics を使用してレポートの隠れたインサイトを発見

CRM Analytics を使用している Sales Cloud Einstein ユーザーは、レポートデータに対して Einstein Discovery を利用した統計分析を簡単に実行できるようになりました。「レポート用 Einstein Discovery の実行」権限が、標準権限セット「Sales Cloud Einstein 同梱」、「Sales Cloud Einstein 同梱バンドル」、および「Sales Cloud Einstein」に追加されました。

対象: この変更は、Performance Edition と Unlimited Edition で使用可能、Enterprise Edition で有料オプションで使用可能な Sales Cloud Einstein が付属する Lightning Experience に適用されます。

理由: レポート用 Einstein Discovery を使用すると、営業チームはレポートデータを分析して、統計的に有意な出現数を調べることができます。たとえば、データの頻度に関する統計や、経時的な変化の範囲に関する分析を表示できます。ユーザーは、特定のインサイトを絞り込んだり、独自の分析を作成したりできます。



方法: ユーザーに対して CRM Analytics が有効になっていて、標準権限セット 「Sales Cloud Einstein 同梱」、「Sales Cloud Einstein 同梱バンドル」、または 「Sales Cloud Einstein」 も割り当てられている場合、レポートに [分析] ボタンが表示されるようになりました。



[分析] ボタンがすぐに表示されない場合、レポート用 Einstein Discovery を設定して表示されるように設定できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: レポート用 Einstein Discovery の設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: レポートデータの分析 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Sales Cloud Einstein を使用できるユーザーの選択 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Sales Cloud Everywhere

営業担当がインターネットでプロスペクトを検索すると、Sales Cloud Everywhere Chrome 拡張機能は Web での調査内容をデータベースに反映します。営業担当はワークスペースでデータのグリッド状のビューを使用して案件を管理できます。独自の[ワークスペース]タブを作成して、表示されるデータをカスタマイズできます。小さなToDoリストでは、新しい並び替えオプション、追加の検索条件、検索機能の拡張により、最も重要なToDoに焦点を絞ることができます。

このセクションの内容:

[コンテキストインサイトを使用した関心のある会社のフォローアップ](#)

営業担当は、インターネットで企業を調査することで新規の顧客を探します。Salesforceデータベースでは、営業担当が閲覧している Web サイトの会社の情報がデータベースに存在するかどうかを確認して、営業調査の情報を最新に状態に維持できるようになりました。Salesforce にデータが存在する場合は、保存されている内容を表示できます。データが存在しない場合は、その会社を新規取引先として追加し、潜在的な顧客として営業活動を行えるようになります。

[ワークスペースでの独自の方法でのデータの表示](#)

ユーザーは、グリッド状のレイアウトでデータを表示するために最大10個の個人用ワークスペースタブを作成して管理できます。リストで、ユーザーはデータの並び替え、絞り込み、照会を行うだけでなく、更新することもできます。表示するデータの型やワークスペースでの表示方法を選択できます。タブの作成後に、関連データが表示されるようにワークスペースを変更できます。

[ワークスペースで多数のレコードのデータを更新](#)

複数のレコードで同じ項目を同時に更新して時間を節約します。

[Sales Cloud Everywhere のログイン状態の維持](#)

Salesforce では、Sales Cloud Everywhere のすべてのユーザーの進行中のセッションを維持し、頻繁なログアウトを回避して生産性を向上させます。以前は、Gmail アカウントを使用して Everywhere にログインしているユーザーのみが、タイムアウト設定を超過してセッションを維持することができました。SalesCloud Everywhere のユーザーは、ブラウザーを閉じるか手動でログアウトした場合にのみログアウトされるようになりました。

[Sales Cloud Everywhere の埋め込みサイドパネルで生産性を維持](#)

Chrome ブラウザユーザーは、ブラウザの埋め込み部分として Sales Cloud Everywhere にアクセスします。Everywhere のサイドパネルは常に使用可能で、幅を調整できます。以前は、この拡張機能は別のウィンドウとしてのみ使用できました。

[Sales Cloud Everywhere の改善されたインターフェースで効率的に作業](#)

ナビゲーションメニューを使用して、ホームに戻らなくても、アラートの確認、新規顧客のプロスペクト、現在の商談への取り組みなど、最も頻繁に行う作業に切り替えることができます。更新された機能により操作性が向上します。

[Salesforce Everywhere のより簡単な設定](#)

独立したイネーブルメントセクションが追加されたため、Sales Cloud Everywhere の有効化がこれまで以上に簡単になりました。

コンテキストインサイトを使用した関心のある会社のフォローアップ

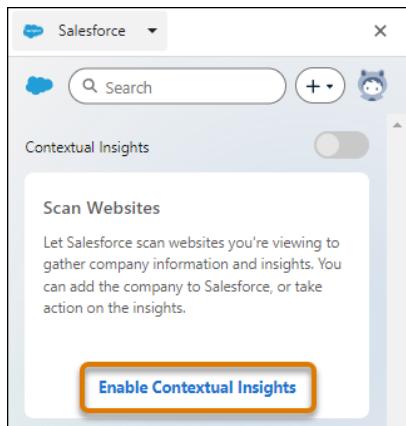
営業担当は、インターネットで企業を調査することで新規の顧客を探します。Salesforceデータベースでは、営業担当が閲覧している Web サイトの会社の情報がデータベースに存在するかどうかを確認して、営業調査の情報を最新に状態に維持できるようになりました。Salesforce にデータが存在する場合は、保存されている内容を表示できます。データが存在しない場合は、その会社を新規取引先として追加し、潜在的な顧客として営業活動を行えるようになります。

対象: この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: コンテキストインサイトは、Sales Cloud Everywhere Chrome 拡張機能のサイドパネルにあります。

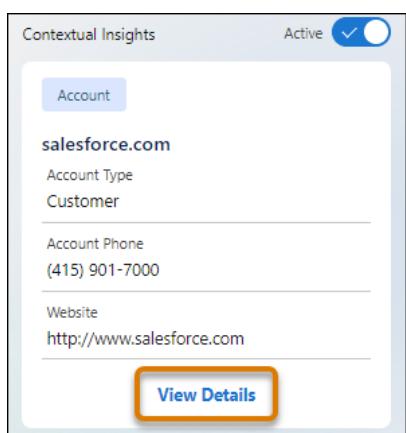
まず、システム管理者が Gmail インテグレーションを有効化し、[Web で Salesforce を使用] を有効にします。次に、システム管理者は営業担当に拡張機能をインストールするように依頼します。

コンテキストインサイト機能は自動的に表示されます。営業担当は、コンテキストインサイトを有効化して開始します。

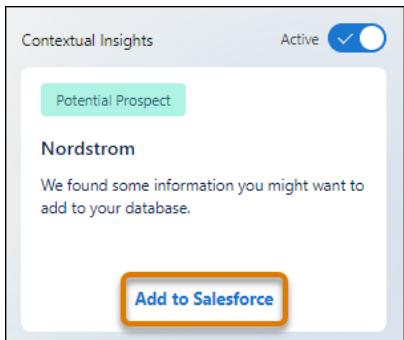


コンテキストインサイトが有効化されると、営業担当がインターネットにアクセスしている間に、閲覧している Web サイトが自動的に調査されます。

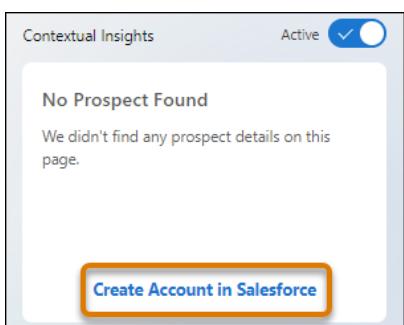
その会社が Salesforce の取引先と一致すると、Salesforce データベースに保存されている詳細情報が表示されます。



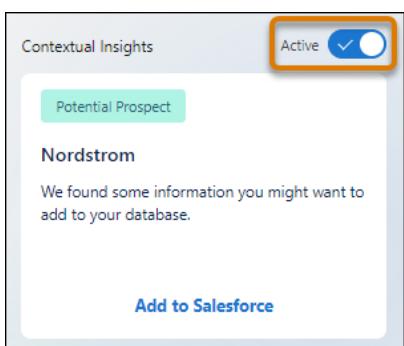
その会社の情報が見つかったものの、Salesforce の取引先とは一致しない場合は、データベースに追加されます。その後、営業担当はフォローアップを実行できます。



その会社の情報が見つからず、営業担当がフォローアップを希望する場合は、新しい取引先を最初から作成します。



営業担当は、コンテキストインサイトをいつでも一時停止したり再開したりできます。



 **メモ:** コンテキストインサイト機能は英語のみで利用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Everywhere Chrome 拡張機能の有効化と無効化 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Follow Up on Companies of Interest with Contextual Insights in the Sales Cloud Everywhere Chrome Extension \(Sales Cloud Everywhere Chrome 拡張機能のコンテキストインサイトを使用した関心のある会社のフォローアップ\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

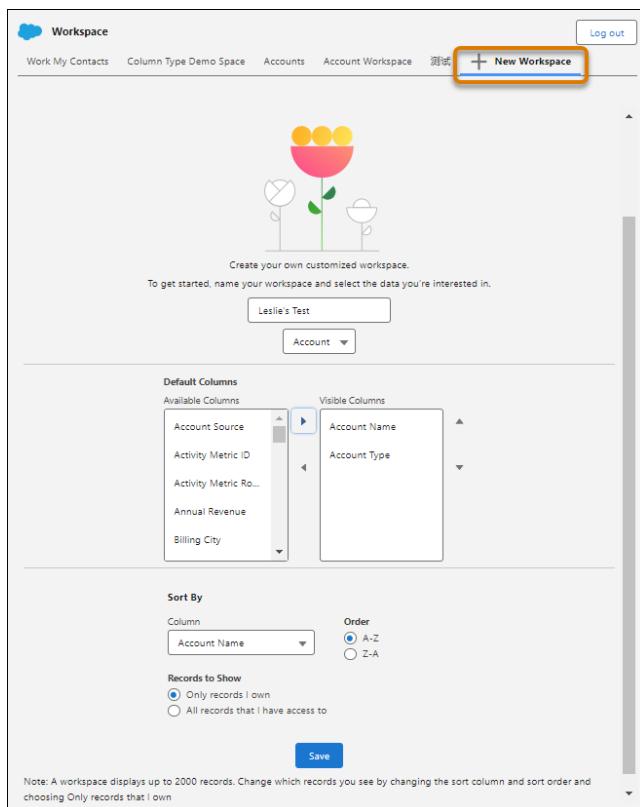
[Salesforce ヘルプ: プロンプトビルダー \(パイロット\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ワークスペースでの独自の方法でのデータの表示

ユーザーは、グリッド状のレイアウトでデータを表示するために最大 10 個の個人用ワークスペスタブを作成して管理できます。リストで、ユーザーはデータの並び替え、絞り込み、照会を行うだけでなく、更新することもできます。表示するデータの型やワークスペースでの表示方法を選択できます。タブの作成後に、関連データが表示されるようにワークスペースを変更できます。

対象: この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [新規ワークスペース] をクリックして独自のワークスペースを作成します。



[ワークスペースを管理] アイコンをクリックして、ワークスペースを更新または削除します。

Welcome, Admin. We're showing 38 record(s) sorted by Account ID in A-Z order. You're seeing records that you own.

Account ID	Account P...	Billing Lati...	Billing Lon...	Billing Geo...
Acme	(212) 555-5555			

既存のワークスペースを管理する場合は、関連オブジェクトを追加できます。この関連オブジェクトには、オブジェクト間でデータをリンクするために使用される列(または列のグループ)があります。関連オブジェクトの列をワークスペースに追加できます。

Advanced Column Selections

Related Object i
Account ID : Account

Default Columns

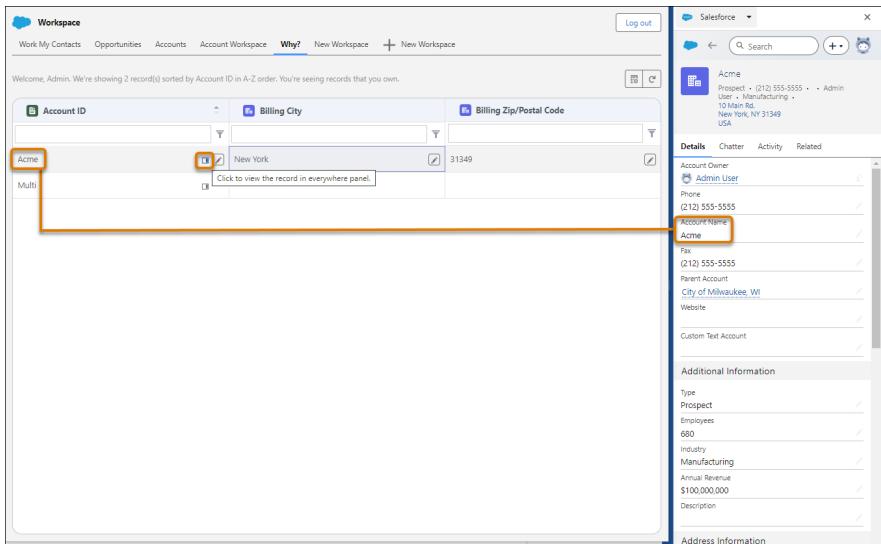
Available Columns

- Data.com Key
- Jigsaw Company ID
- Last Modified By ID
- Last Modified Date
- Last Referenced Date

Visible Columns

- Annual Revenue
- Created Date
- Industry
- Last Activity

ワークスペースは Sales Cloud Everywhere Chrome 拡張機能とも連携します。参照項目の上にマウスポインターを置いてサイドパネルアイコンをクリックします。そのレコードがサイドパネルに表示されます。



関連トピック:

ワークスペースで複数のレコードのデータを更新

[Salesforce ヘルプ](#): Salesforce Everywhere Chrome 拡張機能の有効化と無効化(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

[Salesforce ヘルプ](#): Quickly Update Multiple Records with Workspace in the Sales Cloud Everywhere Chrome Extension (Sales Cloud Everywhere Chrome 拡張機能のワークスペースを使用した複数レコードの迅速な更新)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

ワークスペースで複数のレコードのデータを更新

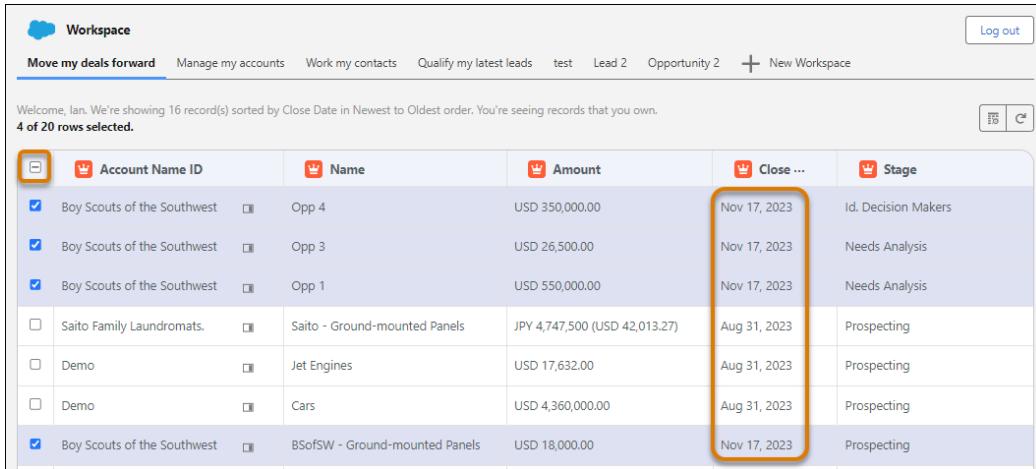
複数のレコードで同じ項目を同時に更新して時間を節約します。

対象: この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ワークスペースで、最大 20 行を選択します。この例では、Boy Scouts of the Southwest 取引先の行が 4 つ選択されています。

	Account Name ID	Name	Amount	Close ...	Stage
<input checked="" type="checkbox"/>	Boy Scouts of the Southwest	Opp 4	USD 350,000.00	Nov 15, 2023	Id. Decision Makers
<input checked="" type="checkbox"/>	Boy Scouts of the Southwest	Opp 3	USD 26,500.00	Oct 3, 2023	Needs Analysis
<input checked="" type="checkbox"/>	Boy Scouts of the Southwest	Opp 1	USD 550,000.00	Nov 2, 2023	Needs Analysis
<input type="checkbox"/>	Saito Family Laundromats.	Saito - Ground-mounted Panels	JPY 4,747,500 (USD 42,013.27)	Aug 31, 2023	Prospecting
<input type="checkbox"/>	Demo	Jet Engines	USD 17,632.00	Aug 31, 2023	Prospecting
<input type="checkbox"/>	Demo	Cars	USD 4,360,000.00	Aug 31, 2023	Prospecting
<input checked="" type="checkbox"/>	Boy Scouts of the Southwest	BSofSW - Ground-mounted Panels	USD 18,000.00	Nov 7, 2023	Prospecting

すべての商談で完了予定日を同じにします。1つの行で項目値を変更し、Enterキーを押します。選択したすべての行の項目が、その新しい値に変更されます。



	Account Name ID	Name	Amount	Close ...	Stage
<input checked="" type="checkbox"/>	Boy Scouts of the Southwest	Opp 4	USD 350,000.00	Nov 17, 2023	Id. Decision Makers
<input checked="" type="checkbox"/>	Boy Scouts of the Southwest	Opp 3	USD 26,500.00	Nov 17, 2023	Needs Analysis
<input checked="" type="checkbox"/>	Boy Scouts of the Southwest	Opp 1	USD 550,000.00	Nov 17, 2023	Needs Analysis
<input type="checkbox"/>	Saito Family Laundromats.	Saito - Ground-mounted Panels	JPY 4,747,500 (USD 42,013.27)	Aug 31, 2023	Prospecting
<input type="checkbox"/>	Demo	Jet Engines	USD 17,632.00	Aug 31, 2023	Prospecting
<input type="checkbox"/>	Demo	Cars	USD 4,360,000.00	Aug 31, 2023	Prospecting
<input checked="" type="checkbox"/>	Boy Scouts of the Southwest	BSofSW - Ground-mounted Panels	USD 18,000.00	Nov 17, 2023	Prospecting

値の変更が完了したら、行選択ボックスの上にある選択解除アイコンをクリックします。行の選択を解除して、誤ってデータが変更されることを防ぎます。

関連トピック:

[ワークスペースでの独自の方法でのデータの表示](#)

[Salesforce ヘルプ: Sales Cloud Everywhere で複数レコードの迅速な更新\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Everywhere Chrome 拡張機能の有効化と無効化\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Sales Cloud Everywhere のログイン状態の維持

Salesforce では、Sales Cloud Everywhere のすべてのユーザーの進行中のセッションを維持し、頻繁なログアウトを回避して生産性を向上させます。以前は、Gmail アカウントを使用して Everywhere にログインしているユーザーのみが、タイムアウト設定を超過してセッションを維持することができました。Sales Cloud Everywhere のユーザーは、ブラウザーを閉じるか手動でログアウトした場合にのみログアウトされるようになりました。

対象: この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Everywhere Chrome 拡張機能の有効化と無効化\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Sales Cloud Everywhere の埋め込みサイドパネルで生産性を維持

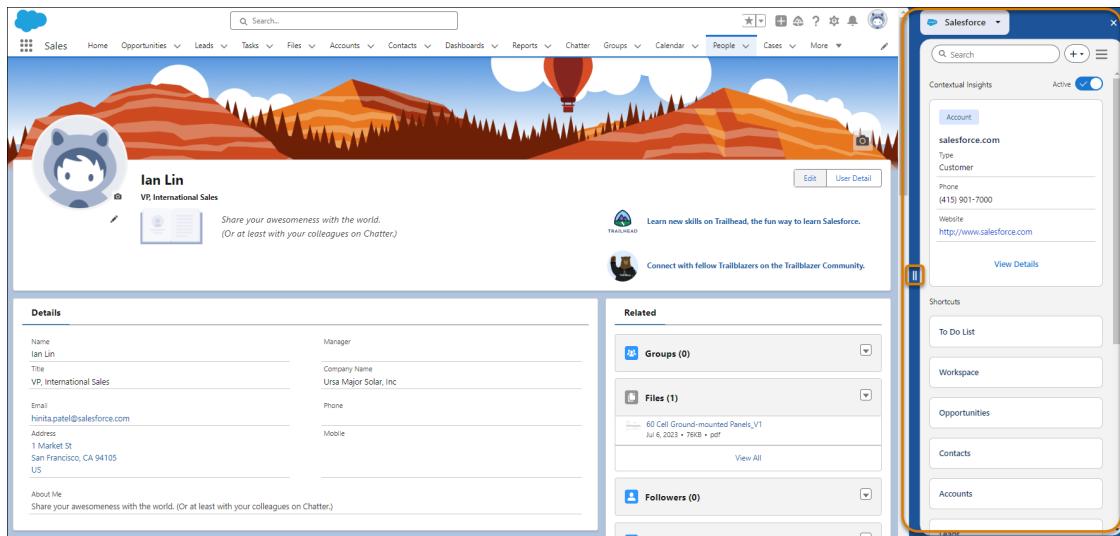
Chrome ブラウザーユーザーは、ブラウザーの埋め込み部分として Sales Cloud Everywhere にアクセスします。 Everywhere のサイドパネルは常に使用可能で、幅を調整できます。以前は、この拡張機能は別のウィンドウとしてのみ使用できました。

対象: この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Sales Cloud Everywhere を開くには、サイドパネルアイコン 、ブラウザーのツールバーに固定された

Salesforce icon 、またはキーボードショートカット (**Ctrl+e** (Windows) または **Cmd+e** (Mac)) を使用します。

区切り線をクリックしてドラッグし、Everywhere 拡張機能サイドパネルを広げたり狭めたりします。



関連トピック:

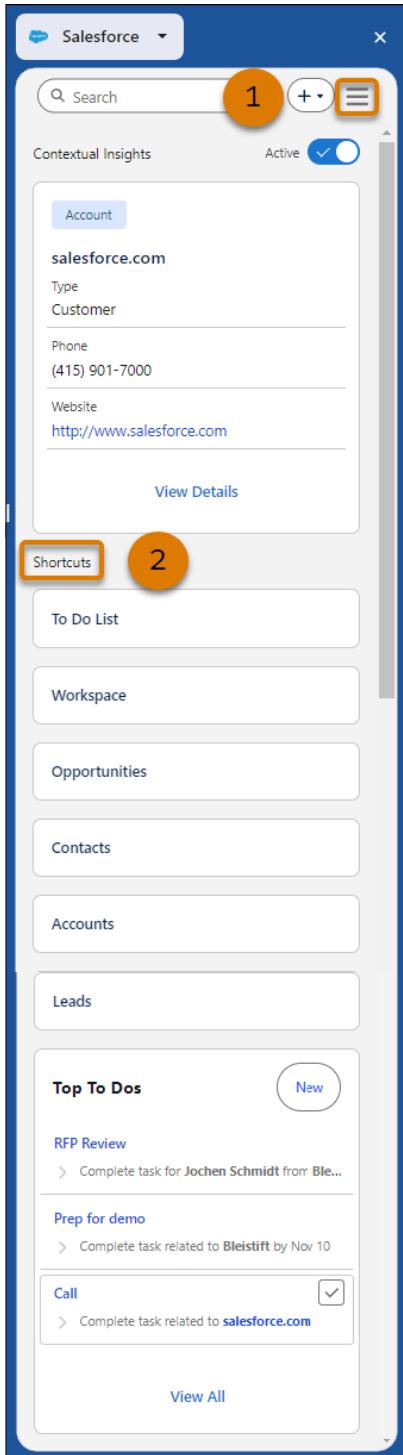
[Salesforce ヘルプ: Salesforce Everywhere Chrome 拡張機能の有効化と無効化 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Sales Cloud Everywhere の改善されたインターフェースで効率的に作業

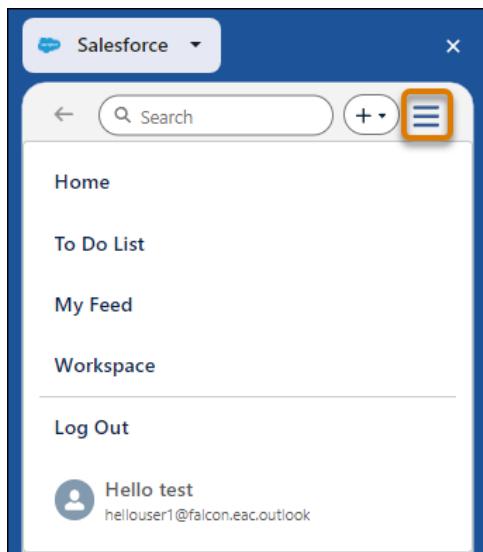
ナビゲーションメニューを使用して、ホームに戻らなくても、アラートの確認、新規顧客のプロスペクト、現在の商談への取り組みなど、最も頻繁に行う作業に切り替えることができます。更新された機能により操作性が向上します。

対象: この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

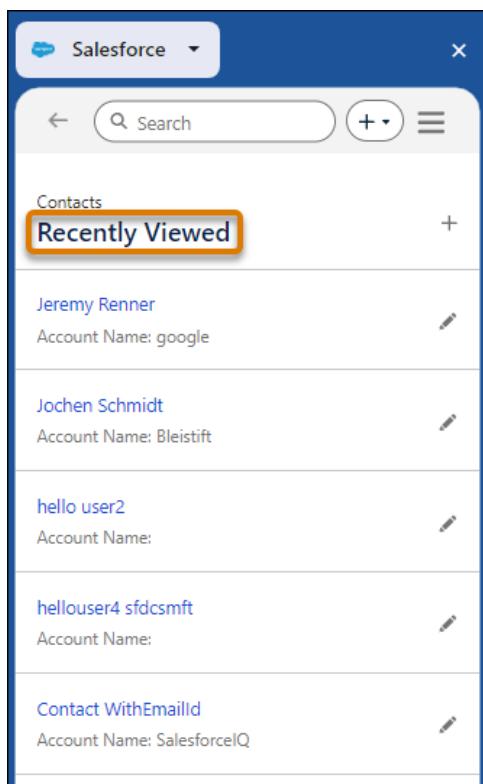
理由: 次のように効率的に移動できます。



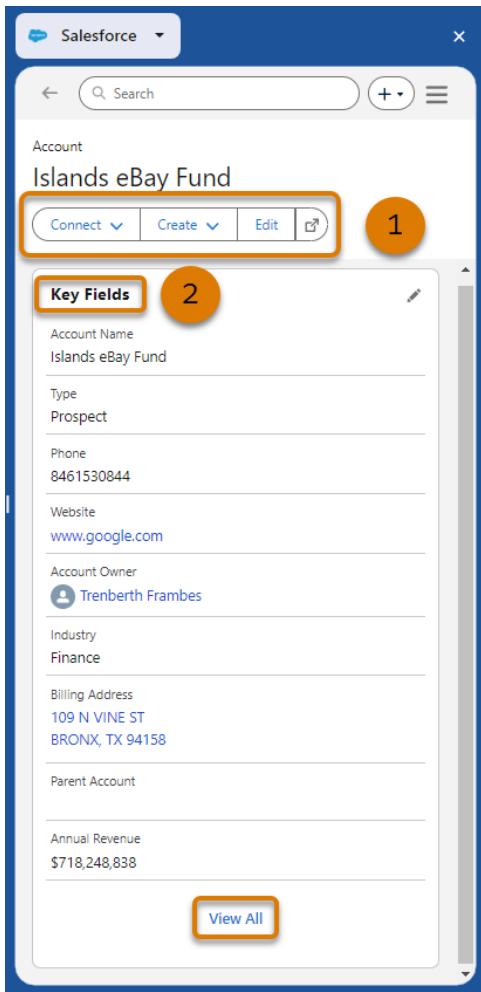
ナビゲーションメニュー(1)をクリックして、[ToDoリスト]、[私のフィード]、[ワークスペース]に移動します。
[私のフィード]はナビゲーションメニューのみで使用できます。



ショートカットボタン⁽²⁾を使用して、[ToDoリスト]、[ワークスペース]、または最近参照した商談、取引先責任者、取引先、リードに直接移動できます。



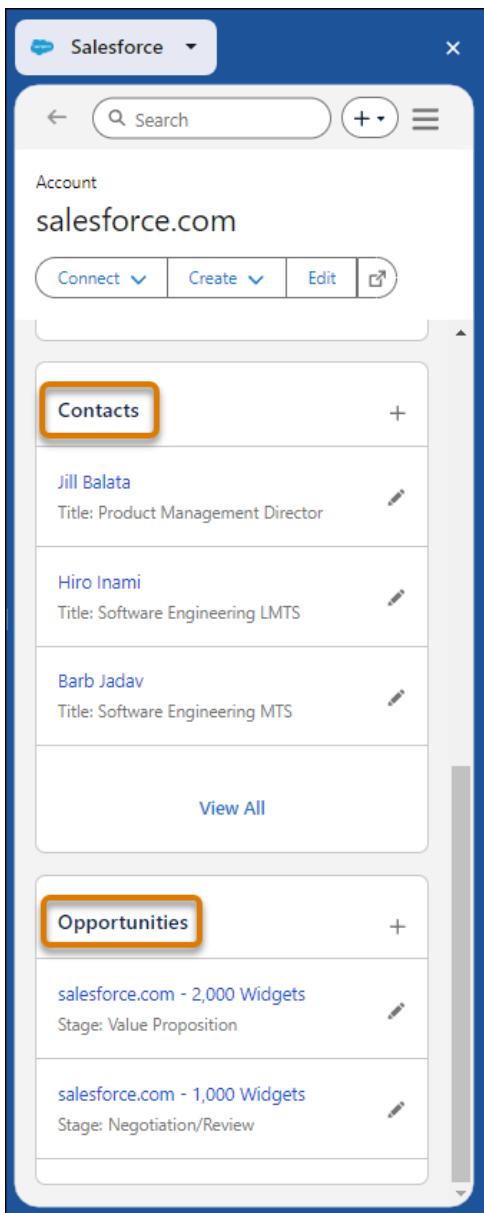
取引先レコードには、いくつかの機能が適用されます。



取引先の名前をクリックしたら、サイドパネルの上部にあるアクションボタン(1)を使用して、一般的なタスクをすばやく実行します。メールまたは音声で接続したり、レコードを作成または編集したり、Salesforceでレコードを表示したりします。

[重要な項目](2)セクションは、必要な場所に最も重要な情報を表示します。[すべて表示]をクリックすると、レコードのすべての項目が表示されます。

取引先にレコードが関連付けられている場合は、それらのレコードの関連リストが表示されます。



関連トピック:

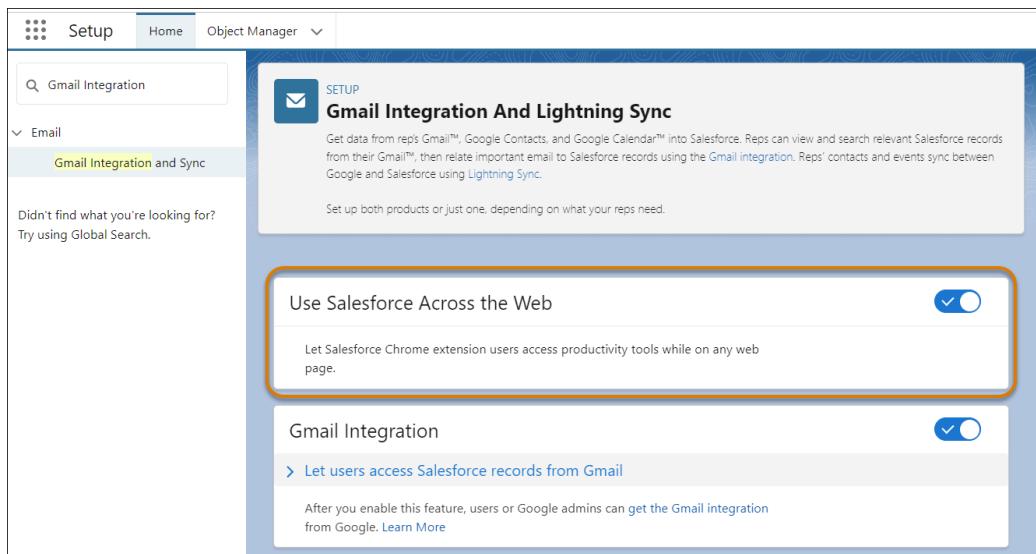
[Salesforce ヘルプ: Salesforce Everywhere Chrome 拡張機能の有効化と無効化 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce Everywhere のより簡単な設定

独立したイネーブルメントセクションが追加されたため、SalesCloud Everywhere の有効化がこれまで以上に簡単になりました。

対象: この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「Gmail インテグレーション」と入力します。次に、[Gmail インテグレーションおよび同期] を選択します。[Web で Salesforce を使用] 設定を有効にします。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Everywhere Chrome 拡張機能の有効化と無効化 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

他の商品との統合

Activity 360 を使用してメールや ToDo などの活動についてレポートできます。Google から Salesforce に定期的な一連の活動を同期できます。インテグレーション機能や今後の製品の廃止について確認できます。

このセクションの内容:

[Salesforce for Outlook \(廃止予定\)](#)

Salesforce for Outlook の製品全体の廃止は 2024 年 6 月にスケジュールされています。当面、Salesforce for Outlook を使用し続ける場合は、TrailblazerCommunity から現在のバージョンに関する過去のリリースノートを参照してください。

[Lightning Sync for Google](#)

Lightning Sync 移行可能アシスタントを使用して、Einstein 活動キャプチャへの移行を合理化します。

[Einstein 活動キャプチャ](#)

Activity 360 のレポート機能を使用してチームの活動を監視できます。Einstein 活動キャプチャユーザーの状況や接続の問題をすばやく解決し、刷新された「状況と評価指標」ページで状況の評価指標を確認できます。Google から Salesforce への定期的な行動の同期を開始できます。

Salesforce for Outlook (廃止予定)

Salesforce for Outlook の製品全体の廃止は 2024 年 6 月にスケジュールされています。当面、Salesforce for Outlook を使用し続ける場合は、Trailblazer Community から現在のバージョンに関する過去のリリースノートを参照してください。

このセクションの内容:

[2024年6月に廃止される Salesforce for Outlook](#)

Salesforce for Outlook の製品全体の廃止は 2024 年 6 月にスケジュールされています。Microsoft Outlook との最新のインテグレーションを利用する場合は、次世代製品である Outlook インテグレーションと Einstein 活動キャプチャに移行することを引き続きお勧めします。これらの製品は、Salesforce for Outlook の機能の置き換えになるだけでなく、新機能も追加されます。この製品については、今後もリリースのたびに機能強化が行われます。

2024 年 6 月に廃止される Salesforce for Outlook

Salesforce for Outlook の製品全体の廃止は 2024 年 6 月にスケジュールされています。Microsoft Outlook との最新のインテグレーションを利用する場合は、次世代製品である Outlook インテグレーションと Einstein 活動キャプチャに移行することを引き続きお勧めします。これらの製品は、Salesforce for Outlook の機能の置き換えになるだけでなく、新機能も追加されます。この製品については、今後もリリースのたびに機能強化が行われます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce for Outlook が廃止されると、取引先責任者、行動、ToDo が同期されなくなります。また、システム管理者とユーザーも、サイドパネルなどの Salesforce for Outlook 機能にアクセスできなくなります。

関連トピック:

[ナレッジ記事: Salesforce for Outlook の廃止](#)

[Salesforce ヘルプ: Salesforce for Outlook から次世代製品への移行\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Trailblazer Community: Salesforce for Outlook リリースノート](#)

Lightning Sync for Google

Lightning Sync 移行可能アシスタントを使用して、Einstein 活動キャプチャへの移行を合理化します。

Einstein 活動キャプチャ

Activity 360 のレポート機能を使用してチームの活動を監視できます。Einstein 活動キャプチャユーザーの状況や接続の問題をすばやく解決し、刷新された [状況と評価指標] ページで状況の評価指標を確認できます。Google から Salesforce への定期的な行動の同期を開始できます。

このセクションの内容:

[実現した IdeaExchange: 標準レポートでの Einstein によってキャプチャされた活動の表示](#)

Einstein 活動キャプチャによってキャプチャされたメールを標準レポートで使用できるようになりました。新しい Activity 360 Reporting オブジェクトを使用して、すべてのチャネルでのチームの活動を一目で確認できます。以前は、自動的にキャプチャされたレコードは標準レポートでは使用できませんでした。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

通知を使用した接続の問題の迅速な解決

ユーザーの接続済みアカウントが無効化されるか注意が必要な場合に通知が送信されます。これにより、接続の問題が発生したときすぐに解決できます。

実現した IdeaExchange: Google から Salesforce への定期的な行動の同期

行動同期設定に Google からの定期的な行動を含めることができますようになりました。同期設定で [一連の行動を同期] チェックボックスをオンにした後に作成された行動のみが Google から Salesforce に同期されます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

ユーザーのオンボーディング状況と接続評価指標を 1 か所で確認

ユーザーのオンボーディング状況と Einstein 活動キャプチャの接続評価指標を確認するには、[状況と評価指標] ページに移動するようになりました。[ユーザーステータス] タブで接続済みアカウントを確認し、[接続状況] タブで接続データやおすすめを確認できます。[ユーザーステータス] タブの新しい列に、現在の日付に同期された取引先責任者の件数、現在の日付に同期された行動の件数、最新の同期の日時が表示されます。これまで、ユーザーのオンボーディング状況と接続評価指標は [ユーザーステータス] ページに表示されていました。

[カレンダー] タブから統合カレンダーを非表示

[カレンダー] タブでユーザーに Microsoft Exchange™ および Google™ カレンダーチェックボックスを表示するかどうかを制御できるようになりました。新規ユーザーの場合、この設定はデフォルトで無効になっているため、ユーザーには Salesforce に同期される行動のみが表示されます。この設定を有効にすると、ユーザーはチェックボックスを選択して、[カレンダー] タブで統合カレンダーを重ねることができます。



標準レポートでの Einstein によってキャプチャされた活動の表示

Einstein 活動キャプチャによってキャプチャされたメールを標準レポートで使用できるようになりました。新しい Activity 360 Reporting オブジェクトを使用して、すべてのチャネルでのチームの活動を一目で確認できます。以前は、自動的にキャプチャされたレコードは標準レポートでは使用できませんでした。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Sales Cloud Einstein、Sales Engagement、Revenue Intelligence のいずれかのアドオンライセンスで使用可能なエディション: Professional Edition および Enterprise Edition。

理由: Activity 360 により新しいレポートオブジェクトを使用できるため、次の機能も利用できます。

- パイプラインインスペクションを使用して、営業チームはサイドパネルから直接誰が案件に参加しているかを確認できます。
- Sales Engagement を使用して、自動アクションでインサイトを使用できます。

方法: [設定] の [Einstein 活動キャプチャ] ページでの [設定] タブで [Activity 360 Reporting] を有効にします。Activity 360 を有効にすると、レポートフォルダーや新しいダッシュボードが使用できるようになります。この機能を有効にした後に作成された活動についてレポートできます。

Einstein Activity Capture

Let Einstein help keep your sales reps' email and calendar in sync with Salesforce. Then reps can get back to more important things, like selling. After reps connect their email and calendar accounts to Salesforce, email and events are automatically associated with related Salesforce records. Plus, contacts and events are synced between the connected accounts and Salesforce.

General

Einstein Activity Capture

When the feature is turned on, your configurations and settings take effect. When turned off, your configurations and settings are saved, but the feature is disabled. [More Info](#)

Records That Activities Are Added To

By default, activities are added to accounts, contacts, leads, person accounts, and opportunities. [Edit Records](#)

Activity Metrics

When you include Activity Metrics fields on things like reports, triggers, list views, the data reflects activities that were added to Salesforce manually and by Einstein Activity Capture. After you turn on Activity Metrics, On it can take up to a few days before it's ready to use. During that time, you can't turn it off. You'll receive a notification when it's ready.

Activities Dashboard

Users with access to the Activities dashboard see a summary of sales activities, including calls, emails, events, and tasks. Activities added manually and with Einstein Activity Capture are included. It can take a few days before the dashboard shows all activity data. [More Info](#)

Activity 360 Reporting

Access out-of-the-box reports and reporting objects that show all your insights and activity data, including activities captured by Einstein. Use email insights to trigger Automated Actions. And turn on Who's involved in the Deal, a Pipeline Inspection feature that helps sales managers see who is involved in an opportunity. [Learn More in Help](#)

関連トピック:

[適切な人が関与することで案件を順調に進める](#)

[Einstein インサイトが発生したときのケイデンス対象の管理](#)

[IdeaExchange: Expose Automated Activity Capture Activities in Reports \(レポートでの自動活動キャプチャ活動の公開\)](#)

[Salesforce ヘルプ:Einstein活動キャプチャから記録およびキャプチャされた活動に関するレポート\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

通知を使用した接続の問題の迅速な解決

ユーザーの接続済みアカウントが無効化されるか注意が必要な場合に通知が送信されます。これにより、接続の問題が発生したときにすぐ解決できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 通知設定を確認するには、[設定]の[接続状況通知]ページに移動します。一定の割合の接続済みアカウントが無効化されるか注意が必要な場合に通知されるように通知しきい値を設定できます。デフォルトは15%のアカウントが注意が必要な場合ですが、0～100のパーセント値を入力できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:Einstein活動キャプチャユーザーの接続状況と評価指標の確認\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)



Google から Salesforce への定期的な行動の同期

行動同期設定に Google からの定期的な行動を含めることができますようになりました。同期設定で [一連の行動を同期] チェックボックスをオンにした後に作成された行動のみが Google から Salesforce に同期されます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:Einstein 活動キャプチャによる一連の行動の同期方法\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ユーザーのオンボーディング状況と接続評価指標を 1 か所で確認

ユーザーのオンボーディング状況と Einstein 活動キャプチャの接続評価指標を確認するには、[状況と評価指標] ページに移動するようになりました。[ユーザーステータス] タブで接続済みアカウントを確認し、[接続状況] タブで接続データやおすすめを確認できます。[ユーザーステータス] タブの新しい列に、現在の日付に同期された取引先責任者の件数、現在の日付に同期された行動の件数、最新の同期の日時が表示されます。これまで、ユーザーのオンボーディング状況と接続評価指標は [ユーザーステータス] ページに表示されていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[ユーザーのオンボーディング状況と接続評価指標を 1 か所で確認](#)

[Salesforce ヘルプ:Einstein 活動キャプチャユーザーの接続状況と評価指標の確認\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:Einstein 活動キャプチャの設定に関する考慮事項\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[カレンダー] タブから統合カレンダーを非表示

[カレンダー] タブでユーザーに Microsoft Exchange™ および Google™ カレンダーチェックボックスを表示するかどうかを制御できるようになりました。新規ユーザーの場合、この設定はデフォルトで無効になっているため、ユーザーには Salesforce に同期される行動のみが表示されます。この設定を有効にすると、ユーザーはチェックボックスを選択して、[カレンダー] タブで統合カレンダーを重ねることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:Einstein 活動キャプチャによる一連の行動の同期方法\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce Meetings

Spring '24 での Meeting Studio の廃止に備えてください。

このセクションの内容:

Meeting Studio の廃止

Meeting Studio は Spring '24 で廃止されます。

Meeting Studio の廃止

Meeting Studio は Spring '24 で廃止されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

時期: Meeting Studio の製品全体の廃止は Spring '24 にスケジュールされています。

方法: Spring '24 では、Meeting Studio へのアクセスや使用ができなくなります。Meeting Studio は、Google Meet、Microsoft Teams、Zoom、WebEx など、他のビデオ会議ツールに置き換えられます。

Salesforce データは Meeting Studio に保存または取得されていないため、データに影響はありません。ミーティングのダイジェストは引き続きサポートされます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Meeting Studio を使用した顧客および見込み客とのエンゲージ \(リリースレビューの時点での最新情報\)](#)

[ナレッジ記事: Meeting Studio の廃止](#)

メール操作環境

Professional Edition および Enterprise Edition で Sales Cloud の価値を高めるため、これまでアドオンライセンスの購入が必要であった機能を利用できます。これらの機能にはメール生産性ツール(後で送信、メール追跡、テキストショートカット、メールエンゲージメントなど)が含まれます。

このセクションの内容:

メール生産性機能が含まれるエディションの増加

Sales Cloud の価値を高めるため、これまでアドオンライセンスの購入が必要であった機能が含まれるようになりました。これらの機能では、販売者の作業をより容易および効率的にする追加の機能が提供されます。これらの機能にはメール生産性ツール(後で送信、メール追跡、テキストショートカット、メールエンゲージメントなど)が含まれます。メールエンゲージメント機能には、Outlook および Gmail インテグレーションパネルの[私のフィード]、Sales Cloud Everywhere からの通知、エンゲージメントデータ用のカスタムレポートタイプが含まれます。

受信メールまたは送信メールのログの取得

Salesforce メールサーバーから送受信の方向に基づいて Salesforce メールのログを要求できます。メールの方向を使用して、送信メール、受信メール、またはその両方が含まれるメールログからの結果を絞り込むことができます。

メールイベントに基づいたメールログの取得

受信、送信、一時的なエラー、または永続的なエラーのイベントを絞り込むことができます。トラブルシューティング中にこれらの結果を使用して、取得するログのサイズを小さくして権限エラーを特定できます。

メール送信に関して取得できる詳細の増加

メールログ参照ファイルの強化された送信情報により、メールのパフォーマンスに関する最新情報を簡単に取得し、トラブルシューティングして評価することができます。RからABまでの新しい11個の項目値を使用して、外部の送信者が送信するメールや Salesforce サーバーから送信されるメールの健全性に関する詳細を確認できます。

提案ミーティング時間の時間枠の新しいデザイン

営業担当のメールに提案ミーティング時間が含まれている場合、可能な時間枠が長方形で表示されます。メールを開いたユーザーは、時間枠をクリックしてそのミーティング時間を選択します。時間枠のデザインが更新され、より効率的に生成できるようになりました。

メール生産性機能が含まれるエディションの増加

Sales Cloud の価値を高めるため、これまでアドオンライセンスの購入が必要であった機能が含まれるようになりました。これらの機能では、販売者の作業をより容易および効率的にする追加の機能が提供されます。これらの機能にはメール生産性ツール(後で送信、メール追跡、テキストショートカット、メールエンゲージメントなど)が含まれます。メールエンゲージメント機能には、Outlook および Gmail インタグレーションパネルの「私のフィード」、Sales Cloud Everywhere からの通知、エンゲージメントデータ用のカスタムレポートタイプが含まれます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Professional Edition (Sales Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

時期: この変更は、2023年7月19日に表示されます。

方法: Professional Edition と Enterprise Edition に含まれている一部の機能は、自動的に有効になりません。[設定] で、ビジネスに必要な特定の機能を有効にします。新しいユーザーがこれらの機能にアクセスできるようにするには、ユーザーに適切な権限を割り当てます。これらの新機能は、最大100人のユーザーに割り当てることができます。

関連トピック:

クリックケイデンスおよびメール生産性機能が含まれるエディションの増加

Salesforce ヘルプ: Salesforce でのメールの操作(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Salesforce ヘルプ: Sales Engagement 機能の有効化(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

受信メールまたは送信メールのログの取得

Salesforce メールサーバーから送受信の方向に基づいて Salesforce メールのログを要求できます。メールの方向を使用して、送信メール、受信メール、またはその両方が含まれるメールログからの結果を絞り込むことができます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: メールログの参照\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

メールイベントに基づいたメールログの取得

受信、送信、一時的なエラー、または永続的なエラーのイベントを絞り込むことができます。トラブルシューティング中にこれらの結果を使用して、取得するログのサイズを小さくして権限エラーを特定できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: メールログのリクエスト\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

メール送信に関して取得できる詳細の増加

メールログ参照ファイルの強化された送信情報により、メールのパフォーマンスに関する最新情報を簡単に取得し、トラブルシューティングして評価することができます。R から AB までの新しい 11 個の項目値を使用して、外部の送信者が送信するメールや Salesforce サーバーから送信されるメールの健全性に関する詳細を確認できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: メールログの参照\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

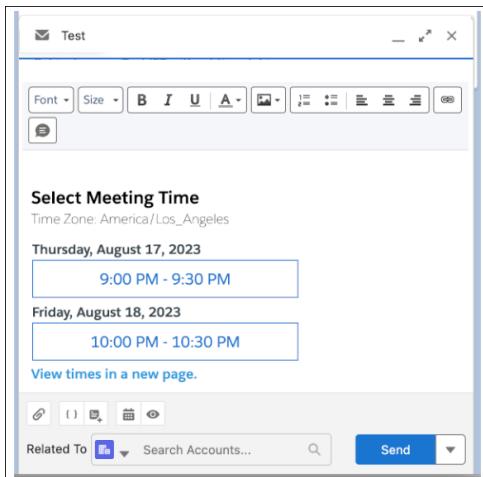
提案ミーティング時間の時間枠の新しいデザイン

営業担当のメールに提案ミーティング時間が含まれている場合、可能な時間枠が長方形で表示されます。メールを開いたユーザーは、時間枠をクリックしてそのミーティング時間を選択します。時間枠のデザインが更新され、より効率的に生成できるようになりました。

対象: この変更は、拡張メールが有効になっている Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、Sales Engagement、Sales Cloud Einstein、または Inbox ライセンスで使用可能な「Inbox 同梱」または「Sales Engagement ユーザー同梱」ユーザー権限を持つユーザーが使用できます。

方法: ミーティング時間の提案を含むメールの受信者には、次のように表示されます。



Salesforce Inbox

Inbox モバイルは 2024 年 2 月 1 日に廃止されます。Salesforce Inbox に対する最新の改善点を確認してください。

このセクションの内容:

[Salesforce Inbox モバイル](#)

Inbox モバイルの最新の機能と機能強化については、Salesforce ヘルプを参照してください。

[Inbox モバイルの廃止](#)

Inbox モバイルは 2024 年 2 月 1 日に廃止されます。

Salesforce Inbox モバイル

Inbox モバイルの最新の機能と機能強化については、Salesforce ヘルプを参照してください。

- [Inbox Mobile for iOS](#)
- [Inbox Mobile for Android](#)

Inbox モバイルの廃止

Inbox モバイルは 2024 年 2 月 1 日に廃止されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

時期: Inbox モバイルの廃止は 2024 年 2 月 1 日に予定されています。

理由: Inbox モバイルをデスクトップの Inbox を備えた Outlook および Gmail インテグレーションに置き換えることで、Salesforce Inbox のほとんどの機能にアクセスできます。モバイルでは、Salesforce モバイルアプリケーションを使用して Salesforce のレコードにアクセスすることで、今後リリースされる便利な機能を利用できます。自動メール追跡では、Einstein 活動キャプチャも使用できます。

方法: 2024 年 2 月 1 日以降、Inbox へのアクセスや使用ができなくなります。

関連トピック:

[ナレッジ記事: Salesforce Inbox Mobile App Retirement \(Salesforce Inbox モバイルアプリケーションの廃止\)](#)

Open CTI

Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止は、Open CTI の実装に影響を与える可能性があります。

このセクションの内容:

[Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止と Open CTI に与える潜在的な影響に向けた準備](#)

Google のプライバシーサンドボックスイニシアチブは、2024 年 1 月以降に Open CTI の実装に影響を与える可能性があります。対応策を講じなければ、Open CTI が機能しなくなる可能性があります。Open CTI ソリューションが AppExchange パートナーによって提供または実装されている場合は、パートナーには正措置についてお問い合わせください。

Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止と Open CTI に与える潜在的な影響に向けた準備

Google のプライバシーサンドボックスイニシアチブは、2024 年 1 月以降に Open CTI の実装に影響を与える可能性があります。対応策を講じなければ、Open CTI が機能しなくなる可能性があります。Open CTI ソリューションが AppExchange パートナーによって提供または実装されている場合は、パートナーには正措置についてお問い合わせください。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Professional Edition の Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できます。

関連トピック:

[ナレッジ記事: Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止が Open CTI に影響を与える可能性](#)

Sales Cloud のその他の変更

追加されたその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

[注文の新規保存方式の有効化 \(リリース更新\)](#)

「注文の新規保存方式」を有効にすると、注文商品の更新によって親注文が変更されるたびに、Salesforce でカスタムアプリケーションロジックが実行されます。以前は、このような場合でも親レコードのカスタムアプリケーションロジックは正しく評価されませんでした。

[ソーシャル取引先、取引先責任者、リードの廃止](#)

ソーシャル取引先、取引先責任者、およびリードは、Spring '24 の時点で廃止される予定です。引き続き Salesforce でソーシャルプロファイルを表示するには、AppExchange でアプリケーションを探してください。

注文の新規保存方式の有効化 (リリース更新)

[注文の新規保存方式] を有効にすると、注文商品の更新によって親注文が変更されるたびに、Salesforce でカスタムアプリケーションロジックが実行されます。以前は、このような場合でも親レコードのカスタムアプリケーションロジックは正しく評価されませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この更新は Winter '20 で最初に使用可能になり、Summer'24 で適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を確認するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。

[注文の新規保存方式] を有効にすると、注文商品の更新によって親注文が変更されるたびに、Salesforce でカスタムアプリケーションロジックが実行されます。カスタムアプリケーションロジックは、入力規則、Apex トリガーおよびクラス、ワークフロールール、フローで構成されます。以前は、このような場合でも親レコードのカスタムアプリケーションロジックは正しく評価されませんでした。

Winter '21 よりも前に作成された注文を含むパッケージでは、「注文の新規保存方式」リリース更新はデフォルトではサポートされません。注文を含むパッケージを使用している場合は、パッケージプロバイダーからの確認を待ってからリリース更新を有効化してください。

関連トピック:

[リリース更新](#)

ソーシャル取引先、取引先責任者、リードの廃止

ソーシャル取引先、取引先責任者、およびリードは、Spring '24 の時点で廃止される予定です。引き続き Salesforce でソーシャルプロファイルを表示するには、AppExchange でアプリケーションを探してください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[ナレッジ記事: Twitter/X Public API Access \(Twitter/X 公開 API アクセス\)](#)

[AppExchange](#)

Salesforce CMS

新しい[エクスポート & インポート状況] タブで、CMS コンテンツと翻訳のエクスポートおよびインポートの詳細を見つけます。CMS ワークスペースから拡張サイトおよび公開チャネルにコンテンツを公開します。拡張 CMS ワークスペースでは、連動関係のあるコンテンツをユーザーが非公開にできないようになっています。ワークフローはコンテンツタイプで割り当てられ、コンテンツの公開または非公開は自動的に行われます。

このセクションの内容:

[新しい状況タブでのエクスポートおよびインポートコンテンツと翻訳の詳細の確認](#)

拡張 CMS ワークスペースの複数のユーザーが、新しい[エクスポート & インポート状況] タブでエクスポートとインポートの状況を確認できます。複数のコンテンツ管理者とコンテンツマネージャーが、エクスポートとインポートを誰がいつ開始したかを確認できるようになりました。また、エクスポートされたコンテンツのファイル、エクスポートおよびインポート状況の詳細、成功とエラーの出力をダウンロードすることもできます。この新しい UI では、コンテンツと翻訳のエクスポートとインポートの状況が取得されます。以前は、エラー、成功、詳細ログがメール内のリンクを通じて1人のユーザーに提供されていました。

[CMS ワークスペースから拡張 LWR サイトへのコンテンツの公開](#)

CMS ワークスペースに拡張 LWR サイトチャネルを追加して、コンテンツを公開できるようになりました。以前は、拡張 CMS ワークスペースから拡張 LWR サイトや拡張公開チャネルにコンテンツを公開することができませんでした。

[拡張 CMS ワークスペースで連動関係のあるコンテンツをユーザーが非公開にすることを防止](#)

1つの目立つコンテンツ(ニュース記事など)で CMS コンテンツが取り込まれている場合、この連動関係により、ユーザーは CMS コンテンツを非公開にできません。同様に、CRM コンテンツに非公開を妨げる CMS コンテンツへの連動関係がある可能性もあります。[非公開] ウィンドウに、どのレコードがそのコンテンツを参照しているかが表示され、強い連動関係のあるレコードはリンクアイコンで識別できるようになりました。コンテンツ詳細ページの[コンテンツ利用状況]カードにもこの情報が表示されます。この変更によって、他のコンテンツでエラーや破損ページとして表示される可能性のあるコンテンツをユーザーが非公開にすることを防止できます。

[コンテンツタイプによるワークフローの割り当てとコンテンツの自動公開または非公開](#)

拡張 CMS ワークスペースで使用できる CMS ワークフローと承認にさらに機能が追加されて使いやすくなりました。各ワークフローは特定のコンテンツタイプに割り当てることができることで、プロセスが柔軟で拡張可能になりました。また、新しいステップタイプを使用して、ワークフローからコンテンツバリエーションを自動的に公開または非公開にできます。

[CMS コンテンツ詳細の概要でのファイルの種類とサイズの表示](#)

CMS コンテンツ詳細ページに、管理コンテンツバリエーションに関連付けられたファイルのメタデータが表示されるようになりました。メタデータは、[ファイルの種類] と [ファイルサイズ] という新しい項目に表示されます。

[制限付き CMS チャネルの権限セットの変更](#)

拡張 CMS チャネルでは、権限セットを使用して、権限セットを持つ特定のユーザーに限定されるコンテンツを提供します。

[コンテンツ詳細ページから拡張 CMS コンテンツフォルダーへの移動](#)

CMS コンテンツが拡張 CMS ワークスペースフォルダーに保存されると、コンテンツ詳細ページにコンテンツ項目のフォルダーの場所が表示されます。フォルダーを開いてそのフォルダー内のコンテンツを管理するには、フォルダーネームをクリックします。フォルダーに保存されてないコンテンツは引き続きワークスペースレベルに表示されます。

[検索の推奨結果による拡張 CMS コンテンツのシームレスな検索](#)

コンテンツ項目の正確な名前や説明を覚えていなくても、拡張 CMS ワークスペースですばやく簡単にコンテンツを見つけられます。[このワークスペースを検索] 項目に文字を入力すると、項目の下に新しい検索の推奨結果ドロップダウンが表示されます。入力中に推奨リストは自動的に更新され、最も関連性の高いコンテンツが表示されます。

CMS ワークスペースの迅速な作成

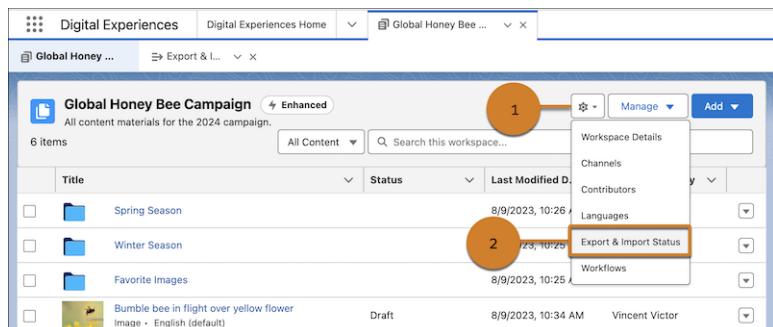
CMS ワークスペースの使用を開始し、合理化された設定プロセスでコンテンツをより迅速に作成します。ワークスペースに名前を付け、拡張または非拡張を選択し、デフォルト言語を選択します。以前は、寄稿者と言語は設定プロセス中に追加していましたが、ワークスペース設定または詳細ページから後で追加できるようになりました。

新しい状況タブでのエクスポートおよびインポートコンテンツと翻訳の詳細の確認

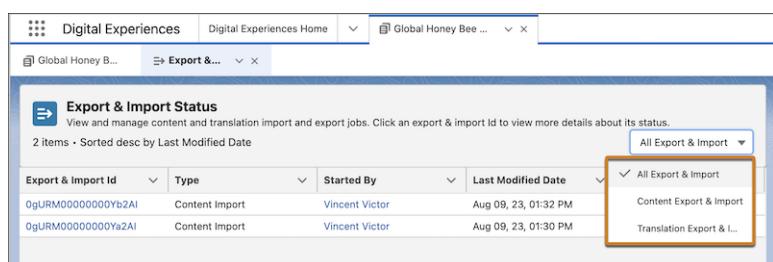
拡張 CMS ワークスペースの複数のユーザーが、新しい[エクスポート & インポート状況]タブでエクスポートとインポートの状況を確認できます。複数のコンテンツ管理者とコンテンツマネージャーが、エクスポートとインポートを誰がいつ開始したかを確認できるようになりました。また、エクスポートされたコンテンツのファイル、エクスポートおよびインポート状況の詳細、成功とエラーの出力をダウンロードすることもできます。この新しいUIでは、コンテンツと翻訳のエクスポートとインポートの状況が取得されます。以前は、エラー、成功、詳細ログがメール内のリンクを通じて1人のユーザーに提供されていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 拡張 CMS ワークスペース設定メニューから (1) をクリックし、[エクスポート & インポート状況] (2) をクリックします。



エクスポートとインポートの状況情報を種別によって並び替えるには、メニューから[コンテンツのエクスポート & インポート]または[翻訳のエクスポート & インポート]を選択します。すべてのエクスポート/インポート状況を一度に表示するには、[すべてのエクスポート & インポート]を選択します。詳細ファイルにアクセスするには、エクスポート & インポート ID をクリックし、使用可能なファイルをダウンロードします。



CMS ワークスペースから拡張 LWR サイトへのコンテンツの公開

CMS ワークスペースに拡張 LWR サイトチャネルを追加して、コンテンツを公開できるようになりました。以前は、拡張 CMS ワークスペースから拡張 LWR サイトや拡張公開チャネルにコンテンツを公開することができませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

拡張 CMS ワークスペースで連動関係のあるコンテンツをユーザーが非公開にすることを防止

1つの目立つコンテンツ（ニュース記事など）で CMS コンテンツが取り込まれている場合、この連動関係により、ユーザーは CMS コンテンツを非公開にできません。同様に、CRM コンテンツに非公開を妨げる CMS コンテンツへの連動関係がある可能性もあります。[非公開] ウィンドウに、どのレコードがそのコンテンツを参照しているかが表示され、強い連動関係のあるレコードはリンクアイコンで識別できるようになりました。コンテンツ詳細ページの[コンテンツ利用状況] カードにもこの情報が表示されます。この変更によって、他のコンテンツでエラーや破損ページとして表示される可能性のあるコンテンツをユーザーが非公開にすることを防止できます。

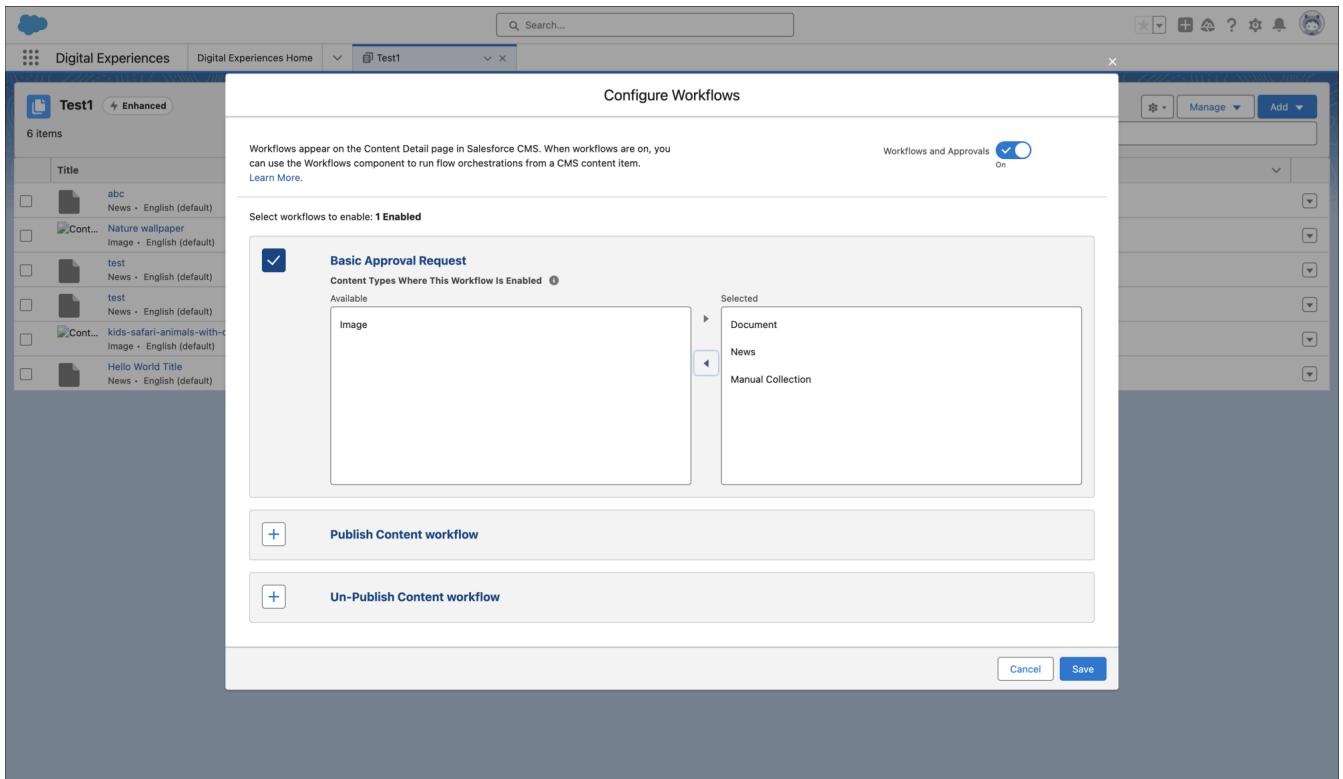
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Starter Edition の Lightning Experience に適用されます。

コンテンツタイプによるワークフローの割り当てとコンテンツの自動公開または非公開

拡張 CMS ワークスペースで使用できる CMS ワークフローと承認にさらに機能が追加されて使いやすくなりました。各ワークフローは特定のコンテンツタイプに割り当てることができることで、プロセスが柔軟で拡張可能になりました。また、新しいステップタイプを使用して、ワークフローからコンテンツバリエーションを自動的に公開または非公開にできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ニュースと画像で別個の承認プロセスが必要ですか？ドキュメントはどうでしょうか？コンテンツタイプ別にワークフローを割り当てられることで、簡単にニーズに合わせて別個のワークフローを作成して割り当てることができます。



柔軟性といえば、レビューすることになったコンテンツを非公開にしたり、そのコンテンツに承認を得たときに公開したりすることを自動的に行いたい場合はどうでしょうか?新しい CMS 公開バリエーションと CMS 非公開バリエーションのステップタイプを使用すればそれが可能です。CMS 固有のフローーオーケストレーションに新しいステップタイプを追加します。

方法: ワークフローと承認機能はすべての拡張 CMS ワークスペースに自動的に追加され、コンテンツ項目のコンテンツの詳細ページに表示されます。デジタルエクスペリエンスアプリケーションから拡張 CMS ワークスペースに移動します。設定ドロップダウンをクリックしてから [ワークフロー] を選択します。[ワークフローの状況を管理] ウィンドウで、[ワークフローと承認] を有効にしてから、コンテンツタイプ別に各ワークフローを有効にします。

CMS コンテンツ詳細の概要でのファイルの種類とサイズの表示

CMS コンテンツ詳細ページに、管理コンテンツバリエーションに関連付けられたファイルのメタデータが表示されるようになりました。メタデータは、[ファイルの種類] と [ファイルサイズ] という新しい項目に表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Starter Edition の Lightning Experience に適用されます。

制限付き CMS チャネルの権限セットの変更

拡張 CMS チャネルでは、権限セットを使用して、権限セットを持つ特定のユーザーに限定されるコンテンツを提供します。

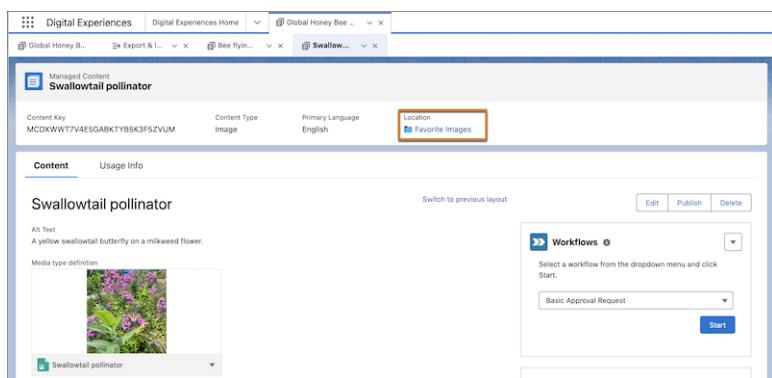
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 権限セットを変更するには、デジタルエクスペリエンスアプリケーションの [CMS チャネル] タブで制限付き CMS チャネルを編集用に開きます。次に、権限セットを選択します。

コンテンツ詳細ページから拡張 CMS コンテンツフォルダへの移動

CMS コンテンツが拡張 CMS ワークスペースフォルダーに保存されると、コンテンツ詳細ページにコンテンツ項目のフォルダーの場所が表示されます。フォルダーを開いてそのフォルダー内のコンテンツを管理するには、フォルダ名をクリックします。フォルダーに保存されてないコンテンツは引き続きワークスペースレベルに表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Starter Edition の Lightning Experience に適用されます。



検索の推奨結果による拡張 CMS コンテンツのシームレスな検索

コンテンツ項目の正確な名前や説明を覚えていなくても、拡張 CMS ワークスペースですばやく簡単にコンテンツを見つけられます。[このワークスペースを検索] 項目に文字を入力すると、項目の下に新しい検索の推奨結果ドロップダウンが表示されます。入力中に推奨リストは自動的に更新され、最も関連性の高いコンテンツが表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: コンテンツ項目の詳細ページに直接移動するには、ドロップダウンで推奨されたコンテンツ項目をクリックします。検索結果の完全なリストを表示するには、Enter キーを押すか検索ボタンをクリックします。

The screenshot shows the CMS Enhanced search interface. At the top, there's a search bar with the query "coffee". Below it, a table lists 7 items found, including various documents and images related to coffee.

Title	Stat
Appliances and Tools	
Coffee and Croissants	Image · Published · Jul 12, 2023 · Admin User
Coffee Mugs Banner	Image · Revised · Jul 12, 2023 · Admin User
Best Latte Recipe	Document · English (default)
Automatic Drip	Image · Published · Jul 12, 2023 · Admin User
Illustrated Cup of Joe	Image · English (default)
Pour over	Image · Revised · Jul 12, 2023 · Admin User
Coffee Mugs Banner	Image · English (default)
CoffeeGirl blog: 35 Types of Beans Explained	News · Published · Jul 12, 2023 · Admin User
London Fog Recipe	Document · English (default)
CoffeeGirl blog: 35 Types of Beans Explained	News · English (default)

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:拡張ワークスペースでの CMS コンテンツの検索\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

CMS ワークスペースの迅速な作成

CMS ワークスペースの使用を開始し、合理化された設定プロセスでコンテンツをより迅速に作成します。ワークスペースに名前を付け、拡張または非拡張を選択し、デフォルト言語を選択します。以前は、寄稿者と言語は設定プロセス中に追加していましたが、ワークスペース設定または詳細ページから後で追加できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:CMS ワークスペースの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce フロー

Flow Builder、OmniStudio、フローオーケストレーションを使用してインテリジェントなワークフローを作成します。フローインテグレーションを使用してあらゆるシステムを統合します。

このセクションの内容:

フローインテグレーション

Salesforce 用 Mulesoft コンポーネント(フローインテグレーションとも呼ばれる)は Salesforce フローの一部になりました。フローインテグレーションでは、あらゆるシステムのデータを数クリックで容易に統合でき、あらゆるフローでプロセスを容易に呼び出すことができます。さまざまなシステムに保存された情報を接続する安全なプロセスを作成する場合、顧客とビジネスのリアルタイムの統合ビューを作成します。

Flow Builder

反応型フロー画面コンポーネントを使用した单一ページアプリケーションのような画面の作成が正式リリースされました。HTTP コールアウトを使用した外部サーバーへの Salesforce データの送信が正式リリースされました。[変換]要素を使用してデータのコレクションを変換します(ベータ)。レコードトリガーフローでカスタムエラーメッセージの書き込みおよび表示を行います。Data Cloud データの変更に基づいてフローをトリガーします。[フローに移行]ツールを使用すると、より多くのワークフロールールタイプをフローに移行できます。

フローインテグレーション

フェーズとステップの実行を制御するために評価フローではなく最大3つの要件を使用します。フローインテグレーションオブジェクトにカスタム項目とカスタムリレーションを追加します。

OmniStudio と OmniStudio for Vlocity

バグ修正、軽微な更新、既知の問題について説明します。標準オブジェクトモデルを使用している場合は、OmniStudio のリリースノートとマイナーリリース更新を参照してください。カスタムオブジェクトモデルを使用しており、OmniStudio 権限セットライセンスを持っている場合は、OmniStudio for Vlocity のリリースノートを参照してください。

フローインテグレーション

Salesforce 用 Mulesoft コンポーネント(フローインテグレーションとも呼ばれる)は Salesforce フローの一部になりました。フローインテグレーションでは、あらゆるシステムのデータを数クリックで容易に統合でき、あらゆるフローでプロセスを容易に呼び出すことができます。さまざまなシステムに保存された情報を接続する安全なプロセスを作成する場合、顧客とビジネスのリアルタイムの統合ビューを作成します。

対象: Salesforce 用フローインテグレーションは、Lightning Experience が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用できます。

コンポーネントのリリースノートとヘルプは、[「Salesforce 用 Mulesoft コンポーネント」](#) を参照してください。

Flow Builder

反応型フロー画面コンポーネントを使用した单一ページアプリケーションのような画面の作成が正式リリースされました。HTTP コールアウトを使用した外部サーバーへの Salesforce データの送信が正式リリースされました。[変換]要素を使用してデータのコレクションを変換します(ベータ)。レコードトリガーフローでカスタムエラーメッセージの書き込みおよび表示を行います。Data Cloud データの変更に基づいてフローをトリガーします。[フローに移行]ツールを使用すると、より多くのワークフロールールタイプをフローに移行できます。

このセクションの内容:

Flow Builder の更新

反応型フロー画面コンポーネントを使用した单一ページアプリケーションのような画面の作成が正式リリースされました。レコードトリガーフローでユーザーのカスタムエラーメッセージを作成します。HTTP コールアウトを使用した外部サーバーへの Salesforce データの送信が正式リリースされました。新しい [変換] 要素を使用してデータのコレクションを変換します(ベータ)。Data Cloud の機能を使用して、Data Cloud データの変更に基づいてフローをトリガーします。

フロートリガーエクスプローラー

フロートリガーエクスプローラーでレコードトリガーフローを絞り込みます。

フローランタイム

バージョン管理された更新は、API バージョン 59.0 で実行されるように設定されているフローとプロセスでのみ使用できます。

フローおよびプロセスの管理

[フローに移行] ツールを使用すると、より多くのワークフロールールをフローに変換できます。フローの制限の緩和によって移行できるワークフロールールが増加しています。[設定] でユーザー権限をより簡単に検索できます。

フロー拡張

フローを介した Slack アクションの呼び出しが [アクション] 要素でのみ実行できるようになりました。

フローおよびプロセスのリリース更新

Salesforce フローには、今後のリリースで適用される予定のリリース更新がいくつかあります。

Flow Builder の更新

反応型フロー画面コンポーネントを使用した單一ページアプリケーションのような画面の作成が正式リリースされました。レコードトリガーフローでユーザーのカスタムエラーメッセージを作成します。HTTP コールアウトを使用した外部サーバーへの Salesforce データの送信が正式リリースされました。新しい [変換] 要素を使用してデータのコレクションを変換します (ベータ)。Data Cloud の機能を使用して、Data Cloud データの変更に基づいてフローをトリガーします。

このセクションの内容:

反応型コンポーネントを使用した画面フローの作成 (正式リリース)

反応型フロー画面コンポーネントを使用して、ユーザーがクリックして移動する画面の数を削減し、單一ページアプリケーションのような画面を作成します。サポートされている標準コンポーネントまたはカスタム Lightning Web コンポーネントが同じ画面の他のコンポーネントの変更にリアルタイムに反応するように設定します。たとえば、商談レコードをリストするデータテーブルコンポーネントを作成します。同じ画面に、ラジオボタンコンポーネントを追加して、コンポーネントのデフォルト値をユーザーが選択した最初の商談のフェーズに設定します。以前は、他のコンポーネントの変更に反応するコンポーネントが必要な場合、別の画面にそのコンポーネントを配置していました。

実現した IdeaExchange: レコードトリガーフローでのカスタムエラーメッセージの作成

新しいカスタムエラーメッセージ要素を使用して、エンドユーザー向けに何が問題であったかや、どのように修正するかを説明する、対象を絞ったエラーメッセージを作成します。エラーメッセージは全体のレコードページに表示されるか、特定の項目にインラインエラーとして表示されます。関連付けられたレコード変更はロールバックされます。エラーメッセージは保存前フローと保存後フローに作成できます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

HTTP コールアウトを介してコードなしで Salesforce データを外部サーバーに送信(正式リリース)

HTTP コールアウトで十分な GET を実行できない場合、POST メソッドを使用して Flow Builder で Salesforce データを外部サーバーに送信できるようになりました。この機能は、Summer'23 リリースからの変更を含んでおり、今回正式リリースとなります。新しい PUT、PATCH、DELETE メソッドを使用して外部データをより簡単に統合できます。HTTP コールアウトパラメーターについてより詳細なコンテキストを提供したり、JSON サンプルの検証時間を短縮したり、より整理されたパラメーターのセクションで外部サービス登録に関する詳細を取得したりできます。

フローのデータの変換(ベータ)

Flow Builder の新しい [変換] 要素を使用してフローリソース間でデータのコレクションを変換します。HTTP コールアウトを実行する [アクション] 要素と組み合わせることで、コードなしで Salesforce の外部のデータを統合するフローを作成できます。以前は、[ループ] 要素と [割り当て] 要素が含まれるフローを作成していました。画面フロー、トリガーのない自動起動フロー、レコードトリガーフローでデータを変換するときに [変換] 要素を使用して、そのすべての作業を行うようになりました。

Data Cloud でのデータ変更に基づく自動起動フローの作成

データモデルオブジェクトまたは計算済みインサイトオブジェクトの変更に基づいて DataCloud トリガーフローを開始できるようになりました。たとえば、ロイヤルティ残高の変更に基づいて統合個人のロイヤルティ状況を更新できます。

構築中のフローの進行状況の保存

一部の要素を完全に設定する前にフローを保存すれば、設定が迅速化します。レコードトリガーフローの開始要素やすべてのフローの [レコードを作成] 要素を完全に設定せずにフローを保存できます。以前はエラーによって保存できなくなっていましたが、それが単なる警告になりました。この変更を促進するため、キャンバスのフローの横に一部の要素のプロパティウィンドウがスライドして開くようになったため、要素を設定中にフローを表示して操作することができます。以前はすべての要素プロパティウィンドウは、開くとフローの表示をブロックしていました。また、要素プロパティの [キャンセル] ボタンの機能が [元に戻す] ボタンに置き換えられ、このボタンを使用して変更を 1 つずつ元に戻すことができます。

状態変更後の画面フローコンポーネントでの値の保持

ユーザーが一時停止中のフローを再開したとき、入力規則エラーが発生したとき、前の画面に戻ったときに、画面フローで値が保持されるようになりました。以前は、名前、住所、データテーブル、メール、またはその他のコンポーネントを設定するときにデフォルト値を指定しないと、これらのイベントが発生したときにフローによりユーザーが指定した値が削除されていました。この変更は、API バージョン 59.0 以降で実行されているフローにのみ適用されます。

画面間で値を更新できるコンポーネントの増加

ユーザーが前の画面に戻ってからもう一度進んだときに、選択肢、日付、日時、数値、通貨、テキスト、ロングテキストエリアコンポーネントの値を更新できるようになりました。たとえば、ユーザーが最初の画面で 3 つのサービスのコストを入力します。ユーザーが次の画面に移動すると、画面フローに総コストが表示されます。ユーザーが最初の画面に戻って値を変更した場合、次の画面の総コストを更新することも、変更しないでおくこともできます。ただし、ユーザーが前の画面または後の画面に移動して、もう一度現在の画面に戻った場合、フローで反応型コンポーネントが再度更新されることはありません。

Flow Builder で取得しやすくなった Data Cloud レコード

Salesforce オブジェクトや Data Cloud オブジェクトが Flow Builder の個別のセクションに整理されるようになりました。Data Cloud オブジェクトを選択すると、オブジェクトカードに詳細が表示されます。

[レコードを作成]要素で見つけやすくなったフローリソース

自動レイアウトの[レコードを作成]要素でレコードやレコードコレクションを見つけて選択するのがより簡単になりました。この更新により、Flow Builder のリソース選択環境が改善されました。

待機要素を使用できるフロー種別の増加

[一定期間待機]や[次の日付まで待機]要素をスケジュールトリガーフロー、自動起動フロー、オーケストレーションで使用できるようになりました。以前は、これらの要素はジャーニーでしか使用できませんでした。

[Advanced Pause (高度な一時停止)]から[条件の待機]への要素の名前変更

すべての待機要素で同様の用語が使用されるように、[Advanced Pause (高度な一時停止)]の名前が[条件の待機]に変更されました。要素の機能は変更されていません。

反応型コンポーネントを使用した画面フローの作成(正式リリース)

反応型フロー画面コンポーネントを使用して、ユーザーがクリックして移動する画面の数を削減し、単一ページアプリケーションのような画面を作成します。サポートされている標準コンポーネントまたはカスタム Lightning Web コンポーネントが同じ画面の他のコンポーネントの変更にリアルタイムに反応するように設定します。たとえば、商談レコードをリストするデータテーブルコンポーネントを作成します。同じ画面に、ラジオボタンコンポーネントを追加して、コンポーネントのデフォルト値をユーザーが選択した最初の商談のフェーズに設定します。以前は、他のコンポーネントの変更に反応するコンポーネントが必要な場合、別の画面にそのコンポーネントを配置していました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: API バージョン 59.0 以降で実行するように設定された画面フローの場合、追加のステップを実行せずに反応型コンポーネントにアクセスできます。

API バージョン 57.0 および 58.0 で実行するように設定された画面フローの場合、[プロセスの自動化設定] ページで、[API バージョン 57 および 58 で実行される画面フローの反応型コンポーネントを有効にします。]を選択します。コンポーネントを画面に追加し、通常どおりにフローを保存して実行します。

[API バージョン 57 および 58 で実行される画面フローの反応型コンポーネントを有効にします。] 設定は、Winter '25 に期限切れになります。反応型コンポーネントを利用するには、そのリリースの前に、API バージョン 59.0 以降で実行されるようにフローをアップグレードしてください。

このセクションの内容:

反応型グローバル変数を使用した画面フローの作成

フロー画面で反応型数式のグローバル変数を参照して時間を節約します。反応型数式でカスタム表示ラベルを使用して、翻訳可能なテキストをユーザーに表示します。たとえば、組織、プロファイル、ユーザーの割引率を指定する DiscountPercentage というカスタム設定を作成した場合、画面フロー全体で反応型数式の変数を参照できます。画面フローでは、フローを実行しているユーザーの適切な割引値が適用され、ユーザーが変更したときに値が再計算されます。以前は、反応型数式でグローバル変数がサポートされていませんでした。

反応型選択肢を使用した画面フローの作成

ユーザーが同じ画面の他の場所で行った選択に反応する選択肢コンポーネントを使用します。たとえば、データテーブルの商談をリストするフロー画面がある場合、商談フェーズを指定する反応型選択肢ルックアップコンポーネントを含めることができます。ユーザーが商談を選択および選択解除すると、選択肢ルックアップコンポーネントの値が変わり、選択した商談のフェーズが反映されます。または、商品の返品で使用されるフロー画面があるとします。返金理由(「Don't Want」(不要)など)が含まれる選択リストコンポーネントを作成し、ラジオボタンコンポーネントを追加して、顧客資金の返金方法(「Store Credit」(ストアクレジット)など)を自動的に選択します。

反応型画面で使用できる数式関数の増加

フローが API バージョン 59.0 以降で実行されている場合、SUBSTITUTE、ADDMONTHS、^ 数式関数を使用してリアルタイムロジックを実行するようにフロー画面コンポーネントを設定できるようになりました。数式で参照される値の変更がフローで検出されると、対応する画面コンポーネントの値が即座に再計算されて更新されます。以前は、ユーザーが別の画面に移動するまでこれらの数式はフローの他の場所の変更に反応しませんでした。

表示テキストコンポーネントを使用した同じ画面の変更への反応(ペータ)

表示テキストコンポーネントが同じ画面の他のコンポーネントの変更に反応するように設定します。たとえば、ユーザーが品目の卸売コストを入力する通貨コンポーネントと、品目の中売価格(卸売価格の 3 倍)を表示する表示テキストコンポーネントがあるとします。ユーザーが卸売コストを更新するたびに、フローで表示される中売価格が更新されます。

画面が最初に読み込まれたときの反応型コンポーネントの更新

項目が同じ画面の別の項目の変更に反応するように設定されている場合、画面が読み込まれたときにフローで項目の値が更新されるようになりました。ただし、前の画面または後の画面に移動して、現在の画面に戻った場合、フローで反応型コンポーネントは再度更新されません。以前は、ユーザーが追加のアクション(項目の値の変更など)を実行するまで項目は更新されませんでした。この変更は、API バージョン 59.0 以降で実行されているフローにのみ適用されます。

フロー画面でのスクリーンリーダーユーザーへの反応型の変更の通知

API バージョン 59.0 以降で実行するようにフローをアップグレードして、スクリーンリーダーユーザーが同じ画面の他のコンポーネントで行ったアクションによってフロー画面コンポーネントが変更されたときに通知されるようにします。たとえば、ユーザーが画面の項目を変更して、画面のコンポーネントが表示されるようになった場合、スクリーンリーダーで「最近の変更により、画面のコンテンツが変更されました。」と読み上げられます。

反応型グローバル変数を使用した画面フローの作成

フロー画面で反応型数式のグローバル変数を参照して時間を節約します。反応型数式でカスタム表示ラベルを使用して、翻訳可能なテキストをユーザーに表示します。たとえば、組織、プロファイル、ユーザーの割引率を指定する DiscountPercentage というカスタム設定を作成した場合、画面フロー全体で反応型数式の変数を参照できます。画面フローでは、フローを実行しているユーザーの適切な割引値が適用され、ユーザーが変更したときに値が再計算されます。以前は、反応型数式でグローバル変数がサポートされていませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

反応型選択肢を使用した画面フローの作成

ユーザーが同じ画面の他の場所で行った選択に反応する選択肢コンポーネントを使用します。たとえば、データテーブルの商談をリストするフロー画面がある場合、商談フェーズを指定する反応型選択肢ルックアップコンポーネントを含めることができます。ユーザーが商談を選択および選択解除すると、選択肢ルックアップコンポーネントの値が変わり、選択した商談のフェーズが反映されます。または、商品の返品で使用されるフロー画面があるとします。返金理由(「*Don't Want*」(不要)など)が含まれる選択リストコンポーネントを作成し、ラジオボタンコンポーネントを追加して、顧客資金の返金方法(「*Store Credit*」(ストアクレジット)など)を自動的に選択します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

反応型画面で使用できる数式関数の増加

フローが API バージョン 59.0 以降で実行されている場合、SUBSTITUTE、ADDMONTHS、^ 数式関数を使用してリアルタイムロジックを実行するようにフロー画面コンポーネントを設定できるようになりました。数式で参照される値の変更がフローで検出されると、対応する画面コンポーネントの値が即座に再計算されて更新されます。以前は、ユーザーが別の画面に移動するまでこれらの数式はフローの他の場所の変更に反応しませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

表示テキストコンポーネントを使用した同じ画面の変更への反応 (ベータ)

表示テキストコンポーネントが同じ画面の他のコンポーネントの変更に反応するように設定します。たとえば、ユーザーが品目の卸売コストを入力する通貨コンポーネントと、品目の小売価格(卸売価格の3倍)を表示する表示テキストコンポーネントがあるとします。ユーザーが卸売コストを更新するたびに、フローで表示される小売コストが更新されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。
ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: [設定] の [プロセスの自動化設定] ページで、[反応型表示テキストのベータにオプトイン] を選択します。次に、表示テキスト出力コンポーネントを画面に追加し、同じ画面の他のコンポーネントの変更に反応するように設定します。通常どおりにフローを保存して実行します。

表示テキスト出力コンポーネントの [日付]、[日時]、[通貨]、[数値] 項目が他の画面の変更に反応するように設定する場合、フローによるそれらの項目の表示方法は、他の画面の変更に反応するときと異なります。たとえば、フローでは通貨記号なしで通貨値が表示されます。

画面が最初に読み込まれたときの反応型コンポーネントの更新

項目が同じ画面の別の項目の変更に反応するように設定されている場合、画面が読み込まれたときにフローで項目の値が更新されるようになりました。ただし、前の画面または後の画面に移動して、現在の画面に戻った場合、フローで反応型コンポーネントは再度更新されません。以前は、ユーザーが追加のアクション(項目の値の変更など)を実行するまで項目は更新されませんでした。この変更は、APIバージョン59.0以降で実行されているフローにのみ適用されます。

対象: この変更是、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: たとえば、2つの項目のデフォルト値を設定し、数式を使用して3番目の項目にそれらの値を追加すると、画面が読み込まれたときにフローで3番目の項目が計算されます。または、画面のカスタム Lightning Web コンポーネント(LWC)に recordId 入力が含まれていて、同じ画面の別のコンポーネントで recordId が設定されると、画面が読み込まれたときにフローで LWC の recordId が更新されます。

フロー画面でのスクリーンリーダーユーザーへの反応型の変更の通知

APIバージョン59.0以降で実行するようにフローをアップグレードして、スクリーンリーダーユーザーが同じ画面の他のコンポーネントで行ったアクションによってフロー画面コンポーネントが変更されたときに通知されるようになります。たとえば、ユーザーが画面の項目を変更して、画面のコンポーネントが表示されたようになった場合、スクリーンリーダーで「最近の変更により、画面のコンテンツが変更されました。」と読み上げられます。

対象: この変更是、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper Edition の Lightning Experience に適用されます。



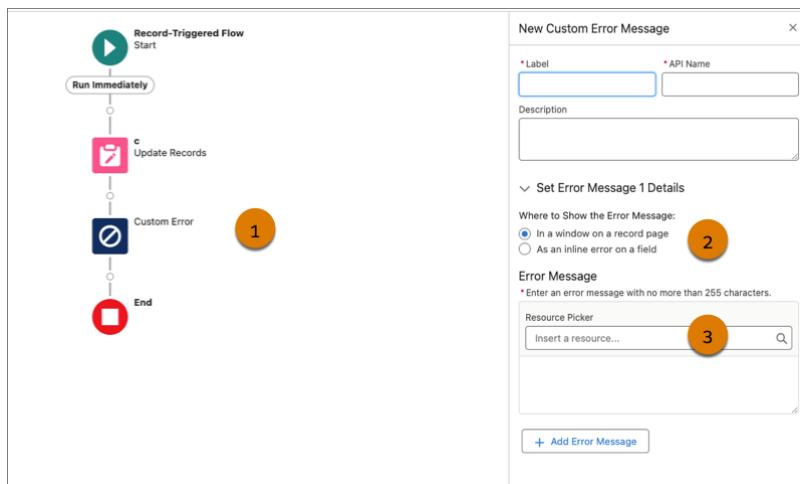
レコードトリガーフローでのカスタムエラーメッセージの作成

新しいカスタムエラーメッセージ要素を使用して、エンドユーザー向けに何が問題であったかや、どのように修正するかを説明する、対象を絞ったエラーメッセージを作成します。エラーメッセージは全体のレコードページに表示されるか、特定の項目にインラインエラーとして表示されます。関連付けられたレコード変更はロールバックされます。エラーメッセージは保存前フローと保存後フローに作成できます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更是、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: ユーザーがアクション(フローをトリガーするレコードの削除など)を実行すると、フローでエラーが発生することがあります。以前は、フローに失敗しても、特定のエラーメッセージをユーザーに表示できませんでした。操作が失敗した正確な原因をユーザーに通知できるようになりました。これにより、ユーザーは問題を修正して再試行できます。

方法: [カスタムエラーメッセージ]要素を追加し⁽¹⁾、エラーメッセージを表示する場所を選択し⁽²⁾、エラーメッセージテキストを入力します⁽³⁾。

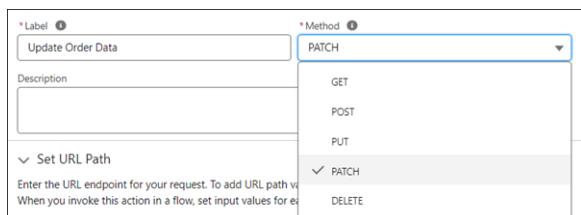


HTTP コールアウトを介してコードなしで Salesforce データを外部サーバーに送信 (正式リリース)

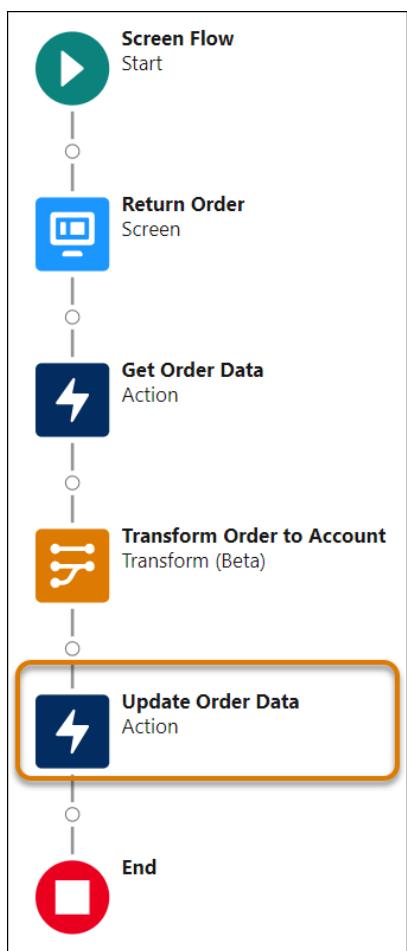
HTTP コールアウトで十分な GET を実行できない場合、POST メソッドを使用して Flow Builder で Salesforce データを外部サーバーに送信できるようになりました。この機能は、Summer '23 リリースからの変更を含んでおり、今回正式リリースとなります。新しいPUT、PATCH、DELETE メソッドを使用して外部データをより簡単に統合できます。HTTP コールアウトパラメーターについてより詳細なコンテキストを提供したり、JSON サンプルの検証時間を短縮したり、より整理されたパラメーターのセクションで外部サービス登録に関する詳細を取得したりできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 他の方法(PATCH メソッドを使用して外部システムのレコードを更新するなど)でデータを統合できるようになりました。以前は、POST メソッドを使用して、Salesforce の外部のシステムにデータを作成していました。



たとえば、営業エージェントは注文をストアクレジットで返金する画面フローを開始します。エージェントの顧客には Salesforce の取引先が割り当てられていますが、顧客の注文データは Salesforce の外部のシステムに保存されます。



改善されたHTTPコールアウト環境には新しい[説明]項目があるため、URLパスおよびクエリパラメーターの各キーを説明できます。新しい説明ボタンを使用して、キーをすばやく削除できます。

The screenshot shows the Flow Builder interface for configuring a callout action. At the top, there are fields for 'URL' (https://anypoint.mulesoft.com) and 'URL Path' ({variable}). Below these, a section titled 'Set Query Parameter Keys' is expanded, showing a form for defining a query parameter key. The 'Key' field is set to 'variable', the 'Data Type' is selected as 'Select...', and the 'Description' field is empty. A red box highlights this entire row. The 'Require' checkbox is unchecked, and a trash icon is visible. A red box also highlights the 'Description' field in the 'Set Query Parameter Keys' section.

新しい[説明]項目は、拡張された[サンプル応答]および[サンプル要求]ページにも表示されます。書式設定されたJSONサンプル、オンラインエラーメッセージ、およびページのサンプルをクリアするための[クリア]ボタンを使用して、JSONサンプルの検証時間を短縮できます。また、サンプルJSONの階層順と一致する推定データ構造を取得できます。

Sample Response

Paste a JSON-formatted sample API response and click Review. Verify the accuracy of the data structure. To make changes, edit the text in Sample JSON Response or select data types in Data Structure. Then click Review again.

Description

Sample response information for more context

* Sample JSON Response

```
{
  "amount":100,
  "customerId":"customer001",
  "status":"return"
}
```

✖ The sample JSON is invalid: "Unexpected comma."

Data Structure

amount	<input type="button" value="#"/>	<input type="button" value="Integer"/>	▼
customerId	<input type="button" value="A_a"/>	<input type="button" value="String"/>	▼
status	<input type="button" value="A_a"/>	<input type="button" value="String"/>	▼

HTTP コールアウトアクションを作成すると、入力した各キーの説明が表示されます。[設定]には、外部APIソースへの完全な URL パスと [外部サービス] ページへのリンクが表示されます。HTTP コールアウトアクションに慣れていない場合、HTTP コールアウトアクションで使用する HTTP メソッドを表示できます。省略可能なクエリパラメーターを含めるには、パラメーターキーをクリックします。また、新しい環境では URL パス、クエリパラメーター、リクエストボディの値が各セクションに整理されています。

External Service (1) HTTP Callout Method (1)

UpdateOrderDataESS PATCH

URL Path (1)

https://anypoint.mulesoft.com/{variable}

▼ Set URL Path Values

Set the key values that complete the URL path to access the external data.

This information gives more context about the key.

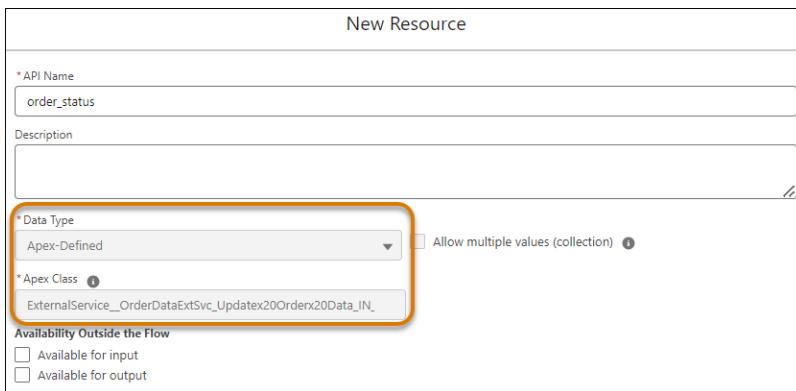
Key	<input type="button" value="A_a"/>	<input type="button" value="string"/>	▼
variable	<input type="button" value="A_a"/>	<input type="button" value="string"/>	▼

▼ Set Query Parameter Values

Set the key values to refine the external data callout. If the Include Optional Query Parameter Key button is available, you can click it to select an optional key, and then enter the key's value

Notes	<input type="button" value="A_a"/>	<input type="button" value="string Body"/>	▼
-------	------------------------------------	--	---

リクエストボディのリソースを作成すると、データ型と Apex クラスの値が自動的に取得されます。以前は、データ型を選択して Apex クラスの長いリストを移動していました。



Flow Builder で、[アクション] 要素を追加して [HTTP コールアウトを作成] をクリックします。

関連トピック:

[フローのデータの変換\(ベータ\)](#)

[HTTP コールアウトでの POST、PUT、PATCH、DELETE の編集](#)

[Salesforce ヘルプ: HTTP コールアウト \(リリースプレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可能になることがあります\)](#)

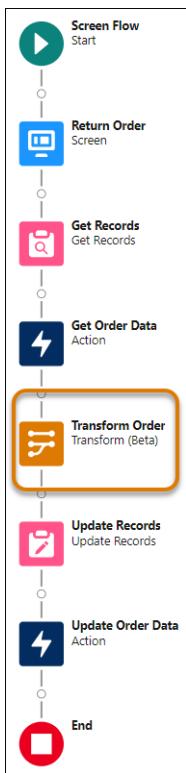
フローのデータの変換(ベータ)

Flow Builder の新しい [変換] 要素を使用してフローリソース間でデータのコレクションを変換します。HTTP コールアウトを実行する [アクション] 要素と組み合わせることで、コードなしで Salesforce の外部のデータを統合するフローを作成できます。以前は、[ループ] 要素と [割り当て] 要素が含まれるフローを作成していました。画面フロー、トリガーのない自動起動フロー、レコードトリガーフローでデータを変換するときに [変換] 要素を使用して、そのすべての作業を行うようになりました。

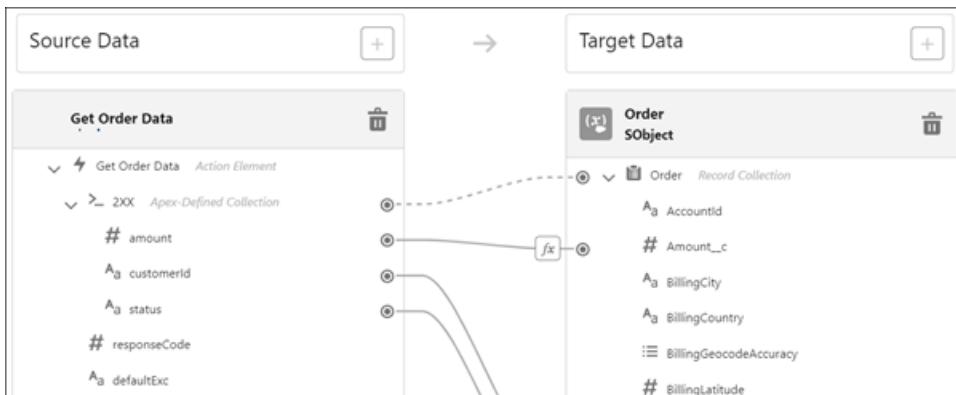
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

メモ: この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

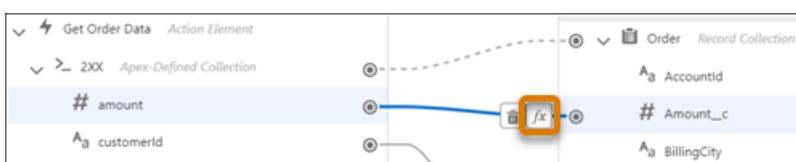
方法: 2つの注文をストアクレジットで返金する営業エージェントの画面フローの例を次に示します。エージェントの顧客には、Salesforce の取引先が割り当てられています。顧客の注文データは Salesforce の外部のシステムに保存されます。Salesforce の注文レコードを更新するには、フローで外部システムから最新の注文データを取得してデータを変換し、変更を Salesforce に保存できるようにします。



[変換]要素は、ソースデータのamount、customerId、status項目を対象データの項目に対応付けます。[変換]要素は、対応付けに基づいて、対応付けられた項目が含まれるコレクションを識別するための点線を自動的に作成します。これにより、両方のリソースデータ構造で識別されるコレクションを簡単に確認できます。ソースコレクションの項目と対象コレクションの項目は、それぞれのリソースの同じ階層ロケーションで対応付けられている必要があります。たとえば、2XXコレクションと注文コレクションは、それぞれのリソースの最初のコレクションです。ソースデータには、1つのリソースのみが表示されます。

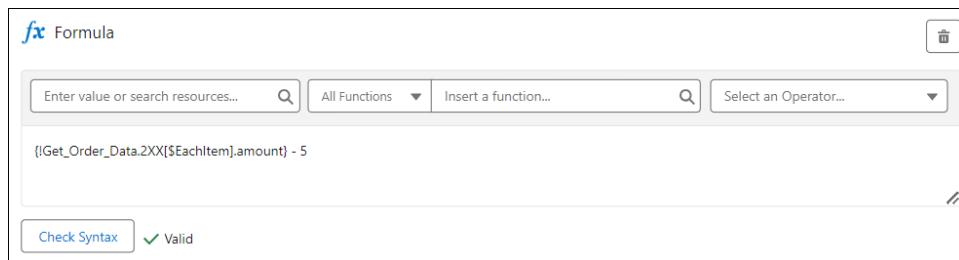


ソースデータのamount項目と対象データのAmount__c項目間の対応付けでは、数式を使用してデータが変換されます。



数式により、ソースデータの amount 項目から補充手数料の固定金額が減算されます。数式の結果は、対象データの Amount_c 項目の変換された値になります。数式には新しい差し込み項目の構文が表示されます。[\$EachItem] は、コレクションの各項目を表しています。この例では、差し込み項目で 2XX のコレクションが参照され、各 2XX 項目には amount 項目があります。各 amount 項目で、数式で 5 が減算されます。数式ではソースデータを参照する必要があります。

- メモ:** ソースデータ項目または対象データ項目では最大 2 個のコレクションを参照できます。例:
{!Orders[\$EachItem].Customers[\$EachItem].Name}



次に、フローの [レコードを更新] 要素で変更をデータベースに保存します。最後に、[アクション] 要素で別の HTTP コールアウトを実行して、外部システムの注文状況を更新します。

トリガーのない自動起動フローまたはレコードトリガーフローの [変換] 要素をデバッグするときに、ソースデータと対象データをリッチな対話型形式で操作できるようになりました。



関連トピック:

[HTTP コールアウトを介してコードなしで Salesforce データを外部サーバーに送信 \(正式リリース\)](#)

[Salesforce ヘルプ: フローのデータの変換\(ベータ\)\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: フロー要素: 変換\(ベータ\)\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Data Cloud でのデータ変更に基づく自動起動フローの作成

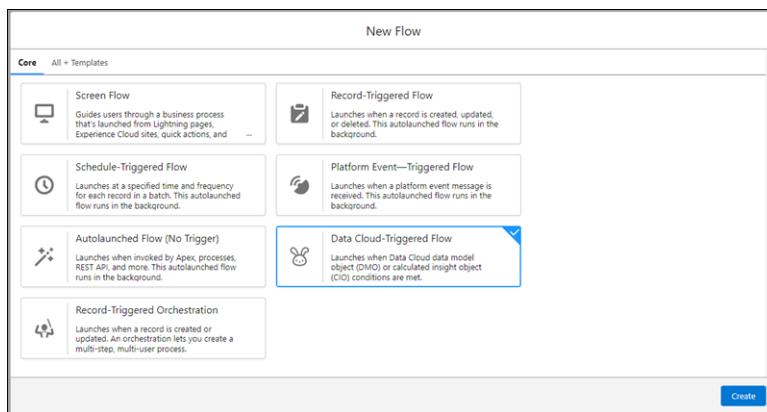
データモデルオブジェクトまたは計算済みインサイトオブジェクトの変更に基づいて DataCloud トリガーフローを開始できるようになりました。たとえば、ロイヤルティ残高の変更に基づいて統合個人のロイヤルティ状況を更新できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この機能は、2023 年 10 月 23 日以降に使用できます。

対象ユーザー: Data Cloud オブジェクトを使用するには、ユーザーにデータモデルオブジェクトの「参照」オブジェクト権限と「フローの管理」権限が必要です。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「フロー」と入力し、[フロー] を選択します。[新規フロー] をクリックし、[Data Cloud-Triggered Flow (Data Cloud トリガーフロー)] を選択します。



フローの [開始] 要素で、データ容量とオブジェクトを選択し、フローをトリガーする条件を定義します。

Start

Choose Data Cloud Object

* Data Space: default

Object: Account

Account

Data Space	Object	Category
default	Account	Profile

API Name: ssot_Account_dlm

Fields: 17 View Fields

Description

Configure Trigger

* Trigger the Flow When:

- A record is created
- A record is updated
- A record is created or updated

Set Entry Conditions

Specify entry conditions to reduce the number of records that trigger the flow and the number of times the flow is executed. Minimizing unnecessary flow executions helps to conserve your org's resources.

If you create a flow that's triggered when a record is updated, we recommend first defining entry conditions. Then select the **Only when a record is updated to meet the condition requirements** option for When to Run the Flow for Updated Records.

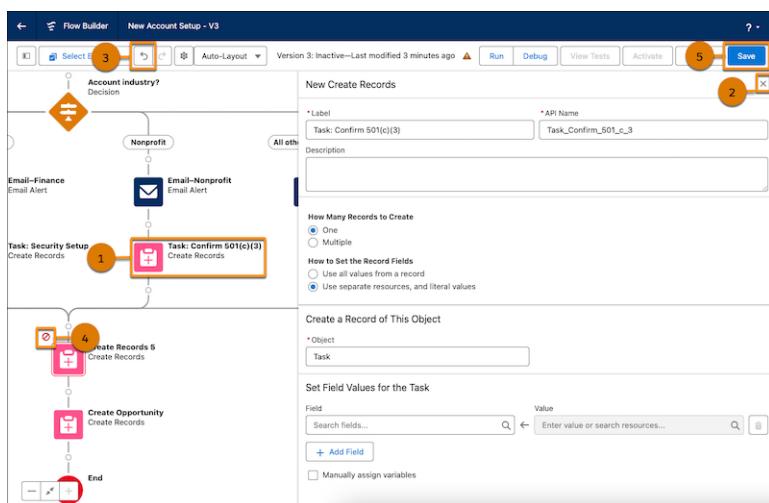
構築中のフローの進行状況の保存

一部の要素を完全に設定する前にフローを保存すれば、設定が迅速化します。レコードトリガーフローの開始要素やすべてのフローの[レコードを作成]要素を完全に設定せずにフローを保存できます。以前はエラーによって保存できなくなっていましたが、それが単なる警告になりました。この変更を促進するために、キャンバスのフローの横に一部の要素のプロパティウィンドウがスライドして開くようになったため、要素を設定中にフローを表示して操作することができます。以前はすべての要素プロパティウィンドウは、開くとフローの表示をブロックしていました。また、要素プロパティの[キャンセル]ボタンの機能が[元に戻す]ボタンに置き換えられ、このボタンを使用して変更を1つずつ元に戻すことができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: この更新は、Flow Builder で作成プロセスの任意の時点でドラフトを保存できるようにするための第一歩です。保存する前に作業内容を失うことがなく、エラーを解決する必要もなくなります。項目の変更を一括ではなく、個別に実行できます。

方法: Flow Builder で[開始]、[レコードを作成]、[レコードを削除]、[レコードを取得]、[レコードを更新]、または[一時停止]要素を開きます。あるいは、既存の[サブフロー]要素を編集します。キャンバスをクリックしてドラッグすることで、フローを再配置します。また、フローのコンテキストで作業中の要素が表示されます⁽¹⁾。変更を保持するには、ウィンドウを非表示にしてキャンバスに戻り、 をクリックします⁽²⁾。一度に1つずつ変更を元に戻すには をクリックします⁽³⁾。完全に設定されていない要素を見分けることができます⁽⁴⁾。レコードトリガーフローの[開始]要素や[レコードを作成]要素を完全に設定する前に作業を保存します⁽⁵⁾。要素の設定を完了していないても1つの更新済み要素から別の要素に移動できます。



状態変更後の画面フローコンポーネントでの値の保持

ユーザーが一時停止中のフローを再開したとき、入力規則エラーが発生したとき、前の画面に戻ったときに、画面フローで値が保持されるようになりました。以前は、名前、住所、データテーブル、メール、または他のコンポーネントを設定するときにデフォルト値を指定しないと、これらのイベントが発生したときにフローによりユーザーが指定した値が削除されました。この変更は、API バージョン 59.0 以降で実行されているフローにのみ適用されます。

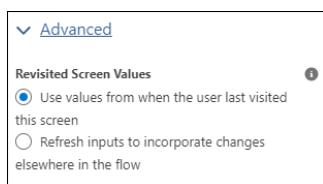
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

画面間で値を更新できるコンポーネントの増加

ユーザーが前の画面に戻ってからもう一度進んだときに、選択肢、日付、日時、数値、通貨、テキスト、ロングテキストエリアコンポーネントの値を更新できるようになりました。たとえば、ユーザーが最初の画面で3つのサービスのコストを入力します。ユーザーが次の画面に移動すると、画面フローに総コストが表示されます。ユーザーが最初の画面に戻って値を変更した場合、次の画面の総コストを更新することも、変更しないでおくこともできます。ただし、ユーザーが前の画面または後の画面に移動して、もう一度現在の画面に戻った場合、フローで反応型コンポーネントが再度更新されることはありません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: コンポーネントを画面にドラッグします。コンポーネントのプロパティペインの [詳細] で、[再アクセス画面の値] のオプションを選択します。

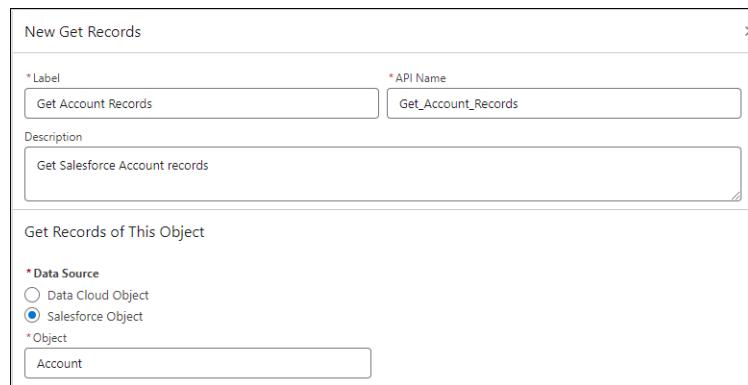


Flow Builder で取得しやすくなった Data Cloud レコード

Salesforce オブジェクトや Data Cloud オブジェクトが Flow Builder の個別のセクションに整理されるようになりました。Data Cloud オブジェクトを選択すると、オブジェクトカードに詳細が表示されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [レコードを取得] 要素で、Data Cloud オブジェクトと Salesforce オブジェクトのどちらのレコードを取得するのかを選択し、オブジェクトを選択します。

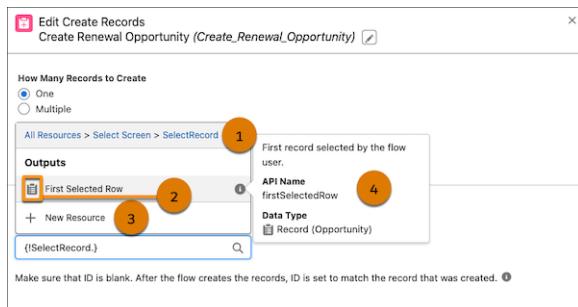


[レコードを作成] 要素で見つけやすくなったフローリソース

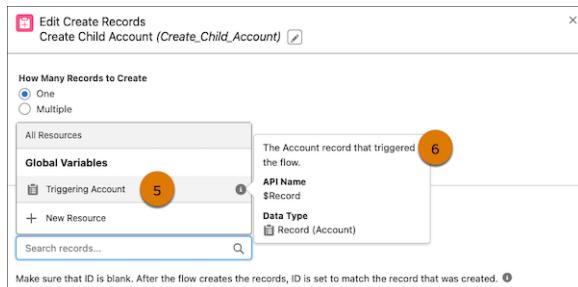
自動レイアウトの[レコードを作成]要素でレコードやレコードコレクションを見つけて選択するのがより簡単になりました。この更新により、Flow Builder のリソース選択環境が改善されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

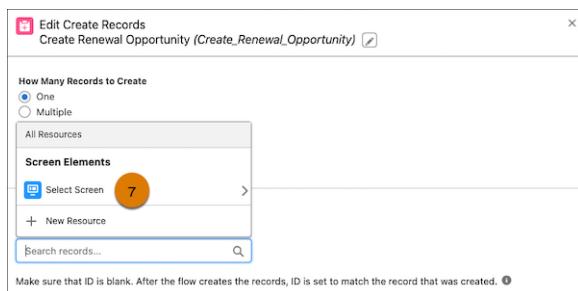
方法:[レコードを作成]要素で[レコードからのすべての値を使用]を選択します。次に、[レコードまたはレコードコレクション]項目をクリックします。新しいクリック可能なブレッドクラムパスでリソース選択内のどこにいるかを確認します(1)。より直感的なアイコンによってリソース種別をすばやく認識し(2)、[新規リソース]ボタンを使用して迅速にリソースを作成します(3)。[新規リソース]オプションは場所が変更され、メニューのフッターに常時表示されるようになりました。リソースにマウスポインターを置き、(4)にマウスポインターを移動することで、メニューを離れずにリソースに関する有用な情報を取得できます(4)。



わかりやすい表示ラベル(5)と説明(6)でメニュー項目を簡単に特定できます。



すべての画面コンポーネントのリストから探すのではなく、表示されている画面にアクセスすることで、画面コンポーネントとその出力をすばやく見つけることができます(7)。



待機要素を使用できるフロー種別の増加

[一定期間待機]や[次の日付まで待機]要素をスケジュールトリガーフロー、自動起動フロー、オーケストレーションで使用できるようになりました。以前は、これらの要素はジャーニーでしか使用できませんでした。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

[Advanced Pause (高度な一時停止)] から [条件の待機] への要素の名前変更

すべての待機要素で同様の用語が使用されるように、[Advanced Pause (高度な一時停止)] の名前が [条件の待機] に変更されました。要素の機能は変更されていません。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

フロートリガーエクスプローラー

フロートリガーエクスプローラーでレコードトリガーフローを絞り込みます。

このセクションの内容:

検索条件を使用したレコードトリガーフローの迅速な検索

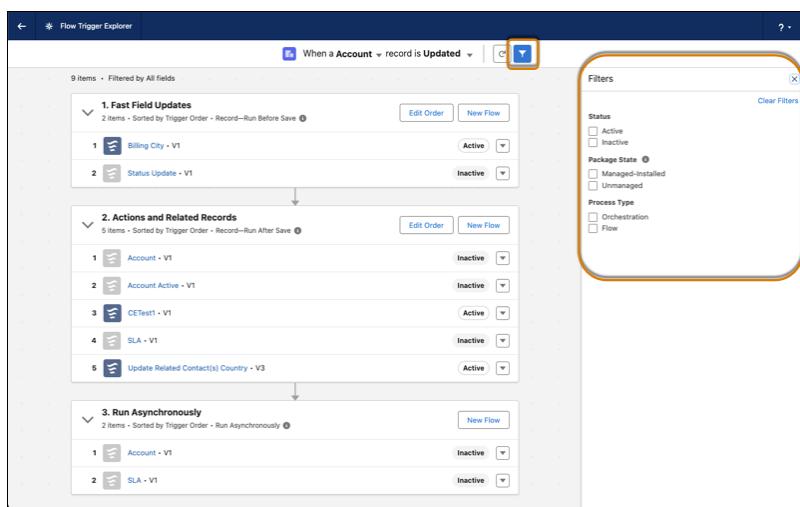
フロートリガーエクスプローラーでレコードトリガーフローを表示するときに、検索条件を使用して結果を絞り込みます。状況、パッケージの状態、プロセス種別によって結果を絞り込むことができます。

検索条件を使用したレコードトリガーフローの迅速な検索

フロートリガーエクスプローラーでレコードトリガーフローを表示するときに、検索条件を使用して結果を絞り込みます。状況、パッケージの状態、プロセス種別によって結果を絞り込むことができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [フロー] ページで [フロートリガーエクスプローラー] をクリックします。オブジェクトを選択し、[作成済み]、[更新]、または[削除済み]を選択します。検索条件アイコンをクリックし、検索条件を選択します。



フローランタイム

バージョン管理された更新は、API バージョン 59.0 で実行されるように設定されているフローとプロセスでのみ使用できます。

このセクションの内容:

API バージョン 59.0 でのフローおよびプロセス実行時の変更

この更新は、API バージョン 59.0 以降で実行されるように設定されているフローとプロセスにのみ影響します。

API バージョン 59.0 でのフローおよびプロセス実行時の変更

この更新は、API バージョン 59.0 以降で実行されるように設定されているフローとプロセスにのみ影響します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: バージョン管理された更新では、都合に合わせてフローおよびプロセスごとに実行時の動作の変更をテストおよび採用できます。フローの実行時 API バージョンを変更するには、Flow Builder でフローを開いて、フローバージョンのプロパティを編集します。プロセスの実行時 API バージョンを変更するには、プロセスビルダーでプロセスを開いて、そのプロパティを編集します。

すべてのフローを実行するためのユーザーアクセスの制限

このバージョン管理された更新では、API バージョン 59.0 で実行されるフローの [フローを実行するためのユーザーアクセスの制限] リリース更新が有効になります。リリース更新が適用されると、実行時 API バージョンに関係なく、すべてのフローでバージョン管理された更新が適用されます。詳細は、「[フローを実行するためのユーザーアクセスの制限\(リリース更新\)](#)」を参照してください。

より正確な日付の取得

このバージョン管理された更新では、API バージョン 59.0 で実行されるフローの DateOnly 値の変換方法が変更されます。GMT タイムゾーンが直接 DateOnly 値に追加されるようになりました。API バージョン 58.0 以前の DateOnly 値では、サーバーのローカル時刻が追加されてから GMT タイムゾーンに変換されていたため、日付が正しくないことがありました。

反応型コンポーネントを使用した画面フローの作成

このバージョン管理された更新では、ユーザーアクションに基づく画面コンポーネント間のインターフェンスを作成できます。

API バージョン 59.0 以降で実行するように設定された画面フローの場合、追加のステップを実行せずに反応型コンポーネントにアクセスできます。API バージョン 57.0 および 58.0 で実行するように設定された画面フローの場合、[プロセスの自動化設定] ページで、[API バージョン 57 および 58 で実行される画面フローの反応型コンポーネントを有効にします。] を選択します。[API バージョン 57 および 58 で実行される画面フローの反応型コンポーネントを有効にします。] 設定は、Winter'25 に期限切れになります。詳細は、「[反応型コンポーネントを使用した画面フローの作成\(正式リリース\)](#)」を参照してください。

状態変更後の Lightning Web コンポーネントでの値の保持

このバージョン管理された更新では、ユーザーが一時停止中のフローを再開したとき、入力規則エラーが発生したとき、前の画面に戻ったときに、API バージョン 59.0 で実行される画面フローで値を保持できます。詳細は、「[状態変更後の画面フローコンポーネントでの値の保持](#)」を参照してください。

フローおよびプロセスの管理

[フローに移行]ツールを使用すると、より多くのワークフロールールをフローに変換できます。フローの制限の緩和によって移行できるワークフロールールが増加しています。[設定]でユーザー権限をより簡単に検索できます。

このセクションの内容:

待機中の時間ベースのアクションを含むワークフロールールのフローへの移行

更新された[フローに移行]ツールを使用して、待機中の時間ベースのアクションを含むワークフロールールを移行します。以前は、移行された待機中の時間ベースのアクションは、関連レコードが変更されると無効になり削除されていました。現在は、関連レコードが変更されるとアクションはスケジュール済みパスに移行されるようになりました。

数式にカスタムメタデータを含むプロセスビルダープロセスのフローへの移行

更新された[フローに移行]ツールを使用して、数式でカスタムメタデータ参照を使用しているプロセスビルダープロセスを移行できるようになりました。移行後、カスタムメタデータ参照はフロー数式で使用されますが、リソースピッカーを使用して設定することはできません。プロセスを移行したら、Flow Builderでフローをテストできます。すべてが期待どおりに機能した場合はフローを有効化し、変換したプロセスを無効化します。

フローの制限の緩和によってフローに移行できるワークフロールールが増加

Flow Builderへのワークフロールールの移行を促進するために、Essentials Edition または Professional Edition を使用している一部のお客様が使用可能な有効なフローと合計フローの数が増えました。影響を受ける組織には、個別に詳細をお知らせします。この制限緩和の対象になると思われるにもかかわらず制限が緩和されていない場合には、カスタマーサポートにお問い合わせください。

オートメーションホームで使用できなくなったグラフ

[完了した画面フローの総数(名前ごと)] グラフ、[平均完了時間(フローナンごと)] グラフ、[総エラー数(フローナンごと)] グラフがオートメーションホームから削除されました。

待機中の時間ベースのアクションを含むワークフロールールのフローへの移行

更新された[フローに移行]ツールを使用して、待機中の時間ベースのアクションを含むワークフロールールを移行します。以前は、移行された待機中の時間ベースのアクションは、関連レコードが変更されると無効になり削除されていました。現在は、関連レコードが変更されるとアクションはスケジュール済みパスに移行されるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「フローに移行」と入力して、[フローに移行]を選択します。フローに変換するワークフロールールを選択し、[フローに移行]をクリックして、移行する条件を選択します。

数式にカスタムメタデータを含むプロセスビルダープロセスのフローへの移行

更新された[フローに移行]ツールを使用して、数式でカスタムメタデータ参照を使用しているプロセスビルダープロセスを移行できるようになりました。移行後、カスタムメタデータ参照はフロー数式で使用されますが、リソースピッカーを使用して設定することはできません。プロセスを移行したら、Flow Builder でフローをテストできます。すべてが期待どおりに機能した場合はフローを有効化し、変換したプロセスを無効化します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「フローに移行」と入力して、[フローに移行]を選択します。変換するプロセスを選択し、[フローに移行]をクリックして、移行する条件を選択します。

フローの制限の緩和によってフローに移行できるワークフロールールが増加

Flow Builder へのワークフロールールの移行を促進するために、Essentials Edition または Professional Edition を使用している一部のお客様が使用可能な有効なフローと合計フローの数が増えました。影響を受ける組織には、個別に詳細をお知らせします。この制限緩和の対象になると思われるにもかかわらず制限が緩和されていない場合には、カスタマーサポートにお問い合わせください。

対象: この変更は、Essentials Edition および Professional Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

オートメーションホームで使用できなくなったグラフ

[完了した画面フローの総数(名前ごと)] グラフ、[平均完了時間(フローネームごと)] グラフ、[総エラー数(フローネームごと)] グラフがオートメーションホームから削除されました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

フロー拡張

フローを介した Slack アクションの呼び出しが [アクション] 要素でのみ実行できるようになりました。

フローおよびプロセスのリリース更新

Salesforce フローには、今後のリリースで適用される予定のリリース更新がいくつかあります。

このセクションの内容:

ゲストユーザーによる承認申請の編集または削除の防止(リリース更新)

[ゲストユーザーによる承認申請の編集または削除の防止] を有効にすると、ゲストユーザーは承認申請を承認または拒否できます。ゲストユーザーは承認申請を編集、再割り当て、または削除できなくなります。この更新は、Winter '23 で最初に使用可能になり、Summer '23 で適用される予定でしたが、適用日が Spring '24 に延期されました。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価(リリース更新)

この更新は、複数の条件とレコードの更新が含まれるプロセスでの評価条件のバグを修正します。このリリース更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、nullの値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。このリリース更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

フローでのセッション IDへのアクセスを無効化(リリース更新)

セキュリティを強化するために、この更新では、実行時にフローインタビューで \$Api.Session_ID 変数が解決されなくなります。以前は、フロー画面に \$Api.Session_ID 変数が含まれていると、フローの実行ユーザーのブラウザセッション ID がページに表示されていたため、そのセッション ID を使用して、セキュリティ制御を回避することができました。この更新は、Winter '23 で最初に使用可能になり、Summer '23 で適用される予定でしたが、適用日が Winter '24 に延期されました。

組織のプロファイル設定を優先するために EmailSimple呼び出し可能なアクションを有効化(リリース更新)

この更新を有効にした場合、EmailSimple 呼び出し可能なアクションが組織のメールアドレスプロファイル設定に準拠します。この更新は、Summer '23 で最初に使用可能になり、Spring '24 で適用される予定でしたが、適用日が Summer '24 に延期されました。

REST API で Apex アクションの例外が発生した場合のロールバックの適用(リリース更新)

この更新では、例外で終了したトランザクションをロールバックすることで、データの整合性が維持されます。REST API を使用して Apex アクションを実行すると、その例外が発生しても、API によって Salesforce データは変更されません。この更新は、「Connect REST API で呼び出し可能なカスタムアクションの例外が発生した場合のロールバックの適用」という名前で、Spring '23 で最初に使用可能になり、Spring '24 で適用される予定でしたが、適用日が Spring '25 に延期されました。

同じコンテキストでの一時停止中のフローインタビューの再開(リリース更新)

この更新を有効化すると、一時停止中の自動起動フローが一時停止したときと同じコンテキストで再開されます。また、各フローが API バージョン 57.0 以降で実行されている場合、インタビューが再開される前にフローを実行するユーザー権限が検証されます。プロセスビルダーで一時停止要素が含まれる起動フローを処理する場合、それらのフローが API バージョン 57.0 以降で実行されるように設定することをお勧めします。そのようにしないと、この更新で再開されたインタビューのコンテキストが変わることがあります。プロセス起動フローは、システムコンテキスト共有なしで再開されずに、フローバージョンプロパティで指定されたコンテキストで再開されます。この更新は Winter '21 で最初に使用可能になり、Winter '22 での適用が予定されていました。その後、適用日は Spring '23 に延期され、Winter '24 に再度延期されました。

フローを実行するためのユーザーアクセスの制限(リリース更新)

この更新を有効にすると、Salesforce でユーザーによるフローの実行が制限されます。フローを実行するには、ユーザーに適切なプロファイルまたは権限セットが付与されている必要があります。有効にすると、このリリース更新によって FlowSites ライセンスが廃止されます。この更新により、適切なプロファイルまたは権限セットが付与されたユーザーのみがフローを実行できるため、フローがより安全に実行されます。

関連トピック:

[リリース更新](#)

ゲストユーザーによる承認申請の編集または削除の防止 (リリース更新)

[ゲストユーザーによる承認申請の編集または削除の防止]を有効にすると、ゲストユーザーは承認申請を承認または拒否できます。ゲストユーザーは承認申請を編集、再割り当て、または削除できなくなります。この更新は、Winter '23 で最初に使用可能になり、Summer '23 で適用される予定でしたが、適用日が Spring '24 に延期されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '24 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を適用するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。[ゲストユーザーによる承認申請の編集または削除の防止]で、テストと有効化の手順を実行します。

関連トピック:

[リリース更新](#)

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (リリース更新)

この更新は、複数の条件とレコードの更新が含まれるプロセスでの評価条件のバグを修正します。このリリース更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。このリリース更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Summer '25 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を適用するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。[プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価] で、テストと有効化の手順を実行します。

[レコードに指定の変更が行われた場合にのみアクションを実行しますか?] オプションが選択されているプロセスがある場合、または条件で `ISCHANGED()` 関数を使用している場合、この更新によってプロセスが異なって動作する可能性があります。

関連トピック:

[リリース更新](#)

フローでのセッション IDへのアクセスを無効化 (リリース更新)

セキュリティを強化するために、この更新では、実行時にフローインタビューで `$Api.Session_ID` 変数が解決されなくなります。以前は、フロー画面に `$Api.Session_ID` 変数が含まれていると、フローの実行ユーザーのブラウザセッション ID がページに表示されていたため、そのセッション ID を使用して、セキュリティ制御を回避することができました。この更新は、Winter '23 で最初に使用可能になり、Summer '23 で適用される予定でしたが、適用日が Winter '24 に延期されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Winter '24 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を適用する前に、\$Api.Session_ID 変数の運動関係をフローからすべて削除します。次に、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力し、[リリース更新]を選択します。「フローでのブラウザセッション IDへのアクセスを無効化」リリース更新を取得するには、テストおよび有効化の手順を実行します。

関連トピック:

[リリース更新](#)

組織のプロファイル設定を優先するために EmailSimple 呼び出し可能なアクションを有効化 (リリース更新)

この更新を有効にした場合、EmailSimple呼び出し可能なアクションが組織のメールアドレスプロファイル設定に準拠します。この更新は、Summer '23 で最初に使用可能になり、Spring '24 で適用される予定でしたが、適用日が Summer '24 に延期されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Summer '24 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この更新を有効にした場合、EmailSimple 呼び出し可能なアクションへのコールは組織のメールアドレスプロファイル設定に準拠します。正しいメールアドレスプロファイル設定のないフロー、Apex、または REST API で EmailSimple アクションを使用すると、エラーが発生します。

方法: 内部機能または REST API を使用して EmailSimple を呼び出すアクセス権をユーザーに付与してある場合、ユーザーの実装と組織のメールアドレスに適用されているプロファイル設定を確認してください。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力し、[リリース更新]を選択します。[組織のプロファイル設定を優先するために EmailSimple 呼び出し可能なアクションを有効化] リリース更新を取得するには、評価の手順を実行します。

関連トピック:

[リリース更新](#)

REST API で Apex アクションの例外が発生した場合のロールバックの適用 (リリース更新)

この更新では、例外で終了したトランザクションをロールバックすることで、データの整合性が維持されます。REST API を使用して Apex アクションを実行すると、その例外が発生しても、API によって Salesforce データは変更されません。この更新は、当初は「Connect REST API で呼び出し可能なカスタムアクションの例外が発生した場合のロールバックの適用」という名前で、Spring '23 で最初に使用可能になり、Spring '24 で適用される予定でしたが、適用日が Spring '25 に延期されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '25 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を適用する前に、Apex で定義された呼び出し可能なアクションを確認し、実行時に例外が生成されないことを確認してください。出力が void でない場合、入力と出力のサイズと順序が一致していることを確認します。次に、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力し、[リリース更新] を選択します。「REST API で Apex アクションの例外が発生した場合のロールバックの適用」リリース更新を取得するには、テストおよび有効化の手順を実行します。

関連トピック:

[リリース更新](#)

同じコンテキストでの一時停止中のフローインタビューの再開 (リリース更新)

この更新を有効化すると、一時停止中の自動起動フローが一時停止したときと同じコンテキストで再開されます。また、各フローが API バージョン 57.0 以降で実行されている場合、インタビューが再開される前にフローを実行するユーザー権限が検証されます。プロセスビルダーで一時停止要素が含まれる起動フローを処理する場合、それらのフローが API バージョン 57.0 以降で実行されるように設定することをお勧めします。そのようにしないと、この更新で再開されたインタビューのコンテキストが変わる可能性があります。プロセス起動フローは、システムコンテキスト共有なしで再開されずに、フローバージョンプロパティで指定されたコンテキストで再開されます。この更新は Winter '21 で最初に使用可能になり、Winter '22 での適用が予定されました。その後、適用日は Spring '23 に延期され、Winter '24 に再度延期されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Winter '24 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: 自動起動フローが時間ベースの再開イベント後に再開すると、フローは共有なしのシステムコンテキストで実行されます。フローは、一時停止前のコンテキストやユーザーアクセス権には関係なく、常にこの方法で再開されます。

この更新を有効化すると、フローが一時停止したときと同じコンテキストで再開されます。また、フローが API バージョン 57.0 以降で実行されている場合、再開される前にフローへのユーザーアクセス権が検証されます。

たとえば、レコード A を編集する権限を持っていないユーザーがカスタムボタンをクリックして自動起動フローを実行したとします。まず、フローはユーザー コンテキストで実行されます。フローを一時停止して再開すると、フローはシステムコンテキストで実行され、レコード A を編集できるようになります。この更新を有効化することで、実行ユーザーが編集権を持たないレコードをフローが編集してしまうことを防止できます。

フローが API バージョン 57.0 以降で実行されている場合、インタビューが一時停止された後にユーザーがフローへのアクセス権を失うと、インタビューの再開に失敗します。

この更新は、特定の時間に再開するように設定された一時停止要素のある自動起動フローにのみ影響します。

この更新により、ユーザーがアクセス権を持たないレコードを意図せずに作成または編集してしまうことを防止できるため、Salesforce のセキュリティが強化されます。

フローが API バージョン 57.0 以降で実行されている場合、この更新により、アクセス権がなくなったフローの実行を意図せずにユーザーに許可するのを防止できます。

方法: この更新を有効にすると、自動起動フローインタビューを一時停止して、時間ベースの再開イベント後に再開すると、エラーとなることがあります。フローインタビューのエラーを回避するには、各一時停止要素後のすべてのフロー要素を実行するのに必要な権限が実行ユーザーに割り当てられていることを確認してください。または、常にシステムコンテキストで実行されるように自動起動フローを設定することもできます。フローが API バージョン 57.0 以降で実行されている場合、ユーザーのインタビューが終了するまでユーザーのフローへのアクセス権が削除されないようにしてください。

この更新を有効にすると、プロセスビルダープロセスによって起動されたフローが別のコンテキストで再開される可能性があります。引き続きシステムコンテキスト共有なしで再開されるようにするには、フローが API バージョン 57.0 以降で実行されるように設定します。そのようにしないと、プロセス起動フローはフローバージョンプロパティで指定されたコンテキストで再開されます。

この更新を有効化すると、自動起動フローインタビューが一時停止したときと同じコンテキストで再開されます。また、API バージョン 57.0 以降で実行されている各インタビューは、再開時に実行ユーザーにフローへのアクセス権がある場合にのみ再開できます。

この更新を確認するには、[設定]から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。「同じコンテキストでの一時停止中のフローインタビューの再開」のテストと有効化の手順に従ってください。

関連トピック:

[リリース更新](#)

フローを実行するためのユーザーアクセスの制限 (リリース更新)

この更新を有効にすると、Salesforce でユーザーによるフローの実行が制限されます。フローを実行するには、ユーザーに適切なプロファイルまたは権限セットが付与されている必要があります。有効にすると、このリリース更新によって FlowSites ライセンスが廃止されます。この更新により、適切なプロファイルまたは権限セットが付与されたユーザーのみがフローを実行できるため、フローがより安全に実行されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Winter '25 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: 以前は、場合によってはすべてのユーザーがプロファイルや権限セットなしですべてのフローを実行できました。この更新を有効にすると、ユーザーアクセスが、フローを実行するためのプロファイルまたは権限セットを付与されたユーザーに制限されます。

方法: この更新を適用するには、[設定]から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。[フローを実行するためのユーザーアクセスの制限] で、テストと有効化の手順を実行します。

[フローを実行するためのユーザー・アクセスの制限]を有効にしたら、すべてのユーザーにフローを実行するためのアクセス権を付与する必要があります。「フローの管理」または「フローを実行」権限をプロファイルまたは権限セットに追加します。より詳細に制御するには、特定のフローアクセスを特定の使用可能なプロファイルに制限します。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ: ユーザー権限\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ: フローセキュリティの仕組み\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[フローおよびプロセスのリリース更新](#)

フロー・オーケストレーション

フェーズとステップの実行を制御するために評価フローではなく最大3つの要件を使用します。フロー・オーケストレーションオブジェクトにカスタム項目とカスタムリレーションを追加します。

このセクションの内容:

[要件を使用したオーケストレーションフェーズおよびステップの実行制御](#)

各オーケストレーションステップでは、選択された条件を使用して開始できるタイミングを決定します。各オーケストレーションフェーズと対話型オーケストレーションステップでは、条件を使用してその完了を決定します。以前は、複雑な条件があるときには評価フローを作成してフェーズやステップを開始できるタイミングやフェーズや対話型ステップを完了できるタイミングを決定していました。今回のリリースでは、[プロパティ]パネルで最大3個の要件を定義して、フェーズおよびステップの実行を制御できるようになりました。

[フロー・オーケストレーションオブジェクトの拡張](#)

フロー・オーケストレーションオブジェクトが[設定]のオブジェクトマネージャーで使用できるようになりました。フロー・オーケストレーション実行、フロー・オーケストレーションフェーズ実行、フロー・オーケストレーションステップ実行、フロー・オーケストレーション作業項目オブジェクトにカスタム項目やカスタムリレーションを追加することでニーズに合わせてカスタマイズします。

[フロー・オーケストレーションへのその他の変更](#)

フロー・オーケストレーションの改善点について説明します。

要件を使用したオーケストレーションフェーズおよびステップの実行制御

各オーケストレーションステップでは、選択された条件を使用して開始できるタイミングを決定します。各オーケストレーションフェーズと対話型オーケストレーションステップでは、条件を使用してその完了を決定します。以前は、複雑な条件があるときには評価フローを作成してフェーズやステップを開始できるタイミングやフェーズや対話型ステップを完了できるタイミングを決定していました。今回のリリースでは、[プロパティ]パネルで最大3個の要件を定義して、フェーズおよびステップの実行を制御できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

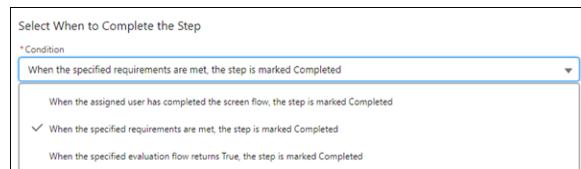
方法: フェーズの [プロパティ] パネルで、[指定された要件を満たしたら、フェーズは完了とマークされます] を選択します。



ステップの [プロパティ] パネルで、[指定された要件を満たしたら、ステップが開始されます] を選択します。



対話型ステップの [プロパティ] パネルで [指定された要件を満たしたら、ステップは完了とマークされます] を選択します。



条件を選択した後に、最大 3 つの要件を定義します。

フローオーケストレーションオブジェクトの拡張

フローオーケストレーションオブジェクトが [設定] のオブジェクトマネージャーで使用できるようになりました。フローオーケストレーション実行、フローオーケストレーションフェーズ実行、フローオーケストレーションステップ実行、フローオーケストレーション作業項目オブジェクトにカスタム項目やカスタムリレーションを追加することでニーズに合わせてカスタマイズします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

フローオーケストレーションへのその他の変更

フローオーケストレーションの改善点について説明します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

[設定] で見つけやすくなったオーケストレーション

[設定] でオーケストレーションが見つかりませんか? [クイック検索] ボックスに「オーケストレーション」と入力し、[フロー]を選択します。オーケストレーションが[フロー]リストビューに表示されます。

バックグラウンドステップフローの分単位での一時停止

待つのにうんざりしていますか? 非同期バックグラウンドステップの自動起動フローの [Wait for Duration (一定期間一時停)]要素を使用して、時間、日、月単位でフローを一時停止するだけでなく、分単位でオーケストレーションを一時停止できるようになりました。

関連トピック:

[待機要素を使用できるフロー種別の増加](#)

OmniStudio と OmniStudio for Vlocity

バグ修正、軽微な更新、既知の問題について説明します。標準オブジェクトモデルを使用している場合は、OmniStudio のリリースノートとマイナーリリース更新を参照してください。カスタムオブジェクトモデルを使用しており、OmniStudio 権限セットライセンスを持っている場合は、OmniStudio for Vlocity のリリースノートを参照してください。

詳細は、「[組織でカスタムオブジェクトと標準オブジェクトのどちらを使用しているのか?](#)」を参照してください。

このセクションの内容:

[OmniStudio](#)

セキュリティが強化され、アクセシビリティが向上しました。

[OmniStudio のマイナーリリース更新](#)

Winter '24 と Spring '25 以前に行われたバグ修正、軽微な更新、既知の問題について説明します。

[OmniStudio for Vlocity](#)

セキュリティが強化され、アクセシビリティと移行の使いやすさが向上しました。

OmniStudio

セキュリティが強化され、アクセシビリティが向上しました。

対象: OmniStudio が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Experience Cloud サイト、およびすべてのバージョン。

対象ユーザー: 標準オブジェクトモデルを使用する OmniStudio ユーザー。

理由:

- Salesforce は年に 3 回(季刊リリース: Winter、Spring、Summer)、自動アップグレードで新機能を配信します。OmniStudio Winter '24 をインストール後は、メジャーリリースとパッチリリースの両方の今後のアップグレードが自動的に組織に届きます。

Winter '24 のリリース時に (2023 年 10 月 6 日) 本番組織と Sandbox 組織が Spring '23 または Summer '23 である場合は、組織が自動的に Winter '24 にアップグレードされます。

組織が自動的に Winter '24 にアップグレードされない場合は、アップグレードの手順に従って OmniStudio パッケージをダウンロードしてください。

- 標準メタデータオブジェクトのストレージ制限に含まれない OmniScript のコードを作成します。既存のコードはストレージ制限に含まれます。スペースを作るには、カスタムオブジェクトを手動で削除します。
- OmniStudio Lightning Web コンポーネントでは、弱視ユーザー向けに先行入力、Google マップのオートコンプリート、OmniScript ナレッジコンポーネント用の色のコントラスト修正がいくつかあります。
- すべてのパッケージは API バージョン 56.0 を参照するサポート対象バージョンに含まれています。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: OmniStudio のマイナーリリース更新 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

OmniStudio のマイナーリリース更新

Winter '24 と Spring '25 以前に行われたバグ修正、軽微な更新、既知の問題について説明します。

対象: OmniStudio が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Experience Cloud サイト、およびすべてのバージョン。

対象ユーザー: 標準オブジェクトモデルを使用する OmniStudio ユーザー。

[OmniStudio Winter '24 のマイナーリリース更新](#)

方法: マイナーリリースをインストールするための OmniStudio パッケージのリンクについては、「[OmniStudio のインストールとアップグレードのためのリリース概要](#)」を参照してください。

OmniStudio for Vlocity

セキュリティが強化され、アクセシビリティと移行の使いやすさが向上しました。

対象: Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Experience Cloud サイト、およびすべてのバージョン。

対象ユーザー: OmniStudio 権限セットライセンスを持つカスタムオブジェクト (管理パッケージ) モデルのユーザー。

理由:

- Vlocity Public Sector Solutions パッケージでは、カスタム Lightning Web コンポーネントから標準 Lightning Web コンポーネントに簡単に移行できます。
- すべての Vlocity パッケージは API バージョン 56.0 を参照するサポート対象バージョンに含まれています。

- OmniStudio Lightning Web コンポーネントでは、弱視ユーザー向けに先行入力、Google マップのオートコンプリート、OmniScript ナレッジコンポーネント用の色のコントラスト修正がいくつかあります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: OmniStudio 管理パッケージのリリースの概要\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce for Slack インテグレーション

Slack と Salesforce を併用して、あらゆる場所から顧客とつながったり、進行状況を追跡したり、シームレスにコラボレーションしたり、チームの成功を実現したりできます。

最新の更新については、『[Salesforce for Slack インテグレーションリリースノート](#)』を参照してください。

セキュリティ、ID、プライバシー

拡張ドメインが適用されます。ユーザーが新しい URL に移動して、一部のリダイレクトの終了に備えられるようになります。多要素認証の自動有効化は、組織の第 3 フェーズで有効になります。ローカルまたは 2GP のパッケージ化可能な外部クライアントアプリケーションを開発できます。パスワードレスログイン、ゲストユーザーの ID、ヘッドレス登録の改善により、ヘッドレス ID 実装を拡張できます。評価指標が追加され、ログイン IP 範囲とテナントライセンスの利用状況の詳細を監視できます。テナントが実行されているインスタンスを参照できます。新しいプライバシーセンターアプリケーションについて理解できます。OAuth 2.0 クライアントログイン情報または JWT 認証プロトコルを使用してサーバー間インテグレーションの外部ログイン情報を設定できます。ユーザーが指定ログイン情報や外部ログイン情報を変更できるように、新しい「Manage Named Credentials(指定ログイン情報を管理)」権限を割り当てることができます。また、新しいグループメンバーシップイベントとアクセス権がありませんイベント種別を使用してグループメンバーシップの変更と「アクセス権がありません」試行を管理できます。

このセクションの内容:

[Salesforce バックアップ](#)

バックアップと復元管理パッケージが Salesforce バックアップと呼ばれるようになりました。その他の改善により、損失や破損からより簡単にデータを保護できます。バージョン 2.6 で、ボタンをクリックするだけでデータバックアップをエクスポートできるようになりました。改善されたアプリケーション内メッセージングとドキュメントにより、アプリケーションでデータを直接復元するのをブロックする問題を発見できます。このような場合、任意のデータインポートツールを使用してバックアップをエクスポートしてデータを復元してください。

[ドメイン](#)

拡張ドメインが適用されます。ユーザーが新しい URL に移動して、一部のリダイレクトの終了に備えられるようになります。カスタムドメインの設定にさらなるサポートを受けることができ、パーティション分割されたドメインをより多くの組織で使用できるようになりました。

IDとアクセス管理

MFAの自動有効化は、組織の第3フェーズで有効になります。ローカルまたは2GPのパッケージ化可能な外部クライアントアプリケーションを開発できます。パスワードレスログイン、ゲストユーザーのID、ヘッドレス登録の改善により、ヘッドレスID実装を拡張できます。WebAuthn認証をサポートするためにU2Fセキュリティキーを更新できます。

指定ログイン情報

OAuth 2.0 クライアントログイン情報またはJWT認証プロトコルを使用してサーバー間インテグレーションの外部ログイン情報を設定できます。ユーザーが指定ログイン情報や外部ログイン情報を変更できるよう、新しい「Manage Named Credentials(指定ログイン情報を管理)」権限を割り当てることができます。ゲストユーザーが指定ログイン情報を使用してコールアウトを実行する方法を制御します。ユーザーは認証なしで、指定ログイン情報でコールアウトを実行できるようになります。

状態チェック

ゲストユーザープロファイルが「参照」および「編集」アクセスを持つオブジェクト数を参照することで、Experience Cloud サイトのセキュリティを評価できます。

プライバシーセンター

管理パッケージから離れて、新しいプライバシーセンターアプリケーションについて説明します。アプリケーションのホームページを使用して、受信要求やポリシー実行ログなど、プライバシーセンターのすべての機能に1か所から移動できます。新しく改善されたデータ管理ポリシーと忘れられる権利ポリシーを使用して顧客の要求に対応します。プライバシー保持を使用して削除せずにレコードを保持することもできます。

Salesforce Shield

新しい[グループメンバーシップ]イベント種別と[アクセス権がありません]イベント種別により、グループメンバーシップの変更と不十分な権限のアクセス試行を管理できます。データセットに新しい差分データを追加するEvent Monitoring Analytics アプリケーションの設定は、標準で利用できます。新しい外部鍵管理機能により、Salesforce の外部に保存された鍵でデータを暗号化でき、鍵の管理をより直接的に制御できます。

セキュリティセンター

評価指標が追加され、ログインIP範囲とテナントライセンスの利用状況の詳細を監視できます。テナントが実行されているインスタンスを参照できます。会社のニーズに合わせてテナント名をカスタマイズできます。

その他のセキュリティの変更

新しいリリースの更新により、他の Salesforce 組織へのリダイレクトが制限されます。カメラやマイクへのアクセスを制限し、クリックジャック保護を拡張することで、ユーザーを保護してください。

Salesforce バックアップ

バックアップと復元管理パッケージが Salesforce バックアップと呼ばれるようになりました。その他の改善により、損失や破損からより簡単にデータを保護できます。バージョン 2.6 で、ボタンをクリックするだけでデータバックアップをエクスポートできるようになりました。改善されたアプリケーション内メッセージングとドキュメントにより、アプリケーションでデータを直接復元するのをブロックする問題を発見できます。このような場合、任意のデータインポートツールを使用してバックアップをエクスポートしてデータを復元してください。

このセクションの内容:

[バックアップと復元から Salesforce バックアップへの名前変更](#)

バックアップと復元管理パッケージが Salesforce バックアップに名前変更されました。バックアップと復元の機能はすべて同じままです。製品のドキュメントは新しい名前に合わせて更新されています。ブランド移行期間中は、場所によっては前のブランド名がまだ表示されます。

[バックアップと復元ができるデータの増加](#)

Salesforce バックアップ管理パッケージのバージョン 2.7 では、必要に応じて共有設定をロールバックできるように、共有オブジェクトデータをサポートするようになりました。また、重要な過去の計算値に簡単にアクセスできるように、数式項目の値をバックアップすることもできます。改善されたグローバルポリシー コントロールを使用すると、ポリシーのすべてのオブジェクトにポリシーレベルのデフォルトをワンクリックで適用できます。

[バックアップからのデータのエクスポート](#)

スキーマの変更(項目の新規作成や削除など)が原因でデータ復元ジョブが完了しないことがあります。 Salesforce バックアップアプリケーションでレコードを復元しているときに問題が発生した場合、別のツールを使用してバックアップをダウンロードしてデータをインポートできるようになりました。これは、データを復元するためのバックアップ方法と考えてください。[復元] ページの新しいアイコンは、ダウンロードからのみ復元できるレコードを示します。

バックアップと復元から Salesforce バックアップへの名前変更

バックアップと復元管理パッケージが Salesforce バックアップに名前変更されました。バックアップと復元の機能はすべて同じままです。製品のドキュメントは新しい名前に合わせて更新されています。ブランド移行期間中は、場所によっては前のブランド名がまだ表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、バックアップと復元アドオンサブスクリプションがあるエディションに適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce のバックアップを使用したデータの保護\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

バックアップと復元ができるデータの増加

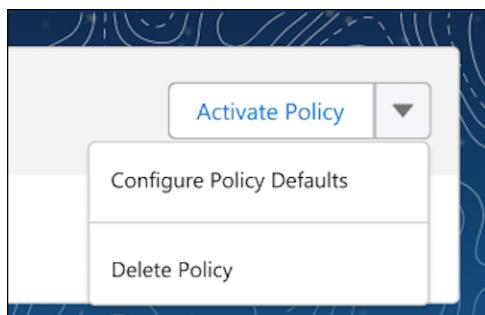
Salesforce バックアップ管理パッケージのバージョン 2.7 では、必要に応じて共有設定をロールバックできるように、共有オブジェクトデータをサポートするようになりました。また、重要な過去の計算値に簡単にアクセスできるように、数式項目の値をバックアップすることもできます。改善されたグローバルポリシー コントロールを使用すると、ポリシーのすべてのオブジェクトにポリシーレベルのデフォルトをワンクリックで適用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、バックアップと復元アドオンサブスクリプションがあるエディションに適用されます。

方法: 数式項目のバックアップは、オブジェクト単位で実行できます。[バックアップ]ページで任意のオブジェクトを選択してから [Formula Fields in Backups (バックアップの数式項目)] を有効にします。バックアップに関連するレコードを選択したら、ポリシーでオブジェクトを有効化します。

新しいグローバルポリシー設定メニューを使用すると、ポリシー内のすべてのオブジェクトに数式項目のバックアップを簡単に追加できます。ポリシー有効化ボタンの横にある矢印をクリックし、[Configure Policy Settings (ポリシー設定を定義)] を選択します。次に [Formula Field Backups (数式項目のバックアップ)] を選択して、変更を確認します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce のバックアップを使用したデータの保護 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

バックアップからのデータのエクスポート

スキーマの変更(項目の新規作成や削除など)が原因でデータ復元ジョブが完了しないことがあります。Salesforce バックアップアプリケーションでレコードを復元しているときに問題が発生した場合、別のツールを使用してバックアップをダウンロードしてデータをインポートできるようになりました。これは、データを復元するためのバックアップ方法と考えてください。[復元]ページの新しいアイコンは、ダウンロードからのみ復元できるレコードを示します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、バックアップと復元アドオンサブスクリプションがあるエディションに適用されます。

方法: Salesforce バックアップアプリケーションの[復元]ページで、レコードを選択して[エクスポート]をクリックします。ファイルがドキュメントフォルダーにダウンロードされます。その後、データローダーやデータインポートウィザードのようなツールを使用してデータをインポートできます。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ:バックアップからのデータの復元\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ドメイン

拡張ドメインが適用されます。ユーザーが新しいURLに移動して、一部のリダイレクトの終了に備えられるようになります。カスタムドメインの設定にさらなるサポートを受けることができ、パーティション分割されたドメインをより多くの組織で使用できるようになりました。

このセクションの内容:

[拡張ドメインのリリース\(リリース更新\)](#)

最新のブラウザーおよびセキュリティ標準に準拠するには、拡張ドメインを有効にしてリリースします。拡張ドメインを使用すると、各自の組織用に Salesforce がホストする URL に会社固有の [私のドメイン] の名前が含まれます。一貫したドメイン形式により、ユーザー環境が向上し、カスタムコードおよび API コールで使用される URL が標準化されます。また、拡張ドメインを使用すると、ユーザーがサードパーティ Cookie をブロックするブラウザーから Salesforce にアクセスできます。この更新は Experience Cloud サイト、Salesforce サイト、Visualforce ページなどのアプリケーションやログインの URL に影響するため、拡張ドメインをまだリリースしていない場合は、組織でこのリリースを取得する前に拡張ドメインをリリースすることをお勧めします。この更新は、当初「拡張ドメインの有効化」と名付けられていたもので、Summer'21 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用されます。

[\[私のドメイン\] のリダイレクト中のユーザーへの通知](#)

拡張ドメインの有効化を含め、[私のドメイン] を変更すると、ユーザーはデフォルトで新しい URL にリダイレクトされます。ユーザーが古いブックマークとリンクを更新できるように、リダイレクトされる前に新しい URL をユーザーに通知するメッセージを有効にします。

[\[私のドメイン\] の一部のリダイレクトの終了への準備](#)

拡張ドメインをリリースすると、以前の拡張されていないホスト名 (*.force.com サイトのホスト名を含む) は一時的にリダイレクトされます。2020 年 10 月より前に作成された組織の場合は、Salesforce インスタンスを含むが [私のドメイン] の名前を含まない一部のホスト名も一時的にリダイレクトされます。Salesforce によってリダイレクトが無効化される前に、影響を受けるホスト名と、リダイレクトを無効化して準備する方法を確認します。

[\[私のドメイン\] のリダイレクトの管理](#)

[私のドメイン] の古いインスタンス化ベースの URL からのリダイレクトの設定を、[私のドメイン] の [設定] ページの 1 つのセクションから制御します。また、簡略化のために [ルーティング] セクションと [ポリシー] セクションは 1 つに統合されています。

より多くの組織でのパーティション分割されたドメインの使用

組織の可用性を最大限に高めるために、[私のドメイン]では新しい Sandbox、Developer Edition 組織、パッチ組織、スクラッチ組織、Trailhead Playground にパーティション分割されたドメインを使用します。パーティション分割されたドメインには組織種別に関連する用語が含まれ、Salesforce ではサービス提供の変更を段階的にロールアウトできます。この機能はほとんどの Hyperforce 組織で新たに使用できるようなり、patch パーティションが新たに使用可能になりました。これまで、対象のパッチ組織では develop パーティションが使用されていました。継続的にすべての組織にアクセスできるように、新しいドメインの許可リストを更新します。既存の組織をその組織種別の Salesforce リリーススケジュールに含めるには、分割されたドメインを有効にしてリリースします。

設定時のカスタムドメイン設定の確認

カスタムドメインを使用して、<https://www.example.com> など、所有するドメインで Experience Cloud サイトまたは Salesforce サイトを提供できます。この機能には Salesforce の外部での設定が必要です。カスタムドメインを自信を持って設定できるように、Salesforce ではカスタムドメインを保存するときにより多くの検証チェックが実行されます。これらのチェックで問題が明らかになった場合、詳細なエラーメッセージには、Salesforce、DNS、またはサードパーティサービスで必要な調整が含まれます。ドメインがサイトにサービスを提供できない問題を解決するまで、ドメインを保存することはできません。問題の重大度が低い場合は、関連するメッセージを確認できる [ドメインの詳細] ページに自動的に移動します。

推奨のカスタムドメイン設定オプションの決定

カスタムドメインを設定するときに、Salesforce コンテンツ配信ネットワーク (CDN)、サードパーティサービスまたは CDN、または HTTPS 証明書を使用できます。新しく公開されたガイダンスを使用して、ダウンタイムを減らすために一時的な非 HTTPS ドメインを設定するタイミングなど、ドメインに推奨のオプションを決定できます。また、サードパーティサービスまたは CDN を使用するオプションが理解しやすくなるよう、対応する接続図と手順も更新されました。

その他のドメインの変更

カスタムドメインには HTTPS が必要なため、[ドメイン] 設定ページの [HTTPS オプション] 項目の名前が [ドメイン設定オプション] に変更されました。また、拡張ドメインの適用に伴い、[私のドメイン] の [設定] ページから関連オプションが削除されました。

拡張ドメインのリリース (リリース更新)

最新のブラウザーおよびセキュリティ標準に準拠するには、拡張ドメインを有効にしてリリースします。拡張ドメインを使用すると、各自の組織用に Salesforce がホストする URL に会社固有の [私のドメイン] の名前が含まれます。一貫したドメイン形式により、ユーザー環境が向上し、カスタムコードおよび API コールで使用される URL が標準化されます。また、拡張ドメインを使用すると、ユーザーがサードパーティ Cookie をブロックするブラウザから Salesforce にアクセスできます。この更新は Experience Cloud サイト、Salesforce サイト、Visualforce ページなどのアプリケーションやログインの URL に影響するため、拡張ドメインをまだリリースしていない場合は、組織でこのリリースを取得する前に拡張ドメインをリリースすることをお勧めします。この更新は、当初「拡張ドメインの有効化」と名付けられていたもので、Summer '21 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、元々「拡張ドメインの有効化」という名称で Summer '21 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: 本番環境を更新する前に、Sandbox すべての [私のドメイン] の変更をテストすることをお勧めします。

この更新を実行するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。[拡張ドメインのリリース] で、テストと有効化の手順を実行します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 拡張ドメイン \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: \[私のドメイン\] の変更の計画 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Trailblazer Community グループ: My Domain and Enhanced Domains](#)

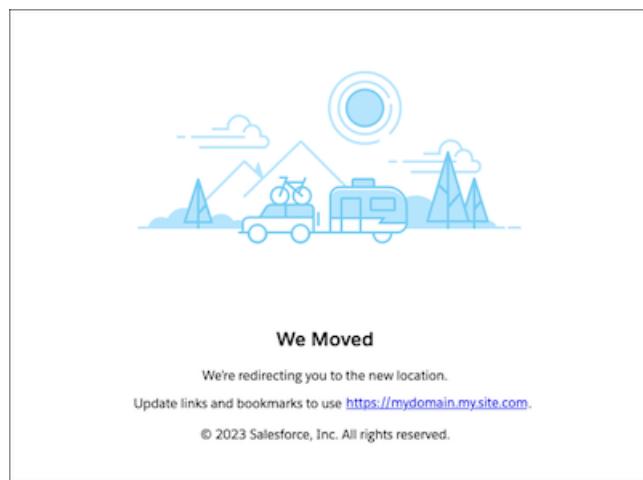
リリース更新

[私のドメイン] のリダイレクト中のユーザーへの通知

拡張ドメインの有効化を含め、[私のドメイン] を変更すると、ユーザーはデフォルトで新しい URL にリダイレクトされます。ユーザーが古いブックマークとリンクを更新できるように、リダイレクトされる前に新しい URL をユーザーに通知するメッセージを有効にします。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 次に、ユーザーが古い *.force.com サイト URL からリダイレクトされる前に表示されるメッセージの例を示します。



方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「私のドメイン」と入力し、[私のドメイン] を選択します。[リダイレクト] セクションで [編集] をクリックします。[現在の [私のドメイン] の URL] にリダイレクトする前にユー

ユーザーに通知] または [現在のサイト URL にリダイレクトする前にユーザーに通知] を選択します。これらのオプションは、以前の URL が存在し、対応するリダイレクトが有効になっている場合にのみ使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: \[私のドメイン\] のリダイレクトの管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[私のドメイン] の一部のリダイレクトの終了への準備

拡張ドメインをリリースすると、以前の拡張されていないホスト名 (*.force.com サイトのホスト名を含む) は一時的にリダイレクトされます。2020 年 10 月より前に作成された組織の場合は、Salesforce インスタンスを含むが [私のドメイン] の名前を含まない一部のホスト名も一時的にリダイレクトされます。Salesforce によってリダイレクトが無効化される前に、影響を受けるホスト名と、リダイレクトを無効化して準備する方法を確認します。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce では、Winter '25 でこれらのホスト名のリダイレクトを停止します。同リリースは Sandbox では 2024 年 8 月、本番では 2024 年 9 月に開始される予定です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 拡張されていないドメインのリダイレクトの終了への準備\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 拡張ドメインのスケジュール\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[拡張ドメインのリリース\(リリース更新\)](#)

[私のドメイン] のリダイレクトの管理

[私のドメイン] の古いインスタンス化ベースの URL からのリダイレクトの設定を、[私のドメイン] の [設定] ページの 1 つのセクションから制御します。また、簡略化のために [ルーティング] セクションと [ポリシー] セクションは 1 つに統合されています。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: [私のドメイン] の [設定] ページの新しい [リダイレクト] セクションを次に示します。

この変更前は、[以前の [私のドメイン] の URL] (1) と [[私のドメイン] の URL] のリダイレクト設定 (2) は、[私のドメイン] の [設定] ページの [ルーティング] セクションで管理していました。

[インスタンス化 URL] (3) は、名称を変更して [私のドメイン] の [設定] ページの [ポリシー] セクションから移動されたリダイレクト設定です。この設定の以前の名称は [リダイレクトポリシー] でした。この設定の影響を理解しやすいように、影響を受けるインスタンス化 URL (<https://eu55.salesforce.com> など) が説明に記載されるようになりました。

Redirections

Save Cancel

Previous My Domain URL mycompany.my.salesforce.com without enhanced domains 1

Remove Previous My Domain

My Domain URLs 2

- Redirect previous My Domain URLs to your current My Domain
- Notify users before redirecting to the current My Domain URL
- Redirect portal-mycompany.force.com and mycompany.force.com URLs to your current My Domain site URLs
- Notify users before redirecting to the current site URL
- Log redirections

Instanced URL 3

Specify the behavior when a user attempts to access this org via a URL that starts with https://eu55.salesforce.com. If a My Domain change is in progress, this setting also applies to the provisioned domains for this org.

- Redirect to the same page within the domain
- Redirect with a warning to the same page within the domain
- Don't redirect (recommended)

Save Cancel

この変更により、[私のドメイン] のログインポリシーは、以前は別々だった [ルーティング] セクションと [ポリシー] セクションが1つになった、[私のドメイン] の [設定] ページの [ルーティングおよびポリシー] セクションで管理します。

Routing and Policies

Save Cancel

Salesforce Edge Network

Salesforce Edge Network applies to most provisioned and deployed domains for this org. See Salesforce Edge Network in Salesforce Help for details.
This org uses Salesforce Edge Network.

Login Policy

If a My Domain change is in progress, your login policy also applies to the provisioned My Domain login URL.

- Prevent login from https://login.salesforce.com
- Prevent SOAP API login from https://login.salesforce.com

Save Cancel

Government Cloud Plus組織では、このセクションには*.my.site.comシステム管理ドメインのSalesforce CDNをオプトアウトするオプションが含まれています。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: \[私のドメイン\] のリダイレクトの管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: \[私のドメイン\] のログインおよびリダイレクトポリシーの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

より多くの組織でのパーティション分割されたドメインの使用

組織の可用性を最大限に高めるために、[私のドメイン] では新しい Sandbox、Developer Edition 組織、パッチ組織、スクラッチ組織、Trailhead Playground にパーティション分割されたドメインを使用します。パーティション分割されたドメインには組織種別に関する用語が含まれ、Salesforce ではサービス提供の変更を段階的にロールアウトできます。この機能はほとんどの Hyperforce 組織で新たに使用できるようになり、patch パーティションが新たに使用可能になりました。これまで、対象のパッチ組織では develop パーティションが使用されていました。継続的にすべての組織にアクセスできるように、新しいドメインの許可リストを更新します。既存の組織をその組織種別の Salesforce リリーススケジュールに含めるには、分割されたドメインを有効にしてリリースします。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションで拡張ドメインを使用している本番以外の組織に適用されます。この機能は、Salesforce Edge ネットワークを使用しない Hyperforce (GIA Hyperforce インスタンスを除く) 上の Developer Edition 組織、スクラッチ組織、Trailhead Playground で新たに使用できるようになりました。patch パーティションは、GIA を除く Hyperforce インスタンス上のパッチ組織、および Salesforce Edge ネットワーク上のすべてのパッチ組織で新たに使用できるようになりました。develop パーティションを使用する既存のパッチ組織はこの変更による影響を受けません。GIA インスタンス上の Hyperforce 組織およびパブリッククラウドでは、Sandbox パーティションのみを使用できます。

時期: パーティション分割されたドメインは、新しい対象組織でデフォルトで有効になっています。拡張ドメインがある Sandbox は常にパーティション分割されます。この機能のリリースの最新情報を確認するには、Trailblazer Community の [「My Domain and Enhanced Domains」](#) グループのディスカッションに参加してください。

方法: ユーザーがパーティション分割されたドメインに接続できるように、許可リストを更新します。

拡張ドメインのある既存の Developer Edition 組織、パッチ組織、スクラッチ組織、Trailhead Playground では、[私のドメインの設定] ページでこの機能を有効/無効にできます。[[私のドメイン] の詳細] セクションで [分割されたドメインを使用] オプションを変更すると、画面の下部で [私のドメイン] の新しいログイン URL をプレビューできます。

My Domain Details

Current My Domain URL: **mycompany-dev-ed.develop.my.salesforce.com** with enhanced domains

Before changing your My Domain details, review My Domain Considerations in Salesforce Help.

If you change your My Domain name or suffix, you must deploy your new My Domain.

My Domain Name	<input type="text" value="mycompany-dev-ed"/>	<input type="button" value="Check Availability"/>
Domain Suffix	<input type="button" value="Standard (*.my.salesforce.com)"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> Use enhanced domains <small>[i]</small>		
Domain Partitioning	<input checked="" type="checkbox"/> Use partitioned domains	
Your chosen new My Domain URL mycompany-dev-ed.develop.my.salesforce.com with partitioned enhanced domains		

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: パーティション分割されたドメイン\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

設定時のカスタムドメイン設定の確認

カスタムドメインを使用して、<https://www.example.com>など、所有するドメインで Experience Cloud サイトまたは Salesforce サイトを提供できます。この機能には Salesforce の外部での設定が必要です。カスタムドメインを自信を持って設定できるように、Salesforce ではカスタムドメインを保存するときにより多くの検証チェックが実行されます。これらのチェックで問題が明らかになった場合、詳細なエラーメッセージには、Salesforce、DNS、またはサードパーティサービスで必要な調整が含まれます。ドメインがサイトにサービスを提供できない問題を解決するまで、ドメインを保存することはできません。問題の重大度が低い場合は、関連するメッセージを確認できる [ドメインの詳細] ページに自動的に移動します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。カスタムドメインは、Marketing Cloud Account Engagement (Pardot) が付属する Professional Edition でも使用できます。

理由:たとえば、サードパーティのサーバーまたはコンテンツ配信ネットワーク (CDN) を使用するカスタムドメインを保存すると、Salesforce ではサードパーティプロバイダーからドメインに提供される HTTPS 証明書が検証されます。次に、その証明書が見つからないときのエラーメッセージの例を示します。この問題を解決するまで、ドメインを保存することはできません。

Domain Edit

Error: Invalid Data.
Review all error messages below to correct your data.

Domain Name	<input type="text" value="www.example.com"/>	Save	Save & New	Cancel
Domain Configuration Option	<input type="radio"/> Serve the domain with your HTTPS certificate on Salesforce servers <input type="radio"/> Serve the domain with the Salesforce Content Delivery Network (CDN) i <input checked="" type="radio"/> Use a third-party service or CDN to serve the domain www.example.com.examplecdn.net			
Error: We can't find an HTTPS certificate for www.example.com associated with the external hostname www.example.com.examplecdn.net. To get the required certificate in place, work with your third-party provider.				
<input type="radio"/> Use a temporary non-HTTPS domain i				
Allow HSTS preloading registration	<input checked="" type="checkbox"/> Allow HSTS preloading registration			
Info: After saving, you will need to activate the domain for your changes to take effect.				
Save Save & New Cancel				

検証チェックで重大度の低い問題が見つかった場合は、ドメインを保存するときに警告メッセージが表示されます。次に、Salesforce で HTTPS 証明書チェーンの問題が見つかったときに [ドメインの詳細] ページに表示されるメッセージの例を示します。

Domain
www.example.com [Help for this Page](#) [?](#)

Domain Detail

Edit	Activate		
We found a configuration issue with the HTTPS certificate chain for www.example.com associated with the external hostname www.example.com.examplecdn.net. This issue can result in degraded performance. We recommend that you work with your third-party provider to update the certificate chain.			
Domain Name	www.example.com	Current Domain Configuration Option	Domain is served by an external host
Allow HSTS preloading registration	<input checked="" type="checkbox"/>	External Hostname	www.example.com.examplecdn.net
Target Hostname	i usa12.sdfc-ypmv23.salesforce.com	Pending Domain Configuration Option	Domain is served by an external host
		Provisioning Status	Awaiting Activation [Undo]
Created By	Poul Hargrave, 4/3/2023, 11:24 AM	Modified By	Jo Sastre, 7/24/2023, 12:34 PM
Edit		Activate	

Custom URLs [New Custom URL](#) [Custom URLs Help](#) [?](#)

Action	Path	Status	Site Label	Site Type
Edit Del View	/forcesite	Published	Site	Community

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:カスタムドメイン\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

推奨のカスタムドメイン設定オプションの決定

カスタムドメインを設定するときに、Salesforce コンテンツ配信ネットワーク (CDN)、サードパーティサービスまたは CDN、または HTTPS 証明書を使用できます。新しく公開されたガイダンスを使用して、ダウントIMEを減らすために一時的な非HTTPS ドメインを設定するタイミングなど、ドメインに推奨のオプションを決定できます。また、サードパーティサービスまたはCDNを使用するオプションが理解しやすくなるように、対応する接続図と手順も更新されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Salesforce CDN を使用するドメインは、Professional Edition の Marketing Cloud Account Engagement (Pardot) でも使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: カスタムドメインを提供する方法の決定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

その他のドメインの変更

カスタムドメインには HTTPS が必要なため、[ドメイン] 設定ページの [HTTPS オプション] 項目の名前が [ドメイン設定オプション] に変更されました。また、拡張ドメインの適用に伴い、[私のドメイン] の [設定] ページから関連オプションが削除されました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。[私のドメイン] の [設定] ページに対する変更は、Group Edition、Essentials Edition、Developer Edition でも適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: カスタムドメイン\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 私のドメイン\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ID とアクセス管理

MFA の自動有効化は、組織の第 3 フェーズで有効になります。ローカルまたは 2GP のパッケージ化可能な外部クライアントアプリケーションを開発できます。パスワードレスログイン、ゲストユーザーの ID、ヘッドレス登録の改善により、ヘッドレス ID 実装を拡張できます。WebAuthn 認証をサポートするために U2F セキュリティキーを更新できます。

このセクションの内容:

[MFA の自動有効化の続行: お客様の組織に適用されるタイミングと方法の確認 \(リリース更新\)](#)

Salesforce では、2022 年 2 月 1 日より、Salesforce 製品にアクセスするすべてのお客様に多要素認証 (MFA) の使用を義務付けています。お客様がこの要件を満たすことができるように、MFA の自動有効化リリース更新で複数のフェーズに分けて本番組織の MFA を自動的に有効にしていきます。Winter '24 で、MFA が組織の第 3 フェーズで自動的に有効になります。Spring '24 の最終フェーズには、まだ自動有効化されていない組織がすべて含まれます。

[WebAuthn 認証をサポートするための U2F セキュリティキーの更新](#)

Salesforce を操作するには、WebAuthn 認証を使用するように U2F セキュリティキーを更新する必要があります。更新プロセスは、バックグラウンドでシームレスに機能します。新しいセキュリティキーの場合、ユーザーが Salesforce アカウントに登録すると、自動的に更新が行われます。Summer '22 より前に登録された U2F セキュリティキーの場合、ユーザーは Winter '24 より前に各自のキーを使用してログインするだけで済みます。そうすることで、自動的にキーが更新されます。ユーザーがこの期間を逃しても、Winter '24 の後で Salesforce アカウントに再登録すればキーを更新できます。

[無料 Salesforce 組織での SMS による ID 検証が使用不可に](#)

国際レバニューシェア詐欺などのテキストメッセージ (SMS) 機能の悪用を防止するため、SMS 経由で送信されるワンタイムパスコードは、無料 Salesforce 組織では本人確認方法として利用できなくなりました。SMS ワンタイムパスコードの受信を始める前にユーザーが行う携帯番号の登録の手順も、無料組織では無効になります。その他の ID 検証方法である、Salesforce Authenticator、セキュリティキー、組み込み Authenticator などは引き続き使用できます。Sandbox 組織で SMS による本人確認を有効にする必要がある場合は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

[Salesforce からメールを送信するためのメールアドレスの検証](#)

Salesforce では、ユーザーが取引先責任者やリードへの送信など、Salesforce からのメール送信を続けるには検証済みのメールアドレスが必要です。ほとんどのユーザーはサインアッププロセスの一環としてメールアドレスを検証します。ただし、一部のユーザーは現在の検証プロセスが確立される前に Salesforce に追加したメールアドレスを使い続けています。ユーザーが未検証のメールアドレスからメールを送信すると、Salesforce によってこのメールメッセージが却下され、送信が完了されません。未検証のメールアドレスは、ユーザーがメールアドレスを検証するか、パスワードをリセットするまで使用できません。

[外部クライアントアプリケーションの作成と配信](#)

外部クライアントアプリケーションを開発してパッケージ化し、サードパーティアプリケーションを統合できます。外部クライアントアプリケーションは、次世代の接続アプリケーションです。外部クライアントアプリケーション機能は第 2 世代 (2GP) の管理パッケージング用に設計されているため、配信については気にする必要がありません。

[Identity Connect 3.0.1.2 セキュリティパッチの削除](#)

Identity Connect 3.0.1.2 はサポートされていないため、Winter '24 以降、Identity Connect 3.0.1.2 セキュリティパッチは使用できなくなります。Identity Connect バージョン 3.0.1.2 および 2.1.0 の実装ガイドも同時に削除されます。

[ヘッドレスアプリケーションのログイン環境の合理化](#)

ヘッドレスパスワードレスログインフローを使用して、顧客やパートナーがプラットフォーム以外のアプリケーションにより簡単にログインできるようにします。ユーザーは、メールアドレスまたは電話番号を入力すると受信するワンタイムパスワード (OTP) を使用してログインします。他のヘッドレス ID 機能と同様、このフローにより、アプリケーションでのユーザー エクスペリエンスを十分に制御しながら、ユーザーの認証を行うことができます。

ゲストユーザー ID を使用したユーザーの好みの理解

不明な訪問者から完全に登録されたユーザーになるまでのユーザーのジャーニーを追跡し、ユーザーが好み環境に関する貴重なインサイトを収集できます。ゲストユーザーの新しいヘッダレスフローを使用して、不明なユーザーが最初にアプリケーションにアクセスしたときにユニーク訪問者 (UVID) を発行するアプリケーションを作成できます。ユーザーがログインまたは登録した場合、UVID を指定ユーザー認証フローに渡すことができます。UVID により、ユーザーが誰であり、アプリケーションをどのように操作したかに関するコンテキストが得られるため、ユーザーの Cookie 設定などの詳細を記憶するようにアプリケーションを設計できます。また、分析ツールを活用することにより、UVID を使用してゲストユーザーがサインアップに使用している環境を理解できます。

ヘッダレス登録ハンドラーテンプレートを使用した設定の簡素化

ヘッダレス登録設定プロセスを容易にするために、Experience Cloud の [ログイン & 登録] ページから登録ハンドラー Apex クラスを自動生成できます。準備ができたら、会社のニーズに合わせてデフォルトのコンテンツをカスタマイズします。

reCAPTCHA Enterprise を使用したヘッダレス ID 実装の保護

Google reCAPTCHA を必須にするためにヘッダレス ID フローを設定するときに、reCAPTCHA Enterprise を使用できるようになりました。これまで、Salesforce でヘッダレス ID にサポートされていたのは reCAPTCHA v2 と v3 のみでした。この新しいオプションを反映して、Experience Cloud の [ログイン & 登録] ページの reCAPTCHA 設定のテキストも更新されました。

ヘッダレス登録用のメールテンプレートのカスタマイズ

ヘッダレス登録中にユーザーに送信されるワンタイムパスワードメールを管理できます。新しいメールテンプレートと差し込み項目を使用して、プラットフォーム以外のアプリケーションでのブランド設定に合わせてメールをすばやくカスタマイズできます。

JSON Web トークン (JWT) ベースのアクセストークンの正式リリース

外部システムとの互換性を高めるために、不透明トークンの代わりに、JSON Web トークン (JWT) ベースのアクセストークンを接続アプリケーションで発行できるようにします。JWT ベースのアクセストークンが Salesforce REST API へのアクセスでサポートされるようになりました。不透明アクセストークンとは異なり、JWT ベースのアクセストークンはアプリケーションが理解できる形式になっています。透過的な形式により、Salesforce エンドポイントをコールするのではなく、アプリケーションでトークンを解析して検証できます。

コード交換の証明鍵 (PKCE) 拡張による認証セキュリティの向上

OAuth 2.0 PKCE 拡張を ID の実装に組み込むことで、組織、Experience Cloud サイト、およびプラットフォーム外アプリのセキュリティを強化できます。組織全体レベルまたは接続アプリケーションで PKCE を要求して、PKCE 拡張を含まないすべての認証コードフローのバリエーションが失敗するようになります。また、認証プロバイダーを設定する際には、ワンクリックで自動的に PKCE 拡張を有効にします。PKCE を実装すると、自分と Salesforce のみがアクセスできるパラメーターでアプリケーションを保護することにより、盗まれた認証コードによる攻撃を防ぐことができます。

ヘッダレス ID と OAuth 設定の改善されたガイダンス

ヘッダレス ID と OAuth 設定の設定環境の使いやすさを向上するために、いくつかの表示ラベルが追加されています。

セッションタイムアウトのポップアップの更新

セッションタイムアウトのわずかなばらつきを考慮して、ユーザーのセッションが終了しそうなときに表示するポップアップを更新しました。以前は、30秒以内に[続けて使用する]をクリックしないと、ユーザーがログアウトされることを伝えるポップアップが表示されていました。Salesforceは、この30秒がおよそ時間であることを明確にするためにメッセージの文章を変更しました。実際の時間は、ページやユーザーの活動によって変わることがあるため、常に30秒ぴったりというわけではありません。

クライアントログイン情報フローの更新されたフロート表示テキスト表示ラベルが日本語で使用可能に

Summer '23で、[接続アプリケーションを管理する]ページのクライアントログイン情報フロー実行ユーザー向けのフロート表示テキストで不正確な文が削除されました。不正確なテキストでは、実行ユーザーは「API限定ユーザー」権限を持っている必要があると記述されていました。日本語では大規模なスタイル変更が予定されているため、日本語の翻訳は遅っていましたが、今回の変更はサポートされるすべての言語で使用できるようになりました。

API ログイン要求に対する相互認証の適用

「SSL/TLS 相互認証の適用」ユーザー権限を持つユーザーの場合は、新しいユーザーセッションを開始するAPIログイン要求にも相互認証が適用されるようになりました。これまで、ユーザーがログインした後のAPI要求に対してのみ相互認証を適用していました。この変更は、SOAP API ログインアクションと OAuth 2.0 ユーザー名パスワードフローの両方に適用されます。セキュリティを高めるためには、OAuthユーザー名パスワードフローを使用しないことをお勧めします。

MFA の自動有効化の続行: お客様の組織に適用されるタイミングと方法の確認 (リリース更新)

Salesforceでは、2022年2月1日より、Salesforce製品にアクセスするすべてのお客様に多要素認証(MFA)の使用を義務付けています。お客様がこの要件を満たすことができるよう、MFAの自動有効化リリース更新で複数のフェーズに分けて本番組織のMFAを自動的に有効にしていきます。Winter '24で、MFAが組織の第3フェーズで自動的に有効になります。Spring '24の最終フェーズには、まだ自動有効化されていない組織がすべて含まれます。

対象: この変更は、すべてのエディションのLightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのSalesforceモバイルアプリケーションに適用されます。

時期: 本番組織がMFAの自動有効化リリース更新の影響を受ける時期を知るには、[設定]の[リリースの更新]ノードを監視します。

- フェーズ3:** このフェーズのリリース更新は、Summer '23で使用可能になりましたが、Winter '24で適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス]タブをクリックします。MFAリリース更新は通常、組織がWinter '24に更新されると適用されます。場合によっては、ユーザーに対してMFAが自動有効化されるまでに数時間から数日の遅延が発生する可能性があります。
- 最終フェーズ:** Winter '24のロールアウトが完了後にリリースの更新が表示されている場合、Spring '24で自動的に有効になる予定です。まれに、Winter '24のロールアウト完了後に更新が表示されるまで数週間かかることがあります。

方法: このリリース更新により、[Salesforce組織へのすべての直接UIログインに多要素認証(MFA)が必要]設定が自動的に有効になります。MFAはこのフェーズでは適用されないため、ユーザーの準備がまだできていない場

合はこの設定を無効にできます。この設定を有効にしたときに、[ユーザーインターフェースログインの多要素認証] ユーザー権限を持つユーザーは、変更の影響を受けません。

組織で MFA が有効になっている場合、UI にログインするプロセスが変更されます。ユーザーはユーザー名とパスワードを入力した後で Authenticator アプリケーション、セキュリティキー、組み込み Authenticator などの MFA 検証方法を使用して ID を検証する必要があります。ユーザーがまだ検証方法の登録を完了していない場合、このリリース更新が有効になった後で次回ログインするときに検証方法を登録するよう促されます。

この更新に備えて、次の手順を実行することをお勧めします。

- MFA の自動有効化前に手動で MFA から除外する必要がある除外ユーザー種別が組織にあるかどうかを確認します。Salesforce ヘルプの [「MFA からの除外ユーザーの除外」](#) (リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります) を参照してください。
- MFA 検証方法の取得や登録方法、MFA 検証方法を使用したログイン方法についてユーザーをトレーニングします。ガイダンスとカスタマイズ可能なテンプレートについては、[「MFA ロールアウトに成功するための変更管理」](#) を参照してください。

Salesforce が自動有効化するときにユーザーが MFA の使用を開始する準備が整っていない場合、次の 2 つのオプションがあります。

- ユーザーは、MFA 登録を 30 日間スキップして通常どおりログインすることができます。この猶予期間は、組織で自動有効化される日を開始し、同じ 30 日の猶予期間が組織のすべてのユーザーに適用されます。たとえば、組織で自動有効化が行われてから 5 日後にユーザーがログインした場合、25 日後までに MFA への登録を行う必要があります。
- ごくまれにユーザーが MFA の問題に直面した場合は、一時的に無効にしてください。ただし、その後、組織が MFA 適用マイルストーンに到達した場合、Salesforce は MFA を再有効化し、MFA を無効にするオプションは削除されます。

MFA を無効にするには、[設定] の [ID 検証] ページで [Salesforce 組織へのすべての直接 UI ログインに多要素認証 (MFA) が必要] を選択解除します。

関連トピック:

[MFA の自動有効化の続行と Summer '24 で開始される MFA の適用](#)

[ナレッジ記事: MFA の自動有効化および適用について知っておくべきすべての情報 \(Salesforce Platform 上に構築された製品\)](#)

[ナレッジ記事: Salesforce 多要素認証に関する FAQ](#)

WebAuthn 認証をサポートするための U2F セキュリティキーの更新

Salesforce を操作するには、WebAuthn 認証を使用するように U2F セキュリティキーを更新する必要があります。更新プロセスは、バックグラウンドでシームレスに機能します。新しいセキュリティキーの場合、ユーザーが Salesforce アカウントに登録すると、自動的に更新が行われます。Summer '22 より前に登録された U2F セキュリティキーの場合、ユーザーは Winter '24 より前に各自のキーを使用してログインするだけで済みます。そうすることで、自動的にキーが更新されます。ユーザーがこの期間を逃しても、Winter '24 の後で Salesforce アカウントに再登録すればキーを更新できます。

方法: いずれかのユーザーが Winter '24 の前の U2F キーの更新期間を逃した場合、次のアクセス復旧のヒントを使用してください。どちらの場合でも、U2F キーの再登録プロセスで WebAuthn の更新が完了します。

- [高度なユーザーの詳細] ページからキーを切断して再登録するようにユーザーに指示します。ユーザーがログインに使用できる追加の検証方法を登録していない場合、アカウントにアクセスするための仮の確認コードを提供します。
- または、ユーザーのアカウントからセキュリティキーを削除します。これにより、ユーザーはログインしてキーを再登録できます。ユーザーに別の検証方法がない場合、ログインが完了する前に Salesforce によって自動的に検証方法を追加するように求められます。別の検証方法または仮の確認コードを使用してログインすると、[高度なユーザーの詳細] ページからキーを再登録できます。

無料 Salesforce 組織での SMS による ID 検証が使用不可に

国際レバニューシェア詐欺などのテキストメッセージ(SMS)機能の悪用を防止するため、SMS 経由で送信されるワンタイムパスコードは、無料 Salesforce 組織では本人確認方法として利用できなくなりました。SMS ワンタイムパスコードの受信を始める前にユーザーが行う携帯番号の登録の手順も、無料組織では無効になります。その他の ID 検証方法である、Salesforce Authenticator、セキュリティキー、組み込み Authenticator などは引き続き使用できます。Sandbox 組織で SMS による本人確認を有効にする必要がある場合は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

対象: この変更は、トライアル、デモ、Sandbox、Developer Edition 組織の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。この変更は、ID 検証クレジットアドオンライセンスを持つ組織など、正式契約の Salesforce 組織には適用されません。

Salesforce からメールを送信するためのメールアドレスの検証

Salesforce では、ユーザーが取引先責任者やリードへの送信など、Salesforce からのメール送信を続けるには検証済みのメールアドレスが必要です。ほとんどのユーザーはサインアッププロセスの一環としてメールアドレスを検証します。ただし、一部のユーザーは現在の検証プロセスが確立される前に Salesforce に追加したメールアドレスを使い続けています。ユーザーが未検証のメールアドレスからメールを送信すると、Salesforce によってこのメールメッセージが却下され、送信が完了されません。未検証のメールアドレスは、ユーザーがメールアドレスを検証するか、パスワードをリセットするまで使用できません。

対象ユーザー: 現在のところ、この要件はシングルサインオン(SSO)ユーザーが含まれない本番組織のみに影響します。メールによる組織全体のメールアドレスの検証はすでに必須であり、これからも引き続き必須となります。サービスメールなど、組織全体のメールアドレス機能を使用する機能はこのカテゴリに含まれ、すでにメール認証要件を満たしています。Spring '24 では、この要件は SSO ユーザーが含まれる本番組織にも影響するようになります。この要件はユーザーごとではなく組織全体で適用されます。たとえば、一部のユーザーが SSO を使用してログインしている場合、組織のすべてのユーザーが Spring '24 まで免除されます。

方法: Salesforce システム管理者は、[設定] でユーザーの詳細を参照することで、ユーザーのメール検証状況を確認できます。[ユーザー] 設定ページで、ユーザーを選択して [メール] 項目を確認します。ユーザーが検証を完了すると、[検証] リンクが [検証済み] に変更されます。ユーザーが [高度なユーザーの詳細] ページから自分のメール検証状況を確認することもできます。

ユーザーのメール検証を開始する方法はいくつかあります。いずれの場合でも、ユーザーは未検証のメールアドレス宛に検証リンクを受信します。検証リンクは 72 時間後に期限切れになります。ユーザーが期間内にリンクをクリックしなかった場合、新しいリンクを送信できます。



メモ: 組織で DKIM (DomainKeys Identified Mail) によって検証されたドメインに属するメールアドレスは、検証済みとみなされます。ユーザーが未検証のメールアドレスからメールを送信すると、そのメールアドレ

スが DKIM で検証済みのドメインに属しているかどうかが確認されます。ドメインが認証されている場合は、ユーザーのメールアドレスも認証済みであるとみなされます。

- 1人のユーザーの検証を開始するには、[ユーザー]設定ページでユーザーを選択します。ユーザーのメールアドレスの横で、[検証]をクリックします。
- 複数のユーザーの検証を同時に開始するには、[非同期メール API メソッド](#)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)を使用します。
- ユーザーはメールアドレスの横にある[検証]をクリックすることで、[高度なユーザーの詳細]ページから自分で検証を開始できます。

または、ユーザーがパスワードをリセットすると、そのプロセス中にメールアドレスが自動的に検証されます。ユーザーはメールで送信されたパスワードリセットリンクをクリックすることで、メールアドレスの所有権を確認します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Customize Support Settings \(カスタマーサポート設定\)](#)

外部クライアントアプリケーションの作成と配信

外部クライアントアプリケーションを開発してパッケージ化し、サードパーティアプリケーションを統合できます。外部クライアントアプリケーションは、次世代の接続アプリケーションです。外部クライアントアプリケーション機能は第2世代(2GP)の管理パッケージング用に設計されているため、配信については気にする必要がありません。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、外部クライアントアプリケーションが有効になっている組織で、「メタデータの外部クライアントアプリケーションのコンシューマーの秘密を表示」権限を持つ開発者が使用できます。

理由:他の組織のユーザー向けに外部クライアントアプリケーションを配信し、OAuth機能のサブセットを使用して外部クライアントアプリケーションのセキュリティを維持します。これらの配信された外部クライアントアプリケーションでは、更新を受信するために外部クライアントアプリケーションとの関連付けを維持でき、さらにカスタマイズするために独自の OAuth コンシューマーの秘密を生成できます。

方法:[設定]で[外部クライアントアプリケーションへのオプトイン]を有効にして外部クライアントアプリケーションを有効にします。

外部クライアントアプリケーションの OAuth プラグインを有効にするには、OAuth コンシューマー情報へのアクセスを許可する必要があります。この情報は重要な機密です。OAuth コンシューマーデータをソース制御に確定しないでください。「メタデータの外部クライアントアプリケーションのコンシューマーの秘密を表示」ユーザー権限を権限セットに割り当てます。

この権限を割り当てた後で、Salesforce DX プロジェクトを設定して外部クライアントアプリケーションを開発します。パッケージ化可能な外部クライアントアプリケーションを作成する予定の場合は、開発者ハブ組織ですべての開発を行う必要があります。

Identity Connect 3.0.1.2 セキュリティパッチの削除

Identity Connect 3.0.1.2 はサポートされていないため、Winter '24 以降、Identity Connect 3.0.1.2 セキュリティパッチは使用できなくなります。Identity Connect バージョン 3.0.1.2 および 2.1.0 の実装ガイドも同時に削除されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用され、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料で使用できます。Developer Edition には 10 個の Identity Connect 権限セットライセンスが含まれます。

時期: この変更は、Winter '24 で有効になります。

ヘッドレスアプリケーションのログイン環境の合理化

ヘッドレスパスワードレスログインフローを使用して、顧客やパートナーがプラットフォーム以外のアプリケーションにより簡単にログインできるようにします。ユーザーは、メールアドレスまたは電話番号を入力すると受信するワンタイムパスワード (OTP) を使用してログインします。他のヘッドレス ID 機能と同様、このフローにより、アプリケーションでのユーザー エクスペリエンスを十分に制御しながら、ユーザーの認証を行うことができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする LWR サイト、Aura サイト、Visualforce サイトに適用されます。ヘッドレス ID API は Experience Cloud によって公開されるため、ユーザーがサイトを直接操作しない場合であっても、Experience Cloud サイトを使用して実装の作成と管理を行います。

方法: このフローは、認証コードとログイン情報フローのバリエーションの 1 つです。フロー中に、アプリケーションで要求識別子を取得するためにヘッドレスパスワードレスログイン API がコールされます。続いて、認証コードの要求 ID とユーザーの OTP を交換するために認証エンドポイントがコールされます。トークンエンドポイントへの最後のコールで、アプリケーションによってアクセストークンのコードが交換されます。フローが終了した時点で、ユーザーはログイン済みになり、Salesforce データにアクセスできます。

この機能の一環として、このフローの設定を行う Experience Cloud の [ログイン & 登録] ページのエラーメッセージも更新されました。以前のエラーメッセージでは、ヘッドレス登録フローとヘッドレスのパスワードを忘れた場合フローに認証または reCAPTCHA が必要と記述されていました。今回、すべてのヘッドレス ID 設定にこれらのセキュリティ対策が必要という、より一般的な記述になりました。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 顧客とパートナー向けのヘッドレス ID API \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 公開クライアントのヘッドレスパスワードレスログインフロー \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 非公開クライアントのヘッドレスパスワードレスログインフロー \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ゲストユーザー ID を使用したユーザーの好みの理解

不明な訪問者から完全に登録されたユーザーになるまでのユーザーのジャーニーを追跡し、ユーザーが好む環境に関する貴重なインサイトを収集できます。ゲストユーザーの新しいヘッダレスフローを使用して、不明なユーザーが最初にアプリケーションにアクセスしたときにユニーク訪問者(UVID)を発行するアプリケーションを作成できます。ユーザーがログインまたは登録した場合、UVIDを指定ユーザー認証フローに渡すことができます。UVIDにより、ユーザーが誰であり、アプリケーションをどのように操作したかに関するコンテキストが得られるため、ユーザーのCookie設定などの詳細を記憶するようにアプリケーションを設計できます。また、分析ツールを活用することにより、UVIDを使用してゲストユーザーがサインアップに使用している環境を理解できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする LWR サイト、Aura サイト、Visualforce サイトに適用されます。ヘッダレス ID API は Experience Cloud によって公開されるため、ユーザーがサイトを直接操作しない場合であっても、Experience Cloud サイトを使用して実装の作成と管理を行います。

方法: このフローは、認証コードとログイン情報フローのバリエーションの1つです。ゲストフロー中に、アプリケーションで UVID が生成されて Salesforce に渡され、最終的には UVID が入力された状態でゲストアクセストークンが取得されます。ユーザーがログインまたは登録した場合、UVIDを指定ユーザー認証フローに渡し、ゲストユーザーのコンテキストをログイン状態に変えることができます。

ゲストユーザー フローにより、JSON Web トークン (JWT) ベースのアクセストークンが発行されます。UVID を指定ユーザー フローに公開するには、指定ユーザー フローで JWT ベースのアクセストークンを発行する必要があります。UVID は次の指定ユーザー 認証フローに渡すことができます。

- ハイブリッド Web サーバーフローとハイブリッド アプリケーション更新トークンフローを含む OAuth 2.0 Web サーバーフローのすべてのバリエーション
- ヘッダレス 登録フローとヘッダレス パスワードレス ログインフローを含む認証コードとログイン情報フローのすべてのバリエーション

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 公開クライアントのヘッダレスゲストフロー \(リリース プレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 非公開クライアントのヘッダレスゲストフロー \(リリース プレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 指名ユーザー フローへのゲストユーザー フローの拡張 \(リリース プレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ヘッダレス登録ハンドラーテンプレートを使用した設定の簡素化

ヘッダレス登録設定プロセスを容易にするために、Experience Cloud の [ログイン & 登録] ページから登録ハンドラー Apex クラスを自動生成できます。準備ができたら、会社のニーズに合わせてデフォルトのコンテンツをカスタマイズします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする LWR サイト、Aura サイト、Visualforce サイトに適用されます。ヘッダレス ID API は Experience Cloud

によって公開されるため、ユーザーがサイトを直接操作しない場合であっても、Experience Cloud サイトを使用して実装の作成と管理を行います。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ヘッドラス登録での Experience Cloud 設定の定義\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

reCAPTCHA Enterprise を使用したヘッドラス ID 実装の保護

Google reCAPTCHA を必須にするためにヘッドラス ID フローを設定するときに、reCAPTCHA Enterprise を使用できるようになりました。これまで、Salesforce でヘッドラス ID にサポートされていたのは reCAPTCHA v2 と v3 のみでした。この新しいオプションを反映して、Experience Cloud の [ログイン & 登録] ページの reCAPTCHA 設定のテキストも更新されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする LWR サイト、Aura サイト、Visualforce サイトに適用されます。ヘッドラス ID API は Experience Cloud によって公開されるため、ユーザーがサイトを直接操作しない場合であっても、Experience Cloud サイトを使用して実装の作成と管理を行います。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 顧客とパートナー向けのヘッドラス ID API\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ヘッドラス登録用のメールテンプレートのカスタマイズ

ヘッドラス登録中にユーザーに送信されるワンタイムパスワードメールを管理できます。新しいメールテンプレートと差し込み項目を使用して、プラットフォーム以外のアプリケーションでのブランド設定に合わせてメールをすばやくカスタマイズできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする LWR サイト、Aura サイト、Visualforce サイトに適用されます。ヘッドラス ID API は Experience Cloud によって公開されるため、ユーザーがサイトを直接操作しない場合であっても、Experience Cloud サイトを使用して実装の作成と管理を行います。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ヘッドラス登録メールテンプレートのカスタマイズ\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: ヘッドラス登録での Experience Cloud 設定の定義\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

JSON Web トークン (JWT) ベースのアクセストークンの正式リリース

外部システムとの互換性を高めるために、不透明トークンの代わりに、JSON Web トークン (JWT) ベースのアクセストークンを接続アプリケーションで発行できるようにします。JWT ベースのアクセストークンが Salesforce REST APIへのアクセスでサポートされるようになりました。不透明アクセストークンとは異なり、JWT ベースのアクセストークンはアプリケーションが理解できる形式になっています。透過的な形式により、Salesforce エンドポイントをコールするのではなく、アプリケーションでトークンを解析して検証できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 接続アプリケーション開発者であれば、接続アプリケーションの OAuth 設定で JWT ベースのアクセストークンを有効にします。その後、接続アプリケーションポリシーでこの機能を有効にする必要があります。オプトインするには両方の設定が必要です。管理パッケージの一部として接続アプリケーションをインストールした場合は、接続アプリケーションの開発者が有効にした場合のみこの機能を使用できます。その場合、サービス中断を回避するには接続アプリケーションポリシーから明示的にオプトインする必要があります。

不透明トークンと比較すると、JWT ベースのアクセストークンは機能や制限が異なります。JWT ベースのアクセストークンを実装する前に、これらの違いを理解しておいてください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: JWT ベースのアクセストークン \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: アクセストークン \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

コード交換の証明鍵 (PKCE) 拡張による認証セキュリティの向上

OAuth 2.0 PKCE 拡張を ID の実装に組み込むことで、組織、Experience Cloud サイト、およびプラットフォーム外アプリのセキュリティを強化できます。組織全体レベルまたは接続アプリケーションで PKCE を要求して、PKCE 拡張を含まないすべての認証コードフローのバリエーションが失敗するようになります。また、認証プロバイダーを設定する際には、ワンクリックで自動的に PKCE 拡張を有効にします。PKCE を実装すると、自分と Salesforce のみがアクセスできるパラメーターでアプリケーションを保護することにより、盗まれた認証コードによる攻撃を防ぐことができます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 実装への PKCE の組み込み \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ヘッドレス ID と OAuth 設定の改善されたガイダンス

ヘッドレス ID と OAuth 設定の設定環境の使いやすさを向上するために、いくつかの表示ラベルが追加されています。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

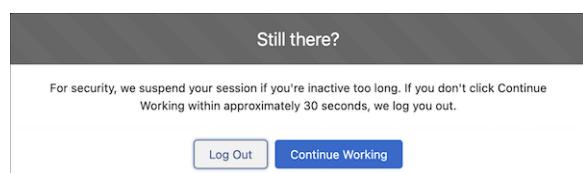
理由: 次の場所に表示ラベルが追加されています。

- Experience Cloud の [ログイン & 登録] ページで、ヘッドレス登録とヘッドレスのパスワードを忘れた場合についてのホバー・テキストが追加されました。新しいテキストは、[この APIへのアクセスに認証を要求] 設定と、[この APIへのアクセスに reCAPTCHA を要求] 設定を使用する方法とタイミングについて説明しています。
- [設定] の [OAuth および OpenID Connect 設定] ページで、ユーザー名パスワードフロー、ユーザー・エージェントフロー、認証コードとログイン情報フローを許可する設定についての説明が追加されました。

セッションタイムアウトのポップアップの更新

セッションタイムアウトのわずかなばらつきを考慮して、ユーザーのセッションが終了しそうなときに表示するポップアップを更新しました。以前は、30秒以内に [続けて使用する] をクリックしないと、ユーザーがログアウトされることを伝えるポップアップが表示されていました。Salesforce は、この 30 秒がおよそその時間であることを明確にするためにメッセージの文章を変更しました。実際の時間は、ページやユーザーの活動によって変わることがあるため、常に 30 秒ぴったりというわけではありません。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。



クライアントログイン情報フローの更新されたフロート表示テキスト表示ラベルが日本語で使用可能に

Summer '23 で、[接続アプリケーションを管理する] ページのクライアントログイン情報フロー実行ユーザー向けのフロート表示テキストで不正確な文が削除されました。不正確なテキストでは、実行ユーザーは「API 限定ユーザー」権限を持っている必要があると記述されていました。日本語では大規模なスタイル変更が予定されているため、日本語の翻訳は遅っていましたが、今回の変更はサポートされるすべての言語で使用できるようになりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サーバー間インテグレーション用の OAuth 2.0 クライアントログイン情報フロー \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

API ログイン要求に対する相互認証の適用

「SSL/TLS 相互認証の適用」ユーザー権限を持つユーザーの場合は、新しいユーザー・セッションを開始する API ログイン要求にも相互認証が適用されるようになりました。これまででは、ユーザーがログインした後の API 要求に対してのみ相互認証を適用していました。この変更は、SOAP API ログインアクションと OAuth 2.0 ユーザー名パスワードフローの両方に適用されます。セキュリティを高めるためには、OAuth ユーザー名パスワードフローを使用しないことをお勧めします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Personal Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 相互認証を使用するための API クライアントの設定](#)

既知の問題: Mutual authentication (2-way SSL) is not enforced when doing a SOAP Partner API Login (SOAP パートナー API ログイン時に相互認証(双方向 SSL)が適用されない)

[Salesforce ヘルプ: 特別なシナリオの OAuth 2.0 ユーザー名パスワードフロー](#)

指定ログイン情報

OAuth 2.0 クライアントログイン情報または JWT 認証プロトコルを使用してサーバー間インテグレーションの外部ログイン情報を設定できます。ユーザーが指定ログイン情報や外部ログイン情報を変更できるように、新しい「Manage Named Credentials(指定ログイン情報を管理)」権限を割り当てることができます。ゲストユーザーが指定ログイン情報を使用してコールアウトを実行する方法を制御します。ユーザーは認証なしに、指定ログイン情報でコールアウトを実行できるようになります。

このセクションの内容:

[クライアントログイン情報フローによる指定ログイン情報コールアウトの認証](#)

サーバー間インテグレーション用に OAuth 2.0 クライアントログイン情報フローを使用するために、指定ログイン情報を設定することが可能になりました。2つのアプリケーション間で直接情報を共有し、ユーザーの実際の操作を排除する必要がある場合は、OAuth 2.0 クライアントログイン情報フローを使用します。このフローでは、クライアントアプリケーションによって、クライアントの秘密または JWT アサーションで定義されたクライアントログイン情報が交換されます。

[指定ログイン情報に JWT 認証プロトコルを使用](#)

サーバー間の統合に JWT 認証プロトコルを使用するように外部ログイン情報を設定します。JWTは、幅広いインテグレーションの使用事例に対して認証をサポートしており、ネットワークの移動回数を抑制することでコストを削減します。JWT 署名アルゴリズムは、RS256 と RS512 から選択できます。さらに、カスタムクレームを定義し、JWT ベースのアクセストークンの有効期限を指定できます。

[指定ログイン情報と外部ログイン情報を管理するためのアクセス権の付与](#)

ユーザーが指定ログイン情報および外部ログイン情報を作成、編集、または削除できるように、新しいシステム管理者権限「指定ログイン情報を管理」を割り当てます。以前は、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を割り当てていました。

[指定ログイン情報を使用したコールアウト実行のためのゲストユーザーアクセス権の付与](#)

認証されていないゲストユーザーに与えるアクセス権の設定方法をより適切に制御できるようになりました。ゲストユーザーは指定ログイン情報を使用してコールアウトを実行できるようになります。ゲストユーザープロファイルに外部ログイン情報プリンシパルへのアクセス権を付与することで、このユーザーに認証済みコールアウトを実行する権限を与えます。

認証プロトコルを使用しない公開情報へのアクセス

指定ログイン情報を使用することで、認証設定なしに、エンドポイントに対してコールアウトを実行できるようになりました。Salesforce UI から外部ログイン情報を作成する場合は、認証プロトコルに [認証なし] を選択して、認証が不要なエンドポイントにアクセスします。

クライアントログイン情報フローによる指定ログイン情報コールアウトの認証

サーバー間インテグレーション用に OAuth 2.0 クライアントログイン情報フローを使用するために、指定ログイン情報を設定することが可能になりました。2つのアプリケーション間で直接情報を共有し、ユーザーの実際の操作を排除する必要がある場合は、OAuth 2.0 クライアントログイン情報フローを使用します。このフローでは、クライアントアプリケーションによって、クライアントの秘密またはJWTアサーションで定義されたクライアントログイン情報が交換されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce UI から外部ログイン情報を作成する場合は、認証プロトコルとして [OAuth 2.0] を選択して、[クライアントの秘密によるクライアントログイン情報フロー] または [JWT アサーションによるクライアントログイン情報フロー] を選択します。メタデータ API、Tooling API、Apex ConnectApi API を使用して外部ログイン情報を作成および編集することもできます。

指定ログイン情報に JWT 認証プロトコルを使用

サーバー間の統合に JWT 認証プロトコルを使用するように外部ログイン情報を設定します。JWT は、幅広いインテグレーションの使用事例に対して認証をサポートしており、ネットワークの移動回数を抑制することでコストを削減します。JWT 署名アルゴリズムは、RS256 と RS512 から選択できます。さらに、カスタムクレームを定義し、JWT ベースのアクセストークンの有効期限を指定できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce UI から外部ログイン情報を作成する場合は、認証プロトコルとして [JWT] を選択し、次に JWT 署名証明書と署名アルゴリズムを指定します。メタデータ API、Tooling API、Apex ConnectApi API を使用して外部ログイン情報を作成および編集することもできます。

指定ログイン情報と外部ログイン情報を管理するためのアクセス権の付与

ユーザーが指定ログイン情報および外部ログイン情報を作成、編集、または削除できるように、新しいシステム管理者権限「指定ログイン情報を管理」を割り当てます。以前は、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を割り当てていました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 「指定ログイン情報を管理」システム管理者権限は、ユーザープロファイルまたは権限セットを使用して割り当てることができます。[設定] の [クイック検索] ボックスに「プロファイル」と入力し、[プロファイル] を選択します。権限を割り当てるプロファイルを選択し、[システム管理者権限] までスクロールして、[指定ログイン情報と外部ログイン情報の変更をユーザーに許可します] を選択します。

指定ログイン情報を使用したコールアウト実行のためのゲストユーザーアクセス権の付与

認証されていないゲストユーザーに与えるアクセス権の設定方法をより適切に制御できるようになりました。ゲストユーザーは指定ログイン情報を使用してコールアウトを実行できるようになります。ゲストユーザーープロファイルに外部ログイン情報プリンシパルへのアクセス権を付与することで、このユーザーに認証済みコールアウトを実行する権限を与えます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「プロファイル」と入力し、[プロファイル] を選択します。ユーザーの外部ログイン情報を有効にするゲストユーザーープロファイルを選択し、[ユーザーの外部ログイン情報] 権限までスクロールします。ユーザーの外部ログイン情報に参照および作成アクセス権を付与できるのは、ゲストユーザーに対してのみです。

認証プロトコルを使用しない公開情報へのアクセス

指定ログイン情報を使用することで、認証設定なしに、エンドポイントに対してコールアウトを実行できるようになりました。Salesforce UI から外部ログイン情報を作成する場合は、認証プロトコルに [認証なし] を選択して、認証が不要なエンドポイントにアクセスします。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

状態チェック

ゲストユーザーープロファイルが「参照」および「編集」アクセスを持つオブジェクト数を参照することで、Experience Cloud サイトのセキュリティを評価できます。

このセクションの内容:

[Experience Cloud サイトのセキュリティの評価](#)

新しい [状態チェック] 設定を使用して、ゲストユーザーープロファイルが「参照」および「編集」アクセスを持つオブジェクト数を参照できます。

Experience Cloud サイトのセキュリティの評価

新しい [状態チェック] 設定を使用して、ゲストユーザーープロファイルが「参照」および「編集」アクセスを持つオブジェクト数を参照できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「健全性チェック」と入力し、[情報のセキュリティ設定] までスクロールします。続いて、ゲストユーザープロファイルに [参照アクセス権] 設定があるオブジェクト数とゲストユーザープロファイルに [編集アクセス権] 設定があるオブジェクト数を参照します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: \[状態チェック\] のスコアの計算方法\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: セキュリティ状態チェック\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

プライバシーセンター

管理パッケージから離れて、新しいプライバシーセンターアプリケーションについて説明します。アプリケーションのホームページを使用して、受信要求やポリシー実行ログなど、プライバシーセンターのすべての機能に1か所から移動できます。新しく改善されたデータ管理ポリシーと忘れられる権利ポリシーを使用して顧客の要求に対応します。プライバシー保持を使用して削除せずにレコードを保持することもできます。

このセクションの内容:

コアでのプライバシーセンターポリシーの作成

データ管理ポリシーと忘れられる権利ポリシーを新しいプライバシーセンターアプリケーションから直接作成します。管理パッケージ(従来のプライバシーセンター)のポリシーは改善され、Salesforce の新しいホームで提供されるようになりました。

アプリケーションのホームページからのプライバシーセンター機能へのアクセス

新しいアプリケーションの新しいランディングページを使用して、アプリケーションのホームページからプライバシーセンターの設定のすべての機能を表示できます。このページを使用して、プライバシーポリシー、データ主体アクセス要求、プリファレンスマネージャーなどに移動します。

プライバシー保持を使用してレコードを処理せずに保存

法律上または業務上の目的で、プライバシーセンターのデータ管理ポリシーによるマスクまたは削除を行わずに保存するレコードを指定します。

同意書からの機密データの暗号化

顧客の同意とプライバシー設定を尊重しながら、個人を特定できる情報のセキュリティを強化します。認証フォームオブジェクトの名前項目を Shield Platform Encryption によって暗号化できるようになりました。

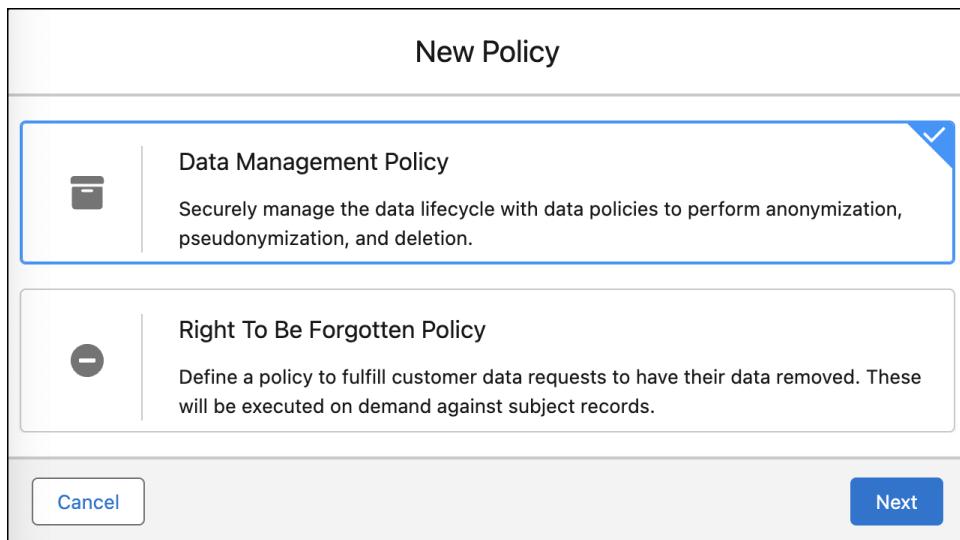
コアでのプライバシーセンターポリシーの作成

データ管理ポリシーと忘れられる権利ポリシーを新しいプライバシーセンターアプリケーションから直接作成します。管理パッケージ(従来のプライバシーセンター)のポリシーは改善され、Salesforce の新しいホームで提供されるようになりました。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、プライバシーセンターアドオンサブスクリプションを持つユーザーが使用できます。保持ストレージが不要な場合、またはHerokuを使用しない場合は、プライバシーセンターアプリケーションを使用します。それ以外の場合は、すでに使用している従来のプライバシーセンター管理パッケージを使用します。

方法: アプリケーションランチャーで、「プライバシーポリシー」を検索して[プライバシーポリシー]を選択します。[プライバシーポリシー]ページで、[新規]をクリックします。作成するポリシーの種別を選択し、プロンプトに従ってデータ管理ポリシーまたは忘れられる権利ポリシーを作成します。データ管理ポリシーの機能強化には、クロスオブジェクトクエリ、マスクと削除機能、ファイルや添付ファイルの処理が含まれます。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ:忘れられる権利ポリシーによるデータの削除\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

アプリケーションのホームページからのプライバシーセンター機能へのアクセス

新しいアプリケーションの新しいランディングページを使用して、アプリケーションのホームページからプライバシーセンターの設定のすべての機能を表示できます。このページを使用して、プライバシーポリシー、データ主体アクセス要求、プリファレンスマネージャーなどに移動します。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited Edition のLightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、プライバシーセンターアドオンサブスクリプションを持つユーザーが使用できます。保持ストレージが不要な場合、またはHerokuを使用しない場合は、プライバシーセンターアプリケーションを使用します。それ以外の場合は、すでに使用している従来のプライバシーセンター管理パッケージを使用します。

方法: アプリケーションランチャーから、[プライバシーセンター]を見つけて選択します。アプリケーションのホームページが表示され、そこからプライバシーセンターのすべての機能に移動できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: プライバシーセンター: 顧客の要求とデータプライバシー保護法への対応\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

プライバシー保持を使用してレコードを処理せずに保存

法律上または業務上の目的で、プライバシーセンターのデータ管理ポリシーによるマスクまたは削除を行わずに保存するレコードを指定します。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、プライバシーセンターアドオンサブスクリプションを持つユーザーが使用できます。

方法: アプリケーションランチャーから、[プライバシー保持の理由]を見つけて選択します。[新規]をクリックして、任意のプライバシー保持の理由を作成します。関連するプライバシー保持レコードを追加するには、[関連] タブを選択します。[プライバシー保持] の下で、[新規] をクリックします。保持に関する情報(名前、終了日、オブジェクトレコードなど)を入力します。[有効] の下のボックスをチェックし、作業を保存します。

有効なプライバシー保持が設定されているレコードが削除またはマスクされない条件を、データ管理ポリシーに含めます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: プライバシー保持を使用したレコードの処理からの保護\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

同意書からの機密データの暗号化

顧客の同意とプライバシー設定を尊重しながら、個人を特定できる情報のセキュリティを強化します。認証フォームオブジェクトの名前項目を Shield Platform Encryption によって暗号化できるようになりました。

関連トピック:

[同意データの暗号化](#)

Salesforce Shield

新しい[グループメンバーシップ]イベント種別と[アクセス権がありません]イベント種別により、グループメンバーシップの変更と不十分な権限のアクセス試行を管理できます。データセットに新しい差分データを追加する Event Monitoring Analytics アプリケーションの設定は、標準で利用できます。新しい外部鍵管理機能により、Salesforce の外部に保存された鍵でデータを暗号化でき、鍵の管理をより直接的に制御できます。

このセクションの内容:

[イベントモニタリング](#)

グループメンバーシップイベント種別を使用して、グループメンバーシップの変更を監査できます。新しい「アクセス権がありません」イベントを使用して、最小権限の原則を適用し、不十分なアクセス権の試行を追跡できます。Event Monitoring Analytics アプリケーションで「ナレッジ記事ビュー」イベントデータを視覚化できます。また、Event Monitoring Analytics アプリケーションデータセットに新しいデータのみを追加する設定が正式リリースされました。

[Shield Platform Encryption](#)

同意設定フォーム、Health Cloud、フローオーケストレーションデータの名前項目を暗号化します。[鍵の管理]ページのデザインの改良により、鍵素材の表示と管理が簡単になりました。また、新しい外部鍵管理により、AWS に保存されている鍵を使用してデータを暗号化できます。洗練された UI で、AWS への安全な接続を作成し、鍵をより詳細に制御できます。

イベントモニタリング

グループメンバーシップイベント種別を使用して、グループメンバーシップの変更を監査できます。新しい「アクセス権がありません」イベントを使用して、最小権限の原則を適用し、不十分なアクセス権の試行を追跡できます。Event Monitoring Analytics アプリケーションで「ナレッジ記事ビュー」イベントデータを視覚化できます。また、Event Monitoring Analytics アプリケーションデータセットに新しいデータのみを追加する設定が正式リリースされました。

このセクションの内容:

[公開グループおよびキューメンバーシップの変更に関する情報の取得](#)

EventLogFile オブジェクトの新しい「グループメンバーシップ」イベント種別を使用して、メンバーが公開グループまたはキューで追加または削除されるタイミングを監視できます。

[実現した IdeaExchange: 「アクセス権がありません」エラーに関する情報の取得](#)

EventLogFile オブジェクトの新しい「アクセス権がありません」イベント種別を使用して、ユーザーの取引先、ケース、取引先責任者、商談レコードのアクセスエラーを分析してトラブルシューティングできます。これらのイベントには、ユーザーがアクセスまたは転送しようとしたレコードに関する情報、このアクションに必要なアクセスレベル、関連するエラーメッセージが含まれます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

[より具体的な列ヘッダログデータの確認](#)

ReportEvent および ReportEventStream リアルタイムオブジェクトの ColumnHeader 項目に、プリセットされた別名ではなく、API オブジェクト名、項目名、値が含まれるようになりました。また、標準レポート用に列ヘッダー情報も取得されます。これまで、この項目にはカスタムレポートの列ヘッダーのプリセットされた別名のみがリストされていました。AGE などの派生した値など、一部の値では引き続き別名が使用される場合もあります。これらの API 参照名を使用すれば、ユーザーがレポートで参照する特定の値を見つけやすくなります。

ユーザー ID を使用した Event Monitoring Analytics アプリケーションデータセットの発見

ユーザー ID が含まれるデータセットで、データセット名の末尾にサフィックス WithUsers が追加されるようになりました。イベントを特定のユーザーに関連付けることで、ユーザーパターンを理解して調査を支援しやすくなります。この変更は、Console、ConcurrentLongRunningApex、Search、SearchClick の各データセットに適用されます。

Event Monitoring Analytics アプリケーションでの効率的なデータセットの更新(正式リリース)

Event Monitoring Analytics アプリケーションの増分データセット更新では、新しいデータのみがデータセットに追加されます。この設定が正式リリースされ、大量のデータセットを使用するアプリケーションでデータの上限に達するのを防止しやすくなりました。複数のアプリケーションを使用している場合は、この設定をすべてのアプリケーションに適用することで、上限に達する可能性を低減できます。

Event Monitoring Analytics アプリケーションでのナレッジ記事イベントデータの表示

Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用してナレッジ記事の利用状況に関するイベントデータを視覚化できるようになりました。誰がナレッジ記事を表示しているか、どの記事バージョンを開いているか、いつ表示しているかなどの主要な情報が表示されるダッシュボードを作成または拡張できます。「ナレッジ記事ビュー」イベント種別の新しい USER_ID_DERIVED 項目を使用して、特定のユーザーによるナレッジコンテンツの利用をより深く理解できます。

カスタム Lightning コンポーネントのイベントの監視

EventLogFile オブジェクトの新しい Lightning ロガーイベント種別を使用して、カスタム Lightning コンポーネントのユーザーイベントを監視します。このイベント種別には、ユーザーが操作しているレコードに関する情報やカスタムメッセージなど、カスタム Lightning コンポーネントでのユーザー操作に関する情報が含まれます。

公開グループおよびキューのメンバーシップの変更に関する情報の取得

EventLogFile オブジェクトの新しい「グループメンバーシップ」イベント種別を使用して、メンバーが公開グループまたはキューで追加または削除されるタイミングを監視できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入したユーザーが使用できます。

関連トピック:

[Salesforce Platform のオブジェクトリファレンス: Group Membership Event Type \(「グループメンバーシップ」イベント種別\)](#) (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

[Salesforce ヘルプ: グループとは?](#) (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

[Salesforce ヘルプ: キューの作成](#) (リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)



「アクセス権がありません」エラーに関する情報の取得

EventLogFile オブジェクトの新しい「アクセス権がありません」イベント種別を使用して、ユーザーの取引先、ケース、取引先責任者、商談レコードのアクセスエラーを分析してトラブルシューティングできます。これらのイベントには、ユーザーがアクセスまたは転送しようとしたレコードに関する情報、このアクションに必要なアクセスレベル、関連するエラーメッセージが含まれます。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入したユーザーが使用できます。

関連トピック:

[IdeaExchange: Full Description of "Invalid Cross Reference Id" Error Required \(「Invalid Cross Reference Id \(無効なクロス参照 ID\)」エラーの詳細な説明が必要\)](#)

[Salesforce Platform のオブジェクトリファレンス: Insufficient Access Event Type \(「アクセス権がありません」イベント種別\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[ナレッジ記事: Interpret Insufficient Access Event Logs \(「アクセス権がありません」イベントログ\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 「アクセス権がありません」エラーの解決\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

より具体的な列ヘッダーログデータの確認

ReportEvent および ReportEventStream リアルタイムオブジェクトの ColumnHeader 項目に、プリセットされた別名ではなく、API オブジェクト名、項目名、値が含まれるようになりました。また、標準レポート用に列ヘッダー情報も取得されます。これまで、この項目にはカスタムレポートの列ヘッダーのプリセットされた別名のみがリストされていました。AGE などの派生した値など、一部の値では引き続き別名が使用される場合もあります。これらの API 参照名を使用すれば、ユーザーがレポートで参照する特定の値を見つけやすくなります。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入したユーザーが使用できます。

方法: [次の文字列を含む] 演算子と以前の別名のキーワードを組み合わせて条件ビルダーで ColumnHeaders を使用すると、オブジェクト、項目値の以前の別名と実際の API 参照名を参照できます。ただし、ポリシーに追加

すると API 参照名のみが保存されます。以前の別名を参照する既存のトランザクションセキュリティポリシーは引き継ぎ機能します。代わりに実際の項目名を使用するようにポリシーを更新することをお勧めします。

関連トピック:

[プラットフォームイベント開発者ガイド: ReportEvent \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[プラットフォームイベント開発者ガイド: ReportEventStream \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ユーザー ID を使用した Event Monitoring Analytics アプリケーションデータセットの発見

ユーザー ID が含まれるデータセットで、データセット名の末尾にサフィックス WithUsers が追加されるようになりました。イベントを特定のユーザーに関連付けることで、ユーザーパターンを理解して調査を支援しやすくなります。この変更は、Console、ConcurrentLongRunningApex、Search、SearchClick の各データセットに適用されます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入したユーザーが使用できます。

Event Monitoring Analytics アプリケーションでの効率的なデータセットの更新(正式リリース)

Event Monitoring Analytics アプリケーションの増分データセット更新では、新しいデータのみがデータセットに追加されます。この設定が正式リリースされ、大量のデータセットを使用するアプリケーションでデータの上限に達するのを防止しやすくなりました。複数のアプリケーションを使用している場合は、この設定をすべてのアプリケーションに適用することで、上限に達する可能性を低減できます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入したユーザーが使用できます。

方法: アプリケーションを作成するときに、設定ウィザードで、[Add only new event log file data to existing apps? (新しいイベントログファイルデータのみを既存のアプリケーションに追加しますか?)] を選択します。その後は、アプリケーションでデータセットを更新するたびに新しいデータが増分として追加されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Event Monitoring Analytics アプリケーションの作成と共有 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Event Monitoring Analytics アプリケーションでのナレッジ記事イベントデータの表示

Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用してナレッジ記事の利用状況に関するイベントデータを視覚化できるようになりました。誰がナレッジ記事を表示しているか、どの記事バージョンを開いているか、いつ表示しているかなどの主要な情報が表示されるダッシュボードを作成または拡張できます。「ナレッジ記事ビュー」イベント種別の新しい USER_ID_DERIVED 項目を使用して、特定のユーザーによるナレッジコンテンツの利用をより深く理解できます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入したユーザーが使用できます。

関連トピック:

[Salesforce Platform のオブジェクトリファレンス: 「ナレッジ記事ビュー」イベント種別 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

カスタム Lightning コンポーネントのイベントの監視

EventLogFile オブジェクトの新しい Lightning ロガーイベント種別を使用して、カスタム Lightning コンポーネントのユーザーイベントを監視します。このイベント種別には、ユーザーが操作しているレコードに関する情報やカスタムメッセージなど、カスタム Lightning コンポーネントでのユーザー操作に関する情報が含まれます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入したユーザーが使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: カスタムコンポーネントインストールメンテーション API \(ベータ\) を使用したコンポーネントイベントの監視](#)

Shield Platform Encryption

同意設定フォーム、Health Cloud、フローオーケストレーションデータの名前項目を暗号化します。[鍵の管理] ページのデザインの改良により、鍵素材の表示と管理が簡単になりました。また、新しい外部鍵管理により、AWS に保存されている鍵を使用してデータを暗号化できます。洗練された UI で、AWS への安全な接続を作成し、鍵をより詳細に制御できます。

このセクションの内容:

外部鍵管理によるサードパーティの鍵ストアへの接続

Salesforce の外部に保存された鍵でデータを暗号化でき、さらに鍵をより直接的に制御できます。新しい外部鍵管理(EKM)サービスでは、画面に表示されるわかりやすいガイダンスを使用して、AWS 鍵の管理サービス(KMS)への安全な接続を作成できます。次に、Salesforce で AWS KMS に保存されている鍵を使用して、Salesforce のデータを暗号化および復号化します。鍵素材は、暗号化および復号化処理を完了するために必要な期間のみ保存されます。

同意データの暗号化

顧客の同意設定を取得するフォームには、機密情報や個人識別情報(PII)が含まれています。組織によっては、このようなデータに対する追加の保護を提供することが要件に加えられている場合があります。Shield Platform Encryption では、さまざまな認証フォームオブジェクトの名前項目の保存時暗号化がサポートされるようになりました。

ヘルスケア提供者データの暗号化

ユーザーは、特定の Health Cloud オブジェクトの名前項目に保護対象保険情報(PHI)を誤って入力する可能性があります。これらの項目は情報を直接公開しませんが、ユーザーが命名方式に患者情報を含めている場合があります。Shield Platform Encryption では、ヘルスケア提供者が治療した症状オブジェクトの名前項目に対して保存時暗号化がサポートされるようになりました。

改良された UI による鍵管理の簡易化

[設定] の [Shield Platform Encryption 管理] ページが洗練され、Shield Platform Encryption 鍵の管理がより簡単で直感的になりました。さらにスクリーンリーダーやキーボード操作を使用するユーザーのアクセスが容易になりました。鍵の管理のコントロールは、鍵の管理のテーブルに統合されました。新しいタブを使用して、生成、回転、エクスポート、または破棄する鍵のタイプを選択します。[高度な設定]、[暗号化ポリシー]、[項目を暗号化]、[Key Destroy (鍵の破棄)] ページでは、その他にも、対話形式のページ要素の情報提供ラベル、要素間の視覚的コントラストの向上、キーボードユーザーのスクロールの改善などのアクセシビリティの改善があります。

フローオーケストレーション作業項目の暗号化入力

フローオーケストレーション作業項目レコードには、機密情報や個人識別情報(PII)が含まれていることがあります。フローオーケストレーション作業項目オブジェクトの画面フロー入力項目は、暗号化できるようになりました。この項目では、確率的暗号化と大文字と小文字を区別する確定的暗号化、および大文字と小文字を区別しない確定的スキームがサポートされています。

外部鍵管理によるサードパーティの鍵ストアへの接続

Salesforce の外部に保存された鍵でデータを暗号化でき、さらに鍵をより直接的に制御できます。新しい外部鍵管理(EKM)サービスでは、画面に表示されるわかりやすいガイダンスを使用して、AWS 鍵の管理サービス(KMS)への安全な接続を作成できます。次に、Salesforce で AWS KMS に保存されている鍵を使用して、Salesforce のデータを暗号化および復号化します。鍵素材は、暗号化および復号化処理を完了するために必要な期間のみ保存されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: キャッシュのみの鍵サービスのアドオンサブスクリプションを購入した EU オペレーティングゾーン内のユーザーが使用できます。製品の在庫や購入については、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: コンプライアンスや規制の要件により、暗号化鍵の所有権、管理、保管について、さらに厳しい審査が追加される可能性があります。Salesforce の外部に鍵素材を保管する必要があるが、確立されたサードパーティの鍵管理サービスを必要とするユーザーには、EKM によって柔軟な管理が可能になります。鍵素材の取り扱いに関する規制要件や契約上の義務へ確實に遵守するために、さらなる選択肢から選ぶことができます。

方法: 開始する前に、AWS KMS に鍵があることを確認してください。Salesforce では、外部鍵がルート鍵として使用されます。Salesforce の [設定] の [高度な設定] ページで、[External Key Management (外部鍵管理)] をオンにします。[鍵の管理] ページで、[Manage Root Keys (ルート鍵を管理)] をクリックします。

ACTIONS	ROOT KEY TYPE	STATUS	IDENTIFIER	DESCRIPTION	CREATED BY	LAST MODIFIED BY
Deactivate	AWS	Active	arn:aws:kms:us-east-2:422447055304:key/2vta98c8-SafB-2892-acd1-84ndfba007b	AWS Key - updated	Calvin Green, 3/3/2023, 9:10 AM	Calvin Green, 8/3/2023, 11:51 AM
Details	AWS	Canceled	arn:aws:kms:us-east-2:422447055304:key/029814a5-e473-4a16-2f50-62n85ocidat	New AWS Key	Calvin Green, 3/29/2023, 9:54 AM	Calvin Green, 8/3/2023, 11:51 AM
Deactivate	AWS	Archived	arn:aws:kms:us-west-2:422447055304:key/3096b740-1af7-2563-5fb-0g950527695	AWS Key	Calvin Green, 3/3/2023, 9:02 AM	Calvin Green, 8/3/2023, 11:51 AM

ガイド付きウィザードが開き、Salesforce と AWS を接続する手順が示されます。識別子、リージョン、固有の説明など、AWS 鍵に関する情報を追加します。EKM は、AWS 鍵ポリシーに簡単にコピーできるコードスニペットやステートメントを生成します。

The JSON policy shown in the screenshot is:

```

{
  "Id": "stdc-key-access-policy",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "AllowSalesforceShieldKeyBroker",
      "Effect": "Allow",
      "Principal": "*",
      "AWS": "arn:aws:sts::953525508381:assumed-role/EkmAwsKmsAccessRole98e25d903f0b3545dc71c13d69d6190b7efc589ca1553cea8a05d8f5a29c4c4b",
      "Action": [
        "kms:GenerateDataKey",
        "kms:Decrypt"
      ],
      "Resource": "arn:aws:kms:eu-west-2:627343903335:key/2d1a57c8-6a8d-4892-ac61-94b5efab015b",
      "Condition": {
        "StringEquals": {
          "kms:EncryptionContext:sf-auth": "QIJtw9XqRjU3HbYICM5bV2SBlzYRuDu8ahKY4oyd284"
        }
      }
    }
  ]
}
  
```

更新した鍵ポリシーを AWS に保存し、Salesforce に戻って作業を保存します。Salesforce でデータ暗号化鍵 (DEK) を生成して、項目、ファイル、添付ファイルなどの Shield Platform Encryption で暗号化可能なデータに適用できるようになりました。

The screenshot shows the Salesforce Key Management setup page. The top navigation bar includes 'SETUP' and 'Key Management'. Below it, the 'Root Key Inventory' section displays three AWS root keys with columns for Actions, Root Key Type, Status, Identifier, Description, Created By, and Last Modified By. The 'Key Management Table' section below shows two tenant secret entries with columns for Actions, Version, Tenant Secret Type, Status, Key Material Source, Key Derivation, Created By, and Last Modified By.

ACTIONS	ROOT KEY TYPE	STATUS	IDENTIFIER	DESCRIPTION	CREATED BY	LAST MODIFIED BY
Deactivate	AWS	Active	arn:aws:kms:us-east-1:242447055304:key/21a138c8-5ef8-2892-ac51-94ed9eb067b	AWS Key - updated	Calvin Green, 5/3/2023, 9:10 AM	Calvin Green, 8/3/2023, 11:51 AM
Details	AWS	Cancelled	arn:aws:kms:us-east-1:242447055304:key/629b14d5-e479-4a10-2f50-62ne5ccddaf	New AWS Key	Calvin Green, 5/29/2023, 9:54 AM	Calvin Green, 8/3/2023, 11:51 AM
Deactivate	AWS	Archived	arn:aws:kms:us-west-2:242447055304:key/300bb740-1af7-2563-5fb-0gp505b769f5	AWS Key	Calvin Green, 5/3/2023, 9:02 AM	Calvin Green, 8/3/2023, 11:51 AM

ACTIONS	VERSION	TENANT SECRET TYPE	STATUS	KEY MATERIAL SOURCE	KEY DERIVATION	CREATED BY	LAST MODIFIED BY
Export	18	Data in Salesforce	Active	AWS	<input type="checkbox"/>	Calvin Green, 8/4/2023, 1:49 PM	Calvin Green, 8/4/2023, 1:49 PM
Destroy	17	Data in Salesforce	Archived	AWS	<input type="checkbox"/>	Calvin Green, 8/3/2023, 12:08 PM	Calvin Green, 8/4/2023, 1:49 PM

Salesforce では、AWS のルート鍵を使用して DEK が生成され、これを暗号化鍵キャッシュに一時的に保存するためにラップされます。ルート鍵詳細ビューでは、過去の鍵情報を確認し、監査することができます。また、キャッシュのみの鍵サービスと同様に、AWSへの接続を確認することができるため、トラブルシューティングや接続のメンテナンスが容易になります。

同意データの暗号化

顧客の同意設定を取得するフォームには、機密情報や個人識別情報(PII)が含まれています。組織によっては、このようなデータに対する追加の保護を提供することが要件に加えられている場合があります。Shield Platform Encryption では、さまざまな認証フォームオブジェクトの名前項目の保存時暗号化がサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Shield Platform Encryption を購入した顧客が使用できます。

方法: [設定] の [暗号化ポリシー] ページで [項目を暗号化] をクリックします。次に、[編集] をクリックします。次のオブジェクトの名前項目を、確率的、大文字と小文字を区別する確定的、または大文字と小文字を区別しない確定的暗号化スキームを使用して暗号化できます。

- AuthorizationForm
- AuthorizationFormConsent
- AuthorizationFormDataUse
- AuthorizationFormText

ヘルスケア提供者データの暗号化

ユーザーは、特定の Health Cloud オブジェクトの名前項目に保護対象保険情報(PHI)を誤って入力する可能性があります。これらの項目は情報を直接公開しませんが、ユーザーが命名方式に患者情報を含めている場合があります。Shield Platform Encryption では、ヘルスケア提供者が治療した症状オブジェクトの名前項目に対して保存時暗号化がサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Shield Platform Encryption と、Health Cloud or Health Cloud for Life Sciences のアドオンサブスクリプションを購入したお客様が使用できます。

方法: [暗号化ポリシー] ページで、[項目を暗号化] をクリックします。次に、[編集] をクリックします。
HlthCareProvTreatedCondition オブジェクトの名前項目を、確率的、大文字と小文字を区別する確定的、または大文字と小文字を区別しない確定的暗号化スキームを使用して暗号化できます。

改良された UI による鍵管理の簡易化

[設定] の [Shield Platform Encryption 管理] ページが洗練され、Shield Platform Encryption 鍵の管理がより簡単で直感的になりました。さらにスクリーンリーダーやキーボード操作を使用するユーザーのアクセスが容易になりました。鍵の管理のコントロールは、鍵の管理のテーブルに統合されました。新しいタブを使用して、生成、回転、エクスポート、または破棄する鍵のタイプを選択します。[高度な設定]、[暗号化ポリシー]、[項目を暗号化]、[KeyDestroy(鍵の破棄)] ページでは、その他にも、対話形式のページ要素の情報提供ラベル、要素間の視覚的コントラストの向上、キーボードユーザーのスクロールの改善などのアクセシビリティの改善があります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: Salesforce Shield または Shield Platform Encryption アドオンサブスクリプションを購入したお客様が使用できます。

方法: [鍵の管理] ページの [鍵の管理のテーブル] で、鍵の種別を選択します (1)。テーブルが更新され、その種別の鍵が表示されます (2)。次に、その種別の鍵素材を生成、管理、回転させることができます。

ACTIONS	VERSION	TENANT SECRET TYPE	STATUS	KEY MATERIAL SOURCE	KEY DERIVATION	CREATED BY	LAST MODIFIED BY
Export	1	Data in Salesforce	Active	HSM	<input checked="" type="checkbox"/>	Admin User, 8/19/2022, 2:30 PM	Admin User, 8/19/2022, 2:30 PM

フローーケストレーション作業項目の暗号化入力

フローーケストレーション作業項目レコードには、機密情報や個人識別情報(PII)が含まれていることがあります。フローーケストレーション作業項目オブジェクトの画面フロー入力項目は、暗号化できるようになりました。この項目では、確率的暗号化と大文字と小文字を区別する確定的暗号化、および大文字と小文字を区別しない確定的スキームがサポートされています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、Salesforce Shield または Shield Platform Encryption アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

方法: [暗号化ポリシー] ページで、[項目を暗号化] をクリックします。次に、[編集] をクリックし、フロー オー ケストレーション作業項目オブジェクトの画面フロー入力項目を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 暗号化できる標準項目は? \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

セキュリティセンター

評価指標が追加され、ログイン IP範囲とテナントライセンスの利用状況の詳細を監視できます。テナントが実行されているインスタンストを参照できます。会社のニーズに合わせてテナント名をカスタマイズできます。

このセクションの内容:

セキュリティセンターのテナント名のカスタマイズ

セキュリティセンターのユーザーは、Tenant Name 項目を自社のニーズに合わせて編集できるようになりました。

セキュリティセンターでのテナントのインスタンス名の表示

テナントが実行されているインスタンストを参照できます。この情報を使用してインスタンスの状況を確認したり、サービスインシデントをトリアージしたりできます。インスタンスをクリックすると Salesforce Trust のステータスページに移動できます。

テナントのライセンス利用状況に関するインサイトの取得

ライセンス利用状況の詳細を表示し、ライセンスの時間の経過に伴う変化や、テナント間の比較を確認できます。

ログイン IP範囲の監視

ログイン IP範囲の監視によりユーザーの制限を把握します (いつ作成されたか、いつ更新されたかなど)。

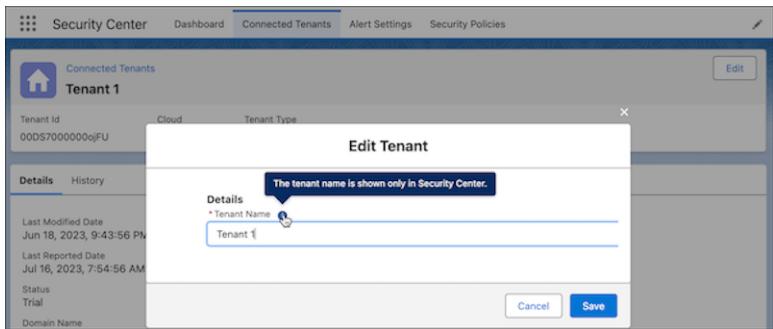
セキュリティセンターのテナント名のカスタマイズ

セキュリティセンターのユーザーは、Tenant Name 項目を自社のニーズに合わせて編集できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、セキュリティセンターアドオンサブスクリプションを持つユーザーが使用できます。

方法: セキュリティセンターの [接続済みテナント] タブで、カスタマイズするテナント名の右側にあるドロップダウン矢印をクリックし、[編集] をクリックします。さらに、テナントの詳細ページで [編集] をクリックします。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ:セキュリティセンターを使用したセキュリティ目標の管理\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

セキュリティセンターでのテナントのインスタンス名の表示

テナントが実行されているインスタンストラフィックを参照できます。この情報を使用してインスタンスの状況を確認したり、サービスインシデントをトリアージしたりできます。インスタンスをクリックすると Salesforce Trust のステータスページに移動できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、セキュリティセンターアドオンサブスクリプションを持つユーザーが使用できます。

方法: インスタンス名は、セキュリティセンターの [接続済みテナント] タブやテナントの詳細ページで確認できます。

Connected Tenants						
Add and manage tenants that contribute metrics to Security Center.						
Tenant Name ↑	Tenant Id ↓	Instance	Tenant Type ↓	Tenant Cate... ↓	Connected ...	Connect Production Tenant
Tenant 1	00DS7000000jFU	NA45	Production	Parent		

The screenshot shows the Security Center interface with the 'Connected Tenants' tab selected. A single tenant, 'Tenant 1', is listed. The tenant details include:

- Tenant Id: 00DS7000000ojFU
- Cloud Platform
- Tenant Type: Production
- Last Modified Date: Jun 18, 2023, 9:43:56 PM EDT
- Last Reported Date: Jul 25, 2023, 9:14:01 PM EDT
- Status: Trial
- Domain Name: devtestna45a
- Organization Name: Tenant 1
- Tenant Type: Production
- Tenant Category: Parent
- Instance: NA45 (highlighted with a red box)

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: セキュリティセンターを使用したセキュリティ目標の管理\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

テナントのライセンス利用状況に関するインサイトの取得

ライセンス利用状況の詳細を表示し、ライセンスの時間の経過に伴う変化や、テナント間の比較を確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、セキュリティセンターアドオンサブスクリプションを持つユーザーが使用できます。

方法: [セキュリティの概要] の [設定] カテゴリにあるセキュリティセンターダッシュボードで、[ライセンス利用状況] 総計値を監視します。

The screenshot shows the Security Center interface with the 'License Usage' dashboard selected. The chart displays the total number of licenses for Tenant 1 and Parent 1 over the most recent 30 days. The data is as follows:

Tenant	Total Licenses
Tenant 1	39
Parent 1	34 + 6 = 40

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:セキュリティセンター総計値\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

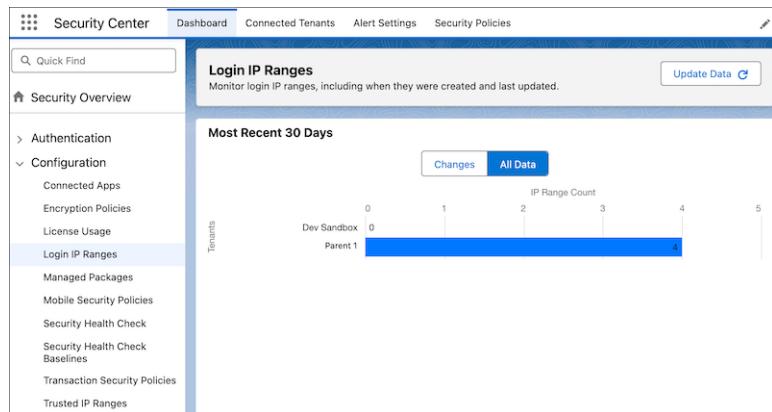
ログイン IP 範囲の監視

ログイン IP 範囲の監視によりユーザーの制限を把握します(いつ作成されたか、いつ更新されたかなど)。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、セキュリティセンターアドオンサブスクリプションを持つユーザーが使用できます。

方法: [セキュリティの概要] の [設定] カテゴリにあるセキュリティセンターダッシュボードで、[ログイン IP アドレスの制限] 総計値を監視します。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ:セキュリティセンター総計値\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

その他のセキュリティの変更

新しいリリースの更新により、他の Salesforce 組織へのリダイレクトが制限されます。カメラやマイクへのアクセスを制限し、クリックジャック保護を拡張することで、ユーザーを保護してください。

このセクションの内容:

信頼済みの組織間リダイレクトのみを許可 (リリース更新)

ユーザーとネットワークを保護するには、信頼する特定の Salesforce 組織 URL を [信頼されたリダイレクトの URL] 許可リストに追加します。URL が許可リストに追加されるまで、ユーザーは使用している Salesforce 組織から別の Salesforce 組織 (公開されたページやコンテンツを含む) にアクセスできません。この更新は Winter '24 以降で使用可能になります。

ユーザーのカメラとマイクへのアクセス権の保護

マイクとカメラへのアクセス権を信頼できる外部 URL のみに制限して、ユーザーのプライバシーを保護します。[信頼済み URL] 設定ページで、これらのオプションと共に信頼済み URL のコンテンツセキュリティポリシー (CSP) の設定を管理します。この [設定] ページの以前の名称は [CSP 信頼済みサイト] でした。

より多くのユーザーをクリックジャックから保護

クリックジャックでは、信頼済みのドメインまたはサイトを使用してユーザーをだまし、悪意のあるリンクをクリックさせます。この種の攻撃からユーザーを保護するために、Content-Security-Policy: frame-ancestors HTTP ヘッダーディレクティブがサポートされていることを確認できたら、Salesforce ではこのディレクティブが使用されます。より多くのユーザーにクリックジャック保護を提供するために、要求元のアプリケーションまたはブラウザーでディレクティブがサポートされているかどうかを識別できないまれなケースにもこのディレクティブを含めます。

世界中の非公開接続を使用したクロスクラウド連携の保護

AWS と Salesforce の提携拡大の一環として、AWS インテグレーションの非公開接続のサポートが新たにヨーロッパとアジアの地域で提供されるようになりました。

最新の CA 署名証明書ページの活用

認証機関署名付き (CA 署名付き) 証明書を作成するための設定ページに、最新の Salesforce Lightning Experience ユーザーインターフェースが採用されました。この更新により、証明書の作成プロセスから支援技術を利用しやすくなり、またすべてのユーザーにとってこのプロセスが使いやすいものになりました。

信頼済みの組織間リダイレクトのみを許可 (リリース更新)

ユーザーとネットワークを保護するには、信頼する特定の Salesforce 組織 URL を [信頼されたリダイレクトの URL] 許可リストに追加します。URL が許可リストに追加されるまで、ユーザーは使用している Salesforce 組織から別の Salesforce 組織 (公開されたページやコンテンツを含む) にアクセスできません。この更新は Winter '24 以降で使用可能になります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Summer '24 で適用します。2023 年 10 月より前に Winter '24 を入手した組織では、テストとして、このリリース更新がデフォルトで有効になっています。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: [設定] の [信頼されたリダイレクトの URL] で、[信頼されていないクロス組織リダイレクトを許可] を無効にします (Lightning のみ)。または、SecuritySettings メタデータ API 種別の enableCrossOrgRedirects 項目を false に設定することもできます。

この更新を確認するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。「信頼済みの組織間リダイレクトのみの許可」で、テストと有効化の手順を実行します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:他の Salesforce 組織へのリダイレクトの信頼\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[リリース更新](#)

ユーザーのカメラとマイクへのアクセス権の保護

マイクとカメラへのアクセス権を信頼できる外部 URL のみに制限して、ユーザーのプライバシーを保護します。[信頼済み URL] 設定ページで、これらのオプションと共に信頼済み URL のコンテンツセキュリティポリシー(CSP)の設定を管理します。この [設定] ページの以前の名称は [CSP 信頼済みサイト] でした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [セッションの設定] 設定ページの [ブラウザー機能の権限] セクションで、[Permissions-Policy HTTP ヘッダーを含める] を選択します。カメラとマイクで [信頼済み URL のみ] を選択します。[信頼済み URL] 設定ページから、信頼できる URL と各 URL がアクセスできるブラウザー機能を指定します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ブラウザー機能へのアクセスの制御\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 信頼済み URL の管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

より多くのユーザーをクリックジャックから保護

クリックジャックでは、信頼済みのドメインまたはサイトを使用してユーザーをだまし、悪意のあるリンクをクリックさせます。この種の攻撃からユーザーを保護するために、Content-Security-Policy: frame-ancestors HTTP ヘッダーディレクティブがサポートされていることを確認できたら、Salesforce ではこのディレクティブが使用されます。より多くのユーザーにクリックジャック保護を提供するために、要求元のアプリケーションまたはブラウザーでディレクティブがサポートされているかどうかを識別できないまれなケースにもこのディレクティブを含めます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: このオプションが有効になっていると、ユーザーが Content-Security-Policy: frame-ancestors ディレクティブがサポートされていないアプリケーションまたはブラウザーから Salesforce にアクセスしたときにサポートの欠如が明確でない場合、エラーが発生する可能性があります。拡張クリックジャック保護の利点と発生する可能性のあるエラーを比較して検討することをお勧めします。

[設定] で、[クイック検索] ボックスに「セッションの設定」と入力して、[セッションの設定] を選択します。
[Content Security Policy (CSP) Directive Rendering (コンテンツセキュリティポリシー (CSP) ディレクティブの表示)] セク

ションで [Apply CSP directives for less common browsers (一般的ではないブラウザーにCSPディレクティブを適用)] を選択し、変更を保存します。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:一般的ではないブラウザーへのクリックジャック保護の適用\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

世界中の非公開接続を使用したクロスクラウド連携の保護

AWS と Salesforce の提携拡大の一環として、AWS インテグレーションの非公開接続のサポートが新たにヨーロッパとアジアの地域で提供されるようになりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce と AWS 内でホストされるデータの間に非公開接続を作成するには、[設定] の [非公開接続] ページに移動し、[AWS リージョン] をクリックします。

Salesforce データセンターとの直接接続が確立されている最新の AWS リージョンは次のとおりです。

- ジャカルタ、インドネシア (ap-southeast-3)
- ミラノ、イタリア (eu-south-1)

最新の CA 署名証明書ページの活用

認証機関署名付き (CA 署名付き) 証明書を作成するための設定ページに、最新の Salesforce Lightning Experience ユーザーインターフェースが採用されました。この更新により、証明書の作成プロセスから支援技術を利用しやすくなり、またすべてのユーザーにとってこのプロセスが使いやすいものになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

サービス

カスタマーサービスエージェントが、複数のカスタマーサービスチャネルにわたって、迅速かつ生産的に業務を実施できる新機能についてご確認ください。

このセクションの内容:

Einstein for Service

Einstein for Service の新機能で生成 AI のパワーを引き出します。作業概要、チャットとメール用のコンテキストとナレッジに基づくサービスの返信、ナレッジに基づくメール返信(パイロット)により、エージェントの時間を節約してサービス品質を高めます。Einstein ボットの記事の回答が正式リリースされました。言語間インテントモデル(ベータ)によって、より少ない発言でより正確なインテントモデルを構築できるようになりました。また、拡張ボットやボットテンプレートおよびブロックの設定が改善されました。

Service Intelligence

Service Intelligence は、コンタクトセンターの主要業績指標を表示するデータ駆動型ソリューションです。顧客サービスの目標を達成しているかどうかは、一目で認識できるデータの視覚化によって判断できます。

フィードバック管理

アンケートへの招待項目からのデータを使用して、アンケートへの回答に基づいてレコードを作成または更新します。アンケートへの招待や、取引先およびケース所有者へのカスタム通知でタイムリーなアクションを実行します。新しい評価アイコンで顧客エンゲージメントをより正確に測定します。エンゲージメントを高める長いアンケートへの招待メールを送信します。

サービスカタログ

サービスカタログは、セルフサービスオートメーションにより、会社の製品およびサービスの要求を承認済みの文書化された注文にするのに役立ちます。

カスタマーサービスインシデント管理

商品関連のインシデントが発生する場合、影響を受ける顧客に事前のコミュニケーションを送信します。インシデントが進展したときに、ブロードキャスト Slack メッセージの項目の更新により、内部関係者に最新の情報を提供します。また、[カスタマーサービスインシデント管理] 設定ページの改善により、インシデントを迅速に解決するために必要なインテグレーションを見つけることがこれまでより簡単になりました。

スウォーミング

Service Cloud の機能を使用したスウォーミングにより、サービス組織では、エキスパートとの大規模なコラボレーションを行い、顧客の問題を解決することができ、さらにアプリケーション間を移動する手間を省けます。Salesforce ではコラボレーションに、Slack のデザインや機能を活用できます。Slack 会話コンポーネントのファイルを共有およびダウンロードできます。また、他の機能強化を使用して迅速にスウォーミングを開始します。

チャネル

メッセージングでメッセージングセッションを開始したり、Service Cloud Voice でエージェント間通話を使用して通話を迅速に発信したり、チャットの前に使用条件を表示したりします。

ナレッジ

コンテンツの表示を制御することで、記事をより簡単かつ効果的に作成し、エージェントの記事の操作を最適化します。

ルーティング

拡張オムニチャネルには、いくつかの新機能とより効率的なワークフローが備えられています。

セルフサービス

セルフサービスは、顧客にオンラインサポートチャネルを提供します。これにより、顧客は、カスタマーサービス担当者に連絡しなくとも各自の疑問を解消できます。

Einstein for Service

Einstein for Service の新機能で生成 AI のパワーを引き出します。作業概要、チャットとメール用のコンテキストとナレッジに基づくサービスの返信、ナレッジに基づくメール返信(パイロット)により、エージェントの時間を節約してサービス品質を高めます。Einstein ボットの記事の回答が正式リリースされました。言語間インテンモデル(ベータ)によって、より少ない発言でより正確なインテンモデルを構築できるようになりました。また、拡張ボットやボットテンプレートおよびブロックの設定が改善されました。

このセクションの内容:

[Einstein 記事レコメンデーション](#)

Einstein for Service: ナレッジに基づくメール返信で AI が生成したカスタムのメールドラフトを取得します。

[Einstein ボット](#)

ナレッジベースを利用して顧客の FAQ に答える記事の回答が正式リリースとなりました。言語間インテントモデル(ベータ)を使用して、少ない発言で複数言語のインテントモデルを構築します。ボットの [概要] ページから離れることなく、自分の拡張ボット用の受信オムニチャネルフローを拡張チャネルに追加できます。カスタムボットテンプレートおよびブロック用の拡張ボット監査と権限セット(省略可能)により、必要なリソースにアクセスするためのボットをすばやく構築して起動できます。

[Einstein 分類](#)

生成 AI で Einstein for Service: 作業概要を使用したケースの迅速なクローズが正式リリースされました。

[Einstein 会話マイニング](#)

Einstein 会話マイニングを使用して会話データをサービスインサイトに変換し、ボットインテントを作成します。メールの会話または関連するトランск립トを使用してレポートを作成します。

[Einstein 返信レコメンデーション](#)

チャットとメール用の Einstein サービス返信と、正式リリースされたナレッジグラウンディング付きのサービスの返信で、生成 AI を使用してエージェントの生産性を向上させます。

[Einstein for Service グラウンディング](#)

会社のケースとナレッジデータに基づく AI が生成した応答の取得が正式リリースされました。

関連トピック:

[Einstein](#)

[Einstein 記事レコメンデーション](#)

Einstein for Service: ナレッジに基づくメール返信で AI が生成したカスタムのメールドラフトを取得します。

このセクションの内容:

[ナレッジ記事に基づいて AI がドラフトを作成したメール応答の取得\(パイロット\)](#)

生成 AI で Einstein for Service を使用して、顧客満足度を高め、処理時間を短縮します。Einstein は、会社の信頼できるナレッジ記事に基づいて、顧客からの問い合わせに対するメール応答のドラフトを迅速に作成します。正式リリースされたナレッジに基づくメール返信を使用して、エージェントは Lightning メールコンポーネントから AI で生成された記事を確認、編集、送信したり、ドラフトのテキストをコピーして外部のメールプロバイダーに貼り付けたりすることができます。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

ナレッジ記事に基づいて AI がドラフトを作成したメール応答の取得 (パイロット)

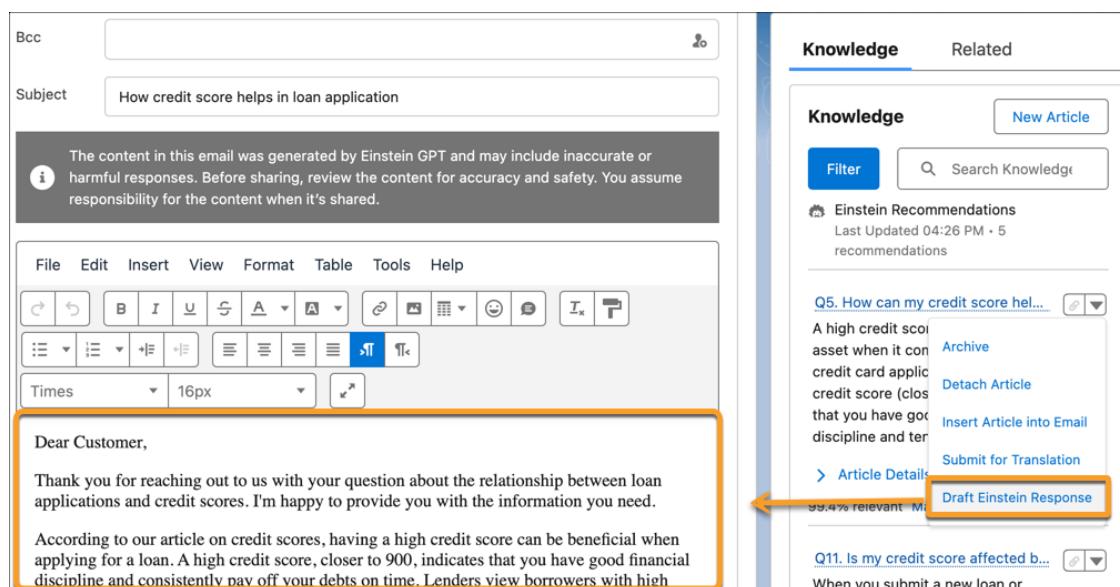
生成 AI で Einstein for Service を使用して、顧客満足度を高め、処理時間を短縮します。Einstein は、会社の信頼できるナレッジ記事に基づいて、顧客からの問い合わせに対するメール応答のドラフトを迅速に作成します。正式リリースされたナレッジに基づくメール返信を使用して、エージェントは Lightning メールコンポーネントから AI で生成された記事を確認、編集、送信したり、ドラフトのテキストをコピーして外部のメールプロバイダーに貼り付けたりすることができます。

対象: この変更は、Service Cloud Einstein および Einstein GPT for Service アドオンを含む Unlimited Edition に適用されます。Einstein GPT は Lightning Experience で使用できます。

この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります。SFDC の裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

Einstein GPT for Service アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: ナレッジコンポーネントに「Einstein 応答のドラフトを作成」アクションを追加します。次に、ナレッジ記事に基づく応答のドラフトを作成するために、関連記事のドロップダウンメニューから [Einstein 応答のドラフトを作成] を選択します。



エージェントは、Lightning メールコンポーネントから応答を確認、編集、送信したり、ドラフトのテキストをコピーして外部のメールプロバイダーに貼り付けたりすることができます。

関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

Einstein ボット

ナレッジベースを利用して顧客のFAQに答える記事の回答が正式リリースとなりました。言語間インテントモデル(ベータ)を使用して、少ない発言で複数言語のインテントモデルを構築します。ボットの[概要]ページから離れることなく、自分の拡張ボット用の受信オムニチャネルフローを拡張チャネルに追加できます。カスタムボットテンプレートおよびブロック用の拡張ボット監査と権限セット(省略可能)により、必要なリソースにアクセスするためのボットをすばやく構築して起動できます。

このセクションの内容:

[記事の回答 AIによる FAQへの回答\(正式リリース\)](#)

記事の回答が、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語で正式リリースされました。記事の回答は、機械学習と従来の検索を組み合わせて、顧客が入力した自由テキストを処理し、ナレッジ記事から抽出した関連項目を直接ボットの会話に提供します。記事の回答を設定して、FAQ ボットをすばやく構築したり、1つのボットダイアログでボットをナレッジベースに接続したりします。顧客セグメントに合わせて、ナレッジデータカテゴリでボットの応答を調整します。記事の回答の応答に含まれるフィードバックコレクションダイアログ、イベントログ、標準レポートで、顧客フィードバックを簡単に見ることができます。

[言語間インテントモデルを使用したボットでの新しい言語のより容易なトレーニング\(正式リリース\)](#)

正式リリースされた言語間インテントモデルにアップグレードして、ボットのパフォーマンスを改善し、NLP ボットに新しい言語を容易に追加できるようにします。Winter '24 では、新たに 19 言語でインテントおよびシステムエンティティ認識サポートが提供されます(ベータ)。

[数クリックでの拡張ボットへの会話の転送](#)

ボットの[概要]ページから受信オムニチャネルフローをチャネルに追加することで、数クリックの操作でボットをゼロから短時間で立ち上げることができます。以前は、拡張ボットを作成しても、[メッセージング設定]ページでチャネルの設定を完了しなければ、受信フローからボットに会話を送信することはできませんでした。今回のリリースでは、ボットの設定やオムニチャネルフローを管理するページからチャネルのルーティング設定(フロー定義や代替キューなど)を変更できるようになりました。

[拡張ボット監査によるボットの起動準備](#)

新しい拡張ボット監査を使用することで、拡張ボットの設定で一部の推測作業が不要になります。監査では、ボットに特有の主要な設定の詳細を確認して、欠けている要件(アクション、オブジェクト、項目への必須アクセスなど)があればアラートを生成します。監査に合格すれば、拡張ボットが複雑な顧客とのやり取りを処理するために必要なリソースにアクセスできることが保証されます。

[拡張ボットでの静的オプションが含まれる質問](#)

拡張ボットでは、顧客の情報をすばやく収集できるように、静的オプションを含む質問のメッセージングコンポーネントをサポートするようになりました。たとえば、ボットに連絡した理由を顧客に尋ねる質問を作成します。そして、カスタムテキスト、画像、ボタンを含むことができる豊富なメッセージング形式で、事前定義済みのオプションを顧客に表示します。プレーンテキスト環境では、拡張ボットと標準ボットで引き続き静的質問ダイアログステップを使用できます。

動的入力を使用した拡張リンクのカスタマイズ

ボットビルダーで拡張リンクメッセージングコンポーネントのパラメーターがサポートされるようになつたため、拡張ボットの会話から動的に拡張リンクをカスタマイズできます。たとえば、以前の質問に対する顧客の回答に基づいて、顧客に別の画像を表示したり、顧客を別の URL に送信したりします。以前は、パラメーターを拡張リンクメッセージングコンポーネントに追加することはできましたが、ボットの会話からパラメーターを入力することはできませんでした。

独自のカスタムボットテンプレートの作成と共有(正式リリース)

独自のカスタムボットテンプレートを最初から、または既存のボットから作成できます。正式リリースされたカスタムテンプレートを使用して、組織間またはAppExchangeでテンプレートをパッケージ化して共有することもできるため、業種や使用事例に合わせてカスタマイズされたボットを全員が使用できます。ボットテンプレートパッケージには、保存されたインテントデータ、フロー、Apex が含まれています。

ボットブロックを使用した迅速なボットの構築(正式リリース)

ボットブロックが正式リリースされました。ブロックを使用すると、ボット全体を作成しなくても優れたボット機能を使用および共有できるため、時間と労力が節約されます。ボットブロックを作成して複数のボットにダイアロググループを追加することも、ライブラリからボットに標準のボットブロックを追加することもできます。

カスタムテンプレートとブロックへの権限セットの追加

ボットテンプレートとブロックにより、Apex、外部サービス、フローなど、パワフルなアクションを備えた複雑なボット機能を簡単に共有できます。ですが、いくら優れたカスタムフローでもボットがそれを実行できなければ無意味です。そのため、テンプレートまたはブロックを作成するときに、必要なリソースへのアクセスを付与する権限セットを追加できるようになりました。他のユーザーがテンプレートからボットを作成したり、ブロックをインポートしたりするときには、ボットのユーザープロファイルに権限セットを追加して、ボットの新しい機能をすぐ簡単に使用できるようにします。

カスタムテンプレートとブロックの複数言語のサポートでより多くの顧客にリーチ

完全な多言語サポートを実現したボットテンプレートとブロックを作成して共有することで、これらのテンプレートやブロックを使用した誰もが、より多くの顧客により短い時間でリーチできるようになります。テンプレートまたはブロックを作成するときには、元のボットでサポートされていた主言語と第2言語のいくつか、または全部を含めることができます。以前は、カスタムテンプレートとブロックでは、1つの言語しかサポートされませんでした。

新しいテンプレートやブロックでの Einstein ボットポートフォリオの拡張

新しい標準ボットテンプレートを使用して、使用事例に合わせてカスタマイズされたボットを構築して起動します。新しいボットブロックを使用すると、数クリックの操作で既存のボットに機能を追加できます。さらに、イントロテンプレートが更新されました。

ボットビルダーとボットの会話での右から左へ記述される言語の使用

ボットビルダー UI は、右から左へ記述される (RTL) 言語をサポートするようになったため、個人設定で指定した言語を使用して、ボットを構築、起動、監視できます。アプリ内および Web のメッセージングチャネルの拡張ボットでは、ボットの会話でアラビア語(ベータ)がサポートされます。

Winter '24 フォルダーの標準ボットレポートの表示

Einstein ボットは、すべての標準ボットレポートの最新バージョンが含まれるフォルダーをリリースごとに追加します。Winter '24 では、標準ボット評価指標種別や個々のレポートは Summer '23 から変更されていませんが、Einstein ボットレポート Winter '24 フォルダーのすべてのレポートの最新バージョンにアクセスできます。

AnalyticsBotSession オブジェクトの削除

AnalyticsBotSession オブジェクトは、API クエリでセッション関連のデータを入力するために使用されました。Winter '23 以降、AnalyticsBotSession レコードにはアクセスできなくなりました。代わりに、新しいセッション評価指標オブジェクト (ConversationDefinitionSession) を使用して、同じデータを取得します。また、ConversationDefinitionSessionEngagement 連結オブジェクトを使用して、ConversationDefinitionSession レコードと LiveChatTranscript または MessagingSession レコードをリンクすることもできます。

ボットユーザーコンテキストでフローの実行 (リリース更新)

この更新を有効にすると、ボットで開始されたフローでは、ボットに関連付けられたユーザープロファイルと権限セットを使用して、フローのオブジェクト権限と項目レベルのアクセス権が決定されます。このリリース更新は Summer '23 で最初に使用可能になりました。

拡張ボットの新しいメッセージングコンポーネントを使用したエージェントの時間の節約 (ベータ)

認証コンポーネント、カスタムコンポーネント、フォームコンポーネント、支払メッセージングコンポーネントを使用して、顧客を支援し、サービスエージェントの時間を節約します。拡張ボットでは拡張 Apple Messages for Business チャネルでより複雑な使用事例を処理できるようになりました。フォームコンポーネントはアプリ内および Web のメッセージングでも使用できます。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

記事の回答 AI による FAQ への回答 (正式リリース)

記事の回答が、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語で正式リリースされました。記事の回答は、機械学習と従来の検索を組み合わせて、顧客が入力した自由テキストを処理し、ナレッジ記事から抽出した関連項目を直接ボットの会話に提供します。記事の回答を設定して、FAQ ボットをすばやく構築したり、1つのボットダイアログでボットをナレッジベースに接続したりします。顧客セグメントに合わせて、ナレッジデータカテゴリでボットの応答を調整します。記事の回答の応答に含まれるフィードバックコレクションダイアログ、イベントログ、標準レポートで、顧客フィードバックを簡単に見ることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

方法: Einstein ボットの [設定] ページから、[スマート機能] タブに移動します。[記事の回答] で、[使用を開始する] を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ記事の回答を掲載したナレッジ記事の配信 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

言語間インテントモデルを使用したボットでの新しい言語のより容易なトレーニング (正式リリース)

正式リリースされた言語間インテントモデルにアップグレードして、ボットのパフォーマンスを改善し、NLP ボットに新しい言語を容易に追加できるようにします。Winter '24 では、新たに 19 言語でインテントおよびシステムエンティティ認識サポートが提供されます (ベータ)。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

メモ: 2023 年 10 月 30 日の週以降、新規作成またはコピーされるボットとボットバージョンは、デフォルトで言語間インテントモデル(单一言語ボットと複数言語ボットを含む)に設定されます。

メモ: 言語間インテントモデルで新たにサポートされる言語は、ベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

理由: 以前は、Einstein ボットでは 1 つのインテントモデルのみが提供されていました。このモデルでは、モデルをテストまたは作成するのにインテントあたり言語ごとに 20 個の発言が必要でした。言語間インテントモデルは、インテントあたり言語ごとに 1 つの発言でトレーニングできます。また、モデルを再作成せずに新しい言語で発言をテストできます。インテントに 20 個の発言を追加すると、言語間インテントモデルではすべての発言がテストとトレーニングで使用されるため、より正確な F1 スコアが生成されます。

言語間インテントモデルを使用する場合、ベータでアラビア語を含む 19 言語を使用できます。

方法: 初めてインテントモデルを作成する場合、ボットの自然言語処理を有効にします。1 つ以上の発言を 2 つ以上のダイアログに追加し、インテントを有効にして、ダイアログに対して Einstein を有効にします。

言語間インテントモデルを有効にするには、ボットの [概要] ページの [設定] セクションで [インテントの機能強化] 設定に移動して、[このボットで言語間インテントモデルを使用] を選択します。次に、変更内容を保存します。

言語間インテントモデルに含まれる新しい言語を含む、Einstein ボットでサポートされるすべての言語にアクセスするには、[Salesforce でサポートされる言語](#)を確認してください。必要に応じて、[設定] の [言語設定] ページで [エンドユーザー言語とプラットフォーム専用言語](#)を有効にします。

最小要件を満たしていれば、言語間インテントモデルと元のインテントモデルを切り替えることができます。言語間インテントモデルは、単一言語または複数言語のボットで使用できます。言語間インテントモデルのみでサポートされる言語がボットで使用されている場合、言語間インテントモデルから元のインテントモデルに切り替えることはできません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 言語間インテントモデルの有効化 \(ベータ\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: インテントを使用した顧客の理解 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

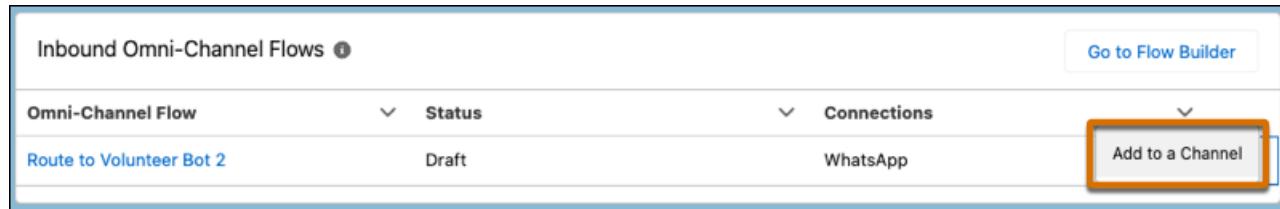
[Salesforce ヘルプ: Einstein ボットの言語の定義](#)

数クリックでの拡張ボットへの会話の転送

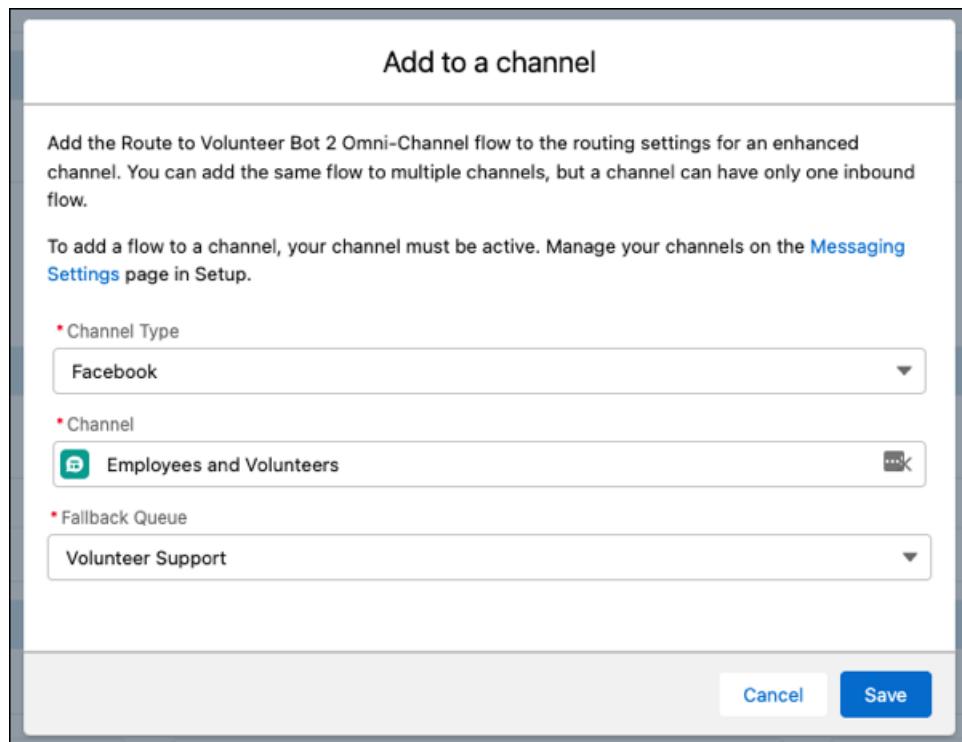
ボットの [概要] ページから受信オムニチャネルフローをチャネルに追加することで、数クリックの操作でボットをゼロから短時間で立ち上げることができます。以前は、拡張ボットを作成しても、[メッセージング設定] ページでチャネルの設定を完了しなければ、受信フローからボットに会話を送信することはできませんでした。今回のリリースでは、ボットの設定やオムニチャネルフローを管理するページからチャネルのルーティング設定(フロー定義や代替キューなど)を変更できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

方法: チャネルに受信フローを追加するには、拡張ボットのボットの [概要] ページで [受信オムニチャネルフロー] セクションに移動します。チャネルに追加するフローのドロップダウンメニューから [チャネルに追加] を選択します。



修正するチャネルと代替キューを指定してから、変更内容を保存します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 拡張ボットへの会話の転送\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

拡張ボット監査によるボットの起動準備

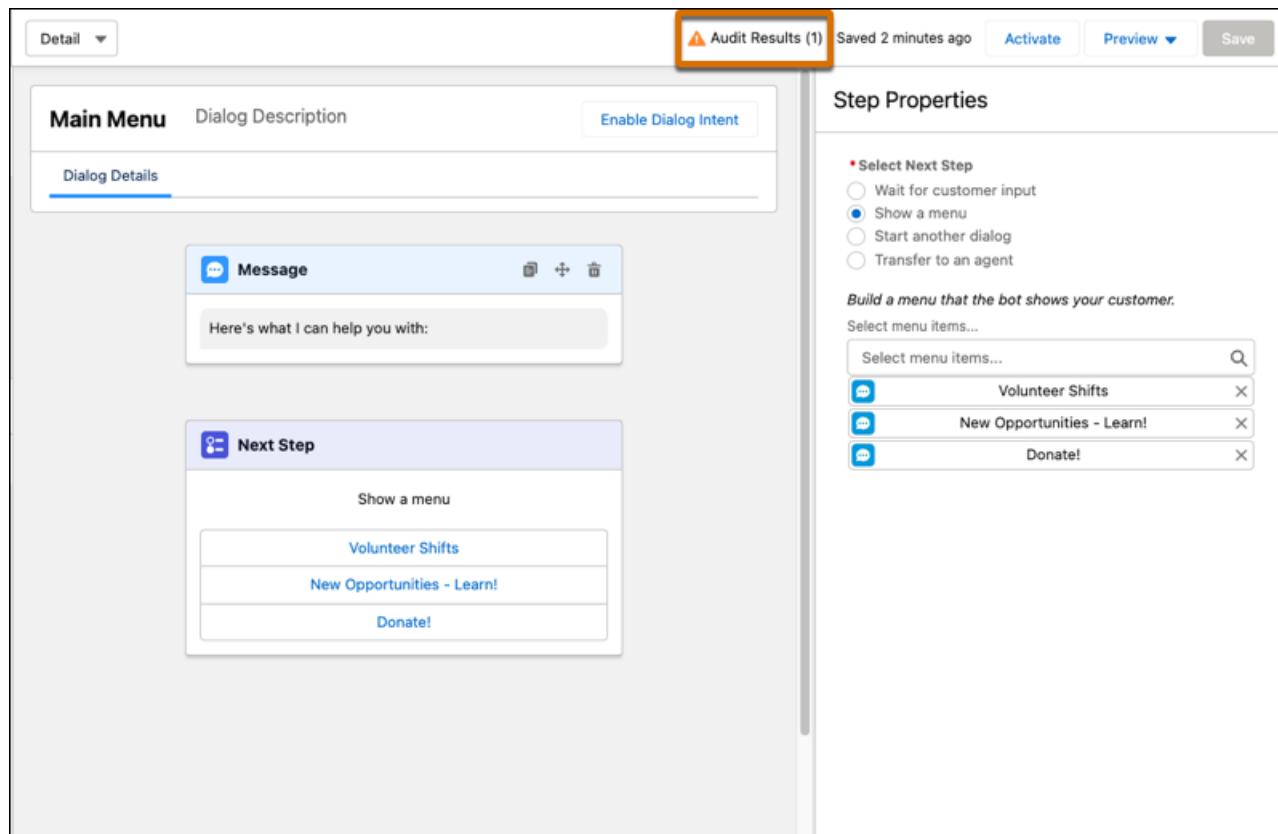
新しい拡張ボット監査を使用することで、拡張ボットの設定で一部の推測作業が不要になります。監査では、ボットに特有の主要な設定の詳細を確認して、欠けている要件(アクション、オブジェクト、項目への必須アクセスなど)があればアラートを生成します。監査に合格すれば、拡張ボットが複雑な顧客とのやり取りを処理するために必要なリソースにアクセスできることが保証されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

理由: 拡張ボット監査は、拡張ボットのデザインで定義されている機能性に基づいて設定を検証します。

ボットの要素	監査のチェック対象
オブジェクト検索(ベータ)	検索で参照されるオブジェクトとオブジェクト項目への読み取りアクセス権がボットユーザーに付与されていること。
エージェントに転送の次のステップ ([エージェントに転送] システムダイアログを含む)	[送信オムニチャネルフロー] 設定でボットに対して有効なオムニチャネルフローが設定されていること。
フロー	「フローの実行」権限がボットユーザーに付与されていること。
Apexアクション、標準アクション、外部サービスアクション	ボットに含まれているアクションへのアクセス権がボットユーザーに付与されていること。

方法: ボットビルダーの [ダイアログ] ページに入るたび、そしてボットを保存するたびに監査が自動的に実行されます。監査の結果はページの一番上に表示されます。



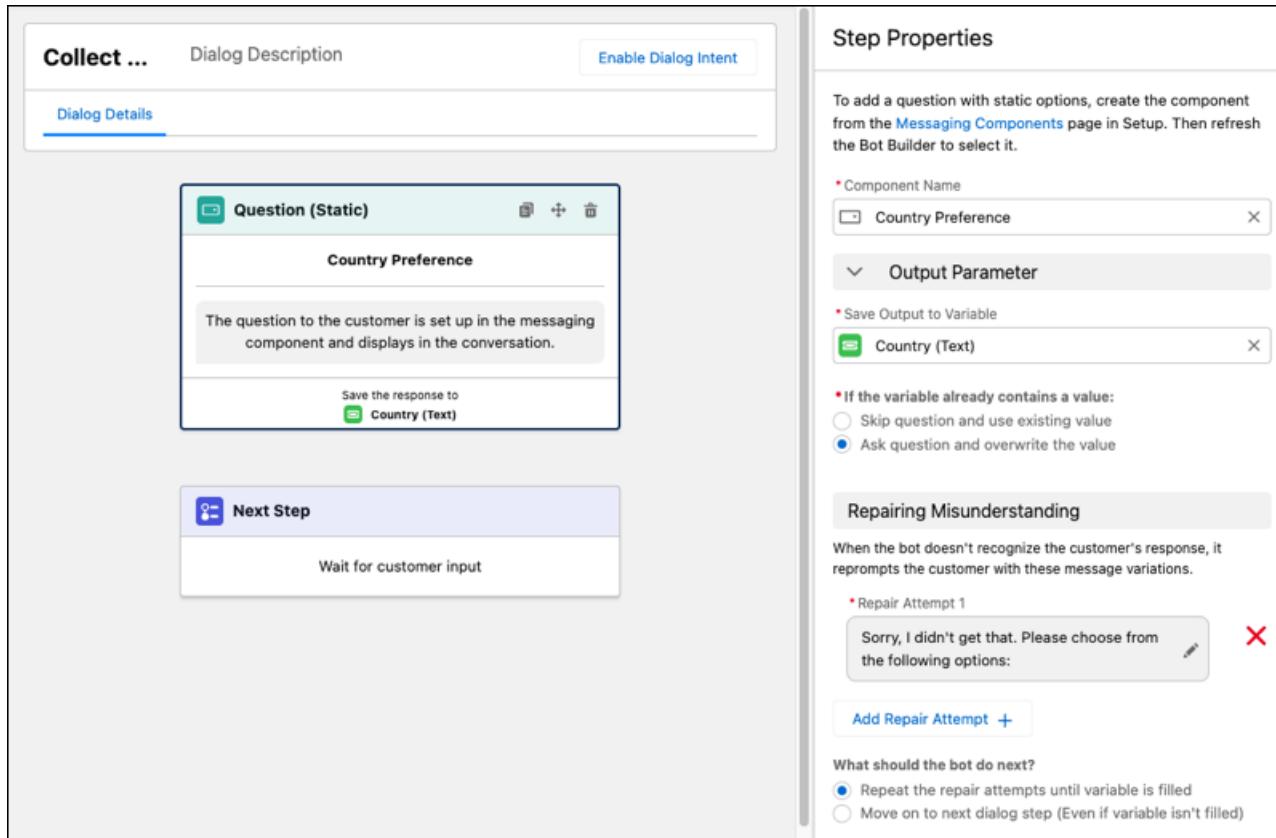
拡張ボットでの静的オプションが含まれる質問

拡張ボットでは、顧客の情報をすばやく収集できるように、静的オプションを含む質問のメッセージングコンポーネントをサポートするようになりました。たとえば、ボットに連絡した理由を顧客に尋ねる質問を作成します。そして、カスタムテキスト、画像、ボタンを含むことができる豊富なメッセージング形式で、事前定義済みのオプションを顧客に表示します。プレーンテキスト環境では、拡張ボットと標準ボットで引き続き静的質問ダイアログステップを使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

方法: [設定] の [メッセージングコンポーネント] ページで質問コンポーネントを作成および管理します。

静的オプションを含む質問を拡張ボットで使用するには、ボットビルダーの [ダイアログ] ページで [質問(静的)] ダイアログステップをダイアログに追加して、関連付けられているメッセージングコンポーネントを参照します。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ:拡張ボットを使用した静的オプションが含まれる質問\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:メッセージングコンポーネントの作成:静的オプションが含まれる質問\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:メッセージングコンポーネントの種類と形式\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

動的入力を使用した拡張リンクのカスタマイズ

ボットビルダーで拡張リンクメッセージングコンポーネントのパラメーターがサポートされるようになったため、拡張ボットの会話から動的に拡張リンクをカスタマイズできます。たとえば、以前の質問に対する顧客の回答に基づいて、顧客に別の画像を表示したり、顧客を別のURLに送信したりします。以前は、パラメーターを拡張リンクメッセージングコンポーネントに追加することはできましたが、ボットの会話からパラメーターを入力することはできませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

方法: [設定] の [メッセージングコンポーネント] ページで、拡張リンクを作成してカスタムパラメーターを追加します。

拡張ボットでカスタムパラメーターが含まれる拡張リンクを使用するには、ボットビルダーで、リンクを動的にカスタマイズする Apex クラスまたはフローを参照するダイアログステップを追加します。次に、関連付けられた拡張リンクメッセージングコンポーネントを参照する[拡張リンク]ダイアログステップを追加して、入力を設定します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 拡張ボットでの拡張リンクの表示](#)

[Salesforce ヘルプ: メッセージングコンポーネントの作成: 拡張リンク](#)

独自のカスタムボットテンプレートの作成と共有 (正式リリース)

独自のカスタムボットテンプレートを最初から、または既存のボットから作成できます。正式リリースされたカスタムテンプレートを使用して、組織間または AppExchange でテンプレートをパッケージ化して共有することもできるため、業種や使用事例に合わせてカスタマイズされたボットを全員が使用できます。ボットテンプレートパッケージには、保存されたインテントデータ、フロー、Apex が含まれています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

方法: ボットの [設定] ページで、[テンプレート] タブをクリックします。次に、[新規] をクリックしてテンプレートを作成します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein ボットテンプレートの作成](#)

ボットブロックを使用した迅速なボットの構築 (正式リリース)

ボットブロックが正式リリースされました。ブロックを使用すると、ボット全体を作成しなくても優れたボット機能を使用および共有できるため、時間と労力が節約されます。ボットブロックを作成して複数のボットにダイアロググループを追加することも、ライブラリからボットに標準のボットブロックを追加することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

方法: ボットの [設定] ページで、[ボットブロック] タブをクリックします。[新規ブロック] をクリックしてブロックを作成します。ブロックをダイアロググループから作成するには、ダイアロググループの横にあるドロップダウンをクリックして [ブロックとしてエクスポート] を選択します。

ボットブロックをインポートするには、ブロックのインポート先として使用するボットを開きます。[ダイアログ] メニューで、プラスアイコンをクリックして、[ブロックをインポート] を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein ボットブロック](#)

カスタムテンプレートとブロックへの権限セットの追加

ボットテンプレートとブロックにより、Apex、外部サービス、フローなど、パワフルなアクションを備えた複雑なボット機能を簡単に共有できます。ですが、いくら優れたカスタムフローでもボットがそれを実行できなければ無意味です。そのため、テンプレートまたはブロックを作成するときに、必要なリソースへのアクセスを付与する権限セットを追加できるようになりました。他のユーザーがテンプレートからボットを作成したり、ブロックをインポートしたりするときには、ボットのユーザープロファイルに権限セットを追加して、ボットの新しい機能をすぐ簡単に使用できるようになります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

方法: まず、テンプレートまたはブロックを使用するために必要なリソースへのアクセス権を付与する権限セットを作成します。テンプレートまたはブロックを作成するときに、追加する権限セットを [権限セット] 項目で検索して選択します。

他のユーザーがテンプレートからボットを作成したり、ブロックをインポートしたりすると、ボットユーザー プロファイルに権限セットを追加するように要求されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:Einstein ボットテンプレートの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:Einstein ボットブロックの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

カスタムテンプレートとブロックの複数言語のサポートでより多くの顧客にリーチ

完全な多言語サポートを実現したボットテンプレートとブロックを作成して共有することで、これらのテンプレートやブロックを使用した誰もが、より多くの顧客により短い時間でリーチできるようになります。テンプレートまたはブロックを作成するときには、元のボットでサポートされていた主言語と第2言語のいくつか、または全部を含めることができます。以前は、カスタムテンプレートとブロックでは、1つの言語しかサポートされませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

方法: ボットビルダーで、テンプレートまたはブロックを作成すると、元のボットでサポートされていた言語に基づいて、主言語と第2言語を選択するように要求されます。

作成したテンプレートを他のユーザーが使用してボットを作成する場合は、そのユーザーのボットで使用する主言語と第2言語をテンプレートでサポートされている言語から選択できます。

ブロックをインポートすると、ブロックと対象ボットでサポートされているすべての言語でブロックが自動的にサポートされます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:Einstein ボットテンプレートの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:Einstein ボットブロックの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

新しいテンプレートやブロックでの Einstein ボットポートフォリオの拡張

新しい標準ボットテンプレートを使用して、使用事例に合わせてカスタマイズされたボットを構築して起動します。新しいボットブロックを使用すると、数クリックの操作で既存のボットに機能を追加できます。さらに、イントロテンプレートが更新されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

理由: 次の新しいシステムテンプレートを使用できます。

- **バイヤーアシスタントセールステンプレート (正式リリース)**

Web-to-リードエクスペリエンスの変換とセールスの合理化を目的とした拡張ボットを作成します。Einstein ボットのガイド付き設定またはカスタムセールスオンボーディングを使用してボットをすばやく開始します。

次の新しいシステムブロックは、標準ボットまたは拡張ボットで使用できます。

- **ケースコメントを追加:** ケースコメントを収集して既存のケースに追加します。
- **ケースをクローズ:** 一致したケースをクローズします。
- **ケースを作成:** 既存のケースの変数を確認して、新しい問題のケースを作成します。
- **CSAT アンケート:** 会話環境に対するユーザーの満足度の評価を収集します。

イントロシステムテンプレートに付属する、[Intro Bot: Get Pre-Chat Context (導入ボット: 事前チャットのコンテキストの取得)]フローが変更されました。このフローはチャットチャネルだけでなく、標準および拡張メッセージングチャネルから顧客のコンテキストを取得するように更新され、[Einstein Bots - Get Customer Context (Einstein ボット - 顧客コンテキストの取得)]に名称が変更されました。この更新は、イントロテンプレートから作成された新規ボットと既存のボットに自動的に適用され、既存のボットの動作に変更はありません。

-  **メモ:** 標準では、拡張ボットのイントロテンプレートを使用できません。拡張ボットはイントロテンプレートから作成できませんが、イントロテンプレートから作成した標準ボットを拡張ボットとしてクロールすることはできます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:Einstein ボットシステムテンプレートの探索\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:Einstein ボットブロックライブラリの探索\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:導入テンプレートボットの使用開始](#)

ボットビルダーとボットの会話での右から左へ記述される言語の使用

ボットビルダー UI は、右から左へ記述される (RTL) 言語をサポートするようになったため、個人設定で指定した言語を使用して、ボットを構築、起動、監視できます。アプリ内および Web のメッセージングチャネルの拡張ボットでは、ボットの会話でアラビア語(ベータ)がサポートされます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

-  **メモ:** Einstein ボットの会話でのアラビア語のサポートは、ベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:Einstein ボットの言語の定義](#)

[Salesforce ヘルプ:言語およびロケール設定の編集\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:言語、ロケール、通貨設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Winter '24 フォルダーの標準ボットレポートの表示

Einstein ボットは、すべての標準ボットレポートの最新バージョンが含まれるフォルダーをリリースごとに追加します。Winter '24 では、標準ボット評価指標種別や個々のレポートは Summer '23 から変更されていませんが、Einstein ボットレポート Winter '24 フォルダーのすべてのレポートの最新バージョンにアクセスできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:Einstein ボット標準レポートの操作\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

AnalyticsBotSession オブジェクトの削除

AnalyticsBotSession オブジェクトは、API クエリでセッション関連のデータを入力するために使用されました。Winter '23 以降、AnalyticsBotSession レコードにはアクセスできなくなりました。代わりに、新しいセッション評価指標オブジェクト (ConversationDefinitionSession) を使用して、同じデータを取得します。また、ConversationDefinitionSessionEngagement 連結オブジェクトを使用して、ConversationDefinitionSession レコードと LiveChatTranscript または MessagingSession レコードをリンクすることもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

ボットユーザーコンテキストでフローの実行 (リリース更新)

この更新を有効にすると、ボットで開始されたフローでは、ボットに関連付けられたユーザープロファイルと権限セットを使用して、フローのオブジェクト権限と項目レベルのアクセス権が決定されます。このリリース更新は Summer '23 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

時期: Salesforce は、この更新を Summer '24 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: 以前は、ボットで開始されたフローはシステムコンテキストで実行されていました。システムコンテキストで実行されるフローには、すべてのデータにアクセスして変更する権限があります。

この更新では、ボットで開始されたフローはユーザーコンテキストで実行されます。ボットでフローが開始されると、ボットに関連付けられたユーザープロファイルと権限セットおよび共有ルールによって、フローのオブジェクト権限と項目レベルのアクセス権が決定されます。

この更新により、ボットがアクセス権を持たないレコードを意図せずに作成または変更してしまうことを防止できるため、Salesforce のセキュリティが強化されます。

方法: この更新を有効にすると、ボットで開始されたフローでは、ボットにアクセス権限または変更権限がないレコードを作成、参照、更新、削除できなくなります。

本番組織でこの更新を有効にする前に、Sandbox 組織または開発者組織でこの更新を有効にして、フローを実行するボットをテストすることをお勧めします。ボットから開始されたフローですべてのフロー操作を実行できることをテストします。

フローが失敗した場合、欠落している権限を特定し、ボットに関連付けられているユーザープロファイルまたは権限セットにその権限を追加します。

関連トピック:

[リリース更新](#)

拡張ボットの新しいメッセージングコンポーネントを使用したエージェントの時間の節約(ベータ)

認証コンポーネント、カスタムコンポーネント、フォームコンポーネント、支払メッセージングコンポーネントを使用して、顧客を支援し、サービスエージェントの時間を節約します。拡張ボットでは拡張Apple Messages for Business チャネルでより複雑な使用事例を処理できるようになりました。フォームコンポーネントはアプリ内および Web のメッセージングでも使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

 **メモ:** Einstein ボットの認証コンポーネント、カスタムコンポーネント、フォームコンポーネント、支払コンポーネントはベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「契約および規約」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

理由: 新しいメッセージングコンポーネントでは、顧客とボットの強力なやりとりがサポートされます。

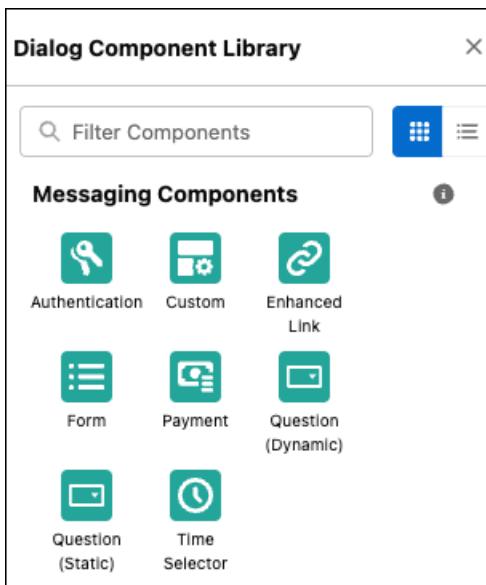
- 認証: 顧客の ID を検証します。
- カスタム: 外部アプリケーションをボットの会話に組み込みます。
- フォーム: フォームを送信して顧客から情報を簡単かつ安全に収集します。
- 支払: Apple Pay を使用して支払を処理します。

認証コンポーネント、フォームコンポーネント、支払コンポーネントは非同期メッセージングコンポーネントの新しいクラスです。他のメッセージングコンポーネントとは異なり、ボットが非同期コンポーネントを送信すると、顧客はコンポーネントに後で応答できます。

自然な会話環境を確保するには、シナリオに応じて顧客の入力を待機するか次のダイアログステップに進むようにボットに指示できます。また、非同期コンポーネントのエラー処理をカスタマイズして、ボットでのエラーの応答方法を制御することもできます。

方法: [設定] の [メッセージングコンポーネント] ページでコンポーネントを作成および管理します。

メッセージングコンポーネントを拡張ボットに追加するには、ボットビルダーの [ダイアログ] ページで、関連付けられたダイアログステップをダイアログに追加します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 非同期メッセージングコンポーネント \(ベータ\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 拡張ボットとの外部アプリケーションの共有 \(ベータ\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[拡張 Apple Messages for Business の概要 \(正式リリース\)](#)

Einstein 分類

生成 AI で Einstein for Service: 作業概要を使用したケースの迅速なクローズが正式リリースされました。

このセクションの内容:

[生成 AI 搭載の Einstein 作業概要を使用したケースの迅速なクローズ \(正式リリース\)](#)

AI で生成されるケースの概要を使用したエージェントの時間節約が正式リリースされました。エージェントと顧客間のチャット会話に基づいて、Einstein は概要、問題、解決策を予測して入力します。その後、エージェントが概要を確認し、編集して、保存できます。

[会話中の概要を使用してエージェントやスーパーバイザーが最新状況を把握](#)

エージェントやスーパーバイザーが有効な音声通話やメッセージングセッションに参加すると、会話に関する AI が生成した概要をリアルタイムで表示して、迅速にコンテキストを提供できます。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

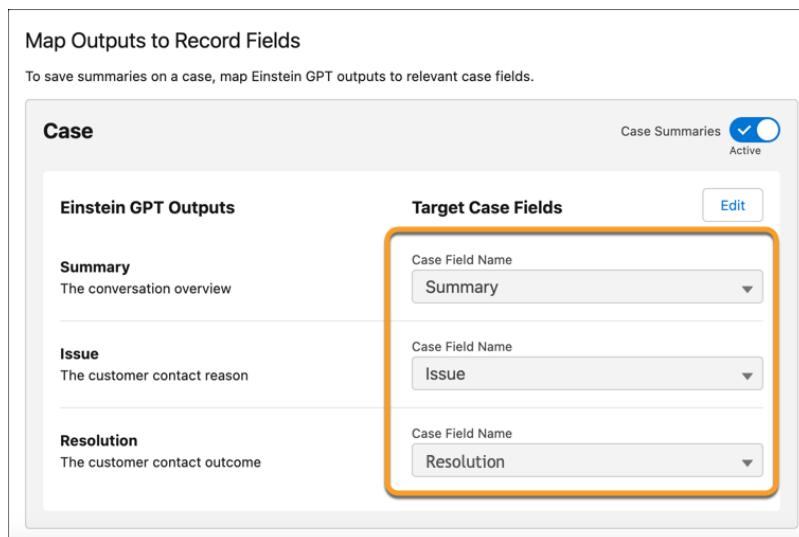
生成 AI 搭載の Einstein 作業概要を使用したケースの迅速なクローズ(正式リリース)

AIで生成されるケースの概要を使用したエージェントの時間節約が正式リリースされました。エージェントと顧客間のチャット会話に基づいて、Einsteinは概要、問題、解決策を予測して入力します。その後、エージェントが概要を確認し、編集して、保存できます。

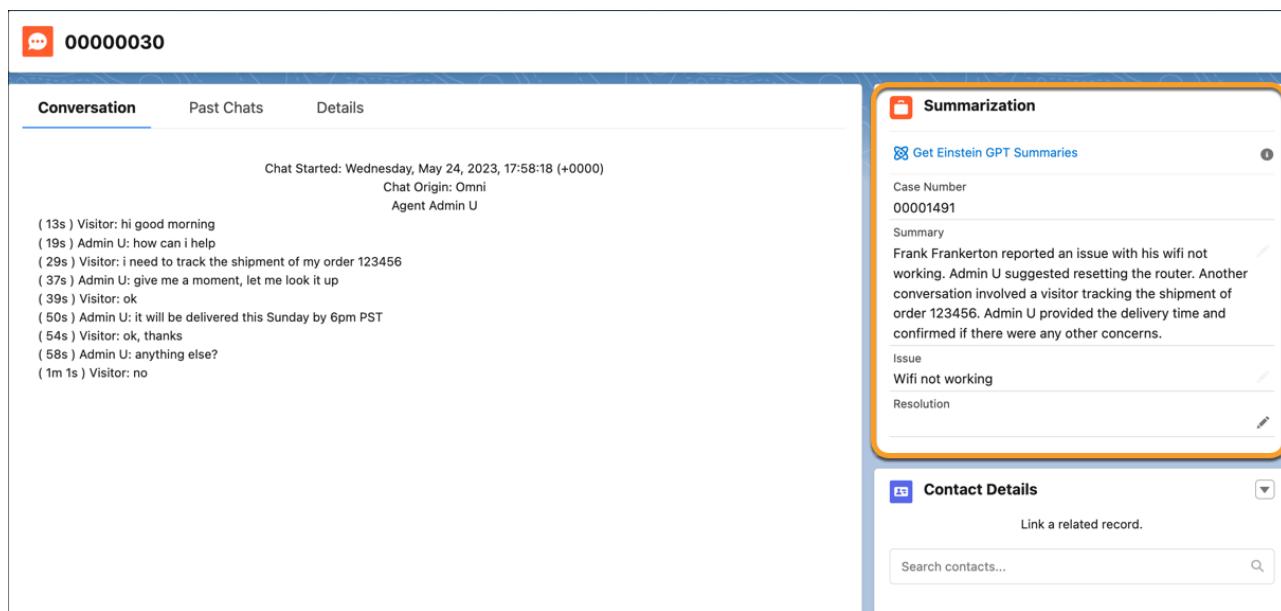
対象: この変更は、Service Cloud Einstein および Einstein GPT for Service アドオンを含む Unlimited Edition に適用されます。Einstein for Service は Lightning Experience で使用できます。Einstein GPT for Service アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。作業概要は英語 (US) のみで使用できます。

方法: 作業概要には Live Agent とサービスコンソールアプリケーションが必要です。

作業概要の使用を開始するには、Einstein for Service の [作業概要] 設定ページから作業概要を有効化します。[Map Outputs to Record Fields (出力をレコード項目に対応付け)] セクションで、Einstein 出力を対応付けるケース項目を選択します。



エージェントに概要を表示するには、Lightning アプリケーションビルダーでラップアップコンポーネントをチャットトランスクriptページに追加します。エージェントが [Einstein のおすすめを取得] をクリックすると、Einstein は [サマリー]、[問題]、[解決] の各項目の値を予測して入力します。



エージェントは会話中も会話後も予測を取得できます。Einsteinは既存の会話コンテキストのみを使用して予測を生成するため、概要はチャットセッションの最後により詳細で正確になります。エージェントが[チャットを終了する]をクリックすると、Einsteinは完了した会話から新しい概要、問題、解決策を生成します。

その後、エージェントが概要を確認し、編集して、保存できます。

関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[Trailhead: Einstein Generative AI: Quick Look \(Einstein 生成 AI: クイックルック\)](#)

会話中の概要を使用してエージェントやスーパーバイザーが最新状況を把握

エージェントやスーパーバイザーが有効な音声通話やメッセージングセッションに参加すると、会話に関するAIが生成した概要をリアルタイムで表示して、迅速にコンテキストを提供できます。

対象: この変更は、Service Cloud Einstein および Einstein GPT for Service アドオンを含む Unlimited Edition の拡張 WhatsApp、拡張 Facebook Messenger、アプリ内および Web のメッセージング、および Service Cloud Voice に適用されます。

Einstein GPT は Lightning Experience で使用できます。Einstein GPT for Service アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

対象ユーザー: 会話のキャッチアップを使用するには、Service Cloud Einstein と Einstein GPT Service のアドオンライセンスが必要です。この機能は英語でのみ使用できます。

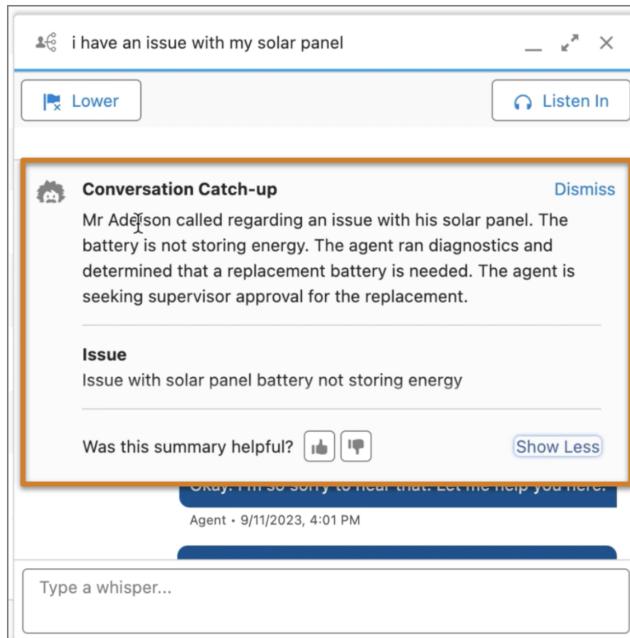
方法: 会話のキャッチアップでは、次の重要なタイミングでリアルタイムの概要が表示されます。

- エージェントが他のエージェントやボットから転送された音声通話やメッセージングセッションを受け入れたとき
- スーパーバイザーが Omni Supervisor ダッシュボードで [監視] をクリックし、エスカレーションまたはエージェントフラグの有効化に対応したとき

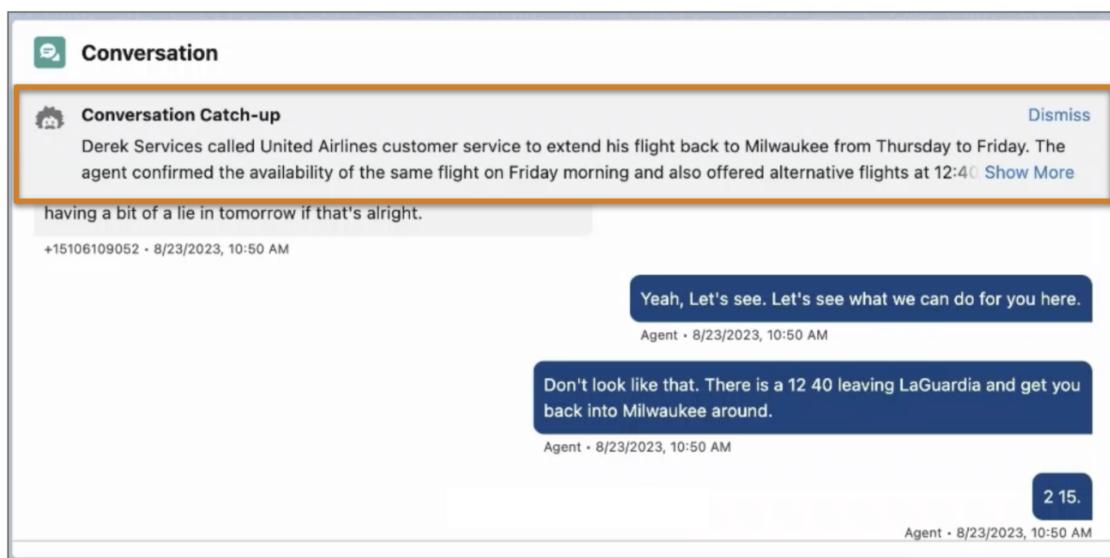
会話の上部にある[会話のキャッチアップ]ウィンドウに概要が表示されます。そこでは、ユーザーは次のこと ができます。

- 問題に関する1行の概要とより長い詳細な説明を表示する。
- 不要になったときに概要を破棄する。破棄後は概要を取得することはできませんが、ブラウザーのページ を更新すると新しい概要が表示されます。
- 上向きの親指または下向きの親指を選択して、概要の正確さと有用性を評価する。

スーパーバイザーには次のように表示されます。



エージェントには次のように表示されます。



会話のキャッチアップを有効にするには、[設定] の [Einstein 作業概要] ページに移動します。作業概要を有効にして、[会話のキャッチアップ] タブをクリックし、エージェント、スーパーバイザー、またはその両方の概要を有効にします。

関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[Salesforce ヘルプ: エージェントとスーパーバイザーに対する会話途中の概要の表示](#)

Einstein 会話マイニング

Einstein 会話マイニングを使用して会話データをサービスインサイトに変換し、ボットインテントを作成します。メールの会話または関連するトランск립トを使用してレポートを作成します。

このセクションの内容:

[Einstein 会話マイニングを使用したサービスインサイトの取得およびボットインテントの作成\(正式リリース\)](#)

正式リリースされた Einstein 会話マイニングを使用して、会話データをサービスインサイトに変換し、ボットインテントを作成します。Einstein 会話マイニングは、数週間の時間がかかるトランスク립ト分析を置き換えるものです。

[会話マイニングレポートの作成時にメールの会話を含める\(正式リリース\)](#)

Einstein 会話マイニングでメールの会話を使用したレポートの作成が正式リリースされました。これらのレポートは、一般的なケースや顧客の問題を適切に理解して特定するのに役立ちます。以前は、Einstein 会話マイニングでは、Live Chat トランスク립トのみが参照されていました。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

Einstein 会話マイニングを使用したサービスインサイトの取得およびボットインテントの作成(正式リリース)

正式リリースされた Einstein 会話マイニングを使用して、会話データをサービスインサイトに変換し、ボットインテントを作成します。Einstein 会話マイニングは、数週間の時間がかかるトランスク립ト分析を置き換えるものです。

対象: この変更は、サービスインテリジェンスアドオンを含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein 会話マイニングの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

理由: Live Chat トランスク립トまたは関連付けられたケースレコードの任意の項目を使用して、特定の利用者の詳細に基づいてレポートを作成します。同じデータセットの検索条件に基づいて複数のレポートを作成する機能は、さまざまな顧客のニーズに応じてボットをカスタマイズするのに役立ちます。次に、Einstein は要求のグループ化とランク付けを行って、最も多く発生し、最も容易に自動化できる連絡理由を特定します。そして次に、連絡理由からのチャットデータを Einstein ボットに送信したり、インテントセットを作成したりできます。

Top Recommendations

Topic	Summary	Excerpts	Average Duration	Average Turns	of Chats	Chats	View Details
have, premier league soccer question	Summary english premier league soccer	Hello. I need to know what place the English Premie... How is Brighton doing? Are they playing now?	5.00 min	12.72	10.19%	793	View Details
look, place	Summary takeout food	Hi. I'd like to order takeout. Hello. I'd like to order takeout burritos for one perso... Yeah, I'd like to order some takeout for two people.	5.00 min	12.74	5.81%	452	View Details
music, hear	Summary hear some music by taylor swift,hear some music by michael buble,hear some music by billy joel	Hi. I'd like to hear a song by J Cole? Hi, can I hear a song by Kendrick Lamar? I would like to listen some music by George Jones.	5.00 min	12.8	5.43%	423	View Details

Topics

7 Topics containing 51 Contact Reasons from Chat Transcripts. Sorted by significance.

Topic	Percentage	Count	Average Duration	Average Turns
hotel, find	21.27%	1,656	5 min	23.05

> 18 Contact Reasons

方法:[設定] の [Einstein 会話マイニング] に移動します。次に、[Einstein 会話マイニング] を有効にしてオプトインします。

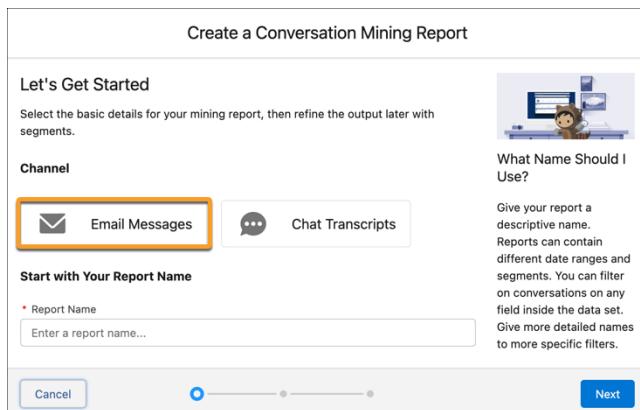
Einstein 会話マイニングには、特定可能な連絡理由が含まれる 2,500 件以上のレコードが必要です。Einstein 会話マイニングでは、ビジネスの使用事例が含まれない部分的な会話など、特定可能な連絡理由のない会話は除外されます。レポートを作成するには、Einstein 会話マイニングには検索条件適用後の 2,500 件のレコードが必要です。

会話マイニングレポートの作成時にメールの会話を含める(正式リリース)

Einstein 会話マイニングでメールの会話を使用したレポートの作成が正式リリースされました。これらのレポートは、一般的なケースや顧客の問題を適切に理解して特定するのに役立ちます。以前は、Einstein 会話マイニングでは、Live Chat トランск립トのみが参照されていました。

対象: この変更は、サービスインテリジェンスアドオンを含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein 会話マイニングの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

方法: [設定] の [Einstein 会話マイニング] に移動して、メールチャネルのパイロットを有効にします。次に、レポートを作成するときにチャネルの [メールメッセージ] を選択します。



メールレポートを作成するには、メール-to-ケースを使用して作成された外部カスタマーサポートケースのみを含める検索条件を追加します。

Einstein 返信レコメンデーション

チャットとメール用の Einstein サービス返信と、正式リリースされたナレッジグラウンディング付きのサービスの返信で、生成 AI を使用してエージェントの生産性を向上させます。

このセクションの内容:

[Einstein サービス返信を使用したエージェントの生産性と応答品質の最適化\(正式リリース\)](#)

エージェント用の応答のおすすめをリアルタイムで取得します。正式リリースされた Einstein 生成 AI は、チャットの会話をリアルタイムで追跡し、流暢で、丁寧で、関連性の高い応答を作成してエージェントに提案します。エージェントは、提案された応答を確認し、編集してから投稿できます。

[グラウンディング済み Einstein サービス返信によるエージェントの時間の節約と精度の向上\(正式リリース\)](#)

独自の知識ベースに基づき、エージェント用に AI で生成された応答をリアルタイムで取得します。グラウンドィングを使用して、Einstein は現在の会話に関連する記事を取得し、その情報を使用しておすすめの返信のドラフトを作成します。以前は、サービス返信はコンテキストのみに基づいていました。

[メールのサービス返信を使用した顧客ケースの迅速な解決\(正式リリース\)](#)

AI で生成されたメールレスポンスを使用して、顧客からの質問にすばやく対応してエージェントの処理時間を短縮します。Einstein はケースに関連するおすすめのナレッジ記事を提案し、エージェントが選択した記事からメールのドラフトを作成します。エージェントは、Lightning メールコンポーネントでレスポンスを確認、編集、送信するか、またはドラフトのテキストをコピーして外部のメールプロバイダーに貼り付けることができます。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

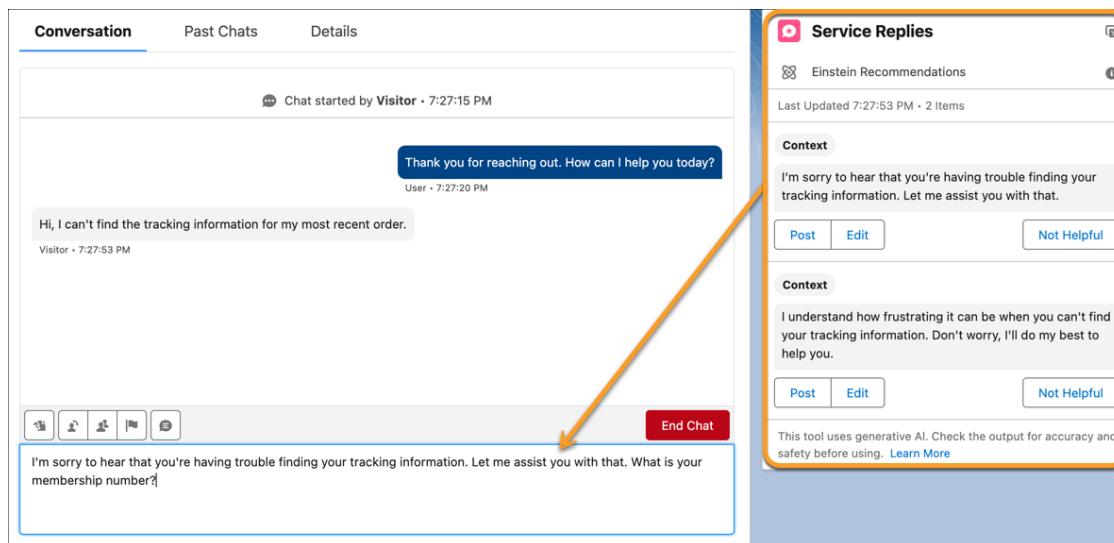
Einstein サービス返信を使用したエージェントの生産性と応答品質の最適化(正式リリース)

エージェント用の応答のおすすめをリアルタイムで取得します。正式リリースされた Einstein 生成 AI は、チャットの会話をリアルタイムで追跡し、流暢で、丁寧で、関連性の高い応答を作成してエージェントに提案します。エージェントは、提案された応答を確認し、編集してから投稿できます。

対象: この変更は、Service Cloud Einstein および Einstein GPT for Service アドオンを含む Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。サービス返信は英語 (US) のみで使用できます。

Einstein GPT for Service アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: [設定] の [Einstein 返信レコメンデーション] ページで [Service Replies (サービスの返信)] を有効にします。エージェントに Einstein 返信レコメンデーションコンポーネントの [Service Replies (サービスの返信)] へのアクセス権を付与するには、エージェントに「サービス返信ユーザー」権限セットを割り当てます。



エージェントは、[おすすめ] コンポーネントで返信を確認し、編集してから投稿できます。

関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[Trailhead: Einstein Generative AI: Quick Look \(Einstein 生成 AI: クイックルック\)](#)

グラウンディング済み Einstein サービス返信によるエージェントの時間の節約と精度の向上(正式リリース)

独自の知識ベースに基づき、エージェント用に AI で生成された応答をリアルタイムで取得します。グラウンドィングを使用して、Einstein は現在の会話に関連する記事を取得し、その情報を使用しておすすめの返信のドラフトを作成します。以前は、サービス返信はコンテキストのみに基づいていました。

対象: この変更は、Service Cloud Einstein および Einstein GPT for Service アドオンを含む Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。サービス返信は英語 (US) のみで使用できます。

Einstein GPT for Service アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: [設定] の [Einstein for Service: グラウンディング] ページでグラウンディングを有効にします。サービス返信によって、グラウンディング済みの返信のエージェントへの表示が自動的に開始されます。Einsteinは、おすすめコンポーネントの各返信の上に、どの返信が会話コンテキストまたはナレッジに基づいているかを表示します。

The screenshot shows the Service Replies interface. At the top, there's a header with a star icon and the title "Service Replies". Below it, "Einstein Recommendations" is listed with a refresh icon. The timestamp "Last Updated 2:20:04 PM · 2 Items" follows. A section titled "Knowledge" is highlighted with an orange border. It contains a text block: "To reset your password, you can follow these steps: 1. Go to the login page and click on 'Forgot Password'. 2. Enter your email address and click 'Submit'. 3. Check your email for a password reset link. 4. Click on the link and follow the instructions to reset your password." Below this are "Post", "Edit", and "Not Helpful" buttons. Another section titled "Context" is also highlighted with an orange border. It contains the text: "Sure, I can help you with that. To reset your password, please provide me with your username or email address." Below this are "Post", "Edit", and "Not Helpful" buttons. At the bottom, a note says "This tool uses generative AI. Check the output for accuracy and safety before using." followed by a "Learn More" link.

関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[Trailhead: Einstein: クイックルック](#)

メールのサービス返信を使用した顧客ケースの迅速な解決 (正式リリース)

AIで生成されたメールレスポンスを使用して、顧客からの質問にすばやく対応してエージェントの処理時間を短縮します。Einsteinはケースに関連するおすすめのナレッジ記事を提案し、エージェントが選択した記事からメールのドラフトを作成します。エージェントは、Lightning メールコンポーネントでレスポンスを確認、編集、送信するか、またはドラフトのテキストをコピーして外部のメールプロバイダーに貼り付けることができます。

対象: この変更は、Service Cloud Einstein および Einstein GPT for Service アドオンを含む Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。サービス返信は英語 (US) のみで使用できます。

Einstein GPT for Service アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

How: エージェントがこの機能にアクセスできるようにするには、[設定] で [Service Replies for Email (メールのサービス返信)] を有効にします。

ナレッジ記事に基づいてレスポンスのドラフトを作成するには、関連する記事のドロップダウンメニューから [Draft Einstein Response (Einstein レスponsのドラフト作成)] を選択します。

The screenshot shows the Salesforce Case Detail page for 'Case Case 3: Cannot track our order.' The top navigation bar includes options like '+ Follow', 'Sharing', 'View Case Hierarchy', 'Draft Knowledge Article', and a dropdown menu. Below the header, case details are shown: Priority (Low), Status (On Hold), and Case Number (00001002). The main content area has tabs for 'Feed' (selected) and 'Related'. Under 'Feed', there are buttons for 'Log a Call', 'Post', and 'Email', followed by a text input field 'Recap your call...' and a blue 'Add' button. Below this is a search bar 'Search this feed...' and a refresh icon. A 'Most Recent Activity' section follows. On the right side, there's a 'Knowledge' sidebar with a 'New Article' button. It lists 'Einstein Recommendations' (Last Updated 03:05 PM - 5 recommendations) and two knowledge articles: 'Cannot Track Your Order' (Last Published Oct 1, 2023) and 'Screen Case' (Last Published Oct 1, 2023, 12:02 AM). The 'Cannot Track Your Order' article has options like 'Edit as Draft', 'Archive', 'Attach Article', and 'Draft Einstein Response', with the latter being highlighted by a yellow box.

エージェントは、このメールを Lightning メールコンポーネントで確認、編集、送信するか、またはコピーして外部のメールコンポーネントに貼り付けることができます。

The screenshot shows the Salesforce Einstein-generated email interface. At the top, there are tabs for 'Log a Call', 'Post', and 'Email', with 'Email' being the active tab. Below the tabs, there are fields for 'From' (Admin User <farheen.ahluwalia@salesforce.com>), 'To' (empty), 'Cc' (empty), and 'Bcc' (farheen.ahluwalia@salesforce.com). The 'Subject' field contains 'Sample Case 3: Cannot track our order.' A note below the subject states: 'The content in this email was generated by Einstein and may include inaccurate or harmful responses. Before sharing, review the content for accuracy and safety. You assume responsibility for the content when it's shared.' The main body of the email starts with 'Dear Mark,' followed by a message of thanks for reaching out about tracking issues. It emphasizes the value of order tracking for peace of mind and provides a link to a knowledge article titled 'Cannot Track Your Order'. It also encourages users to reach out if they encounter difficulties. The email ends with 'Best regards,'. At the bottom right, there is a blue 'Send' button.

関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

[Trailhead: Einstein: クイックルック](#)

Einstein for Service グラウンディング

会社のケースとナレッジデータに基づく AI が生成した応答の取得が正式リリースされました。

このセクションの内容:

[会社のデータでの Einstein for Service のグラウンディング \(正式リリース\)](#)

最も関連性の高い記事を取得して、会社の信頼できるデータに基づいて応答のドラフトを作成します。

Einstein for Service: グラウンディングを使用すると、ナレッジ項目とケース項目で Einstein for Service の生成応答に基づいて応答を作成できます。

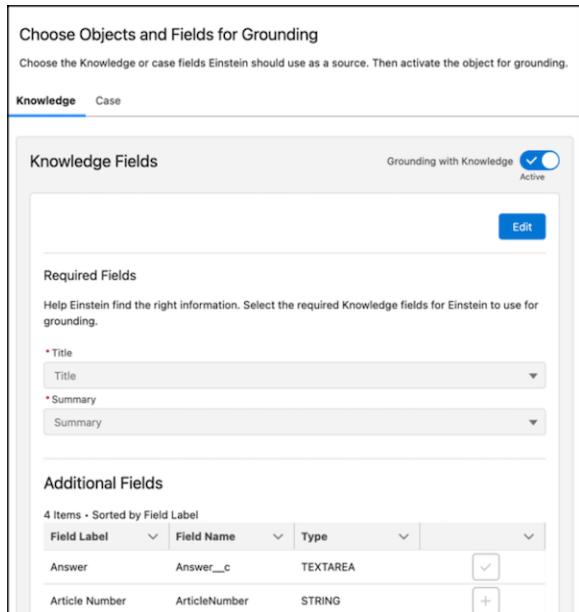
会社のデータでの Einstein for Service のグラウンディング (正式リリース)

最も関連性の高い記事を取得して、会社の信頼できるデータに基づいて応答のドラフトを作成します。 Einstein for Service: グラウンディングを使用すると、ナレッジ項目とケース項目で Einstein for Service の生成応答に基づいて応答を作成できます。

対象: この変更は、Service Cloud Einstein および Einstein GPT for Service アドオンを含む Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。 Einstein GPT は Lightning Experience で使用できます。 Einstein GPT の設定は Lightning Experience

で使用できます。Einstein GPT for Service アドオンを購入するには、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: [設定] の [Einstein for Service: グラウンディング] ページで、ナレッジとケースのグラウンディングを有効にします。次に、Einstein が焦点を絞るべきナレッジオブジェクトとケース項目を選択します。



関連トピック:

[Einstein 生成 AI の機能](#)

Service Intelligence

Service Intelligence は、コンタクトセンターの主要業績指標を表示するデータ駆動型ソリューションです。顧客サービスの目標を達成しているかどうかは、一目で認識できるデータの視覚化によって判断できます。

サービスインテリジェンスには、DataCloud、CRM Analytics、Einstein会話マイニングが含まれています。顧客データ、重要業績評価指標 (KPI)、人工知能 (AI) を組み合わせることで、サービスチームは業務を改善し、コストを削減することができます。

サービスインテリジェンスとその機能は、有料オプションで使用できます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

[サービスインテリジェンスによるコストの削減と業務の改善](#)

顧客データから得られるインサイトを活用して、サービスチャネル全体のサービス傾向、エージェントの行動、顧客満足度スコアを把握できます。既成のダッシュボードにアクセスし、サービスデータを1か所から確認できるため、より適切なサービスの意思決定を行うことができます。CRM Analytics を使用して、データクラウドからのサービスインサイトをエージェントの作業のフローに直接組み込みます。

Data Cloudへのサービスアセットの追加適用

サービスデータキットのバージョン2.0を使用して、追加のサービスデータをServiceCloudに取り込みます。この更新バージョンには、アンケート、エージェント、メール、会話、およびユーザー関連アセットを簡単にインストールできる、サービスおよびEinstein会話データバンドルが含まれています。これらのデータアセットは、コンタクトセンターの主要業績指標を表示するデータ駆動型ソリューションであるService Intelligenceで重要な役割を果たします。

サービスインテリジェンスによるコストの削減と業務の改善

顧客データから得られるインサイトを活用して、サービスチャネル全体のサービス傾向、エージェントの行動、顧客満足度スコアを把握できます。既成のダッシュボードにアクセスし、サービスデータを1か所から確認できるため、より適切なサービスの意思決定を行うことができます。CRM Analyticsを使用して、データクラウドからのサービスインサイトをエージェントの作業のフローに直接組み込みます。

対象: この変更は、有料オプションとしてEnterprise EditionおよびUnlimited EditionのLightning ExperienceのService Cloudに適用されます。

時期: 今後のWinter '24リリースで適用されます。

対象ユーザー: サービスインテリジェンスダッシュボードを使用するには、「サービスインテリジェンスユーザー」権限セットが必要です。サービスインテリジェンスダッシュボードを管理するには、「サービスインテリジェンスマネジメント」権限セットが必要です。

方法: サービスインテリジェンスを有効にするには、[設定]で[クイック検索]ボックスに「*Service Intelligence*」と入力し、[Service Intelligence設定]を選択します。必須の設定手順を完了します。CRM Analyticsを有効化して、サービスインテリジェンスを有効にします。「サービスインテリジェンス」権限セットを、サービスインテリジェンスにアクセスする必要があるユーザーに割り当てます。

このセクションの内容:

ケースダッシュボードによるサービス業務の監視

サービスチームの取り扱い件数を包括的に把握します。エスカレーション済みケースの合計、解決までの平均時間、初回連絡での解決率、チャネル別の顧客満足度スコア(CSAT)などの主要な統計情報に注目してください。

オムニチャネルダッシュボードでのエージェントのパフォーマンスの向上

オムニチャネルのルーティングおよびキューの全体的なルーティング効率とエージェントのパフォーマンスをすばやく特定します。作業量、受諾または拒否された作業、平均処理時間、回答までの平均速度、サービスレベルの達成率などを確認できます。

Einstein Conversation Mining Dashboardsでの上位の顧客要求の確認

顧客がEinstein AIに支援を求める主な理由を確認できます。上位のトピックや連絡理由を参照できます。それらは、回数、会話時間、会話がボットからエージェントに引き継がれた時間、対話あたりの平均コストなどの基準別に表示できます。

エージェントが My Performance ダッシュボードで自分の取り扱い件数を見られるようにする

エージェントは、このダッシュボードを使用して取り扱い件数を包括的に見ることができます。エスカレーション済みケースの合計、解決までの平均時間、初回連絡での解決率、チャネル別の顧客満足度スコア (CSAT) などの主要な統計情報に注目してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サービスインテリジェンス\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスインテリジェンスの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスインテリジェンス: クイックルック\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

ケースダッシュボードによるサービス業務の監視

サービスチームの取り扱い件数を包括的に把握します。エスカレーション済みケースの合計、解決までの平均時間、初回連絡での解決率、チャネル別の顧客満足度スコア (CSAT) などの主要な統計情報に注目してください。

方法: [概要] タブで、[概要] をクリックすることで概要の詳細を確認できます (1)。



検索条件を使用して、対応時間が長かったり、初回連絡での解決率が低いケースを特定し、サービス業務を改善する機会を見つけたり(2)、全般的な統計を確認したり(3)できます。グラフでは、チャネル、優先度、状況別のケースと、受信ケースを参照できます(4)。アンケートやチャネル別に、解決までの平均時間、エスカレーション済みケース、およびCSATを把握できます(5)。最後に、興味のあるケースごとに詳細までドリルダウンできます(6)。

関連トピック:

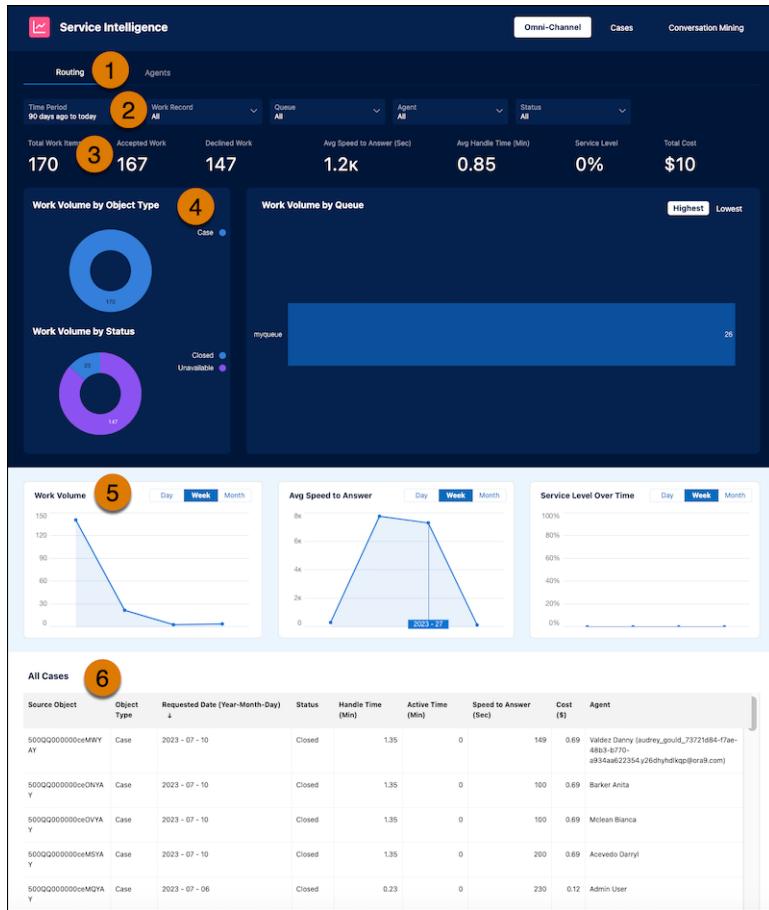
[Salesforceヘルプ:サービスインテリジェンス\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:サービスインテリジェンスダッシュボード\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

オムニチャネルダッシュボードでのエージェントのパフォーマンスの向上

オムニチャネルのルーティングおよびキューの全体的なルーティング効率とエージェントのパフォーマンスをすばやく特定します。作業量、受諾または拒否された作業、平均処理時間、回答までの平均速度、サービスレベルの達成率などを確認できます。

方法: [ルーティング] タブで、[ルーティング] をクリックすることで概要の詳細を確認できます(1)。



検索条件を選択して表示を絞り込み(2)、概要レベルの統計を確認できます(3)。グラフでは、オブジェクト種別、状況、キューバーに作業量を参照できます(4)。全体的な作業量、平均回答時間、サービスレベルを時系列で確認できます(5)。最後に、興味のあるケースごとに詳細までドリルダウンできます(6)。

関連トピック:

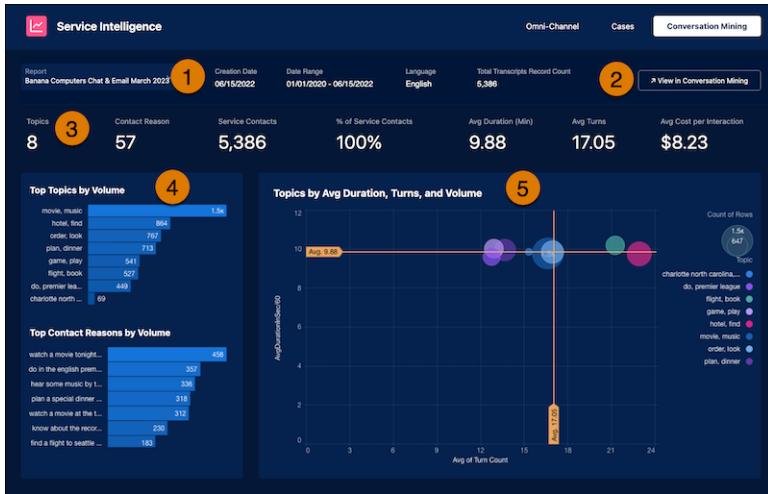
[Salesforceヘルプ:サービスインテリジェンス\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:サービスインテリジェンスダッシュボード\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Einstein Conversation Mining Dashboards での上位の顧客要求の確認

顧客が Einstein AI に支援を求める主な理由を確認できます。上位のトピックや連絡理由を参照できます。それらは、回数、会話時間、会話がボットからエージェントに引き継がれた時間、対話あたりの平均コストなどの基準別に表示できます。

方法:[会話マイニング] で、レポートの詳細を参照できます(1)。



ダッシュボードから [会話マイニング] を開き (2)、会話マイニングの概要レベルの詳細を表示します (3)。上位のトピックと連絡理由を回数別に表示します (4)。トピックを平均期間、やり取りの数、回数別に表示します (5)。

関連トピック:

[Salesforceヘルプサービスインテリジェンス\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプサービスインテリジェンスダッシュボード\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

エージェントが My Performance ダッシュボードで自分の取り扱い件数を見られるようにする

エージェントは、このダッシュボードを使用して取り扱い件数を包括的に見ることができます。エスカレーション済みケースの合計、解決までの平均時間、初回連絡での解決率、チャネル別の顧客満足度スコア (CSAT) などの主要な統計情報に注目してください。

How: [My Performance] で、高優先度、最新、発生源などの検索条件 (1) を使用して、確認したいケースを絞り込みます。



概要の統計 (2) を確認します。グラフでは、チャネル、優先度、状況別に並べ替えられたケース (3)、受信ケースを (4) 参照できます。アンケートやチャネル別に、解決までの平均時間、エスカレーション済みケース、平

均CSAT、およびチャネル別CSAT⁽⁵⁾を把握できます。最後に、興味のある作業⁽⁶⁾に詳細までドリルダウンできます。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:サービスインテリジェンス\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:サービスインテリジェンスダッシュボード\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Data Cloudへのサービスアセットの追加適用

サービスデータキットのバージョン2.0を使用して、追加のサービスデータをService Cloudに取り込みます。この更新バージョンには、アンケート、エージェント、メール、会話、およびユーザー関連アセットを簡単にインストールできる、サービスおよびEinstein会話データバンドルが含まれています。これらのデータアセットは、コンタクトセンターの主要業績指標を表示するデータ駆動型ソリューションであるService Intelligenceで重要な役割を果たします。

対象: この変更は、有料オプションとしてEnterprise EditionおよびUnlimited EditionのLightning ExperienceのService Cloudに適用されます。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:サービスインテリジェンス\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:サービスインテリジェンスアセット\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:サービスインテリジェンス用サービスデータキットのインストール\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

フィードバック管理

アンケートへの招待項目からのデータを使用して、アンケートへの回答に基づいてレコードを作成または更新します。アンケートへの招待や、取引先およびケース所有者へのカスタム通知でタイムリーなアクションを実行します。新しい評価アイコンで顧客エンゲージメントをより正確に測定します。エンゲージメントを高める長いアンケートへの招待メールを送信します。

このセクションの内容:

[アンケートへの招待項目データを使用したレコードとしてのフィードバックの取得](#)

データ対応付けを使用して、アンケートへの招待項目値でレコードを作成または更新します。回答の送信時にアンケートへの招待項目値を渡すことで、対象オブジェクト項目値を定義します。

[カスタム通知の受信によるアンケートへの回答の把握](#)

招待や差し込み項目データに基づいたカスタム通知を受け取って、タイムリーなアクションを実行します。招待データ、参加者データ、またはデータ対応付けの他のデータを使用して通知の受信者を指定します。

新しいアイコンによる評価アンケートの強化

既存の星アイコンに加えて、絵文字、サムアップ、ハートなどの新しいアイコンで評価の質問をパーソナライズします。評価アイコンを使用して、商品やサービスに対する参加者のエクスペリエンスを効果的に測定します。

より詳細なアンケートへの招待メールによるエンゲージメントの増加

文字制限のないパーソナライズされたアンケートへの招待メールを作成して送信することで、アンケートへの回答率を高めます。

Salesforce フィードバック管理プレリリーストライアル組織の作成

システム管理者、アーキテクト、開発者は、このリリースの機能を実際に試してレビューできます。

アンケートへの招待項目データを使用したレコードとしてのフィードバックの取得

データ対応付けを使用して、アンケートへの招待項目値でレコードを作成または更新します。回答の送信時にアンケートへの招待項目値を渡すことで、対象オブジェクト項目値を定義します。

対象: この変更は、Feedback Management - Starter または Feedback Management - Growth が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: データ対応付けでアンケートへの招待項目を作成するには、ユーザーに「Salesforce 高度な機能のスターター」権限または「Salesforce アンケートの高度な機能」権限が必要です。

理由: たとえば、データ対応付けを使用して、顧客が特定のスコアを付けるたびにフォローアップケースレコードを作成できます。招待項目レコードを使用して、参加者レコード ID をケースの連絡先レコード ID に対応付けることができます。また、アンケートへの招待リンクをケースの説明項目に対応付けることもできます。

New Mapping

*Name
Data Map

Action Type
Create Record

*Target Object
Case

Define Target Object Fields and Values

Field	Information Type	Value
Contact ID	Invitation Field	Participant ID
Description	Invitation Field	Invitation Link

Add Row

Condition Type
 Every time
 Based on conditions

Cancel Save

関連トピック:

[Salesforceヘルプ: レコードを作成または更新するためのアンケートデータマップの作成\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

カスタム通知の受信によるアンケートへの回答の把握

招待や差し込み項目データに基づいたカスタム通知を受け取って、タイムリーなアクションを実行します。招待データ、参加者データ、またはデータ対応付けの他のデータを使用して通知の受信者を指定します。

対象: この変更は、Feedback Management - Starter または Feedback Management - Growth が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: データ対応付けでカスタム通知を作成するには、ユーザーに「Salesforce 高度な機能のスター」権限または「Salesforce アンケートの高度な機能」権限が必要です。

理由: たとえば、顧客がアンケートに回答し、その回答が特定の条件と一致するたびにケース所有者にアラートを出すための通知を作成できます。

Edit Mapping

*Name
Follow-Up Case

Action Type
Send Custom Notification

*Notification Type
survey custom notification

*Notification Title
CSAT Alert

*Notification Body
Customer is unhappy with the product.

Notification Recipients

*Recipient Type
Associated Record

*Recipient
CaseDetails.OwnerId

+ Add Recipient

Condition Type
 Every time
 Based on conditions

Select Condition
All conditions are met

*Logic Type
Response to Question

*Question
Please share your experience with us.

*Operator
is less than

*Response
4

+ Add Condition

Cancel Save

関連トピック:

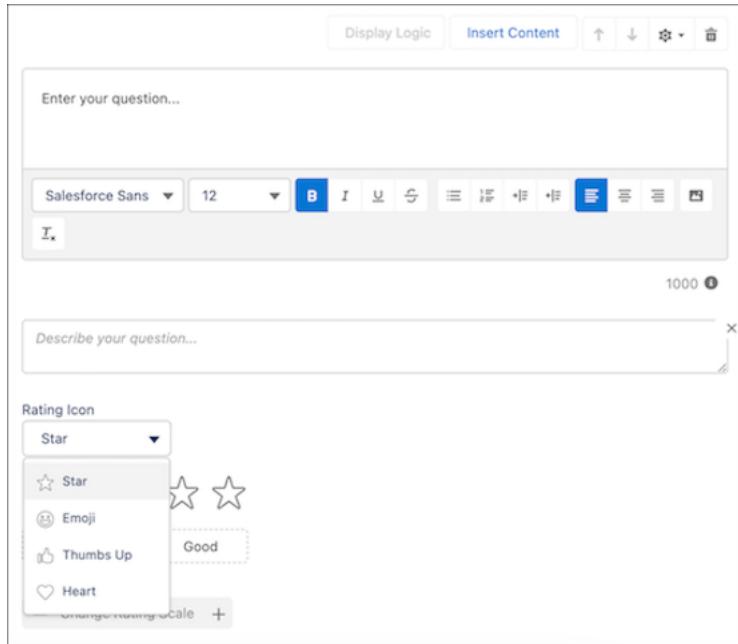
[Salesforceヘルプ:アンケートへの回答に基づいたカスタム通知を送信するデータマップの作成\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

新しいアイコンによる評価アンケートの強化

既存の星アイコンに加えて、絵文字、サムアップ、ハートなどの新しいアイコンで評価の質問をパーソナライズします。評価アイコンを使用して、商品やサービスに対する参加者のエクスペリエンスを効果的に測定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: アンケートビルダーで [質問を追加] をクリックし、[評価] を選択します。質問を追加し、星、ハート、サムアップ、絵文字などの評価アイコンを選択します。



より詳細なアンケートへの招待メールによるエンゲージメントの増加

文字制限のないパーソナライズされたアンケートへの招待メールを作成して送信することで、アンケートへの回答率を高めます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

Salesforce フィードバック管理プレリリーストライアル組織の作成

システム管理者、アーキテクト、開発者は、このリリースの機能を実際に試してレビューできます。

方法: プレリリーストライアル組織にサインアップするには、<https://www.salesforce.com/form/services/sfm-prerelease-trial/> にアクセスしてください。組織が作成されると、ログインの詳細が記載されたメールが届きます。

メモ:

- Winter '24 プレリリーストライアル組織は 2024 年 10 月 15 日まで使用できます。
- トライアル組織は、概念実証とガイド付きの自己探求を目的としています。トライアル組織の有効期限は 15 日です。

サービスカタログ

サービスカタログは、セルフサービスオートメーションにより、会社の製品およびサービスの要求を承認済みの文書化された注文にするのに役立ちます。

このセクションの内容:

簡単なカタログ設定

[カタログ設定] ページでは、データカテゴリまたはカタログカテゴリのカタログ分類方法を参照して、目的に合った方法を簡単に設定できます。このページに表示される、直感的な UI によって簡単に分類方法を設定できます。以前は、サービスカタログはカタログのカテゴリしかサポートしていませんでした。

中央ハブでの簡単なカタログの表示と管理

[サービス管理設定] ページを使用すれば、すべてのカタログ項目とカテゴリを1か所から表示および管理できます。このページでは、項目を主要として割り当てたり、カテゴリに割り当てたりできるので、カタログ管理が簡単になります。また、顧客に表示されるとおりに、すべてのカタログ項目、カテゴリ、およびそれらの階層のインデックスを表示することもできます。サービスカタログは以前は、カタログ項目ビルダーで管理していました。

カタログの管理方法についての確認

カタログ項目やカテゴリをシームレスに管理するためのカタログ管理ページの使用方法については、アプリケーション内ガイダンスのウォークスルーを活用してください。以前は、カタログ管理はカタログ項目ビルダーで行い、設定ガイダンスを参照するにはヘルプに切り替える必要がありました。

カタログ履行の使用方法の確認

[カタログフル履行] ページのアプリケーション内ガイダンスを使用することで、履行が FlowBuilder のオートメーションをどのように強化し、カタログ項目の処理を迅速に開始するかを確認できます。以前は、履行ガイダンスのヘルプに切り替える必要がありました。

パートナーと顧客へのサービスカタログの公開

Experience Cloud の Lightning Web Runtime (LWR) フレームワークを使用してサービスカタログサイトを作成します。サービスカタログサイトにより、顧客からサービスカタログのカタログ項目を閲覧および要求可能な、直感的なセルフサービス環境を提供できます。サービスカタログ用に作成されたポイント & クリック LWR コンポーネントを使用することで、サイトの作成、スタイル設定、起動を簡単に行えます。以前は、サービスカタログは Aura しかサポートしていませんでした。

主要カタログ項目への顧客からのクリックアクセスのサポート (ベータ)

LWR サービスカタロググリッドコンポーネントをサービスカタログサイトページに追加することで、顧客やパートナーからカタログの上位項目へ迅速にアクセスできるようになります。以前は、このコンポーネントをサポートしているのは Aura サービスカタログサイトのみでした。

顧客へのカタログ商品の詳細の表示

LWR サービスカタログレコードの詳細コンポーネントを使用することで、カタログを閲覧している顧客やパートナーに、名前や画像などのカタログ項目の詳細を表示できます。以前は、このコンポーネントをサポートしているのは Aura サービスカタログサイトのみでした。

サービスカタログサイトへのデータカテゴリの追加

データカテゴリを使用することで、顧客から、ビジネスのセルフサービスグループやカテゴリの階層的なコレクションを参照できるようになります。LWR サービスカタログサイトにカタログ項目とデータカテゴリを追加すれば、顧客が、迅速に回答を見つけて、問題を解決できるようになります。以前は、サービスカタログではデータカテゴリがサポートされていませんでした。

項目検索を使用した顧客のサービスカタログ環境の強化

顧客とパートナーに、合理化され自動化された検索環境が提供されます。統合検索では、カタログの項目名と説明に基づいてサービスカタログ全体の動的な結果が表示され、検索の自動提案によって、セルフサービスのケースデフレクションが実現されます。

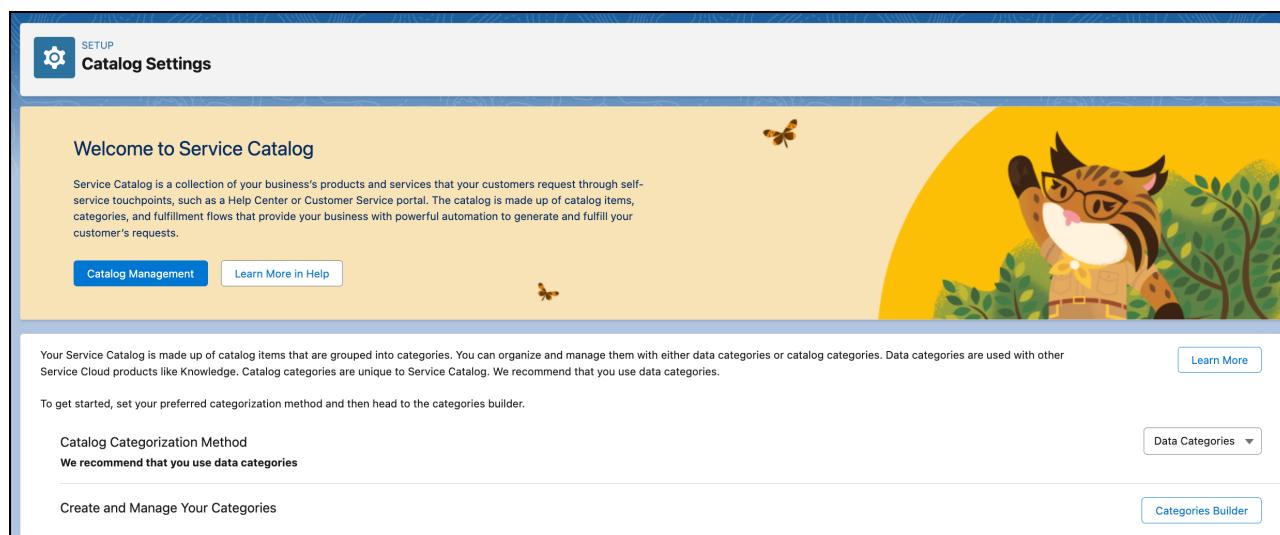
簡単なカタログ設定

[カタログ設定] ページでは、データカテゴリまたはカタログカテゴリのカタログ分類方法を参照して、目的に合った方法を簡単に設定できます。このページに表示される、直感的な UI によって簡単に分類方法を設定できます。以前は、サービスカタログはカタログのカテゴリしかサポートしていませんでした。

対象: この変更は、Unlimited Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、Service Catalog Access 権限セットライセンスが必要です。

理由: 次の図のように、カタログ管理ページで、カテゴリの分類方法を簡単に設定できます。



方法: [設定] で [カタログ管理] ページに移動し、[カタログ分類方法] ドロップダウンを使用して任意の分類方法を設定できます。

関連トピック:

カタログの管理方法についての確認

Salesforce ヘルプ: サービスカタログ (リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Salesforce ヘルプ: カタログカテゴリ (リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Salesforce ヘルプ: データカテゴリ (リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

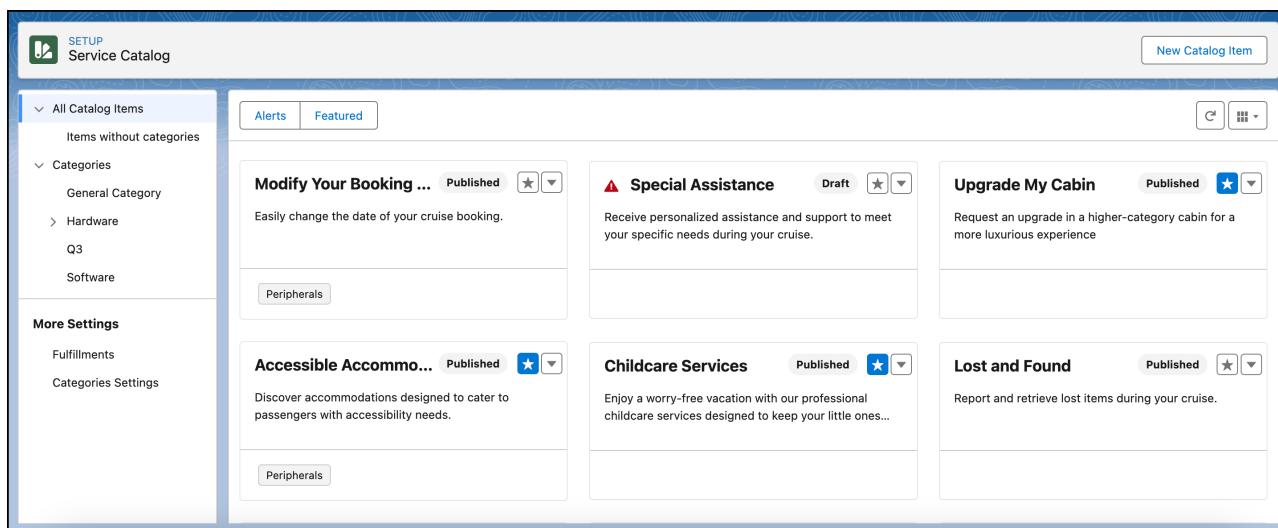
中央ハブでの簡単なカタログの表示と管理

[サービス管理設定] ページを使用すれば、すべてのカタログ項目とカテゴリを 1か所から表示および管理できます。このページでは、項目を主要として割り当てたり、カテゴリに割り当てたりできるので、カタログ管理が簡単になります。また、顧客に表示されるとおりに、すべてのカタログ項目、カテゴリ、およびそれらの階層のインデックスを表示することもできます。サービスカタログは以前は、カタログ項目ビルダーで管理していました。

対象: この変更は、Unlimited Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、Service Catalog Access 権限セットライセンスが必要です。

理由: 次の図のように、カタログ管理ページは、カタログ項目とカテゴリを管理可能なオールインワンページです。



方法: [設定] で [カタログ管理] ページに移動し、ページ上のクリックアクションを使用してサービスカタログを表示、管理、整理します。

関連トピック:

[カタログの管理方法についての確認](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログ \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

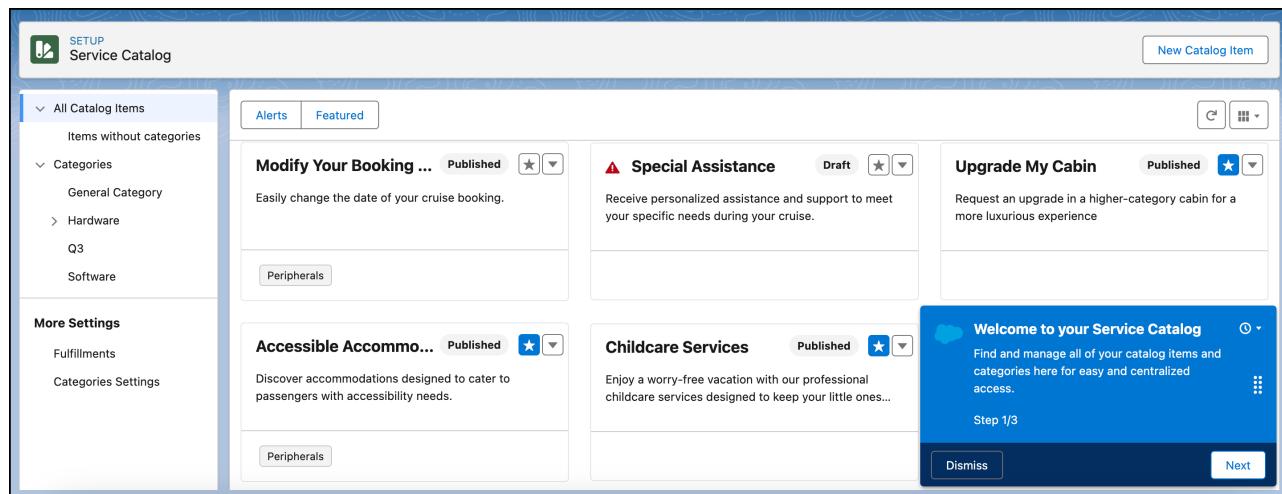
カタログの管理方法についての確認

カタログ項目やカテゴリをシームレスに管理するためのカタログ管理ページの使用方法については、アプリケーション内ガイダンスのウォークスルーを活用してください。以前は、カタログ管理はカタログ項目ビルダーで行い、設定ガイダンスを参照するにはヘルプに切り替える必要がありました。

対象: この変更は、Unlimited Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、Service Catalog Access 権限セットライセンスと「サービスカタログビルダー」権限セットが必要です。

理由: 次の図のように、アプリケーション内ガイダンスで、カタログ管理ページの移動や使用方法を確認できます。



方法: [設定] で [カタログ管理] ページに移動し、アプリケーション内ウォータースルーを参照してページ内の操作手順を確認してください。アプリケーション内ウォータースルーは、初めてページを開いたときに表示されます。そのプロンプトを解除すると、それ以降の 3 日間、毎日 1 回ウォータースルーが表示されます。

関連トピック:

[中央ハブでの簡単なカタログの表示と管理](#)

カタログ履行の使用方法の確認

[カタログフル履行] ページのアプリケーション内ガイダンスを使用することで、履行が Flow Builder のオートメーションをどのように強化し、カタログ項目の処理を迅速に開始するかを確認できます。以前は、履行ガイダンスのヘルプに切り替える必要がありました。

対象: この変更は、Unlimited Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、Service Catalog Access 権限セットライセンスと「サービスカタログビルダー」権限セットが必要です。

理由: 次の図のように、アプリケーション内ガイダンスで、カタログ履行の使用方法を確認できます。

Fulfillment Name	Automation Name	Description	Package State
Create Case Fulfillment	Create Case for Account	Fulfillment for creating case for an account	Unmanaged
Create Case for Contact	Create Case for Contact	Create case and link to Contact	Unmanaged

Catalog Fulfillments Quickstart

Automate catalog item processing

Service Catalog fulfillments use your screen flows to initiate catalog item processing. In addition, fulfillments add additional capabilities to your screen flows.

With fulfillments, you can:

- Map values and variables to fields from different objects
- Pass user inputs to your screen flows
- Use the same screen flow for multiple field mappings and objects
- Add descriptions and questions to your screen flows

Create and manage your fulfillments in this page. To use Service Catalog, you must have at least one fulfillment.

[Tell Me More](#)

方法:[設定]の[カタログ履行]ページに移動し、ドッキングプロンプトを確認します。そのプロンプトを解除すると、それ以降の3日間、毎日1回ウォータースルーが表示されます。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:カタログ履行\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

パートナーと顧客へのサービスカタログの公開

Experience Cloud の Lightning Web Runtime (LWR) フレームワークを使用してサービスカタログサイトを作成します。サービスカタログサイトにより、顧客からサービスカタログのカタログ項目を閲覧および要求可能な、直感的なセルフサービス環境を提供できます。サービスカタログ用に作成されたポイント&クリック LWR コンポーネントを使用することで、サイトの作成、スタイル設定、起動を簡単に行えます。以前は、サービスカタログは Aura しかサポートしていませんでした。

対象: この変更は、Unlimited Edition (LWR サービスカタログサイト用 Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、Service Catalog Access 権限セットライセンスと 1 つのコミュニティライセンスが必要です。

- Channel Community
- Customer Community
- Customer Community Login
- Customer Community Plus
- Customer Community Plus Login
- External Apps
- Partner Community
- Partner Community Login

理由: サービスカタログサイトでは、コード不要のカスタム LWR コンポーネントを複数使用して、顧客やパートナーにサービスカタログをすばやく公開するための簡単な設定環境が提供されています。Experience Cloud の Build Your Own (LWR) テンプレートを使用することで、サービスカタログコンポーネントをカスタマイズ可能なサイトページにドラッグできます。次に、[スタイル] タブでカスタム CSS を指定するなど、ブランド設定に合わせて各コンポーネントのスタイルを設定します。

次の図に、カスタム LWR コンポーネントを使用するサービスカタログサイトの例を示します。

The screenshot shows a service catalog page for 'Interest'. At the top, there's a navigation bar with 'MBANK' and links for 'Activity', 'Payment', 'Card Services', and 'Help'. On the right, there's a user profile for 'Emily Enterprise Member'. Below the navigation, the page title is 'Interest'.

Self-Service Flows

Two cards are displayed under this section:

- SELF-SERVICE**
Setup interest rate alerts
Enable an automated alert that notifies you when interest rates change.
- SELF-SERVICE**
Lock/unlock a card
Setup your savings account and start saving money today.

Knowledge

Three articles are listed under this section:

- ARTICLE**
The Differences Between Fixed and Variable Interest Rates
Discover the differences between fixed and variable interest rates, including the benefits and drawbacks of each, and how to choose the right type of interest rate for your goals.
- ARTICLE**
How to Choose the Best Savings Account for Your Needs
Learn how to choose the best savings account for your specific financial situation, including factors such as interest rates, fees, minimum balance requirements, and online vs. traditional banking options.
- ARTICLE**
Maximizing Your Savings: Tips and Tricks for Saving More
Discover practical strategies and tips for saving more money, including ideas for cutting expenses, automating your savings, and taking advantage of high-yield savings accounts and other financial tools.

方法: [設定] に移動して、顧客またはパートナー向けのサイトとしてサービスカタログを準備します。次に、エクスペリエンスビルダーを使用してページをすばやく作成し、サービスカタログサイトを構成するコンポーネントを設定します。

関連トピック:

[サービスカタログサイトへのデータカテゴリの追加](#)

[項目検索を使用した顧客のサービスカタログ環境の強化](#)

[主要カタログ項目への顧客からのクイックアクセスのサポート \(ベータ\)](#)

[顧客へのカタログ商品の詳細の表示](#)

[Salesforce ヘルプ: データカテゴリ \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトとは \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトの設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトを作成するための準備 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトの作成 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Experience Cloud フレームワークおよびテンプレートについて \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

主要カタログ項目への顧客からのクイックアクセスのサポート (ベータ)

LWR サービスカタロググリッドコンポーネントをサービスカタログサイトページに追加することで、顧客やパートナーからカタログの上位項目へ迅速にアクセスできるようになります。以前は、このコンポーネントをサポートしているのは Aura サービスカタログサイトのみでした。

対象: この変更は、Unlimited Edition (LWR サービスカタログサイト用 Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「契約および規約」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、Service Catalog Access 権限セットライセンスと 1 つのコミュニティライセンスが必要です。

- Channel Community
- Customer Community
- Customer Community Login
- Customer Community Plus
- Customer Community Plus Login
- External Apps
- Partner Community

- Partner Community Login

方法: [設定] に移動して、顧客またはパートナー向けのサイトとしてサービスカタログを準備します。エクスペリエンスビルダーを使用してサービスカタログサイトページを作成し、サービスカタロググリッドコンポーネントでこのページのスタイルを設定します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトとは\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトを作成するための準備\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

顧客へのカタログ商品の詳細の表示

LWR サービスカタログレコードの詳細コンポーネントを使用することで、カタログを閲覧している顧客やパートナーに、名前や画像などのカタログ項目の詳細を表示できます。以前は、このコンポーネントをサポートしているのは Aura サービスカタログサイトのみでした。

対象: この変更は、Unlimited Edition (LWR サービスカタログサイト用 Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、Service Catalog Access 権限セットライセンスと 1 つのコミュニティライセンスが必要です。

- Channel Community
- Customer Community
- Customer Community Login
- Customer Community Plus
- Customer Community Plus Login
- External Apps
- Partner Community
- Partner Community Login

方法: [設定] に移動して、顧客またはパートナー向けのサイトとしてサービスカタログを準備します。エクスペリエンスビルダーを使用してサービスカタログサイトページを作成し、[サービスカタログレコードの詳細] でこのページのスタイルを設定します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトとは\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトを作成するための準備\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

サービスカタログサイトへのデータカテゴリの追加

データカテゴリを使用することで、顧客から、ビジネスのセルフサービスグループやカテゴリの階層的なコレクションを参照できるようになります。LWRサービスカタログサイトにカタログ項目とデータカテゴリを追加すれば、顧客が、迅速に回答を見つけて、問題を解決できるようになります。以前は、サービスカタログではデータカテゴリがサポートされていませんでした。

対象: この変更は、Unlimited Edition (LWR サービスカタログサイト用 Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、Service Catalog Access 権限セットライセンスと 1 つのコミュニティライセンスが必要です。

- Channel Community
- Customer Community
- Customer Community Login
- Customer Community Plus
- Customer Community Plus Login
- External Apps
- Partner Community
- Partner Community Login

方法: [設定] に移動して、顧客またはパートナー向けのセルフサービスサイトとしてサービスカタログを準備します。次に、エクスペリエンスビルダーのワークスペースを使用して、サービスカタログサイトでデータを利用できるようにします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: データカテゴリ \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトとは \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトを作成するための準備 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトの作成 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

項目検索を使用した顧客のサービスカタログ環境の強化

顧客とパートナーに、合理化され自動化された検索環境が提供されます。統合検索では、カタログの項目名と説明に基づいてサービスカタログ全体の動的な結果が表示され、検索の自動提案によって、セルフサービスのケースデフレクションが実現されます。

対象: この変更は、Unlimited Edition (Aura および LWR サービスカタログサイト用 Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、Service Catalog Access 権限セットライセンスと 1 つのコミュニティライセンスが必要です。

- Channel Community
- Customer Community
- Customer Community Login
- Customer Community Plus
- Customer Community Plus Login
- External Apps
- Partner Community
- Partner Community Login

方法:[設定]に移動して、顧客またはパートナー向けのサイトとしてサービスカタログを準備します。サービスカタログをサポートするために、エクスペリエンスビルダーで、標準の検索コンポーネントを使用して標準の検索ページを作成します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトとは\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトを作成するための準備\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスカタログサイトの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

カスタマーサービスインシデント管理

商品関連のインシデントが発生する場合、影響を受ける顧客に事前のコミュニケーションを送信します。インシデントが進展したときに、ブロードキャスト Slack メッセージの項目の更新により、内部関係者に最新の情報を提供します。また、[カスタマーサービスインシデント管理]設定ページの改善により、インシデントを迅速に解決するために必要なインテグレーションを見つけることがこれまでより簡単になりました。

このセクションの内容:

商品に基づくインシデントの更新の共有

商品インシデントに関する対象を絞ったブロードキャストメールを、影響を受ける顧客に送信します。インシデントチームは、問題が発生する前であっても、顧客に事前にメールを送信して、新しいケースを回避し、顧客の信頼を高めることができます。以前は、ブロードキャストメールは、定義済みの取引先責任者リストとケース関連取引先責任者にのみ使用できました。

ブロードキャスト Slack メッセージデータを最新の状態に保つ

新しいブロードキャスト Slack メッセージを送信することなく、関係者に最新情報を提供できます。ブロードキャスト Slack メッセージのインシデント項目を更新して、最新の変更を反映できるようになりました。インシデントが解決された場合、または関連性がなくなった場合、インシデントチームはサービスコンソールを離れることなく、Slack チャンネルからブロードキャスト Slack メッセージを削除できます。以前は、新しいブロードキャスト Slack メッセージを送信して、最新のデータを共有していました。

改善されたインシデント管理エクスペリエンスの取得

カスタマーサービスインシデント管理の設定を簡素化し、ケース関連のレポート機能を有効にして、プロードキャストサイトバナー エクスペリエンスを向上させます。

商品に基づくインシデントの更新の共有

商品インシデントに関する対象を絞ったプロードキャストメールを、影響を受ける顧客に送信します。インシデントチームは、問題が発生する前であっても、顧客に事前にメールを送信して、新しいケースを回避し、顧客の信頼を高めることができます。以前は、プロードキャストメールは、定義済みの取引先責任者リストとケース関連取引先責任者にのみ使用できました。

対象: この変更は、Service Cloud が付属する Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 商品関連のプロードキャストメールを使用して、より幅広い利用者に警告します。たとえば、X1050温水器に欠陥があることが判明したインシデントが発生する場合、インシデントマネージャーは、X1050 温水器商品を使用しているすべての顧客にプロードキャストメールを広範囲に送信できます。

方法: インシデントから商品を関連付けます。次に、プロードキャストメールを作成し、[関連付けられた商品から取引先責任者を作成] を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: インシデントに関する問題の特定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: プロードキャスト通信に関する考慮事項 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

プロードキャスト Slack メッセージデータを最新の状態に保つ

新しいプロードキャスト Slack メッセージを送信することなく、関係者に最新情報を提供できます。プロードキャスト Slack メッセージのインシデント項目を更新して、最新の変更を反映できるようになりました。インシデントが解決された場合、または関連性がなくなった場合、インシデントチームはサービスコンソールを離れることなく、Slack チャンネルからプロードキャスト Slack メッセージを削除できます。以前は、新しいプロードキャスト Slack メッセージを送信して、最新のデータを共有していました。

対象: この変更は、Service Cloud が付属する Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: インシデントの [プロードキャスト通信] 関連リストから、プロードキャスト Slack メッセージレコードを見つけて、[プロードキャスト Slack メッセージを更新] または [プロードキャスト Slack メッセージを削除] を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: プロードキャスト Slack メッセージの更新 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: プロードキャスト Slack メッセージの削除 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

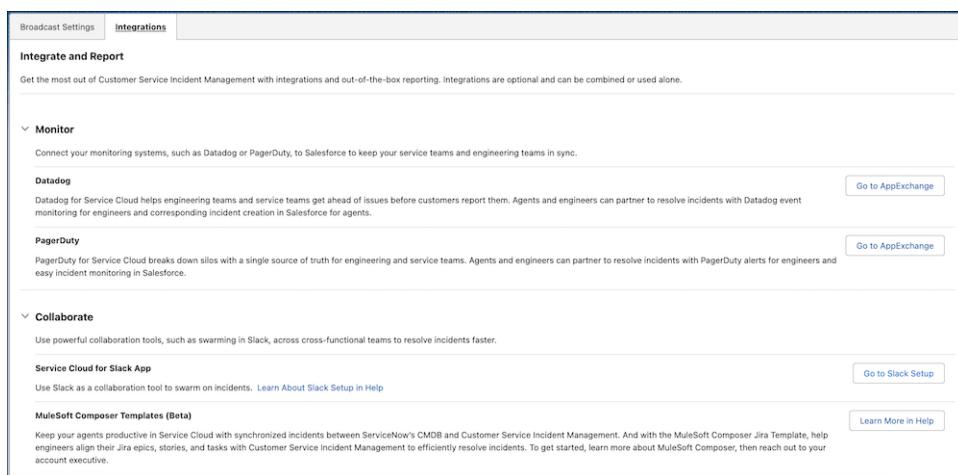
改善されたインシデント管理エクスペリエンスの取得

カスタマーサービスインシデント管理の設定を簡素化し、ケース関連のレポート機能を有効にして、ブロードキャストサイトバナーエクスペリエンスを向上させます。

対象: この変更は、Service Cloud が付属する Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:

- [カスタマーサービスインシデント管理] 設定ページの合理化されたインテグレーションセクションを使用して、どの AppExchange パッケージがビジネスに最も関連性が高いかを簡単に特定します。実行するジョブで並び替えられた折りたたみ可能なセクションに基づいて、インストールするアプリケーションを簡単に選択できるようになりました。



- インシデント管理の事後報告にケース関連の問題を含めます。
- すべての有効なサイトバナーを無効化する代わりに、サイト単位レベルでブロードキャストサイトバナーを無効化します。

スウォーミング

Service Cloud の機能を使用したスウォーミングにより、サービス組織では、エキスパートとの大規模なコラボレーションを行い、顧客の問題を解決することができ、さらにアプリケーション間を移動する手間を省けます。Salesforce ではコラボレーションに、Slack のデザインや機能を活用できます。Slack 会話コンポーネントのファイルを共有およびダウンロードできます。また、他の機能強化を使用して迅速にスウォーミングを開始します。

このセクションの内容:

Service Cloud for Slack アプリケーションの機能の確認

Service Cloud for Slack アプリケーションを使用して、ナレッジ記事のドラフトを Salesforce レコードに添付したり、Slack から Salesforce レコードなどを簡単に作成したりします。

Service Cloud for Slack アプリケーションの機能の確認

Service Cloud for Slack アプリケーションを使用して、ナレッジ記事のドラフトを Salesforce レコードに添付したり、Slack から Salesforce レコードなどを簡単に作成したりします。

最新の更新については、『[Service Cloud for Slack アプリケーションリリースノート](#)』を参照してください。

チャネル

メッセージングでメッセージングセッションを開始したり、Service Cloud Voice でエージェント間通話を使用して通話を迅速に発信したり、チャットの前に使用条件を表示したりします。

このセクションの内容:

メール

サービスメールは、Lightning エディターへの移行を続行します。参照 ID 形式は変更されます。

メッセージング

メッセージングセッションをプロアクティブに開始したり、右から左へ記述される言語を会話ウィンドウに表示したり、顧客の機密情報を安全なフォームで収集したり、Lightning Web コンポーネントを使用して事前チャットのデザインを変更したりします。

Voice

エージェントの生産性は、会話のセンチメントの表示、通話の聞き取り、停電やメンテナンス時の業務の継続、Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice の簡略化されたカスタマーサポートの利用などにより向上します。

Open CTI

Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止は、Open CTI の実装に影響を与える可能性があります。

ソーシャルメディア

ソーシャルカスタマーサービススターターパックは廃止されます。

チャット

チャットなどの前に使用条件を受け入れるように顧客に求めます。

チャネルツール

個人-オブジェクトリンクにより、チャネルオブジェクトリンクがフローの拡張機能に置き換えられます。有効な Salesforce 組織と期限切れの Salesforce 組織の両方で会話トランск립トのエクスポートデータを複数回ダウンロードできるようになりました。

メール

サービスメールは、Lightning エディターへの移行を続行します。参照 ID 形式は変更されます。

このセクションの内容:

メール-to-ケースのメールコンポーネント向けの Lightning エディターへの移行(ベータ)(リリース更新)

このリリース更新を有効にすると、ドッキングメールコンポーネントとケースフィードメールコンポーネントのメールエディターが置き換えられます。新しいメールエディターは、ベータ機能として Lightning Experience で使用できます。

サービスメールでの拡張クリックテキストの使用

クリックテキストは、Winter'24でアップグレードされました。強化されたクリックテキストは、新しいチャネルで動作し、クリックテキストの大規模なリポジトリをサポートするとともに、パフォーマンスとエンジニアリングエクスペリエンスが向上しています。

メール-to-ケースの参照 ID 形式の変更

メールの参照 ID スレッドの形式が変更されました。組織に参照 ID を使用するカスタムコードがある場合、必要に応じて Sandbox でコードをテストして、コードを更新してください。以前の形式との下位互換性を含め、参照 ID は引き続きサポートされますが、Lightning スレッドがメールスレッドを実行する場合の推奨される方法です。

メールアラートのメッセージ ID の形式の変更

新しい形式を使用する場合、newUniqueMessageIdentifier によって、メッセージ ID が一意であることが確認されます。threadingToken で一意のメッセージ ID が使用されるため、メールアラートへの返信が正しくスレッド化されます。

1つのメール添付ファイルへの複数のリンクが非表示に

Winter'23 以前は、ケースファイルと添付ファイルの関連リストに、同じ添付ファイルへの複数のリンクが表示されていました。Winter'23 では、[重複メール添付ファイルを除外] の設定が導入されています。新しい設定により、重複ファイルが作成される代わりにメール-to-ケースでファイルへのリンクが作成されます。ただし、関連リストにはまだ複数のリンクが表示されていました。今回、[重複メール添付ファイルを除外] を設定することで、メール-to-ケースに、添付ファイルごとに最新のリンクのみが表示されるようになりました。

メール-to-ケースのメールコンポーネント向けの Lightning エディターへの移行(ベータ)(リリース更新)

このリリース更新を有効にすると、ドッキングメールコンポーネントとケースフィードメールコンポーネントのメールエディターが置き換えられます。新しいメールエディターは、ベータ機能として Lightning Experience で使用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** この機能はベータサービスです。このベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

このエディターは Summer '23 にベータ版としても提供されました。

時期: Salesforce は、この更新を Summer '24 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: Salesforce は、ドッキングメールコンポーネントとケースフィードメールコンポーネントのメールエディターを置き換える、オープンソースのTinyMCEエディターに基づくエディターに切り替えます。この新しいエディターは Lightning Experience と類似する機能を提供します。次の新機能があります。

- 全画面
- 印刷
- [元に戻す] および [やり直し] ボタン
- ペイントの書式設定
- 絵文字ピッカー
- サイズ変更可能
- より応答性の高いツールバー
- スマートなコピー & ペースト機能

添付ファイルやオンライン画像をエディターにドラッグしたり、コピー/貼り付けすることができます。

ほとんどのメールクライアントでは、`ifram`を使用したコンテンツを使用できないため、埋め込みメディアのアクションは削除されました。

方法: Salesforce システム管理者がこのリリース更新を有効にします。方法: リリース更新を有効にすると、ユーザーがメールを作成および編集するときに類似の機能が表示されます。一部のプラグインや、テーブルなどの複雑な機能では、ベータ制限が適用されます。以前のエディターに戻すには、リリース更新を無効にします。

関連トピック:

[リリース更新](#)

サービスメールでの拡張クイックテキストの使用

クイックテキストは、Winter'24でアップグレードされました。強化されたクイックテキストは、新しいチャネルで動作し、クイックテキストの大規模なリポジトリをサポートするとともに、パフォーマンスとエージェントエクスペリエンスが向上しています。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: この機能強化を利用するには、Lightning のメール-to-ケースエディターと [設定] のクイックテキストピッカーの両方を有効にする必要があります。

関連トピック:

[大きなクイックテキストの操作](#)

[クイックテキストの有効化](#)

[メール-to-ケースのメールコンポーネント向けの Lightning エディターへの移行\(ベータ\)\(リリース更新\)](#)

メール-to-ケースの参照 ID 形式の変更

メールの参照 ID スレッドの形式が変更されました。組織に参照 ID を使用するカスタムコードがある場合、必要に応じて Sandbox でコードをテストして、コードを更新してください。以前の形式との下位互換性を含め、参照 ID は引き続きサポートされますが、Lightning スレッドがメールスレッドを実行する場合の推奨される方法です。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: Salesforce レコード ID には、レコードが作成されたサーバーの ID が含まれます。追加のサーバーがオンラインになると、より大きなサーバー ID に対応するために、圧縮されたレコード ID の形式を変更する必要があります。

方法: 次の表に、古い形式と新しい形式を示します。

古い形式	新規形式
ref:_00Dxx1gEW._500xxYktl:ref	ref:!00Dxx01gEW.!500xx0Yktl:ref

関連トピック:

[メールアラートのメッセージ ID の形式の変更](#)

[Salesforce ヘルプ: メール-to-ケースの設定 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: メール-to-ケースのスレッドの制限と考慮事項 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

メールアラートのメッセージ ID の形式の変更

新しい形式を使用する場合、newUniqueMessageIdentifier によって、メッセージ ID が一意であることが確認されます。threadingToken で一意のメッセージ ID が使用されるため、メールアラートへの返信が正しくスレッド化されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 形式が <EntityId.newUniqueMessageIdentifier.HashedText.SecretIdWithoutPrefix@sfdc.net> から、<newUniqueMessageIdentifier.threadingToken@sfdc.net> へ変更されました。

新しい Lightning Threading を使用しているかどうかにかかわらず、新しいメールアラートには新しい形式のメッセージ ID が表示されます。古い形式のメッセージ ID を使用したメールアラートへの返信も適切にスレッド化されます。

Apex コードで `generateThreadingMessageId(caseId)` をコールすると、新しい形式のメッセージ ID が返されます。古い形式のメッセージ ID に基づいたコードがある場合は、そのコードを変更し、新しい形式を採用してください。

関連トピック:

[メール-to-ケースの参照 ID 形式の変更](#)

Salesforce ヘルプ: メール-to-ケースの設定 (リリースプレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Salesforce ヘルプ: メール-to-ケースのスレッドの制限と考慮事項 (リリースプレビューの時点では内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

1つのメール添付ファイルへの複数のリンクが非表示に

Winter'23以前は、ケースファイルと添付ファイルの関連リストに、同じ添付ファイルへの複数のリンクが表示されていました。Winter'23では、[重複メール添付ファイルを排除]の設定が導入されています。新しい設定により、重複ファイルが作成される代わりにメール-to-ケースでファイルへのリンクが作成されます。ただし、関連リストにはまだ複数のリンクが表示されていました。今回、[重複メール添付ファイルを排除]を設定することで、メール-to-ケースに、添付ファイルごとに最新のリンクのみが表示されるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 添付ファイルを Salesforce ファイルとして保存するには、[メール-to-ケース] 設定をオンにします。次に、[重複メール添付ファイルを排除] 設定をオンにします。

メッセージング

メッセージングセッションをプロアクティブに開始したり、右から左へ記述される言語を会話ウィンドウに表示したり、顧客の機密情報を安全なフォームで収集したり、Lightning Web コンポーネントを使用して事前チャットのデザインを変更したりします。

このセクションの内容:

[拡張 Apple Messages for Business の概要 \(正式リリース\)](#)

顧客がビジネスからサポートを受けられるもう1つの手段を用意します。Apple Messages for Business チャネルを作成して、顧客が Apple Messages アプリケーションでメッセージを送信できるようにします。

[\[会話メッセージを送信\] アクションを使用した自動通知の送信](#)

メッセージングコンポーネントと新しい呼び出し可能アクションを使用して、重要な更新情報を顧客に送信します。この機能を拡張 WhatsApp チャネルとアプリ内のメッセージングで使用できるようになりました。以前は、自動通知は標準メッセージングチャネルでのみ送信できました。

[拡張メッセージングチャネルとアプリ内のメッセージングでの会話の開始](#)

エージェントが拡張メッセージングチャネルまたはアプリ内のメッセージングで任意のレコードから顧客とのメッセージングをプロアクティブに行うことができるようになります。以前は、エージェントは標準メッセージングチャネルでのみ、特定の種別のレコードからのみ会話を開始できました。

標準チャネルまたは外部プロバイダーから拡張 WhatsAppへのアップグレード

拡張 WhatsApp チャネルでは、Salesforce の標準 WhatsApp チャネルで使用している番号と、別のビジネスサービスプロバイダー (BSP) で使用している番号の 2 種類を新しく使用できるようになりました。

アプリ内および Web のメッセージングでの多言語キーワードと応答の設定

顧客がコミュニケーションをオプトアウトしたり、サポートを要求したりできるようにキーワードと応答を多言語で作成します。

拡張 WhatsApp チャネルの有効化手順の追加

新しい拡張 WhatsApp チャネルの設定プロセスに手順が追加されました。メッセージの受信を開始するには、チャネルを作成した後に有効化する必要があります。

より容易な方法でのメッセージングコンポーネントの送信

エージェントはメッセージングウィンドウのアイコンをクリックすることで、ファイルやクイックテキストのようにメッセージングコンポーネントを顧客に送信できるようになりました。このアイコンによりポップオーバーが開き、そのポップオーバーでエージェントは特定のコンポーネントを検索したり、コンポーネントの種類で絞り込んだりできます。以前は、メッセージングコンポーネントはサイドバーに表示されていました。

より迅速なメッセージングセッションの転送

メッセージングセッションを別のエージェント、ルーティングフロー、またはキューに転送する場合、拡張メッセージングチャネルと、アプリ内および Web のメッセージング内のエージェントは、受信者を種別で絞り込み、エージェントの業務率を表示できるようになりました。この追加情報は、転送を行っているエージェントが、すぐに対応できる最も適切なエージェントまたはキューにセッションを転送するのに役立ちます。

大きなクイックテキストの操作

拡張クイックテキストピッカーがより多くのチャネルで機能します。また、パフォーマンスとエージェント環境の改善により大きなクイックテキストの内容がサポートされます。

エージェントコンソールの拡張会話コンポーネントのカスタマイズ

エージェントに添付ファイルを送信できないようにしたり、テキストの新しい行を開始するように Enter/Return キーの機能を変更したりします。

エンドユーザーが添付ファイルを送信することを防止

お客様のご要望にお応えして、エンドユーザーがエージェントに添付ファイルを送信できないようにするための機能を追加しました。

右から左へ記述される言語での顧客とのメッセージのやりとり

アプリ内および Web のメッセージングでは、顧客のメッセージング環境でヘブライ語とアラビア語の右から左へ記述される (RTL) 言語が部分的にサポートされるようになりました。顧客には、会話メッセージ、メッセージングコンポーネントからの自動メッセージ、および予想待機時間が右から左へ記述される形式で表示されます。アラビア語がボットの主言語または第2言語である場合(ベータ)、顧客にはボットの会話も右から左に記述される形式で表示されます。サービスコンソールではエージェントは右から左への表示で参照できません。

メッセージングセッションでの安全なフォームの送信

顧客から機密情報を収集してその表示を制限するには、アプリ内および Web のメッセージングでエージェントが安全なフォームを送信できるようにします。顧客が応答を送信すると、Salesforceによってそのレコードが作成されます。システム管理者はエージェントが応答を表示できるかどうかを制御し、顧客は送信した応答を表示できません。

事前チャットでの使用条件の表示による顧客との信頼関係の構築

メッセージング会話に参加する前に使用条件に同意するように顧客に要求します。使用条件を使用して、会話データを追跡または記録することや他の重要な情報を共有することを顧客に通知することができます。プレースホルダーとカスタム表示ラベルを使用して、使用条件を事前チャットフォームに追加します。

Lightning Web コンポーネントを使用した事前チャットフォームのカスタマイズ

メッセージングアプリケーション全体を最初から作成することなく事前チャットフォームのデザインを変更するには、Lightning Web コンポーネントを作成して追加します。

アプリ内のメッセージングのリリースのコピー

モバイルアプリケーションの最新バージョンにアップグレードしていない顧客で停止が発生しないようにするには、新機能をリリースする前にアプリ内のメッセージングのリリースをコピーします。コピーしたバージョンのリリースで新機能をロールアウトします。アップグレードしていない顧客は引き続き古いバージョンを使用できます。

API を使用した Web チャットクライアントの起動

Launch Chat API を使用すると、JavaScript API を使用して Web チャットクライアントをプログラムで起動できます。デフォルトのチャットボタンを非表示にした後、独自のチャットボタンを作成するか、チャットクライアントを起動する Launch Chat API をコールする Web 環境を作成します。

メッセージングのその他の改善点

拡張メッセージングチャネルとアプリ内および Web のメッセージングのシステム管理者、エージェント、顧客の環境に対して行われた追加の改善について説明します。

拡張 Apple Messages for Business の概要 (正式リリース)

顧客がビジネスからサポートを受けられるもう 1 つの手段を用意します。Apple Messages for Business チャネルを作成して、顧客が Apple Messages アプリケーションでメッセージを送信できるようにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 拡張メッセージングは、直感的で継続的な環境をエージェントおよび顧客に提供します。拡張 Apple Messages for Business チャネルでは、エージェントやスーパーバイザーが幅広い生産性ツールを活用して、顧客の問題を迅速に解決できます。

- **メッセージングコンポーネント:** エージェントがメッセージングセッション中に送信する構造化コンテンツのライブラリを作成します。数種類の新しいメッセージングコンポーネントを使用して、エージェントがユーザーの本人確認、Apple Pay での支払処理、外部アプリケーションの組み込みなどを実行できます。
- **コラボレーションツール:** スーパーバイザーのウィスパー や フラグを使用して、エージェントとスーパーバイザーが有効なメッセージングセッション中に情報やヒントを交換できます。エージェントが顧客に対応できないときは、顧客を別のエージェント、ルーティングフロー、ボットに転送します。
- **チャネルオプション:** 顧客のオプトインおよびオプトアウトエクスペリエンスのカスタマイズ、自動応答の作成、ルーティングロジックの設計を行います。

- プロアクティブメッセージング: 特定の条件を満たした場合に、Apple Messages for Business チャネルでエージェントが顧客と会話を開始したり、顧客に通知メッセージを送信するフローを設定したりすることができます。

方法: 拡張 Apple Messages for Business チャネルを作成するには、[設定] の [メッセージング設定] ページに移動して、[新規チャネル] をクリックします。[開始] をクリックして、[Apple Messages for Business] を選択し、画面の指示に従って Apple Business Register の設定を更新し、Salesforce でチャネルを作成します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Apple Messages for Business チャネルの作成](#)

[Salesforce ヘルプ: Apple Messages for Business の使用に関する考慮事項](#)

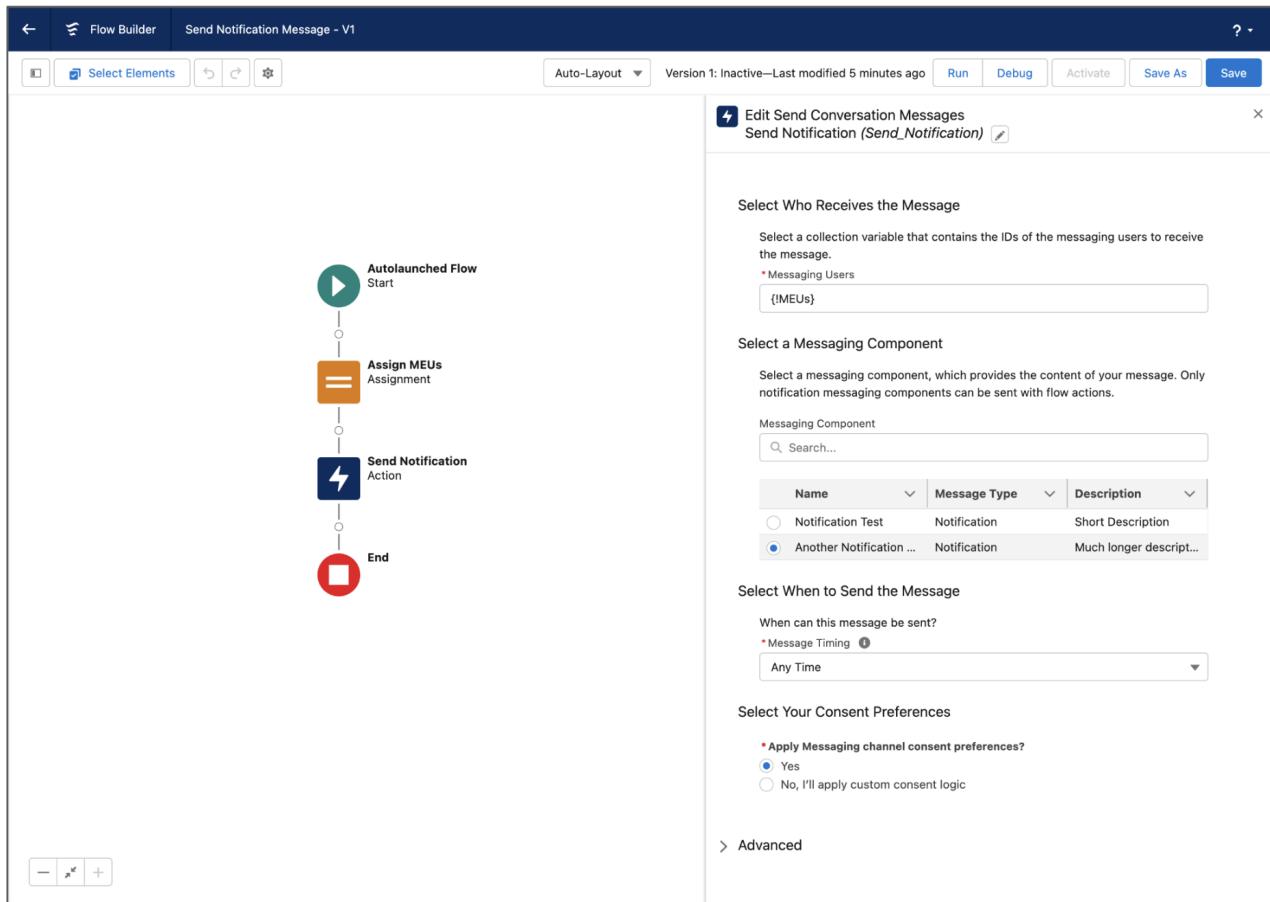
[会話メッセージを送信] アクションを使用した自動通知の送信

メッセージングコンポーネントと新しい呼び出し可能アクションを使用して、重要な更新情報を顧客に送信します。この機能を拡張 WhatsApp チャネルとアプリ内のメッセージングで使用できるようになりました。以前は、自動通知は標準メッセージングチャネルでのみ送信できました。

対象: この変更は、拡張 WhatsApp チャネルとアプリ内のメッセージングチャネルのみに適用されます。新しい呼び出し可能なアクションに基づく自動通知は、Web のメッセージングではサポートされません。[必要なエディションを確認してください。](#)

方法: 拡張 WhatsApp チャネルで自動通知を設定するには、WhatsApp Outbound Messages アドオンライセンスが必要です。次に、WhatsApp Business Manager でメッセージテンプレートを作成します。テンプレートは 3 つの WhatsApp カテゴリ(マーケティング、ワンタイムパスワード、取引)のいずれかに該当する必要があります。テンプレートを作成したら、[設定] で通知メッセージングコンポーネントを作成し、テンプレートにリンクして、[会話メッセージを送信] アクションを使用してメッセージングコンポーネントを送信するフローを作成します。顧客に通知を送信すると、1 つの送信メッセージが消費されます。

アプリ内のメッセージングで自動通知を設定するには、[設定] で通知メッセージングコンポーネントを作成します。次に、[会話メッセージを送信] アクションを使用してメッセージングコンポーネントを送信するフローを作成します。



通知は標準メッセージングセッション内で、変更がない状況である[終了済み]でメッセージとして送信されます。顧客が応答すると、新しいメッセージングセッションが開始されてサポートチームに転送されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 拡張メッセージングチャネルでの自動メッセージの送信\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: フローコアアクション:会話メッセージの送信\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

拡張メッセージングチャネルとアプリ内のメッセージングでの会話の開始

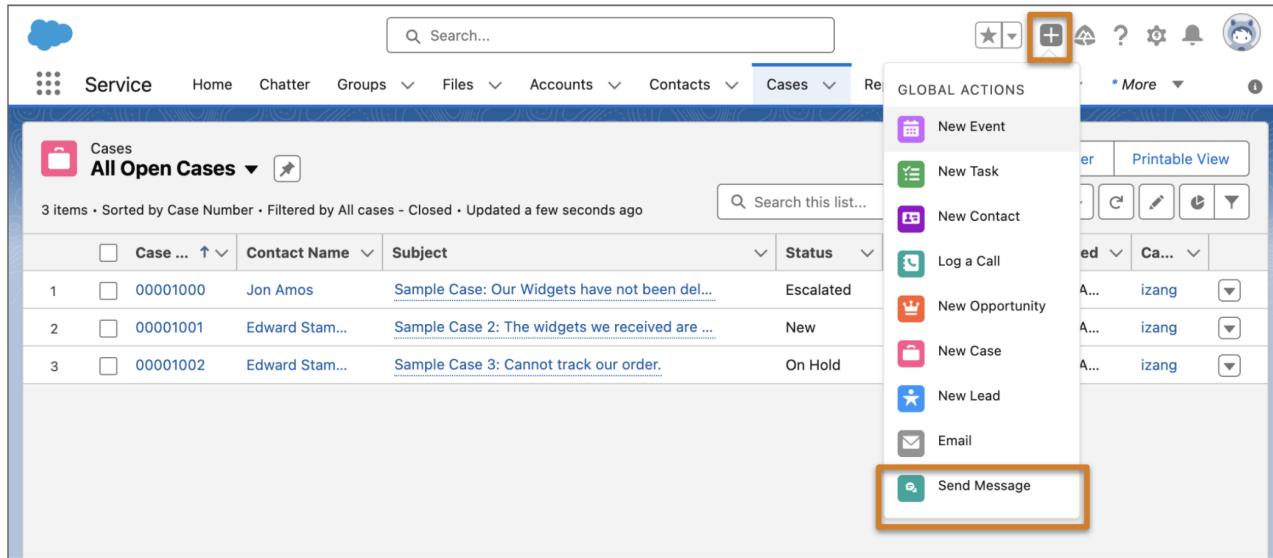
エージェントが拡張メッセージングチャネルまたはアプリ内のメッセージングで任意のレコードから顧客とのメッセージングをプロアクティブに行うことができるようになります。以前は、エージェントは標準メッセージングチャネルでのみ、特定の種別のレコードからのみ会話を開始できました。

対象: この変更は、**拡張 WhatsApp チャネル**、**拡張 Facebook Messenger チャネル**、**アプリ内のメッセージングチャネル**に適用されます。**必要なエディションを確認してください。**

対象ユーザー: プロアクティブなメッセージを送信するには、エージェントに「メッセージングセッションを開始」ユーザー権限が必要です。

方法:[メッセージを送信] グローバルアクションをグローバルアクションレイアウトに追加します。また、アプリ内のメッセージングチャネルでエージェントがメッセージングセッションを開始できるようにする場合は、メッセージの受信を顧客がオプトアウトできる方法があることを確認します。[設定] の [メッセージング設定] ページで、チャネルの名前をクリックし、[オプトアウトキーワード] セクションに1つ以上のキーワードが入力されていることを確認します。

顧客との会話を開始するには、エージェントはアクションメニューで[メッセージを送信]をクリックします。拡張メッセージングチャネルまたはアプリ内およびWebのメッセージングチャネルがない場合、このアクションは使用できません。



表示されたコンポーネントで、受信者とメッセージングチャネルを選択します。表示しているレコードによっては、これらの項目はすでに入力されている場合があります。次に、メッセージを入力し、メッセージ項目の下の省略可能なアクションを使用して絵文字やメッセージングコンポーネントを追加し、[送信]をクリックします。

顧客が応答すると、そのメッセージングセッションはメッセージを最初に送信したエージェントに転送されます。このエージェントが対応できない場合、ルーティングロジックに従ってサポートチームに送信されます。

! **重要:** エージェントは、顧客が以前に同じチャネルで会社にメッセージを送信したことがある場合にのみ、顧客とのメッセージングセッションを開始できます。これにより、顧客が初めてエージェントとエンゲージするときに取得される、顧客のメッセージング設定が尊重されます。顧客のメッセージングに関する同意を他の場所で取得した場合、エージェントが積極的にメッセージを送信できるように、同意状況を含むメッセージングユーザーのコードを作成することもできます。

□ **メモ:** 拡張WhatsAppチャネルでは、顧客が応答すると、そのメッセージングセッションはメッセージを最初に送信したエージェントに転送されます。このエージェントが対応できない場合、サポートチームに転送されます。選択したメッセージングユーザーの最後のメッセージから24時間以上経過した場合、エージェントは自由形式のメッセージを作成できません。エージェントは承認された WhatsApp メッセージテンプレートにリンクされた通知メッセージングコンポーネントのみを送信できます。

アプリ内のメッセージングでは、顧客が応答するとサポートチームに転送されます。つまり、別のエージェントがセッションを引き継ぐ可能性があります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 顧客とのメッセージングセッションの開始\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud でのメッセージングチャネル機能の比較\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

標準チャネルまたは外部プロバイダーから拡張 WhatsApp へのアップグレード

拡張 WhatsApp チャネルでは、Salesforce の標準 WhatsApp チャネルで使用している番号と、別のビジネスサービスプロバイダー (BSP) で使用している番号の 2 種類を新しく使用できるようになりました。

対象: この変更は標準 WhatsApp チャネルと拡張 WhatsApp チャネルに適用されます。必要なエディションを確認してください。

時期: 2023 年 11 月 6 日以降、拡張 WhatsApp チャネルにアップグレードまたは移行できます。

理由: 以前は、WhatsApp 番号を標準チャネルから拡張チャネルへ、または外部 BSP から拡張チャネルへ移行することはできませんでした。サポートプロセスへの新しい電話番号の追加による中断がなく、拡張 WhatsApp チャネルで提供される機能を利用できるようになりました。

方法: まず、番号の 2 段階認証を無効にします。標準メッセージングチャネルからアップグレードする場合は、番号の 2 段階認証を無効化する依頼を whatsappenablement@salesforce.com に送信します。外部の BSP から番号を移行する場合は、Meta Business Manager で番号の 2 段階認証を無効にするか、BSP に依頼して無効にしてもらいます。

2 段階認証が無効になったら、[設定] の [メッセージング設定] ページで [新規チャネル] をクリックします。同じ電話番号を使用して拡張 WhatsApp チャネルを設定します。チャネルルーティング、メッセージテンプレート、その他の設定をカスタマイズし、チャネル設定ページから有効にします。

① 重要: アップグレードまたは移行中に発生する可能性のあるダウンタイムを最小限に抑えるために、最初はテスト用またはトラフィックの少ない電話番号を使用することをお勧めします。ルーティング設定、チャネル設定、メッセージテンプレート、カスタマーエクスペリエンスを設定してテストしたら、希望する番号で拡張チャネルを作成し、テスト済みのカスタマイズを適用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 拡張 WhatsApp へのアップグレードまたは移行に関する考慮事項](#)

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud での WhatsApp チャネルの作成](#)

[Salesforce ヘルプ: 拡張 WhatsApp メッセージングチャネルの有効化チェックリスト](#)

アプリ内および Web のメッセージングでの多言語キーワードと応答の設定

顧客がコミュニケーションをオプトアウトしたり、サポートを要求したりできるようにキーワードと応答を多言語で作成します。

対象: この変更は、アプリ内および Web のメッセージングチャネルに適用されます。必要なエディションを確認してください。

方法: アプリ内および Web のメッセージングチャネルの同意設定をカスタマイズするには、[設定] の [メッセージング設定] ページに移動し、チャネルの名前をクリックします。そのページで次の操作を実行できます。

- 顧客がメッセージの受信をオプトアウトしたり、サポートを依頼したり、カスタム要求を行ったりするために使用できるキーワードを設定する。
- 顧客がキーワードを送信したときに受信する自動レスポンスを記述する。自動レスポンスをトリガーするには、キーワードがメッセージの唯一のコンテンツである必要があります。
- デフォルト言語(英語)以外の言語のキーワードと応答を設定する。追加した言語でキーワードを1回のみ使用できます。

各項目で1つ以上のキーワードを指定します。Winter '24 リリース後に作成されたアプリ内および Web のメッセージングチャネルにはデフォルトの英語のキーワードと応答が含まれており、これらを必要に応じて更新できます。キーワードと応答の更新は5分以内で有効になります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud メッセージングチャネルでの自動レスポンスのカスタマイズ\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

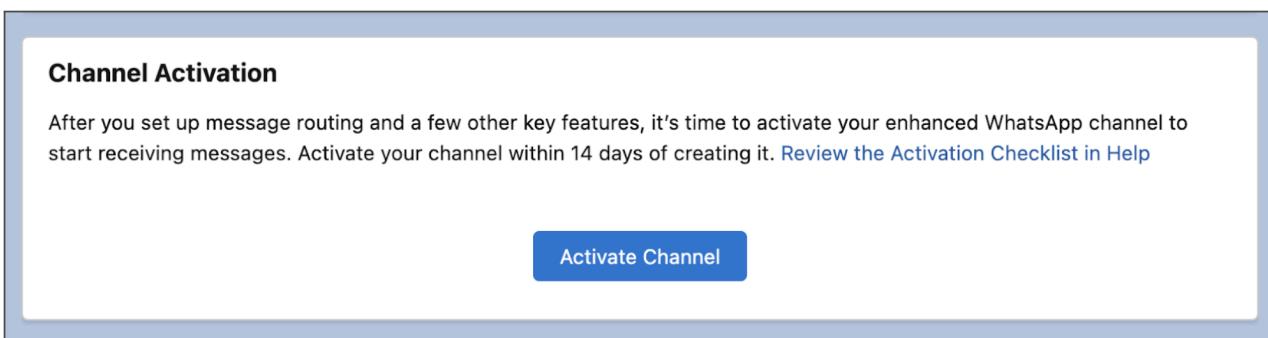
拡張 WhatsApp チャネルの有効化手順の追加

新しい拡張 WhatsApp チャネルの設定プロセスに手順が追加されました。メッセージの受信を開始するには、チャネルを作成した後に有効化する必要があります。

対象: この変更は拡張 WhatsApp チャネルに適用されます。必要なエディションを確認してください。

時期: チャネルの有効化は、2023年11月6日より後に作成されたチャネルのみで必要です。

方法: [メッセージング設定] ページで拡張 WhatsApp チャネルを作成したら、チャネルの名前をクリックします。[Channel Activation (チャネルの有効化)] セクションで、[Activate Channel (チャネルを有効化)] をクリックします。チャネルの前提条件のチェックリストでチャネルの準備が整っていることを確認してから、[Activate Channel (チャネルを有効化)] をクリックします。



チャネルが有効になると、このセクションはチャネルレコードホームページに表示されなくなり、チャネルリストの [有効] チェックボックスが選択されます。作成後14日以内にチャネルが有効化されない場合は、Meta

Business Manager で番号を再確認します。または、[メッセージング設定] ページで同じ電話番号を使用して新規チャネル設定フローを繰り返します。

関連トピック:

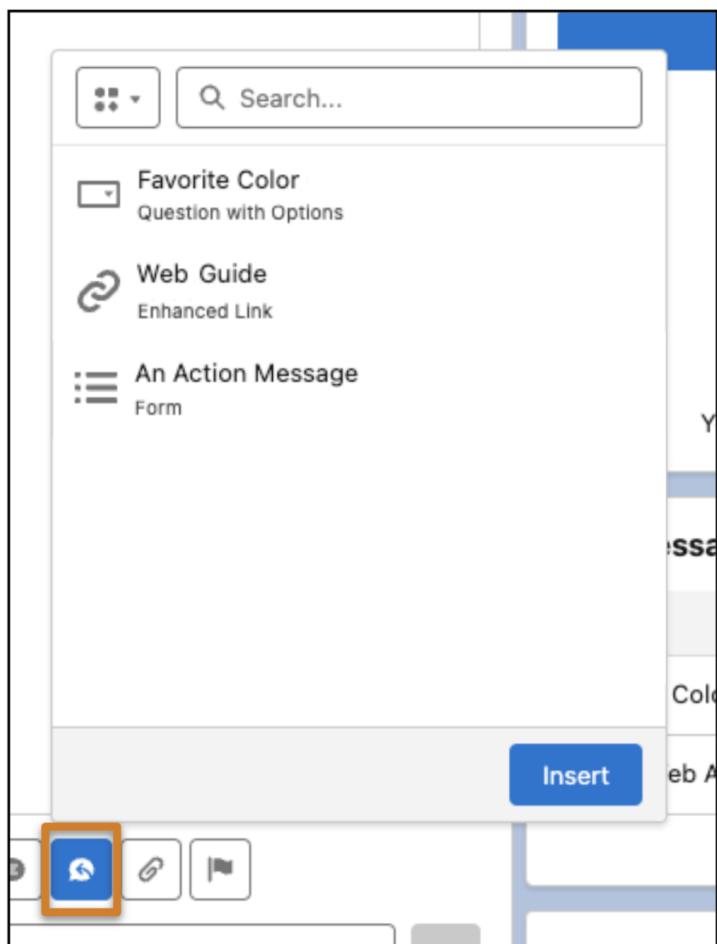
[Salesforce ヘルプ: 拡張 WhatsApp メッセージングチャネルの有効化チェックリスト](#)

より容易な方法でのメッセージングコンポーネントの送信

エージェントはメッセージングウィンドウのアイコンをクリックすることで、ファイルやクリックテキストのようにメッセージングコンポーネントを顧客に送信できるようになりました。このアイコンによりポップオーバーが開き、そのポップオーバーでエージェントは特定のコンポーネントを検索したり、コンポーネントの種類で絞り込んだりできます。以前は、メッセージングコンポーネントはサイドバーに表示されていました。

対象: この変更は、拡張メッセージングチャネルと、アプリ内および Web のメッセージングチャネルに適用されます。[必要なエディションを確認してください。](#)

方法: メッセージングコンポーネントを送信するには、エージェントはメッセージングウィンドウで新しいアイコンをクリックします。必要に応じて、特定のコンポーネントを検索したり、検索条件を使用して特定の種類のコンポーネントを表示したりします。コンポーネントを選択し、[挿入] をクリックして、[送信] をクリックします。



元の[メッセージングコンポーネント]ページコンポーネントは新しいメニューアクションで置き換えられるため、ページレイアウトから削除できます。

メッセージングコンポーネントのポップアップリストには、時間セレクターコンポーネントなど、フローにリンクされた動的コンポーネントは含まれません。エージェントはサービスコンソールでフローを実行してこれらのコンポーネントを引き続き送信します。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:メッセージングセッションでのメッセージングコンポーネントの送信\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:サービスコンソールへのメッセージングの追加\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

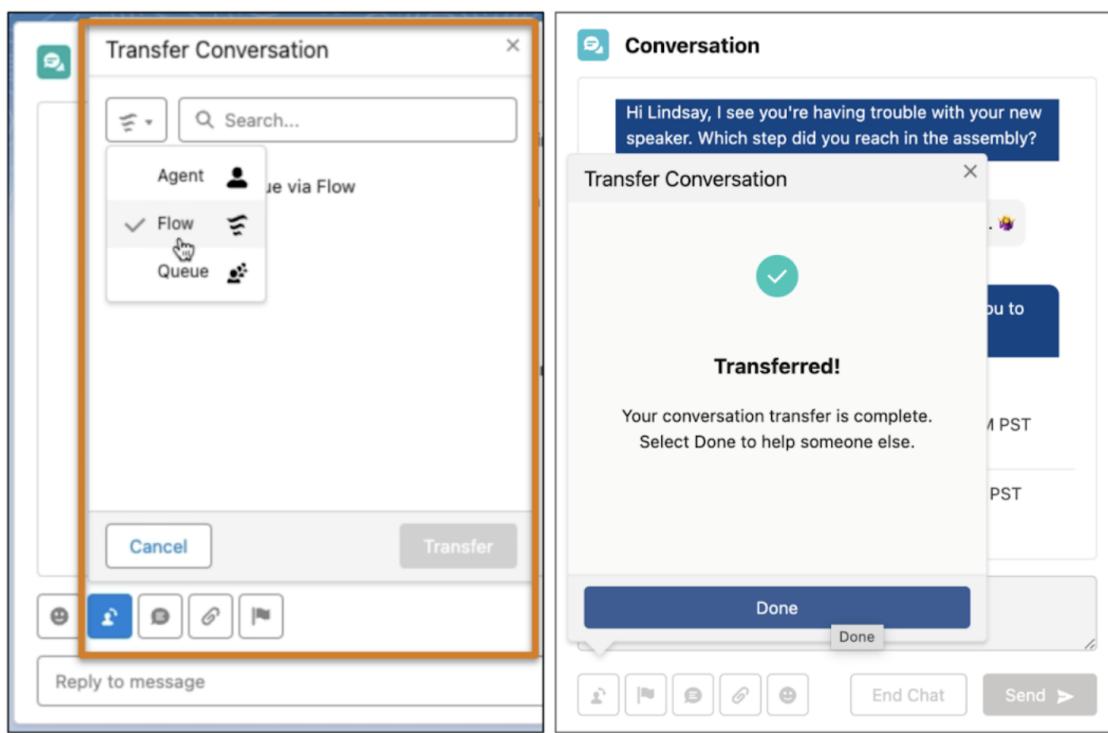
より迅速なメッセージングセッションの転送

メッセージングセッションを別のエージェント、ルーティングフロー、またはキューに転送する場合、拡張メッセージングチャネルと、アプリ内およびWebのメッセージング内のエージェントは、受信者を種別で絞り込み、エージェントの業務率を表示できるようになりました。この追加情報は、転送を行っているエージェントが、すぐに対応できる最も適切なエージェントまたはキューにセッションを転送するのに役立ちます。

対象: この変更は、拡張メッセージングチャネルと、アプリ内およびWebのメッセージングに適用されます。
必要なエディションを確認してください。

対象ユーザー: 転送されたメッセージを受信するには、アプリ内およびWebのメッセージングのエージェントは、「アプリ内およびWebのメッセージングのユーザー」権限セットライセンスと「アプリ内およびWebのメッセージングのエージェント」権限が必要です。転送されたメッセージを受信するには、拡張メッセージングチャネルを使用しているエージェントは、「メッセージングユーザー」権限セットライセンスと「メッセージングエージェント」権限が必要です。

方法: メッセージングセッションを転送するには、エージェントはメッセージングウィンドウで転送アイコンをクリックします。受信者種別を選択します: エージェント、フロー、またはキュー。メッセージングプレゼンス状況になっているオンラインのエージェントのみがリストに表示されます。業務量がフルになっているエージェントを含め、各エージェントの業務率を表示できます。



選択したエージェントが転送を受け入れると、元のエージェントは会話から削除され、そのタブは自動的に閉じられます。エージェントが[転送]をクリックすると、転送をキャンセルできなくなります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: メッセージングセッションの終了または転送\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

大きなクリックテキストの操作

拡張クリックテキストピッカーがより多くのチャネルで機能します。また、パフォーマンスとエージェント環境の改善により大きなクリックテキストの内容がサポートされます。

対象: この変更は、拡張メッセージングチャネルと、アプリ内および Web のメッセージングに適用されます。
必要なエディションを確認してください。

方法: クリックテキストピッカーには次の改善点があります。

- 多くのサブフォルダーがあるクリックテキストフォルダーに移動するには、水平スクロールバーを使用して前後に移動します。以前は、ブレッドクラムバーをクリックしていました。
- クリックテキストをメッセージングの会話によりすばやく追加するには、クリックテキストを選択し、クリックテキストピッカーから[挿入]をクリックするか、キーボードで Enter キーを押します。以前は、クリックテキストの名前をクリックしてクリックテキストを挿入していました。また、クリックテキストがメッセージングウィンドウに表示されるまで数秒かかることがありました。
- 検索結果にはフォルダーが含まれます。以前は、検索結果には個々のクリックテキストのみが含まれていました。

- クイックテキストの名前をクリックしてクイックテキストをプレビューし、上下矢印キーを使用してピッカー内のクイックテキストのリストを操作します。以前は、クイックテキストの名前をクリックすると、クイックテキストがメッセージングセッションに挿入されていました。
- 新しいアイコンにより、個々のクイックテキストとクイックテキストフォルダーが区別されます。以前は、フォルダーのみにアイコンが表示されていました。
- オフラインで作業を行っている場合、クイックテキストを読み込むことができなかったことを知らせるメッセージと共に[もう一度お試しください]ボタンが表示されます。以前は、オフラインであることを示すものがなく、クイックテキストピッカーを再読み込みするために使用できるボタンがありませんでした。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:メッセージングの生産性向上\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

エージェントコンソールの拡張会話コンポーネントのカスタマイズ

エージェントに添付ファイルを送信できないようにしたり、テキストの新しい行を開始するようにEnter/Returnキーの機能を変更したりします。

対象: この機能は、拡張メッセージングチャネルと、アプリ内およびWebのメッセージングで利用できます。
[必要なエディションを確認してください。](#)

方法: Lightning アプリケーションビルダーで、[Hide file attachment action (ファイル添付アクションを非表示にする)]または[Enter starts a new text line (Enter でテキストの新しい行を開始する)]を選択します。

エンドユーザーが添付ファイルを送信することを防止

お客様のご要望にお応えして、エンドユーザーがエージェントに添付ファイルを送信できないようにするための機能を追加しました。

対象: この変更は、アプリ内およびWebのメッセージングに適用されます。
[必要なエディションを確認してください。](#)

対象ユーザー: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザーは、エンドユーザーが添付ファイルを送信できるようにするかどうかを選択できます。

方法: デフォルトでは、エンドユーザーはエージェントに添付ファイルを送信できます。エンドユーザーが添付ファイルを送信できないようにするには、メッセージングチャネルの[編集]ページで、[顧客がエージェントに添付ファイルを送信することを許可]を選択解除します。

右から左へ記述される言語での顧客とのメッセージのやりとり

アプリ内およびWebのメッセージングでは、顧客のメッセージング環境でヘブライ語とアラビア語の右から左へ記述される(RTL)言語が部分的にサポートされるようになりました。顧客には、会話メッセージ、メッセージングコンポーネントからの自動メッセージ、および予想待機時間が右から左へ記述される形式で表示されます。アラビア語がボットの主言語または第2言語である場合(ベータ)、顧客にはボットの会話も右から左に記述される形式で表示されます。サービスコンソールではエージェントは右から左への表示で参照できません。

対象: この変更は、アプリ内およびWebのメッセージングに適用されます。
[必要なエディションを確認してください。](#)

方法: Salesforce で右から左へ記述される言語を有効にします。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:ServiceCloudでのメッセージングチャネル機能の比較\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

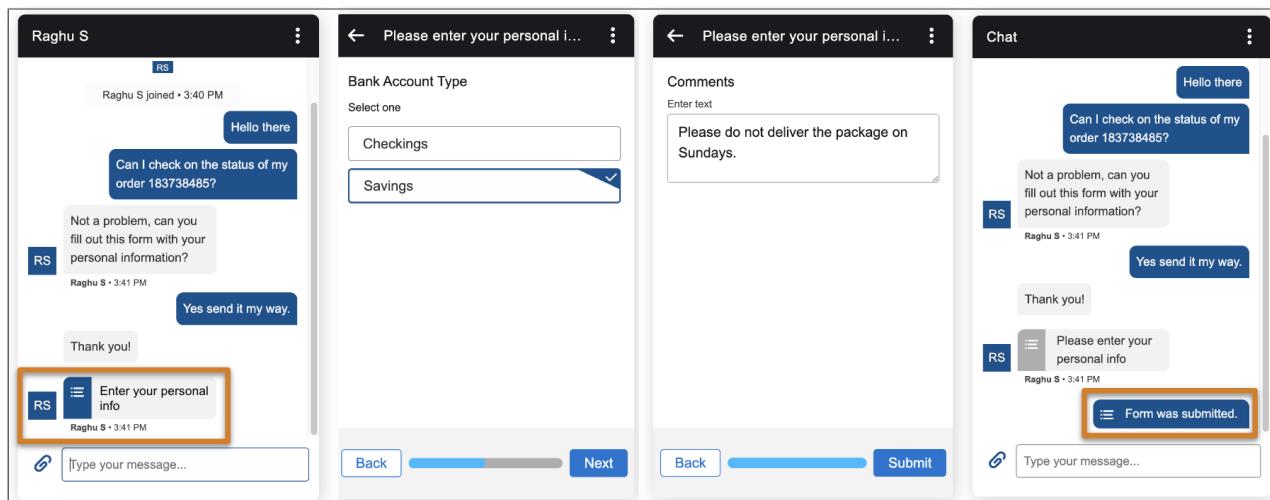
メッセージングセッションでの安全なフォームの送信

顧客から機密情報を収集してその表示を制限するには、アプリ内および Web のメッセージングでエージェントが安全なフォームを送信できるようにします。顧客が応答を送信すると、Salesforceによってそのレコードが作成されます。システム管理者はエージェントが応答を表示できるかどうかを制御し、顧客は送信した応答を表示できません。

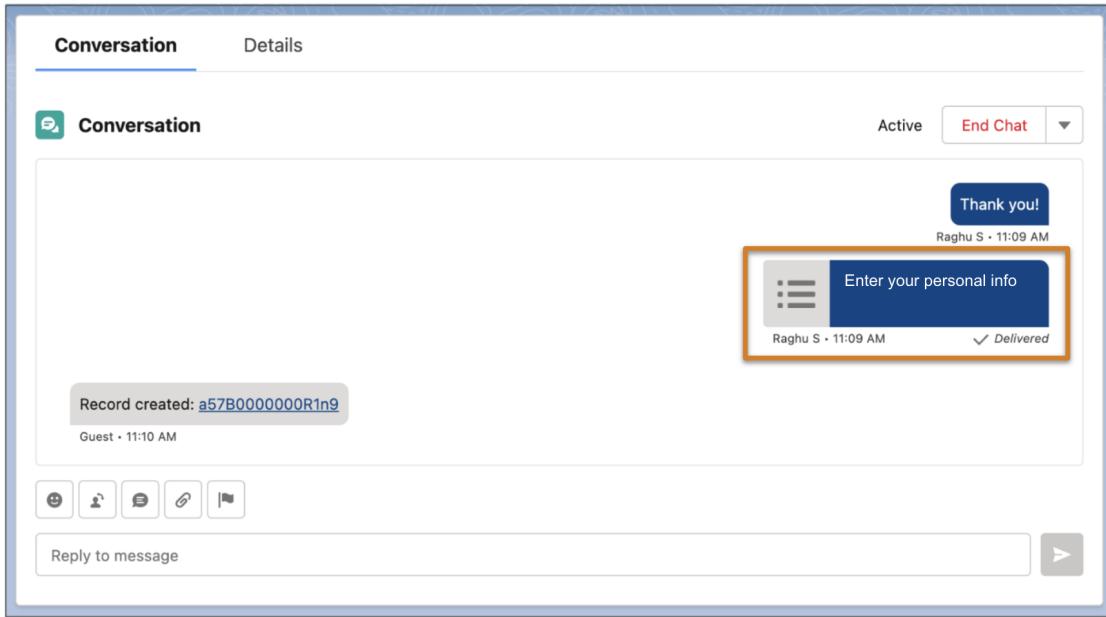
対象: この変更は、アプリ内および Web のメッセージングに適用されます。[必要なエディションを確認してください。](#)

フォーム形式で作成したアプリ内および Web のメッセージング用のフォームコンポーネントはベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、[「Agreements and Terms \(契約および規約\)」](#)に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: [設定] の [メッセージングコンポーネント] ページでフォームメッセージングコンポーネントを作成します。取引先責任者レコードなどのレコードを作成するグローバルアクションにフォームをリンクします。フォーム形式をメッセージングコンポーネントに追加して、そのプロパティを設定します。その後、エージェントがメッセージングセッション中にフォームを送信します。



顧客がフォーム応答を送信すると、Salesforceにレコードが作成されます。レコードの種別は、関連付けられたグローバルアクションによって決まります。たとえば、取引先責任者を作成するグローバルアクションにフォームメッセージングコンポーネントがリンクされている場合、フォーム応答を送信すると取引先責任者レコードが作成されます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: メッセージングセッションでの安全なフォームの作成および送信\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

事前チャットでの使用条件の表示による顧客との信頼関係の構築

メッセージング会話に参加する前に使用条件に同意するように顧客に要求します。使用条件を使用して、会話データを追跡または記録することや他の重要な情報を共有することを顧客に通知することができます。プレースホルダーとカスタム表示ラベルを使用して、使用条件を事前チャットフォームに追加します。

対象: この変更は、アプリ内および Web のメッセージングチャネルに適用されます。[必要なエディションを確認してください。](#)

方法: [組み込みサービスリリース設定] ページで、[設定] をクリックし、[使用条件] でボックスをオンにします。これらの変更内容を保存します。

カスタム表示ラベルの下で、顧客向けメッセージングウィンドウの使用条件テキスト用のプレースホルダーを作成します。[完了] をクリックし、リリースを再公開します。

Lightning Web コンポーネントを使用した事前チャットフォームのカスタマイズ

メッセージングアプリケーション全体を最初から作成することなく事前チャットフォームのデザインを変更するには、Lightning Web コンポーネントを作成して追加します。

対象: この変更は Web のメッセージングチャネルに適用されます。[必要なエディションを確認してください。](#)

方法: Lightning Web コンポーネントを作成します。リリースの [組み込みサービスリリース設定] ページで、[Add Custom UI Components (カスタム UI コンポーネントを追加)] をクリックします。[カスタムコンポーネント] ド

トップダウンメニューから Lightning Web コンポーネントを選択します。変更を保存し、リリースを再公開します。

関連トピック:

[Salesforce 開発者ガイド: Custom Lightning Web Components for Messaging for Web \(Web のメッセージングのカスタム Lightning Web コンポーネント\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Lightning Web コンポーネントを使用した UI のカスタマイズ](#)

アプリ内のメッセージングのリリースのコピー

モバイルアプリケーションの最新バージョンにアップグレードしていない顧客で停止が発生しないようにするには、新機能をリリースする前にアプリ内のメッセージングのリリースをコピーします。コピーしたバージョンのリリースで新機能をロールアウトします。アップグレードしていない顧客は引き続き古いバージョンを使用できます。

対象: この変更はアプリ内のメッセージングに適用されます。必要なエディションを確認してください。

対象ユーザー: 「アプリケーションのカスタマイズ」と「メタデータ API 関数を使用したメタデータの変更」権限を持つシステム管理者はアプリ内のメッセージングのリリースをコピーできます。

方法: [設定] の [組み込みサービスリリース] に移動して、リリースを [コピー] するオプションを選択します。手順に従ってプロセスを完了します。

API を使用した Web チャットクライアントの起動

Launch Chat API を使用すると、JavaScript API を使用して Web チャットクライアントをプログラムで起動できます。デフォルトのチャットボタンを非表示にした後、独自のチャットボタンを作成するか、チャットクライアントを起動する Launch Chat API をコールする Web 環境を作成します。

対象: この変更は Web のメッセージングに適用されます。必要なエディションを確認してください。

方法: Web のメッセージングクライアントから Launch Chat API をコールします。

関連トピック:

[Salesforce 開発者ガイド: Launch Chat in Messaging for Web \(Web のメッセージングでのチャットの起動\)](#)

メッセージングのその他の改善点

拡張メッセージングチャネルとアプリ内および Web のメッセージングのシステム管理者、エージェント、顧客の環境に対して行われた追加の改善について説明します。

対象: この変更は、拡張メッセージングチャネルと、アプリ内および Web のメッセージングに適用されます。必要なエディションを確認してください。

理由:

- 中度の弱視ユーザーが Salesforce を使用できるようにサポートする会社全体の取り組みの一環として、チャットと、アプリ内および Web のメッセージングの色のコントラストが WCAG 標準を使用して調整されました。
- アプリ内および Web のメッセージングで、セッションがネットワークエラーのために切断された場合、顧客のメッセージングウィンドウに [再接続中...] バナーが表示されるようになりました。チャットウィンド

ウが最小化されている場合、再接続中であることを示すスピナーアイコンがユーザーに表示されます。以前は、顧客はネットワークエラーが発生したことや、チャットが結果として再接続を試行していることを認識していました。

- 拡張メッセージングチャネルとアプリ内および Web のメッセージングで、新しいメッセージが届くとエージェントに音声通知が送信されるようになりました。
- 拡張メッセージングチャネルとアプリ内および Web のメッセージングで、エージェントに会話エントリの日付と時刻が表示されるようになりました。

Voice

エージェントの生産性は、会話のセンチメントの表示、通話の聞き取り、停電やメンテナンス時の業務の継続、Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice の簡略化されたカスタマーサポートの利用などにより向上します。

このセクションの内容:

[Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止への準備](#)

2024年1月以降、Google はプライバシーサンドボックスイニシアチブの段階的なロールアウトを開始します。これにより、Amazon Connect を使用する Service Cloud Voice と Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice の Salesforce ユーザーに影響が及ぶ可能性があります。ユーザーが Chrome ブラウザを使用している場合は、あらゆる中断に備えて準備し、オプションを確認してください。

[Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice の合理化されたサポートの利用](#)

Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice のカスタマーサポートが簡便化されました。Amazon Connect または Service Cloud Voice に関する質問は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。必要な場合は、カスタマーサポートへの問い合わせをお客様に代わって解決するために、Salesforce は Amazon と連携して情報を共有します。

[会話センチメント分析によるカスタマーサービスとエージェントトレーニングの改善](#)

エージェントのパフォーマンスを評価し、コーチングの機会を特定するために、スーパーバイザーは、エージェントと顧客との電話会話のセンチメントを記録プレーヤー内で参照できます。スーパーバイザーは、顧客やエージェントが満足していない瞬間を簡単に見つけることができるため、対応する通話の記録セグメントを聞いて、トレーニングを提供できます。センチメントジャーニーに加えて、エージェントのセンチメントスコアと顧客のセンチメントスコアの項目を VoiceCall エンティティに追加することで、簡単にレポートできるようになりました。通話後のセンチメントジャーニーは、北米地域の Salesforce 組織でのみ利用できます。

[Salesforce での Amazon Connect 音声通話の聞き取り](#)

エージェントをサポートするために、スーパーバイザーはオムニスーパーバイザーを通じて Salesforce から直接通話を聞くことができます。これまで、スーパーバイザーは Amazon Connect から聞き取りを行う必要がありました。

ディザスターリカバリーにより Amazon コンタクトセンターを 24 時間 365 日稼動させる

計画外の停電や計画的なメンテナンスの際も、業務を継続できます。ディザスターリカバリーにより、テレフォニーシステムが停止した場合に備えて、コンタクトセンターと Amazon Connect インスタンスのバックアップを取得できます。プライマリとバックアップコンタクトセンターのいずれかが稼働している場合でも、顧客は同じ電話番号で組織に電話できます。Amazon Connect インスタンスのディザスターリカバリーは、米国でのみご利用いただけます。

より多くの総計値で音声チャネルのパフォーマンスの確認(正式リリース)

コンタクトセンターの異常を特定し、ドキュメントを参照して自力で修正できるように、音声パフォーマンス総計値が正式リリースされています。カスタムレポートタイプに 2 つの新しい音声オブジェクトを追加し、切断された通話、エージェントが受けられなかった通話、通話エラー率、その他の通話アクションのトレンドを特定できます。この機能には、事前作成済みのレポートやダッシュボードが組み込まれたサンプルパッケージが含まれており、簡単にトレンドを確認できます。一部の総計値は、Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice でのみ使用できます。新しい音声オブジェクトのすべてのデータは、30 日後に削除されます。

セルフサービスチェックを使用した設定の問題の迅速な解決(正式リリース)

オンデマンド診断でコンタクトセンターを迅速に稼働できるようにします。クリックするだけでヘルプが表示されるため、むやみにトラブルシューティングを行ったり、Salesforce カスタマーサポートに問い合わせたりする必要はありません。たとえば、シングルサインオンサービスチェックを実行して、Service Cloud Voice がコンタクトセンター内のすべてのエージェントとスーパーバイザーを認証できることを確認します。コンタクトセンターアーカイブサービスチェックを実行して、すべてのコンタクトセンターエージェントとスーパーバイザーに適切な権限セッティングが割り当てられていることを確認します。この機能は、パイロットリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。

さまざまなビジネスプロセスをサポートする音声通話のレコードタイプの有効化

電話に応答するエージェントごとに、別々のビジネスプロセス、選択リストの値、ページレイアウトを提供します。たとえば、ゴールドサポートとプラチナサポートの電話に応答するエージェントに、独自の音声通話レコードタイプを作成できます。

音声通話の切断理由の追跡

音声通話ページレイアウトに [切断理由] 項目を追加することで、通話が切断された理由を把握できます。[切断理由] の値は、テレフォニーベンダーから提供されます。13.0 以降の Amazon Connect コンタクトセンターであれば、問い合わせ追跡コード (CTR) を介して切断理由の値が自動的に提供されます。他のテレフォニーパートナーでは、テレフォニー API を介して [切断理由] の値を提供できます。

スキルルーティングによる適任エージェントへの電話転送(パイロット)

適切なスキルを持つエージェントに電話をルーティングするには、オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用します。この機能は、使用しているテレフォニープロバイダーがスキルベースのルーティングをサポートしている場合に利用できます。

XML インポートから作成された既存の Salesforce コンタクトセンターの移行

XML インポート処理を使用してコンタクトセンターを作成した場合は、コンタクトセンターを移行することで使いやすいメンテナンス機能と追加機能を利用できるようになります。移行の実行によって、コンタクトセンターを将来のバージョンに更新することも簡単になります。サーバーレスアプリケーションを手動で更新する必要はありません。また、この移行により、より多くの Service Cloud Voice 機能を利用できるようになります。

パートナーシステムからのインテリジェンシグナルに基づいたアクションの自動化

以前は、Amazon Connect Contact Lensからのインテリジェンシグナルに基づいて自動的にアクションをトリガーできました。このリリースからは、会話インテリジェンスを有効化して、パートナーシステムからインテリジェンシグナルを取り込むことができるようになりました。

[Voice の状況] のさらなるユーティリティ機能を活用してエージェントを迅速にオンラインにする

エージェントのブラウザー、マイク、Amazon Connect 接続が音声通話について準備できているかどうかのチェックに加えて、エージェントのプレゼンス状況が Amazon Connect と同期されているかどうかもチェックできるようになりました。また、エージェントが音声とオムニチャネルをより効果的に使用するためのヒントも表示されます。[Voice の状況] ユーティリティは、コンソールアプリケーションと [Voice 拡張機能] ページで使用できます。

仮想デスクトップでのエージェントのログイン環境の向上

エージェントは、新しいローカルメディアページにより、仮想デスクトップの Amazon Connect にいつログインしたかを確認できます。従来、エージェントは Amazon Connect セッションの有効期限やタイムアウト、再ログインが必要なタイミングなどを把握できませんでした。

新規 Salesforce 組織で、音声通話用に [エージェント業務量を考慮] をデフォルトでオンにする (ベータ版)

オムニチャネルで設定された現在のエージェントの業務量を考慮する音声通話ルーティングによって、エージェントは複数のチャネルで作業できるようになります。Service Cloud Voice を使用する既存の Salesforce 組織ではこの機能を有効にすることができます。また Service Cloud Voice を使用する新しい Salesforce 組織ではこの機能がデフォルトで有効になります。

エージェントのプレゼンス状況の同期がデフォルトで有効

コンタクトセンターがオムニチャネルでのエージェントのプレゼンス状況を自動的に同期して、エージェントの作業対応可能状況を示すことができるようになりました。コンタクトセンターの [プレゼンス状況の同期] ボタンが有効になり、非同期の状況を検出して復元することができます。

オムニチャネルユーティリティでの洗練された通話インターフェースの活用

通話制御は、簡単に表示または非表示にできます。通話状況やタイマーを確認し、軽量なオムニチャネルユーティリティで複数の通話を確認できます。

Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice へのより多くの AWS サービスの追加

より多くの AWS サービスをコンタクトセンターに容易に追加できます。Service Cloud Voice Additional AWS Services アドオンライセンスでは、Amazon Pinpoint、Amazon Connect Voice ID、Amazon Kinesis Data Firehose など、より多くのサービスが提供されます。また、このライセンスでは、Amazon CloudWatch、Amazon Dynamo DB、Amazon EventBridge など、すでに使用している一部のサービスの完全な機能とアクセス権も提供されます。Salesforce でのテレフォニー料金の処理方法と同様に、追加サービスのコストは月次請求書を通じて渡されます。月次料金は、[Service Cloud Voice 利用状況およびコスト] レポートで確認できます。

通話転送前のすべてのキューの予想待機時間のプレビュー

エージェントは、通話を転送する前に、10 件ではなく、すべてのパートナーキューの予想待機時間を確認することで、サービスを向上できます。すべてのパートナーキューは、返された予想待機時間を一度に 10 件ずつ表示します。

オムニスーパーバイザーからの Amazon リアルタイム総計値ダッシュボードの設定

オムニスーパーバイザーでは、[Amazon リアルタイム総計値を表示] ボタンがデフォルトでは表示されなくなりました。オムニスーパーバイザーのタブに AWS ダッシュボードアクションを追加すると、コンタクトセンターで商談を特定して問題を発見するためのリアルタイムの評価指標を表示できます。

Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止への準備

2024年1月以降、Googleはプライバシーサンドボックスイニシアチブの段階的なロールアウトを開始します。これにより、Amazon Connect を使用する Service Cloud Voice と Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice の Salesforce ユーザーに影響が及ぶ可能性があります。ユーザーが Chrome ブラウザーを使用している場合は、あらゆる中断に備えて準備し、オプションを確認してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の [テレフォニー モデル](#) を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice

対象ユーザー: 2024年1月以降、Chrome はその世界中のユーザーの1%に対してサードパーティ Cookie をサポートしなくなります。Googleは、サードパーティ Cookie のサポートを終了する Chrome の影響を受けるこの1%からほとんどのエンタープライズエンドユーザーは除外されると述べています。

方法: ユーザーへの影響を軽減するために、以下のナレッジ記事でオプションを確認してください。

関連トピック:

[ナレッジ記事: Google Chrome のサードパーティ クッキーの廃止が、Service Cloud Voice with Amazon Connect および Service Cloud Voice with パートナーテレフォニー from Amazon Connect に影響を及ぼす可能性](#)

Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice の合理化されたサポートの利用

Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice のカスタマーサポートが簡便化されました。Amazon Connect または Service Cloud Voice に関する質問は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。必要な場合は、カスタマーサポートへの問い合わせをお客様に代わって解決するために、Salesforce は Amazon と連携して情報を共有します。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の [テレフォニー モデル](#) を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。

時期: この新しいサポートモデルは、2023年11月10日から開始されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud Voice のエキスパートによるサポート \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

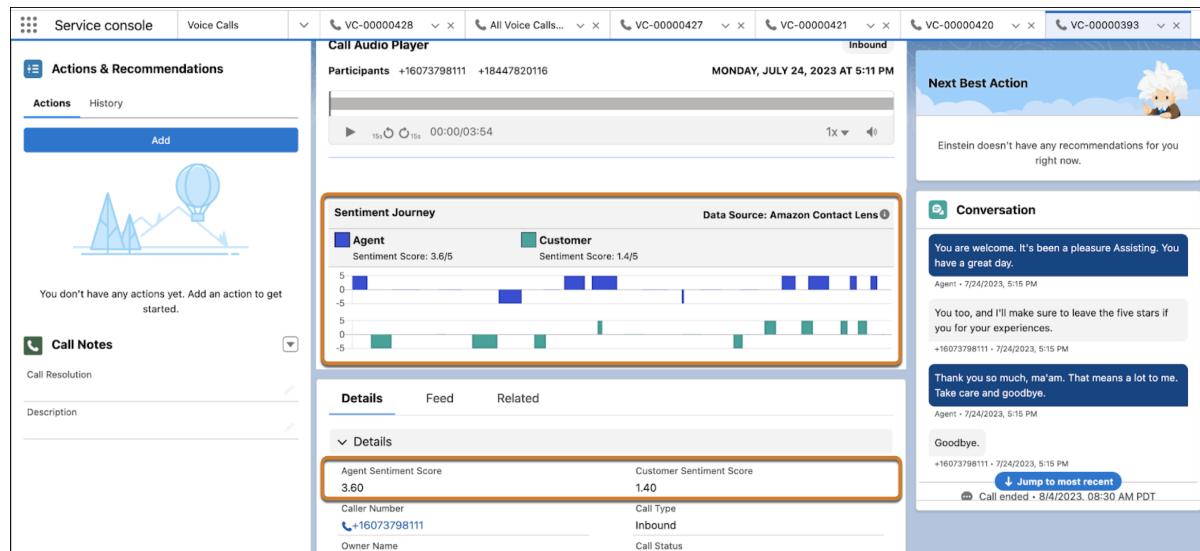
会話センチメント分析によるカスタマーサービスとエージェントトレーニングの改善

エージェントのパフォーマンスを評価し、コーチングの機会を特定するために、スーパーバイザーは、エージェントと顧客との電話会話のセンチメントを記録プレーヤー内で参照できます。スーパーバイザーは、顧客やエージェントが満足していない瞬間を簡単に見つけることができるため、対応する通話の記録セグメントを聞いて、トレーニングを提供できます。センチメントジャーニーに加えて、エージェントのセンチメントスコアと顧客のセンチメントスコアの項目をVoiceCallエンティティに追加することで、簡単にレポートできるようになりました。通話後のセンチメントジャーニーは、北米地域の Salesforce 組織でのみ利用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の[テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナー電話を使用した Service Cloud Voice

方法: 音声通話レコードの通話オーディオプレーヤーコンポーネントでは、会話後の通話レコードと一緒にエージェントと顧客の全体的なセンチメントが表示されます。エージェントと顧客のセンチメントスコアを表示するには、[音声通話] ページレイアウトに項目を追加するか、レポートに含めます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 通話会話のセンチメントジャーニー \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Salesforce での Amazon Connect 音声通話の聞き取り

エージェントをサポートするために、スーパーバイザーはオムニスーパーバイザーを通じて Salesforce から直接通話を聞くことができます。これまで、スーパーバイザーは Amazon Connect から聞き取りを行う必要がありました。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の[テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice

- Amazon Connect からのパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice

The screenshot shows the Salesforce Service Console with the 'Omni Supervisor' tab selected. The main area is titled 'Agent Summary' and lists one agent, 'setup demo', who is 'Available for Voice'. The 'Call Monitoring' panel on the right shows a call between 'setupdemo1@byot.com' and 'queue_tes'. A red box highlights the 'Listen In' button in the monitoring panel.

方法: Amazon Connect で、[Enable Multi-Party Calls and Enhanced Monitoring (マルチパーティコールと拡張監視を有効にする)] を有効にします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 音声通話を聞く \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

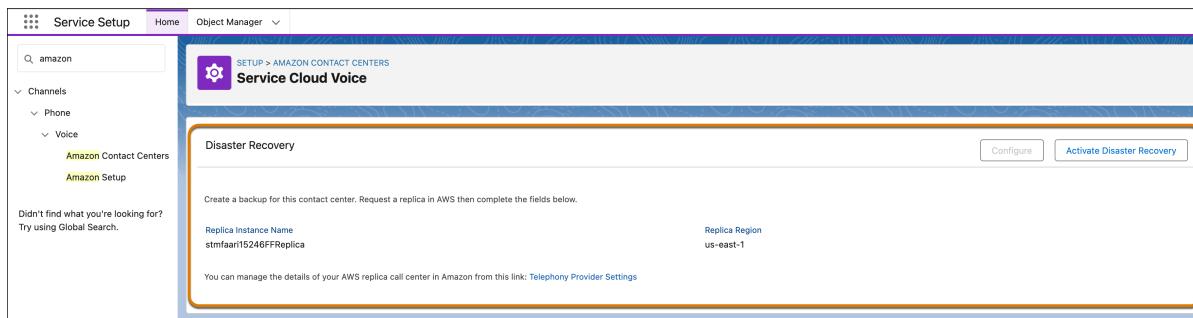
ディザスターリカバリーにより Amazon コンタクトセンターを 24 時間 365 日稼動させる
計画外の停電や計画的なメンテナンスの際も、業務を継続できます。ディザスターリカバリーにより、テレフォニーシステムが停止した場合に備えて、コンタクトセンターと Amazon Connect インスタンスのバックアップを取得できます。プライマリとバックアップコンタクトセンターのいずれかが稼働している場合でも、顧客は同じ電話番号で組織に電話できます。Amazon Connect インスタンスのディザスターリカバリーは、米国でのみご利用いただけます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の [テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice

対象ユーザー: Service Cloud Voice のお客様は、有償でディザスターリカバリーをご利用いただけます。Amazon Connect を使用する Service Cloud Voice 場合、この機能を使用するには追加の AWS サービスアドオンライセンスを購入する必要があります。Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice の場合、このサービスの追加料金は Amazon Connect の請求に追加されます。

方法: この機能を使用する前に、バックアップ Amazon Connect インスタンスとコンタクトセンターを作成してから、プライマリコンタクトセンターのディザスターリカバリーを設定してください。バックアップコンタクトセンターには機能の制限があります。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud Voice のディザスターリカバリーの概要 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Amazon ドキュメント: Amazon Connect Global Resiliency の使用開始 - Amazon Connect \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

より多くの総計値で音声チャネルのパフォーマンスの確認 (正式リリース)

コンタクトセンターの異常を特定し、ドキュメントを参照して自力で修正できるように、音声パフォーマンス総計値が正式リリースされています。カスタムレポートタイプに2つの新しい音声オブジェクトを追加し、切断された通話、エージェントが受けられなかった通話、通話エラー率、その他の通話アクションのトレンドを特定できます。この機能には、事前作成済みのレポートやダッシュボードが組み込まれたサンプルパッケージが含まれており、簡単にトレンドを確認できます。一部の総計値は、Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice でのみ使用できます。新しい音声オブジェクトのすべてのデータは、30 日後に削除されます。

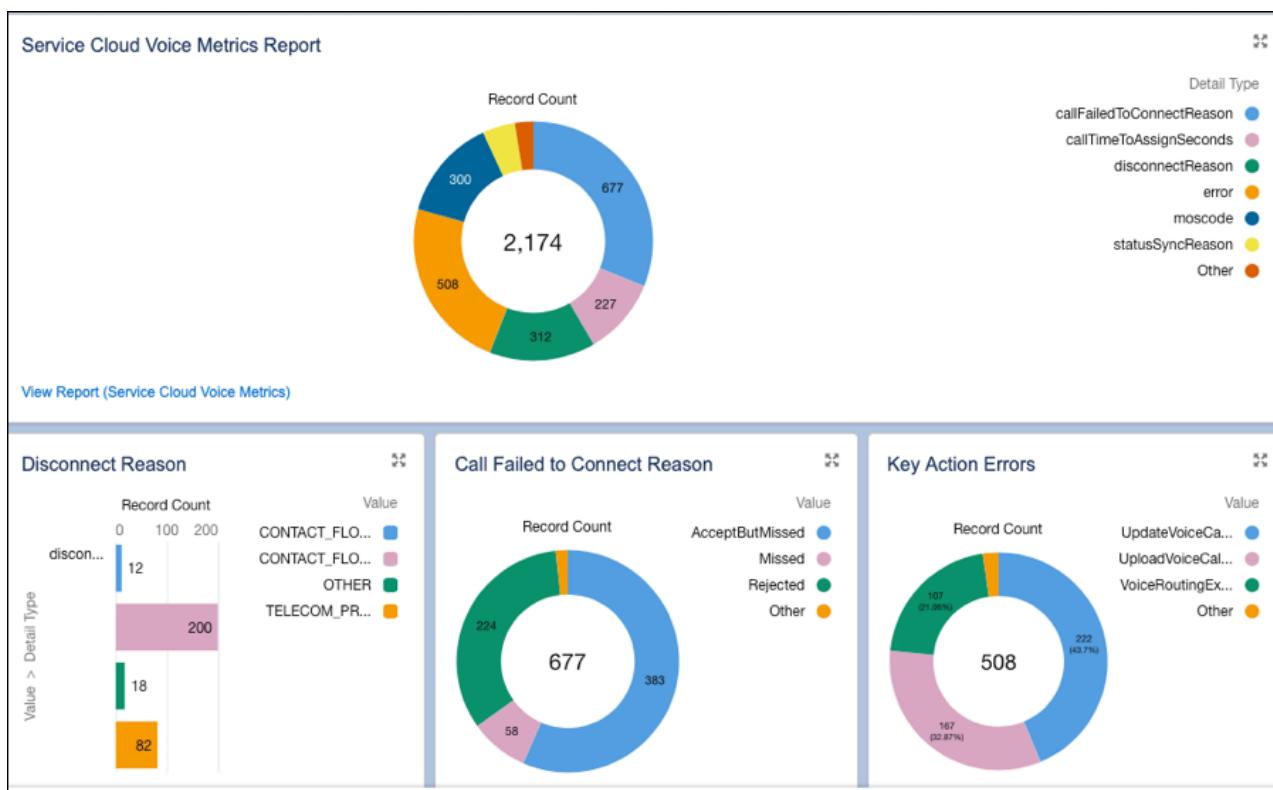
対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の[テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice

方法: レポートを作成し、音声チャネルインタラクションイベントおよび音声チャネルインタラクションの詳細イベントという新しい音声オブジェクトを含むカスタムレポートタイプを選択します。音声の項目を絞り込んでトレンドを確認します。

Report: Service Cloud Voice Metrics Service Cloud Voice Metrics					
Service cloud voice metrics					
Detail Type	Value	Message	Metric Detail User ID: User ID	Source Type	Event Timest...
callFailedToConnectDurationSeconds (36)	0.584 (1)	- (1)	005S7000000VtXW	Agent Missed Call	7/12/2023, 3:02 PM
		Subtotal			
	0.719 (1)	- (1)	005S7000000VtXW	Agent Missed Call	7/12/2023, 3:02 PM
		Subtotal			
	0.917 (1)	- (1)	005S7000000VtXW	Agent Missed Call	7/12/2023, 2:59 PM
		Subtotal			
	11.44 (1)	- (1)	005S7000000VtXW	Agent Missed Call	7/5/2023, 10:19 PM
		Subtotal			
	14 (7)	- (7)	005S7000000VtXv	Agent Missed Call	6/4/2023, 10:42 AM
			005S7000000VtXv	Agent Missed Call	6/4/2023, 10:42 AM
			005S7000000VtXv	Agent Missed Call	6/4/2023, 10:42 AM
			005S7000000VtXv	Agent Missed Call	6/4/2023, 10:42 AM
			005S7000000VtXv	Agent Missed Call	6/4/2023, 10:42 AM
			005S7000000VtXv	Agent Missed Call	6/4/2023, 10:42 AM
			005S7000000VtXv	Agent Missed Call	6/4/2023, 10:42 AM
Row Counts Detail Rows Subtotals Grand Total					

事前作成済みレポートとダッシュボードが組み込まれたサンプルパッケージをインストールするには、[GitHub](#) から ServiceCloudVoiceHealth.zip をダウンロードします。次に、Salesforce 組織で SCVHealthMetrics.dashboard を開き、runningUser を admin ユーザーに変更して、リリース用の Zip ファイルを作成します。メタデータ API を使用して、新しい Zip ファイルを組織にリリースします。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 音声チャネルパフォーマンスの確認 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Service Cloud Voice Performance Metrics Guide \(Service Cloud Voice パフォーマンス総計値ガイド\) \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[メタデータ API を使用したワークベンチでの取得およびリリース \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

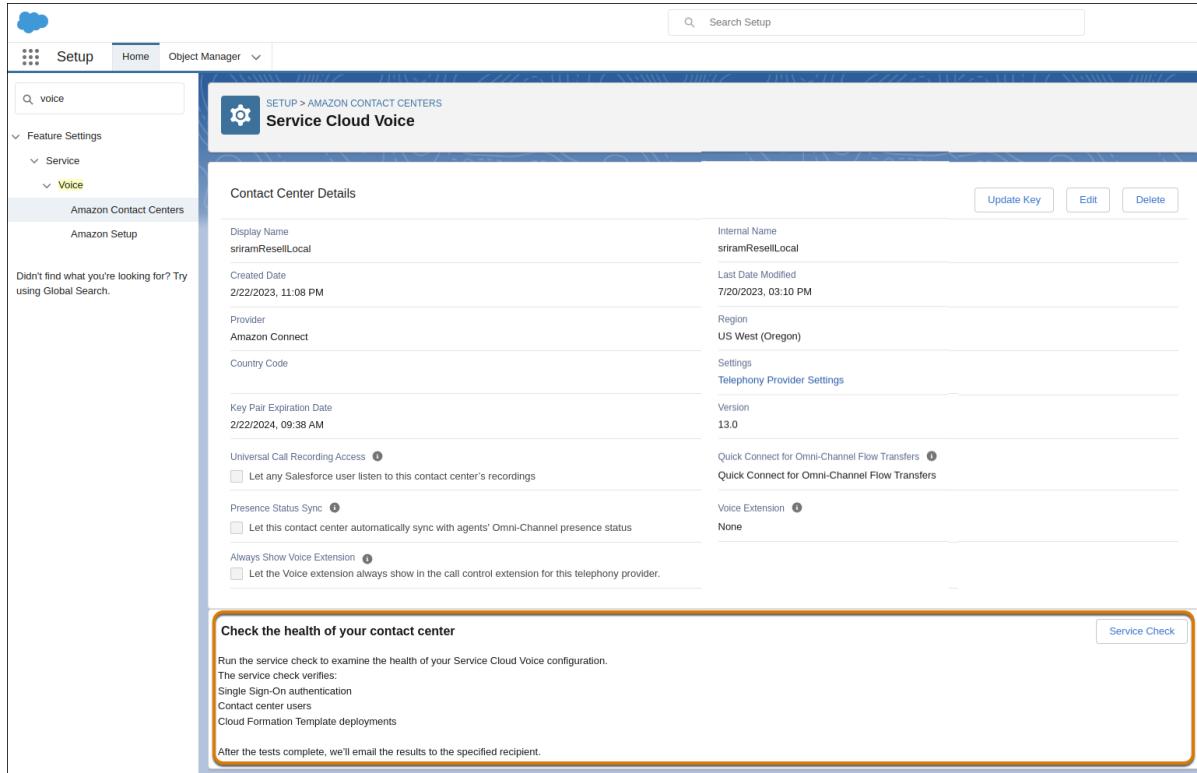
セルフサービスチェックを使用した設定の問題の迅速な解決 (正式リリース)

オンデマンド診断でコンタクトセンターを迅速に稼働できるようにします。クリックするだけでヘルプが表示されるため、むやみにトラブルシューティングを行ったり、Salesforce カスタマーサポートに問い合わせたりする必要はありません。たとえば、シングルサインオンサービスチェックを実行して、Service Cloud Voice がコンタクトセンター内のすべてのエージェントとスーパーバイザーを認証できることを確認します。コンタクトセンターユーザーサービスチェックを実行して、すべてのコンタクトセンターエージェントとスーパーバイザーに適切な権限セットライセンスが割り当てられていることを確認します。この機能は、パイロットリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の [テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice

方法: サービスチェックを実行するには、コンタクトセンターの詳細ページで [サービスチェック] をクリックします。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ:セルフサービスチェックを使用した設定の問題の解決\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

さまざまなビジネスプロセスをサポートする音声通話のレコードタイプの有効化

電話に応答するエージェントごとに、別々のビジネスプロセス、選択リストの値、ページレイアウトを提供します。たとえば、ゴールドサポートとプラチナサポートの電話に応答するエージェントに、独自の音声通話レコードタイプを作成できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の[テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- パートナー・テレフォニーを使用する Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナー・テレフォニーを使用した Service Cloud Voice

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:各種レコードタイプユーザーに合わせたビジネスプロセスの調整\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

音声通話の切断理由の追跡

音声通話ページレイアウトに [切断理由] 項目を追加することで、通話が切断された理由を把握できます。[切断理由] の値は、テレフォニーベンダーから提供されます。13.0 以降の Amazon Connect コンタクトセンターであれば、問い合わせ追跡レコード (CTR) を介して切断理由の値が自動的に提供されます。他のテレフォニーパートナーでは、テレフォニー API を介して [切断理由] の値を提供できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の [テレフォニーモデル](#) を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ページレイアウト \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 音声通話レコードページの作成 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Service Cloud Voice Implementation Guide \(Service Cloud 音声実装ガイド\): CTRDataSyncFunction Lambda Function \(CTRDataSyncFunction Lambda 関数\) \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

スキルルーティングによる適任エージェントへの電話転送 (パイロット)

適切なスキルを持つエージェントに電話をルーティングするには、オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用します。この機能は、使用しているテレフォニープロバイダーがスキルベースのルーティングをサポートしている場合に利用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の [テレフォニーモデル](#) を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice

メモ: この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあります、SFDC の裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

方法: このパイロットに参加するには、Salesforce の営業担当者にお問い合わせください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: スキルへの転送 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

XML インポートから作成された既存の Salesforce コンタクトセンターの移行

XML インポート処理を使用してコンタクトセンターを作成した場合は、コンタクトセンターを移行することで使いやすいメンテナンス機能と追加機能を利用できるようになります。移行の実行によって、コンタクトセンターを将来的バージョンに更新することも簡単になります。サーバーレスアプリケーションを手動で更新する必要はありません。また、この移行により、より多くの Service Cloud Voice 機能を利用できるようになります。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の[テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- パートナー電話を使用する Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナー電話を使用した Service Cloud Voice

方法: 独自の Amazon Connect インスタンスを使用するには、コンタクトセンターの作成時に [インスタンスの詳細] を入力して既存の Amazon Connect インスタンスを使用を選択し、Amazon Connect の詳細を入力します。

New Contact Center

Let's set up your contact center

(Recommended) Create an Amazon Connect instance
 Use an existing Amazon Connect instance by entering the instance details
 Use an existing Amazon Connect instance by uploading the contact center definition

* Display Name
USA-West Contact Center

* Internal Name ⓘ
UsaWest

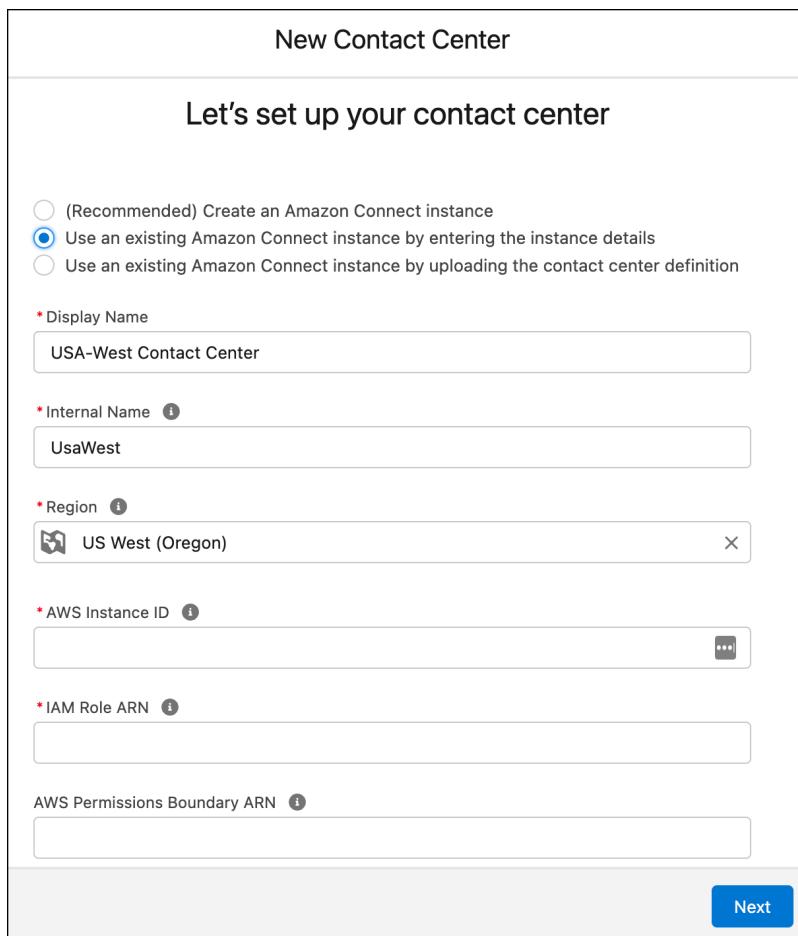
* Region ⓘ
US West (Oregon)

* AWS Instance ID ⓘ

* IAM Role ARN ⓘ

AWS Permissions Boundary ARN ⓘ

Next



コンタクトセンターを更新するには、コンタクトセンターページの [Install Updates (更新をインストール)] をクリックします。AWSサーバーレスアプリケーションを使用して、コンタクトセンターの更新を手動で適用する必要はありません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: XML インポートから作成された既存の Amazon Connect インスタンスを移行 \(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

パートナーシステムからのインテリジェンスシグナルに基づいたアクションの自動化

以前は、Amazon Connect Contact Lensからのインテリジェンスシグナルに基づいて自動的にアクションをトリガーできました。このリリースからは、会話インテリジェンスを有効化して、パートナーシステムからインテリジェンスシグナルを取り込むことができるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の[テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice

方法: 新しいインテリジェンスシグナルソースからシグナルを取り込むための承認を得るには、Salesforce のアカウントエグゼクティブまで連絡してください。承認を得たら、インテリジェンスシグナルソースと、サポートされているすべてのシグナル種別を指定した Apex クラスを作成できます。最後に、Service Cloud Voice ユーザーが Salesforce 組織にリリースできるように、その Apex クラスを管理パッケージにパッケージ化します。

パッケージを組織にリリースすれば、会話インテリジェンスルールを作成する際に、新しいインテリジェンスシグナルソースとシグナル種別を選択できるようになります。

Edit Rule

Change the label, action, or conditions for this rule. You can also indicate whether this rule is active.

Active ⓘ

* Rule Label ⓘ
Alert Supervisor about Frustrated Customers

* Developer Name ⓘ
BlizSwitchSaveds

* Action ⓘ
Alert the Supervisor

* Service Channel Instance ⓘ
ByotDemoConnectorCC

* Trigger Type
 Matching keyword
 Signals from an intelligence source

* Intelligence Signal Source
Partner Intelligence Signal Source

Conditions

* Take Action When
Any Condition Is Met

1	Signal Type	Operator	* Value	Delete
1	Customer Se...	Less Than	-250	Delete

+ Add Condition

Save

シグナルが検出された場合、Service Cloud Voice で、関連付けられているアクションが開始します。たとえば、顧客のセンチメントスコアが -250 を下回ると、スーパーバイザーにアラートが送信されます。

関連トピック:

[Salesforceヘルプ:インテリジェンスシグナルに基づいたアクションの実行\(リリースプレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

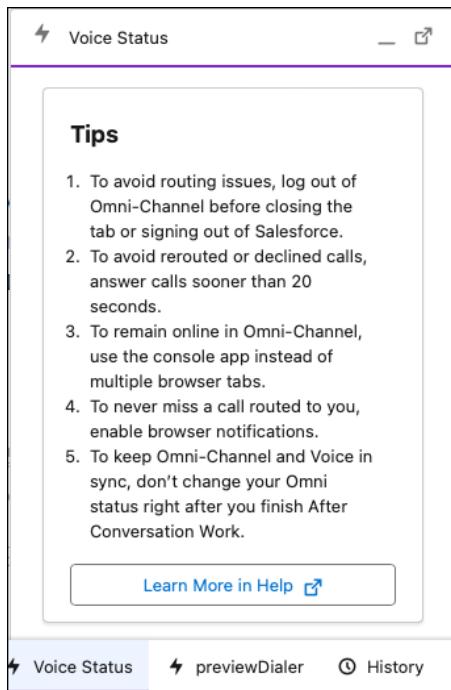
[Voice の状況] のさらなるユーティリティ機能を活用してエージェントを迅速にオンラインにする

エージェントのブラウザー、マイク、Amazon Connect 接続が音声通話について準備できているかどうかのチェックに加えて、エージェントのプレゼンス状況が Amazon Connect と同期されているかどうかもチェックできるようになりました。また、エージェントが音声とオムニチャネルをより効果的に使用するためのヒントも表示されます。[Voice の状況] ユーティリティは、コンソールアプリケーションと [Voice 拡張機能] ページで使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の [テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice

- パートナー電話を使用する Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナー電話を使用した Service Cloud Voice



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Voice の状況の確認 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: エージェント用の Voice 状況ユーティリティの設定 \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

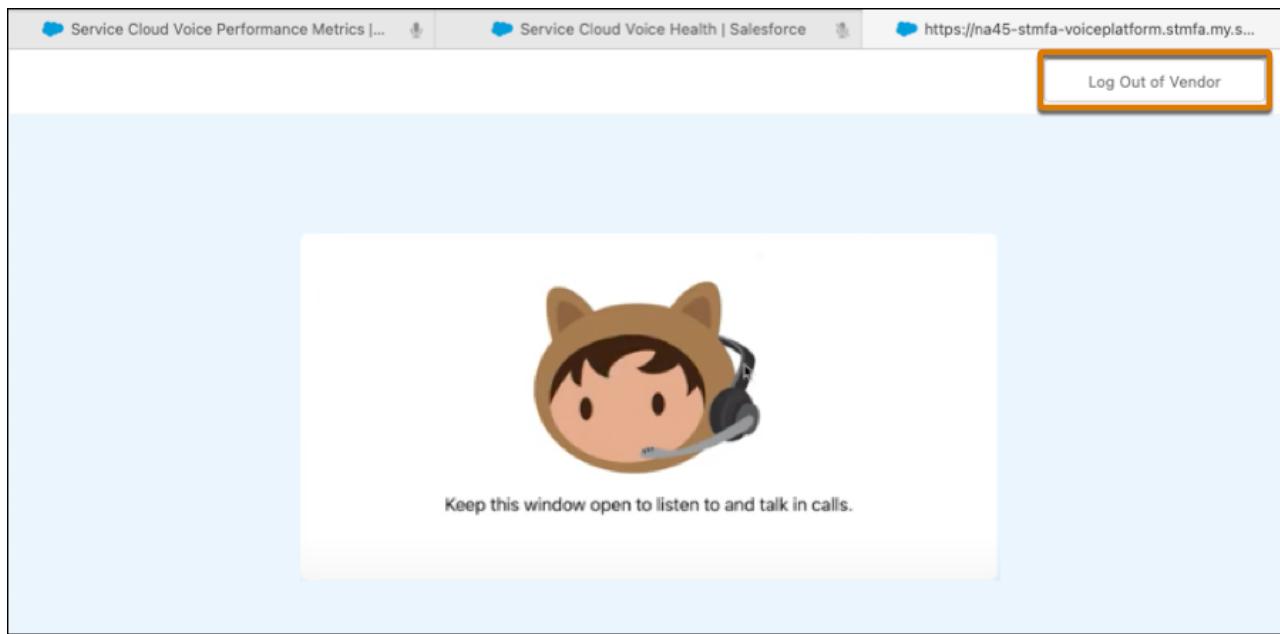
[Salesforce ヘルプ: 通話制御と Voice 拡張機能のカスタマイズ \(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

仮想デスクトップでのエージェントのログイン環境の向上

エージェントは、新しいローカルメディアページにより、仮想デスクトップの Amazon Connect にいつログインしたかを確認できます。従来、エージェントは Amazon Connect セッションの有効期限やタイムアウト、再ログインが必要なタイミングなどを把握できませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の**テレフォニーモデル**を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナー電話を使用した Service Cloud Voice



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:仮想デスクトップユーザーの音声通話の音声の設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

新規 Salesforce 組織で、音声通話用に [エージェント業務量を考慮] をデフォルトでオンにする (ベータ版)

オムニチャネルで設定された現在のエージェントの業務量を考慮する音声通話ルーティングによって、エージェントは複数のチャネルで作業できるようになります。Service Cloud Voice を使用する既存の Salesforce 組織ではこの機能を有効にすることができます。また Service Cloud Voice を使用する新しい Salesforce 組織ではこの機能がデフォルトで有効になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の [テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- パートナー電話を使用する Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナー電話を使用した Service Cloud Voice

メモ: Service Cloud Voice 用の [エージェント業務量の考慮] はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法:[設定]で、使用しているテレフォニーモデルに応じて[クイック検索]ボックスに「Amazon 設定」または「パートナーテレフォニー設定」と入力します。次に、[エージェント業務量を考慮]をクリックします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 音声通話に関するエージェント業務量の考慮\(ベータ\)\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

エージェントのプレゼンス状況の同期がデフォルトで有効

コンタクトセンターがオムニチャネルでのエージェントのプレゼンス状況を自動的に同期して、エージェントの作業対応可能状況を示すことができるようになりました。コンタクトセンターの[プレゼンス状況の同期]ボタンが有効になり、非同期の状況を検出して復元することができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の[テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice

XML インポート処理を使用してコンタクトセンターを作成した場合、[プレゼンス状況の同期]ボタンは自動的には有効になりません。有効にするには、コールセンターの定義 XML ファイルに `<item sortOrder="6" name="reqPresenceStatusSyncAccess" label="Automatic Presence Status Syncing">true</item>` を追加します。sortOrder= には、Salesforce で項目を編集するときに表示される順序を自由に指定できます。

または、[設定]から [プレゼンス状況の同期]を有効にすることもできます。[設定]で、使用しているテレフォニーモデルに応じて[クイック検索]ボックスに「Amazon 設定」または「パートナーテレフォニー設定」と入力して、コンタクトセンターを選択します。[プレゼンス状況の同期]をクリックして[保存]をクリックします。

 **メモ:** コンタクトセンターでルーティング可能なプレゼンス状況とルーティング不可のプレゼンス状況との間のカスタム対応付けが双方向でサポートされている場合は、[プレゼンス状況の同期]ボタンを無効にしないと、カスタム対応付けは機能しません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud Voice コンタクトセンターの設定\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: エージェントのプレゼンス状況の自動同期\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

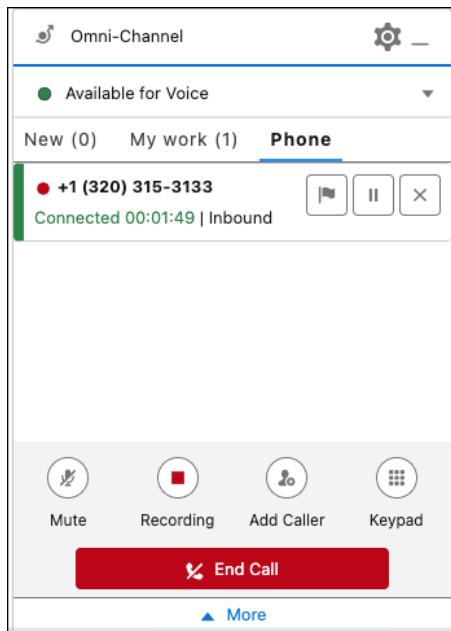
[Salesforce ヘルプ: コールセンター定義ファイルの作成\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

オムニチャネルユーティリティでの洗練された通話インターフェースの活用

通話制御は、簡単に表示または非表示にできます。通話状況やタイマーを確認し、軽量なオムニチャネルユーティリティで複数の通話を確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の[テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice



関連トピック:

[Salesforceヘルプ電話の応答と発信\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice へのより多くの AWS サービスの追加

より多くの AWS サービスをコンタクトセンターに容易に追加できます。Service Cloud Voice Additional AWS Services アドオンライセンスでは、Amazon Pinpoint、Amazon Connect Voice ID、Amazon Kinesis Data Firehose など、より多くのサービスが提供されます。また、このライセンスでは、AmazonCloudWatch、Amazon DynamoDB、Amazon EventBridge など、すでに使用している一部のサービスの完全な機能とアクセス権も提供されます。Salesforceでのテレフォニー料金の処理方法と同様に、追加サービスのコストは月次請求書を通じて渡されます。月次料金は、[Service Cloud Voice 利用状況およびコスト] レポートで確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の[テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。

方法: Service Cloud Voice Additional AWS Services アドオンライセンスのご購入については、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

[音声IDの設定\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Service Cloud Voice 利用状況およびコストレポート\(リリースレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

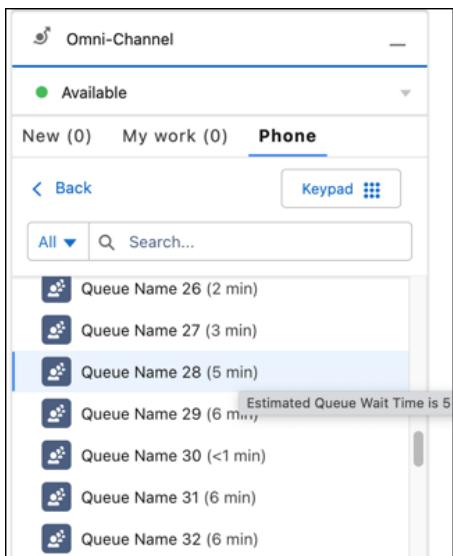
通話転送前のすべてのキューの予想待機時間のプレビュー

エージェントは、通話を転送する前に、10件ではなく、すべてのパートナーキューの予想待機時間を確認することで、サービスを向上できます。すべてのパートナーキューは、返された予想待機時間を一度に10件ずつ表示します。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の[テレフォニーモデル](#)を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- Amazon Connect を使用した Service Cloud Voice
- パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice

過去 10 分間にキューに対して 10 回の通話があった場合のみ、予想待機時間が計算されます。この条件が満たされない場合、予想待機時間は表示されません。予想待機時間は、Amazon Connect を使用する Service Cloud Voice と Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice の両方で、Salesforce キューに対応付けられたすべてのキューで自動的に有効化されます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: テレフォニープロバイダーキューへの Salesforce キューの対応付け\(リリースプレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: エージェントの対応可能状況キューの確認によるルーティングの決定のスマート化\(リリースプレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Service Cloud Voice for Partner Telephony 開発者ガイド: キューの予想待機時間の設定\(リリースプレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

オムニスーパーバイザーからの Amazon リアルタイム総計値ダッシュボードの設定

オムニスーパーバイザーでは、[Amazon リアルタイム総計値を表示] ボタンがデフォルトでは表示されなくなりました。オムニスーパーバイザーのタブに AWS ダッシュボードアクションを追加すると、コンタクトセンターで商談を特定して問題を発見するためのリアルタイムの評価指標を表示できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。次の [テレフォニーモデル](#) を備えた Salesforce 組織で使用できます。

- パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice
- Amazon Connect からのパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice

対象: [Amazon リアルタイム総計値を表示] ボタンは、プロファイルが [スーパーバイザー構成] 設定に割り当てられているユーザーにのみ表示されます。

The screenshot shows the Service Console interface. At the top, there's a navigation bar with 'Service Console' and 'Omni Supervisor'. Below it, a sub-navigation bar has tabs for 'Agents', 'Queues Backlog', and 'Assigned Work'. Under 'Agents', there's a sub-section titled 'Agent Summary' with tabs for 'All Agents' and 'Agents by Queue'. On the right side of this section, there's a button labeled 'View Amazon Real-Time Metrics' with a small icon of a chart. This button is highlighted with a yellow rectangular box. Below these sections is a table with columns for 'AGENT', 'STATUS', 'FLAG', 'ACTION', 'WORK SUMMARY', 'STATE', 'LOGIN', 'ACCEPT', 'CAPACITY', 'ACW', 'WORKLOAD', and 'CHANNELS'. The first row of the table represents an agent named 'SRINATH'.

AGENT	STATUS	FLAG	ACTION	WORK SUMMARY	STATE	LOGIN	ACCEPT	CAPACITY	ACW	WORKLOAD	CHANNELS
SRINATH	Available for Voice Since Dec 8, 2021, 1:27:47 PM			Change Status	16 s	16 s	--	0%	0 / 5		

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: オムニスーパーバイザータブへのデフォルトアクションの表示\(リリースプレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: オムニスーパーバイザータブへのカスタムアクションの追加\(リリースプレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Amazon Connect コンタクトセンターに関するリアルタイム総計値の表示\(リリースプレビューの時点での内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

Open CTI

Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止は、Open CTI の実装に影響を与える可能性があります。

このセクションの内容:

[Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止と Open CTI に与える潜在的な影響に向けた準備](#)

Google のプライバシーサンドボックスイニシアチブは、2024年1月以降に Open CTI の実装に影響を与える可能性があります。対応策を講じなければ、Open CTI が機能しなくなる可能性があります。Open CTI ソリューションが AppExchange パートナーによって提供または実装されている場合は、パートナーには正措置についてお問い合わせください。

Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止と Open CTI に与える潜在的な影響に向けた準備

Google のプライバシーサンドボックスイニシアチブは、2024年1月以降に Open CTI の実装に影響を与える可能性があります。対応策を講じなければ、Open CTI が機能しなくなる可能性があります。Open CTI ソリューションが AppExchange パートナーによって提供または実装されている場合は、パートナーには正措置についてお問い合わせください。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Professional Edition の Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できます。

関連トピック:

[ナレッジ記事: Google Chrome のサードパーティ Cookie の廃止が Open CTI に影響を与える可能性](#)

ソーシャルメディア

ソーシャルカスタマーサービススターターパックは廃止されます。

このセクションの内容:

[ソーシャルカスタマーサービス Starter Pack の廃止](#)

ソーシャルカスタマーサービスは、2024年11月16日に廃止される予定です。

ソーシャルカスタマーサービス Starter Pack の廃止

ソーシャルカスタマーサービスは、2024年11月16日に廃止される予定です。

対象: この機能は、Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できます。この機能は、Service Cloud のすべてのエディションで使用できます。

関連トピック:

[ソーシャルカスタマーサービス Starter Pack の廃止](#)

チャット

チャットなどの前に使用条件を受け入れるように顧客に求めます。

このセクションの内容:

[事前チャットでの使用条件の表示による顧客との信頼関係の構築](#)

チャットの会話に参加する前に使用条件を受け入れるように顧客に求めます。使用条件を使用して、会話データを追跡または記録したり、その他の重要な情報を共有したりすることを顧客に通知します。

[その他の改善点](#)

チャットに加えられたその他の改善について説明します。

[アプリ内および Web のメッセージングの採用を奨励するポップアップウィンドウとバナーの追加](#)

従来のチャットがメンテナンスマードになるため、ユーザーにアプリ内および Web のメッセージングの検討を奨励しています。アプリ内および Web のメッセージングについての詳細を含むポップアップウィンドウとバナーが、チャット設定ページに表示されるようになりました。

事前チャットでの使用条件の表示による顧客との信頼関係の構築

チャットの会話に参加する前に使用条件を受け入れるように顧客に求めます。使用条件を使用して、会話データを追跡または記録したり、その他の重要な情報を共有したりすることを顧客に通知します。

対象: この機能は Performance Edition、Developer Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Essentials Edition のすべてのバージョンのチャットで使用できます。

方法: [組み込みサービスリリース設定] ページで、[設定] をクリックし、[使用条件] でボックスをオンにします。これらの変更内容を保存します。

[追加のブランド設定] ページで、プレースホルダーと使用条件の URL を使用して顧客へのメッセージをカスタマイズします。変更内容を保存します。

その他の改善点

チャットに加えられたその他の改善について説明します。

対象: この変更は、Service Cloud または Sales Cloud が付属する Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の組み込みチャットに適用されます。

理由: ほとんど利用されていないことや、より新しいバージョンの維持に集中するため、組み込みチャットの 1.0 バージョンのファイルはサポートされなくなります。

アプリ内および Web のメッセージングの採用を奨励するポップアップウィンドウとバナーの追加

従来のチャットがメンテナンスモードになるため、ユーザーにアプリ内および Web のメッセージングの検討を奨励しています。アプリ内および Web のメッセージングについての詳細を含むポップアップウィンドウとバナーが、チャット設定ページに表示されるようになりました。

対象: この変更は、次のいずれかを使用している場合に適用されます。

- 2012 年 6 月 14 日より後に作成された Salesforce 組織の Performance Edition または Developer Edition
- Essentials Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition (Service Cloud または Sales Cloud 付属)

方法: ポップアップウィンドウとバナーは、[設定] の [チャット] の下のページに表示されます。

ポップアップウィンドウを閉じるには、[I understand that legacy Chat is in maintenance mode (私は、従来のチャットがメンテナンスモードであることを理解しています)] を選択し、[Continue to Legacy Chat Settings (従来のチャット設定に進む)] をクリックします。

チャネルツール

個人-オブジェクトリンクにより、チャネルオブジェクトリンクがフローの拡張機能に置き換えられます。有効な Salesforce 組織と期限切れの Salesforce 組織の両方で会話トランスクript のエクスポートデータを複数回ダウンロードできるようになりました。

このセクションの内容:

個人-オブジェクトリンク (正式リリース)

個人-オブジェクトリンクでは、有効な会話のバックグラウンドにいる人物に関するレコードを自動的に検索、リンク、画面ポップできます。この変更により、エージェントは誰とメッセージをやりとりしているかについてのより詳しいインサイトを得ることができます。この機能は Summer '23 ではベータで、現在は正式リリースされています。

会話トランスクript の複数回のエクスポートと有効な Salesforce 組織からのエクスポート

有効な Salesforce 組織から会話トランスクript をエクスポートおよびダウンロードしたり、組織ごとに複数回エクスポートしたりできます。Salesforce 契約の有効期限が切れた場合でも、Salesforce カスタマーサポートに連絡すれば、一時的なトライアル環境でエクスポートを完了できます。

個人-オブジェクトリンク (正式リリース)

個人-オブジェクトリンクでは、有効な会話のバックグラウンドにいる人物に関するレコードを自動的に検索、リンク、画面ポップできます。この変更により、エージェントは誰とメッセージをやりとりしているかについてのより詳しいインサイトを得ることができます。この機能はSummer '23ではベータで、現在は正式リリースされています。

対象: この変更は次のエディションの Lightning Experience に適用されます。

- 標準メッセージングチャネル、拡張メッセージングチャネル、アプリ内および Web のメッセージング。**必要なエディションを確認してください。**
- Enterprise Edition および Unlimited Edition の Service Cloud Voice チャネル。
- Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition のメール-to-ケース。

会話トランスクriptの複数回のエクスポートと有効な Salesforce 組織からのエクスポート

有効な Salesforce 組織から会話トランスクriptをエクスポートおよびダウンロードしたり、組織ごとに複数回エクスポートしたりできます。Salesforce 契約の有効期限が切れた場合でも、Salesforce カスタマーサポートに連絡すれば、一時的なトライアル環境でエクスポートを完了できます。

対象: この機能は、次で使用できます。

- Enterprise Edition および Unlimited Edition の拡張音声。
- アプリ内および Web のメッセージング、拡張 WhatsApp Messenger、拡張 Facebook Messenger。**必要なエディションを確認してください。**

方法: 有効な Salesforce 組織で、[会話トランスクriptのエクスポート] 設定ページで [今すぐエクスポート] をクリックします。結果をダウンロードします。

Salesforce 契約の有効期限が切れた場合は、Salesforce カスタマーサポートに連絡して、データをエクスポートするための一時的再有効化を要求します。

エクスポート結果をダウンロードしたら、[今すぐエクスポート] ボタンが再表示されるまで 7 日間待ちます。その後、データを再ダウンロードできるようになります。これにより、以前にダウンロードしてあるデータが上書きされます。関連するエクスポートデータと監査データは、エクスポートを最後に正常に完了した日から 30 日間有効です。

ナレッジ

コンテンツの表示を制御することで、記事をより簡単かつ効果的に作成し、エージェントの記事の操作を最適化します。

このセクションの内容:

ナレッジの Lightning 記事エディターと記事のパーソナライズを有効化

新しい Lightning 記事エディターを使用して、より充実したユーザーフレンドリーなエクスペリエンスを実現します。また、記事のパーソナライズを使用すると、ナレッジコンテンツがビジネスニーズに合わせて調整され、エージェントの生産性が向上します。

アコーディオンを使用した長いナレッジ記事の読みやすさの向上

大きなテキストブロックを含むナレッジ記事は、読者と記事の作成者の両方が圧倒される可能性があります。ナレッジ記事でアコーディオンを使用できるようになったことで、記事の作成者は長いコンテンツを折りたたみおよび展開可能なセクションに構造化し、セクションにタイトルを付けることができます。展開および折りたたみ可能なセクションを使用すると、作成者はテキストの多いコンテンツを読者や他の作成者がより簡単に利用できるコンテンツに論理的に変換できます。

ナレッジの Lightning 記事エディターと記事のパーソナライズを有効化

新しいLightning記事エディターを使用して、より充実したユーザーフレンドリーなエクスペリエンスを実現します。また、記事のパーソナライズを使用すると、ナレッジコンテンツがビジネスニーズに合わせて調整され、エージェントの生産性が向上します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Professional Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '24 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: Lightning 記事エディターを使用して、次の操作を実行できます。

- アクセシビリティに対応しているコンテンツの書式設定機能と高度なテーブル編集により、作成者の生産性を向上する。
- より効果的に記事を作成し、記事が読者にどのように表示されるかをより深く理解できるように、エディターのサイズを好みに合わせて変更する。
- ソースコンテンツのデザインを維持しながら、Google ドキュメントや Web サイトなどの外部ソースからコンテンツをシームレスにコピーして貼り付ける。
- 組み込みのアクセシビリティチェックツールを使用して、記事が W3C アクセシビリティ基準に準拠していることを確認する。

エディターのベータから正式リリースへの更新には、次の変更が含まれます。

- 表示ラベルをローカライズし、左から右へ記述される言語と右から左へ記述される言語の両方で作成できるようにすることで、複数の言語をサポートする。
- アコーディオン(折りたたみ可能なセクション)を追加して、大きな記事の読みやすさを向上させる。
- ソースコードエディターで、コードのコピー機能とコードの拡大/縮小機能を使用する。
- エディターメニューから直接横線を追加する。
- ユーザーのロケールに基づいて日付と時刻を表示する。
- リストの番号の付け直しをサポートする。
- クリックテキストを挿入する。
- その他のユーザビリティの改善。

記事のパーソナライズを使用すると、ユーザー、ユーザー権限、およびレコードに基づいて項目を非表示または表示するカスタム表示ルールを作成できます。Salesforce システム管理者は、特定の利用者に対して記事のどの部分を表示または非表示にするかを制御することで、ナレッジ記事をカスタマイズします。コンテンツを操作するサービスエージェントには見る必要がある情報のみが表示されるため、回答をすばやく見つけることができます。

方法: ナレッジの Lightning 記事エディターと記事のパーソナライズを有効にするには、[設定] の [リリース更新] に移動し、更新を見つけて使用を開始します。

Turn On Lightning Article Editor and Article Personalization for Knowledge

 TEST RUN SUPPORTED 

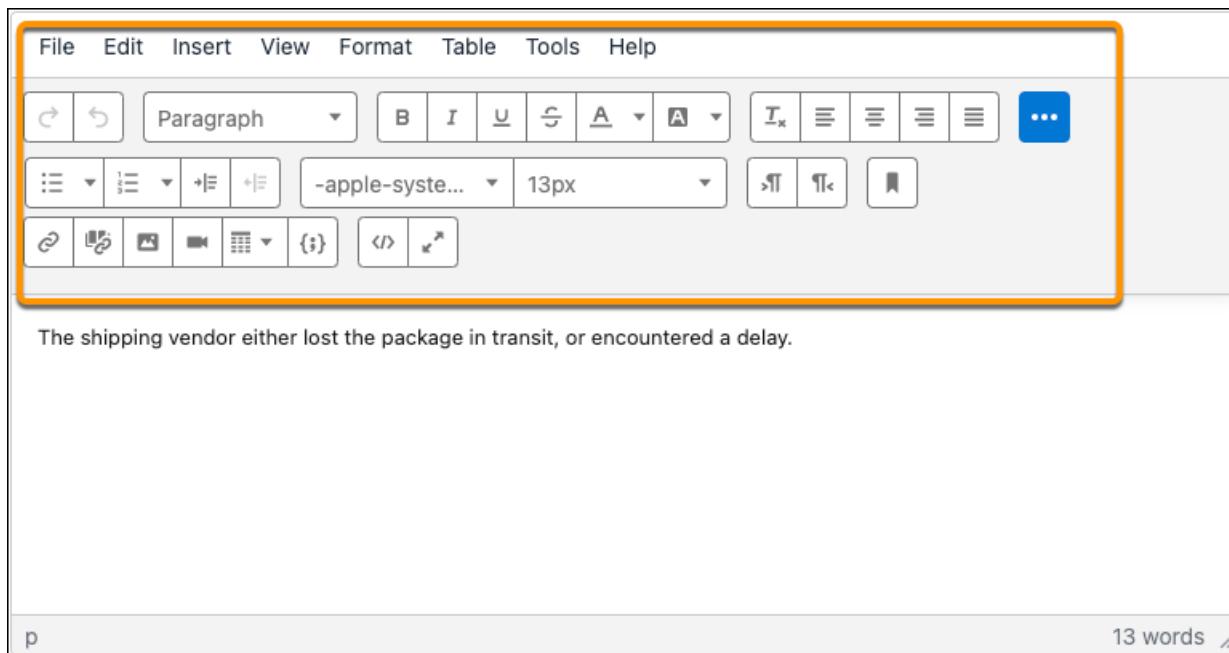
Unlock a richer and more user-friendly experience with the new Lightning Article Editor. And with Article Personalization, your knowledge content is tailored to your business needs and unlocks agent productivity....

USABILITY

0%  0 of 2

Enforcement Scheduled: Spring '24  View Details 

リリース更新を有効にすると、古い記事エディターは新しい Lightning 記事エディターに置き換えられます。



関連トピック:

リリース更新

[Salesforceヘルプ:リリース更新の管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:Lightning記事エディター\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:サポート言語\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:クイックテキストの設定と使用\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

リリース更新

[Salesforceヘルプ:リリース更新の管理\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[Salesforceヘルプ:ナレッジの記事のパーソナライズ\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

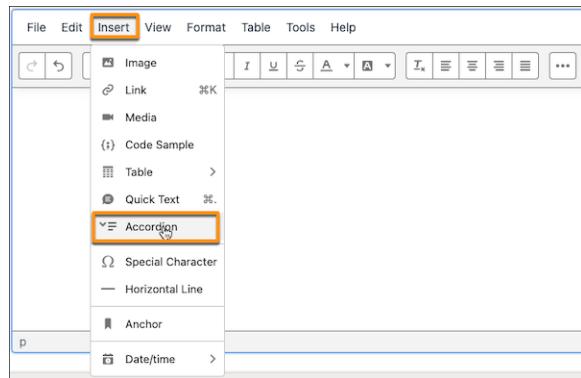
アコーディオンを使用した長いナレッジ記事の読みやすさの向上

大きなテキストブロックを含むナレッジ記事は、読者と記事の作成者の両方が圧倒される可能性があります。ナレッジ記事でアコーディオンを使用できるようになったことで、記事の作成者は長いコンテンツを折りたたみおよび展開可能なセクションに構造化し、セクションにタイトルを付けることができます。展開および折りたたみ可能なセクションを使用すると、作成者はテキストの多いコンテンツを読者や他の作成者がより簡単に利用できるコンテンツに論理的に変換できます。

対象: この変更は、本番、Sandbox、および開発インスタンスの Lightning Experience の Salesforce ナレッジに適用されます。

 **メモ:** アコーディオンは、Lightning Experience および Experience Cloud の LWR ランタイムでのみ使用できます。Experience Cloud の Aura ランタイムは現在サポートされていません。

方法: アコーディオンを追加するには、Lightning 記事エディターの [挿入] メニューから [アコーディオン] を選択します。



ルーティング

拡張オムニチャネルには、いくつかの新機能とより効率的なワークフローが備えられています。

このセクションの内容:

拡張オムニチャネルへのアップグレード

拡張オムニチャネルでオムニチャネル環境をさらに改善します。新しい拡張エージェント UI を使用すると、エージェントは、作業を一時停止している間により緊急度の高い項目を引き受けるなど、よりスマートかつ論理的に作業できます。拡張スーパーバイザー環境で新しい概要ウォールボードを使用して、1つのページでエージェントの作業をフォローします。

オムニチャネルの拡張エージェント環境による作業効率の向上

オムニチャネルの拡張エージェント環境に2つの新しい機能が追加されました。まず、状況ベースの業務量を使用している組織のエージェントは、積極的にエンゲージしていない作業を一時停止できるようになりました。エージェントは、一時停止中の作業を見ることができますが、デフォルトでは業務量を消費しません。次に、エージェント向けに新しく設計された UI により、より便利な方法で情報が表示され、さまざまな作業モードが容易に統合されます。オムニチャネルでは古いコンソールタブの代わりに受信箱スタイルの作業ビューが提供されます。ウィジェットでは、進行中の作業項目、一時停止中の作業項目、更新済みの作業項目などを確認できます。オムニチャネルウィジェットで項目をクリックして作業を行います。

拡張オムニスーパーバイザー環境を使用したエージェントの作業の容易なフォロー(正式リリース)

オムニチャネルウォールボードでは、1つの中央のページでスーパーバイザーにエージェントと作業に関するリアルタイム評価指標が表示されます。これを使用して、ボトルネック、未使用の業務量、待機時間、問題、その他の情報を一目で特定します。

中断可能な業務量を使用したマルチチャネルエージェントの効率の向上

最も重要なタスクを処理できるように、エージェントが複数のチャネルで作業を迅速かつ容易に行えるようになります。緊急を要する作業項目を転送することで、顧客への応答時間を短縮します。中断可能な業務量を使用して、作業をエージェントの業務量に効率的に適合させます。以前は、長い時間がかかっているケースによってチャットや電話がブロックされるため、電話、チャット、ケースを同時に処理するエージェントを持っているスーパーバイザーは苦労していました。スーパーバイザーは専用の業務量を設定できるようになりました。これにより、ユーザーは作業を分離して、ケースに取り組みながらチャットや電話を受けることができます。

イベントモニタリングによるキューのメンバー変更の監査

新しいグループメンバー・シップイベント種別を使用して、キューにメンバーが追加されたとき、またはキューからメンバーが削除されたときを監視します。キューには個々のユーザー、ロール、公開グループ、またはテリトリーを含めることができます。

実現した IdeaExchange: レポートによりキューメンバーの参照

キューに追加されたユーザー、ロール、公開グループ、およびテリトリーを確認するには、カスタムレポートタイプを作成し、キューメンバーに関するレポートを作成します。このレポートは、キューのメンバー・シップやレコードアクセスの管理に利用できます。以前は、キューのメンバーを表示するために、各キューを個別にクリックするか、クエリを実行していました。この機能は、IdeaExchangeのアイデアのおかげで実現しました。

拡張オムニチャネルへのアップグレード

拡張オムニチャネルでオムニチャネル環境をさらに改善します。新しい拡張エージェント UI を使用すると、エージェントは、作業を一時停止している間により緊急度の高い項目を引き受けるなど、よりスムーズかつ論理的に作業できます。拡張スーパーバイザー環境で新しい概要ウォールボードを使用して、1つのページでエージェントの作業をフォローします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [オムニチャネル設定] で [拡張オムニチャネルルーティング] をクリックします。

メッセージング、音声、ボットはすでに拡張オムニチャネルと連携しています。チャットを拡張オムニチャネルで使用するには、チャットをアプリ内または Web のメッセージングにアップグレードします。メッセージングの場合、標準メッセージングチャネルを拡張バージョンにアップグレードします。

関連トピック:

[オムニチャネルの拡張エージェント環境による作業効率の向上](#)

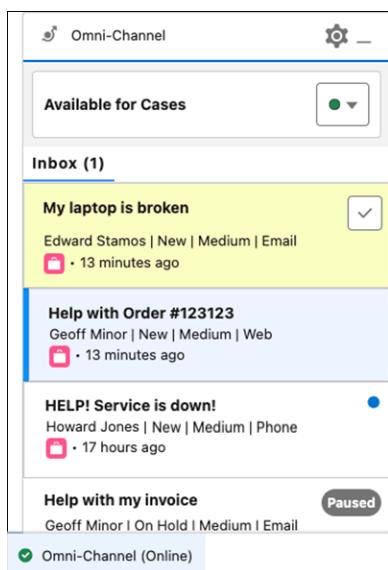
[拡張オムニスーパーバイザー環境を使用したエージェントの作業の容易なフォロー \(正式リリース\)](#)

オムニチャネルの拡張エージェント環境による作業効率の向上

オムニチャネルの拡張エージェント環境に2つの新しい機能が追加されました。まず、状況ベースの業務量を使用している組織のエージェントは、積極的にエンゲージしていない作業を一時停止できるようになりました。エージェントは、一時停止中の作業を見ることができますが、デフォルトでは業務量を消費しません。次に、エージェント向けに新しく設計されたUIにより、より便利な方法で情報が表示され、さまざまな作業モードが容易に統合されます。オムニチャネルでは古いコンソールタブの代わりに受信箱スタイルの作業ビューが提供されます。ウィジェットでは、進行中の作業項目、一時停止中の作業項目、更新済みの作業項目などを確認できます。オムニチャネルウィジェットで項目をクリックして作業を行います。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning Experienceに適用されます。

方法: 拡張エージェント環境を取得するには、[拡張オムニチャネル](#)を有効化します。オムニチャネルが含まれている任意のアプリケーションのユーティリティバーで、[オムニチャネル]をクリックしてウィジェットを開きます。



① 重要: 拡張エージェントのすべての機能は、特定のチャネルでのみ有効化される状況ベースの業務量にリンクします。

関連トピック:

[拡張オムニチャネルへのアップグレード](#)

拡張オムニスーパーバイザー環境を使用したエージェントの作業の容易なフォー(正式リリース)

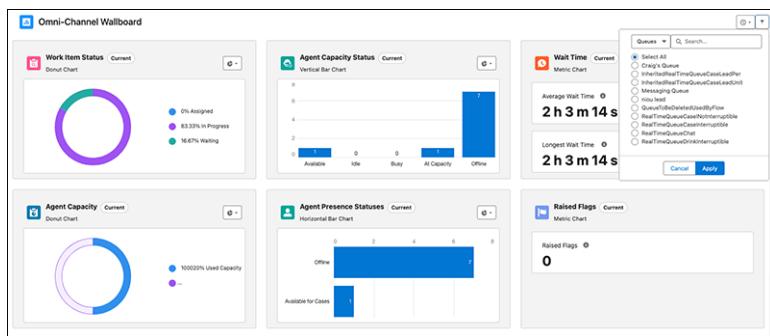
オムニチャネルウォールボードでは、1つの中央のページでスーパーバイザーにエージェントと作業に関するリアルタイム評価指標が表示されます。これを使用して、ボトルネック、未使用的業務量、待機時間、問題、その他の情報を一目で特定します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning Experienceに適用されます。

理由: ウォールボードグラフでは、エージェントに作業状況、処理時間、作業項目の状況、エージェント業務量の状況、使用可能な業務量などの評価指標が表示されます。

以前はパイロットプログラムであったWinter '24のウォールボードには次の新機能が含まれます。

- すべての主要な評価指標のグラフィカルな概要ビュー
- スキルとキューで絞り込む機能
- エージェントがサポートを必要とする場合に表示される[有効化されたフラグ] ウィジェット
- 15、30、45、または60分間の集計情報を表示する時間枠
- キュー内にある間にメッセージングセッションを管理するスーパーバイザーアクション



方法: オムニチャネルウォールボードを使用するには、[拡張オムニチャネル](#)を有効化します。オムニスーパーバイザーで、[ウォールボード]タブを開きます。

関連トピック:

[拡張オムニチャネルへのアップグレード](#)

中断可能な業務量を使用したマルチチャネルエージェントの効率の向上

最も重要なタスクを処理できるように、エージェントが複数のチャネルで作業を迅速かつ容易に行えるようにします。緊急を要する作業項目を転送することで、顧客への応答時間を短縮します。中断可能な業務量を使用して、作業をエージェントの業務量に効率的に適合させます。以前は、長い時間がかかっているケースによってチャットや電話がブロックされるため、電話、チャット、ケースを同時に処理するエージェントを持っているスーパーバイザーは苦労していました。スーパーバイザーは専用の業務量を設定できるようになりました。これにより、ユーザーは作業を分離して、ケースに取り組みながらチャットや電話を受けることができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning Experienceに適用されます。

方法: [プレゼンス設定]管理ページでエージェントの中断可能な業務量を定義します。[サービスチャネル]設定または[ルーティング設定]設定のいずれかあるいは両方で、中断可能な作業を定義します。

イベントモニタリングによるキューのメンバー変更の監査

新しいグループメンバーシップイベント種別を使用して、キューにメンバーが追加されたとき、またはキューからメンバーが削除されたときを監視します。キューには個々のユーザー、ロール、公開グループ、またはテリトリーを含めることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper Edition のLightning Experience およびSalesforce Classic に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

関連トピック:

[公開グループおよびキューのメンバーシップの変更に関する情報の取得](#)



レポートによりキューメンバーの参照

キューに追加されたユーザー、ロール、公開グループ、およびテリトリーを確認するには、カスタムレポートタイプを作成し、キューメンバーに関するレポートを作成します。このレポートは、キューのメンバーシップやレコードアクセスの管理に利用できます。以前は、キューのメンバーを表示するために、各キューを個別にクリックするか、クエリを実行していました。この機能は、IdeaExchange のアイデアのおかげで実現しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper Edition のLightning Experience およびSalesforce Classic に適用されます。

方法: カスタムレポートタイプを作成するには、[設定] で [クイック検索] ボックスに「レポートタイプ」と入力し、[レポートタイプ] を選択します。キューはグループの一種であるため、主オブジェクトとして [グループメンバー] を選択します。カスタムレポートタイプをリリースすると、ユーザーはレポートを作成するときにそのカスタムレポートタイプを選択できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: レポートを使用したキューメンバーの監視\(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります\)](#)

[IdeaExchange: Reporting on Queues \(キューに関するレポート\)](#)

セルフサービス

セルフサービスは、顧客にオンラインサポートチャネルを提供します。これにより、顧客は、カスタマーサービス担当者に連絡しなくても各自の疑問を解消できます。

このセクションの内容:

[拡張 LWR サイトでのナレッジ記事の表示](#)

ナレッジ記事リストコンポーネントを使用して、顧客がセルフサービスでナレッジ記事を見つけることができるようになります。ネットワークデータカテゴリページで使用可能なこのコンポーネントは、同じデータカテゴリに属するナレッジ記事をリストします。ページ上でナレッジ記事を並び替える方法を制御して、カスタマイズの機会を増やすこともできます。以前は、LWR では検索を介してのみナレッジ記事が表示されていました。

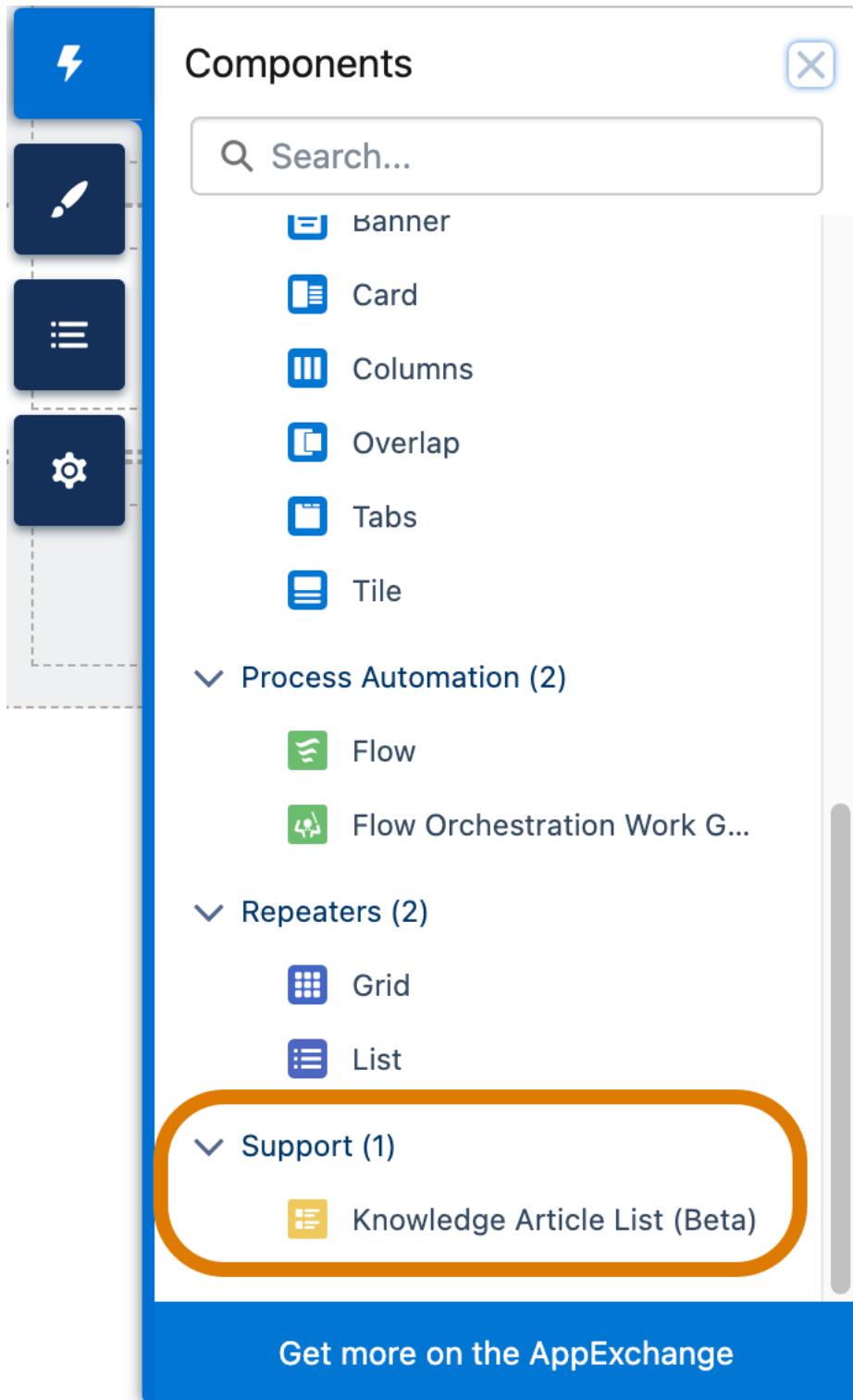
[拡張 LWR サイトでのナレッジ記事の表示](#)

ナレッジ記事リストコンポーネントを使用して、顧客がセルフサービスでナレッジ記事を見つけることができるようになります。ネットワークデータカテゴリページで使用可能なこのコンポーネントは、同じデータカテゴリに属するナレッジ記事をリストします。ページ上でナレッジ記事を並び替える方法を制御して、カスタマイズの機会を増やすこともできます。以前は、LWR では検索を介してのみナレッジ記事が表示されていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、[「Agreements and Terms \(契約および規約\)」](#) に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: LWR サイトにナレッジ記事リストコンポーネントを追加します。



このセクションの内容:

データカテゴリを使用したヘルプサイトの構造化(ベータ)

LWR サイトでデータカテゴリを使用して、顧客がセルフサービスソリューションを見つけられるようにします。内部のナレッジ記事とカタログ項目を構造化することで、情報を効率よく分類し、最も関連性の高い記事、質問、アイデアを発見してユーザーに提示できるようになります。以前は、内部のナレッジ記事はデータカテゴリではなくトピックに対応付けられていて、カタログ項目は LWR サイトにはリンクすることができませんでした。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Activate Data Categories on Your LWR Site \(LWR サイトでのデータカテゴリの有効化\)](#)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

[Salesforce ヘルプ: Add the Network Data Category Object Page \(ネットワークデータカテゴリオブジェクトページの追加\)](#)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

データカテゴリを使用したヘルプサイトの構造化(ベータ)

LWR サイトでデータカテゴリを使用して、顧客がセルフサービスソリューションを見つけられるようにします。内部のナレッジ記事とカタログ項目を構造化することで、情報を効率よく分類し、最も関連性の高い記事、質問、アイデアを発見してユーザーに提示できるようになります。以前は、内部のナレッジ記事はデータカテゴリではなくトピックに対応付けられていて、カタログ項目は LWR サイトにはリンクすることができませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[契約および規約](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: データカテゴリの操作](#)(リリースレビューの時点で内容が更新されることや、項目が参照不可になることがあります)

Work.com

ビジネス、従業員、施設の準備を整えます。Work.com のアプリケーションとサービスを使用して、現在の COVID-19 による危機など、重大な事態に対応します。

最新の更新については、Work.com リリースノートを参照してください: [『Work.com Release Notes』](#)

その他の Salesforce 製品とサービス

カスタマーサクセスグループ、Heroku、IdeaExchange の機能に関する最新情報を取得できます。

カスタマーサクセスグループ

Salesforce カスタマーサクセスでは、すべてのお客様が世界で最も広範なサクセスエコシステムのリソースと専門知識を利用できます。使いやすいリソースから組み込みソリューションの専門知識にいたるまで、成功に向けたお客様独自のパスを作成できるようにサポートします。リリースごとに、すべての Salesforce 製品からの結果を確認するのに役立つ新しい方法と改善された方法を取り入れています。Winter'24 の特長は、次のとおりです。

- Marketing Cloud Personalization で Signature Success Plan が利用可能に
- Signature Success Plan 拡張:
 - カスタマーサクセススコア: Signature Success Plan ユーザーはヘルプポータルで Salesforce カスタマーサクセススコアに直接アクセスできるようになりました。Salesforce カスタマーサクセススコアを使用して、ユーザーは次のことができます。
 - セルフサービスダッシュボードを使用して、Salesforce サクセスにアクセスし、理解する
 - 履歴トレンドを把握し、全体的なサクセススコアを更新することで、進行状況を追跡する
 - アクションを実行するための推奨事項を使用して、Salesforce サクセスを改善する
 - 拡張年次テクニカル健全性レビュー (ATHR): 拡張 ATHR には、アーキテクチャリスク領域の分析と、改善のためのガイダンスが含まれます (セールス、サービス、プラットフォーム用)。
 - 検索パフォーマンスのプロアクティブモニタリングアラート: 拡張プロアクティブモニタリングには、プラットフォーム上でパフォーマンスが低下したアプリケーション検索や長時間実行されているアプリケーション検索の検出が含まれます。
- Premier Success Plan: エキスパートコーチング拡張

Success Plan について知るには、[概要ページ](#)を参照するか、[Salesforce Success Plan Trailhead モジュール](#)を受講してください。または、[Salesforce ヘルプポータル](#)にアクセスしてその他のリソースを参照してください。Salesforce の成功を最大化する方法についての詳細は、[「Success Now Handbook \(今すぐ成功ハンドブック\)」](#) を参照してください。カスタマーサクセススコアの概要と、Salesforceへの投資から最大限の価値を引き出すためのアクション可能なインサイトにアクセスする方法については、[「Customer Success Score: Overview \(カスタマーサクセススコア: 概要\)」](#) をご覧ください。

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、[「Heroku Changelog」](#) を参照してください。

IdeaExchange

IdeaExchange を使用して、Trailblazer Community および Salesforce 製品マネージャーとアイデアを共有します。2021 年に、Lightning Experience で IdeaExchange が再構築されました。新しいバージョンでは、見つけやすさの向上のため検索環境が改善されたほか、アイデアの記録により具体的な情報が表示されるようになりました。また、入力と同時に検索を開始する重複検出機能が搭載され、同じアイデアが 2 回投稿されないようになっています。詳細は、[IdeaExchange](#) を参照してください。

リリース更新

Salesforceでは、パフォーマンス、ロジック、セキュリティ、商品の使い勝手を向上させるリリース更新を定期的に提供します。[リリース更新]ページには、組織で有効にする必要がある可能性のある更新のリストが表示されます。一部のリリース更新は、既存のカスタマイズに影響します。

リリース更新が作成されるたびに、今後のリリースで適用されるようにスケジュールされます。各更新とそのスケジュールは、スケジュールがわかり次第ここで発表されますが、更新が延期またはキャンセルされることもあります。その場合、その特定のリリース更新を説明するセクションでお知らせします。

通常、リリース更新では、その更新の[ステップ完了期日]の日付の前に、更新を有効にして組織への変更(カスタマイズへの変更など)を検証できる[テスト実行]オプションが提供されます。

リリース更新を表示するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。

このリリース更新で適用される更新

このリリースでは、次の更新が適用される予定です。

拡張ドメインのリリース(リリース更新)

最新のブラウザーおよびセキュリティ標準に準拠するには、拡張ドメインを有効にしてリリースします。拡張ドメインを使用すると、各自の組織用に Salesforce がホストする URL に会社固有の「私のドメイン」の名前が含まれます。一貫したドメイン形式により、ユーザー環境が向上し、カスタムコードおよび API コールで使用される URL が標準化されます。また、拡張ドメインを使用すると、ユーザーがサードパーティ Cookie をブロックするブラウザーから Salesforce にアクセスできます。この更新は Experience Cloud サイト、Salesforce サイト、Visualforce ページなどのアプリケーションやログインの URL に影響するため、拡張ドメインをまだリリースしていない場合は、組織でこのリリースを取得する前に拡張ドメインをリリースすることをお勧めします。この更新は、当初「拡張ドメインの有効化」と名付けられていたもので、Summer'21 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用されます。

フローでのセッション IDへのアクセスを無効化(リリース更新)

セキュリティを強化するために、この更新では、実行時にフローインタビューで \$Api.Session_ID 変数が解決されなくなります。以前は、フロー画面に \$Api.Session_ID 変数が含まれていると、フローの実行ユーザーのブラウザーセッション ID がページに表示されていたため、そのセッション ID を使用して、セキュリティ制御を回避することができました。この更新は、Winter '23 で最初に使用可能になり、Summer '23 で適用される予定でしたが、適用日が Winter '24 に延期されました。

ケースおよび取引先責任者の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の迅速化の実現(リリース更新)

パフォーマンスを向上するため、ケースおよび取引先責任者オブジェクトのバックグラウンドでの取引先共有の自動再適用の動作が変更されています。取引先とその子のケースおよび取引先責任者レコードの間で暗黙的な子共有レコードが保存されなくなりました。代わりに、ユーザーが子のケースおよび取引先責任者レコードにアクセスするときに、ユーザーがそれらのレコードにアクセスできるかどうかがシステムによって判断されます。このリリース更新は Summer '23 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用されます。

同じコンテキストでの一時停止中のフローインタビューの再開(リリース更新)

この更新を有効化すると、一時停止中の自動起動フローが一時停止したときと同じコンテキストで再開されます。また、各フローがAPIバージョン57.0以降で実行されている場合、インタビューが再開される前にフローを実行するユーザー権限が検証されます。プロセスビルダーで一時停止要素が含まれる起動フローを処理する場合、それらのフローがAPIバージョン57.0以降で実行されるように設定することをお勧めします。そのようにしないと、この更新で再開されたインタビューのコンテキストが変わる可能性があります。プロセス起動フローは、システムコンテキスト共有なしで再開されずに、フローバージョンプロパティで指定されたコンテキストで再開されます。この更新はWinter '21で最初に使用可能になり、Winter '22での適用が予定されていました。その後、適用日はSpring '23に延期され、Winter '24に再度延期されました。

日本語のカタカナのスタイル変更への備え(リリース更新)

外国語の単語に関する日本語のカタカナの翻訳を改善するため、現在の日本産業規格(JIS)のスタイルは1991 Cabinet Notification Directiveのスタイルに置き換えられます。

Chatterメール通知を送信するときのメールアドレスの必須化(リリース更新)

データセキュリティを強化するため、Chatterメール通知を引き続き送信するには、システム管理者は検証済みメールアドレスを指定する必要があります。

サーバーIDに3文字を使用するようにSalesforceオブジェクトIDを調整(リリース更新)

以前は、有効なSalesforceオブジェクトIDには、全体で15～18文字のうち4番目と5番目の2文字のサーバーIDまたはインスタンスIDが含まれていました。この変更により、Salesforceは3文字のサーバーID(オブジェクトIDの4番目、5番目、および6番目の文字)を生成するようになりました。既存のオブジェクトIDは変更されず、オブジェクトIDの長さも15～18文字のままでです。この更新により、テストコードが新しいID構造を考慮していない場合、テストケースが失敗する可能性があります。このリリース更新はSummer '23で最初に使用可能になり、Winter '24で適用されます。

LightningアプリケーションのCSRFトークンのセキュリティの機能強化(リリース更新)

この更新では、Lightningアプリケーションごとに異なるクロスサイトリクエストフォージェリ(CSRF)トークンの生成が適用されるため、トークンが意図したコンテキストでのみ使用されることになります。この更新により、無効なトークンと期限切れのトークンの処理も改善されます。この更新は、Spring '23で最初に使用可能になり、Summer '23で適用される予定でしたが、適用日がWinter '24に延期されました。

このリリースで自動的に有効化される更新

これらの更新に関連する機能は自動的に有効化される予定ですが、このリリースでは適用されません。このリストには、新しいリリース更新、以前に発表されたリリース更新、以前に延期されたリリース更新が含まれます。示されたリリース更新の動作を適用日までに無効にすることができます。

MFAの自動有効化の続行:お客様の組織に適用されるタイミングと方法の確認(リリース更新)

Salesforceでは、2022年2月1日より、Salesforce製品にアクセスするすべてのお客様に多要素認証(MFA)の使用を義務付けています。お客様がこの要件を満たすことができるよう、MFAの自動有効化リリース更新で複数のフェーズに分けて本番組織のMFAを自動的に有効にしていきます。Winter '24で、MFAが組織の第3フェーズで自動的に有効になります。Spring '24の最終フェーズには、まだ自動有効化されていない組織がすべて含まれます。

Spring '24 で適用される予定の更新

Spring'24では、次の更新が適用される予定です。このリストには、新しいリリース更新、以前に発表されたリリース更新、以前に延期されたリリース更新が含まれます。

商談の暗黙的な子共有を保存しないことによる取引先共有の再適用の実現(リリース更新)

パフォーマンスを向上するため、商談オブジェクトのバックグラウンドでの取引先共有の自動再適用の動作が変更されています。取引先とその子の商談レコードの間で暗黙的な子共有レコードが保存されなくなりました。代わりに、ユーザーが子の商談レコードにアクセスするときに、ユーザーがそのレコードにアクセスできるかどうかがシステムによって判断されます。商談に対してユーザー自身でこの機能を有効にできるようになりました。これまで、Salesforce カスタマーサポートがこの機能を有効にしていました。このリリース更新は Winter '24 以降で使用可能になります。

ICU ロケール形式の有効化(リリース更新)

どこからでもビジネスを行うには、International Components for Unicode (ICU) ロケール形式を採用します。ロケールによって、日付、時刻、通貨、住所、名前、数値の形式が制御されます。ICUは、これらの形式の国際標準を設定しています。ICU ロケール形式によって、プラットフォーム全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。この更新を有効にすると、Salesforce で Oracle の Java Development Kit (JDK) ロケール形式が ICU ロケール形式に置き換わります。この更新は Winter '20 で最初に使用可能になり、Spring '24 からローリング方式で適用されます。

Visualforce JavaScript Remoting API の JsonAccess アノテーション検証の有効化(リリース更新)

Visualforce Remoting API では、JavaScript を使用して Apex コントローラーのメソッドを Visualforce ページから直接コールします。パッケージ名前空間での不正なシリアライゼーションおよびデシリアライゼーションを防止するために、この更新では Apex クラスの JsonAccess アノテーションが検証されます。この更新は Winter '23 で最初に使用可能になり、Winter '24 で適用される予定でした。適用日が Spring '24 まで延期されました。

Apex RestResponse ヘッダーの RFC 7230 に基づく検証の適用(リリース更新)

この更新を有効にすると、API のバージョンに関係なく、`RestResponse.addHeader(name, value)` メソッドを介して Apex で定義される REST 応答ヘッダーで、ヘッダー名が RFC 7230 に基づいて検証されるようになります。この更新は、Spring '23 以降で使用可能になります。

ゲストユーザーによる承認申請の編集または削除の防止(リリース更新)

[ゲストユーザーによる承認申請の編集または削除の防止] を有効にすると、ゲストユーザーは承認申請を承認または拒否できます。ゲストユーザーは承認申請を編集、再割り当て、または削除できなくなります。この更新は、Winter '23 で最初に使用可能になり、Summer '23 で適用される予定でしたが、適用日が Spring '24 に延期されました。

ナレッジの Lightning 記事エディターと記事のパーソナライズを有効化

新しい Lightning 記事エディターを使用して、より充実したユーザーフレンドリーなエクスペリエンスを実現します。また、記事のパーソナライズを使用すると、ナレッジコンテンツがビジネスニーズに合わせて調整され、エージェントの生産性が向上します。

Spring '24 で自動的に有効化される予定の更新

これらの更新に関連する機能は自動的に有効化される予定ですが、Spring'24では適用されません。このリストには、新しいリリース更新、以前に発表されたリリース更新、以前に延期されたリリース更新が含まれます。示されたリリース更新の動作を適用日までに無効にすることができます。

MFA の自動有効化の続行: お客様の組織に適用されるタイミングと方法の確認(リリース更新)

Salesforce では、2022年2月1日より、Salesforce 製品にアクセスするすべてのお客様に多要素認証(MFA)の使用を義務付けています。お客様がこの要件を満たすことができるよう、MFA の自動有効化リリース更新で複数のフェーズに分けて本番組織の MFA を自動的に有効にしていきます。Winter '24 で、MFA が組織の第3フェーズで自動的に有効になります。Spring '24 の最終フェーズには、まだ自動有効化されていない組織がすべて含まれます。

Summer '24 で適用される予定の更新

Summer '24 では、次の更新が適用される予定です。このリストには、新しいリリース更新、以前に発表されたリリース更新、以前に延期されたリリース更新が含まれます。

信頼済みの組織間リダイレクトのみを許可(リリース更新)

ユーザーとネットワークを保護するには、信頼する特定の Salesforce 組織 URL を [信頼されたリダイレクトの URL] 許可リストに追加します。URL が許可リストに追加されるまで、ユーザーは使用している Salesforce 組織から別の Salesforce 組織(公開されたページやコンテンツを含む)にアクセスできません。この更新は Winter '24 以降で使用可能になります。

組織のプロファイル設定を優先するために EmailSimple 呼び出し可能なアクションを有効化(リリース更新)

この更新を有効にした場合、EmailSimple 呼び出し可能なアクションが組織のメールアドレスプロファイル設定に準拠します。この更新は、Summer '23 で最初に使用可能になり、Spring '24 で適用される予定でしたが、適用日が Summer '24 に延期されました。

注文の新規保存方式の有効化(リリース更新)

[注文の新規保存方式] を有効にすると、注文商品の更新によって親注文が変更されるたびに、Salesforce でカスタムアプリケーションロジックが実行されます。以前は、このような場合でも親レコードのカスタムアプリケーションロジックは正しく評価されませんでした。

ボットユーザーコンテキストでフローの実行(リリース更新)

この更新を有効にすると、ボットで開始されたフローでは、ボットに関連付けられたユーザープロファイルと権限セットを使用して、フローのオブジェクト権限と項目レベルのアクセス権が決定されます。このリリース更新は Summer '23 で最初に使用可能になりました。

メール-to-ケースのメールコンポーネントへの移行(ベータ)(リリース更新)

このリリース更新を有効にすると、ドッキングメールコンポーネントとケースフィードメールコンポーネントのメールエディターが置き換えられます。新しいメールエディターは、ベータ機能として Lightning Experience で使用できます。

Winter '25 で適用される予定の更新

Winter '25 では、次の更新が適用される予定です。このリストには、新しいリリース更新、以前に発表されたリリース更新、以前に延期されたリリース更新が含まれます。

メンテナンス計画の頻度の項目からメンテナンス作業ルールへの移行(リリース更新)

メンテナンス計画の [頻度] 項目と [頻度種別] 項目が廃止されます。この廃止に備え、更新された機能を利用するには、[頻度] と [頻度種別] のデータをメンテナンス作業ルールに移行します。この更新は、Summer '22 で最初に使用可能になり、Winter '22 で適用される予定でしたが、適用日が Winter '25 に延期されました。

フローを実行するためのユーザーアクセスの制限(リリース更新)

この更新を有効にすると、Salesforce でユーザーによるフローの実行が制限されます。フローを実行するには、ユーザーに適切なプロファイルまたは権限セットが付与されている必要があります。有効にすると、このリリース更新によって FlowSites ライセンスが廃止されます。この更新により、適切なプロファイルまたは権限セットが付与されたユーザーのみがフローを実行できるため、フローがより安全に実行されます。

Spring '25 で適用される予定の更新

Spring '25 では、次の更新が適用される予定です。このリストには、新しいリリース更新、以前に発表されたリリース更新、以前に延期されたリリース更新が含まれます。

REST API で Apex アクションの例外が発生した場合のロールバックの適用(リリース更新)

この更新では、例外で終了したトランザクションをロールバックすることで、データの整合性が維持されます。REST API を使用して Apex アクションを実行すると、その例外が発生しても、API によって Salesforce データは変更されません。この更新は、当初は「Connect REST API で呼び出し可能なカスタムアクションの例外が発生した場合のロールバックの適用」という名前で、Spring '23 で最初に使用可能になり、Spring '24 で適用される予定でしたが、適用日が Spring '25 に延期されました。

Summer '25 で適用される予定の更新

Summer '25 では、次の更新が適用される予定です。このリストには、新しいリリース更新、以前に発表されたリリース更新、以前に延期されたリリース更新が含まれます。

プロセスピルダーで元のレコード値に基づく条件を評価(リリース更新)

この更新は、複数の条件とレコードの更新が含まれるプロセスでの評価条件のバグを修正します。このリリース更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。このリリース更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

Salesforce Platform API バージョン 21.0 ~ 30.0 の廃止(リリース更新)

Salesforce Platform API のバージョン 21.0 ~ 30.0 の廃止は、Summer '23 で最初に予定されていました。この廃止は Summer '25 に延期されました。これらの API バージョンは引き続き使用できますが、サポートされておらず、Summer '25 以降は使用できません。それらを使用しているアプリケーションは中断されます。要求は失敗し、エンドポイントが無効化されていることを示すエラーメッセージが表示されます。この重大な変更が実行される前に、従来の API バージョンを使用するすべてのアプリケーションを最新バージョンにアップグレードしてください。

法的規約

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の法的規約が更新されました。

信頼とコンプライアンス

このリリースに関連する信頼とコンプライアンスのドキュメントへの変更の完全なリストについては、『Salesforce Trust & Compliance Documentation (信頼とコンプライアンスに関するドキュメント)』の「Change Log (変更ログ)」を参照してください。

Business Associate Addendum の制限

Business Associate Addendum の制限に関するドキュメントへの変更の完全なリストは、[「Business Associate Addendum Restrictions Change Log \(Business Associate Addendum の制限の変更ログ\)」](#) を参照してください。

利用規約

利用規約に関するドキュメントへの変更の完全なリストは、[「Acceptable Use Policy Change Log \(利用規約の変更ログ\)」](#) を参照してください。